

# 中国学園大学 令和3年度(2021年度) シラバス

<b>授業科目名</b>	<b>日本語表現</b>	<b>サブタイトル</b>	(音声言語と文章の表現)		<b>授業番号</b>	NA101
<b>担当教員名</b>	村井 隆人					
<b>対象学部・学科</b>	現代生活学部 人間栄養学科	<b>単位数</b>	2単位			
<b>開講年次</b>	1年	<b>開講期</b>	前期			
<b>必修・選択</b>	選択	<b>授業形態</b>	講義			
<b>【授業の概要】</b>						
私たちは日常生活で言葉を介した様々なメディアに触れている。この授業では小グループでの活動を中心に、様々なメディアを分析・表現することで私的・公的な日本語表現の力を高めることを目的とする。						
<b>【到達目標】</b>						
音声言語表現及び文章表現についての基礎的な知識を獲得し、自分の考えを様々な形態に応じて表現できるようになることを目的とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：日本語表現の全体像 第2回：音声言語によるコミュニケーション 独話ー 第3回：音声言語によるコミュニケーション 対話1ー 第4回：音声言語によるコミュニケーション 対話2ー 第5回：詩的表現1 - 俳句創作 第6回：詩的表現2 俳句鑑賞 第7回：詩的表現3 - 絵本 第8回：視覚表現1 写真 第9回：視覚表現2 写真鑑賞 第10回：視覚表現3 - CM分析 第11回：視覚表現4 - 分析発表 第12回：レポート1 - 論証 第13回：レポート2 - 根拠づくり 第14回：レポート3 - レポート作成 第15回：レポート4 - 添削						
<b>【授業計画 備考2】</b>						
補講や天候等により授業内容が前後したり変更になる場合がある。						
<b>評価の方法</b>	<b>種別</b>		<b>割合</b>	<b>評価規準・その他備考</b>		
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート		45%	授業内容の理解度を各回のミニ・レポートによって評価する。		
	小テスト					
	定期試験		55%	講義内容を基にした記述式の試験を行う。		
	その他					
	<b>自由記載</b>	レポートはグループ活動の成果を中心に記述するため、グループ活動での積極性がない場合減点する。定期試験ではCMを分析するなど、具体的な活動を基にした記述式の試験を行う。				
<b>【受講の心得】</b>						
配付資料をファイルしておくこと。 学生相互の意見交流・評価活動を取り入れるため、積極的に参加すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 復習として、授業で配布した資料を読んでおくこと。 2. 予習として、小テストの範囲の内容を学修しておくこと。 3. 語彙力を伸ばすため、日常的に漢字を学修すること。 4. 授業で身につけた技能を、普段の生活に活用すること。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
<b>使用テキスト</b>	<b>自由記載</b>	毎回プリント資料を配付する。				
<b>参考書</b>	<b>書名</b>		<b>著者・編集者</b>	<b>出版社</b>	<b>定価</b>	<b>ISBN</b>
	大学生のためのレポート・論文術		小笠原喜康	講談社	本体740円(税別)	9784062880213
	<b>自由記載</b>					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	心理学		サブタイトル	(心と行動の科学)		授業番号	NA102
担当教員名	國田 祥子						
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科		単位数	2単位			
開講年次	1年		開講期	前期			
必修・選択	選択		授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b>							
この授業では、心理学全般の基本的な知識、心理学理論による人間理解とその技法の基礎について解説する。							
<b>【到達目標】</b>							
クリティカルシンキングやクリエイティブシンキングなどの心理学的思考法を身につけることを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。							
<b>【授業計画】</b>							
第1回：心理学とは 第2回：予知体験の不思議 第3回：記憶の不思議 第4回：影響されるこころ 第5回：揺れうごくこころ 第6回：検査で「自分」がわかるのか 第7回：占い・新宗教がもつ現代的意味 第8回：中間のまとめ 第9回：子どもから見た現実と想像の世界 第10回：「もしかして……」と揺れ動く心の発達 第11回：不思議現象に立ち向かう子どもたち 第12回：脳とこころの不思議な世界 第13回：科学的に検証するとはどういうことか 第14回：心理学を学ぶ人のために 第15回：期末のまとめ							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度						
	レポート						
	小テスト						
	定期試験		100%	理解度を評価する。			
	その他						
自由記載							
<b>【受講の心得】</b>							
積極的な受講態度を期待します。							
<b>【授業外学修】</b>							
毎回の授業の内容を4時間以上復習しておくこと。復習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について再度4時間以上の復習を行うこと。							
使用テキスト	自由記載	なし					
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	不思議現象 なぜ信じるのか こころの科学入門		菊地 聡・谷口高士・宮元博章(編著)	北大路書房	1900円	978-4-7628-2032-8	
	不思議現象 子どもの心と教育		菊地 聡・木下孝司(編著)	北大路書房	1900円	978-4-7628-2089-2	
	自由記載						
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>							
無							
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>							
無							

授業科目名	倫理学		サブタイトル	(人間形成の倫理と論理)	授業番号	NA103
担当教員名	小谷 彰吾					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
激変する時代の中で、偶然に起こりうる事象に対応しながら「よりよく生きてゆく」ことが求められている。そこで、先哲の思想、中でも儒教の視点を一つの柱としたり、現代社会における倫理を考察したりする中で自らの生き方を見つめる観点から倫理学をとらえていく。						
<b>【到達目標】</b>						
東洋、西洋、それぞれの時代の中で、人間は「よりよく生きる」ことを究明しようと問い続けてきた歴史と思想があったことを知るとともに、我が国には、神道、仏教、儒教が融合する独特の精神文化があり、それらを一つの参考にしながら現代社会において「よりよい行動」を実践しようとする態度を形成する。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜態度＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
<b>【授業計画 備考】</b>						
『倫理学』の概念を知り、『善悪』の判断とその背景、その価値基準となる考え方について先哲の言葉を参考に考えていく。						
第1回：倫理の基盤(1) ガイダンス 第2回：倫理の基盤(2) 倫理観と社会的背景 第3回：倫理の基盤(3) 倫理観の形成と体験の欠如 第4回：倫理の思想(1) 倫理と道徳 第5回：倫理と思想(2) 知識基盤社会と倫理 第6回：倫理学の基礎(1) 倫理と思考実験 第7回：倫理学の基礎(2) 義務論と功利主義 第8回：現代社会の倫理(1) 死刑制度 第9回：現代社会の倫理(2) 老いと安楽死 第10回：現代社会の倫理(3) いじめと自殺 第11回：現代社会の倫理(4) 徳の教育と学校 第12回：現代社会の倫理(5) 伝統文化と食の倫理 第13回：日本倫理の思想(1) 江戸時代の徳の教育 第14回：日本倫理の思想(2) 『論語』 第15回：『倫理学』のまとめ 総括レポート						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		50%	ディスカッション等授業における意欲・態度、各授業のコメントペーパー		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他		50%	15回目の論文で評価する。		
	自由記載	国際教養学部国際教養学科ディプロマポリシー 知識・理解 に見られる自国・他国の行動様式、考え方の基盤となる文化的背景の理解、態度 に見られる、多様な文化を理解し尊重することに直接かわかるものを重点的に評価することから、授業への参加態度と論語に50%を充てる。				
<b>【受講の心得】</b>						
常にこれからの時代をどう生きていくのかという当事者意識を持って学習に向かうことが重要である。						
<b>【授業外学修】</b>						
授業内で紹介する著書については、可能な限りすべて読み、批判的思考も含めて自分の言葉で表現できるようにする。 授業外で深めた基礎的教養によって、授業中でのディスカッションの質が向上する。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	テキストは使用しない。(必要に応じて講義内で随時紹介する)				
参考書	自由記載	講義内で随時、紹介する。				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
公立小学校教諭，私立高等学校教諭						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
現在、学校教育現場では、アクティブラーニングの研究が進められており、「受動的な学習」からの脱却を図っている。しかし、特に小学校においては、遅く前から実践されていた学びであり、特に「道徳」は教科化されて以降、「議論する道徳」「思考する道徳」、すなわち自らの意見を持って、仲間と意見をぶつけ合い、新しい価値を見出していく学習が展開されている。『倫理学』と同様の学習を展開すれば、「主体的な学び」が展開できるものと考えている。 グループワーク、ディスカッションなど積極的に取り入れて活気ある学習の雰囲気醸成したい。						

授業科目名	歴史学		サブタイトル	(歴史家は過去の何に注目し、どうとらえてきたか)	授業番号	NA204
担当教員名	大山 章					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b> 「歴史」と聞くと、書かれたものを読み、記憶する、どちらかと言えば受け身のイメージが強いが、「歴史学」は、過去の出来事を史料を用いて分析・解釈し、それをもとに歴史像・時代像を描き、叙述する主体的な営みである。この授業では、近年話題になっているものを中心に、歴史家が過去の出来事や時代をどのようにとらえ、解釈してきたかを取り上げる。授業の半分は、特定の時期・時代を取り上げるが、一つのテーマ・視点で長い歴史をあつかう回も設ける。						
<b>【到達目標】</b> 1 歴史学の意義と歴史研究の基本を理解することができる。 2 近年の歴史研究の成果について理解することができる。 3 史料をもとに、積極的に考察したり、発表したりすることができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b> 第1回：歴史と歴史学 歴史をなぜ学ぶか？歴史学とはどんな学問か？ 第2回：農耕・牧畜の始まり オリエント、東アジアを中心に 第3回：中央ユーラシアの遊牧国家 スキタイ、匈奴を中心に 第4回：気候変動・災害と歴史 第5回：モンゴル帝国 第6回：東アジア海域の歴史 倭寇が活動し、沖縄が琉球王国であった時代 第7回：様々であった国というまとまり 第8回：歴史研究における地図の利用 国土地理院の旧版地図を中心に 第9回：世界の一体化と日本 コロンブスの交換、世界遺産石見銀山 第10回：イギリスの工業化とフランス革命 それぞれの研究史をたどると 第11回：ジェンダーと歴史 第12回：東アジアとウェスタン・インパクト 清と日本がウェスタン・インパクトにどう向き合ったか？ 第13回：アメリカ合衆国とメキシコ 3000km以上に及ぶ国境線で接する両国関係史 第14回：感染症と歴史 第15回：自分なりの歴史像を描いてみよう						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加度、予習復習の状況によって評価する。		
	レポート					
	小テスト		10%	前回の授業の基本的な事項の理解度について評価する。		
	定期試験		60%	授業で取り上げた内容の理解度、歴史的事象についての自分の考えを根拠をあげて論理的に表現する力について評価する。		
その他		10%	授業後に提出するコメントペーパーの内容によって評価する。			
自由記載		定期試験は、論述を中心とした筆記試験とする。(持ち込み可)				
<b>【受講の心得】</b> 「歴史学」は、定まった知識を覚え、蓄積するものではなく、自らが生きる時代が直面する課題などをふまえて、過去を様々な切り口から追求する学問です。一定の歴史的知識は必要ですが、より大切なのは、人の行動や社会で起きていることに対する関心や疑問です。また、授業では、可能な範囲で史料をもとに考察したり、発表したりする活動を設定します。積極的な参加を期待します。						
<b>【授業外学修】</b> 予習として、高校の世界史(内容によっては日本史)の教科書の関係部分を読んでおく。授業後は、授業で取り上げられた時代、テーマについての歴史像、時代像を、自分なりに文章にまとめておくようにする。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	レジュメ、資料を配付する。				
参考書	自由記載	授業で随時紹介する。				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有						
<b>【担当教員の職務経歴】</b> 中学校教諭、岡山県教育センター研修講座講師						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 学校現場での歴史教育の経験を生かして、歴史に関する今日的な内容、テーマをわかりやすく指導する。						

授業科目名	社会学		サブタイトル	(配偶者の選択と家族編成の社会的規則)		授業番号	NA105
担当教員名	中田 周作						
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科		単位数	2単位			
開講年次	1年		開講期	前期			
必修・選択	選択		授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b> 本講義では、社会学の方法によって家族を理解するための枠組みを学習する。 現代社会における家族の姿は、多元化する価値意識のもとで、その形態や機能が多様化している。 そのため、本講義では家族の中核をなす夫婦関係に焦点をあて、家族編成に関する社会的規則について講義する。							
<b>【到達目標】</b> 現代社会の家族集団を、より深く理解するためには社会的な枠組みを活用すると有効である。 これにより、地域社会の中に存する様々な家族を理解し、実践活動に実際に資することができる知識や分析の視角を身につけることを目標とする。 なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<思考・問題解決能力>の修得に貢献する。							
<b>【授業計画】</b> 第1回：配偶者選択をめぐる社会状況の変化 第2回：家族社会学における「家族」の定義 第3回：家族を対象とした社会的アプローチの方法 第4回：家族の種類と分類 第5回：青年期の異性交際に関する社会的意味の考察 第6回：青年期の異性交際の実態 第7回：家族編成の社会的ルールとは何か 第8回：配偶者選択の社会的メカニズム 第9回：配偶者選択のプロセス 第10回：結婚の社会的意味 第11回：結婚の社会的機能 第12回：離婚の社会的意味と機能 第13回：家族の新しい形 第14回：子どもの養育 第15回：老親の介護							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度		10%				
	レポート		70%	最終レポート			
	小テスト						
	定期試験						
	その他		20%	毎回のコメントペーパー			
自由記載							
<b>【受講の心得】</b> 自らの配偶者選択や、家族集団に興味・関心があることが望ましい。 しかしながら、あまりにも身近で現実的な問題であるため、ある程度、客観視できる受講態度が望ましい。							
<b>【授業外学修】</b> 1．テキストを事前に読んでくること。 文章を読むだけでなく、掲載されている図表の意味するところを考える。 具体的なアプローチの方法は、授業時間内に指示する。  2．最終レポートの課題を探しながら受講すること。 テーマに関するニュースや、身近な出来事に関心をもつこと。  両方の課題を合わせて、週当たり4時間以上、取り組みむこと。							
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	新しい家族社会学		森岡清美・望月嵩	培風館	1750	978-4-563-05034-4	
自由記載							
参考書	自由記載		講義の進行にあわせて適宜紹介する。				
	【その他】		特になし。				
	【担当教員の実務経験の有無】		無				
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無							

授業科目名	日本国憲法		サブタイトル	(身近な問題を通して憲法の役割を考える)	授業番号	NA206
担当教員名	俣野 英二					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b>						
<p>授業は、教員の教育委員会及び県庁における人権啓発・相談経験を踏まえた身近な問題を素材に、体系的理解及び憲法的な分析方法を学修する。あわせて、身近な問題についてグループの話し合い(新型コロナ対策に伴う規制がない場合)および発表により、憲法的思考および憲法の基本原理などの理解の深化を目指す。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>憲法の基本原理・原則および基礎知識を理解し、それらを活用して身近な憲法問題を主体的に考えることができるようになることを目標とする。</p> <p>なお、本科目は、到達目標達成の前提として異なる価値観、文化、背景および相互関係を知り、深い認識と理解の修得を伴うことから、職業人としての高い倫理観と豊かな人間性と社会性の修得を必要とするので、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち&lt;態度&gt;の修得に貢献する。また、体系的な思考方法を学び、多面的に分析し、自らの見解を形成する能力の修得を目的とするので、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち&lt;思考・問題解決能力&gt;の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：ガイダンス、憲法とは何か 憲法とは何かについて学ぶ。 土儀における女人禁制のルールが憲法に反しないか考える。</p> <p>第2回：立憲主義、共和主義と民主主義、積極国家、象徴天皇 立憲主義、共和主義と民主主義、積極国家、機関としての象徴天皇について学ぶ。 「日本の象徴」と「日本国民統合の象徴」の意味における議論を考える。</p> <p>第3回：平和を守る仕組み― 戦争の放棄と平和主義 戦争の放棄と平和主義について学ぶ。 自衛隊等についての国会での議論、政府の答弁、国会決議等について調べてみる。</p> <p>第4回：人権を守るための組織 統治機構 1 政治と国民、国会議員、選挙権、選挙制度、政党について学ぶ。 若者の投票率改善について考える。</p> <p>第5回：人権を守るための組織 統治機構 2 国会、内閣、裁判所について学ぶ。 司法権の独立の必要性について考える。</p> <p>第6回：国際化のなかの日本人、日本にいる外国人の権利 日本国憲法上の人権が外国人に保障されるか、日本人と異なる扱いが許されるかを学ぶ。 外国人労働者の受け入れに関する問題を調べる。</p> <p>第7回：良心を持つ自由、貴く権利 思想・良心の自由について学ぶ。 学校における政教分離について考える。</p> <p>第8回：表現の自由と書かれぬ権利 表現の自由と名誉やプライバシーについて学ぶ。 教師や児童生徒に関するSNSの書き込みについて考える。</p> <p>第9回：知る権利とマス・メディアの自由 知る権利とマス・メディアの自由などについて学ぶ。 情報通信基盤(プラットフォーム)に対する規制について考える。</p> <p>第10回：営業の自由と消費者の権利 職業選択の自由、営業の自由と消費者の権利について学ぶ。 職業を規制することの合憲性について考える。</p> <p>第11回：働く人の権利 勤労の権利や労働基本権について学ぶ。 非正規労働者の問題について調べる。</p> <p>第12回：困った時の権利、差別されている人たちへの配慮 憲法25条の歴史的、社会的意味、社会保障制度について学ぶ。 積極的な格差解消の取組みの合憲性について考える。</p> <p>第13回：人身の自由と刑事手続き上の諸権利 被疑者や被告人の権利について学ぶ。 死刑制度の合憲性について考える。</p> <p>第14回：家庭と女性・子どもの権利 憲法における家庭と女性・子どもの権利について学ぶ。 同性愛者のカップルに婚姻と同じ保護を与える制度について考える。</p> <p>第15回：学校における生徒の人権 生徒の教育を受ける権利、学校内外での権利について学ぶ。 いじめ問題を憲法から考える。</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	講義レポートの提出(15%)、発表・質疑など(5%)に基づいて評価する。		
	レポート		40%	2回実施。各20%。問題の背景(憲法上の対立点)を正確な基本的情報に基づいて、判例・学説、結論を憲法や基本原理を使って結論に対する理由が書けていることで評価する。		
	小テスト		0%			
	定期試験		40%	記述式試験により最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
<p>1 履修を希望する者は、初回にグループ分け及びグループ発表の仕方について説明するので必ず出席すること。</p> <p>2 受講者は受講期間中に1回以上発表または質問に答える機会を与えるので、担当する課題の回はグループ全員が積極的に準備しておくこと。</p> <p>3 各回講義レポートがある。</p> <p>4 各回グループワーク(新型コロナによる規制がない場合)および発表がある。</p> <p>5 中間に2回(第5回、第10回頃)にレポート課題がある。</p>						

- 1 テキスト及び講義資料内の用語の意味を調べておくこと。
- 2 提示した課題を検討しておくこと。発表者は、課題に関する情報を収集、整理し、発表及び質問に答えられるよう準備する。

復習として

- 1 講義を踏まえて課題を整理し直すこと。
- 2 興味のある課題について、追加の調査を行うこと。
- 3 課題をレポートにまとめること。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

【 <b>履修科目</b> 】	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
履修者は、毎回	憲法として 憲法のちから—身近な問題を通して考える憲法の役割—	中富公一編著	法律文化社		
	自由記載				
【 <b>参考書</b> 】	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	自信をもっていじめにNOと言うための本	中富公一	日本評論社	2300 + 税	978-4-535-52038-7
	自由記載	右崎正博・浦田一郎編『基本判例1 憲法 [第4版]』(法学書院, 2014年)			
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>					
県教育委員会, 県(人権・同和政策課)					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
いじめや学校内の人権問題など学生に身近な人権問題および統治の仕組みを学生の目線で憲法の基本原理から説明する。					

授業科目名	科学の基礎		サブタイトル	高校までの数学（計算）の総復習	授業番号	NB101
担当教員名	波多江 崇					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	1単位			
開講年次	1年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
【授業の概要】						
<p>栄養士および管理栄養士は栄養士法によって定められた国家資格であり、その職務および職能についても栄養士法で定められている。4年間の学生生活を順調に送るためには、初年次からのカリキュラムに遅れることなく、内容を十分に理解し、自分の知識として身につけることにある。特に、高校までに学習した数学（計算）は、栄養価計算、食材の可食率・廃棄率、絵ペルギー比率、調味料、食材の発注業務など、栄養士・管理栄養士の日常業務に必要である。そこで、本科目では、数多くの計算問題の演習を行うことで、全員が正確かつ迅速に計算ができるようになることを目的とする。</p>						
【到達目標】						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養に関する勉強の基礎が身につく。</li> <li>・論理的な考え方が身につく。</li> <li>・一般教養（理系）の力がつく</li> </ul> <p>なお、本科目はディプロマポリシーのの修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：概数の理解・四捨五入・単位  第2回：小数の計算  第3回：分数の計算  第4回：一次方程式 その1  第5回：一次方程式 その2  第6回：一次方程式（文章問題）その1  第7回：一次方程式（文章問題）その2  第8回：原価計算 その1  第9回：原価計算 その2  第10回：割合・比  第11回：質量パーセント濃度 その1  第12回：質量パーセント濃度 その2  第13回：食材の可食率・廃棄率  第14回：食材の発注量  第15回：総まとめ</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	0%	意欲的な学習態度			
	レポート					
	小テスト	0%	各科目の理解度			
	定期試験	100%	最終的な理解度			
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】						
事前に教科書で予習しておき、授業では理論・概念の理解に集中し、事後の復習により習得した知識を確かなものとする。						
【授業外学修】						
間違えた箇所を中心に、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	テキストは使用せず、毎回、必要に応じてプリントを配布する。				
参考書	自由記載					
【担当教員の実務経験の有無】						
無						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】						
無						



授業科目名	基礎化学		サブタイトル		授業番号	NB102	
担当教員名	田中 徹也						
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位		
開講年次	1年			開講期	前期		
必修・選択	選択			授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>							
<p>化学は、生化学・生命科学を理解する上で必須の学問である。  この講義では、高校卒業までに修得しておくべき基礎科学を中心に、(管理)栄養士として必須となる生化学につながる無機化学全般を取り扱う。  講義のアウトラインは参考書に従うが、独自に作成した配布資料をもとに行う(基本的に板書はしないので、講義で話す必要部分を配布資料に書き加えていくこと)。</p>							
<b>【到達目標】</b>							
<p>物質を構成する元素・分子の構造と性質について説明できる。  物質のとらえる状態(気体・液体・固体)とその相互関係について理解できる。  化学反応と化学平衡、熱・光エネルギーについて理解できる。  元素とその化合物について理解できる。  なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt;の修得に貢献する。</p>							
<b>【授業計画】</b>							
<p>第1回：栄養学と化学  第2回：物質の構成－物質の構成  第3回：物質の構成－粒子の結合  第4回：物質の構成－粒子の相対質量と物質質量  第5回：物質の三態－物質の三態と平衡  第6回：物質の三態－気体  第7回：物質の三態－溶液  第8回：物質の反応－化学反応と熱・光  第9回：物質の反応－化学反応の速さと化学平衡  第10回：物質の反応－酸と塩基の反応  第11回：物質の反応－電池と電気分解  第12回：無機化合物－非金属元素とその化合物  第13回：無機化合物－典型金属元素とその化合物  第14回：無機化合物－遷移元素とその化合物  第15回：無機化合物－金属イオンの反応  「有機化合物と人間生活」への導入</p>							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度		5%	意欲的な授業態度、予・復習の状況によって評価する。			
	レポート						
	小テスト		5%	各回の主要なポイントの理解を評価する。			
	定期試験		90%	最終的な理解度を評価する。			
	その他						
	自由記載	参考書や配布資料も含めて、紙媒体は全て持ち込み可で定期試験を行うため、定期試験の成績が評価のほぼ全てとなるが、出欠と授業態度、小テストの結果も若干加味して最終評価する。					
<b>【受講の心得】</b>							
<p>この講義は選択科目であるが、2年次以降の栄養学・生命科学系科目の理解に必要な基本事項も網羅的に含んでいるため、(特に高校卒業時までの)化学の知識習得が不十分だと感じる者は履修すること。  まとまった単位で、相当枚数の資料を配布するので、基礎化学専用ファイル(フォルダー)を準備しておくことが望ましい。</p>							
<b>【授業外学修】</b>							
配布資料・参考書を用いて、講義した内容について復習し、週あたり4時間以上の学修をとおして、講義内容をよく理解しておくこと。							
使用テキスト	自由記載						
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	視覚で化学図録		数件出版編集部 編集	数研出版	1100	978-4-410-27386-5	
	自由記載						
<b>【その他】</b>							
高校で化学をよく学んでいない学生、もう一度きちんと化学を修得したい学生、生化学(必須科目)の理解度を深めたい学生は必ず履修すること。							
<b>【備考】</b>							
令和3年度改定							
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>							
無							
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>							
無							

授業科目名	基礎生物学		サブタイトル	(生物学はじめの一步)		授業番号	NB103	
担当教員名	真鍋 芳江							
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位			
開講年次	1年			開講期	前期			
必修・選択	選択			授業形態	講義			
【授業の概要】								
ヒトを中心に細胞から個体に至る生体の階層性を学び、「生物とは何か」について理解を深める。								
【到達目標】								
生体の基本的な仕組みを理解することで、生化学、生理学、栄養学、解剖学等の専門分野を学習する上で欠くことのできない基礎的な知識を身につける。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。								
【授業計画】								
第1回 生き物としてのヒト 第2～4回 ヒトの体の構造 第5・6回 生命を維持するしくみ 第7～9回 体を構成する器官 第10～12回 生命を維持するしくみ 第13・14回 代謝のしくみ 第15回 恒常性を維持するしくみ								
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度		10%	積極的に質問する等、意欲的な受講態度によって評価する。				
	レポート							
	小テスト		10%	授業の理解度を評価する。				
	定期試験		80%	最終的な理解度を評価する。				
	その他							
自由記載								
【受講の心得】								
興味と疑問点をもって積極的に取り組むこと。継続的に復習をし、「生物学は面白い!」と思えるよう自ら学習の工夫をすること。								
【授業外学修】								
1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。								
2 復習として、ノート整理を行い、小テストの見直しを行う。								
3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。								
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。								
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN		
	三訂版 視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録		鈴木孝仁 監修	数研出版	1,130円+税	978-4-410-28166-2		
	三訂版 視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録		数研出版編集部 編	数研出版	1,100円+税	978-4-410-27386-5		
自由記載								
参考書	自由記載		「生物学 - ヒトと環境の生命科学 - 」川崎祥二 古庄律 編著 建帛社 「わかる生物学 知っておきたいヒトのからだの基礎知識」 小野廣紀・内藤通孝 著 化学同人 「ヒューマンバイオロジー」 坂井健雄・岡田隆夫 著 医学書院					
	【担当教員の実務経験の有無】							
	無							
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】								
無								

授業科目名	化学		サブタイトル		授業番号	NB104
担当教員名	田中 徹也					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
<p>教科名は化学であるが、講義内容は有機化学である。  人間の体の構成成分・食品のほぼ全ては有機化合物で構成されている。  有機化合物の基礎から生体・食品を構成する有機高分子化合物までを網羅的に説明する。  講義のアウトラインはテキストに従うが、独自に作成した配布資料をもとに行う（基本的に板書はしないので、講義で話す必要部分を配布資料に書き加えていくこと）。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>有機化合物の基本構造と官能基について説明できる。  生命活動を担う物質、また食品構成成分としての有機高分子化合物について理解できる。  なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：有機化学とは何か  第2回：アルカン  第3回：アルケン  第4回：シクロアルカン・シクロアルケン  第5回：アルコールとエーテル  第6回：アルデヒド  第7回：ケトン  第8回：カルボン酸  第9回：エステル  第10回：アミンとアミド  第11回：芳香族化合物  第12回：糖質の化学  第13回：脂質の化学  第14回：アミノ酸の化学  第15回：酵素反応の有機化学</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		5%	意欲的な授業態度、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート					
	小テスト		5%	各回の主要なポイントの理解を評価する。		
	定期試験		90%	最終的な理解度を評価する。		
自由記載		基本的に参考書や配布資料も含めて、紙媒体は全て持ち込み可で定期試験を行うため、定期試験の成績が評価のほぼ全てとなるが、出欠と授業態度も若干加味して最終評価する。				
<b>【受講の心得】</b>						
<p>この講義は選択科目であるが、2年次以降の栄養学・生命科学系科目の理解に必要な基本事項も網羅的に含んでいるため、今後の講義を深く理解したいと考える学生は履修すること。  まとまった単位で、相当枚数の資料を配布するので、有機化学専用ファイル（フォルダー）を準備しておくことが望ましい。</p>						
<b>【授業外学修】</b>						
配布資料・テキストを用いて、講義した内容について復習し、週あたり4時間以上の学修をとおして、講義内容をよく理解しておくこと。						
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価
	有機化学			山田 恭正 編	羊土社	2800
	自由記載					
参考書	自由記載					
	<b>【備考】</b>					
	令和3年度改定					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	生物学		サブタイトル		授業番号	NB105	
担当教員名	田中 徹也						
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位		
開講年次	1年			開講期	後期		
必修・選択	選択			授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>							
<p>生命は生物そのものである。生命（生物）を探究する学問（生命科学）の一部が生物学である。</p> <p>大学を卒業したものが備えておくべき（学士力）幅広い教養の一部としての生物学の講義であるが、高校卒業までに習得しておくべき基礎生物学の復習的な内容も広くカバーする。</p> <p>講義のアウトラインは参考書に従うが、独自に作成した配布資料をもとに行う（基本的に板書はしないので、講義で話す必要部分を配布資料に書き加えていくこと）。</p>							
<b>【到達目標】</b>							
<p>栄養学に直結する生物学のごく一部ではなく、生命のミクロな領域からマクロな領域までの幅広い生物学の全容が理解できる。</p> <p>生命科学の発展してきた経緯が理解でき、既知の事実から未知の事実を発見・証明していく経緯が説明できる。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞の修得に貢献する。</p>							
<b>【授業計画】</b>							
<p>第1回：生命とは何か</p> <p>第2回：細胞の発見と細胞の構造・機能</p> <p>第3回：単細胞・多細胞・組織から個体としての生命</p> <p>第4回：代謝とエネルギー産生に関わる物質</p> <p>第5回：代謝とエネルギー産生に関わる反応系</p> <p>第6回：遺伝の歴史と各種遺伝</p> <p>第7回：遺伝子の発現</p> <p>第8回：生殖</p> <p>第9回：発生</p> <p>第10回：生体環境の維持（循環器系・呼吸器系・消化器系）</p> <p>第11回：生体環境の維持（神経系・免疫系・内分泌系）</p> <p>第12回：生態系とニッチ（異種間の関わり合い）</p> <p>第13回：気候とバイオーム、生態系のバランスと生命多様性</p> <p>第14回：生命の起源と進化</p> <p>第15回：種分化と系統分類</p>							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度		5%	意欲的な授業態度、予・復習の状況によって評価する。			
	レポート						
	小テスト		5%	各回の主要なポイントの理解を評価する。			
	定期試験		90%	最終的な理解度を評価する。			
	その他						
	自由記載	基本的に参考書や配布資料も含めて、紙媒体は全て持ち込み可で定期試験を行うため、定期試験の成績が評価のほぼ全てとなるが、出欠と授業態度も若干加味して最終評価する。					
<b>【受講の心得】</b>							
<p>この講義は選択科目であるが、2年次以降の栄養学・生命科学系科目の理解に必要な基本事項も網羅的に含んでいるため、（特に高校卒業時までの）生物学の知識習得が不十分だと感じる者は履修すること。</p> <p>まとまった単位で、相当枚数の資料を配布するので、生物学専用ファイル（フォルダー）を準備しておくことが望ましい。</p>							
<b>【授業外学修】</b>							
配布資料・参考書を用いて、講義した内容について復習し、週あたり4時間以上の学修をととして、講義内容をよく理解しておくこと。							
使用テキスト	自由記載						
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	視覚で生物図録		数件出版編集部 編集	数研出版	1130	978-4-410-28166-2	
	自由記載						
<b>【備考】</b>							
令和3年度改定							
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>							
有							
<b>【担当教員の实務経験】</b>							
高校生物学非常勤講師、国内外の先端研究施設および製薬企業での生命科学各分野の研究員							
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>							
無							
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>							
高校生レベルの生物学から、最先端の研究現場で体験した（または現時点で行っている研究の）経験を交え、知識の修得だけではなく未知仮説を証明していく科学的思考方法を伝える。							

授業科目名	生活と情報処理		サブタイトル	授業番号	NC101
担当教員名	梅原 嘉介				
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	必修	授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b> 現代の情報社会においては、パソコンは最も基礎的なツールの一つである。この情報の持つ様々な側面のうち情報と人間社会のかかわりを明らかにする。そのため、パソコンの基本的な使い方や仕組み、さらにはネットワークの基礎的な使用方法を学ぶ。					
<b>【到達目標】</b> 本授業も具体的な目標は、次の3点である。 (1) パソコンに関する基礎的知識を学ぶ。 (2) ネットを利用した情報収集、加工、発信の仕方を学ぶ。 (3) 情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて学ぶ。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b> 第1回：コンピュータの歴史 第2回：パソコン操作についての基礎知識 第3回：ネット利用についての基礎知識（1） 第4回：ネット利用についての基礎知識（2） 第5回：ネット利用についての基礎知識（3） 第6回：ワード・エクセルの基礎知識 第7回：パワーポイントの基礎知識（1） 第8回：パワーポイントの基礎知識（2） 第9回：パワーポイントの基礎知識（3） 第10回：デジタルコンテンツの作成の仕方（1） 第11回：デジタルコンテンツの作成の仕方（2） 第12回：デジタルコンテンツの作成の仕方（3） 第13回：課題作成（1） 第14回：課題作成2 第15回：情報の倫理とセキュリティ					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%			
	レポート	80%			
	小テスト		各回の主要なポイントの理解を評価する。		
	定期試験		最終的な理解度を評価する。		
	その他				
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b> 新聞やTV等で報道される情報に関するニュースやレポートに興味を持ってほしい。 わからないことは質問すること。					
<b>【授業外学修】</b> 1 復習をすること。 2 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	Google Classroomの導入と遠隔教育の実践	梅原嘉介	工学社	1900円	978-4-7775-2113-5
	自由記載				
参考書	自由記載				
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 無				
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無					

授業科目名	情報処理演習I		サブタイトル		授業番号	NC102
担当教員名	藤本 宏美					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	1単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
<b>【授業の概要】</b>						
<p>情報社会における様々な情報を扱う上で今や必須となった情報技術に関する実用的な能力の獲得を目指す。本講義では、大学の授業においても、これらの活用が前提となり、レポート作成や卒業論文の執筆、収集したデータの整理や集計、学習成果を報告するためのプレゼンテーションなどのスキルは持って当然となっている。このような現状をふまえ、社会生活の中で最も利用するであろう代表的なアプリケーションであるワードプロセッサツールであるMicrosoft Wordの利用方法を修得する。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>ワードプロセッサツールである「Microsoft Word 2016」による基本的な情報処理のスキルを身に付け、Word固有の機能を使用した数式や図表を含む文章作成や小冊子の編集が出来るようになることを目的とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち&lt;技能&gt;の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：情報モラルと情報セキュリティ・タイピング練習  第2回：基本的な文章を作成（1）  第3回：基本的な文章を作成（2）ビジネス文章の書き方  第4回：基本的なレポートを作成  第5回：図や表を挿入、文章の印刷  第6回：グラフィック機能を使って表現力のアップ（1）  第7回：グラフィック機能を使って表現力のアップ（2）  第8回：段組みを使ってレイアウトを整える  第9回：表を使ってデータを見やすくする  第10回：ExcelデータをWordで利用する  第11回：フォームを使って入力効率をあげる  第12回：宛名を差し込んで印刷  第13回：長文レポートの編集と文書の校閲  第14回：Wordの特殊機能・オフィスソフトの特殊機能  第15回：総合問題</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		50%	意欲的な受講態度、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート					
	小テスト		50%	習熟達成度を評価する。		
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
<p>演習科目のため、遅刻・欠席は厳禁である。また、課題を提出すること。レポート課題についても全て提出すること。やむを得ず欠席（公欠を含む）する場合は、必ず放課後等を利用し学習しておくこと。</p>						
<b>【授業外学修】</b>						
<p>1.授業時間内に十分理解できなかった演習については、各自で再度行い理解すること。  2.授業時間の都合上、テキストに掲載されているすべての演習問題を授業中にすることが困難なため、授業中出題されなかった他の演習問題を事後学習として取り組むこと。  3.発展学習として総合スキルアップ問題などの課題を演習中に学習した技術を使って作成する。  以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。</p>						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	よくわかるWord2019演習問題集			富士通エフ・オー・エム株式会社	1,000円（税別）	
自由記載		*ただし、開講時に改訂版等が出版された場合には、変更となる場合もある。				
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	情報リテラシー 改訂版 Windows 10 / Office 2019			富士通エフ・オー・エム株式会社	2,000円（税別）	
自由記載						
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
高等学校情報						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
基本的な情報処理のスキルを身に付け、Word固有の機能を使用した数式や図表を含む文章作成や小冊子の編集の技能を習得させる。						

授業科目名	情報処理演習II		サブタイトル	(表計算)		授業番号	NC103	
担当教員名	赤木 竜也							
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	1単位			
開講年次	1年			開講期	後期			
必修・選択	選択			授業形態	演習			
<b>【授業の概要】</b>								
情報社会における様々な情報を扱う上で今や必須となったコンピュータ。本講義では高等学校で必修となった普通教科情報を踏まえ、情報リテラシーの中でも特に学生が苦手である表計算ソフトの基本的かつ応用的な操作方法について学修する。								
<b>【到達目標】</b>								
情報の分析・加工・発信能力をさらに高めるために、表計算ソフトの基礎的技術を学び、情報に応じて適切な表・グラフの作成および分析ができるようになることを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<技能>の修得に貢献する。								
<b>【授業計画】</b>								
第1回：情報処理とコンピュータの関わり 第2回：表計算ソフトの基礎知識(表の作成から印刷・保存) 第3回：表計算ソフトの基礎知識(グラフの作成) 第4回：ワークシートの活用(1)(表の編集機能および書式設定) 第5回：ワークシートの活用(2)(罫線と表のスタイル) 第6回：ワークシートの活用(3)(絶対参照と相対参照、属性および表示形式) 第7回：ワークシートの活用(4)(基本的な関数) 第8回：ワークシートの活用(5)(基本的な関数および条件付き書式) 第9回：グラフ(1)(基本的なグラフ) 第10回：グラフ(2)(基本的なグラフ) 第11回：グラフ(3)(応用的なグラフ) 第12回：データベース 第13回：Excelの応用(1)(応用的な関数) 第14回：Excelの応用(2)(データベース関数) 第15回：総合演習・まとめ								
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	課題への取り組みおよび到達度を評価する。				
	レポート							
	小テスト							
	定期試験		70%	習熟達成度を評価する。				
	その他		10%	授業中出題する演習問題について評価する。				
自由記載								
<b>【受講の心得】</b>								
コンピュータを用いた実習を適宜行うため、遅刻・欠席は厳禁である。やむを得ず欠席(公欠を含む)する場合は、必ず放課後等を利用し学修しておくこと。								
<b>【授業外学修】</b>								
授業時間の都合上、テキストに掲載されているすべての演習問題を授業中にすることが困難なため、授業中出題されなかった他の演習問題を事後学修として4時間以上その都度取り組み、理解度を深めておくこと。								
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	30時間でマスターExcel2019(Windows10対応)			実教出版企画開発部	実教出版	1045	978-4-407-34837-8	
自由記載								
参考書	自由記載							
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>							
	有							
<b>【担当教員の実務経験】</b>								
公立高等学校公民・商業・情報科講師, IT講習会講師								
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>								
無								
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>								
高等学校で情報科(普通教科情報・専門教科情報)等を担当した経験を踏まえ、情報リテラシーのスキルアップを目指した知識・技術を指導する。								

授業科目名	基礎統計演習		サブタイトル		授業番号	NC204
担当教員名	藤本 宏美					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	1単位	
開講年次	4年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
統計的な考え方、統計手法は、さまざまな領域で必要となる。栄養の領域においても、統計分析を活用できる知識やスキルは求められている。本授業では、調査、実験、観測などから得られたデータから有益な情報を引き出すための統計的な考え方と手法について解説する。また実際のデータを活用して、パソコン（Excel/SPSS）を用いたデータの統計処理も行う。						
<b>【到達目標】</b>						
1) 量的・質的データを分析するための統計的な考え方を理解する。 2) 基礎統計量、統計的検定・推定、多変量解析の考え方を理解する。 3) パソコンを用いて結果を算出し、その結果をみて考察を行う。 以上を到達目標とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：データ解析における4つの尺度 第2回：基本統計量（平均値、中央値、最頻値） 第3回：度数分布表とヒストグラム 第4回：さまざまな分布 第5回：2つの変数の関係（単相関） 第6回：統計的仮説検定の考え方 第7回：度数の検定 第8回：平均値の検定 第9回：標本抽出 第10回：重回帰分析の考え方 第11回：重回帰分析の実践 第12回：主成分分析の考え方 第13回：因子分析の考え方 第14回：主成分分析、因子分析の実践 第15回：その他、多変量データの分析手法と多変量統計的グラフ手法						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		40%	意欲的な受講態度、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート		10%	レポート課題を課す。		
	小テスト					
	定期試験		50%	習熟達成度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
まずは、データを解析して、何らかの結論を導くという、実証的な方法論に興味を持っていただきたい。そして、実際に手法を適用して、結果を導く楽しさを知ってもらいたいと考えている。数学的な知識は必須ではないが、数値や数式を用いることがあるため、数学に興味を持ってもらいたい。						
<b>【授業外学修】</b>						
1) 予習として、次回に学ぶ予定の内容について、書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。 2) 復習として、学んだ内容の整理を行い、レポート課題の作成を行う。 3) 発展として、自ら課題を見つけて、分析の適用を行い、考察を行う。 以上の内容に対して、週4時間以上の学修を行うこととする。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	大学4年間の統計学が10時間でざっと学べる		倉田博史	KADOKAWA	1000円 + 税	978-4-04-604187-6
自由記載		板書を中心とするが、必要に応じてプリントを配布する。				
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	初めてでもできる社会調査・アンケート調査とデータ解析		安藤明之	日本評論社	2500円 + 税	
	EXCELビジネス統計分析		末吉正成, 末吉美喜	翔泳社	2380	978-4-7981-48898-4
	マンガでわかるやさしい統計学		小林克彦	池田書店	1400	978-4-262-15560-9
自由記載		統計学図鑑 栗原伸一・丸山敦史 オーム社				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
高等学校情報（データ解析）						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
実験などから得られたデータから有益な情報を引き出すための統計的な考え方と手法について習得させる。						



授業科目名	英語I	サブタイトル	(栄養英語)	授業番号	ND101
担当教員名	松浦 加寿子				
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	必修	授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b>					
本演習では、英語を通して食に関する知識を深めるとともに、既習の語彙や文法事項を再確認しながら食生活や栄養をテーマにした英文を読む。					
<b>【到達目標】</b>					
読解を通して、食に関する語彙や英語表現について学び、基礎的な英語力の向上を目標とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：Unit 1 The ABCMs of Eating 第2回：Unit 2 Determining Whether Your Diet is Adequate 第3回：Unit 3 Keeping Caloric Intake in Check 第4回：Unit 4 Spicing up Your Life with Variety 第5回：Unit 5 What's a Body Made of? 第6回：Unit 6 Knowing Your Nutrients 第7回：Unit 7 Energizing Nutrients: Proteins, Carbs, and Fats 第8回：Unit 8 Aiding in Body Function: Vitamins and Minerals 第9回：Unit 9 Water: The Most Important Nutrient 第10回：Unit 10 Binge Drinking: A Behavioral No-No 第11回：Unit 11 Digestion: One Step at a Time 第12回：Unit 12 Eating Disorders 第13回：Unit 13 Food Allergies 第14回：Unit 14 Controlling Food Contamination 第15回：Unit 15 The Father of All Vitamins: Casimir Funk / 科目授業全体のまとめ					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な受講態度、予習の状況及び授業への貢献度を評価する。		
	レポート				
	小テスト	20%	各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。		
	定期試験	50%	講義の中間期、期末に授業内容の理解度を評価する。		
	その他	10%	ノートの提出により、課題を評価する。		
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b>					
・予習を前提として進めていくので、テキストの本文を全訳し、練習問題を解いたうえで授業に臨むこと。 ・英和辞典を毎回授業に持参すること。電子辞書でも可。ただし、授業中の携帯電話の辞書機能は使用不可。					
<b>【授業外学修】</b>					
1. 予習として、テキストの本文を読み、未知の語句があれば辞書で調べて全訳しておくこと。また、練習問題も解いておくこと。 2. 復習として、授業で学んだ文法事項と食に関する英語表現を理解し、知識として定着させること。以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	やさしい栄養英語	田中芳文(編著), 中里菜穂子・松浦加寿子(著)	講談社	1,800円+税	978-4-06-513414-6
	自由記載				
参考書	自由記載	英和辞典を毎回授業に持参すること。電子辞書でも可。ただし、授業中の携帯電話の辞書機能は使用不可。			
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>				
	無				
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					

授業科目名	英語II		サブタイトル	(英文読解)		授業番号	ND102	
担当教員名	森年 ボール グレゴリー チンデミ							
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位			
開講年次	1年			開講期	後期			
必修・選択	必修			授業形態	演習			
<b>【授業の概要】</b>								
To learn and use nutrition-related English , and develop English listening , speaking , reading and writing skills , through a study of foreign recipes' , their related culture and history , and practical experience in the kitchen. 外国海外料理のレシピ, 料理に関連する文化と歴史, キッチンでの実践的な経験を通じて, 栄養関連の英語を学び, 使用し, 英語のリスニング, スピーキング, 読書, ライティングのスキルを養う。								
<b>【到達目標】</b>								
Students will do three personal cooking projects. 生徒は3つの個人でできる料理プロジェクトを行います。								
This course will contribute to acquiring language knowledge , comprehension and skills , thinking and problem-solving skills , and attitude among the bachelor's degree contents listed in the Diploma Policy. なお, 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち, <知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度> の修得に貢献する。								
<b>【授業計画】</b>								
<b>【授業計画 備考】</b>								
The course has three projects to teach cooking and nutrition-related English. このコースには, 料理と栄養関連の英語を教える3つのプロジェクトがあります。								
第1回: Self-introductions , Introduction to the course , Google Classroom , Food groups , 自己紹介, コースの紹介, Google Classroom, 食品グループ 第2回: Project 1 - Introduction to the ' Finger food ' project プロジェクト1-「フィンガーフード」プロジェクトの紹介 第3回: Project 1 - Vocabulary for recipes (ingredients & kitchen utensils) プロジェクト1- レシピの語彙(食材や台所用品) 第4回: Project 1 - Vocabulary for recipes (cooking actions and the imperative form: Boil the water) プロジェクト1- レシピの語彙(料理の動詞と命令形: 水を沸騰させる) 第5回: Project 1 - Short test 1 , Finger food videos , critique , project feedback プロジェクト1- 第1小テスト, フィンガーフードのビデオ, 評論とプロジェクトのフィードバック 第6回: Project 2 - Introduction to the Soups and salads project プロジェクト2-「スープとサラダ」プロジェクトの紹介 第7回: Project 2 - Explaining a recipe ' s nutrition (It contains...) プロジェクト2- レシピの栄養の説明について (を含む...) 第8回: Project 2 - Let ' s check your recipes! (Ingredients , cooking utensils and cooking actions) プロジェクト2- レシピをチェックしよう! (材料, 調理器具, 料理の動詞) 第9回: Project 2 - Short test 2 & Soups and salads videos , critique , project feedback プロジェクト2- 第2小テストとスープとサラダのビデオ, 評論とプロジェクトのフィードバック 第10回: Project 3 - Introduction to the ' Make a menu ' project プロジェクト3-「メニューを作る」プロジェクトの紹介 第11回: Project 3 - Make your menu: main dish , side dish(es) and dessert プロジェクト3- メニューを作る: メインディッシュ, サイドディッシュとデザート 第12回: Project 3 - Introduce and explain your menu in English プロジェクト3- メニューを英語で紹介して説明する 第13回: Project 3 - Cook your main dish , side dish(es) and dessert プロジェクト3- メインディッシュ, サイドディッシュ, デザートを調理します。 第14回: Project 3 - Menu videos , critique , project feedback , Course review , Student questionnaire プロジェクト3- メニューのビデオ, 評論とプロジェクトのフィードバック, コースレビュー, 学生アンケート 第15回: Short test 3 , Menu videos , 第3小テスト, メニューのビデオ								
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	Active participation in English 英語で積極的な参加				
	レポート		30%	Write a recipe card and critique form for each of the three projects (6 x 5%) 3つのプロジェクトのそれぞれについてレシピカードと批評フォームを書きます (6 x 5%)				
	小テスト		30%	Vocabulary tests (3 x 10%) 語彙小テスト (3 x 10%)				
	定期試験							
	その他		20%	Three project videos using English sound or subtitles (5% , 5% , 10%) 英語の音声または字幕を使用した3つのプロジェクトビデオ (5% , 5% , 10%)				
自由記載		Students will have to pay a small amount for the cooking projects' ingredients. Please pay on cooking days (on-campus) or buy yourself (distance learning). 学生は調理プロジェクトの食材に少額を支払うことになる。キャンパスで勉強する場合は調理を行う日に支払いを求めます, または遠隔教育の場合は自分で買ってください。						
<b>【受講の心得】</b>								
Students must attend at least 10 lessons , participate actively and try to use English during class. 学生は少なくとも10回の授業に出席し, 授業に積極的に参加し, 英語を使ってみる。								
<b>【授業外学修】</b>								
Make an English cooking video for each of the three projects. The English can be spoken or you can use English subtitles. Also , study for the three vocabulary short tests. 3つのプロジェクトのそれぞれについて英語の料理ビデオを作成します。英語を話すことも, 英語の字幕を使用することもできます。 また, 3つの語彙の小テストのために勉強してください。								
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN		
	なし							

	<b>自由記載</b>	<p>Students must bring all their study materials (textbook , notebook , worksheets , file , etc.) to every class.          学生はすべての教材（辞書，教科書，ノートブック，ワークシート，ファイルなど）をすべての授業に持参しなければならない。          Students are also required to bring a Japanese-English-Japanese dictionary. 学生はまた，日本語-英語-日本語の辞書を持参する必要があります。</p>
<b>参考書</b>	<b>自由記載</b>	Handouts , worksheets , PowerPoint presentations , etc. 配布資料，ワークシート，PowerPoint プレゼンテーションなど
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>	無
	<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>	無

授業科目名	英語Ⅲ	サブタイトル	(食の英語)	授業番号	ND203
担当教員名	松浦 加寿子				
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
【授業の概要】 本演習では、「食」をテーマにした映画を用いて既習の文法事項や食に関する語彙、表現を確認しながら英文を読む。					
【到達目標】 映画や読解を通して、異文化理解を深めるとともに、食に関する語彙、表現を学び、総合的な英語運用能力の向上を目標とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：Chapter 1 Kramer vs. Kramer 1 文法：時制 第2回：Chapter 1 Kramer vs. Kramer 2 Recipe for French Toast 第3回：Chapter 2 The Devil Wears Prada 1 文法：比較 第4回：Chapter 2 The Devil Wears Prada 2 Major League Baseball Teams and their Home Cities 第5回：Chapter 3 Super Size Me 1 文法：動名詞 第6回：Chapter 3 Super Size Me 2 Count the Calories! 第7回：Chapter 4 Kamome Shokudo 1 文法：分詞 第8回：Chapter 4 Kamome Shokudo 2 北欧の国々 第9回：Chapter 5 The Road Home 1 文法：代名詞 第10回：Chapter 5 The Road Home 2 Chinese Cuisine in English 第11回：Chapter 6 Notting Hill 1 文法：仮定法 第12回：Chapter 6 Notting Hill 2 Recipe for Chocolate Brownies 第13回：Chapter 7 No Reservations 1 文法：接続詞 第14回：Chapter 7 No Reservations 2 ハーブの効用 第15回：Chapter 8 Dear Frankie まとめ					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な受講態度、課題や予習の取り組み姿勢などを評価する。		
	レポート	30%	課題について、練習問題の訳と英作文ができていること。課題は、コメントを記入して返却する。		
	小テスト				
	定期試験	50%	定期テストで授業内容の理解度を評価する。		
その他					
自由記載					
【受講の心得】 ・予習を前提として進めていくので、テキストの本文を全訳し、練習問題を解いたうえで授業に臨むこと。 ・英和辞典を毎回授業に持参すること。電子辞書でも可。ただし、授業中の携帯電話の辞書機能は使用不可。					
【授業外学修】 1. 予習として、テキストの本文を読み、未知の語句があれば辞書で調べて全訳しておくこと。また、練習問題も解いておくこと。 2. 復習として、授業で学んだ文法事項と食に関する英語表現を理解し、知識として定着させること。また、音声データをダウンロードして音声を確認し、音読すること。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	映画で味わう食文化	Fiona Wall Minami, Maho Matsui, Fujiko Motoyama	朝日出版社	1,700円+税	978-4-255-15559-3
自由記載					
参考書	自由記載				
	【担当教員の実務経験の有無】 無				
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					

授業科目名	韓国語		サブタイトル	韓国語の基礎を学ぶ		授業番号	ND204	
担当教員名	宋 娘沃							
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位			
開講年次	2年			開講期	後期			
必修・選択	選択			授業形態	演習			
【授業の概要】								
<p>韓流ブーム以降、韓国の冬季オリンピック、文化交流などを通じて韓国への関心が高まり、日本と韓国との距離は一段と縮まってきている。韓国語と日本語は文法が類似していると同時に、言葉にとって大切な語順がほとんど一致している。本講義は、前半では韓国語学習を習い始める初歩の段階としてハンゲルの基礎から始まり、韓国語のごく短い文の読み書き、聞き取りを学習する。後半では日常会話として自己紹介、挨拶の言葉、韓国旅行のための簡単な会話など、基礎的なやり取りの実践的な力を身につける。また、韓国の若者の意識、エンターテインメント、日常生活や社会への理解を深めていくために、ビデオ鑑賞を行う。</p>								
【到達目標】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>韓国語の言葉や文法を習得することができる。</li> <li>韓国語の挨拶や簡単な会話ができるようになる。</li> <li>簡単な韓国語が書けることができる。</li> </ul> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt; &lt;技能&gt;の修得に貢献する。</p>								
【授業計画】								
<p>第1回：韓国語とは  第2回：文字と発音・母音  第3回：文字と発音・子音  第4回：激音と農音、パッチム  第5回：助詞、動詞  第6回：基本文型過去形作り方  第7回：感嘆文、疑問文  第8回：基本文型指示代名詞、助数詞  第9回：用語の丁寧形、尊敬形  第10回：会話練習、表現  第11回：挨拶、訪問の言葉  第12回：韓国の大学  第13回：韓国の食生活と食べ物  第14回：韓国の文化と音楽  第15回：韓国の若者と社会生活</p>								
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考					
	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	授業への意欲、質問、宿題を積極的に進めていたかを評価する。					
	レポート							
	小テスト	30%	授業の中間時点でどの程度理解しているのかを点検する。					
	定期試験	40%	授業全体の理解度や言葉の習得ができていたかを評価する。					
	その他							
	自由記載							
【受講の心得】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>韓国語の単語や短文の宿題を真面目に行うこと。</li> <li>韓国に関するニュースや興味ある記事に目を通して積極的に取り組むこと。</li> </ul>								
【授業外学修】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>予習として、教科書の授業内容に相当する部分を前もって読み、疑問点をチェックして来ること。</li> <li>復習として、毎回の課題をノートに書いて来ること。</li> <li>韓国語の教科書のCDを聞くようにして、言葉に慣れること。</li> </ul> <p>以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。</p>								
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN			
	はじめての韓国語	李昌圭	ナツメ社	1600円	978-4-8163-5558-5			
	自由記載							
参考書	自由記載							
	【備考】	令和2年度改正						
	【担当教員の実務経験の有無】	有						
【担当教員の実務経験】								
専門学校講師								
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】								
無								
【実務経験をいかした教育内容】								
専門学校での経験を生かして、教育現場での実務の学習指導、学生指導について力を発揮する。								

授業科目名	体育講義		サブタイトル	(日常生活と健康)	授業番号	NE101
担当教員名	溝田 知茂					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	1単位			
開講年次	1年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】 現代社会においては、技術革新に伴う機械化・情報化が進み、日常生活における身体活動が減少するとともに、食生活のバランスの崩れも伴って、運動不足と生活習慣の乱れが深刻な問題となっている。こうした状況によって、我々の身体は危機的な状況にさえ陥っている場合もある。本講義では、からだと心の仕組みについて、身近にある道具や簡単な方法でセルフチェックできる力を身に付ける。						
【到達目標】 人間のからだと心の仕組みについて、日常生活で何気なく実践している事柄の意味について知ることを目的とする。 なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解><思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：「体力」について考える 第2回：「ホルモン」のはたらきについて考える 第3回：「自律神経」のはたらきについて考える 第4回：「背筋力」のはたらきについて考える 第5回：「免疫力」のはたらきについて考える 第6回：「睡眠」とスポーツ 第7回：身体形成と機能の発達 第8回：身体づくりとしての栄養・運動・スポーツ 第9回： 第10回： 第11回： 第12回： 第13回： 第14回： 第15回：						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		40%	意欲的な受講態度		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		60%	理解度を評価する		
	その他					
自由記載						
【受講の心得】 ・スポーツに関わる知識と理解を深め、スポーツ・運動への志向性を高めることを目指しているため、自らの生活と関連付けながら受講すること。						
【授業外学修】 ・「スポーツ」「からだ心」などをキーワードとした新聞記事やニュースを常に意識し、興味関心を高める。 ・各回の授業内容に合わせた情報を収集したり、書籍等を読んで予備知識を得ておくこと。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	特に使用しない。(作成資料を活用)				
参考書	自由記載					
【担当教員の実務経験の有無】 無						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無						

授業科目名	体育実技		サブタイトル	(スポーツに親しもう)	授業番号	NE102
担当教員名	溝田 知茂					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	1単位			
開講年次	1年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	実技			
<b>【授業の概要】</b>						
各チームの課題を基にメンバーで協力しながら、各種のスポーツ(集団的スポーツ・個人的スポーツ)の練習や試合に取り組む。						
<b>【到達目標】</b>						
健康的な生活を送るために、運動の大切さ・楽しさなど実践を通して体得することをねらいとするとともに、集団でのコミュニケーション能力の向上や基本的なルールの理解・運動技能の習得を図ることを目標とする。 なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解><技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：バスケットボールI(ルールと基本技術の理解) 第2回：バスケットボールII(基本技術の習得とゲームの導入) 第3回：バスケットボールIII(ゲームの展開) 第4回：バレーボールI(ルールと基本技術の理解) 第5回：バレーボールII(基本技術の習得とゲームの導入) 第6回：バレーボールIII(ゲームの展開) 第7回：バドミントンI(ルールと基本技術の理解) 第8回：バドミントンII(基本技術の習得とゲームの導入) 第9回：バドミントンIII(ゲームの展開) 第10回：ソフトバレーボールI(ルールと基本技術の理解) 第11回：ソフトバレーボールII(基本技術の習得とゲームの導入) 第12回：ソフトバレーボールIII(ゲームの展開) 第13回：卓球I(ルールと基本技術の理解) 第14回：卓球II(基本技術の習得とゲームの導入) 第15回：卓球III(ゲームの展開)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		60%	授業の準備や後片付けに率先して取り組んだり、自らのスキルアップやメンバーと協力してゲームに参加する等積極的に授業参加している		
	レポート					
	小テスト		40%	各競技ごとに技能テストを実施する		
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
運動着を着用し、体育館シューズを使用する。 全員協力の上、準備・片付けをする。						
<b>【授業外学修】</b>						
・日頃から自らの健康に対する興味関心や体力向上に努め、日常生活の中で自主的に身体を動かす習慣づくりを心がける。 ・各種目のルールやスキルアップを図るため、書籍や映像を活用して準備すること。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	特に使用しない。(作成資料を活用)				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	ファーストイヤーセミナー	サブタイトル	(大学生活に慣れよう！)	授業番号	NF101
担当教員名	波多江 崇 真鍋 芳江 河野 勇人 多田 賢代 井之川 仁 辻本 美由喜 岡崎 恵子 小野 尚美 北島 葉子 安原 幹成 古川 愛子 木野山 真紀				
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	1単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b> ファーストイヤーセミナーでは、大学生として必要な学び姿勢や情報の活用方法など、大学生活を充実したものとしていくための基礎づくりを行う。管理栄養士養成課程の学生として、管理栄養士を目指すモチベーションを高める。					
<b>【到達目標】</b> ・大学生としての学問の手法を修得する。 ・社会常識を修得する。 ・行動規範等を修得する。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <態度>の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b> 1回目～3回目：学生手帳の活用法、シラバスの見方・授業の受け方・勉強方法、管理栄養士養成課程の理解、レポートの書き方など大学生活において必要不可欠な内容について講義する。 4回目：図書館の利用方法について 5回目～8回目：管理栄養士として現場経験のある4人の教員による管理栄養士の仕事紹介 9回目：お金・ローン・クレジットについて 10回目～14回目：テーマ「4年後の成長した姿・目標を考える」でグループディスカッションとプロダクト作成 15回目：テーマ「4年後の成長した姿・目標を考える」発表会					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	50%	授業中の態度、特に、積極的に取り組む姿勢を評価する。		
	レポート	50%	与えられた課題に関する内容を具体的に述べていること。		
	小テスト				
	定期試験				
	その他	10%			
	自由記載	(1) 講義：人権について、交通安全講座、金融に関する講座等を行う。 (2) 演習：コミュニケーション力、スケジュール管理、マナー講座等を行う。 (3) 自己学習：計算力、語彙力、文章読解力等の見直しを行う。			
<b>【受講の心得】</b> 大学生としての基本的姿勢に関する授業であるから、積極的な受講姿勢を求める。 授業後には当日学修したことを見直し、日々の授業に役立てる工夫を各自で行う。					
<b>【授業外学修】</b> 授業内容をノート等に整理すること。 週当たり1時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載				
参考書	自由記載	「知へのステップ」学習技術研究会，くろしお出版			
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 無					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無					



授業科目名	日本事情 留学生対象科目		サブタイトル		授業番号	-
担当教員名	岡本 輝彦					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b>						
日本の文化や社会、習慣について幅広く学習し日本人のものの見方、考え方を知ることによって日本での生活に適應できる能力を身につける。また、知識を習得するだけでなくプレゼンテーションなどを通して日本語で発信できる能力を養うことを目的とする。						
<b>【到達目標】</b>						
1. 日本の文化や社会について自国の事情と比較しつつ知識を深めることができる。 2. 日本や日本人を正しく理解することができる。 3. 最終的には日本人コミュニティに参加できるようになる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：オリエンテーション・自己紹介 第2回：日本はどんな国か 第3回：自分の国を紹介する 第4回：日本の食について考える 第5回：自国の食文化を紹介する 第6回：年中行事 第7回：自国の年中行事を紹介する 第8回：現代文化とポップカルチャー 第9回：自国の文化を紹介する 第10回：環境保護を考える 第11回：自国の環境保護に対する取り組みを紹介する 第12回：教育 第13回：自国の教育を紹介する 第14回：多文化共生社会について考える(1) 第15回：多文化共生社会について考える(2)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		40%	積極的な受講態度、発話回数で評価する。		
	レポート		20%	自分の意見が適切に述べられているかどうかで評価する。		
	小テスト		40%	学習内容が理解できているかどうかで評価する。		
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
1. 資料を読んだり、ディスカッションをしたりするので、自分からどんどん発言すること。 2. 講義テーマに関する事柄を事前に調べておくこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 後期テーマに関する必要な語彙を調べておくこと。 2. プレゼンテーションの原稿を作成すること。 3. 資料を探しプレゼンテーションソフトを使って発表の練習をすること。						
以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	毎回プリントを配布する予定。				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	日本語 留学生対象科目		サブタイトル		授業番号	-
担当教員名	岡本 輝彦					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
総合的な日本語力を養うとともに日本や日本人に対する考え方を深めること、受容だけではなく産出の面にも焦点をあてて授業を進めていくことにより、日本語での発信力を向上させることを目的としている。						
<b>【到達目標】</b>						
1. 論理的な思考を身につけることができる。 2. 自分が言いたいことが例や理由などを示しながらわかりやすく説明できる。 3. 中上級の表現力が習得できる。						
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：アカデミック・リーディング(1) 第2回：語彙・文法(1)および復習 第3回：アカデミック・リーディング(2) 第4回：語彙・文法(2)および復習 第5回：アカデミック・ライティング(1)および小テスト 第6回：アカデミック・リーディング(3) 第7回：語彙・文法(3)および復習 第8回：アカデミック・リーディング(4) 第9回：語彙・文法(4)および復習 第10回：アカデミック・ライティング(2)および小テスト 第11回：アカデミック・リーディング(5) 第12回：語彙・文法(5)および復習 第13回：アカデミック・リーディング(6) 第14回：語彙・文法(6)および復習 第15回：アカデミック・ライティング(3)および小テスト						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	積極的な受講態度、発話回数、予習復習の成果で評価する。			
	レポート	30%	自分の意見が適切に述べられているかどうかで評価する。			
	小テスト	40%	学習内容が理解できているかどうかで評価する。			
	定期試験	0%				
	その他	10%	口頭発表			
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
講義の前にプリントを読んでおき、事前にわからない語彙の意味・用法を調べておくこと。講義を聞くだけでなく、自分から意見を述べること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 毎回配布するテキストに関する事項について事前に自分の意見をまとめておくこと。 2. テキストに出てくる学習項目を調べておくこと。						
以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	毎回プリントを配布する予定。				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	日本語II 留学生対象科目		サブタイトル		授業番号	-
担当教員名	岡本 輝彦					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
総合的な日本語力はもとよりのこと、特に「話す」、「書く」といった産出の面における日本語能力の向上を目指し、自分の考えを論理的に日本語で表現できる能力を身につけることを目的としている。						
<b>【到達目標】</b>						
1. 論理的な思考を身につけることができる。 2. 自分が言いたいことが例や理由などを示しながらわかりやすく説明できる。 3. 中上級の表現力を習得することができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：アカデミック・リーディング(1) 第2回：発表・討議 第3回：アカデミック・リーディング(2) 第4回：アカデミック・ライティング(1) 第5回：アカデミック・リーディング(3) 第6回：発表・討議 第7回：アカデミック・リーディング(4) 第8回：アカデミック・ライティング(2) 第9回：アカデミック・リーディング(5) 第10回：発表・討議 第11回：アカデミック・リーディング(6) 第12回：アカデミック・ライティング(3) 第13回：プレゼンテーション技法(1) 第14回：プレゼンテーション技法(2) 第15回：プレゼンテーション技法(3)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		40%	積極性・発表・予習・復習で総合的に評価する。		
	レポート		20%	自分の意見が適切に述べられているかどうかで評価する。		
	小テスト					
	定期試験		40%	理解度および到達度で評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
講義の前にプリントを読んでおくこと。また、日本人学生との交流もあるので積極的に発言すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 毎回配布するプリントに関する事項について事前に自分の考えをまとめておくこと。 2. プリントに出てくる学習項目を調べておくこと。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	毎回プリントを配布する予定。				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	人間の科学		サブタイトル	授業番号	NJ301
担当教員名	赤木 収二				
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	2単位		
開講年次	3年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
【授業の概要】 人は、他者や社会とのかかわりの中で、職業人、家庭人、地域社会の一員等、様々な役割を担いながら生きている。本授業は、社会でご活躍されている有識者の講演や視聴覚教材などにふれながら、社会の中で自分の役割を果たし、自分らしい生き方を実現していくために必要となる「価値基準」を養うためのキャリア教育の一環として位置づけられる。					
【到達目標】 授業各回において問いかけられる課題に対して、議論を重ねながら解答を導き出すように努力することで、より深い思考力および問題解決能力を養うことを目標とする。本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。					
【授業計画】					
【授業計画 備考】 講義、懇談などにおいて、講師との交流・議論を通して学習する。あくまでも自主的な取り組みが必要であり、自分で考え、自分の意見・見解を確認し、表現する能力を養うこと。 各回の授業項目と講師は変更することがある。					
第1回：この授業のなりたち、概要の説明 第2回～第14回： 宗教とボランティア活動(黒住教主 黒住宗道先生、 国際貢献(寄生虫の感染を通して; 穴吹医療大学 村主節雄先生) 障害者支援の実際(重度障害者多数雇用事務所 萩原重文先生) などの講演を拝聴し、その後バズセッションの形式でディスカッションを行う、 その他、AIと職業、人権、疾患治療と栄養素などのテーマにした、講義、視聴覚教材にふれて、 各々において問いかけられた課題に題して議論を行う。 第15回：まとめ 授業の項目・日程については初回授業の時にあらためて連絡する。					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢/態度				
	レポート		100%	各授業における課題、感想、意見を時間内にまとめ、提出したレポートで評価する	
	小テスト				
	定期試験				
	その他				
	自由記載	各授業における課題、感想、意見を時間内にまとめ、提出したレポートで評価する(100%)。			
【受講の心得】 各講師の講演は、心を開いて聴講し、疑問点があれば積極的に質問すること。					
【授業外学修】 毎週最低4時間は講義内容について文献等と共に復習すること					
使用テキスト	自由記載	特になし。			
参考書	自由記載	内容に応じてプリントを配布する。			
【その他】 キャリア教育の一環として、「自己の価値判断の基準」価値観を確立するための教科です。人が創造的に生きるためには、知情意にわたる「自己の価値判断の基準」が必要です。その基準は各自が生涯にわたって築き上げるものですが学生時代は、いろいろな人たちの考え方、生き方、人生のあり方を知り、学ぶことで、自己に適した基準を順次作り上げていくときです。そして、他者の基準、社会の基準を知り、他者を受容し、思考、行動を寛容する能力を養います。これにより深い洞察力を持った豊かな人間性を養う習慣を身につけ、より豊かな人格の形成に向けて精進できるようになります。					
【備考】 令和3年度改訂					
【担当教員の実務経験の有無】 有					
【担当教員の实務経験】 総合内科・消化器病・肝臓専門医、臨床栄養指導医等として診療に従事。産業医として事業所の産業保健衛生業務に参画。					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 有					
【担当教員以外の指導に関わる実務経験者】 宗教、国際貢献、障害者支援等に関して高い見識をもち、実務経験も豊かである。					
【実務経験をいかした教育内容】 社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくために必要となる「価値基準」を養うことに留意する。					

授業科目名	人と環境		サブタイトル		授業番号	NJ202	
担当教員名	川野 光興						
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位		
開講年次	2年			開講期	前期		
必修・選択	選択			授業形態	講義		
【授業の概要】							
地球環境、資源・エネルギー問題、大気・水環境汚染、廃棄物問題、化学物質汚染など、現代の環境問題は私たち現代の人類がその原因を作り、私たち自身に降りかかっている問題である。授業ではこれらの環境問題を、最新の知見、データをもとに科学的にとらえ、その現状を説明し、改善のためにとるべき対策について考える機会を与える。各自が環境問題を日常生活レベルの問題と認識して研究調査を行い、今後の改善や行動に繋がる具体的なアイデアをスライドおよびポスターを用いて発表する。							
【到達目標】							
<ul style="list-style-type: none"> <li>現代環境問題生起の基本的なメカニズムについて修得し理解している。</li> <li>食と栄養の専門家として関わりの大きい環境問題について基礎的知識の習得している。</li> <li>環境問題に関する時事ニュースについて関心を持ち、考えることができる。</li> </ul> なお、本科目はディプロマポリシーに掲げる学士力の内容のうち、＜知識・理解＞、＜思考・問題解決能力＞、＜態度＞の修得に貢献する。							
【授業計画】							
第1回：環境問題とは 第2回：地球環境における不都合な真実 第3回：身近な環境問題の調査1 第4回：身近な環境問題の調査2 第5回：身近な環境問題の調査発表1 第6回：身近な環境問題の調査発表2 第7回：地球環境における不都合な真実2 第8回：今後起きる環境問題の調査1 第9回：今後起きる環境問題の調査2 第10回：今後起きる環境問題の調査3 第11回：今後起きる環境問題の調査発表1 第12回：今後起きる環境問題の調査発表2 第13回：環境問題解決のための提案調査1 第14回：環境問題解決のための提案調査2 第15回：環境問題解決のためにできることは（まとめ）							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	意欲的な受講態度の状態によって評価する。			
	レポート		50%	研究ポスターの内容および完成度によって評価する。			
	小テスト						
	定期試験		30%	最終的な理解度および達成度を評価する。			
	その他						
自由記載							
【受講の心得】							
日頃より環境問題に関する時事ニュースに関心を持って目を通しておくこと。							
使用テキスト	自由記載	環境問題に関する新聞や記事を適宜使用する。					
参考書	書名			著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	地球環境学 第2版			山崎 友紀	講談社	2800円	978-4-06-155240-1
	トコトンやさしい環境汚染の本			大岩敏男 他	日刊工業新聞社	1400円	978-4526073007
	自由記載						
【備考】							
令和2年度改訂							
【担当教員の実務経験の有無】							
無							
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】							
無							

授業科目名	公衆衛生学I		サブタイトル		授業番号	NJ203
担当教員名	波多江 崇					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	必修			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
公衆衛生学は、人びとを疾病から守り、健康の保持・増進をはかることを目的としており、管理栄養士などの医療・健康関連分野を専門とする人びとの基礎となる学問である。学習する内容は、母子保健から老人保健までの年齢で区別される領域と、地域保健、精神保健、環境保健などの集団の社会的特性に関する領域まで、広い範囲にわたっている。そのうちで、公衆衛生学Iでは、疫学、保健統計、社会保障の分野を中心に学習する。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会あるいは家庭において、人びとの健康を保持・増進していくための基礎となる保健統計、疫学、社会保障の知識を身につける。</li> <li>・公衆衛生活動を行うために必要な信頼度の高い健康情報の収集、分析、情報管理の方法を学び活用できる。</li> <li>・管理栄養士国家試験の「社会・環境と健康」の分野での十分な実力を身につける。</li> </ul> なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：公衆衛生と健康の概念（テキスト p.2～p.9） 第2回：疫学、疫学研究のデザイン（テキスト p.10～p.11, p.19～p.25） 第3回：EBMの実践（テキスト p.32～p.33） 第4回：疫学の効果指標（テキスト p.15～p.18） 第5回：検査の指標とスクリーニング（テキスト p.26～p.29） 第6回：疾病・死亡の指標、保健統計（テキスト p.12～14, p.38～p.39） 第7回：保健統計；人口静態統計（テキスト p.40～p.43） 第8回：保健統計；人口動態統計（テキスト p.44～p.53） 第9回：保健統計；死因統計（テキスト p.54～p.61） 第10回：保健統計；疾病統計（テキスト p.62～p.65） 第11回：社会保障と医療経済；社会保障制度（テキスト p.152～p.159） 第12回：社会保障と医療経済；医療保障制度（テキスト p.160～p.167） 第13回：社会保障と医療経済；国民医療費（テキスト p.168～p.171） 第14回：地域保健（テキスト p.172～p.177） 第15回：まとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度			意欲的な受講態度		
	レポート					
	小テスト			各回の主要なポイントの理解度		
	定期試験		100%	最終的な理解度		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
事前に教科書で予習しておき、授業では理論・概念の理解に集中し、事後の復習により習得した知識を確実なものとする。						
<b>【授業外学修】</b>						
(1)予習として、教科書を読み疑問点を明らかにしておく。						
(2)復習として、授業で作成したノートを整理する。						
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	公衆衛生がみえる 2020-2021		医療情報科学研究所	メディックメディア	3960	4896327799
自由記載						
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	無					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	公衆衛生学II		サブタイトル	授業番号	NJ204	
担当教員名	波多江 崇					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b>						
公衆衛生学の学習内容は、母子保健から老人保健までの年齢で区別される領域と、地域保健、精神保健、環境保健などの集団の社会的特性に関する領域まで、広い範囲に亘っている。そのうちで、公衆衛生学IIでは、環境と健康、産業保健、学校保健の分野を中心に学習する。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会あるいは家庭において、人びとの健康を保持・増進していくための基礎となる環境保健、産業保健、学校保健、高齢者保健、地域保健の知識を身につける。</li> <li>・管理栄養士国家試験の「社会・環境と健康」の分野での十分な実力を身につける。</li> </ul> なお、本科目はディプロマポリシーのの修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：成人保健と健康増進；健康増進法，健康日本21（テキスト p.178～p.183） 第2回：成人保健と健康増進；健康日本21（テキスト p.184～p.191） 第3回：成人保健と健康増進；生活習慣病対策，特定健康診査・特定保健指導，がん対策（テキスト p.192～p.197） 第4回：母子保健，母子保健法（テキスト p.198～p.207） 第5回：出産・育児に関わる制度，母体保護法（テキスト p.208～p.213） 第6回：高齢者保健，老人福祉法，高齢者医療確保法（テキスト p.228～p.233） 第7回：介護保険法（テキスト p.234～p.239） 第8回：介護保険法（テキスト p.240～p.247） 第9回：在宅医療（テキスト p.248～p.251） 第10回：食品保健；食品保健に関する法律，食品の表示，食品の種類と機能（テキスト p.308～p.313） 第11回：食品保健；食中毒（テキスト p.314～p.325） 第12回：学校保健（テキスト p.334～p.343） 第13回：産業保健；産業保健総論，労働基準法，労働安全衛生法（テキスト p.344～p.356） 第14回：産業保健；健康管理（テキスト p.357～p.363） 第15回：まとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度			意欲的な受講態度		
	レポート					
	小テスト			各章の主要なポイントの理解度		
	定期試験		100%	最終的な理解度		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
事前に教科書で予習しておき，授業では理論・概念の理解に集中し，事後の復習により習得した知識を確かなものとする。						
<b>【授業外学修】</b>						
(1)予習として，教科書を読み疑問点を明らかにしておく。						
(2)復習として，授業で作成したノートを整理する。						
以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	公衆衛生がみえる 2020-2021		医療情報科学研究所	メディックメディア	3960	4896327799
自由記載						
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	無					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	公衆衛生学実習		サブタイトル		授業番号	NJ205	
担当教員名	波多江 崇						
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	1単位		
開講年次	2年			開講期	後期		
必修・選択	選択			授業形態	実習		
<b>【授業の概要】</b>							
講義（公衆衛生学I・II）で学んだ健康の保持・増進を主体とした保健活動に関する知識を、実習によってより確かなものとして活用できるようにする。							
<b>【到達目標】</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>保健統計に用いる主な健康指標について理解し活用できる。</li> <li>公衆衛生活動を行うために必要な信頼度の高い健康情報の収集、分析、情報管理の方法を学び活用できる。</li> <li>健康情報を収集するための調査法とそのデータの解析について理解し活用できる。</li> </ul> なお、本科目はディプロマポリシーのの修得に貢献する。							
<b>【授業計画】</b>							
第1回：健康日本21（第1次）の目標と最終評価の理解 第2回：健康日本21（第1次）の目標と最終評価から問題点の抽出と発表 第3回：健康日本21（第2次）目標と中間報告の理解 第4回：健康日本21（第2次）目標と中間報告から問題点の抽出と発表 第5回：健康市民おかやま21（第2次）目標と中間報告の理解（岡山市と日本全体の比較） 第6回：健康市民おかやま21（第2次）目標と中間報告から問題点の抽出と発表（岡山市と日本全体の比較） 第7回：健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なポピュレーションアプローチの企画 第8回：健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なポピュレーションアプローチの企画と中間発表 第9回：健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なポピュレーションアプローチの企画の発表と質疑応答 第10回：健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なポピュレーションアプローチの企画修正案の発表 第11回：健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なハイリスクアプローチの企画 第12回：健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なハイリスクアプローチの企画と中間発表 第13回：健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なハイリスクアプローチの企画の発表と質疑応答 第14回：健康市民おかやま21（第2次）の推進にとって効果的なハイリスクアプローチの企画修正案の発表 第15回：危険予知トレーニング（KYT）の実践							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度		50%	発表・討議への参加状況			
	レポート		50%	各回の内容・ポイントの的確は文章表現力			
	小テスト			各回の主要なポイントの理解度			
	定期試験			最終的な理解度			
	その他						
自由記載							
<b>【受講の心得】</b>							
事前に、講義（公衆衛生学I・II）の内容のうち、該当部分を復習しておく。事後に復習し、習得した知識を研究や国家試験問題解答に活用できるようにする。							
<b>【授業外学修】</b>							
発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。							
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	公衆衛生がみえる 2020-2021			医療情報科学研究所	メディックメディア	3960	4896327799
自由記載							
参考書	自由記載						
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無							
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>							
無							



授業科目名	健康管理概論		サブタイトル	授業番号	NJ106
担当教員名	阿部 ゆり子				
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	必修	授業形態	講義		
【授業の概要】					
(1)全ての住民の健康を維持・増進させるための考え方を学ぶ。 (2)各種保健衛生・医療に係る情報や統計資料の種類と収集法及び統計資料の解説について学ぶ。 (3)保健・医療・福祉制度と関係法規について学ぶ。 (4)公衆衛生行政・公衆衛生活動について学ぶ					
【到達目標】					
世界と日本における健康概念の歴史の変遷を考えることで、近代の健康概念・健康管理体制に至った過程を理解する。 全ての住民の健康維持・向上させるための具体的な保健・医療・福祉制度を学ぶ。 各種保健医療施策等の根拠法冷を理解する。 健康の概念を把握し、健康の維持・増進や疾病予防に役立てる基本的な考え方を理解する。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力>の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：健康の概念とその歴史の変遷 第2回：人口統計（保健統計資料解説に必要な統計について）と保健医療に関する各種統計調査 第3回：日本におけるヘルスプロモーションの歴史と現状（社会の疾病構造変化への対応） 健康日本21（1次）について 第4回：健康日本21・健康づくり計画におけるPDCAサイクル 第5回：健康日本21（1次）の最終評価と2次計画について 第6回：健康日本21（2次）の中間評価について 第7回：地域保健活動（地域保健法） 第8回：がん対策（がん対策基本法）日本の健診制度と特定健診（高齢者の医療を確保するための法律） 第9回：生活習慣病対策・身体活動・喫煙対策・アルコール対策（健康増進法等） 第10回：感染症対策（感染症法、予防接種法） 第11回：母子保健対策の歴史と課題（母子保健法、児童虐待防止法等） 第12回：精神疾患の予防と医療、福祉対策（精神保健福祉法等） 第13回：医療保険制度と医療体制（医療法等） 第14回：国際保健 第15回：職場の健康管理・まとめ					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	10%	授業への出席状況と参加態度		
	レポート	20%	(1)提出の有無 (2)資料や教科書を読みこなして記載しているかどうか		
	小テスト				
	定期試験	70%	最終的な理解度を評価する。		
	その他				
	自由記載	(1)10回程度の課題を宿題とします。授業の予習復習に役立ててください。提出の有無は評価の対象とします。 (2)毎回資料を配布します。ファイルの保管管理を行うこと。			
【受講の心得】					
本授業で紹介する保健・医療・福祉制度や統計資料は年単位で定期的あるいは随時、変化・更新されるものがほとんどである。したがって、メディアを通じて発信される様々な情報、特に保健・医療・福祉などの情報に日頃から勤めて接するよう努力することが望まれる。					
【授業外学修】					
予習：授業毎に授業計画で示した教科書該当箇所を通読しておくこと。 復習：レポート提出を行うことで実施すること。					
* 週当たり4時間以上の学修を要する。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	公衆衛生がみえる2020-2021	編集 医療情報科学	(株)メディックメディア	3,600+税	978-4-89632-687-1
	自由記載				
参考書	自由記載	「国民衛生の動向」厚生労働統計協会			
	【その他】	各種統計調査結果はネット上でアクセスできます。 定期的に統計資料が更新されてネット上に公開されますので、日ごろから保健・医療等に関する最新の公開情報へのアクセスに親しみましょう。			
	【担当教員の実務経験の有無】	有			
【担当教員の实務経験】					
岡山県の保健医療福祉行政で公衆衛生医として25年間勤務（県保健福祉部健康対策課長、県内7箇所の保健所の所長として勤務）その他臨床小児科医として8年間、麻酔蘇生科に2年間それぞれ勤務					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】					
無					
【実務経験をいかした教育内容】					
社会全体の健康管理体制とその根拠法令について、公衆衛生行政の歴史的視点を加味しながら考えてみましょう。					

授業科目名	福祉論		サブタイトル		授業番号	NJ107
担当教員名	松井 圭三					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
社会福祉の歴史をふまえながら、現代社会における福祉の制度について説明する。						
<b>【到達目標】</b>						
社会福祉の動向を学ぶなかで、利用者本位の支援について理解する。 なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解>、<思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：私たちの暮らしと社会福祉 第2回：栄養士が社会福祉を学ぶ意義 第3回：社会福祉のあゆみ 第4回：社会福祉の法律 第5回：社会福祉の行財政 第6回：社会福祉の実施体制 第7回：社会福祉における直接的支援 第8回：社会福祉における間接的支援 第9回：社会福祉の担い手 第10回：公的扶助 第11回：児童福祉 第12回：高齢者福祉 第13回：介護保険 第14回：障害者福祉 第15回：社会福祉の課題						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	意欲的な受講態度、予習・復習によって評価する。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		30%	最終的な理解度を評価する。		
	その他		50%	社会福祉記事ワークブックで毎回の授業内容の復習ができていないこと。ワークについては、授業終了後に学びの度合いを確認するとともに15回目に提出することを求め、コメントを記入して返却する。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
授業内容の理解を深めるため、授業が始まるまでにワークの内容を読んでおくこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
授業開始前までに、テキスト、ワークブックの内容を読んでおくこと。(1時間)						
授業後に示すワークブックの課題を次回の授業開始前までに仕上げしておくこと。(2時間)						
授業で学んだ内容を振り返り、必要と考えることをノートにまとめておくこと。(1時間)						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	21世紀の介護保険政策集		松井圭三	大学教育出版	1800	978-4-88730-839-8
	NIE介護の基本演習		松井圭三 今井慶宗	大学教育出版	2000	未定
	自由記載					
参考書	自由記載		必要に応じて紹介する。			
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
	<b>【担当教員の实務経験】</b>					
観音寺市シルバ-人材センタ-、観音寺市福祉事務所						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
高齢者福祉、障害者福祉において実務経験を踏まえた授業を実践している。						

授業科目名	子どもと高齢者の福祉		サブタイトル		授業番号	NJ308
担当教員名	松井 圭三					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	2単位			
開講年次	3年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b>						
今日の社会福祉の大きな課題は、なんとと言っても少子高齢化である。悲しいことに政府は、1980年代まで具体的な政策を展開しなかった。1990年代になり、少子高齢化が著しく進むため、急きょ福祉政策が実施されることになる。たとえば、ゴールドプラン、新ゴールドプラン、エンジェルプラン、介護保険、ゴールドプラン21、新エンジェルプラン等次々と政策を打ち出し、この少子高齢化に対応しようとしている。これらの政策は、解決に向けての第一歩と言える。このような社会状況において、この授業では少子高齢化の要因や現状を具体的に学んでいく。そして、この問題の解決策についてもみなさんと検討していきたい。また、各論において具体的な介護問題や児童問題、具体的には高齢者の所得保障、医療保障、就労保障、生きがい対策、児童虐待、いじめ、少年事件等の今日の福祉事例についても言及し、みなさんと考察していきたい。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉の実践能力を高めます。</li> <li>・学びの基礎となる知識や学習方法を修得します。</li> </ul> なお、本科目はディプロマポリシー - に掲げた学士力のうち、<知識・理解>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：少子高齢化社会と高齢者の福祉ニーズ 第2回：高齢者と高齢者福祉への視点 第3回：高齢者保健福祉を支える法的なしくみ(1) 第4回：高齢者保健福祉を支える法的なしくみ(2) 第5回：高齢者保健福祉に従事する人々 第6回：高齢者の所得・医療保障 第7回：高齢者の住環境 第8回：高齢者の社会参加と生きがい活動 第9回：現代社会と児童福祉 第10回：児童の権利と児童福祉 第11回：児童の法制と機構 第12回：高齢者の事例研究 第13回：児童の事例研究 第14回：障害者の事例研究 第15回：まとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加、予習、復習によって評価する。		
	レポート		10%	課題やレポートにコメントを記入して返却する。		
	小テスト		10%	各回の主要ポイントの理解を評価する。		
	定期試験		50%	最終的な理解度を評価する。		
	その他			レポートの提出期限を順守する。		
自由記載		受講態度、課題提出、定期試験により総合的に評価する。				
<b>【受講の心得】</b>						
本講義は講義形式とグループワークで授業を展開します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・予習と授業中の積極的発言を求めます。</li> <li>・自分で考えることをベースに授業に参加してください。</li> <li>・管理栄養士の国家試験対策を講じます。</li> </ul>						
<b>【授業外学修】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習として、授業に関係した教科書を精読し、内容を理解する。</li> <li>・復習として、授業のレポートを書く。</li> <li>・授業で紹介された参考文献を精読する。</li> </ul> 大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本授業では、時間外学習時間として、予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学習が必要となる。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	NIE社会福祉記事ワークブック		松井圭三 今井慶宗	大学教育出版	2000円	978 - 4 - 86429 - 365 - 5
自由記載						
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	改定新版よくわかる社会福祉概論		松井圭三編	大学教育出版	2200円	978-4-88730-935-7
自由記載		随時紹介します。				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
観音寺市シルバ - 人材センタ - 職員、観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
高齢者保健福祉分野において実務経験を踏まえた授業を実践している。						

授業科目名	介護・看護演習		サブタイトル		授業番号	NJ409
担当教員名	原田 眞澄					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	1単位			
開講年次	4年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
<b>【授業の概要】</b>						
障害者や高齢者に対する日常生活の援助について、演習形式で体験的に学習する。						
<b>【到達目標】</b>						
障害者の立場を疑似体験したりグルーワークで考えて、対象理解を深めることができる。 障害者や高齢者など生活面で支援を必要とする人へ安全で快適な介護ができる。 これは、ディプロマポリシーの態度の 態度 の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：ブラインドウォークを体験し、視覚障害者への介助について学ぶ 第2回：車椅子による移送について学ぶ 第3回：車椅子による移送を体験した気づきをグルーワークする 第4回：担架による移送について学ぶ 第5回：体位変換について学ぶ 第6回：バリアフリーについて考える 第7回：ストーマを造設した人の生活について学ぶ 第8回：食事の介護・口腔ケアについて学ぶ 第9回：部分清拭・足浴について学ぶ 第10回：手浴とハンドマッサージについて学ぶ 第11回：入浴・排泄に関する介護機器について学ぶ 第12回：おむつ交換について学ぶ 第13回：衣類の着脱について学ぶ 第14回：コミュニケーション技法について学ぶ 第15回：まとめ						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	60%	授業に集中して取り組むことができる。			
	レポート	40%	授業内の気づきの記述が具体的に述べられている。 レポートに対してはコメントを記入して返却する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
動きやすい服装身だしなみで出席すること 学生同士で介護者と利用者の役割を演習するなかで、特に介護される気持ちを大切にすること						
<b>【授業外学修】</b>						
毎回の授業終了時に出す課題について、3時間以上復習して各自の考えをまとめておくこと						
使用テキスト	自由記載	なし				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
小児科・急性内科看護師						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
患者・高齢者などの特徴を事例で説明し、介護や看護技術を体験を生かして指導する。						

授業科目名	解剖生理学I		サブタイトル	授業番号	NK201
担当教員名	井之川 仁				
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	必修	授業形態	講義		
【授業の概要】					
ヒトの身体の構造と機能を理解するために、人体を構成する臓器の構造と機能について器官系統別に解説する。具体的には、人体を構成する細胞、組織、器官系の構造と機能を学習理解する。					
【到達目標】					
解剖生理学を独立した科目と考えず、他の教科と関連づけて学習をすすめてもらいたい。内部環境の恒常性維持（ホメオスタシス）の仕組みを理解することを到達目標とする。 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：解剖生理学 序論解剖学・生理学についての概論を行う（担当井之川）					
第2回：人体の構成要素と機能 人体を構成する細胞や組織について講義する（担当井之川）					
第3回：消化器系1（担当井之川）					
消化器（口腔・咽頭・食道・胃・小腸・大腸）の構造と機能について講義する					
第4回：消化器系2 消化器（肝臓・膵臓・胆嚢）の構造と機能について講義する（担当井之川）					
第5回：消化器系3 栄養素の消化と吸収について講義する（担当井之川）					
第6回：体液と血液 体液の区分や血液の組成、働きについて講義する（担当井之川）					
第7回：循環器系1 循環器系の構造と機能について講義する（担当井之川）					
第8回：循環器系2 心臓の働き・自動性・血圧調節について講義する（担当井之川）					
第9回：腎臓と泌尿器系1 腎臓と泌尿器系の構造と機能について講義する（担当井之川）					
第10回：腎臓と泌尿器系2 尿生成の仕組みについて講義する（担当井之川）					
第11回：腎臓と泌尿器系3（担当井之川）					
レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系について講義する					
第12回：呼吸器系1 呼吸器系の構造と機能について講義する（担当井之川）					
第13回：呼吸器系2 呼吸の仕組み ガス交換について講義する（担当井之川）					
第14回：酸塩基平衡 酸塩基平衡および体内環境の恒常性について講義する（担当井之川）					
第15回：総合解説 14回分の講義内容を総合的に解説する（担当井之川）					
【授業計画 備考2】					
生物学，基礎栄養学で学んだ内容の復習を十分行っておくこと。					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	課題の得点と取り組みにより評価する		
	レポート				
	小テスト				
	定期試験	80%	最終的な理解度を評価する		
	その他				
自由記載	人体を構成する器官の構造と機能についての理解を評価する。				
【受講の心得】					
高校時代に学習した基礎生物学などの人体に関わる分野を十分復習しておくこと。 予習，復習を十分行うこと。重要な語句などはプリントとして配布するので復習の手がかりとすること。					
【授業外学修】					
講義内容の復習と記憶定着のための課題を課す。 毎週最低4時間の講義内容の予習，復習を行うこと。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学	志村二三夫他	羊土社	2,900円	978-4-7581-1362-5
自由記載					
参考書	自由記載	『標準生理学』，『現代の生理学』，『医科生理学展望』			
	【その他】	図書館には解剖生理学に関する蔵書が取りそろえてあるので、復習に活用すること。			

授業科目名	解剖生理学II		サブタイトル	授業番号	NK202
担当教員名	井之川 仁				
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>					
ヒトの身体の構造と機能を理解するために、人体を構成する臓器の構造と機能について器官系統別に解説する。具体的には、人体を構成する細胞、組織、器官系の構造と機能を学習理解する。					
<b>【到達目標】</b>					
解剖生理学を独立した科目と考えず、他の教科と関連づけて学習をすすめてもらいたい。内部環境の恒常性維持（ホメオスタシス）の仕組みを理解することを到達目標とする。 解剖生理学I・IIを通じて臨床検査データを評価判定する能力を養い、個人の身体状況や栄養状態に対応する栄養教育に応用できる能力を育成する。 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：内分泌系1 内分泌系概論と内分泌腺について講義する 第2回：内分泌系2 内分泌腺（視床下部・下垂体・甲状腺）の構造と機能について講義する 第3回：内分泌系3 内分泌腺（腎・副腎・消化管・性腺）の構造と機能について講義する 第4回：内分泌系4 内分泌腺調節機構について講義する 第5回：生殖系系 男女生殖器と生殖と発生について講義する 第6回：免疫系1 生体の防御機構について講義する 第7回：免疫系2 液性免疫と細胞性免疫について講義する 第8回：骨格系 骨格系の構造と機能について講義する 第9回：筋運動系 筋系と運動（反射）について講義する 第10回：神経系1 神経系の構造と機能について講義する 第11回：神経系2 自律神経系の構造と機能について講義する 第12回：神経系3 中枢神経系の構造と機能について講義する 第13回：感覚系1 感覚系の構造と機能について講義する 第14回：感覚系2 感覚器の構造と機能について講義する 第15回：体温調節 体温調節の仕組みについて講義する					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢／態度		20%	課題の得点と取り組みにより評価する	
	レポート				
	小テスト				
	定期試験		80%	最終的な理解度を評価する	
	その他				
自由記載		人体を構成する器官の構造と機能についての理解を評価する。			
<b>【受講の心得】</b>					
高校時代に学習した基礎生物学などの人体に関わる分野を十分復習しておくこと。 予習、復習を十分行うこと。重要な語句などはプリントとして配布するので復習の手がかりとすること。					
<b>【授業外学修】</b>					
毎週最低4時間は講義内容の復習を行うこと					
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価
	解剖生理学		志村二三夫 他	羊土社	2,900
自由記載		『解剖生理学』、河田光博・三木健寿、講談社サイエンティフィック			
参考書	自由記載		『標準生理学』、『現代の生理学』、『医科生理学展望』		
	<b>【備考】</b> 解剖生理学を独立した科目と考えず、他の教科と関連づけて学習をすすめてもらいたい。内部環境の恒常性維持（ホメオスタシス）の仕組みを理解することを到達目標とする。  解剖生理学などの学習内容について、復習をかねて質問するので準備をしておくこと。Active Learningの一環として実施する。				

授業科目名	解剖生理学実験		サブタイトル		授業番号	NK303
担当教員名	井之川 仁					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	1単位	
開講年次	3年			開講期	前期	
必修・選択	必修			授業形態	実験	
<b>【授業の概要】</b>						
ヒトの構造や機能について理解を深め、解剖生理学I, IIの講義で学修したことについて実際に体験する。この実験課題を通じてヒトの構造と機能について理解を深める。特に、骨格、循環、血液、呼吸、腎機能、エネルギー代謝、肉眼的組織について観察や実際の体験を通じて、人の正常機能についての洞察を深める。疾病理解の働きかけとなる。						
<b>【到達目標】</b>						
観察や測定を通じて、ヒトの正常機能について総合的に理解する。 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1・2回 骨の観察：上肢，下肢，体幹，頭部 第3・4回 循環機能に関する実験：心音の聴取と心電図，コロトコフ音の聴取，負荷をかけた場合の血圧 第5・6回 皮膚感覚：感覚点の分布 二点弁別閾 第7・8回 人体を構成する組織の観察 第9・10回 最大酸素摂取量の測定：踏み台昇降 第11・12回 血糖値制御機構：飲食による血糖変動の観察 第13・14回 肉眼的病理標本の観察：川崎医科大学現代医学博物館見学 第15回 全体のまとめ 総合討論						
<b>【授業計画 備考2】</b>						
全て出席し，積極的に取り組むことを求める。						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート	80%	テーマごとのレポートを評価する			
	小テスト	20%	実習中あるいは実習後の課題として小テストを行い得点を評価する			
	定期試験		最終的な理解度を評価する			
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
実験ノートを用意し，実験経過，結果をしっかりと記録すること。レポートは必ず提出すること。レポート提出がない場合は欠席と見なす。						
<b>【授業外学修】</b>						
解剖生理学I, IIの復習を十分行なっておくこと。週当たり1時間以上学習すること						
使用テキスト	自由記載	プリントを配布する。				
参考書	自由記載	「解剖生理学実験」川村一男 編，建帛社 「解剖生理学実習」森田規之，河田光博，松田賢一 編，講談社				
<b>【その他】</b>						
体調などにより，課題を遂行できない場合は申し出ること。合理的な配慮を施します						

授業科目名	細胞生理化学実験		サブタイトル		授業番号	NK104
担当教員名	真鍋 芳江					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	必修			授業形態	実験	
<b>【授業の概要】</b>						
<p>人体の組織観察，手羽先の解剖を通して，器官，組織の構成と，それぞれのつながりを理解することで，人体の構造を理解する。浸透圧，たんぱく質，糖質の実験をとおして細胞で行われる反応を理解する。これらの基礎的な実験を行うことで，「解剖生理学実験」，「生化学実験」を行う上での知識と実験技術を習得する。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>器官，組織，細胞レベルでの構造と構成，それぞれのつながりが視覚的に理解できるとともに，身体で起こる反応の一つ一つが細胞内での反応であることを理解する。本実験を通して実験を行う上での基礎知識と技術を習得し，次年度以降に開講される解剖生理学実験，生化学実験において習得した知識と技術が生かされるようになる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1・2回 顕微鏡の使用方法  第3・4回 動物細胞と植物細胞の観察  第5・6回 細胞の観察と顕微鏡での計測  第7・8回 動物の体制 - 手羽先の解剖  第9・10回 組織観察 - 支持組織，筋組織  第11・12回 たんぱく質の定性反応 - 凝固沈殿反応  第13・14回 糖質の定性反応 - 糖質共通の反応  第15回 まとめ</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢 / 態度	30%	積極的な実験に関わる態度によって評価する。			
	レポート	70%	理解度をレポートで評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
<p>実験は実際に行って初めて修得できる科目である。正当な理由なしで実験を欠席した者は単位を取得できない。やむを得ない欠席や遅刻の場合は，後日自ら実際に実験すること。</p>						
<b>【授業外学修】</b>						
<p>時間外学修をとおして，実験で修得した内容を体系的に理解しておくことが重要である。</p>						
使用テキスト	自由記載	人間栄養学科編「細胞生理化学実験テキスト」を配布する				
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	三訂版 視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録	鈴木孝仁 監修	数研出版	1,130円 + 税	978-4-410-28166-2	
	三訂版 視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録	数研出版編集部 編	数研出版	1,100円 + 税	978-4-410-27386-5	
	自由記載	「栄養生理・生化学実験」近藤義和ほか 編 朝倉書店 「生化学実験」林淳三 編 建帛社				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						



授業科目名	生化学I		サブタイトル		授業番号	NK105
担当教員名	田中 徹也					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	必修			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
<p>生化学とは生命現象を化学的に研究する、化学と生物学の融合した学問である。</p> <p>生化学Iでは、栄養学的にも非常に重要な成分である糖質、脂質、アミノ酸とタンパク質、核酸、ビタミン、ミネラルの種類や構造・機能について学修する。さらに、タンパク質の高次構造と機能の関係、生体内化学反応の触媒である酵素のはたらき等について学ぶ。</p> <p>講義のアウトラインはテキストに従うが、独自に作成した配布資料をもとに行う（基本的に板書はしないので、講義で話す必要部分を配布資料に書き加えていくこと）。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>生体を構成する糖質、脂質、たんぱく質、核酸、ビタミンなどの、高分子成分の種類や構造とその生化学的な性質について理解できる。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt;の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：生化学の理解に必要な化学</p> <p>第2回：糖質の種類と分類</p> <p>第3回：糖質の構造</p> <p>第4回：脂質の種類と分類</p> <p>第5回：各種脂質の構造と性質</p> <p>第6回：アミノ酸の特性</p> <p>第7回：アミノ酸の種類と分類</p> <p>第8回：ペプチドとタンパク質</p> <p>タンパク質の高次構造</p> <p>第9回：酵素の種類と分類</p> <p>第10回：酵素反応の制御</p> <p>第11回：核酸</p> <p>第12回：ビタミン概論</p> <p>第13回：脂溶性ビタミン</p> <p>第14回：水溶性ビタミン</p> <p>第15回：ミネラル</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	意欲的な授業態度、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート					
	小テスト		20%	各回の主要なば員との理解を評価する。		
	定期試験		60%	最終的な理解度を評価する。		
自由記載		<p>必須科目であるため、管理栄養士国家試験につながる厳密な評価試験を行う。</p> <p>管理栄養士国家試験に準じた選択問題方式で行う定期試験の成績を素点とし、それに各回の小テストの結果と授業への取り組み姿勢を加点して評価する。</p>				
<b>【受講の心得】</b>						
<p>生化学は、生命現象を化学的に研究する、化学と生物学の融合した学問である。</p> <p>生化学Iでは、基本的栄養成分や、生体機能を担うタンパク質の基本事項を学習するため、2年次後期以降に開講される管理栄養士・栄養士のための専門科目に向けて理解が必須な科目である。</p> <p>学習を先送りすることなく、毎回講義内容を身につけていくこと。</p> <p>まとまった単位で、相当枚数の資料を配布するので、生化学I専用ファイル(フォルダー)を準備しておくことが望ましい。</p>						
<b>【授業外学修】</b>						
<p>必須科目であり、理解には時間を要するかもしれない。</p> <p>毎回の講義開始時に前回の理解度確認の小テストをするので、取りこぼしのないように次回の講義までに週4時間以上の復習を行なっておくこと。</p> <p>小テストの成績で合格が分かれることがあるので、油断のない毎回の復習が重要となる。</p>						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	生化学		園田勝 編	羊土社	2800	978-4-7581-1354-0
参考書	自由記載					
	自由記載					
	【その他】		<p>専門科目の理解のためには、避けて通れない必須科目である。</p> <p>管理栄養士国家試験の頻出項目を多く含んでいる。</p>			
【備考】		令和3年度改定				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
国内外の先端研究施設および製薬企業での生命科学各分野の研究者						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
40年に渡る生化学を含む分野での研究経歴と、多分野の医学領域での長年の教育経験を加味して、管理栄養士国家試験問題分析の上、独自配布資料にて講義を行う。						

授業科目名	生化学II		サブタイトル		授業番号	NK206
担当教員名	田中 徹也					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	必修			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
<p>生化学とは生命現象を化学的に研究する化学と生物学の融合した学問である。</p> <p>生化学Iでは、栄養学的にも非常に重要な成分である糖質、脂質、アミノ酸とタンパク質、核酸、ビタミン、ミネラルの種類や構造・機能について学修した。</p> <p>生化学IIでは、それらの物質の体内での挙動を説明し、代謝反応によりエネルギーや生理活性物質が産生される過程を学修する。また、それにより生体が一定の環境に保たれ、逸脱することで病気を発症することを理解していく。</p> <p>講義のアウトラインは教科書に従うが、独自に作成した配布資料をもとに行う（基本的に板書はしないので、講義で話す必要部分を配布資料に書き加えていくこと）。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>生体を構成する糖質、脂質、たんぱく質、核酸、ビタミンなどの、高分子成分の体内での挙動が理解できる。</p> <p>個体の調節機構（恒常性の維持）を遺伝子発現・神経系・内分泌系・免疫系の各側面から説明できる。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：消化と代謝、物質代謝概論</p> <p>第2回：糖質の吸収と代謝</p> <p>第3回：糖新生と貯蔵</p> <p>第4回：血糖値異常と代謝疾患</p> <p>第5回：脂質酸化と生合成および輸送と蓄積</p> <p>第6回：コレステロールの輸送・蓄積と代謝産物</p> <p>脂質代謝異常</p> <p>第7回：タンパク質とアミノ酸プール</p> <p>アミノ酸骨格と窒素の代謝</p> <p>第8回：アミノ酸から合成される生体物質</p> <p>アミノ酸代謝異常</p> <p>第9回：生体エネルギー概論</p> <p>第10回：代謝の相互関係と中間代謝の概要</p> <p>第11回：核酸の代謝</p> <p>第12回：遺伝子発現とその制御</p> <p>第13回：個体の調節機構（神経系）</p> <p>第14回：個体の調節機構（内分泌系）</p> <p>第15回：生体防御機構（免疫系）</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	意欲的な授業態度、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート					
	小テスト		20%	各回の主要なポイントの理解を評価する。		
	定期試験		60%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
<p>生化学は、生命現象を化学的に研究する化学と生物学の融合した学問である。</p> <p>生化学IIでは、生化学Iで学んだ基本的栄養成分・生体機能を担うタンパク質が、代謝・輸送・蓄積・エネルギー産生などを通じてどのように生体の維持に参与しているのかを学ぶ。管理栄養士・栄養士に必須の知識であり、管理栄養士の国家試験にも多数出題される科目である。</p> <p>必須科目であるため、管理栄養士国家試験につながる厳密な評価試験を行う。</p> <p>学習を先送りすることなく、毎回講義項目を身につけていくこと。</p> <p>まとまった単位で、相当枚数の資料を配布するので、生化学II専用ファイル（フォルダー）を準備しておくことが望ましい。</p>						
<b>【授業外学修】</b>						
<p>必須科目であり、理解には時間を要するかもしれない。</p> <p>毎回の講義開始時に前回の理解度確認の小テストをするので、取りこぼしのないように次回の講義までに週あたり4時間以上の予・復習を行なっておくこと。</p> <p>小テストの成績で合否が分かれることがあるので、油断のない毎回の復修が重要となる。</p>						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	生化学		園田勝 編	羊土社	2800	978-4-7581-1354-0
自由記載						
参考書	自由記載					
	【その他】		専門科目の理解のためには、避けて通れない必須科目である。管理栄養士国家試験の頻出項目を多く含んでいる。			
	【備考】		令和3年度改定			
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
国内外の先端研究施設および製薬企業での生命科学各分野の研究員						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
40年にわたる生化学を含む分野での研究経歴と、多分野の医学領域での長年の教育経験を加味して、管理栄養士国家試験問題分析の上、独自配布資料にて講義を行う。						

授業科目名	生化学実験		サブタイトル	授業番号	NK207
担当教員名	田中 徹也				
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	1単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	必修	授業形態	実験		
<b>【授業の概要】</b> 生化学実験で汎用する器具・機器の使用法を説明し、反応実験で使用する試薬を調整する。生命科学実験時の生データとなる実験ノートの取り方、レポートのまとめ方（構成）を説明する。 酵素の性質を知るための酵素反応実験を行い、生化学の講義で説明した酵素の生化学特性を実験する。 タンパク質を扱う実験では必須となる、タンパク質の定量法を説明し、実際に濃度未知試料のタンパク質濃度を決定する。 混合試料からの物質の単離法を説明し、実際に物質の単離（分離）を行う。 実験操作を行いながら、実験ノートに記録していく技術を身につける。					
<b>【到達目標】</b> 主にタンパク質に関する生化学の基礎実験（反応・定量・分離）を行い、汎用器具・機器を正しく使用することができる。 実験開始前には、他のメンバーとともに実験の手順の手際を考えるとともに、随時変化する状況に臨機応変に対応できる。 実験中には、グループの他のメンバーとコミュニケーションをとりながら変化に対応し、かつ正確に実験ノートに方法や過程（変更点）、結果やまとめを記録することができる。 実験終了後には、実験ノートの記録をもとに、参考文献などからの情報も交えながら、結果に考察を加えてレポートにまとめることができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b> 第1・2回 酵素に関する基礎的な実験－器具・機器の使用法と試薬調整 第3・4回 酵素に関する基礎的な実験－最適温度 第5・6回 酵素に関する基礎的な実験－最適pH 第7・8回 酵素に関する基礎的な実験－活性剤と阻害剤 第9・10回 酵素に関する基礎的な実験－基質濃度と反応速度(Km 値) 第11・12回 タンパク質の定量 第13・14回 試料成分の分離 第15回 総評と解説					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢/態度		40%	意欲的な授業態度、実験への積極的な参加・取組みによって評価する。	
	レポート		50%	毎回の実験の目的、方法、結果、考察を正確に記述できるかにより評価する。	
	小テスト				
	定期試験				
	その他		10%	実験ノートの提出と、その内容によって評価する。	
	自由記載	評価の5割は各実験終了後に提出するレポート（計7回）の内容により行う。 残りの5割は、実験への取組姿勢と、実験中に記述していく実験ノートの内容により評価する。			
<b>【受講の心得】</b> 生化学実験では危険な試薬も使用するため、積極的かつ真摯に取り組まなければならない。 使用・提出する実験ノートはA4版以外は受け付けないので、各自A4版ノートを準備すること。					
<b>【授業外学修】</b> 第1回目に全ての回の実験マニュアルを配布するので、十分に予習しておくこと。 各実験終了後に提出するレポートを参考文献などにもあたりながらまとめるには毎週4時間以上の調査・考察などの時間を必要とする。					
使用テキスト	自由記載	プリント（各実験の目的と方法を記した実験マニュアル）を配布する。			
参考書	自由記載	「生化学」園田勝 著 羊土社 自己調査で得られた文献			
<b>【備考】</b> 令和3年度改定					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有					
<b>【担当教員の实務経験】</b> 国内外の先端研究施設および製薬企業での生命科学各分野の研究者					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 40年にわたる生化学を含む分野での研究経歴と、多分野の医学領域での長年の教育経験をいかして、研究現場の環境を学生が体験できるように配慮し、最新の知見と技術・思考能力が身につけられるようにする。					

授業科目名	医学概論		サブタイトル	各種疾患に対する基本的知識		授業番号	NK208	
担当教員名	阿部 ゆり子							
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位			
開講年次	2年			開講期	前期			
必修・選択	必修			授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b>								
<p>栄養士として食の管理を行うためには、対象者の健康状態に合わせた食事作り・食事相談等が必要であり、対象者が基礎疾患を有する場合も多いため、疾患に対する基礎知識が不可欠である。</p> <p>加えて、管理栄養士として健診後の相談・指導や、患者への食事提供・食事指導を実施するためには、病態や重症度を判断して対応することが求められる。本講座では、特に栄養管理を行うにあたって知識が必要とされる頻度の高い疾患について、基本的な病因・病態・症状・治療等に関する学習を行う。</p>								
<b>【到達目標】</b>								
<p>(1)栄養管理・指導のために必要な、各種疾患に対する知識を習得する。</p> <p>(2)医学的専門用語を習得することで、卒業後にチーム医療に加わる資質を醸成する。</p> <p>(3)医学的専門用語を習得することで、専門書を独力で読みこなす力を養う。</p> <p>(4)なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の習得に貢献する。</p>								
<b>【授業計画】</b>								
<b>【授業計画 備考】</b>								
原則として、各疾患分野については、1回90分の講義時間で行う。したがって1回の講義内容のボリュームは大変多くならざるを得ないことを自覚して、予習・復習を行い、授業だけでなく教科書を読み、毎回確実に自分の知識とするよう心がけること。								
<p>第1回：疾病の診断（問診，身体観察，検査等）</p> <p>第2回：消化器疾患</p> <p>第3回：循環器疾患</p> <p>第4回：呼吸器疾患</p> <p>第5回：血液疾患</p> <p>第6回：免疫・アレルギー系疾患</p> <p>第7回：運動器系疾患</p> <p>第8回：腎・尿路系疾患(1)</p> <p>第9回：腎・尿路系疾患(2)</p> <p>第10回：肝・胆・膵疾患</p> <p>第11回：栄養・代謝疾患（糖尿病）</p> <p>第12回：栄養・代謝疾患（脂質異常，尿酸代謝異常等）</p> <p>第13回：内分泌疾患</p> <p>第14回：神経・精神系疾患</p> <p>第15回：皮膚系疾患，生殖系疾患</p>								
<b>【授業計画 備考2】</b>								
理解を深めるために、数回程度のレポート提出を課す。								
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度		10%	授業への出席状況と参加態度				
	レポート		20%	資料や教科書を読みこなして記載しているかどうか等				
	小テスト							
	定期試験		70%	授業内容の理解ができているかどうか				
	その他							
	自由記載	数回程度のレポートを宿題とします。予習・復習に役立ててください。提出の有無は評価の対象とします。						
<b>【受講の心得】</b>								
<p>(1)将来栄養士として健康管理や医療現場等で対人業務に携わる者であることの自覚を持って取り組むこと。</p> <p>(2)医学専門用語が多く使われるので、授業内容が難解な印象を与えるのはやむをえないが、折に触れ、専門用語になじむよう心がけ、自分の語彙を豊富にしていくこと。</p> <p>(3)解剖学，生理学，生化学，病理学などの学習と併せて，健康や疾病に関心を持ち，他の講義と関連付けて疾病を理解しようとする心構えが必要。</p> <p>(4)平素から健康・医療関連の報道番組や書物・新聞記事など積極的に接して，情報を吸収すること。</p>								
<b>【授業外学修】</b>								
<p>(1)授業の予習：毎回の講義で，次回講義内容は通知するので，教科書を通読して予習してから授業に望むこと。</p> <p>(2)授業の復習：簡単なレポート提出を数回以上課す。</p> <p>講義で配布した資料はレポート作成に必要なので，ファイルして必ず整理・保存すること。</p>								
以上（１）（２）の内容について，週4時間以上の授業外学習を行うこと								
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	臨床医学 人体の構造と機能及び疾患の成り立ち			羽生大記，河手久弥	南江堂	3,100円＋税	978-4-524-24619-9	
	自由記載							
参考書	自由記載	解剖・生理学の授業で使用している教科書。人体の解剖・生理学で学んだ知識を，各自確認しながら医学概論の講義を受講すること。						
	【その他】	・毎回，作成資料を配布し，講義に使用するので，保管管理を行い，次回以降の授業に持参すること。						
	【担当教員の実務経験の有無】	有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>								
麻酔蘇生科の医師として2年間，小児科医として8年間の臨床の实務経験。その後25年間は公衆衛生医として県行政で保健福祉医療行政を担当。								
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>								
無								
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>								
臨床医としての実戦経験は，当講義内容に役立っていると思う。								

授業科目名	病理学		サブタイトル		授業番号	NK309	
担当教員名	赤木 収二						
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位		
開講年次	3年			開講期	前期		
必修・選択	必修			授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>							
傷病者の療養における栄養指導を行うために大切な「疾患のなりたち」を理解する上で必要となる病理学の基礎的事項をまず説明する。、さらに、チーム医療の一員としての職務を行う上で重要な診断・治療の概要についても説明する。また、各種栄養素の代謝障害によってもたらされる疾患・病態についても、病理学的事項を踏まえつつ解説する。							
<b>【到達目標】</b>							
1. 疾患のもたらす病理学的変化の概要について説明できる。 2. 疾患に対する診断法および治療法の概要について説明できる。 3. 各種栄養素の代謝障害による疾病の病態生理について、その概要を説明できる。 4. 専門的な医学用語の意味を理解し、適切に使用できる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>の修得に貢献する。							
<b>【授業計画】</b>							
第1回：疾患による細胞・組織の変化1(細胞障害、細胞の死)教科書該当箇所 p.49-p55 第2回：疾患による細胞・組織の変化2(炎症・創傷治癒、循環障害)教科書該当箇所 p.43-p48, p.133-p136 第3回：疾患による細胞・組織の変化3(再生・腫瘍、遺伝子異常)教科書該当箇所 p.43-p48, p.303-p309 第4回：老化による細胞・組織の変化(老化と個体の死)教科書該当箇所 p.59-p62 第5回：疾患診断の概要1(一般的診察・医療面接、全身状態の評価)教科書該当箇所 p.1-p5 第6回：疾患診断の概要2(主な症候)教科書該当箇所 p.1-p5 第7回：臨床検査の基本(種類と特性・基準値・一般臨床検査)教科書該当箇所 p.6-p10 第8回：臨床検査の概要1(血液学検査・生化学検査・腫瘍マーカー)教科書該当箇所 p.6-p10 第9回：臨床検査の概要2(免疫検査・微生物検査・生体機能検査、画像診断)教科書該当箇所 p.6-p10 第10回：疾患治療の概要1(治療計画と治療評価の方法・各種治療法の概略)教科書該当箇所 p.11-p42 第11回：疾患治療の概要2(移植医療・終末期患者の治療・EBM)教科書該当箇所 p.11-p42 第12回：栄養障害と代謝疾患1(飢餓・PEM・悪液質等)教科書該当箇所 p.63-p73 第13回：栄養障害と代謝疾患2(糖質・脂質代謝異常、それらに関わる生理活性物質)教科書該当箇所 p.73-p93, p.137-p.142 第14回：栄養障害と代謝疾患3(アミノ酸・尿酸代謝異常)教科書該当箇所 p.93-p98 第15回：まとめ							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度						
	レポート						
	小テスト						
	定期試験		100%	最終的な理解度を評価する。			
	その他						
	自由記載						
<b>【受講の心得】</b>							
本教科は、人体の解剖学、生理学、生化学、基礎栄養学などの基本的な知識を土台にし、疾病を細胞・組織・個体レベルで理解しようとするものである。したがって、2年生までに学んだ関連教科の知識を復習し、身につけておくことが重要である。							
<b>【授業外学修】</b>							
授業毎に授業計画で示した教科書の該当箇所を通読しておくこと。 本教科の内容を確実に理解するため、上述の予習も含め週当たり4時間以上の学修を要する。							
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	人体の構造と機能および疾病の成り立ち 疾病の成因・病態・診断・治療 第2版			竹中優(編)	医歯薬出版	3,850円(税込)	978-4-263-70586-5
	自由記載						
参考書	自由記載						
	<b>【備考】</b> 令和3年度改訂						
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>							
総合内科・消化器病・肝臓専門医、臨床栄養指導医等として診療に従事。また、産業医として事業所の産業保健衛生業務に参画。							
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>							
無							
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>							
管理栄養士としての職務遂行上必要となる事項を、より実臨床に即した形で、理解、学修できることに重点を置く。							

授業科目名	微生物学		サブタイトル		授業番号	NK210
担当教員名	川野 光興					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b>						
我々の生活環境には、様々な微生物が存在し、人の生命や生活活動に密接に関わっている。本講義では、人の健康と微生物の相互関係について理解し、管理栄養士・栄養士として必要とされる微生物の知識、感染から発症、防御に至るしくみおよび微生物の利用について学ぶ。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・微生物を分類し、基礎的な特徴を説明できる。</li> <li>・微生物による主な感染症の特徴と予防法を説明できる。</li> <li>・人の健康と微生物の関わりについて説明できる。</li> </ul> なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、<知識・理解>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：微生物学概論（微生物の種類、常在細菌叢） 第2回：細菌の性質（細菌の形態と特徴、細菌の染色法） 第3回：細菌の増殖（代謝、環境応答） 第4回：細菌の生存戦略（バイオフィルム、細菌毒素） 第5回：細菌感染症（薬剤耐性、日和見感染） 第6回：細菌性食中毒（性感染症、再興感染症） 第7回：結核菌、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア 第8回：真菌（形と構造、真菌感染症） 第9回：原虫（構造と種類、原虫の増殖と生活環） 第10回：プリオン（構造と性質、狂牛病）消毒薬 第11回：中間試験（第1回～第8回の授業内容に関する記述試験を行う） 第12回：ウイルスの性質（構造と大きさ、感染経路） 第13回：潜伏感染、ノロウイルス、ヘルペスウイルス 第14回：インフルエンザウイルス、HIV、母子感染 第15回：がんウイルス、コロナウイルス、微生物の活用						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度および提出したノートによって評価する。			
	レポート					
	小テスト	30%	中間試験、中間的な理解度を評価する。			
	定期試験	40%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
世の中の微生物に関する出来事に日頃から関心を持ち、講義に臨むこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。						
2 復習として、授業内容をノートにまとめる。						
3 発展学修として、微生物に関する新聞記事を読む。						
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	栄養科学イラストレイテッド「微生物」	大橋 典男	羊土社	2800円	978-4-7581-1358-8	
	自由記載					
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	イラストでわかる微生物学超入門	齋藤 光正	南山堂	2500円	978-4-525-16341-9	
	自由記載					
<b>【備考】</b>						
令和3年度改訂						
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	運動生理学		サブタイトル		授業番号	NK411
担当教員名	井之川 仁					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位	
開講年次	4年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
運動は本来、筋肉の収縮とそれに伴うエネルギーの消費である。エネルギー摂取過剰、消費不足の現代においては、運動は生活習慣病を予防する手段の一つとなっている。さらに、競技成績を上げるためのトレーニング法、疾患時の運動、運動療法についても触れたい。						
<b>【到達目標】</b>						
運動が引き起こす様々な生理的变化が説明でき、恒常的な健康を維持するための運動の価値や意義を十分理解することを到達目標とする。本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：運動生理学 概論 運動生理学並びに運動と栄養についての概論を行う (担当井之川)						
第2回：運動と神経・筋 神経・筋機能が運動にどのように関連しているか講義する (担当井之川)						
第3回：運動と呼吸循環 運動による呼吸循環系の適応的变化について講義する (担当井之川)						
第4回：運動とエネルギー源 (担当井之川)						
運動時に動員されるエネルギー源と代謝について講義する						
第5回：運動とエネルギー消費 運動によるエネルギー消費について講義する (担当井之川)						
第6回：身体組成・体格 身体組成や体格と運動との関係について講義する (担当井之川)						
第7回：筋肉づくりとタンパク質 (担当井之川)						
運動による筋の適応的变化とタンパク質の関係について講義する						
第8回：骨づくりと栄養素 身体活動 (担当井之川)						
骨組成や骨の成長発達に関する運動の影響について講義する						
第9回：体温調節と水分補給 運動時の対応調節や水分補給について講義する (担当井之川)						
第10回：加齢に伴う身体機能の変化 (担当井之川)						
加齢に伴う身体機能の変化と運動による抗加齢について講義する						
第11回：運動と健康 身体活動と健康 (担当井之川)						
運動や身体活動が心身の状態に与える影響について講義する						
第12回：運動と免疫 運動が免疫機能に与える影響について講義する (担当井之川)						
第13回：スポーツ選手の食事管理 スポーツ選手の食事管理について講義する (担当井之川)						
第14回：トレーニングとストレッチ (担当井之川)						
各種トレーニングやストレッチについて講義する						
第15回：運動処方 生活習慣病に関する運動処方について講義する (担当井之川)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	課題の得点と取り組みにより評価する		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		80%	最終的な理解度により評価する		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
復習を十分行うこと。解剖生理学、臨床栄養学などと関連づけて学習するとよい。スポーツ栄養に興味を持つ学生には特に受講を薦める。選択科目ではあるが、国家試験を受験するには受講した方が有利である。受講を強く勧める。						
<b>【授業外学修】</b>						
講義内容の復習と記憶定着のための課題を課す。解剖生理学、臨床栄養学、基礎栄養学、応用栄養学等と関連付け、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	特に使用しない。プリントを配布する。				
参考書	自由記載	『運動生理学』, 岸恭一・上田伸男				

授業科目名	人間発達学		サブタイトル	授業番号	NK212	
担当教員名	奥村 弥生					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】 人間は、時間とともに様々な側面（感覚、感情、認知、社会性など）において変化していく存在である。この講義では、人間が生まれてからどのようなプロセスをたどりながら発達していくのかについて基礎的な知識を身につける。主要な発達理論を参照しながら、胎児期から高齢期まで段階ごとに発達の様相について解説する。						
【到達目標】 ・主要な発達理論について説明できる。 ・各発達段階の特徴について説明できる。 ・なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。						
【授業計画】 第1回：発達とは何か 遺伝と環境 第2回：発達理論 発達段階と発達課題 第3回：胎児期 胎児の発達と胎内環境 第4回：乳児期 身体、知覚、情緒、言語、アタッチメントの発達 第5回：幼児期前期 自律性、他者との関係の発達 第6回：幼児期後期 認知発達と遊びの重要性 第7回：児童期 学習と知的発達、社会性と道徳性の発達 第8回：青年期 アイデンティティの確立、人間関係の発達 第9回：成人期前期 親密性の獲得、社会的成熟 第10回：成人期後期 次世代育成と中年期危機 第11回：高齢期 人生の振り返り 第12回：発達の個人差、障害 第13回：人間発達に関わる現代的課題（1） 第14回：人間発達に関わる現代的課題（2） 第15回：総括						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	意欲的な受講態度によって評価する。		
	レポート					
	小テスト		70%	授業内容の理解度を評価する。		
	定期試験					
	その他					
自由記載						
【受講の心得】 受け身の姿勢ではなく、問題意識をもって能動的態度で受講すること。						
【授業外学修】 ・資料を基に予習・復習をすること。 ・授業で紹介した本や資料を読むこと。 以上の内容を、週あたり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	講義内容の理解を深めるために、必要に応じて紹介する。				
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	いちばんはじめに読む心理学の本3 発達心理学		藤村宜之 編著	ミネルヴァ書房	2500円 + 税	978-4-623-08463-0
	手にとるように発達心理学がわかる本		小野寺敦子	かんき出版	1650円	978-4761266196
	自由記載		講義内容の理解を深めるために、適宜文献を紹介する。			
【担当教員の実務経験の有無】 有						
【担当教員の实務経験】 臨床心理士、公認心理師。病院、小中学校、大学等でカウンセラーとして勤務。						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無						



授業科目名	食品学I		サブタイトル		授業番号	NL101
担当教員名	河野 勇人					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	必修			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
食生活について食物の歴史、健康、環境などの観点から解説するとともに、食品の5大栄養素についての化学的特性について説明する。また、食品の化学的・物理的な変化と食品成分の特性、さらに食品の機能性についても説明する。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>食品の主要成分（栄養成分・嗜好成分・機能性成分）の化学的性質を説明できる。</li> <li>食品成分の変化と栄養の関係について説明できる。</li> <li>食品成分による食品の分類について説明できる。</li> </ul> なお本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、＜知識・理解＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回 人間と食物、食品の分類 第2回 食品成分の化学（水分） 第3回 食品成分の化学（炭水化物） 第4～5回 食品成分の化学（アミノ酸、ペプチド、たんぱく質、たんぱく質の構造） 第6～7回 食品成分の化学（脂質、脂質の性質） 第8回 食品成分の化学（ミネラル、ビタミン） 第9回 食品成分の化学（呈味成分） 第10～12回 食品成分の変化と栄養（でん粉、たんぱく質、脂質の変化） 第13～14回 食品成分の変化と栄養（酵素による変化、褐変反応） 第15回 食品の物性、機能性						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		10%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加により評価する。		
	レポート					
	小テスト		40%	単元ごとの授業の中間的な理解度を評価する。		
	定期試験		50%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
予習により疑問点・不明点を明らかにし、授業に臨むこと。また教科書・配布資料・参考資料を単元ごとに纏めて復習をし、知識の定着を図ること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として、授業内容に関わる教科書の箇所を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、授業内容・配布資料をノートに纏める。 3 発展学修として、授業に関連した参考資料・文献を読み、ノートに纏める。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	改訂マスター食品学I		小関正道	建帛社	2,600	978-4-7679-0584-6
自由記載						
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	わかりやすい食物と健康(1)		吉田勉	三共出版	2,500	978-4-7827-0647-3
自由記載						
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	食品学II		サブタイトル		授業番号	NL202
担当教員名	河野 勇人					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	必修			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
食品の分類, 食品原料(植物性食品, 動物性食品)の特性と含有する栄養成分, ならびに各種加工食品(食用油脂, 調味料, 香辛料, 微生物利用食品等)について説明する。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>食品素材における主要成分(栄養成分・嗜好成分・機能性成分)の化学的性質を説明できる。</li> <li>食品加工における成分の変化と栄養の関係について説明できる。</li> <li>食品成分表に基づく食品の分類について説明できる。</li> </ul> なお本科目は, ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち, <知識・理解>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回 食品の分類						
第2~6回 植物性食品(穀類, いも類, 甘味料, 豆類, 野菜・果実類など)						
第7~11回 動物性食品(魚介類, 肉類, 卵類, 乳類など)						
第12~15回 各種食品(食用油脂, 甘味料, 調味料, 香辛料, 嗜好飲料, 微生物利用食品)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		10%	意欲的な受講態度, 発表・討議への参加により評価する。		
	レポート					
	小テスト		40%	単元ごとの授業の中間的理解度を評価する。		
	定期試験		50%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
予習により疑問点・不明点を明らかにし, 授業に臨むこと。また教科書・配布資料・参考資料を単元ごとに纏めて復習をし, 知識の定着を図ること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として, 授業内容に関わる教科書の箇所を読み, 疑問点を明らかにする。						
2 復習として, 授業内容・配布資料をノートに纏める。						
3 発展学修として, 授業に関連した参考資料・文献を読み, ノートに纏める。						
以上の内容を, 週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	改訂マスター食品学II		小関正道	建帛社	2,500	978-4-7679-0585-3
自由記載						
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	わかりやすい食物と健康(2)		吉田勉	三共出版	2,500	978-4-7827-0751-7
自由記載						
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	食品学Ⅲ		サブタイトル		授業番号	NL403
担当教員名	河野 勇人					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位	
開講年次	4年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
我々が食べる食品の大半は加工食品である。従って、食品素材としての農林水畜産物の大部分は、収穫、保蔵、加工、流通を経て我々の口に入る。本講義では、これらのうち最も重要な加工工程に的を絞り、各種の加工方法（物理的方法、化学的方法、微生物利用）と共に、農林産物、畜産物及び水産物について、その加工適性を説明する。さらに、食材・食品が有する機能性（生理的役割）についても解説する。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品加工に伴う食品成分の化学的・栄養学的・物理的变化を説明できる。</li> <li>・主な加工食品について、加工原理を説明できる。</li> <li>・食品の機能性について説明できる。</li> </ul> なお本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
<b>【第1回】</b> 食品加工の概説ならびに食品学Ⅰ・Ⅱとの関連性 <b>【第2～4回】</b> 食品の機能性（制度、成分、機構、表示） <b>【第5回】</b> 食品加工実験（発酵食品） <b>【第6～7回】</b> 食品表示制度（品質表示、栄養成分表示、食品添加物） <b>【第8回】</b> 食品の加工法（物理的、化学的、生物的方法） <b>【第9回】</b> 食品加工実験（粘性） <b>【第10～11回】</b> 食品の保存と包装（保蔵方法、包装材料、包装の種類） <b>【第12回】</b> 一次加工食品 <b>【第13回】</b> 食品加工実験（乳化） <b>【第14回】</b> 二次加工食品 <b>【第15回】</b> 三次加工食品						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		20%	意欲的な受講態度により評価する。		
	レポート		50%	食品加工の技術的内容と利用方法について理解できていること。課題レポートについてはコメントを記入して返却する。		
	小テスト		30%	小单元ごとの確認試験により評価する。		
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
予習により疑問点・不明点を明らかにし、授業に臨むこと。また教科書・配布資料・参考資料を单元ごとに纏めて復習をし、知識の定着を図ること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として、授業内容に関わる教科書の箇所を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、授業内容・配布資料をノートに纏める。 3 発展学修として、授業に関連した参考資料・文献を読み、ノートに纏める。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	食品加工学		菅原龍幸, 宮尾茂雄	建帛社	2,600	978-4-7679-0550-1
	新しい食品加工学		小川正, 的場輝佳	南江堂	2,400	978-4-524-25561-0
自由記載						
<b>【備考】</b>						
令和2年度改訂						
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
試験研究						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
食品加工の実用的技術について、実験を織り交ぜながら説明する。						

授業科目名	食品学基礎実験		サブタイトル		授業番号	NL105
担当教員名	河野 勇人					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	必修			授業形態	実験	
【授業の概要】 試薬，器具等の取り扱い方，測定値の取り扱いなど，食品分析に必要な基礎的概念を習得する。次に，日本食品標準成分表の作成にあたって使用されている分析法を用いて，食品の一般成分の定量分析を行う。						
【到達目標】 食品の定量分析で使用する試薬および実験器具の取り扱い，試薬の調整（質量パーセント，モル濃度，規定濃度）および滴定操作が確実にできる。 食品中の水分，灰分の定量実験ならびに滴定分析を，内容を理解して行うことができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1・2回 食品学基礎実験の概要説明，食品分析に必要な実験器具の取り扱い 第3・4回 食品分析に必要な理化学機器の基本操作，実験データの処理法 第5・6回 食品分析用試薬の調整（緩衝液，モル濃度） 第7・8回 食品分析用試薬の調整（緩衝液，規定濃度） 第9・10回 食品の定量分析（水分） 第11・12回 食品の定量分析（灰分） 第13・14回 食品の定量分析（試薬の調整，滴定分析） 第15回 まとめと総合討論						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	実験への意欲的な取り組み態度により評価する。			
	レポート	50%	毎回の実験レポートについて，具体的論理的に書かれているかにより評価する。			
	小テスト	20%	計算問題の小テストにより評価する。			
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】 安全な服装（白衣，すべりにくい履物）を着用し，配布されたプリントは必ず持参する。						
【授業外学修】 実験の前には，必ず前回の実験内容を確認しておく。実験後には，実験で学んだ手法，得られた結果について，自ら考察を加え，実験ノートを整理する。1時間以上の学修を要する。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	新しい食品学実験 第2版	吉田勉	三共出版	2,300	978-4-7827-0563-6	
	自由記載					
参考書	自由記載					
	【担当教員の実務経験の有無】 無					
	【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					

# 中国学園大学 令和3年度(2021年度) シラバス

授業科目名	食品学実験		サブタイトル		授業番号	NL106	
担当教員名	河野 勇人						
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	1単位		
開講年次	1年			開講期	後期		
必修・選択	必修			授業形態	実験		
<b>【授業の概要】</b>							
食品成分表において使用されている分析法を用いて、食品の一般成分の定量分析を行う。また、食品成分の定性・定量分析および食品の酵素的・非酵素的褐変などの変質要因の分析を行い、食品学の講義の内容と関連付けて実験を行うことで、食品の成分と分析についての相互理解を深める。							
<b>【到達目標】</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全かつ正確に実験を遂行するための基本的な操作ができ、実験操作の意味を説明できる。</li> <li>・食品成分を分析方法に基づいて定量し、食品成分表の数値を説明できる。</li> <li>・官能評価の手法を用いて、食品のおいしさを評価できる。</li> </ul> なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、< 思考・問題解決能力 > < 技能 > の修得に貢献する。							
<b>【授業計画】</b>							
第1・2回 食品分析の概要説明，食品成分表の解説，食品成分の変化 第3・4回 食品の定量分析（脂質） 第5・6回 食品成分（でんぷん）の分離と化学的变化（糊化）の分析 第7・8回 食品の定量分析（たんぱく質の分解） 第9・10回 食品の定量分析（窒素分の定量，炭水化物の定量，熱量計算） 第11・12回 基本5味の官能評価，機器分析（糖度計），還元糖の定性分析 第13・14回 食品の酵素的褐変反応，非酵素的褐変反応，吸光度分析 第15回 まとめと総合討論							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	実験への意欲的な取り組み態度により評価する。			
	レポート		60%	毎回の実験レポートならびに纏めレポートについて、具体的・論理的に書かれているかにより評価する。課題レポートはコメントを記入して返却する。			
	小テスト						
	定期試験						
	その他		20%	実験ノートが纏められているかにより評価する。			
自由記載							
<b>【受講の心得】</b>							
実験手順を理解して授業に臨むこと。実験ノートに情報を集約してまとめ、それを基にレポートを作成すること。							
<b>【授業外学修】</b>							
1 予習として、配布プリントに基づいて実験内容を理解し、実験ノートに纏めること。 2 復習として、実験結果・考察を中心に、実験ノートに整理すること。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。							
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	新しい食品学実験 第2版			吉田勉	三共出版	2,300	978-4-7827-0563-6
自由記載							
参考書	自由記載						
	【備考】		令和2年度改訂				
	【担当教員の実務経験の有無】		無				
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>							
無							

授業科目名	調理学		サブタイトル		授業番号	NL107
担当教員名	木野山 真紀					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	必修			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
調理とは、食品材料を安全でおいしい食べ物に変えることである。調理学では、食べ物の特性を踏まえた食事設計ができるように、食材の選択、調理・供食までの工程の中での調理の役割について学修する。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>調理操作（非加熱操作・加熱操作）の原理と、加熱操作における熱の伝わり方を理解する。</li> <li>さまざまな食材の調理特性や、調理過程での食材の組織・物性・成分の変化を理解する。</li> </ul> なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：調理の意義・目的、食事設計の基本 第2回：調理と嗜好性 第3回：加熱調理操作（伝熱の仕組み） 第4回：加熱調理操作（加熱調理器具の仕組み） 第5回：非加熱調理操作 第6回：米の調理 第7回：小麦粉の調理 第8回：いも、豆、種実類の調理 第9回：野菜の調理 第10回：果実、きのこ、藻類の調理 第11回：獣鳥肉類の調理 第12回：魚介類の調理 第13回：鶏卵、牛乳・乳製品の調理 第14回：砂糖、油脂の調理 第15回：ゲル化剤の調理						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度					
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		100%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
他の科目や実習との関連性を把握できるように、復習を必ずしておくこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2. 復習として、授業時間に学んだ範囲の配布プリントをまとめる。 3. 発展学修として、関連科目（調理学実習等）の教科書を読み、知識を結びつける。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	新調理学プラス 健康を支える食事を実践するために		松本美鈴・平尾和子 編著	光生館	2,500	978-4-332-05043-8
自由記載						
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	新版 日本食品大辞典		松本美鈴・平尾和子 編著	医歯薬出版株式会社	3,700	978-4-263-70716-6
自由記載						
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	調理学実習I		サブタイトル	授業番号	NL108
担当教員名	木野山 真紀				
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	1単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	必修	授業形態	実習		
【授業の概要】 調理に関する知識・技術は、給食経営管理、臨床栄養管理、応用栄養管理など管理栄養士の主要業務の基礎として重要である。調理学実習Iでは、正しい計量、材料や調理に応じた食品の切り方・扱い方、食品の性質と調理・加工法、季節による食材の特性、廃棄率・調味パーセントの意味と計算方法など、調理の基礎として必要不可欠な事項を学修する。					
【到達目標】 ・衛生的に調理を行うための身支度や調理上の衛生管理についてを理解し、基礎的技術を修得する。 ・切る、潰す、混ぜる、計量するなどの非加熱操作の基礎的技術を修得する。 ・炊く、煮る、蒸す、焼く、揚げるなどの加熱操作の基礎的技術を修得する。 ・廃棄率・調味パーセントなど、食事設計に必要な計算方法の知識を修得する。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1・2回 調理室の使用に関するガイダンス（使用上の規則、身支度、衛生管理など）、調理器具の説明、計量の実際（計量器の種類と用途、調味料の計量）、小麦粉の調理 第3・4回 包丁の正しい持ち方、乾物などの重量変化、食品の正味重量と廃棄率、パスタの調理 第5・6回 献立の基本構成と献立の評価、食器のセッティング、各種調理の調味割合、炊飯の基本、魚のさばき方、焼き魚の調理、混合だしの基本 第7・8回 各種調理の調味割合・調味計算、野菜の調理（煮物、和え物）、寒天の調理特性、豆類の調理（あん） 第9・10回 各種調理の調味割合・調味計算、煮魚の基本、希釈卵液を使った調理、蒸し物調理の基本、根菜の調理法 第11・12回 各種調理の調味割合・調味計算、煮干だしの基本、揚げ物調理の基本 第13・14回 西洋料理の食器とセッティング、肉の焼き物料理、いも類の調理、果実中のペクチンのゼリー化について、ゼラチンの調理特性 第15回 まとめ					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度				
	レポート	20%	毎回実習テーマに沿った課題と、実習した料理を自宅で作りまとめる課題を課す。初回にレポートの書き方と、毎回調べ学習するポイントを示すが、ポイントを抑えてまとめられているか評価する。		
	小テスト				
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。		
	その他	30%	実技試験として、身支度、包丁の基礎的技術、片付けまでを評価する。		
	自由記載				
【受講の心得】 毎回調理内容に関する課題を出すので、常日頃から調理、食品に興味関心を持って情報収集に努めること。					
【授業外学修】 復習として、 1. 実習した料理は必ず自宅で作り、食べてもらって評価してもらうこと。 2. 課題のレポートを書く。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	新 調理学実習 第二版	宮下 朋子・村元美代 編著	同文書院	2,700	978-4-8103-1457-1
	新調理学プラス 健康を支える食事を実践するために	松本美鈴・平尾和子 編著	光生館	2,500	978-4-332-05043-8
	日本食品成分表2021八訂	香川明夫 監修	女子栄養大学出版部	1,500	978-4-7895-1021-9
	調理のためのベーシックデータ 第5版	松本 伸子	女子栄養大学出版部	1,800	978-4-7895-0323-5
	栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎	坂本裕子, 森美奈子	化学同人	1,500	978-4-7598-1826-0
	自由記載	書名：新ベターホームのお料理1年生 ワイド版 著者名：ベターホーム協会 編 出版社：ベターホーム協会 定価：1,500 ISBN978-4-263-70716-6 献本：不要			
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	日本食品大事典	杉田浩一・平宏和・田島真・安井明美	医歯薬出版株式会社	9,000	978-4-263-70716-6
	自由記載				
【担当教員の実務経験の有無】 無					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					

授業科目名	調理学実習II		サブタイトル	授業番号	NL109	
担当教員名	木野山 真紀					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	1単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	必修	授業形態	実習			
【授業の概要】 調理学実習IIでは、調理学実習Iで学んだ知識と技術をさらに向上させるとともに、献立作成に関する知識・技術や、調理に関する応用力を身に付けることを目的とする。通常の調理に加え、栄養成分の量の増減、あるいは調理上の工夫によって各栄養成分をコントロールする方法も学ぶ。						
【到達目標】 ・栄養価計算の手法を身につける。 ・献立の基本構成と、献立立案から評価・見直しまでの一連の流れを理解し、献立全体を評価・見直しする能力を身につける。 ・さまざまな食材を知り、献立作成における栄養成分の量の増減、調理上の工夫によって各栄養成分をコントロールする方法を身につける。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<技能>の修得に貢献する。						
【授業計画】 第1・2回 栄養価計算について、献立の基本構成（カルシウム、鉄）、糖を使った料理（学校給食から） 第3・4回 献立の基本構成（主食・副食とその組み合わせ）、郷土料理 第5・6回 献立の基本構成（野菜の量）、西洋料理の献立 第7・8回 献立の基本構成（エネルギー）、お弁当献立 第9・10回 献立の基本構成（食塩相当量）、行事食（クリスマス料理） 第11・12回 献立の基本構成（食塩相当量）、行事食（正月料理） 第13・14回 献立の基本構成（全体を評価する）、中国料理の献立 第15回 まとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート		70%	毎回、実習テーマに沿った課題と実習の料理を自宅で作る課題を課す。指定された課題がポイントを押さえてまとめられているかを評価する。		
	小テスト					
	定期試験		30%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
【受講の心得】 毎回調理内容に関する課題を出すので、平日頃から調理、食品に興味関心を持って情報収集に努めること。						
【授業外学修】 復習として、 1. 実習した料理は必ず自宅で作り、食べてもらって評価してもらおうこと。 2. 課題のレポートを書く。 3. 日頃から、食材の重量感覚を養い、1食もしくは1品の料理の分量を意識する。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	新 調理学実習 第二版		宮下朋子・村元美代 編著	同文書院	2,700	978-4-8103-1457-1
	新調理学プラス 健康を支える食事を実践するために		松本美鈴・平尾和子 編著	光生館	2,500	978-4-332-05043-8
	八訂 食品成分表2021		香川明夫 監修	女子栄養大学出版部	1,500	978-4-7895-1021-9
	調理のためのベーシックデータ		松本伸子	女子栄養大学出版部	1,800	978-4-7895-0317-4
	栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎		坂本裕子・森美奈子	化学同人	1,500	978-4-7598-1826-0
	自由記載	書名：新ベターホームのお料理1年生 ワイド版 著者名：ベターホーム協会 出版社：ベターホーム協会 定価：1,500 ISBN978-4-86586-016-0 献本：不要				
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	日本食品大事典		杉田浩一・平宏和・田島真・安井明美	医歯薬出版株式会社	9,000	978-4-263-70716-6
	自由記載					
【担当教員の実務経験の有無】 無						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無						



授業科目名	調理学実験		サブタイトル		授業番号	NL210
担当教員名	木野山 真紀					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	1単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	必修			授業形態	実験	
<b>【授業の概要】</b>						
調理学実験では、食品の調理性や調理中における現象、調理に際して起こりやすい失敗の原因についての疑問を実際の調理と関連付けて学修する。						
<b>【到達目標】</b>						
・実験を通してさまざまな食材の特性を科学的に理解し、調理や献立作成に応用できる力を身につける。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1・2回 だしに関する実験、嗜好性の主観的評価・客観的評価 第3・4回 小麦粉に関する実験 第5・6回 野菜に関する実験 第7・8回 肉・魚に関する実験 第9・10回 卵・牛乳に関する実験 第11・12回 いも・砂糖に関する実験 第13・14回 寒天・ゼラチン・カラギーナンに関する実験 第15回 まとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート		70%	初回にレポートの書き方について説明する。実験の目的、実験方法、結果、考察が具体的に記載できているかを評価する。		
	小テスト					
	定期試験		30%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
これまでに学んだ調理学に関連する科目の復習を必ずしておくこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 予習として、教科書の実験内容にかかわる部分を読んでおく。 2. 復習として、実験のレポートを書く。 3. 復習として、実験内容にかかわる料理を作り、レポートを書く。 以上の内容を、週あたり1時間以上学修する。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	調理科学実験 第2版		長尾慶子・香西みどり 編著	建帛社	1,900	978-4-7679-0623-2
	新調理学プラス 健康を支える食事を実践するために		松本美鈴・平尾和子 編著	光生館	2,500	978-4-332-05043-8
	自由記載					
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	NEW 調理と理論		山崎清子, 島田キミエ 他	同文書院	2,800	978-4-8103-1507-3
	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	食品衛生学		サブタイトル	授業番号	NL211	
担当教員名	川野 光興					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	前期			
必修・選択	必修	授業形態	講義			
【授業の概要】 食品衛生学は、飲食に起因する衛生上の危害の発生を防止し、健康な生活を確保することを目的とした学問である。食品の生産から加工、流通、貯蔵、調理を経て人に摂取されるまでの過程における安全性の確保について理解する。さらに、食品衛生の概論、食品の安全に関する関連法規、食品衛生行政、食中毒等の健康危害の種類と特徴、食品添加物の有効性と安全性および食品の表示等について学ぶ。管理栄養士、食品衛生管理者、食品衛生監視員になるためにも重要な科目である。						
【到達目標】 【食の安心・安全の重要性を認識し、「食べ物と健康」に関する知識と理解を深める】 ・食品を介して発生する健康危害要因を説明することができる。 ・食品添加物や包装の種類や機能、必要性を正しく理解し、説明することができる。 ・食品衛生の重要性と食品の安全性確保のための衛生管理方法を説明することができる。 ・食品衛生法、食品安全基本法および食品表示法の概要に関心を持ち内容を説明できる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：食品衛生と法規(1)（食品安全基本法，食品衛生法） 第2回：食品衛生と法規(2)（食品衛生法，食品表示法，食品安全行政） 第3回：食品の変質（微生物による変質，化学的変質） 第4回：食中毒と微生物（微生物の概要，微生物の食品への関与） 第5回：食中毒(1)（食中毒とは，細菌性感染型食中毒） 第6回：食中毒(2)（細菌性毒素型食中毒，ウイルス性食中毒，寄生虫） 第7回：食中毒(3)（寄生虫，人獣共通感染症，化学物質による食中毒，動物・植物性食中毒） 第8回：中間試験（第1回～第7回の授業内容に関する記述試験を行う） 第9回：食品中の汚染物質(1)（カビ毒，化学物質，有害元素） 第10回：食品中の汚染物質(2)（放射性物質，異物混入，アレルゲン） 第11回：食品添加物および残留農薬（食品添加物とは，食品添加物の分類，ポジティブリスト制度） 第12回：食品衛生管理(1)（一般衛生管理プログラム，HACCPシステム） 第13回：食品衛生管理(2)（国際標準化機構，災害時の食品衛生） 第14回：食品表示制度(1)（食品表示法の概要，食品表示基準） 第15回：食品表示制度(2)（特定保健用食品，栄養機能食品，機能性表示食品）						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		30%	意欲的な受講態度および提出したノートによって評価する。		
	レポート					
	小テスト		30%	中間試験，中間的な理解度を評価する。		
	定期試験		40%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載		中間および期末試験の際は，自分でまとめたノートを参考にして解答してもよい。				
【受講の心得】 予習として教科書の該当部分を読み，疑問点を明らかにしておくこと。また授業後は復習として，授業内容をノートにまとめておくこと。 食中毒など食品衛生に関する記事が新聞やニュースに度々出てくるので，世の中の出来事に日頃から関心を持ち，講義に臨むこと。						
【授業外学修】 1 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2 復習として，授業内容をノートにまとめる。 3 発展学修として，食品衛生に関する新聞記事やニュースを読み，地域や最新の話題に関心をもつ。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	食品衛生学 [改訂第2版]		田崎 達明 編	羊土社	2800円	978-4-7581-1359-5
自由記載		テキストの内容について講義を行いますので，必ず授業に持参してください。				
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	Nブックス 新訂 食品衛生学		伊藤武，古賀信幸，金井美恵子 編著	建帛社	2600円	978-4-7679-0646-1
自由記載						
【備考】 令和3年度改訂						
【担当教員の実務経験の有無】 無						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無						

授業科目名	食品衛生学実験		サブタイトル	授業番号	NL212
担当教員名	川野 光興				
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	1単位		
開講年次	2年	開講期	後期		
必修・選択	必修	授業形態	実験		
【授業の概要】 食品衛生学あるいは微生物学の講義で得た内容をより実践的にするため、微生物や食品添加物等に関する検査および実務的な食品衛生検査の手技を実験により習得する。					
【到達目標】 ・食品、器具などの衛生微生物検査における基礎的な技術を説明することができる。 ・食品添加物などの化学物質の基礎的な検査技術を説明することができる。 ・実験データを整理し、レポートにまとめることができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能>の修得に貢献する。					
【授業計画】 第1・2回 微生物等を扱う際の注意点、機器・器具の説明、実験ノートの書き方 第3・4回 食品の寄生虫（アニサキス）検査、ヒスタミンの検出 第5・6回 培養培地の調整、空中落下細菌・真菌の採取と培養、食品あるいは鼻腔等からの食中毒細菌の培養検出 第7・8回 空中落下細菌・真菌、食中毒細菌の計測、コロニー形態の観察、検出細菌のグラム染色 第9・10回 食品中の大腸菌群検査・生菌数の測定、衛生的手洗いの実践と手指の生菌数の測定 第11・12回 食器の残留物質の簡易検出、残留中性洗剤の簡易検出、合成洗剤の鑑別、食品添加物（着色料） 第13・14回 食品添加物（発色剤、漂白剤、保存料）の分析 第15回 全体のまとめ、要点・重要事項の整理					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な実験態度によって評価する。		
	レポート	40%	第1回目の授業で示した実験ノートの書き方にそって、実験目的、実験手順、結果、考察を具体的に記載しているかを評価する。		
	小テスト				
	定期試験	40%	最終的な理解度を評価する。		
	その他				
	自由記載				
【受講の心得】 細菌や化学物質など危険なものも取り扱うので、十分に説明を聞き真剣に実験に臨むこと。					
【授業外学修】 1 予習として、配布プリントを参考に、実験目的、実験方法を実験ノートに記載する。 2 復習として、実験結果、考察を実験ノートに整理すること。 以上の内容を、週当たり2時間以上学修すること。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	図解 食品衛生学実験 第3版	一戸 正勝 他	講談社	2000円	978-4-06-139836-8
	自由記載				
参考書	自由記載	食品衛生学 [改訂第2版]、田崎 達明 編、羊土社			
	【備考】	令和3年度改訂			
	【担当教員の実務経験の有無】	無			
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					

授業科目名	基礎栄養学I		サブタイトル		授業番号	NM101
担当教員名	真鍋 芳江					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	必修			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
基礎栄養学は人間の栄養の基本を学ぶ学問であり、栄養の意義、栄養の意義について学習し、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割、食物の消化と吸収、栄養素およびエネルギー代謝とその意義について学習する。基礎栄養学Iでは、栄養の意義と役割、食物の消化と吸収、糖質および脂質の栄養について学ぶ。						
<b>【到達目標】</b>						
栄養とは何か。食物はどのように体内に取り込まれるのか。栄養素は体内でどのような役割があるのか。またそれらはどのように体外に出るのか。これらの事について栄養学的に理解し、説明できる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1・2回 栄養の概念 第3回 摂食行動 第4～7回 消化・吸収と栄養素の体内動態 第8～11回 糖質の栄養 第12～14回 脂質の栄養 第15回 まとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		10%	積極的に質問する等、意欲的な受講態度によって評価する。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		90%	最終的な理解度を評価する。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
常に疑問点を持ち授業に臨むこと。ただし疑問点は自己解決できるよう努めること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、授業の内容をノートにまとめる。 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	基礎栄養学(第4版)		高 早苗・柳 進・河田 哲典・山田 英明・関 周司 共著	三共出版	2,750円	978-4-7827-0795-1 C3077
	三訂版 視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録		鈴木孝仁 監修	数研出版	1,130円 + 税	978-4-410-28166-2
自由記載						
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	栄養科学イラストレイテッド基礎栄養学 第4版		田地陽一 編	羊土社	2,800円 + 税	978-4-7581-1360-1
	栄養科学イラストレイテッド [演習版] 基礎栄養学ノート 第4版		田地陽一 編	羊土社	2,600円 + 税	978-4-7581-1361-8
自由記載						
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	基礎栄養学II		サブタイトル		授業番号	NM202
担当教員名	真鍋 芳江					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b>						
基礎栄養学は人間の栄養の基本を学ぶ学問であり、栄養の意義、栄養の意義について学習し、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割、食物の消化と吸収、栄養素およびエネルギー代謝とその意義について学習する。基礎栄養学IIでは、たんぱく質、ビタミン、ミネラルの栄養、水・電解質の機能、機能性非栄養成分の役割について学ぶ。						
<b>【到達目標】</b>						
食物中の栄養素の代謝とエネルギー代謝およびその生理学的意義について理解でき、説明できることを目標とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1～3回 たんぱく質の栄養 第4～6回 ビタミンの栄養 第7～9回 ミネラルの栄養 第10～11回 水・電解質の機能 第12～13回 機能性非栄養成分 第14～15回 エネルギー代謝						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	10%	積極的に質問する等、意欲的な受講態度によって評価する。			
	レポート					
	小テスト					
	定期試験	90%	最終的な理解度を評価する。			
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
予習と復習を行う。特に復習を必ず行うこと。また、疑問点、わからないことは教科書、参考書等でよく調べておくこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、授業の内容をノートにまとめる。 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	基礎栄養学(第4版)	高早苗・柳進・河田哲典・山田英明・関周司 共著	三共出版	2,750円	978-4-7827-0795-1 C3077	
	管理栄養士国家試験 受験必修キーワード集 第9版	女子栄養大学管理栄養士国家試験対策委員会	女子栄養大学出版部	3200円 + 税	978-4-7895-2443-8	
自由記載	「基礎栄養学」、高早苗・柳進・河田哲典・山田英明・関周司 共著、三共出版					
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	栄養科学イラストレイテッド [演習版] 基礎栄養学ノート第4版	田地陽一 編	羊土社	2,800円 + 税	978-4-7581-1360-1	
	栄養科学イラストレイテッド [演習版] 基礎栄養学ノート第4版	田地陽一 編	羊土社	2,600円 + 税	978-4-7581-1361-8	
自由記載	「基礎栄養学」、林淳三・山本孝史・鈴木和春・木元幸一、建帛社「分子栄養学」、榊原隆三 編、建帛社					
<b>【注意事項】</b>						
榊木示申						
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	栄養学実習		サブタイトル		授業番号	NM203
担当教員名	真鍋 芳江					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	1単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	必修			授業形態	実習	
<b>【授業の概要】</b>						
食事調査や生活活動調査等のデータを用い自己分析を行う中で、基礎栄養学で学んだ栄養素と生体の関わり合いを自らを通して確認する。併せて、身体測定、食事調査、活動量の測定などアセスメントに必要な技術を修得する。						
<b>【到達目標】</b>						
実習を通して科学的なものの考え方を修得すると同時に、実践力を身につける。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1・2回 栄養状態の評価判定の意義と方法 第3・4回 栄養アセスメントに関する測定 第5・6回 食習慣調査 第7・8回 生活活動調査 第9・10回 調査データの整理、解析 第11・12回 課題の検討 第13・14回 プレゼン資料の作成 第15回 まとめ（発表会）						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	意欲的な受講態度、予習の状況によって評価する。		
	レポート		80%	自己課題の発表内容とファイル提出によって評価する。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載	レポート（100%）により評価する。				
<b>【受講の心得】</b>						
実習は実際に行って初めて修得できる科目であり、正当な理由なしの欠席は原則認めない。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として、各自の調査データを丁寧に集めてくること。 2 復習として、課題のレポートを書く。 以上の内容を週当たり1時間以上学修すること						
使用テキスト	自由記載	適宜プリントを配布する。				
参考書	自由記載	「基礎栄養学」、高早苗、柳進、河田哲典、山田英明、関周司共著、三共出版				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	応用栄養学I		サブタイトル	授業番号	NN201
担当教員名	多田 賢代				
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	必修	授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>					
本講義は、栄養ケアプロセスの基本を学び、食事摂取基準を理解し、ライフステージ等における栄養状態や身体機能の特徴に基づいた栄養ケア・マネジメントについて学ぶことを目的とする。始めに、栄養ケアプロセスと栄養状態の評価判定法について講義し、次いで「日本人の食事摂取基準」の概念および策定の科学的根拠について説明する。その上で、妊娠期、授乳期、乳児期の心身の特性と栄養状態の評価・判定法、栄養上・食生活上の問題点と栄養管理について明らかにする。					
<b>【到達目標】</b>					
管理栄養士業務の基礎となる「栄養ケアプロセス」と「日本人の食事摂取基準」の意義を理解し、妊娠期・授乳期、乳児期の特性と栄養評価、栄養管理について説明できるようにすることを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：栄養ケアプロセス1 栄養管理の概念と基本的事項 第2回：栄養ケアプロセス2 栄養状態の評価・判定の意義、栄養状態に影響する要因 第3回：栄養ケアプロセス3 栄養状態の判定方法、栄養診断と栄養ケアプランの基本 第4回：食事摂取基準の解説1 「日本人の食事摂取基準（2020年版）」の策定主旨、概念 第5回：食事摂取基準の解説2 エネルギー、たんぱく質について 第6回：食事摂取基準の解説3 脂質、炭水化物について 第7回：食事摂取基準の解説4 ビタミン、ミネラルについて 第8回：発育・発達・加齢と栄養1 発生から死まで、成長・発達による変化と栄養 第9回：発育・発達・加齢と栄養2 加齢に伴う身体的・精神的变化、高齢者の特異性 第10回：母性栄養1 女性の特性と妊娠、出産、乳汁分泌の仕組み 第11回：母性栄養2 妊娠期の栄養と評価・判定、栄養管理 第12回：母性栄養3 授乳期の栄養と評価・判定、栄養管理 第13回：乳児栄養1 乳児の身体状況の変化と成長・発達 第14回：乳児栄養2 乳児期の栄養補給 第15回：乳児栄養3 乳児期の健康障害、栄養状態の評価・判定、栄養管理					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	10%	意欲的な受講態度、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート				
	小テスト	30%	セッションごとの主要なポイントの理解を評価する。		
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。		
	その他				
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b>					
毎回の授業が、管理栄養士になるための基礎づくりであり、国家試験へ向けての準備であることを念頭において受講する。					
<b>【授業外学修】</b>					
1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、ノート整理を行い、小テストの見直しを行う。 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	『新食品・栄養科学シリーズ 応用栄養学』	福渡努, 岡本秀己 編	化学同人	3000+税	978-4-7598-1646-4
	『日本人の食事摂取基準（2020年版）』	伊藤貞嘉, 佐々木敏 監修	第一出版	2800+税	978-4-8041-1408-8
	自由記載	その他適宜資料を配布する。			
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	『栄養ケアプロセス用語マニュアル』	公益社団法人日本栄養士会 監訳	第一出版	3400+税	978-4-8041-1270-1
	自由記載				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>					
病院の管理栄養士、市町村嘱託栄養士					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
臨床栄養現場や健康づくり啓発普及のための管理栄養士・栄養士業務を通して、栄養ケアマネジメントの実際、妊産婦栄養管理および栄養指導、離乳食相談、幼児期・学童期・思春期・成人期および高齢期における栄養管理等を指導する。					

授業科目名	応用栄養学II		サブタイトル	授業番号	NN202
担当教員名	多田 賢代				
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	後期		
必修・選択	必修	授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>					
本講義は応用栄養学IIに引き続き、栄養ケアプロセスの基本を学び、食事摂取基準を理解し、ライフステージ等における栄養状態や身体機能の特徴に基づいた栄養ケア・マネジメントについて講義する。ライフステージは、幼児期から高齢期までの心身の特性と栄養状態の評価・判定、栄養上・食生活上の問題点と栄養管理について明らかにする。また、運動・スポーツにおける栄養、様々な環境下における栄養との関係についても講義する。					
<b>【到達目標】</b>					
管理栄養士業務の基礎となる「栄養ケアプロセス」と「日本人の食事摂取基準」の意義を理解し、幼児期から高齢期までの特性と栄養評価、栄養管理について説明できるようになることを目的とする。また、運動の生活習慣病予防への効果、スポーツ時の栄養管理、様々な環境下における栄養との関係などについても理解する。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：幼児期の栄養1 幼児期の身体状況の変化と成長・発達 第2回：幼児期の栄養2 栄養状態の変化、栄養状態の評価・判定 第3回：幼児期の栄養3 幼児期の食生活と栄養管理 第4回：学童期の栄養1 身体の成長・発達と栄養状態の特性と評価・判定 第5回：学童期の栄養2 食習慣の変化、健康上の問題点と栄養管理 第6回：思春期の栄養1 思春期の身体発育、栄養状態の特性と評価・判定 第7回：思春期の栄養2 食生活、健康上の問題点と栄養管理 第8回：成人期・更年期の栄養1 成人期・更年期の身体機能、栄養状態の変化 第9回：成人期・更年期の栄養2 生活習慣病と栄養管理 第10回：高齢期の栄養1 身体状況の変化 第11回：高齢期の栄養2 栄養状態の変化、栄養状態の評価・判定 第12回：高齢期の栄養3 食生活、健康上の問題点と栄養管理 第13回：運動・スポーツと栄養1 健康づくりのための運動 第14回：運動・スポーツと栄養2 スポーツと栄養 第15回：環境と栄養					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	10%	意欲的な受講態度、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート				
	小テスト	30%	セッションごとの主要なポイントの理解を評価する。		
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。		
	その他				
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b>					
毎回の授業が、管理栄養士になるための基礎づくりであり、国家試験へ向けての準備であることを念頭において受講する。					
<b>【授業外学修】</b>					
1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、ノート整理を行い、小テストの見直しを行う。 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	『新食品・栄養科学シリーズ 応用栄養学』	福渡努, 岡本秀己 編	化学同人	3000+税	978-4-7598-1646-4
	『日本人の食事摂取基準(2020年版)』	伊藤貞嘉, 佐々木敏 監修	第一出版	2700+税	978-4-8041-1408-8
	自由記載	その他適宜資料を配布する。			
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	『栄養ケアプロセス用語マニュアル』	公益社団法人日本栄養士会 監訳	第一出版	3400+税	978-4-8041-1270-1
	自由記載				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>					
病院の管理栄養士, 市町村嘱託栄養士					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
臨床栄養現場や健康づくり啓発普及のための管理栄養士・栄養士業務を通して、栄養ケアマネジメントの実際、妊産婦栄養管理および栄養指導、離乳食相談、幼児期・学童期・思春期・成人期および高齢期における栄養管理等を指導する。					



授業科目名	応用栄養学実習		サブタイトル	授業番号	NN203
担当教員名	多田 賢代				
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	1単位		
開講年次	2年	開講期	後期		
必修・選択	必修	授業形態	実習		
<b>【授業の概要】</b>					
<p>応用栄養学I, IIで学んだ各ライフステージの身体上、健康・栄養上の特性と栄養アセスメントの方法を基礎知識として、乳児期から高齢期までの各ライフステージの特性に合った具体的な栄養管理方法に関する実際を学び、技能を修得する。</p>					
<b>【到達目標】</b>					
<p>各ライフステージの対象者に対する栄養評価、適正な栄養基準量の設定及び献立作成・調理技術を身につけ、各ライフステージに応じた栄養マネジメントに必要な技術を修得することを目的とする。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
<p>第1回：発育・発達・加齢と栄養、栄養マネジメントの方法と手順  第2回：妊娠期の栄養管理 (1)妊娠期の特性と栄養アセスメント  第3回：妊娠期の栄養管理 (2)妊娠期の栄養ケアプラン  第4回：乳幼児の栄養管理 (1)乳児期の特性と栄養アセスメント  第5回：乳幼児の栄養管理 (2)乳児期の栄養ケアプラン、授乳・離乳支援の実際  第6回：幼児期の栄養管理 (1)幼児期の特性と栄養アセスメント、子ども園における給食の実際  第7回：幼児期の栄養管理 (2)幼児期の栄養ケアプラン、保育所給食献立作成  第8回：幼児期の栄養管理 (3)アレルギーがある場合の栄養ケアプラン  第9回：学童期・思春期の栄養管理 (1)学童期・思春期の特性と栄養アセスメント  第10回：学童期・思春期の栄養管理 (2)学童期・思春期の栄養ケアプラン  第11回：成人期の栄養管理 (1)成人期の特性と栄養アセスメント  第12回：成人期の栄養管理 (2)生活習慣病予防の栄養ケアプラン  第13回：高齢期の栄養管理 (1)高齢期の特性と栄養アセスメント  第14回：高齢期の栄養管理 (2)高齢期の栄養ケアプラン、咀嚼・嚥下機能低下に対する支援  第15回：まとめ</p>					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート	80%	授業内容のまとめとして出される課題により、技能の修得に役立たずこと。課題については、確認し返却をする。		
	小テスト				
	定期試験				
	その他				
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b>					
<p>対象の特性に合った献立作成ができるよう日頃から食品、調理、献立に関心を持ち取り組む。授業前に教科書を通読することと実習終了後に実習記録の記入を必ず行う。共同作業が円滑に行えるよう、班員間のコミュニケーションを密にする。</p>					
<b>【授業外学修】</b>					
<p>1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。  2 復習として、課題のレポートを書く。  3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。  以上の内容を、授業外に学修すること。</p>					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	『応用栄養学実習－ケーススタディーで学ぶマネジメント－』	五開正江, 小林三智子 編	建帛社	2800+税	978-4-7679-0676-8
	『日本人の食事摂取基準(2020年版)』	伊藤貞嘉, 佐々木敏 監修	第一出版	2800+税	978-4-8041-1408-8
	自由記載	適時、資料を配布する。			
参考書	自由記載				
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>				
	有				
	<b>【担当教員の实務経験】</b>				
病院の管理栄養士、市町村嘱託栄養士					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
<p>臨床栄養現場や健康づくり啓発普及のための管理栄養士・栄養士業務を通して、栄養ケアマネジメントの実際、妊産婦栄養管理および栄養指導、離乳食相談、幼児期・学童期・思春期・成人期および高齢期における栄養管理等を指導する。</p>					

授業科目名	応用栄養学Ⅲ		サブタイトル	授業番号	NN304
担当教員名	多田 賢代				
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	2単位		
開講年次	3年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>					
本講義は応用栄養学IおよびII、応用栄養学実習で学んだ栄養ケアプロセス、食事摂取基準、ライフステージ等における栄養状態や身体機能の特徴に基づいた栄養管理を基礎知識として、妊娠期、乳児期から高齢期までの心身の特性に応じた栄養管理に必要となる栄養状態の評価・判定に関する知識を深め、栄養診断、栄養ケア計画のための技能を養う。					
<b>【到達目標】</b>					
「栄養ケアプロセス」と「日本人の食事摂取基準」の知識を活用し、妊娠期、乳児期から高齢期までの心身の特性に応じた栄養管理に必要となる栄養状態の評価・判定を行い、的確な栄養診断、栄養ケア計画が出来るようになることを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：栄養管理プロセス1 栄養管理の概念と進め方 第2回：栄養管理プロセス2 食事摂取基準と栄養改善の計画と実施 第3回：妊娠期・授乳期の栄養1 栄養状態の特性と栄養評価・判定 第4回：妊娠期・授乳期の栄養2 事例による栄養診断、栄養ケア計画 第5回：乳幼児期の栄養1 栄養状態の特性と栄養評価・判定 第6回：乳幼児期の栄養2 事例による栄養診断、栄養ケア計画 第7回：学童期・思春期の栄養1 栄養状態の特性と栄養評価・判定 第8回：学童期・思春期の栄養2 事例による栄養診断、栄養ケア計画 第9回：成人期・更年期の栄養1 栄養状態の特性と栄養評価・判定 第10回：成人期・更年期の栄養2 事例による栄養診断、栄養ケア計画 第11回：高齢期の栄養1 栄養状態の特性と栄養評価・判定 第12回：高齢期の栄養2 事例による栄養診断、栄養ケア計画 第13回：運動・スポーツと栄養1 栄養状態の特性と栄養評価・判定 第14回：運動・スポーツと栄養2 事例による栄養診断、栄養ケア計画 第15回：まとめ					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	10%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート	20%	授業内容のまとめとして出される課題により、問題解決能力の修得に役立つこと。課題については、確認し返却をする。		
	小テスト	20%	セッションごとの主要なポイントの理解を評価する。		
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。		
	その他				
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b>					
毎回の授業が、管理栄養士になるための基礎づくりであり、国家試験へ向けての準備であることを念頭において受講する。					
<b>【授業外学修】</b>					
1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題のレポートを書く。また、小テストの見直しを行う。 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	『応用栄養学実習 ケーススタディで学ぶマネジメント』	五関正江, 小林三智子 編	建帛社	2800+税	978-4-7679-0676-8
	『新食品・栄養科学シリーズ 応用栄養学』	福渡努, 岡本秀己 編	化学同人	3000+税	978-4-7598-1646-4
	『日本人の食事摂取基準(2020年版)』	伊藤貞嘉, 佐々木敏 監修	第一出版	2800+税	978-4-8041-1408-8
	栄養科学シリーズNEXT 応用栄養学 第6版	木戸康博, 小倉嘉夫, 眞鍋祐之	講談社	2800+税	978-4-06-518044-0
	自由記載	その他適宜資料を配布する。			
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	『栄養ケアプロセス用語マニュアル』,	公益社団法人日本栄養士会 監訳	第一出版	3400+税	978-4-8041-1270-1
	自由記載				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>					
病院の管理栄養士、市町村嘱託栄養士					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
臨床栄養現場や健康づくり啓発普及のための管理栄養士・栄養士業務を通して、栄養ケアマネジメントの実際、妊産婦栄養管理および栄養指導、離乳食相談、幼児期・学童期・思春期・成人期および高齢期における栄養管理等を指導する。					

授業科目名	栄養教育論I		サブタイトル		授業番号	NO201
担当教員名	安原 幹成					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	必修			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
<p>栄養教育論Iでは、栄養教育の大切さを多面的に理解し、対象者のパーソナリティー・食環境・食行動・問題点・理解度などの情報を得るために行動科学を学ぶ。情報を引き出すには、コミュニケーション力・カウンセリング力・コーチング力が必要であり、この3つの力を養えるよう講義に組み込んでいく。また、適切な栄養マネジメントの必要性を理解し、適切に行える知識と技術を学修する。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>栄養教育の概念・理論を正しく理解した上で栄養教育における行動科学を理解できるよう学修する。栄養教育における理論をもとに総合的な栄養マネジメントを行うための基礎力を修得する。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt; &lt;思考・問題解決能力&gt; &lt;技能&gt; &lt;態度&gt;の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：栄養教育の概念（1）            栄養教育の目的・目標、対象と機会            第2回：栄養教育の概念（2）            栄養指導・栄養教育の歴史            第3回：行動科学理論と栄養教育(1)            栄養教育，行動科学，行動療法            第4回：行動科学理論と栄養教育(2)            行動療法における問題解決のしかた，行動療法からみた食行動の特性            第5回：行動科学理論と栄養教育(3) 食行動のとらえかたとアセスメント，            健康増進や生活習慣のコントロールに共通した行動技法            第6回：行動科学理論と栄養教育(4)            行動に影響する心理社会的要因，習慣変容に必要な条件            第7回：行動科学理論と栄養教育(5)            食行動変容と心理，大規模集団や地域レベルの変化についての行動科学理論            第8回：カウンセリングの基本と栄養カウンセリング            カウンセリングの方法，行動変容面接の実際，対人コミュニケーションの種類            第9回：組織づくり・地域づくりへの展開と食環境づくり(1)            学習段階の発展            第10回：組織づくり・地域づくりへの展開と食環境づくり(2)            食環境づくりと栄養教育            第11回：栄養教育マネジメント            アセスメントと栄養教育計画の立案について            第12回：栄養教育のためのアセスメント            意義と目的，情報収集の方法，アセスメントの種類と方法            第13回：栄養教育計画(1)            プログラム，目標設定            第14回：栄養教育計画(2)            栄養教育方法の選択，学習形態選択と組み合わせ            第15回：栄養教育計画(3)            教材の目的と活用法，プログラムの作成</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート					
	小テスト	30%	5回の小テストにより，理解度を評価する。			
	定期試験	70%	到達目標への理解度を評価する。			
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
<p>栄養教育論Iは，様々な対象者への栄養教育の根本となる。</p> <p>講義の内容がより深く理解できるよう，予習・復習を欠かすことなく受講すること。</p>						
<b>【授業外学修】</b>						
<p>1．講義で学んだことや不明なキーワードは，正しい情報源によって確認し，まとめておくこと。</p> <p>2．講義内容については，使用テキストおよび関連資料によって予習・復習をすること。</p> <p>以上の内容に関しては，週当たり4時間以上かけて学修すること。</p>						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	栄養教育論 改訂第5版	丸山千寿子，足達淑子，武見ゆかり	南江堂	3,200円		
	自由記載					
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
	<b>【担当教員の实務経験】</b>					
	病院における管理栄養士					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
医療機関における管理栄養士として実臨床で得た経験を生かして講義を行います。						

授業科目名	栄養教育論II		サブタイトル		授業番号	NO302
担当教員名	安原 幹成					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科		単位数	2単位		
開講年次	3年		開講期	前期		
必修・選択	必修		授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>						
<p>管理栄養士は授乳期から終末期までのすべてのステージにおいて「食生活」に対する教育と正しい判断力が要求される。課題に対して正しく判断できる力を習得する。</p> <p>また、栄養教育論Iで学修したことを更に掘り下げ、ライフステージおよびライフスタイル別の栄養教育を学ぶ。各段階における様々な特性を考慮した栄養教育が必要であり、個人および集団を対象とした栄養教育について学修する。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>(1) 栄養教育の実施者として必要な技術と方法を理解し、習得する。</p> <p>(2) 栄養教育の評価方法を理解し正しく評価する力を習得する。</p> <p>(3) ライフステージ・ライフスタイル別および個人・集団での健康状態と栄養教育を理解し、習得する。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt; &lt;思考・問題解決能力&gt; &lt;技能&gt; &lt;態度&gt;の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：栄養教育の実施 栄養教育実施者の技術、実施に向けての準備作業</p> <p>第2回：栄養教育の評価 評価の意義・種類・手順、結果のフィードバック</p> <p>第3回：栄養教育マネジメントで用いる理論やモデル プリシード・プロシードモデル、ソーシャルマーケティング</p> <p>第4回：ライフステージ・ライフスタイル、健康状態と栄養教育（1） 妊娠・授乳期</p> <p>第5回：ライフステージ・ライフスタイル、健康状態と栄養教育（2） 乳・幼児期、市町村母子保険事業</p> <p>第6回：ライフステージ・ライフスタイル、健康状態と栄養教育（3） 保育所・幼稚園の食育</p> <p>第7回：ライフステージ・ライフスタイル、健康状態と栄養教育（4） 学童期</p> <p>第8回：ライフステージ・ライフスタイル、健康状態と栄養教育（5） 思春期）</p> <p>第9回：ライフステージ・ライフスタイル、健康状態と栄養教育（6） 成人期</p> <p>第10回：ライフステージ・ライフスタイル、健康状態と栄養教育（7） 地域における栄養教育</p> <p>第11回：ライフステージ・ライフスタイル、健康状態と栄養教育（8） 高齢期</p> <p>第12回：ライフステージ・ライフスタイル、健康状態と栄養教育（9） 介護予防・介護と栄養教育</p> <p>第13回：ライフステージ・ライフスタイル、健康状態と栄養教育（10） 障害者</p> <p>第14回：ライフステージ・ライフスタイル、健康状態と栄養教育（11） 傷病者</p> <p>第15回：ライフステージ・ライフスタイル、健康状態と栄養教育（12） 医療機関における栄養教育の実際</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度			受講態度を評価する。		
	レポート					
	小テスト		30%	理解度を評価する。		
	定期試験		70%	到達目標の理解度を評価する。		
	その他					
<b>【授業計画】</b>						
<p>自由記載</p>						
<b>【受講の心得】</b>						
<p>栄養教育論IIは、ライフステージおよびライフスタイル別の対象者への栄養教育をより具体的に学修する。講義内容がより深く理解できるよう、予習・復習を欠かすことなく受講すること。</p>						
<b>【授業外学修】</b>						
<p>1.講義で学んだことや不明なキーワードは、正しい情報源によって確認し、まとめておくこと。</p> <p>2.講義内容については、使用テキストおよび関連資料によって予習・復習をすること。</p> <p>以上の内容に関しては、週当たり4時間以上かけて学修すること。</p>						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	栄養教育論 改訂第5版		丸山千寿子, 足達淑子, 武見ゆかり	南江堂	3,200円	
	自由記載					
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有					
	<b>【担当教員の実務経験】</b> 病院における管理栄養士					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						

医療機関における管理栄養士として実臨床で得た経験を生かして講義を行います。

【実務経験をいかした教育内容】

授業科目名	栄養教育実習I		サブタイトル		授業番号	NO203
担当教員名	安原 幹成					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	1単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	必修			授業形態	実習	
<b>【授業の概要】</b>						
<p>栄養教育実習では実際の多くの場面を想定した実習を行う。本実習では、栄養教育におけるPDCAサイクルを組み込んで学修する。実習を進める上で個人およびグループワークを通じて管理栄養士として必要なスキルを習得することを目的とする。実際の医療機関における状況や公共の場での集団教育など、現実により近い状態で模擬訓練を行う。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養教育の場で求められる知識を理解・修得し、様々な教育の場で活用することができる。</li> <li>・コミュニケーションスキルとカウンセリング技法を理解し、修得することができる。</li> <li>・状況に応じた食事調査法の判断力と栄養摂取量の把握、アンケート作成、二次データ利用とその活用法を修得する。</li> </ul> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt; &lt;思考・問題解決能力&gt; &lt;技能&gt; &lt;態度&gt;の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1・2回 栄養教育のためのアセスメント（1）初回面接と情報収集（カウンセリング技法）  第3・4回 栄養教育のためのアセスメント（2）対象者別栄養状態（身体状況）の把握  第5・6回 栄養教育のためのアセスメント（3）習慣的な栄養摂取量の把握  第7・8回 栄養教育のためのアセスメント（4）フォーカスグループインタビュー  第9・10回 栄養教育のためのアセスメント（5）一次データとしての質問紙設計、二次データの収集と利用  第11・12回 栄養教育のためのアセスメント（6）栄養教育技法を含めたロールプレイの実践  第13・14回 栄養教育の実際（1）栄養教育の実際 栄養教育計画の立て方  第15回 栄養教育の実際（2）まとめ</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	個人およびグループ内での発言、発表状況、質問などから評価する。		
	レポート		60%	個人、グループのワークシート		
	小テスト					
	定期試験					
	その他		20%	グループで取り組んだ内容について評価する。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
<p>個人とグループワークの学修方法になる。特にグループにおける協働作業では、個々の力が偏りなく、活発な意見交換を行うこと。日頃から実習に役立つ関連情報を収集しておくこと本実習で円滑な作業が期待できる。学修した多くの情報は、臨地実習や社会人として、現場で活かすことができるため、積極的に取り組むこと。</p>						
<b>【授業外学修】</b>						
<p>実習中の内容を振り返り、修得したことや問題点と課題などの復習を行う。また、予習として次の実習が円滑に行えるよう、関連する情報や提案材料を収集しておく。これらについて週当たり4時間以上かけて学修すること。</p>						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	マスター栄養教育論実習		佐藤香苗, 杉村留美子	建帛社	2,200円	
	自由記載					
参考書	自由記載					
	<p><b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有</p> <p><b>【担当教員の実務経験】</b> 病院における管理栄養士</p>					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
医療機関における管理栄養士として実臨床で得た経験を生かして講義を行います。						

授業科目名	栄養教育実習II		サブタイトル		授業番号	NO304
担当教員名	安原 幹成					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	1単位	
開講年次	3年			開講期	前期	
必修・選択	必修			授業形態	実習	
<b>【授業の概要】</b> 栄養教育実習では実際の多くの場面を想定した実習を行う。本実習では、栄養教育におけるPDCAサイクル組み込んで学修する。実習を進めて行く上でペアワークおよびグループワークを通じて管理栄養士として必要なスキルを習得する。実際の医療機関における状況や公共の場での集団教育など、現実により近い状態で模擬訓練を行う。						
<b>【到達目標】</b> ライフステージおよびライフスタイルにおける特徴を理解した上でより有効な栄養教育法を判断できる力を習得する。その場に相応しい栄養教育方法を実践するための技術を学修する。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
<b>【授業計画 備考】</b> 第1・2回 乳幼児期、学童期（小学生）の栄養教育、思春期（中学生・高校生）の栄養教育 第3・4回 成人期の栄養教育 グループダイナミクスを用いて 第5・6回 模擬患者を用いた面接技法と指導記録（SOAP） 第7・8回 客観的臨床能力試験（OSCE）とフィードバックを反映したロールプレイ 第9・10回 高齢期の栄養支援（高齢者施設） 第11・12回 高齢期の栄養支援（在宅訪問栄養食事指導） 第13・14回 スポーツと栄養教育、地域における栄養教育 第15回 まとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	個人およびグループ内での発言、発表状況、質問などから評価する。		
	レポート		60%	個人、グループのワークシート		
	小テスト					
	定期試験					
	その他		20%	グループで取り組んだ内容について評価する。		
<b>自由記載</b>						
<b>【受講の心得】</b> 実践に近いライフステージ別の実習となるため、それぞれが積極的に発言する機会を得ること。また、グループ内でも協力してチーム力が発揮できるよう努力する。学修した多くの情報は、臨地実習や社会人として、現場で活かすことができるため、積極的に取り組むこと。						
<b>【授業外学修】</b> 実習中の内容を振り返り、習得したことや問題点と課題の復習を行う。予習として次の実習が円滑に行えるよう、関連する情報や提案材料を予め収集しておく。これらについて週当たり4時間以上かけて学修すること。						
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価
	マスター栄養教育論実習			佐藤香苗・杉村留美子	建帛社	2,200
<b>自由記載</b>						
参考書	<b>自由記載</b>					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有					
	<b>【担当教員の実務経験】</b> 病院における管理栄養士					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 医療機関における管理栄養士として実臨床で得た経験を生かして講義を行います。						

授業科目名	カウンセリング論		サブタイトル		授業番号	NO305
担当教員名	平尾 太亮					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位	
開講年次	3年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
カウンセリングに関わる基礎理論を獲得するとともに、ロールプレイや事例検討を通して、カウンセリングに関する技術の修得を目的とする。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・カウンセリングの知識について、基礎的な知識を獲得する。</li> <li>・カウンセリングの基礎的な技法について、実際の場面で使うことができる。</li> </ul>						
なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜態度＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：カウンセリングとは？ 第2回：カウンセリングの理論1：精神分析療法 第3回：カウンセリングの理論2：認知行動療法、論理療法 第4回：カウンセリングの理論3：来談者中心療法 第5回：カウンセリング・マインドを考える 第6回：カウンセリングのすすめ方1：インテーク面接 第7回：カウンセリングのすすめ方2：アセスメント1 第8回：カウンセリングのすすめ方3：アセスメント2 第9回：カウンセリングのすすめ方4：介入と終結 第10回：カウンセリングにおける具体的なテクニック1：相づち、反射、開いた質問、閉じた質問 第11回：カウンセリングにおける具体的なテクニック2：要約、明確化 第12回：事例検討 1 第13回：事例検討 2 第14回：ロールプレイ 第15回：まとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	授業に積極的に参加し、意見や疑問を表現することができる。		
	レポート		30%	全講義終了後、カウンセリングにおける知識と視点をふまえて総合的に論じることができる。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他		50%	事例検討（30%）やロールプレイ（20%）に積極的に参加し、意見を出すことができる。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
様々な気づきを得られるよう、積極的な態度で授業に臨むこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 授業内で学修した、カウンセリングに関わる基礎理論を復習すること。 2. 事例について、様々な視点から考えられるように深く読み込むこと。						
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	必要であれば、その都度プリントを配布する。				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
スクールカウンセラー、医療型障害児入所施設職員						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
様々な困難感を抱える子どもや保護者の気持ちへの寄り添い方や支援方法について、事例を通して考え実践できるようになる。						



授業科目名	食行動学		サブタイトル		授業番号	NO306	
担当教員名	川上 祐子						
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位		
開講年次	3年			開講期	後期		
必修・選択	選択			授業形態	講義		
【授業の概要】							
ヒトの食行動は、単に生命維持を目的とした生理的なものだけでなく、その背景に多様な文化的、心理的側面があることを理解する。また、食行動を促進あるいは抑制する文化、行動、感情、性格など考慮すべき問題を探究し、身近な日常の食行動を素材として人間理解の機会とする。食行動調査の演習、グループ討議などを数回実施する。							
【到達目標】							
食べるという行動を多面的に捉えて人間の多様な「こころ」の側面を学び、食教育・栄養指導に活かすことができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。							
【授業計画】							
第1回：食行動とは 第2回：食行動と感覚・知覚 第3回：食行動と社会的認知 第4回：食行動の心理統合的理解 第5回：食行動の生涯にわたる変化 第6回：食に関する理解の発達 第7回：食行動額をどのように考えるか 第8回：高齢者の食 第9回：人の生物性と文化性を結ぶ食発達 第10回：官能検査 第11回：行動科学に基づいた栄養教育 第12回：食事療法による生活習慣病の予防 第13回：行動分析学に基づく体重減量の方法 第14回：肥満と関連する食行動と介入プログラム 第15回：食行動額を生かすための実践法							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度		10%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。			
	レポート		70%	授業中に与えた課題に対して、具体的に述べていること。最終的な理解度を評価する。			
	小テスト		20%	主要なポイントの理解を評価する。			
	定期試験						
	その他						
自由記載							
【受講の心得】							
テキスト、配布資料を整理し食行動への問題意識を以って授業に臨む。							
【授業外学修】							
1. 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2. 復習として、課題のレポートを書く。 3. 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。							
使用テキスト	自由記載						
参考書	書名			著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	食行動の科学「食べる」を読み解く			今田純雄・和田有史編	朝倉書店	4200円+税	978-4-254-10667-1 c 3340
	自由記載	随時、文献等を情報提供する。					
【担当教員の実務経験の有無】							
有							
【担当教員の实務経験】							
大学病院管理栄養士							
【実務経験をいかした教育内容】							
大学病院等で管理栄養士として栄養食事指導に携わってきた経験をもとに講義を行う。							

授業科目名	臨床栄養学総論		サブタイトル	( 傷病者の栄養管理の基礎を学ぶ )		授業番号	NP201
担当教員名	小野 尚美 阿部 ゆり子						
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科		単位数	2単位			
開講年次	2年		開講期	後期			
必修・選択	必修		授業形態	講義			
【授業の概要】 傷病者の病態や栄養状態に基づいた栄養管理を行うために栄養ケアマネジメントが実施される。その流れに沿って、栄養アセスメント、栄養診断、栄養ケア計画の作成・実施、モニタリング・再評価における必要な知識を説明する。さらに、栄養管理を行う上で必要となる他職種との連携（チーム医療）、栄養補給（経口栄養・経腸栄養・経静脈栄養）、栄養教育の方法および食品と医薬品の相互作用について講義する。							
【到達目標】 ・栄養ケアマネジメントの流れについて説明できる。 ・対象者の栄養状態を評価する方法について説明できる。 ・栄養補給法について知り、その選択ができる。 ・チーム医療について理解し、その中での管理栄養士の役割について説明できる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、＜知識・理解＞の修得に貢献する。							
【授業計画】							
第1回：臨床栄養学の基礎 ( 担当小野・阿部 ) 第2回：医療制度とチーム医療 ( 担当阿部 ) 第3回：福祉・介護と在宅医療 ( 担当阿部 ) 第4回：栄養ケアマネジメントの概要 ( 担当小野 ) 第5回：栄養アセスメント ( 担当小野 ) 第6回：問診・観察 / 身体計測 ( 担当阿部 ) 第7回：臨床検査 ( 担当阿部 ) 第8回：栄養ケア計画のプロセス ( 担当小野 ) 第9回：経口栄養補給法 ( 担当小野 ) 第10回：経腸栄養補給法 ( 担当阿部 ) 第11回：経静脈栄養補給法 ( 担当阿部 ) 第12回：薬と栄養・食物の相互作用 ( 担当阿部 ) 第13回：栄養ケアの記録 ( 担当小野 ) 第14回：栄養教育の実施 ( 担当小野 ) 第15回：栄養ケアのアセスメント ( 担当小野 )							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢 / 態度		10%	積極的な授業態度、予習、復習、質問などにより評価する。			
	レポート		10%	臨床栄養学分野の基本となる医療制度や在宅医療における管理栄養士の役割について具体的にレポートする。			
	小テスト		20%	各回の時間終了時、その日の授業に関するテスト、記録にて評価する。			
	定期試験		60%	最終的な理解度を評価する。			
	その他						
自由記載							
【受講の心得】 医療機関における管理栄養士の役割を知る授業である。事前に講義範囲をテキストで予習しておく。							
【授業外学修】 1 事前に講義範囲をテキストで予習しておく。 2 授業の中で指示された課題等に取り組む。 3 授業後にテキストや配布プリントを読み返し、ポイントを整理する。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。							
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	栄養科学イラストレイテッド臨床栄養学 基礎編		本田佳子, 土江節子, 曾根博仁	羊土社	2,700円+税	978-4-7581-0882-9	
自由記載							
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	栄養ケアプロセス用語マニュアル		日本栄養士会 ( 訳 )	第一出版	3,400円+税	978-4-8041-1270-1	
	臨床検査ハンドブック		奈良信雄	医歯薬出版株式会社	2,700円+税	978-4-263-70625-1	
	自由記載						
【担当教員の実務経験の有無】 無							
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無							

授業科目名	臨床栄養学各論I		サブタイトル	(傷病者の疾病に応じた栄養管理を学ぶ)		授業番号	NP302
担当教員名	古川 愛子						
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科		単位数	2単位			
開講年次	3年		開講期	前期			
必修・選択	必修		授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b>							
各種疾患別に病態と栄養生理を把握し、栄養ケア・マネジメントに必要な項目について講義をする。疾患の概要、病因、治療法で特に食生活や栄養摂取に関わる内容について把握する。医学概論・解剖生理学等で学んだ知識を復習し、疾患に応じた栄養アセスメント法から栄養診断を行い、栄養ケアプランの設定に関わる栄養食事管理の基本となる栄養素処方から、食品・料理・献立の調整法について説明する。							
<b>【到達目標】</b>							
疾患に応じた栄養・食事療法の意義を理解する。身体状況や栄養状態を的確に評価することができ、他職種と連携して問題解決のための栄養ケア計画および栄養指導・支援ができる知識を修得する。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、<知識・理解>の修得に貢献する。							
<b>【授業計画】</b>							
第1回：高血圧症の栄養食事療法 (担当古川)							
第2回：糖尿病の栄養食事療法(1) (担当古川)							
第3回：糖尿病の栄養食事療法(2) (担当古川)							
第4回：肥満症の栄養食事療法 (担当古川)							
第5回：高尿酸血症の栄養食事療法 (担当古川)							
第6回：脂質異常症の栄養食事療法 (担当古川)							
第7回：動脈硬化症、虚血性心疾患、心不全、脳血管疾患の栄養食事療法 (担当古川)							
第8回：上部消化肝疾患の栄養食事療法 (担当古川)							
第9回：下部消化肝疾患の栄養食事療法 (担当古川)							
第10回：肝疾患の栄養食事療法(1) (担当古川)							
第11回：肝疾患の栄養食事療法(2) (担当古川)							
第12回：腎疾患の栄養食事療法 (担当古川)							
第13回：腎疾患の栄養食事療法(1) (担当古川)							
第14回：腎疾患の栄養食事療法(2) (担当古川)							
第15回：腎疾患の栄養食事療法(3) (担当古川)							
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	10%	積極的な授業態度、予習、復習、質問などにより評価する。				
	レポート	0%					
	小テスト	20%	各回の時間終了時、その日の授業に関するテスト、記録にて評価する。				
	定期試験	70%	最終的な理解度を評価する。				
	その他						
	自由記載						
<b>【受講の心得】</b>							
具体的な栄養管理法を把握するため、事前・事後学習を行う。特別な理由がない限り欠席・遅刻しない。この科目の学習には、人体の構造と機能および疾病の成り立ち(解剖・生化学・病理・医学概論)、基礎栄養学を充分理解しておく必要がある。							
<b>【授業外学修】</b>							
1.授業に用いる教科書および関連資料を次回授業までに読んでおく。							
2.授業の最後に、小テストや授業中の記録用紙の提出を指示する。							
3.授業に関連した項目についてレポートを作成する。							
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。							
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN		
	栄養学イラストレイテッド 臨床栄養学 疾患別編	本田佳子 編	羊土社	2,800円+税	978-4-7581-0883-6		
	自由記載						
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN		
	臨床医学疾病の成り立ち	田中明 他 編	羊土社	2,800円+税	978-4-7581-0870-6		
	自由記載						
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>							
有							
<b>【担当教員の实務経験】</b>							
病院における栄養士、管理栄養士							
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>							
無							
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>							
病院における実務経験を活かし、傷病者の栄養食事療法について講義を行う。							

授業科目名	臨床栄養学各論II		サブタイトル	(傷病者の疾病に応じた栄養管理を学ぶII)		授業番号	NP303
担当教員名	小野 尚美						
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科		単位数	2単位			
開講年次	3年		開講期	後期			
必修・選択	選択		授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b>							
臨床栄養学各論IIに続いて各種疾患別に病態と栄養生理を把握し、栄養ケアマネジメントを実施するために必要な項目について学ぶ。疾患の原因、症状等を把握した上で治療、特に栄養食事療法をどのように進めていくかについて講義する。							
<b>【到達目標】</b>							
・各疾患の病態と栄養（食事）の関係について説明できる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、＜知識・理解＞の修得に貢献する。							
<b>【授業計画】</b>							
第1回：運動器（骨格）系疾患(1)骨粗鬆症，くる病，骨軟化症，変形性関節症 第2回：運動器（骨格）系疾患(2)サルコペニア，ロコモティブシンドローム 第3回：摂食嚥下障害 第4回：褥瘡 第5回：甲状腺機能亢進症・低下症 第6回：神経性やせ症，神経性過食症 第7回：慢性閉塞性肺疾患 第8回：貧血 第9回：食物アレルギー 第10回：がんとターミナルケア 第11回：周術期の管理 第12回：クリティカルケア 第13回：先天性代謝異常症 第14回：妊産婦疾患 第15回：てんかん							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度		20%	授業終了時に，当日の要約を記述して提出を求めるカードにより評価する。			
	レポート						
	小テスト		30%	各回の主要なポイントの理解度を評価する。			
	定期試験		50%	最終的な理解度を評価する。			
	その他						
自由記載							
<b>【受講の心得】</b>							
この授業をより理解するためには，人体の構造と機能および疾病の成り立ち（解剖・生化学・病理・医学概論），基礎栄養学を充分理解していることが重要であるので，復習しておくこと。							
<b>【授業外学修】</b>							
・事前に講義範囲をテキストで予習しておく。 ・授業の中で指示された課題等に取り組む。 ・授業後にテキストや配布プリントを読み返し，ポイントを整理する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。							
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	栄養科学イラストレイテッド臨床栄養学 疾患別編 改訂第2版		本田佳子 他 編	羊土社	2,800円+税	978-4-7581-0883-6	
自由記載							
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	臨床医学疾病の成り立ち		田中明 他 編	羊土社	2,800円+税	978-4-7581-0870-6	
自由記載							
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>							
無							
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>							
無							

授業科目名	臨床栄養学実習I		サブタイトル	(疾病に応じた栄養管理・食事療法を学ぶ)		授業番号	NP304
担当教員名	古川 愛子						
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科		単位数	1単位			
開講年次	3年		開講期	前期			
必修・選択	必修		授業形態	実習			
【授業の概要】 各種病態別に症例を呈示し、栄養状態を的確に評価・判定し、栄養ケアプランを作成する。また、医療機関における集団指導法について計画し、模擬指導を行う。							
【到達目標】 ・臨床検査、臨床診査等栄養状態のパラメータを理解し、栄養状態に関する情報収集と栄養のハイリスク者の抽出方法を学び実施できる。 ・提示された症例について栄養管理に必要な情報収集ができ、その情報から栄養評価と栄養診断を行い、栄養計画を立案できる。 ・傷病者に対する集団指導を計画し実行できる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。							
【授業計画】							
1-2回 栄養評価の方法と栄養診断の選択、栄養ケア計画の作成、栄養剤の種類と投与方法 3-4回 治療食、療養食と展開食の理解、常食作成 5-6回 高血圧症例の栄養ケア計画の作成、塩分コントロール食の考え方と献立作成 7-8回 エネルギーコントロール食の理解と献立作成、糖尿病交換表の使い方 9-10回 糖尿病症例の栄養ケア計画の作成、糖尿病治療食への展開 11-12回 腸疾患症例の栄養ケア計画の作成、易消化食への展開 13-14回 集団指導の理解と実践 15回 集団指導の発表、まとめ							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	意欲的な実習態度によって評価する			
	レポート		60%	治療食や疾病を理解し、傷病者の臨床診査、検査値等から正しくアセスメントを行っているか、栄養管理計画が立てられているかを評価する。			
	小テスト						
	定期試験						
	その他		20%	模擬集団指導を行い、プレゼンテーションの内容や表現・説明の明確さ、グループ活動への取り組みによって評価する。			
自由記載							
【受講の心得】 臨床栄養学総論、臨床栄養学各論で学んだ知識が必要である。復習を十分にやり授業に臨むこと。							
【授業外学修】 1 予習として各疾患の特徴や食事療法について理解しておくこと 2 復習として授業で学んだ内容について自分の言葉でノートに整理しておくこと 以上の内容を週当たり1時間以上学修すること							
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	トレーナーガイド 栄養食事療法の実習		本田佳子 編	医歯薬出版	2700+税	978-4-263-70651-0	
	糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版		日本糖尿病学会 編	文光堂	900+税		
自由記載							
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	臨床調理		玉川和子・口羽章子・木地明子 著	医歯薬出版	2400+税	978-4263706527	
	日本食品成分表 2020年版(七訂)		医歯薬出版編	医歯薬出版	1300	978-4263706770	
	栄養ケアプロセス用語マニュアル		公益財団法人日本栄養士会	第一出版	3400	978-4804112701	
	ビジュアル治療食300		宗像伸子 他 編	医歯薬出版株式会社	4800+税	978-4-263-70662-6	
	カラー版一品料理500選 治療食への展開		宗像伸子	医歯薬出版株式会社	4800+税	978-4-263-70650-3	
自由記載							
【担当教員の実務経験の有無】 有							
【担当教員の实務経験】 病院における栄養士、管理栄養士							
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無							
【実務経験をいかした教育内容】 病院における実務経験を活かし、傷病者に対する実践的な栄養食事療法について指導します。							

授業科目名	臨床栄養学実習II		サブタイトル	(疾病に応じた栄養アセスメント・栄養管理法を学ぶ)		授業番号	NP305
担当教員名	古川 愛子						
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	1単位		
開講年次	3年			開講期	後期		
必修・選択	必修			授業形態	実習		
<b>【授業の概要】</b> 代表的な疾患の症例を取り上げて栄養状態を的確に評価・判定し、栄養ケアプランを作成する。また、ケアプランに基づいた指導計画を立案し、臨床の現場を想定した模擬指導を行う。							
<b>【到達目標】</b> 症例に基づいた栄養ケアプランを立案し、ロールプレイ等の手法で医療機関における個人指導について実践し栄養ケアマネジメントの技術を修得する。実践した栄養ケアプランや個人指導の内容について討論、評価、是正できる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。							
<b>【授業計画】</b> 1-2回 たんぱく質コントロール食の実際、腎臓病交換表の使い方 3-4回 腎疾患患者の栄養ケアマネジメントと腎臓病食への展開 5-6回 腎臓病食の調理計画、透析患者の栄養ケアマネジメント 7-8回 栄養食事指導計画について説明、腎臓病治療食の調理 9-10回 腎疾患患者に対する栄養食事指導計画 11-12回 栄養食事指導の発表と栄養指導記録の記入 13-14回 症例検討と栄養食事指導の計画 15回 栄養食事指導の発表と栄養指導記録の記入・まとめ							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	積極的な授業態度、グループ活動に対する協力、質疑などにより評価する。			
	レポート		50%	栄養ケアマネジメント計画や栄養指導内容から評価する。			
	小テスト						
	定期試験						
	その他		30%	模擬指導を行い、プレゼンテーションの内容や表現・説明の明確さによって評価する。			
自由記載							
<b>【受講の心得】</b> 各疾患に応じた栄養管理法に基づいて、栄養アセスメント、栄養診断、栄養ケア計画を作成し、実施までを理解した上で受講すること。各事例に応じて、栄養ケアマネジメントの実践および教育媒体の作成やコミュニケーション法についてロールプレイを通じて学ぶため、栄養教育について復習が必要である。							
<b>【授業外学修】</b> 1, 授業に用いる教科書および関連資料を次回授業までに読んでおく。 2, 授業中の記録用紙に記入し、期日までに提出する。 3, 授業に関連した項目についてレポートを作成する。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。							
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	栄養食事療法の実習栄養ケアマネジメント		本田佳子編	医歯薬出版	2,700円+税	978-4-263-70651-0	
	腎臓病食品交換表		黒川清	医歯薬出版	1500円+税	978-4-263-70674-9	
	自由記載						
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	栄養科学イラストレイテッド 臨床栄養学 疾患別編		本田佳子編	羊土社	2800円+税	978-4-7581-0883-6	
	臨床調理 第7版		玉川和子 他	医歯薬出版株式会社	2400+税	978-4-263-70652-7	
	栄養管理プロセス		木戸康博 他 編	第一出版	3500+税	978-4-8041-1385-2	
	カラー版一品料理500選 治療食への展開		宗像伸子	医歯薬出版株式会社	4800+税	978-4-263-70650-3	
	ビジュアル治療食300		宗像伸子 他 編	医歯薬出版株式会社	4800+税	978-4-263-70662-6	
自由記載							
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有							
<b>【担当教員の实務経験】</b> 病院における栄養士、管理栄養士							
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無							
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 病院における実務経験を活かし、傷病者に対する実践的な栄養食事療法および栄養食事指導について指導します。							

授業科目名	栄養マネジメント		サブタイトル		授業番号	NP306																														
担当教員名	小野 尚美 森光 大 石井 恭子 秋山 恭子																																			
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位																															
開講年次	3年			開講期	後期																															
必修・選択	選択			授業形態	講義																															
<b>【授業の概要】</b>																																				
<p>栄養マネジメントでは、臨床栄養学総論、臨床栄養学各論、臨床栄養学実習で学修した知識をもとに、傷病者の病態や栄養状態に基づいた適切な栄養管理マネジメント（栄養管理プロセス）について学ぶ。前半は栄養管理マネジメントをするために必要な知識（スクリーニングの仕方、情報の収集と評価、栄養診断、栄養素量等の設定方法等）について講義する。後半は、各疾患の症例に対する栄養管理マネジメントについて講義する。</p>																																				
<b>【到達目標】</b>																																				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養管理マネジメント、栄養管理プロセスについて説明できる。</li> <li>・栄養スクリーニングができる。</li> <li>・症例に対する栄養診断ができる。</li> <li>・栄養管理実施記録にSOAPに基づいた記録ができる</li> </ul> <p>本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち&lt;思考・問題解決能力&gt;&lt;技能&gt;の修得に貢献する。</p>																																				
<b>【授業計画】</b>																																				
<table border="0"> <tr> <td>第1回：栄養管理マネジメント（栄養管理プロセス）の概要</td> <td>（担当小野尚美）</td> </tr> <tr> <td>第2回：栄養スクリーニングの実際(1)栄養スクリーニング法の比較</td> <td>（担当小野尚美）</td> </tr> <tr> <td>第3回：栄養スクリーニングの実際(2)症例を用いた栄養スクリーニング</td> <td>（担当小野尚美）</td> </tr> <tr> <td>第4回：栄養アセスメント</td> <td>（担当小野尚美）</td> </tr> <tr> <td>第5回：栄養状態の判定（栄養診断）</td> <td>（担当小野尚美）</td> </tr> <tr> <td>第6回：栄養管理計画の作成(1)目標量の設定方法（エネルギー、たんぱく質）</td> <td>（担当小野尚美）</td> </tr> <tr> <td>第7回：栄養管理計画の作成(2)目標量の設定方法（炭水化物、脂質、水分他）</td> <td>（担当小野尚美）</td> </tr> <tr> <td>第8回：糖尿病患者の栄養管理マネジメント</td> <td>（担当秋山恭子）</td> </tr> <tr> <td>第9回：脂質異常症患者の栄養管理マネジメント</td> <td>（担当秋山恭子）</td> </tr> <tr> <td>第10回：高血圧症患者の栄養管理マネジメント</td> <td>（担当秋山恭子）</td> </tr> <tr> <td>第11回：腎疾患患者の栄養管理マネジメント</td> <td>（担当秋山恭子）</td> </tr> <tr> <td>第12回：高齢者の栄養管理マネジメント</td> <td>（担当石井恭子）</td> </tr> <tr> <td>第13回：低栄養患者の栄養管理マネジメント</td> <td>（担当森光大）</td> </tr> <tr> <td>第14回：摂食嚥下障害患者の栄養管理マネジメント</td> <td>（担当石井恭子）</td> </tr> <tr> <td>第15回：褥瘡患者の栄養管理マネジメント</td> <td>（担当森光大）</td> </tr> </table>							第1回：栄養管理マネジメント（栄養管理プロセス）の概要	（担当小野尚美）	第2回：栄養スクリーニングの実際(1)栄養スクリーニング法の比較	（担当小野尚美）	第3回：栄養スクリーニングの実際(2)症例を用いた栄養スクリーニング	（担当小野尚美）	第4回：栄養アセスメント	（担当小野尚美）	第5回：栄養状態の判定（栄養診断）	（担当小野尚美）	第6回：栄養管理計画の作成(1)目標量の設定方法（エネルギー、たんぱく質）	（担当小野尚美）	第7回：栄養管理計画の作成(2)目標量の設定方法（炭水化物、脂質、水分他）	（担当小野尚美）	第8回：糖尿病患者の栄養管理マネジメント	（担当秋山恭子）	第9回：脂質異常症患者の栄養管理マネジメント	（担当秋山恭子）	第10回：高血圧症患者の栄養管理マネジメント	（担当秋山恭子）	第11回：腎疾患患者の栄養管理マネジメント	（担当秋山恭子）	第12回：高齢者の栄養管理マネジメント	（担当石井恭子）	第13回：低栄養患者の栄養管理マネジメント	（担当森光大）	第14回：摂食嚥下障害患者の栄養管理マネジメント	（担当石井恭子）	第15回：褥瘡患者の栄養管理マネジメント	（担当森光大）
第1回：栄養管理マネジメント（栄養管理プロセス）の概要	（担当小野尚美）																																			
第2回：栄養スクリーニングの実際(1)栄養スクリーニング法の比較	（担当小野尚美）																																			
第3回：栄養スクリーニングの実際(2)症例を用いた栄養スクリーニング	（担当小野尚美）																																			
第4回：栄養アセスメント	（担当小野尚美）																																			
第5回：栄養状態の判定（栄養診断）	（担当小野尚美）																																			
第6回：栄養管理計画の作成(1)目標量の設定方法（エネルギー、たんぱく質）	（担当小野尚美）																																			
第7回：栄養管理計画の作成(2)目標量の設定方法（炭水化物、脂質、水分他）	（担当小野尚美）																																			
第8回：糖尿病患者の栄養管理マネジメント	（担当秋山恭子）																																			
第9回：脂質異常症患者の栄養管理マネジメント	（担当秋山恭子）																																			
第10回：高血圧症患者の栄養管理マネジメント	（担当秋山恭子）																																			
第11回：腎疾患患者の栄養管理マネジメント	（担当秋山恭子）																																			
第12回：高齢者の栄養管理マネジメント	（担当石井恭子）																																			
第13回：低栄養患者の栄養管理マネジメント	（担当森光大）																																			
第14回：摂食嚥下障害患者の栄養管理マネジメント	（担当石井恭子）																																			
第15回：褥瘡患者の栄養管理マネジメント	（担当森光大）																																			
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考																																	
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な学習態度、レポートの提出状況によって評価する																																	
	レポート	50%	課題について、正しく記載されているかを評価する																																	
	小テスト	30%	理解度を評価する																																	
	定期試験																																			
	その他																																			
	自由記載																																			
<b>【受講の心得】</b>																																				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に示す疾患等について十分に学習し授業に臨むこと。</li> </ul>																																				
<b>【授業外学修】</b>																																				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に授業の内容をテキストで予習しておく。</li> <li>・授業の中で指示された課題等に取り組む。</li> <li>・授業中に配布されたプリントやテキストを読み返し、ポイントを整理しておく。</li> </ul> <p>以上の内容を週4時間以上学修すること。</p>																																				
使用テキスト	自由記載																																			
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN																															
	栄養科学イラストレイテッド臨床栄養学 基礎編	本田佳子 他 編	羊土社	2,700円+税	978-4-7581-0882-9																															
	栄養科学イラストレイテッド臨床栄養学 疾患別編 改訂第2版	本田佳子 他 編	羊土社	2,800円+税	978-4-7581-0883-6																															
	自由記載																																			
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>																																				
有																																				
<b>【担当教員の实務経験】</b>																																				
施設の実習指導者(石井 恭子)																																				
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>																																				
無																																				
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>																																				
<p>学生が管理栄養士に必要な能力を身につけるため高齢者福祉施設の現場の実習指導者の指導の下、高齢者を対象に身体状況や栄養状態を評価することができ、他職種と連携して問題解決のための栄養ケア計画及び栄養指導・支援ができる技能を修得することができる。(石井 恭子)</p>																																				

授業科目名	公衆栄養学I		サブタイトル	授業番号	NQ301
担当教員名	辻本 美由喜				
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	2単位		
開講年次	3年	開講期	前期		
必修・選択	必修	授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>					
公衆栄養学は、人間集団を対象とする学問であり、公衆栄養活動という実践を伴う学問である。そこで、地域や職域での健康・栄養問題と実践されている公衆栄養活動を知り、栄養政策を知る。					
<b>【到達目標】</b>					
(1) 公衆栄養学の概念を知るために、健康・栄養問題の現状と課題について学び、栄養政策を理解できるようになる。					
(2) 現在展開されている公衆栄養活動の実践を理解するために、その根拠となっている健康増進や食育関係の法律と地方計画について学び、ひとり一人が健康づくり等を実践できるようになる。					
なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、知識・理解 思考・問題解決能力 の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：公衆栄養の概念 第2回：公衆栄養活動 第3回：健康・栄養問題の現状と課題 (1) 社会環境と健康・栄養問題 第4回：健康・栄養問題の現状と課題 (2) 健康状態の変化 第5回：健康・栄養問題の現状と課題 (3) 食事の変化 第6回：健康・栄養問題の現状と課題 (4) 食生活の変化 第7回：健康・栄養問題の現状と課題 (5) 食環境の変化 第8回：健康・栄養問題の現状と課題 (6) 諸外国の健康・栄養問題の現状と課題 第9回：栄養政策 (1) わが国の公衆栄養活動と公衆栄養関係法規 第10回：栄養政策 (2) わが国の管理栄養士・栄養士制度 第11回：栄養政策 (3) 国民健康・栄養調査 第12回：栄養政策 (4) 実施に関連する指針・ツール 第13回：栄養政策 (5) 国の健康増進の基本方針と地方計画 第14回：栄養政策 (6) 食育推進基本計画と食育の推進 第15回：まとめ 公衆栄養活動の全体像をつかむ					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	25%	意欲的な学習態度や予・復習の状況などをアンケート調査によっても評価する。		
	レポート	10%	課題の背景や解決策について具体的に述べていること。コメントを記入後、返却する。		
	小テスト	15%	各回の主要なポイントの理解度を評価する。		
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。		
	その他				
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b>					
(1) 「公衆衛生学」、「栄養学」、「食品学」等の基礎分野の理解を深めておく。					
(2) 公衆栄養に関する新聞記事等に関心を持ち読むこと。					
<b>【授業外学修】</b>					
(1) 授業の初めに予習に関する小テストを行うので、テキストや参考文献を次回授業までに読んでおく。					
(2) 前回授業内容に関する復習テストも行うので、2時間以上復習をしておく。					
(3) 随時出す課題について、レポートを作成する。					
以上の内容を、週当たり4時間以上学修する。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	カレント公衆栄養学第2版	由田克士・押野榮司	建帛社	2,600円	
	自由記載	『日本人の食事摂取基準』(2020年版)第1出版			
参考書	自由記載	『国民栄養の現状』健康・栄養情報研究会編 第一出版 『国民衛生の動向』財団法人厚生統計協会 『栄養調理六法』栄養調理関係法令研究会 『佐々木敏の栄養データはこう読む!』佐々木敏 女子栄養大学出版部			
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>				
	有				
	<b>【担当教員の实務経験】</b>				
	健康推進関係課長, 社会福祉協議会事務局長, 養護老人ホーム施設長等の管理職, 行政と学校給食の管理栄養士, 健康運動実践指導者				
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
学生が管理栄養士に必要な能力を身につけるために、公衆栄養活動の実際や栄養政策の進め方、地方計画の策定方法、多職種連携と協働などによる地域の健康づくりを通して、住民の健康・栄養問題を効果的に解決する技能を修得させる。					



授業科目名	公衆栄養学II		サブタイトル	授業番号	NQ302
担当教員名	辻本 美由喜				
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	2単位		
開講年次	3年	開講期	後期		
必修・選択	必修	授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b> 栄養疫学の意義や公衆栄養マネジメントの考え方を学び、地域で展開されている公衆栄養活動の展開を理解する。					
<b>【到達目標】</b> (1) 公衆栄養マネジメントの基本的な考え方を理解するために、公衆栄養のアセスメントの目的や方法について学び、栄養疫学の意義を理解できるようになる。 (2) 総合的な視野から公衆栄養活動ができる力を養うために、具体的な公衆栄養活動の事例を通して、地域での公衆栄養プログラムの展開について学び、自ら健康づくりを実行できるようになる。 なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、知識・理解 問題・解決能力 の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：栄養疫学（1）栄養疫学の概要 第2回：栄養疫学（2）暴露情報としての食事摂取量 第3回：栄養疫学（3）食事摂取量の測定方法 第4回：栄養疫学（4）食事摂取量の評価方法 第5回：公衆栄養マネジメント（1）公衆栄養マネジメントとアセスメント 第6回：公衆栄養マネジメント（2）公衆栄養プログラムの目標設定と計画 第7回：公衆栄養マネジメント（3）公衆栄養プログラムの評価 第8回：公衆栄養プログラムの展開（1）地域特性に対応したプログラムの展開：健康づくり、食育 第9回：公衆栄養プログラムの展開（2）地域特性に対応したプログラム：在宅療養、介護支援 第10回：公衆栄養プログラムの展開（3）地域特性に対応したプログラム：健康食生活の危機管理と食支援 第11回：公衆栄養プログラムの展開（5）地域栄養ケアのためのネットワークづくり 第12回：公衆栄養プログラムの展開（6）食環境づくりのためのプログラムの展開 第13回：公衆栄養プログラムの展開（7）地域集団の特性別プログラムの展開：ライフステージ別 第14回：公衆栄養プログラムの展開（8）地域集団の特性別プログラムの展開：生活習慣病ハイリスク集団 第15回：まとめ 公衆栄養活動の理論と手法、実際の活動					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	25%	意欲的な学習態度や予・復習の状況などをアンケート調査によっても評価する。		
	レポート	10%	課題の背景や解決策について具体的に述べていること。コメントを記入後、返却する。		
	小テスト	15%	各回の主要なポイントの理解度を評価する。		
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。		
	その他				
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b> (1) 「公衆衛生学」、「栄養学」、「食品学」、「栄養教育論」、「応用栄養学の栄養マネジメント」等の理解を深めておく。 (2) 公衆栄養に関する新聞記事等に関心を持ち読む。					
<b>【授業外学修】</b> (1) 授業の初めに予習に関する小テストを行うので、テキストや参考文献を次回授業までに読んでおく。 (2) 前回授業内容に関する小テストも行うので、2時間以上復習をしておく。 (3) 随時授業終了時に出す課題について、レポートを作成する。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修する。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	カレント公衆栄養学第2版	由田克士・押野榮司	建帛社	2,600円	
	自由記載	『日本人の食事摂取基準』（2020年版）第1出版			
参考書	自由記載	『食事調査のすべて 栄養疫学』健田中平三 監訳 第一出版 『佐々木敏の栄養データはこう読む』佐々木敏 著 女子栄養大学出版部 『データ栄養学のすすめ』佐々木敏 著 女子栄養大学出版部			
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有				
	<b>【担当教員の实務経験】</b> 健康推進関係課長、社会福祉協議会事務局長、養護老人ホーム施設長等の管理職、行政と学校給食の管理栄養士、健康運動実践指導者				
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 学生が管理栄養士に必要な能力を身に着けるために、公衆栄養活動の実際や栄養政策の進め方、地方計画の策定方法、多職種連携と協働などによる地域づくりの展開を通して、公衆栄養プログラムの立案とマネジメント、展開ができる力を修得させる。					

授業科目名	公衆栄養学実習I		サブタイトル	授業番号	NQ303
担当教員名	辻本 美由喜				
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	1単位		
開講年次	3年	開講期	後期		
必修・選択	必修	授業形態	実習		
<b>【授業の概要】</b> 地域や職域での健康と栄養の状況を知り、そこから課題や実践方法を考える。そのために必要な手法を熟知し、個人及び団体の食事状況を把握、分析、評価、計画を作成することにより、栄養活動のマネジメント能力を養う。					
<b>【到達目標】</b> (1) 既存資料から公衆栄養上の課題を抽出するために、ワークショップや指導媒体の作成などにより、解決方法を考えることができる。 (2) 個人、集団の栄養状態の分析、評価、指導計画を作成する力をつけるために食事調査を行い、指導することができる。 (3) 公衆栄養マネジメント能力を培うために、調理実習やヘルスチェックなどにより、食事・運動・休養のとり方を考え、一人一人が健康的な生活を送ることができる。 なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、知識・理解 思考・問題解決能力 の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1・2回 公衆栄養の現状と課題とその解決方法 第3・4回 食事調査の精度を高めるための食品の目安量や重量の把握と献立作成 第5・6回 24時間思い出し法による食事調査とその評価 第7・8回 食事記録法による食事調査とその評価 第9・10回 公衆栄養の実践活動と災害時の公衆栄養活動 第11・12回 日本人の食事摂取基準(2020年版)による個人の評価と栄養指導 第13・14回 日本人の食事摂取基準(2020年版)による集団の評価と栄養指導 第15回 公衆栄養活動の実践についての体験と自らの健康的な生活方法の修得					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	55%	ワークショップや実習等への意欲的な学習態度と、予・復習の状況などをアンケートによっても評価する。		
	レポート	30%	課題について具体的に作成できていること。コメントを記入後、返却する。		
	小テスト	15%	各回の主要なポイントの理解度を評価する。		
	定期試験				
	その他				
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b> 「公衆栄養学」、「公衆衛生学」、「食品学」、「栄養学」等の基礎分野の理解を深めておく。					
<b>【授業外学修】</b> (1) 授業の初めに予習に関する小テストを行うので、テキストや参考文献を次回授業までに読んでおく。 (2) 前回授業に関する復習テストも行うので、2時間以上復習をしておく。 (3) 随時出す課題について、レポートを作成する。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	公衆栄養学実習第2版	手島哲子, 田中久子	同文書院	2,000円	
	自由記載	『カレント公衆栄養学』第2版 由田克士・押野栄司 編著, 建帛社 『日本人の食事摂取基準』(2020年版) 第1出版			
参考書	自由記載	『国民栄養の現状』『国民・健康栄養調査結果』健康・栄養情報研究会 編, 第一出版 『食事調査マニュアル・はじめの第1歩から実践応用まで』日本栄養改善学会 監修, 南山堂			
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有				
	<b>【担当教員の实務経験】</b> 健康推進関係課長, 社会福祉協議会事務局長, 養護老人ホーム施設長等の管理職, 行政と学校給食の管理栄養士, 健康運動実践指導者				
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 有					
<b>【担当教員以外の指導に関わる実務経験者】</b> 岡山県南部健康づくりセンターの栄養士(実習指導者)					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 公衆栄養活動で求められる知識や技術を身に着けるために、様々な公衆栄養活動の実習により、公衆栄養マネジメントの進め方を指導する。(担当教員) 健康づくり能力を身に着けるために、実習指導者によるヘルスチェックや指導により、健康づくりへの理解を深めるとともに食に関する指導ができる技能を修得させる。 (実習指導者)					

授業科目名	給食経営管理論		サブタイトル		授業番号	NR201
担当教員名	北島 葉子					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	後期			
必修・選択	必修	授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b>						
給食経営管理論では、特定給食施設における利用者の健康や栄養状態の改善・維持・増進等を目標とした栄養食事管理を実践するために、給食運営や関連の資源を判断し、栄養面、安全面、経営管理全般のマネジメントを行う能力を養う。また、マーケティングの原理や応用を理解するとともに、組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を学修する。						
IIにおいては、基礎的な学修並びに食事の計画・生産・サービスといった献立管理、材料管理、生産管理、栄養食事管理や安全な食事を提供するための衛生管理など給食サービス提供に関する知識と技術を学ぶ。また、給食の有用性としてどのような製品をつくり、サービスするか、どのように効率的につくるかの仕組みを計画しマネジメントを行うことや安全のための労務・衛生・危機管理などトータルマネジメントを行うための知識と技術を学ぶ。						
<b>【到達目標】</b>						
(1)管理栄養士業務の意義と重要性を認識し、特定給食施設における、利用者の栄養管理を目的とした食事提供を行うための計画・実施・評価・改善のマネジメントサイクルを理解できる。						
(2)衛生管理について十分に理解できる。						
(3)マーケティングの原理や応用を理解するとともに、給食に関わる組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を修得する。						
(4)給食運営に関わる原価管理を含めた費用構成を理解し、分析しコストの計画と評価ができる。						
(5)管理者に求められる事故や災害時を想定した日常の準備や対策について理解できる。						
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：給食経営管理の理論：給食の目的と役割、給食施設の種類と関連法規、給食施設の経営理念と組織						
第2回：給食システム：給食経営管理におけるシステムの概要						
第3回：給食システム：オペレーションシステムと資源の活用						
第4回：栄養・食事管理：栄養食事管理とPDCAサイクル						
第5回：献立管理：献立作成基準と食品構成、日本人の食事摂取基準、献立作成、作業指示書の役割、献立の評価						
第6回：材料管理：給食の食材料の特徴、購入業者の選定方法と契約方法、購入計画、食材料の保管方法						
第7回：生産管理：大量調理の方法と技術、配膳方法、作業管理						
第8回：衛生管理：衛生管理の意義、食中毒と感染症の特徴、食中毒発生時の対応、HACCPの概要						
第9回：衛生管理：大量調理施設衛生管理マニュアル						
第10回：施設・設備管理：作業動線とゾーニング、大量調理機器の種類と特徴、食器・食具						
第11回：給食とマーケティング：マーケティングの定義・基本プロセス・戦略						
第12回：品質管理：設計品質と適合品質、総合品質と満足度、品質と標準化						
第13回：人事管理：給食施設・部門の組織、雇用形態、能力開発						
危機管理：事故対策・自然災害対策と対応						
情報管理：顧客・従業員・経営情報の管理、帳票の種類と管理						
第14回：原価管理：給食の原価、財務帳表						
第15回：原価管理：費用分析						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート					
	小テスト	10%	各回の主要なポイントの理解を評価する。			
	定期試験	90%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
理論のみならず、理論が実際に活かせるよう演習も取り入れるため、積極的に取り組み理解を深めること。また、本科目は他教科と多くの部分で重なり、応用の部分を担っているため、各教科と関連づけて学修すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
(1)授業計画に合わせて教科書の該当項目を熟読し、予習をしておくこと。						
(2)毎回授業終了時に小テストを行い、次の授業で解説を行うので復習をしておくこと。						
(3)3年生の給食管理実習Iで提供する給食を試食し、給食経営管理について理解を深めること。						
(4)日常の出来事、給食を取り巻く経済情勢の変化などに興味を持ち、幅広い視点で「食」をとらえられるように心がける。						
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	給食経営管理論 給食の運営から給食経営管理への展開	石田裕美/富田教代 編	医歯薬出版	2,800円+税		
	管理栄養士 栄養士 必携 2019年度版	日本栄養士会 編	第一出版	2,600円+税		
	Plan-Do-Check-Actにそった給食運営・経営管理実習のてびき第5版	西川貴子 他	医歯薬出版	2,100円+税		
	自由記載					
参考書	自由記載	「給食経営管理論 改訂第2版」、鈴木久乃/君羅満/石田裕美 編集、南江堂 「給食経営管理論 新しい時代のフードサービスとマネジメント 第3版」、中山玲子、小切間美保 編、化学同人 「給食経営管理論 給食のトータルマネジメント 第3版」、富岡和夫/富田教代 編著、医歯薬出版株式会社				
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
	<b>【担当教員の实務経験】</b>					
	病院、介護老人保健施設における栄養士、管理栄養士					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
病院および介護老人保健施設における実務経験を活かして、給食経営管理の実際について指導する。						

授業科目名	給食経営管理論II		サブタイトル		授業番号	NR302
担当教員名	北島 葉子					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科		単位数	2単位		
開講年次	3年		開講期	前期		
必修・選択	必修		授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>						
給食経営管理論では、特定給食施設における利用者の健康や栄養状態の改善・維持・増進等を目標とした栄養食事管理を実践するために、給食運営や関連の資源を判断し、栄養面、安全面、経営管理全般のマネジメントを行う能力を養う。また、マーケティングの原理や応用を理解するとともに、組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を学修する。						
IIIにおいては、医療施設、高齢者・介護福祉施設、児童福祉施設、障がい者福祉施設、学校、事業所等の特定給食施設ごとの利用者の特徴、給食の目的、関連法規について学修する。それによるサブシステム（献立管理、材料管理、生産管理、栄養食事管理、衛生管理、原価管理、労務管理、危機管理等）および給食のシステム等について施設の種類ごとの特徴をとらえたマネジメントの考え方や方法を学修する。						
<b>【到達目標】</b>						
(1)各種特定給食施設における給食の意義と役割、経営理念と経営形態を説明できる。						
(2)各種特定給食施設の種類別の展開（ライフステージ別の食事計画や具体的な調理特性）を理解できる。						
(3)利用者の栄養管理を目的とした食事提供を行うための計画・実施・評価・改善のマネジメントサイクルを理解できる。						
(4)各種特定給食施設における給食に関わる組織管理などのマネジメントの考え方や方法を修得する。						
(5)各種特定給食施設における給食運営に関わる原価管理を含めた費用構成を理解し、分析しコストの計画と評価ができる。						
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：医療施設における給食経営管理：給食の意義と対象者の特性、管理栄養士・栄養士の配置と関連法規、組織・運営形態の特徴						
第2回：医療施設における給食経営管理：献立・食事形態の特徴、給食システムの特徴						
第3回：医療施設における給食経営管理：入院時食事療養制度と入院時生活療養制度と給食費、給食と栄養教育						
第4回：高齢者・介護福祉施設における給食経営管理：給食の意義と対象者の特性、管理栄養士・栄養士の配置と関連法規、組織・運営形態の特徴						
第5回：高齢者・介護福祉施設における給食経営管理：献立・食事形態の特徴、給食システムの特徴						
第6回：高齢者・介護福祉施設における給食経営管理：給食費、給食と栄養教育						
第7回：児童福祉施設、障がい者福祉施設における給食経営管理：給食の意義と対象者の特性、管理栄養士・栄養士の配置と関連法規、組織・運営形態の特徴						
第8回：児童福祉施設、障がい者福祉施設における給食経営管理：献立・食事形態の特徴、給食システムの特徴						
第9回：児童福祉施設、障がい者福祉施設における給食経営管理：給食費、給食と栄養教育						
第10回：学校における給食経営管理：給食の意義と対象者の特性、管理栄養士・栄養士の配置と関連法規、組織・運営形態の特徴						
第11回：学校における給食経営管理：献立・食事形態の特徴、給食システムの特徴						
第12回：学校における給食経営管理：給食費、給食と栄養教育						
第13回：事業所、その他の給食施設における給食経営管理：給食の意義と対象者の特性、管理栄養士・栄養士の配置と関連法規、組織・運営形態の特徴						
第14回：事業所、その他の給食施設における給食経営管理：献立・食事形態の特徴、給食システムの特徴						
第15回：事業所、その他の給食施設における給食経営管理：給食費、給食と栄養教育						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート					
	小テスト	10%	各回の主要なポイントの理解を評価する。			
	定期試験	90%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
理論のみならず、理論が実際に活かせるよう演習も取り入れるため、積極的に取り組み理解を深めること。また、本科目は他教科と多くの部分で重なり、応用の部分を担っているため、各教科と関連づけて学修すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
(1)授業計画に合わせて教科書の該当項目を熟読し、予習をしておくこと。						
(2)毎回授業終了時に小テストを行い、次の授業で解説を行うので復習をしておくこと。						
(3)日常の出来事、給食を取り巻く経済情勢の変化などに興味を持ち、幅広い視点で「食」をとらえられるように心がける。						
(4)給食経営管理論の復習をしておくこと。						
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	給食経営管理論 給食の運営から給食経営管理への展開	石田裕美/富田教代 編	医歯薬出版	2,800円+税		
	管理栄養士 栄養士 必携 2019年度版	日本栄養士会 編	第一出版	2,600円+税		
	Plan-Do-Check-Actにそった給食運営・経営管理実習のてびき第5版	西川貴子 他	医歯薬出版	2,100円+税		
	自由記載					
参考書	自由記載	「給食経営管理論 改訂第2版」、鈴木久乃/君羅満/石田裕美 編集、南江堂「給食経営管理論 新しい時代のフードサービスとマネジメント 第3版」、中山玲子、小切間美保 編、化学同人「給食経営管理論 給食のトータルマネジメント 第3版」、富岡和夫/富田教代 編著、医歯薬出版株式会社				
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>	有				
	<b>【担当教員の実務経験】</b>	病院、介護老人保健施設における栄養士、管理栄養士				
	<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>	無				
	<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>	病院および介護老人保健施設における実務経験を活かして、給食経営管理の実際について指導する。				

授業科目名	給食管理基礎実習		サブタイトル	授業番号	NR303
担当教員名	北島 葉子				
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	1単位		
開講年次	3年	開講期	前期		
必修・選択	必修	授業形態	実習		
<b>【授業の概要】</b>					
給食経営管理論I及び関連科目（栄養学、食品学、衛生学、調理学等）で学んだ理論と知識・技術をいかして、特定給食施設の利用者を対象とした食事計画、献立管理、調理作業の計画、施設・設備管理、衛生管理等をPDCAサイクル（計画・実施・評価・改善）に沿って学修する。					
<b>【到達目標】</b>					
(1)食事計画、献立、調理作業計画を作成できる。 (2)大量調理機器の取扱い、大量調理の方法、衛生管理の実際について理解できる。 (3)給食管理業務をPDCAサイクルに沿って実践できる。 (4)給食管理実習Iへ活かす基本内容を修得する。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜技能＞の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1～2回 HACCPに準じた調理室の使い方、厨房機器の使い方、食器洗浄の仕方と食器の種類や材質の把握 第3～4回 特定給食施設での献立作成の基本、給与栄養目標量の設定、献立作成 第5～6回 献立作成、栄養価計算 第7～8回 試作 第9～10回 献立の検討と決定、栄養価計算、給食日報の作成 第11～12回 大量調理基礎実習、給食日報の作成 第13～14回 大量調理基礎実習、作業工程表の作成 第15回 評価、改善、まとめ、実習ノートを整理し、提出する					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	60%	意欲的な実習態度によって評価する。		
	レポート	40%	各回のレポート等の提出物と実習ファイル（ノート）が、具体的・理論的に書かれているか、また、実習の内容、得られた結果や記録を整理しまとめることができているか等を評価する。		
	小テスト				
	定期試験				
	その他				
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b>					
各回の授業の前に、日程表を確認して、実習内容を把握し、自主学習をして臨むこと。また、この実習は、学生たちが主体となって進めるため、自主的に取り組む姿勢が必要である。					
<b>【授業外学修】</b>					
(1)給食経営管理論Iの復習をする。特に、大量調理施設衛生管理マニュアルと日本人の食事摂取基準に則した給与栄養目標量の算出方法について復習しておくこと。 (2)食材の旬、価格、分量などを把握するために必要な情報を収集すること。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	Plan-Do-Check-Actにそった給食運営・経営管理実習のてびき第5版	西川貴子 他	医歯薬出版	2,100円＋税	
	はじめての大量調理	殿塚婦美子 他著	学建書院		
	自由記載				
参考書	自由記載	「日本人の食事摂取基準（2015年版）」、菱田明/佐々木敏 監修、第一出版「大量調理 品質管理と調理の実際」、殿塚婦美子 編著、学建書院「給食施設のための献立作成マニュアル 第9版」、赤羽正之 他著、医歯薬出版株式会社 「給食マネジメント実習」、松月弘恵 他著、医歯薬出版株式会社「新ビジュアル 食品成分表」、大修館書店			
		<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有			
		<b>【担当教員の实務経験】</b> 病院、介護老人保健施設における栄養士、管理栄養士			
		<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無			
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
病院および介護老人保健施設における実務経験を活かして、給食経営管理の実際について指導する。					

授業科目名	給食管理実習I		サブタイトル	授業番号	NR304	
担当教員名	北島 葉子					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	1単位			
開講年次	3年	開講期	後期			
必修・選択	必修	授業形態	実習			
<b>【授業の概要】</b>						
給食経営管理論I・II、給食管理基礎実習及び関連科目（栄養学、食品学、衛生学、調理学等）で学んだ理論と知識・技術をいかして、少人数のグループに分かれ、特定給食施設での給食を想定して学内での模擬給食を実施する。栄養・食事管理、材料管理、生産管理、衛生管理、原価管理、事務管理等、給食管理業務をマネジメントする方法を学修する。						
<b>【到達目標】</b>						
(1)実習計画に基づき各自の給食管理業務を果たしながら、協力、連携、責任の重要性を理解できる。						
(2)栄養食事管理、材料管理、生産管理、衛生管理、原価管理等の計画、実施、評価に関わる帳票類の作成ができ、給食業務が遂行できる。						
(3)大量調理施設衛生管理マニュアルに沿った衛生管理ができる。						
(4)給食の管理運営に関する管理栄養士としての実践力を修得する。						
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回 実習の進め方（冊子配布）、衛生管理、実習全体の献立・料理について説明、実習室整備を行う。						
第2～14回 1クラスを2グループ（4班）に分け、各グループが以下の全部の係（作業）を体験できるように編成する。						
1）次回管理栄養士係：次回実施予定献立表を試作・検討し、実施献立を決定する。作業計画、発注業務、栄養教育指導媒体の作成を行う。予定献立については、対象者の給与栄養目標量、食品構成、嗜好、季節、コストを考慮し、事前に作成しておく。						
2）管理栄養士係：給食全体について責任を担う。大量調理施設衛生管理マニュアルに沿った作業指示、品質管理等を行う。作業後、帳票類の整理、調査結果（喫食者アンケート、残食状況）を集計し、各種計画に対する評価・検討を行う。前日に検収、打合わせを実施する。						
3）調理師（衛生）係：管理栄養士係の指示に従い、非汚染作業区域の調理作業（調理、盛り付け）、給食サービス、後片づけ（器具の洗浄・消毒、清掃）を行う。作業後、実際に作業した立場からその日の作業について評価を行う。						
4）調理員（衛生）係：管理栄養士係の指示に従い、汚染作業区域の調理作業（下処理）、給食サービス、後片づけ（器具の洗浄・消毒、清掃）を行う。また、適切に衛生管理が行われているか検査する。作業後、実際に作業した立場からその日の作業について評価を行う。						
第15回 発表、まとめ、実習ノートを整理し、提出する。						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		65%	意欲的な実習態度によって評価する。		
	レポート		35%	各回のレポート等の提出物と実習ファイル（ノート）が、具体的・理論的に書かれているか、また、実習の内容、得られた結果や記録を整理しまとめることができているか等を評価する。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
実習計画に基づき、各自が分担の作業を果たしながら、協力と責任の重要性を学び、給食運営の手順、方法を体得する実習である。事前準備、事後のまとめなど、時間外に実施しなければならないこともあり、意欲的に取り組む姿勢が必要である。						
<b>【授業外学修】</b>						
(1)給食経営管理論I・IIおよび給食管理基礎実習の復習をする。						
(2)給食実施における喫食者アセスメント、給与栄養目標量の設定、献立作成、食材料管理、作業工程表の作成、大量調理、食事提供、施設設備管理、衛生管理、給食評価等のポイントの理解を深めておくこと。						
以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	lan-Do-Check-Actにそった給食運営・経営管理実習のてびき第5版		西川貴子 他	医歯薬出版	2,100円＋税	
	はじめての大量調理		殿塚婦美子 他著	学建書院		
自由記載						
参考書	自由記載		「日本人の食事摂取基準（2015年版）」、菱田明/佐々木敏監修、第一出版「大量調理品質管理と調理の実際」、殿塚婦美子編著、学建書院「給食施設のための献立作成マニュアル第9版」、赤羽正之他著、医歯薬出版株式会社「給食マネジメント実習」、松月弘恵他著、医歯薬出版株式会社			
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
	<b>【担当教員の实務経験】</b>					
病院、介護老人保健施設における栄養士、管理栄養士						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
病院および介護老人保健施設における実務経験を活かして、給食経営管理の実際について指導する。						

授業科目名	食品流通論		サブタイトル		授業番号	NR305
担当教員名	中安 章					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	2単位			
開講年次	3年	開講期	前期			
必修・選択	必修	授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b>						
本講義は、農水産物を中心に、食品の生産から消費に至るまでの過程を経済学観点の基本的な知識を理解しながら、食品流通の特徴やしぐみ、働きについて学ぶ。						
<b>【到達目標】</b>						
(1)生産、流通、消費に関する経済学観点の基礎的な専門用語を理解し、自分のことばで説明ができる。						
(2)食品流通の特徴やしぐみ、働きについて、説明ができる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：食料消費の変遷と農業						
第2回：食料消費の動向						
第3回：消費者行動と消費構造の変化						
第4回：青果物の消費構造の変化						
第5回：流通の役割と機能						
第6回：日本の農産物、食品の流通						
第7回：青果物の流通						
第8回：水産物、畜産物の流通						
第9回：新たな流通の動き						
第10回：都市農村交流と農産物直売所						
第11回：都市農村交流と農産物直売所						
第12回：地域ブランドとマーケティング						
第13回：ブランド戦略の新段階						
第14回：農産物流通の諸問題						
第15回：これからの食品流通						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		10%	発言による授業の進行に対する貢献度を評価する（発言内容のレベルは問わない）		
	レポート		20%	中間時点でレポートを課し、講義内容の正しい把握ができていないかを評価する（自分の言葉による論理的な説明を求める）		
	小テスト					
	定期試験		70%	授業で取り扱った視点、論理を用いて、論理的に表現ができていないかを評価する（記述試験を予定）		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
各講義日において、講義内容の復習のポイントや、次の講義日までに取り組むべき事項を提示するので、これらを行うこと。						
特に講義内容を復習する際には、新聞や雑誌記事などで企業に関するニュースを読み、講義で学習した内容と照らし合わせて自分なりの分析を行うこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
復習、新聞記事のまとめを行う。						
以上のことを、週あたり4時間以上を充てること。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載	適宜、指示する。				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	総合演習		サブタイトル	(全科目の復習と模擬試験)		授業番号	NS401	
担当教員名	河野 勇人 多田 賢代 赤木 収二 波多江 崇 阿部 ゆり子 田中 徹也 辻本 美由喜 岡崎 恵子 小野 尚美 真鍋 芳江 北島 葉子 川野 光興 古川 愛子 安原 幹成 木野山 真紀 他							
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	1単位			
開講年次	4年			開講期	後期			
必修・選択	選択			授業形態	演習			
【授業の概要】								
4年前期までに学習した全科目を復習し、管理栄養士国家試験合格に向け、さらに知識と理解を深める。自主学習をグループ別を実施し、グループでの知識の確認を行う。理解不十分な内容については教員による講義を実施し、解説する。模擬試験を定期的実施し、学習到達度を測るとともに、以後の学習計画のための指標とする。								
【到達目標】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>管理栄養士資格の取得を目指し、知識を統合し、問題解決能力を高める。</li> <li>自律的に学習の計画を立て継続する力を身に付ける。</li> <li>課題を設定して、問題点、解決法等をまとめることができる。</li> </ul> なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力>の修得に貢献する。								
【授業計画】								
第1～15回（全担当者交代）								
(1)自主学習：栄養セミナーⅣ等のグループ単位で目標を定め、模擬試験や過去問の解説・見直し等を行う。								
(2)自己学習：模擬試験や過去問題の振り返り、教科書や参考書の見直し等を行う。								
(3)講義：各教員により、講義内容の再確認、模擬試験の解説等を行う。								
(4)模擬試験：定期的に模擬試験や過去の国家試験問題などの問題を解き、理解度の指標を得る。								
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度							
	レポート							
	小テスト		50%	小テストで達成度を評価する				
	定期試験		50%	管理栄養士として必要な知識・技能の最終的な理解度を評価する				
	その他							
自由記載								
【受講の心得】								
大学生生活の最終年度にあたることを自覚し、目的達成へ向けて万全の体制で臨むこと。学習に関するスケジュールを立案し、学習計画を自己管理すること。理解できていない内容については教員に積極的に質問し、確実に理解すること。自ら学習する意識を持つこと。社会人となる最終準備段階であるから、欠席・遅刻をしないことは受講の最低条件である。								
【授業外学修】								
週当たり最低4時間は講義内容の予習復習を行うこと								
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN		
	管理栄養士国家試験過去問解説集		管理栄養士国試対策研究会 [編] 著	中央法規出版	3000			
	クエスチョン・バンク管理栄養士国家試験問題解説		医療情報科学研究所 / 編集	メディックメディア	4500			
	管理栄養士国家試験 受験必修キーワード集		女子栄養大学管理栄養士国家試験対策委員会	女子栄養大学出版会	3200			
自由記載								
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN		
	管理栄養士国家試験の要点		栄養セントラル学院編	中央法規出版	4000			
	国試の麗人		RDC管理栄養士センター監修	RDC管理栄養士センター	4850			
	管理栄養士国家試験の傾向と対策		管理栄養士教育研究会 編	南江堂	3800			
自由記載								
【備考】								
令和2年3月改訂								
【担当教員の実務経験の有無】								
無								
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】								
無								



授業科目名	管理栄養士実務演習		サブタイトル	授業番号	NS302
担当教員名	多田 賢代 阿部 ゆり子 辻本 美由喜 岡崎 恵子 小野 尚美 真鍋 芳江 北島 葉子 古川 愛子 安原 幹成 木野山 真紀 山崎 真未 山縣 綾香 中澤 彩 氏峰 栞里 原田 眞澄				
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科		単位数	1単位	
開講年次	3年		開講期	後期	
必修・選択	必修		授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b> 臨地実習の内容を十分に知るとともに実習効果を高めるために行う科目であり、事前学習と事後学習に分けて行う。 事前学習では、臨地実習先の施設の状況を十分に知るとともに、そこで実施する課題研究の検討や課題の円滑な実施に向けての事前準備について説明する。また、臨地実習先との円滑なコミュニケーションを図ることができるよう心構えや態度、現場で必要となる知識や技術について講義する。事後学習では、臨地実習で得た知識や技術、態度をまとめ、実習報告書の作成および報告会での発表について説明する。					
<b>【到達目標】</b> ・職業人として倫理を身につけ、人権、人格を尊重し行動できるよう支援する。 ・自らが臨地実習で学ぶ課題を選定し、その目的にそった計画。実践ができるよう支援する。 ・臨地実習施設の様々な職種の人とコミュニケーションをはかり、管理栄養士の業務の内容を理解できるよう支援する。 ・自らが学んだことをまとめ、発表することができるようになる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
<b>【事前学習】</b> 第1回 臨地実習の日程、目的、心構えについて 第2回 科目別担当教員による実習の目的と内容の説明 第3回 介護実習（学内） 第4～7回 各科目の実習施設より管理栄養士を招き、管理栄養士の業務について学習する。 第8回 実習先を決定し、グループごとに学習する。 第9回 実習課題の検討 第10回 事前訪問の面談練習 第11回 実習先を訪問し、必要な書類、物品を準備をする。 第12回 実習施設に応じて、献立を作成する。 第14回 実習施設に応じて、栄養教育指導案を作成する。 第15回 直前学習、必要な書類、物品を準備をする。 <b>【事後学習】</b> 第1～3回 お礼状作成、実習のまとめをして報告会の準備をする。 第4～7回 報告会					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢／態度		10%	積極的な授業態度、発表、報告などにより評価する。	
	レポート		80%	ファイルの内容、整理について評価する。	
	小テスト		10%	常識・漢字テスト等により評価する	
	定期試験				
	その他				
自由記載					
<b>【受講の心得】</b> 臨地実習は管理栄養士の働く現場での学習である。この学習を効果的なものにするために授業時間外に準備したり、復習したりすることが多い。そのためにはグループ内で協調することが必要である。コミュニケーション能力と、自主性のある授業参加と受講意識を求める。					
<b>【授業外学習】</b> 1、実習に向けて、実習施設の概要を把握し、授業で学んだことを復習おく。 2、実習に向けて課題を決め、実施計画を考えておく。 3、授業の最後に、小テストや授業中の記録用紙の提出を指示する。 4、授業に関連した項目について記録を取り、必要に応じてレポートを作成し、提出する。 以上の内容を、週あたり1時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載				
参考書	自由記載				
<b>【その他】</b> あいさつ等の態度や服装等、日常の基本的作法を身に付けておくこと。					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有					
<b>【担当教員の实務経験】</b> 学校、市町村、病院等の管理栄養士					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 有					
<b>【担当教員以外の指導に関わる実務経験者】</b> 学校、市町村、病院等実習施設の管理栄養士					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 臨地実習指導者から現場の管理栄養士業務に関する基本的知識や技術に関して修得させる。					

授業科目名	給食管理実習II		サブタイトル		授業番号	NT401
担当教員名	北島 葉子 岡崎 恵子 安原 幹成 木野山 真紀					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	1単位	
開講年次	3年			開講期	後期	
必修・選択	必修			授業形態	実習	
<b>【授業の概要】</b>						
この実習は、管理栄養士および栄養士免許に必修である「給食の運営」に該当する。特定給食施設（病院、福祉施設、学校、事業所）における給食の運営・管理について必要な専門的知識および献立作成、材料発注、検収作業、食数管理、大量調理、配膳作業など給食業務に関する現場での基本的作業に関する技術を体験学習を通して、学内で学んだ知識・技術との統合を図り、管理栄養士・栄養士として具備すべき給食の運営や技術に関する知識および技能全般を体得する。						
<b>【到達目標】</b>						
(1)給食運営のPDCAサイクルの実際について理解できる。 (2)実習施設の栄養・給食業務運営の実際を実践的に学ぶ。 (3)給食施設で行われている衛生管理の実際を理解できる。 (4)施設利用者の状況に応じた給食の配慮や工夫、栄養教育の在り方などから施設の特徴を理解し、対象者に対する理解も深める。 (5)給食の運営のサブシステムの管理状況を評価できる。 (6)アクシデント・インシデント管理の意義を理解できる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
実習施設の選択 給食管理実習IIを履修するにあたり、必要な科目を修得した者あるいは履修可能であると判断された者を対象として、下記の特定給食施設のうち、1施設を選択の上実施とする。 ・病院 総合病院、内科、循環器内科 ・福祉施設 特別養護老人ホーム、老健施設、その他の福祉施設 ・学校 小・中学校又は給食センター ・事業所 工場給食やオフィス給食の社員食堂、配食サービス給食センター等 実習内容 具体的な実習計画と内容は、実習施設ごとに異なるが、以下の項目について40時間（5日×8時間）実習する。 ・実習施設の組織と運営の理解 ・施設別給食の特徴と給食の目的の理解 ・給食業務の基本的な流れを把握する ・献立作成について学ぶ ・食材料管理について学ぶ ・作業管理、大量調理（盛り付け、配膳を含む）について学ぶ ・衛生管理について学ぶ ・事務管理について学ぶ ・栄養教育媒体の検討および作成 ・各種調査（残食・嗜好など）実施						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		60%	実習施設の指導担当者および学内における評価：基本的態度、実習態度、実習課題、実習内容に対する理解を評価する。		
	レポート		40%	実習・実習課題の内容、得られた結果や記録を整理しまとめること（実習ファイル）ができているか、また、事前に大学で学んだ内容と実習施設で学んだ内容を統合、修得できているか等を評価する。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
日常の業務が行われている管理栄養士・栄養士の職場で実施される実習であるため、社会的常識に則った行動を心がけ、自ら学修すべき課題を発見できる積極的な態度で実習に取り組むこと。実践現場での貴重な体験ができるという意識を維持し、実習に対する明確な目的を持って事前の準備を怠らないこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
(1)受け入れ実習施設の概要等、その特徴を調べておく。 (2)実習施設での実習内容を十分に把握、認識し、実習先との連絡を行う。 (3)小グループで実習を行う場合は、同一施設のメンバーとコミュニケーションをとり、十分な打ち合わせ、勉強会等、協力をして準備を進める。 (4)実習に向けて、実習課題のテーマ設定を行い、文献や資料を準備する。 以上の内容は、管理栄養士実務演習とも関連しており、授業の一環でもあるため、各自が計画的に取り組み、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	『実習生のしおり』、中国学園大学現代生活学部人間栄養学科編				
参考書	自由記載	『Plam-Do-Seeにそった給食管理実習のてびき』、西川貴子 他著、医歯薬出版 『給食経営管理論』、特定非営利活動法人日本栄養改善学会監修 石田裕美／富田教代 編、医歯薬出版株式会社 『日本食品成分表』2015年版（七訂）本表編、医歯薬出版 編、医歯薬出版株式会社 『日本人の食事摂取基準』2015年版、菱田明／佐々木敏 監修、第一出版 『新ビジュアル食品成分表』、大修館書店 『給食施設のための献立作成マニュアル 第9版』、赤羽正之 他著、医歯薬出版				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
病院、介護老人保健施設における栄養士、管理栄養士						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員以外の指導に関わる実務経験者】</b>						
病院、福祉施設、学校、事業所等の管理栄養士（実習指導者）						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
特定給食施設の実習指導者からの給食経営管理業務に関する指導の下、課題発見および問題解決を通して知識と技術を修得させる。						

授業科目名	臨床栄養学実習Ⅲ		サブタイトル	授業番号	NT402
担当教員名	多田 賢代 小野 尚美 古川 愛子				
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	1単位		
開講年次	3年	開講期	後期		
必修・選択	必修	授業形態	実習		
<b>【授業の概要】</b>					
病院・介護老人保健施設における臨地実習を通し、栄養評価や栄養療法の実際を管理栄養士が指導する。					
<b>【到達目標】</b>					
病院や福祉施設において、患者・高齢者を対象に身体状況や栄養状態を評価することができ、他職種と連携して問題解決のための栄養ケア計画および栄養指導・支援ができる技能を修得する。課題発見を通じて、管理栄養士の指導により解決し、栄養管理の計画・実践・評価の知識・技術を習得できるよう支援する。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
各実習病院等において作成された実習計画に従って実習する。 実習内容の1例 1 病院・福祉施設における管理栄養士業務の実際について把握 2 食材料管理、衛生管理、作業管理の実際 3 栄養管理の実際（栄養基準、食品構成、献立作成） 4 特別治療食実習 5 カルテの見方 6 栄養療法の実際 7 栄養評価の実際 8 個人栄養食事指導の実際 9 集団栄養食事指導の実際 10 まとめ、報告書作成					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	実習施設での実習態度、課題への取組や発表、報告を評価する。		
	レポート	40%	実習中の内容についてファイルにまとめた内容について評価する。		
	小テスト				
	定期試験				
	その他	10%	実習に対する取り組み姿勢や態度を評価する。		
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b>					
報告・連絡・相談を実践すると共に、課題発見・問題解決を心がける。					
<b>【授業外学修】</b>					
1、関連する教科書および関連資料を実習までに読んでおく。 2、日々、学習した内容をまとめておく。 3、実習に必要な媒体などの準備をし、確認しておく。 以上の内容を含め週1時間以上の学修を行う。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	臨地実習 実習生のしおり	中国学園大学現代生活学部人間栄養学科編			
	自由記載				
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	栄養食事療法の実際栄養ケアマネジメント	本田佳子編	医歯薬出版	2,700円+税	978-4-263-70651-0
	臨床栄養学栄養ケアマネジメント	本田佳子編	医歯薬出版	3,700円+税	978-4-263-70664-0
	糖尿病食事療法のための食品交換表	日本糖尿病学会編	文光堂	900円+税	978-4-8306-6046-7
	腎臓病食品交換表 - 治療食の基準 -	黒川清監修	医歯薬出版	1,500円+税	978-4-263-70674-9
	一品料理500選 治療食への展開	宗像伸子 編著	医歯薬出版	5,800円+税	978-4-263-70288-8
	自由記載				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の実務経験】</b>					
病院等の管理栄養士					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員以外の指導に関わる実務経験者】</b>					
病院および福祉施設の管理栄養士（実習指導者）					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
臨床現場の実習指導者からの臨床栄養管理業務に関する実際に関する指導の下、課題発見および問題解決を通して知識と技術を修得させる。					

授業科目名	給食管理実習Ⅲ		サブタイトル	授業番号	NT403
担当教員名	北島 葉子 岡崎 恵子 安原 幹成 木野山 真紀				
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	1単位		
開講年次	3年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	実習		
<b>【授業の概要】</b>					
この実習は、臨地実習である「給食経営管理論」に該当する。大学における給食経営管理論を中心に、栄養学、食品学、調理学、栄養教育論等の講義・実習で学んだ内容を基にして、特定給食施設における実習を通して、給食経営管理の特徴を理解する。さらに、食材および人材に関する衛生管理、栄養管理、給食の安全確保、組織の管理運営、経済的視点の確保と給食経営分析の手法等の給食業務全般のマネジメントを実践できる給食運営の管理者たる管理栄養士として具備すべき知識および技能全般を現場において体得する。					
<b>【到達目標】</b>					
(1)給食運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面・安全面・経済面等を統合したマネジメントの実際を実践的に学ぶ。 (2)実習施設の栄養・給食管理業務、運営、組織管理などの実際を理解できる。 (3)利用者・対象者の状況に応じた栄養ケア、栄養指導（教育）を通して、施設の特徴や在り方について理解を深める。 (4)給食施設における衛生管理および安全管理の実際を理解できる。 (5)給食運営に関わる費用構成について理解し、経営管理の手法を用いた費用分析の方法を理解できる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
実習施設の選択 給食管理実習Ⅲを履修するにあたり、必要な科目を修得した者あるいは履修可能であると判断された者を対象として、下記の特定給食施設のうち、1施設を選択の上実施とする。 ・病院 総合病院、内科、循環器内科 ・福祉施設 特別養護老人ホーム、老健施設、その他の福祉施設 ・事業所 工場給食やオフィス給食の社員食堂、配食サービス給食センター等 ・学校 小・中学校又は給食センター 実習内容 具体的な実習計画と内容は実習施設ごとに異なるが、以下の項目について実習する。 ・実習施設の組織の概要と見学 ・施設別給食部門業務の特徴の理解 ・給食経営管理システムの理解 経営管理、栄養・食事管理について 組織・人事管理、施設・設備管理について 食材料管理、生産管理について 衛生・安全管理、品質管理について 会計・原価管理について ・給食経営管理システムに関する研究発表及び討論 ・テーマ別研究活動及び成果報告と討論					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度	60%	実習施設の指導担当者および学内における評価：基本的態度、実習態度、実習課題、実習内容に対する理解を評価する。		
	レポート	40%	実習・実習課題の内容、得られた結果や記録を整理しまとめること（実習ファイル）ができているか、また、事前に大学で学んだ内容と実習施設で学んだ内容を統合、修得できているか等を評価する。		
	小テスト				
	定期試験				
	その他				
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b>					
自ら実習課題を設定し、課題の発見と問題解決を経験することにより、管理栄養士の業務をより深く理解することがこの実習のねらいである。事前学習の段階から、実習への関心を深め積極的に取り組むこと。					
<b>【授業外学修】</b>					
1)受け入れ実習施設の概要等、その特徴を調べておく。 (2)実習施設での実習内容を十分に把握、認識し、実習先との連絡を行う。 (3)小グループで実習を行う場合は、同一施設のメンバーとコミュニケーションをとり、十分な打ち合わせ、勉強会等、協力をして準備を進める。 (4)実習に向けて、実習課題のテーマ設定を行い、文献や資料を準備する。 以上の内容は、管理栄養士実務演習とも関連しており、授業の一環でもあるため、各自が計画的に取り組み、週当たり1時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載	『実習生のしおり』、中国学園大学現代生活学部人間栄養学科編			
参考書	自由記載	『日本食品成分表』2015年版（七訂）本表編、医歯薬出版編、医歯薬出版株式会社 『新ビジュアル 食品成分表』、大修館書店 『給食経営管理論』、特定非営利活動法人 日本栄養改善学会監修 石田裕美 / 富田教代 編、医歯薬出版株式会社 『給食経営管理実務ガイドブック』、富岡和夫 編、同文書院			
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>					
病院、介護老人保健施設における栄養士、管理栄養士					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員以外の指導に関わる実務経験者】</b>					
病院、福祉施設、学校、事業所等の管理栄養士（実習指導者）					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
特定給食施設の実習指導者からの給食経営管理業務に関する指導の下、課題発見および問題解決を通して知識と技術を修得させる。					

授業科目名	臨床栄養学実習Ⅳ		サブタイトル		授業番号	NT404
担当教員名	多田 賢代 小野 尚美 古川 愛子					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	1単位	
開講年次	3年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	実習	
<b>【授業の概要】</b>						
病院・介護老人保健施設における臨地実習を通し、栄養評価や栄養療法の実際を管理栄養士が指導する。						
<b>【到達目標】</b>						
病院や福祉施設において、患者・高齢者を対象に身体状況や栄養状態を評価することができ、他職種と連携して問題解決のための栄養ケア計画および栄養指導・支援ができる技能を修得する。課題発見を通じて、管理栄養士の指導により解決し、栄養管理の計画・実践・評価の知識・技術を習得できるよう支援する。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
各実習病院等において作成された実習計画に従って実習する。 実習内容の1例 1 チーム医療・チームケアと管理栄養士の役割について把握する。 2 カルテの内容を把握する。 3 担当患者の治療方針を理解する。 4 栄養ケアプランを作成する。 5 栄養ケアの実施状況を把握する。 6 栄養ケアの経過を把握する。 7 栄養評価の実際 8 個人栄養食事指導の計画、参加 9 集団栄養食事指導の計画、参加 10 まとめ、報告書作成						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	50%	実習施設での実習態度、発表、報告を評価する。			
	レポート	40%	実習中の内容についてファイルにまとめた内容について評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他	10%	実習に対する取り組み姿勢や態度を評価する。			
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
報告・連絡・相談を実践すると共に、課題発見・問題解決を心がける。						
<b>【授業外学修】</b>						
1, 関連する教科書および関連資料を実習までに読んでおく。 2, 日々、学習した内容をまとめておく。 3, 実習に必要な媒体などの準備をし、確認しておく。 以上の内容を含め週1時間以上の学修を行う。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	臨地実習 実習生のしおり	中国学園大学現代生活学部人間栄養学科編				
	自由記載					
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	栄養食事療法の実習栄養ケアマネジメント	本田佳子編	医歯薬出版	2,700円+税	978-4-263-70651-0	
	臨床栄養学栄養ケアマネジメント	本田佳子編	医歯薬出版	3,700円+税	978-4-263-70664-0	
	糖尿病食事療法のための食品交換表	日本糖尿病学会編	文光堂	900円+税	978-4-8306-6046-7	
	腎臓病食品交換表 - 治療食の基準 -	黒川清監修	医歯薬出版	1,500円+税	978-4-263-70674-9	
	一品料理500選 治療食への展開	宗像伸子 編著	医歯薬出版	5,800円+税	978-4-263-70288-8	
	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の実務経験】</b>						
病院等の管理栄養士						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員以外の指導に関わる実務経験者】</b>						
病院および福祉施設の管理栄養士（実習指導者）						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
臨床現場の実習指導者からの臨床栄養管理業務に関する実際に関する指導の下、課題発見および問題解決を通して知識と技術を修得させる。						

授業科目名	公衆栄養学実習II		サブタイトル	授業番号	NT405
担当教員名	辻本 美由喜 真鍋 芳江				
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	1単位		
開講年次	4年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	実習		
<b>【授業の概要】</b>					
保健所及び市町村の公衆栄養学分野において、それぞれが果たす役割や業務内容を知る。					
<b>【到達目標】</b>					
(1) 公衆栄養マネジメントを理解するために、地域の健康・栄養問題に関する情報の収集・分析を行い、公衆栄養プログラムの評価・判定を行うことができる。					
(2) プログラム実施から評価までのマネジメント能力を身につけるために、健康・栄養関連プログラムへの参加を通して、対象に応じた適切な保健サービスの提供プログラムの実践状況を把握することができる。					
なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
1 事前訪問および事前学習 実習先を訪問し施設の概要について理解する。実習内容および研究課題等の指導を受け、実習までに必要な準備に関する指示を受ける。					
2 実習内容					
(1) 保健所における実習					
ア 集中講義					
衛生行政、地域保健行政と保健所の役割、保健所・市町村栄養業務および食に係わる様々なボランティア活動					
イ 現場実習					
各保健所において作成された実習計画に従う。具体的な内容や取り組みは実習施設によって異なる。					
ア) 保健所管内の現況と管理栄養士業務の概要					
イ) 公衆栄養学や公衆栄養に関連する法規の実際					
ウ) 地域保健における栄養体制の整備					
・地域における実態把握、分析					
・専門的な栄養指導、食生活支援					
・食環境整備(食に関する情報の整備、栄養成分表示の推進等)					
エ) 特定給食施設への栄養管理指導					
オ) 市町村に対する栄養改善事業支援と連絡調整					
(2) 市町村における実習					
各市町村において作成された実習計画に従う。具体的な内容や取り組みは実習施設によって異なる。					
ア 集中講義					
ア) 管理栄養士の役割と業務の概要					
イ) 地域保健栄養体制の整備					
・地方健康増進計画や地方食育推進計画並びに地域保健医療計画等への参画					
・栄養改善事業の企画・評価					
イ 現場実習					
ア) 栄養相談および一般的栄養指導					
イ) 住民に対する健康教育(企画・実施・評価)					
ウ) 地区組織の育成及び支援					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	60%	実習施設の指導担当者及び学内における評価として基本的態度、実習態度、実習課題、実習内容に対する理解などを評価する。		
	レポート	40%	実習内容と実習課題についての記録やまとめ、大学での学びと実習施設での学びの統合や修得ができていないかなどをレポートと実習ファイルで評価する。		
	小テスト				
	定期試験				
	その他				
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b>					
(1) 日常の業務が行われ、地域住民の方が来られている職場での実習にて、社会的な常識ある行動を心がけ、自ら学修すべき課題を発見できるよう積極的な態度で取り組む。					
(2) 実践現場での貴重な体験ができるという意識を持ち、実習に対する明確な目的を持ち、事前の準備を十分に行う。					
<b>【授業外学修】</b>					
(1) 公衆栄養学I、II及び公衆栄養学実習I、地域における行政栄養士による健康づくり及び栄養・食生活改善の基本指針、臨地実習のしおり等を再学修する。					
(2) 小グループで学修を行う場合は、同一施設のメンバーと連絡をとり、十分な打ち合わせと勉強会を行いながら、実習施設の概要、特徴を調べる。					
(3) 日本と実習施設等の概況や健康増進計画、食育推進計画、子育て支援計画、介護保険計画等で健康課題を調べておく。					
(4) 各自の実習課題のテーマを決め、文献や資料の準備をする。					
(5) 実習施設での実習内容を十分に把握し、実習先との連絡を行う。					
(6) 実習施設から指定された課題の準備や用具・媒体、資料等を用意する。					
以上の内容を含め、週1時間以上学修する。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	公衆栄養学実習テキスト	岡山県保健福祉部健康対策課 監修	岡山県栄養士養成施設協議会 発行		
	自由記載	『臨地実習のしおり』、中国学園大学現代生活学部人間栄養学科 編			
参考書	自由記載	『国民衛生の動向』、財団法人厚生統計協会 編集・発行 『栄養・健康データハンドブック』、藤沢良知 編、同文書院			
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>				
	有				
	<b>【担当教員の实務経験】</b>				
	健康推進関係課長、社会福祉協議会事務局長、養護老人ホーム施設長等の管理職、行政と学校給食の管理栄養士、健康運動実践指導者				
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
有					

**【担当教員以外の指導に関わる実務経験者】**

保健所及び市町村の行政栄養士（実習指導者）

**【実務経験をいかした教育内容】**

行政栄養士活動についての課題発見や問題解決を通して、公衆栄養マネジメントの進め方を指導する。（担当教員）

行政栄養士業務の実際に関する指導の下、公衆栄養活動への理解を深め、健康づくりや食育に関する指導ができる技能を修得させる。（実習指導者）

授業科目名	栄養セミナーI		サブタイトル		授業番号	NU101
担当教員名	波多江 崇 井之川 仁 小野 尚美 河野 勇人 木野山 真紀 安原 幹成 真鍋 芳江					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	必修			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
この授業では受講者を少人数のグループに分け、各々のグループに担当教員を置く。各グループの日程にしたがい、近隣の施設（犬養木堂記念館、福祉施設等）を訪問することで、地域の歴史を学び、高齢者とのコミュニケーションを体験する。さらに、各グループにあらかじめ設定された課題について、文献・資料を収集、精読し、グループ内討論を行いつつ結論を導き出すことで、他者に配慮しつつ討論を行うことができ、論理的に思考できる能力を養う。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・文献の読み方、調べ方、整理の仕方、情報の収集法と整理の仕方、まとめ方、レポート・論文の書き方、プレゼンテーションの方法などを具体的に経験しながら身につける。</li> <li>・グループ学習のスキルを身につける。</li> </ul> なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、＜知識・理解＞＜態度＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：オリエンテーション。授業の進め方および課題設定等 第2回：第2回～第9回：各々のグループごとに図書館見学(活用法を学ぶ)1回、犬養木堂記念館訪問1回、高齢者福祉施設訪問2回およびそれに対する事前学習1回を行う。それ以外の授業時には各々のグループに設定された課題についての学習を深める。 第3回：第2回～第9回：各々のグループごとに図書館見学(活用法を学ぶ)1回、犬養木堂記念館訪問1回、高齢者福祉施設訪問2回および事前学習1回を行う。それ以外の授業時には各々のグループに設定された課題についての学習を深める。 第4回：第2回～第9回：各々のグループごとに図書館見学(活用法を学ぶ)1回、犬養木堂記念館訪問1回、高齢者福祉施設訪問2回およびそれに対する事前学習1回を行う。それ以外の授業時には各々のグループに設定された課題についての学習を深める。 第5回：第2回～第9回：各々のグループごとに図書館見学(活用法を学ぶ)1回、犬養木堂記念館訪問1回、高齢者福祉施設訪問2回およびそれに対する事前学習1回を行う。それ以外の授業時には各々のグループに設定された課題についての学習を深める。 第6回：第2回～第9回：各々のグループごとに図書館見学(活用法を学ぶ)1回、犬養木堂記念館訪問1回、高齢者福祉施設訪問2回およびそれに対する事前学習1回を行う。それ以外の授業時には各々のグループに設定された課題についての学習を深める。 第7回：第2回～第9回：各々のグループごとに図書館見学(活用法を学ぶ)1回、犬養木堂記念館訪問1回、高齢者福祉施設訪問2回およびそれに対する事前学習1回を行う。それ以外の授業時には各々のグループに設定された課題についての学習を深める。 第8回：第2回～第9回：各々のグループごとに図書館見学(活用法を学ぶ)1回、犬養木堂記念館訪問1回、高齢者福祉施設訪問2回およびそれに対する事前学習1回を行う。それ以外の授業時には各々のグループに設定された課題についての学習を深める。 第9回：第2回～第9回：各々のグループごとに図書館見学(活用法を学ぶ)1回、犬養木堂記念館訪問1回、高齢者福祉施設訪問2回およびそれに対する事前学習1回を行う。それ以外の授業時には各々のグループに設定された課題についての学習を深める。 第10回：課題研究 文献精読およびグループ内討論 第11回：課題研究 文献精読およびグループ内討論 第12回：プレゼンテーションの方法 第13回：課題研究 文献精読およびグループ内討論 第14回：課題研究 発表の準備 第15回：課題発表会						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		60%	授業への取り組みや、課題発表について評価する		
	レポート		40%	指示されたレポートを作成し提出し、その内容について評価する。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
グループ内で、他者の意見を聞き、受け入れ、積極的に発言することが求められる。 積極的な姿勢で参加すること。また、学外訪問の前には事前準備、訪問後には事後学習が求められる。						
<b>【授業外学修】</b>						
1.次回授業に用いる関連資料を準備・理解しておく。 2.授業中において学んだことなどを、記録用紙に記入し提出する。 3.課題についてまとめ、プレゼンテーションを行う。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	指定しない				
参考書	自由記載	なし				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						



授業科目名	栄養セミナーIIA		サブタイトル		授業番号	NU202
担当教員名	波多江 崇 田中 徹也 井之川 仁 岡崎 恵子 安原 幹成 川野 光興 北島 葉子 氏峰 菜里					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	1単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	必修			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
授業は3つの課題で構成される。 <ul style="list-style-type: none"> <li>野菜を栽培し、農作業による食料の生産を体験し、生産から消費までの一連の過程を体験する。</li> <li>グループ単位で、自らが育てた野菜を用いたレシピを考案し、調理を行い提供する。</li> <li>多様な職域の管理栄養士から話を聞く。</li> </ul>						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>野菜の旬、食物生産の楽しさ、生育過程を理解する。</li> <li>グループで協力して作業を進め、意見・アイデアを出し合う習慣を身につける。</li> <li>管理栄養士業務および職域についての理解を深める。</li> </ul> なお本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：授業の概要・目的の解説、授業の進め方、菜園の紹介				(担当(全担当者))		
第2回：施肥作業				(担当(全担当者))		
第3回：夏野菜の植え付け(1)				(担当(全担当者))		
第4回：夏野菜の植え付け(2)				(担当(全担当者))		
第5回：料理コンテストのメニュー考案・菜園作業				(担当(全担当者))		
第6回：菜園作業				(担当(全担当者))		
第7回：菜園作業				(担当(全担当者))		
第8回：菜園作業・料理コンテストのメニュー試作(1)				(担当(全担当者))		
第9回：菜園作業				(担当(全担当者))		
第10回：菜園作業				(担当(全担当者))		
第11回：菜園作業・料理コンテストのメニュー試作(2)				(担当(全担当者))		
第12回：菜園作業				(担当(全担当者))		
第13回：菜園作業				(担当(全担当者))		
第14回：料理コンテスト				(担当(全担当者))		
第15回：菜園の片付けおよびグループ別反省会				(担当(全担当者))		
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	80%	菜園作業、メニュー試作、料理コンテスト、講和への意欲的な参加態度によって評価する。			
	レポート	20%	菜園日誌、各提出物が、テーマに沿って具体的、論理的に書かれているかによって評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ内で他者と協力し、積極的に行動すること。</li> <li>日頃の食生活を振り返り、食べ物への関心を深めること。</li> <li>日頃から広く社会に目を向け、多様な職域に関心を持つこと。</li> </ul>						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として、夏野菜の栽培について調べ、疑問点を明らかにする。						
2 復習として、課題のレポートを書く。						
3 発展学修として、料理の考案・試作、多様な職域の調査を行う。						
以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	指定しない				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	栄養セミナーⅡB		サブタイトル		授業番号	NU203
担当教員名	波多江 崇 田中 徹也 井之川 仁 岡崎 恵子 安原 幹成 川野 光興 他					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	1単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	必修			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
この授業は以下の課題で構成される。						
<ul style="list-style-type: none"> <li>野菜を栽培し、農作業による食料の生産を体験し、生産から消費までの一連の過程を体験する。</li> <li>自らが育てた野菜の配布、加工を行う。</li> <li>多様な職域の管理栄養士にインタビューを行う。</li> </ul>						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>野菜の旬、食物生産の楽しさ、難しさを理解する。</li> <li>グループで協力して作業を進め、意見・アイデアを出し合う習慣を身につける。</li> <li>管理栄養士業務および職域についての理解を深める。</li> </ul>						
なお本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：授業の概要・目的の解説、授業の進め方について				(担当(全担当者))		
第2回：施肥作業・冬野菜の植え付け(1)				(担当(全担当者))		
第3回：冬野菜の植え付け(2)				(担当(全担当者))		
第4回：菜園作業				(担当(全担当者))		
第5回：菜園作業				(担当(全担当者))		
第6回：菜園作業				(担当(全担当者))		
第7回：菜園作業				(担当(全担当者))		
第8回：菜園作業				(担当(全担当者))		
第9回：菜園作業・インタビューの内容説明				(担当(全担当者))		
第10回：菜園作業・インタビューの準備(1)				(担当(全担当者))		
第11回：菜園作業・インタビューの準備(2)				(担当(全担当者))		
第12回：菜園作業・インタビューの準備(3)				(担当(全担当者))		
第13回：菜園の片付け・インタビューの内容確認				(担当(全担当者))		
第14回：職域別管理栄養士へのインタビュー				(担当(全担当者))		
第15回：インタビュー結果のまとめ				(担当(全担当者))		
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		80%	菜園作業、インタビュー活動への意欲的な取り組み姿勢により評価する。		
	レポート		20%	菜園日誌、各提出物が、テーマに沿って具体的、論理的に書かれているかによって評価する。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ内で他者と協力し、積極的に行動すること。</li> <li>日頃の食生活を振り返り、食べ物への関心を深めること。</li> <li>日頃から広く社会に目を向け、多様な職域に関心を持つこと。</li> </ul>						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として、冬野菜の栽培について調べ、疑問点を明らかにする。						
2 復習として、課題のレポートを書く。						
3 発展学修として、多様な職域の調査、料理の考案を行う。						
以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	指定しない				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	栄養セミナーⅢA		サブタイトル		授業番号	NU304
担当教員名	多田 賢代 辻本 美由喜 小野 尚美 真鍋 芳江 古川 愛子 木野山 真紀					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	1単位	
開講年次	3年			開講期	前期	
必修・選択	必修			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
この授業は一人のチューターと数人の学生がグループを構成し、地域の人々を対象とした健康・栄養・食生活の講座を企画、準備、実施するという実践的な学習形態の授業である。各グループは3年前期までに修得した知識・技能を活用して、所定の課題に沿って講座を企画し、内容について自主的に学習を進めるとともに、実施に必要な調理、実験等の手技を身につける。この間チューターは学生の自主性を尊重しつつ、適宜助言を与える。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題について理解し、必要な技術が身につく。</li> <li>・自主的な学習態度が身につく。</li> <li>・グループで協力し、計画的に企画を進める力が身につく。</li> <li>・目的を達成することの意義を理解し、実践できる。</li> </ul> なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回 授業の概要・目的の解説、授業の進め方、各グループの課題について（全担当者）						
第2～14回 各グループでの企画、準備、実施、マナー講座受講（全担当者）						
想定されるテーマ						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・食育SATを活用した健康教室（公民館での啓発活動）</li> <li>・骨密度測定を活用した健康教室（公民館での啓発活動）</li> <li>・幼少児に対する食育活動</li> <li>・全農岡山との連携事業</li> <li>・岡山市保健所健康づくり課との連携事業</li> </ul>						
第15回 各グループの活動のまとめ（全担当者）						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	70%	意欲的、協力的な受講態度、グループ活動への貢献、発表・討議への参加によって評価する。			
	レポート	30%	授業内容のまとめとして学修記録を作成し、グループ内での意見・活動を踏まえた上で、自分はどのように考えるか、活動するかを記録する。レポートについては、確認し返却をする。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
グループ内で、他者と協力し、積極的に行動することが求められる。 授業時間外にも自主的に調査・学習することが求められる。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として、活動内容に関連する参考文献を読み、活動目的や課題を明らかにする。						
2 復習として、活動記録を整理し、記録ノートを書く。						
3 発展学修として、後期に開催される公開講座での発表に向け準備を行う。						
以上の内容を、授業外に週当たり1時間以上取り組むこと。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載	3年前期までに使用した全ての教科書				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
市町村、病院等の管理栄養士						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員以外の指導に関わる実務経験者】</b>						
市町村の管理栄養士						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
地域における管理栄養士の活動に関する基本的知識や技術を修得させる。						

授業科目名	栄養セミナーⅢB		サブタイトル	授業番号	NU305
担当教員名	河野 勇人 多田 賢代 赤木 収二 波多江 崇田 中 徹也 井之川 仁 辻本 美由喜 岡崎 恵子 小野 尚美 真鍋 芳江 北島 葉子 安原 幹成 川野 光興 古川 愛子 木野山 真紀				
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科		単位数	1単位	
開講年次	3年		開講期	後期	
必修・選択	必修		授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b> この授業は2つのテーマからなる。 前半：栄養セミナーⅢAにおいて実施した健康・栄養・食生活の講座について、セミナー発表会の場で発表する。この発表会までに各グループでの活動をポスター等の媒体にまとめる。この間、前期から継続の指導教員は学生の自主性を尊重しつつ、適宜助言を与える。 後半：卒業研究の準備段階として、担当教員のもとで課題研究を進める。研究の方法と問題解決方法を学び、自ら学ぶ。					
<b>【到達目標】</b> ・グループで実施した講座についてまとめ、発表する力を身につける。 ・興味ある課題を深く掘り下げ、仮説を検証する作業を通じて、科学研究の手法を獲得し、研究の意義を理解する。 ・本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b> 第1回 授業の概要・目的の解説、授業の進め方について 第2～4回 セミナー発表会の準備 第5～15回 各卒業研究ゼミでの活動 想定されるテーマ ・微生物利用食品の機能性 ・在宅療養者の栄養管理 ・健康食品・サプリメントの安全性に関する実態調査 ・食文化の継承 ・臨床栄養から考える食品に含まれるナトリウムについて ・スポーツ選手への栄養サポート ・食中毒予防と薬剤耐性菌対策を目指したファージ療法の開発 ・米粉の調理性 ・季節が及ぼす健康状態への影響 ・恒常性調節とその破綻の健康に及ぼす影響及び栄養学的介入の可能性 ・地域における健康推進活動 ・真空調理 ・加熱調理における食物繊維の影響					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢／態度		70%	課題への取り組み意欲、取り組み行為から評価する	
	レポート		30%	課題への理解度から評価する	
	小テスト				
	定期試験				
	その他				
	自由記載	セミナー発表会について 学習態度（意欲的か、行動が伴っているか、協力的かなどを評価する）20% 課題の理解度（ディスカッション、学習記録から評価する）15% 卒業研究について 学習態度（意欲的か、行動が伴っているかなどを評価する）50% 課題の理解度（ディスカッション、レポート等から評価する）15%			
<b>【受講の心得】</b> グループ内で、他者と協力し、積極的に行動することが求められる。 授業時間外にも自主的に調査・学習することが求められる。					
<b>【授業外学修】</b> 週当たり最低1時間の予習、復習を行うこと					
使用テキスト	自由記載	適宜指示する。			
参考書	自由記載				
<b>【備考】</b> 令和2年度改訂					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 無					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無					

授業科目名	栄養セミナーⅣA		サブタイトル		授業番号	NU406
担当教員名	河野 勇人 多田 賢代 赤木 収二 波多江 崇田中 徹也 辻本 美由喜 岡崎 恵子 小野 尚美 真鍋 芳江 北島 葉子 安原 幹成 川野 光興 古川 愛子 木野山 真紀					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	1単位	
開講年次	4年			開講期	前期	
必修・選択	必修			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
担当教員のもとで教員と共に選んだ課題について課題研究を進める。研究の方法と問題解決方法を学び、自ら学ぶ。調査・研究成果をまとめて発表する。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>興味あるテーマを深く掘り下げ、仮説を検証する作業を通じて、科学研究の手法を獲得し、研究の意義を理解する。</li> <li>調査・研究した成果についてまとめ、文書・媒体等を用いて発表する力を身につける。</li> <li>本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。</li> </ul>						
<b>【授業計画】</b>						
第1～15回 各卒業研究ゼミでの活動（全担当者）						
想定されるテーマ						
<ul style="list-style-type: none"> <li>微生物利用食品の機能性</li> <li>在宅療養者の栄養管理</li> <li>健康食品・サプリメントの安全性に関する実態調査</li> <li>地域における健康推進活動</li> <li>臨床栄養から考える食品中に含まれるナトリウムについて</li> <li>スポーツ選手への栄養サポート</li> <li>食中毒予防と薬剤耐性菌対策を旨としたファージ療法の開発</li> <li>加熱調理における食物繊維の影響</li> <li>真空調理について</li> </ul>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		50%	学習態度（意欲的か、行動が伴っているかなどを評価する）		
	レポート		50%	課題の理解度（ディスカッション、レポート等から評価する）		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
グループ内で、他者と協力し、積極的に行動することが求められる。授業時間外にも自主的に調査・学習することが求められる。						
<b>【授業外学修】</b>						
毎週最低4時間は授業外学習を行うこと						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載		適宜指示する			
<b>【備考】</b>						
令和2年度改訂						
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	栄養セミナーⅣB		サブタイトル		授業番号	NU407
担当教員名	河野 勇人 多田 賢代 赤木 収二 波多江 崇田中 徹也 辻本 美由喜 岡崎 恵子 小野 尚美 真鍋 芳江 北島 葉子 安原 幹成 川野 光興 古川 愛子 木野山 真紀					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	1単位	
開講年次	4年			開講期	後期	
必修・選択	必修			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
この授業は次のテーマからなる <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当教員のもとで進めた調査・研究成果を文書・媒体にまとめて発表する。発表内容を説明し、質疑に応じる。</li> <li>・担当教員のもとで進めた調査・研究成果を最終的に文章として纏め、卒業論文を作成する。</li> <li>・卒業後の進路に応じた学習を進め、4年間の学びの集大成を図る。</li> </ul>						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査・研究した成果についてまとめ、文書・媒体等を用いて発表する力と論文作成能力を身につける。</li> <li>・自らの将来に対応する学力、知力、技能をまとめ、社会に貢献する人材となる。</li> <li>・本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。</li> </ul>						
<b>【授業計画】</b>						
第1～4回 各卒業研究グループでの活動（全担当者） 第5～15回 各自の進路に応じた学習（全担当者） (1)自主学習：卒業研究等のグループ単位で学習を進める。 (2)自己学習：卒業後の進路に応じた学習を進め、教科書の見直し等を行い14年間の学びの集大成を行う。						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		50%	卒業研究への取り組み態度で評価する。		
	レポート		50%	卒業研究の提出論文で評価する。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
大学生生活の集大成であることを自覚し、目的達成のために万全の体制で臨むことが求められる。 中長期の計画を立て、それに従い学習・行動することが必要となる。 グループ学習の重要性とともに、自己学習により、学力・知力・技能が効率的に集積されることを自覚する。						
<b>【授業外学修】</b>						
毎週最低4時間は予習復習を行うこと						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載		適宜指示する			
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	食生活論		サブタイトル		授業番号	NU108
担当教員名	岡崎 恵子					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
栄養士の専門教科を学習するにあたり、人間にとって「食生活」とは何かを包括的に捉え考えるための入門編の科目である。食の成り立ち、食と環境の関わり、食文化、健康的な食生活、食育の推進について等を講義する。						
<b>【到達目標】</b>						
私たちの食生活が昔から食文化の上に成立しており、今後の食文化の形成に自分達が関わっていることを理解するとともに、自分の食生活に興味・関心をもち食生活と健康を考え見直すことができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：食生活の概念 第2回：食生活と健康を考える（1） 第3回：食生活と健康を考える（2） 第4回：世界の食生活史（1） 第5回：世界の食生活史（2） 第6回：日本の食生活史（1）DVD「おいしさの科学 味覚研究の最先端」 第7回：日本の食生活史（2） 第8回：食生活と安全（1）食生活データ 総合統計年報2021 第9回：食生活と安全（2） 第10回：食生活と安全（3） 第11回：21世紀における健全な食生活の展望（1） 第12回：21世紀における健全な食生活の展望（2） 第13回：食育の推進（1）DVD「アクティブに学ぼうVol.1 身近な食生活」 第14回：食育の推進（2） 第15回：食育の推進（3）まとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		10%	意欲的な受講態度、発表		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		60%	最終的な理解度を評価する。		
	その他		30%	提出物		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
テキストを事前に読んでくること。健康・栄養・料理や食文化など幅広く食生活に関することに関心をもつよう心がけること。						
<b>【授業外学修】</b>						
食生活や食育に関心をもち予習・復習をすること。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	食育・食生活論 社会・環境と健康		山本茂・奥田豊子・濱口郁枝 編	講談社サイエンスティフィク	2400円＋税	
自由記載						
参考書	自由記載	適宜紹介する。DVD「おいしさの科学 味覚研究の最先端」、DVD「アクティブに学ぼうVol.1 身近な食生活」食生活データ 総合統計年報2021				
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有					
	<b>【担当教員の实務経験】</b> 管理栄養士：地方自治体(学校給食, 教育行政, 福祉)					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 現代的な諸課題を取り入れる。						

授業科目名	食生活演習I		サブタイトル		授業番号	NU109
担当教員名	小野 尚美					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
食事はいろいろな食品を用いて作られ、それらにはさまざまな栄養素が含まれている。摂取した食事について、栄養バランスがとれているかどうかを評価する方法や、食品成分表を用いて栄養価計算をする方法について習得する。また、献立を作成するために必要となる食品の目安量やおいしく感じる基本濃度について学修する。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養バランスがとれているかどうか評価できる。</li> <li>・食品成分表を用いて栄養価計算できる。</li> <li>・献立作成の基礎知識を理解する。</li> </ul> なお、本科目はデュプロマポリシーに掲げた学士力のうち、<技能>の習得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：5大栄養素とその働きを知ろう(1)炭水化物、脂質、たんぱく質 (担当) 第2回：5大栄養素とその働きを知ろう(2)ビタミン、ミネラル (担当) 第3回：献立に使う食品を知ろう 第4回：一食分の食事を考えよう (担当) 第5回：食品の表示について知ろう (担当) 第6回：食品成分表を使ってみよう(1)食品の分類、食品成分表の項目 (担当) 第7回：食品成分表を使ってみよう(2)数値の見方、使い方 (担当) 第8回：食品成分表を使ってみよう(3)食品の選び方 (担当) 第9回：食品成分表を使って栄養価計算をしよう(1)計算の仕方 (担当) 第10回：食品成分表を使って栄養価計算をしよう(2)食品の選び方 (担当) 第11回：献立作成のための基礎知識(1)食品の目安量と数え方 (担当) 第12回：献立作成のための基礎知識(2)おいしさの基本濃度 (担当) 第13回：食生活の移り変わり(1)台所の変化 (担当) 第14回：食生活の移り変わり(2)料理の変化 (担当) 第15回：食品成分表を使って栄養価計算をしよう(3)まとめ (担当)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		50%	意欲的な授業態度・ファイルによって評価する。		
	レポート		30%	授業で示した課題について、正しく記載されているかを評価する。		
	小テスト		20%	理解度を評価する。		
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
食生活に関する情報に関心をもつこと。平日頃から自分の食事を意識し、何をどれくらい食べたらいいかを考えながら食事を摂るよう心がけること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 テーマに沿った内容について自分で調べる						
2 演習内容を振り返りノートにまとめる						
3 日常生活の中で食べた食品について栄養量を調べる						
以上の内容を週当たり4時間以上学修すること						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎		坂本裕子, 森美奈子	化学同人	1,500円+税	978-4-7598-1826-0
	八訂 食品成分表2021		香川明夫/監修	女子栄養大学出版部	1,500円+税	978-4-7895-1021-9
自由記載						
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	調理のためのベーシックデータ第5版		松本伸子/監修	女子栄養大学出版部	1,800円+税	978-4-7895-0323-5
	自由記載					
<b>【その他】</b>						
栄養価計算には電卓を使用する。						
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						



# 中国学園大学 令和3年度(2021年度) シラバス

授業科目名	食生活演習II		サブタイトル		授業番号	NU110
担当教員名	岡崎 恵子					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	1単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
<b>【授業の概要】</b>						
食生活演習Iで学んだ知識と技術を更に向上させるとともに、基本的な食事構成を理解し献立作成を行う。また作成した献立を食事バランスガイドを用いて評価し、改善する。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常食の献立作成の基本を学び、連続した1週間の食事設計ができる。</li> <li>・ 食事バランスガイドを理解し、これを用いた献立の評価ができる。</li> </ul> なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
1-2回 レシピの基礎知識、レシピの作成 3-4回 食事バランスガイドの理解、食事バランスガイドを用いた食事内容の評価 5-6回 献立の考え方、献立計画の作成(主食・主菜・副菜・汁物) 7-8回 1週間の連続した献立の作成、評価、修正 9-10回 食育サットシステムを活用した献立の評価、食事バランスガイドを用いた献立の評価・修正 11-12回 栄養計算の実際・評価 13-14回 発表献立の作成、レシピの作成 15回 まとめ						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な授業態度			
	レポート	80%	課題の完成度(ワークシート、授業ファイル等)によって評価する			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
健康・栄養、調理や料理など幅広く食生活に関することに関心をもつこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 食生活演習Iの内容について復習する 2 講義の内容について自分の言葉でノートに整理する 3 授業で取り上げたほかにもどんな料理があるか調べたり、実際に調理をする。 以上の内容を週1時間以上、学修すること						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	八訂食品成分表(2021)	香川明夫/監修	女子栄養大学出版部	1500円+税	978-4-7895-1021-9	
	栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎	坂本裕子, 森美奈子	化学同人	1500円+税	978-4-7598-1826-0	
	自由記載					
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	新・調理学実習	宮下朋子・村本美代編著	同文書院	2700円+税	978-4-8103-1457-1	
	調理のためのベーシックデータ	松本仲子	女子栄養大学出版部			
	自由記載	自宅にある料理本等も参考図書として使用します				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
管理栄養士：学校給食，教育行政，福祉						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
現代的な諸課題を取り入れる。						

授業科目名	運動指導論		サブタイトル	授業番号	NU411
担当教員名	辻本 美由喜				
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	2単位		
開講年次	4年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b> 運動の重要性は、生活習慣病対策のみならず、認知症対策においても見直されている。そして、2021年の東京オリンピック・パラリンピック開催を控え、スポーツや運動への関心は非常に高まっている。そうした中、健康を増進するための栄養と運動、介護予防と運動、そして、スポーツ栄養などについての指導は、かつてないほど重要になっている。 本講義は、管理栄養士としても運動指導を適切に担える力を培うために、スポーツ栄養学と健康運動実践指導の視点から学ぶ。					
<b>【到達目標】</b> 健康づくりの指導の一環として、現場で簡単な運動指導ができる力をつけるために、ライフステージ別健康づくりと運動指導について学び、安全で楽しい運動指導法を習得することができる。 本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、知識・理解 思考・問題解決能力 の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b> 第1回：健康づくりと運動（健康日本21 第二次 ，ヘルスプロモーション） 第2回：スポーツと栄養（スポーツ栄養の基本） 第3回：子どもの運動と栄養（食育、ジュニアスポーツ選手の食事） 第4回：競技力向上と栄養管理（スポーツ選手の食事、水分摂取） 第5回：女性の健康管理と運動（貧血予防、腰痛と肩痛予防の運動） 第6回：生活習慣病と運動（メタボリックシンドローム、特定保健指導） 第7回：高齢者の運動（介護予防運動） 第8回：運動基準とエクササイズ（体力と運動強度、心拍数、運動プログラム） 第9回：体操の目的と方法（ラジオ体操、ご当地体操、認知症予防体操） 第10回：効果的なウォーキング方法（ノルディックウォーキング、有酸素運動） 第11回：ストレッチングの基礎と実際（地域での運動の取組） 第12回：日常生活の中での筋力トレーニング、ウォーミングアップとクーリングダウン（貯筋運動） 第13回：スポーツと外食、市販食品（賢い選び方、食べ方） 第14回：健康管理と運動指導（運動障害と予防、応急措置） 第15回：まとめ					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	25%	意欲的な学習態度や予・復習の状況などをアンケート調査によっても評価する。		
	レポート	10%	課題について具体的に作成できていること。コメントを記入後、返却する。		
	小テスト	15%	各回の主要なポイントの理解度を評価する。		
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。		
	その他				
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b> 具体的な運動手法を習得するために、実践を学ぶという意識を持って受講すること。					
<b>【授業外学修】</b> （1）授業の初めに予習に関するテストを行うので、テキストや参考文献を次回学習までに読んでおく。 （2）前回授業内容に関する復習テストも行うので、1時間以上復習をしておく。 （3）随時出す課題について、レポートを作成する。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修する。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	戦う身体をつくるアスリートの食事と栄養	田口素子	ナツメ社	1,300円	
	自由記載				
参考書	自由記載	「健康運動実践指導者用テキスト」公益財団法人健康・体力づくり事業財団事業団発行 「アスリートのための栄養・食事ガイド」小林修平・樋口満 編著者 第一出版			
	【その他】	授業内容に応じて、教室を変更する場合がある。			
	【担当教員の実務経験の有無】	有			
<b>【担当教員の実務経験】</b> 健康推進関係課長，社会福祉協議会事務局長，養護老人ホーム施設長等の管理職，行政と学校給食の管理栄養士，健康運動実践指導者					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 学生が管理栄養士に必要な能力を身に着けるために、公衆栄養活動や運動指導の実際を通して、運動指導を適切に行う力を修得させる。					

授業科目名	食料経済		サブタイトル		授業番号	NU212
担当教員名	大宮めぐみ					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
本講義では、まず食料消費の経済理論と食料の流れ、それらに関わる経済主体の連鎖であるフードシステム概念について学ぶ。その上で、わが国の食料消費構造の変化について経済理論を通じて理解する。さらに我が国の食料安全保障の実態と今後の展開について、食料輸入と食料自給率、世界の食料需給などの今日的課題を題材に考察する。						
<b>【到達目標】</b>						
(1) 食料の生産から消費に至るまでの一連の流れ(フードシステム)を理解し、全体像を説明する力を身につける。 (2) 食料の消費構造とその変化について経済学の概念を用いて説明する力を身につける。 (3) 食料需給に関連する社会問題について、経済学を基盤とした観点から考察、説明する力を身につける。 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>の取得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：食料経済の対象領域と課題 - フードシステムとは何か？何を学ぶのか？ - 第2回：食料経済の理論(1) 第3回：食料経済の理論(2) 第4回：食生活の成熟(1) 第5回：食生活の成熟(2) 第6回：食料消費パターンの変化 第7回：食料の安全保障と自給率(1) 第8回：食料の安全保障と自給率(2) 第9回：前半のまとめ 第10回：食品工業の構造と特徴 第11回：食品流通業の構造と特徴(1) 第12回：食品流通業の構造と特徴(2) 第13回：外食・中食の供給構造と特徴 第14回：世界の人口と食料/食生活と政府の役割 第15回：全体のまとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		10%	意欲的な受講態度によって評価する。		
	レポート					
	小テスト		40%	中間的な理解度を評価する。		
	定期試験		50%	到達目標に達しているかを最終的に評価する。		
その他						
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
本講義では食料消費の変遷、関連産業の動向、食料に関連する今日的課題等を理解し、自らのこととして考え、その考えを説明できる力を身につけることを到達目標とする。そのためには、「食」に関わるニュースや新聞記事、さまざまな情報に日頃から関心を持ち、自ら調べるといった姿勢で講義に臨むこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
(1) 予習として、テキストを読み、疑問点を明らかにしておくこと。 (2) 復習として、講義内容および配布資料の整理とまとめを行うこと。とくに講義内容に関してはノートを作成すること。 (3) 発展学修として、食料自給率や食品産業など「食」に関わる新聞・ニュース等を積極的に収集し読んでおくこと。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載 適宜指示する					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	専門英語		サブタイトル		授業番号	NU413
担当教員名	赤木 収二					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	1単位	
開講年次	4年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
管理栄養士は、食・栄養に関わる最新の知見をふまえた職務遂行が求められるが、大半の情報は、現状では英語を用いて発信されている。さらに、実臨床の現場でもそのコミュニケーションを行うために、英語表記の専門用語が用いられることが多い。本授業では、栄養学に関する成書・論文を輪読、講読することにより、英文の正確な読解力を養い、同時に、専門用語、表現法および引用論文の活用などについて理解を深めることを目的とする。						
<b>【到達目標】</b>						
食・栄養に関連する最新の情報・知見を修得・理解し、自己研鑽に継続利用できる能力を養うとともに、常に新しい課題を探求する能力・習慣を身につける。本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回 資料配布，資料採取法 第2～14回 資料について担当学生による説明，発表を行い，その内容について全員で議論する。 第15回 まとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート			担当した論文の内容について課題を課し，レポートの内容を評価する		
	小テスト					
	定期試験		100%	最終的な理解度を評価する		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
必ず，辞書を授業に持参すること(高校で用いていたレベルでかまわない)。						
<b>【授業外学修】</b>						
毎週最低4時間は講義内容の予習復習に充てること						
使用テキスト	自由記載	教科書は指定しないが，辞書を授業に持参すること(高校で用いていたレベルでかまわない)。				
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	Modern Nutrition in Health and Disease, 11th ed.		AC Ross, B Caballero, RJ Cousine, et al. eds.	JONES & BARTLETT LEARNING	33,060円(税込)	978-1-6054-7461-8
自由記載	参考書は購入の必要なし。					
<b>【備考】</b>						
令和3年度改訂						
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
総合内科・消化器病・肝臓専門医，臨床栄養指導医等として診療に従事。また，産業医として事業所の産業保健衛生業務に参画。						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
管理栄養士の実務に即した内容に重点を置く。						

授業科目名	フードコーディネート論		サブタイトル		授業番号	NU414
担当教員名	山崎 真未					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位	
開講年次	4年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
フードコーディネートのターゲットは、「食のアメニティの創造」であり、「ホスピタリティ」をもって仕事にあたることである。そこで、料理を提供する場面で快適な食事ができるための料理・メニュー・食卓・食空間を含めた食（フード）のコーディネートについて講義する。						
<b>【到達目標】</b>						
本講義では、既に学んだ関連科目（調理学や栄養学など）を生かし、レストランやファストフードをはじめとする外食産業のオープニングからメニュープランニング、ビジネス展開の計画まで、さらに、料理を盛り付ける食器や、テーブルクロス、照明や色彩など快適な食空間をトータルにコーディネートできる力を身につける。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：フードコーディネートの基本理念 第2回：食事の文化(1) 第3回：食事の文化(2) 第4回：食事の文化(3) 第5回：食卓のコーディネート(1) 第6回：食卓のコーディネート(2) 第7回：食卓のコーディネート(3) 第8回：食卓のサービスとマナー(1) 第9回：食卓のサービスとマナー(2) 第10回：メニュープランニング 第11回：食空間のコーディネート(1) 第12回：食空間のコーディネート(2) 第13回：フードサービスマネジメント(1) 第14回：フードサービスマネジメント(2) 第15回：食企画の実践コーディネート（C-8）, まとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		10%	出席率、授業態度を評価する。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		90%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
これまでに学んできた専門教育科目の基本的事項の理解と復習を行うこと。また、食に関する新聞記事等に関心を持ち、読むなど積極的に学修すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
(1)予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 (2)復習として、小テストの見直しをする。 (3)発展学修として、食に関する新聞記事等を読み、まとめる。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価
	三訂 フードコーディネート論			(社)日本フードスペシャリスト協会 編	建帛社	
自由記載						
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	無					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	食文化調査演習		サブタイトル		授業番号	NU115
担当教員名	河野 勇人					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
人の栄養に関する幅広い知識を身に付けるためには、食に関する視野の広い学習が必要である。そこで、各自が国内外を問わず、その地の食文化に関する見聞をまとめ、提出することでこの科目の履修とする。ただし、事前にテーマ、訪問地域、期間、方法等について担当教員に相談・報告すること。						
<b>【到達目標】</b>						
各自が決めたテーマにそって、地域の食文化を知り、理解することができる。また、一年後期に実施する工場見学、同時に行う研修をまとめて食文化調査演習の一部とすることができる。 自ら主体的に選んだ課題に沿って学習を進めることができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：履修説明 第2回：各自が方法や期間を決定 第3回：各自が方法や期間を決定 第4回：各自が方法や期間を決定 第5回：各自が方法や期間を決定 第6回：各自が方法や期間を決定 第7回：各自が方法や期間を決定 第8回：各自が方法や期間を決定 第9回：各自が方法や期間を決定 第10回：各自が方法や期間を決定 第11回：各自が方法や期間を決定 第12回：各自が方法や期間を決定 第13回：各自が方法や期間を決定 第14回：各自が方法や期間を決定 第15回：各自が方法や期間を決定						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート		100%	最終的な到達度を計画書、レポートで評価する。レポートはコメントを記入後、返却する。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
何を学習するか、事前に関係文献や書物を検索し、よく読んで、計画、実行すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
週当たり4時間は学習が必要						
使用テキスト	自由記載	なし				
参考書	自由記載	計画に沿って紹介する。				

授業科目名	管理栄養士演習I		サブタイトル	(習得科目の振り返り)	授業番号	NU316
担当教員名	河野 勇人 多田 賢代 阿部 ゆり子 波多江 崇 田中 徹也 井之川 仁 辻本 美由喜 岡崎 恵子 小野 尚美 真鍋 芳江 北島 葉子 川野 光興 古川 愛子 安原 幹成 木野山 真紀					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	1単位	
開講年次	3年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
2年後期までに学修した科目を復習し、管理栄養士国家試験合格に向け、知識と理解を深める。						
<b>【到達目標】</b>						
これまでに学修した事項を復習し、理解と知識を集積する。 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
1 自主学習：テキスト、教科書で復習し、その内容に関する試験で知識の確認を行う。 2 講義：各教員により、講義内容の再確認・試験を行う。 1, 2の内容について週間スケジュールを作成し、授業を進める。						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		100%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
管理栄養士国家試験合格を目指し、自ら学修し理解を深めること。理解が不十分な分野については、教員に積極的に質問し、確実に理解すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
毎週最低4時間は講義内容に沿った学習を行うこと						
使用テキスト	自由記載	『受験必修キーワード集』, 女子栄養大学管理栄養士国家試験対策委員会 編, 女子栄養大学出版部				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	管理栄養士演習II		サブタイトル	(習得科目の振り返り)	授業番号	NU317
担当教員名	河野 勇人 多田 賢代 阿部 ゆり子 波多江 崇 田中 徹也 井之川 仁 辻本 美由喜 岡崎 恵子 小野 尚美 真鍋 芳江 北島 葉子 川野 光興 古川 愛子 安原 幹成 木野山 真紀					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	1単位	
開講年次	3年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
3年前期までに学修した科目を復習し、管理栄養士国家試験合格に向け、知識と理解を深める。						
<b>【到達目標】</b>						
これまでに学修した事項を復習し、次のステップに向けさらに理解と知識を集積する。 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
1 自主学習：テキスト、教科書で復習し、その内容に関する試験で知識の確認を行う。 2 講義：各教員により、講義内容の再確認・試験を行う。 1, 2 の内容について週間スケジュールを作成し、授業を進める。						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		100%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
管理栄養士国家試験合格を目指し、自ら学修し理解を深めること。理解が不十分な分野については、教員に積極的に質問し、確実に理解すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
毎週最低4時間は講義内容の予習復習を行うこと						
使用テキスト	自由記載	『クエスチョン・バンク管理栄養士国家試験問題解説』, 医療情報科学研究所 編, MEDIC MEDIA 『受験必修キーワード集』, 女子栄養大学管理栄養士国家試験対策委員会 編, 女子栄養大学出版部				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						



授業科目名	管理栄養士専門演習		サブタイトル	(全科目の復習と模擬試験)	授業番号	NU418
担当教員名	河野 勇人 多田 賢代 赤木 収二 波多江 崇 阿部 ゆり子 田中 徹也 辻本 美由喜 岡崎 恵子 小野 尚美 真鍋 芳江 北島 葉子 川野 光興 古川 愛子 安原 幹成 木野山 真紀 他					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科		単位数	1単位		
開講年次	4年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b>						
3年後期までに学習した全科目を復習し、管理栄養士国家試験合格に向け、さらに知識と理解を深める。自主学習をグループ別を実施し、グループでの知識の確認を行う。理解不十分な内容については教員による講義を実施し、解説する。模擬試験を定期的実施し、学習到達度を測るとともに、以後の学習計画のための指標とする。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理栄養士資格の取得を目指し、知識を統合し、問題解決能力を高める。</li> <li>・専門職として、生涯を通して自律的に学習を継続する力を身につける。</li> <li>・本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt; &lt;思考・問題解決能力&gt;の修得に貢献する。</li> </ul>						
<b>【授業計画】</b>						
第1～15回（全担当者交代）						
(1)自主学習：栄養セミナーⅣ等のグループ単位で目標を定め、模擬試験の解説・見直し等を行う。						
(2)自己学習：模擬試験の振り返り、教科書の見直し等を行う。						
(3)講義：各教員により、講義内容の再確認、模擬試験の解説等を行う。						
(4)模擬試験：定期的に模擬試験や過去の国家試験問題などの問題を解き、理解度の指標を得る。						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート					
	小テスト		50%	小テストで達成度を評価する		
	定期試験		50%	最終的な理解度を評価する		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
大学生生活の最終年度にあたることを自覚し、目的達成へ向けて万全の体制で臨むこと。学習に関するスケジュールを立案し、学習計画を自己管理すること。理解できていない内容については教員に積極的に質問し、確実に理解すること。自ら学習する意識を持つこと。社会人となる最終準備段階であるから、欠席・遅刻をしないことは受講の最低条件である。						
<b>【授業外学修】</b>						
毎週最低4時間は講義内容の予習復習を行うこと						
使用テキスト	自由記載	『管理栄養士国家試験問題集』、日本給食管理専門学院 編、中央法規 『クエスチョンバンク管理栄養士国家試験問題解説』、医療情報科学研究所 編、MEDIC MEDIA 『受験必修キーワード集』、女子栄養大学管理栄養士国家試験対策委員会 編、女子栄養大学出版部				
参考書	自由記載	『管理栄養士国家試験の要点』、栄養セントラル学院 編、中央法規 『国試の麗人』、RDC管理栄養士センター 監修、RDC管理栄養士センター札幌校 『管理栄養士国家試験の傾向と対策』、管理栄養士教育研究会 編、南江堂				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	教職概論		サブタイトル		授業番号	NV101
担当教員名	森寺 勝之					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
教職概論では、教職の意義と内容について学ぶことを目的としている。栄養教諭の免許取得のための最低限の職業論（教職の全体像をつかむとともに、教職に関する基礎的な知識）を学習する。						
<b>【到達目標】</b>						
教育公務員(栄養教諭)の役割や職務内容等について、制度的、実体的側面から理解するとともに、求められる教員像について把握し、専門職としての基礎を身に付ける。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：子どもの生活と学校 第2回：学習指導 第3回：生徒指導・進路指導 第4回：教育相談 第5回：学級経営 第6回：教師に何を求めてきたか、いま何が求められているか 第7回：児童生徒と教師 学ぶことと教えること 第8回：教員養成の制度 第9回：教職課程の仕組みと内容 第10回：教員の採用 第11回：教員の研修 第12回：教員の地位と身分 第13回：教員の待遇と勤務条件 第14回：学校制度 第15回：学校管理・運営体制						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	意欲的な受講態度、発表の有無、予習復習の状況によって評価する。		
	レポート		20%	課題に対して真摯に取り組んでいるか、自分の考えがまとめられているかの2点で評価する		
	小テスト					
	定期試験		50%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
教育公務員(栄養教諭)の教員免許取得の基礎単位であることから、受講に際しては、教育公務員を志願するにふさわしい言動の在り方を常に考えるとともに、現在の学校教育の課題や教育職員の社会的使命について真剣に考えること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点をあらかじめ調べたりしておく。 2. 復習として、課題のレポートを書く。 3. 発展的学習として、教育に関するニュース収集をし、自分の見解を述べられるようにする。						
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	新版(改訂2版)教職入門 教師への道		藤本典裕	図書文化	1800(税別)	978-4-8100-9720-7
自由記載						
参考書	自由記載		授業において随時紹介する。			
	【担当教員の実務経験の有無】		有			
	【担当教員の实務経験】		小中高教員、岡山県教育委員会専門的教育職員、小学校教頭・校長			
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
学校教育における教育課程の全体像の観点に立ち、教員や教育委員会専門的教育職員としての実践例をもとにした授業を行う。						

授業科目名	教育原理		サブタイトル		授業番号	NV102
担当教員名	森寺 勝之					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
講義形式で、教育の基本的な事項について学習していく。 特に、教育とは何かという根源的な問いと、教育行政や学校教育制度といった、児童・生徒の立場からは察し得ない事象に重点を置いて講義する。						
<b>【到達目標】</b>						
現代社会における教育問題は、極めて複雑な様相を呈している。歴史的に蓄積された社会構造的な問題もあるだろうし、教育の目指すべき方向を再構築しなければならない問題もあるだろう。 本講義では、こうした社会状況を踏まえつつ、これらの問題解決の一助となるよう、今一度、教育という営みの根源に立ち返ることを目的とする。 そのため、将来、教育に携わる者が、最低限、知っておかなければならない教育学に関する基礎的な事項について学習する。 なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解><思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：教育とはなにか 第2回：子どもの発達と現代社会 第3回：教育における思想家たちの系譜 第4回：教育の思想と実践 第5回：近代の教育制度の発展 第6回：教育課題の歴史的背景 第7回：教育の課題と教育政策の動向 第8回：諸外国の教育 第9回：教育に関する法令 第10回：教員の養成・採用・研修 第11回：学校経営における地域連携の現状 第12回：学校経営における地域連携の制度と課題 第13回：学校安全の現状 第14回：学校安全の課題と対策 第15回：これからの社会と教育						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	意欲的な受講態度、発表の有無、予習復習の状況等によって評価する。		
	レポート		20%	課題に対して、真剣に取り組んでいるか、自分の考えがまとめられているか等で評価する。		
	小テスト					
	定期試験		50%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
教育公務員(栄養教諭)の教員免許取得の基礎単位であることから、受講に際しては、教育公務員を志願するにふさわしい、言動の在り方を常に考えるとともに、現在の学校教育の課題と教育公務員(栄養教諭)の社会的使命について真剣に考えること。 テキストを事前に読み、疑問点をあらかじめ調べたりすること。また、学修したことをノートに整理したりすること。						
<b>【授業外学修】</b>						
週当たり4時間以上、テキストを読むこと。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	教育原理		島田和幸・高宮正貴	ミネルヴァ書房	2,200	9784623081769
自由記載						
参考書	自由記載		『教育六法』（どの出版社のものでも良い）			
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
小中高教員、岡山県教育委員会専門的教育職員、小学校教頭・校長						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
学校や教育行政、小学校長としての経験をもとに、教育の歴史や制度等の基本的な事項について、具体例をもとに、できるだけわかりやすい講座としたい。						

授業科目名	教育心理学		サブタイトル		授業番号	NV103
担当教員名	國田 祥子					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
教育心理学とは、学び手としての子どもを心理学の視点から理解し、支援するための科学である。この授業では、子どもの学びと適応の支援という視点から、教育に関する心理学的知見を広く扱う。						
<b>【到達目標】</b>						
実際に教育現場に立つ際、児童・生徒の理解を助けるために必要となる、心理学的な視点の基礎を、講義を通じて身につけることを目指す。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、＜知識・理解＞の習得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：教育心理学とは 第2回：心身の発達に基づく教育心理学の考え方 第3回：心身の発達に応じた学びの場とその移行 第4回：学びの意欲 第5回：学びのしくみ 第6回：学びの諸相 第7回：学びの開発と体系化 第8回：中間のまとめ 第9回：主体的な学びの授業 第10回：個に応じた学びの援助 第11回：自立と社会性の学び 第12回：子どもを支える 第13回：学びと適応の評価 第14回：教師の成長 第15回：期末のまとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		100%	理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
積極的な受講態度を期待します。						
<b>【授業外学修】</b>						
毎回の授業の前にテキストを読み、4時間以上予習しておくこと。学習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について4時間以上の復習を行うこと。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	よくわかる！教職エクササイズ2 教育心理学		田爪宏二（編著）	ミネルヴァ書房	2200円	978-4-623-08177-6
自由記載						
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	無					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	教育課程総論		サブタイトル		授業番号	NV204
担当教員名	住野 好久					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
教育課程の意義・編成の方法について学修するとともに、教育課程に関する法令、とりわけ、中学校・高等学校の学習指導要領総則について学修する。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程の意義・編成の方法について理解する。</li> <li>・教育課程の法令、とりわけ、学習指導要領総則について理解する。</li> </ul> なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：教育課程の意義 第2回：教育課程に関する法令(1) - 教育基本法・学校教育法 - 第3回：教育課程に関する法令(2) - 学校教育法施行規則・学習指導要領 - 第4回：教育課程に関する法令(3) - 学校教育法施行規則・学習指導要領 - 第5回：学習指導要領の歴史の変遷(1) - ～50年代 - 第6回：学習指導要領の歴史の変遷(2) - ～70年代 - 第7回：学習指導要領の歴史の変遷(3) - ～90年代 - 第8回：学習指導要領の歴史の変遷(4) - ～10年代 - 第9回：新学習指導要領の特徴(1) - 資質・能力論 - 第10回：新学習指導要領の特徴(2) - 主体的・対話的で深い学び論 - 第11回：新学習指導要領の特徴(3) - 総合的な学習（探究）の時間 - 第12回：新学習指導要領の特徴(4) - カリキュラム・マネジメント論 - 第13回：新学習指導要領の特徴(5) - 社会に開かれた教育課程論 - 第14回：教育課程の課題 第15回：教育課程の未来						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート		60%	本科目で学習したことを理解し、論理的に叙述すること		
	小テスト		40%	毎回の授業の最後に提示される課題について、自分の考えを具体的に述べていること。		
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
教育課程がわかると学校の教育活動の全体構造を知ることができます。しっかりと学んで下さい。配付するプリント・資料などはファイルにとじ、整理すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題のレポートを書く。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価
	小学校学習指導要領解説 総則編			文部科学省		
自由記載						
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	無					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	教育方法学		サブタイトル		授業番号	NV205
担当教員名	住野 好久					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な教育の方法，技術を教授するとともに，情報機器及び教材の活用について教授する。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な教育の方法を理解する。</li> <li>教育の目的に適した指導技術を理解し，身につける。</li> <li>情報機器を活用した効果的な授業や教材活用に関する基礎的な能力を身につける。</li> </ul> なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち， 知識・理解 技能 の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：教育の方法(1) 教育実践における教育の目的・目標，内容，方法，組織 (担当住野) 第2回：教育の方法(2) 学習指導要領が求める教育の方法 (担当住野) 第3回：教育の方法(3) 授業づくりの方法(1)教育の目標・内容の設定 (担当住野) 第4回：教育の方法(4) 授業づくりの方法(2)教材開発 (担当住野) 第5回：教育の方法(5) 授業づくりの方法(3)教授行為 (担当住野) 第6回：情報機器及び教材の活用(1) 情報機器を活用した授業づくり (担当住野) 第7回：情報機器及び教材の活用(2) 情報機器を活用した授業の実際 (担当住野) 第8回：教育の方法(6) すぐれた実践事例の分析(1) (担当住野) 第9回：教育の方法(7) すぐれた実践事例の分析(2) (担当住野) 第10回：教育の技術(1) 模擬授業(1) 教材研究 (担当住野) 第11回：教育の技術(2) 模擬授業(2) 指導案の作成 (担当住野) 第12回：教育の技術(3) 模擬授業(3) 実践検討(1) (担当住野) 第13回：教育の技術(4) 模擬授業(4) 実践検討(2) (担当住野) 第14回：教育の技術(5) 模擬授業(5) 改善案の作成 (担当住野) 第15回：まとめ (担当住野)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。		
	レポート		40%	本科目で学習したことを理解し，論理的に叙述すること		
	小テスト		40%	各回の授業の終盤に提示される課題について，自分の考えを具体的に述べていること。		
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
授業の最後に小テストを行うので，授業内容をしっかりと理解しようとし，不明な点は遠慮なく質問をすること。配付するプリント・資料などはファイルにとじ，整理しておくこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として，配付している資料をあらかじめ読み，疑問点を明らかにする。 2 復習として，課題のレポートを書く。 3 発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週辺り4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	授業の中でプリントを配布する。				
参考書	自由記載	適宜，授業の中で紹介する。				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	生徒指導の理論と方法		サブタイトル		授業番号	NV206
担当教員名	松田 文春					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	1単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
生徒指導の基本的な考え方や進め方、生徒指導に関する法制度、生徒指導上の諸問題への対応について講義する。						
<b>【到達目標】</b>						
一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら社会的資質や行動力を高めることを目指し、全教育活動を通して組織的・計画的に行われる生徒指導の基本的な考え方や進め方、生徒指導に関する法制度、問題行動等への組織的な対応について理解することができるようになる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：生徒指導の意義と教育課程における位置付け 第2回：集団指導と個別指導の意義と方法 第3回：生徒指導体制と教育相談体制 第4回：生徒指導の進め方(1)-学級担任としての役割- 第5回：生徒指導の進め方(2)-学年団等による組織的対応- 第6回：暴力行為・いじめ・不登校への対応 第7回：生徒指導に関する法制度 第8回：家庭・地域・関係機関等との連携						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート		20%	課題についてまとめをするとともに、自分の考えを具体的に述べていること。レポートについてはコメントを記入して返却する。		
	小テスト					
	定期試験		60%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
1 事前・事後にテキストや参考文献を読むこと。 2 課題についてレポートを書くこと。 3 発表や討議に積極的に取り組むこと。 4 配付する資料を整理しておくこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として、テキストのうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題のレポートを書く。 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	生徒指導提要		文部科学省	教育図書	276円＋税	978-4-87730-274-0
	自由記載					
参考書	自由記載		授業において随時紹介する。			
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
中学校教諭，特別支援学校教諭						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
学校教育における教育課程の全体像の観点に立ち、生徒指導の実践例をもとにした授業を行う。						

授業科目名	教育相談		サブタイトル		授業番号	NV207
担当教員名	國田 祥子					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
この授業では、教育相談についてその理念や基本的な理論を紹介する。						
<b>【到達目標】</b>						
教育相談で扱うさまざまな問題に対し、不適応状態にある子どもやその保護者に教師が対応していく際の考え方や方法について解説し、カウンセリング・マインドを身につける。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>の習得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：教育相談とは 第2回：カウンセリングの理論 第3回：カウンセリングの技法 第4回：いじめ・不登校への対応 第5回：学級崩壊・学級経営の問題への対応 第6回：虐待・いのちの教育への対応 第7回：非行・学校不応への対応 第8回：中間のまとめ 第9回：発達障害への対応 第10回：心の病への対応 第11回：校内・他機関との連携 第12回：アセスメント：観察・面接 第13回：アセスメント：心理検査 第14回：過程の理解と保護者への支援 第15回：期末のまとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		100%	理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
積極的な受講態度を期待します。						
<b>【授業外学修】</b>						
毎回の授業の前に、テキストに基づいて4時間以上予習しておくこと。学習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について4時間以上の復習を行うこと。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	よくわかる！教職エクササイズ3 教育相談		森田健宏・吉田佐治子(編著)	ミネルヴァ書房	2200円	978-4-623-08178-3
自由記載						
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	無					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						



授業科目名	特別支援教育概論		サブタイトル	授業番号	NV208
担当教員名	中 典子 池谷 航介				
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
【授業の概要】 講義形式で、特別支援教育の基本的なことについて学習していく。 特に、特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の理解、教育課程、支援の方法を学ぶ中で、学校と関係機関との連携のあり方について講義する。					
【到達目標】 保育者・教育者は通常学級において特別な配慮をする必要のある幼児や児童生徒が学習に参加する中で将来の自立に向けて支援していく必要がある。本講義では、幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し、特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な知識や支援の方法を理解することを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の障害の特性 (担当池谷航介) 第2回：特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の心身の発達 (担当池谷航介) 第3回：特別支援教育に関する制度の理念や仕組み (担当池谷航介) 第4回：特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習や生活のしづらさ (担当池谷航介) 第5回：特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の教育課程 (担当池谷航介) 第6回：発達障害をはじめとする障害のある子どもへの支援 (担当中典子) 第7回：「通級指導」と「自立活動」の教育課程上の位置づけ (担当池谷航介) 第8回：「個別指導計画」と「個別教育支援計画」の意義と方法 (担当池谷航介) 第9回：学校と家庭との連携のあり方 (担当中典子) 第10回：学校と地域の関係機関との連携のあり方 (担当中典子) 第11回：多文化の幼児や児童生徒に対する学習や生活のしづらさ (担当中典子) 第12回：多文化の幼児や児童生徒支援に対する学校と家庭と地域の関係機関との連携のあり方 (担当中典子) 第13回：貧困により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習や生活のしづらさ (担当中典子) 第14回：貧困により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒支援のあり方 (担当中典子) 第15回：多文化や貧困問題により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習支援 (担当中典子)					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度				
	レポート	20%	課題に対して具体的に述べていること。課題についてはコメントを記入して返却する。		
	小テスト				
	定期試験	80%	最終的な理解度を評価する。		
	その他				
	自由記載				
【受講の心得】 授業内容の理解を深めるため、授業開始前までに事前に配付する資料の内容を読んでおくこと。					
【授業外学修】 授業開始前までに、事前に配付する資料の内容を読んでおくこと。(1時間) 授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げしておくこと。(2時間) 授業で学んだ内容を振り返り、必要と考えることをノートにまとめておくこと。(1時間)					
使用テキスト	自由記載				
参考書	自由記載				
【担当教員の実務経験の有無】 有					
【担当教員の实務経験】 小学校教諭，特別支援学校教諭(池谷航介)					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					
【実務経験をいかした教育内容】 小学校教諭及び特別支援学校教諭の経験をいかし、様々な障がい有する児童・生徒への対応について指導する。(池谷航介)					

授業科目名	総合的な学習の時間及び特別活動の指導法		サブタイトル		授業番号	NV209
担当教員名	佐々木 弘記					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
小学校・中学校の教育課程の編成について概観し、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の目標、内容を学習指導要領解説に基づき概説する。また、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の現代的意義を論議する。さらに、小学校・中学校校における学習活動としての道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の重要性について理解を深め、各内容の実践的課題を整理する。						
<b>【到達目標】</b>						
学習指導要領に示された道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について理解する。〈知識・理解〉 小学校・中学校の教師として、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動（学級・ホームルーム活動や学校行事等）における諸問題に対応できる問題解決力を身に付ける。 〈思考・問題解決能力〉 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：道徳教育の意義と目標・内容 第2回：道徳教育の歴史と現代社会における道徳教育の課題 第3回：道徳性の発達 第4回：総合的な学習の時間の意義と目標・内容 第5回：総合的な学習の時間の指導計画 第6回：総合的な学習の時間の学習指導案 第7回：総合的な学習の時間の指導と各教科等との関連 第8回：総合的な学習の時間の指導の手立て 第9回：総合的な学習の時間の評価 第10回：特別活動の意義と目標 第11回：特別活動と各教科等との関連 第12回：特別活動の内容 第13回：特別活動の指導と評価 第14回：特別活動の学習指導案 第15回：特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。			
	レポート	20%	課題について、要点や自分の考えを述べたレポートによって評価する。			
	小テスト	20%	各回の主要なポイントの理解度を評価する。			
	定期試験	50%	最終的な知識や理解の度合いを評価する。			
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
毎回、授業のはじめに小テストを行うので、前時の復習をして授業に臨むこと。また、返却された小テストは、ノートに貼付し、復習をすること。配付するプリント・資料などを整理しておくこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題のレポートを書く。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	小学校学習指導要領解説 道徳編	文部科学省				
	小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編	文部科学省				
	小学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省				
	中学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省				
	自由記載					
参考書	自由記載	『新しい特別活動指導論』、高旗正人・倉田侃司 編著、ミネルヴァ書房、2004年				
	<b>【その他】</b>	毎回、授業ノートを提出するので、ルーズリーフのノートを用意すること。				
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>	有				
	<b>【担当教員の实務経験】</b>	公立中学校理科教諭、県教育センター（佐々木弘記）				
	<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>	無				
	<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>	学校、教育センター等での経験を生かして、教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。				

授業科目名	学校栄養教育実習研究		サブタイトル	授業番号	NV410
担当教員名	岡崎 恵子 森寺 勝之				
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	1単位		
開講年次	4年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
【授業の概要】 小学校・中学校で行う栄養教育実習を有意義かつ充実した学習とするための科目である。教育実習の実際について学び栄養教諭としての意識を高めるとともに、教材研究・授業参観などの授業を通し教育実習に向けて実習課題の検討，準備を行う。					
【到達目標】 ・実際の教育現場に入るにあたって心構えができる。 ・教育実習に向けて指導案・指導媒体の作成，授業技術等を身に付け，準備する。					
なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞＜態度＞の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回 学校栄養教育実習の意義 第2回 学校栄養教育実習の事前指導 ・教育実習の概要 ・実習課題の検討 ・実習日誌の書き方 第3回 個別的な相談指導 ・個人差への配慮 ・食物アレルギー，偏食，肥満・痩身傾向等 第4回 クラス経営，小学校中学校経営 ・小中学校教育・指導の特質 ・教師の援助の仕方・考え方 第5～8回 学校栄養教育実習の実際 ・実習校での食に関する指導の準備(学習指導案，教材研究，指導案の作成) 第9回 プロとしての栄養教諭 第10～15回 実習校との打ち合わせ，模擬授業，相互評価，媒体作り					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢／態度		10%	意欲的な受講態度，発表・討議への参加の状況によって評価する。	
	レポート		20%	教職に関しての内容・特別講師による講義について，自分の考えを具体的に述べていること。	
	小テスト		10%	栄養教諭の職務についての理解度を評価する。	
	定期試験				
	その他		60%	指導案，課題等の提出物の内容を評価する。	
自由記載					
【受講の心得】 ・栄養教諭を目指す者としての目線に立ち，それぞれの状況を想定しながら積極的に授業に臨むこと。 ・学校栄養教育実習および学校栄養教育指導法IIと深く関連する科目であることを意識して授業に臨むこと。 ・教材研究においては，専門的な様々な知識を活かして臨むこと。 ・学校教育の様々な課題に関心を持ち，栄養教諭の社会的使命について考えること。					
【授業外学修】 ・教育に関する時事問題に関心を持ち，新聞やニュース等を把握しておくこと。 ・学校現場を想定して，授業を進めるので課題やテキスト等の予習・復習を必ずしておくこと。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載	「学校栄養教育実習書」，学校栄養教育指導法Iで使用したテキスト			
参考書	自由記載	担当教員が提示する。			
【その他】 4月当初から実習前までの期間に，補講を行う。一人ひとりが力をつけて実習に臨めるようにする。					
【担当教員の実務経験の有無】 有					
【担当教員の实務経験】 管理栄養士：地方自治体(公立小中学校・給食センター，教育行政)					
【実務経験をいかした教育内容】 ○食に関する指導について，現代的な諸課題・児童生徒の発達段階に合わせた内容・対応を指導する。(担当教員) ○栄養教諭に必要な能力を身に付けるため，教育実習指導者の指導の下，学校教育や児童生徒への理解を深め食に関する指導ができる技能を修得させる。(教育実習指導者)					

授業科目名	学校栄養教育実習		サブタイトル	授業番号	NV411
担当教員名	岡崎 恵子				
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	1単位		
開講年次	4年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	実習		
<b>【授業の概要】</b> 教育実習校の現場で生徒指導、教育内容、指導方法を体験・研究する。栄養教諭教育実習中は、実習校の指導のもと食に関する指導について、特別活動や他教科との関連の実際を深く理解すると共に、実際に授業を展開し実践的指導力を身に付ける。大学は実習校と連携して学生の指導にあたる。原則、実習校は出身校とし、1週間（5授業日）以上の教育実習に取り組む。					
<b>【到達目標】</b> 教育現場での教育活動全般（食に関する指導、各教科の指導法、生徒指導、学級経営、特別活動等）について理解を深め、指導技術を修得する。  なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b> 1 校長、教頭、教務主任による実習受入校での指導(学校経営、校務分掌の理解、服務) 2 給食主任、学級担任、栄養教諭（学校栄養職員）による実習受入校での指導。 3 養護教諭による実習受け入れ校での指導 4 校内における連携、調整（校内研修会、職員会議等）の参観、補助 5 配属学級での授業観察を通して、(1)子どもの実態把握・子ども理解を深める、(2)指導案・授業での実際、(3)教師と子どもの関わりの実際を観察する。 6 児童生徒への教科・特別活動等における教育指導の実習 (1)学級活動及び給食時間における指導の参観、補助 (2)食に関する指導の実践（学級活動・給食時間など） (3)児童生徒集会、委員会活動等における指導の参観、補助 7 家庭・地域社会との連携・調整の実際					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	・学校栄養教育実習書 他・意欲的な受講態度		
	レポート				
	小テスト				
	定期試験				
	その他	70%	教育実習校での評価		
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b> 1 教育実習生は、教育者としての責任の重大さを自覚すること。 2 意欲的、積極的な実習に取り組む。 教育実習は、いわば教育上のインターンともいうべき要素をもっている。様々なことに意欲と積極的な姿勢を持って取り組むこと。 3 研究的な実習に徹し、事前・事後学習に励む。 4 健康と安全に留意し、実りの多い実習となるように努力する。 5 本実習を受ける前には、必ず事前に実習受入校を訪問し、指導教諭等と打ち合わせをしておくこと。 6 教育実習生としての当然のエチケットとして、実習期間中お世話になった指導教諭や校長宛に礼状を出すことを忘れないようにすること。					
<b>【授業外学修】</b> ・事前に実習受入校を訪問し学校長・指導担当者等との打ち合わせができるように準備すること。 ・実習校の指導に従って、教材研究等を行うこと。 ・指導案の作成や教材研究にあたっては、年間の授業計画も視野に入れ、他教科との関連についても考慮し準備を入念にしておく。 ・実習校がある区市町村教育振興基本計画等を調べておくこと。 以上の内容を、週当たり5時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載	学校栄養教育実習書、学校栄養教育指導法Iで使用したテキスト、必要に応じて資料等を用意する			
参考書	自由記載				
<b>【その他】</b> 特になし					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有					
<b>【担当教員の实務経験】</b> 管理栄養士：地方自治体(公立小中学校・給食センター、教育行政)					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> ○食に関する指導について、現代的な諸課題・児童生徒の発達段階に合わせた内容・対応を指導する。（担当教員） ○栄養教諭に必要な能力を身に付けるため、教育実習指導者の指導の下、学校教育や児童生徒への理解を深め食に関する指導ができる技能を修得させる。（教育実習指導者）					



授業科目名	学校栄養教育指導法		サブタイトル	授業番号	NW301	
担当教員名	岡崎 恵子					
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	2単位			
開講年次	3年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b>						
栄養教諭制度創設の経緯を十分に把握した上で、法制度や栄養教諭の職務内容について理解を深める。学校における食に関する指導・学校給食について学び、児童生徒の発達段階に応じた給食時の指導案の立案・資料等の作成を行い実践する。また、家庭・地域との連携や調整のあり方を学び、栄養教諭として必要な食に関する指導および給食管理について総合的に学修する。						
<b>【到達目標】</b>						
栄養教諭制度の創設の経緯を把握し、栄養教諭としての社会的使命や職務内容を理解するとともに、食に関する指導、学校給食の管理・運営ができる能力を養う。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力><技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
<b>【授業計画 備考】</b>						
授業形態は講義，演習になる						
第1回：栄養教諭の制度と役割 (担当)						
第2回：学校組織と栄養教諭						
第3回：学校給食と日本人の食生活 (担当)						
第4回：子どもの発達と食生活 (担当)						
第5回：学習指導要領の意義と食育の在り方 (担当)						
第6回：「食に関する指導」の全体計画 (担当)						
第7回：「食に関する指導」の展開，食に関する指導と小学生用食育教材 (担当)						
第8回：給食の時間における食に関する指導 (担当)						
第9回：給食の時間における食に関する指導案・板書計画・細案作成・実践						
第10回：給食の時間における食に関する指導の実践，ディスカッション						
第11回：教科における食に関する指導（小学校「家庭科」・中学校「技術・家庭科」）						
第12回：教科における食に関する指導（生活科，総合的な学習の時間，体育科・保健体育科，道徳，特別活動，総合的な学習時間） (担当)						
第13回：個別栄養相談指導の意義と方法 (担当)						
第14回：家庭・地域との連携，給食だよりの作成・説明 (担当)						
第15回：まとめ，ディスカッション (担当)						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な授業態度，討議への参加，予習・復習の状況によって評価する。			
	レポート					
	小テスト	10%	各回の主要なポイントの理解を評価する。			
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。			
	その他	10%	給食時の指導案，給食だよりに等，提出物			
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
各回が独立して，15回で1つの流れとなつてつながる授業であることから，毎回しっかり学習する態度で事前・事後学習に励み出席すること。栄養教諭を目指す気持ちを確立させてほしい。						
<b>【授業外学修】</b>						
・授業予定一覧に沿って，使用テキストを利用した予習・復習をすること。						
・指導案や資料等の作成，教材の準備をすること。						
以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	四訂栄養教諭論－理論と実際－	金田雅代	建帛社	2800円＋税	978-4-7679-2116-7	
	学校給食調理従事者研修マニュアル	文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課	株式会社 学建書院	1800円＋税	978-4-7624-0884-7	
	食に関する指導の手引き－第二次改訂版－	文部科学省	健学社	1300円＋税	978-4-7797-0496-3	
	小学校学習指導要領	文部科学省				
	小学校学習指導要領総則編	文部科学省				
	自由記載	「小学校学習指導要領解説 家庭編」文部科学省，小学校教科書「わたしたちの家庭科5・6」文部科学省				
	自由記載	「小学生用学習教材」文部科学省				
参考書	<b>【その他】</b>					
	適宜紹介する。					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
	<b>【担当教員の实務経験】</b>					
管理栄養士：地方自治体（公立小中学校，給食センター，教育行政）						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
栄養教諭に必要な現代的課題等への対応等について，実践的な指導をする。						

授業科目名	学校栄養教育指導法II		サブタイトル	授業番号	NW302
担当教員名	岡崎 恵子 森寺 勝之				
対象学部・学科	現代生活学部 人間栄養学科	単位数	2単位		
開講年次	3年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>					
学校栄養教育指導法Iで学んだ内容について、実践演習を通しさらに深く理解する。栄養教諭としての効果的な学習指導案の作成、模擬授業、ロールプレイング、アクティブラーニングを取り入れ、実践的指導力のスキルの育成を行う。					
<b>【到達目標】</b>					
児童生徒の心身の発達段階に応じた1単位時間の「食に関する指導」の内容を考えた指導案の立案、模擬授業等を行うことができる。栄養教諭に必要な実践的指導力の基礎となるスキル等を身に付けることを目標とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回 学校栄養教育指導法Iを踏まえて 第2回 学校栄養教育実習の報告から学ぶ 第3回 教育現場に勤務するプロとしての栄養教諭（特別講師） 第4回 食生活教材について学ぶ 第5回 実践演習（1）1単位時間の学習指導案の作成の基本、教材研究 第6～8回 実践演習（2）食に関する指導の学習指導案の作成、指導案の発表、相互批評、指導効果の評価、検討 第9～14回 実践演習（3）学習指導案の作成、指導案の発表、相互批評、指導効果の評価、検討 第15回 全体のまとめ					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な受講態度、ディスカッションへの参加状況によって評価する。		
	レポート	10%	食に関する指導についての理解度を評価する。		
	小テスト	20%	栄養教諭の職務についての理解度を評価する。		
	定期試験				
	その他	50%	演習内容、課題への取組を評価する。		
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b>					
グループでの活動が多いので、この機会をとらえてコミュニケーション能力を養うよう意欲的な態度で臨むこと。学習指導案の立案の際、各自で事前・事後学習に励むこと。					
<b>【授業外学修】</b>					
・学校栄養教育指導法Iで使用したテキストを熟読して、予習・復習をすること。 ・教材研究をしておくこと。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。 ・小中学校の公開時を捉え、授業を参観する。					
使用テキスト	自由記載	学校栄養教育指導法Iで使用したテキスト、必要に応じて資料を用意する。			
参考書	自由記載	「食育白書」農林水産省、「小学生用食育教材」文部科学省、担当教員が提示する。			
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>					
管理栄養士：地方自治体(公立小中学校・給食センター、教育行政)					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
教育現場での職務の実際及び「食に関する指導」の授業実践から、栄養教諭に必要とされる技能を修得させる。					

# 中国学園大学 令和3年度(2021年度) シラバス

<b>授業科目名</b>	<b>日本語表現</b>		<b>サブタイトル</b> (音声言語と文章の表現)	<b>授業番号</b>	CA201
<b>担当教員名</b>	村井 隆人				
<b>対象学部・学科</b>	子ども学部 子ども学科	<b>単位数</b>	2単位		
<b>開講年次</b>	1年	<b>開講期</b>	前期		
<b>必修・選択</b>	選択	<b>授業形態</b>	講義		
<b>【授業の概要】</b>					
私たちは日常生活で言葉を介した様々なメディアに触れている。この授業では小グループでの活動を中心に、様々なメディアを分析・表現することで私的・公的な日本語表現の力を高めることを目的とする。					
<b>【到達目標】</b>					
音声言語表現及び文章表現についての基礎的な知識を獲得し、自分の考えを様々な形態に応じて表現できるようになることを目的とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：日本語表現の全体像 第2回：音声言語によるコミュニケーション 独話ー 第3回：音声言語によるコミュニケーション 対話1ー 第4回：音声言語によるコミュニケーション 対話2ー 第5回：詩的表現1 - 俳句創作 第6回：詩的表現2 俳句鑑賞 第7回：詩的表現3 - 絵本 第8回：視覚表現1 写真 第9回：視覚表現2 写真鑑賞 第10回：視覚表現3 - CM分析 第11回：視覚表現4 - 分析発表 第12回：レポート1 - 論証 第13回：レポート2 - 根拠づくり 第14回：レポート3 - レポート作成 第15回：レポート4 - 添削					
<b>【授業計画 備考2】</b>					
補講や天候等により授業内容が前後したり変更になる場合がある。					
<b>評価の方法</b>	<b>種別</b>	<b>割合</b>	<b>評価規準・その他備考</b>		
	授業への取り組みの姿勢/態度				
	レポート	45%	授業内容の理解度を各回のミニ・レポートによって評価する。		
	小テスト				
	定期試験	55%	講義内容を基にした記述式の試験を行う。		
	その他				
<b>自由記載</b>	レポートはグループ活動の成果を中心に記述するため、グループ活動での積極性がない場合減点する。 定期試験ではCMを分析するなど、具体的な活動を基にした記述式の試験を行う。				
<b>【受講の心得】</b>					
配付資料をファイルしておくこと。 学生相互の意見交流・評価活動を取り入れるため、積極的に参加すること。					
<b>【授業外学修】</b>					
1. 復習として、授業で配布した資料を読んでおくこと。 2. 予習として、小テストの範囲の内容を学修しておくこと。 3. 語彙力を伸ばすため、日常的に漢字を学修すること。 4. 授業で身につけた技能を、普段の生活に活用すること。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。					
<b>使用テキスト</b>	<b>自由記載</b>	毎回プリント資料を配付する。			
<b>参考書</b>	<b>書名</b>	<b>著者・編集者</b>	<b>出版社</b>	<b>定価</b>	<b>ISBN</b>
	大学生のためのレポート・論文術	小笠原喜康	講談社	本体740円(税別)	9784062880213
<b>自由記載</b>					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
無					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					



授業科目名	芸術	サブタイトル	(アートとデザイン)	授業番号	CA202
担当教員名	柏原 寛				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b> この授業では、アート及びデザインとは何かについて考えます。そのために、これまで世界各地で生まれてきたアート・デザインについて触れ、可能性や未来について考えます。					
<b>【到達目標】</b> 1) 幅広い分野の作品に親しむ。 2) 基礎的な用語を理解し、それを用いて作品を説明できる。 3) アート作品・活動やデザイン作品・活動に対し、自分なりの考えを述べるができる。 4) 県内外にある芸術作品にふれ、自分なりの視点で作品を批評することができる。 5) 自分と対象や事象との関わりを深め、自分なりに意味や価値をつくりだすことができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b> 第1回：アートってなんだろう 第2回：身の回りのアート1 ーパブリックアートー 第3回：身の回りのアート2 ーパブリックアートー 第4回：形のあるアート1 ー立体作品ー 第5回：形のあるアート2 ー立体作品ー 第6回：形のあるアート3 ー絵画作品ー 第7回：形のあるアート4 ー絵画作品ー 第8回：コレクション1 ー集めることー 第9回：コレクション2 ー集めることー 第10回：アートに触れよう1 ー美術館にでかけようー 第11回：アートに触れよう2 ー美術館にでかけようー 第12回：デザインってなんだろう 第13回：形のあるデザイン1 ー立体分野ー 第14回：形のあるデザイン2 ー立体分野ー 第15回：まとめ ーアートとはなにかー					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢/態度		40%	意欲的な授業態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。	
	レポート		30%	「アート及びデザインとは何か」について具体的に記述すること。	
	小テスト		30%	各回の主要なポイントの理解をコメントペーパーの記述内容によって評価する。	
	定期試験				
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b> この講義の目標に対し、受講者とともに取り組みたい。課題をもとにディスカッションを行うので、協力しながら探求する態度を求める。					
<b>【授業外学修】</b> 復習として、授業で課題を課すことがある。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載	適宜、提示する。			
参考書	自由記載	適宜、提示する。			
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有					
<b>【担当教員の实務経験】</b> デザイナー・プランナー実務					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> アート、デザインに関わる実務経験を活かして芸術の見方・考え方を指導する。					

授業科目名	心理学		サブタイトル	(心と行動の科学)		授業番号	CA203	
担当教員名	國田 祥子							
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位			
開講年次	1年			開講期	前期			
必修・選択	選択			授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b>								
この授業では、心理学全般の基本的な知識、心理学理論による人間理解とその技法の基礎について解説する。								
<b>【到達目標】</b>								
クリティカルシンキングやクリエイティブシンキングなどの心理学的思考法を身につけることを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。								
<b>【授業計画】</b>								
第1回：心理学とは 第2回：予知体験の不思議 第3回：記憶の不思議 第4回：影響されるこころ 第5回：揺れうごくこころ 第6回：検査で「自分」がわかるのか 第7回：占い・新宗教がもつ現代的意味 第8回：中間のまとめ 第9回：子どもから見た現実と想像の世界 第10回：「もしかして……」と揺れ動く心の発達 第11回：不思議現象に立ち向かう子どもたち 第12回：脳とこころの不思議な世界 第13回：科学的に検証するとはどういうことか 第14回：心理学を学ぶ人のために 第15回：期末のまとめ								
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度							
	レポート							
	小テスト							
	定期試験		100%	理解度を評価する。				
	その他							
自由記載								
<b>【受講の心得】</b>								
積極的な受講態度を期待します。								
<b>【授業外学修】</b>								
毎回の授業の内容を4時間以上復習しておくこと。復習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について再度4時間以上の復習を行うこと。								
使用テキスト	自由記載	なし						
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN		
	不思議現象 なぜ信じるのか こころの科学入門		菊地 聡・谷口高士・宮元博章(編著)	北大路書房	1900円	978-4-7628-2032-8		
	不思議現象 子どもの心と教育		菊地 聡・木下孝司(編著)	北大路書房	1900円	978-4-7628-2089-2		
	自由記載							
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>								
無								
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>								
無								

授業科目名	倫理学		サブタイトル	(人間形成の倫理と論理)	授業番号	CA204
担当教員名	小谷 彰吾					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
激変する時代の中で、偶然に起こりうる事象に対応しながら「よりよく生きてゆく」ことが求められている。そこで、先哲の思想、中でも儒教の視点を一つの柱としたり、現代社会における倫理を考察したりする中で自らの生き方を見つめる観点から倫理学をとらえていく。						
<b>【到達目標】</b>						
東洋、西洋、それぞれの時代の中で、人間は「よりよく生きる」ことを究明しようと問い続けてきた歴史と思想があったことを知るとともに、我が国には、神道、仏教、儒教が融合する独特の精神文化があり、それらを一つの参考にしながら現代社会において「よりよい行動」を実践しようとする態度を形成する。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜態度＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
<b>【授業計画 備考】</b>						
『倫理学』の概念を知り、『善悪』の判断とその背景、その価値基準となる考え方について先哲の言葉を参考に考えていく。						
第1回：倫理の基盤(1) ガイダンス 第2回：倫理の基盤(2) 倫理観と社会的背景 第3回：倫理の基盤(3) 倫理観の形成と体験の欠如 第4回：倫理の思想(1) 倫理と道徳 第5回：倫理と思想(2) 知識基盤社会と倫理 第6回：倫理学の基礎(1) 倫理と思考実験 第7回：倫理学の基礎(2) 義務論と功利主義 第8回：現代社会の倫理(1) 死刑制度 第9回：現代社会の倫理(2) 老いと安楽死 第10回：現代社会の倫理(3) いじめと自殺 第11回：現代社会の倫理(4) 徳の教育と学校 第12回：現代社会の倫理(5) 伝統文化と食の倫理 第13回：日本倫理の思想(1) 江戸時代の徳の教育 第14回：日本倫理の思想(2) 『論語』 第15回：『倫理学』のまとめ 総括レポート						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		50%	ディスカッション等授業における意欲・態度、各授業のコメントペーパー		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他		50%	15回目の論文で評価する。		
	自由記載	国際教養学部国際教養学科ディプロマポリシー 知識・理解 に見られる自国・他国の行動様式、考え方の基盤となる文化的背景の理解、態度 に見られる、多様な文化を理解し尊重することに直接かわかるものを重点的に評価することから、授業への参加態度と論語に50%を充てる。				
<b>【受講の心得】</b>						
常にこれからの時代をどう生きていくのかという当事者意識を持って学習に向かうことが重要である。						
<b>【授業外学修】</b>						
授業内で紹介する著書については、可能な限りすべて読み、批判的思考も含めて自分の言葉で表現できるようにする。 授業外で深めた基礎的教養によって、授業中でのディスカッションの質が向上する。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	テキストは使用しない。(必要に応じて講義内で随時紹介する)				
参考書	自由記載	講義内で随時、紹介する。				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
公立小学校教諭、私立高等学校教諭						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
現在、学校教育現場では、アクティブラーニングの研究が進められており、「受動的な学習」からの脱却を図っている。しかし、特に小学校においては、遅か前から実践されていた学びであり、特に「道徳」は教科化されて以降、「議論する道徳」「思考する道徳」、すなわち自らの意見を持って、仲間と意見をぶつけ合い、新しい価値を見出していく学習が展開されている。『倫理学』と同様の学習を展開すれば、「主体的な学び」が展開できるものと考えている。 グループワーク、ディスカッションなど積極的に取り入れて活気ある学習の雰囲気醸成したい。						

授業科目名	歴史学		サブタイトル	(歴史家は過去の何に注目し、どうとらえてきたか)	授業番号	CA205
担当教員名	大山 章					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b> 「歴史」と聞くと、書かれたものを読み、記憶する、どちらかと言えば受け身のイメージが強いが、「歴史学」は、過去の出来事を史料を用いて分析・解釈し、それをもとに歴史像・時代像を描き、叙述する主体的な営みである。この授業では、近年話題になっているものを中心に、歴史家が過去の出来事や時代をどのようにとらえ、解釈してきたかを取り上げる。授業の半分は、特定の時期・時代を取り上げるが、一つのテーマ・視点で長い歴史をあつかう回も設ける。						
<b>【到達目標】</b> 1 歴史学の意義と歴史研究の基本を理解することができる。 2 近年の歴史研究の成果について理解することができる。 3 史料をもとに、積極的に考察したり、発表したりすることができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b> 第1回：歴史と歴史学 歴史をなぜ学ぶか？歴史学とはどんな学問か？ 第2回：農耕・牧畜の始まり オリエント、東アジアを中心に 第3回：中央ユーラシアの遊牧国家 スキタイ、匈奴を中心に 第4回：気候変動・災害と歴史 第5回：モンゴル帝国 第6回：東アジア海域の歴史 倭寇が活動し、沖縄が琉球王国であった時代 第7回：様々であった国というまとまり 第8回：歴史研究における地図の利用 国土地理院の旧版地図を中心に 第9回：世界の一体化と日本 コロンブスの交換、世界遺産石見银山 第10回：イギリスの工業化とフランス革命 それぞれの研究史をたどると 第11回：ジェンダーと歴史 第12回：東アジアとウェスタン・インパクト 清と日本がウェスタン・インパクトにどう向き合ったか？ 第13回：アメリカ合衆国とメキシコ 3000km以上に及ぶ国境線で接する両国関係史 第14回：感染症と歴史 第15回：自分なりの歴史像を描いてみよう						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加度、予習復習の状況によって評価する。		
	レポート					
	小テスト		10%	前回の授業の基本的な事項の理解度について評価する。		
	定期試験		60%	授業で取り上げた内容の理解度、歴史的事象についての自分の考えを根拠をあげて論理的に表現する力について評価する。		
自由記載		10%	授業後に提出するコメントペーパーの内容によって評価する。			
<b>【受講の心得】</b> 「歴史学」は、定まった知識を覚え、蓄積するものではなく、自らが生きる時代が直面する課題などをふまえて、過去を様々な切り口から追求する学問です。一定の歴史的知識は必要ですが、より大切なのは、人の行動や社会で起きていることに対する関心や疑問です。また、授業では、可能な範囲で史料をもとに考察したり、発表したりする活動を設定します。積極的な参加を期待します。						
<b>【授業外学修】</b> 予習として、高校の世界史（内容によっては日本史）の教科書の関係部分を読んでおく。授業後は、授業で取り上げられた時代、テーマについての歴史像、時代像を、自分なりに文章にまとめておくようにする。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	レジュメ、資料を配付する。				
参考書	自由記載	授業で随時紹介する。				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有						
<b>【担当教員の職務経歴】</b> 中学校教諭、岡山県教育センター研修講座講師						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 学校現場での歴史教育の経験を生かして、歴史に関する今日的な内容、テーマをわかりやすく指導する。						

授業科目名	社会学		サブタイトル	(配偶者の選択と家族編成の社会的規則)		授業番号	CA206	
担当教員名	中田 周作							
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位			
開講年次	1年			開講期	前期			
必修・選択	選択			授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b> 本講義では、社会学の方法によって家族を理解するための枠組みを学習する。 現代社会における家族の姿は、多元化する価値意識のもとで、その形態や機能が多様化している。 そのため、本講義では家族の中核をなす夫婦関係に焦点をあて、家族編成に関する社会的規則について講義する。								
<b>【到達目標】</b> 現代社会の家族集団を、より深く理解するためには社会的な枠組みを活用すると有効である。 これにより、地域社会の中に存する様々な家族を理解し、実践活動に実際に資することができる知識や分析の視角を身につけることを目標とする。 なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<思考・問題解決能力>の修得に貢献する。								
<b>【授業計画】</b> 第1回：配偶者選択をめぐる社会状況の変化 第2回：家族社会学における「家族」の定義 第3回：家族を対象とした社会的アプローチの方法 第4回：家族の類型と分類 第5回：青年期の異性交際に関する社会的意味の考察 第6回：青年期の異性交際の実態 第7回：家族編成の社会的ルールとは何か 第8回：配偶者選択の社会的メカニズム 第9回：配偶者選択のプロセス 第10回：結婚の社会的意味 第11回：結婚の社会的機能 第12回：離婚の社会的意味と機能 第13回：家族の新しい形 第14回：子どもの養育 第15回：老親の介護								
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考					
	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	授業への取り組み姿勢を考慮する。					
	レポート	70%	講義終了後に最終レポートを提出する。					
	小テスト							
	定期試験							
	その他	20%	講義のとき、毎回、コメントペーパーを提出する。					
	自由記載							
<b>【受講の心得】</b> 自らの配偶者選択や、家族集団に興味・関心があることが望ましい。 しかしながら、あまりにも身近で現実的な問題であるため、ある程度、客観視できる受講態度が望ましい。								
<b>【授業外学修】</b> 1．テキストを事前に読んでくること。 文章を読むだけでなく、掲載されている図表の意味するところを考える。 具体的なアプローチの方法は、授業時間内に指示する。  2．最終レポートの課題を探しながら受講すること。 テーマに関するニュースや、身近な出来事に関心をもつこと。  両方の課題を合わせて、週当たり4時間以上、取り組むこと。								
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN			
	新しい家族社会学	森岡清美・望月嵩	培風館	1750	978-4-563-05034-4			
	自由記載							
参考書	自由記載	講義の進行にあわせて適宜紹介する。						
	【その他】	特になし。						
	【担当教員の実務経験の有無】	無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無								

授業科目名	日本国憲法		サブタイトル	(身近な問題を通して憲法の役割を考える)	授業番号	CA207
担当教員名	俣野 英二					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	3年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
授業は、教員の教育委員会及び県庁における人権啓発・相談経験を踏まえた身近な問題を素材に、体系的理解及び憲法的な分析方法を学修する。あわせて、身近な問題についてグループの話し合い(新型コロナ対策に伴う規制がない場合)および発表により、憲法的思考および憲法の基本原理などの理解の深化を目指す。						
<b>【到達目標】</b>						
憲法の基本原理・原則および基礎知識を理解し、それらを活用して身近な憲法問題を主体的に考えることができるようになることを目標とする。 なお、本科目は、到達目標達成の前提として異なる価値観、文化、背景および相互関係を知り、深い認識と理解の修得を伴うことから、職業人としての高い倫理観と豊かな人間性と社会性の修得を必要とするので、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<態度>の修得に貢献する。また、体系的な思考方法を学び、多面的に分析し、自らの見解を形成する能力の修得を目的とするので、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：ガイダンス、憲法とは何か 憲法とは何かについて学ぶ。 土儀における女人禁制のルールが憲法に反しないか考える。</p> <p>第2回：立憲主義、共和主義と民主主義、積極国家、象徴天皇 立憲主義、共和主義と民主主義、積極国家、機関としての象徴天皇について学ぶ。 「日本の象徴」と「日本国民統合の象徴」の意味における議論を考える。</p> <p>第3回：平和を守る仕組み― 戦争の放棄と平和主義 戦争の放棄と平和主義について学ぶ。 自衛隊等についての国会での議論、政府の答弁、国会決議等について調べてみる。</p> <p>第4回：人権を守るための組織 統治機構 1 政治と国民、国会議員、選挙権、選挙制度、政党について学ぶ。 若者の投票率改善について考える。</p> <p>第5回：人権を守るための組織 統治機構 2 国会、内閣、裁判所について学ぶ。 司法権の独立の必要性について考える。</p> <p>第6回：国際化のなかの日本人、日本にいる外国人の権利 日本国憲法上の人権が外国人に保障されるか、日本人と異なる扱いが許されるかを学ぶ。 外国人労働者の受け入れに関する問題を調べる。</p> <p>第7回：良心を持つ自由、貴く権利 思想・良心の自由について学ぶ。 学校における政教分離について考える。</p> <p>第8回：表現の自由と書かれない権利 表現の自由と名誉やプライバシーについて学ぶ。 教師や児童生徒に関するSNSの書込みについて考える。</p> <p>第9回：知る権利とマス・メディアの自由 知る権利とマス・メディアの自由などについて学ぶ。 情報通信基盤(プラットフォーム)に対する規制について考える。</p> <p>第10回：営業の自由と消費者の権利 職業選択の自由、営業の自由と消費者の権利について学ぶ。 職業を規制することの合憲性について考える。</p> <p>第11回：働く人の権利 勤労の権利や労働基本権について学ぶ。 非正規労働者の問題について調べる。</p> <p>第12回：困った時の権利、差別されている人たちへの配慮 憲法25条の歴史的、社会的意味、社会保障制度について学ぶ。 積極的な格差解消の取組みの合憲性について考える。</p> <p>第13回：人身の自由と刑事手続き上の諸権利 被疑者や被告人の権利について学ぶ。 死刑制度の合憲性について考える。</p> <p>第14回：家庭と女性・子どもの権利 憲法における家庭と女性・子どもの権利について学ぶ。 同性愛者のカップルに婚姻と同じ保護を与える制度について考える。</p> <p>第15回：学校における生徒の人権 生徒の教育を受ける権利、学校内外での権利について学ぶ。 いじめ問題を憲法から考える。</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	講義レポートの提出(15%)、発表・質疑など(5%)に基づいて評価する。		
	レポート		40%	2回実施。各20%。問題の背景(憲法上の対立点)を正確な基本的情報に基づいて、判例・学説、結論を憲法や基本原理を使って結論に対する理由が書けていることで評価する。		
	小テスト		0%			
	定期試験		40%	記述式試験により最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
1 履修を希望する者は、初回にグループ分け及びグループ発表の仕方について説明するので必ず出席すること。						
2 受講者は受講期間中に1回以上発表または質問に答える機会を与えるので、担当する課題の回はグループ全員が積極的に準備しておくこと。						
3 各回講義レポートがある。						
4 各回グループワーク(新型コロナによる規制がない場合)および発表がある。						
5 中間に2回(第5回、第10回頃)にレポート課題がある。						

- 1 テキスト及び講義資料内の用語の意味を調べておくこと。
- 2 提示した課題を検討しておくこと。発表者は、課題に関する情報を収集、整理し、発表及び質問に答えられるよう準備する。

復習として

- 1 講義を踏まえて課題を整理し直すこと。
- 2 興味のある課題について、追加の調査を行うこと。
- 3 課題をレポートにまとめること。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

【 <b>履修科目</b> 】	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
履修者は、毎回	憲法として 憲法のちから—身近な問題を通して考える憲法の役割—	中富公一編著	法律文化社		
	自由記載				
【 <b>参考書</b> 】	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	自信をもっていじめにNOと言うための本	中富公一	日本評論社	2300 + 税	978-4-535-52038-7
	自由記載	右崎正博・浦田一郎編『基本判例1 憲法 [第4版]』(法学書院, 2014年)			
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>					
県教育委員会, 県(人権・同和政策課)					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
いじめや学校内の人権問題など学生に身近な人権問題および統治の仕組みを学生の目線で憲法の基本原理から説明する。					

授業科目名	数学概論		サブタイトル		授業番号	CB201
担当教員名	姫野 俊幸					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
古代エジプトや古代ギリシアの時代から「数学」は常に人類の生活に変化を与えてきた。人々の認識を変化させ、歴史を動かしてきたともいえる。そういう意味で「数学」は人類が受け継いできた「叡智の結晶」である。日常生活の様々な事象だけでなく、自然の事象や芸術でさえ数学的な裏付けが存在している。こうした「数学」の価値と魅力を、歴史的に多角的に豊かに学び、「数学」そのものに親しみや楽しみを見い出していく。						
<b>【到達目標】</b>						
「数学」にかかわる基礎的基本的な知識を理解するとともに、様々な事象について、「数学」を活用し、論理的に問題解決することの価値と魅力を実感できるようになる。						
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：代数・解析・幾何 第2回：ローマ数字からアラビア数字 0 の発見 第3回：古代エジプト縄張師 ピタゴラスの定理 第4回：正多面体 半正多面体 星型多面体 第5回：分数 小数 第6回：アボガド口定数 指数 第7回：対数 計算尺 第8回：フェルミ推計 第9回：曲線 第10回：統計 第11回：円周率 第12回：魔方陣 第13回：ハノイの塔 第14回：数学パズル 第15回：何のために数学を学ぶのか						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢 / 態度		15%	意欲的な受講態度、発表・討議への取り組みの姿勢を評価する。		
	レポート		30%	「授業からの学び」と「自分の気づき」を評価する。		
	小テスト		40%	前回の授業の内容の理解度を評価する。		
	定期試験					
	その他		15%	ノートのまとめ方を評価する。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
授業のはじめに小テストを行うので、前回の復習をして授業に臨むこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 配付資料や小テスト等を整理し貼付して、本時の講義内容をノートにまとめ、復習する。 2 発展学習として、授業で興味をもった内容について調べ深める。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	なし（資料配布）				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
公立小学校教諭，教頭，校長，教育委員会事務局						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
実務現場での経験を生かして，数学概論について指導を行う。						



授業科目名	現代環境論		サブタイトル	(現代の身近な環境を「実感」する)	授業番号	CB202
担当教員名	岸 誠一					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
私たちの日常の関わりの中から、現代の身近な環境を概観する授業を行う。野外学修やグループワークといった参加体験型の学修手法を多く用いて、現代環境を「実感」して探究心を高める授業を行う。						
<b>【到達目標】</b>						
「多様で変化の激しい社会を生き抜く力」の養成に力点を置き、環境問題という現代的、社会的な課題に対して地球的な視野で考え、自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことができるようになることを目指す。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞と＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：授業概要の説明、環境に関する基礎講座I 第2回：環境に関する基礎講座II 第3回：地球環境問題認識度チェック(クイズ形式の参加型学修) 第4回：ドングリとイノシシに学ぶ?!(吉備の中山での体験学修) 第5回：中国学園近辺の用水の水は大丈夫か? (水環境に学ぶ体験学修) 第6回：ごみと資源と私たち(ごみ(対策・分別)について学ぶ) 第7回：SDGs (エス・ディー・ジーズ) って何だ? (17の目標を理解し、自分たちでできる具体的な取組みについて考える) 第8回：中国学園近辺に降る雨は大丈夫か? (大気汚染と酸性雨について学ぶ) 第9回：「シーベルト」「ベクレル」って何だ? (放射能についての正しい知識を中国学園の放射線量測定から学ぶ) 第10回：循環型社会へ向けてI (環境問題と国際的取り組み) 第11回：環境問題解決のための新技術Iとその課題について (脱化石エネルギー、リサイクル) 第12回：環境問題解決のための新技術IIとその課題について (水素エネルギーと燃料電池他、太陽光発電) 第13回：太陽光発電で中国学園大にイルミネーションを! (再生可能エネルギーの実践を通して) 第14回：環境問題について特別講義 第15回：まとめ(授業全体のふりかえり総括)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	意欲的な受講態度、グループワーク等への参加度、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート		20%	野外学修等の後はレポートを提出してもらう。何に気づき、何を学んだのかなど、書かれた具体的な学びの成果を評価する。記載された内容は、その後の授業の中でコメントするなどのフィードバックを適宜行う。		
	小テスト		20%	小テストを実施し、個々の内容について理解度を評価する。		
	定期試験		40%			
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
この授業は、野外学修も行うため、天候等によって適宜内容を変更することがある。また、内容に継続性や関連性があるため、授業を欠席しない、遅刻しないようにしていただきたい。授業は毎回の積み重ねの中で進んでいくので、配付資料等は毎回、持参していただきたい(ノートに貼ることを推奨している)。野外学修等の後はレポートを提出してもらう。試験代わりの重要な成績根拠資料になるので保管する(返却しない)ため、必要なメモは各自のノート等を書いていただきたい。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 予習として、授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学修等を行い、考えてくること。 2. 復習として、授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いてふりかえり、適宜調べ学修や実践等を行い、学びを深めていく(探究する)こと。 以上の学修を、授業1回あたり4時間以上行うこと。なお、学修のための情報提供をclassroomで行うので、よく見ること。						
使用テキスト	自由記載	なし(資料配付)。				
参考書	自由記載	講義の進行にあわせて適宜紹介する。				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	自然科学概論		サブタイトル	(体感型授業で自然科学の楽しさを実感しよう)	授業番号	CB203
担当教員名	岸 誠一					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
私たちの日常の関わりの中から、自然科学を概観する授業を行う。野外体験学修や科学実験といった体験・体感型の学修手法を多く用いて、自然科学を「見える化」して探究心を高める授業を行う。また、科学工作も行い、科学のおもしろさと不思議さを実感する。						
<b>【到達目標】</b>						
私たちの身のまわり、日常の中にある自然科学の基本概念や知識、科学的なものの考え方ができるようになることを目指す。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
<b>【授業計画備考】</b>						
授業の中では、様々な測定装置、電気関係の測定機器や実験器具などを用いて、私たちの身のまわりの環境、自然科学について実測、体感しながら学びを深めていく。						
第1回：中国学園の庭で「幸せ」を探そう!?(四つ葉のクローバ探しから見えてくるフィールドワークの楽しさ)						
第2回：科学マジックを通して学ぶ科学のおもしろさ						
第3回：電子オルゴール作りを通して学ぶ「オームの法則」						
第4回：見上げてごらん夜の星を(天文学の初歩)						
第5回：タイムマシンは作れるか?(アインシュタインの相対性理論を分かりやすく学ぶ)						
第6回：君のひとみは一万ボルト?はやぶさのイオンエンジンは一万五千ボルト!(高電圧の実験を通して見えてくる電気の性質)						
第7回：新型コロナウイルス感染予防を通して学ぶ自然科学						
第8回：高価なバイオリンと安価なバイオリンの音の違いは?(音を「見える化」して分かってくる新芸能人格付けチェック)						
第9回：液状化現象とスライムに関する実験と実習(分子構造について学ぶI)						
第10回：糖を科学するべっこう飴づくりの実験と実習(分子構造について学ぶII)						
第11回：天然色素と酸アルカリの実験と実習						
第12回：光に関する基礎講座ならびに実験と実習						
第13回：楽しい数学(小学校高学年の知識で挑戦する、とっても簡単!?微分と積分)						
第14回：流しそめんの加速度を測定しよう!						
第15回：まとめ(授業全体のふりかえり総括)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	意欲的な受講態度、実験・実習・討議等への参加度、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート					
	小テスト		30%	各回の主要なポイントの理解を評価する。		
	定期試験		50%	最終的な理解度を評価する		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
この授業は、自然を対象にしているため、天候等によって適宜内容を変更することがある。また、内容に継続性や関連性があるため、授業を欠席しない、遅刻しないようにしていただきたい。授業は毎回の積み重ねの中で進んでいくので、配付資料等は毎回、持参していただきたい(ノートに貼ることを推奨している)。また、新型コロナウイルスの感染予防のため、食べたり、密になって行う実験などが出来なくなり、他の内容に変更する場合がある。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 予習として、授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学修等を行い、考えてくること。						
2. 復習として、授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いてふりかえり、適宜調べ学修や実践等を行い、学びを深めていく(探究する)こと。						
以上の学修を、授業1回あたり4時間以上行うこと。						
使用テキスト	自由記載	なし(資料配付)。				
参考書	自由記載	講義の進行にあわせて適宜紹介する。				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	生活と情報処理		サブタイトル	(パソコン利用の基礎)		授業番号	CC201	
担当教員名	梅原 嘉介							
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位			
開講年次	1年			開講期	前期			
必修・選択	選択			授業形態	講義			
【授業の概要】								
現代の情報社会において、パソコンは最も基礎的なツールの1つである。このうち情報の持つさまざまな側面のうち、情報と人間生活のかかわりを明らかにする。そのため、パソコンの基本的な使い方や仕組み、さらにはネットワークの基礎的な使用方法などを身につける。								
【到達目標】								
本授業の具体的な目標は、次の3点である。 (1) パソコンに関する基礎知識を学ぶ。 (2) ネットワークを利用した情報収集、加工、発信の仕方を学ぶ。 (3) 情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて学ぶ。 なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<技能>の修得に貢献する。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力><技能>の修得に貢献する。								
【授業計画】								
第1回：コンピュータの歴史 第2回：パソコン操作についての基礎的知識 第3回：ネット利用に関する基礎知識(1) 第4回：ネット利用に関する基礎知識(2) 第5回：ネット利用に関する基礎知識(3) 第6回：ワード・エクセルの基礎知識 第7回：パワーポイントの基礎知識(1) 第8回：パワーポイントの基礎知識(2) 第9回：パワーポイントの基礎知識(3) 第10回：デジタルコンテンツの作成の仕方(1) 第11回：デジタルコンテンツの作成の仕方(2) 第12回：デジタルコンテンツの作成の仕方(3) 第13回：課題への挑戦(1) 第14回：課題への挑戦(2) 第15回：情報の倫理とセキュリティ								
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	プレゼンテーションを含む				
	レポート		80%	授業中に作成し提出する資料3つ(3つの課題が各30%)				
	小テスト							
	定期試験							
	その他							
自由記載								
【受講の心得】								
新聞・TV等で報道される情報に関するニュースやレポートに興味を持って接してほしい。 わからないことは質問すること。								
【授業外学修】								
1 復習すること。 2 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。								
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	Google Classroomの導入と遠隔教育の実践			梅原嘉介	工学社	1900円	978-4-7775-2113-5	
自由記載								
参考書	自由記載		。					
	【その他】 パソコンを大切に使用すること。 またパソコン教室には、飲食物の持ち込みを一切禁止する。 これに違反した場合は、以降の受講を認めない。							
	【担当教員の実務経験の有無】 無							
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無								

授業科目名	情報処理演習		サブタイトル	ワープロソフトの基本操作	授業番号	CC202
担当教員名	梅原 嘉介					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	1単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
情報社会における様々な情報を扱う上で今や必須となったコンピュータ。本演習ではMicrosoft社製ワープロソフト Word 2016を使用し、コンピュータおよびワープロソフトの基本操作の習得を目指し演習を行う。						
<b>【到達目標】</b>						
2020年から小学校にプログラミング教育が必修として導入された。そのため、卒業後にも役立つプログラミングの基礎知識を習得することを演習の目的とする。このプログラミング教育では、情報の収集、分析・加工、さらには活用能力の総合的な習得も学ぶ。さらにネットワークの利用の仕方、データの処理の仕方なども学び、卒論などに役立つプログラミングの知識を習得する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：授業概要とPCの基本操作I 第2回：ネットワークの仕組み、管理、活用 第3回：プログラミング教育とスクラッチの概要 第4回：スクラッチの基礎1 第5回：スクラッチの基礎2 第6回：スクラッチの基礎3 第7回：スクラッチの基礎4 第8回：スクラッチの活用1 第9回：スクラッチの活用2 第10回：スクラッチの活用3 第11回：スクラッチの活用4 第12回：データ処理の仕方1 第13回：データ処理の仕方2 ) 第14回：課題1 第15回：課題2						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		40%	意欲的な受講態度、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート		60%	各回の演習の成果物(レポート)により基本操作の理解度を評価する。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
タイピング練習はコンピュータ入力の基本なので各自で授業とは別に練習しておくこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、授業内容を教科書・参考資料の参照をしなくてもできるようにまで繰り返し演習しておく。						
以上の内容を、1回あたり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	Scratch 3.0 入門				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	英語I	サブタイトル	子どもと交わす英会話I	授業番号	CD201
担当教員名	藤井 佐代子				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	必修	授業形態	演習		
【授業の概要】 幼保英検4級取得に向けて、幼稚園、こども園、保育園の乳幼児教育施設に即した実践英語や、小学校での英語教育の基礎となる英語の修得を目指す。					
【到達目標】 ・英語の基礎的な文法を理解できる。 ・乳幼児や小学生との対話でよく使われる英語表現を実際に用いることができる。 ・乳幼児教育で必要となる基本的な英単語を理解できる。  なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：Chapter 1 Going to School 第2回：Chapter 2 Indoor Activities (1) 第3回：Chapter 3 Indoor Activities (2) 第4回：練習問題・タスク 第5回：Chapter 4 Going to the Bathroom 第6回：Chapter 5 Outside Activities (1)-1 第7回：Chapter 5 Outside Activities (1)-2 第8回：練習問題・タスク 第9回：Chapter 6 Outside Activities (2) 第10回：Chapter 7 Lunch Time 第11回：Chapter 8 Nap time 第12回：練習問題・タスク 第13回：Chapter 9 Going Home 第14回：Chapter 10 Infant Care 第15回：練習問題・期末テスト					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	意欲的な受講態度、予習の状況及び授業への貢献度を評価する。		
	レポート	10%	課題について、既習内容や資料を活用し、自らの考えを整理して記述しているかを評価する。改善点並びに改善方法を建設的に記述し、実践に繋がっているかを評価する。、具体的かつ適切にまとめているかを評価する。		
	小テスト	20%	練習問題において、語彙・表現の理解度を評価する。		
	定期試験	30%	講義の中間期、期末に授業内容の理解度を評価する。		
	その他	10%	積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。		
	自由記載				
【受講の心得】 ・予習と復習を心がけ、自らの学びの状況を把握し向上できるよう、自主的で粘り強い学習に努めること。 ・授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。					
【授業外学修】 1 テキスト内容については授業までに2時間以上予習すること。 2 前時の授業内容についての練習問題を実施するので2時間以上復習しておくこと。 3 課題については十分に調査してレポートを作成すること。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	幼保英検4級テキスト	一般社団法人 幼児教育・保育英語検定協会	株式会社ブック フォレ	1700円	ISBN978-4-909 846-24-2
	幼保英検4級ワークブック	一般社団法人 国際子育て人材支援機構	株式会社ブック フォレ	1650円	
	幼保英検 単語集(標準編)	一般社団法人・保育英語検定協会 人 幼児教育	株式会社ブック フォレ	1320円	
	自由記載				
参考書	自由記載				
	【担当教員の実務経験の有無】 有				
	【担当教員の实務経験】 公立小学校教諭、小学校英語教育各種研修会講師				
	【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無				
	【実務経験をいかした教育内容】 実務経験を生かし、乳幼児教育施設や小学校等の英語教育に携わる指導者に求められる基礎的な英語力を育成する。				

授業科目名	英語II	サブタイトル	子どもと交わす英会話	授業番号	CD202
担当教員名	藤井 佐代子				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	必修	授業形態	演習		
【授業の概要】 幼保英検4級取得に向けて、幼稚園、こども園、保育園の乳幼児教育施設に即した実践英語や、小学校での英語教育の基礎となる英語の修得を目指す。					
【到達目標】 ・英語の基礎的な文法を理解できる。 ・乳幼児や小学生との対話でよく使われる英語表現を実際に用いることができる。 ・乳幼児教育で必要となる基本的な英単語を理解できる。					
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：Chapter 1 Going to School 第2回：Chapter 2 Indoor Activities (1) 第3回：Chapter 3 Indoor Activities (2) 第4回：練習問題・タスク 第5回：Chapter 4 Going to the Bathroom 第6回：Chapter 5 Outside Activities (1)-1 第7回：Chapter 5 Outside Activities (1)-2 第8回：練習問題・タスク 第9回：Chapter 6 Outside Activities (2) 第10回：Chapter 7 Lunch Time 第11回：Chapter 8 Nap time, Chapter 9 Going Home 第12回：練習問題・タスク 第13回：Chapter 10 Infant Care 第14回：Chapter 11 School Concert 第15回：練習問題・期末テスト					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	意欲的な受講態度、予習の状況及び授業への貢献度を評価する。		
	レポート	10%	課題について、既習内容や資料を活用し、自らの考えを整理して記述しているかを評価する。改善点並びに改善方法を建設的に記述し、実践に繋がっているかを評価する。、具体的かつ適切にまとめているかを評価する。		
	小テスト	20%	練習問題において、語彙・表現の理解度を評価する。		
	定期試験	30%	講義の中間期、期末に授業内容の理解度を評価する。		
	その他	10%	積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。		
	自由記載				
【受講の心得】 ・予習と復習を心がけ、自らの学びの状況を把握し向上できるよう、自主的で粘り強い学習に努めること。 ・授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。					
【授業外学修】 1 テキスト内容については授業までに2時間以上予習すること。 2 前時の授業内容についての練習問題を実施するので2時間以上復習しておくこと。 3 課題については十分に調査してレポートを作成すること。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	幼保英検3級テキスト	一般社団法人 幼児教育・保育英語検定協会	株式会社ブック フォレ	1900円	ISBN978-4-909 846-24-2
	幼保英検3級ワークブック	一般社団法人 国際子育て人材支援機構	株式会社ブック フォレ	1980円	
	幼保英検 単語集(標準編)	一般社団法人・保育英語検定協会 人 幼児教育	株式会社ブック フォレ	1320円	
	自由記載				
参考書	自由記載				
	【担当教員の実務経験の有無】 有				
	【担当教員の实務経験】 公立小学校教諭, 小学校英語教育各種研修会講師				
	【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無				
	【実務経験をいかした教育内容】 実務経験を生かし、乳幼児教育施設や小学校等の英語教育に携わる指導者に求められる基礎的な英語力を育成する。				

授業科目名	英語Ⅲ		サブタイトル	(総合英語)		授業番号	CD303	
担当教員名	藤井 佐代子							
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位			
開講年次	2年			開講期	前期			
必修・選択	選択			授業形態	演習			
【授業の概要】								
<p>洋楽を通して、英語独特の音声変化に慣れ親しむとともに、異文化トピックを扱った英文を読み、既習の文法事項について説明する。また、実用英語検定準2級対策を行う。</p>								
【到達目標】								
<p>読解を通して、異文化理解を深めるとともに、英検準2級に相当する基礎的なコミュニケーション能力を養い、総合的な英語運用能力を身につけることができるようになることを目的とする。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt; &lt;技能&gt;の修得に貢献する。</p>								
【授業計画】								
<p>第1回：Unit 1 Complicated ( Avril Lavigne )  文法：接続詞と前置詞の区別  第2回：Unit 2 S.O.S.(ABBA )  文法：仮定法  第3回：Unit 3 You Are Not Alone ( Michael Jackson )  文法：品詞  第4回：Unit 4 Don ' t Wanna Lose You ( Gloria Estefan )  文法：不定詞  第5回：Unit 5 How Crazy Are You? ( Meja )  文法：分詞  第6回：Unit 6 Sunday Morning ( Maroon 5 )  文法：形容詞・副詞  第7回：Unit 7 I Want It That Way ( Backstreet Boys )  文法：知覚・使役動詞  第8回：Unit 8 Suddenly I See ( KT Tunstall )  文法：動名詞  第9回：Unit 9 How Am I Supposed To Live Without You? ( Michael Bolton )  文法：受動態  第10回：Unit 10 Save The Best For Last ( Vanessa Williams )  文法：完了形  第11回：Unit 11 Last Christmas ( Wham! )  文法：5文型  第12回：Unit 12 Torn ( Natalie Imbruglia )  文法：助動詞  第13回：Unit 13 La La ( Means I Love You ) ( Swing Out Sister )  文法：関係代名詞  第14回：Unit 14 With You ( Chris Brown ) 1  文法：否定  第15回：Unit 14 With You ( Chris Brown ) 2  まとめ</p>								
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢 / 態度		20%	意欲的な受講態度、課題や予習の取り組み姿勢などを評価する。				
	レポート		15%	課題について、基本的な文章構成で英作文ができていること。				
	小テスト		15%	小テストを実施し、合計得点により評価する。				
	定期試験		50%	定期テストで授業内容の理解度を評価する。				
	その他							
自由記載								
【受講の心得】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習を前提として進めていくので、練習問題を解いたうえで授業に臨むこと。</li> <li>・英和辞典或いは辞書機能がついたものを毎回授業に持参すること。電子辞書でも可。</li> </ul>								
【授業外学修】								
<p>1. 予習として、テキストの本文を読み、未知の語句があれば辞書で調べて全訳しておくこと。また、練習問題も解いておくこと。</p> <p>2. 復習として、授業で学んだ文法事項と英語表現を理解し、知識として定着させること。また、音声データをダウンロードして音声を確認し、音読すること。</p> <p>以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。</p>								
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	English with Pop Hits			Teruhiko Kadoyama, Simon Capper	成美堂	2,200円+税	978-4-7919-3387-7	
自由記載								
参考書	自由記載							
	【担当教員の実務経験の有無】		有					
【担当教員の実務経験】		公立小学校教諭, 小学校英語教育各種研修会講師						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】								
無								
【実務経験をいかした教育内容】								
小学校等で英語指導に関わる指導者に求められる4技能5領域に亘る英語力を育成する。								

授業科目名	韓国語		サブタイトル	(韓国語の基礎を学ぶ)		授業番号	CD204	
担当教員名	宋 娘沃							
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位			
開講年次	2年			開講期	後期			
必修・選択	選択			授業形態	演習			
<b>【授業の概要】</b> 韓流ブーム以降、冬季オリンピック、文化交流などを通じて韓国への関心が高まり、日本と韓国との距離は一段と縮まってきている。韓国語と日本語は、文法が類似していると同時に、言葉にとっても大切な語順がほとんど一致している。本講義は、前半では韓国語学習を習い始める初歩の段階としてハングルの基礎から始まり、韓国語のごく短い文の読み書き、聞き取りを学習する。後半では日常会話として自己紹介、挨拶の言葉、韓国旅行のための簡単な会話など、基礎的なやり取りの実践的な力を身につける。また、韓国の若者の意識、エンターテインメント、日常生活や社会への理解を深めていくために、ビデオ鑑賞を行う。								
<b>【到達目標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>韓国語の言葉や文法を習得することができる。</li> <li>韓国語の挨拶や簡単な会話ができるようになる。</li> <li>簡単な韓国語が書けるようになる。</li> </ul> なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。								
<b>【授業計画】</b> 第1回：韓国語とは 第2回：文字と発音・母音 第3回：文字と発音・子音 第4回：激音と農音、パッチム 第5回：助詞、動詞 第6回：基本文型過去形の作り方 第7回：感嘆文、疑問文 第8回：基本文型指示代名詞、助数詞 第9回：用語の丁寧形、尊敬形 第10回：会話練習、表現 第11回：挨拶、訪問の言葉 第12回：韓国の大学 第13回：韓国の食生活と食べ物 第14回：韓国の文化と映画 第15回：韓国の若者と社会生活								
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	授業への意欲、質問、宿題を積極的に進めていたかを評価する。				
	レポート							
	小テスト		30%	授業の中間時点でどの程度理解しているのかを点検する。				
	定期試験		40%	授業全体の理解度や言葉の習得ができてきているのかを評価する。				
	その他							
自由記載								
<b>【受講の心得】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>韓国語の単語や短文の宿題を真面目に行うこと。</li> <li>韓国に関するニュースや興味ある記事に目を通して積極的に取り組むこと。</li> </ul>								
<b>【授業外学修】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>予習として、教科書の授業内容に相当する部分を前もって読み、疑問点をチェックして授業に来ること。</li> <li>復習として、毎回の課題をノートに書いて来ること。</li> <li>韓国語の教科書のCDを聞くようにして、言葉に慣れること。</li> </ul> 以上の内容を週当たり4時間以上学習すること。								
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	はじめての韓国語			李昌圭	ナツメ社	1600円	978-4-8163-55 58-5	
自由記載								
参考書	自由記載							
	【備考】		令和2年度改正					
	【担当教員の実務経験の有無】		有					
<b>【担当教員の实務経験】</b> 専門学校講師								
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無								
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 専門学校での経験を生かして、教育現場の学習指導、学生指導について力を発揮する。								



授業科目名	体育講義		サブタイトル	(日常生活と健康)	授業番号	CE201
担当教員名	溝田 知茂					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
現代社会においては、技術革新に伴う機械化・情報化が進み、日常生活における身体活動が減少するとともに、食生活のバランスの崩れも伴って、運動不足と生活習慣の乱れが深刻な問題となっている。こうした状況によって、我々の身体は危機的な状況にさえ陥っている場合もある。本講義では、からだと心の仕組みについて、身近にある道具や簡単な方法でセルフチェックできる力を身に付ける。						
<b>【到達目標】</b>						
人間のからだと心の仕組みについて、日常生活で何気なく実践している事柄の意味について知ることを目的とする。 なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解><思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：「体力」について考える 第2回：「ホルモン」のはたらきについて考える 第3回：「自律神経」のはたらきについて考える 第4回：「背筋力」のはたらきについて考える 第5回：「免疫力」のはたらきについて考える 第6回：「睡眠」とスポーツ 第7回：身体形成と機能の発達 第8回：身体づくりとしての栄養・運動・スポーツ 第9回： 第10回： 第11回： 第12回： 第13回： 第14回： 第15回：						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		40%	意欲的な受講態度		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		60%	理解度を評価する		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
・スポーツに関わる知識と理解を深め、スポーツ・運動への志向性を高めることを目指しているので、自らの生活と関連付けながら受講すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
・「スポーツ」「からだ心」などをキーワードとした新聞記事やニュースを常に意識し、興味関心を高める。 ・各回の授業内容に合わせた情報を収集したり、書籍等を読んで予備知識を得ておくこと。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	特に使用しない。(作成資料を活用)				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	体育実技		サブタイトル	(スポーツに親しもう)	授業番号	CE202
担当教員名	溝田 知茂					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	実技	
<b>【授業の概要】</b>						
各チームの課題を基にメンバーで協力しながら、各種のスポーツ(集団的スポーツ・個人的スポーツ)の練習や試合に取り組む。						
<b>【到達目標】</b>						
健康的な生活を送るために、運動の大切さ・楽しさなど実践を通して体得することをねらいとするとともに、集団でのコミュニケーション能力の向上や基本的なルールの理解・運動技能の習得を図ることを目標とする。 なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解><技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：バスケットボールI(ルールと基本技術の理解)						
第2回：バスケットボールII(基本技術の習得とゲームの導入)						
第3回：バスケットボールIII(ゲームの展開)						
第4回：バレーボールI(ルールと基本技術の理解)						
第5回：バレーボールII(基本技術の習得とゲームの導入)						
第6回：バレーボールIII(ゲームの展開)						
第7回：バドミントンI(ルールと基本技術の理解)						
第8回：バドミントンII(基本技術の習得とゲームの導入)						
第9回：バドミントンIII(ゲームの展開)						
第10回：ソフトバレーボールI(ルールと基本技術の理解)						
第11回：ソフトバレーボールII(基本技術の習得とゲームの導入)						
第12回：ソフトバレーボールIII(ゲームの展開)						
第13回：卓球I(ルールと基本技術の理解)						
第14回：卓球II(基本技術の習得とゲームの導入)						
第15回：卓球III(ゲームの展開)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		60%	授業の準備や後片付けに率先して取り組んだり、自らのスキルアップやメンバーと協力してゲームに参加する等積極的に授業参加している		
	レポート					
	小テスト		40%	各競技ごとに技能テストを実施する		
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
運動着を着用し、体育館シューズを使用する。 全員協力の上、準備・片付けをする。						
<b>【授業外学修】</b>						
・日頃から自らの健康に対する興味関心や体力向上に努め、日常生活の中で自主的に身体を動かす習慣づくりを心がける。 ・各種目のルールやスキルアップを図るため、書籍や映像を活用して準備すること。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	特に使用しない。(作成資料を活用)				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	ファーストイヤーセミナー		サブタイトル	(大学生活に慣れよう！)	授業番号	CF101
担当教員名	佐々木 弘記 岸 誠一 齊藤 佳子 中田 周作 村井 隆人 大橋 由佳					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
子ども学部子ども学科の理念・目標、学びの姿勢、図書館の活用、情報倫理、「子ども学」の基礎、社会人としての素養など、将来への展望も含めて、オムニバス形式で講義を行う。						
<b>【到達目標】</b>						
大学生として必要な学ぶ姿勢や情報の活用など、大学生活を充実したものとしていくための基礎的な知識や技能を身に付ける。〈知識・理解〉〈技能〉 また、将来、保育者・教育者として、子どもの最善の利益を実現できる努力を続ける態度を形成するための素地を養う。〈態度〉 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：図書館オリエンテーション (担当外部講師、村井) 第2回：子ども学部 学科長講義 演題：これからの大学生活 (担当佐々木) 第3回：白鷺eラーニングについて(1) (担当佐々木) 第4回：岡山県による学習支援ボランティア、国立吉備青少年自然の家などでのボランティアについて (担当外部講師、齊藤) 第5回：交通安全について (担当外部講師、齊藤) 第6回：安全教育、子どもの安全 (担当岸) 第7回：マナーに関する講座 (担当大橋、齊藤) 第8回：子どもの見方について (担当村井) 第9回：人権について考えよう (担当外部講師、齊藤) 第10回：金融に関する講座 (担当外部講師、齊藤) 第11回：生と性について (担当外部講師、齊藤) 第12回：子ども学部で取得できる免許・資格と大学院進学について (担当中田) 第13回：子ども学部のカリキュラムとコース制について (担当中田) 第14回：インターネットやスマホの安全な活用について (担当佐々木) 第15回：白鷺eラーニングについて(2) (担当佐々木)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート		80%	授業の内容や自分の考えをまとめたコメントペーパーによって評価する。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載	毎回、授業の内容や自分の考えをコメントペーパーにまとめて、提出する。 コメントペーパーや関連の資料はファイルに綴じ、毎回授業に持参する。 最終回にコメントペーパーや資料を綴じたファイルを提出する。				
<b>【受講の心得】</b>						
大学生の基礎的素養として大切な内容であるため、積極的な態度で受講すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として、授業で配付された資料等を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、授業で提示された課題のレポートを書く。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料等を読む。 以上の内容を、週あたり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	必要な資料は、随時、配付する。				
参考書	自由記載	外部講師等を招聘する場合は、一部、開講時間の変更を行うことがあるので注意すること。 本授業は、子ども学部必修科目として位置づけている。				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
公立中学校理科教諭、県教育センター(佐々木弘記)、公立小学校教諭・校長、県生涯学習センター、県情報教育セン(岸誠一)						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
学校、教育センター等での経験を生かして、教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。						

授業科目名	現代子ども学入門		サブタイトル		授業番号	CL101
担当教員名	佐々木 弘記 中田 周作 柏原 寛 齋藤 佳子 伊藤 智里 村井 隆人 土師 範子 大田原 愛美					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
子ども学とは、子どもを対象とする学際的な学問である。子どものあり方と子どもを取り巻く問題を、学校教育学、幼児教育学、保育学、社会学、心理学、社会福祉など様々な学問分野から、広い視点で見直していく。 本講義では、オムニバス形式によって、各学問領域から多角的に子どもにアプローチすることにより、総合的に子ども研究を進めていくための基礎を培う。						
<b>【到達目標】</b>						
学校教育学、幼児教育学、保育学、社会学、心理学、社会福祉など様々な学問分野から子ども学にアプローチをすることにより、総合的に子ども研究を進めていくための基礎となる知識や技能を身に付ける。＜知識・理解＞＜技能＞ なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：子ども学の基礎概念 (担当佐々木・伊藤) 第2回：子ども学の研究対象：幼児教育のアプローチ (担当伊藤) 第3回：子ども学の研究対象：学校教育のアプローチ (担当佐々木) 第4回：子ども学の研究：幼児教育学(1) (担当伊藤・土師) 第5回：子ども学の研究：幼児教育学(2) (担当伊藤・土師) 第6回：子ども学の研究対象：幼児教育学(3) (担当伊藤・土師) 第7回：子ども学の研究対象：幼児教育学(4) (担当伊藤・土師) 第8回：子ども学の研究対象：保育学・幼児教育 (担当齋藤) 第9回：子ども学の研究対象：小学校教育 (担当佐々木) 第10回：子ども学の研究対象：キャリア (担当柏原) 第11回：子ども学の研究対象：子どもの放課後 (担当中田) 第12回：子ども学の研究対象：教科教育学(1) (担当村井・大田原) 第13回：子ども学の研究対象：教科教育学(2) (担当村井・大田原) 第14回：子ども学の研究対象：教科教育学(3) (担当村井・大田原) 第15回：子ども学の研究対象：教科教育学(4) (担当村井・大田原)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		50%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート		50%	毎回作成するレポートで評価する。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載	毎回、授業の内容をコメントペーパーにまとめて、提出する。 コメントペーパーや関連の資料はファイルに綴じ、毎回授業に持参すること。				
<b>【受講の心得】</b>						
原則として「ファーストイヤーセミナー」を履修していること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として、授業で配付された資料等を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、授業で提示された課題のレポートを書く。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料等を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	なし				
参考書	自由記載	適宜、指示する。				
<b>【その他】</b>						
本授業は、子ども学科必修科目として位置づけている。						
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
公立中学校理科教諭、県教育センター(佐々木弘記) 保育所、幼稚園(太田原愛美)						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
学校現場での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで、実感を伴った理解を図り、学習指導力、生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。(佐々木弘記) 実務経験を活かし、学生が子どもの身体表現について研究していくための基礎となる理解や技術を子どもの遊びの実際と交えながら修得させる。(大田原愛美)						

授業科目名	子ども研究法I		サブタイトル	授業番号	CL202
担当教員名	佐々木 弘記 中田 周作 柏原 寛 齊藤 佳子 伊藤 智里 村井 隆人 土師 範子				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	1単位	
開講年次	2年		開講期	前期	
必修・選択	選択		授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>					
本講義では、1年次の「現代子ども学入門」を踏まえ、子ども学を構成する学校教育学、情報教育学、教科教育学、児童福祉学、教育社会学、幼児教育学、保育学について追究するための基礎的・基本的な知識や技能を習得する。					
<b>【到達目標】</b>					
子ども学を探究していくために学校教育学、情報教育学、教科教育学、児童福祉学、教育社会学、幼児教育学、保育学に関する基礎的・基本的な知識や技能を習得することを目的とする。					
本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><技能>の修得に貢献する。					
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><技能>の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：子ども学を研究する方法 (担当佐々木)					
第2回：保育所・幼稚園・小学校教育実習の意義と方法 (担当齋藤、伊藤、土師)					
第3回：学校教育学の内容と方法 (担当佐々木)					
第4回：情報教育学の内容と方法 (担当佐々木)					
第5回：算数教育学の内容と方法 (担当佐々木)					
第6回：児童福祉学の内容と方法 (担当齊藤)					
第7回：教育社会学の内容と方法 (担当中田)					
第8回：美術教育学の内容と方法 (担当柏原)					
第9回：幼児生活学の内容と方法 (担当齊藤)					
第10回：体育教育学の内容と方法 (担当佐々木)					
第11回：保育文化学の内容と方法 (担当伊藤)					
第12回：社会福祉 (担当齊藤)					
第13回：小学校教育の実践 (担当柏原・村井)					
第14回：保育の実践 (担当土師)					
第15回：保育所・幼稚園・小学校教育実習の実践 (担当柏原・伊藤・村井・土師)					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢/態度		50%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。	
	レポート		50%	授業の内容や自分の考えをまとめたコメントペーパーによって評価する。	
	小テスト				
	定期試験				
	その他				
	自由記載	毎回、授業の内容や自分の考えをコメントペーパーにまとめて、提出する。 コメントペーパーや関連の資料はファイルに綴じ、毎回授業に持参する。			
<b>【受講の心得】</b>					
原則として「現代子ども学入門」を履修していること。					
<b>【授業外学修】</b>					
1 予習として、授業で配付された資料等を読み、疑問点を明らかにする。					
2 復習として、授業で提示された課題のレポートを書く。					
3 発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料等を読む。					
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載	なし			
参考書	自由記載	適宜、指示する。			
<b>【その他】</b>					
本授業は、子ども学科必修科目として位置づけている。					
<b>【担当教員の業務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の業務経験】</b>					
公立中学校理科教諭，県教育センター（佐々木弘記）					
<b>【担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【業務経験をいかした教育内容】</b>					
学校現場での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで、実感を伴った理解を図り、学習指導力、生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。					

授業科目名	子ども研究法II		サブタイトル	授業番号	CL203
担当教員名	佐々木 弘記 中田 周作 柏原 寛 齊藤 佳子 伊藤 智里 村井 隆人 土師 範子				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	1単位	
開講年次	2年		開講期	後期	
必修・選択	選択		授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>					
本講義では、「子ども研究法I」を踏まえ、子ども学を構成する学校教育学、情報教育学、教科教育学、児童福祉学、教育社会学、幼児教育学、保育学について追究するための知識や技能を一層深く習得する。					
<b>【到達目標】</b>					
子ども学を探究していくために、学校教育学、情報教育学、教科教育学、児童福祉学、教育社会学、幼児教育学、保育学に関する知識や技能を一層深く習得することを目的とする。 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能> の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：基礎心理学の内容と方法 (担当佐々木) 第2回：国語科教育学の内容と方法 (担当村井) 第3回：幼児音楽の内容と方法 (担当土師) 第4回：音楽文化学の内容と方法 (担当土師) 第5回：幼児教育実践学の内容と方法 (担当伊藤) 第6回：保育・幼児教育の実際 (担当齊藤・伊藤・土師) 第7回：小学校教育の実際 (担当柏原・村井) 第8回：福祉の実際 (担当柏原) 第9回：福祉施設の機能 (担当柏原) 第10回：小学校教育実習 (担当柏原・村井) 第11回：幼稚園教育実習 (担当齊藤・伊藤) 第12回：保育所実習 (担当土師) 第13回：子ども学研究の方法 (担当中田) 第14回：子ども研究の成果 (担当中田) 第15回：子ども研究のまとめ (担当中田)					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢/態度		50%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。	
	レポート		50%	授業の内容や自分の考えをまとめたコメントペーパーによって評価する。	
	小テスト				
	定期試験				
	その他				
	自由記載	毎回、授業の内容や自分の考えをコメントペーパーにまとめて、提出する。 コメントペーパーや関連の資料はファイルに綴じ、毎回授業に持参する。			
<b>【受講の心得】</b>					
原則として「子ども研究法I」を履修していること。					
<b>【授業外学修】</b>					
1 予習として、授業で配付された資料等を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、授業で提示された課題のレポートを書く。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料等を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載	なし			
参考書	自由記載	適宜、指示する。			
<b>【その他】</b>					
本授業は、子ども学科必修科目として位置づけている。					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>					
公立中学校理科教諭、県教育センター（佐々木弘記）					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
学校現場での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで、実感を伴った理解を図り、学習指導力、生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。					

授業科目名	課題研究I		サブタイトル		授業番号	CL304
担当教員名	佐々木 弘記 岸 誠一 姫野 俊幸 中 典子 中田 周作 柏原 寛 齊藤 佳子 溝田 知茂 國田 祥子 村井 隆人 伊藤 智里 土師 範子					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	1単位	
開講年次	3年			開講期	前期	
必修・選択	必修			授業形態	演習	
【授業の概要】 課題研究は、卒業研究へのガイドとしての演習の授業である。卒業論文の執筆にあたって必要とされる先行研究の検討を行う。そのため、当該領域の基礎的知識の獲得や、データの収集方法等を学ぶ。本学科において「子ども学」は、学校教育学、情報教育学、教科教育学、児童福祉学、教育社会学、幼児教育学、保育学から成り、それぞれに担当教員がいる。学生は、その指導教員のもとで、領域の特性に応じた研究方法を用いて研究を進めていく。						
【到達目標】 様々な分野の子どもをめぐる研究課題を整理し、学生自身が自らの研究課題を明確にすることを目標とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度> の修得に貢献する。						
【授業計画】						
【授業計画 備考】 第1回 授業の概要・目的の解説、授業の進め方について。各領域の特性について理解する。 第2回 各領域における研究課題。 第3回～第15回 指導教員のもとで各領域の特性に応じた研究方法を用いて研究を進める						
領域（キーワード） 学校教育学、情報教育学、算数教育学、児童福祉学、教育社会学、美術教育学、幼児生活学、体育教育学、保育文化学、基礎心理学、国語科教育学、幼児音楽学、幼児教育学						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		70%	課題への取り組み意欲、取り組む行為から評価する		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他		30%	課題の理解度と定着度を評価する		
自由記載						
【受講の心得】 原則として「子ども研究法II」を履修していること。						
【授業外学修】 授業で提示された課題を実施し、週当たり2時間程度学修すること。						
使用テキスト	自由記載	必要な資料は、随時、提示する。				
参考書	自由記載					
【担当教員の実務経験の有無】 有						
【担当教員の实務経験】 公立中学校教諭、県教育センター（佐々木弘記）公立小学校教諭・校長、県生涯学習センター、県情報教育センター（岸 誠一）						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無						
【実務経験をいかした教育内容】 学校現場での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで、実感を伴った理解を図り、学習指導力、生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。						

授業科目名	課題研究II		サブタイトル	授業番号	CL305
担当教員名	佐々木 弘記 岸 誠一 姫野 俊幸 中 典子 中田 周作 柏原 寛 齊藤 佳子 溝田 知茂 國田 祥子 村井 隆人 伊藤 智里 土師 範子				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	1単位	
開講年次	3年		開講期	後期	
必修・選択	必修		授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b> 課題研究IIでは、課題研究Iで整理された先行研究をもとに、どのような研究課題があるのか、またどのような研究方法があるのかについて学習していく。 課題研究は、卒業研究へのガイドとしての演習の授業である。卒業論文の執筆にあたって必要とされる先行研究の検討を行う。そのため、当該領域の基礎的知識の獲得や、データの収集方法を学ぶ。本学科において「子ども学」は、学校教育学、教科教育学、情報教育学、福祉学、教育社会学、幼児教育学、保育学、基礎心理学から成り、それぞれに担当教員がいる。学生は、その指導教員のもとで、領域の特性に応じた研究方法を用いて研究を進めていく。					
<b>【到達目標】</b> 卒業論文の執筆にあたって必要とされる先行研究の検討を行い、卒業研究I・IIへと繋がっていくように研究課題を明らかにすることができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度>の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b> 【授業計画 備考】 第1回～第15回 指導教員のもとで領域の特性に応じた研究方法を用いて研究を進める。 領域（キーワード） 学校教育学、情報教育学、算数教育学、児童福祉学、教育社会学、美術教育学、幼児生活学、体育教育学、保育文化学、基礎心理学、国語科教育学、幼児音楽学、幼児教育学					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢/態度		70%	課題への取り組み意欲、取り組む行為から評価する	
	レポート				
	小テスト				
	定期試験				
	その他		30%	課題の理解度・定着度を評価する	
自由記載					
<b>【受講の心得】</b> 原則として「課題研究I」を履修していること。 授業時間外にも調査・文献整理することが求められる。					
<b>【授業外学修】</b> 授業で提示された課題を実施し、週当たり2時間程度学修すること。					
使用テキスト	自由記載	必要な資料は、随時、提示する。			
参考書	自由記載				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有					
<b>【担当教員の实務経験】</b> 公立中学校教諭、県教育センター（佐々木弘記）公立小学校教諭・校長、県生涯学習センター、県情報教育センター（岸 誠一）					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 学校現場での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで、実感を伴った理解を図り、学習指導力、生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。					



授業科目名	卒業研究I		サブタイトル		授業番号	CL406
担当教員名	佐々木 弘記 岸 誠一 中典子 中田 周作 柏原 寛 齊藤 佳子 溝田 知茂 國田 祥子 村井 隆人 伊藤 智里					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	3単位	
開講年次	4年			開講期	前期	
必修・選択	必修			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b> 卒業研究IIは、課題研究で到達した卒業研究の課題に対して研究をどのように進めるのかを具体的に学修する。課題の設定や研究への着手に先立って、先行研究をレビューし、リサーチクエスチョンを明らかにする。 子ども学には、様々な領域が存在するので、領域の特色に応じた質的研究や量的研究等の研究方法が用いられる。各指導教員の指導計画に沿って計画的に卒業研究がまとめられるように進めていく。						
<b>【到達目標】</b> 卒業論文のテーマを明らかにし、研究を具体的に進めることができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>  領域（キーワード） 学校教育学，情報教育学，算数教育学，児童福祉学，教育社会学，美術教育学，幼児生活学，体育教育学，保育文化学，基礎心理学，国語科教育学，幼児音楽学						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		50%	課題への取り組み意欲，取り組む行為から評価する		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他		50%	課題の理解度を評価する		
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b> 原則として「課題研究II」を履修していること。						
<b>【授業外学修】</b> 中期計画及び長期計画の目標に沿った行動をする。授業で提示された課題を実施し，週当たり5時間程度学修すること。						
使用テキスト	自由記載	必要な資料は，随時，提示する。				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有						
<b>【担当教員の实務経験】</b> 公立中学校教諭，県教育センター（佐々木弘記）公立小学校教諭・校長，県生涯学習センター，県情報教育センター（岸 誠一）						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 学校現場での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで，実感を伴った理解を図り，学習指導力，生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。						

授業科目名	卒業研究II		サブタイトル		授業番号	CL407
担当教員名	佐々木 弘記 岸 誠一 中 典子 中 田 周作 柏原 寛 齊藤 佳子 溝田 知茂 國田 祥子 村井 隆人 伊藤 智里					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	3単位	
開講年次	4年			開講期	後期	
必修・選択	必修			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b> 卒業研究IIは、これまで受けてきた卒業研究Iでの指導をもとに、卒業論文の提出を目指して、各自、計画的に研究活動を進めていく。演習形式と個別指導とを適宜、組み合わせ、各自の論文の構想について報告し合いながら具体的な指導を行う。 また、学生が4年間の学びの集大成として、将来への自信を持つことができるように卒業研究の指導を行う。						
<b>【到達目標】</b> 卒業研究を卒業論文あるいは作品として完成させることを目標とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b> 領域（キーワード） 学校教育学，情報教育学，算数教育学，児童福祉学，教育社会学，美術教育学，幼児生活学，体育教育学，保育文化学，基礎心理学，国語科教育学，幼児音楽学，幼児教育学						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		50%	課題への取り組み意欲，取り組む行為から評価する		
	レポート			課題の理解度を評価する		
	小テスト					
	定期試験					
	その他		50%	卒業研究の成果と発表内容		
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b> 原則として「卒業研究I」を履修していること。						
<b>【授業外学修】</b> 各自が卒業論文を完成させるために、授業で提示された課題を実施し、週当たり5時間程度学修すること。						
使用テキスト	自由記載	必要な資料は、随時、提示する。				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有						
<b>【担当教員の实務経験】</b> 公立中学校教諭，県教育センター（佐々木弘記）公立小学校教諭・校長，県生涯学習センター，県情報教育センター（岸 誠一）						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 学校現場での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで、実感を伴った理解を図り、学習指導力，生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。						

授業科目名	基礎学力養成セミナーI		サブタイトル		授業番号	CM101
担当教員名	佐々木 弘記 岸 誠一 村井 隆人					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
大学での学修や就職のための試験に必要な基礎的な知識について学ぶ。小学校の主な教科内容である国語・算数・理科・社会・外国語活動の基礎学力を領域ごとに学修する。						
<b>【到達目標】</b>						
専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び、基礎学力にかかわる問題を解くことができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：自己課題の分析と確認・大学での学修方法 (担当岸)						
第2回：小学校の教科内容(国語)基礎 (担当村井)						
第3回：小学校の教科内容(国語)基礎 (担当村井)						
第4回：小学校の教科内容(国語)演習 (担当村井)						
第5回：小学校の教科内容(国語)演習 (担当村井)						
第6回：小学校の教科内容(国語)テスト (担当村井)						
第7回：白鷺Eラーニングテスト (担当佐々木)						
第8回：小学校の教科内容(算数)基礎 (担当岸)						
第9回：小学校の教科内容(算数)発展 (担当岸)						
第10回：小学校の教科内容(理科)基礎 (担当岸)						
第11回：小学校の教科内容(理科)発展 (担当岸)						
第12回：小学校の教科内容(社会)基礎 (担当岸)						
第13回：小学校の教科内容(社会)発展 (担当岸)						
第14回：小学校の教育(外国語活動)基礎 (担当岸)						
第15回：小学校の教育(外国語活動)発展 (担当岸)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		10%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート		10%	レポートの内容と提出状況によって評価する。		
	小テスト		20%	授業時に行なう小テストによって評価する。		
	定期試験		50%	期末の5教科テストによって評価する。		
	その他		10%	白鷺eラーニングの学修状況・復習テスト		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
授業で配付した資料(あるいは教材)の指示された範囲を予習して授業に臨む。授業で学習した内容については、授業内での確認テストによって習得状況をチェックし、フィードバックして完全習得を目指すこと。分からなかった問題は、オフィスアワーに各担当教員に質問したり、オンデマンド教材を活用したりしながら、基礎学力の向上に努めること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 授業で解説された内容について復習をしておくこと。						
2. 授業で配付した資料(あるいは教材)の指示された範囲の予習をしておくこと。						
3. 分からない問題や領域については、オフィスアワーに教員に質問に行くこと。						
4. 分からない問題や領域については、オンデマンド教材(課題として課す場合もあり)を活用すること。						
5. 白鷺Eラーニングを活用し学力向上に努めること。						
以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					
<b>【その他】</b>						
本授業科目は、子ども学科必修科目として位置付けている。 特に、小学校で教育実習を希望する学生は、確実に単位を修得すること。						
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
公立中学校理科教諭、県教育センター(佐々木弘記)、公立小学校教諭・校長、県教委事務局、県生涯学習センター、県情報教育センター(岸誠一)						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
学校、教育委員会、教育センター等での経験を生かして、教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。						

授業科目名	基礎学力養成セミナーII		サブタイトル		授業番号	CM102
担当教員名	佐々木 弘記 岸 誠一					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
大学での学修や就職のための試験に必要な基礎的な知識について学ぶ。小学校の主な教科内容である国語・算数・理科・社会・外国語活動の基礎学力を領域ごとに学修する。						
<b>【到達目標】</b>						
専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び、基礎学力にかかわる問題を解くことができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：自己課題の分析と確認 (担当佐々木)						
第2回：大学での学修方法 基礎 (担当岸)						
第3回：大学での学修方法 演習 (担当岸)						
第4回：大学での学修方法 発展 (担当岸)						
第5回：小学校の教科内容(国語) 基礎 (担当岸)						
第6回：小学校の教科内容(国語) 演習 (担当岸)						
第7回：小学校の教科内容(国語) 発展 (担当岸)						
第8回：小学校の教科内容(算数) 基礎 (担当岸)						
第9回：小学校の教科内容(算数) 発展 (担当岸)						
第10回：小学校の教科内容(理科) 基礎 (担当岸)						
第11回：小学校の教科内容(理科) 発展 (担当岸)						
第12回：小学校の教科内容(社会) 基礎 (担当岸)						
第13回：小学校の教科内容(社会) 発展 (担当岸)						
第14回：小学校の教育(外国語活動) 基礎 (担当岸)						
第15回：小学校の教育(外国語活動) 発展 (担当岸)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		10%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート		10%	レポートの内容と提出状況によって評価する。		
	小テスト		20%	授業時に行なう小テストによって評価する。		
	定期試験		50%	期末の5教科テストによって評価する。		
	その他		10%	白鷺eラーニングの学修状況・復習テスト		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
授業で配付した資料(あるいは教材)の指示された範囲を予習して授業に臨む。授業で学習した内容については、授業内での確認テストによって習得状況をチェックし、フィードバックして完全習得を目指すこと。分からなかった問題は、オフィスアワーに各担当教員に質問したり、オンデマンド教材を活用したりしながら、基礎学力の向上に努めること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 授業で解説された内容について復習をしておくこと。						
2. 授業で配付した資料(あるいは教材)の指示された範囲の予習をしておくこと。						
3. 分からない問題や領域については、オフィスアワーに教員に質問に行くこと。						
4. 分からない問題や領域については、オンデマンド教材(課題として課す場合もあり)を活用すること。						
以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					
<b>【その他】</b>						
本授業科目は、子ども学科必修科目として位置付けている。 特に、小学校で教育実習を希望する学生は、確実に単位を修得すること。						
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
公立中学校理科教諭、県教育センター(佐々木弘記)、公立小学校教諭・校長、県教委事務局、県生涯学習センター、県情報教育センター(岸誠一)						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
学校、教育委員会、教育センター等での経験を生かして、教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。						

授業科目名	総合教養養成セミナーI		サブタイトル		授業番号	CM203
担当教員名	佐々木 弘記 岸 誠一					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	1単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
1年次に実施した「基礎学力セミナーI・II」を深化・統合させる講座である。前半は、小学校コース、保幼コースともに、現代文や古文、自然科学、数学、地理歴史・公民、外国語など一般教養に関する内容を学修し、幅広い教養を身に付ける。						
<b>【到達目標】</b>						
現代文や古文、自然科学、数学、地理歴史・公民、外国語など一般教養に関する知識を身に付けている。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：オリエンテーション、自己課題の分析と確認				(担当岸)		
第2回：一般教養：文学				(担当岸)		
第3回：一般教養：古典				(担当岸)		
第4回：一般教養：数的推理				(担当岸)		
第5回：一般教養：判断推理				(担当岸)		
第6回：一般教養：平面図形と立体図形				(担当岸)		
第7回：一般教養：地理				(担当岸)		
第8回：一般教養：歴史				(担当岸)		
第9回：一般教養：公民				(担当岸)		
第10回：一般教養：物理				(担当岸)		
第11回：一般教養：化学				(担当岸)		
第12回：一般教養：生物・地学				(担当岸)		
第13回：一般教養：英語の読み方				(担当岸)		
第14回：一般教養：英語の書き方				(担当岸)		
第15回：総合評価テスト				(担当佐々木)		
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		10%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート		10%	レポートの内容と提出状況によって評価する。		
	小テスト		20%	授業時に行なう小テストによって評価する。		
	定期試験		50%	まとめとなるテストによって評価する。		
	その他		10%	白鷺eラーニングの学修状況・復習テスト		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
授業で配付された資料を予習して授業に臨む。授業で学習した内容については、授業内での小テストによって習得状況をチェックし、フィードバックして完全習得を目指すこと。分からなかった問題は、オフィスアワーに担当教員に質問すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として、授業で配付された資料等を読み、疑問点を明らかにする。						
2 復習として、授業で示された課題等のレポートやオンデマンド教材の学修をする。						
3 発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料等を読む。						
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	必要な資料は随時配付する。				
参考書	自由記載					
<b>【その他】</b>						
3年次に教育実習Bを履修する学生、及び、公立の保育園・幼稚園の採用試験を受験する予定の学生は必ず受講すること。						
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
公立中学校理科教諭、県教育センター（佐々木弘記）、公立小学校教諭・校長、県教委事務局、県生涯学習センター、県情報教育センター（岸誠一）						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
学校、教育委員会、教育センター等での経験を生かして、教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。						

授業科目名	総合教養養成セミナーII		サブタイトル	授業番号	CM204
担当教員名	佐々木 弘記 岸 誠一				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	1単位	
開講年次	2年		開講期	後期	
必修・選択	選択		授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>					
1年次に実施した「基礎学力セミナーI・II」を深化・統合させる講座である。前半は、小学校コース、保幼コースともに、現代文や古文、自然科学、数学、地理歴史・公民、外国語など一般教養に関する内容を学修し、幅広い教養を身に付ける。後半は、特に社会・理科・英語に重点をおいて学修を深める。					
<b>【到達目標】</b>					
現代文や古文、自然科学、数学、地理歴史・公民、外国語など一般教養に関する知識を身に付けている。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：オリエンテーション、自己課題の確認と分析			(担当岸)		
第2回：一般教養：文学			(担当岸)		
第3回：一般教養：古典			(担当岸)		
第4回：一般教養：数的推理			(担当岸)		
第5回：一般教養：判断推理			(担当岸)		
第6回：一般教養：数学			(担当岸)		
第7回：一般教養：地理			(担当岸)		
第8回：一般教養：歴史			(担当岸)		
第9回：一般教養：公民			(担当岸)		
第10回：一般教養：物理			(担当岸)		
第11回：一般教養：化学			(担当岸)		
第12回：一般教養：生物・地学			(担当岸)		
第13回：一般教養：英語の読み方			(担当岸)		
第14回：一般教養：英語の書き方			(担当岸)		
第15回：総合評価テスト			(担当佐々木)		
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	10%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート	10%	レポートの内容と提出状況によって評価する。		
	小テスト	20%	授業時に行なう小テストによって評価する。		
	定期試験	50%	まとめとなるテストによって評価する。		
	その他	10%	白鷺eラーニングの学修状況・復習テスト		
自由記載					
<b>【受講の心得】</b>					
授業で配付された資料を予習して授業に臨む。授業で学習した内容については、授業内での小テストによって習得状況をチェックし、フィードバックして完全習得を目指すこと。分からなかった問題は、オフィスアワーに担当教員に質問したり、オンデマンド教材を活用したりして学力の向上に努める。					
<b>【授業外学修】</b>					
1 予習として、授業で配付された資料等を読み、疑問点を明らかにする。					
2 復習として、授業で示された課題等のレポートやオンデマンド教材の学修をする。					
3 発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料等を読む。					
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載	必要な資料は随時配付する。			
参考書	自由記載				
<b>【その他】</b>					
3年次に教育実習Bを履修する学生、及び、公立の保育園・幼稚園の採用試験を受験する予定の学生は必ず受講すること。					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>					
公立中学校理科教諭、県教育センター（佐々木弘記）、公立小学校教諭・校長、県教委事務局、県生涯学習センター、県情報教育センター（岸誠一）					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
学校、教育委員会、教育センター等での経験を生かして、教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。					

授業科目名	キャリア教育論		サブタイトル		授業番号	CM305
担当教員名	柏原 寛 岸 誠一 溝田 知茂 大橋 由佳					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	3年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
卒業後、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭として進路に向かうために、これらの職業・職業人に関する基礎知識を学習するとともに、望ましい職業観・勤労観を考える。また、進路選択に必要な能力及び心構えを学ぶ。						
<b>【到達目標】</b>						
職業・職業人に関する基礎知識を習得するとともに、望ましい職業観・勤労観を醸成し、社会人基礎力を身に付ける。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力><態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：一生涯のキャリアを考える (担当柏原寛 溝田知茂)						
第2回：キャリア形成について(自己分析)(1) (担当柏原寛 溝田知茂)						
第3回：キャリア形成について(自己分析)(2) (担当柏原寛 溝田知茂)						
第4回：キャリア支援について (担当柏原寛 溝田知茂)						
第5回：エントリーシート (担当柏原寛 溝田知茂)						
第6回：社会人としてのマナー(1) (担当大橋由佳)						
第7回：社会人としてのマナー(2) (担当大橋由佳)						
第8回：社会人としてのマナー(3) (担当大橋由佳)						
第9回：小学校教諭への道 (担当岸 誠一)						
第10回：保育士・幼稚園教諭への道 (担当河原智美)						
第11回：就労体験について (担当柏原寛 溝田知茂)						
第12回：身だしなみ講座 (担当大橋由佳)						
第13回：保育士・幼稚園教諭の勤務の実際 (担当河原智美)						
第14回：小学校教諭の勤務の実際 (担当岸 誠一)						
第15回：就職試験・採用試験に向けて (担当柏原寛 溝田知茂)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		80%	意欲的な受講態度、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート		20%	課題内容について十分に理解した上で自分なりの考察を述べること。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
自らの将来について真摯に考え、取り組むこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
毎回の授業について、4時間以上を予習復習に充てること。 模擬試験に向けて2時間以上の予習して臨み、その結果を受けて2時間以上復習すること。 また、レポート課題が与えられた際は4時間以上をその作成に充てること。 更に、就職支援センターを1度は訪れ、就職活動の具体を体験すること。						
使用テキスト	自由記載	授業の中で適宜紹介する。				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
公立小学校教諭・校長、県生涯学習センター、県情報教育センター(岸誠一)、民間デザイン会社(柏原寛)						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
実務現場での経験を生かして、キャリアの形成について指導を行う。						

授業科目名	キャリア教育演習		サブタイトル	授業番号	CM306
担当教員名	柏原 寛 佐々木 弘記 岸 誠一 姫野 俊幸 齊藤 佳子 溝田 知茂 伊藤 智里 村井 隆人 大橋 由佳				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	1単位	
開講年次	3年		開講期	後期	
必修・選択	選択		授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>					
将来の仕事と生き方を考えるための情報提供をし、具体的な準備と行動について学ぶ。就職活動に先駆けて自己分析・職種研究を行い、自分にあったキャリアプランを作成する。					
<b>【到達目標】</b>					
採用試験・就職試験で行われる面接、筆記試験、実技などに対応できる知識・技能を身に付ける。					
上記のように、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：講座の進め方、アンケート (担当佐々木弘記 柏原寛 溝田知茂)					
第2回：自己分析 (担当佐々木弘記 柏原寛 溝田知茂)					
第3回：適性と進路 (担当佐々木弘記 柏原寛 溝田知茂)					
第4回：職種の特徴 (担当佐々木弘記 柏原寛 溝田知茂)					
第5回：面接の受け方 (担当佐々木弘記 柏原寛 溝田知茂)					
第6回：採用試験の特徴 (担当佐々木弘記 柏原寛 溝田知茂)					
第7回：個人面接 (担当柏原寛 佐々木弘記 岸誠一 姫野俊幸 齊藤佳子 溝田知茂 伊藤智里 河原智美)					
第8回：集団面接 (担当柏原寛 佐々木弘記 岸誠一 姫野俊幸 齊藤佳子 溝田知茂 伊藤智里 河原智美)					
第9回：集団活動 (担当柏原寛 佐々木弘記 岸誠一 姫野俊幸 齊藤佳子 溝田知茂 伊藤智里 河原智美 村井隆人 大橋由佳)					
第10回：一般教養試験 (担当柏原寛 佐々木弘記 岸誠一 姫野俊幸 齊藤佳子 溝田知茂 伊藤智里 河原智美 村井隆人 大橋由佳)					
第11回：専門教養試験 (担当柏原寛 佐々木弘記 岸誠一 姫野俊幸 齊藤佳子 溝田知茂 伊藤智里 河原智美 村井隆人 大橋由佳)					
第12回：教職教養試験 (担当佐々木弘記 柏原寛 溝田知茂)					
第13回：先輩からのアドバイス (担当佐々木弘記 柏原寛 溝田知茂)					
第14回：市町村が望む保育士・教師像 (担当佐々木弘記 柏原寛 溝田知茂)					
第15回：進路決定へ向けて (担当佐々木弘記 柏原寛 溝田知茂)					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する		
	レポート	30%	各回の授業で提示される課題について、自分の考えを具体的に述べていること。		
	小テスト	40%	各回の主要なポイントの理解度を評価する。		
	定期試験				
	その他				
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b>					
卒業後の進路を見据えて、積極的な態度で授業に参加することが望ましい。					
<b>【授業外学修】</b>					
1 予習として、授業で配付される資料を読み、疑問点を明らかにする。					
2 復習として、授業で提示された課題のレポートを書く。					
3 発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料等を読む。					
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載	「保育所指導指針・解説」「幼稚園教育要領・解説」「就活グリーンBOOK」中国学園大学・中国短期大学就職支援委員会			
参考書	自由記載	授業中に適宜紹介する。			
<b>【その他】</b>					
プリント等を整理するためクリアファイルを持参すること。					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>					
公立中学校理科教諭、県教育センター（佐々木弘記）					
公立小学校教諭・校長、県生涯学習センター、県情報教育センター（岸誠一）高等学校非常勤講師、保育士(大田原愛美)					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
学校、教育センター等での経験を生かして、教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。（佐々木、岸）					
実務経験をいかし、学生が幼稚園教諭、保育士として身体表現の支援・指導を行うために必要な乳幼児の身体の発達段階の動きの理解や採用試験に向けて必要な技術を修得させる。(大田原愛美)					



授業科目名	人権教育論		サブタイトル		授業番号	CN201
担当教員名	奥田 浩二					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
人権問題の現状と課題についての考察を通し、人権の正しい理解を深めるとともに、差別や偏見をなくする手立てとしての人権教育の在り方について考え、人権課題の解決につながる実践力を高める。						
<b>【到達目標】</b>						
人権問題について認識を深め、人権教育の重要性を理解するとともに、課題解決の実践力を高める。 合わせて、現代の子どもをとりまく多様な問題に対応できる人権感覚を身に付け、適切な対応ができる能力を育む。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解> <態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：日本国憲法・世界人権宣言と人権の保障 第2回：身近な生活の中にある人権問題 第3回：人権問題の現状と課題-女性- 第4回：人権問題の現状と課題-子ども- 第5回：人権問題の現状と課題-高齢者- 第6回：人権問題の現状と課題-障害者- 第7回：人権問題の現状と課題-その他の人権課題(1)- 第8回：人権問題の現状と課題-その他の人権課題(2)- 第9回：同和問題の理解と歴史的認識 第10回：同和問題と差別解消への取組 第11回：学校教育における人権教育-人権教育の位置づけ- 第12回：学校教育における人権教育-歴史教育と人権教育- 第13回：学校教育における人権教育-人権教育を生かした学級づくり- 第14回：世界的視野で考える人権問題 第15回：新しい人権とこれからの人権教育						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	意欲的な受講態度、発表等によって評価する。		
	レポート		10%	身近な生活の中での人権課題に気付き、考察できていること。また、現代の人権課題について記述できていること。		
	小テスト		10%	各講義での学修ポイントを押さえた「まとめ」が記述できていること。		
	定期試験		60%	講義で学んだ人権課題及び人権教育の現状や取組について具体的に記述できていること。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
人権問題への関心を高め、課題意識をもって社会のできごとについて考える。						
<b>【授業外学修】</b>						
授業で配付する資料や紹介する参考文献を次回までに読んでおくこと。 毎回、レポート提出、または小テストを実施するので、復習を十分にしておくこと。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	毎時間、授業用プリント資料を配付する。				
参考書	自由記載	授業内で随時紹介する。				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
中学校教諭，公民館啓発指導員						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
さまざまな人権課題について、学校で起こりうる人権問題に限定せず、学校を取り巻く社会で起こっている人権問題も含めて幅広く指導する。						

授業科目名	子どもとおやつ		サブタイトル		授業番号	CN202
担当教員名	加賀田 江里					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	1単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
<p>幼児期の食事は健康な発達において重要である。その中でも間食は幼児期において不足しがちな栄養素を補うという意義をもち、欠かすことのできないものである。そこで、この授業では幼児期における補食としてのおやつを作るために必要な基礎知識と基本操作を学ぶ。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児期の栄養の基礎知識を習得する</li> <li>・ 幼児期における間食の必要性について理解する</li> <li>・ 間食を調理する上での基礎的な知識と技術を習得する</li> </ul> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt; &lt;技能&gt;の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<b>【授業計画 備考】</b>						
<p>この授業は全8回の授業である。 履修人数によっては2クラスで隔週開講となる場合がある。</p>						
<p>第1回：幼児期の間食の意義  第2回：子どものおやつ（1）  第3回：子どものおやつ（2）  第4回：子どものおやつ（3）  第5回：子どものおやつ（4）  第6回：子どものおやつ（5）  第7回：アレルギー対応のおやつ  第8回：子どもと一緒に作るおやつ  第9回：期末試験（筆記）  第10回：  第11回：  第12回：  第13回：  第14回：  第15回：</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢 / 態度		30%	意欲的な受講態度によって評価する。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		70%	授業の内容の最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
<p>幼児の栄養や、調理の基本操作について自ら積極的に学ぶ姿勢をもって臨むこと。  髪を結ぶ、爪を切る、マニキュアは落とす、ピアス、ネックレスなどのアクセサリー類を外す等、実習にふさわしい身支度を整え、安全面・衛生面に十分配慮して実習を行うこと。</p>						
<b>【授業外学修】</b>						
<p>1. 授業で出てきたポイントを復習すること  2. 日頃から子どもと食に関する情報に興味関心をもち、自ら情報収集を行うこと  以上の内容を、週あたり1時間以上学修すること。</p>						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	子どもと絵本		サブタイトル		授業番号	CN203
担当教員名	村井 隆人 河原 智美					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
絵本の特徴と子どもの発達にとっての意義を理解したうえで、絵本から広がったり深まったりする様々なつながりを生み出す方法を具体的に検討する。また、保育・教育現場で絵本を取り入れられるように絵本の読み合いや分析、模擬保育など、実践的活動を実施する。多くの絵本を知り、自らが興味・関心を持てるよう、多様な観点からアプローチする。						
<b>【到達目標】</b>						
1, 絵本の特徴と意義を多角的な観点から捉えることができる。 2, 絵本と子どもの発達について理解できる。 3, 絵本を保育・教育のなかに取り入れていく具体的な方法が提案できる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：現状をもとに授業の目標を決める (担当村井) 第2回：絵本を分析する (担当村井) 第3回：絵本の読み聞かせの方法を考える(1) (担当村井) 第4回：絵本の読み聞かせの方法を考える(2) (担当村井) 第5回：子どもの発達と絵本への反応を知る(1) (担当村井) 第6回：子どもの発達と絵本への反応を知る(2) (担当村井) 第7回：絵本の読み聞かせ発表(1) (担当村井) 第8回：絵本の読み聞かせ発表(2) (担当村井) 第9回：絵本を使った保育の方法を考える(1) (担当河原) 第10回：絵本を使った保育の方法を考える(2) (担当河原) 第11回：模擬保育(1) (担当河原) 第12回：絵本を使った発展的な保育の方法を考える(1) (担当河原) 第13回：絵本を使った発展的な保育の方法を考える(2) (担当河原) 第14回：模擬保育(2) (担当河原) 第15回：授業と実践の振り返り (担当河原)						
<b>【授業計画 備考2】</b>						
少人数のグループでの取り組みや、クラス内で絵本を読みあうことを多く行います。						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート		45%	授業毎の課題を評価する		
	小テスト					
	定期試験					
	その他		55%	読み聞かせや模擬保育のパフォーマンスを評価する		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
毎授業、自らテーマを設定し、絵本を紹介する。多くの絵本と出会い、生活を豊かにしてほしい。						
<b>【授業外学修】</b>						
絵本探索を含め、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	必要に応じて適宜資料を配付する。				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	子どもと楽器		サブタイトル		授業番号	CN204
担当教員名	土師 範子 廣畑 まゆ美					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	1単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
幼稚園教育要領等について講義を行う。子どもが豊かな音楽表現をするために楽器の種類を知る。教育（保育）現場で望ましい器楽指導を行えるようになるために、身体や言葉、楽器を使ってリズムの理解をする。また、楽器の扱いや奏法、応用の仕方について学ぶ。 子どもの想像力を広げ、身体を使った音楽あそびを通して、「表現の楽しさ」を教える。子どもの発達段階に応じて、楽器を使用し、表現の幅を広げる指導の方法を学ぶ。						
<b>【到達目標】</b>						
子どもの発達に応じた楽器を理解する。言葉や身体を使ってリズムの理解ができるようになる。楽器やリズムの楽しさを理解する。 子どもに「表現の楽しさ」を教えるには、指導者（保育者）自身がまず、集中して音に耳を傾ける事ができ、子どもの気持ちになって、生き生きと表現することを楽しむことができるようになることが大切である。そして、それらを教育（保育）現場で生かすことができる知識を身に付けることを目標とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、知識・理解の習得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：領域「表現」と楽器の関係（担当土師） 第2回：様々な楽器の演奏と指導法（担当土師） 第3回：子どもが使用する楽器（担当土師） 第4回：子どもが使用する楽器と楽曲（3, 4歳児）（担当土師） 第5回：子どもが使用する楽器と楽曲（5, 6歳児）（担当土師） 第6回：楽器と合奏（担当土師） 第7回：合奏法とその留意点（担当土師） 第8回：日本の楽器（1）（担当土師） 第9回：日本の楽器（2）（担当土師） 第10回：日本の楽器と指導法（1）（担当土師） 第11回：日本の楽器と指導法（2）（担当廣畑） 第12回：世界の楽器（1）（担当廣畑） 第13回：世界の楽器（2）（担当廣畑） 第14回：生活と楽器（1）（担当廣畑） 第15回：生活と楽器（2）（担当廣畑）						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	40%	意欲的な受講態度、発表・グループ課題への参加、予・復習の状況によって評価する。			
	レポート	30%	出された課題で問われている事の意味が理解でき、それに合った内容を述べているかを評価する。			
	小テスト	30%	各回の主要なポイントの理解を評価する。			
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
子ども、指導者の、教育（保育）現場での気持ちを想像する事。 音を出す時、出さない時のメリハリを大切にすること。 学ぶ者同士、お互いに、良い所を認め合う事。 日常生活の中でも、さまざまな音やリズム遊びの要素を発見し、実践できるようにすること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 予習として、子どもの楽器について調べる。 2. 復習として、授業内容を実際の保育現場をイメージして実践する。または、授業の内容を踏まえて課題を行うことで復習とする。 3. 発展学習として、ピアノなどの楽器や、リズムの練習をする。または、単発の授業ではなく、それぞれの講義内容が繋がっていることを踏まえ、授業の内容を理解、発展させていく。						
以上の内容を、週あたり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	自由記載	講義ごとに必要なプリントを配布します。				
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	無					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	子どもと手芸		サブタイトル		授業番号	CN205
担当教員名	齊藤 佳子					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	1単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
乳幼児の年齢と発達に応じた布おもちゃの製作とその遊びの展開を通して、保育内容・方法を実践的に学ぶ。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃの特徴を理解し、製作することができる。</li> <li>・製作した布おもちゃの遊び方を工夫することができる。</li> <li>・保育現場で役立つ裁縫に関する知識と技能を身に付ける。</li> <li>・製作を通して、計画的、能動的に作業する態度を身に付ける。</li> </ul> なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
<b>【授業計画 備考】</b>						
人形、布製ボール、フェルトのボタン・フォック・スナップ・ファスナー・ひも通し、指人形、フェルトの絵本など、さまざまな布おもちゃが考案されている。製作する布おもちゃに関しては、学生からの要望に柔軟に応じる。						
第1回：布おもちゃの魅力を探る（子どもにとっての布おもちゃの理解） 第2回：布おもちゃ作りの資料収集、題材の選定、決定（教材研究）、製作に必要な材料と用具 第3回：フェルトを用いた指人形づくり 素材の知識 第4回：布（フェルトなど）を用いた名札・ワッペンづくり(1) 第5回：布（フェルトなど）を用いた名札・ワッペンづくり(2) 第6回：布おもちゃ作り(1) 布おもちゃ製作の手順、製作計画、型紙の作り方、型紙の写し方 第7回：布おもちゃ作り(2) 布の切り方、基本的な縫い方 第8回：布おもちゃ作り(3) 手芸綿の入れ方 第9回：布おもちゃ作り(4) 顔・体・手・足のつけ方 第10回：布おもちゃ作り(5) 手芸用ボンド、接着剤の特性 第11回：布おもちゃ作り(6) 面ファスナー・マジックテープ、ひも、安全ピン、キーホルダーのつけ方 第12回：布おもちゃ作り(7) 製作の工夫、表情のつけ方 第13回：布おもちゃ作り(8) 仕上げ 第14回：年齢と発達に適した布おもちゃと遊びの展開方法(1) 第15回：年齢と発達に適した布おもちゃと遊びの展開方法(2)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		10%	意欲的な姿勢・態度		
	レポート		20%	授業ごとのレポート内容		
	小テスト					
	定期試験					
	その他		70%	指人形：10%、名札・ワッペン：10%、布おもちゃ：40%、布おもちゃの遊び方の展開：10%		
	自由記載	授業ごとに自分で感じたこと、工夫したこと、考えたことについてのレポートを作成して提出する。				
<b>【受講の心得】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習中心の授業なので、毎回出席することが大切である。作品だけが評価されるのではなく、授業に取り組む姿勢や態度も重要である。</li> <li>・製作において必要となる参考資料や材料等は、各自が必要に応じ自主的に準備するものとする。</li> </ul>						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	子どもとダンス		サブタイトル		授業番号	-CN206
担当教員名	未定					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	1単位	
開講年次	3年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
<p>幼児期（児童期）で扱うダンス、踊り、パフォーマンス等の有効性について、講義と演習を組み合わせるその内容について理解する。また、幼児（児童）のダンス等の評価についてその方法や分析・評価の方法について知る。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>次の3点を本科目の到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児期（児童期）に適切なダンス、踊り、パフォーマンスについて理解する。その指導方法について知る。</li> <li>2. 幼児（児童）のダンス等について各種の分析方法の目的と内容を理解する。</li> <li>3. 幼児（児童）のダンス等について分析した結果から、保育・授業を分析する方法を理解する。</li> </ol> <p>なお本科目はディプロマポリシーのの修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：幼児期（児童期）の子どもの身体的発達過程とその発達過程に沿ったダンス等  第2回：幼児期（児童期）におけるダンス等の実際と教育的意義(1)  第3回：幼児期（児童期）におけるダンス等の実際と教育的意義(2)  第4回：幼児期（児童期）におけるダンス等の実際と子どもの姿(1) ビデオ観察から分析  第5回：幼児期（児童期）におけるダンス等の実際と子どもの姿(2) ビデオ観察から分析  第6回：幼児期（児童期）におけるダンス等の実際と子どもの姿(3) (1), (2)の分析からの結果考察  第7回：幼児期（児童期）のダンス等の実践研究を基にグループワーク（分析方法(1)）  第8回：幼児期（児童期）のダンス等の実践研究を基にグループワーク（分析方法(2)）  第9回：幼児期（児童期）のダンス等の実践研究を基にグループワーク（分析方法(3)）  第10回：ダンス等の計画・設計  第11回：ダンス等の実践  第12回：ダンス等の評価  第13回：グループ演習（参与観察法、ビデオ分析、インタビュー調査）(1)  第14回：グループ演習（参与観察法、ビデオ分析、インタビュー調査）(2)  第15回：小グループによるディスカッション（各グループで分析、結果の発表：質疑応答）</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		20%			
	レポート		30%			
	小テスト					
	定期試験					
	その他		50%	ダンス、踊り、パフォーマンス等の実際		
	自由記載					
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					

授業科目名	子どもとゲーム		サブタイトル		授業番号	-CN07
担当教員名	未定					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	1単位	
開講年次	4年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
<p>幼児期（児童期）で扱うゲーム、遊び等の有効性について、講義と演習を組み合わせるその内容について理解する。また、幼児（児童）のゲーム、遊び等の評価についてその方法や分析・評価の方法について知る。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>次の3点を本科目の到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児期（児童期）に適切なゲーム、遊び等について理解する。その指導方法について知る。</li> <li>2. 幼児（児童）のゲーム、遊び等について各種の分析方法の目的と内容を理解する。</li> <li>3. 幼児（児童）のゲーム、遊び等について分析した結果から、保育・授業を分析する方法を理解する。</li> </ol> <p>なお本科目はディプロマポリシーのの修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：幼児期（児童期）の子どもの身体的発達の過程とその発達過程に沿ったゲーム、遊び等  第2回：幼児期（児童期）におけるゲーム、遊び等の実際と教育的意義(1)  第3回：幼児期（児童期）におけるゲーム、遊び等の実際と教育的意義(2)  第4回：幼児期（児童期）におけるゲーム、遊び等の実際と子どもの姿(1) ビデオ観察から分析  第5回：幼児期（児童期）におけるゲーム、遊び等の実際と子どもの姿(2) ビデオ観察から分析  第6回：幼児期（児童期）におけるゲーム、遊び等の実際と子どもの姿(3) (1), (2)の分析からの結果考察  第7回：幼児期（児童期）のゲーム、遊び等の実践研究を基にグループワーク（分析方法(1)）  第8回：幼児期（児童期）のゲーム、遊び等の実践研究を基にグループワーク（分析方法(2)）  第9回：幼児期（児童期）のゲーム、遊び等の実践研究を基にグループワーク（分析方法(3)）  第10回：ゲーム、遊び等の計画・設計  第11回：ゲーム、遊び等の実践  第12回：ゲーム、遊び等の評価  第13回：グループ演習（参与観察法、ビデオ分析、インタビュー調査）(1)  第14回：グループ演習（参与観察法、ビデオ分析、インタビュー調査）(2)  第15回：小グループによるディスカッション（各グループで分析、結果の発表：質疑応答）</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		20%			
	レポート		30%			
	小テスト					
	定期試験					
	その他		50%	ゲーム、遊び等の実際		
	自由記載					
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					

授業科目名	障害児援助論		サブタイトル	授業番号	CN205
担当教員名	佐藤 伸隆				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	2単位	
開講年次	4年		開講期	後期	
必修・選択	選択		授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>					
前半は、「障害児保育」等の学修内容を基礎に反復的に深める。中盤は、めざすべきインクルーシブ保育の実施体制や内容、アセスメント（ツール）を実践的に学修する。後半は、知的障害・発達障害のある子どもの支援方法を状況や場面、過程に応じて具体的に理解する。					
<b>【到達目標】</b>					
本講義の目標は、直感に頼ることなく客観的な思考をもって発達障害のある子どもを援助・指導するという考え方を身につけるとともに、自ら保護者や他者に対して助言するスキルを身につけることである。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：障害のある子どもの保育（1）障害児保育総論 第2回：障害のある子どもの保育（2）障害特性と支援特性 第3回：分離保育・統合保育からインクルーシブ保育へ 第4回：インクルーシブ保育のシステム 第5回：インクルーシブ教育を実現する保育内容の工夫 第6回：インクルーシブ保育実践と多機関・他職種連携 第7回：インクルーシブ保育の実践例 第8回：インクルーシブ保育を支えるツール 第9回：知的障害・発達障害のある子どもの特性と支援の基本 第10回：知的障害／発達障害のある子どもへの合理的配慮 第11回：知的障害・発達障害のある子どもへのアプローチ（1）応用行動分析（ABA）とABC分析 第12回：知的障害・発達障害のある子どもへのアプローチ（2）ストロング視点・構造化 第13回：知的障害・発達障害のある子どもへのアプローチ（3）保育者の行動変容（T-Change） 第14回：個別支援計画とクラス運営 第15回：保護者支援／療育など					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢／態度		40%	意欲的な受講態度はもちろん、ワークへの参加状況も評価します。	
	レポート				
	小テスト				
	定期試験		60%	授業全体を通して学修した内容の理解度について、自己洞察的（自身を省察）に問い評価します。	
	その他				
	自由記載	保育・福祉現場で障害児支援を実践する専門的能力を学修しているかを規準に評価します。			
<b>【受講の心得】</b>					
これまで実習や課外活動などを通して、幾度となく障害のある子どもやその保護者と関わって（支援して）きたことでしょう。今、改めてそれを振り返ってください。皆さん自身の関わりはどのような裏付け（支援の根拠）をもって行われていたでしょうか？ 勘や経験ではないエビデンスに基づいた実践への一歩を踏み出しましょう。					
<b>【授業外学修】</b>					
課題活動をはじめ、日常的なあらゆる場面で障害のある子どもや家族と交流する機会を積極的にもち、個々の関わりを鳥瞰的に省察するよう心掛けてください。授業開始前までにテキストを読み、大筋を把握するとともに、自らの関心点、疑問点を明らかにしておいてください。授業で学修した内容を振り返り、板書ノートに書き加えるなどして要点、疑問点をまとめてください。なお、疑問点は次の授業時間に質問してください。以上の内容を週4時間以上学修してください。					
使用テキスト	自由記載	尾崎康子・阿部美穂子・水内豊和編著『よくわかるインクルーシブ保育』ミネルヴァ書房、2020			
参考書	自由記載	浜田寿美男著『障害と子どもたちの生きるかたち』岩波現代文庫、2009 市川奈緒子・岡本仁美著『発達に気になる子どもの療育・発達支援入門』金子書房、2018 綾屋紗月・熊谷晋一郎『発達障害当事者研究 ゆっくりしていけないつながりたい』医学書院、2008			
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>					
社会福祉協議会の相談員					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
障害者やその家族に対する相談支援やコミュニティソーシャルワークの経験等を生かして、エビデンスに基づいた障害児支援の実践方法やマネジメントについて授業を行う。					



授業科目名	発達心理学		サブタイトル		授業番号	CN206	
担当教員名	國田 祥子						
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	1単位		
開講年次	4年			開講期	後期		
必修・選択	選択			授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b>							
この授業では、生涯発達の視点から人の一生を捉え、特に誕生から乳幼児期にかけての生理的・心理的発達について解説する。							
<b>【到達目標】</b>							
子どもと接する上で必要な行動理解の基礎を身につける。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉の習得に貢献する。							
<b>【授業計画】</b>							
第1回：発達心理学とは 第2回：赤ちゃんはいかに有能か 第3回：人間発達の可塑性 第4回：母子相互作用の不思議 第5回：世界認識の始まりと個性の育ち 第6回：象徴機能の成立と言語発達 第7回：言語の機能と会話の発達 第8回：中間のまとめ 第9回：記憶し想像する心の発達 第10回：心の理論の成立 第11回：遊びの発達と遊びからの学び 第12回：思考と語りの成立過程 第13回：科学する心の芽ばえ 第14回：生活世界から学びの世界へ 第15回：期末のまとめ							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度						
	レポート						
	小テスト						
	定期試験		100%	理解度を評価する。			
	その他						
自由記載							
<b>【受講の心得】</b>							
積極的な受講態度を期待します。							
<b>【授業外学修】</b>							
毎回の授業の内容を4時間以上復習しておくこと。復習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について再度4時間以上の復習を行うこと。							
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	やわらかアカデミズム・わかる シリーズ よくわかる乳幼児心理学 第2版			内田伸子（編）	ミネルヴァ書房	2400円	978-4-623-05000-0
自由記載							
参考書	自由記載						
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
	無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>							
無							

授業科目名	子ども家庭支援の心理学		サブタイトル		授業番号	CN207
担当教員名	國田 祥子					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
この授業では、生涯発達の見点から人の一生を捉え、特に発達変化の著しい乳幼児期を中心に、人の生理的・心理的発達について、家族・家庭の影響を踏まえて解説する。						
<b>【到達目標】</b>						
子どもの発達についての基礎知識を身につけ、子どもを取り巻く家族・家庭の意義や機能を理解する。さらに、子どもの心の健康とその課題について理解する なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、＜知識・理解＞の習得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：子ども家庭支援の心理学とは 第2回：身体と運動の発達 第3回：認知発達と学習 第4回：言語発達 第5回：情動の発達 第6回：親子関係の形成と発達 第7回：パーソナリティの発達 第8回：中間のまとめ 第9回：発達の基礎理論 第10回：子どもの心身症 第11回：子どもの問題行動 第12回：習癖異常 第13回：虐待 第14回：子どもの慢性疾患 第15回：期末のまとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		100%	理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
積極的な受講態度を期待します。						
<b>【授業外学修】</b>						
毎回の授業の内容を4時間以上復習しておくこと。復習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について再度4時間以上の復習を行うこと。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	子どもの理解と援助		サブタイトル		授業番号	CN208
担当教員名	廣畑 まゆ美 河原 智美					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
保育実践において実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義についてや、子どもを理解するための具体的な方法、子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について理解できるよう解説する。						
<b>【到達目標】</b>						
1, 保育実践において、実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解できる。						
2, 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解できる。						
3, 子どもを理解するための具体的な方法を理解できる。						
4, 子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について理解できる。						
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：保育における子どもの理解 (担当廣畑)						
第2回：子どもに対するかかわりと共感的理解 (担当廣畑)						
第3回：子どもの生活や遊び (担当廣畑)						
第4回：保育の人的環境としての保育者と子どもの発達 (担当廣畑)						
第5回：子ども相互のかかわりと関係づくり (担当廣畑)						
第6回：集団における経験と育ち (担当廣畑)						
第7回：発達による葛藤やつまずき (担当廣畑)						
第8回：保育の環境の理解と構成 (担当廣畑)						
第9回：環境の変化や移行 (担当河原)						
第10回：子ども理解のための観察・記録と省察・評価 (担当河原)						
第11回：子ども理解のための職員間の対話 (担当河原)						
第12回：子ども理解のための保護者との情報共有 (担当河原)						
第13回：発達の課題に応じた援助とかかわり (担当河原)						
第14回：特別な配慮を要する子どもの理解と援助 (担当河原)						
第15回：発達の連続性と就学への支援 (担当河原)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート		50%			
	小テスト					
	定期試験		20%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
常に自分自身の見方や援助の方法を問いながら、子ども理解に努めること。						
<b>【授業外学修】</b>						
予・復習を行い、週当たり2時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	幼児理解の理論と方法		サブタイトル		授業番号	CN209
担当教員名	國田 祥子					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	3年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
この授業では、特に乳幼児期における子ども達の発達支援に必要な理論および技法について、発達心理学および臨床心理学の観点から解説する。						
<b>【到達目標】</b>						
乳幼児期の子ども達の発達支援に必要な知識および技能を身につける。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉の習得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：幼児理解とは 第2回：幼児の発達の理解 第3回：保育における理解と援助 第4回：幼児の観察 第5回：保育カンファレンス(1) 第6回：保育カンファレンス(2) 第7回：保育カウンセリング 第8回：中間のまとめ 第9回：障害のある幼児の理解(1) 第10回：障害のある幼児の理解(2) 第11回：障害のある幼児の理解(3) 第12回：発達臨床の現場 第13回：発達臨床にかかわる人々 第14回：家庭支援における幼児理解 第15回：期末のまとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		100%	理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
積極的な受講態度を期待します。						
<b>【授業外学修】</b>						
毎回の授業の内容を4時間以上復習しておくこと。復習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について再度4時間以上の復習を行うこと。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	新しい保育講座(3) 子ども理解と援助		高嶋景子・砂上史子(編著)	ミネルヴァ書房	2200円	9784623085316
自由記載						
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	よくわかる臨床発達心理学 第4版		麻生 武・浜田寿美男(編)	ミネルヴァ書房	2800円	978-4-623-06326-0
自由記載						
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	教育社会学		サブタイトル		授業番号	CN210
担当教員名	中田 周作					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	3年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
子どもの発達とは、これまで主として、心理学的アプローチにより解明が進められてきたといっても過言ではないだろう。しかし、大きな社会変動と多面的価値観が錯綜する現代社会において、子どもの発達を解明するためには、子どもを取り巻く社会的環境を注視する必要がある。そのため、特に社会化エージェントに焦点をあてて講義する。						
<b>【到達目標】</b>						
子どもの発達を社会的アプローチにより理解できる基礎的素養を習得する。特に、学校教育に関する社会的事項、学校と地域との連携、学校安全への対応に関する基礎的知識を修得し、子どもに関する問題を自ら分析し、解決に寄与できる能力を身につけることを目標とする。 なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解><思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：子どもの発達に対する社会的アプローチとは 第2回：教育社会学の研究对象と研究方法 第3回：教育社会学の研究对象としての教育政策 第4回：教育社会学の研究对象としての諸国の教育事情 第5回：家族集団と子どもの社会化 第6回：仲間集団と子どもの社会化 第7回：地域社会と学校教育 第8回：地域社会と子どもの教育 第9回：学校集団の構造と組織 第10回：学校集団の社会化機能 第11回：学校安全の現状と課題 第12回：学校の安全と危機管理 第13回：子どもの社会化と逸脱行動 第14回：子どもの逸脱行動の現実 第15回：少年非行						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		10%	授業への取り組み姿勢を考慮する。		
	レポート		70%	講義終了後に最終レポートを提出する。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他		20%	講義のとき、毎回、コメントペーパーを提出する。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
1) テキスト及び配付資料を事前に読んでくること。 2) 最終レポートの課題を探しながら受講すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
事前にテキスト及び配付資料を読んでくることを、週当たり4時間以上行うこと。						
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価
	変動社会と子どもの発達			住田正樹・高島秀樹	北樹出版	2100
	自由記載					
参考書	自由記載		酒井朗・多賀太・中村高康編著『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房			
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	無					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	教育社会学演習		サブタイトル	授業番号	CN311
担当教員名	中田 周作				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	1単位		
開講年次	4年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
【授業の概要】					
子どもを研究対象とした社会学系統の学術論文を題材とし、社会学の専門用語を確認しながら精読していく。同時に、子ども学としてコンセンサスの得られる研究対象や研究方法、子ども学の役割についても検討する。					
【到達目標】					
子ども学は未だ発展の途上である。子ども学の確立を目指すためには、まず、様々な学問分野からのアプローチが必要である。本演習は、その一助として、社会学系統の学術論文を読むことができるようになることを目標とする。なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<思考・問題解決能力>の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：教育社会学の研究対象と方法 第2回：レジュメ発表と質疑応答（テーマ：子ども社会学の位置付け） 第3回：レジュメ発表と質疑応答（テーマ：子どもの遊びとは） 第4回：レジュメ発表と質疑応答（テーマ：実証的アプローチとは） 第5回：レジュメ発表と質疑応答（テーマ：民間の子育て支援活動） 第6回：レジュメ発表と質疑応答（テーマ：子どもの仲間集団） 第7回：レジュメ発表と質疑応答（テーマ：子どもの放課後） 第8回：レジュメ発表と質疑応答（テーマ：自然体験活動の意義） 第9回：レジュメ発表と質疑応答（テーマ：マンガと子ども） 第10回：レジュメ発表と質疑応答（テーマ：子どものイメージ） 第11回：レジュメ発表と質疑応答（テーマ：地域社会と子ども） 第12回：レジュメ発表と質疑応答（テーマ：家庭と子ども） 第13回：レジュメ発表と質疑応答（テーマ：少年非行と子どもの発達） 第14回：レジュメ発表と質疑応答（テーマ：学歴社会と受験戦争） 第15回：レジュメ発表と質疑応答（テーマ：子どもの発達と新しいメディア）					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	40%	発表及び質問		
	レポート				
	小テスト				
	定期試験				
	その他	60%	作成したレジュメ及びその修正		
	自由記載				
【受講の心得】					
課題論文を読んでくること。討論に積極的に参加すること。					
【授業外学修】					
1. 自分の発表前は、レジュメの作成をすること。 2. 発表後は、発表中に指摘を受けた事項を踏まえて、レジュメを修正すること。 3. 他者の発表の前に、テキストの該当箇所を読んで、質問を考えておくこと。					
以上、週当たり4時間以上取り組むこと。					
使用テキスト	自由記載				
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	変動社会と子どもの発達	住田正樹・高島秀樹編	北樹出版	2,100円+税	978-4-7793-0469-9
	自由記載				
【担当教員の実務経験の有無】					
無					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】					
無					

授業科目名	教育相談		サブタイトル	(カウンセリングを含む)		授業番号	CN212
担当教員名	國田 祥子						
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位		
開講年次	3年			開講期	前期		
必修・選択	選択			授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>							
この授業では、教育相談についてその理念や基本的な理論を紹介する。							
<b>【到達目標】</b>							
教育相談で扱うさまざまな問題に対し、不適応状態にある子どもやその保護者に教師が対応していく際の考え方や方法について解説し、カウンセリング・マインドを身につける。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>の習得に貢献する。							
<b>【授業計画】</b>							
第1回：教育相談とは 第2回：カウンセリングの理論 第3回：カウンセリングの技法 第4回：いじめ・不登校への対応 第5回：学級崩壊・学級経営の問題への対応 第6回：虐待・いのちの教育への対応 第7回：非行・学校不応への対応 第8回：中間のまとめ 第9回：発達障害への対応 第10回：心の病への対応 第11回：校内・他機関との連携 第12回：アセスメント：観察・面接 第13回：アセスメント：心理検査 第14回：過程の理解と保護者への支援 第15回：期末のまとめ							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度						
	レポート						
	小テスト						
	定期試験		100%	理解度を評価する。			
	その他						
自由記載							
<b>【受講の心得】</b>							
積極的な受講態度を期待します。							
<b>【授業外学修】</b>							
毎回の授業の前に、テキストに基づいて4時間以上予習しておくこと。学習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について4時間以上の復習を行うこと。							
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	よくわかる！教職エクササイズ3 教育相談			森田健宏・吉田佐治子(編著)	ミネルヴァ書房	2200円	978-4-623-08178-3
自由記載							
参考書	自由記載						
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
	無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>							
無							

授業科目名	国語		サブタイトル		授業番号	CO201
担当教員名	村井 隆人					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
<p>教科としての「国語」の意味を理解し、これを教育の場で実践するために必要な知識を講義する。 この授業は小学校の教員免許の取得を目指す学生の参加を前提に講義を進めるが、必要に応じて幼児を対象とした国語教育についても扱う。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
1.教科としての「国語」の意味を理解するとともに、関連諸科学の知識を習得する。						
<b>【授業計画】</b>						
<b>【授業計画 備考】</b>						
4人前後の小グループでの活動を中心にする。						
第1回：国語の概念と国語教育 第2回：説明文を深く読む 1 第3回：説明を深く読む 2 第4回：物語文を深く読む 1 第5回：物語文を深く読む 2 第6回：物語文を深く読む 3 第7回：絵本を深く読む 第8回：論理的な話し合いをする 1 第9回：論理的な話し合いをする 2 第10回：論理的に書いてみる 第11回：物語を書いてみる 第12回：言語文化や言語事項に触れる 第13回：メディア・リテラシーを身に付ける 1 第14回：メディア・リテラシーを身に付ける 2 第15回：まとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢 / 態度					
	レポート		45%	毎回提出するミニレポートを評価する。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他		55%	授業時に作成する課題等によって評価する		
自由記載		ミニレポートはグループ活動での成果を基に記述をするため、積極的な活動が見られない場合は減点する。				
<b>【受講の心得】</b>						
講義の内容の復習や課題の作成を授業外学修に当てること。 毎回の授業で配布されるプリントへの記録と整理が肝要。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 復習として、授業で配布した資料を読んでおくこと。 2. 予習として、小テストの範囲の内容を学修しておくこと。 3. 語彙力を伸ばすため、日常的に漢字を学修すること。 4. 授業で身につけた技能を、普通の生活に活用すること。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
広島県立広島高等学校・広島大学附属福山中・高等学校						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						



授業科目名	算数		サブタイトル		授業番号	CO202
担当教員名	姫野 俊幸					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
小学校学習指導要領における算数科の目標及び各領域、各学年の内容、系統性について理解するとともに、具体的な授業場面において、どのように指導するのか、どのように評価するのかについても考えていく。						
<b>【到達目標】</b>						
1) 小学校学習指導要領における算数科の目標及び主な内容について理解する。 2) 算数科の各領域、各学年の学習内容と指導上の留意点について理解する。 3) 算数科の学習評価の考え方を理解する。 4) 算数科の背景となる数学とのつながりを理解し、教材研究に活用しようとする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能> <態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：科目を学ぶ意義，算数を学ぶ意味 第2回：数と計算領域（1）数の概念と表記，自然数 第3回：数と計算領域（2）数の把握，数の表記 第4回：数と計算領域（3）たし算，ひき算，かけ算，わり算 第5回：数と計算領域（4）小数，分数 第6回：数と計算領域（5）各学年における数の学び 第7回：図形領域（1）基本的な平面図形，立体図形，垂直や平行の関係 第8回：図形領域（2）面積，体積 第9回：測定領域（1）量と測定 第10回：測定領域（2）量と測定の指導 第11回：変化と関係領域（1）異種の量の割合 第12回：変化と関係領域（2）関数の考え 第13回：データの活用領域（1）統計と確率 第14回：文章題，問題解決 第15回：学習評価，数学的活動，数学的な見方・考え方，数学的リテラシー						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		15%	意欲的な学習態度，発表・討議への取り組みの姿勢を評価する。		
	レポート		30%	「授業からの学び」と「自分の気づき」を評価する。		
	小テスト		40%	前回の授業の主要な内容の理解を評価する。		
	定期試験					
	その他		15%	ノートのまとめ方を評価する。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
授業のはじめに小テストを行うので，前時の復習をして授業に臨むこと。 自分が小学校で経験した算数科の授業を想起しながら，実際に問題を解いたり，教え方を考えたりすること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 配付資料や小テスト等を整理して，本時の講義内容をノートにまとめ復習する。 2 発展学習として，授業で興味を持った内容について調べ深める。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	小学校学習指導要領解説 算数編		文部科学省	文部科学省	242円	9784491015507
	小学校算数教科書1年～6年			啓林館		
自由記載						
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
	<b>【担当教員の实務経験】</b>					
公立小学校教諭，教頭，校長，教育委員会事務局						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
公立小学校，教育委員会事務局等での実務経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。						

授業科目名	生活		サブタイトル		授業番号	CO203	
担当教員名	熊代 賢治						
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位		
開講年次	1年			開講期	後期		
必修・選択	選択			授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>							
生活科の目標・内容・特徴的な指導法などの基本を学習する。その過程で、生活科の本質と教育の基本について、自分自身の言葉で表現しながら、自分なりの教育哲学を構築する。							
<b>【到達目標】</b>							
(1)生活科の目標・内容・指導法について、簡潔に説明することができる。 (2)教師の力量のもととなる教育の原点を、自分の頭で考え、自分なりの教育観を持つことができる。 (3)歌や工作などを、子どもの気持ちで楽しみ、子どもの心が理解ができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度>の修得に貢献する。							
<b>【授業計画】</b>							
<b>【授業計画 備考】</b>							
(1)生活科の目標・内容・指導法・評価に関する基礎的な理解を深める (2)教育・人生の基本について、自分なりの考え方を構築していく (3)歌、工作を子どもの気持ちで楽しく行い、子ども理解を深める							
第1回：(1)生活科の目標(2)大切なものとは(3)三角鉄砲 第2回：(1)自立の本質(2)何のために生きているのか(3)イカ飛行機 第3回：(1)教科目標の趣旨(2)愛とは何か(3)小鳥と熊 第4回：(1)学年の目標設定と趣旨(2)幸福とは何か(3)くるくるウサギ 第5回：(1)内容構成の考え方(1)(2)子育ての目標(3)手裏剣 第6回：(1)内容構成の考え方(2)(2)親の仕事とは何か(3)折紙・犬 第7回：(1)具体的な内容(2)子どもの仕事とは何か(3)へそ飛行機 第8回：(1)生活科の歴史的な考察(2)教え方の基礎(3)吹きごま 第9回：(1)年間指導計画の作成と学習指導(2)勉強のできる子の育て方(3)ツバメ飛行機 第10回：(1)指導計画の作成と学習指導(2)叱ること、怒ること(3)バラン笛 第11回：(1)年間指導計画の作製上の留意点(2)いい先生、ダメ先生(3)がいこつ 第12回：(1)単元計画の作成(2)パートナーの見つけ方(3)折紙・鶴 第13回：(1)評価のあり方(2)頑張れの意味(3)手品のカード 第14回：(1)学習指導の進め方(2)子どもが幸せを感じる時(3)楽しい体験 第15回：(1)生活科の本質(2)教師力とは							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	発表内容、意欲的な授業態度			
	レポート		30%	宿題レポートの内容			
	小テスト						
	定期試験		50%	基礎・基本の理解度			
	その他						
自由記載							
<b>【受講の心得】</b>							
自立の基礎を養う生活科を通して、信頼されうる教師の力量・人生について深く考えてもらいたい。							
<b>【授業外学修】</b>							
(1)テキストの授業で学習する項目を予習しておくこと。 (2)授業で学習した項目についてテキストを詳読し復習しておくこと。 (3)教育の基礎について出されたテーマについて考えレポートを作成すること。 (4)自分の人生について考え、将来設計、夢などをまとめてみる。							
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	小学校学習指導要領解説 生活編			文部科学省	東洋館出版社	134円	978-4-491-03464-5
自由記載							
参考書	自由記載		『小学校 生活』教科書 東京書籍				
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
	有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>							
公立中学校理科教諭，民間教育施設学園長（熊代）							
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>							
無							
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>							
保育園，幼稚園，こども園での生活と小学校での生活を現場の立場で比較・検討し，子どもたちにとって何が必要なのかを具体的に考えていく。また子どもの視線で主体的・意欲的な活動について体験をしながら考察していく。教育現場で対応できる教師力を育成する内容にする。							

# 中国学園大学 令和3年度(2021年度) シラバス

<b>授業科目名</b>	<b>音楽</b>		<b>サブタイトル</b>		<b>授業番号</b>	CO204
<b>担当教員名</b>	川崎 泰子					
<b>対象学部・学科</b>	子ども学部 子ども学科		<b>単位数</b>	2単位		
<b>開講年次</b>	1年		<b>開講期</b>	前期		
<b>必修・選択</b>	選択		<b>授業形態</b>	講義		
<b>【授業の概要】</b>						
小学校音楽科における音楽科教育の意義を理解するとともに、授業を構成するために必要な知識や基礎的な技能等について学ぶ。						
<b>【到達目標】</b>						
小学校音楽科の授業を行うために必要な、基礎的な知識や技能を身に付ける。 そのために「器楽・歌唱・創作」における基礎的要素を確認し、それらを応用する知識を身につけ、各人の技能に応じた伴奏法の工夫が出来るようになる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：小学校における音楽科教育の目標と内容 第2回：教科の目標と学習指導要領 第3回：表現 - 歌唱、器楽、創作 - 1年生 第4回：表現 - 歌唱、器楽、創作 - 2年生 第5回：表現 - 歌唱、器楽、創作 - 3年生 第6回：表現 - 歌唱、器楽、創作 - 4年生 第7回：表現 - 歌唱、器楽、創作 - 5年生 第8回：表現 - 歌唱、器楽、創作 - 6年生 第9回：鑑賞教材 - 1, 2年生 第10回：鑑賞教材 - 3, 4年生 第11回：鑑賞教材 - 5, 6年生 第12回：音楽理論の確認と伴奏法 第13回：「器楽・歌唱・創作」と教材・教具の工夫 第14回：共通教材確認-MLでの活動をとおして- 第15回：コンピュータを使った授業の工夫						
<b>評価の方法</b>	<b>種別</b>		<b>割合</b>	<b>評価規準・その他備考</b>		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	意欲的な学習態度、予習及び復習の状況によって評価する。		
	レポート					
	小テスト		30%	各回の主要なポイントの理解を評価する。		
	定期試験		30%	最終的な理解度を評価する。		
	その他		20%	課題の理解度から評価する。添削後返却する。		
<b>自由記載</b>						
<b>【受講の心得】</b>						
小学校教員への教職意識を持つこと。 授業内で適宜小テストを行うので、前時間の復習をして授業に臨むこと。 配布されたプリントや資料を整理しておくこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
授業で提示される次回の内容について、予習すること。 課題を実施すること。 上記を、週当たり4時間以上学修すること。						
<b>使用テキスト</b>	<b>書名</b>		<b>著者・編集者</b>	<b>出版社</b>	<b>定価</b>	<b>ISBN</b>
	小学校教諭のための歌唱共通教材ピアノ伴奏集		大海由佳他	学研プラス	1,600	978-4-05-154195-8
	<b>自由記載</b>	小学校音楽1～6年(教育芸術社)				
<b>参考書</b>	<b>自由記載</b>					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	無					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	図画工作		サブタイトル		授業番号	CO205
担当教員名	柏原 寛					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
この講義では、小学校図画工作科で行われる教科書題材を取り上げながら、実際の活動を通して、「造形的な見方・考え方」について身につけることを目的とする。						
<b>【到達目標】</b>						
(1)「造形的な見方・考え方」を理解する。 1-1)表現及び鑑賞の活動を通して「造形的な見方・考え方」に関して深い認識をもつことができる。 1-2)「感性」や「想像力」をもとに思考することができる。 1-3)自分にとって新しいものやことをつくりだすように発想や構想することができる。 2)表現及び鑑賞の活動を通して、子どもの表現を支えるための感性を豊かにする。 2-1)自分らしく、創造的に表現活動をすることができる。 2-2)「造形的な視点」について理解することができる。 2-3)材料や用具の適切な使用方法について理解することができる。 2-4)表し方などの工夫について理解することができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：表現と鑑賞とは - 図画工作科の目的と内容 - 第2回：図画工作科におけるICT活用 第3回：低学年における表現と鑑賞1 -造形あそび- 第4回：低学年における表現と鑑賞2 -絵にあらわす- 第5回：低学年における表現と鑑賞3 -立体にあらわす- 第6回：低学年における表現と鑑賞4 -工作にあらわす- 第7回：中学年における表現と鑑賞1 -造形あそび- 第8回：中学年における表現と鑑賞2 -絵にあらわす- 第9回：中学年における表現と鑑賞3 -立体にあらわす- 第10回：中学年における表現と鑑賞4 -工作にあらわす- 第11回：高学年における表現と鑑賞1 -造形あそび- 第12回：高学年における表現と鑑賞2 -絵にあらわす- 第13回：高学年における表現と鑑賞3 -立体にあらわす- 第14回：高学年における表現と鑑賞4 -工作にあらわす- 第15回：「造形的な見方・考え方」の振り返り						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		40%	意欲的な授業態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート					
	小テスト		30%	各回の主要なポイントの理解をコメントペーパーの記述内容によって評価する。		
	定期試験					
その他		30%	各階の表現活動における作品			
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
この講義を通して「造形的な見方・考え方」について探求してほしい。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 復習として課題を課すことがある。 2. 予習として事前に資料を配布することがあるので理解しておくこと。 以上の内容をもとに、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	適宜、提示する。				
参考書	自由記載	適宜、提示する。				
<b>【その他】</b>						
はさみ、のり、テープ、色鉛筆、水彩絵具、定規、コンパス、カッター、スケッチブックなど、様々な画材、素材、道具を使用する。詳しい準備物は適宜授業の中で提示する。						
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	体育		サブタイトル		授業番号	CO206
担当教員名	溝田 知茂					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	3年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b> 小学校学習指導要領に示されている各種運動領域について、子どもの「教育的系統」に立脚する立場からその内容について追及する。まず、各種運動領域のそれぞれについて、領域の特性と教材の内容についての理解を図る。次に、運動自体の理解とともに、学習者の側に立ってそれぞれの内容を追求し理解することを企図して授業を行う。						
<b>【到達目標】</b> それぞれの教材の技能的特性を理解するとともに、自らも示範することができるようになる。 なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解><技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b> 第1回：戦後学習指導要領にみる学習内容の変遷 第2回：ボール運動：ゴール型（バスケットボール）の理解 第3回：ボール運動：ゴール型（バスケットボール）の内容とその実践 第4回：ボール運動：ネット型（バドミントン）の理解 第5回：ボール運動：ネット型（バドミントン）の内容とその実践 第6回：ボール運動：ネット型（ソフトバレーボール）の理解 第7回：ボール運動：ネット型（ソフトバレーボール）の内容とその実践 第8回：体づくり運動の理解・内容とその実践 第9回：器械運動：マット運動の理解 第10回：器械運動：マット運動の内容とその実践 第11回：器械運動：跳び箱運動の理解 第12回：器械運動：跳び箱運動の内容とその実践 第13回：陸上運動：短距離走の理解 第14回：陸上運動：短距離走の内容とその実践 第15回：子どもの側に立つ教材づくり						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		40%	意欲的な受講態度		
	レポート		30%	各領域ごとに学んだことを具体的に述べていること		
	小テスト		30%	全15回の授業を踏まえ、レポートを作成する		
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b> 実技を伴うので、各運動領域に対して積極的に取り組むこと。						
<b>【授業外学修】</b> ・各領域ごとで取り上げる内容をしっかり教材研究をする。 ・運動に対する興味関心を高め、運動する習慣づくりを心がける。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	特に使用しない。（作成資料を活用）				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						

授業科目名	基礎音楽A		サブタイトル	授業番号	CO207
担当教員名	土師 範子 河田 健二 廣畑 まゆ美 嶋田 泉 織田 典恵 多田 悦子				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	1単位
開講年次	1年			開講期	前期
必修・選択	選択			授業形態	演習
<b>【授業の概要】</b>					
子どもの発達と表現を理解し、音楽に関する基本的な知識や技能をピアノで習得することを目的とする。豊かな感性を表現するピアノ基礎技法を学び、保育現場において使用する童謡、子どもの歌等のレパートリーを広げる。練習することを習慣化することにより、確実な技能習得を目指す。授業は習熟度別に個人指導を行う。					
<b>【到達目標】</b>					
コード進行の基礎知識を学び、既成伴奏及び簡易伴奏の演奏ができる。練習を習慣化し、レパートリー10曲を目標とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><技能><態度>の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：前期の内容についての確認。子どもの成長と子どもを取りまく音楽について （担当土師 範子 廣畑 まゆ美 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 多田 悦子）					
第2回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ1 （担当土師 範子 廣畑 まゆ美 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 多田 悦子）					
基本的な楽典の知識を習得する1					
第3回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ2 （担当土師 範子 廣畑 まゆ美 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 多田 悦子）					
基本的な楽典の知識を習得する2					
第4回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ3 （担当土師 範子 廣畑 まゆ美 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵）					
基本的な楽典の知識を習得する3					
第5回：表現法とまとめ1 （担当土師 範子 廣畑 まゆ美 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 多田 悦子）					
第6回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ4 （担当土師 範子 廣畑 まゆ美 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 多田 悦子）					
基本的な楽典の知識を習得する4					
第7回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ5 （担当土師 範子 廣畑 まゆ美 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 多田 悦子）					
基本的な楽典の知識を習得する5					
第8回：表現法とまとめ2 （担当土師 範子 廣畑 まゆ美 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 多田 悦子）					
第9回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ6 （担当土師 範子 廣畑 まゆ美 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 多田 悦子）					
基本的な楽典の知識を習得する6					
第10回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ7 （担当土師 範子 廣畑 まゆ美 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 多田 悦子）					
基本的な楽典の知識を習得する7					
第11回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ8 （担当土師 範子 廣畑 まゆ美 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 多田 悦子）					
基本的な楽典の知識を習得する8					
第12回：表現法とまとめ3 （担当土師 範子 廣畑 まゆ美 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 多田 悦子）					
第13回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ9 （担当土師 範子 廣畑 まゆ美 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 多田 悦子）					
基本的な楽典の知識を習得する9					
第14回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ10 （担当土師 範子 廣畑 まゆ美 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 多田 悦子）					
基本的な楽典の知識を習得する10					
第15回：表現法とまとめ4 （担当土師 範子 廣畑 まゆ美 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 多田 悦子）					
楽典					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢/態度		10%	意欲的な受講態度、予習及び復習の状況によって評価する。	
	レポート		10%		
	小テスト		80%	自身が習得した能力を適切に発揮できるかを定期的に評価する。	
	定期試験				
	その他				
自由記載		【受講の心得】 授業で習得した理論や技術が次回の授業で表出・発揮できるよう、努力してください。			
<b>【受講の心得】</b>					
実技における技術習得のためには毎日の練習が不可欠である。授業で習得した技術が次回の授業で表現・発揮できるよう、努力すること。					
<b>【授業外学修】</b>					
授業で提示される次回の内容について、予習すること。					
授業で提示された課題を実施し、復習すること。					
上記の内容を、週当たり1時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載	『こどもの歌100』、チャイルド本社 『大人のための音楽ワーク（テキスト）』、ヤマハ出版			
参考書	自由記載	『ピアノ1.2.3』、ドレミ出版			
<b>【担当教員の業務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の業務経験】</b>					
各公立中学校・高等学校、音楽教室での講師(嶋田泉)、公立中学校講師・音楽教室主宰・公民館講座講師(織田典恵)、ピアノ教室講師(多田悦子)					
<b>【担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【業務経験をいかした教育内容】</b>					
鑑賞を通じて音楽教育や楽器の実技を指導する。(嶋田泉)					
ピアノ初心者から経験者まで、様々な視点から各人の能力に応じた指導をする。(織田典恵)					
業務経験をいかし、ピアノ演奏技術やピアノ伴奏を身につける為の指導をする。(多田悦子)					

授業科目名	基礎音楽B		サブタイトル	授業番号	CO308
担当教員名	土師 範子 河田 健二 廣畑 まゆ美				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	1単位	
開講年次	1年		開講期	後期	
必修・選択	選択		授業形態	演習	
【授業の概要】 子どもと保育の内容を理解し、音楽に関する基本的な知識や技能をピアノで習得することを目的とする。豊かな感性を表現するピアノ基礎技法を学び、保育現場において使用する童謡、子どもの歌等のレパートリーを広げる。練習することを習慣化することにより、確実な技能習得を目指す。授業は習熟度別に個人指導を行う。					
【到達目標】 コード進行の基礎知識を学び、既成伴奏及び簡易伴奏の演習を行なう。練習を習慣化し、レパートリー10曲を目標とする。  なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度>の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：前期の内容についての確認。子どもを取りまく音楽について。			(担当土師 範子 廣畑 まゆ美 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 多田悦子)		
第2回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ1 基本的な楽典の知識を習得する1			(担当土師 範子 廣畑 まゆ美 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 多田悦子)		
第3回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ2 基本的な楽典の知識を習得する2			(担当土師 範子 廣畑 まゆ美 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 多田悦子)		
第4回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ3 基本的な楽典の知識を習得する3			(担当土師 範子 廣畑 まゆ美 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 多田悦子)		
第5回：表現法とまとめ1			(担当土師 範子 廣畑 まゆ美 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 多田悦子)		
第6回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ4 基本的な楽典の知識を習得する4			(担当土師 範子 廣畑 まゆ美 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 多田悦子)		
第7回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ5 基本的な楽典の知識を習得する5			(担当土師 範子 廣畑 まゆ美 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 多田悦子)		
第8回：表現法とまとめ2			(担当土師 範子 廣畑 まゆ美 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 多田悦子)		
第9回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ6 基本的な楽典の知識を習得する6			(担当土師 範子 廣畑 まゆ美 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 多田悦子)		
第10回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ7 基本的な楽典の知識を習得する7			(担当土師 範子 廣畑 まゆ美 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 多田悦子)		
第11回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ8 基本的な楽典の知識を習得する8			(担当土師 範子 廣畑 まゆ美 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 多田悦子)		
第12回：表現法とまとめ3			(担当土師 範子 廣畑 まゆ美 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 多田悦子)		
第13回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ9 基本的な楽典の知識を習得する9			(担当土師 範子 廣畑 まゆ美 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 多田悦子)		
第14回：各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ10 基本的な楽典の知識を習得する10			(担当土師 範子 廣畑 まゆ美 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 多田悦子)		
第15回：表現法とまとめ4			(担当土師 範子 廣畑 まゆ美 河田 健二 嶋田 泉 織田 典恵 多田悦子)		
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	意欲的な受講態度、予習及び復習の状況によって評価する。	
	レポート				
	小テスト		80%	自身が習得した能力を適切に発揮できるかを定期的に評価する。	
	その他				
自由記載					
【受講の心得】 実技における技術習得のためには毎日の練習が不可欠である。授業で習得した技術が次回の授業で表現・発揮できるよう、努力すること。					
【授業外学修】 授業で提示される次回の内容について、予習すること。 授業で提示された課題を実施し、復習すること。 上記の内容を、週当たり1時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載	『こどもの歌100』、チャイルド本社 『大人のための音楽ワーク(テキスト)』、ヤマハ出版			
参考書	自由記載				
【担当教員の実務経験の有無】 有					
【担当教員の实務経験】 各公立中学校・高等学校、音楽教室での講師(嶋田泉)、公立中学校講師・音楽教室主宰・公民館講座講師(織田典恵)、ピアノ教室講師(多田悦子)					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					
【実務経験をいかした教育内容】 鑑賞を通じて音楽教育や楽器の実技を指導する。(嶋田泉) ピアノ初心者から経験者まで、様々な視点から各人の能力に応じた指導をする。(織田典恵) 実務経験をいかし、ピアノ演奏技術やピアノ伴奏を身につける為の指導をする。(多田悦子)					

授業科目名	社会		サブタイトル		授業番号	CO209
担当教員名	紙田 路子					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
小学校社会科は、社会生活（私たちの日々の生活）を広い視野からとらえ総合的に理解することをとおして、市民としての資質（公民的資質）の基礎を養うことを教科の目標としている。小学校社会科を指導する際、身につけておくべき基礎的な内容（地理・歴史・政治・経済等）を概説する。						
<b>【到達目標】</b>						
小学校社会科を指導する際に必要な基礎的な学力・知識を身に付ける。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、知識・理解の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：小学校社会科の目標と内容 第2回：小学校社会科の特色と関連専門諸科学 第3回：地理的分野の基本的事項(1) 第4回：地理的分野の基本的事項(2) 第5回：地理的分野の基本的事項(3) 第6回：地理的分野の演習問題 第7回：歴史的分野の基本的事項(1) 第8回：歴史的分野の基本的事項(2) 第9回：歴史的分野の基本的事項(3) 第10回：歴史的分野の演習問題 第11回：公民的分野の基本的事項(1) 第12回：公民的分野の基本的事項(2) 第13回：公民的分野の基本的事項(3) 第14回：公民的分野の演習問題 第15回：社会認識について						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	意欲的な授業への参加態度、グループワーク等の参加状況、予習復習の状況によって評価する。		
	レポート		30%	社会科の目標、内容、方法について自分なりに理解し、具体的な事例を挙げながら説明できているかについて評価する。レポートにはコメントをつけて返却する。		
	小テスト					
	定期試験		50%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
社会科は社会的現象を教材とする教科である。日常から新聞、ニュース、雑誌、書籍等の情報に留意することが必要である。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 予習として、次時の授業内容の教科書を読み、それに関わる情報を新聞、ニュース、雑誌等から集めておく。 2. 復習として、課題のレポートを書く。 3. 発展学習として、地域で社会科教育に関連すると思われる活動に参加して、自分の見解を述べられるようにする。						
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	小学校学習指導要領解説 社会編		文部科学省	東洋館出版社		4491031606
自由記載						
参考書	自由記載		授業において随時紹介する。			
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
小学校教諭，中学校講師						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
小・中学校における教育現場経験を生かし、主体的、対話的で深い学びを実現する社会科授業について授業を行う。						



授業科目名	理科		サブタイトル		授業番号	CO210
担当教員名	佐々木 弘記					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
小学校学習指導要領に示された理科の学習内容について概括するとともに、中学・高校での物理・化学・生物・地学領域の学習内容との関連について学修する。また、小学校理科の授業運営に必要な教材研究の方法について習得する。						
<b>【到達目標】</b>						
小学校学習指導要領に示された理科の学習内容について、関連した物理・化学・生物・地学領域の知識を身に付ける。また、小学校理科の授業運営に必要な教材研究の技能を習得する。 なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：光の性質 第2回：力のつり合い 第3回：圧力と浮力 第4回：仕事と仕事率 第5回：力学的エネルギー 第6回：電流と電圧 第7回：電力と電力量 第8回：ものの溶け方、気体の性質 第9回：燃焼と酸化・還元、電気分解 第10回：化学反応と物質 第11回：生物の分類 第12回：体のしくみ 第13回：遺伝のしくみ 第14回：地層の成り立ち 第15回：地震と災害						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	意欲的な受講態度、実験・観察に取り組む態度、予習・復習の状況によって評価する。		
	レポート		10%	レポートの内容と提出状況によって評価する。		
	小テスト		20%	各回の主要なポイントの理解を評価する。		
	定期試験		50%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
毎回、授業のはじめに小テストを行うので、前時の復習をして授業に臨むこと。また、返却された小テストは、ノートに貼付し、復習をすること。配付するプリント・資料などを整理しておくこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題のレポートを書く。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	小学校学習指導要領解説 理科編		文部科学省	東洋館出版	111	
	自由記載	小学校理科教科書 3～6年、「小学校学習指導要領解説 理科編」文部科学省				
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有					
	<b>【担当教員の实務経験】</b> 公立中学校理科教諭、県教育センター（佐々木弘記）					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 学校、教育センター等での経験を生かして、教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。						

授業科目名	家庭		サブタイトル	(家族や家庭、衣食住、消費や環境など生活事象の理解)		授業番号	CO211	
担当教員名	齊藤 住子							
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位			
開講年次	2年			開講期	前期			
必修・選択	選択			授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b>								
家庭科教育で児童に何を指導し、何を学ばせ、どんな資質・能力を育むのかについて、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して明らかにする。また、小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族、消費生活や環境に関する基礎的・基本的な知識及び技能を実習・実験等を通して身に付ける。								
<b>【到達目標】</b>								
家庭科教育の意義を理解し、家庭生活を中心とした人間の生活を健康で豊かに営むことができる能力と社会の変化に対応できる家庭科力を身に付ける。また、家庭科に関心をもち、学んだことを生活に生かし、自分の生き方や生活改善に役立てる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
<b>【授業計画】</b>								
<b>【授業計画 備考】</b>								
最初の授業日に、学年歴で定められた授業日と回数を示し、各回のテーマや具体的な内容、教室及び準備物を記載した授業予定表を配付する。								
第1回：小学校家庭科において育成を目指す資質・能力、小学校家庭科の内容構成								
第2回：「A家族・家庭生活」：自分の成長と家族・家庭生活、生活時間、家庭生活と仕事、地域との関わりについて								
第3回：「B衣食住の生活」：基礎縫いとボタンの付け方								
第4回：「B衣食住の生活」：生活を豊かにするための製作/フェルトを使った小物作り								
第5回：「B衣食住の生活」：緑黄色野菜の調理実験とじゃがいも、ゆで卵のゆで時間による変化								
第6回：「B衣食住の生活」：材料に適した炒め方								
第7回：「B衣食住の生活」：米飯及びみそ汁の調理								
第8回：「B衣食住の生活」：栄養を考えた食事、1食分の献立作成								
第9回：「B衣食住の生活」：衣服の着用と手入れ								
第10回：「B衣食住の生活」「C消費生活・環境」：快適な住まい方、環境に配慮した生活、実験・実習（通風・換気実験）								
第11回：「C消費生活・環境」：物や金銭の使い方と環境								
第12回：「B衣食住の生活」（コンピューター活用）子どもの学びを高めるICTの活用								
第13回：「B衣食住の生活」：生活を豊かにするための布を用いた製作(1)（エコバッグ・手提げバッグ等）								
第14回：「B衣食住の生活」：生活を豊かにするための布を用いた製作(2)（エコバッグ・手提げバッグ等）								
第15回：「B衣食住の生活」：生活を豊かにするための布を用いた製作(3)（エコバッグ・手提げバッグ等）								
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度		10%	意欲的な姿勢・態度				
	レポート		10%	実験・実習				
	小テスト							
	定期試験		50%	最終的な理解度を評価する。				
	その他		30%	基礎縫い：10%、フェルトの小物：10%、エコバッグ・手提げバッグ等：10% 作品についてはコメントを記入して返却する。				
自由記載								
<b>【受講の心得】</b>								
家庭科は、家庭生活を主な学習対象としている。講義で学んだことを日常生活でも実践するとともに、常に「自分が授業するなら、どの題材を用いて、どのような授業をしたいか」を考えながら受講する。								
<b>【授業外学修】</b>								
シラバスで計画的な学修を促すため、授業予定表に、具体的な内容とその内容に該当する小学校家庭科の教科書のページと、中学校家庭科の教科書のページを明記しているので、予習として授業前に読んでおくことと、授業後に復習として習った箇所のページを再度読んで確認する。この活動を毎回実施する。								
以上の内容を、週当たり2時間以上学修すること。								
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN		
	わたしたちの家庭科		著作者代表内野紀子他	開隆堂	274円	9784304080647		
	小学校学習指導要領解説家庭編		文部科学省	東洋館出版社	103円	9784491023748		
自由記載		「私たちの家庭科」と小学校学習指導要領解説家庭編は絶対必要なテキストである。						
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN		
	新編 新しい技術・家庭（家庭分野）		佐藤文子・金子佳代子他	東京書籍	646円	9784487122820		
	平成29年改訂小学校教育課程実践講座 家庭		岡 陽子・鈴木明子編著	ぎょうせい	1944円	9784324103104		
自由記載		中学校の家庭科教科書「新編 新しい技術・家庭 家庭分野」は、受講者全員に購入させる必要はないが、採用試験を受験する人は購入して欲しい。採用試験には、中学校の内容からも出題されているからである。						
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>								
無								
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>								
無								

授業科目名	英語	サブタイトル	授業番号	CO212	
担当教員名	藤井 佐代子				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>					
<p>小学校高学年の現在の外国語活動が、2020年度から、高学年では教科となり、中学年では活動型の外国語活動が導入される。本講義では、小学校教師、小学校等の外部講師や一般英会話学校講師を目指す学生に、「英語に関する背景的な知識」と「授業実践に必要な英語力」の修得を行う中で、毎回、音声学に関する理解をもとに数分の発音練習を行い継続的に英語の音声に慣れることにより、授業実践に必要な英語運用力の向上を目指す。発音練習では、発音トレーニング、スピーキングトレーニング、クラスルーム・イングリッシュ、ALTとの会話、授業実践に必要な単語、目標表現、Teacher talkなどを扱うようにする。</p>					
<b>【到達目標】</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「英語に関する基本的な知識」、「児童文学（絵本、子供向けの歌や詩等）」、「異文化理解」、「第二言語習得に関する基本的な知識」などの英語に関する背景的な知識を理解する。</li> <li>・学級担任と外部指導者のTTについての考察</li> <li>・外国語活動・外国語の授業実践に必要な「聞くこと」「話すこと（やり取り・発表）」「読むこと」「書くこと」から成る、CEFR A2（英検準2級）程度の英語力を身に付ける。</li> </ul> <p>本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち&lt;知識・理解&gt;&lt;技能&gt;の修得に貢献する。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
<p>第1回：オリエンテーション 自分の英語力を知る。（聞くこと・話すこと やりとり・発表 ・読むこと・書くこと）自分の英語学習経験を振り返る。発音練習  第2回：音声に関する基本的な知識(1)、歌・チャンツの指導(1)(聞くこと・話すこと)、発音練習  第3回：音声に関する基本的な知識(2)、歌・チャンツの指導(2)(聞くこと・話すこと)、発音練習  第4回：発音と綴りに関する基本的な知識(1)、歌・チャンツの指導(3)(聞くこと・話すこと)、発音練習  第5回：発音と綴りに関する基本的な知識(2)、歌・チャンツの指導(4)(聞くこと・話すこと)、発音練習  第6回：文構造・文法に関する基本的な知識、活動体験を通した児童とのやりとり(話すこと・やり取り)(1)、発音練習  第7回：語彙に関する基本的な知識、活動体験を通した児童との英語のやりとり(話すこと・やり取り)(2)、発音練習  第8回：第二言語習得に関する基本的な知識(1)、自己紹介・地域紹介・(多)文化紹介(話すこと・発表)(1)、発音練習  第9回：第二言語習得に関する基本的な知識(2)、自己紹介・地域紹介・(多)文化紹介(話すこと・発表)(2)、発音練習  第10回：児童文学(絵本、詩)に関する基本的な知識、絵本の読み聞かせの方法と実践(1)(聞くこと・話すこと・読むこと)、発音練習  第11回：異文化理解に関する基本的な知識、絵本の読み聞かせの方法と実践(2)(聞くこと・話すこと・読むこと)、発音練習  第12回：異文化コミュニケーションに関する基本的な知識、絵本の読み聞かせの方法と実践(3)(聞くこと・話すこと・読むこと)、発音練習  第13回：場面や目的に応じたALTやJTLとの会話(話すこと・やりとり)、発音練習  第14回：正書法に関する基本的な知識 板書・掲示物における英語の表記(書くこと)、発音練習  第15回：発音練習、まとめ</p>					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	予習の状況、発表などの受講態度によって評価する。		
	レポート	30%	レポートに記述された学びの状況を評価する。		
	小テスト	50%	発音・教師の使う英語・絵本の読み聞かせといった技能に関する小テストで評価する。		
	定期試験				
	その他				
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b>					
予習・復習と授業中の積極的な発言を強く求める。					
<b>【授業外学修】</b>					
1 教科書のうち、次回の授業内容に相当する部分を事前に目を通しておくこと。					
2 1の予習をする中で、疑問に思う点をまとめておくこと。					
3 授業後に、2の疑問点が明らかになったことを見直すこと。					
4 英語検定準2級程度の英語力取得に向けて、英語の4技能に関する学習を行うこと					
以上の学修に、週あたり4時間以上の時間をかけること。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセシャルズ小学校外国語科内容論	酒井英樹・滝沢雄一・亘理陽一	三省堂		
	自由記載				
参考書	自由記載	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『子どもと英語』松香洋子(著)、(株)mpj</li> <li>・『小学校新学習指導要領の展開 外国語活動編』兼重昇・直山木綿子(編著)、明治図書</li> <li>・『小学校学習指導要領の解説と展開 外国語活動編』安彦忠彦(監修)、大城賢・直山木綿子(編著)、教育出版</li> <li>・『英語力がぐんぐん伸びる! コミュニケーション・タイム』本多敏幸、明治図書</li> </ul>			
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>				
	有				
<b>【担当教員の实務経験】</b>					
公立小学校教諭、小学校英語教育各種研修会講師					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
小学校等で英語教育に携わる指導者に求められる英語力を育成する。					

授業科目名	国語科教育法		サブタイトル		授業番号	CO313
担当教員名	村井 隆人					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	3年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
初等国語科の構造と目標，学習内容，指導法に関する知識及び技能を習得する。						
<b>【到達目標】</b>						
国語科の構造，言語領域及び事項に関わる研究成果を通して授業設計の際に何が重要になるのかを理解する。授業設計の知識や教材分析を通して指導案の作成を通じた模擬授業を行う。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：国語科の目標と教科構造 第2回：理解領域に関わる学習者の発達 第3回：表現領域に関わる学習者の発達 第4回：国語科の授業設計及び学習指導案の作成方法 第5回：「話すこと・聞くこと」の教材分析 第6回：「書くこと」の教材分析 第7回：「読むこと」（物語文）の教材分析 第8回：「読むこと」（説明文）の教材分析 第9回：「伝統的な言語文化及び国語の特質に関する項目」の教材分析 第10回：書写指導の方法 第11回：国語科における教育評価の特徴と方法 第12回：「話すこと・聞くこと」の模擬授業 第13回：「書くこと」の模擬授業 第14回：「読むこと」（物語文）の模擬授業 第15回：「読むこと」（説明文）の模擬授業						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		0%			
	レポート		45%	毎回の授業記録と習得した内容について評価する		
	小テスト					
	定期試験					
	その他		55%	教材に対する理解力等を模擬授業によって評価する。		
自由記載		毎回の授業記録（20％），定期試験(50％)，模擬授業（30％）				
<b>【受講の心得】</b>						
授業の復習と課題の作成を授業外学修に当てること。 国語科はすべての教科の基礎を支える教科でもある。言葉に興味・関心を広げる努力をしながら，小学校での国語科授業づくりの基礎的な事項をしっかりと身に付けられるように受講すること。 模擬授業を1回は行うこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
1．復習として，授業で配布した資料を読んでおくこと。 2．予習として，小テストの範囲の内容を学修しておくこと。 3．語彙力を伸ばすため，日常的に漢字を学修すること。 4．授業で身につけた技能を，普段の生活に活用すること。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	小学校学習指導要領解説（国語編）（文部科学省）小学校国語教科書1年～6年（光村図書）				
参考書	自由記載	『新たな時代を拓く小学校国語科教育研究』全国大学国語教育学会，2009年				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	社会科教育法		サブタイトル	授業番号	CO314	
担当教員名	紙田 路子					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	2単位		
開講年次	2年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】 小学校社会科は、社会生活（私たちの日々の生活）を広い視野からとらえ総合的に理解することをとおして、市民としての資質（公民的資質）の基礎を養うことを教科の目標としている。小学校学習指導要領に規定されている社会科教育の目標・内容や指導法及び学習指導案の作成について、模擬授業をとおして基礎的な理解を深め、指導技術を身につけさせる。						
【到達目標】 小学校社会科の目標・内容・指導法及び学習指導案の作成について理解し、授業展開に関する基礎的な知識と技能を身に付ける。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、知識・理解の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：小学校社会科の意義と役割 第2回：小学校社会科の目標と内容（小学校学習指導要領 社会） 第3回：第3学年及び第4学年の目標と内容（地域の社会的事象） 第4回：第5学年の目標と内容（我が国の産業や国土） 第5回：第6学年の目標と内容（我が国の歴史，政治，国際理解） 第6回：問題解決的な学習過程 第7回：社会科の評価の観点と評価規準 第8回：小学校社会科学習指導案の作成 第9回：社会科の多様な学習活動 第10回：模擬授業 第11回：模擬授業 第12回：模擬授業 第13回：模擬授業 第14回：模擬授業 第15回：社会科学習指導法の課題とまとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		20%	意欲的な授業への参加態度，グループワーク等の参加状況，予習復習の状況によって評価する。		
	レポート		30%	社会科教育に関わる理論を理解できているか，それを科学的な根拠に基づき批判・分析できているかの2点で評価する。レポートについてはコメントをつけて返却する。		
	小テスト					
	定期試験		50%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
【受講の心得】 「なぜ社会科を学ぶのか」「なぜ学校教育に社会科が必要か」という問いをもって毎時間の授業に臨むこと						
【授業外学修】 1．予習として，課題に必ず取り組むこと。（各自が取り組んだ課題をもとにグループワークを行う） 2．復習として，課題のレポートを書く。 3．発展学習として，社会科授業の指導案を読んだり自分で指導案を作成したりすることが望ましい。						
以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	小学校学習指導要領解説 社会編		文部科学省	東洋館出版社		4491031606
	小学社会3，4年上			日本文教出版		
	小学社会5年上			日本文教出版		
	小学社会6年上			日本文教出版		
自由記載						
参考書	自由記載					
	【担当教員の実務経験の有無】 有					
	【担当教員の实務経験】 小学校教諭，中学校講師					
	【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					
【実務経験をいかした教育内容】 小・中学校における教育現場経験を生かし，主体的，対話的で深い学びを実現する社会科授業について授業を行う。						

授業科目名	算数科教育法		サブタイトル	授業番号	CO315
担当教員名	姫野 俊幸				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>					
算数科の学習指導に関して小学校教員として必要な基礎的な能力を育成するために、小学校算数科の目標や指導内容、教材研究や指導計画、学習評価・学習指導法等について実践的に学習していく。					
<b>【到達目標】</b>					
1) 算数科の指導方法や目標、内容、評価等に関する基礎的な事項を理解する。 2) 算数科の教材研究や学習指導案の作成等について知り、授業実践に活かそうとする。 3) 算数科に関する児童の実態及び学習指導についての考えを深める。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能>の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：算数教育の意義、目標、内容、略案の書き方 第2回：算数指導の心構え、教材研究、模擬授業（1） 第3回：準備物、時間の使い方、机間指導、効果的な発問、模擬授業（2） 第4回：板書の仕方、発表、習熟、模擬授業（3） 第5回：学習指導案の書き方、模擬授業（4） 第6回：ノート指導、家庭学習、模擬授業（5） 第7回：指導と評価の一体化、模擬授業（6） 第8回：問題解決の算数授業「7つの提言」、模擬授業（7） 第9回：教材・教具の準備と作成、ICTの活用、模擬授業（8） 第10回：数学的活動、数学的な見方・考え方、模擬授業（9） 第11回：授業実践力・授業評価力、授業を支える基礎技術、模擬授業（10） 第12回：「7つの提言」についてのグループによる提案と協議（1） 第13回：「7つの提言」についてのグループによる提案と協議（2） 第14回：「7つの提言」についてのグループによる提案と協議（3） 第15回：「7つの提言」についてのグループによる提案と協議（4）					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	15%	意欲的な受講態度によって評価する。		
	レポート	10%	「授業からの学び」と「自分の気づき」を評価する。		
	小テスト	25%	前回の授業の主要なポイントの理解を評価する。		
	定期試験				
	その他	50%	模擬授業とグループ提案、協議のパフォーマンスを評価する。		
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b>					
小学校の教員として、子どもたちに算数科の学習を仕組むときに、どのようなことに留意しなければならないかについて具体的に理解し実践する意志をもって授業に臨むこと。					
<b>【授業外学修】</b>					
1 配布資料や小テストを整理して、本時の講義内容をノートにまとめて復習する。 2 教材研究等、模擬授業の準備を積極的に行うこと。また、他学生の模擬授業の単元についても教科書を確認する等の予習を行うこと。 3 「7つの提言」についてグループで読み込み、検討・議論し、提案できるように協力して取り組むこと。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	小学校学習指導要領解説 算数編	文部科学省			
	小学校算数教科書1年～6年		啓林館		
	自由記載	小学校学習指導要領解説 算数編、小学校算数教科書1年～6年は、ともに、「算数」で使用したものである。下巻等、所有していない教科書のみ購入すること。			
参考書	自由記載				
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>	有			
	<b>【担当教員の实務経験】</b>	公立小学校教諭、教頭、校長、教育委員会事務局			
	<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>	無			
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
公立小学校、教育委員会事務局等での実務経験を生かして、教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。					

授業科目名	理科教育法		サブタイトル		授業番号	CO316
担当教員名	佐々木 弘記					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
小学校学習指導要領に示された目標を分析し、育成すべき資質能力について概括する。また、理科の学習内容について教科書に沿って説明する。いくつかの単元を採り上げて、観察・実験の方法を習得し、教材研究の技能を身に付ける。その上で、学習指導案の作成に取りかかり、観察・実験を取り入れた模擬授業を行う。						
<b>【到達目標】</b>						
小学校学習指導要領に示された理科の目標及び、理科教育において育成を目指す資質・能力について理解する。また、学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：小学校理科の目標 第2回：小学校理科の内容 第3回：育成すべき資質・能力 第4回：理科の学習理論 第5回：理科の学習指導法 第6回：問題解決能力の育成 第7回：教科書での題材の配列 第8回：教材研究の仕方 第9回：学習指導案の作成 第10回：物質・エネルギーにかかわる教材研究 第11回：生命・地球にかかわる教材研究 第12回：模擬授業 1 第13回：模擬授業 2 第14回：模擬授業 3 第15回：模擬授業 4						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	意欲的な受講態度、模擬授業、実験・観察に取り組む態度、予習・復習の状況によって評価する。		
	レポート		10%	レポートの内容と提出状況によって評価する。		
	小テスト		20%	各回の主要なポイントの理解を評価する。		
	定期試験		50%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
毎回、授業のはじめに小テストを行うので、前時の復習をして授業に臨むこと。また、返却された小テストは、ノートに貼付し、復習をすること。配付するプリント・資料などを整理しておくこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題のレポートを書く。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	小学校学習指導要領解説 理科編		文部科学省	東洋館出版	111	
	自由記載	小学校理科教科書 3～6年、「小学校学習指導要領解説 理科編」文部科学省				
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
<b>【担当教員の実務経験】</b>						
公立中学校理科教諭、県教育センター（佐々木弘記）						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
学校、教育センター等での経験を生かして、教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。						

授業科目名	生活科教育法		サブタイトル	授業番号	CO317
担当教員名	熊代 賢治				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	2単位	
開講年次	2年		開講期	前期	
必修・選択	選択		授業形態	講義	
【授業の概要】					
(1)生活科授業の具体的な内容・事例を検討し、具体的な授業ができるようにする。 (2)理科ソング、社会科ソング、植物カード、野鳥カードなどを使い、指導者として必要な基礎的な知識を身につけることができるようにする。 (3)楽しい体験や工作などを通して、子どもの気持ちになって遊ぶことにより、体験的に授業に必要な技能と情操を培う。					
【到達目標】					
(1)生活科の具体的な授業について、イメージすることができ、指導案を書くことができる。 (2)生活科授業を実践するための基礎的な能力・技能を体験的に修得することができる。 (3)生活科授業をするために必要な基礎となる知識を獲得することができる。 なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち 知識・理解 技能 の修得に貢献する。					
【授業計画】					
【授業計画備考】					
(1)生活科の具体的な授業内容をイメージし指導のポイントを把握する (2)理科ソング、社会科ソングを歌い暗唱することで、生活科の指導に必要な基礎的な知識を修得する (3)野鳥カード・植物カードを使い、身近な自然についての基礎的な知識と観察眼を身につける (4)楽しい体験や工作をするなかで、基礎的な技能を習得し、子どもの気持ちに同調できる心を養う					
第1回：(1)生活科 学習指導の要点 (2)理科・社会科ソング (3)植物・野鳥カード (4)工作(紙飛行機) 第2回：(1)単元「なかよしいっぱい大作戦」授業検討 (2)理科・社会科ソング (3)植物・野鳥カード (4)工作(ドングリ工作) 第3回：(1)単元「がっこうだいすき」授業検討 (2)理科・社会科ソング (3)植物・野鳥カード (4)工作(パラスタンプ) 第4回：(1)指導案づくり「がっこうだいすき」(2)理科・社会科ソング (3)植物・野鳥カード (4)工作(シャボン玉) 第5回：(1)単元「あきとあそぼう」授業検討 (2)理科・社会科ソング (3)植物・野鳥カード (4)体験(ポップコーン) 第6回：(1)単元「秋のお宝はっけん」授業検討 (2)理科・社会科ソング (3)植物・野鳥カード (4)工作(マジックハンド) 第7回：(1)まちたんけん(吉備の中山) (2)理科・社会科ソング (3)植物・野鳥カード 第8回：体験学習「こうしんやまにいこう」(天候により延期) 第9回：(1)教材化「こうしんやまにいこう」授業設計 (2)理科・社会科ソング (3)植物・野鳥カード 第10回：(1)指導案づくり「あきとあそぼう」(2)理科・社会科ソング (3)植物・野鳥カード 第11回：(1)単元「わくわくモーモースクール」授業検討 (2)理科・社会科ソング (3)植物・野鳥カード (4)体験(餅つき) 第12回：(1)単元「みずとなかよし」授業検討 (2)理科・社会科ソング (3)植物・野鳥カード (4)工作(ゴム銃) 第13回：(1)単元「だいすきななぞくとじぶん」授業検討 (2)理科・社会科ソング (3)植物・野鳥カード (4)体験(綿菓子) 第14回：(1)指導案づくり「だいすきななぞくとじぶん」(2)理科・社会科ソング (3)植物・野鳥カード (4)工作(俵転がし) 第15回：(1)単元「こんなに大きくなったんだ」授業検討 (2)理科・社会科ソング (3)植物・野鳥カード					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な授業態度		
	レポート	12%	指導案はポイントを押さえていること。教材化レポートは子どもの視点に立っていること		
	小テスト	18%	工作をつくり実技テスト。提示した課題を達成すること		
	定期試験	50%	基礎的な知識を中心に理解度を評価する		
	その他				
	自由記載				
【受講の心得】					
具体的な体験・実践を重視するため、授業外でも自習しながら、工夫して授業を受けること					
【授業外学修】					
(1)毎回授業で学習する理科ソング・社会科ソングを楽しく歌い復習しておくこと。 (2)身近な自然に親しみ、植物や動物を観察しながら、地域を散策すること。 (3)工作でつくったものを使い、子どもの気持ちになって遊び、技能を身につけること。 (4)身近な生活から、生活科の授業にいかせる教材を発見する取り組みをすること。					
使用テキスト	自由記載	なし(教材用のプリントを用意する)			
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	小学校学習指導要領解説 生活編	文部科学省	東洋館出版社	134円	978-4-491-03464-5
	自由記載				
【担当教員の実務経験の有無】					
有					
【担当教員の職務経歴】					
公立中学校理科教諭、民間教育施設学園長(熊代)					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】					
無					
【実務経験をいかした教育内容】					
保育園、幼稚園、こども園での生活と小学校での生活を現場の立場で比較・検討し、子どもたちにとって何が必要なのかを具体的に考えていく。また子どもの視線で主体的・意欲的な活動について体験をしながら考察し、指導案を作成する。					



授業科目名	音楽科教育法		サブタイトル	授業番号	CO318
担当教員名	未定				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
【授業の概要】					
小学校学習指導要領、小学校における音楽科教育の意義、目標、指導内容について理解を深め、小学校音楽科で育成すべき資質や能力、そのために取り扱う内容、題材の構成(指導計画の作成)、教材の選択と配列及び指導法・評価法について理解する。学習指導案を作成し模擬授業を行う。					
【到達目標】					
小学校学習指導要領の目標を理解した上で、教材研究から指導案・模擬授業への指導の流れを理解する。					
(1)小学校学習指導要領について説明することができる。					
(2)第1～6学年の系統性を踏まえ、発達段階に対応した教科指導の在り方を検討することができる。					
(3)小学校音楽科における学習指導上の基本的な留意点及び「表現」「鑑賞」の各活動における基本的な指導方法について理解し、児童に身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能を確実に修得させるための学習指導案を作成することができる。					
(4)上記の理解に基づいて作成した学習指導案を模擬授業において実施できる。					
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力><技能><態度>の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：小学校における音楽科教育の意義と目標、内容					
第2回：日本の音楽科教育の歴史 / 学習指導要領の変遷と新学習指導要領の理解					
第3回：授業設計と指導上の留意点					
学習指導案の書き方・授業の進め方について					
年間学習指導計画と題材の評価規準					
第4回：教材研究と指導法/「表現(歌唱)」の活動 伴奏法					
第5回：教材研究と指導法/「表現(歌唱・器楽)」の活動					
第6回：教材研究と指導法/「表現(音楽づくりとコンピュータ)」の活動					
第7回：教材研究と指導法/「鑑賞」の活動					
第8回：評価規準の意義と設定					
第9回：学習指導案の作成方法/指導計画の作成と内容の取扱い					
第10回：学習指導案の作成					
第11回：模擬授業と討議 1 - 第1学年, 第2学年					
第12回：模擬授業と討議 2 - 第3学年, 第4学年					
第13回：模擬授業と討議 3 - 第5学年					
第14回：模擬授業と討議 4 - 第6学年					
第15回：模擬授業後の研究討議と全体のまとめ					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢 / 態度	10%	授業に取り組む姿勢、態度、発表。		
	レポート	10%	課題・レポート・指導案の、理解度・定着度。添削後、返却する。		
	小テスト	50%	暗誦の課題の到達度を評価する。		
	定期試験	10%	知識の理解度・定着度。		
	その他	20%	模擬授業の内容。		
	自由記載				
【受講の心得】					
小学校教員への教職意識を持つこと。					
使用教科書の『小学校学習指導要領解説 音楽編』に目を通しておくこと。					
【授業外学修】					
授業で提示される次回の内容について、予習すること。					
授業で提示された課題を実施し、復習すること。					
上記の内容を、週当たり4時間程度学修すること。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	小学校学習指導要領平成29年公示解説 音楽編		平成29年6月, 文部科学省		
	小学校音楽1～6年		教育芸術社		
	自由記載	授業中に適宜資料を配付する。			
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	小学校音楽科教育法		教育芸術社		
	自由記載				
【その他】					
ソプラノリコーダーを持参すること。					
【担当教員の実務経験の有無】					
無					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】					
無					

授業科目名	図画工作科教育法		サブタイトル	授業番号	CO319
担当教員名	柏原 寛				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	2単位	
開講年次	1年		開講期	後期	
必修・選択	選択		授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>					
この講義では、小学校図画工作科で行われる教科書題材を取り上げながら、「造形的な見方・考え方」を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質能力を育成する指導のあり方を修得することを目的とする。					
<b>【到達目標】</b>					
(1)学習指導要領に示された図画工作科の目標や内容を理解する。 1-1)図画工作科の学習指導要領における目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。 1-2)個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。 1-3)図画工作科における学習評価の考え方を理解している。 (2)基礎的な学習理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につける。 2-1)子どもの認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。 2-2)情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。 2-3)学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。 2-4)模擬授業の実施と振り返りを通して、授業改善の視点を身につけている。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：図画工作科の学習指導要領 －教科の目標と内容、全体構造－ 第2回：図画工作科の授業構造 第3回：図画工作科における教師の支援 －指導上の留意点－ 第4回：図画工作科における評価 －学習評価の考え方－ 第5回：図画工作科における安全指導 第6回：「造形あそび」の授業の組立と支援 －教材研究と指導上の留意点－ 第7回：「絵にあらわす」の授業の組立と支援 －教材研究と指導上の留意点－ 第8回：「立体にあらわす」の授業の組立と支援 －教材研究と指導上の留意点－ 第9回：「工作にあらわす」の授業の組立と支援 －教材研究と指導上の留意点－ 第10回：「鑑賞」の授業の組立と支援 －教材研究と指導上の留意点－ 第11回：図画工作科の学習指導案1 －学習指導案の構成の理解－ 第12回：図画工作科の学習指導案2 －学習指導案の作成－ 第13回：模擬授業の実施と振り返り1 第14回：模擬授業の実施と振り返り2 第15回：図画工作科教育法の振り返り					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢／態度		20%	意欲的な授業態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。	
	レポート				
	小テスト		60%	各回の主要なポイントの理解をコメントペーパーの記述内容によって評価する。	
	定期試験				
	その他		20%	模擬授業の準備・発表について評価する。	
自由記載					
<b>【受講の心得】</b>					
「造形的な見方・考え方」が活きた授業はいかにして実現することができるかについて探求してほしい。					
<b>【授業外学修】</b>					
1. 復習として課題を課すことがある。 2. 予習として資料を配布することがある。 以上の内容をもとに、週当たり4時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載	文部科学省『学習指導要領解説・図画工作編』			
参考書	自由記載	適宜、提示する。			
<b>【その他】</b>					
はさみ、のり、テープ、色鉛筆、水彩絵具、定規、コンパス、カッター、スケッチブックなど、様々な画材、素材、道具を使用する。詳しい授業の準備物は授業の中で提示する。					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
無					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					

授業科目名	体育科教育法		サブタイトル		授業番号	CO320
担当教員名	溝田 知茂					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	3年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b> 小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法の変遷を踏まえた上で、現代の子どもたちが抱えているからだと心の問題について体育科が果たすべき役割と責任性について理解する。 また、低・中・高学年の学習を見通した単元の系統性を理解し、指導案の作成並びに模擬授業、授業評価と授業を展開するうえでの一連の過程を実践する能力を身に付ける。						
<b>【到達目標】</b> 体育科における、「目標 - 内容 - 方法」について理解するとともに、子ども一人ひとりが意欲的に学ぶことのできる授業展開を計画・立案することができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b> 第1回：学習指導要領の変遷（総則） 第2回：学習指導要領の変遷（体育科の目標） 第3回：学習指導要領1・2年生の内容と目標の理解と具体例 第4回：学習指導要領3・4年生の内容と目標の理解と具体例 第5回：学習指導要領5・6年生の内容と目標の理解と具体例 第6回：3～6年生の保健の内容と目標の理解と具体例 第7回：体育科の年間計画及び指導案作成について 第8回：指導案の作成 第9回：模擬授業打ち合わせ 第10回：模擬授業（1）1・2年生について 第11回：模擬授業（2）3・4年生について 第12回：模擬授業（3）5・6年生について 第13回：模擬授業（4）3～6年生の保健について 第14回：模擬授業の授業評価・修正 第15回：授業評価を加味した指導案の作成						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		20%	意欲的な受講態度		
	レポート		60%	指導案の理解・指導要領の理解		
	小テスト					
	定期試験					
	その他		20%	模擬授業の教師としての授業態度		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b> 小学校体育科において、教師が運動の知識を有していることはもちろん、からだと心の仕組みに対する理解を深めていくことも重要である。これらの点を踏まえつつ、将来の子どもからだを育てていくという強い意欲をもって受講すること。						
<b>【授業外学修】</b> ・授業で行われる領域について「学習指導要領解説 体育編」を授業前に読んでおくこと。 ・事前に模擬授業で取り上げている内容をしっかり教材研究する。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	小学校学習指導要領解説体育編		文部科学省	東洋館出版社		
自由記載						
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 無					
	<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無					

授業科目名	家庭科教育法		サブタイトル	授業番号	CO321
担当教員名	齊藤 住子				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	2単位	
開講年次	2年		開講期	後期	
必修・選択	選択		授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>					
<p>小学校家庭科の授業を通して、「生きる力」や「確かな学力」を育成するという強い理念をもって、学習指導要領に求められる「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」等、学ぶ意欲を児童に身に付けさせる授業を構想することができるようにする。</p> <p>授業構想を具体化するために学習指導案を作成して模擬授業を行い、模擬授業の実施・評価・分析を通して、授業実践力を身に付ける。</p>					
<b>【到達目標】</b>					
<p>小学校家庭科の授業開発を通して、児童に身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能を確実に修得するためには、どのような学習の工夫が必要かしっかり検討し、効果的な家庭科の授業を模擬授業を通して創造することができる。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt;&lt;思考・問題解決能力&gt;&lt;技能&gt;&lt;態度&gt;の修得に貢献する。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
<b>【授業計画備考】</b>					
<p>最初の授業日に、学年歴で定められた授業日と回数を示し、各回のテーマや具体的な内容、教室及び準備物を記載した授業予定表を配付する。5回分、合計10回の模擬授業の実施・分析・評価については、模擬授業の実施日が決定した時点で、実施日と授業者の名前を記載したプリントを改めて配布する。</p>					
<p>第1回：学習指導要領家庭編の目標及び内容の取扱いについて  第2回：年間指導計画と題材指導計画、学習指導案の書き方と指導上の留意点及び評価項目  第3回：既存の家庭科指導案を基に細案を作成  第4回：細案を基に模擬授業を実施1・2「A家族・家庭生活」「B衣食住の生活」(5・6年生)  第5回：細案を基に模擬授業を実施3・4「B衣食住の生活」「C消費生活・環境」(5・6年生)  第6回：指導案の作成(1)「A家族・家庭生活」「B衣食住の生活」領域の内容理解(5・6年生)  第7回：指導案の作成(2)「B衣食住の生活」「C消費生活・環境」領域の内容理解(5・6年生)  第8回：模擬授業の実施・分析・評価1・2「A家族・家庭生活」「B衣食住の生活」(5年生)  第9回：模擬授業の実施・分析・評価3・4「B衣食住の生活」「C消費生活・環境」(5年生)  第10回：模擬授業の実施・分析・評価5・6「A家族・家庭生活」「B衣食住の生活」(6年生)  第11回：模擬授業の実施・分析・評価7・8「B衣食住の生活」「C消費生活・環境」(6年生)  第12回：模擬授業の実施・分析・評価9・10「B衣食住の生活」「C消費生活・環境」(5・6年生)  第13回：「B衣食住の生活」：ご飯とみそ汁の作り方と調理実習計画  第14回：「B衣食住の生活」：ご飯とみそ汁ともう一品「和食」の調理実習  第15回：模擬授業の総括：模擬授業全体の振り返りと授業改善</p>					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度				
	レポート	10%	模擬授業を通して身に付けたことや改善点などについて書かせ、コメントを付けて返却する。		
	小テスト	10%	指導要領の内容理解について評価する。		
	定期試験	70%	最終的な理解度について評価する。		
	その他	10%	模擬授業：教師としての授業態度、発問、板書の字、声の大きさ等について評価する。		
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b>					
<p>教材研究の深さが学習指導案と密接に関連し、更に児童の学習意欲とも深く関係していることを理解する。また、授業開始時に配付する授業予定表に、授業内容に該当する小学校と中学校の教科書のページを明記しているので、授業の事前・事後に必ず目を通して授業に臨む。</p>					
<b>【授業外学修】</b>					
<p>1 事前に、模擬授業で取り上げる内容についてしっかり教材研究をする。  2 模擬授業についての感想を、授業後に数人発表する。  3 模擬授業について、学生に迅速で建設的なフィードバックを行い、次の模擬授業に活かす。  4 模擬授業についての感想を毎時間書かせ、授業者に一言コメントとして、良かった所や改善して欲しい所を書いたプリントを渡す。</p>					
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	わたしたちの家庭科	著作者代表内野紀子他	開隆堂	274円	9784304080647
	小学校学習指導要領解説家庭編	文部科学省	東洋館出版社	103円	9784491023748
	自由記載				
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	新訂 新しい技術・家庭（家庭分野）	佐藤文子・金子佳代子他	東京書籍	646円	9784487122820
	自由記載	中学校の家庭科教科書「新編 新しい技術・家庭家庭分野」は、採用試験を受験する人は購入して欲しい。採用試験には、中学校の内容からも出題されている。			
<b>【その他】</b>					
採用試験には、具体的な指導方法を問う問題が出題される。模擬授業には、「自分ならどうするか」と考えながら参加する。小学校家庭科の内容は、全て実践して身に付けておくことが望ましい。					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
無					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					

授業科目名	英語科教育法		サブタイトル	授業番号	CO322
担当教員名	藤井 佐代子				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	2単位	
開講年次	2年		開講期	後期	
必修・選択	選択		授業形態	講義	
【授業の概要】					
授業実践に必要な知識を修得することに加え、授業観察や指導教員による授業体験を児童の立場で体験することを通して、小学校の外国語活動・外国語の授業について体験的に理解するとともに、教師の立場で模擬授業を行い振り返り授業改善を行う。さらに、小学校での授業観察や授業参加などを通して、理論に裏打ちされた教師認知と実践力を備えたリフレクティブな教師となる基本を身に付ける。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「現在の小学校外国語教育についての知識・理解」や「子どもの第二言語習得についての知識・理解」に関する小学校における外国語活動・外国語の授業実践に必要な知識を理解する。</li> <li>・「指導技術」と「授業づくり」の基礎を身に付け、計画・授業実施・省察・改善のサイクルを通して、理論に裏打ちされた教師認知と実践力の基本を身に付ける。なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt;&lt;思考・問題解決能力&gt;&lt;技能&gt;&lt;態度&gt;の修得に貢献する。</li> </ul>					
【授業計画】					
<p>第1回：オリエンテーション 外国語教育導入の経緯・理念・現状</p> <p>第2回：学習指導要領（外国語活動と外国語科）小・中・高等学校との連携と小学校の役割</p> <p>第3回：主教材、ICT教材の活用について、学習到達目標 指導計画 技能統合型の活動</p> <p>第4回：授業映像視聴 児童や学校の多様性への対応 子どもの学び方の特徴（言語使用を通した言語習得、類推から理解へ 音声によるインプットの在り方）児童の認知発達に即した指導法</p> <p>第5回：授業模擬体験 ことばの学ばれ方の特徴（場面に合った意味のあるやり取り、受診から発信 音声から文字へと進むプロセス）</p> <p>第6回：授業模擬体験 英語での語りかけ方 児童の発話の引き出し方 児童とのやり取りの進め方 文字言語との出会わせ方 読む活動・書く活動への導き方 言葉の面白さや豊かさへの気付き</p> <p>第7回：授業映像視聴（小学校・中学校・高等学校） 小・中・高等学校の連携、A L T等とのチームティーチングによる指導の在り方、異文化理解の視点、第二言語習得理論についての知識とその活用</p> <p>第8回：評価の観点と評価規準</p> <p>第9回：題材選定、教材研究</p> <p>第10回：指導計画（年間指導計画、単元計画、学習指導案、短時間学習等）の作成方法 学習指導目標、指導計画作成（1時間の学習指導案作成）</p> <p>第11回：授業準備 教材作成</p> <p>第12回：模擬授業(1) 振り返り 授業改善(1)</p> <p>第13回：模擬授業(2) 振り返り 授業改善(2)</p> <p>第14回：小学校での授業参観・授業参加</p> <p>第15回：振り返り、まとめ</p>					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	50%	積極的な気づきや改善案への建設的な議論に参加する態度を評価する。		
	レポート	50%	授業を通しての気づきや学びの記述を評価する。		
	小テスト				
	定期試験				
	その他				
	自由記載				
【受講の心得】					
教師になる自覚と意欲をもって参加すること。					
【授業外学修】					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導案・指導細案の作成や、模擬授業の練習を行うこと。</li> <li>・教師が使用する英語技能の習得に努め、実用英語検定準2級の取得をめざすこと。</li> </ul> 以上の学修を、週4時間以上行うこと。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	小学校英語 はじめる教科書 外国語科・外国語活動指導者養成のためにーコアカリキュラムに沿ってー	小川隆夫・東仁美	mpi		
	NEW HORIZON Elementary 5		東京書籍		
	NEW HORIZON Elementary 6		東京書籍		
	『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』平成29年7月 平成29年告示	文部科学省（著）	東洋館出版社		
	Let's Try 1	文部科学省	東京書籍	232 + 税	
	自由記載	Let's Try 2 文部科学省 東京書籍			
参考書	自由記載	「リズムで覚える教室英語」 mpi 「小学校英語の教育法」アレン玉井、大修館書店 「子ども英語指導ハンドブック」外山節子、旺文社 「CROWN Jr 5」酒井英樹他、三省堂、「CROWN Jr 6」酒井英樹他、三省堂			
	【担当教員の実務経験の有無】				
	有				
	【担当教員の实務経験】				
	公立小学校教諭、小学校英語教育各種研修会講師				
	【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】				
	無				
	【実務経験をいかした教育内容】				
	小学校の英語教育に必要な指導技術や教育的コンセプトを、体験授業・教材研究・演習・省察などを通して修得できるようにする。				

授業科目名	道徳教育指導論		サブタイトル	授業番号	CO323	
担当教員名	小森 順子					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	2単位			
開講年次	3年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】 道徳教育は大きな転換期を迎えた。道徳教育の改善・充実を図るため、小学校は平成30年度、中学校は平成31年度から、特別の教科 道徳(「道徳科」)が教科化され全面実施された。この改訂の内容を踏まえ、道徳教育の意義について授業全体を通して明らかにしていく。道徳教育と道徳科の目標や内容・指導について講義する。また、学習指導案作成と模擬授業の演習を通して、指導方法の要点や道徳科の授業について説明する。						
【到達目標】 道徳教育の現状を理解し、道徳教育の意義について考えることができるようになる。 道徳教育と道徳科の目標・内容・指導について理解できるようになる。 道徳科の指導の在り方や工夫を演習を通して身に付け、授業実践ができるようになる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：道徳とは何か 道徳教育の歴史と現状 道徳教育と道徳科の目標 第2回：指導計画と推進体制 道徳科学習指導案 一般的な学習指導過程 第3回：指導方法の工夫 教材研究 第4回：既成の学習指導案を基に細案作成 第5回：細案を基に模擬授業 第6回：模擬授業改善の視点 第7回：道徳性の発達 道徳科の内容 第8回：内容項目の指導の観点 第9回：教育実習での道徳授業を共有 授業改善の視点 第10回：道徳科の授業のつくりかた(1) 学習指導案作成の手順 第11回：道徳科の授業のつくりかた(2) 多様な学習指導 学習指導案作成 第12回：授業実践(1) 模擬授業実施 第13回：授業実践(2) 模擬授業の振り返り 指導の配慮事項 第14回：道徳科の評価 「考え議論する道徳」 第15回：まとめ よりよく生きるための基盤となる道徳性の育成						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		10%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加態度によって評価する。		
	レポート		50%	各回の授業の主要なポイントをまとめていること・自分の考えを述べていることで評価する。授業レポートはコメントを記入して返却し、次の講義に生かす。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他		40%	模擬授業の学習指導案の内容・工夫や教態で評価する。		
自由記載						
【受講の心得】 様々な事象や出来事に対して自分の意見や考えをもち、授業実践とつないで考え、真剣に受講する。						
【授業外学修】 1 予習として、「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」「小学どうとく生きる力」のうち、次回の授業内容に関わる部分を読み、課題を把握しておくこと。 2 授業の始めに前回の授業内容に関する小テストを行うので、復習をしておくこと。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	4年小学どうとく生きる力			日本文教出版株式会社		
自由記載	小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 平成29年7月(文部科学省)					
参考書	自由記載					
	【担当教員の実務経験の有無】 有					
	【担当教員の实務経験】 公立小学校教諭・教頭・校長、市教育研究研修センター					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無						
【実務経験をいかした教育内容】 道徳科の授業実践や教職員への研修等のこれまでの経験を、講義内容(道徳科授業の指導の在り方、指導方法の工夫、学習指導案作成の手順、模擬授業改善の視点等)にいかして指導する。						

授業科目名	児童英語演習		サブタイトル	授業番号	CO226
担当教員名	藤井 佐代子				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	1単位		
開講年次	2年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b>					
授業実践に必要な4技能にわたる、英語や英語を使ったコミュニケーションの知識をもとにして、授業観察・指導教員による授業体験を児童の立場で体験することや模擬授業を通して、振り返り授業改善を行う。そして、理論に裏打ちされた教師認知と実践力を備えたりフレキシブルな教師となる基本を身に付ける。					
<b>【到達目標】</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>英語を使ったコミュニケーションの指導や、ことばへの気付きをもたらす指導を実施できる。</li> <li>就学前児童や小学生に適した4技能の指導をすることができる。</li> <li>英語で授業を行ったり、ALTとの打ち合わせを実施したりできる。</li> <li>英語によるやりとりの仕方を指導できる。</li> <li>パフォーマンス評価を行うことができる。</li> </ul> なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：教材研究，指導計画案作成 第2回：子ども園・公民館・小学校等での指導に向けた準備，教材作成 第3回：模擬授業1，振り返り 第4回：子ども園・公民館・小学校等での指導1，振り返り 第5回：模擬授業2，振り返り 第6回：子ども園・公民館・小学校等での指導2，振り返り 第7回：模擬授業3，振り返り 第8回：子ども園・公民館・小学校等での指導3，振り返り 第9回：模擬授業4，振り返り 第10回：子ども園・公民館・小学校等での指導4，振り返り 第11回：模擬授業5，振り返り 第12回：子ども園・公民館・小学校等での指導5，振り返り 第13回：模擬授業6，振り返り 第14回：子ども園・公民館・小学校等での指導6，振り返り 第15回：まとめ					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	70%	授業計画・授業実践・省察・改善での意欲的な態度を評価する。		
	レポート	30%	知識と実践を往還しながら気付いたことの記述内容を評価する。		
	小テスト				
	定期試験				
	その他				
	自由記載	授業計画・実施・省察・改善に積極的に参加できる。 知識と実践から自らを具体的に振り返り，気付きをレポートにまとめることができる。			
<b>【受講の心得】</b>					
園児・児童に対して思いやりをもって接し，学校園での授業参観・授業参加では，教師を目指している学生としての自覚のもと，言動に責任をもつこと。					
<b>【授業外学修】</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>授業に向けて，授業の流れや教室英語に関する自己研修を30時間以上積むこと。</li> <li>実用英語技能検定準2級程度の英語力獲得に向けて，毎週2時間以上自己研修を積むこと。</li> </ul>					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	NEW HORIZON Elementary English Course 5		東京書籍		
	英会話たいそう Dansinglish カードブック1		mpi	1200	
	Let's Try 1	文部科学省		251円	
	Let's Try 2	文部科学省		251円	
	The SKY Book 1		mpi		
	自由記載				
参考書	自由記載	『“Hello” from Okayama 岡山からハロー』岡山ローバル英語研究会編，山陽新聞社出版 『教室英語活用事典』高梨庸雄，研究社 『小学校英語はじめる教科書』 外国語科・外国語活動指導者養成のために コア・カリキュラムに沿って 』吉田研作（監修），小川隆夫・東仁美（著）mpi 『やってみたくなる小学校英語』ローバル英語研究所 『Dansinglish 英会話体操カードブック1・2』mpi 『教室ですぐに役立つ英語ワークシート&クラフト集』アルクキッズ英語編集部編 アルク			
	<b>【その他】</b>	なし			
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>	有			
	<b>【担当教員の実務経験】</b>	公立小学校教諭，小学校英語教育各種研修会講師			
	<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>	無			
	<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>	小学校英語教育での4技能5領域での指導技術を理論と合わせて指導する。			

授業科目名 **異文化コミュニケーション論** サブタイトル

授業番号 CO227

担当教員名 佐生 武彦

対象学部・学科 子ども学部 子ども学科

単位数 2単位

開講年次 1年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

**【授業の概要】**

「文化」及び「コミュニケーション」という2つの言葉を、私たちは日常生活においてほとんどその意味を吟味しないまま口にすることが多い。理由は、両者ともに深く考える対象としては、あまりにも私たちの身近にあり過ぎるためであろう。この講義では、「文化」や「コミュニケーション」など一連の諸概念を詳しく考察すると共に、日本人が多用するコミュニケーション型と諸外国で用いられるコミュニケーション型を比較検討し、これらコミュニケーション型の違いから生じる諸問題とその解決方法について学習する。



授業科目名	小学校教育研究I		サブタイトル		授業番号	CO328
担当教員名	姫野 俊幸 佐々木 弘記 岸 誠一 溝田 知茂 柏原 寛村 井 隆人 梅原 嘉介					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	1単位	
開講年次	3年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
総合教養養成セミナーI・IIで身につけた学士力を基盤にして、小学校教員として求められる実践的指導力を身につけるため、各教科等毎の教材研究及び学習指導案の作成等を行う。						
<b>【到達目標】</b>						
各教科毎の教材研究及び学習指導案の作成等を行い、小学校教員に求められる学習指導力、生徒指導力、マネジメント力を身に付けることを目的とする。本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：授業概要，算数教材研究I (担当姫野)						
第2回：算数教材研究II (担当姫野)						
第3回：国語教材研究I (担当村井)						
第4回：国語教材研究II (担当村井)						
第5回：社会教材研究I (担当岸)						
第6回：社会教材研究II (担当岸)						
第7回：理科教材研究I (担当佐々木)						
第8回：理科教材研究II (担当佐々木)						
第9回：音楽教材研究I (担当姫野)						
第10回：図画工作教材研究I (担当柏原)						
第11回：図画工作教材研究II (担当柏原)						
第12回：体育教材研究I (担当溝田)						
第13回：体育教材研究II (担当溝田)						
第14回：プログラミング教育教材研究I (担当梅原)						
第15回：プログラミング教育教材研究II (担当梅原)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する		
	レポート		30%	各回の授業で提示される課題について，自分の考えを具体的に述べていること。		
	小テスト		50%	各回の主要なポイントの理解度を評価する。		
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
予習と復習を必ず行うこと。分からないことは、オフィスアワーの時間を活用して調べておくこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として，授業で配付される資料等を読み，疑問点を明らかにする。						
2 復習として，授業で提示された課題のレポートを書く。						
3 発展学習として，授業で紹介された参考文献や資料等を読む。						
以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					
<b>【その他】</b>						
小学校コースは必ず履修し，確実に単位を修得すること。						
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
公立小学校教諭・校長，県生涯学習センター，県情報教育センター（岸誠一），公立中学校教諭，県教育センター（佐々木弘記），公立小学校教諭，校長，教育委員会事務局（姫野俊幸）						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
学校現場での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで，実感を伴った理解を図り，学習指導力，生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。						

授業科目名	小学校教育研究II		サブタイトル		授業番号	CO329
担当教員名	姫野 俊幸 佐々木 弘記 柏原 寛 溝田 知茂 山下 陽子					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	1単位	
開講年次	3年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
小学校教育研究Iで身につけた学力を基盤にして、小学校教員として求められる実践的指導力を身につけるため、学習指導要領に沿った教科教育および教科外教育を学習する。						
<b>【到達目標】</b>						
学習指導要領に沿った教科教育および教科外教育を学び、小学校教員に求められる学習指導力、生徒指導力、マネジメント力を身に付けることを目的とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学力の内容のうち、＜知識・理解＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：専門教科：小学校全科 授業概要 (担当姫野) 第2回：専門教科：小学校全科 国語I (担当山下) 第3回：専門教科：小学校全科 国語II (担当山下) 第4回：専門教科：小学校全科 社会I (担当山下) 第5回：専門教科：小学校全科 社会II (担当山下) 第6回：専門教科：小学校全科 算数I (担当山下) 第7回：専門教科：小学校全科 算数II (担当山下) 第8回：専門教科：小学校全科 理科I (担当佐々木) 第9回：専門教科：小学校全科 理科II (担当山下) 第10回：専門教科：小学校全科 音楽 (担当姫野) 第11回：専門教科：小学校全科 図画工作 (担当柏原) 第12回：専門教科：小学校全科 家庭 (担当山下) 第13回：専門教科：小学校全科 体育 (担当溝田) 第14回：専門教科：小学校全科 生活、総合的な学習の時間、特別活動 (担当山下) 第15回：専門教科：小学校全科 外国語活動、外国語、特別の教科 道徳 (担当山下)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する		
	レポート		30%	各回の授業で提示される課題について、自分の考えを具体的に述べていること。		
	小テスト		50%	各回の主要なポイントの理解度を評価する。		
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
予習と復習を必ず行うこと。分からないことは、オフィスアワーの時間を活用して調べておくこと。						
<b>【授業外学習】</b>						
1 予習として、授業で配付される資料等を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、授業で提示された課題のレポートを書く。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料等を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学習すること。						
使用テキスト	自由記載	「オープンセサミ参考書専門教科小学校全科」東京アカデミー（小学校教育研究Iで使用したもの）「教員採用試験対策セサミノート3 専門教科小学校全科」「教員採用試験対策セサミノート1 教職教養」（キャリア教育演習Iと同時使用）				
参考書	自由記載					
<b>【その他】</b>						
小学校コースは必ず履修し、確実に単位を修得すること。						
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の職務経歴】</b>						
公立小学校教諭・校長、県生涯学習センター、県情報教育センター（岸誠一）、公立中学校教諭、県教育センター（佐々木弘記）、公立小学校教諭、教頭、校長、教育委員会事務局（姫野俊幸）、公立高等学校教諭・教頭・校長（山下陽子）						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
学校現場での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで、実感を伴った理解を図り、学習指導力、生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。						

授業科目名	小学校教育研究Ⅲ		サブタイトル		授業番号	CO430
担当教員名	姫野 俊幸 佐々木 弘記 岸 誠一 柏原 寛 齊藤 佳子 溝田 知茂 村井 隆人					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	1単位	
開講年次	4年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
小学校教育研究Ⅱで身につけた学力を基盤にして、小学校教員として求められる教職に関する知識や技能を身につけるための学習をする。						
<b>【到達目標】</b>						
新任教員として求められるレベルの専門的な知識や技能を確実に身につける。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学力の内容のうち、＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：小学校における教科指導（算数1）（担当姫野）						
第2回：小学校における教科指導（算数2）（担当姫野）						
第3回：小学校における教科指導（国語1）（担当村井）						
第4回：小学校における教科指導（国語2）（担当村井）						
第5回：小学校における教科指導（社会1）（担当岸）						
第6回：小学校における教科指導（社会2）（担当岸）						
第7回：小学校における教科指導（理科1）（担当佐々木）						
第8回：小学校における教科指導（理科2）（担当佐々木）						
第9回：小学校における教科指導（音楽）（担当姫野）						
第10回：小学校における教育法規（担当佐々木）						
第11回：小学校における教科指導（図画工作）（担当柏原）						
第12回：小学校における危機管理（担当柏原）						
第13回：小学校における教科指導（家庭）（担当齋藤）						
第14回：小学校における教科指導（体育）（担当溝田）						
第15回：小学校における現代の教育問題（担当溝田）						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		20%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する		
	レポート		30%	各回の終盤で提示される課題について、自分の考えを具体的に述べていること。		
	小テスト		50%	各回の主要なポイントの理解度を評価する。		
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
予習と復習を必ず行うこと。分からないことは、オフィスアワーの時間を活用して調べておくこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として、授業で配付される資料等を読み、疑問点を明らかにする。						
2 復習として、授業で提示された課題のレポートを書く。						
3 発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料等を読む。						
以上の内容を、週あたり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	「教員採用試験対策参考書専門教科小学校全科」「教員採用試験対策セサミノート1教職教養」「教員採用試験対策セサミノート専門教科小学校全科」東京アカデミー				
参考書	自由記載					
<b>【その他】</b>						
小学校コースは必ず履修し、確実に単位を修得すること。						
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
公立小学校教諭・校長、県生涯学習センター、県情報教育センター（岸誠一）、公立中学校教諭、県教育センター（佐々木弘記）、公立小学校教諭、教頭、校長、教育委員会事務局（姫野俊幸）						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
学校現場での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで、実感を伴った理解を図り、学習指導力、生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。						

授業科目名	保育実践研究I		サブタイトル	授業番号	CO431
担当教員名	伊藤 智里 土師 範子 河原 智美 廣畑 まゆ美				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	1単位	
開講年次	4年		開講期	前期	
必修・選択	選択		授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>					
必修科目及び選択必修科目の履修状況や保育・教育実習を通しての学び等を踏まえ、保育の本質・目的、子ども理解の在り方、保育の内容・方法、保育の表現技術等、子どもの見方や保育教育現場の現状や課題を実践的に研究する。					
<b>【到達目標】</b>					
1, 保育に関する科目横断的な学習能力を習得する。 2, 保育に関する現代的課題についての現状分析, 考察, 検討を行う。 なお, 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち, < 知識・理解 > < 思考・問題解決能力 > の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回: 保育の理念と概念について 第2回: 保育史について 第3回: 教育法規について 第4回: 保育の心理学(1) 乳児期の発達について 第5回: 保育の心理学(2) 幼児期の発達について 第6回: 子どもの保健(1) 疾病と保育について 第7回: 子どもの保健(2) 衛生管理並びに安全管理について 第8回: 子どもの食と栄養(1) 栄養について 第9回: 子どもの食と栄養(2) 乳幼児期の発達と食生活について 第10回: 児童家庭福祉について 第11回: 社会的養護について 第12回: 社会福祉について 第13回: 家庭支援について 第14回: 音楽表現について 第15回: 造形表現について					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	意欲的な受講態度, 発表・討議への参加, 予・復習の状況によって評価する。	
	レポート		30%	レポートはコメントを記入して返却する。	
	小テスト				
	定期試験		50%	最終的な理解度を評価する。	
	その他				
自由記載					
<b>【受講の心得】</b>					
理論と実践をつなげ, 4年間の学びがさらに深まるよう, 保育教育現場の現状や課題等に問題意識を持って積極的に取り組むこと。					
<b>【授業外学修】</b>					
1. 予・復習を行い, 疑問点を明らかにして授業に臨む。 2. 発表の担当の際には, 準備を怠らず分かりやすく報告すること。 以上の内容を, 週当たり2時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載	適宜紹介する。			
参考書	自由記載	適宜紹介する。			
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
無					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					

授業科目名	保育実践研究II		サブタイトル	授業番号	CO432
担当教員名	伊藤 智里 土師 範子 河原 智美 廣畑 まゆ美				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	1単位	
開講年次	4年		開講期	後期	
必修・選択	選択		授業形態	演習	
【授業の概要】 必修科目及び選択必修科目の履修状況や保育・教育実習を通しての学び等を踏まえ、保育者として必要な知識技能を修得したことを確認する。保育実践並びに保育相談、育児相談、園及びクラス運営の在り方、専門機関との連携等について、実践的に研究する。					
【到達目標】 1. 問題解決のための対応、判断方法等について学びを深める。 2. 必修科目及び選択科目の履修状況を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認する。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：幼稚園教育要領について 第2回：保育所保育指針について 第3回：幼保連携型認定こども園保育・教育要領について 第4回：健康の領域 第5回：人間関係の領域 第6回：環境の領域 第7回：言葉の領域 第8回：表現の領域 第9回：指導計画について 第10回：障害児保育について 第11回：乳児保育について 第12回：保育の現状について 第13回：小学校との接続について 第14回：保育者の職務内容について 第15回：資質能力の確認					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。	
	レポート		30%	レポートはコメントを記入して返却する。	
	小テスト				
	定期試験		50%	最終的な理解度を評価する。	
	その他				
自由記載					
【受講の心得】 理論と実践をつなげ、4年間の学びがさらに深まるよう、保育教育現場の現状や課題等に問題意識を持って積極的に取り組むこと。					
【授業外学修】 1. 予・復習を行い、疑問点を明らかにして授業に臨む。 2. 発表の担当の際には、準備を怠らず分かりやすく報告すること。 以上の内容を、週当たり2時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載	適宜紹介する。			
参考書	自由記載	適宜紹介する。			
【担当教員の実務経験の有無】 無					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					

授業科目名	教育原理		サブタイトル		授業番号	CP201
担当教員名	中田 周作					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b> 講義形式で、教育の基本的な事項について学習していく。 特に、教育とは何かという根源的な問いと、教育行政や学校教育制度といった、児童・生徒の立場からは察し得ない事象に重点を置いて講義する。						
<b>【到達目標】</b> 現代社会における教育問題は、極めて複雑な様相を呈している。歴史的に蓄積された社会構造的な問題もあるだろうし、教育の目指すべき方向を再構築しなければならない問題もあるだろう。 本講義では、こうした社会状況を踏まえつつ、これらの問題解決の一助となるよう、今一度、教育という営みの根源に立ち返ることを目的とする。 そのため、将来、教育に携わる者が、最低限、知っておかなければならない教育学に関する基礎的な事項について学習する。 なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解><思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b> 第1回：現代の教育をめぐる諸問題 第2回：教育とは何か 第3回：教育の思想：西洋にみる教育の思想と実践 第4回：教育の思想：幼児教育の思想と実践 第5回：学校教育と学力、家庭 第6回：教員の養成、採用、研修 第7回：学校、放課後、家庭における子どもの日常生活 第8回：江戸期以前の家族と社会による教育 第9回：公教育制度の成立とその思想 第10回：学制と明治期の学校教育制度の成立と展開 第11回：大正期の学校教育制度の成立と展開 第12回：昭和期から現在にいたるの学校教育制度の成立と展開 第13回：教育に関係する主な法律 第14回：教育に関係する法令 第15回：現代社会における教育課題						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		10%	授業への取り組み姿勢を考慮する。		
	レポート		70%	講義終了後に最終レポートを提出する。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他		20%	講義のとき、毎回、コメントペーパーを提出する。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b> テキストを事前に読んでくること。最終レポートの課題を探しながら受講すること。						
<b>【授業外学修】</b> 週当たり4時間以上、テキストを読むこと。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	よくわかる教育原理		汐見稔幸ほか	ミネルヴァ書房	2800円	9784623059263
自由記載						
参考書	自由記載		『教育六法』（どの出版社のものでも良い）			
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 無					
	<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無					

授業科目名	教育史		サブタイトル		授業番号	CP202
担当教員名	梶井一暁					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	4年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
<p>本科目は、教職に関する科目のうちの「教育の基礎理論に関する科目」の「教育に関する歴史及び思想」に関する事項を含むものである。現代の教育（目的、制度、内容および方法）へと続く歴史の過程と変化について、主に講義形式により教授する。基本的に前半は西洋の教育史、後半は日本の教育史とその西洋との影響関係について考察する。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>以下の3つを到達目標とする。1.教育の歴史についての基本的な事項に関する知識を獲得する、2.獲得した知識にもとづいて教育の歴史に関する事象を説明する、3.獲得した知識にもとづいて現代の教育の課題について考察する。          なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt; &lt;思考・問題解決能力&gt;の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：教育への歴史的視点[授業の目的、概要、計画など]          第2回：歴史のなかの教育[人間形成としての教育]          第3回：歴史のなかの学校[コメニウスと教科書]          第4回：歴史のなかの子ども[ルソーと「子ども」の発見]          第5回：教育対象としての子ども[ヘルバルトと教授学]          第6回：子どもを理解し、教育する[ベスタロッチとフレーベル]          第7回：社会・経験・子ども[デューイの教育理論の示唆]          第8回：教育の発達の動向と回顧[課題の探求と発表]          第9回：歴史教科書のなかの教育史叙述[教育史の通覧]          第10回：教育の方法の変化（1）[個別と一斉]          第11回：教育の方法の変化（2）[教師中心と子ども中心]          第12回：教育改革の歴史と課題（1）[教育における権利と義務]          第13回：教育改革の歴史と課題（2）[民主主義社会における教育と学校]          第14回：教員養成の歴史と課題[専門職としての教員]          第15回：まとめ[教育の過去と現在]</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		20%	意欲的な授業態度、発表・討議への参加、コメント・シートにより評価する。		
	レポート		40%	主要点の理解度を評価する。		
	小テスト					
	定期試験		40%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
適宜、コメント・シート（感想、意見、関心など）を使い、授業を進める。自ら学ぶ姿勢を保持し、授業に臨んでほしい。						
<b>【授業外学修】</b>						
<p>予習として、授業内容にかかわる人物や事項を調べる。          復習として、授業で配布したプリントを読み直す。          発展学修として、授業で紹介される参考文献を読む。          以上の内容を、週あたり4時間以上学修すること。</p>						
使用テキスト	自由記載	尾上雅信編『西洋教育史』ミネルヴァ書房、2018年（ISBN:9784623084166）。必要に応じ、授業でプリント資料を配布する。 なお、参考書を下記に示すので、読んで関心を広げることが推奨する。				
参考書	自由記載	1.田中卓也編『日本の教育史を学ぶ』東信堂、2019年。2.木村元『学校の戦後史』岩波書店（新書）、2015年。 3.梶井一暁『映画のなかの学びのヒント』岐阜新聞社、2014年。				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	教育方法学		サブタイトル		授業番号	CP203
担当教員名	住野 好久					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	3年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な教育の方法，技術を教授するとともに，情報機器及び教材の活用について教授する。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な教育の方法を理解する。</li> <li>教育の目的に適した指導技術を理解し，身につける。</li> <li>情報機器を活用した効果的な授業や教材活用に関する基礎的な能力を身につける。</li> </ul> なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち， 知識・理解 技能 の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：教育の方法(1) 教育実践における教育の目的・目標，内容，方法，組織 (担当住野) 第2回：教育の方法(2) 学習指導要領が求める教育の方法 (担当住野) 第3回：教育の方法(3) 授業づくりの方法(1)教育の目標・内容の設定 (担当住野) 第4回：教育の方法(4) 授業づくりの方法(2)教材開発 (担当住野) 第5回：教育の方法(5) 授業づくりの方法(3)教授行為 (担当住野) 第6回：情報機器及び教材の活用(1) 情報機器を活用した授業づくり (担当住野) 第7回：情報機器及び教材の活用(2) 情報機器を活用した授業の実際 (担当住野) 第8回：教育の技術(1) 模擬授業(1) 教材研究 (担当住野) 第9回：教育の技術(2) 模擬授業(2) 指導案の作成 (担当住野) 第10回：教育の技術(3) 模擬授業(3) 実践検討(1) (担当住野) 第11回：教育の技術(4) 模擬授業(4) 実践検討(2) (担当住野) 第12回：教育の技術(5) 模擬授業(5) 改善案の作成 (担当住野) 第13回：教育の方法(6) 学級づくりの方法(1)学級づくりとは (担当住野) 第14回：教育の方法(7) 学級づくりの方法(2)学級づくりの方法 (担当住野) 第15回：教育の方法(8) 学級づくりの方法(3)集団指導と個別指導 (担当住野)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。		
	レポート					
	小テスト		40%	各回の授業の終盤に提示される課題について，自分の考えを具体的に述べていること。		
	定期試験		40%	最終的な目標到達度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
毎回，授業の最後に小テストを行うので，授業内容をしっかりと理解しようとし，不明な点は遠慮なく質問をすること。配付するプリント・資料などはファイルにとじ，整理しておくこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2 復習として，課題のレポートを書く。 3 発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週辺り4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載	適宜，授業の中で紹介する。				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						



授業科目名	保育者論		サブタイトル	授業番号	CP204
担当教員名	河原 智美				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	2単位	
開講年次	3年		開講期	後期	
必修・選択	選択		授業形態	講義	
【授業の概要】 保育者は日々の保育実践に関し、主体的且つ同僚と対話的に深い学びをしつつ自らの資質向上に努めなければならない。このことを踏まえ、保育者の基本的な資質と役割について学び、自らの専門性を向上させる意欲の涵養を目指す学習をする。特に保育の本質、保育者になる構えといった学び続ける保育者としての事項を学習する。					
【到達目標】 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領は学習指導要領に記されている学習内容に比べ抽象的且つ曖昧である。すなわち、保育者は、この法令を踏まえ教育・保育課程の作成と日々の保育を工夫し、自らよりよい実践のために学び続ける意欲と資質向上を目指す意思の基礎を培うことを目的とする。保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容を踏まえ、日々の保育を子どものために工夫することのできる実践を探る力と、それを実践できる保育者としての資質・能力を向上させることができる。なお本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうちに貢献する。					
【授業計画】 第1回：保育者になるということは 第2回：保育の本質 第3回：保育者の子ども観（対象：0歳～3歳未満） 第4回：保育者の子ども観（対象：3歳以上～就学前） 第5回：豊かな環境をつくる保育者 第6回：保育の展開と評価（保育課程） 第7回：保育の展開と評価（教育課程） 第8回：保育者の協働 第9回：小学校と連携する保育者 第10回：小学校との連携 第11回：専門職、他の機関との連携 第12回：保育者のキャリア形成と生涯発達 第13回：法令で定められた保育者の責務 第14回：歴史から学ぶ保育者の在り方 第15回：子育て環境と保育者の役割					
【授業計画 備考2】 事前学習・意見発表・グループ討議などを取り入れて、学生自身の保育観の自覚を促していく方法をとる。					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な学習態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート	10%	授業で提示される課題について、授業内容に関連させ、自分の考えを具体的に述べている。		
	小テスト				
	定期試験	60%	本科目の総合的な理解度を評価する。		
	その他				
	自由記載	提出物（レポートを含む）10%、授業への取組30%、試験60%			
【受講の心得】 講義の前に本日のテーマを学習しておくこと。 保育者としての自分の在り方を探求するために、自分の考えを発表し他の意見を吸収するなど積極的な受講態度を望む。					
【授業外学修】 ・テキスト以外の各テーマに関連した情報を収集すること。 ・授業時には自分の考えや他者の考えを踏まえて発表したり、討議したりする。 ・できるだけ幼児と触れ合う経験を積み重ね、社会における保育の課題や保育者の資質について自主的に調べる。					
使用テキスト	自由記載	シードブック改訂『保育者論』榎田二三子・大沼良子・増田時枝 編著、建帛社			
参考書	自由記載	保育所保育指針解説書・幼稚園教育要領解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 他適宜紹介する。			
【担当教員の実務経験の有無】 有					
【担当教員の实務経験】 公立幼稚園教諭、私立幼稚園園長（河原）					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					
【実務経験をいかした教育内容】 実務現場での経験を生かして、保育者論についての教育内容を工夫する。					

授業科目名	教育心理学		サブタイトル		授業番号	CP205
担当教員名	國田 祥子					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
【授業の概要】						
教育心理学とは、学び手としての子どもを心理学の視点から理解し、支援するための科学である。この授業では、子どもの学びと適応の支援という視点から、教育に関する心理学的知見を広く扱う。						
【到達目標】						
実際に教育現場に立つ際、児童・生徒の理解を助けるために必要となる、心理学的な視点の基礎を、講義を通じて身につけることを目指す。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、＜知識・理解＞の習得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：教育心理学とは 第2回：心身の発達に基づく教育心理学の考え方 第3回：心身の発達に応じた学びの場とその移行 第4回：学びの意欲 第5回：学びのしくみ 第6回：学びの諸相 第7回：学びの開発と体系化 第8回：中間のまとめ 第9回：主体的な学びの授業 第10回：個に応じた学びの援助 第11回：自立と社会性の学び 第12回：子どもを支える 第13回：学びと適応の評価 第14回：教師の成長 第15回：期末のまとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		100%	理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
【受講の心得】						
積極的な受講態度を期待します。						
【授業外学修】						
毎回の授業の前にテキストを読み、4時間以上予習しておくこと。学習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について4時間以上の復習を行うこと。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	よくわかる！教職エクササイズ2 教育心理学		田爪宏二（編著）	ミネルヴァ書房	2200円	978-4-623-08177-6
自由記載						
参考書	自由記載					
	【担当教員の実務経験の有無】					
	無					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】						
無						

授業科目名	教育・保育課程総論		サブタイトル		授業番号	CP206
担当教員名	佐々木 弘記 河原 智美					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	3年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
【授業の概要】						
第1～7回においては、幼児期の子どもの発達段階に沿った保育・教育課程の在り方について、基本的理念や具体的展開にふれながら講義する。 第8～15回においては、小学校期における学習指導とカリキュラムについて、歴史的展開をたどりながら教育的意義について講義する。						
【到達目標】						
・幼児期の教育と教育課程についての基本的理念を理解するとともにそれに基づく年間の指導計画や指導案等について具体的事例を通して理解している。＜知識・理解＞ ・児童期における教育課程の歴史的展開や教育的意義について、その概要と特質を説明することができる。＜知識・理解＞						
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：教育・保育について (担当(河原)) 第2回：教育課程とは (担当(河原)) 第3回：保育におけるカリキュラム (担当(河原)) 第4回：保育における記録 (担当(河原)) 第5回：保育における省察 (担当(河原)) 第6回：保育カンファレンス (担当(河原)) 第7回：保育におけるカリキュラム・マネジメント (担当(河原)) 第8回：学習指導とカリキュラム(1) 伝達観と助成観 (担当(佐々木)) 第9回：学習指導とカリキュラム(2) 形式陶冶と実質陶冶 (担当(佐々木)) 第10回：学習指導とカリキュラム(3) 経験主義と系統主義 (担当(佐々木)) 第11回：教育課程の変遷 (担当(佐々木)) 第12回：カリキュラムを支える学習指導法 (担当(佐々木)) 第13回：特色あるカリキュラム事例 (担当(佐々木)) 第14回：学習評価からカリキュラム評価へ (担当(佐々木)) 第15回：小学校におけるカリキュラム・マネジメント (担当(佐々木))						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。			
	レポート	10%	各回の終盤で提示される課題について、自分の考えを具体的に述べていること。			
	小テスト	10%	各回の主要なポイントの理解度を評価する。			
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
	自由記載					
【受講の心得】						
第8～15回においては、授業のはじめに小テストを行うので、前時の復習をして授業に臨むこと。また、返却された小テストは、ノートに貼付し、復習をすること。配付するプリント・資料などを整理しておくこと。						
【授業外学修】						
1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、授業で提示された課題のレポートを書く。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料等を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	「小学校学習指導要領解説 総則編」文部科学省「保育所指導指針・解説」厚生労働省「幼稚園教育要領・解説」文部科学省				
参考書	自由記載	毎回、授業ノートを回収するので、ルーズリーフのノートを用意すること。				
【担当教員の業務経験の有無】						
有						
【担当教員の業務経験】						
公立中学校理科教諭、県教育センター(佐々木弘記)公立幼稚園教諭、私立保育所園長(河原)						
【担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無】						
無						
【業務経験をいかした教育内容】						
学校、幼稚園、教育センター等での経験を生かして、教育・保育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。						

授業科目名	保育内容総論		サブタイトル	授業番号	CP207
担当教員名	河原 智美				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	1単位	
開講年次	3年		開講期	前期	
必修・選択	選択		授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>					
乳幼児の発達と保育内容の目標を関連付け、5領域のねらい及び内容を理解するとともに、保育の全体的な構造を理解するとともに小学校以降の教育との関連について理解する。また、指導計画について理解し、園生活全体を通して総合的な指導を行うことを理解し、幼児の姿と関連付けて考えることができる。					
<b>【到達目標】</b>					
1. 子どもの発達と保育の目標とを関連付けたうえで、保育内容を理解するとともに、保育の全体的な構造を理解する。 2. 保育内容の歴史の変遷について学び、保育内容について理解する。 3. 保育の基本を踏まえた保育内容の展開と5歳児後半から小学校のカリキュラムとの接続について、具体的な保育実践と関連付けて理解する。 4. 保育の多彩な展開について具体的に学ぶ。なおこの科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解><思考・問題解決>の習得に貢献する。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力>の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
<b>【授業計画 備考】</b>					
各回のテーマについての基本的事項の理解を深める。さらに、保育内容と保育の構造について総合的に学ぶとともにその具体的内容についてワークシート等の利用により、グループ討議を実施する。					
第1回：保育の基本及び保育内容（5領域）の理解 第2回：保育の全体構造と保育内容（5領域）の関連 第3回：保育内容の歴史の変遷 第4回：子どもの発達の特性と保育内容（5領域） 一乳幼児保育、満1歳以上3歳未満児一 第5回：子どもの発達の特性と保育内容（5領域）一3歳以上児、異年齢一 第6回：個と集団の発達と保育内容（5領域） 第7回：保育における観察と記録 第8回：養護と教育が一体的に展開する保育の在り方 第9回：環境を通して行う保育の在り方 第10回：遊びによる総合的な保育の在り方（5領域の関連） 第11回：遊びや発達の連続性に考慮した保育の在り方 第12回：家庭、地域との連携をふまえた保育一長時間保育含む一 第13回：小学校との連携をふまえた保育の在り方 第14回：特別な支援を必要とする子どもの保育の在り方 第15回：多文化共生の保育					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	事前学習、テキストの理解、意見交換などに積極的に取り組めたかを評価する。	
	レポート		20%	自主的にワークシートを提出したかを評価する。	
	小テスト				
	定期試験		50%	振り返りシートを中心に総合的な理解度を評価する。	
	その他				
自由記載		期末試験・レポート（70%）、受講態度（30%）により総合的に評価する。			
<b>【受講の心得】</b>					
発表やグループ討議など、主体的に参加すること。そのための予習、復習を欠かさないこと。					
<b>【授業外学修】</b>					
事前学習をして授業に臨む。 授業後は振り返るシートを必ず記入する。					
使用テキスト	自由記載				
参考書	自由記載 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>					
公立幼稚園教諭 私立幼稚園園長					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
子どもの生活を通して、保育、教育が展開することを具体的な実践につなげた学びと子ども理解を深め、保育内容の展開、観察、記録について課題意識をもった指導をする。					

授業科目名	特別支援教育		サブタイトル	授業番号	CP208
担当教員名	中 典子 池谷 航介				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	2単位		
開講年次	3年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
【授業の概要】 講義形式で、特別支援教育の基本的なことについて学習していく。 特に、特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の理解、教育課程、支援の方法を学ぶ中で、学校と関係機関との連携のあり方について講義する。					
【到達目標】 保育者・教育者は通常学級において特別な配慮をする必要のある幼児や児童生徒が学習に参加する中で将来の自立に向けて支援していく必要がある。本講義では、幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し、特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な知識や支援の方法を理解することを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の障害の特性 (担当池谷航介) 第2回：特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の心身の発達 (担当池谷航介) 第3回：特別支援教育に関する制度の理念や仕組み (担当池谷航介) 第4回：特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習や生活のしづらさ (担当池谷航介) 第5回：特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の教育課程 (担当池谷航介) 第6回：発達障害をはじめとする障害のある子どもへの支援 (担当中典子) 第7回：「通級指導」と「自立活動」の教育課程上の位置づけ (担当池谷航介) 第8回：「個別指導計画」と「個別教育支援計画」の意義と方法 (担当池谷航介) 第9回：学校と家庭との連携のあり方 (担当中典子) 第10回：学校と地域の関係機関との連携のあり方 (担当中典子) 第11回：多文化の幼児や児童生徒に対する学習や生活のしづらさ (担当中典子) 第12回：多文化の幼児や児童生徒支援に対する学校と家庭と地域の関係機関との連携のあり方 (担当中典子) 第13回：貧困により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習や生活のしづらさ (担当中典子) 第14回：貧困により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒支援のあり方 (担当中典子) 第15回：多文化や貧困問題により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習支援 (担当中典子)					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度				
	レポート	20%	課題に対して具体的に述べていること。課題についてはコメントを記入して返却する。		
	小テスト				
	定期試験	80%	最終的な理解度を評価する。		
	その他				
自由記載					
【受講の心得】 授業内容の理解を深めるため、授業開始前までに事前に配付する資料の内容を読んでおくこと。					
【授業外学修】 授業開始前までに、事前に配付する資料の内容を読んでおくこと。(1時間) 授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げしておくこと。(2時間) 授業で学んだ内容を振り返り、必要と考えることをノートにまとめておくこと。(1時間)					
使用テキスト	自由記載				
参考書	自由記載				
【担当教員の実務経験の有無】 有					
【担当教員の实務経験】 小学校教諭，特別支援学校教諭(池谷航介)					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					
【実務経験をいかした教育内容】 小学校教諭及び特別支援学校教諭の経験をいかし、様々な障がい有する児童・生徒への対応について指導する。(池谷航介)					

授業科目名	教職概論		サブタイトル		授業番号	CP209
担当教員名	村井 隆人					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
教職概論は、教職の意義と教員の役割、教員の職務内容について、制度的・実際の側面から学ぶ。教職を目指す学生が、職業論（教職の全体像をつかむとともに、教職に関する基礎的な知識）を身に付け、教職に対する意欲を喚起し、専門職としての基礎を培う。						
<b>【到達目標】</b>						
教職の意義、教員の役割、職務内容など教職に対する正しい理解を深めるとともに、教員としての責任を自覚し、教職に対する自らの意欲や適性を確認することを到達目標とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、 態度 の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：子どもの生活と学校 第2回：学習指導 第3回：生徒指導・進路指導 第4回：教育相談 第5回：学級経営 第6回：教師に何を求めてきたか、いま何が求められているか 第7回：児童生徒と教師 学ぶことと教えること 第8回：教員養成の制度 第9回：教職課程の仕組みと内容 第10回：教員の採用 第11回：教員の研修 第12回：教員の地位と身分 第13回：教員の待遇と勤務条件 第14回：学校制度 第15回：学校管理・運営体制						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート		45%	授業毎のレポート課題を評価する		
	小テスト					
	定期試験		55%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
受講期間中は現在の学校教育の課題と、学校教員の社会的使命について真剣に考えること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2. 復習として、課題のレポートを書く。 3. 発展学習として、教育に関するニュース収集をし、自分の見解を述べられるようにする。						
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	教師教育講座 第1巻 教職概論		曾余田浩史	共同出版	2420円	978-4-319-10670-7
自由記載						
参考書	自由記載		授業において随時紹介する。			
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
広島県立広島高等学校・広島大学附属福山中・高等学校						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	特別活動・総合的な学習の時間の指導法			サブタイトル		授業番号	CP210
担当教員名	佐々木 弘記						
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位		
開講年次	3年			開講期	後期		
必修・選択	選択			授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>							
特別活動及び総合的な学習の時間の教育的意義、目標、内容、学習過程、指導計画、家庭・地域等との連携、評価について演習を通して講義する。							
<b>【到達目標】</b>							
特別活動及び総合的な学習の時間の教育的意義、目標、内容、学習過程、指導計画、家庭・地域等との連携、評価について理解することができるようになる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。							
<b>【授業計画】</b>							
第1回：教育課程としての特別活動の領域 第2回：特別活動の目標と内容 第3回：特別活動の特質と教育的意義 第4回：特別活動と各教科等との関連 第5回：学級活動の目標と内容 第6回：学級活動の指導計画と指導過程 第7回：児童会活動、クラブ活動の目標と内容 第8回：学校行事の目標と内容、家庭・地域等との連携 第9回：特別活動における評価 第10回：総合的な学習の時間の意義と教育課程における役割 第11回：総合的な学習の時間の目標と内容 第12回：総合的な学習の時間と各教科等との関連 第13回：総合的な学習の時間の学習過程 第14回：総合的な学習の時間の単元計画と年間指導計画 第15回：総合的な学習の時間における評価							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度		10%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。			
	レポート		20%				
	小テスト		20%	各回の主要なポイントの理解を評価する。			
	定期試験		50%	最終的な理解度を評価する。			
	その他						
自由記載							
<b>【受講の心得】</b>							
1 事前・事後にテキストや参考文献を読むこと。 2 学修したことや自分の考えなどをまとめ、振り返りシートを書くこと。 3 発表や討議に積極的に取り組むこと。 4 配付する資料を整理しておくこと。							
<b>【授業外学修】</b>							
1 予習として、テキストのうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、テキストやノート、資料を読む。 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。							
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	小学校学習指導要領解説特別活動編			文部科学省			
自由記載							
参考書	書名			著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編			文部科学省			
	自由記載		授業において随時紹介する。				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>							
有							
<b>【担当教員の实務経験】</b>							
公立中学校理科教諭、県教育センター（佐々木弘記）							
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>							
学校、教育センター等での経験を生かして、教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。							

授業科目名	生徒指導・進路指導の理論と方法		サブタイトル		授業番号	CP211
担当教員名	住野 好久					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	3年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義及び教育課程における位置づけを『生徒指導提要』等を用いて学習するとともに、他の教職員や関係機関と連携しながら集団的・個別的な生徒指導・進路指導・キャリア教育を、組織的に進めていくために必要な知識・技能を具体的な実践事例を通して学習する。						
<b>【到達目標】</b>						
生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義及び教育課程における位置づけを理解するとともに、他の教職員や関係機関と連携しながら集団的・個別的な生徒指導・進路指導・キャリア教育を、組織的に進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：生徒指導の意義と課題 (担当住野)						
第2回：教育課程における生徒指導の位置づけ(1) 学習指導と生徒指導 (担当住野)						
第3回：教育課程における生徒指導の位置づけ(2) 道徳・特別活動等と生徒指導 (担当住野)						
第4回：生徒指導の実践形態と方法原理 (担当住野)						
第5回：子ども理解に基づく開発的生徒指導(1) 小学校低学年 (担当住野)						
第6回：子ども理解に基づく開発的生徒指導(2) 小学校中学年 (担当住野)						
第7回：子ども理解に基づく開発的生徒指導(3) 小学校高学年 (担当住野)						
第8回：学校における生徒指導体制 (担当住野)						
第9回：暴力問題への取組と生徒指導に関する法令 (担当住野)						
第10回：いじめ問題への取組と生徒指導に関する法令 (担当住野)						
第11回：不登校問題への対応と関係機関との連携 (担当住野)						
第12回：進路指導・キャリア教育の意義 (担当住野)						
第13回：キャリア・ガイダンスの理論と実践 (担当住野)						
第14回：キャリア・カウンセリングの理論と実践 (担当住野)						
第15回：まとめ (担当住野)						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート					
	小テスト	40%	毎回の授業後に、授業内容に関する小テストを行う。			
	定期試験	60%	授業内容に関する記述式の試験を行う。			
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
1) 事前・事後にテキストや参考資料を読むこと。						
2) 発表や討論に積極的に取り組むこと。						
3) 配付する資料を整理しておくこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として、テキストのうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。						
2 復習として、課題のレポートを書く。						
3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。						
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載	授業において随時紹介する。				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						



授業科目名	子どもと健康		サブタイトル	授業番号	CP212	
担当教員名	河原 智美					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	1単位		
開講年次	1年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b>						
<p>本科目は、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、領域「健康」の意図する目標、ねらい及び内容についての理解を深め、保育における「健康」（安全）教育の位置づけを明確にする。また、遊びや生活を通しての幼児の健康な姿や、家庭と園との生活の流れの中での幼児にとっての健康な生活リズムについて、幼児の発達の特徴や健康に関わる指導の観点を明確にし、保育者としてどのような健康観をもち、子どもたちに接するべきか常に考え、実践力ある保育者への意識の向上を図ることを目的とする講義をする。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>下記の諸点を本科目の到達目標に設定する。なお本科目はディプロマポリシーに掲げたの修得に貢献する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳幼児期の基本的な発達特性を理解して発表できる。</li> <li>2. こどもの健康と生活の関連性を理解できる。</li> <li>3. こどもの健康を促進させる保育の基本的視点を整理し、発表できる。</li> </ol>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：「健康」とは何か  第2回：子どもの「健やかな心と身体」を支えているもの(1)乳幼児期の発達と心の安定  第3回：子どもの「健やかな心と身体」を支えているもの(2)生活リズム  第4回：子どもの「健やかな心と身体」を支えているもの(3)安全と食を営む力  第5回：領域「健康」の指導計画の立案  第6回：領域「健康」の環境構成の具体とその留意点について  第7回：領域「健康」における保育者の役割について  第8回：領域「健康」と保育の実際(1)子どもが安定感をもつための保育の工夫  第9回：領域「健康」と保育の実際(2)子どもが進んで戸外で遊ぶ保育の工夫  第10回：領域「健康」と保育の実際(3)子どもが自分たちで生活の場を整えていく工夫  第11回：領域「健康」と保育の実際(4)子どもの食への関心と危険や安全への関心  第12回：領域「健康」指導上の留意事項(1)子どもの体力づくりと運動遊び  第13回：領域「健康」指導上の留意事項(2)保育環境の安全性  第14回：領域「健康」指導上の留意事項(3)子どもたちの食育  第15回：子どもの健康を育む保育の在り方</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	授業への積極的な態度や取組について評価する。		
	レポート		10%	レポートのテーマに応じた内容や構成について評価する。		
	小テスト					
	定期試験		60%	領域「健康」に関する知識・理解について評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
<p>保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「健康」について熟読しておく。日常生活の中で「健康とはどのような状態か」「幼児期にはぐむべき健康とは」ということについて自ら意識して考えたり、実際に子どもに接する機会を意図的にもち、子ども理解を深めたりしていく。そして、理解した内容を授業だけでなく今後の実習と結びつけていく。</p>						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 毎授業の単元について事前に教科書で範囲を熟読すること。また質問事項についてノートにまとめておくこと。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	コンパクト版 保育内容シリーズ健康		谷田貝公昭, 高橋弥生 編者	一藝社	2000円	978-4-86359-150-9
	自由記載					
参考書	自由記載		『最新保育講座7保育内容「健康」』著者名 河邊貴子・柴崎俊行・杉原隆編 発行所 ミネルヴァ書房 『新保育ライブラリ』保育内容 健康 著者名 民秋言・小田豊・栃尾勲・無藤隆 発行所 北大路書房 『保育所保育指針解説』厚生労働省 発行所 フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 発行所 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府 発行所 フレーベル館			
	【担当教員の実務経験の有無】		有			
	【担当教員の实務経験】		公立幼稚園教諭, 私立幼稚園園長			
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
より実践的な領域「健康」の指導ができるよう教育内容を指導する。						

(担当)

授業科目名	子どもと健康指導法		サブタイトル		授業番号	CP313
担当教員名	河原 智美					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
演習形式で、領域「健康」に関する具体的な指導法や指導計画について学習する。 また、遊びに関わるだけでなく、安全教育、食育、小学校との接続を踏まえた指導について考えていく						
<b>【到達目標】</b>						
幼児期の身体に関する問題は、多様化、複雑化している。保育所・幼稚園・認定こども園における幼児期の領域健康に関する具体的な指導内容について、方法とその具体的内容について理解することを目的とする。 子どもと健康の内容を踏まえ、ねらい及び内容に沿った指導方法と指導内容について学習する。また、実践における評価について学習する。 なお、本科目は、デュプロマポリシーに掲げた学士力のうちの修得に貢献する。なお、本科目はデュプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力><技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：領域「健康」のねらい及び内容の基本的な理解 第2回：領域「健康」のねらい及び内容を踏まえた指導上の留意点 第3回：領域「健康」の具体的指導場面（基本的生活習慣）の指導と幼児理解（ICT） 第4回：領域「健康」の具体的指導場面（集団遊び）の指導と幼児理解（ICT） 第5回：領域「健康」の具体的指導場面（ルールのある遊び）の指導と幼児理解（模擬保育） 第6回：領域「健康」の具体的指導場面（身体を動かして遊ぶ遊び）の指導と幼児理解（模擬保育） 第7回：領域「健康」の具体的指導場面（身体ふれあい遊び）の指導と幼児理解（模擬保育） 第8回：領域「健康」の具体的指導場面（用具を使用した遊び）の指導と幼児理解（模擬保育） 第9回：領域「健康」に関する安全指導と保健指導 第10回：食育に関する指導（3歳未満児を対象として） 第11回：食育に関する指導（3歳以上児を対象として） 第12回：乳幼児の病気とアレルギーに対する指導 第13回：特別な支援の必要な幼児における領域「健康」の指導 第14回：小学校を見通した領域「健康」における指導 第15回：領域「健康」における評価						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	授業への積極的な態度や取組について評価する。			
	レポート	20%				
	小テスト					
	定期試験	50%	領域「健康」の指導法に関する知識・理解について評価する。			
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児の健康に関する課題や問題について興味関心をもつこと。</li> <li>・保育における領域「健康」を踏まえた指導内容と指導方法について考えること。</li> </ul>						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 毎回、授業に使用するテキストを読み、授業内容の概要を理解すること。 2. 受講後は自身のノートの記載事項を1時間以上かけて整理し、分からないところを明確にしておくこと。 以上の内容を合わせて週4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の職務経歴】</b>						
公立幼稚園教諭，私立幼稚園園長						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
より実践的な領域「健康」の指導ができるよう教育内容を指導する。						

授業科目名	子どもと人間関係		サブタイトル	授業番号	CP214
担当教員名	廣畑 まゆ美				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	1単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	必修	授業形態	演習		
【授業の概要】					
領域「人間関係」は人とかかわる力を養う観点から示されている。この授業では、保育内容「人間関係」のねらい及び内容について理解し、保育者の役割や指導の在り方について学ぶ。					
【到達目標】					
子どもが人とかかわる力を身に付けていく過程をとらえ、「人とかかわる力の基礎」を理解する。 保育者・教育者に求められる幅広い教養と、保育・教育に関する専門的知識を習得していく。 保育者・教育者として、子どものよきモデルとなることができるよう、明るく・前向きで誠実な態度を身につける。 これらは、ディプロマポリシーにあげている学士力の内容<知識・理解><態度>の習得に貢献する。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力><技能><態度>の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：「人間関係」のねらいと内容...幼児期に求められる人間関係について理解する。 第2回：子どもの人間関係をめぐる現代的課題...多様な家族形態が抱える諸問題 第3回：子どもの人間関係の発達課題（1）...愛着関係の形成、情緒の形成、自我の発達 第4回：子どもの人間関係の発達課題（2）...いざこざを通した育ち、いざこざに対する保育者の援助 第5回：子どもの人間関係の発達課題（3）...道徳性と規範意識の芽生え 第6回：幼児期の生活や遊びの中での人と関わる力...子どもの姿を個と集団の関係から読み解く 第7回：遊びの発達と人間関係...遊びのなかで育まれる人間関係 第8回：保育者に求められる援助の視点...年齢別の援助とは、自立を考える 第9回：子どもの協同性を育む保育者の援助...「遊んでばかりは人間になる」を視聴、グループワーク 第10回：人間関係を結ぶ保育のあり方...遊びでつなぐ友だち作り 第11回：保育場面での気になる子どもとのかかわり...気になる子の人間関係と保育者の援助 第12回：乳児の人間関係；乳児期の人間関係の芽生え 第13回：子ども理解；子ども理解の視点，グループワーク 第14回：親の思いと家庭との関わり...保護者との信頼関係，子育て支援の今後の課題 第15回：定期試験にむけて；これまでの講義の振り返り，試験のポイント解説，質疑応答					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	授業への取組の積極性，発表などによる評価		
	レポート	30%	提出物，レポートが課題・テーマに沿って具体的に述べられたり，整理されたりしている。		
	小テスト				
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。		
	その他				
	自由記載				
【受講の心得】					
授業において、『しっかりと話を聞く』『自分の考えを話す』『記録の整理』をするなどを大切にすること。 また，演習では積極的に取り組み，乳幼児期の『人間関係』の大切さを学んでほしい。					
【授業外学修】					
テキストの授業内容にかかわる予習をして，課題をもって授業に出席する。授業後は振り返りをし，記録の整理やレポート作成をする。 人とかかわる「遊び」の計画や演習・実践後の反省など，授業前後の準備・振り返りをする。 このことについて，1時間以上の学修をすること。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	保育内容「人間関係」第2版	濱名浩 編	株式会社みらい	2100円＋税	9784860154455
	自由記載				
参考書	自由記載				
	【担当教員の実務経験の有無】 無				
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					

授業科目名	子どもと人間関係指導法		サブタイトル		授業番号	CP315
担当教員名	廣畑 まゆ美					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	必修			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
<p>本科目は、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、領域「人間関係」の意図する目標、ねらい及び内容についての理解を深め、子どもが「人とかかわる力」を身に付けていくための保育者の援助・指導あり方および保育者の位置づけを明確にする。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt;&lt;思考・問題解決能力&gt;&lt;技能&gt;&lt;態度&gt;の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：領域「人間関係」とは(1)  第2回：領域「人間関係」とは(2)  第3回：人とかかわりから見る乳幼児期の発達(1)  第4回：人とかかわりから見る乳幼児期の発達(2)  第5回：遊びの中の人とかかわりの育ち(1)  第6回：遊びの中の人とかかわりの育ち(2)  第7回：人とかかわりを支える「保育者の役割」(1)  第8回：人とかかわりを支える「保育者の役割」(2)  第9回：人とかかわりを支える「保育者の役割」(3)  第10回：人とかかわりで「ちょっと気になる子ども」(1)  第11回：人とかかわりで「ちょっと気になる子ども」(2)  第12回：人とかかわりを支え広げる実践(1)  第13回：人とかかわりを支え広げる実践(2)  第14回：領域「人間関係」における今日的課題  第15回：定期試験にむけて；これまでの講義の振り返り、試験のポイント解説、質疑応答</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	授業への取組の積極性、発表などによる評価		
	レポート		30%	提出物、レポートが課題・テーマに沿って具体的に述べられたり、整理されたりしている。		
	小テスト					
	定期試験		50%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
<p>授業において、『しっかりと話を聞く』『自分の考えを話す』『記録の整理』をするなどを大切にすること。  また、演習では積極的に取り組み、乳幼児期の『人間関係』における保育者の援助・指導法の大切さを学んでほしい。</p>						
<b>【授業外学修】</b>						
<p>テキストの授業内容にかかわる予習をして、課題をもって授業に出席する。授業後は振り返りをし、記録の整理やレポート作成をする。  人とかかわる「遊び」の計画や演習・実践後の反省など、授業前後の準備・振り返りをする。  このことについて、1時間以上の学修をすること。</p>						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	人間関係の指導法 改訂第2版(保育・幼児教育シリーズ)		若月芳浩・岩田恵子編著	玉川大学出版部	2400+税	4472405644
自由記載						
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	無					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	子どもと環境		サブタイトル		授業番号	CP216	
担当教員名	齊藤 住子 佐々木 弘記						
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	1単位		
開講年次	1年			開講期	後期		
必修・選択	選択			授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b> 「環境」に関わる内容を楽しく体験的に学び、環境に関する基礎力を養成する。							
<b>【到達目標】</b> 下記の諸点を本科目の到達目標に設定する。なお本科目はディプロマポリシーの修得に貢献する。 1. 「環境」のねらいについて、自分の言葉で語ることができる。 2. 環境の内容について、多様な視点から述べるができる。 3. 環境に関わるいろいろな活動を体験しながら、指導のための基礎力を身に付ける。 4. 子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導のポイントを体験的に会得する。							
<b>【授業計画】</b>							
<b>【授業計画 備考】</b> (1)領域「環境」についての内容、(2)自然を観察する時の基礎力として「理科ソング」、(3)実際の体験としての「工作」・「実技」の3項目を授業で行う。							
第1回：・幼児教育の基本と「環境」・幼児教育で育みたい資質・能力（担当（齊藤）） ・理科ソング「草花」・工作など「手裏剣」							
第2回：・領域「環境」のねらいと内容・理科ソング「七草」・工作「紙鉄砲」（担当（齊藤））							
第3回：・領域「環境」における乳児保育のねらい及び内容（担当（齊藤）） ・理科ソング「野菜の歌」・工作「兜」							
第4回：・領域「環境」における1歳以上3歳未満時の保育（担当（齊藤）） ・理科ソング「セミの歌」・工作「紙テープコマ」							
第5回：・領域「環境」内容の取り扱い（担当（齊藤）） ・理科ソング「甲虫類」・工作「紙飛行機」							
第6回：・植物との関わり・理科ソング「むせきつい動物」・しゃぼん玉・泡遊び（担当（齊藤））							
第7回：・植物採集と標本（押し葉）づくり・理科ソング「空の雲」（担当（齊藤））							
第8回：・自然、季節とのかかわり、自然現象、季節をとらえる遊び（担当（齊藤）） ・理科ソング（復習）・工作「押し葉絵」							
第9回：・生き物（動物・昆虫）との関わり・理科ソング（復習）（担当（齊藤）） ・工作「秋の自然物を使って(1)」							
第10回：・物「素材・道具」との関わり・理科ソング（復習）（担当（齊藤）） ・工作「秋の自然物を使って(2)」							
第11回：・数量や図形との関わり、園行事と子ども・理科ソング（復習）（担当（齊藤）） ・工作「節分」							
第12回：・標識や文字との関わり・理科ソング（復習）（担当（齊藤）） ・実技「お手玉、あやとり」							
第13回：・情報や施設との関わり（担当（佐々木））							
第14回：・地域社会と文化と伝統、遊びを通しての地域社会との連携・交流（担当（齊藤）） ・理科ソング（復習）・実技「けん玉」							
第15回：・他の領域や小学校教育との関わり、領域「環境」全体のまとめ（担当（齊藤）） ・理科ソング（復習）・工作「依頼がし」							
<b>【授業計画 備考2】</b> (1)テキスト(2)ノート(3)ハサミ(4)セロテープ 色マジック 授業時間に指示した物							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度		10%	発言、実技の態度			
	レポート		20%	記述内容（要点を押さえているか、自分の考えを述べているか等）			
	小テスト						
	定期試験		50%	環境の内容、理科ソング 習得度			
	その他		20%	植物標本、工作物、実技			
自由記載							
<b>【受講の心得】</b> ・環境の内容を楽しく体験しながら、子どもの興味・関心、主体性について考えてもらいたい。							
<b>【授業外学修】</b> ・身近な動植物を意識的に探し、子どもがどのような反応をするか、遊びに使えるかなどを考えること。 ・身近な物質で子どもが喜びそうな物を探し工作などをしてみること。 ・季節の変化に注意し言葉で表現すること。 ・地域の伝統・文化を探ぐり体験してみる。							
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 環境			無藤隆 監修	萌文書林	2200	978-4-89347-258-8
自由記載							
参考書	自由記載						
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 無						
	<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						

授業科目名	子どもと環境指導法		サブタイトル	授業番号	CP317
担当教員名	齊藤 佳子				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	2単位	
開講年次	2年		開講期	前期	
必修・選択	選択		授業形態	講義	
【授業の概要】					
<p>幼児は身近な環境や自然に好奇心や探求心をもって関わり、発見を楽しんだり考えたり、生活に取り入れる。本授業では、幼児を取り巻く「環境」を整理し、保育者としての指導に必要な基礎的な知識と技能を具体的な活動を通して体験的に学ぶ。また具体例を取り上げ、幼児の発達段階の特徴や興味・関心、遊びの発展や展開を踏まえた環境の構成の仕方と保育者の配慮、その環境で幼児がどのような活動をするかについて考える。</p>					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「環境」のねらいと内容についてポイントを押さえて解説することができる。</li> <li>・「環境」の内容を具体的な事物を使いながら、子どもの活動をイメージすることができる。</li> <li>・子どもたちに考えさせたり、工夫させたりするポイントを明確に指摘することができる。</li> <li>・対象物の特性や使用する道具の使い方などの基礎知識を身につけ、どのように指導すればよいかを説明することができる。</li> <li>・「環境」の活動の楽しさを実感し、子どもにどのように接すればよいかを話すことができる。</li> <li>・具体的な指導計画を作ることができる</li> </ul> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt;&lt;思考・問題解決能力&gt;&lt;技能&gt;&lt;態度&gt;の修得に貢献する。</p>					
【授業計画】					
【授業計画 備考】					
<p>領域「環境」の基礎知識の整理 (1)子どもを取り巻く環境 (2)ねらいと内容 (3)園の環境 (4)子どもの発達と環境          実際に体験する活動          工夫したり、調べる活動          考える活動          指導計画をつくる</p>					
<p>第1回：・保育の基本と環境・子どもを取り巻く環境          第2回：・「環境」のねらい及び内容          第3回：・園の環境・子どもの発達と環境          第4回：・自然とふれあい感動する・植物の栽培（体験する活動）（調べる）（考える）          第5回：・物事の法則性に気づく（体験する活動）（調べる）（考える）          第6回：・季節感を味わう（体験する活動）（調べる）（考える）          第7回：・自然を取り入れて遊ぶ（体験する活動）（調べる）（考える）          第8回：・生き物との関わり・生命の営みに触れる・ダムゴムシ探しと飼育（体験する活動）（調べる）（考える）          第9回：・身のまわりの物に愛着をもつ（体験する活動）（調べる）（考える）          第10回：・科学を体感する・かいわれ大根の水栽培（体験する活動）（調べる）（考える）          第11回：・数量・図形に親しむ（体験する活動）（調べる）（考える）          第12回：・標識や文字の必要性を育む（体験する活動）（調べる）（考える）          第13回：・園外の活動・身近な情報や施設を生かし、生活を豊かにする（体験する活動）（調べる）（考える）          第14回：・指導計画をつくる(1)・指導形態とカリキュラム・指導計画作成手順          第15回：・指導計画をつくる(2)</p>					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	10%	意欲的な姿勢・授業態度		
	レポート	20%	授業ごとのレポート内容、ダムゴムシの飼育、かいわれ大根の水栽培		
	小テスト				
	定期試験	60%	「環境」基礎知識 習熟度		
	その他	10%	指導計画（指導案）の内容		
	自由記載		<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業ごとに自分で感じたこと、工夫したこと、考えたことについてのレポートを作成して提出する。</li> <li>・基礎概念の理解度についての試験を実施する。</li> </ul>		
【受講の心得】					
・授業に前向きに取り組む、考えたり、工夫しようとしている姿勢を重視する。					
【授業外学修】					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的に環境を意識し、子どもの視点で美しいものや興味を引きそうなものを探し、ノートに記録する。</li> <li>・身近なものを使い、子どもが喜びそうな工作を考える。</li> </ul>					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	改訂第2版 環境の指導法	若月 芳治 編著	玉川大学出版部	2640円（本体2400+税）	4472405652
	自由記載				
参考書	自由記載				
	【担当教員の実務経験の有無】				
	無				
	【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】				
	無				

授業科目名	子どもと言葉		サブタイトル		授業番号	CP218
担当教員名	伊藤 智里					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	1単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
【授業の概要】						
発達にともなう子どもの「言葉」の世界の広がりについて、テキストから詳しく学び、理解を深める。また、言葉を通して、豊かな表現力の育ちを支えるための具体的な保育実践のあり方について学ぶ。						
【到達目標】						
保育内容領域「言葉」について理解する。幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身に付ける。人間にとっての話し言葉や書き言葉の意義と機能について説明できる。言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身に付ける。児童文化財について基礎的知識を身に付ける。これらは、ディプロマポリシーに挙げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の習得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：保育の基本と領域「言葉」（1）保育の基本 第2回：保育の基本と領域「言葉」（2）保育の専門性、領域「言葉」と保育内容 第3回：乳幼児の言葉の発達を支えるもの（養育者・保育者との関係性と言葉の発達） 第4回：言葉としての身体表現、コミュニケーションとしての言葉 - 映像を通して - 第5回：「なぜ」、「どうして」と言う質問を通して育つもの - 事例・協議から - 第6回：友達のおしゃべりやトラブルを通して育つもの - 事例を通して - 第7回：いろいろな言葉遊びを知り、言葉の広がり理解する - 体験を通して - 第8回：いろいろな文化財の意義を知り、保育への取り入れ方を知る - 事例を通して - 第9回：いろいろな文化財の意義を知り、保育への取り入れ方を知る 第10回：絵本についての意義を知り、読み聞かせ体験をする 第11回：紙芝居についての意義を知り、演じる体験をする 第12回：素話についての意義を知り、話す体験をする 第13回：読む・書くなどの遊びや環境の中での文字の意味や役割を理解する - 映像を通して - 第14回：読む・書くなどの遊びや環境の中での文字の意味や役割を理解する 第15回：幼児教育の現代的課題と領域「言葉」						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	授業への積極的な取組（体験、発表など）による評価。		
	レポート		30%	提出物が課題・テーマに沿って具体的に述べられたり、整理されていたりする。		
	小テスト					
	定期試験		50%	最終的理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
【受講の心得】						
授業は自ら学ぶ姿勢でのぞむとともに、保育者・教育者として子どものよきモデルとなることができるよう前向きで誠実な態度でのぞむ。						
【授業外学修】						
テキスト及び参考書の授業内容にかかわる部分を予習をして、課題を把握し、授業に出席する。授業後は振り返りをし、記録の整理やレポート作成をする。いろいろな児童文化財による実践・演習などの授業前後の準備・振り返りをする。このことについて、1時間以上の学修をすること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	保育内容「言葉」		柴崎 正行他	ミネルバ書房	2200 + 税	
	自由記載					
参考書	自由記載		幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説			
	【担当教員の実務経験の有無】					
	無					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】						
無						

授業科目名	子どもと言葉指導法		サブタイトル		授業番号	CP319
担当教員名	伊藤 智里					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	3年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
模擬保育・事例・映像などを基に、体験したり、協議したりして領域「言葉」の視点から、幼児を理解したり、環境構成、指導上の留意点及び、保育の構想などを理解したりする。						
<b>【到達目標】</b>						
授業の到達目標及びテーマ						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。</li> <li>・領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。</li> <li>・指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。</li> <li>・模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。</li> </ul>						
なお、本科目はディプロマポリシーにあげた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：幼児教育の基本を踏まえ、保育内容 領域「言葉」のねらい及び内容について 乳幼児の言葉の発達から人との関わり、非言語的なコミュニケーションの重要性について</p> <p>第2回： パーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーションを体験し理解と援助を探る</p> <p>第3回：言葉の遅れがある幼児や障害がある幼児などの援助について - 事例・映像を通して -</p> <p>第4回：ごっこ遊びを通して、環境構成、保育者の援助、幼児理解などを探る - 事例を通して -</p> <p>第5回：生活や遊びの中で、幼児と保育者が創作紙芝居を作るまでの過程を知り、領域との関連、情報機器や教材活用を理解する。 - 事例・映像を通して -</p> <p>第6回：生活や遊びの中で、幼児と保育者が創作紙芝居を作るまでの過程を知り、幼児理解と指導の援助、評価を理解する。 - グループ協議 -</p> <p>第7回：読む・書くを通しての遊びや環境構成を知り、保育の構想を考える - 事例・映像を通して -</p> <p>第8回：読む・書くを通しての遊びや環境構成、指導上の留意点など理解する</p> <p>第9回：絵本・素話から劇遊びに発展した事例をもとに、指導の経過、保育の構想を理解する</p> <p>第10回：領域「言葉」と総合的な活動とのつながり：絵本・素話を通して、劇遊びに発展した事例をもとにねらい・内容、環境構成・指導上の留意点を理解する - 映像 V を通して -</p> <p>第11回：いろいろな児童文化財を利用し、どう保育に取り入れるかを考える</p> <p>第12回：いろいろな児童文化財を利用し、保育に取り入れ、指導案を作成する - グループ活動 -</p> <p>第13回：いろいろな児童文化財を利用し、模擬保育を行う - グループ活動 -</p> <p>第14回：いろいろな児童文化財を利用し、模擬保育、評価・改善を行う - グループ活動 -</p> <p>第15回：幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の中で、領域「言葉」との関係の深い「言葉による伝え合い」と他領域との関係（総合的な指導）など小学校とのつながりを考える</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	授業への積極的な取組、発表などによる評価		
	レポート		30%	提出物が課題・テーマに沿って具体的に述べられたり、整理されていたりする		
	小テスト					
	定期試験		50%	最終的理解度を評価する		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
授業は自ら学ぶ姿勢でのぞむとともに、具体的な指導を想定して保育を構想する方法を身に付けることのできるよう主体的に受講する。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載 幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						



授業科目名	子どもと表現		サブタイトル	授業番号	CP220
担当教員名	柏原 寛 土師 範子 織田 典恵				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	1単位	
開講年次	2年		開講期	後期	
必修・選択	選択		授業形態	演習	
【授業の概要】					
「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことが領域「表現」の目指すものである。領域表現に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現あそびや環境の構成などについて実践的に学ぶ。なお、本講義はディプロマ・ポリシーの<思考・問題解決能力><技能>の修得に貢献する。					
【到達目標】					
(1)幼児の表現の姿や、その発達を理解する。 1)幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。 2)表現を生成する過程について理解している。 3)幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。 (2)身体・造形・音楽表現などの様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。 1)様々な表現を感じる・みる・きく・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。 2)身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を活かした表現ができる。 3)表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。 4)協働して表現することを通して、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。 5)様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。					
【授業計画】					
第1回：「表現」と出会う（伝える・受け止めるを通じた表現の生成過程）（担当土師範子）					
第2回：「表現」と身体（生活と動きの気づき）（担当織田典恵）					
第3回：「表現」と音楽（自然の音を感じ、楽器で表現）（担当土師範子）					
第4回：「表現」と色・形（素材との出会い-素材の特性を活かして-）（担当柏原寛）					
第5回：「表現」と身体（言葉と動きの工夫）（担当織田典恵）					
第6回：「表現」と音楽（身近な音を、楽器で表現）（担当土師範子）					
第7回：「表現」と色・形（自然との出会い -身近な自然との関わりを活かして-）（担当柏原寛）					
第8回：「表現」と身体（音と動きの楽しみ）（担当織田典恵）					
第9回：「表現」と音楽（リズム遊びを展開）（担当土師範子）					
第10回：「表現」と色・形（描画材との出会い-描画の関わりを活かして-）（担当柏原寛）					
第11回：幼児表現の特徴（みて、感じて、よみとる）（担当織田典恵）					
第12回：「表現」と身体（イメージと動きの味わい）（担当織田典恵）					
第13回：「表現」と音楽（楽器を使ってアンサンブル）（担当土師範子）					
第14回：「表現」と色・形（イメージとの出会い -言葉や物語との関わりを活かして-）（担当柏原寛）					
第15回：ICTの活用と総括（担当柏原寛）					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢/態度				
	レポート		60%	「幼児の表現を支える」ことについて具体的に述べていること。	
	小テスト		40%	各回のポイントの理解を評価する。	
	定期試験				
	その他				
自由記載		授業内での小課題（40%）、最終レポート(60%)での学びの成果を評価する。			
【受講の心得】					
「感性や創造性を豊かにする」とはということなのかについて探求してほしい。					
【授業外学修】					
1. 復習として課題を課すことがある。 2. 予習として資料を配布することがある。 以上の内容を週あたり4時間以上学修することが望ましい。					
使用テキスト	自由記載	幼稚園教育要領、保育所保育指針、保幼連携型認定こども園教育・保育要領			
参考書	自由記載	適宜提示する。			
【担当教員の実務経験の有無】					
有					
【担当教員の实務経験】					
音楽教室主宰・NPO法人日本こども教育センターリトミック認定講師(織田典恵)					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】					
無					
【実務経験をいかした教育内容】					
幼児におけるリトミックレッスン等の経験より、子どもの表現活動の指導としての在り方及び指導方法を修得させる(織田典恵)					

授業科目名	子どもと表現指導法		サブタイトル	授業番号	CP321
担当教員名	柏原 寛 土師 範子 織田 典恵				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	2単位	
開講年次	3年		開講期	前期	
必修・選択	選択		授業形態	講義	
【授業の概要】					
幼児教育において育みたい資質能力を理解し、領域「表現」のねらい及び内容について、関連する専門領域に触れながら、幼児の発達に即して、深い学びが実現する課程を踏まえ、具体的な指導場面を想定して保育を構想する力を身につける。					
【到達目標】					
(1)幼児教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。 1)幼児教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 2)領域「表現」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解している。 3)幼児教育における評価の考え方を理解している。 4)領域「表現」に関わる幼児が経験し身につけていく内容の関連性及び小学校の教科とのつながりを理解している。 (2)幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。 1)幼児の心情、認識、思考及び動きなどを視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 2)領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。 3)指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 4)模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけている。 5)領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力><技能><態度>の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：領域「表現」のねらい及び内容 (担当土師 範子) - 幼稚園教育要領・保育所保育指針をもとに -					
第2回：「表現」の具体的な内容と幼児の発達段階を踏まえた指導上の留意点(形、色、手触り)(2歳児未満) (担当柏原 寛)					
第3回：「表現」の具体的な内容と幼児の発達段階を踏まえた指導上の留意点(音)(2歳児未満) (担当土師 範子)					
第4回：「表現」の具体的な内容と幼児の発達段階を踏まえた指導上の留意点(動き)(2歳児未満) (担当織田 典恵)					
第5回：「表現」の具体的な内容と幼児の発達段階を踏まえた指導上の留意点(形、色、手触り)(3歳児～6歳児) (担当柏原 寛)					
第6回：「表現」の具体的な内容と幼児の発達段階を踏まえた指導上の留意点(音)(3歳児～6歳児) (担当土師 範子)					
第7回：「表現」の具体的な内容と幼児の発達段階を踏まえた指導上の留意点(動き)(3歳児～6歳児) (担当織田 典恵)					
第8回：具体的な指導場面と保育構想(形、色、手触り) (担当柏原 寛)					
第9回：具体的な指導場面と保育構想(音) (担当土師 範子)					
第10回：具体的な指導場面と保育構想(動き) (担当織田 典恵)					
第11回：指導案の構造と作成 (担当織田 典恵)					
第12回：模擬保育と振り返り(形、色、手触り) (担当柏原 寛)					
第13回：模擬保育と振り返り(音) (担当土師 範子)					
第14回：模擬保育と振り返り(動き) (担当織田 典恵)					
第15回：ICTの活用と表現の発達(小学校との関連) (担当柏原 寛)					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢/態度				
	レポート		60%	領域「表現」に関わる保育について具体的に記述していること。	
	小テスト		40%	各回のポイントの理解を評価する。	
	その他				
	自由記載	授業内での小課題(40%)、最終レポート(60%)での学びの成果を評価する。			
【受講の心得】					
「感性や創造性を豊かにする」とはということなのかについて探求してほしい。					
【授業外学修】					
1. 復習として課題を課すことがある。 2. 予習として資料を配布することがある。 以上の内容を週あたり4時間以上学修することが望ましい。					
使用テキスト	自由記載	幼稚園教育要領、保育所保育指針、保幼連携型認定こども園教育・保育要領			
参考書	自由記載	適宜提示する。			
【担当教員の実務経験の有無】					
有					
【担当教員の实務経験】					
音楽教室主宰・NPO法人日本こども教育センターリトミック認定講師(織田典恵)					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】					
無					
【実務経験をいかした教育内容】					
幼児におけるリトミックレッスン等の経験より、子どもの表現活動の指導としての在り方及び指導方法を修得させる(織田典恵)					

授業科目名	子どもと音楽		サブタイトル	授業番号	CP222
担当教員名	河田 健二 織田 典恵 川崎 泰子				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	1単位	
開講年次	3年		開講期	前期	
必修・選択	選択		授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>					
<p>幼児にとって音を通じた遊びは本来、楽しく有意義なものである。その中で、拍節的な活動は身体的、知的な発達を促進させ、無拍節的な活動は叙情的な活動を助長する。そこで楽器遊び、描写的な音楽作りを実体験しながら、保育の実践者としての表現法と指導法を探っていく。また、音楽を使った身体表現について、基礎知識を習得するとともに保育・教育現場での活用方法を学修する。</p>					
<b>【到達目標】</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達を理解し、発達に応じた音楽表現に必要な理論及び音楽的技法を修得する。</li> <li>・音楽を使った身体表現のために必要な知識を習得し、現場で実践できる技能を身につける。</li> </ul> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt; &lt;思考・問題解決能力&gt; &lt;技能&gt; &lt;態度&gt;の修得に貢献する。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
<p>第1回：幼児の発達と音楽1 - わらべ歌、童謡 (担当河田 健二 川崎泰子)</p> <p>第2回：幼児の発達と音楽2 - 子どもの歌と伴奏 (担当河田 健二 川崎泰子)</p> <p>第3回：幼児の発達と音楽3 - 子どもの生活と音楽表現 (担当河田 健二 川崎泰子)</p> <p>第4回：生活と遊びの中の音1 - 身近な自然やものの音や音色、人の声や音楽等に親しむ経験 (担当河田 健二 川崎泰子)</p> <p>第5回：生活と遊びの中の音2 - 音と保育の環境 (担当河田 健二 川崎泰子)</p> <p>第6回：生活と遊びの中の音楽3 - 拍節とリズム (担当河田 健二 川崎泰子)</p> <p>第7回：音楽の仕組みと諸要素 (担当河田 健二 川崎泰子)</p> <p>第8回：動きとリズム、人の声や音楽 - 乳幼児 (担当河田 健二 川崎泰子 織田典恵)</p> <p>第9回：動きとリズム - 1歳児 (担当河田 健二 川崎泰子 織田典恵)</p> <p>第10回：動きとリズム - 2歳児 (担当河田 健二 川崎泰子 織田典恵)</p> <p>第11回：動きとリズム - 3歳児 (担当河田 健二 川崎泰子 織田典恵)</p> <p>第12回：動きとリズム - 4歳児 (担当河田 健二 川崎泰子 織田典恵)</p> <p>第13回：動きとリズム - 5歳児 (担当河田 健二 川崎泰子 織田典恵)</p> <p>第14回：動きとリズム - 6歳児 (担当河田 健二 川崎泰子 織田典恵)</p> <p>第15回：楽曲の仕組みと伴奏法 (担当河田 健二 川崎泰子)</p>					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	授業に取り組む姿勢、態度、発表。	
	レポート		30%	添削後、返却する。	
	小テスト		20%	知識の理解度。動きとリズムの表現技法。	
	定期試験		20%	知識の理解度と定着度。動きとリズムの表現技法。	
	その他				
	自由記載	【受講の心得】 授業で習得した理論や技術が次回の授業で表出・発揮できるよう、努力してください。			
<b>【受講の心得】</b>					
保育実践者を意識しながら自らが表現することを主眼に置くため、積極的であること。					
<b>【授業外学修】</b>					
<p>授業で提示される次回の内容について、予習すること。</p> <p>授業で提示された課題を実施し、復習すること。</p> <p>上記の内容を、週当たり1時間程度学修すること。</p>					
使用テキスト	自由記載	こどものうた100 (小林美実編著, チャイルド本社) 楽しみながら体を動かす1~5歳のリトミック (神原雅之監修, ナツメ社) 大人のための音楽ワーク (ヤマハ出版)			
参考書	自由記載	授業中に適宜資料を配布する。			
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>					
音楽教室主宰・NPO法人日本こども教育センターリトミック認定講師(織田典恵)					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
幼児におけるリトミックレッスン等の経験より、子どもの表現活動の指導としての在り方及び指導方法を修得させる(織田典恵)					

授業科目名	子どもと音楽研究		サブタイトル		授業番号	CP323
担当教員名	土師 範子					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	1単位	
開講年次	3年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
「基礎音楽A・B」で培った技能・経験をもとに、保育やの現場で要求される「表現」と「弾き歌い」の技術と知識を系統的に学習する。また、表現活動に係る教材の活用と具体的な展開を理解する。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。</li> <li>・身体表現、音楽表現、の表現活動に関する知識や技術を習得する。</li> <li>・表現活動に係る教材等の活用及び作成と、具体的展開のための技術を習得する。</li> </ul> なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力><技能><態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：子どもの成長と身体表現 (担当土師範子) 第2回：子どもの成長と音楽 - 遊びをとおして (担当土師範子) 第3回：表現活動と身体表現 - 音・音色・音楽 (担当土師範子) 第4回：子どもの歌とピアノ・リズム1 (担当土師範子) 第5回：子どもの歌とピアノ・リズム2 (担当土師範子) 第6回：ピアノによる簡易伴奏の作り方 (担当土師範子) 第7回：弾き歌いの表現法1 (担当土師範子) 第8回：弾き歌いの表現法2 (担当土師範子) 第9回：音楽表現 - 歌唱1 (担当土師範子) 第10回：音楽表現 - 歌唱2 (担当土師範子) 第11回：音楽表現 - 器楽1 MLを活用して (担当土師範子) 第12回：音楽表現 - 器楽2 MLを活用して (担当土師範子) 第13回：音楽表現 - 弾き歌い1 (担当土師範子) 第14回：音楽表現 - 弾き歌い2 (担当土師範子) 第15回：表現法のまとめと考察 (担当土師範子)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	受講態度、姿勢、発表。		
	レポート		30%	課題・レポートの、理解度・定着度。添削後、返却する。		
	小テスト		20%	授業内の筆記・実技等の小テスト		
	定期試験		20%	理解度、定着度。		
	その他					
	自由記載	【受講の心得】 授業で習得した理論や技術が次回の授業で表出・発揮できるよう、努力してください。				
<b>【受講の心得】</b>						
毎回の授業で提案される課題への取り組みが肝要。音楽の理論を理解し、毎日課題を演習することで、子どもと関わるために必要な音楽技法と進歩します。保育実践者を意識しながら自らが表現することを主眼に置くため、積極的であること。						
<b>【授業外学修】</b>						
授業で提示される次回の内容について、予習すること。 授業で提示された課題を実施し、復習すること。 上記の内容を、週当たり2時間程度学修すること。						
使用テキスト	自由記載	大人のための音楽ワーク「テキスト」及び「ドリル」、『続こどもの歌200』、「楽しみながらからだを動かす1～5歳のかんたんリトミック」				
参考書	自由記載	授業の中で、その都度紹介します。				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

# 中国学園大学 令和3年度(2021年度) シラバス

<b>授業科目名</b>	<b>子どもと造形</b>	<b>サブタイトル</b>		<b>授業番号</b>	CP224
<b>担当教員名</b>	伊藤 智里 柏原 寛				
<b>対象学部・学科</b>	子ども学部 子ども学科	<b>単位数</b>	1単位		
<b>開講年次</b>	1年	<b>開講期</b>	前期		
<b>必修・選択</b>	選択	<b>授業形態</b>	演習		
<b>【授業の概要】</b>					
この講義では、幼児の「表現とその発達」について理解するとともに、幼児の感性や創造性を豊かにする専門的事項について身につけることを目的とする。					
<b>【到達目標】</b>					
(1)幼児の表現の姿や、その発達について理解する。 1-1)子どもの遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。 1-2)子どもの素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。 (2)造形表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通して、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。 2-1)様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。 2-2)身の周りのものを諸感覚で捉え、素材の特性を活かした表現ができる。 2-3)協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め、共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。 2-4)様々な表現の基礎的な知識技能を活かし、子どもの表現活動を展開させることができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<思考・問題解決能力> <技能>の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：「表現」に出会う (担当伊藤)					
第2回：表現活動におけるICTの活用 (担当伊藤)					
第3回：素材との出会い (担当伊藤)					
第4回：加工との出会い (担当伊藤)					
第5回：生活との出会い (担当伊藤)					
第6回：自然との出会い (担当伊藤)					
第7回：道具との出会い (担当伊藤)					
第8回：シンボルとの出会い (担当伊藤)					
第9回：イメージとの出会い (担当伊藤)					
第10回：物語との出会い (担当伊藤)					
第11回：他者との出会い (担当伊藤)					
第12回：見立てとの出会い (担当伊藤)					
第13回：総合的な表現1 (担当伊藤)					
第14回：総合的な表現2 (担当伊藤)					
第15回：表現活動の振り返り (担当柏原)					
<b>評価の方法</b>	<b>種別</b>	<b>割合</b>	<b>評価規準・その他備考</b>		
	授業への取り組みの姿勢/態度	40%	意欲的な授業態度、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート	20%	ポイントの理解を記述内容によって評価する。		
	小テスト				
	定期試験				
	その他	40%	スケッチブック等の内容により評価する		
	<b>自由記載</b>				
<b>【受講の心得】</b>					
「感性や創造性を豊かにする」とはということなのかについて探求してほしい。					
<b>【授業外学修】</b>					
1. 復習として、課題を課すことがある。 2. 予習として、資料を配布することがある。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修することが望ましい。					
<b>使用テキスト</b>	<b>自由記載</b>	適宜、提示する。			
<b>参考書</b>	<b>自由記載</b>	適宜、提示する。			
<b>【その他】</b>					
はさみ、のり、テープ、色鉛筆、水彩絵具、定規、コンパス、カッター、スケッチブックなど、様々な画材、素材、道具を使用する。図工・造形セット等、詳しい授業の準備物は授業の中で提示する。					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
無					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					

授業科目名	メディア教育演習		サブタイトル		授業番号	CP225
担当教員名	岸 誠一 梅原 嘉介					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	1単位	
開講年次	4年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
現代社会における教育や保育の現場において必要となるメディアの基礎的知識を習得するために、本演習では、特に教育メディアの特性とその活用法について学修する。						
<b>【到達目標】</b>						
教育メディアの特性を理解し、教育や保育の現場に応じて、有効なメディアを選択し、活用できる技能を修得する。なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞と＜技能＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：メディア教育とは 第2回：ネット社会を生きる子どもの現状と課題 第3回：情報モラルの指導案作りと模擬授業 第4回：教育メディアと著作権 第5回：画像処理とその活用I 第6回：画像処理とその活用II 第7回：動画編集とその活用I 第8回：動画編集とその活用II 第9回：動画編集とその活用III 第10回：プレゼンテーションの基本 第11回：プレゼンテーションソフトの活用 第12回：アクティブラーニングのためのICTの活用について 第13回：模擬授業のための教育メディア教材作成およびICT活用のための指導案（ICT活用レシピ）作成 第14回：教育メディアを活用した模擬授業とその評価I 第15回：教育メディアを活用した模擬授業とその評価II						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		30%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予習・復習の状況によって評価する。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他		70%	授業中出題する演習課題（課題解決を図るための基本的な技法を理解しているか）について評価する		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
毎回出席し、課題をきちんと提出すること。分からないことは、質問すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1．授業ごとに紹介する参考資料や、eラーニング教材（予習用の動画教材）を次回授業までに熟読したり、しっかり視聴したりして、よく予習をしておくこと。 2．PCの操作技能等を身につけるために、随時復習をすること。 3．模擬授業のための学習指導案および最終レポートを作成すること。						
1および2の内容については週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	適宜、提示する。				
参考書	自由記載	適宜、紹介する。				
<b>【その他】</b>						
パソコンを大切に使用すること。						
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	小学校教育基礎演習		サブタイトル		授業番号	CP126
担当教員名	姫野 俊幸 岸 誠一 溝田 知茂 村井 隆人					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
小学校教員を養成するための基礎科目として、教職に関する基礎的な理解を深めることを目的とする。						
<b>【到達目標】</b>						
基礎的な小学校教員の職務内容について理解し、自分自身の適性について考える。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：小学校の教師になるとはどのようなことなのか考える (担当姫野)						
第2回：どんな小学校教師になりたいのか考える (担当姫野)						
第3回：教員免許状はどのように授与されるのかを知る (担当姫野)						
第4回：小学校教師になるために大学で学ぶべきことは何なのかを考える (担当姫野)						
第5回：小学校教師の仕事とはどのようなものなのかを知る (担当姫野)						
第6回：小学校での生徒指導を考える (担当姫野)						
第7回：小学校での保護者対応について考える (担当姫野)						
第8回：小学校の特色ある学校づくりについて知る (担当姫野)						
第9回：小学校の授業を参観する (担当姫野)						
第10回：小学校でのボランティアを体験する (担当姫野，岸，溝田，村井)						
第11回：小学校の先生と話してみる (担当姫野)						
第12回：模擬授業に挑戦してみる(1) (担当姫野)						
第13回：模擬授業に挑戦してみる(2) (担当姫野)						
第14回：模擬授業に挑戦してみる(3) (担当姫野)						
第15回：授業のまとめと最終レポートを作成する (担当姫野)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	意欲的な受講態度，予習・復習の状況によって評価する。		
	レポート		50%	レポートの記述内容と提出状況を評価する。		
	小テスト		20%	各回の主要なポイントの理解を評価する。		
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
小学校教員を目指す学生を対象としている授業である。高い意欲を持って受講すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として，事前に配布された資料を読み，疑問点を明らかにする。						
2 復習として，授業内容・配布資料をノートにまとめる。						
3 発展学習として，授業に関連した参考資料・文献を読み，ノートにまとめる。						
以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
公立小学校教諭・校長，県生涯学習センター，県情報教育センター（岸 誠一），公立小学校教諭・教頭・校長，教育委員会事務局（姫野俊幸）						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
学校現場での現場体験を通して得た実践的な知見を学生に伝えることで，実感を伴った理解を図り，学習指導力，生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。						

授業科目名	小学校教育基礎研究		サブタイトル		授業番号	CP227
担当教員名	姫野 俊幸 岸 誠一 溝田 知茂 村井 隆人					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
小学校教員を養成するための基礎科目として、教職に関する基礎的な理解を深めることで、教師になりたいという気持ちを確かなものにする。						
<b>【到達目標】</b>						
基礎的な小学校教員の職務内容について現場体験を通して理解し、教師を目指す思いを高める。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜態度＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：小学校の教師になるために必要なことを考える (担当姫野)						
第2回：授業参観に向けての教材研究に挑戦する (担当姫野)						
第3回：授業参観（岡山市立吉備小学校） (担当村井，姫野)						
第4回：小学校の1日を想像する (担当姫野)						
第5回：小学生との交流に向けての交流企画立案と準備をする (担当姫野)						
第6回：小学生との交流（岡山市立吉備小学校） (担当岸，姫野)						
第7回：自分の教室の掲示物を作ってみる (担当姫野)						
第8回：小学校の体育の時間を体験する (担当溝田，姫野)						
第9回：教育委員会事務局の方の話を聞く (担当姫野)						
第10回：ふじぎサイエンスクラブに入部する (担当姫野)						
第11回：「読み聞かせ絵本動画」を作成する(1) (担当姫野)						
第12回：「読み聞かせ絵本動画」を作成する(2) (担当姫野)						
第13回：学校生活を豊かにする係活動を考える (担当姫野)						
第14回：小学校教員としてのやりがいについて，現場教員の話を聞く (担当姫野)						
第15回：授業のまとめと最終レポートを作成する (担当姫野)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		50%	意欲的な受講態度，活動や討議への積極的な取り組みの状況によって評価する。		
	レポート		50%	レポートの内容と提出状況を評価する。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
小学校教員を目指す学生を対象としている授業である。高い意欲を持って受講すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1．授業ごとに配付したり，紹介したりする参考資料等をよく読み込み，次時の予習とする。						
2．授業内容について興味をもった事柄について，自ら深く調べることで復習とする。						
以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
公立小学校教諭・校長，県生涯学習センター，県情報教育センター（岸 誠一），公立小学校教諭・教頭・校長，教育委員会事務局（姫野俊幸）						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
学校現場での現場体験を通して得た実践的な知見を学生に伝えることで，実感を伴った理解を図り，学習指導力，生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。						



授業科目名	保育・教職実践演習(幼・小)		サブタイトル	(幼・小)	授業番号	CP428
担当教員名	岸 誠一 姫野 俊幸 村井 隆人 伊藤 智里 土師 範子 河原 智美 梅原 嘉介					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	4年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
【授業の概要】 4年間における個々の科目の履修ならびに各種の実習において修得した専門的な知識・技能を基礎として、教員としての使命感や責任感、教育的愛情等を持って、教育活動の具体的場面で生きて働く知への総合・統合を図る。この過程でのグループ討議の中で対人的なコミュニケーション能力の向上と同僚性の涵養を図っていききたい。また、履修カルテを参照し、個別的に補完指導を行う。						
【到達目標】 保育士、幼稚園教諭、小学校教諭のいずれにも共通して、 (1)子どもを理解する力、(2)保育(授業)をデザインする力、(3)保育(授業)を実践する力、(4)保育(授業)を省察する力の4点を身につけることができる。						
【授業計画】						
第1回：オリエンテーション：「教職実践演習」の目的と授業内容。(担当(姫野)) 「保育者・教師への歩みと足跡」 各自、保育者・教職を目指してきた思いや、履修カルテをもとにこれまでの学校生活の振り返りをワークシートにまとめる。						
第2回：グループワーク：「保育者・教師への歩みと足跡」について、合同グループで発表し、話し合い、自分自身の思いや覚悟を確かめる。(担当(岸・土師))						
第3回：グループワーク：「子どもの理解の方法と実際」保育者として、教師として、子ども理解することについて改めて考え、保育の事例、幼稚園の事例、小学校での事例について、合同グループで話し合い、自分自身の対応について考える。(担当(岸・土師))						
第4回：グループワーク：「問題行動の理解と対応」子どもの問題行動に関して、保育の事例、幼稚園の事例、小学校での事例について、合同グループで話し合い、自分自身の対応について考える。(担当(村井・伊藤・河原))						
第5回：ロールプレイング：「保護者対応」保護者から苦情電話がかかってきたとの想定で、それぞれの立場でロールプレイングを行い、保護者の思いを共感的に受け止め、問題を整理し、誠実な態度で対応することについて考える。(担当(村井・伊藤・河原))						
第6回：「これからの情報教育～保育士・幼稚園教諭・小学校教諭に向けて」情報教育、ICT教育・プログラミング教育について、今後、保育士、幼稚園教諭。小学校教諭が主体となって取り組んでいかなければならない事柄について考える。(担当梅原)						
第7回：模擬保育・模擬授業(1)(担当(姫野・伊藤・土師))						
第8回：模擬保育・模擬授業(2)(担当(村井・河原・伊藤))						
第9回：模擬保育・模擬授業(3)(担当(岸・土師))						
第10回：グループワーク：「幼保小の接続」幼保小の相違点、幼保小の接続の在り方、課題、接続期のカリキュラム、接続期の実践の工夫などについて、合同グループで話し合い、保育者・教師として必要な支援について考える。(担当(姫野・河原))						
第11回：グループワーク：喫緊の課題(1)課題を見出し、調べ、報告し、討論する(担当(岸・伊藤・河原))						
第12回：グループワーク：喫緊の課題(2)課題を見出し、調べ、報告し、討論する(担当(村井・土師))						
第13回：グループワーク：喫緊の課題(3)課題を見出し、調べ、報告し、討論する(担当(姫野・岸・土師))						
第14回：ロールプレイング：「初めて子どもに出会う日」初めて子どもたちと出会う日という想定で、子どもたちに、また、子どもと保護者を前に、それぞれの立場でロールプレイングを行い、学級の担当者また、学級担任としての思いをどのように伝えるかについて考え、気持ちを新たにします。(担当(岸・姫野・村井))						
第15回：「私のめざす保育者・教師像と今の自分、これからの自分」私のめざす保育者・教師像について、教員の講話を聴講し、最終レポートに向けて、自分の夢や決意を固める。(担当(姫野))						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	免許取得者としての意識をもった意欲的な受講態度であるか否かを評価する。		
	レポート		30%	毎回の授業内容レポートの適確な把握状況について、コメントして返却する。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他		40%	模擬保育・模擬授業等の実践力の達成状況の評価する。		
	自由記載	グループ討論、実技指導、補完指導などの結果を踏まえ、教員及び保育者として最小限必要な資質能力が身に付いていることを確認し、単位認定を行う。				
【受講の心得】 全講義への出席を基本とする。やむを得ず欠席の場合は、その状況・内容を必ず連絡すること。四月から社会人として勤務することを念頭に、向上心を持って授業に臨むこと。						
【授業外学修】 1 予習として、事前に配布された資料を読み、自分の考えを書きまとめておく。 2 復習として、授業内容を通して学んだことを振り返って書きまとめ、提出する。 3 発展学習として、授業に関連した参考資料や書籍を読み、記録に残す。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	随時、必要な資料を配付する。				
参考書	自由記載	随時、必要に応じて指定もしくは紹介する。				
【担当教員の実務経験の有無】 有						
【担当教員の实務経験】 公立小学校教諭・校長・県生涯学習センター・県情報教育センター(岸 誠一)、公立小学校教諭・教頭・校長・市教委事務局(姫野)、幼稚園教諭・園長(河原)						

無

**【業務履歴以外の指導教員内容実務経験者の有無】**

学校現場での現場体験を通して得た実践的な知見を学生に伝えることで、実感を伴った理解を図り、学習指導力、生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。

授業科目名	教育実習研究A		サブタイトル	授業番号	CP329
担当教員名	齊藤 住子 中典子				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	1単位		
開講年次	3年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	実習		
<b>【授業の概要】</b>					
幼稚園教育実習の目的と意義、計画と事前準備、心構え、指導案の立案、実習記録の書き方などを学び、実習での学習内容や自己課題を明確化させ実習に備える。また学校で学んだ様々な実践的知識を応用し、現場の実践へつなげる力量を高める。幼児理解の重要性を学び、様々な事柄を自分自身が感じたり、気づいたり、考えたりする力を身に付ける。					
<b>【到達目標】</b>					
下記の諸点を本科目の到達目標に設定する。なお本科目はディプロマポリシーに掲げたの修得に貢献する。					
1. 幼稚園教育の実際の場に入るにあたって、責任ある立場で子どもに接する者としての在り方を学ぶ。					
2. 実習のために必要で有効な知識・技術を学び、それを生かして実習できるよう準備する。					
3. 実習の学習課題を明確にする。					
4. 実習の体験を踏まえて、将来への希望と今後の学習への意欲を高める。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：教育実習の目的と意義 (担当(担当(齊藤)))					
第2回：教育実習の計画と準備(実習に参加し学ぶ者としての態度と心構え) (担当(担当(齊藤)))					
第3回：幼稚園とは、幼稚園の生活(幼稚園の生活の流れと教師の役割) (担当(担当(齊藤)))					
第4回：実習日誌の書き方、実習へ向けて自己課題の作成 (担当(担当(齊藤)))					
第5回：幼稚園における教師の役割(援助と環境構成)/附属認定こども園見学(1) (担当(担当(齊藤・中)))					
第6回：幼稚園における教師の役割(援助と環境構成)/附属認定こども園見学(2) (担当(担当(齊藤・中)))					
第7回：幼稚園における特別支援教育「気になる子ども」への指導 (担当(担当(中)))					
第8回：指導案の書き方・部分指導(1) (担当(担当(齊藤)))					
第9回：指導案の書き方・部分指導(2) (担当(担当(齊藤)))					
第10回：指導案の書き方・日案(1) (担当(担当(齊藤)))					
第11回：指導案の書き方・日案(2) (担当(担当(齊藤)))					
第12回：教育実習のまとめ(1) 実習を終えて反省と評価 (担当(担当(齊藤・中)))					
第13回：教育実習のまとめ(2) (担当(担当(齊藤)))					
テーマレポート、グループワーク、自己課題の反省と評価					
第14回：教育実習のまとめ(3) グループワーク (担当(担当(齊藤)))					
第15回：教育実習のまとめ(4) (担当(担当(齊藤・中)))					
3～5歳クラスの生活と遊びの特徴と教師の役割/実習報告会					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	授業で説明する実習の目的と意義について説明できる。また、実習に向けての自己課題を明確にする。		
	レポート	80%	実習前に事前学習する授業内容について事前学習ページに記載する。また、実習後には自己課題についてレポートを作成するとともに担当年齢児の特徴や生活と遊びの内容についてまとめる。		
	小テスト				
	定期試験				
	その他				
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b>					
日常生活の中で「人を育てる」職業に就くことを意識し、人間として必要な態度・習慣(挨拶・着衣の状況、食生活、生活リズム等)を考えて生活する。また、人間として生まれながらにもつ「五感」を働かせ、生活の中で様々な事柄を感じて過ごし、幼稚園教諭としての感覚を研ぎ澄ますよう努力する。					
<b>【授業外学修】</b>					
1. 授業で事前学習する内容(実習の目的と意義、実習の内容)について事前学習ページに記載する。					
2. 実習に必要な教材準備を行う。					
使用テキスト	自由記載				
参考書	自由記載	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館			
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
無					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					

授業科目名	教育実習A		サブタイトル	授業番号	CP430
担当教員名	齊藤 住子 中典子				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	4単位	
開講年次	3年		開講期	後期	
必修・選択	選択		授業形態	実習	
<b>【授業の概要】</b>					
幼稚園での幼児の主体的な活動を基本とし、幼児がよりよい方向へ向かい発達していくことを援助する実際に体験し、幼児と心と心を通わせ、幼児の興味・関心・要求などを汲み取りながら「援助」の意味を实践・体験を通して学び、「自らの意志で学ぶこと」の重要性に気づく力を身につける。また、観察実習・部分実習・全日実習で幼児の観察記録と指導案を詳細に記述することができ、実践における教師の役割と環境構成の重要性に気づける感性を養う。					
<b>【到達目標】</b>					
下記の諸点を到達目標に設定する。本科目はディプロマポリシーのの修得に貢献する。 1. 幼稚園教育の実際の場を経験し、責任ある立場で子どもと共に生活する体験を得る。 2. これまで学んだ知識・技術を生かして実習することにより、その後の学習課題を明確にする。 3. 教員としての将来に希望をもち、その職務への自覚を深め、自己を陶冶する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1週 観察実習 (1) 実習園について理解する。 教育の基本方針、学級の人員構成・担当教諭の学級経営、環境（物的：敷地、建物の構造、配置及び施設設備・人的：職員構成、勤務形態等）を把握する。 (2) 観察の仕方を学ぶ。 第2～3週 参加実習 (1) 幼児の発達の概要を知る。 (2) 幼稚園教育の一日の流れを把握する。 (3) 基本的な生活習慣の援助や遊びの指導について学び、担当教諭の補助をする。 第3～4週 指導実習 (1) 3歳児から5歳児の各年齢の保育形態を理解する。 (2) 幼児の実態と指導計画に準じた環境の構成をする。 (3) 様々な環境にかかわって遊ぶ幼児の姿と教師の援助を予想して指導案を立てる。 (4) 指導上の技術を生活の指導・遊びの指導の両面から学ぶ。 (5) 指導の反省と評価の方法について学ぶ。 (6) 幼児の安全への配慮について理解する。（安全指導） (7) 保護者とのコミュニケーションの方法について学び、家庭・地域社会との連携について理解する。					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢/態度		70%	実習該当園の評価表を基準にする。（上記の4週間において次の7点から評価）意欲、責任感、研究的態度、協調性、指導計画、指導技術、事務処理。	
	レポート		30%	実習日誌、指導案立案の資料をもとに評価する。	
	小テスト				
	定期試験				
	その他				
	自由記載	教育実習における実習幼稚園の評価表、実習日誌、指導案立案、指導実習の準備や成果などを総合的に判断し、実習園での評価点60点以上の者に単位を認定する。			
<b>【受講の心得】</b>					
現場での実践に積極的に臨み、自己課題・目標を達成できるよう取り組む。また、今後、社会人として役立つこととして、何を大切にすべきか、互いに協同し合うこととはどのようなことかを学ぶ。					
<b>【授業外学修】</b>					
1. 幼児の活動と教師の配慮の関係性と実習生としての自分の活動を日誌に記入する。 2. その日の実習のねらいについて一日を振り返り、実習日誌に記入する。 3. 指導案等の実習指導計画を作成し、指導にあたっての教材研究をする。 以上の内容を、毎日2時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載				
参考書	自由記載 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館				
<b>【担当教員の業務経験の有無】</b>					
無					
<b>【担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員以外の指導に関わる業務経験者】</b>					
幼稚園及び認定こども園等の実習指導者					
<b>【業務経験をいかした教育内容】</b>					
学生が幼稚園教諭の職務を体験し必要な知識及び技能を習得できるように、実際の幼児との生活の中で指導を行う。					

授業科目名	教育実習研究B		サブタイトル	授業番号	CP331
担当教員名	姫野 俊幸 佐々木 弘記 岸 誠一 村井 隆人				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	1単位	
開講年次	3年		開講期	後期	
必修・選択	選択		授業形態	実習	
<b>【授業の概要】</b>					
<p>小学校教育実習における中心的な内容である授業の「設計－実施－評価」のサイクルの中で、授業設計にかかわる学習指導案を作成できるようになることを目標とする。そのための基礎的・基本的事項として、教育実習の意義と目的、計画と準備、心構え、実習記録簿の作成の仕方についての理解を図る。また、教材研究や児童理解に基づいた確かな学習指導案の立案等、教育実習に向けた準備を行う。更に、実習後、教育実習をふりかえり、成果や課題を見つめ直し、小学校教育実習発表会を催す。</p>					
<b>【到達目標】</b>					
<p>1 教育実習の意義と目的、計画と準備、心構え、実習記録簿の作成の仕方について十分に理解した上で、学習指導案や板書計画等を作成し授業の準備をし、教育実習に臨むことができる。</p> <p>2 実習終了後、自らの教育実習をふりかえり、成果や課題を見つめ直し、小学校教育実習発表会を開催することができる。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
<p>第1回：教育実習の意義と目的 制度的側面 (担当姫野)</p> <p>第2回：「教師の資質」とは何か (担当姫野)</p> <p>第3回：「教職専門性」の基礎とは何か (担当姫野)</p> <p>第4回：学習指導案の作成と授業展開の技術I (担当村井)</p> <p>第5回：学習指導案の作成と授業展開の技術II (担当村井)</p> <p>第6回：学習指導案の作成と授業展開の技術III (担当村井)</p> <p>第7回：「教職専門性」の総合的な向上I (担当岸)</p> <p>第8回：「教職専門性」の総合的な向上II (担当岸, 姫野)</p> <p>第9回：「教職専門性」の総合的な向上III (担当岸, 姫野)</p> <p>第10回：学校現場における喫緊の課題 (担当姫野)</p> <p>第11回：学校と子どもたちの実態と実習の課題 (担当姫野)</p> <p>第12回：教育実習に向けての抱負・決意 (担当姫野)</p> <p>第13回：実習後の成果と課題(ふりかえり) (担当佐々木)</p> <p>実習後の礼状の書き方</p> <p>第14回：小学校教育実習発表会の準備 (担当岸, 姫野)</p> <p>第15回：小学校教育実習発表会 (担当岸, 佐々木, 姫野)</p>					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	40%	実習に向けて自己の力量を高めようという意欲的な態度の状況によって評価する。		
	レポート	30%	教材研究, 学習指導案の記載内容・到達度によって評価する。		
	小テスト				
	定期試験				
	その他	30%	模擬授業への準備, 実施と振り返りの記録等によって評価する。		
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b>					
小学校教師を志望する強い気持ちで授業に参加すること					
<b>【授業外学修】</b>					
<p>1 予習として、授業で配付される資料を読み、疑問点を明らかにする。</p> <p>2 復習として、授業で提示された課題のレポートを書く。</p> <p>3 発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料等を読む。</p> <p>以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。</p>					
使用テキスト	自由記載	小学校教育実習日誌			
参考書	自由記載				
<b>【その他】</b>					
4月当初から実習前までの期間に、補講を行う。一人一人が力を付けて、自信をもって実習に臨めるようにする。					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の職務経験】</b>					
公立中学校理科教諭, 県教育センター(佐々木弘記), 公立小学校教諭・校長, 県生涯学習センター, 県情報教育センター(岸誠一), 公立小学校教諭, 教頭, 校長, 教育委員会事務局(姫野俊幸)					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
学校, 教育センター, 教育委員会事務局等での経験を生かして, 教育現場の実態を反映させた実践的な教育を行う。					

授業科目名	教育実習B		サブタイトル		授業番号	CP432
担当教員名	姫野 俊幸 佐々木 弘記 岸 誠一 村井 隆人					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	4単位	
開講年次	3年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	実習	
<b>【授業の概要】</b>						
大学の授業で学んだ理論や身に付けた知識や技能を基にして、実践的指導力（学習指導力」「生徒指導力」「マネジメント力」）を身に付ける。実際に児童の前で授業を展開し、実践を評価・分析することを通して、改善点を見つけ、工夫・改善していく。つまりPDCAサイクルを教育実習の中で繰り返しながら、小学校教師としての実践的指導力を総合的に高めていく。4週間の教育実習の中で、第1週には、観察実習、第2.3週には、授業実践実習、第4週には一日経営実習を行う。また、4週間で貫く教育実習課題を個々に設定し、課題意識を明確にして教育実習に取り組む。						
<b>【到達目標】</b>						
1 「学習指導力」として、学習指導案の作成や教材・教具の工夫の仕方、分かりやすい授業のために指導技術などを修得する。 2 「生徒指導力」として、授業規律や生活規律の徹底を図るための指導方法、児童の人間関係づくりの構築方法を修得する。 3 「マネジメント力」として、学級担任になったことを想定して、学級経営の計画を立て、学習活動の組織の仕方を取得する。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1週 観察実習 ・配属学級での授業観察を通して次のことを中心に観察する。 (1)指導案と実際の授業との対応。 (2)「教師 - 児童」の相互作用の実際。 (3)学級経営の具体的な取り組み。 第2～3週 授業実践実習 ・授業の「設計 - 展開 - 評価 - (改善)」を各教科等の授業実践を通して実習する。 ＜各段階で求められると想定する技術＞ 設計：指導案を書く技術 展開：児童に学習内容を理解させる技術 評価：授業を観察・記録する技術 ・第3週目に研究授業を実施する。 第4週 一日経営実習 ・一日学級担任として、学級経営を中心に授業（2時間）を実施する。						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他		100%	教育実習校での評価（80%）、教育実習日誌（20%）		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
小学校教師を志望する強い気持ちを持ち。真摯に誠実に教育実習に臨むこと						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として、実習校で配付される資料を読み、疑問点を明らかにする。 2 授業を実践する際に、十分な教材研究を行い、指導計画を立てる。 3 授業後には、授業実践を振り返り、成果と課題を見つめ直す。 以上の内容を、1日当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	小学校教育実習日誌				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の職務経歴】</b>						
公立中学校理科教諭、県教育センター（佐々木弘記）、公立小学校教諭・校長、県生涯学習センター、県情報教育センター（岸誠一）、公立小学校教諭、教頭、校長、教育委員会事務局（姫野俊幸）						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
学校、教育センター、教育委員会事務局等での経験を生かして、教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。						

授業科目名	社会福祉		サブタイトル		授業番号	CQ201
担当教員名	中典子					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
社会福祉の歴史をふまえながら、保育士資格に必要な社会福祉の制度・支援方法について学習する。						
<b>【到達目標】</b>						
利用者主体の制度に改められていく社会福祉の動向を学び、利用者本位の支援とは何かについて理解を深める。 なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解>、<思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：社会福祉とは 第2回：欧米における社会福祉のあゆみ 第3回：日本における社会福祉のあゆみ 第4回：社会福祉の法律 第5回：社会福祉の行財政 第6回：社会福祉の実施体制 第7回：社会福祉の担い手 第8回：社会福祉における相談援助 第9回：利用者の保護に関わる仕組み 第10回：高齢者福祉 第11回：障害者福祉 第12回：子ども家庭福祉 第13回：母子保健福祉 第14回：公的扶助 第15回：社会福祉の課題						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	意欲的な受講態度、予習・復習によって評価する。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他		80%	社会福祉記事ワークブックで毎回の授業内容の復習ができていないこと。ワークについては、授業終了後に学びの度合いを確認するとともに15回目に提出することを求め、コメントを記入して返却する。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
授業内容の理解を深めるため、授業開始前までにワークの内容を読んでおくこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
授業開始前までに、テキスト、ワークブックの内容を読んでおくこと。(1時間)						
授業後に示すワークブックの課題を次回の授業開始前までに仕上げしておくこと。(2時間)						
授業で学んだ内容を振り返り、必要と考えることをノートにまとめておくこと。(1時間)						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	社会福祉 社会福祉の原理と政策		杉本敏夫監修	ミネルヴァ書房		
	社会福祉記事ワークブック		松井圭三・今井慶宗編	大学教育出版	2,000	978-4-86429-365-5
自由記載						
参考書	自由記載		必要に応じて紹介する。			
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	無					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	子ども家庭支援論		サブタイトル		授業番号	CQ202	
担当教員名	中典子						
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位		
開講年次	3年			開講期	前期		
必修・選択	選択			授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>							
事例を通して人間が生活するうえで直面する課題に焦点をあてて支援する方法を学び、保育現場における子ども家庭支援の意義を明らかにする。							
<b>【到達目標】</b>							
子ども家庭支援の意義と目的を理解し、支援の方法と内容、専門職倫理について理解を深める。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。							
<b>【授業計画】</b>							
第1回：子ども家庭支援の意義と役割 第2回：保育の専門性を活かした子ども家庭支援の必要性 第3回：保育士による子ども・子育て支援 第4回：保育士に求められる基本的態度 第5回：保護者とのコミュニケーションのとり方 第6回：保育士に求められる基本的態度 第7回：子育て家庭をとりまく社会資源との連携・協働 第8回：子育て家庭をとりまく社会資源 第9回：他専門職との連携 第10回：子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 第11回：子ども家庭支援の内容と対象 第12回：保育所等を利用する子どもの家庭への支援 第13回：地域の子育て家庭への支援 第14回：要保護児童等及びその家庭に対する支援 第15回：子ども家庭支援の現状と課題							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度		30%	受講中の議論により評価する。講義ごとに、自分が理解したことを整理できているか、疑問点を解決することができているか、それを表現できているか、他者の意見に対して批判的に議論ができているか、という点で評価する。			
	レポート						
	小テスト						
	定期試験						
	その他		70%	家庭支援論ワークで毎回の授業内容の復習ができていること。ワークについては、授業終了後に学びの度合いを確認するとともに15回目に提出することを求め、コメントを記入して返却する。			
自由記載							
<b>【受講の心得】</b>							
授業内容の理解を深めるため、授業開始前までにワークの内容を読んでおくこと。							
<b>【授業外学修】</b>							
授業開始前までに、ワークブックの内容を読んでおくこと。（1時間） 授業後に示すワークブックの課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。（2時間） 授業で学んだ内容を振り返り、必要と考えることをノートにまとめておくこと。（1時間）							
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	保育者の協働性を高める子ども家庭支援・子育て支援			西尾祐吾監修	晃洋書房	3,000	978-4-7710-3181-4
自由記載							
参考書	自由記載		必要に応じて紹介する。				
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
	無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>							
無							



授業科目名	子育て支援		サブタイトル		授業番号	CQ203	
担当教員名	中典子						
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	1単位		
開講年次	3年			開講期	後期		
必修・選択	選択			授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b>							
子ども家庭支援論で学んだ内容をもとに事例研究を行い、保育現場において必要な相談支援について明らかにする。							
<b>【到達目標】</b>							
相談支援の方法についてロールプレイなどを行い、身につける。 なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<技能> <態度>の修得に貢献する。							
<b>【授業計画】</b>							
第1回：保育者が行う子育て支援 第2回：保護者との相互理解と信頼関係の形成 第3回：保護者や家庭の抱えるニーズへの気づきと理解 第4回：子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供 第5回：保護者の子育て力向上に対する支援 第6回：子どもと保護者に対する状況把握 第7回：地域における社会資源の活用 第8回：子育て支援における職員連携の方法 第9回：保護者支援の方法と技術 第10回：保護者支援の計画、記録、評価、会議 第11回：事例分析について 第12回：虐待予防と対応などの事例分析 第13回：障がいのある子どもとその保護者への支援についての事例分析 第14回：保育所における保育相談支援の実際 第15回：要養護児童の家庭に対する支援							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	受講中の議論により評価する。講義ごとに、自分が理解したことを整理できているか、疑問点を解決することができているか、それを表現できているか、他者の意見に対して批判的に議論ができているか、という点で評価する。			
	レポート		70%	授業中に提示する事例をもとに、子育て支援の在り方を具体的に述べていること。レポートについてはコメントを記入して返却する。			
	小テスト						
	定期試験						
	その他						
自由記載							
<b>【受講の心得】</b>							
授業中に提示した課題を期日までに提出するように心がけること。							
<b>【授業外学修】</b>							
授業開始前までに、テキストの内容を読んでおくこと。(1時間)							
授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げしておくこと。(2時間)							
授業で学んだ内容を振り返り、必要と考えることをノートにまとめておくこと。(1時間)							
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	保育者の協働性を高める子ども家庭支援・子育て支援			西尾祐吾監修	晃洋書房	3,000	978-4-7710-3181-4
自由記載							
参考書	自由記載		必要に応じて紹介する。				
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
	無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>							
無							

授業科目名	子ども家庭福祉		サブタイトル	授業番号	CQ204	
担当教員名	中典子					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	2単位		
開講年次	2年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b> 子どもを発達する生活者として理解し、子どものニーズや権利を知り、その充足のために子どもと環境との関係を望ましいものに整えていくにあたり、必要なことを学ぶ。子どもの福祉の意味と目的、子どもを理解する視点、子どもの成長と発達、子どもの福祉の歴史、少子・高齢社会の子ども福祉課題、社会的養護と自立支援、子どもと家庭福祉にかかわる公私の組織と施策（母子保健、保育施設、健全育成、障がい児対策、母子福祉対策、子育て支援等）、子ども家庭福祉を担う人々、専門職と機関・施設の役割、相談支援活動、地域支援活動等について多面的に学習する。						
<b>【到達目標】</b> 子ども家庭福祉の制度と実際について理解できるようになる。 なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解>、<思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b> 第1回：子ども家庭福祉の理念と概念 第2回：子ども家庭福祉の沿革 第3回：子どもの人権擁護と現代における子ども家庭福祉の課題 第4回：児童福祉法にいちづけられる施設や機関・財政 第5回：児童福祉法以外の子ども家庭福祉に関連する法律 第6回：地域の子ども・子育て支援の対策 第7回：多様な保育ニーズへの対策 第8回：養育環境に問題のある子どもとその家庭への対策 第9回：障がいのある子どもとその家庭への対策 第10回：非行問題・情緒障がいのある子どもとその家庭への対策 第11回：一人親家庭の子どもとその家庭への対策 第12回：子ども虐待・DV(ドメスティックバイオレンス)防止への対策 第13回：貧困家庭・外国籍の子どもとその家庭への対策 第14回：子ども家庭福祉専門職の在り方(1) 子ども家庭福祉専門職の基本的要件 第15回：子ども家庭福祉専門職の在り方(2) 児童福祉施設・機関の専門職の職務と資格						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	意欲的な受講態度、予習・復習によって評価する。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他		80%	NIE児童家庭福祉演習で毎回の授業内容の復習ができていること。ワークについては、授業終了後に学びの度合いを確認するとともに15回目に提出することを求め、コメントを記入して返却する。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b> 毎回の授業に備えて予習を行っておくこと。						
<b>【授業外学修】</b> 授業開始前までに、テキストの内容を読んでおくこと。(1時間) 授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。(2時間) 授業で学んだ内容を振り返り、必要と考えることをノートにまとめておくこと。(1時間)						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	保育者のための子ども家庭福祉		小宅理沙監修	青山社	未定	
	NIE児童家庭福祉演習		松畑照一監修	大学教育出版	2,000	978-4-86429-438-6
	自由記載					
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	保育福祉小六法 2020年版		保育福祉小六法編集委員会	みらい	1,700	
	自由記載		必要に応じて紹介する。			
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						

授業科目名	保育原理		サブタイトル		授業番号	CQ205
担当教員名	伊藤 智里					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
保育の基本と歴史的変遷の理解を目指した講義および保育の現状と課題の検討から、保育における基本的概念の修得を図る。						
<b>【到達目標】</b>						
1. 保育の歴史を踏まえて、乳幼児観と保育の意義について理解する。						
2. 乳幼児の発達を踏まえた子ども理解と保育の基本を学ぶ。						
3. 家庭・地域社会・保育施設の三者による総合的な乳幼児教育・保育の在り方について理解する。なおこの科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解>の習得に貢献する。						
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：保育とは何か、を考える						
第2回：現代社会と保育の関係性						
第3回：保育の制度的位置づけ						
第4回：保育の特性を理解する						
第5回：環境を通して行う保育						
第6回：子どもの発達と保育方法						
第7回：保育所保育指針の理解						
第8回：幼稚園教育要領の理解						
第9回：幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解						
第10回：保育の計画と実践						
第11回：保育実践の振り返り						
第12回：諸外国における保育の思想・保育施設の歴史						
第13回：日本における保育の思想・保育施設の歴史						
第14回：保育の現状と課題						
第15回：授業のまとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	授業への積極的な参加を評価する。		
	レポート					
	小テスト		20%	授業の要点が理解できているか評価する。		
	定期試験		50%	授業全体を通じた理解を評価する。		
	その他					
	自由記載	期末試験(50%)、小テスト(20%)、学習態度(30%)により総合的に評価する。評価方法の詳細については初回の授業で提示する。				
<b>【受講の心得】</b>						
保育の基礎知識の理解に努めること。授業に主体的に参加すること。そのため予習、復習を欠かさないこと。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	保育原理		大沼良子・榎沢良彦編著	建帛社	1888 + 税	978-4-7679-5037-2
	幼稚園教育要領解説		文部科学省	フレーベル館	240	9784577814475
	保育所保育指針解説		厚生労働省	フレーベル館	320	9784577814482
	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説		内閣府・文部科学省・厚生労働省	フレーベル館	350	9784577814499
	自由記載					
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	無					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	社会的養護I		サブタイトル	授業番号	CQ206
担当教員名	中典子				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
【授業の概要】 社会的養護の意味と目的，子どもの権利擁護と社会的養護との関連，社会的養護の制度と実施体系（制度と法体系，仕組みと実施体系，家庭的養護，施設養護等），社会的養護の歴史，施設養護の基本原則と実際，社会的養護の現状と課題（施設等の運営管理，倫理の確立，施設内虐待の防止対策，社会的養護と地域福祉の関係等），社会的養護の専門職について講義する。					
【到達目標】 社会的養護の原理や内容について学び，自ら説明できるようになることを目的とする。また，子どもを社会的存在として理解し，養育していくうえで必要な知識と技術，価値観や倫理観について理解できるようになる。なお，本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解>の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：導入：社会的養護の理念と概念 第2回：社会的養護の歴史の変遷 第3回：子どもの人権擁護と社会的養護 第4回：社会的養護の基本原則 第5回：社会的養護における保育士等の倫理と責務 第6回：社会的養護の制度と法体系 第7回：社会的養護のしくみと実施体系 第8回：社会的養護とファミリーソーシャルワーク 第9回：社会的養護の対象と支援のあり方 第10回：家庭養護と施設養護 第11回：社会的養護にかかわる専門職 第12回：社会的養護に関する社会的状況 第13回：施設等の運営管理の現状と課題 第14回：被措置児童等の虐待防止の現状と課題 第15回：まとめ：社会的養護と地域福祉の現状と課題					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	授業中に学習内容を踏まえた積極的な質問，あるいは，既存の意見を踏まえた上での自分の考えをしっかりと述べるができるかについて評価する。		
	レポート	70%	課題に対して，適切な理解ができているかを評価する。課題プリントについては，コメントを記入して返却する。学習内容を習得していないと判断した場合には，再提出を課す。		
	小テスト				
	定期試験				
	その他	10%	授業内容について適宜ノートにまとめ，適切な記載がされているかについて評価する。		
自由記載					
【受講の心得】 毎回の授業において，しっかりとノートを取り，学びを深めようと意欲的に取り組むこと。また，分からないことは積極的に質問をすること。					
【授業外学修】 1.毎授業後に示す範囲について，事前に教科書をしっかり読んでくること。(約1時間) 2.授業中に取ったノートを見直し，復習すること。その際，必ず教科書と再度照らし合わせ，足りない文言などを書き足すこと。(約2時間)					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	社会的養護I・II	小宅理沙監修	祥雲社	2,780	978-4-434-26701-7
	NIE社会的養護演習	松井恵三，今井慶宗編	大学教育出版		
自由記載					
参考書	自由記載	・必要に応じて提示する。			
	【担当教員の実務経験の有無】 無				
	【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無				

授業科目名	社会的養護II		サブタイトル	授業番号	CQ307	
担当教員名	青木 幹生					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	1単位		
開講年次	2年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b>						
社会的養護を必要とする子どもたちの実態を伝えるとともに、現在抱えている課題について明らかにする。また、子どもの権利保障の立場に立った実践の具体も伝え、実践に役立つ講義をする。						
<b>【到達目標】</b>						
社会的養護を必要とする子ども達が入所している（あるいは利用している）施設において、日常的に展開されている子どもの生活と職員の支援方法について学び、自ら説明できるようになることを目的とする。また、子どもの心身の成長や発達を保障し、支援するために必要な知識や技術を習得し、児童観や施設養護観について理解できるようになる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：導入：子どもの権利擁護 第2回：社会的養護における子どもの理解 第3回：社会的養護の内容(1) 日常生活支援 第4回：社会的養護の内容(2) 心理的支援 第5回：社会的養護の内容(3) 自立支援 第6回：施設養護の生活特性および実際(1) 乳児院等 第7回：施設養護の生活特性および実際(2) 障害児施設等 第8回：家庭養護の生活特性および実際 第9回：アセスメントと個別支援計画の作成 第10回：記録および自己評価 第11回：社会的養護における保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践 第12回：社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践 第13回：社会的養護におけるソーシャルワーク（知識・技術とその応用） 第14回：社会的養護における家庭支援 第15回：まとめ：今後の社会的養護の課題と展望						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	授業中に学習内容を踏まえた積極的な質問、あるいは、既存の意見を踏まえた上での自分の考えをしっかりと述べるができるかについて評価する。		
	レポート		30%	課題に対して適切な理解を得ているかについて評価する。		
	小テスト					
	定期試験		40%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
・毎回の授業においてしっかりとノートを取り、目的を持って意欲的に取り組むこと。 ・グループワークでは、積極的に自分の意見を述べる。また、他学生の意見について肯定的、あるいは否定的な考え方をもち、根拠ある説明をすること。						
<b>【授業外学修】</b>						
・授業中に取った内容を見直し、復習すること。その際、必ず教科書と再度照らし合わせ、足りない文言などを書き足すこと。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。"						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	よりそい支える社会的養護II		中山正雄(監修)、浦田雅夫(編著)	教育情報出版	1,810円+税	978-4-909378-07-1
自由記載						
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	社会的養護I・II		小宅理沙(監修)、中典子、潮谷光人、今井慶宗(編著)	翔雲社	2,780円+税	978-4-434-26701-7
自由記載						
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
主任児童指導員、基幹の職員、里親支援専門相談員、児童養護施設副施設長						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
担当職員の実務経験を生かし、現場での支援に近い形での解説を行っていく。						

授業科目名	子どもの保健		サブタイトル		授業番号	CQ208
担当教員名	藤原 敏恵					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
子どもの健全な発育を支援するために必要な基本的知識が修得できるように、子どもの心身の発育・発達と保健について講義する。さらに、さまざまな状況の子どもに適切な対応ができるように、子どもの疾患の特徴や主な症状とその対応について講義する。						
<b>【到達目標】</b>						
1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義が理解できる。 2. 子どもの心身の発育・発達と保健について理解できる。 3. 子どもの健康状態とその把握の方法について理解できる。 4. 子どもの疾病の特徴と適切な対応について理解できる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：子どもの健康と保健 第2回：地域における保健活動 第3回：子どもの心身の発育・発達と保健(1) 発育・発達の特徴 第4回：子どもの心身の発育・発達と保健(2) 生理機能の発達 第5回：子どもの心身の発育・発達と保健(3) 運動機能の発達 第6回：子どもの健康把握とその支援 第7回：子どもにみられる主な症状と対応(1) 発熱・脱水・便秘・呼吸困難 第8回：子どもにみられる主な症状と対応(2) 発疹・けいれん・痛み 第9回：子どもの疾病予防と適切な対応 第10回：子どもの疾病の特徴と対応(1) 感染性疾患 第11回：子どもの疾病の特徴と対応(2) アレルギー性疾患 第12回：子どもの疾病の特徴と対応(3) 呼吸器疾患・消化器疾患 第13回：子どもの疾病の特徴と対応(4) 腎疾患・内分泌疾患 第14回：子どもの疾病の特徴と対応(5) 神経疾患・耳鼻科疾患・整形外科疾患 第15回：まとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート					
	小テスト		30%	主要ポイントごとに理解度を確認する		
	定期試験		70%	本科目の理解度を確認する		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
講義形式の授業形態が中心になります。幅広く専門的な知識を修得しなければならないため、既習の知識と合わせて復習を行い、主体的に講義に参加してください。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2. 復習として、授業プリントや教科書を読みなおし、理解を深める。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	シードブック 子どもの保健		及川郁子・草川 功 編著	建帛社	本体1900円 + 税	9784767950938
自由記載						
参考書	自由記載					
	<b>【その他】</b> 授業の進行度により授業内容を変更することがある。					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有					
<b>【担当教員の实務経験】</b> 看護師・専門学校の専任教員						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 保育現場における子どもの健康と安全を考慮した対応を行うための基礎的な知識として、子どもの発育・発達と保健について指導する。また、子どもの健康状態と起こりやすい症状、その対応について指導する。						

授業科目名	子どもの健康と安全		サブタイトル	授業番号	CQ309
担当教員名	廣畑 まゆ美				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	1単位	
開講年次	2年		開講期	後期	
必修・選択	選択		授業形態	演習	
【授業の概要】					
子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考えられるようにする。緊急時の対応や事故防止、安全管理について具体的に学べるように、できる限り個人レベルで体験的に学習するよう計画している。					
【到達目標】					
1, 子どもと関わる全ての実践の場において、子どもの発達段階にあわせた保育と実践できるようになることを目的とし、基礎的な技術を身につけることができる。					
2, 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解できる。					
3, 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解できる。					
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能>の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：子どもの健康と保育の環境					
第2回：子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理					
第3回：保育における保健的対応の基本的な考え方					
第4回：3歳未満児への対応					
第5回：個別的な配慮を要する子どもへの対応（慢性疾患，アレルギー性疾患等）					
第6回：障害のある子どもへの対応					
第7回：保育における保健活動の計画及び評価					
第8回：健康状態の観察（朝の視診）					
1）『子どもの保健演習』の3章小児の健康と子育てに必要な養護・しつけp48～					
” 5章小児に多い病状・病気とその対処および予防p148～					
2）病気がみえる免疫・膠原病・感染症；免疫p2～					
第9回：体温，脈拍，呼吸の観察					
1）『子どもの保健演習』の2章小児の発育を知る 生理的機能の発達p24～					
第10回：応急手当 その1 発熱ほか					
1）『子どもの保健演習』の4章小児の事故とその予防p84～					
第11回：応急手当 その2 傷の手当ほか					
第12回：乳幼児の救急蘇生法 その1					
1）『子どもの保健演習』の4章小児の事故とその予防p98～					
第13回：乳幼児の救急蘇生法 その2					
第14回：集団生活における健康管理（手洗い）・安全管理・服薬について					
1）『子どもの保健演習』の5章小児に多い病状・病気とその対処および予防p108～					
2）『病気がみえる免疫・膠原病・感染症』；感染症p112～					
第15回：子どものこころの健康・地域との関わり・災害時の関わり					
1）『子どもの保健演習』の7章児童虐待8章地域との連携・協働p196～					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	40%	意欲的な授業態度を評価する。		
	レポート	30%	テーマの意図を理解し具体的な解決策を述べているかどうかを評価する。		
	小テスト	30%	各回の主要なポイントの理解を評価する。		
	定期試験				
	その他				
自由記載					
【受講の心得】					
動きやすい服装身だしなみで出席すること。教室の机や椅子を演習用に配置と必要物品の準備や片付けは、時間内に学生同士協力しておこなうこと。授業はグループ毎に演習するので、お互いに評価し合って技術を向上させること。授業終了後、各自で手順表をノートにまとめておくこと。					
【授業外学修】					
1. 予習として、教科書の授業内容に関わる部分を読み、疑問点を明らかにして授業に臨む。					
2. 発展学修として、演習内容を実践する。					
以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	子どもの健康と安全	大西文字	中山書店	2,200+税	978-4-521-74777-4
自由記載					
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	病気がみえるvol.6 免疫・膠原病・感染症	医療情報科学研究所	メディックメディア	3,500+税	
自由記載		『保育所におけるアレルギー対応ガイドライン』（平成31年4月，厚生労働省） 『2018年改訂版保育所における感染症対策ガイドライン』（平成30年3月，厚生労働省）『教育・保育施設等における事故防止及び自己発生時の対応のためのガイドライン』（平成28年3月，内閣府・文部科学省・厚生労働省）等			
【備考】					
令和3年度，評価方法とテキストを修正。					
【担当教員の実務経験の有無】					
無					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】					
無					

授業科目名	子どもの食と栄養I		サブタイトル		授業番号	CQ210
担当教員名	小野 尚美					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	1単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
<p>子どもの健やかな発育・発達に食生活が重要であることは言うまでもない。しかし、子どもたちを取り巻く食環境には子どもたちの健やかな発育・発達に影響を及ぼすことが多く存在する。子どもの食と栄養Iでは、栄養の基本的な知識とともに、子どもの発育・発達と食生活の関連について講義する。また、家庭や保育所等で推進が求められている食育についても説明する。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 栄養の基本的な内容を理解し、保育場面に活用できる。</li> <li>・ 小児の発育・発達や健康に栄養摂取が大きく関連していることが理解できる。</li> <li>・ 発育・発達に応じた特性や栄養摂取の重要性を理解し、保育場面に活用できる。</li> <li>・ 小児期における食育の重要性が理解できる。</li> </ul> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち&lt;知識・理解&gt;の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：子どもの心身の健康と食生活  第2回：子どもの食生活の現状と課題  第3回：栄養の基本的概念，栄養に関する基本的知識（1）炭水化物  第4回：栄養に関する基本的知識（2）脂質  第5回：栄養に関する基本的知識（3）たんぱく質  第6回：栄養に関する基本的知識（4）ミネラル  第7回：栄養に関する基本的知識（5）ビタミン，水  第8回：食べ物の消化と吸収（1）食べ物の消化過程  第9回：食べ物の消化と吸収（2）栄養素の吸収と未消化物の排泄  第10回：子どもの発育・発達の特徴，発育・発達の評価  第11回：胎児期（妊娠期）の食生活  第12回：学童期・思春期の心身の特徴と食生活  第13回：食育の基本と内容  第14回：特別な配慮を要する子どもの食と栄養（1）食物アレルギーのある子どもへの対応  第15回：特別な配慮を要する子どもの食と栄養（2）慢性疾患のある子どもへの対応</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	授業終了時に当日の講義の要約を記述して提出を求めるカードにより、評価を行う。		
	レポート					
	小テスト		30%	主要なポイントの理解を評価する。		
	定期試験		50%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
<p>講義では毎回プリントを配布するので、ノートを準備する必要はない。配布したプリントに必要なことをしっかり書き留めること。講義はプリントを中心に進めるが、事前学習としてテキストの該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。</p>						
<b>【授業外学修】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前に授業の内容をテキストで予習しておく。</li> <li>・ 授業後に、講義内容の整理や確認問題へ取り組む。</li> <li>・ 興味を持った部分をさらに自分自身で調べる。</li> <li>・ 自分自身の食生活に関心を持ち、講義で学んだことを各自の食生活で実践する。</li> </ul> <p>以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。</p>						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	最新子どもの食と栄養		飯塚美和子，瀬尾弘子他編著	学建書院	2,640円	978-4-7624-6841-4
自由記載						
参考書	自由記載		必要に応じて講義中指示する。			
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	無					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						



授業科目名	子どもの食と栄養II		サブタイトル		授業番号	CQ311	
担当教員名	下田 裕恵						
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	1単位		
開講年次	2年			開講期	後期		
必修・選択	選択			授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b>							
乳幼児期は、心と体の健やかな成長・発育に重要な時期である。前期に習得した栄養の基礎をもとに実習、演習を通して小児の各時期に応じた栄養の実践を学ぶ。							
<b>【到達目標】</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士として必要な「健康と栄養」に関する基礎知識を理解し、保育場面に活用できる。</li> <li>・小児の成長発育が栄養摂取と大きく関連していることが理解できる。</li> <li>・月齢、年齢に応じた特性や栄養摂取の重要性を理解し、調乳、離乳食、幼児食、おやつなどの調理ができる。</li> <li>・食事バランスガイドを理解し、食生活を見直し、適切な食生活に向けて努力できる。</li> </ul> なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞の修得に貢献する。							
<b>【授業計画】</b>							
第1・2回 調理の基本（おやつの調理） 第3・4回 献立作成と食生活の評価 第5・6回 乳児期の栄養について（調乳と市販離乳食の試食） 第7・8回 離乳食について（離乳食の調理と試食） 第9・10回 幼児の栄養と食生活について（幼児食の調理と試食） 第11・12回 成長に応じた食形態について（保育所給食、非常食とお弁当の評価） 第13・14回 保育所における食育について（おやつの調理と試食） 第15回 まとめ							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	実習、演習に保育士になる意識を持って積極的に参加しているかを評価する。			
	レポート		20%	毎回の講義内容がまとめられ、また自分の意見が述べられていること。コメントを記入して返却する。			
	小テスト		30%	重点項目について確認する。			
	定期試験						
	その他		30%	実習内容の再現と内容がきちんとまとめられ、保育士としてふさわしい課題発表が来ているか評価する。			
自由記載							
<b>【受講の心得】</b>							
保育士という専門性の高い職業を目指す学生としての意識を持ち、実習・演習に積極的に参加し、レポートは一つの書類と考え丁寧に書き提出すること。							
<b>【授業外学修】</b>							
毎回授業についてのレポートを作成すること。 離乳食、幼児食は学ぶ内容が多岐に渡るのでテキスト、参考資料を読み込み丁寧に復習をすること。 毎回の授業のレポート及び課題、次回の授業範囲の予習を週当たり4時間以上行うこと。							
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	最新子どもの食と栄養			飯塚美和子	学建書院	2400	9784762458415
	自由記載	『最新子どもの食と栄養』、学建書院（子どもと栄養Iで使用したものと同じ）					
参考書	自由記載						
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
	有						
	<b>【担当教員の实務経験】</b>						
	専門学校講師						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>							
無							
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>							
学生が保育士として必要な食の知識、調理技術が保育の現場で実践できるよう各項目に組み入れる。また乳幼児の保護者の視点からも考える力を身に付ける。							

授業科目名	乳児の保育I		サブタイトル		授業番号	CQ212
担当教員名	土師 範子					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
<p>乳児保育の理念と役割，乳児保育における基本的な知識に基づく援助や関わりを解説する。</p> <p>近代以降の乳児保育の歴史の変遷をふまえつつ，現代社会における「乳児を育てること」について，多角的に理解を深められるよう講義する。</p> <p>あたたかい愛情で保育することの重要性と，3歳未満児の発育・発達，生活と遊び，具体的な援助や関わりについて理解できるよう講義する。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>1，乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解できる。</p> <p>2，保育所，保育所以外の児童福祉施設など多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解できる。</p> <p>3，3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解できる。</p> <p>4，乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解できる。</p> <p>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，&lt;知識・理解&gt; &lt;思考・問題解決能力&gt;の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：乳児保育の意義・目的と歴史の変遷</p> <p>第2回：乳児保育における養及び教育</p> <p>第3回：乳児保育および子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題</p> <p>第4回：保育所における乳児保育</p> <p>第5回：保育所以外の児童福祉施設における乳児保育</p> <p>第6回：3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場</p> <p>第7回：3歳未満児の発育・発達</p> <p>第8回：3歳未満児の生活と環境</p> <p>第9回：3歳未満児の遊びと環境</p> <p>第10回：3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり</p> <p>第11回：3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮</p> <p>第12回：乳児保育における計画・記録・評価とその意義</p> <p>第13回：職員間の連携・協働</p> <p>第14回：保護者との連携・協働</p> <p>第15回：自治体や地域の関係機関等との連携・協働</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート		30%	乳児の発達にふさわしい内容や援助の仕方であること。課題やレポートについてはコメントを記入して返却する。		
	小テスト					
	定期試験		70%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
自分の意見や問題意識を持ち，講義や討議等を通して乳児への理解を深め，専門的な知識や思考力を意欲的に習得すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
次回授業までに，授業終了時に出す課題を行ってくること（週当たり1時間以上学修すること）。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	新基本保育シリーズ15乳児保育I・II		児童育成協会 寺田清美・大方美香・塩谷香	中央法規	本体2600円＋税	9784805857953
自由記載						
参考書	自由記載		『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館 その他，適宜紹介する。			
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	無					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	乳児の保育II		サブタイトル		授業番号	CQ313
担当教員名	土師 範子					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
3歳未満児の発育・発達過程や特性を踏まえた具体的な関わりや援助の実践について理解を深められるよう解説する。 乳児保育における保育の方法や実際の配慮・援助などの技術が身に付けられるよう解説する。						
<b>【到達目標】</b>						
1, 3歳未満児の発育・発達過程や特性を踏まえた援助や関わりの方針について理解できる。 2, 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解できる。 3, 乳児保育における配慮の実践について、具体的に理解できる。 4, 上記の1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解できる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：乳児保育の基本 第2回：子どもの生活の流れ（0歳児クラス） 第3回：子どもの保育環境（0歳児クラス） 第4回：子どもの援助の実践（0歳児クラス） 第5回：子どもの生活の流れ（1歳児クラス） 第6回：子どもの保育環境（1歳児クラス） 第7回：子どもの援助の実践（1歳児クラス） 第8回：子どもの生活の流れ（2歳児クラス） 第9回：子どもの保育環境（2歳児クラス） 第10回：子どもの援助の実践（2歳児クラス） 第11回：子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮 第12回：集団での生活における配慮 第13回：環境の変化や移行に対する配慮 第14回：長期的な指導計画と短期的な指導計画 第15回：個別的な指導計画と集団の指導計画						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		70%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
自分の意見や問題意識を持ち、講義や討議等を通して乳児への理解を深め、専門的な知識と技術を意欲的に習得すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
次回授業までに、授業終了時に出す課題を行ってこよう。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	新基本保育シリーズ15乳児保育I・II		児童育成協会 寺田清美・大方美香・塩谷香	中央法規	本体2600円 + 税	9784805857953
自由記載						
参考書	自由記載		『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館 その他、適宜紹介する。			
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	無					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	障害児保育		サブタイトル		授業番号	CQ214
担当教員名	佐藤 伸隆					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
本講義は、障害児保育についての理解を深めるために、障害の特徴、支援体制、支援の方法について学ぶ。						
<b>【到達目標】</b>						
障害児保育についての基本的知識を身につける。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：障害児保育とは 第2回：障害児保育の仕組み 第3回：知的障害の特徴 第4回：自閉症の特徴 第5回：注意欠陥/多動性障害の特徴 第6回：学習障害の特徴 第7回：視覚障害の特徴 第8回：聴覚障害の特徴 第9回：肢体不自由の特徴 第10回：言語障害の特徴 第11回：統合保育とは 第12回：保育・教育施設での支援体制 第13回：家族への支援 第14回：障害児支援におけるアセスメント 第15回：発達支援の技法						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な受講態度はもちろん、ワークへの参加状況も評価します。			
	レポート	20%	障害のある人やその家族が書いた書籍を1冊以上選び、要旨と本人の声をレポートしてください。詳細は授業中に指示します。			
	小テスト					
	定期試験	60%	授業全体を通して学修した内容の理解度を、【到達目標】を規準に審査します。			
	その他					
	自由記載	保育現場（園・施設）で障害児保育を実践する基礎を学修しているかを規準に評価します。				
<b>【受講の心得】</b>						
この授業では、まず「しょうがい」を知ることから始めたいと思います。そして、障害のある子どもや保護者の「暮らし」を理解して、その育ちを「支える」ことの意味へと深めていきたいと思っています。そのためには、何よりも障害のある人（子ども）やその家族の声を「聴く」ことにこだわっていただきたいと思っています。						
<b>【授業外学修】</b>						
障害のある子どもや家族の方と交流する機会を積極的にもち、生活の実情や課題、必要な支援（必要でない支援）を傾聴することを通して、「声」を記録するよう心掛けてください。						
授業開始前までにテキストを読み、大筋を把握するとともに、自らの関心点、疑問点を明らかにしておいてください。						
授業で学修した内容を振り返り、板書ノートに書き加えるなどして要点、疑問点をまとめてください。なお、疑問点は次の授業時間に質問してください。						
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	『演習・保育と障害のある子ども』	野田敦史・林恵編	みらい	2,530	978-4-86015-415-8	
	自由記載					
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	『障害と子どもたちの生きるかたち』	浜田寿美男著	岩波現代文庫	880	978-4-00-603179-4	
	『発達障害当事者研究 ゆっくりていねいにつながりたい』	綾屋紗月・熊谷晋一郎著	医学書院	2,200	978-4-260-00725-2	
	『「生きづらさ」を超えて—発達障害と生きる』	福井豪著	吉備人出版	1,540	978-4-86069-369-5	
	『ひとりじゃないよ 倉敷発・居場所づくりから始まる障がい児の保護者支援』	安藤希代子著	吉備人出版	1,650	978-4-86069-616-0	
	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
社会福祉協議会の相談員						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
障害者やその家族に対する相談支援、トータルサポートの経験等を生かして、障害の理解や機関連携、計画作成など障害児保育の基礎について授業を行う。						

授業科目名	地域福祉論		サブタイトル	授業番号	CQ215
担当教員名	佐藤 伸隆 中典子				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	2単位	
開講年次	4年		開講期	前期	
必修・選択	選択		授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>					
本授業では、地域住民を取りまく社会資源について説明するとともに、地域福祉推進に必要なことについて講義する。					
<b>【到達目標】</b>					
社会福祉協議会、NPO法人、民生・児童委員をはじめとする地域の社会資源をインターネット上やインタビューにもとづいて情報収集して把握するとともに、自分が住んでいる地域の地域福祉計画について情報収集し、それぞれの地域の地域福祉推進について必要なことを理解する。 なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解>、<思考・問題解決能力>の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：現代における地域の特徴 第2回：地域福祉の課題 第3回：地域福祉の基本理念・概念 第4回：地域福祉の理論 第5回：地域福祉の主体と対象 第6回：地域福祉の担い手(1) 社会福祉協議会 第7回：地域福祉の担い手(2) 民生・児童委員 第8回：地域福祉の担い手(3) 民間非営利組織(NPO法人) 第9回：地域福祉の担い手(4) 社会福祉施設 第10回：地域福祉の担い手(5) 地方自治体 第11回：地域福祉の動向 第12回：地域福祉計画とは 第13回：地域福祉計画の作成の意義 第14回：地域福祉計画の方法 第15回：地域福祉の財源					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	意欲的な受講態度はもちろん、演習への参加状況も評価します。	
	レポート				
	小テスト				
	定期試験		60%	授業全体を通して学修した内容の理解度を、【到達目標】を規準に考查します。	
	その他		20%	演習の学修成果を確認するため、制作物の提出を求めます。	
	自由記載	児童厚生指導員として必要なコミュニティワークの視点、知識、技術を学修しているかを評価基準とします。			
<b>【受講の心得】</b>					
子ども家庭福祉の中で、今日ほど地域社会という「場」が懸念され、また、その再生が求められている時期は他にないでしょう。児童厚生指導員は、専ら児童館を拠点に、自らを社会資源として支援を行う重要な役割を担っています。地域を「知り」「耕し(興し)て」「つなぐ」。その視点と方法を学修しましょう。					
<b>【授業外学修】</b>					
日頃から地域の中で暮らす子どもや保護者の生活に関心をもち、生活特性や課題をリサーチして、それをノートに記録するよう心掛けてください。 授業開始前までにテキストを読み、大筋を把握するとともに、自らの関心点、疑問点を明らかにしておいてください。 授業で学修した内容を振り返り、板書ノートに書き加えるなどして要点、疑問点をまとめてください。なお、疑問点は次の授業時間に質問してください。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載	上野谷加代子・松端克文・永田祐編『新版 よくわかる地域福祉』ミネルヴァ書房、2019			
参考書	自由記載	児童館・学童保育21世紀委員会編『児童館・学童保育と共生のまち』『児童館・学童保育と子育て支援』『児童館・学童保育と自立ネット』萌文社、1994/1997/1999 児童健全育成推進財団『ソーシャルワーク』児童健全育成推進財団、2019 山下祐介『地域学をはじめよう』岩波ジュニア新書、2020			
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の実務経験】</b>					
社会福祉協議会の地域福祉担当職員、相談員					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
社会福祉協議会における地域福祉実践や相談支援の経験を生かして、児童厚生施設における地域福祉実践について授業を行う。					

授業科目名	保育計画I		サブタイトル	授業番号	CQ216
担当教員名	河原 智美				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	1単位	
開講年次	2年		開講期	前期	
必修・選択	選択		授業形態	演習	
【授業の概要】 幼稚園，保育所，認定こども園等がどのような計画に基づいて保育を行っているのかについて，その意義や必要性を説明する。乳幼児の発達の特徴や各年齢にふさわしいカリキュラムについて検討する。さらに，理論的な知識をもとに，実践的な保育技術についての具体的な手法を知り，実践発表を通してスキルを身につけられるよう，保育の計画との関係性を明らかにする。					
【到達目標】 1，乳幼児の発達の特徴を理解し，各年齢にふさわしいカリキュラムを立案できる。 2，保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と実践的な方法について身につけられる。 3，乳幼児にふさわしい生活や遊びの時間を構造化し，具体的な遊びや生活習慣について理解できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，知識・理解 技能 態度 の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：保育における計画の意義 第2回：幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の概要 第3回：幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の性格と位置づけ 第4回：指導計画の全体構造について 第5回：部分指導案の考え方と作成(1) 第6回：部分指導案の考え方と作成(2) 第7回：0歳児の指導計画と，遊びのプログラム開発・実践 第8回：1歳児の指導計画と，遊びのプログラム開発・実践 第9回：2歳児の指導計画と，遊びのプログラム開発・実践 第10回：3歳児の指導計画と，遊びのプログラム開発・実践 第11回：4歳児の指導計画と，遊びのプログラム開発・実践 第12回：5歳児の指導計画と，遊びのプログラム開発・実践 第13回：3歳未満児の生活と指導計画 第14回：3歳以上児の生活と指導計画 第15回：小学校との接続について					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。		
	レポート	20%	乳幼児の発達の特徴や，各年齢に応じた保育計画を理解し，幅広い視野で考えられること。提出する指導案・レポートについてはコメントを記入して返却する。		
	小テスト	50%	保育計画に関わる知識・理解について評価する。		
	定期試験				
	その他				
	自由記載				
【受講の心得】 子ども理解に努め，柔軟な発想で遊びのレポートリーを増やせるように心がけ，練習を怠らないこと。 指導案を作成する練習を積極的に行うこと。					
【授業外学修】 1，次回授業までに，毎回授業終了時に出す課題を行い，練習すること。 2，指導案作成の課題については，実際にシミュレーションし，様々な角度から突き詰めて検討すること。 以上の内容を，週当たり2時間以上学修すること。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』	内閣府・文部科学省・厚生労働省	チャイルド本社	本体500円＋税	9784805402283
	自由記載	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府 フレーベル館			
参考書	自由記載	適宜紹介する。			
	【担当教員の実務経験の有無】	有			
	【担当教員の实務経験】	公立幼稚園教諭，私立幼稚園園長			
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					
【実務経験をいかした教育内容】 より実践的な保育計画が立案できるよう教育内容を指導する。					

授業科目名	保育計画II		サブタイトル	授業番号	CQ317
担当教員名	河原 智美				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	1単位	
開講年次	2年		開講期	後期	
必修・選択	選択		授業形態	演習	
【授業の概要】					
指導計画の作成の在り方や評価の基礎的理論を説明する。また、基本的な理論を理解した上で、各グループで作成した指導案に沿って模擬保育を実施する。その模擬保育を通して具体的な指導方法を身につけ、「その遊びによって何が育つか」「ねらいに対する保育者の関わりや配慮、援助」を分析しながら子どもの発達にふさわしい豊かな遊びを検討し、提案できるよう解説する。					
【到達目標】					
1, 指導計画の作成について具体的に理解できる。 2, 子どもの発達の過程や特徴の理解を基にして、子どもの育ちを見通した質の高い指導計画を立案できる。 3, 計画、実践、省察・評価、改善の過程について、その全体構造をとらえ、実践できる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力><技能><態度>の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：幼稚園の教育課程の編成の基本原則と方法 第2回：保育所・認定こども園等の全体的な計画の作成の基本原則と方法 第3回：長期・短期指導計画の作成について (1)年間指導計画(2)期間指導計画(3)月間指導計画(4)週間指導計画(5)日案の作成について 第4回：幼稚園の指導計画の作成 第5回：保育所・認定こども園の指導計画の作成 第6回：様々な指導計画（個別の支援計画、異年齢編成による指導計画、行事の指導計画等） 第7回：保育の評価について 第8回：指導案の作成（グループワーク） 第9回：模擬保育の観察と記録 第10回：作成した指導案に基づいた模擬保育・反省と評価（グループ1・2） 第11回：作成した指導案に基づいた模擬保育・反省と評価（グループ3・4） 第12回：作成した指導案に基づいた模擬保育・反省と評価（グループ5・6） 第13回：作成した指導案に基づいた模擬保育・反省と評価（グループ7・8） 第14回：作成した指導案に基づいた模擬保育・反省と評価（グループ9・10） 第15回：模擬保育及び全体を通しての評価と改善					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	意欲的な受講態度、発表・討議・模擬保育への参加、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート	20%	提出する指導案複数（40%）と模擬保育についてのレポート（40%）の内容を評価する。指導案、レポートについてはコメントを記入して返却する。		
	小テスト				
	定期試験	50%	保育計画に関する知識・理解について評価する。		
	その他				
	自由記載				
【受講の心得】					
グループ内で協力し、積極的に発言や発表を行い、自ら学ぶ姿勢で臨むこと。 指導案を作成する練習を積極的に行うこと。 模擬保育の準備、練習を怠らないこと。					
【授業外学修】					
1, 指導案作成の課題については、実際にシミュレーションし、様々な角度から突き詰めて検討すること。 2, 模擬保育については、グループ内で協力し合い、準備・練習を入念に行うこと。 以上の内容を、週当たり2時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針』チャイルド本社 『幼稚園教育要領解説書』フレーベル館 『保育所保育指針解説書』フレーベル館			
参考書	自由記載	『遊びの指導』幼少年教育研究所 同文書院 その他、適宜紹介する。			
【担当教員の実務経験の有無】					
有					
【担当教員の实務経験】					
公立幼稚園教諭、私立幼稚園園長					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】					
無					
【実務経験をいかした教育内容】					
より実践的な保育計画が立案できるよう教育内容を指導する。					

授業科目名	保育所実習I		サブタイトル	授業番号	CQ418
担当教員名	土師 範子 廣畑 まゆ美				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	2単位	
開講年次	3年		開講期	前期	
必修・選択	選択		授業形態	実習	
<b>【授業の概要】</b>					
保育所等での実習指導を受けることにより、今まで学んできた理論が実際の現場でどのように活かされているかを知る。また、乳幼児に対する望ましい援助の仕方や実践における保育士等の役割について学ぶ。					
<b>【到達目標】</b>					
これまでに学習した知識と技術を基盤として、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、保育所等での実習を通して、在園している乳幼児の生活について理解する。また、保育の理論と実践の関係について以下のように習熟する。(1)保育所等の保育内容、機能等を実践現場での体験を通して理解する。(2)既習の教科全体の知識・技能を基礎として、総合的に実践する応用力を涵養する。(3)保育士等の職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について学ぶ。(4)保育士等の職務内容及び役割、また園の職員とのチームワークなど体験的に把握する。なおこの科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<技能><態度>の習得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
1) 見学実習 (1)施設の沿革と保育の基本方針を知る。 (2)乳幼児、保護者、保育士等の構成等について知る。 (3)物的環境(敷地、建物の構造、配置及び施設・設備)を把握する。 (4)人的環境(職員構成、勤務形態等)を把握する。 2) 観察・参加実習 (1)観察・参加の仕方を学ぶ。 (2)乳幼児、保護者に対する理解を深める。 (3)保育の1日の流れを把握する。 (4)基本的生活習慣の自立を援助する。 (5)遊びなどの指導について学び、担当者の補助をする。					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢/態度				
	レポート		20%	実習ノートの記述状況、指導を受けたことへの改善の跡などを評価する。	
	小テスト				
	定期試験				
	その他		80%	実習園での評価と実習記録・実習保育計画を総合的に評価する。	
	自由記載	・保育所実習における実習園の評価表、実習日誌、指導計画の準備や成果等を総合的に評価し、評価点が60点以上の者に単位を認定する。			
<b>【受講の心得】</b>					
実習園では、乳幼児に対して自ら積極的に関わること。また、失敗を恐れずに、チャレンジ精神をもって臨むこと。分からないことは、その都度、謙虚な態度で保育士等に直接質問すること。指導者に注意されたことを理解し、改善すること。					
<b>【授業外学修】</b>					
実習前にボランティアなどで乳幼児とのふれあい体験をしておく。					
使用テキスト	自由記載	『保育所実習の手引き』『保育所実習日誌』、岡山県保育士養成協議会			
参考書	自由記載	『これで安心! 保育指導案の書き方』、北大路書房			
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
無					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					



授業科目名	保育所実習II		サブタイトル	授業番号	CQ419
担当教員名	土師 範子 廣畑 まゆ美				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	2単位	
開講年次	3年		開講期	前期	
必修・選択	選択		授業形態	実習	
<b>【授業の概要】</b>					
部分指導・全日指導を通して、指導計画立案、保育の実施、実施後の反省、評価をすることにより、乳幼児に対する理解を深めるとともに、保育所等の役割や重要性について学ぶ。					
<b>【到達目標】</b>					
保育所等の保育内容の各領域とその全体系を理解し、乳幼児の発育・発達状況に合わせた具体的な対応の仕方を学びながら、乳幼児の保育を主体的に担当し、個々の指導技術を実践の場で総合的に学び、習得する。そして、保育計画及び指導計画の体系と立案の方法を理解したり、保育記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して家庭・地域社会を理解するなど、保育士等としての意識を高め全般的な技術に習熟する。また、子育て支援の内容や方法を具体的に学ぶ。なお、この科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<技能><態度>の習得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
<b>【授業計画 備考】</b>					
指導実習は実習生自らが指導計画を立案し、保育実践を行い、その後、保育の反省と評価を行う。指導実習では、1日の乳幼児の生活のある部分だけの経験や活動だけを指導する部分実習から始まり、次第に1日の全体を指導する全日実習を経験する。					
(1)保育全般に参加し、保育技術を習得する。 (2)乳幼児の発達や個人差について理解し、適切な対応方法を学ぶ。 (3)指導計画を立案し、実践する。 (4)子どもの家族とのコミュニケーションの方法について具体的に学ぶ。 (5)地域社会に対する理解を深め、連携の方法について具体的に学ぶ。 (6)子どもの最善の利益の具体化について学びを深める。 (7)保育士等としての職業倫理を理解する。 (8)保育士等に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確にする。					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢/態度				
	レポート		20%	実習ノートの記述や、指導を受けたことへの改善状況、自分自身の反省・工夫・改善などを評価	
	小テスト				
	定期試験				
	その他		80%	実習園での評価と実習記録・実習計画を総合的に評価する。	
	自由記載	・保育所実習における実習園の評価表、実習日誌、指導案の準備や成果等を総合的に評価し、評価点が60点以上の者に単位を認定する。			
<b>【受講の心得】</b>					
・実習園では、乳幼児に対して自ら積極的に関わること。また、失敗を恐れずに、チャレンジ精神をもって臨むこと。分からないことは、その都度、謙虚な態度で保育士等に直接質問すること。指導者に注意されたことは十分理解し、速やかに改善すること。					
<b>【授業外学修】</b>					
実習前にボランティアなどで乳幼児とのふれあいを体験しておくこと。					
使用テキスト	自由記載	『保育所実習の手引き』『保育所実習日誌』、岡山県保育士養成協議会			
参考書	自由記載	『最新 保育園幼稚園の実習完全マニュアル』、成美堂出版			
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
無					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					

授業科目名	保育実習研究I		サブタイトル	授業番号	CQ320
担当教員名	土師 範子 廣畑 まゆ美				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	2単位		
開講年次	3年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
【授業の概要】					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所実習において必要な理論とスキルを、テキストから詳しく学ぶ。</li> <li>・実習で使用する記録用紙に基づいて記録の書き方を具体的に学ぶ。また、実技発表を実施する事により、現場に即した保育の指導方法を身につける。</li> </ul>					
【到達目標】					
<p>保育所実習の事前指導として、学内において講義や視聴覚教材などを利用して演習を行うことにより、実習の意義を理解するとともに学習意欲・意識を高める。また、記録の在り方、指導案の書き方などを理解する。</p> <p>実習終了後には反省会を実施し、実習総括・評価をもとにして、子ども観・保育観を深め、新たな学習目標を明確にする。なお、この科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうちの&lt;思考・問題解決能力&gt; &lt;技能&gt; &lt;態度&gt;の習得に貢献する。</p>					
【授業計画】					
<p>第1回：保育実習に関する行動計画 実習日誌・提出物について (担当土師 範子 廣畑 まゆ美)</p> <p>第2回：保育所実習の意義と目的 心構え・自己課題について (担当土師 範子 廣畑 まゆ美)</p> <p>第3回：保育の内容 (担当土師 範子 廣畑 まゆ美)</p> <p>第4回：特別な配慮を要する子どもの保育 (担当土師 範子 廣畑 まゆ美)</p> <p>第5回：実習の実際 事前訪問について (担当土師 範子 廣畑 まゆ美)</p> <p>第6回：実習の基準と留意事項 プライバシーの保護と守秘義務について (担当土師 範子 廣畑 まゆ美)</p> <p>第7回：指導計画案の形式と記入の仕方 (担当土師 範子 廣畑 まゆ美)</p> <p>第8回：年齢に応じた指導案例 (担当土師 範子 廣畑 まゆ美)</p> <p>第9回：実習前準備 総括 (担当土師 範子 廣畑 まゆ美)</p> <p>第10回：実習事後処理 実習後課題について 礼状 (担当土師 範子 廣畑 まゆ美)</p> <p>第11回：実習の自己評価・課題の明確化 (担当土師 範子 廣畑 まゆ美)</p> <p>第12回：実習後学びのグループワーク(1) (担当土師 範子 廣畑 まゆ美)</p> <p>第13回：実習後学びのグループワーク(2) (担当土師 範子 廣畑 まゆ美)</p> <p>第14回：実習後発表 (担当土師 範子 廣畑 まゆ美)</p> <p>第15回：保育所実習のまとめ (報告会の役割・準備) (担当土師 範子 廣畑 まゆ美)</p>					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	実習準備を確実にできたかを評価する。		
	レポート	50%	実習での気づきを良い方向に生かすような記述ができたかを評価する。		
	小テスト				
	定期試験				
	その他	20%	実習後の体験発表：実習で得た成果を説得力を持って発表できたかを評価する。		
	自由記載	・授業態度、および実習の事前準備や事後のレポート等を総合的に評価し、評価点が60点以上の者に単位を認定する。			
【受講の心得】					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回実習に関する重要な課題に取り組むので、欠席しないよう心がけること。</li> <li>・実際に子どもたちと関わることを意識し、真剣に授業に取り組むこと。</li> <li>・乳幼児の遊びやその指導に関連した情報の収集を常に心がけること。</li> <li>・守秘義務他保育士等の倫理規定を十分理解し遵守する。</li> </ul>					
【授業外学修】					
実習準備・事前訪問・実習事後処理などを適切に行う。					
使用テキスト	自由記載	『保育所実習の手引き』『保育所実習日誌』、岡山県保育士養成協議会			
参考書	自由記載	『保育所保育指針解説書』厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府 文部科学省 厚生労働省、フレーベル館 その他、適宜紹介する。			
【担当教員の実務経験の有無】					
無					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】					
無					

授業科目名	施設実習		サブタイトル		授業番号	CQ421
担当教員名	中典子 柏原 寛					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	3年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	実習	
<b>【授業の概要】</b>						
児童福祉施設及び障がい者支援施設で実習指導を受けることにより、その種別による目的や機能を認識し、利用児(者)の生活状況を理解し、保育士がどのような立場にあることが望ましいかを明らかにする。						
<b>【到達目標】</b>						
児童福祉施設及び障がい者支援施設について学んだ理論が実際の現場でいかに応用されているかを知り、自ら実践できるようになることを目的とする。また、利用児(者)にとって望ましい支援のあり方を理解できるようになる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<技能><態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
<b>【授業計画 備考】</b>						
児童福祉施設・障がい者支援施設において10日間の泊まりこみ実習指導を受け、下記のことを学ぶ。						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習施設における一日の流れを体験によって理解する。</li> <li>2. 施設における支援方針が生活の中でどのように展開されているのかを知り、参加する。</li> <li>3. 支援のための計画を理解する。</li> <li>4. 職員の利用児(者)へのかかわり方に基づいて、実際に利用児(者)と関わる。</li> <li>5. 職員の利用児(者)へのかかわり方を通して彼らの思いを理解する。</li> <li>6. 生活支援の一部を担当し、支援のための技術を習得する。</li> <li>7. 利用児(者)の最善の利益に関する配慮を学ぶ。</li> <li>8. 保育士としての職業倫理を理解する。</li> <li>9. 安全及び疾病予防への配慮について理解する。</li> <li>10. 職員間の役割分担とチームワークについて理解する。</li> <li>11. 記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して家庭や地域社会を理解する。</li> <li>12. 利用児(者)の生活の安定をもたらす専門職としての資質を習得する。</li> </ol>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート		20%	実習で学んだことについて具体的に記載されていること、また、学びが日々ステップアップしていることについて評価する。実習日誌については、コメントを記入して返却する。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他		80%	実習先施設から返却された評価票に基づいて、評価する。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
「施設実習研究」で学んだ事をしっかり復習しておくこと。学ぼうとする姿勢で臨み、利用児・者と積極的に関わること。また、分からないことは、速やかに、かつ謙虚な態度で施設職員に直接質問すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
・毎日、実習終了後は日誌を丁寧に記入すること。下書きはレポート用紙(別紙)に記載し、その都度見直ししたり、実践の振り返りに役立てること。また、新たに分からないことを発見した場合には、施設職員にわかりやすいように日誌に記載しておくこと。(約4時間)						
使用テキスト	自由記載	・使用するテキストは、『施設実習日誌』『施設実習の手引』(作成:岡山県保育士養成協議会)である。第1回目の「施設実習研究」の授業にて配付する。				
参考書	自由記載	・必要に応じて紹介する。				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員以外の指導に関わる実務経験者】</b>						
社会福祉関連施設の保育士						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
利用者への対応方法について実践を通して理解するように働きかける。						

授業科目名	施設実習研究		サブタイトル	授業番号	CQ322
担当教員名	中典子 柏原 寛				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科	単位数	1単位		
開講年次	2年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
【授業の概要】 児童福祉施設や障がい者支援施設での実習を望ましいものにするために、本授業では施設実習の意義と目的・実習記録のとり方など、実習指導を受けるための心得について講義する。また、実習終了後には、実習の課題と反省についてまとめ、自己の振り返りをするために研究発表を行い、施設実習で何を学び、どのような技術を身に付けたかについて明らかにする。					
【到達目標】 施設で暮らしている子どもや障害児・者について、その社会的な背景やその人自身の特性について学び、自ら説明できるようになることを目的とする。また、施設において実習指導を受ける際に学びたいことについて理解できるようになる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち「思考・問題解決能力」の修得に貢献する。					
【授業計画】					
<p>第1回：施設実習の意義と目的を学ぶ。 (担当担当中)</p> <p>第2回：実習施設の役割・機能について理解する。 (担当担当中)</p> <p>第3回：対象となる利用児(者)について理解する。 (担当担当中)</p> <p>第4回：運営状況について学ぶ。 (担当担当中)</p> <p>第5回：施設保育士の職務内容について把握する。 (担当担当中)</p> <p>第6回：職員間の役割分担やチームワークを理解し、施設保育士としての資質を学ぶ (担当担当中)</p> <p>。 (担当担当中)</p> <p>第7回：施設の一日の流れを理解する。 (担当担当中)</p> <p>第8回：利用児(者)への支援の方法を学ぶ。 (担当担当中)</p> <p>(乳児院・児童養護施設における支援内容)</p> <p>第9回：利用児(者)への支援の方法を学ぶ。(障害児・者支援施設における支援内容) (担当担当中)</p> <p>第10回：施設で生活する利用児(者)の思いを理解する。 (担当担当中)</p> <p>(乳児院・児童養護施設で生活する子どもの特性と思い)</p> <p>第11回：施設で生活する利用児(者)の思いを理解する。 (担当担当中 柏原)</p> <p>(障害児・者支援施設で生活する人たちの特性と思い)</p> <p>第12回：実習計画(自己課題)を立てる。 (担当担当中 柏原)</p> <p>第13回：実習日誌の書き方について学ぶ。(デイリープログラムの書き方、利用児・者との関わりについての記載方法) (担当担当中 柏原)</p> <p>第14回：実習日誌の書き方について学ぶ。(本日の実習課題と取り組みのポイント、本日の実習課題を通して考えたことについての記載方法) (担当担当中 柏原)</p> <p>第15回：まとめ：施設実習指導を受ける上での留意点を把握する。(実習生としての学びの姿勢について) (担当担当中 柏原)</p>					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	授業中に学習内容を踏まえた積極的な質問、あるいは、既存の意見を踏まえた上での自分の考えをしっかりと述べるができるかについて評価する。		
	レポート	50%	実習終了後、現場で学んだことを振り返り、事例を踏まえて具体的に述べられているかについて評価する。		
	小テスト				
	定期試験				
	その他	30%	事前学習に積極的に取り組んだかどうかについて、評価する。実習日誌は、コメントを記入して返却する。学習内容が不十分だと判断した場合には、再提出を課す。		
自由記載					
【受講の心得】 ・毎回提示される課題を丁寧に作成すること。 ・授業中は、一言一句聞き逃さないような心構えをもち、真剣な態度で臨むこと。					
【授業外学修】 ・授業中に取ったノートや配付したプリントを見直し、復習すること。その際、必ず実習の手引きと再度照らし合わせ、足りない文言などを書き足すこと。(約1時間)					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	保育福祉小六法				
	自由記載	・使用するテキストは、『施設実習日誌』『施設実習の手引』(作成：岡山県保育士養成協議会)である。第1回目の授業にて配付する。			
参考書	自由記載	・必要に応じて紹介する。			
	【担当教員の実務経験の有無】 無				
	【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無				

授業科目名	保育実習Ⅲ		サブタイトル		授業番号	CQ423
担当教員名	中田 周作					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	4年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	実習	
<b>【授業の概要】</b>						
福祉施設での実習指導を受けることにより、その種別による目的や機能を認識し、その全体系を明らかにする。そして、専門職としての保育士の職務意識を高め、一般的な技術に習熟するための実習を行う。						
<b>【到達目標】</b>						
本実習の目的は、次の4つである。(1)個々の利用児・者に対する援助計画・日常的支援・専門的支援を理解できるようになる。(2)日常的支援の重点を理解し、指導者の助言をもとに援助計画を立案できるようになる。(3)担当者の指導のもとに利用児・者の援助実践を行い、養護技術の具体を知り、自ら実践できるようになる。(4)個々の利用児・者の異なるニーズに対応するサポートシステムを知り、自ら実践できるようになる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<技能><態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
<b>【授業計画 備考】</b>						
基本的な実習を終えた後、次の段階の処遇活動への参加として計画的援助活動の実施、関わる処遇部門の拡大などもう一段上の実習課題をもつこと。						
1) 援助計画の理解						
・利用児・者の発達段階や年齢に対して配慮する。						
・個々の利用児・者のもつ問題に対応する援助計画、日常的支援、専門的支援を理解する。						
2) 援助プログラムの立案						
・日常的支援の時間配分や生活、教育、訓練、治療、矯正などの重点のおき方から援助プログラムへの生かし方を理解する。						
・施設の援助計画と実習指導担当者の方針を理解し、その助言を受けて立案する。						
3) 援助プログラムによる援助実践						
・利用児・者の心身の状況によって臨機応変に対応する。						
・実習指導担当者の助言、実習場面の立ち会い、事後の評価等を受ける。						
4) 保育士の態度と技術の習得						
・受容と共感という人間的触れ合いの中で信頼関係を体得する。						
・必要な援助を機能的に行っている保育士の態度や技能を学ぶ。						
・援助計画の中にどのように利用児・者の参加を進めようとしているかを学ぶ。						
5) 多様性と共通性の理解						
・個々の異なるニーズに対応するサービスあるいはサポートシステムを具体的に学習する。						
・種別ごとの特徴と共通する課題が存在することを、施設で実践することで学習する。						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート	20%	実習で学んだことについて具体的に記載されていること、また、学びが日々ステップアップしていることについて評価する。実習日誌については、コメントを記入して返却する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他	80%	実習先施設から返却された評価票に基づいて、評価する。			
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
「保育実習研究II」で学んだ事を復習しておくこと。学ぼうとする姿勢で臨み、利用児・者と積極的に関わること。また、分からないことは、速やかに、かつ謙虚な態度で施設職員に直接質問すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
・毎日、実習終了後は日誌を丁寧に記入すること。下書きはレポート用紙(別紙)に記載し、その都度見直ししたり、実践の振り返りに役立てること。また、新たに分からないことを発見した場合には、施設職員にわかりやすいように日誌に記載しておくこと。(約4時間)						
使用テキスト	自由記載	・必要に応じて紹介する。				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	保育実習研究II		サブタイトル		授業番号	CQ324
担当教員名	中田 周作					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	1単位	
開講年次	4年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
児童福祉施設の種類の、大変に多い。そこで、保育所以外の様々な児童福祉施設について改めて講義し、自らの実習先の特徴が確認できるように説明する。また、実習に必要な技能について指導を行う。						
<b>【到達目標】</b>						
保育所以外の児童福祉施設における実習(保育実習III)では、総合的な保育の実践力を身につけるために、学習科目の関連について学び、保育の全体計画、観察、記録、自己評価の方法、職業倫理、保育士の専門性について理解できるようになる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：保育実習の意義と目的 第2回：保育実習に対する心構え 第3回：保育実習の計画と準備 第4回：実習へ向けての自己課題作成 第5回：実習先への事前訪問 第6回：乳幼児期の支援 第7回：児童期の支援 第8回：中学生・高校生の支援 第9回：子育て家庭の支援 第10回：実習日誌の書き方1 日誌と記録の意義 第11回：実習日誌の書き方2 児童の観察のポイント 第12回：実習日誌の書き方3 実習の計画と考察 第13回：保育実習のまとめ1 礼状の書き方と振り返りシートの作成 第14回：保育実習のまとめ2 グループワークにおける振り返り 第15回：保育実習のまとめ3 実習報告会の実施						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	授業中に学習内容を踏まえた積極的な質問、あるいは、既存の意見を踏まえた上での自分の考えをしっかりと述べるができるかについて評価する。		
	レポート		50%	実習終了後、現場で学んだことを振り返り、事例を踏まえて具体的に述べられているかについて評価する。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他		30%	実習日誌については、コメントを記入して返却する。学習内容を習得していないと判断した場合には、再提出を課す。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
実習に関わる重要な授業なので、毎回意欲的に取り組むこと。わからないことがあれば、その都度、積極的に質問すること。また、実習後は自らを振り返り、学び得たことを次に活かせるようにしっかりとまとめること。						
<b>【授業外学習】</b>						
・授業中に取ったノートや配布したプリントを見直し、復習すること。その際、必ず実習日誌の説明部分と再度照らし合わせ、足りない文言などを書き足すこと。(約1時間)						
使用テキスト	自由記載	なし(プリントを配付する)				
参考書	自由記載	必要に応じて紹介する。				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	学童保育論		サブタイトル	授業番号	CQ229	
担当教員名	中田 周作 伊藤 智里					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	2単位		
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】 現代の日本社会における子育て支援に関する重要な問題のうちの1つは、子育て家庭の保護者の就労支援である。これを実現するためには、保育所や放課後児童クラブ（学童保育）などの充実が必須である。 しかしながら、これまで政策面からも学術的観点からも学童保育は等閑視されてきた。 そこで学童保育に関する現状や政策、指導員の役割、学童保育の運営について講義する。						
【到達目標】 本講義では、まず、学童保育の現状と役割を理解することを目標とする（第1～10回）。 次に、学童保育の運営の実態と地域社会との関わりについて理解することを目標とする（第11～15回）。 なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：学童保育と指導員の資格（担当中田周作） 第2回：現代社会における子どもを取り巻く社会状況（担当中田周作） 第3回：子どもたちの放課後の実態（担当中田周作） 第4回：学童保育の現状（担当中田周作） 第5回：学童保育の役割（担当中田周作） 第6回：学童保育に関する法律（担当中田周作） 第7回：学童保育に関する制度（担当中田周作） 第8回：学童保育の歴史（担当中田周作） 第9回：指導員の職務と倫理1（担当中田周作） 第10回：指導員の職務と倫理2（担当中田周作） 第11回：学童保育の運営方式（担当中田周作・伊藤智里） 第12回：指導員の連携と研修（担当中田周作・伊藤智里） 第13回：学童保育と保護者との関わり（担当中田周作・伊藤智里） 第14回：学童保育と地域との関わり（担当中田周作・伊藤智里） 第15回：学童保育と子育て支援（担当中田周作・伊藤智里）						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート		100%	授業担当者の領域に対応するレポートを2つ		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
【受講の心得】 児童期の子ども放課後はどのような実態にあるのか。他の講義なども参考にしながら、考察を深めること。						
【授業外学修】 本講義は集中講義である。そのため、集中講義が始まる前までに「放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準」と「放課後児童クラブ運営指針」を読んでおくこと。 事前の総学修時間は、30時間以上とする。 集中講義終了後の復習総学修時間も、30時間以上とする。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	放課後児童クラブ運営指針解説書		厚生労働省編	フレーベル館	290	978-4-577-81427-7
自由記載						
参考書	自由記載					
	【担当教員の実務経験の有無】					
	無					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】						
無						

授業科目名	学童保育方法論		サブタイトル	授業番号	CQ230
担当教員名	住野 好久				
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科		単位数	2単位	
開講年次	1年		開講期	後期	
必修・選択	選択		授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b> 学童保育方法として、「実践の構造」「実践の内容」「実践の方法」「実践の実際」について学習する。これらについて理論的な枠組みに加えて、実際のエピソードも適宜紹介しながら授業を進めていく。 講義を中心としながら、随時グループワーク等も織り交ぜながら取り組んでいく。					
<b>【到達目標】</b> 学童保育実践の構造、内容、方法を理解するとともに、これらについて実際に活用することができる。					
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：学童保育実践の構造(1) 養護・ケア・教育という機能 (担当住野) 第2回：学童保育実践の構造(2) 「運営指針」における育成支援 (担当住野) 第3回：学童保育実践の対象としての子ども(1) (担当住野) 第4回：学童保育実践の対象としての子ども(2) (担当住野) 第5回：学童保育実践における「あそび」の重要性 (担当住野) 第6回：学童保育実践における「養護」 (担当住野) 第7回：学童保育実践における「ケア」(1) (担当住野) 第8回：学童保育実践における「ケア」(2) (担当住野) 第9回：学童保育実践における「教育」(1) (担当住野) 第10回：学童保育実践における「教育」(2) (担当住野) 第11回：学童保育実践における「保護者との連携」 (担当住野) 第12回：学童保育実践における「学校・地域との連携」 (担当住野) 第13回：学童保育実践における「同僚との協働」 (担当住野) 第14回：学童保育実践を発展させるために (担当住野) 第15回：まとめ (担当住野)					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢/態度				
	レポート		60%	最後に提出するレポートに、学修した内容を的確にまとめられているとともに、自身の見解や経験についても記述できていること	
	小テスト		40%	授業で学習したことを理解し、課題に対して適切に回答すること	
	定期試験				
	その他				
自由記載					
<b>【受講の心得】</b> 学童保育実践を理解するということは、学童保育指導員を目指すだけでなく、保育士や小学校教員を目指す方にとっても大いに役立つものである。教職教養を広げるためにも受講してほしい。					
<b>【授業外学修】</b> テキストを熟読すること。 学童保育に関する情報を、新聞・テレビ・インターネット等を通じて収集すること。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。					
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価
	学童保育実践入門		中山芳一	かがわ出版	
	自由記載				ISBN
					4780305713
参考書	自由記載		・厚生労働省『放課後児童クラブ運営指針解説書』フレーベル館、2017年		
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 無				
	<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無				



授業科目名	学童保育実習I		サブタイトル		授業番号	CQ431
担当教員名	中田 周作 伊藤 智里					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	実習	
<b>【授業の概要】</b>						
この授業では、学童保育所で90時間の実習を実施する。 実習期間は8月中旬から9月中旬である。						
<b>【到達目標】</b>						
学童保育所は、実際には、どのような保育をしているのか、実習を通して経験する。 また、放課後の子どもたちと接することによって、子どもたちの実態を理解する。 なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<技能><態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
1. 実習先 実習研究の時間に配付する学童保育所の一覧より、実習先を配当する。						
2. 実習期間 おおよそ、次の2つの時期に分けて実施する。 (1)平日の午後に10日間 (2)長期休暇および土曜日に6日間						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		80%	実習に関する書類や実習ノート		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他		20%	実習先の評価		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
原則として次の2つの条件を満たしている者のみ履修できる。 (1)学童保育論と学童保育方法論の両方を履修済である者。 (2)学童保育実習研究を同時に履修している者。						
<b>【授業外学修】</b>						
運営指針解説書は実習時に携行すること。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	学童保育実習II		サブタイトル		授業番号	CQ432
担当教員名	中田 周作 伊藤 智里					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	2単位	
開講年次	4年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	実習	
<b>【授業の概要】</b>						
この授業では、学童保育所で90時間の実習を実施する。 実習期間は8月中旬から9月中旬である。						
<b>【到達目標】</b>						
学童保育所は、実際には、どのような保育をしているのか、実習を通して経験する。 また、放課後の子どもたちと接することによって、子どもたちの実態を理解する。 なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<技能><態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
1. 実習先 実習研究の時間に配付する学童保育所の一覧より、実習先を配当する。						
2. 実習期間 おおよそ、次の2つの時期に分けて実施する。 (1)平日の午後に10日間 (2)長期休暇および土曜日に6日間						
3.振り替え 放課後児童指導員資格を取得するためには、本実習の履修が必要であるが、その他の実習（ただし2単位以上）の単位で振り替えることができる。						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		80%	実習に関する書類や実習ノート		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他		20%	実習先の評価		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
原則として次の2つの条件を満たしている者のみ履修できる。 (1)学童保育論と学童保育方法論の両方を履修済である者。 (2)学童保育実習研究を同時に履修している者。						
<b>【授業外学修】</b>						
運営指針解説書は実習時に携行すること。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	学童保育実習研究		サブタイトル		授業番号	CQ333
担当教員名	中田 周作 伊藤 智里					
対象学部・学科	子ども学部 子ども学科			単位数	1単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
この授業では、学童保育実習を履修するために必要な事前・事後指導を行う。 事前指導では、実習において必要とされる基礎的技能および実習にあたっての心得を指導する。 事後指導では、実習内容を省察し、今後の実践力向上に活かすことができるようにする。						
<b>【到達目標】</b>						
学童保育実習を有意義なものにするための学修を行う。 また、放課後児童クラブ運営指針に則った育成支援を理解する。 なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<技能><態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：放課後児童指導員養成課程における実習の位置づけ (担当中田周作, 伊藤智里)						
第2回：「放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準」と「放課後児童クラブ運営指針」 (担当中田周作)						
第3回：放課後児童クラブ運営指針の概要 (担当中田周作)						
第4回：放課後児童クラブにおける育成支援の内容 (担当中田周作)						
第5回：特別講座(1) 実習先の概要と実習日誌の書き方 (担当中田周作, 伊藤智里)						
第6回：特別講座(2) 実習先の概要と実習全般にわたる注意事項 (担当中田周作, 伊藤智里)						
第7回：実習の心得と実習に係る書類作成等の確認 (担当中田周作)						
第8回：指導案と実践記録(1) (担当中田周作)						
第9回：指導案と実践記録(2) (担当中田周作)						
第10回：お礼状及び実習報告書の作成 (担当中田周作)						
第11回：実習報告書の作成 (担当中田周作)						
第12回：実習報告書の作成 (担当中田周作)						
第13回：実習の報告 (担当中田周作, 伊藤智里)						
第14回：実習の報告 (担当中田周作, 伊藤智里)						
第15回：実習のまとめと資格制度の確認 (担当中田周作, 伊藤智里)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		50%	授業中に作成する書類やレポート		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他		50%	実習報告書		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
原則として、学童保育論と学童保育方法論の両方を履修済である者のみ履修できる。						
<b>【授業外学修】</b>						
実習の事前事後指導については、週当たり1時間以上の予習復習を行うこと。 授業外学修の内容については、毎回異なるので、授業の時に指示する。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

中国学園大学 令和3年度(2021年度) シラバス

授業科目名	心理学		サブタイトル	(心と行動の科学)	授業番号	LA101
担当教員名	國田 祥子					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
この授業では、心理学全般の基本的な知識、心理学理論による人間理解とその技法の基礎について解説する。						
<b>【到達目標】</b>						
クリティカルシンキングやクリエイティブシンキングなどの心理学的思考法を身につけることを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：心理学とは 第2回：予知体験の不思議 第3回：記憶の不思議 第4回：影響されるこころ 第5回：揺れうごくこころ 第6回：検査で「自分」がわかるのか 第7回：古い・新宗教がもつ現代的意味 第8回：中間のまとめ 第9回：子どもから見た現実と想像の世界 第10回：「もしかして……」と揺れ動く心の発達 第11回：不思議現象に立ち向かう子どもたち 第12回：脳とこころの不思議な世界 第13回：科学的に検証するとはどういうことか 第14回：心理学を学ぶ人のために 第15回：期末のまとめ						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート					
	小テスト					
	定期試験	100%	理解度を評価する。			
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
積極的な受講態度を期待します。						
<b>【授業外学修】</b>						
毎回の授業の内容を4時間以上復習しておくこと。復習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について再度4時間以上の復習を行うこと。						
使用テキスト	自由記載	なし				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	自然科学概論		サブタイトル	(体感型授業で自然科学の楽しさを実感しよう)	授業番号	LA102
担当教員名	岸 誠一					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
私たちの日常の関わりの中から、自然科学を概観する授業を行う。野外体験学修や科学実験といった体験・体感型の学修手法を多く用いて、自然科学を「見える化」して探究心を高める授業を行う。また、科学工作も行い、科学のおもしろさと不思議さを実感する。						
<b>【到達目標】</b>						
私たちの身のまわり、日常の中にある自然科学の基本概念や知識、科学的なものの考え方ができるようになることを目指す。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
<b>【授業計画備考】</b>						
授業の中では、様々な測定装置、電気関係の測定機器や実験器具などを用いて、私たちの身のまわりの環境、自然科学について実測、体感しながら学びを深めていく。						
第1回：中国学園の庭で「幸せ」を探そう!?(四つ葉のクローバ探しから見えてくるフィールドワークの楽しさ)						
第2回：科学マジックを通して学ぶ科学のおもしろさ						
第3回：電子オルゴール作りを通して学ぶ「オームの法則」						
第4回：見上げてごらん夜の星を(天文学の初歩)						
第5回：タイムマシンは作れるか?(アインシュタインの相対性理論を分かりやすく学ぶ)						
第6回：君のひとみは一万ボルト?はやぶさのイオンエンジンは一万五千ボルト!(高電圧の実験を通して見えてくる電気の性質)						
第7回：新型コロナウイルス感染予防を通して学ぶ自然科学						
第8回：高価なバイオリンと安価なバイオリンの音の違いは?(音を「見える化」して分かってくる新芸能人格付けチェック)						
第9回：液状化現象とスライムに関する実験と実習(分子構造について学ぶI)						
第10回：糖を科学するべっこう飴づくりの実験と実習(分子構造について学ぶII)						
第11回：天然色素と酸アルカリの実験と実習						
第12回：光に関する基礎講座ならびに実験と実習						
第13回：楽しい数学(小学校高学年の知識で挑戦する、とっても簡単!?微分と積分)						
第14回：流しそめんの加速度を測定しよう!						
第15回：まとめ(授業全体のふりかえり総括)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	意欲的な受講態度、実験・実習・討議等への参加度、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート					
	小テスト		30%	各回の主要なポイントの理解を評価する。		
	定期試験		50%	最終的な理解度を評価する		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
この授業は、自然を対象にしているため、天候等によって適宜内容を変更することがある。また、内容に継続性や関連性があるため、授業を欠席しない、遅刻しないようにしていただきたい。授業は毎回の積み重ねの中で進んでいくので、配付資料等は毎回、持参していただきたい(ノートに貼ることを推奨している)。また、新型コロナウイルスの感染予防のため、食べたり、密になって行う実験などが出来なくなり、他の内容に変更する場合がある。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 予習として、授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学修等を行い、考えてくること。						
2. 復習として、授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いてふりかえり、適宜調べ学修や実践等を行い、学びを深めていく(探究する)こと。						
以上の学修を、授業1回あたり4時間以上行うこと。						
使用テキスト	自由記載	なし(資料配付)。				
参考書	自由記載	講義の進行にあわせて適宜紹介する。				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	日本国憲法		サブタイトル	(身近な問題を通して憲法の役割を考える)	授業番号	LA201
担当教員名	俣野 英二					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
<p>授業は、教員の教育委員会及び県庁における人権啓発・相談経験を踏まえた身近な問題を素材に、体系的理解及び憲法的な分析方法を学修する。あわせて、身近な問題についてグループの話し合い(新型コロナ対策に伴う規制がない場合)および発表により、憲法的思考および憲法の基本原理などの理解の深化を目指す。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>憲法の基本原理・原則および基礎知識を理解し、それらを活用して身近な憲法問題を主体的に考えることができるようになることを目標とする。</p> <p>なお、本科目は、到達目標達成の前提として異なる価値観、文化、背景及び相互関係を知り、深い認識と理解の修得を伴うので、社会の構造的変化の全体的構図を描くための幅広い知識および自分の意見を形成し、討議を通じて意見を検証することから、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち&lt;知識・理解&gt;の修得に貢献する。また、憲法の視点から身近な問題からグローバルな課題まで考察できる問題可決を思考する力の修得を目的とすることから、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち&lt;思考・問題解決能力&gt;の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：ガイダンス、憲法とは何か 憲法とは何かについて学ぶ。 土儀における女人禁制のルールが憲法に反しないか考える。</p> <p>第2回：立憲主義、共和主義と民主主義、積極国家、象徴天皇 立憲主義、共和主義と民主主義、積極国家、機関としての象徴天皇について学ぶ。 「日本国の象徴」と「日本国民統合の象徴」の意味における議論を考える。</p> <p>第3回：平和を守る仕組み— 戦争の放棄と平和主義 戦争の放棄と平和主義について学ぶ。 自衛隊等についての国会での議論、政府の答弁、国会決議等について調べてみる。</p> <p>第4回：人権を守るための組織 統治機構 1 政治と国民、国会議員、選挙権、選挙制度、政党について学ぶ。 若者の投票率改善について考える。</p> <p>第5回：人権を守るための組織 統治機構 2 国会、内閣、裁判所について学ぶ。 司法権の独立の必要性について考える。</p> <p>第6回：国際化のなかの日本人、日本にいる外国人の権利 日本国憲法上の人権が外国人に保障されるか、日本人と異なる扱いが許されるかを学ぶ。 外国人労働者の受け入れに関する問題を調べる。</p> <p>第7回：良心を持つ自由、貴く権利 思想・良心の自由について学ぶ。 学校における政教分離について考える。</p> <p>第8回：表現の自由と書かれぬ権利 表現の自由と名誉やプライバシーについて学ぶ。 教師や児童生徒に関するSNSの書き込みについて考える。</p> <p>第9回：知る権利とマス・メディアの自由 知る権利とマス・メディアの自由などについて学ぶ。 情報通信基盤(プラットフォーム)に対する規制について考える。</p> <p>第10回：営業の自由と消費者の権利 職業選択の自由、営業の自由と消費者の権利について学ぶ。 職業を規制することの合憲性について考える。</p> <p>第11回：働く人の権利 勤労の権利や労働基本権について学ぶ。 非正規労働者の問題について調べる。</p> <p>第12回：困った時の権利、差別されている人たちへの配慮 憲法25条の歴史的、社会的意味、社会保障制度について学ぶ。 積極的な格差解消の取組みの合憲性について考える。</p> <p>第13回：人身の自由と刑事手続き上の諸権利 被疑者や被告人の権利について学ぶ。 死刑制度の合憲性について考える。</p> <p>第14回：家庭と女性・子どもの権利 憲法における家庭と女性・子どもの権利について学ぶ。 同性愛者のカップルに婚姻と同じ保護を与える制度について考える。</p> <p>第15回：学校における生徒の人権 生徒の教育を受ける権利、学校内外での権利について学ぶ。 いじめ問題を憲法から考える。</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	講義レポートの提出(15%)、発表・質疑など(5%)に基づいて評価する。		
	レポート		40%	2回実施。各20%。問題の背景(憲法上の対立点)を正確な基本的情報に基づいて、判例・学説、結論を憲法や基本原理を使って結論に対する理由が書けていることで評価する。		
	小テスト		0%			
	定期試験		40%	記述式試験により最終的な理解度を評価する。		
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
<p>1 履修を希望する者は、初めにグループ分けおよびグループ発表の仕方について説明するので必ず出席すること。</p> <p>2 受講者は受講期間中に1回以上発表または質問に答える機会を与えるので、担当する課題の回はグループ全員が積極的に準備しておくこと。</p> <p>3 各回講義レポートがある。</p> <p>4 各回グループワーク(新型コロナによる規制がない場合)及び発表がある。</p> <p>5 中間に2回(第5回、第10回頃)にレポート課題がある。</p>						

履修者は、毎回予習として

- 1 テキスト及び講義資料内の用語の意味を調べておくこと。
- 2 提示した課題を検討しておくこと。発表者は、課題に関する情報を収集、整理し、発表及び質問に答えられるよう準備すること。

復習として

- 1 講義を踏まえて課題を整理し直すこと。
- 2 興味のある課題について、追加の調査を行うこと。
- 3 課題をレポートにまとめること。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

【履修科目】	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	憲法のちから－身近な問題を通して考える憲法の役割－	中富公一編著	法律文化社		
	自由記載				
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	自信をもっていじめにNOと言うための本	中富公一	日本評論社	2300 + 税	978-4-535-52038-7
	自由記載	右崎正博・浦田一郎編『基本判例1 憲法 [ 第4版 ] 』（法学書院，2014年）			
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>					
県教育委員会，県（人権・同和政策課）					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
いじめや学校内の人権問題など学生に身近な人権問題および統治の仕組みを学生の目線で憲法の基本原理から説明する。					

授業科目名	倫理学		サブタイトル	(人間形成の倫理と論理)	授業番号	LA202
担当教員名	小谷 彰吾					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
激変する時代の中で、偶然に起こりうる事象に対応しながら「よりよく生きてゆく」ことが求められている。そこで、先哲の思想、中でも儒教の視点を一つの柱としたり、現代社会における倫理を考察したりする中で自らの生き方を見つめる観点から倫理学をとらえていく。						
<b>【到達目標】</b>						
東洋、西洋、それぞれの時代の中で、人間は「よりよく生きる」ことを究明しようと問い続けてきた歴史と思想があったことを知るとともに、我が国には、神道、仏教、儒教が融合する独特の精神文化があり、それらを一つの参考にしながら現代社会において「よりよい行動」を実践しようとする態度を形成する。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜態度＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
<b>【授業計画 備考】</b>						
『倫理学』の概念を知り、『善悪』の判断とその背景、その価値基準となる考え方について先哲の言葉を参考に考えていく。						
第1回：倫理の基盤(1) ガイダンス 第2回：倫理の基盤(2) 倫理観と社会的背景 第3回：倫理の基盤(3) 倫理観の形成と体験の欠如 第4回：倫理の思想(1) 倫理と道徳 第5回：倫理と思想(2) 知識基盤社会と倫理 第6回：倫理学の基礎(1) 倫理と思考実験 第7回：倫理学の基礎(2) 義務論と功利主義 第8回：現代社会の倫理(1) 死刑制度 第9回：現代社会の倫理(2) 老いと安楽死 第10回：現代社会の倫理(3) いじめと自殺 第11回：現代社会の倫理(4) 徳の教育と学校 第12回：現代社会の倫理(5) 伝統文化と食の倫理 第13回：日本倫理の思想(1) 江戸時代の徳の教育 第14回：日本倫理の思想(2) 『論語』 第15回：『倫理学』のまとめ 総括レポート						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		50%	ディスカッション等授業における意欲・態度、各授業のコメントペーパー		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他		50%	15回目の論文で評価する。		
	自由記載	国際教養学部国際教養学科ディプロマポリシー 知識・理解 に見られる自国・他国の行動様式、考え方の基盤となる文化的背景の理解、態度 に見られる、多様な文化を理解し尊重することに直接かわかるものを重点的に評価することから、授業への参加態度と論語に50%を充てる。				
<b>【受講の心得】</b>						
常にこれからの時代をどう生きていくのかという当事者意識を持って学習に向かうことが重要である。						
<b>【授業外学修】</b>						
授業内で紹介する著書については、可能な限りすべて読み、批判的思考も含めて自分の言葉で表現できるようにする。 授業外で深めた基礎的教養によって、授業中でのディスカッションの質が向上する。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	テキストは使用しない。(必要に応じて講義内で随時紹介する)				
参考書	自由記載	講義内で随時、紹介する。				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
公立小学校教諭、私立高等学校教諭						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
現在、学校教育現場では、アクティブラーニングの研究が進められており、「受動的な学習」からの脱却を図っている。しかし、特に小学校においては、遅く前から実践されていた学びであり、特に「道徳」は教科化されて以降、「議論する道徳」「思考する道徳」、すなわち自らの意見を持って、仲間と意見をぶつけ合い、新しい価値を見出していく学習が展開されている。『倫理学』と同様の学習を展開すれば、「主体的な学び」が展開できるものと考えている。 グループワーク、ディスカッションなど積極的に取り入れて活気ある学習の雰囲気醸成したい。						



授業科目名	比較文化論		サブタイトル		授業番号	LA203
担当教員名	佐生 武彦					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
米国、中国、韓国、台湾など、特に日本と密接な関係を持つ国々の文化について、日本文化との比較対照を通して、理解を深める。また、比較研究の手法を学んだ後に、チーム毎に、テーマに沿って調査を実施し、調査結果のプレゼンテーションを行う。						
<b>【到達目標】</b>						
上記各国と日本との間に見られる文化的な相違点を、世界史と国際政治を視野に入れて、理解する。また、適切な比較研究の手法を身につける。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：「文化とは何か」「異文化理解とは何か」 第2回：比較文化の手法、プロジェクトチーム作り 第3回：ケース・スタディ1「日米比較」 第4回：ケース・スタディ2「日中比較」 第5回：比較研究テーマの発表と決定 第6回：ケース・スタディ3「日台比較」 第7回：ケース・スタディ4「日韓比較」 第8回：比較研究の中間報告 第9回：ケース・スタディ5「ファドとフラメンコの比較研究」 第10回：ケース・スタディ6「ジプシー・スウィングとウエスタン・スウィングの比較研究」 第11回：ケース・スタディ7「日米お笑い比較研究」 第12回：研究発表（報告とディスカッション）1 第13回：研究発表（報告とディスカッション）2 第14回：研究発表（報告とディスカッション）3 第15回：まとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	授業での発言、授業後に提出するリアクションなどを評価		
	レポート		50%	プロジェクトの成果と指定図書2冊のブックレビューを評価。		
	小テスト		30%	プレゼンテーションの内容を評価する。		
	定期試験					
	その他					
自由記載		異文化と自文化に関する興味・関心のアンテナを常に張り、気になることは何でも調べる習慣を身につけること。				
<b>【受講の心得】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業外で、週当たり4時間以上かけて指定した書籍を読む。</li> <li>・指定書籍2冊のブックレビューを提出する。</li> <li>・授業の講義内容を必ずレビューすること。</li> </ul>						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	日本文化論		サブタイトル		授業番号	LA103
担当教員名	岡本 輝彦					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
前半は、まず日本の文字・表記の成立、敬語について考え、次に日本最古の書物である古事記をもとに日本文化と社会について、さまざまな視点から見ていく。また、神話から日本社会がどのように形づくられたかについて考察を加える。さらに、多文化共生のあり方についても理解を深める。						
<b>【到達目標】</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本の文化を知ることができる。</li> <li>2. 日本の文字・表記、敬語について理解することができる。</li> <li>3. 日本と神と人々のつながりを知ることができる。</li> <li>4. 古代から現代までの日本社会の形成を理解することができる。</li> <li>5. 多文化共生社会について見識を深めることができる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。</li> </ol>						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：オリエンテーション、日本文化とは何か 第2回：日本の文字の成立 第3回：敬語表現 第4回：古事記(1) (創世神話) 第5回：古事記(2) (創世神話) 第6回：古事記(3) (国生み) 第7回：古事記(4) (黄泉の国) 第8回：古事記(5) (姉弟神の対立) 第9回：古事記(6) (天の岩戸) 第10回：古事記(7) (出雲神話) 第11回：多文化共生とは 第12回：多文化共生の現状 第13回：多文化共生の取り組み 第14回：多文化共生の問題点 第15回：まとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		10%	講義に対する積極性によって評価する		
	レポート		20%	レポートの完成度によって評価する		
	小テスト		40%	理解度によって評価する		
	定期試験					
	その他		30%	口頭発表の完成度によって評価する		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業計画に提示されているテーマに関するプリントを事前に読んで理解しておくこと。</li> <li>2. 授業計画に基づく事項について自分の考えを整理しておくこと。</li> </ol>						
<b>【授業外学修】</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業計画で提示されているテーマに関する資料を読んでおき、予習しておくこと。</li> <li>2. 自分の考えをまとめておくこと。</li> <li>3. プレゼンテーションなどの発表の準備をしておくこと。</li> </ol>						
以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	授業計画に基づく事項に関するプリントを適宜配布する。				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	岡山学(オムニバス)		サブタイトル	授業番号	LB101
担当教員名	杉山 慎策				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	必修	授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>					
<p>本学が立地している岡山は古来「吉備国」と言われ、山や川や海の恵みにより古より繁栄を遂げてきた地域である。東は兵庫県の西部から西は広島県の福山市まで広がる広大な地域を領地としていた。余りにも強大な力を持ったために「吉備国」は「備前」「備中」「備後」の3つに分割され、713年には更に「備前」から「美作」が分割された。この地域の歴史や文化を知ることが、現在を生きる私たちの責務であり、今後この地で活躍する人々たちにとっても不可欠な知識である。本講義では故郷「岡山」について「思想」「農業」「産業」の三分野からこの地域を分析し、「岡山」への一層の理解を深め、この地域への愛着を持つことを目的とする。</p>					
<b>【到達目標】</b>					
<p>故郷であるこの「岡山の地」への理解を深め、併せてこの地域への愛着を育成する。          なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
<b>【授業計画 備考】</b>					
<p>オムニバス形式でそれぞれの分野の専門家を招聘し、各分野の専門家による講義とする。          また、講義の中でリアクションペーパーに記入された質問などを取り上げ、できるだけインターアクティブな講義とする。</p>					
<p>第1回：本講義の目的と概要 (担当杉山 慎策)          第2回：熊沢蕃山と陽明学 (担当高橋 文博)          第3回：山田方谷と陽明学 (担当高橋 文博)          第4回：山田方谷の経営改革 (担当杉山 慎策)          第5回：津山洋学と緒方洪庵 (担当杉山 慎策)          第6回：倉安川・百間川灌漑排水施設（世界灌漑施設遺産） (担当佐藤 豊信)          第7回：児島湾干拓事業 (担当佐藤 豊信)          第8回：中山間地域 (担当佐藤 豊信)          第9回：児島とジーンズ (担当杉山 慎策)          第10回：岡山の経済 (担当大崎 康正)          第11回：水島コンビナート (担当大崎 康正)          第12回：岡山の観光（1） (担当田村 秀昭)          第13回：岡山の観光（2） (担当田村 秀昭)          第14回：岡山の観光（3） (担当田村 秀昭)          第15回：まとめと討論 (担当杉山 慎策)</p>					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	40%	リアクションペーパーを評価する		
	レポート	60%	毎回のレポートを評価する		
	小テスト				
	定期試験				
	その他				
	自由記載	<p>毎回リアクションペーパーの提出を求め、評価対象とする。          毎回の講義の要約をレポートとして提出を求め、評価の対象とする。</p>			
<b>【受講の心得】</b>					
<p>岡山の地方紙（誌）である「山陽新聞」や「VISION OKAYAMA」などを読み地元について関心をもつこと。</p>					
<b>【授業外学修】</b>					
<p>1 予習として、講義内容にかかわる部分を事前に研究しておくこと。          2 復習として、レジュメを再度確認すること。          3 発展学修として、講義で紹介された参考文献などを読むこと。          以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。</p>					
使用テキスト	自由記載				
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	日本ジーンズ物語	杉山 慎策	吉備人出版	1,760円	978-4860692179
	自由記載	『山田方谷の思想と改革』杉山慎策（編）吉備人出版社 1,100円 978-4860696283			
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>					
資生堂、ユニバー、ロレアル、マテルにおいてマーケティングや経営の経験がある。					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員以外の指導に関わる実務経験者】</b>					
大崎泰正, 田村秀昭					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
実務経験を生かし、具体的ケースを示しながらその意義を分かりやすく解説する。					

授業科目名	ICT概論		サブタイトル	授業番号	LB102	
担当教員名	久保 博尚					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科		単位数	2単位		
開講年次	1年		開講期	前期		
必修・選択	必修		授業形態	演習		
【授業の概要】						
<p>本ゼミの授業は原則として、インターネット上のデジタルな道具を用いて行う。具体的には各自がPC、タブレット端末、スマートフォンなどでインターネットに接続し、授業用のネットワーク上のページにアクセスすることで、授業内容の共有、関連情報の閲覧、コミュニケーション、情報伝達を行う。この演習を通じて日本社会と世界の状況を理解することにより、ICT社会の仕組みを実感的に把握するとともに、個人と社会がテクノロジーとどのような関係にあり、社会にどのような影響をもたらしているかを学ぶ。</p>						
【到達目標】						
<p>積極的な&lt;態度&gt;で演習に取り組むことにより、デジタルな道具を活用するための&lt;技術&gt;向上を図る。これを手段として、&lt;思考&gt;と&lt;問題解決能力&gt;を高め、学びの背景となる日本の現状と自身の立場を正しく&lt;理解&gt;することを目的とする。このことは世界を知るための&lt;知識・理解&gt;を高め、&lt;思考・問題解決能力&gt;の必要性を自覚し、その手段となる&lt;技能&gt;と&lt;態度&gt;を養うディプロマポリシーの理念にかなうものである。本科目は、インターネットに接続して授業を行うことで、学びと社会の連携を通じた実践的な教育機会を提供するものであり、カリキュラムポリシーに沿うものである。</p>						
【授業計画】						
【授業計画 備考】						
<p>授業を受けるにあたり、各自がPC、タブレット端末、スマートフォンのいずれかを保有し、Googleアカウントを持つ必要がある。ネットワーク上の情報共有はScrapboxベースで行う。グラフィカルな論点整理には、ネット上のホワイトボードとしてJamboard、Strapなども併用する予定。各自の端末を操作して授業に参加するため、できるだけPCもしくはタブレット端末を所有することが望ましい。また、操作性の良さとシステムとの相性から、アップル社のPC・タブレット製品を推奨する。</p>						
<p>第1回：道具としてのゼミ1：みんなで作るデジタル・ライブ・ゼミナール  第2回：道具としてのゼミ2：デジタル・ライブのための環境を整える  第3回：驚異のデジタル1：デジタル・テクノロジーの進化と社会指標の変化を比較する  第4回：驚異のデジタル2：デジタル・テクノロジーの進化の特徴とは何か？  第5回：日本の現状把握1：日本の状況を記述するための代表的な要素を考える  第6回：日本の現状把握2：日本の状況を記述する要素相互のつながりを考える  第7回：働き方1：日本人の働き方の特徴と課題を整理する  第8回：働き方2：テクノロジーが働き方にどのように役立つかを考える  第9回：働き方3：テクノロジーの視点から日本と世界の働き方改革の違いを調べる  第10回：高齢化1：高齢化による日本社会の変化と課題を整理する  第11回：高齢化2：テクノロジーが高齢化の課題解決にどう役立つかを考える  第12回：高齢化3：日本と世界の高齢化とテクノロジー活用の違いを調べる  第13回：子育て1：子育てにおける日本の課題を整理する  第14回：子育て2：テクノロジーが子育てにどのように役立つかを考える  第15回：子育て3：日本と世界の子育てとテクノロジー活用の違いを調べる  第16回：教育1：教育における日本の課題を整理する  第17回：教育2：テクノロジーが教育にどのように役立つかを考える  第18回：教育3：日本と世界の教育とテクノロジー活用の違いを調べる  第19回：財源1：財源における日本の課題を整理する  第20回：財源2：テクノロジーが財源にどのように関係するかを考える  第21回：財源3：日本と世界では財源とテクノロジーの関係がどう異なるかを調べる  第22回：健康1：健康維持のための日本の課題を整理する  第23回：健康2：テクノロジーが健康にどのように役立つかを考える  第24回：健康3：日本と世界では健康とテクノロジーの関係がどう異なるかを調べる  第25回：環境1：環境と調和するための日本の課題を整理する  第26回：環境2：テクノロジーが環境との調和にどのように関係するかを考える  第27回：環境3：世界と日本では環境とテクノロジーの関係がどう異なるかを調べる  第28回：まとめ1：日本を記述する7つの課題を整理統合する  第29回：まとめ2：7つの課題に関連するテクノロジーの共通要素を抽出する  第30回：まとめ3：自分が関心のある社会課題とテクノロジーの関連を記述する</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		40%	意欲的な受講態度、発表・討論への参加、授業内容関連の知識の習得状況によって評価する。		
	レポート		60%	使用テキストを読んでいること、テキスト内容に沿った論述ができていないこと、討論内容が反映されていること、自らの意見が論理的にわかりやすく記されていること。		
	小テスト		0%			
	定期試験		0%			
	その他		0%			
自由記載						
【受講の心得】						
日頃からネット上の情報に加え、図書、映画、音楽など各種の情報やコミュニケーションに接し、見て、聞いて、感じたことを文章に表現するクセを付けること。						
【授業外学修】						
<p>1) 予習として、テキストを読み、次回の授業計画の関連事項を調べておくこと。  2) 復習として、学んだことを自分のScrapboxページにまとめること。  3) 発展学習として、授業で取り上げた事項の関連図書やサイトの情報をチェックすること。  以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。</p>						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	日本進化論		落合陽一	SBクリエイティブ株式会社	800円(税別)	978-4-7973-9986-8
自由記載						
参考書	自由記載					
	【担当教員の実務経験の有無】					
有						

**【担当教員の実務経験】**

現代社会とデジタルテクノロジーをテーマに，高校，大学，企業で多くの講演を行っている。

**【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】**

無

**【実務経験をいかした教育内容】**

日常的な情報整理とコミュニケーションの道具として，各種のデジタルな道具や仕組みを利用してきた経験をもとに，学生とともにデジタル技術を活用しながら，近未来社会を生き抜くための学びの場を作り上げたい。

授業科目名	ICT概論II		サブタイトル	授業番号	LB103
担当教員名	久保 博尚				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科		単位数	2単位	
開講年次	1年		開講期	後期	
必修・選択	必修		授業形態	演習	
【授業の概要】					
本科目では、コンピュータの原理と進化の過程を概観したうえで、コンピュータがどのように思考と生活の道具として進化し、活用されてきたかについて、具体例に触れながら広い視野で知識を深める。その学習のまとめとして、コンピュータ活用状況を自己評価するとともに、今後の活用拡大に向けた展望を描く。					
【到達目標】					
演習を通じてコンピュータ社会の実態を知り、コンピュータを道具として活用するための意欲と見通しを得ることを目指す。このことは、デジタルテクノロジーの<知識・理解>を深め、<思考・問題解決能力>に不可欠な<技能>と<態度>を養うディプロマポリシーの理念にかなうものである。授業はインターネットを利用したワークショップとして構成されるため、社会と学びの連携を通じた実践教育の場として、カリキュラムポリシーにも沿うものである。					
【授業計画】					
【授業計画 備考】					
授業を受けるにあたり、各自がPC、タブレット端末、スマートフォンのいずれかを保有し、Googleアカウントを持つ必要がある。ネットワーク上の情報共有はScrapboxベースで行う。グラフィカルな論点整理には、ネット上のホワイトボードとしてJamboard、Strapなども併用する予定。各自の端末を操作して授業に参加するため、できるだけPCもしくはタブレット端末を所有することが望ましい。また、操作性の良さとシステムとの相性から、アップル社のPC・タブレット製品を推奨する。					
第1回：コンピュータの基礎1：デジタルの起源をたどる 第2回：コンピュータの基礎2：コンピュータは数をどのように表すか 第3回：コンピュータの基礎3：数字で情報を表す方法を考える 第4回：コンピュータの基礎4：電気と計算の結びつきを考える 第5回：コンピュータの基礎5：プログラムの基本的な考え方を学ぶ 第6回：コンピュータの基礎6：コンピュータを構成する基本要素を知る 第7回：コンピュータの歴史1：コンピュータ進化の歴史を概観する 第8回：コンピュータの歴史2：ワープロ専用機とパソコンの誕生を振り返る 第9回：コンピュータの歴史3：キーボードとマウスはどのようにして生まれたか 第10回：コンピュータの歴史4：グラフィカル・ユーザ・インターフェイスはどのようにして生まれたか？ 第11回：コンピュータの歴史5：パソコン通信の時代を振り返る 第12回：コンピュータの歴史6：インターネットはどのようにしてはじまったか？ 第13回：コンピュータとメディア1：数字・計算・人工知能 解析的な計算から逐次近似を経て推論へ 第14回：コンピュータとメディア2：文字・文章・執筆・読書 数字とアルファベットからカナ漢字変換、そして電子出版へ 第15回：コンピュータとメディア3：画像・作画・音声・音楽 ドローとペイントからシンセサイザー、そしてボーカロイドへ 第16回：コンピュータとメディア4：動画・VR・AR・ホログラム 表現としての映画とアニメから、インターフェイスとしての仮想空間へ 第17回：コンピュータとメディア5：IoT・ロボット・自動運転 省力化と自動化から、第四次産業革命の主役へ 第18回：コンピュータとメディア6：空間接触・物体浮遊・魔法 驚異の世界から魔法の世紀へ 第19回：コンピュータと交流1：文字中心のコミュニティ ブログと掲示板からFacebookそしてTwitterへ 第20回：コンピュータと交流2：画像・映像中心のコミュニティ FlickrとPicasaからYouTube、そしてみてねとInstagramへ 第21回：コンピュータと交流3：音声によるコミュニティ 深夜番組とラジコから読み上げ、そしてClubhouseへ 第22回：コンピュータと交流4：体験と出会いのコミュニティ 合コンから婚活、そしてマッチングアプリへ 第23回：コンピュータと交流5：VRによるコミュニティ SimCityからSecond Life、そしてソーシャルVRへ 第24回：コンピュータと思考1：情報入手・情報調査の道具 Googleアラート、Googleトレンド、Google Ngramやオンライン辞書、コーパスなど 第25回：コンピュータと思考2：情報を自動化する仕組みと道具 装置としてのIFTTTやIoT、そして運用としてのサブスクリプションなど 第26回：コンピュータと思考3：情報を加工する道具 エディター、Photoshop、ExcelからAPIまで 第27回：コンピュータと思考4：情報を保管する仕組み ハードディスクやSDカード、そしてFlickrやDropboxやTime Machineなど 第28回：コンピュータと思考5：表現する仕組みと道具 ワープロ専用機やポメラ、WorkFlowyやDynamlistからScrapboxやNoteなど 第29回：コンピュータと思考6：コンピュータ仕掛けの道具が加速する脳とネットワークの進化 第30回：まとめ：コンピュータ活用状況を自己評価し今後の活用展開を展望する					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	40%	意欲的な受講態度、発表・討論への参加、授業内容関連の知識の習得状況によって評価する。		
	レポート	60%	インターネット上の情報収集と表現手段についての知識が豊富であること。その利用方法を理解していること。それらを手段として、自らの意見が論理的にわかりやすく記されていること。		
	小テスト	0%			
	定期試験	0%			
	その他	0%			
	自由記載				
【受講の心得】					
ネット上の情報、図書、映画、音楽など各種の情報コミュニケーションに接し、見て、聞いて、感じたことを、デジタルな手段を用いて表現する習慣を日頃から身につけておく。					
【授業外学修】					
1) 予習として、テキストを読み、次回の授業計画の関連事項を調べておくこと。 2) 復習として、学んだことを自分のScrapboxページにまとめること。 3) 発展学習として、授業で取り上げた事項の関連図書やサイトの情報をチェックすること。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	コンピュータ、どうやってつくったんですか？	川添 愛	東京書籍	1700円(税別)	978-4-487-81189-2
	自由記載				
参考書	自由記載				
	【担当教員の実務経験の有無】				
	有				
	【担当教員の実務経験】				
	現代社会とデジタルテクノロジーをテーマに、高校、大学、企業で多くの講演を行っている。				

**【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】**

無

**【実務経験をいかした教育内容】**

日常的な情報整理とコミュニケーションの道具として、各種のデジタルな道具や仕組みを利用してきた経験をもとに、学生とともにデジタル技術を活用しながら、近未来社会を生き抜くための学びの場を作り上げたい。

授業科目名	実践英語I	サブタイトル		授業番号	LB104
担当教員名	森年 ボール グレゴリー チンデミ				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	必修	授業形態	演習		
<p><b>【授業の概要】</b></p> <p>In this course, students will review and practice their basic, general English and start to develop their English vocabulary and phrases and their understanding of business-related concepts. Students will also develop their English speaking, listening, reading, and writing skills for practical business-related activities. These will be developed using discussion of business topics, a business-themed project, simplified texts from The Economist newspaper and an end-of-semester presentation.</p> <p>このコースでは、学生は基本的で一般的な英語を強化し、ビジネス関連の英語の語彙とフレーズを伸ばします。学生はまた、実用的なビジネス関連の活動における英語のスピーキング、リスニング、リーディング、ライティングのスキルを高めます。これらの4技能は、ビジネストピックのディスカッション、ビジネスをテーマにしたプロジェクト、The Economist誌からの簡略化されたテキスト、学期末のプレゼンテーションなどを通じて伸ばされます。</p>					
<p><b>【到達目標】</b></p> <p>1. To be able to use basic general English. 基本的な一般英語が使えるようになること。</p> <p>2. To understand business-related concepts. ビジネス関連の概念を理解する。</p> <p>3. To be able to use business-related vocabulary and phrases. ビジネス関連の語彙やフレーズを使用できるようになる。</p> <p>4. To develop speaking, listening, reading and writing in English for business purposes. ビジネス目的の英語でのスピーキング、リスニング、リーディング、ライティングを上達させる。</p> <p>5. This course will contribute to acquiring language knowledge, understanding and skills, thinking and problem-solving skills, and attitude among the bachelor's degree contents listed in the Diploma Policy. なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、知識・理解、思考・問題解決能力、技能、態度の修得に貢献する。</p>					
<p><b>【授業計画】</b></p>					
<p><b>【授業計画 備考】</b></p> <p>The course content has several parts: understanding self-guided and active learning, improving your study skills, textbook activities, writing practice, workbook activities, two unit tests and Project 'This is our company' PowerPoint presentations.</p>					
<p>第1回：Course introductions: Staff, students, course, textbook, workbook (names in books). What is 'Practical English?'. Why is a good note-taking system important?</p> <p>第2回：Rethinking English study: English is a language, not a subject. Language skills vs knowledge. The advantages and disadvantages of Active Learning (Learning by doing). Making study groups.</p> <p>第3回：Unit 1: Contact, Part 1: Countries, nationalities and languages. Workbook unit 1 assignment.</p> <p>第4回：Unit 1: Contact, Part 2: Career skill - Introduce yourself.</p> <p>第5回：Unit 1: Contact, Part 3: Write an email to Frank Black (p.14) Why project work is effective for English courses (The Project Framework's Planning Graphic).</p> <p>第6回：Unit 2: Teams, Part 1: A company's departments. Workbook unit 2 assignment.</p> <p>第7回：Unit 2: Teams, Part 2: Career skill - Introducing another person.</p> <p>第8回：Unit 2: Teams, Part 3: Write a memo to Craig Hislop (p.22). Introduction to project work and the Practical English I 'Our company' project. Project rules.</p> <p>第9回：Unit 3: Companies, Part 1: Types of company. Workbook unit 3 assignment.</p> <p>第10回：Unit 3: Companies, Part 2: Career skill - Explaining company information.</p> <p>第11回：Unit 3: Companies, Part 3: Write an email to Peter Winston (p.30).</p> <p>第12回：Review of units 1-3. Project session 1 – Make your project teams. Do a team skills' evaluation.</p> <p>第13回：Unit 4: Offices, Part 1: Office equipment. Workbook unit 4 assignment. Project session 2 – What does your company make. What is your company's name?</p> <p>第14回：Unit 4: Offices, Part 2: Career skill - Giving directions to your company's location.</p> <p>第15回：Unit 4: Offices, Part 3: Write a note from Paula Hart (p.40). Project session 3 – Choose a new product.</p> <p>第16回：Unit test #1: Units 1-4.</p> <p>第17回：Unit 5: Events, Part 1: Food and drink. Workbook unit 5 assignment.</p> <p>第18回：Unit 5: Events, Part 2: Career skill - Offers, request and permission. Project session 4 - Write a product proposal.</p> <p>第19回：Unit 5: Events, Part 3: Write a memo to your manager (p.48). Project session 5 - Design your product.</p> <p>第20回：Unit 6: Money, Part 1: Numbers for money. Workbook unit 6 assignment.</p> <p>第21回：Unit 6: Money, Part 2: Career skill - Ordering goods. Project session 6 – Market research your new product.</p> <p>第22回：Unit 6: Money, Part 3: Write a memo to the buying director (p.56).</p> <p>第23回：Review of units 4-6. Project session 7 – Improve your product's design.</p> <p>第24回：Unit 7: Making projects work, Part 1: Project management. Workbook unit 7 assignment. Project session 8 – Make your product.</p> <p>第25回：Unit 7: Making projects work, Part 2: Career skill - Talking about a project. Project session 9 – Test your product.</p> <p>第26回：Unit 7: Making projects work, Part 3: Write a letter to Ann Walker (p.66). Project 'Our Company' PowerPoint presentation preparation: Outline the content.</p> <p>第27回：Unit test #2: Units 5-7.</p> <p>第28回：Project 'This is our Company' PowerPoint presentation preparation: Prepare the slides.</p> <p>第29回：Project 'This is our Company' PowerPoint presentation preparation: Prepare your explanation.</p> <p>Course review. Student questionnaire.</p> <p>第30回：Project 'This is our Company' PowerPoint presentations.</p>					



評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	Active participation in English (英語を使つての授業への積極的参加)
	レポート			
	小テスト		40%	Unit tests (小テスト2回) (2 x 20%)
	定期試験			
	その他		40%	1. Group project activities (プロジェクト活動) (25%) 2. Project presentation using PowerPoint (PowerPointを使用したプロジェクトのプレゼンテーション) (15%)
自由記載		The project will be a series of student-guided activities working to complete a project about working in a company.		

**【受講の心得】**

This is a practical course. Students should use English as much as possible during the lesson to improve their knowledge of English and their English communication skills. Students must also contribute to the group project.

**【授業外学修】**

Students should self-study for three hours a week using the Workbook to review lesson content.

Students must work in groups to progress their projects.

使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	Intelligent Business , Elementary Coursebook	Trappe , T. , Tullis , G. , Johnson , C. , Barrall , I. , Barrall , N.	Pearson	3 , 400円	978-1408255988

自由記載 Students must bring all their study materials (dictionary , textbook , workbook , notebook , worksheets , file , etc.) to every class.

参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	Intelligent Business , Elementary Workbook	Trappe , T. , Tullis , G. , Johnson , C. , Barrall , I. , Barrall , N.	Pearson	2 , 560円	978-1405881432

自由記載 Handouts , worksheets , workbook , YouTube videos , PowerPoint files , online resources , project materials , etc.

**【担当教員の実務経験の有無】**

無

**【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】**

無

授業科目名	実践英語II	サブタイトル	授業番号	LB105
担当教員名	森年 ボール グレゴリー チンデミ			
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科	単位数	2単位	
開講年次	1年	開講期	後期	
必修・選択	必修	授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b> In this course , students will continue to review and practice their basic , general English and to develop their English vocabulary and phrases and understanding of business-related concepts. Students will also continue to develop their English speaking , listening , reading , and writing skills for practical business-related activities. These will be developed using discussion of business topics , a business-themed project , simplified texts from The Economist newspaper and an end-of-semester mock job interview.  このコースでは、学生は引き続き基本的で一般的な英語を強化し、ビジネス関連の英語の語彙とフレーズを伸ばします。学生はまた、実用的なビジネス関連の活動における英語のスピーキング、リスニング、リーディング、ライティングのスキルを高めます。これらの4技能は、ビジネストピックのディスカッション、ビジネスをテーマにしたプロジェクト、The Economist誌からの簡略化されたテキスト、学期末のプレゼンテーションなどを通じて伸ばされます。				
<b>【到達目標】</b> 1. To be able to use basic general English. 基本的な一般英語が使えるようになること。  2. To understand business-related concepts. ビジネス関連の概念を理解する。  3. To be able to use business-related vocabulary and phrases. ビジネス関連の語彙やフレーズを使用できるようになる。  4. To develop speaking , listening , reading and writing in English for business purposes. ビジネス目的の英語でのスピーキング、リスニング、リーディング、ライティングを上達させる。  5. This course will contribute to acquiring language knowledge , understanding and skills , thinking and problem-solving skills , and attitude among the bachelor's degree contents listed in the Diploma Policy. なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度>の修得に貢献する。				
<b>【授業計画】</b>				
<b>【授業計画 備考】</b> The course content has several parts: textbook activities , writing practice , workbook activities , two unit tests and Project ‘ Job Hunter ’ .				
第1回 : Course introductions. Review of Practical English I. Introduction to Project Job Hunter (two roles). Planning graphic. Project diaries. 第2回 : Unit 8: Solutions , Part 1; Inventions. Workbook unit 8 assignment. 第3回 : Unit 8: Solutions , Part 2; Career skill - Explaining a technical problem. 第4回 : Unit 8: Solutions , Part 3; Write a short report to Rathansay Community Projects. Project session 1 – Make your project teams. Do a team skills evaluation. 第5回 : Unit 9: Products , Part 1; Size , shape and material. Workbook unit 9 assignment. 第6回 : Unit 9: Products , Part 2; Career skill - Describing a product. 第7回 : Unit 9: Products , Part 3; Write a memo to your CEO. 第8回 : Review of units 7-9. Project session 2 – What vacancy does your company have? Decide the criteria. 第9回 : Unit 10: Competitors , Part 1; Industries and markets. Workbook unit 10 assignment. 第10回 : Unit 10: Competitors , Part 2; Career skill – Catching up. 第11回 : Unit 10: Competitors , Part 3; Write a short report to Manetti. Project session 3 – Write a job posting. 第12回 : Unit 11: Location , Part 1; Types of work. Workbook unit 11 assignment. 第13回 : Unit 11: Location , Part 2; Career skill – Opinions. 第14回 : Unit 11: Location , Part 3; Write an email to Andrei. 第15回 : Unit test #1: Units 8-11. Project session 4 – Write your interview questions. 第16回 : Unit 12: Careers , Part 1; Job-hunting. Workbook unit 12 assignment. 第17回 : Unit 12: Careers , Part 2; Career skill - Interviews. 第18回 : Unit 12: Careers , Part 3; Write to Jessica ’ s manager. 第19回 : Review of units 10-12. Project session 5 - Write your resumé. 第20回 : Unit 13: Ideas , Part 1; Creative thinking. Workbook unit 13 assignment. 第21回 : Unit 13: Ideas , Part 2; Career skills – Discussing ideas. 第22回 : Unit 13: Ideas , Part 3; Write a report to Gerald Farrell. Project session 6 – Interview preparation – Learn about the company. 第23回 : Unit 14: Travel , Part 1; Travel and transportation. Workbook unit 14 assignment. 第24回 : Unit 14: Travel , Part 2; Career skills – Making arrangements. 第25回 : Unit 14: Travel , Part 3; Write an email to your visitors. Project session 7 – Interview preparation – What questions will they ask? 第26回 : Review of units 13-14. Project session 8 – Review each applicants ’ resumé and write extra questions. 第27回 : Unit test #2: Units 12-14. 第28回 : Course review. Student questionnaire. Project session 9 – Job Interview Day 1. Did you get the job? Interview evaluation forms. 第29回 : Project session 10 – Job Interview Day 2. Did you get the job? Interview evaluation forms. 第30回 : Project evaluation. End-of-year quiz and party.				
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢 / 態度	20%	Active participation in English (英語を使っの授業への積極的参加)	

	レポート					
	小テスト	40%	Unit tests (小テスト2回) (2 x 20%)			
	定期試験					
	その他	40%	Group project activities (プロジェクト活動)			
	<b>自由記載</b>	The project will be a series of student-guided activities to complete a project useful for job hunting.				
<b>【受講の心得】</b>						
This is a practical course. Students should use English as much as possible during the lesson to improve their knowledge of English and their English communication skills. Students must also contribute to the group project.						
<b>【授業外学修】</b>						
Students should self-study for three hours a week using the Workbook to review lesson content. Students must work in groups to progress their projects.						
使用テキスト	<b>書名</b>		<b>著者・編集者</b>	<b>出版社</b>	<b>定価</b>	<b>ISBN</b>
	Intelligent Business , Elementary Coursebook		Barrall , I. , Barrall , N.	Pearson	3 , 400円	978-140825598 8
	<b>自由記載</b>	Students must bring all their study materials (dictionary , textbook , workbook , notebook , worksheets , file , etc.) to every class.				
参考書	<b>書名</b>		<b>著者・編集者</b>	<b>出版社</b>	<b>定価</b>	<b>ISBN</b>
	Intelligent Business , Elementary Workbook		Barrall , I. , Barrall , N.	Pearson	2 , 560円	978-140588143 2
	<b>自由記載</b>	Handouts , worksheets , workbook , YouTube videos , PowerPoint files , online resources , project materials , etc.				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	導入ゼミナールI		サブタイトル	(学問の方法)		授業番号	LC101
担当教員名	竹野 純一郎 佐生 武彦 大橋 典晶 森年 ボール 佐々木 公之 グレゴリー チンデミ 藤代 昇丈 松浦 加寿子 岡本 輝彦 他						
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位		
開講年次	1年			開講期	前期		
必修・選択	必修			授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b> 導入ゼミIでは、大学生として最低限必要なアカデミックスキルズを身につける。高校と大学とでは、学生に課される課題が大きく異なる。例えば、多くの学生は、レポートを書いた経験が無いと思われるが、大学の大学の授業ではレポートを書くスキルが求められ、それに伴い資料の収集や、限られた時間で集めた資料を読むことが必須となる。しかも、それらを自主的に進めて行くことが求められる。そのため、本ゼミナールでは、主にレポート作成の課題をどう進めればよいのか、順序立てて指導していく。							
<b>【到達目標】</b> 本ゼミナールでは、大学生として必要な学ぶ姿勢や情報の活用など、大学での学修を充実したものとしていくための基礎作りを行う。大学生としての基礎を確実に習熟していくことが目標となる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能> <態度>の修得に貢献する。							
<b>【授業計画】</b>							
<b>【授業計画 備考】</b> ・『アカデミックスキルズ』を基本テキストにして、高校までの学びと大学での研究の違いについて学ぶ。 ・演習後半ではレポート作成に取り組み、レポートを実際に書くことで論文の書き方について学ぶ。 ・ビジネスに関する英文を読み暗唱を行う。							
第1回：本演習の目的や概要の説明 第2回：アカデミックスキルズとは ビジネスに関する英文の暗唱 第3回：講義を聴いてノートを取るアカデミックスキルズとは ビジネスに関する英文の暗唱 第4回：情報収集の基礎 - 図書館とデータベースの使い方 ビジネスに関する英文の暗唱 第5回：本を読む - クリティカル・リーディングの手法 ビジネスに関する英文の暗唱 第6回：情報整理 ビジネスに関する英文の暗唱 第7回：研究成果の発表 ビジネスに関する英文の暗唱 第8回：プレゼンテーションのやり方 ビジネスに関する英文の暗唱 第9回：論文・レポートをまとめる ビジネスに関する英文の暗唱 第10回：書式の手引き ビジネスに関する英文の暗唱コンテスト 第11回：レポート課題設定 第12回：レポート作成 第13回：レポート作成 第14回：レポート作成 第15回：レポート発表と提出							
<b>【授業計画 備考2】</b> ・『アカデミックスキルズ』を輪読し理解を深める。 ・ビジネスに関する英文の暗唱を行う。 ・レポートの課題を設定する。 ・レポートは最終日に提出とプレゼンテーションをする。							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度		40%	毎回の講義の取組態度を評価する。			
	レポート		40%	課題意識、取組態度を評価する。			
	小テスト						
	定期試験						
	その他		20%	課題プレゼン発表をとおして、取組態度、理解度、表現力を評価する。			
	自由記載	・演習なので全員の積極的参加を求める。 ・英文の暗唱については授業外でもしっかりと時間をかけて取り組むことを求める。 ・レポートについては自身が一番関心の高いテーマを選び自主的に取り組むことを求める。 ・レポートは最終日に提出とプレゼンテーションを求める。					
<b>【受講の心得】</b> 課題は提出期限までに提出し、積極的に各授業に参加すること。							
<b>【授業外学修】</b> 復習、課題、プレゼン準備等のために週当たり4時間以上の学修を行うこと。							
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	アカデミック・スキルズ(第3版) 大学生のための知的技法入門			佐藤 望(著、編集)、湯川 武(著)、横山 千晶(著)、近藤 明彦(著)	慶應義塾大学出版会	1,100円	978-4766426564
	自由記載						
参考書	自由記載	・日経新聞を毎日読むこと・英文の経済誌(紙)を読むこと <a href="https://www.nikkei.com/">https://www.nikkei.com/</a> <a href="https://www.ft.com/">https://www.ft.com/</a> <a href="https://www.economist.com/">https://www.economist.com/</a> <a href="https://www.wsj.com/">https://www.wsj.com/</a>					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有						
	<b>【担当教員の实務経験】</b> 高校教諭(竹野純一郎)、(藤代昇丈)、企業経営コンサルタント(佐々木公之)						

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

【実務経験をいかした教育内容】

高校教員および企業経営コンサルタントの経験を活かした問題解決型の教育を行う。

授業科目名	導入ゼミナールII		サブタイトル	(学問の方法)	授業番号	LC102
担当教員名	竹野 純一郎 佐生 武彦 大橋 典晶 森年 ボール 佐々木 公之 グレゴリー チンデミ 藤代 昇丈 松浦 加寿子 岡本 輝彦 他					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	必修			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
導入ゼミIIでは、導入ゼミIで学んだ知識を基礎として、実践的に資料収集やレポート執筆を行うことで、その際に生じる学生の質問に答えしていく形式をとる。学生同士がお互いに助け合いながら協働的に課題に取り組むことで、学生間の対話の中から一人では気づけなかった観点や、問題への気づきを促す。						
<b>【到達目標】</b>						
情報収集・情報整理の方法、文献の読み方、レポートの書き方、文献引用のしかた、剽窃防止などについて実践的に学び、大学生として必要なアカデミックスキルズを身につけることを目標とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能> <態度> の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：本演習の目的と概要 第2回：レポートの課題設定（1） 第3回：ディスカッション・レポート作成 第4回：ディスカッション・レポート作成 第5回：ディスカッション・レポート作成 第6回：ディスカッション・レポート作成 第7回：ディスカッション・レポート作成 第8回：課題レポート1のプレゼンテーションと提出（1） 第9回：レポート課題設定（2） 第10回：ディスカッション・レポート作成 第11回：ディスカッション・レポート作成 第12回：ディスカッション・レポート作成 第13回：ディスカッション・レポート作成 第14回：ディスカッション・レポート作成 第15回：課題レポートのプレゼンテーションと提出（2）						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		40%	毎回の講義の取組態度を評価する。		
	レポート		40%	課題意識、取組態度を評価する。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他		20%	課題プレゼン発表をとおして、取組態度、理解度、表現力を評価する。		
自由記載		・演習への積極的参加を評価する。 ・レポートの内容とプレゼンテーションを評価する。				
<b>【受講の心得】</b>						
課題を提出期限までに提出し、積極的に授業に参加すること。調べてきた文献を討議することが求められるため、よく文献を読み込んでくることが求められる。レポートは書き直し作業が重要となるため、教員や学生からのフィードバックを活用して書き直すこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
予習・復習、課題の作成等のために、週当たり4時間以上の学修を行うこと。						
使用テキスト	自由記載	適宜資料を配布する。				
参考書	自由記載	・日経新聞を毎日読むこと・経済誌（紙）を毎日読むこと <a href="https://www.nikkei.com/">https://www.nikkei.com/</a> <a href="https://www.ft.com/">https://www.ft.com/</a> <a href="https://www.economist.com/">https://www.economist.com/</a> <a href="https://www.wsj.com/">https://www.wsj.com/</a>				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
高校教諭(竹野純一郎)、(藤代昇丈)、企業経営コンサルタント(佐々木公之)						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
高校教員および企業経営コンサルタントの経験を活かした問題解決型の教育を行う。						

授業科目名	マクロ経済学入門		サブタイトル		授業番号	LC103
担当教員名	田口 雅弘					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	必修			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
経済の基本的な動きを、国内総生産(GDP)、経済政策、経済成長などをキーワードに講義する。						
<b>【到達目標】</b>						
マクロ経済学の基本を習得し、世の中の動きをメカニズムとして理解できるようになる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：経済学とはどういう学問か？マクロの視点から捉える 第2回：経済の規模を考える：国内総生産（GDP） 第3回：生産者側から見た経済、消費者側から見た経済 第4回：景気を刺激する：有効需要と乗数メカニズム 第5回：所得と需要と生産の相互関係 第6回：貨幣の役割 第7回：貨幣と物価 第8回：財政政策と金融政策 第9回：マクロ経済政策 第10回：インフレーションとデフレーション 第11回：失業問題 第12回：高齢社会と政府の役割 第13回：経済成長と経済発展 第14回：国際経済を考える 第15回：マクロ経済学のまとめ（講義全般の復習）						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		30%	グループワークを行い、その貢献度（プレゼン、資料収集、議論への参加）を総合的に評価する。		
	レポート		30%	数回のグループプレゼンを評価する。		
	小テスト					
	定期試験		40%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
	自由記載	講義の理解を深めるために、5人程度のグループを作り、毎回グループワークを行う。このグループワークとプレゼンが、主要な評価基準になる。				
<b>【受講の心得】</b>						
日々起こっている経済ニュースを、日常的に確認すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
週3時間程度の予習・復習が必要。新聞、またはネットで日々のニュースをチェックする。グループプレゼンに向けた資料収集、パワポ作成。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	入門経済学		伊藤元重	日本評論社	3000	9784535558175
	自由記載					
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	無					
<b>【担当教員の実務経験】</b>						
なし						

授業科目名	ミクロ経済学入門		サブタイトル		授業番号	LC104
担当教員名	田口 雅弘					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	必修			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
経済の基本的な動きを、需要と供給、価格、市場競争などをキーワードに講義する。						
<b>【到達目標】</b>						
ミクロ経済学の基本を習得し、世の中の動きをメカニズムとして理解できるようになる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：ミクロ経済学とは何か 第2回：ミクロ経済学から見た需要と供給 第3回：需要と供給の応用 第4回：需要曲線 第5回：市場の需要曲線と消費者の利益 第6回：供給曲線 第7回：費用の構造と利潤最大化 第8回：市場と価格のメカニズム 第9回：資源配分と市場競争 第10回：独占 第11回：完全競争と独占的競争 第12回：市場の失敗 第13回：不確実性と不完全情報の世界 第14回：ゲームの理論 第15回：ミクロ経済学のまとめ（講義全般の復習）						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	グループワークを行い、その貢献度（プレゼン、資料収集、議論への参加）を総合的に評価する。		
	レポート		30%	数回のグループプレゼンを評価する。		
	小テスト					
	定期試験		40%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
	自由記載	講義の理解を深めるために、5人程度のグループを作り、毎回グループワークを行う。このグループワークとプレゼンが、主要な評価基準になる。				
<b>【受講の心得】</b>						
日々起こっている経済ニュースを、日常的に確認すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
週3時間程度の予習・復習が必要。新聞、またはネットで日々のニュースをチェックする。グループプレゼンに向けた資料収集、パワポ作成。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	入門経済学		伊藤元重	日本評論社	3000	9784535558175
	自由記載					
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	無					
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
なし						



授業科目名	マーケティング論入門		サブタイトル		授業番号	LC105
担当教員名	宋 娘沃					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	必修			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
<p>今日、市場では消費者の好みやライフスタイルが多様化し、個別化している。マーケティングは単に作った製品を売るのではなく、売れる製品をいかに作るかが求められている。そのためには、消費者のニーズを明確にとらえ、それに合う新製品を開発することが重要な戦略となっている。マーケティングはこうした製品をどのようにターゲット市場に細分化し、宣伝、広告、流通チャネルまでトータルに捉えていくのが重要である。本講義では、企業におけるマーケティング戦略に焦点をあて消費者の行動との関係性を考察する。講義では具体的な企業の事例を取り上げ、今日のマーケティングの考え方や技法を明らかにする。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・マーケティングに関する基礎知識が修得できる。</li> <li>・企業のブランド力や商品が市場で販売されるまでのプロセスが理解できる。</li> <li>・実際の企業のマーケティング戦略を学ぶことによって、実務的な学習能力を養うことができる。</li> </ul> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt; &lt;技能&gt; の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：マーケティングとは何か  第2回：マーケティングミックス  第3回：ターゲット市場の選定  第4回：標的市場と市場細分化  第5回：市場環境と消費者行動  第6回：顧客志向のマーケティング  第7回：製品ライフサイクル  第8回：消費者行動とマーケティング  第9回：ブランドの創造戦略  第10回：ネットビジネスにおけるマーケティング  第11回：デジタルマーケティング戦略  第12回：流通チャネル  第13回：市場機会の模索とマーケティング戦略  第14回：業界の構造分析と競争優位  第15回：顧客維持と関係性マーケティング</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	講義への意欲や質問、討議を積極的に行っているのかを評価する。		
	レポート		30%	企業の商品や市場での動向を調べ、マーケティングの実態をまとめる。その内容のコメントを返却する。。。		
	小テスト					
	定期試験		50%	キーワードの理解度、講義全体の理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常、消費や興味のある商品に関する新聞や雑誌などに目をとめて、問題意識を持って出席することを望む。</li> </ul>						
<b>【授業外学修】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習として、教科書の授業内容に相当する部分を前もって読み、疑問点をチェックして来ること。</li> <li>・授業で習った内容の小テストがあるので、復習をすること。</li> <li>・さらに、企業のマーケティング活動の事例を資料や参考文献から読むこと。</li> </ul> <p>以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。</p>						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	入門・マーケティング戦略 新版		池尾恭一	有斐閣	2100円	978 - 4 - 641 - 16486-4 - 7
自由記載						
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	コトラーの戦略的マーケティング		フィリップ・コトラー著木村達也訳	ダイヤモンド社	2200円	4 - 478 - 50176 - 9
	自由記載		<ul style="list-style-type: none"> <li>・R・メイソン著 鈴木信雄他訳 『顕示的消費の経済学』名古屋大学出版会、2001年。</li> <li>・廣田章光・石井淳蔵編 『1からのマーケティング』中央経済社、2004年。</li> <li>・伊藤宗彦編 『1からのサービス経営』中央経済社、2010年。</li> </ul>			
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	データサイエンス入門		サブタイトル		授業番号	LC201
担当教員名	梶西 将司					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	必修			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b> データサイエンスは、私たちの身の回りの様々な場面で活用されている。近年は特に、データサイエンスの知識や考え方をを持った人が必要とされている。データサイエンスによって得られた数値に隠された本当の意味を知ることがはとて重要なことである。本授業では、データサイエンスで利用されているいくつかの分析手法に触れ、基礎知識や簡単な分析手法を身につけることを目指す。						
<b>【到達目標】</b> ・データサイエンスの重要性を知り、身の回りで活用されていることを実感できる。 ・データサイエンスの知識を利用し、身の回りに溢れている数値の持つ真の意味について考えることができ、自らの力で判断ができるようになる。 ・データサイエンスの分野で利用されている簡単なデータ分析を行うことができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力><技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b> 第1回：データサイエンスについて 第2回：度数分布表とヒストグラム、平均について 第3回：データの散らばり具合の統計量、標準偏差の考え方 第4回：標準偏差の活用 第5回：正規分布 第6回：仮説検定 第7回：区間推定 第8回：母集団・母平均・母標準偏差・標本平均 第9回：標本平均を使った母集団の区間推定 第10回：標本分散とカイ二乗分布、母分散の推定 第11回：標本分散と比例する統計量の作り方 第12回：母平均が未知の正規母集団を区間推定 第13回：t分布 第14回：t分布による区間推定 第15回：まとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		50%	意欲的な受講態度、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート		30%	2～3回程度のレポート課題を課す。		
	小テスト		20%	2回程度の小テストを行う。実施は事前にアナウンスする。		
	定期試験					
	その他					
<b>【受講の心得】</b> データサイエンスについて知り、身の回りに溢れている数値に隠された意味を自らの力で考え、判断できる力を身に付けてほしい。また、データサイエンスの手法について学び、データ解析で得られた結果を解釈する楽しさを知ってほしい。授業に関してはテキストや配布資料を利用し授業の復習・予習を行い、講義内容をしっかりと理解できるように努めてほしい。						
<b>【授業外学修】</b> 1 予習として、配布資料やテキストを読み、次回の授業内容に関わる部分を整理しておく。 2 復習として、学習した内容を整理し、課題レポートをする。 3 発展学習として、授業で紹介された内容について自ら調べる。 以上の内容を、週当たり4時間以上学習すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	統計学入門		小島寛之	ダイヤモンド社	1800	978-4-478-82009-4
自由記載						
参考書	自由記載					
	【担当教員の実務経験の有無】		無			
	【担当教員の実務経験】		無			
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						
<b>【担当教員以外の指導に関わる実務経験者】</b> 無						

授業科目名	経営学入門		サブタイトル	経営学の基礎を学ぶ		授業番号	LC106
担当教員名	宋 娘沃						
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位		
開講年次	1年			開講期	前期		
必修・選択	必修			授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b> 企業はわたしたちの生活とどのように関わっているのか。企業は新製品を開発したり、製造したり、消費者に販売するため、さまざまな戦略を打ち立てたりしている。経営学とは人、モノ、金、情報が結びつけられ製品やサービスに変換される企業のことを学ぶ学問である。こうした製品やサービスを生み出すために企業の組織や戦略、人材、意思決定はどのように行われ、実践されているのか。今日わたしたちの生活と密接に関わっている企業の仕組みや組織、戦略、雇用、人材の在り方を学ぶことが必要不可欠である。本講義は、前半では株式会社の仕組みや組織、管理システムに焦点をあてて学習する。後半では実際の企業の事例を取り上げ、企業とわたしたちの生活との関わりを明らかにする。							
<b>【到達目標】</b> ・経営学の基礎知識を習得することができる。 ・実際の企業の組織、管理システム、企業人材の仕組みを学習することによって、より深い専門知識が習得できる。 ・企業と私たちの生活との関わりを理解することによって、自主的学習能力を高めることができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。							
<b>【授業計画】</b> 第1回：経営学とは何か 第2回：企業経営の全体像 第3回：企業形態と組織の選択 第4回：企業の事業部制組織 第5回：企業と金融資本との関わり 第6回：企業と製品・サービス市場との関わり 第7回：競争戦略のマネジメント（スターバックスの事例） 第8回：多角化戦略のマネジメント（キャノンの事例） 第9回：労働と組織の管理・テイラーシステム 第10回：トヨタ生産システム 第11回：ファミリービジネスのマネジメント 第12回：企業のブランド力 第13回：企業の国際化とマネジメント 第14回：ICT時代の企業組織と人材 第15回：企業の社会的責任							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度		20%	授業への意欲，質問，討議を積極的に進めていたかを評価する。			
	レポート						
	小テスト		30%	各回の主要なポイントやキーワードの理解度を評価する。			
	定期試験		50%	授業全体の理解度を評価する。			
	その他						
自由記載							
<b>【受講の心得】</b> ・基本的には講義形式で行うが、必要に応じてレジュメや資料を適宜配布する。 ・関心ある企業や最新の企業活動の動向に関する新聞、雑誌などに目を通して講義に臨むこと。							
<b>【授業外学修】</b> ・予習として、教科書の授業内容に相当する部分を前もって読み、疑問点をチェックして明らかにする。 ・授業で習った内容の小テストを行うので、必ず復習をする。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。							
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	1からの経営学 第3版			加護野忠男・吉村典久編	中央経済社	2400円	978-4-502-696 10-7
自由記載							
参考書	自由記載		・上林憲雄 他編『経験から学ぶ経営学入門』有斐閣ブックス、2007年。・片岡信之編著『アドバンスト経営学理論と現実』中央経済社、2010年。・伊藤宗彦編著『1からのサービス経営』中央経済社、2010年。				
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 無						
	<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						

授業科目名	会計学入門		サブタイトル		授業番号	LC107
担当教員名	岸保 宏					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	必修			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
会計初学者向け。会計の基本的なフレームワークの理解を目的とする。いわゆる簿記のテクニックや詳細な専門用語の習得ではなく、会計の基本的な理解を重視した内容である。テキストに書き込み、できるだけ講義中に理解ができるように、会計のエッセンスを織り込む。必要に応じ、補助プリントなどを用意し、講義を進める。理解を深めるため、PPTなどはできるだけ使わず、板書したいと思う。						
<b>【到達目標】</b>						
会計の基本的なフレームワークの理解であり、簿記検定などの資格試験向けの講義ではない。会計について、もっと学んでみようかなと思うことができれば本望である。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：イントロダクション（なぜ会計を学ぶのか） 第2回：基本的な仕組み（1） 第3回：基本的な仕組み（2） 第4回：一般的な記録ルール（1） 第5回：一般的な記録ルール（2） 第6回：個別的な記録ルール（1） 第7回：個別的な記録ルール（2） 第8回：個別的な記録ルール（3） 第9回：個別的な記録ルール（4） 第10回：決算の集計ルール（1） 第11回：決算の集計ルール（2） 第12回：財務諸表の見方（1） 第13回：財務諸表の見方（2） 第14回：決算書の見方（1） 第15回：決算書の見方（2）						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		30%	意欲的な授業参加姿勢を評価する		
	レポート		70%			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載		レポートを課す。自分の力で問題を解決していくことを訓練する機会として位置付けている。				
<b>【受講の心得】</b>						
大人として当然の授業姿勢を求める。						
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価
	アカウントティング・エッセンシャルズ			友岡賛・福島千幸	有斐閣	
自由記載						
参考書	自由記載		授業の中で適宜紹介する。			
	<b>【その他】</b> 電卓は10桁以上のものを持参すること。（関数電卓不可。）詳しくは授業初日に説明する。 スマートフォン等を電卓として使用することは認めない。 マーカーを何色かご用意すること。  時間によっては、実務者のゲストスピーカーを呼ぶことも考えている。授業を進めながら臨機応変に対応する。					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
会計事務所、会社経営、大学、専門学校、商工会議所など講師経験あり						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
できるだけ手で書いて、理解するように講義展開をする。必要なことは何度も言うようにしていきたいと思っています。また実務での会計・経理についてのこともお伝えしたい。						

授業科目名	社会調査の基礎		サブタイトル		授業番号	LC202
担当教員名	梶西 将司					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
<p>本授業では、社会調査を本格的に学ぶ学生を対象に、社会調査の意義・背景・方法に関する基本的知識を解説する。授業では、さまざまな社会調査の手法やデータ収集・分析のプロセス、社会調査の事例などを紹介する。また、統計解析アプリケーションRを用いて、実際にデータ解析を行い、その解釈を行う。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会調査について理解できている。</li> <li>・対象や状況に応じた調査票が作成できる。</li> <li>・得られたデータからデータ解析が行える。</li> <li>・統計解析アプリケーションRを用いて解析が行える。また、その結果を解釈することができる。</li> </ul> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt;&lt;思考・問題解決能力&gt;&lt;技能&gt;の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：社会調査とは  第2回：社会調査の種類  第3回：調査のプロセスとデザイン  第4回：調査の方法と調査票の作成方法  第5回：サンプリングの方法  第6回：データの基礎的統計  第7回：統計解析アプリケーションRの使い方  第8回：データの読み込みと基礎的統計の出力  第9回：グラフの作成とパッケージの使用法  第10回：統計的推測と検定  第11回：代表的な統計解析1  第12回：代表的な統計解析2  第13回：エノスグラフィとは  第14回：分析事例  第15回：まとめ</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		50%	意欲的な受講態度、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート		30%	2～3回程度のポート課題を課す。		
	小テスト		20%	2回程度の小テストを行う。実施は事前にアナウンスする。		
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
<p>社会調査の重要性を知ってもらいたい。また、得られたデータからデータ解析を行い、結果を解釈することで新たな発見があることを知ってもらい、またその楽しさを実感してもらいたい。</p>						
<b>【授業外学修】</b>						
<p>1 予習として、配布資料やテキストを読み、次回の授業内容に関わる部分を整理しておく。  2 復習として、学習した内容を整理し、課題レポートをする。  3 発展学習として、授業で紹介された内容について自ら調べる。  以上の内容を、週当たり4時間以上学習すること。</p>						
使用テキスト	自由記載					
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	フィールド分析法		編：守屋和幸 著：村上陽平	共立出版	3850	978-4-320-00604-1
	入門・社会調査法		編：轟亮・杉野勇	法律文化社	2500	978-589-03817-3
	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	簿記入門		サブタイトル		授業番号	LC108
担当教員名	鈴木新					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
簿記は、企業組織で生じる取引を記録・整理・報告するための技術である。今日の企業の財政状況・経営成績・企業戦略を理解するためには、簿記の体系的な修得が重要である。また、簿記の対象は企業のすべての活動に及ぶので、簿記の能力を身につけることは企業経営を理解するうえでも必要であろう。この授業では、小規模な会社を取り上げて仕訳を中心に学び、重要な項目については決算処理の方法についても簡単に学習する。						
<b>【到達目標】</b>						
簿記の流れを体系的に修得し、小規模株式会社で日々発生する取引の内容を理解することにより、日商簿記検定初級レベルの仕訳処理ができるようになることが目標である。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：簿記の基礎 第2回：商品売買（1）仕入と売上 第3回：商品売買（2）返品・諸掛 第4回：現金・預金 第5回：手形と電子記録債権 第6回：貸付金・借入金 第7回：小テストと解説 第8回：その他の取引（1） 第9回：その他の取引（2） 第10回：固定資産 第11回：租税公課と消費税・資本金 第12回：試算表（1）試算表の基礎 第13回：試算表（2）試算表の作成 第14回：試算表（3）試算表の応用 第15回：伝票と仕訳日計表						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度					
	レポート					
	小テスト		50%	各回の主要なポイントの理解を評価する。		
	定期試験		50%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
1. 定期試験では電卓を使用するが、携帯電話・スマートフォン等の使用は認めない。 2. 簿記の能力を身につけるには繰り返しの演習が必要であるため、事後学習は必須である。 電卓は10桁以上のものを持参すること。（関数電卓不可。） スマートフォン等を電卓として使用することは認めない。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 予習として、教科書内容を熟読し概要を把握しておくこと。 2. 復習として、講義内容を理解し演習問題に取り組むこと。 3. 日本商工会議所主催の日商簿記検定を受験し資格取得を図ること。 以上の内容を予習・復習として週当たり4時間以上学修をすること。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	金融論入門		サブタイトル	授業番号	LC203
担当教員名	未定				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科		単位数	2単位	
開講年次	2年		開講期	前期	
必修・選択	選択		授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>					
<p>仕事の内容をビジネスモデルの観点から説明します。そして、その内容が社会や個人にとってどのように役立っているのかを考えます。この学びは金融機関への就職を目指すだけでなく、ユーザーとして利用する人にとっても役立ちます。ビジネスモデルの観点から銀行証券のビジネスを学ぶことは金融がサポートしている企業や個人へのかかわりを学ぶことでもあります。普段外側からしか見ていない銀行や証券会社がどのような意味があってその業務をおこなっているかを理解すれば、環境が目まぐるしく変化の中で、将来どのように対処すべきかが見えてきます。そのことは人生の中でどのようにキャリアを積み重ねべきかの一つの指針となることでしょう。</p>					
<b>【到達目標】</b>					
<p>金融の仕組みは他の動物には見られない仕組みであり、人類の習性です。その仕組みの及ぼす影響は歴史的に見て計り知れませんが、どのように利用するかでその価値が決まります。誤った利用の仕方をすれば社会に多大な悪影響も及ぼすのも金融です。この金融の仕組みを学ぶことは、社会生活をおくる市民としての責任感や倫理観にも大きく影響します。社会において自己が果たすべき役割や、市民としての責任ある行動について理解を深め、そこから自己や社会の未来について考えることができます。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
<p>第1回：ガイダンス ビジネスモデルから金融業を考える、リテールとホールセール  第2回：銀行業1 順さや、逆さや、預金保険機構、銀行破綻、事業性評価  第3回：銀行業2 手数料ビジネス、資金送金とビットコイン、富裕層ビジネス  第4回：銀行業3 成長サイクルとライフプラン、財務諸表とライフプラン  第5回：まとめ 小テストを実施したあとその解説とまとめをおこなう  第6回：証券業1 ブローカレッジ、リスク許容度、株価と市場  第7回：証券業2 アンダーライティング、IR、社債、IPO  第8回：証券業3 ディーリング、プロップディーラー、ポジション管理  第9回：まとめ 小テストを実施したあとその解説とまとめをおこなう  第10回：保険総論 保険とは、保険事由、保険種類、大数の法則、3利源  第11回：保険1 民間保険と社会保険、医療保険  第12回：保険2 その生成と発展過程(損害保険業)、リスク管理機能  第13回：保険3 いわゆるバブル経済崩壊後から現在まで(生命保険業)  第14回：小テストを実施したあとその解説とまとめをおこなう  第15回：講義全体のまとめ</p>					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	50%			
	レポート	0%			
	小テスト	0%			
	定期試験	50%			
	その他	0%			
	自由記載	授業中の有益な発言については加点を行う。			
<b>【受講の心得】</b>					
銀行・証券・保険は人類にとって役立っているかを考える。一から物事を考える授業です。その手段としてビジネスモデルを学ぶことが有益になります。					
<b>【授業外学修】</b>					
<p>学習の方法としてテキストを事前に読み全体像をつかんでおくこと(1時間程度)、授業で不明な点を解決すること、そして、復習としてまとめを作る(1時間程度)が必要です。さらに、経済新聞や経済ドラマや企業経営を紹介した番組を見て金融機関とのかかわりが話題となっていないかに関心をもって観てください(1時間程度)。社会の仕組みの理解が深まります。特に倫理観の欠如が社会にどのように影響するかを想像することも大切となります。</p>					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	『銀行・証券・保険業界のビジネスモデルで学ぶ金融キャリアの強教科書』	三好秀和	経済法令研究会	1430	978-4-7668-3346-1
	自由記載				
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	3年で退職しないための就活読本：ケースで学ぶ	三好秀和・佐々木一雄	同友館	1760	978-4496052576
	自由記載				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>					
生命保険会社、資産運用会社の勤務経験、トレーダー、金融システムの業務経験がある。					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
生命保険会社、資産運用会社、トレーダーの経験や京都大学の資金運用アドバイザーは現役で証券市場に對峙しています。この実践経験から臨場感のある授業にしたいと思います。					

授業科目名	観光総論		サブタイトル		授業番号	LC109
担当教員名	大石 貴之					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
現在、日本における観光の重要性が高まっている。日本政府は、観光政策、特にインバウンド観光を重視し、多くの外国人観光客が訪れている。また、地方の少子高齢化に伴って、観光産業を活用した地域活性化の取り組みが、様々な地域で実践されている。こうした状況を踏まえ、本授業では、観光に関する諸現象を包括的に理解するために、観光の歴史や観光産業の現状、政府や地域の取り組みなど観光学に関する基礎的な内容について講義する。						
<b>【到達目標】</b>						
観光に関する包括的な知識を理解し、それを社会の動向に関連付けて考察することができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：観光の基礎（1）：観光とは何か 第2回：観光の基礎（2）：観光の歴史 第3回：観光の基礎（3）：観光行動と旅行者 第4回：観光の基礎（4）：観光産業と統計 第5回：観光産業の現状（1）：旅行産業 第6回：観光産業の現状（2）：宿泊産業 第7回：観光産業の現状（3）：交通産業 第8回：観光産業の現状（4）：テーマパークと博物館 第9回：観光産業の現状（5）：観光経営と観光商品 第10回：日本の観光政策（1）：観光立国と国際観光 第11回：日本の観光施策（2）：地域観光とまちづくり 第12回：観光地の現状と課題（1）：マストゥリズム時代の観光地-温泉とスキー- 第13回：観光地の現状と課題（2）：持続可能な観光-エコトゥリズムと歴史的町並み観光- 第14回：観光地の現状と課題（3）：ニュートゥリズムの台頭-コンテンツゥリズムとフードゥリズム- 第15回：観光の展望：今後の観光はどうあるべきか						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート		40%	授業で取り上げた内容について、その背景と実社会との関連について具体的に考察していること。課題については次回の授業において講評する。		
	小テスト					
	定期試験		60%	各回の授業の内容に関する理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【授業外学修】</b>						
・事前学修：授業の最後に提示する、次回授業のキーワードについて調べておくこと（なお、第1回の事前学習については「観光」の定義について調べておくこと）。 ・事後学修：授業で配付するプリントを読み返すとともに、授業で紹介する参考文献を読んで発展的な学修をしておくこと。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	毎回の授業でプリントを配付する。				
参考書	自由記載	その他の参考書については、授業中に適宜指示する。				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						



授業科目名	観光実務		サブタイトル		授業番号	LM110
担当教員名	大石 貴之					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
現在、日本において観光産業が重視されている。日本における観光産業は、旅行産業と共に発展してきたが、現在では国の政策や地域産業において観光が重視されたことに伴い、直接観光に関わらない産業においても、観光に関する知識の理解が必要とされている。こうした状況を踏まえ、本授業では、観光に関する実務的な知識として、旅行業に関する法律と約款、日本を中心とする世界遺産を取り上げ、これらの基礎的な内容について講義する。						
<b>【到達目標】</b>						
旅行業の法律と約款、日本を中心とする世界遺産に関する知識について理解し、実社会に役立てることができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：観光産業と実務：観光産業に求められている知識と技能とは 第2回：旅行業法（1）：旅行業者とは 第3回：旅行業法（2）：営業保証金制度と旅行業務取扱管理者 第4回：旅行業法（3）：旅行商品の契約と取引 第5回：旅行業法（4）：旅程管理と旅行業協会 第6回：標準旅行業約款（1）：標準旅行業約款とは 第7回：標準旅行業約款（2）：旅行契約の成立と変更 第8回：標準旅行業約款（3）：企画旅行と手配旅行 第9回：世界遺産の基本（1）：世界遺産とは 第10回：世界遺産の基本（2）：世界遺産の現代的課題 第11回：日本の世界遺産（1）：歴史的建造物と文化財に関する文化遺産 第12回：日本の世界遺産（2）：地域の伝統文化と生活に関する文化遺産 第13回：日本の世界遺産（3）：宗教・信仰に関する文化遺産 第14回：日本の世界遺産（4）：日本の近代化と産業に関する文化遺産 第15回：日本の世界遺産（5）：日本の自然遺産						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度					
	レポート		40%	授業で取り上げた内容について考察していること。課題については次回の授業において講評する。		
	小テスト					
	定期試験		60%	各回の授業の内容に関する理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【授業外学修】</b>						
・事前学修：授業の最後に提示する、次回授業の内容について調べておくこと（なお、第1回の事前学修については「観光産業に必要な知識や技能」について調べておくこと）。						
・事後学修：授業で配付するプリントを読み返すとともに、授業で紹介する発展的な学修に取り組むこと。						
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	毎回の授業でプリントを配付する。				
参考書	自由記載	その他の参考書については、授業中に適宜指示する。				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	観光英語A		サブタイトル		授業番号	LC204
担当教員名	竹野 純一郎					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
本講義では、海外を旅行する際、誰かを海外に連れて旅をする際に必要な知識と観光英語を学ぶ。言語を習得するには、繰り返し聴き、話すことが必要となるが、授業中に観光で想定される場面での会話練習の機会を増やすためにも、テキストを用いた予習は必須である。定期的実施する英語の語彙・表現テストには、授業中に扱う観光に必要な国内外の地理・歴史などに関する問題も含まれる。						
<b>【到達目標】</b>						
本講義では、観光に関連したテーマを扱うテキストを用いて、実用的な語彙の増強を図りつつ、日常的な会話表現を含んだ実践的な英語表現を学ぶ。英語によるコミュニケーション能力の向上を目指すと同時に、観光に関連したテーマの語彙・表現、背景となる海外の旅行地理などを学び、定期的に小テストで学力定着を確認することで「観光英語検定」対策も併せて行う。海外での旅行・観光の際に想定される様々な場面において、英語での円滑なコミュニケーションができるようになることを目指す。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能> <態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：ツーリズム・イングリッシュとは？ 観光英語と旅行地理の必要性						
第2回：序章 添乗英語の特徴と英語が必要な場面 アジアの旅行地理（1）						
第3回：第1章 機内で (In the airplane) アジアの旅行地理（2）						
第4回：第2章 空港到着 (Arrival at the airport) アジアの旅行地理（3）						
第5回：第3章 ホテル-1 (At the hotel-1) ヨーロッパの旅行地理（1）						
第6回：第4章 ホテル-2 (At the hotel-2) ヨーロッパの旅行地理（2）						
第7回：第5章 自由行動の案内-1 (Free activities-1) ヨーロッパの旅行地理（3）						
第8回：観光英検にチャレンジ(1)						
第9回：第6章 自由行動の案内-2 (Free activities-2) 南北アメリカの旅行地理（1）						
第10回：第7章 レストランで (At the restaurant) 南北アメリカの旅行地理（2）						
第11回：第8章 観光・視察 (Sightseeing & Technical visit) オセアニアの旅行地理（1）						
第12回：第9章 事故処理 (Troubles and Accidents) オセアニアの旅行地理（2）						
第13回：第10章 現地での移動と帰国 (Returning trip) 中東・アフリカの旅行地理（1）						
第14回：旅行英語用語（特定の目的のための英語） 中東・アフリカの旅行地理（2）						
第15回：観光英検にチャレンジ(2)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	意欲的な受講態度、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート		20%	課題のテーマについて調べ適切にまとめ、自分の考えを具体的に述べていること。課題やレポートのフィードバックは授業時に全体に対して行う。		
	小テスト		20%	小テストで観光英語の理解度を評価する。なお、小テストの実施はあらかじめアナウンスする。		
	定期試験		40%	中間・期末に授業内容の理解度を評価する。		
その他						
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
背景となる国内外の地理、歴史などに関する知識が必要となるので、日頃から知識獲得に努めてほしい。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として、テキストを読み、授業内容にかかわる部分の疑問点を明らかにする。						
2 復習として、英語および観光の知識として不十分な部分をレポートにまとめる。						
3 発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料を読む。						
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価
	ツアーコンダクターの英語			JTB総合研究所	JTB総合研究所	2,530円（税込）
自由記載		テキストの使用に加えて適宜プリントも配布する。				
参考書	自由記載		授業で随時紹介する。			
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有					
<b>【担当教員の実務経験】</b> 公立高等学校英語科教諭						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 学校現場での経験を生かして、効果的な英語学習法について指導する。						

授業科目名	農業経済入門		サブタイトル		授業番号	LC111
担当教員名	中安 章					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
<p>農業経済学は、農業が抱えている経済的側面について、様々な角度から探っていく学問分野である。生産者の所得の向上や経済的な安定、農業、農産物を通じた一般消費者の生活の向上、農産物、食品の流通、貿易を通じた国際問題についても研究するものである。</p> <p>この講義では、その入門編として、日本の食料、農業の動向について経済学に理解することを目的とする。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>日本の農業生産、農産物・食料品の消費に関心を払うと同時に、その理解には経済学的基础知識が必要とされる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：日本の食料問題  第2回：世界の食料需給と食料問題  第3回：日本の食料消費の動向  第4回：食品産業の動向  第5回：食品流通の新しい動き  第6回：日本の農業生産の動向  第7回：日本農業における労働力問題  第8回：日本農業における土地・資本問題  第9回：主要農産物の生産動向  第10回：日本の農業政策  第11回：農業、農村の有する多面的機能  第12回：地域資源を活かした農業  第13回：中山間地域の農業・農村政策  第14回：自然災害と農業、農村の復旧  第15回：まとめ</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		10%	発言による授業の進行に対する貢献度を評価する。		
	レポート		30%	中間時点でレポートを課し、講義内容の正しい把握ができているかを評価する。（自分の言葉による論理的な説明を求める）		
	小テスト					
	定期試験		60%	授業で取り扱った視点、論理を用いて、論理的に表現ができていないかを評価する（記述式のレポート試験を予定）		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
<p>受講生は、授業で提供する資料・データだけに留まらず、農業・食料問題についても、食生活、環境問題等の身近な事象に対して自ら関連付けて考察するように努めること。</p>						
<b>【授業外学修】</b>						
<p>復習、文献、インターネット等での情報収集を行う。  以上のことを、週あたり4時間以上を充てること。</p>						
使用テキスト	自由記載	使用しない				
参考書	自由記載	講義の中で適宜紹介する				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	農業経済学		サブタイトル		授業番号	LC112
担当教員名	中安 章					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
<p>農業経済学は、農業が抱えている経済的側面について、様々な角度から探っていく学問分野である。生産者の所得の向上や経済的な安定、農業、農産物を通じた一般消費者の生活の向上、農産物、食品の流通、貿易を通じた国際問題についても研究するものである。</p> <p>この講義では、農業、農産物に対する現実の問題を経済学に理解することを目的とする。前半では、農産物の需要と供給、価格についての経済学的基礎を理解する。後半では、日本の農業、食料の持つ諸問題について経済の動きとの関連から理解する。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
日本の農業生産、農産物・食料品の消費に関心を払うと同時に、その理解には経済学的基礎知識が必要とされる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：農産物の需要と需要曲線  第2回：農産物の需要と弾力性（1）  第3回：農産物の需要と弾力性（2）  第4回：農業における生産と費用  第5回：農産物の供給曲線  第6回：市場、競争と価格決定  第7回：独占と価格決定  第8回：消費者余剰と生産者余剰  第9回：日本農業の歩みと食  第10回：経済成長と農業  第11回：国際化の中の日本農業  第12回：日本の農業問題（1）  第13回：日本の農業問題（2）  第14回：日本の食料問題  第15回：まとめ</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		10%	発言による授業の進行に対する貢献度を評価する。		
	レポート		30%	中間時点でレポートを課し、講義内容の正しい把握ができていないかを評価する。（自分の言葉による論理的な説明を求める）		
	小テスト					
	定期試験		60%	授業で取り扱った視点、論理を用いて、論理的に表現ができていないかを評価する（記述試験を予定）		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
受講生は、授業で提供する資料・データだけに留まらず、農業・食料問題についても、食生活、環境問題等の身近な事象に対して自ら関連付けて考察するように努めること。						
<b>【授業外学修】</b>						
復習とあわせて、文献、インターネット等での情報収集を行う。 以上のことを、週あたり4時間以上を充てること。						
使用テキスト	自由記載	使用しない				
参考書	自由記載	講義の中で適宜紹介する				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	食品流通論		サブタイトル		授業番号	LC205
担当教員名	大宮めぐみ					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
本講義では食品が生産され私たち消費者に届くまでの食品流通システムについて学修する。はじめに現在の食生活の現状について理解し、食品の生産、加工、流通に関わる産業の概要、主要食品の流通システムの特徴について学ぶ。次に、わが国の食料需給の現状、流通過程で発生する課題について理解する。さらに、食品産業におけるマーケティング戦略について学ぶ。						
<b>【到達目標】</b>						
(1) 食品流通に関連する基礎的な専門用語を理解し、説明する力を身につける。 (2) わが国の食品流通の構造および食品産業の役割を理解し、説明する力を身につける。 (3) フードシステムや食料消費に関連する諸課題について理解し、その課題解決方法について自ら考察、説明する能力を身につける。 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>の取得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：食品流通論の対象領域と課題-何を学ぶのか- 第2回：食生活の変化と食の外部化 第3回：食品流通-生産と加工- 第4回：食品流通-卸売業- 第5回：食品流通-小売業- 第6回：食品流通-外食産業と中食産業- 第7回：主要食品の流通システム 第8回：前半のまとめ 第9回：食料の安全保障と食料自給率 第10回：食料消費の課題（1） 第11回：食料消費の課題（2） 第12回：食料消費と安全 第13回：マーケティングの基礎知識 第14回：フードマーケティング 第15回：全体のまとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		10%	意欲的な受講態度によって評価する。		
	レポート					
	小テスト		40%	中間的な理解度を評価する。		
	定期試験		50%	到達目標に達しているかを最終的に評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
本講義では食料消費や食品流通、食料に関連する今日的課題等を理解し、自らのこととして考え、その考えを説明できる力を身につけることを到達目標とする。そのためには、「食」に関わるニュースや新聞記事、さまざまな情報に日頃から関心を持ち、自ら調べるという姿勢で講義に臨むこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
(1) 復習として、講義内容および配布資料の整理とまとめを行うこと。とくに講義内容に関してはノートを作成すること。 (2) 発展学修として、食品流通など「食」に関わる新聞・ニュース等を積極的に収集し読んでおくこと。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	食品の流通経済学		菊池哲夫	農林統計協会	1200円+税	
	食品の消費と流通		(公社)日本フードスペシャリスト協会編	建帛社	1900円+税	
	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	プレゼンテーション技法		サブタイトル		授業番号	LJ201
担当教員名	梶西 将司					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
<p>大学での授業，進学，就職先でもさまざまプレゼンテーションの機会がある。自分の意志，研究結果などを表現でも，プレゼンテーション能力を必要不可欠となっている。授業では，プレゼンテーションでの表現方法や図の作り方，効果的伝達方法などを学ぶ。また，調査・研究・企画などを通じてのプロジェクトマネジメントについても学ぶ。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>人前で発表すること，伝え方について理解を深める。プレゼンテーション使用されるツールのマスターする。「プレゼンテーションの構成・コンテンツ制作」ができるようにする。最終的に，各人が研究テーマに即した最終発表に結実させる。</p> <p>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：プレゼンとは何か (担当佐々木)</p> <p>第2回：プレゼンの構成 (担当佐々木)</p> <p>第3回：効果的なプレゼンテーションとは (担当佐々木)</p> <p>第4回：プレゼンテーションと画像等 (担当佐々木)</p> <p>第5回：プレゼンテーションとグラフ (担当佐々木)</p> <p>第6回：ケーススタディー実施（画像とグラフ） (担当佐々木)</p> <p>第7回：言語と非言語の表現方法 (担当佐々木)</p> <p>第8回：言語の表現方法 (担当佐々木)</p> <p>第9回：非言語の表現方法 (担当佐々木)</p> <p>第10回：プロジェクト研究とテーマ設定 (担当佐々木)</p> <p>第11回：プロジェクト演習(1) (担当佐々木)</p> <p>第12回：プロジェクト演習(2) (担当佐々木)</p> <p>第13回：プロジェクト演習(3) (担当佐々木)</p> <p>第14回：最終発表演習(1) (担当佐々木)</p> <p>第15回：最終発表演習(2) (担当佐々木)</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		30%	毎回の講義の取組態度を評価する。		
	レポート		20%	レポート・提出物		
	小テスト					
	定期試験		50%	プレゼン・期末試験		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
<p>実際にパワーポイントソフトが使いこなせ，作業できるように指導を行う。パワーポイントの制作だけでなく，発表方法・姿勢など表現の指導にも注力する。</p>						
<b>【授業外学修】</b>						
<p>復習，課題，プレゼン準備等のために週当たり4時間以上の学修を行うこと。</p>						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	ビジネス・イングリッシュ		サブタイトル		授業番号	LC206
担当教員名	グレゴリー チンデミ					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
現代の国際化・情報化した社会において、ビジネス・経済分野では英語は非常に大きな役割を果たしている。学生にとって馴染みがないビジネスや経済に関する英文を読み、通訳訓練を活用したりプロダクショントレーニングを行うことで、ビジネス分野やTOEICなどで出題される語彙力の増強と同時に英語によるアウトプットの感覚を身につける。学習者の意識を高めるために、授業では簡単な英語で自分の意見を述べる練習を行う。						
<b>【到達目標】</b>						
ビジネス分野の英文に慣れ親しみ、ビジネス関連の知識力、語彙力や英語表現能力を高めることを目指す。同時に、ビジネスに関するトピックにおいて、簡単な英語で自分の意見を述べるができることを目標とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：Lesson 1 Meeting (Part 1) R&D brainstorming (会議1 開発コンセプト) 第2回：Lesson 2 Meeting (Part 2) Market Segmentation (会議2 販売層のセグメント) 第3回：Lesson 3 Meeting (Part 3) Cost Reduction Plan (会議3 コストの見直し) 第4回：Lesson 4 Negotiations (Part 1) Negotiating price reductions (交渉1 値下げの提案と交渉) 第5回：Lesson 5 Negotiations (Part 2) Price negotiations and evasion tactics (交渉2 値下げの提案と回避) 第6回：Lesson 6 Negotiations (Part 3) Negotiating delivery date and shipping methods (交渉3 納期と納品方法の交渉) 第7回：Lesson 7 Presentation (Part 1) Presenting air-conditioners (プレゼンテーション1 電化製品のプレゼン) 第8回：Lesson 8 Presentation (Part 1) Question-and-Answer Session (プレゼンテーション1 質疑応答編) 第9回：Lesson 9 Presentation (Part 2) Presenting Food products (プレゼンテーション2 食品のプレゼン) 第10回：Lesson 10 Presentation (Part 2) Question-and-Answer Session (プレゼンテーション2 質疑応答編) 第11回：Lesson 11 Dealing with complaints (Part 1) Making a complaint (クレーム対応1 クレームをする) 第12回：Lesson 12 Dealing with complaints (Part 2) Receiving a complaint (クレーム対応2 クレームを受ける) 第13回：Lesson 13 Asking Your Junior to Do Something for You (部下への仕事の依頼) 第14回：Lesson 14 Checking and Confirming a Contract (契約書の確認) 第15回：Lesson 15 Appealing to your boss during employee performance evaluations (人事考課でのアピール)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	意欲的な受講態度、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート		20%	復習課題について適切にまとめていること。課題レポートのフィードバックは授業時に全体に対して行う。		
	小テスト		30%	小テストでビジネス英語の理解度を評価する。なお、小テストの実施はあらかじめアナウンスする。		
	定期試験		30%	中間・期末に授業内容の理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
本科目はビジネスに関するトピックが中心となるので、前もって英文を読んでおくことが必須である。授業で扱った語彙や英語表現をしっかりと復習し、小テストや課題に臨むこと。なお、小テストや定期試験は口頭によるテストを含む。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として、テキストを読み、授業内容にかかわる部分の疑問点を明らかにする。 2 復習として、授業時に学んだビジネスに関する事柄や英語の知識に関して課題レポートにまとめる。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載 授業で随時紹介する。					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員の職務経験】</b>						
公立高等学校英語科教諭						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
学校現場での経験を生かして、効果的な英語学習法について指導する。						

授業科目名	ビジネス・ディスカッション技法		サブタイトル	授業番号	LC207
担当教員名	佐々木 公之				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科		単位数	2単位	
開講年次	2年		開講期	後期	
必修・選択	必修		授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b> 本授業では、集団はどのように形成されるのか、集団はどのような特徴や性質を持っているのか、組織のソフト的なルールや関係性を理解したうえで、ディスカッションを通じてどう組織を正しい方向へ向かわせていくかについて学ぶ。 まず、コミュニケーションの基礎について学ぶ。そのうえで、上記前段で述べる、集団や組織、組織のルール・関係性などについて学んでいく。また、上記後段については、ビジネスで実際に使われているディスカッションの技法を学ぶ。演習を多分に盛り込み、実践的に学んでいく。					
<b>【到達目標】</b> ビジネスの現場で行われるディスカッションの目的、役割について理解すること。また、組織のソフト的なルールや関係性を理解したうえで、組織を正しい方向へ向かわせるための効果的なディスカッションとはどのようなものか、理解できるようになることである。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b> 第1回：今、なぜ「コミュニケーション」か(1)～コミュニケーションの基礎知識～ 第2回：今、なぜ「コミュニケーション」か(2)～演習(1)言葉と意味～ 第3回：集団形成の背景や目的 集団・組織とは(1)～演習(2)集団形成要因～ 第4回：集団形成の背景や目的 集団・組織とは(2)～演習(3)組織の成立要素～ 第5回：組織を動かすコミュニケーション やる気と生産性を上げるには(1)～組織と目指す姿～ 第6回：組織を動かすコミュニケーション やる気と生産性を上げるには(2)～演習(4)自分の組織を分析してみる～ 第7回：組織を動かすコミュニケーション やる気と生産性を上げるには(3)～演習(5)生産性向上のためのコミュニケーション～ 第8回：組織を動かすコミュニケーション やる気と生産性を上げるには(4)～演習(6)しぐさと印象～ 第9回：組織を動かすコミュニケーション やる気と生産性を上げるには(5)～目標に向けた組織ダイナミックス～ 第10回：組織における問題解決 意見が対立したときのコミュニケーション(1)～演習(7)コンフリクトの原因と対応～ 第11回：組織における問題解決 意見が対立したときのコミュニケーション(2)～演習(8)問題解決のコミュニケーション～ 第12回：組織における問題解決 意見が対立したときのコミュニケーション(3)～演習(9)敵対型対応の協働型コミュニケーション～ 第13回：交渉 利益最大化を目指すコミュニケーション(1)～交渉とは～ 第14回：交渉 利益最大化を目指すコミュニケーション(2)～演習(10)三つの交渉の流れ～ 第15回：交渉 利益最大化を目指すコミュニケーション(3)～演習(11)ミーティングの流れ～					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	発言による授業の進行に対する貢献度を評価する(発言内容のレベルは問わない)	
	レポート		30%	講義内容の正しい把握ができているかを評価する(自分の言葉による論理的な説明を求める)	
	小テスト				
	定期試験		50%	授業で取り扱った視点、論理を用いて、論理的に表現ができていないかを評価する(記述試験を予定)	
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b> 各講義において、講義内容の復習のポイントや、次の講義までに取り組むべき事項を提示するので、これらを行うこと。 特に講義内容を復習する際には、新聞や雑誌記事などで企業に関するニュースを読み、講義で学習した内容と照らし合わせて自分なりの分析を行うこと。					
<b>【授業外学修】</b> 上記、復習、新聞記事のまとめなどに週当たり4時間以上を充てること。					
使用テキスト	自由記載				
参考書	自由記載	必要に応じて別途配布する			
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有					
<b>【担当教員の实務経験】</b> 経営コンサルタントとして企業・行政での指導等あり					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 企業コンサルティング経験を生かして、学生のビジネスコミュニケーション向上の指導などを行う。					



授業科目名	日米関係		サブタイトル		授業番号	LC208
担当教員名	佐生 武彦					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
<p>既存の歴史観や歴史事実と異議を申し立てる考察は、常に「陰謀論」として退けられてきた。しかしながら、各国における機密文書の全文公開などを通して、むしろ「『都合の悪い真実』が暴露され、白日の下にさらされないように、『陰謀論というレッテル』が貼られてきた」ことが分かってきた。この講義では、所謂「陰謀論」を参考にし、グローバリズムとショナリズムのせめぎ合いを基調にして、幕末から現在までの日米関係を概観する。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>日米関係についての基礎的な知識を習得し、今後日本人に求められる世界の見方を身につける。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜態度＞の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：幕末の世界と日本  第2回：ジョン万次郎と米国  第3回：日露戦争と米国  第4回：FRBとウッドロー・ウィルソン  第5回：米国における対日排斥運動  第6回：真珠湾とルーズベルト  第7回：OSSと対日占領政策  第8回：東京裁判  第9回：米国製日本国憲法  第10回：米ソ冷戦の中の日本  第11回：60年代の日本と米国  第12回：1970 - 2000 の日米関係  第13回：9 1 1 と世界と日本  第14回：トランプ大統領と安倍首相  第15回：まとめと今後の展望</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	毎授業ごとにフィードバック・カードを提出させる。取り組みへの評価は、その内容を吟味して判断する。		
	レポート		40%	与えた課題に関して自分の考えを具体的に述べていること。授業の中で、クラス全体にフィードバックを行う。		
	小テスト			日米関連の歴史、人物、事件について発表、討論		
	定期試験		40%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
この分野の内容を深く理解するために、英語で書かれた文献を多く読むように心掛けて欲しい。						
<b>【授業外学修】</b>						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として、テキストを熟読し、講義内容に関する疑問点を明らかにしておく。						
2 復習として、講義で学んだ事項を各自で再確認する。						
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	毎回、プリントを配布する。				
参考書	自由記載	適宜、プリントを配布する。				
<b>【担当教員の業務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	実践英語Ⅲ		サブタイトル	授業番号	LC209	
担当教員名	竹野 純一郎					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科		単位数	2単位		
開講年次	2年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b>						
現代の国際化・情報化した社会において、英語は非常に大きな役割を果たしている。さまざまな内容の英文を読み、通訳訓練を活用したりプロダクショントレーニングを行うことで、知識としての英語を活用できるレベルへと改善すると同時に英語によるアウトプットの感覚を身につける。学習者の意識を高めるために、授業では簡単な英語で自分の意見を述べる練習を行う。						
<b>【到達目標】</b>						
リプロダクショントレーニングを通じて、語彙や英語表現などの知識を実践的な英語によるコミュニケーションに活用することを目指す。同時に、さまざまなトピックに関して、簡単な英語で自分の意見を述べるができることを目標とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能> <態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：Lesson 1 If the shoe fits... (他人事じゃないよ！) 第2回：Lesson 2 It's alive! (生きてる！) 第3回：Lesson 3 Lost for words! (絶句！) 第4回：Lesson 4 To tell or not to tell... (言うべきか、言わないべきか・・・) 第5回：Lesson 5 It's a real classic! (本当に名作！) 第6回：Lesson 6 Social networking sites (交流サイト) 第7回：Lesson 7 A new toy (新車がやってくる) 第8回：Lesson 8 A bitter experience (ニガい経験) 第9回：Lesson 9 Sorry, I missed your call (ごめん、電話に出れなくて。) 第10回：Lesson 10 Taking about movies (映画について) 第11回：Lesson 11 A wonderful holiday (素敵な休日) 第12回：Lesson 12 Tea ceremony (茶の湯教室) 第13回：Lesson 13 A slave driver (人使いの荒いやつ) 第14回：Lesson 14 I want to be fit! (健康なカラダづくりをしたい！) 第15回：Lesson 15 A dream home (夢のわが家)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	意欲的な受講態度、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート		20%	復習課題について適切にまとめていること。課題レポートのフィードバックは授業時に全体に対して行う。		
	小テスト		30%	小テストで英語の理解度を評価する。なお、小テストの実施はあらかじめアナウンスする。		
	定期試験		30%	中間・期末に授業内容の理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
本科目の予習としては、STEP1の確認とSTEP2の英文、STEP3の日本語訳を読んで理解しておけば十分である。授業で扱った語彙や英語表現をしっかり復習し、小テストや課題に臨むこと。なお、小テストや定期試験は口頭によるテストを含む。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として、テキストを読み、授業内容にかかわる部分の疑問点を明らかにする。 2 復習として、授業時に学んだ事柄や英語の知識に関して課題レポートにまとめる。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	英語リプロダクショントレーニング		小倉慶郎	DHC	1800円+税	978-4-88724-514-3
自由記載						
参考書	自由記載		授業で随時紹介する。			
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
公立高等学校英語科教諭						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
学校現場での経験を生かして、効果的な英語学習法について指導する。						

授業科目名	実践英語Ⅳ		サブタイトル	(映画の英語)		授業番号	LC210
担当教員名	松浦 加寿子						
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位		
開講年次	2年			開講期	後期		
必修・選択	選択			授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b> 映画『ボヘミアン・ラブソディ』、『マイ・インターン』、『マネーボール』を視聴し、各業界のビジネスを疑似体験しながらビジネスに関する英語表現について講義する。豊富な演習問題や言語活動を通して、総合的な英語運用能力の向上を目指す。							
1. 語彙や重要表現を確認後、ドラマの内容を理解する。 2. ディクテーションやロールプレイなどの活動を通して、日常会話表現の定着を図る。 3. 映画の内容に関連するトピックについてグループディスカッションをする。 4. 文法事項の確認をする。 5. 英作文問題を解く。							
<b>【到達目標】</b> さまざまな場面に応じたビジネスに関する会話表現について学び、自分の気持ちや考えを英語で表現できるようになる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。							
<b>【授業計画】</b>							
第1回：Unit 1 Forming the Band, Queen Queen——バンド結成 第2回：Unit 2 Bohemian Rhapsody 「ボヘミアン・ラブソディ」誕生 第3回：Unit 3 Drifting Apart Queen 脱退、ソロ活動へ 第4回：Unit 4 The Truth Comes Out マネージャーの裏切り 第5回：Unit 5 Performing in Live Aid Live Aidでの圧巻のパフォーマンス 第6回：Unit 6 Applying for a Senior Internship シニアインターンへの応募 第7回：Unit 7 The Working Environment at ATF ATF社の職場環境 第8回：Unit 8 The Problems ATF Faces 成長するATF社の抱える問題 第9回：Unit 9 Working Women & Work Life Balance 仕事と家庭の両立 第10回：Unit 10 The Possibility of Hiring a New CEO CEO交代の可能性 第11回：Unit 11 The Evaluation of Players 野球選手の評価 第12回：Unit 12 Managing Team Conflicts チームマネジメントにおける衝突 第13回：Unit 13 The Trading of Players 選手トレード 第14回：Unit 14 A Winning Streak チーム連勝記録 第15回：Unit 15 Billy 's Postseason Decision シーズン終了後のピリーの決断							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	意欲的な受講態度、課題や予習の取り組み姿勢などを評価する。			
	レポート						
	小テスト		30%	既習事項について語彙や表現、文法項目などの理解度を評価する。			
	定期試験		50%	定期テストで授業内容の理解度を評価する。			
自由記載			・予習を前提として進めていくので、テキストの本文を全訳し、練習問題を解いたうえで授業に臨むこと。 ・英和辞典を毎回授業に持参すること。電子辞書でも可。ただし、授業中の携帯電話の辞書機能は使用不可。				
<b>【授業外学修】</b> 1. 予習として、テキストの本文を読み、未知の語句があれば辞書で調べて全訳しておくこと。また、練習問題も解いておくこと。 2. 復習として、授業で学んだ文法事項と英語表現を理解し、知識として定着させること。また、音声データをダウンロードして音声を確認し、音読すること。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。							
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	Active English through Movies 『アクティブ・ラーニング型映画で学ぶ英語4技能』		塩見佳代子 / Matthew Coomber / 宮林賀奈子 著	金星堂	2,200円	978-4-7647-4125-6	
参考書	自由記載						
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 無						
	<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						

授業科目名	英語資格演習I		サブタイトル	授業番号	LC114
担当教員名	大橋 典晶 竹野 純一郎				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科		単位数	2単位	
開講年次	1年		開講期	前期	
必修・選択	選択		授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b> TOEIC (R) L&Rでの得点を伸ばすことを目指す。そのために、リスニングパートでの理解力、リーディングパートでの理解力を高めるための語彙力、文法力を鍛える。主教材である「Welcome to the TOEIC(R) L&R Test」では、付属している音声を使いながら、各パートの問題形式に慣れると同時に、語彙、文法を確認し、次回の授業で小テストにより復習する。副教材の「コロコロイングリッシュ」(予定)は、主として自学自習のために用いるもので、単語・連語等を各自が学修し、その進捗状況を教師が確認する。					
<b>【到達目標】</b> 各個人の得点を伸ばすことを目標とし、授業開始時より50点の上昇を目指す。ただし、評定(A-F)は、下記のとおり絶対評価とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b> 第1回：オリエンテーション：TOEIC L&Rテストの問題構成とサンプル問題演習 第2回：Unit 1：動詞と時制(1) 第3回：Unit 2：動詞と時制(2) 第4回：Unit 3：動詞と時制(3)・品詞 第5回：Unit 4：仮定法 第6回：Unit 5：準動詞(1) 第7回：Unit 6：準動詞(2) 第8回：Unit 7：準動詞(3) 第9回：Unit 8：準動詞(4) 第10回：Unit 9：形容詞・副詞と比較 第11回：Unit 10：不定代名詞 第12回：Unit 11：関係詞(1) 第13回：Unit 12：関係詞(2) 第14回：模擬試験(1) 第15回：模擬試験(2)					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	40%	予習と授業への取組態度を評価する。		
	レポート				
	小テスト	50%	前時の内容(語彙)に関する小テスト結果及び授業での模擬試験の結果を評価する。		
	定期試験				
	その他	10%	自主学習の取組状況を評価する。		
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b> 以下の【授業外学修】にあるとおり、予習、復習、副教材「コロコロイングリッシュ」(予定)を中心として、授業外でも語彙力を高めることが重要である。					
<b>【授業外学修】</b> ○予習・復習は、 1 毎回実施する語彙テスト：授業中に学んだ教科書の「Warm-up & Vocabulary Building」と「Vocabulary Building」にある選択肢の単語、および毎回授業終了時に配られる単語・熟語プリントにある追加語彙を覚える(小テストがある)。 2 次の授業のWarm-up & Vocabulary Building とVocabulary Buildingの音声聞き、空欄に語句を入れる。選択肢の語句の意味を辞書で調べる。なお、これらの部分以外(問題)の予習は禁止。授業では自力で解答する練習をする。 3 副教材を各自のペースで最大限進める(「マイル」(進捗状況)を授業で報告する)。 以上の学習に、1週当たり4時間以上を費やすこと。					
使用テキスト	自由記載				
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	Welcome to the TOEIC(R) L&R Test	北原良夫(編著)	朝日出版社	1,800円+税	9784255156491
	自由記載	公式TOEIC Listening & Reading問題集(1)~(7)、国際ビジネスコミュニケーション協会			
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有					
<b>【担当教員の実務経験】</b> 公開会場責任者					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無					

授業科目名	英語資格演習II		サブタイトル	授業番号	LC115
担当教員名	藤代 昇文				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科		単位数	2単位	
開講年次	1年		開講期	後期	
必修・選択	選択		授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>					
TOEIC (R) L&Rの問題演習を通し、英語の4技能の力を伸ばすことを目指す。その過程で、リスニングパートでの理解力、リーディングパートでの理解力を高めるための語彙力、文法力を鍛える。 教材に付属している音声を使いながら、各パートの問題形式に慣れると同時に、語彙、文法を確認し、次回の授業で小テストにより復習する。 副教材の「コロコロイングリッシュ」(予定)は、主として自学自習のために用いるもので、単語・連語等を各自が学修し、その進捗状況を教師が確認する。 なお、「TOEIC(R)」は米国Educational Testing Service(ETS)の登録商標です。					
<b>【到達目標】</b>					
各個人の英語の4技能(読み、聞く、書く、話す)の力を伸ばすことを目標とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回: Listening: Part 1 写真描写問題1(人物が写っている写真)/ Reading: 短文穴埋め問題1; 品詞 第2回: Listening: Part 1 写真描写問題2(人物が写っていない写真)/ Reading: 短文穴埋め問題2; 動詞の形(能動態・受動態) 第3回: Listening: Part 2 応答問題1(疑問詞疑問文)/ Reading: 短文穴埋め問題3; 動詞の形(時制・その他) 第4回: Listening: Part 2 応答問題2(Yes/No疑問文・その他の疑問文)/ Reading: 短文穴埋め問題4; 前置詞・接続詞 第5回: Listening: Part 2 応答問題3(平叙文・意外な応答)/ Reading: 短文穴埋め問題5; 代名詞・関係代名詞 第6回: Listening: Part 2 応答問題4(機能別疑問文)/ Reading: 長文穴埋め問題 第7回: Listening: Part 3 会話問題1(次の行動)/ Reading: 読解問題1; 広告・チャット 第8回: Listening: Part 3 会話問題2(問題点・提案・申し出)/ Reading: 読解問題2; Eメール・手紙 第9回: Listening: Part 3 会話問題3(目的・依頼・意図)/ Reading: 読解問題3; 告知・社内回覧/中間テスト 第10回: Listening: Part 4 説明文問題1(録音メッセージ・アナウンス)/ Reading: 読解問題4; 記事 第11回: Listening: Part 4 説明文問題2(トーク・会議・ニュース)/ Reading: 読解問題5; ダブルパッセージ 第12回: Listening: Part 4 説明文問題3(グラフィック(図表)問題)/ Reading: 読解問題6; トリプルパッセージ 第13回: Listening: Part 4 説明文問題4(Review (Parts 1 & 3))/ Reading: 読解問題7; Review (Parts 5 & 6) 第14回: Listening: Part 4 説明文問題5(Review (Parts 2 & 4))/ Reading: 読解問題8; Review (Part 7) 第15回: 講義のまとめ/期末テスト					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	意欲的な受講態度、予習の状況及び授業への貢献度を評価する。		
	レポート	20%	課題のテーマについて調査し、整理・分析し、具体的かつ適切にまとめてあるかを評価する。		
	小テスト	10%	各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。		
	定期試験	30%	講義の中間期、期末に授業内容の理解度を評価する。		
	その他	10%	積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。		
自由記載					
<b>【受講の心得】</b>					
・予習と復習を心がけ、辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。 ・授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。					
<b>【授業外学修】</b>					
1 テキスト内容については授業までに2時間以上予習すること。 2 毎回前時の授業内容についての小テストを実施するので2時間以上復習しておくこと。 3 課題については十分に調査してレポートを作成すること。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	TOEIC(R) L&R テスト戦略的トレーニング: レベル500	西谷敦子/伊藤恵一/大橋香苗 /夜久容子/佐藤世津子/佐野真歩 /浅田えり佳/増田将伸/James G.Wong	朝日出版社	1,980	978-4-255-156 36-1
自由記載					
参考書	自由記載				
	【担当教員の実務経験の有無】	有			
	【担当教員の実務経験】	県情報教育センター・県総合教育センター・県立高等学校英語科教諭			
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
高校の学校現場に勤務し、英語科の指導に当たった経験から、学生のニーズを的確に把握し、わかりやすい解説や指導をすることができる。また、大学生として身につけておくべき語彙や表現などをペアやグループ活動などを取り入れアクティブかつ実践的な指導ができる。また、県情報教育センター及び県総合教育センター情報教育部の指導主事として、教職員の研修や指導業務に当たった経験から、ICTを活用して動画や音声を提示しわかりやすい授業を行うことができる。					

授業科目名	日本の伝統文化		サブタイトル	授業番号	LC116	
担当教員名	後藤 智絵					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科		単位数	2単位		
開講年次	1年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】						
日本の伝統文化の中でも主に文化財に焦点を当て、個々の文化財の詳細について講義する。 そして、実際に文化財に触れ、見学をし、伝統文化を支えている技法に挑戦することを通して、伝統文化を体験する。 さらに、日本の伝統文化にまつわる学術的視点をふまえつつ、それぞれの体験をもとにして考察した内容を発表する。同時に、様々な発表内容を共有する。						
【到達目標】						
1 日本の伝統文化の様相を知り、その多様さについて理解できるようになる。 2 個々の文化財に対する関心を高め、主体的に情報を収集整理し、経験をふまえて考察ができるようになる。 3 日本の伝統文化の一端について、説明ができるようになる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度> の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：国家と伝統文化 第2回：有形文化財（美術工芸） 第3回：無形文化財 第4回：やきもの制作 第5回：やきもの制作 第6回：有形文化財（建造物） 第7回：民俗文化財 第8回：記念物 第9回：文化的景観 第10回：伝統的建造物群 第11回：埋蔵文化財 第12回：文化財の保存技術 第13回：課題発表 第14回：課題発表 第15回：世界遺産						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		30%	講義後のコメントシートへの記入内容、課題制作への取り組みから、受講態度を評価する。		
	レポート		30%	レポート課題（3回）の提出内容により、主要なポイントの理解度を評価する。		
	小テスト		0%			
	定期試験		0%			
	その他		40%	課題発表にて最終的な理解度を評価する。		
自由記載						
【受講の心得】						
講義内容の理解と同時に、授業外学修も重要視している。 学外においても、伝統文化を探究するために実際に行動を起こす積極性が必要である。						
【授業外学修】						
1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読んでおく。また、講義内で指示する文献を読んでおく。 2 復習として、課題のレポートを書く。 3 課題発表の準備として、相応の施設等を訪問して情報収集し、発表要点をまとめる。 以上の内容を、平均して週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	日本伝統工芸 鑑賞の手引き		日本工芸会編	芸艸堂	2000円＋税	978-4753801879
自由記載		基本的に毎回の授業時に使用する。				
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	工芸とナショナリズムの近代		木田拓也	吉川弘文館	4800円＋税	978-4-642-03835
	日本の伝統&絶景100		朝日新聞出版編集	朝日新聞出版	1400円＋税	978-4-02-333914-9
	岡山の文化財		臼井洋輔	吉備人出版	2800円＋税	4-86069-063-X
	国宝ロストワールド		岡塚章子 金子隆一 説田晃大	小学館	1600円＋税	978-4-09-388722-9
	自由記載		授業時にも使用するが、授業外学修として読み進めておくことを推奨する。			
【担当教員の実務経験の有無】						
有						
【担当教員の実務経験】						
公立高等学校美術科講師、公民館・企業等によるやきもの講座講師						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】						
無						
【実務経験をいかした教育内容】						
やきもの制作						

授業科目名	日本の文学		サブタイトル		授業番号	LC211
担当教員名	佐々木 幸喜					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
この授業の前半（第1回～第4回）では、日本語の歴史や文学作品の読み方を確認していく。後半（第5回～第15回）では、岡山に関わりのある文学作品や作家の文章を取り上げ、実際にそれらを読解していく。授業は、講読・講義・討論を適宜交えながら進める。						
<b>【到達目標】</b>						
作品を読解しつつ、時代背景や文体を分析することで、日本文学に対して深く理解することを目指す。また、自身の考え方・主張を持ち、作品を批評できるようになることを目指す。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、知識・理解 技能 態度 の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
[第一部] 日本語の歴史を知ろう&文学の読みかたを知ろう 第1回：ガイダンス、日本語の歴史、文字の変遷 第2回：変体仮名を書いてみよう、日本の詩歌表現 第3回：変体仮名を読んでみよう 第4回・第5回：文学の読みかたを考えよう						
[第二部] 近代文学・現代文学を読もう 第6回：近代文学(1) 夏目漱石（1867-1916） 第7回：近代文学(2) 夏目漱石、内田百閒（1889-1971） 第8回：近代文学(3) 内田百閒 第9回：現代文学(1) 吉行淳之介（1924-1994） 第10回：現代文学(2) 吉行淳之介 第11回：近代文学(4) 坪田譲治（1890-1982） 第12回：近代文学(5) 坪田譲治 第13回：現代文学(3) 小川洋子（1962-）、原田マハ（1962-）、重松清（1963-） 第14回：現代文学(4) 小川洋子、原田マハ、重松清 第15回：全体のふりかえり						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	ディスカッションへの参加度を評価する。			
	レポート	20%	レポート(1回×20点)：課題に沿った記述ができているかを評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他	50%	授業で扱う文学作品の下調べ(5回×10点)：課題に沿った取り組みができているかを評価する。			
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
1. わからないところは、積極的に尋ねてほしい。質問は随時受け付ける。 2. 電子辞書か国語辞典を用意することが望ましい。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 予習として、授業で扱う作品を読んでおくこと。 2. 発展学習として、授業で扱った作品に関する作問を行うこと。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	プリントを配布する。				
参考書	自由記載	適宜指示する。				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	現代環境論		サブタイトル	(現代の身近な環境を「実感」する)	授業番号	LC212
担当教員名	岸 誠一					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
私たちの日常の関わりの中から、現代の身近な環境を概観する授業を行う。野外学修やグループワークといった参加体験型の学修手法を多く用いて、現代環境を「実感」して探究心を高める授業を行う。						
<b>【到達目標】</b>						
「多様で変化の激しい社会を生き抜く力」の養成に力点を置き、環境問題という現代的、社会的な課題に対して地球的な視野で考え、自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことができるようになることを目指す。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞と＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：授業概要の説明、環境に関する基礎講座I 第2回：環境に関する基礎講座II 第3回：地球環境問題認識度チェック(クイズ形式の参加型学修) 第4回：ドングリとイノシシに学ぶ?!(吉備の中山での体験学修) 第5回：中国学園近辺の用水の水は大丈夫か? (水環境に学ぶ体験学修) 第6回：ごみと資源と私たち(ごみ(対策・分別)について学ぶ) 第7回：SDGs (エス・ディー・ジーズ) って何だ? (17の目標を理解し、自分たちでできる具体的な取組みについて考える) 第8回：中国学園近辺に降る雨は大丈夫か? (大気汚染と酸性雨について学ぶ) 第9回：「シーベルト」「ベクレル」って何だ? (放射能についての正しい知識を中国学園の放射線量測定から学ぶ) 第10回：循環型社会へ向けてI (環境問題と国際的取り組み) 第11回：環境問題解決のための新技術Iとその課題について (脱化石エネルギー、リサイクル) 第12回：環境問題解決のための新技術IIとその課題について (水素エネルギーと燃料電池他、太陽光発電) 第13回：太陽光発電で中国学園大にイルミネーションを! (再生可能エネルギーの実践を通して) 第14回：環境問題について特別講義 第15回：まとめ(授業全体のふりかえり総括)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	意欲的な受講態度、グループワーク等への参加度、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート		20%	野外学修等の後はレポートを提出してもらう。何に気づき、何を学んだのかなど、書かれた具体的な学びの成果を評価する。記載された内容は、その後の授業の中でコメントするなどのフィードバックを適宜行う。		
	小テスト		20%	小テストを実施し、個々の内容について理解度を評価する。		
	定期試験		40%			
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
この授業は、野外学修も行うため、天候等によって適宜内容を変更することがある。また、内容に継続性や関連性があるため、授業を欠席しない、遅刻しないようにしていただきたい。授業は毎回の積み重ねの中で進んでいくので、配付資料等は毎回、持参していただきたい(ノートに貼ることを推奨している)。野外学修等の後はレポートを提出してもらう。試験代わりの重要な成績根拠資料になるので保管する(返却しない)ため、必要なメモは各自のノート等を書いていただきたい。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 予習として、授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学修等を行い、考えてくること。 2. 復習として、授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いてふりかえり、適宜調べ学修や実践等を行い、学びを深めていく(探究する)こと。 以上の学修を、授業1回あたり4時間以上行うこと。なお、学修のための情報提供をclassroomで行うので、よく見ること。						
使用テキスト	自由記載	なし(資料配付)。				
参考書	自由記載	講義の進行にあわせて適宜紹介する。				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						



授業科目名	日本の食文化		サブタイトル	授業番号	LC117
担当教員名	岡崎 恵子				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>					
人間にとっての「食」の意味を考察し、良い食習慣の確立が健全な社会および健康で活力のある社会人の確立の基盤になることを講義する。そこで、主に日本人の食生活の変遷を学習しながら、食生活の成立・変容に影響を及ぼしてきたと考えられる様々な規制因子等を自然科学的な視野、さらに人文・社会科学的な視野で捉え、見直ししながら、現代から未来への日本人としての食生活の智恵を講義する。					
<b>【到達目標】</b>					
(1)我が国固有の食(和食)について理解を深める。 (2)また個々の状況に応じた食生活の有り様を多角的に捉え考えられる能力を身につけ、これからの自分の食生活を見直すことができる。 (3)和食の基本的な事実や歴史を学習することは、異文化交流のシーズとなるはずで、学びの成果を将来あらゆる場面で役立てられる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>および<思考・問題解決能力>の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：「和食」日本の伝統的な食文化 第2回：食文化の領域（定義，作法） 第3回：日本の食文化形成と展開 第4回：大陸文化，南蛮文化，欧米文化，多国籍の食，DVD「日本と世界の食文化」 第5回：主食の文化 第6回：副食の文化 第7回：調味料，油脂，香辛料，菓子，茶，酒，DVD「かつおだし」 第8回：日本料理の形成と発展 第9回：日本料理の形成と発展，食器，食卓の文化 第10回：日常の食生活・非常の食生活 第11回：外食文化の設立と変化 第12回：行事食と地域の食文化 第13回：家庭・地域，学校，社会における食育，DVD「アクティブに学ぼうVol.4食生活を考える」 第14回：日々の食事を振り返る 情報化社会における食育 第15回：食の未来展望，内容に関するディスカッション					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	授業終了時に当日の講義の要約等を記述して、提出される出席カードによって、評価を行う。		
	レポート	70%	授業に関連した課題について、その情報の正確性と記述内容を評価する。		
	小テスト				
	定期試験				
	その他				
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義科目でもあるが、一部演習作業も交え、理解を深める。</li> <li>・受講生にとって食事は日頃あまり意識しないもの、気に留めないものであると思いますが、受講には興味をもって臨むこと。</li> <li>・講義の事前事後学習とも、紹介文献等に目を通し、知識の定着化、階層化を図ること。</li> </ul>					
<b>【授業外学修】</b>					
1回の講義当たり、講義内容の整理や復習、興味を持た部分等をさらに自分自身で調べるなどの作業に少なくとも1時間程度をかけて、内容の理解や定着を図ること。授業で紹介する文献等について次回授業までに目を通すことも勧める。また、講義内容を理解するためにも、自分自身の食事に関心を持ち、講義で学んだことを各自の食生活の中に活かそうとする態度をもちつつ、学びを生活に役立てられる学修を行うこと。 以上の内容を週当たり4時間以上を充てること。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	日本の食文化「和食」の継承と食育	江原絢子 石川尚子 他	アイ・ケイコーポレーション	2500円	978-4-87492-343-6
	自由記載	講義内容の理解を深めるために、必要に応じて紹介する。			
参考書	自由記載	講義内容の理解を深めるために、必要に応じて紹介する。 DVD「日本と世界の食文化」、DVD「食事バランスガイドで健やかに」、DVD「アクティブに学ぼうVol.4食生活を考える」			
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>				
	有				
<b>【担当教員の实務経験】</b>					
管理栄養士：学校給食，教育行政，福祉，					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
現代的な諸課題を取り入れる					

授業科目名	国際関係論		サブタイトル	授業番号	LC118
担当教員名	井上 あえか				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科		単位数	2単位	
開講年次	1年		開講期	後期	
必修・選択	選択		授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>					
国際関係論は、突き詰めれば、なぜ戦争が起こるのかを究明し、どうしたら平和を実現し維持することができるかを追究する学問である。この授業では、日本を取り巻く世界情勢を中心として、緊迫する状況やその地理的・歴史的背景を地図や資料を使って考え、グローバル化する国際社会のゆくえと、日本が直面する諸課題を考える。					
<b>【到達目標】</b>					
過去の戦争と平和に関する国際関係の現実と理論を結びつけ、複雑に変動を続ける現代社会を理解する力を養うことを目標とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：国際関係のとらえ方 第2回：日本を取り巻く国際関係（テキスト「地図で読む「国際関係」入門」第1章前半） 第3回：日本の安全保障（テキスト第1章後半） 第4回：アメリカのリーダーシップ（テキスト第2章） 第5回：新興国と先進国（テキスト第3章前半） 第6回：アジアの域内統合（テキスト第3章後半） 第7回：EUの実験（テキスト第4章） 第8回：発展途上国（テキスト第5章） 第9回：グローバリゼーションとは何か（テキスト第6章） 第10回：国際主体としての国際機関（テキスト第7章前半） 第11回：国際主体としてのNGO（テキスト第7章後半） 第12回：二一世紀の難題（テキスト第8章） 第13回：日本の課題（テキスト終章） 第14回：受講生による発表1 第15回：受講生による発表2					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	受講態度、質疑応答への参加によって評価する。	
	レポート		30%	毎回の授業内容について、十分かつ内容のあるコメントを提出する。	
	小テスト				
	定期試験				
	その他		40%	学期末に、「紛争・対立・暴力」から章を選んで発表する。	
	自由記載	コメントシートは毎回の講義内容を理解し、自ら考えたことを記載する。 第14回と第15回の授業では、西崎・武内編「紛争・対立・暴力」から、各自任意の一章を選んでよく読み、内容の紹介を行う。このブレゼンテーションは単位取得の必須要件になる。			
<b>【受講の心得】</b>					
授業で使用するテキスト、配布資料を理解し、事柄を説明する態度を養う。 テキストの予・復習、参考文献の参照、コメントシートの提出等を通じて授業へ主体的に参加すること。					
<b>【授業外学修】</b>					
予習として、教科書の授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 授業中に説明した内容を参考文献を活用して復習し、理解を深める。 日常的に関連する内容についてニュース、新聞、インターネット情報に注目すること。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載				
参考書	自由記載 その他、授業の中で適宜紹介する。				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の職務経歴】</b>					
1996年4月から1998年3月まで、外務省の専門調査員として在パキスタン日本国大使館に勤務し、国内政治情勢の調査とODAによるNGO支援資金を担当した。					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
外交の現場でパキスタン政府関係者、各国の外交団、およびNGO関係者と交流し、意見交換する中で、国際政治、国際関係に関わる多様な知見を獲得した。これを生かして教科書に示されている様々な事象について、具体的かつ実証的な説明を行う。					

授業科目名	企業倫理論		サブタイトル	授業番号	LC301	
担当教員名	未定					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科		単位数	2単位		
開講年次	3年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>						
本授業では、組織体の活動に必要な不可欠である倫理、特に「企業倫理」について研究する。企業の行動は基本的には資本主義の経済の中で規定されているが、同時に私たちが済む社会にも大きく関わっている。現代における企業と社会の関係を考察し、そこで必要とされる「企業倫理」について学ぶ。						
<b>【到達目標】</b>						
現代社会が必要とする「企業倫理」について学ぶ。また、「企業の社会的責任」についても考察をする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
<b>【授業計画 備考】</b>						
講義はテキストに基づいて分かりやすく解説する。また、レジュメを配布する。						
第1回：本講義の目的と概要 (担当杉山 慎策)						
第2回：企業と社会の関係について (担当杉山 慎策)						
第3回：「企業の社会的責任」(CSR)とは (担当杉山 慎策)						
第4回：「企業不祥事」と「企業倫理」 (担当杉山 慎策)						
第5回：「企業倫理」の制度化 (担当杉山 慎策)						
第6回：制度化の2つの考え方：「コンプライアンス型」と「ヴァリューシェアリング型」 (担当杉山 慎策)						
第7回：「企業統治」と「企業倫理」 (担当杉山 慎策)						
第8回：「環境問題」と「企業倫理」 (担当杉山 慎策)						
第9回：「グローバルイゼーション」と「企業倫理」 (担当杉山 慎策)						
第10回：「リスクマネジメント」と「企業倫理」 (担当杉山 慎策)						
第11回：「専門職倫理」と「企業倫理」 (担当杉山 慎策)						
第12回：現代企業における「企業倫理」の動向 (担当杉山 慎策)						
第13回：「企業倫理」の社会的制度化：「企業倫理」の体系的実現 (担当杉山 慎策)						
第14回：グローバル企業の「企業倫理」 (担当杉山 慎策)						
第15回：まとめ (担当杉山 慎策)						
<b>【授業計画 備考2】</b>						
レジュメを配布する。						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		40%	講義への参加を評価する。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		60%	「企業倫理」の基本的概念を理解しているかどうか確認する。		
	その他					
自由記載		できるだけ双方向的講義とするので積極的に講義に参加して欲しい。				
<b>【受講の心得】</b>						
日ごろ企業の不祥事などに興味をもち、下記のメディアを読むこと。 日経新聞 日経ビジネス 東洋経済						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として、講義内容にかかわる部分を事前に研究しておくこと。 2 復習として、レジュメを再度確認すること。 3 発展学修として、講義で紹介された参考文献などを読むこと。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	企業倫理入門		出見世 信之	同文館出版	2,213円	978-4495371517
自由記載						
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	日本の企業倫理 企業倫理の研究と実践		企業倫理研究グループ	白桃社	999円	978-4561131755
自由記載						
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
資生堂、ユニリバー、マテル、ロレアルなどのマーケティングや経営の豊富な実務経験がある。						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
資生堂、ユニリバー、マテル、ロレアルなどの実際の経験などを入れて分かりやすく解説する。						

授業科目名	経営学特論I		サブタイトル	授業番号	LC211
担当教員名	杉山 慎策				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科		単位数	2単位	
開講年次	2年		開講期	前期	
必修・選択	選択		授業形態	講義	
【授業の概要】 経済が発展するのは新しいイノベーションが生まれるからであるという経済発展の理論を提示したのはヨーゼフ・シュンペーターである。シュンペーターはこのイノベーションを興す人をアントレプレナーと呼んでいる。岡山の地域が活性化するためには岡山から多くのアントレプレナーが出現することが必要となる。本講義では岡山市のスタートアップ支援事業である「ももスタ」で活躍されている藤田圭一郎氏など若手の起業家にスタートアップの概要、起業の動機、課題、目標などについて講義をしていただく。					
【到達目標】 スタートアップの課題、動機などについて起業家から直接講義をしていただき、起業の方法や課題などについての知見を得る。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。					
【授業計画】					
【授業計画 備考】 毎回岡山の若手起業家を招聘して講義をしていただく。					
第1回：本講義の概要と目的 (担当杉山 慎策) 第2回：起業家講義(1) (担当藤田 圭一郎氏) 第3回：起業家講義(2) (担当外部講師) 第4回：起業家講義(3) (担当外部講師) 第5回：起業家講義(4) (担当外部講師) 第6回：起業家講義(5) (担当外部講師) 第7回：起業家講義(6) (担当外部講師) 第8回：起業家講義(7) (担当外部講師) 第9回：起業家講義(8) (担当外部講師) 第10回：起業家講義(9) (担当外部講師) 第11回：起業家講義(10) (担当外部講師) 第12回：起業家講義(11) (担当外部講師) 第13回：起業家講義(12) (担当外部講師) 第14回：起業家講義(13) (担当外部講師) 第15回：起業家とのディスカッション (担当藤田 圭一郎氏 杉山 慎策)					
【授業計画 備考2】 リアクションペーパーの質問項目を活用してできるだけインターラクティブな講義にする。					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢/態度		40%	リアクションペーパーを評価する	
	レポート		60%	毎回の講義のまとめをレポートとして提出し、そのレポートを評価する	
	小テスト				
	定期試験				
	その他				
	自由記載	毎回リアクションペーパーの提出を求め、評価の対象とする。 毎回の講義の要約をレポートとして提出を求め、評価対象とする。			
【受講の心得】 年代がそれほど開いていない若手起業家に講義をしていただくので、積極的に質問して欲しい。					
【授業外学修】 1 予習として、講義内容にかかわる部分を事前に研究しておくこと。 2 復習として、レジュメを再度確認すること。 3 発展学修として、講義で紹介された参考文献などを読むこと。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載				
参考書	自由記載				
【担当教員の実務経験の有無】 有					
【担当教員の实務経験】 資生堂、ユニリバー、マテル、ロレアルでのマーケティングや会社経営の経験が豊富にある。					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 有					
【担当教員以外の指導に関わる実務経験者】 外部講師は全て現役の起業家である。					
【実務経験をいかした教育内容】 実際のスタートアップの現状と課題について起業家から直接講義を受ける。					

授業科目名	経営学特論II		サブタイトル	授業番号	LC302
担当教員名	杉山 慎策				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科		単位数	2単位	
開講年次	3年		開講期	前期	
必修・選択	選択		授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>					
岡山の企業経営者を招聘し経営者が大切にしている創業の理念や経営理論について実践的講義をしていただく。受講生は事前にその企業を調べておき、適切な質問をし、できるだけ経営者と対話するような形で講義を進める。					
<b>【到達目標】</b>					
企業経営とは具体的にはどのような事なのか、経営者は経営上の課題にどのように対応しているのか、企業が何世代にも受け継がれて行く為には何が重要なのか、等企業経営全般についての理解を深めることを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度> の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
<b>【授業計画 備考】</b>					
岡山地域の企業の経営者にご講義をしていただく。					
第1回：本講義の概要と目的	(担当杉山 慎策)				
第2回：企業(1)	(担当外部講師)				
第3回：企業(2)	(担当外部講師)				
第4回：企業(3)	(担当外部講師)				
第5回：企業(4)	(担当外部講師)				
第6回：企業(5)	(担当外部講師)				
第7回：企業(6)	(担当外部講師)				
第8回：企業(7)	(担当外部講師)				
第9回：企業(8)	(担当外部講師)				
第10回：企業(9)	(担当外部講師)				
第11回：企業(10)	(担当外部講師)				
第12回：企業(11)	(担当外部講師)				
第13回：企業(12)	(担当外部講師)				
第14回：企業(13)	(担当外部講師)				
第15回：まとめ	(担当杉山 慎策)				
<b>【授業計画 備考2】</b>					
リアクションペーパーの質問項目を講義で取り上げできるだけインタラクティブな講義とする。					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	40%	リアクションペーパーを評価する		
	レポート	60%	毎回の講義の要約の提出を求め、そのレポートを評価する		
	小テスト				
	定期試験				
	その他				
	自由記載	リアクションペーパーの提出を求め、それを評価の対象とする。 毎回の講義の要約をレポートとして提出を求め、そのレポートを評価対象とする。			
<b>【受講の心得】</b>					
受講する経営者の企業については事前にホームページなどで調べ、積極的に質問することを求める。					
<b>【授業外学修】</b>					
1 予習として、講義内容にかかわる部分を事前に研究しておくこと。 2 復習として、レジュメを再度確認すること。 3 発展学修として、講義で紹介された参考文献などを読むこと。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載				
参考書	自由記載				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>					
資生堂，ユニリバー，マテル，ロリアルにおいてマーケティングや会社経営の豊富な経験がある。					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員以外の指導に関わる実務経験者】</b>					
岡山の企業経営者					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
岡山の企業経営者から講義を受ける。経営者から直接多くの豊かな知見を学び取って欲しい。					

授業科目名	情報処理I		サブタイトル	授業番号	LD101
担当教員名	赤木 竜也				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科		単位数	2単位	
開講年次	1年		開講期	前期	
必修・選択	必修		授業形態	演習	
【授業の概要】 情報社会における様々な情報を扱う上で今や必須となったコンピュータ。本講義では高等学校で必修となった普通教科情報を踏まえ、コンピュータを利用した情報処理の一環としてワードプロセッサ、表計算ソフトなどを用いて情報処理の基本について学修する。					
【到達目標】 情報の分析・加工・発信能力をさらに高めるために、日本語ワープロソフトおよび表計算ソフトの基礎的技術を学び、情報に応じて適切な文書や表・グラフの作成および分析ができるようになることを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<技能>の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：情報処理とコンピュータの関わり 第2回：コンピュータの基礎知識 第3回：ワードプロセッサの基本(文書の作成) 第4回：ワードプロセッサの活用(編集機能) 第5回：ワードプロセッサの活用(表・図形機能) 第6回：表計算ソフトの基本(基本的な表の作成1) 第7回：表計算ソフトの基本(書式設定) 第8回：表計算ソフトの基本(基本的なグラフの作成) 第9回：表計算ソフトの基本(基本的な表の作成2) 第10回：表計算ソフトの応用(基本的な関数) 第11回：表計算ソフトの応用(応用的な関数) 第12回：表計算ソフトの応用(応用的な関数) 第13回：表計算ソフトの応用(データベース機能) 第14回：アプリ間のデータ活用 第15回：総合演習・まとめ					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	課題への取り組みおよび到達度を評価する。	
	レポート				
	小テスト		10%	授業中出題する演習問題について評価する。	
	定期試験		60%	習熟達成度を評価する。	
	その他		10%	授業中出題する演習問題について評価する。	
自由記載					
【受講の心得】 コンピュータを用いた実習を適宜行うため、遅刻・欠席は厳禁である。やむを得ず欠席(公欠を含む)する場合は、必ず放課後等を利用し学修しておくこと。					
【授業外学修】 授業時間の都合上、テキストに掲載されているすべての演習問題を授業中にすることが困難なため、授業中出題されなかった他の演習問題を事後学修として4時間以上その都度取り組み、理解度を深めておくこと。					
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価
	30時間でマスターWord&Excel2019(Windows10対応)		実教出版企画開発部	実教出版	1045
自由記載		978-4-407-34838-5			
参考書	自由記載				
	【担当教員の実務経験の有無】 有				
	【担当教員の实務経験】 公立高等学校公民・商業・情報科講師，IT講習会講師				
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					
【実務経験をいかした教育内容】 高等学校で情報科(普通教科情報・専門教科情報)等を担当した経験を踏まえ、情報リテラシーのスキルアップを目指した知識・技術を指導する。					

授業科目名	情報処理Ⅱ		サブタイトル		授業番号	LD102
担当教員名	赤木 竜也					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	必修			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
情報社会における様々な情報を扱う上で今や必須となったコンピュータ。本講義では高等学校で必修となった普通教科情報および前期科目「情報処理Ⅰ」を踏まえ、コンピュータを利用した情報処理の一環としてワードプロセッサ、表計算ソフトなどを用いて情報処理の発展的内容について学修する。						
<b>【到達目標】</b>						
情報の分析・加工・発信能力をさらに高めるために、日本語ワープロソフトおよび表計算ソフトの応用的技術を学び、情報に応じてより高度な文書や表・グラフの作成および分析ができるようになることを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：ビジネス文書の基礎知識 第2回：図形要素の挿入と取り扱い 第3回：演習Ⅰ 第4回：表の編集と段組み 第5回：長文に便利な機能 第6回：演習Ⅱ 第7回：表とグラフの作成 第8回：グラフの作成とデータ分析の基礎知識 第9回：演習Ⅲ 第10回：関数 第11回：データベース機能の利用 第12回：演習Ⅳ 第13回：WordとExcelの連携 第14回：総合演習 第15回：総合演習・まとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	課題への取り組みおよび到達度を評価する。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		70%	習熟達成度を評価する。		
	その他		10%	授業中出題する演習問題について評価する。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
コンピュータを用いた実習を適宜行うため、遅刻・欠席は厳禁である。やむを得ず欠席（公欠を含む）する場合は、必ず放課後等を利用し学修しておくこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
授業時間の都合上、テキストに掲載されているすべての演習問題を授業中にすることが困難なため、授業中出題されなかった他の演習問題を事後学修として4時間以上その都度取り組み、理解度を深めておくこと。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	30時間アカデミックWord&Excel2019		杉本くみ子/大澤栄子	実教出版	1540	978-4-407-34834-7
自由記載						
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
公立高等学校公民・商業・情報科講師，IT講習会講師						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
高等学校で情報科（普通教科情報・専門教科情報）等を担当した経験を踏まえ、情報リテラシーのスキルアップを目指した知識・技術を指導する。						

授業科目名	情報処理III		サブタイトル		授業番号	LD201
担当教員名	赤木 竜也					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
情報社会における様々な情報を扱う上で今や必須となったコンピュータ。本講義では高等学校で必修となった普通教科情報および1年次開講科目「情報処理I」「情報処理II」を踏まえ、コンピュータを利用した情報処理の一環として表計算ソフトを用いて情報処理の発展的内容について学修する。						
<b>【到達目標】</b>						
情報の分析・加工・発信能力をさらに高めるために、表計算ソフトの応用的技術を学び、情報に応じてより高度な表・グラフの作成およびデータの分析ができるようになることを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：表計算の基礎 第2回：外部データの取込 第3回：データ処理の基礎1(数式とテーブル) 第4回：データ処理の基礎2(グラフ) 第5回：データ処理の基礎3(関数の利用1) 第6回：データ処理の基礎4(関数の利用2) 第7回：データ処理の基礎5(関数の利用3) 第8回：データ処理の応用1(データの集計とデータベース処理) 第9回：データ処理の応用2(ピボットテーブルとピボットグラフ) 第10回：データ処理の応用3(マクロ) 第11回：データ処理の応用4(グラフ機能を利用したデータ分析) 第12回：実践データ処理1(関数の複合的利用) 第13回：実践データ処理2(作業グループとさまざまなグラフ) 第14回：実践データ処理3(基礎統計処理) 第15回：総合演習・まとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	課題への取り組みおよび到達度を評価する。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		70%	習熟達成度を評価する。		
	その他		10%	授業中出題する演習問題について評価する。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
コンピュータを用いた実習を適宜行うため、遅刻・欠席は厳禁である。やむを得ず欠席(公欠を含む)する場合は、必ず放課後等を利用し学修しておくこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
授業時間の都合上、テキストに掲載されているすべての演習問題を授業中にすることが困難なため、授業中出題されなかった他の演習問題を事後学修として4時間以上その都度取り組み、理解度を深めておくこと。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	30時間アカデミック情報活用 Excel2016/2013		飯田慈子・米沢雄介・岡本久仁子	実教出版	1650	978-4-407-34029-7
自由記載						
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
<b>【担当教員の実務経験】</b>						
公立高等学校公民・商業・情報科講師, IT講習会講師						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
高等学校で情報科(普通教科情報・専門教科情報)等を担当した経験を踏まえ、情報リテラシーのスキルアップを目指した知識・技術を指導する。						



授業科目名	ICT応用論		サブタイトル	授業番号	LD202
担当教員名	久保 博尚				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科		単位数	2単位	
開講年次	2年		開講期	前期	
必修・選択	選択		授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>					
ICT概論I, IIで得た基礎知識を広げ、コンピュータと社会の結び付きをより深く理解する。これらの仕組みが利用者と社会に開かれたものであることを体験的に知るために、本科目を通じて具体的な成果物を作成する。成果物はデジタルに表現された調査レポートと、インターネット経由の自動化をとまなIoT開発の二種類とする。					
<b>【到達目標】</b>					
コンピュータを積極的に道具として活用することにより、学生が多くの恩恵を受け、豊富なコミュニケーションを通じて、社会との深い関わりが築ける実感を得ることを目標とする。これによりデジタル時代を生き抜く<態度>と<技能>を高める。また、これら<知識・理解>の向上を通じて、社会人になったときコンピュータを道具として生かすための<思考・題解決能力>を養う。これは全体として、ディプロマポリシーに掲げた学士力の向上につながるものである。					
<b>【授業計画】</b>					
<b>【授業計画 備考】</b>					
授業を受けるにあたり、各自がPC、タブレット端末、スマートフォンのいずれかを保有し、Googleアカウントを持つ必要がある。ネットワーク上の情報共有はScrapboxベースで行う。グラフィカルな論点整理には、ネット上のホワイトボードとしてJamboard、Strapなども併用する予定。IoT開発にはいくつかのハードウェアを使用する。とくに本科目では、インターネットを利用した調査・制作・開発を行うことから、各自の端末としてPCを所有することが望ましい。また、操作性の良さとシステムとの相性から、アップル社のPC製品を推奨する。					
第1回：インターネット経由のモニタリングを学ぶ 第2回：モノのインターネット（IoT）について学ぶ 第3回：デジタル時代のサービスを支えるサブスクリプションを学ぶ 第4回：アプリケーション・プログラミング・インターフェイス（API）について学ぶ 第5回：プラットフォームとは何かを学ぶ 第6回：調査課題1：特徴的な企業のサービスを選び調査テーマを考える 第7回：調査課題2：調査の基本計画を立てる 第8回：調査課題3：調査の途中経過を整理・共有する 第9回：調査課題4：調査結果を文章で表現する 第10回：調査課題5：調査結果をグラフィカルに表現する 第11回：IoT課題1：自分をアシストする身近なIoTのテーマを考える 第12回：IoT課題2：テーマをもとにプログラミングやIoTの方法を計画する 第13回：IoT課題3：開発の経過を整理・共有する 第14回：IoT課題4：開発したIoTを静的に表現する 第15回：IoT課題5：開発したIoTを動的に表現する					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	40%	意欲的な受講態度、発表・討論への参加、授業内容関連の知識の習得状況によって評価する。		
	レポート	60%	インターネット上の情報収集と表現手段についての知識が豊富であること。その利用方法を理解していること。それらを手段として、自らの意見が論理的にわかりやすく記されていること。		
	小テスト	0%			
	定期試験	0%			
	その他	0%			
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b>					
ネット上の情報、図書、映画、音楽など各種の情報コミュニケーションに接し、見て、聞いて、感じたことを、デジタルな手段を用いて表現する習慣を日頃から身につけておく。					
<b>【授業外学修】</b>					
1) 予習として、テキストを読んでおくこと。 2) 復習として、学んだことを自分のScrapboxページにまとめること。 3) 発展学習として、授業で取り上げた事項の関連図書やサイトの情報をチェックすること。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	事例で学ぶサブスクリプション	小宮紳一	秀和システム	2187円	978-4798058825
	図解即戦力IoTのしくみと技術がこれ1冊でしっかりわかる教科書	大石 光宏 他	技術評論社	1980円	978-4297111793
	自由記載				
参考書	自由記載				
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>				
	有				
<b>【担当教員の実務経験】</b>					
現代社会とデジタルテクノロジーをテーマに、高校、大学、企業で多くの講演を行っている。メーカー勤務時代には産業機器のモニタリングの実務と、サブスクリプションによる運用を研究した経験を持つ。					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
日常的な情報整理とコミュニケーションの道具としてのアプリケーションの活用に加え、社会に働きかけるための表現活動やモニタリングへと応用範囲を広げることににより、学生がデジタル技術の面白さを体験的に実感できるようにしたい。					

授業科目名	ICT未来学		サブタイトル	授業番号	LD203
担当教員名	久保 博尚				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科		単位数	2単位	
開講年次	2年		開講期	後期	
必修・選択	選択		授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>					
ICT概論Ⅰ, ICT概論Ⅱ, ICT応用論で学んだ日本の現状理解, 社会実装の進むデジタルテクノロジーの実態把握, デジタルな仕組みの制作で培った知識と経験を活用して, 近未来社会とそこで生きる自分自身の姿を予測する。本科目では, 考察を進めるための教材として, 未来社会について書かれた図書と数種類のSF映画を参考にする。					
<b>【到達目標】</b>					
題材とする図書と映画それぞれについて, 学生が「要約レポート」と自らが思い描く「近未来の姿」を表現する。表現にあたっては, テキスト, 説明図, 写真の要素を含めたデジタル形式を用い, 自分が想像する近未来社会のなかで自分がどうであるか, どうありたいかを中心に表現する。この目標を達成するには, 学生がこれまでの演習で培った<知識・理解><思考・問題解決能力><技能><態度>を総動員する必要がある。これは, ディプロマポリシーに掲げた学士力の構成要素そのものである。					
<b>【授業計画】</b>					
<b>【授業計画 備考】</b>					
各自がPC, タブレット端末, スマートフォンなどのいずれかを保有し, Googleアカウントを持つ必要がある。ネットワーク上の情報共有はScrapboxベースで行う。グラフィカルな論点整理には, ネット上のホワイトボードとしてJamboard, Strapなども併用する予定。レポートの制作に文字や図形表現, 写真や動画の編集が必要になることから, 各自が使用する端末として, システムとの相性が良く操作性にすぐれるアップル社のPC製品の使用を推奨する。					
第1回: 人間はどのように未来を観るのか? 第2回: 未来を大きく左右するテクノロジー 第3回: はたしてシンギュラリティーは起こるのか? 第4回: 映画に描かれた未来1: 『ブレード・ランナー』 人間とレプリカントの違いとは? 第5回: 人工知能の進化について考える 第6回: 人工知能が職業を奪うのは本当か? 第7回: 映画に描かれた未来2: 『コングレス未来学会議』 アニメ社会としての未来 第8回: 日本はこれからどうなるのか? 第9回: 第四次産業革命後の世界を想像する 第10回: 映画に描かれた未来3: 『エリジウム』 格差社会としての未来 第11回: 純粋機械化経済で人間はどのように生きるのか? 第12回: ベーシックインカムとは何か? 第13回: 映画に描かれた未来4: 『オデッセイ』 未来は科学的合理的か? 第14回: デジタルは自然と人間とを超越するのか? 第15回: 総合演習: 2033年の自分の姿を構想し, 家族, 社会, 日本を思い描く					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	40%	意欲的な受講態度, 発表・討論への参加, 授業内容関連の知識の習得状況によって評価する。		
	レポート	60%	使用テキストを読み課題映画を観ていること, それらの内容に沿った論述であること, 討論内容が反映されていること, 自らの意見が論理的にわかりやすく表現されていること。		
	小テスト	0%			
	定期試験	0%			
	その他				
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b>					
ネット上の情報, 図書, 映画, 音楽など各種の情報コミュニケーションに接し, 見て, 聞いて, 感じたことを文章に表現するクセを付けること。					
<b>【授業外学修】</b>					
1) 予習として, テキストを読んでおくこと。授業で取り上げる映画を観ておくこと。 2) 復習として, 学んだことを自分のScrapboxページにまとめること。 3) 発展学習として, 授業で取り上げた事項の関連図書やサイトの情報をチェックすること。 以上の内容を, 週当たり4時間以上学修すること。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	人工知能と経済の未来	井上智洋	株式会社 文藝春秋	800円(税別)	978-4-16-6610 91-4
	自由記載	上掲のテキスト以外に, 下記の視覚教材(映画作品)を使用する。これらの一部は, Amazonなどでストリーミングで視聴することができる。 1) リドリー・スコット監督『ブレード・ランナー』アメリカ合衆国制作, 1982年公開 2) ニール・ブロムカンプ監督『エリジウム』アメリカ合衆国制作, 2013年公開 3) アリ・フォルマン監督『コングレス未来学会議』イスラエル・フランス合作, 2013年公開 4) リドリー・スコット監督『オデッセイ』アメリカ合衆国制作, 2015年公開			
参考書	自由記載				
	【担当教員の実務経験の有無】	有			
	【担当教員の実務経験】	現代社会とデジタルテクノロジーをテーマに, 高校, 大学, 企業で多くの講演を行っている。日頃からSNSやブログを通じて, 本や映画に関する論評を行うとともに, 複数の地域プロジェクトに参加している。			
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
本を読み映画を鑑賞することは思考と感性を養い, 豊かな人生を築く上で重要な役割を果たす。さらにその知的な経験はデジタルな仕組みと人々とのコミュニケーションを通じて, 社会をよりよくする大きな力となる。演習を通じてその基礎体力が高まるように指導したい。					

授業科目名	現代ビジネス論		サブタイトル		授業番号	LE301
担当教員名	佐々木 公之					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	3年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b> 「ビジネス実務士」資格取得のための必修科目である本講義では、組織におけるビジネス実務の概念について基本的な知識、およびビジネス活動の進め方について学んでいく。また、実社会において必要とされる「社会人基礎力」の習得を図り、その力を発揮し応用するレベルまでスキルアップを目指す。ビジネスの基本知識と現代マーケティング理論を習得しながらキャリア形成を考えていく。						
<b>【到達目標】</b> 「ビジネス概念」「ビジネスの推進力・能力開発」「ビジネス実務の基本的技術等」を身に付け、ケーススタディー等を通じてビジネスの総合的な知識を高め、論理的思考にて判断できる力を養う。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b> 第1回：現代ビジネスの現状と傾向 第2回：現代マーケティング戦略を学ぶ(1) 第3回：現代マーケティング戦略を学ぶ(2) 第4回：ブランディング戦略（1） 第5回：ブランディング戦略（2） 第6回：ブランディング戦略（3） 第7回：サービス・マーケティング（1） 第8回：サービス・マーケティング（2） 第9回：サービス・マーケティング（3） 第10回：マーケティング・コミュニケーション（1） 第11回：マーケティング・コミュニケーション（2） 第12回：マーケティング・コミュニケーション（3） 第13回：チャンネルと販売（1） 第14回：チャンネルと販売（2） 第15回：チャンネルと販売（3）						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		30%	意欲的な授業態度，授業への貢献度を評価する。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		70%	プロジェクトマネジメントを通じて各テーマの主要ポイントを評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b> 「前に出る力」「考え抜く力」「チームワーク力」の意味を知る。ビジネスの基礎、マーケティング理論となる原理、原則を知ると共に企画力、プレゼンテーション力を身に付ける。SNSやブランディング戦略など現代社会での事例を学びながら、実社会において必要とされる「社会人基礎力」の習得を図り、その力を発揮し応用するレベルまでスキルアップを目指す。						
<b>【授業外学修】</b> 1．予習として、授業内容に関わる箇所を読み、疑問点を明らかにする。 2．復習として、課題のレポートを書く。 以上の内容を、週4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	世界のエリートが学んでいるMBAマーケティング必読書50冊を1冊にまとめてみた		永井孝尚	KADOKAWA	1958	978-4046047151
自由記載						
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有					
	<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無					

# 中国学園大学 令和3年度(2021年度) シラバス

授業科目名	現代経済史		サブタイトル		授業番号	LE201
担当教員名	田口 雅弘					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
現代世界経済の発展を、歴史的視点から講義する。						
<b>【到達目標】</b>						
現代世界で起こっている様々な経済問題の歴史的背景を理解する力を養う。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：長期的視点で見た世界経済発展の諸段階 第2回：産業革命とボックス・ブリタニカ 第3回：20世紀初頭における世界経済の再編 第4回：第二次世界大戦後の世界経済の枠組み 第5回：ボックス・アメリカーナ 第6回：アメリカ経済の衰退 第7回：ヨーロッパ経済の発展 第8回：20世紀社会主義経済の実験と崩壊 第9回：日本経済の成長 第10回：日本の経済長期低迷と構造改革 第11回：中華人民共和国の成立と発展 第12回：中国経済の改革 第13回：韓国経済の発展 第14回：韓国経済の岐路 第15回：まとめ（講義全般の復習）						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		10%	授業での積極的な討論を評価する。		
	レポート		60%	2回の中間レポートをそれぞれ30点満点で評価する。		
	小テスト		30%	最終的な理解度を評価する。		
	定期試験					
	その他					
	自由記載	成績評価における2回の中間レポートの比重が高い。レポートは、講義で提示するテーマについて、自分自身でリサーチ（資料収集）を行い、指示された形式で作成する。				
<b>【受講の心得】</b>						
日々起こっている世界の経済ニュースを、日常的に確認すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
週3時間程度の予習・復習が必要。レポート作成は、社会で通用する文章の書き方の練習も兼ねているので、決められた形式を踏まえたりサーチ、執筆をしっかり練習してほしい。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
なし						

授業科目名	経営戦略論		サブタイトル	授業番号	LE202																														
担当教員名	杉山 慎策																																		
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科		単位数	2単位																															
開講年次	2年		開講期	後期																															
必修・選択	選択		授業形態	講義																															
【授業の概要】 VUCA (Volatility (変動性), Uncertainty (不確実性), Complexity (複雑性), Ambiguity (曖昧性)) と言われる変化の激しい時代においては、思い付きの経営ではなく、過去1世紀超にわたり精緻化されてきた経営戦略に基づいて組織運営は実践されるべきである。本講義では、過去1世紀超に渡る主要な経営戦略理論を学ぶ。																																			
【到達目標】 経営戦略論の概要と歴史を学ぶ。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度> の修得に貢献する。																																			
【授業計画】																																			
【授業計画 備考】 経営学の名著と言われる『マネジメントの世紀』は元々戦略コンサルタント会社であるブーズ・アレン・アンド・ハミルトン社が自社のクライアント用にスチュアート・クレイナーに依頼して書かせたものである。本講義ではこのテキストを中心に経営学の主要諸理論について実践例を引用しながら分かりやすく解説する。																																			
<table border="0"> <tr> <td>第1回：本講義の目的と概要</td> <td>(担当杉山 慎策)</td> </tr> <tr> <td>第2回：科学的管理法</td> <td>(担当杉山 慎策)</td> </tr> <tr> <td>第3回：大量生産モデル</td> <td>(担当杉山 慎策)</td> </tr> <tr> <td>第4回：組織の発見</td> <td>(担当杉山 慎策)</td> </tr> <tr> <td>第5回：人間の発見</td> <td>(担当杉山 慎策)</td> </tr> <tr> <td>第6回：品質管理</td> <td>(担当杉山 慎策)</td> </tr> <tr> <td>第7回：マーケティングの興隆</td> <td>(担当杉山 慎策)</td> </tr> <tr> <td>第8回：戦略論の重要性</td> <td>(担当杉山 慎策)</td> </tr> <tr> <td>第9回：ヨーロッパ型経営モデル</td> <td>(担当杉山 慎策)</td> </tr> <tr> <td>第10回：日本型経営モデル</td> <td>(担当杉山 慎策)</td> </tr> <tr> <td>第11回：新たな経営モデル</td> <td>(担当杉山 慎策)</td> </tr> <tr> <td>第12回：グローバル企業の経営戦略(1)～資生堂のケース～</td> <td>(担当杉山 慎策)</td> </tr> <tr> <td>第13回：グローバル企業の経営戦略(2)～ロレアルのケース～</td> <td>(担当杉山 慎策)</td> </tr> <tr> <td>第14回：グローバル企業の経営戦略(3)～花王のケース～</td> <td>(担当杉山 慎策)</td> </tr> <tr> <td>第15回：まとめと討論</td> <td>(担当杉山 慎策)</td> </tr> </table>						第1回：本講義の目的と概要	(担当杉山 慎策)	第2回：科学的管理法	(担当杉山 慎策)	第3回：大量生産モデル	(担当杉山 慎策)	第4回：組織の発見	(担当杉山 慎策)	第5回：人間の発見	(担当杉山 慎策)	第6回：品質管理	(担当杉山 慎策)	第7回：マーケティングの興隆	(担当杉山 慎策)	第8回：戦略論の重要性	(担当杉山 慎策)	第9回：ヨーロッパ型経営モデル	(担当杉山 慎策)	第10回：日本型経営モデル	(担当杉山 慎策)	第11回：新たな経営モデル	(担当杉山 慎策)	第12回：グローバル企業の経営戦略(1)～資生堂のケース～	(担当杉山 慎策)	第13回：グローバル企業の経営戦略(2)～ロレアルのケース～	(担当杉山 慎策)	第14回：グローバル企業の経営戦略(3)～花王のケース～	(担当杉山 慎策)	第15回：まとめと討論	(担当杉山 慎策)
第1回：本講義の目的と概要	(担当杉山 慎策)																																		
第2回：科学的管理法	(担当杉山 慎策)																																		
第3回：大量生産モデル	(担当杉山 慎策)																																		
第4回：組織の発見	(担当杉山 慎策)																																		
第5回：人間の発見	(担当杉山 慎策)																																		
第6回：品質管理	(担当杉山 慎策)																																		
第7回：マーケティングの興隆	(担当杉山 慎策)																																		
第8回：戦略論の重要性	(担当杉山 慎策)																																		
第9回：ヨーロッパ型経営モデル	(担当杉山 慎策)																																		
第10回：日本型経営モデル	(担当杉山 慎策)																																		
第11回：新たな経営モデル	(担当杉山 慎策)																																		
第12回：グローバル企業の経営戦略(1)～資生堂のケース～	(担当杉山 慎策)																																		
第13回：グローバル企業の経営戦略(2)～ロレアルのケース～	(担当杉山 慎策)																																		
第14回：グローバル企業の経営戦略(3)～花王のケース～	(担当杉山 慎策)																																		
第15回：まとめと討論	(担当杉山 慎策)																																		
【授業計画 備考2】 レジュメを配布する。																																			
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考																																
	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	リアクションペーパーを評価する																																
	レポート	40%	課題レポートを評価する																																
	小テスト																																		
	定期試験	30%	基本的経営戦略論の理解度を評価する																																
	その他																																		
	自由記載		リアクションペーパーを評価対象とする。毎回必ず提出すること。 講義の中で課題を提示し、レポート提出を求め、そのレポートを評価する。 定期試験は経営戦略の基本的理論や概念を理解しているかどうかを評価する。																																
【受講の心得】 日ごろから新聞や経済誌を読み、経済の変化について関心を持ち、下記の紙(誌)等を毎日読むことを推奨する。 日本経済新聞 日経ビジネス 東洋経済																																			
【授業外学修】 1 予習として、講義内容にかかわる部分を事前に研究しておくこと。 2 復習として、レジュメを再度確認すること。 3 発展学修として、講義で紹介された参考文献などを読むこと。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。																																			
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN																														
	マネジメントの世紀	スチュアート・クレイナー	東洋経済新報社	2,750円	978-4492521137																														
	自由記載																																		
参考書	自由記載	経済は日々刻々動いている。時代の変化をとらえるためにも下記の経済紙(誌)を読むことを推奨する。日本経済新聞 日経ビジネス 週刊東洋経済																																	
	【担当教員の実務経験の有無】	有																																	
	【担当教員の实務経験】	資生堂, ユニバー, マテル, ロレアルでの豊富なマーケティングや経営の経験がある。																																	
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無																																			
【実務経験をいかした教育内容】 世界中で展開しているグローバル企業の経営戦略が実は大変オーソドックスな理論に基づいていることを分かりやすく説明する。																																			

授業科目名	ブランド戦略論		サブタイトル	授業番号	LE302	
担当教員名	杉山 慎策					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科		単位数	2単位		
開講年次	3年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】 商品が市場にあふれる時代、実際に消費者に手に取ってもらい、購入してもらうためには、競合商品とは異なる何らかの独自性を有するブランドが必要となる。本講義ではどうすればブランドを創り、育て、維持することが出来るのかなどブランド戦略論を分かりやすい例をあげながら解説する。						
【到達目標】 価値創造を実現するためには消費者の視点から見て独自性のあるブランドとして認知されるかどうかが重要となる。経営戦略上重要なブランド戦略論の理論と実践を学ぶ。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度> の修得に貢献する。						
【授業計画】						
【授業計画 備考】 レジュメを配布する。						
第1回：本講義の目的と概要 (担当杉山 慎策) 第2回：ブランド・エクイティ (担当杉山 慎策) 第3回：ブランド・ロイヤルティ (担当杉山 慎策) 第4回：ブランド認知 (担当杉山 慎策) 第5回：知覚品質 (担当杉山 慎策) 第6回：ブランド連想 (担当杉山 慎策) 第7回：ブランド測定 (担当杉山 慎策) 第8回：名前、シンボル、スローガン (担当杉山 慎策) 第9回：連想の選択、創造、維持と危機管理 (担当杉山 慎策) 第10回：ライン拡張とブランド拡張 (担当杉山 慎策) 第11回：ブランドの再活性化 (担当杉山 慎策) 第12回：ブランドのグローバル化 (担当杉山 慎策) 第13回：グローバル企業のブランド戦略(1)～資生堂のケース～ (担当杉山 慎策) 第14回：グローバル企業のブランド戦略(2)～ロレアルのケース～ (担当杉山 慎策) 第15回：グローバル企業のブランド戦略(3)～花王のケース～ (担当杉山 慎策)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	リアクションペーパーを評価する		
	レポート		40%	提出された課題を評価する		
	小テスト					
	定期試験		30%	基本的概念についての理解度を評価する		
	その他					
自由記載		リアクションペーパーの提出を求め、それを評価する。 講義の中で課題を提示し、その課題レポートを評価する。 定期試験は基本的概念や理論についての理解度を評価する。				
【受講の心得】 日ごろから新聞や経済誌を読み、経済の変化について関心を持ち、下記の紙(誌)等を毎日読むことを推奨する。 日本経済新聞 日経ビジネス 東洋経済						
【授業外学修】 1 予習として、講義内容にかかわる部分を事前に研究しておくこと。 2 復習として、レジュメを再度確認すること。 3 発展学修として、講義で紹介された参考文献などを読むこと。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	ブランド・エクイティ戦略 競争優位をつくりだす名前、シンボル、スローガン		デイビッド・アーカー	ダイヤモンド社	4,180円	978-4478501146
自由記載						
参考書	自由記載					
	【その他】 経済は日々刻々動いている。時代の変化をとらえるためにも下記の経済紙(誌)を読むことを推奨する。 日本経済新聞 日経ビジネス 週刊東洋経済					
【担当教員の実務経験の有無】		有				
【担当教員の実務経験】 資生堂、ユニリバー、ロレアル、マテルにおける豊富なマーケティングや経営の経験がある。						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無						
【実務経験をいかした教育内容】 ブランド戦略論の基本的概念がどのように企業で生かされているかについて、具体的なケースを紹介しながら議論をしブランド戦略の重要性についての理解を深める。						

授業科目名	リーダーシップ論		サブタイトル	授業番号	LE401																														
担当教員名	杉山 慎策																																		
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科		単位数	2単位																															
開講年次	4年		開講期	前期																															
必修・選択	選択		授業形態	講義																															
【授業の概要】 VUCA (Volatility (変動性), Uncertainty (不確実性), Complexity (複雑性), Ambiguity (曖昧性) の頭文字から作られた言葉) と言われる変化の大きな時代には、リーダーの指導力が問われる。本講義では下記を重点的に取り上げる。 (1) 主要なリーダーシップ論について学ぶ。 (2) 故郷岡山の優れたリーダー達がどのように指導力を発揮し、変革を興し、地域に貢献したかについて学ぶ。 (3) これらを踏まえて現代社会が必要とするリーダーシップ論について議論し、理解を深める。																																			
【到達目標】 本講義においては経営学における主要なリーダーシップ論について学ぶ。また、岡山が生み出したリーダー達の生き方やリーダーシップのあり方を学ぶ。加えて、VUCAの時代と言われる現代をどう生きるかについて議論する。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度> の修得に貢献する。																																			
【授業計画】																																			
【授業計画 備考】 前半はリーダーシップ論の主要理論について学ぶ。後半は岡山の生み出したリーダーを取り上げ、その功績や生き方について学ぶ。																																			
<table border="0"> <tr> <td>第1回：本講義の目的と概要</td> <td>(担当杉山 慎策)</td> </tr> <tr> <td>第2回：リーダーシップ特性論</td> <td>(担当杉山 慎策)</td> </tr> <tr> <td>第3回：リーダーシップ行動論</td> <td>(担当杉山 慎策)</td> </tr> <tr> <td>第4回：コッターのリーダーシップ論</td> <td>(担当杉山 慎策)</td> </tr> <tr> <td>第5回：カリスマ的リーダーシップ論</td> <td>(担当杉山 慎策)</td> </tr> <tr> <td>第6回：サーバントリーダーシップ論</td> <td>(担当杉山 慎策)</td> </tr> <tr> <td>第7回：変革的リーダーシップ論</td> <td>(担当杉山 慎策)</td> </tr> <tr> <td>第8回：社会的責任とリーダーシップ論</td> <td>(担当杉山 慎策)</td> </tr> <tr> <td>第9回：岡山のリーダー 1：野崎 武左衛門</td> <td>(担当杉山 慎策)</td> </tr> <tr> <td>第10回：岡山のリーダー 2：山田 方谷</td> <td>(担当杉山 慎策)</td> </tr> <tr> <td>第11回：岡山のリーダー 3：緒方 洪庵</td> <td>(担当杉山 慎策)</td> </tr> <tr> <td>第12回：岡山のリーダー 4：磯野 計</td> <td>(担当杉山 慎策)</td> </tr> <tr> <td>第13回：岡山のリーダー 5：大原 孫三郎</td> <td>(担当杉山 慎策)</td> </tr> <tr> <td>第14回：岡山のリーダー 6：馬越 恭平</td> <td>(担当杉山 慎策)</td> </tr> <tr> <td>第15回：まとめとディスカッション</td> <td>(担当杉山 慎策)</td> </tr> </table>						第1回：本講義の目的と概要	(担当杉山 慎策)	第2回：リーダーシップ特性論	(担当杉山 慎策)	第3回：リーダーシップ行動論	(担当杉山 慎策)	第4回：コッターのリーダーシップ論	(担当杉山 慎策)	第5回：カリスマ的リーダーシップ論	(担当杉山 慎策)	第6回：サーバントリーダーシップ論	(担当杉山 慎策)	第7回：変革的リーダーシップ論	(担当杉山 慎策)	第8回：社会的責任とリーダーシップ論	(担当杉山 慎策)	第9回：岡山のリーダー 1：野崎 武左衛門	(担当杉山 慎策)	第10回：岡山のリーダー 2：山田 方谷	(担当杉山 慎策)	第11回：岡山のリーダー 3：緒方 洪庵	(担当杉山 慎策)	第12回：岡山のリーダー 4：磯野 計	(担当杉山 慎策)	第13回：岡山のリーダー 5：大原 孫三郎	(担当杉山 慎策)	第14回：岡山のリーダー 6：馬越 恭平	(担当杉山 慎策)	第15回：まとめとディスカッション	(担当杉山 慎策)
第1回：本講義の目的と概要	(担当杉山 慎策)																																		
第2回：リーダーシップ特性論	(担当杉山 慎策)																																		
第3回：リーダーシップ行動論	(担当杉山 慎策)																																		
第4回：コッターのリーダーシップ論	(担当杉山 慎策)																																		
第5回：カリスマ的リーダーシップ論	(担当杉山 慎策)																																		
第6回：サーバントリーダーシップ論	(担当杉山 慎策)																																		
第7回：変革的リーダーシップ論	(担当杉山 慎策)																																		
第8回：社会的責任とリーダーシップ論	(担当杉山 慎策)																																		
第9回：岡山のリーダー 1：野崎 武左衛門	(担当杉山 慎策)																																		
第10回：岡山のリーダー 2：山田 方谷	(担当杉山 慎策)																																		
第11回：岡山のリーダー 3：緒方 洪庵	(担当杉山 慎策)																																		
第12回：岡山のリーダー 4：磯野 計	(担当杉山 慎策)																																		
第13回：岡山のリーダー 5：大原 孫三郎	(担当杉山 慎策)																																		
第14回：岡山のリーダー 6：馬越 恭平	(担当杉山 慎策)																																		
第15回：まとめとディスカッション	(担当杉山 慎策)																																		
【授業計画 備考2】 レジュメを配布する。																																			
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考																																
	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	リアクションペーパーを評価する																																
	レポート	40%	最終課題のレポートを評価する																																
	小テスト																																		
	定期試験	30%	最終テストにより理解度を評価する																																
	その他																																		
自由記載	リアクションペーパーの提出を求め、評価の対象とする。 講義の中で課題を提示し、その課題についてのレポートを評価する。 定期試験は基本的概念や理論の理解度を評価する。																																		
【受講の心得】 日ごろから新聞や経済誌を読み、経済の変化について関心を持ち、下記の紙(誌)等を毎日読むことを推奨する。 日本経済新聞 日経ビジネス 東洋経済																																			
【授業外学修】 1 予習として、講義内容にかかわる部分を事前に研究しておくこと。 2 復習として、レジュメを再度確認すること。 3 発展学修として、講義で紹介された参考文献などを読むこと。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。																																			
使用テキスト	自由記載	レジュメを配布する。																																	
参考書	自由記載																																		
【担当教員の実務経験の有無】 有																																			
【担当教員の实務経験】 資生堂、ユニリバー、マテル、ロレアルにおける豊富なマーケティングや経営の経験がある。																																			
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無																																			
【実務経験をいかした教育内容】 資生堂、ユニリバー、マテル、ロレアルなどでの実際の経営経験を踏まえて、できるだけ分かりやすく生きたリーダーシップ論について解説する。																																			

授業科目名	マーケティング論		サブタイトル	授業番号	LE202																														
担当教員名	杉山 慎策																																		
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科		単位数	2単位																															
開講年次	2年		開講期	前期																															
必修・選択	選択		授業形態	講義																															
【授業の概要】																																			
経営学の中でも重要な科目の一つであるマーケティング論についての理解を深める。時代の変化とともにマーケティングも変化するが、絶えず顧客に焦点を置き、新たな価値を付加し続けて行くことがマーケティングの基本である。本講義では、世界中の大学でマーケティングの教科書として使用されているフィリップ・コトラーの『マーケティングマネジメント』を基本的テキストとしてマーケティング理論を学ぶ。本書は高価なので、参考図書として提示しておく。各講義にはレジュメを準備して配布するので、必ずしも本書を購入する必要はない。レジュメを十分に活用して欲しい。																																			
【到達目標】																																			
企業活動において価値創造ができるのはマーケティングである。このマーケティングについての理論を分かりやすく説明し、理解を深め、実社会で活用できるようにする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力><技能><態度>の修得に貢献する。																																			
【授業計画】																																			
【授業計画備考】																																			
マーケティングの基本概念を一つ一つ取り上げて分かりやすく解説する。配布するレジュメを理解できるまで復習して欲しい。																																			
<table border="0"> <tr> <td>第1回：本講義の目的と概要</td> <td>(担当杉山 慎策)</td> </tr> <tr> <td>第2回：マーケティングの変遷</td> <td>(担当杉山 慎策)</td> </tr> <tr> <td>第3回：戦略計画とマーケティング・プロセス</td> <td>(担当杉山 慎策)</td> </tr> <tr> <td>第4回：マーケティング環境</td> <td>(担当杉山 慎策)</td> </tr> <tr> <td>第5回：マーケット・リサーチ</td> <td>(担当杉山 慎策)</td> </tr> <tr> <td>第6回：マズローのニーズの階層と消費者の購買行動</td> <td>(担当杉山 慎策)</td> </tr> <tr> <td>第7回：STP(Segmentation, Targeting, &amp; Positioning)</td> <td>(担当杉山 慎策)</td> </tr> <tr> <td>第8回：製品戦略</td> <td>(担当杉山 慎策)</td> </tr> <tr> <td>第9回：新製品開発</td> <td>(担当杉山 慎策)</td> </tr> <tr> <td>第10回：価格戦略</td> <td>(担当杉山 慎策)</td> </tr> <tr> <td>第11回：流通戦略</td> <td>(担当杉山 慎策)</td> </tr> <tr> <td>第12回：eコマース</td> <td>(担当杉山 慎策)</td> </tr> <tr> <td>第13回：IMC(Integrated Marketing Communication)</td> <td>(担当杉山 慎策)</td> </tr> <tr> <td>第14回：競争戦略</td> <td>(担当杉山 慎策)</td> </tr> <tr> <td>第15回：マーケティング3.0と4.0</td> <td>(担当杉山 慎策)</td> </tr> </table>						第1回：本講義の目的と概要	(担当杉山 慎策)	第2回：マーケティングの変遷	(担当杉山 慎策)	第3回：戦略計画とマーケティング・プロセス	(担当杉山 慎策)	第4回：マーケティング環境	(担当杉山 慎策)	第5回：マーケット・リサーチ	(担当杉山 慎策)	第6回：マズローのニーズの階層と消費者の購買行動	(担当杉山 慎策)	第7回：STP(Segmentation, Targeting, & Positioning)	(担当杉山 慎策)	第8回：製品戦略	(担当杉山 慎策)	第9回：新製品開発	(担当杉山 慎策)	第10回：価格戦略	(担当杉山 慎策)	第11回：流通戦略	(担当杉山 慎策)	第12回：eコマース	(担当杉山 慎策)	第13回：IMC(Integrated Marketing Communication)	(担当杉山 慎策)	第14回：競争戦略	(担当杉山 慎策)	第15回：マーケティング3.0と4.0	(担当杉山 慎策)
第1回：本講義の目的と概要	(担当杉山 慎策)																																		
第2回：マーケティングの変遷	(担当杉山 慎策)																																		
第3回：戦略計画とマーケティング・プロセス	(担当杉山 慎策)																																		
第4回：マーケティング環境	(担当杉山 慎策)																																		
第5回：マーケット・リサーチ	(担当杉山 慎策)																																		
第6回：マズローのニーズの階層と消費者の購買行動	(担当杉山 慎策)																																		
第7回：STP(Segmentation, Targeting, & Positioning)	(担当杉山 慎策)																																		
第8回：製品戦略	(担当杉山 慎策)																																		
第9回：新製品開発	(担当杉山 慎策)																																		
第10回：価格戦略	(担当杉山 慎策)																																		
第11回：流通戦略	(担当杉山 慎策)																																		
第12回：eコマース	(担当杉山 慎策)																																		
第13回：IMC(Integrated Marketing Communication)	(担当杉山 慎策)																																		
第14回：競争戦略	(担当杉山 慎策)																																		
第15回：マーケティング3.0と4.0	(担当杉山 慎策)																																		
評価の方法																																			
	種別	割合	評価規準・その他備考																																
	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	リアクションペーパーを評価する																																
	レポート	40%	毎回の課題を評価する																																
	小テスト																																		
	定期試験	30%	基本概念を理解しているかどうかを評価する																																
	その他																																		
	自由記載	リアクションペーパーを評価する。質問などを記入し、必ず提出すること。 毎回課題を出すので積極的に取り組み、課題を提出すること。提出された課題を評価対象とする。 定期試験はレジュメの範囲内で出題する。マーケティングの基本的概念や理論を理解しているかどうかを確認する。																																	
【受講の心得】																																			
出来るだけ参加型の講義とするので、積極的に参加して欲しい。 日ごろから新聞や経済誌を読み、経済の変化について関心を持ち、下記の紙(誌)等を毎日読むことを推奨する。 日本経済新聞 日経ビジネス 東洋経済																																			
【授業外学修】																																			
1 予習として、講義内容にかかわる部分を事前に研究しておくこと。 2 復習として、レジュメを再度確認すること。 3 発展学修として、講義で紹介された参考文献などを読むこと。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。																																			
使用テキスト																																			
	自由記載	レジュメを配布する																																	
参考書																																			
		書名	著者・編集者	出版社	定価																														
		コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント	フィリップ・コトラー, ケビン・レーンケラー	ピアソンエデュケーション	9,350円																														
	自由記載	『コトラーのマーケティング・マネジメント-ミレニアム版-』, フィリップ・コトラー, ピアソン・エデュケーションも参考図書として推奨する。																																	
ISBN																																			
					978-4621066164																														
【その他】																																			
日ごろ経済の動きに深い関心を持ち、新聞や経済誌などを読み、私たちの生きている社会でどのようなことが実際に起きているのか理解に努めること。特に下記を推奨する。 日本経済新聞 日経ビジネス ハーバードビジネスレビュー 東洋経済																																			
【担当教員の実務経験の有無】																																			
有																																			
【担当教員の学術経験】																																			
資生堂, ユニバー, ロレアル, マテルなどのマーケティングや経営の豊富な経験がある。																																			
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】																																			
無																																			



**【実務経験をいかした教育内容】**

理論と実践がどのように関係するかを実例に基づいて解説する。

授業科目名	データサイエンス論		サブタイトル		授業番号	LE204
担当教員名	梶西 将司					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
<p>データサイエンスは、私たちの身の回りの様々な場面で活用されている。近年は特に、データサイエンスの知識や考え方をを持った人が必要とされている。データサイエンスによって得られた数値に隠された本当の意味を知ることがはとて重要なことである。本授業では、データサイエンスで用いられる分析手法を理解することに加え、統計解析ソフトRを用いて実際にデータ解析を行い、解釈ができる力を身につけることを目指す。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>データサイエンスの重要性を理解でき、数値に隠された本当の意味を考える力を身につけることができる。</li> <li>統計解析ソフトRを用いて、データ解析を行うことができる。</li> <li>データ解析で得られた結果を自ら解釈でき、理解できる。</li> </ul> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt;&lt;思考・問題解決能力&gt;&lt;技能&gt;の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：データサイエンスとプログラミング言語  第2回：Rの基本操作（データの作成，データへのアクセス，演算子の使い方）  第3回：基礎統計量の計算(平均，中央値，分散，最大値，最小値，四分位範囲)  第4回：ヒストグラム，相関係数，箱ひげ図  第5回：Excelファイルの読み込み  第6回：関数の作成  第7回：分布（正規分布，二項分布など）  第8回：仮説検定  第9回：区間推定  第10回：回帰分析  第11回：重回帰分析  第12回：主成分分析  第13回：クラスター分析  第14回：応用的なデータ解析  第15回：まとめ</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		50%	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。		
	レポート		30%	2～3回程度のレポート課題を課す。		
	小テスト		20%	2回程度の小テストを行う。実施は事前にアナウンスする。		
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
<p>データから有益な結果を導き出す重要性を理解してほしい。また、プログラミング言語を用いてデータ解析をする楽しさを知ってほしい。授業に関してはテキストや配布資料を利用し授業の復習・予習を行い、講義内容をしっかりと理解できるように努めてほしい。</p>						
<b>【授業外学修】</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>予習として、配布資料やテキストを読み、次回の授業内容に関わる部分を整理しておく。</li> <li>復習として、学習した内容を整理し、課題レポートをする。</li> <li>発展学習として、授業で紹介された内容について自ら調べる。</li> </ol> <p>以上の内容を、週当たり4時間以上学習すること。</p>						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	イベント・コンベンション事業論		サブタイトル		授業番号	LE205
担当教員名	田村 秀昭					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b> 国や自治体が推進するMICEとは何か。イベント・コンベンションなどの事業活動が地域社会、環境、経済のどのような影響を与えているのか。イベント・コンベンション事業の効果と課題を理解するとともに、自らイベントなどを主催する際の企画立案・実施運営の知識を学ぶことを目指す。政府の方針でもあるIR（統合型リゾート）のあるべき姿などについても考察する。また、イベント・コンベンション事業を支える仕組みや制度などを学び、あらゆるライフシーンにおける応用を考察する。人生における「イベント」の大切さや転機となるシーンを想像し、創造してほしい。						
<b>【到達目標】</b> ・国や自治体が推進するイベント・コンベンション（MICE）に関する政策への理解を深める。 ・イベント・コンベンション事業を支える組織や人の存在を知り、将来活躍する職務における応用を考察する。 ・イベント・コンベンションに関する企画立案・実施運営の基礎及び実務的な知識を身につける。 ・イベント・コンベンションの効果や課題を説明できるようになる。 ・ツーリズム産業におけるイベント・コンベンションの重要性を理解し、説明できるようになる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：オリエンテーション及びECの歴史（担当田村秀昭） 第2回：総論・ECとはI：ECの定義と開催目的（担当田村秀昭） 第3回：総論・ECとはII：ECの仕組みと開催効果（担当田村秀昭） 第4回：総論・ECとはIII：ECのマーケット分類と市場規模（担当田村秀昭） 第5回：世界と日本のEC動向：発展するMICE市場とコンベンション（担当田村秀昭） 第6回：イベント・コンベンション産業I：ECオーガナイザー、ホテルの役割（担当田村秀昭） 岡山市内のホテル等での学外授業の可能性があり 第7回：イベント・コンベンション産業II：ECを支える多彩な産業（担当田村秀昭） 第8回：コンベンション施設と付帯設備I：日本と世界のコンベンション施設（担当田村秀昭） 第9回：コンベンション施設と付帯設備II：コンベンション施設の基本型と運営形態（担当田村秀昭） 岡山観光コンベンションビューロー等での学外授業 第10回：CVBの役割と機能：地域の束ね役の任務（担当田村秀昭） 第11回：EC推進機関とECに関わる法律：JNTO、JETRO、その他のEC推進機関（担当田村秀昭） 第12回：ECの課題と展望I：ECビジネスの可能性（担当田村秀昭） 第13回：ECの課題と展望II：ECビジネスの成功に向けた条件整備（担当田村秀昭） 第14回：演習編-ミニイベントの企画立案・プレゼンテーション（担当田村秀昭） 第15回：総括：講義のまとめ（担当田村秀昭）						
<b>【授業計画 備考2】</b> 岡山市内のホテル、コンベンション施設などの現場を視察する校外学習を2回予定しています。 単純な見学に終わらないように、しっかりと質問をし、現場の課題を模索してください。						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	積極的な授業への参加態度			
	レポート	10%	校外学習後のレポート			
	小テスト					
	定期試験	50%	期末テスト及びプレゼンテーション評価			
	その他	10%	イベントの企画立案			
	自由記載	授業参画意欲を積極的に見せてください。教科書の予習、復習など。 期末テストは指定する教科書および、授業時に配布する資料からの出題とする。 また、企画立案するイベントについては受講生との意見交換をしながらテーマを決めたい。 そのプレゼンテーションでしっかりと発表していただきたい。				
<b>【受講の心得】</b> 基本的には講義形式の座学だが、平素から市中で開催されるイベントをしっかりと観察してほしい。 その現場で働く人々の姿を追い、どのような仕事があり、どう役割をこなしているかを見ていただくようお願いしたい。 また、現場の危機管理についてはよく注視していただきたい。 イベント・コンベンションの用語をしっかりと理解してください。						
<b>【授業外学修】</b> ・テキスト内容については予習をしましょう。 ・毎回の授業内容は必ず復習をしてください。 ・受講において事前に課題を出す場合があります。 以上の内容を週当たり4時間以上学習すること。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	イベント・コンベンション概論	田部井正次郎ほか	JTB総合研究所			
	自由記載					
参考書	自由記載					
	【その他】	ホテルやコンベンション施設などの平面図や仕様書などを入手し、会場がどのようになっているかなどを見ていただきたい。 観光案内所やコンベンションビューローなどでイベントのチラシやパンフレットを入手し、そのチラシに書いてある内容などを確認してほしい。				
	【担当教員の実務経験の有無】	有				
<b>【担当教員の実務経験】</b> JTBで38年、ツーリズム産業の最前線で実務をこなしてきた経験を有する。また、国土交通省、経済産業省、農林水産省などの官公庁の審査委員等の経験値を生かす。						

無

**【業務履歴以外の指導教員内容実務経験者の有無】**

JTBの中でも新規事業，とくにMICEについては積極的に実務経験を積み，成功裏に導いてきた経験を学生たちに伝えてゆく。

スマップ，ミスターチルドレンなどの野外コンサートの5万人規模の観客の輸送や警備，危機管理を含む事業を経験。

ポンテベルレ（現ベッキオバンピーノ）を岡山に誘致し，15年間続く定番のイベントとして定着させた実績。

淡路ロングライドを手始めに，四万十 ライド（高知），サザンセトロングライド（山口）などを次々に提案し実施に導いてきた。

日本眼科学会，日本薬学会，日本精神神経学会など大型コンベンションを年間50本以上実施運営してきた経験を持つ。

これらイベントコンベンションの実務経験をもとに，学生の皆さんに現場のあり様をお伝えしてゆきます。

授業科目名	レジャー・リゾート論		サブタイトル	授業番号	LE206	
担当教員名	田村 秀昭					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科		単位数	2単位		
開講年次	2年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】 余暇時間とは。ツーリズム産業は人々が余暇を過ごす余裕があるからこそ成立するビジネスであり、リゾートと称される場所で過ごすことを楽しむことをお手伝いすることがその本質でもある。日本人の余暇活動は温泉で寛いだり、山や海で自然を満喫したり、あるいはテーマパーク等で遊ぶことが主流となっています。本講義では日本のレジャーとリゾートの近・現代の流れを理解し、世界のそれとの対比やレジャー・リゾートをビジネスとして成立させてゆくためのマーケティングや企画・運営等について学んでいただきます。また、実際に身近なエリアでのリゾートビジネスについて考察します。なお、サステナブルツーリズムつまり持続可能な観光を支えてゆくためにヘルストツーリズムやグリーンツーリズム、オーバートツーリズムについても考察していただきます。						
【到達目標】 1, レジャー・リゾートビジネスの概要を理解する 2, レジャー・リゾートビジネスの日本における歴史を理解し、将来像を描く 3, レジャー・リゾートビジネスの実態を知り、その特性を理解する 4, 日本の観光政策のなかで「リゾート」がどのような位置を占めているのかを理解する 5, 地域経済と結びつけるためのリゾートのあり方について理解する 6, レジャー・リゾートビジネスに関する企画力を習得する なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：レジャー・リゾートビジネスのガイダンス (担当田村秀昭) 第2回：レジャー・リゾートビジネスの概要 (担当田村秀昭) 第3回：日本のレジャー・リゾートの変遷I (担当田村秀昭) 第4回：日本のレジャー・リゾートの変遷II (担当田村秀昭) 第5回：世界のリゾートビジネスI (担当田村秀昭) 第6回：世界のリゾートビジネスII (担当田村秀昭) 第7回：レジャー・リゾートの商品開発 (担当田村秀昭) 第8回：「アルプスの少女ハイジ」で読み解くヘルストツーリズムとグリーンツーリズム (担当田村秀昭) 第9回：日本の観光政策I (担当田村秀昭) 第10回：日本の観光政策II (担当田村秀昭) 第11回：レジャー・リゾートと地域の発展 (担当田村秀昭) 第12回：農村漁村のリゾート化：農泊とコンテンツ (担当田村秀昭) 第13回：瀬戸内海地域のサステナブルツーリズム (担当田村秀昭) 第14回：岡山を舞台にしたリゾートビジネスの企画 (担当田村秀昭) 第15回：総括：まとめ (担当田村秀昭)						
【授業計画 備考2】 15回の授業の中では学外授業の設定は予定していないが、別途希望者はツーリズム産業の現場でのインターンシップや研修の機会を設定できるように配慮したい。						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	積極的な参画		
	レポート		10%	アルプスの少女ハイジ：レポート		
	小テスト					
	定期試験		50%	期末テスト		
	その他		10%	岡山のリゾート考察：プレゼンテーション		
自由記載	授業への参画意欲、質疑、発言などを積極的にしてほしい。 参考図書などを明示するので、必ず熟読し、レポートを提出すること。 岡山のレジャー・リゾートについて研究し、岡山らしいリゾートについての発表をしていただきます。 試験は授業において配布した資料や、解説したリゾートなどの中から出題します。					
【受講の心得】 平素からホテルやレストランなど、ツーリズム産業に関わる産業をよく観察してほしい。 また、そこに働く人々やその役割を考察してほしい。 リゾートのあり方は環境問題とともに考えることが必要です。 SDGsの考え方もこの授業の中で学びましょう。						
【授業外学修】 ・テキストは指定しませんが、平素からレジャー・リゾートについての参考書、資料等を読み込んでください。 ・毎回の授業内容は必ず復習をしてください。 ・受講において事前に課題を出す場合があります。 以上の内容を週当たり4時間以上学習すること。						
使用テキスト	自由記載	教科書は指定しません。毎回、レジュメや資料を準備する予定です。				
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	世界のリゾート&ツーリズム徹底研究		大前研一	(株)master peace		
	アルプスの少女ハイジ		ヨハンナ・シュピリ	角川文庫	640円(税別)	
	自由記載	旅行会社のパンフレットや観光協会等が発行する資料やパンフレット、映像などを活用する予定です。				
【担当教員の実務経験の有無】 有						
【担当教員の実務経験】 JTBで38年のツーリズム業界での実績。国土交通省、経済産業省、農林水産省の審査委員などの経験あり。						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無						

JTBでの38年の経験で、ツーリズム産業の全体像や特にホテルなどリゾート施設などの現状などを伝えていきたいと思います。  
また、ここ10年は各省庁の委員などを務め、観光政策の在り方や観光立国日本の将来についての研究もしてきました。  
令和元年度の中国運輸局長観光功労者表彰を受けるなどの功績や、インドネシア教育大学での基調講演の内容などを授業の中でお示しいてゆきます。

**【実務経験をいかした教育内容】**

授業科目名	観光経営論		サブタイトル	授業番号	LE303
担当教員名	田村 秀昭				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科		単位数	2単位	
開講年次	3年		開講期	前期	
必修・選択	選択		授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>					
観光産業ならではの経営上の課題やその対応策などを模索する。観光経営の基礎知識を習得し、ホテル、旅行、運輸（航空、貸切バスなど）、エンターテインメントなどの固有の課題を考察し、その解決方法や管理方など対策を講じてゆく。また、危機管理の観点から災害などからの復興、再建などについて学ぶことでツーリズムをビジネスとしてとらえてゆく。					
<b>【到達目標】</b>					
ツーリズム産業には一般的な企業経営とは違った課題が数多くあり、特に季節・曜日変動、立地条件や流行に左右されやすく、設備投資額を考えると決して高収益とはならない経営リスクがあることを学んでほしい。 また、ツーリズム産業の中にあっても各業種によりその経営課題は異なるが、この違いなどを理解しながら対応策を考察してゆく力をつけてほしい。課題を明確にし、協調しながら結論付けたり、発表する力も同時に養ってほしい。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度>の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
<b>【授業計画 備考】</b>					
基本的には座学だが、課題を共有し、ディスカッションの後に集約した意見を発表する場も設定してゆきたい。					
第1回：観光経営論序説：ガイダンス（担当田村秀昭）					
第2回：観光経営の歴史（担当田村秀昭）					
第3回：観光経営の課題：リスクの理解（担当田村秀昭）					
第4回：季節・曜日変動などの経営の課題：稼働率の考察（担当田村秀昭）					
第5回：巨額な設備投資と人的サービスへの傾斜傾向（担当田村秀昭）					
第6回：ホテル・旅館経営の課題（担当田村秀昭）					
第7回：旅行業経営の課題（担当田村秀昭）					
第8回：航空業界の課題（担当田村秀昭）					
第9回：鉄道経営と沿線開発の課題（担当田村秀昭）					
第10回：リゾート経営の課題：日本の観光政策の失敗事例（担当田村秀昭）					
第11回：テーマパーク、遊園地などアミューズメント経営の課題（担当田村秀昭）					
第12回：観光経営の事例研究（レポート対象）（担当田村秀昭）					
第13回：ツーリズムビジネスの将来についての考察：ディスカッションと整理（担当田村秀昭）					
第14回：第13回のまとめと発表（担当田村秀昭）					
第15回：観光経営論総括（担当田村秀昭）					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	意欲的な授業態度、授業への貢献度を評価する。		
	レポート	10%	授業の中で課題を出します。それに対するレポートを求めます。		
	小テスト				
	定期試験	50%	期末試験。教科書、ノートの持ち込みは可とする。		
	その他	10%	第13・14回のディスカッションとプレ全セッションの評価。		
自由記載	座学を中心とした授業の中でいかに予習をし、復習ができているかを確認しながら進めてゆきます。また、各単元の中で希望する授業で、自発的な発表やレポート提出などを歓迎します。				
<b>【受講の心得】</b>					
予習と復習を心掛け、授業時に取り上げた用語や内容について書籍などで調べ、情報収集を行うなどの自主的な学習に努めましょう。授業中にはペア・グループでの発表活動を実施しますので、積極的に参加してください。ツーリズム産業を活用した地域振興策を考える習慣をつけてください。					
<b>【授業外学修】</b>					
・テキスト内容については予習をしましょう。 ・毎回の授業内容は必ず復習してください。 ・受講において事前に課題を出す場合があります。 以上の内容を週当たり4時間以上学習すること。					
使用テキスト	自由記載	現在検討中。改めて指示します。			
参考書	自由記載				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>					
(株)JTBでの38年間の実績。中国運輸局、中国経済産業局、中国四国農政局などでの委員経験など。					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
JTBでの多岐に渡る業務経験と実績を元に、「現場」で起こっている、起こる可能性などの事象を具体的に指導する。行政の委員などの経験をもとに観光行政の在り方や成功・失敗事例の原因なども事例を交えて解説してゆく。					

授業科目名	地域経済学		サブタイトル		授業番号	LE207
担当教員名	未定					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
<p>地域経済は、人々の（経済）活動の相互依存関係の上に成立し、自然的・経済的・文化的複合体としての地域（歴史的・社会的存在としての地域）を支える経済単位である。すなわち、人間の共同的生活空間を地域として捉え、そうした地域を支える経済が地域経済となる。本講義では、地域の中でも都市と産業地域に焦点をあて、そうした地域における地域経済をどのように捉えるのかといった理論や考え方を説明するとともに、地域経済の現状と動態、さらには、具体的な課題について講義を通して一緒に考えてみたい。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>第一に、地域経済を読み解く理論や考え方について理解し、説明できるようになることを目的とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt;の修得に貢献する。</p> <p>第二に、地域経済の現状と動態について学び、地域の抱える課題を理解できるようになる。その上で、そうした課題の解決方法を、第一の目標で得られた理論や考え方をを用いて、探ることができるようになることを目的とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;思考・問題解決能力&gt;の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：「都市、産業地域そして地域経済とは」復習：都市とはどのような地域なのでしょう。もう一度整理してみましょう。 予習：都市化とはどのような現象なのでしょう。調べてみましょう。</p> <p>第2回：「都市化経済」復習：都市化の進んだ時期や場所を確認してみましょう。 予習：都市内の土地利用はどこも同じだろうか。あるいは違うのだろうか。自分の住む街を事例に考えてみましょう。</p> <p>第3回：「都市内部構造論」復習：自分の住む街はこの理論に当てはまるのでしょうか。考えてみましょう。 予習：都市によっては衰退する都市もあります。それはなぜなのでしょう。考えてみましょう。</p> <p>第4回：「ジェントリフィケーションと都市再生」復習：再生に成功した都市はほかにもあるのだろうか。調べてみましょう。 予習：最近とても元気な都市が日本も含めて世界にはいくつかあります。どういった都市でしょうか。調べてみましょう。</p> <p>第5回：「クリエイティブシティ論」復習：クリエイティブシティではなぜ地域経済が活性化しているのでしょうか。もう一度確認しましょう。 予習：大都市は数が少なく、小都市は沢山あります。なぜなのでしょう。考えてみましょう。</p> <p>第6回：「モノの持つ距離と中心地論」復習：中心地論は地域経済の活性化を考える際に援用できるのでしょうか。考えてみましょう。 予習：全ての都市の地域経済が活性化しているわけではないようです。なぜなのでしょう。考えてみましょう。</p> <p>第7回：「地域構造論と都市システム論」復習：地域構造や都市システムが地域経済の盛衰に与える影響を整理しておきましょう。 予習：日本の中では、どの地域が元気が良い（地域経済が活性化している）のでしょうか。調べてみましょう。</p> <p>第8回：「日本の地域構造と地域経済」復習：日本の地域構造の特徴をもう一度整理しておきましょう。 予習：産業地域とはどのような地域でしょうか。調べてみましょう。</p> <p>第9回：「産業立地論」復習：なぜ産業地域が出現したのでしょうか。もう一度整理しておきましょう。 予習：地域経済を支える産業はどこでも同じなのでしょうか。あるいは違うのでしょうか。調べてみましょう。</p> <p>第10回：「空間的分業論と地域再編成」復習：分工場経済について、もう一度確認しておきましょう。 予習：地域経済を支える産業の一つに地場産業があります。地場産業とはどのような産業のことをいうのでしょうか。調べてみましょう。</p> <p>第11回：「地場産業地域の動態」復習：地場産業地域はどこにあるのでしょうか。整理してみましょう。 予習：地域経済が活性化する「新しい産業集積」とはどのようなことを指すのでしょうか。調べてみましょう。</p> <p>第12回：「産業集積と新たな動向」復習：新しい産業集積の典型的な事例地域はどこだったでしょう。もう一度確認しておきましょう。 予習：地域経済の疲弊している地域、活性化している地域はどこか調べてみましょう。</p> <p>第13回：「地域経済循環論」復習：地域経済循環とはどのような考え方だったのでしょうか。もう一度確認しておきましょう。 予習：日本の地域経済政策にはどのようなものがあるのでしょうか。調べてみましょう。</p> <p>第14回：「地域経済政策の軌跡」復習：日本の地域経済政策の歴史的展開についてもう一度整理しておきましょう。 予習：日本の地域産業政策によって地域経済が活性化した地域はどこでしょう。調べてみましょう。</p> <p>第15回：「地域経済政策の展開と課題-まとめにかえて-」復習：日本の地域経済や政策の課題はどこにあるのでしょうか。そしてその解決策はどのようなことが考えられるのでしょうか。授業で得られた理論や事例を用いてまとめてみましょう。</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	毎回意見や質問などをお書きいただきます。この内容も評価に含めます。			
	レポート	30%	授業内容の理解度を測るために、複数回、レポートをお願いすることになります。クイズ形式のものや記述式の小レポートもあります。提出期限や様式については別途指示いたします。課題のポイントを押さえれば高評価します。			
	小テスト					
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価します。各回の主要な論点を押さえれば高評価となるでしょう。			
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
<p>地域や地域経済、地域産業の動向に関心を払っていただきたいと思います。そして、可能ならば、事例とした地域あるいはそれに類似した地域を実際に歩いてみましょう。現場をみることにより、実践力が身につくことと思います。</p>						
<b>【授業外学修】</b>						
<p>授業計画内の復習・予習に書かれていることを週当たり4時間以上実行してみましょう。毎回、完璧とはいわないまでも、時間の許す限り実行に移してみましょう。また、復習・予習を通じて疑問が生じた場合には、疑問点を書き留めておき、次の授業時のコメントペーパーを用いて積極的におたずね下さい。可能な限り回答する予定です。</p>						
使用テキスト	自由記載	指定しません。講義中に資料を配付します。				
参考書	自由記載	指定しません。講義中に示す参考文献、参考図書などを積極的に活用し、学修を発展させて下さい。				
<b>【担当教員の業務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無】</b>						
無						



授業科目名	ライティング		サブタイトル		授業番号	LF201
担当教員名	グレゴリー チンデミ					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
この授業は、仕事やビジネスのための、さまざまなタイプの短く簡潔な文章を書くことに焦点を当てる。これには、情報要求、招待、宿泊予約のための電子メール、入国カード、文書の付け紙、ファックス送付状、就職応募書類、履歴書を含む。学生は、毎時間出席し、毎週の英作文課題をこなすことを期待されている。これはライティングの授業であるが、学生は積極的に授業に参加し、できるだけ多くの英語を使うことを期待されている。授業中いつでも自由に必要な時は友人や教師に英語で質問するのがよい。この授業は、「インテグレートッド・イングリッシュC」、「基礎ゼミ」、「専門ゼミ」などの授業と関連している。						
<b>【到達目標】</b>						
この授業の目標は、学生の英語で書く基本的な能力と、短く簡潔な文章とビジネス文書を英語で書くための文法、語彙、句読法、綴り字法の知識を伸ばすことである。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：書くことについて考える 第2回：導入を書く 第3回：様々な様式を埋める 第4回：感謝を述べる 第5回：情報を要求する 第6回：ユニット小テスト1; 詳細な情報を得る 第7回：招待し、会合の手配する 第8回：面会時間・場所を決め、それを変更する 第9回：指示を与える 第10回：問題に対応する 第11回：ユニット小テスト2; 描写する 第12回：意見を言い、推薦する 第13回：休暇について書く 第14回：趣味について書く 第15回：仕事に応募する ユニット小テスト3						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		25%	英語を使っの授業への積極的参加		
	レポート		10%	毎週の作文課題		
	小テスト		45%	ユニット小テスト		
	定期試験					
	その他		20%	課題		
自由記載		英語を使っの授業への積極的参加 25%, 毎週の作文課題 10%, ユニット小テスト 3x15%, 課題 20%				
<b>【受講の心得】</b>						
学生は、毎時間出席し、毎週の英作文課題をこなすことを期待されている。これはライティングの授業であるが、学生は積極的に授業に参加し、できるだけ多くの英語を使うことを期待されている。授業中いつでも自由に必要な時は友人や教師に英語で質問するのがよい。						
<b>【授業外学修】</b>						
授業で直接指導できる時間は限られているので、学生は、自習と毎時間の授業のための準備と課題に週当たり4時間以上の学修が必要である。この学習は、一度に行うよりも、毎日30-40分学修するのが効率的である。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載 学生は、教科書とともに和英辞典、A4サイズのノート、授業プリントと課題を入れた授業用ファイル、自習課題を毎時間持参すること。					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名 **時事英語**

サブタイトル

授業番号 LF202

担当教員名 佐生 武彦

対象学部・学科 国際教養学部 国際教養学科

単位数 2単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 講義

**【授業の概要】**

VOA (Voice Of America) のニュース英語を教材にして、リスニングとリーディングの能力を鍛える。具体的には、ホームワークとして、週に1本のペースで、Editorials (論説) を聴き取り、テキストを完成させる。授業では、完成させたテキストを、ニュースの背景を考慮しながら、熟読する。授業の残り20分を使って、学習した内容についての英語の質問に英語で答える活動を行う。

授業科目名	英語プレゼンテーション		サブタイトル	授業番号	LF301	
担当教員名	藤代 昇丈					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科		単位数	2単位		
開講年次	3年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
【授業の概要】						
事前に配布された新聞記事やニュースを読んだり聞いたりして的確に理解する力の養成に努め、学んだり経験したことに基づいて、その情報や自分の考え方をまとめて発表する演習を行う。また、発表された情報や提案を聞いたり読んだりして、自己の立場に基づいて質問したり意見を述べたりする活動を行う。						
【到達目標】						
英語を通して、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながらまとまりのある情報や提案を分かり易く伝える能力を養う。また、英語を通して、発表された情報や提案を的確に理解し、自己の立場に基づいて質問したり意見を述べたりする能力を養う。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：英語によるプレゼンテーションとは 第2回：英語プレゼンの始め方 第3回：テーマを決めてプレゼンしようI プレゼンの準備 グループワーク 第4回：テーマを決めてプレゼンしようI プレゼンを組み立てよう グループワーク 第5回：テーマを決めてプレゼンしようI スライド作成のポイント 第6回：テーマを決めてプレゼンしようI プレゼン発表 第7回：モデル英語プレゼンを真似してみよう(1) 発話練習 第8回：モデル英語プレゼンを真似してみよう(1) 発表 第9回：テーマを決めてプレゼンしようII タイトルを決めて必要な資料を集めよう 第10回：テーマを決めてプレゼンしようII 発表の構成を考えよう 第11回：テーマを決めてプレゼンしようII パラグラフ毎の英文を書いてみよう 第12回：テーマを決めてプレゼンしようII スライドの作成 第13回：プレゼンテーション発表(1) 第14回：プレゼンテーション発表(2) 第15回：まとめ プレゼンを行うときに大切なこと						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	意欲的な受講態度、予習の状況及び授業への貢献度を評価する		
	レポート		20%	課題のテーマについて適切にまとめてあるかを評価する。		
	小テスト					
	定期試験		10%	中間期、期末に授業内容の理解度を評価する。		
	その他		40%	積極的に自分の考えをプレゼン発表できるかを評価する。		
自由記載						
【受講の心得】						
<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中にはペアやグループでの発表活動を実施するので積極的に参加すること。</li> <li>事前準備では辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。</li> <li>知識から実践へと進むことができるように、積極的に授業に参加し、授業外でもしっかり練習をして欲しい。</li> </ul>						
【授業外学修】						
1 課題については十分に調査してレポートを作成すること。 2 プレゼンテーションについては事前に作成や発表練習を行うこと。 3 ペアやグループで作成する課題についてよく打ち合わせること。 上記に関連して授業までに4時間以上の準備を要する。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	英語プレゼンのトリセツ		藤代昇丈	日本橋出版	1,600円+税	978-4-434-27950-8
自由記載						
参考書	自由記載					
	【担当教員の実務経験の有無】 有					
【担当教員の实務経験】 県情報教育センター・県総合教育センター・県立高等学校英語科教諭						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無						
【実務経験をいかした教育内容】 高校の学校現場に勤務し、英語科の指導に当たった経験から、学生のニーズを的確に把握し、わかりやすい解説や指導をすることができる。また、大学生として身につけておくべきプレゼン技術について、ペアやグループ活動などを取り入れアクティブかつ実践的な指導ができる。また、県情報教育センター及び県総合教育センター情報教育部の指導主事として、教職員の研修や指導業務に当たった経験から、ICTを活用して動画や音声を提示しわかりやすい授業を行うことができる。						

授業科目名	プロフェッショナル・イングリッシュ		サブタイトル	(映画の英語)		授業番号	LF302	
担当教員名	松浦 加寿子							
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位			
開講年次	3年			開講期	後期			
必修・選択	選択			授業形態	演習			
<b>【授業の概要】</b> 映画『ブラダを着た悪魔』を視聴し、ドラマの英語表現について講義する。豊富な演習問題や言語活動を通して、総合的な英語運用能力の向上を目指す。								
1. 語彙や重要表現を確認後、ドラマの内容を理解する。 2. ディクテーションやロールプレイなどの活動を通して、日常会話表現の定着を図る。 3. ドラマの内容に関連するトピックについてグループディスカッションをする。 4. 文法事項の確認をする。 5. 英作文問題を解く。								
<b>【到達目標】</b> さまざまな場面に応じた会話表現について学び、自分の気持ちや考えを英語で表現できるようになる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力><態度>の修得に貢献する。								
<b>【授業計画】</b>								
第1回：Unit 1 Job Interview [Grammar in Focus 過去完了形] Language in Focus 別れ際の挨拶 第2回：Unit 1 Job Interview [Grammar in Focus 過去完了形] Language in Focus 別れ際の挨拶 第3回：Unit 2 First Day on the Job [Grammar in Focus 助動詞 1] Language in Focus 依頼する 第4回：Unit 3 Hurricane on the Weekend [Grammar in Focus 関係代名詞 1] Language in Focus 反論する 第5回：Unit 4 Andy's Makeover[Grammar in Focus 現在進行形] Language in Focus 困惑を示す 第6回：Unit 5 Andy Meets Christian [Grammar in Focus 助動詞 2] Language in Focus 聞き返す 第7回：Unit 6 Miranda's Request [Grammar in Focus 分詞] Language in Focus 希望を伝える 第8回：Unit 7 Nate's Birthday [Grammar in Focus 仮定法] Language in Focus 驚きを示す 第9回：Unit 8 Andy's Decision [Grammar in Focus 現在完了形] Language in Focus 確認する 第10回：Unit 9 Breakup with Nate [Grammar in Focus 動名詞] Language in Focus 提案する 第11回：Unit 10 The Dream Job [Grammar in Focus 受動態] Language in Focus 意思・予定を述べる 第12回：Unit 11 Announcement at the Party [Grammar in Focus 関係代名詞 2] Language in Focus 称賛する 第13回：Unit 12 Andy's Final Choice [Grammar in Focus 使役動詞] Language in Focus 丁寧に依頼する 第14回：Unit 12 Andy's Final Choice [Grammar in Focus 使役動詞] Language in Focus 丁寧に依頼する 第15回：まとめ								
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	意欲的な受講態度、課題や予習の取り組み姿勢などを評価する。				
	レポート							
	小テスト		30%	既習事項について語彙や表現、文法項目などの理解度を評価する。				
	定期試験		50%	定期テストで授業内容の理解度を評価する。				
	その他							
自由記載								
<b>【受講の心得】</b> ・予習を前提として進めていくので、テキストの本文を全訳し、練習問題を解いたうえで授業に臨むこと。 ・英和辞典を毎回授業に持参すること。電子辞書でも可。ただし、授業中の携帯電話の辞書機能は使用不可。								
<b>【授業外学修】</b> 1. 予習として、テキストの本文を読み、未知の語句があれば辞書で調べて全訳しておくこと。また、練習問題も解いておくこと。 2. 復習として、授業で学んだ文法事項と英語表現を理解し、知識として定着させること。また、音声データをダウンロードして音声を確認し、音読すること。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。								
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	『ブラダを着た悪魔』で学ぶコミュニケーション英語			Aline Brosh McKenna著 角山照彦/Simon Capper編著	松柏社	2,200+税	978-4-88198-712-4	
自由記載								
参考書	自由記載							
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 無							
	<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無							

授業科目名	英語ディスカッション		サブタイトル	なし	授業番号	LF203
担当教員名	森年 ボール					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b> この授業は、学生が英語で自分の意見を形成し、表現し、それを裏付ける能力と、批判的に思考する能力を、学生自身に直接関係したり重要であったりするビジネス問題を議論することを通して伸ばすことを目標とする。 This course aims to develop students' ability to form, express and support their considered opinions in English and to think critically, through discussion of business issues that should be directly relevant and important to the students.						
<b>【到達目標】</b> 学生は、例えばマーケティング、ビジネス倫理、人事決定と他ビジネスに関連した話題を、大人として議論することを期待されている。学生は、自分の考えやその理由を、会話、意見の共有、議論、プレゼンテーションを通して英語で伝えることになる。学生は、自分の意見や感情、そしてそのもととなる信念を熟考し、批判的に考えることができるようになる。 Students are expected to discuss marketing, business ethics, personnel decisions and other business-related topics in a mature way. English should be used to communicate your ideas and the reasons for those ideas through conversation, opinion-sharing, discussion and short presentations. You will learn to reflect on your opinions, feelings and the beliefs they are based on, and to think more critically. This course will contribute to acquiring knowledge and understanding, thinking and problem-solving abilities, skills and attitude among the bachelor's degree contents listed in the Diploma Policy. なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
<b>【授業計画 備考】</b> このコースは、積極的に参加している学生が英語を使い、ビジネス関連のトピックについて考えることに依存しています。 このコンテンツは、学生が英語、ディスカッションスキル、およびビジネス文化の理解を向上させるのに役立ちます。 This course relies on students participating actively to use English and to think about business-related topics. The content will help students to improve their English, discussion skills, and their understanding of business culture.						
第1回：Introduction to the course; Course administration (英語でのディベートの説明; 授業の進め方) What is 'Discussion'? 「ディスカッション」とは 第2回：Discussion point - Opinion vs facts Discussion topic - What makes a good company? 何が良い会社になるのか？ 第3回：Discussion point - Types of supporting information サポート情報の種類 Discussion topic - Which is more important: qualifications or experience? どちらがより重要ですか：資格または経験？ 第4回：Discussion point - Deciding your own opinion 自分の自身の意見を決める Discussion topic - What does 'professionalism' mean? 「プロフェSSIONAL」とはどういう意味ですか？ 第5回：Short test 1 Discussion topic - Should we hire a younger or older person? 若い人を雇うべきですか、それとも年上の人を雇うべきですか？ 第6回：Discussion point - Explaining your opinion Explain your opinion Discussion topic - Which management style is best? どの管理スタイルが最適ですか？ 第7回：Discussion point - Supporting your opinion 自分の意見を支持する Discussion topic - Who should be fired? 誰を解雇すべきですか？ 第8回：Discussion point - Listening to other people's opinions 他人の意見とサポート情報を聞く Discussion topic - Should we hire a man or a woman? 男性と女性のどちらを雇うべきですか？ 第9回：Discussion point - Evaluating other people's opinions and supporting information 他人の意見を評価し、情報を裏付ける Discussion topic - Who should be promoted? 誰を昇進させるべきですか？ 第10回：Short test 2 Discussion topic - Which marketing strategy is most effective? どのマーケティング戦略が最も効果的ですか？ 第11回：Discussion point - Refuting another person's opinions and supporting information 他人の意見に反論し、裏付けとなる情報 Discussion topic - How to manage debt or credit 債務または信用を管理する方法 第12回：Discussion point - Showing that supporting information is incorrect サポート情報が正しくないことを示す Discussion topic - How much should we pay? いくら払えばいいですか？ 第13回：Final discussion preparation - Bid for a contract (Prepare your bid's content) 契約の入札（入札内容の準備） 第14回：Final discussion preparation - Bid for a contract (Prepare your short presentation) 契約の入札（短いプレゼンテーションを準備する） Course review; Student course evaluation questionnaires コースレビュー; 大学生アンケート 第15回：Short test 3 Discussion topic - Present your bids. Who gets the contract? 入札プレゼンテーション。誰が契約を結ぶのですか？ Course evaluation コース評価						
<b>【授業計画 備考2】</b> このコースは、学生が以前のレッスンを使用してビジネス英語とディスカッションスキルを向上できるように設計されています。 したがって、できるだけ多くのレッスンに参加することが重要です。 The course is designed so that students can improve their business English and discussion skills using previous lessons. It is therefore important to attend as many lessons as possible.						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	Active participation in English 英語を使つての授業への積極的参加			
	レポート					
	小テスト	45%	3 Unit short tests (English knowledge) ユニットごと小テスト (英語に関する知識)			
	定期試験					
	その他	35%	Final discussion bid (20%) and presentation (15%)			
	自由記載	参加とショートテストは個別に評価されますが、最終的なディスカッションとプレゼンテーションはグループワークです。 グループの各メンバーはチームをサポートする必要があります。 The participation and short tests are evaluated individually, but the final discussion and presentation are group work. Each member of the group must support their team.				
<b>【受講の心得】</b> 学生は少なくとも66%のレッスンに参加する必要があります。 Students must attend at least 66% of the lessons.						

**【授業外学修】**

授業外で、授業の復習や準備、課題やレポート、自主学習を十分に行うこと。以上の内容を、週あたり2時間以上学修すること。

Students should spend 2 hours a week of their own time reviewing and preparing for lessons, doing research, homework, reports, self-study or other assignments.

使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	なし					
自由記載						
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	なし					
	自由記載	学生は、すべての授業に、必要な準備物（辞書、授業ファイル、ノート、ワークシート、課題など）をすべて持参すること。この授業は、積極的な授業参加と比較的高いレベルの英語を必要とする。Students should bring their dictionaries, course file, notebook, worksheets, homework and other necessary materials to every class. This course requires active participation in English and a relatively high level of English.				

**【担当教員の実務経験の有無】**

無

**【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】**

無

授業科目名	観光英語B		サブタイトル		授業番号	LF204
担当教員名	竹野 純一郎					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
この講義では海外から日本を訪れる留学生、旅行者などに対して、英語で日本紹介や簡単な通訳案内ができるようになることを目的としている。日本を訪れる人々に日本のことをより良く知ってもらうためには、英語と知識を磨かなければならない。英語での伝達能力を強化するために毎時間暗唱テストを行い、日本についての知識面を補強するために定期的に小テストを行う。						
<b>【到達目標】</b>						
本講義では、日本と観光について学び、その知識を英語で表現できるようにすることを目標とする。日本国内で通訳案内をする際に想定される様々な場面において、英語での円滑なコミュニケーションができるようになることを目指す。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：日本政府観光局（JNTO）について / 日本を紹介する英語表現 第2回：日本の地理・歴史 / 北海道 第3回：日本の観光（1） / 東北 第4回：日本の観光（2） / 関東（1） 第5回：日本の料理（1） / 関東（2） 第6回：日本の料理（2） / 中部（1） 第7回：日本の宗教 / 中部（2） 第8回：日本の伝統芸能（1） / 近畿（1） 第9回：日本の伝統芸能（2） / 近畿（2） 第10回：日本の行事 / 中国 第11回：日本の祝祭日 / 四国 第12回：日本の娯楽・スポーツ / 九州（1） 第13回：日本の教育・ビジネス / 九州（2） 第14回：日本の世界遺産（1） 第15回：日本の世界遺産（2）						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢 / 態度	20%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。			
	レポート	20%	課題のテーマについて調べ適切にまとめ、自分の考えを具体的に述べていること。課題やレポートのフィードバックは授業時に全体に対して行う。			
	小テスト	20%	小テストで日本の観光や英語に関する理解度を評価する。なお、小テストの実施はあらかじめアナウンスする。			
	定期試験					
	その他	40%	毎授業開始時に前時に学んだ内容の通訳案内暗唱テストを行う。どれだけ覚えることができたかを評価する。			
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
背景となる日本事象全般に関する知識が必要となるので、日頃から知識獲得に努めてほしい。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として、テキストを読み、授業内容にかかわる部分の疑問点を明らかにする。 2 復習として、前時に学んだ通訳案内模範文を暗記し、暗唱テストの準備をする。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	なし（毎回プリント配布）				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
公立高等学校英語科教諭						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
学校現場での経験を生かして、効果的な英語学習法について指導する。						

授業科目名	観光産業論		サブタイトル	授業番号	LF303	
担当教員名	田村 秀昭					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科		単位数	2単位		
開講年次	3年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b> 観光産業の歴史の変遷，旅行業の観光産業内の位置づけ，ホスピタリティ産業としてのホテルの組織運営や経営管理，観光・レジャー産業について幅広く基礎的知識を学ぶ。 具体的には（１）観光産業の歴史と現状の把握，（２）旅行業の特徴及び交通・宿泊・飲食産業との関係，（３）宿泊産業の経営形態とマネジメント，（４）観光・レジャー産業の動向その将来像，などについて幅広く学ぶ。また，観光資源を活用し地創方創生を推進する観光まちづくりに取り組める人材の育成をめざして講義・解説する。 担当教員が40年に及び観光・旅行業界での経験を生かした「現場」の実情を解説します。						
<b>【到達目標】</b> ・観光産業の概要と社会に及ぼす影響を理解できる。 ・観光産業の果たす役割と仕組み，及び課題を理解できる。 ・宿泊業におけるホスピタリティとマネジメントについて理解できる。 ・観光を核とした地域活性化等のまちづくり産業の振興方法について理解できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：観光とは何か（観光産業の概念）（担当田村秀昭） 第2回：観光産業の歴史と現状（担当田村秀昭） 第3回：観光産業の効果，観光産業の構図と経営（担当田村秀昭） 第4回：旅行業の歴史と変遷（担当田村秀昭） 第5回：旅行会社の業務（アウトバウンド）（担当田村秀昭） 第6回：旅行会社の業務（インバウンドと観光開発）（担当田村秀昭） 第7回：宿泊産業の歴史とホテル経営の理念（担当田村秀昭） 第8回：ホスピタリティ（ホテルサービスと日本のおもてなし）（担当田村秀昭） 第9回：宿泊産業の経営形態とマネジメント（担当田村秀昭） 第10回：観光に関わるその他の産業（担当田村秀昭） 第11回：地方創生とツーリズム（定住人口と交流人口）（担当田村秀昭） 第12回：旅行商品の着想（発地型から着地型へ）（担当田村秀昭） 第13回：観光資源の活用(地域の産業と観光との連携)（担当田村秀昭） 第14回：観光まちづくりのあり方（担当田村秀昭） 第15回：観光産業の課題と展望（担当田村秀昭）						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		20%	意欲的な授業態度，授業への貢献度を評価する。		
	レポート		20%	レポート・提出物		
	小テスト					
	定期試験		50%	期末試験		
	その他		10%	プレゼンにより積極的に自分の考えを発表できるかを評価する。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b> ・予習と復習を心がけ，授業時に取り上げた用語や内容について書籍などで調べ情報収集を行うなど，自主的な学習に努めること。 ・授業中のペア・グループでの発表活動を実施するので積極的に参加すること。 ・観光・レジャー産業を用いた地域振興案を考える習慣を付けること。						
<b>【授業外学修】</b> ・テキスト内容については授業までに予習すること。 ・毎回の授業内容について復習しておくこと。 ・受講において事前に課題を出す場合があります。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	観光概論		穴戸学ほか	(株)JTB総合研究所	2,477円(税別)	
	自由記載					
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有 <b>【担当教員の実務経験】</b> (株)JTBでの37年間の実績，中国運輸局・中四国農政局等での委員経験など					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> JTBでの多岐に渡る業務経験と実績を元に，「現場」で起きている事象を例に具体的に指導する。行政の委員経験を活かし，観光行政の方向性も示してゆく。						



授業科目名	国際経営論		サブタイトル	授業番号	LF404	
担当教員名	佐々木 公之					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科		単位数	2単位		
開講年次	4年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>						
<p>本講義の目的は、国際経営の実態を理解することである。本講義ではまず、国際経営活動について学ぶ。具体的には、輸出、海外生産、海外研究開発、輸入、技術導入、外国企業との合併などの活動である。次に、現代の国際経営に至るまでの歴史的なプロセスについて学ぶ。そのうえで、現代の国際経営ではどのような課題が見られるか、国際経営の今後の展望はどうであるかに、についても見ていく。</p> <p>更には、国内経営と比較した場合の国際経営の特徴も把握する。国際経営の個別的な事実だけでなく、国際経営の全体像、達成した成果、残されている課題についても理解しながら講義を進める。</p> <p>授業では、積極的に事例を盛り込むことで、国際経営という広い領域についても、具体的にイメージできるようにする。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>本講義の到達目標は、国際経営における基礎知識を理解し、日本企業の国際経営の課題を考えながら実態を把握することである。具体的には、国際経営に関する本や雑誌、記事を読み内容をわかった上で、その内容について他人に説明ができるようになることである。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：国際経営環境の新しい動き：外部環境の新しい動き  第2回：国際経営とは：多国籍企業の経営  第3回：国際経営戦略(1)：国際経営戦略の歴史的展開  第4回：国際経営戦略(2)：ケーススタディ（トヨタ自動車）  第5回：国際マーケティング(1)：輸出マーケティングと国際調達  第6回：国際マーケティング(2)：グローバル・サプライチェーン・マネジメント  第7回：海外生産(1)：海外生産の発展と日本的生産のグローバル展開  第8回：海外生産(2)：ケーススタディ（シーゲート・テクノロジー）  第9回：技術移転と海外研究開発：技術の国際移転、海外研究開発とソフトウェアの海外開発  第10回：国際経営マネジメント：国際経営を行ううえでの論点と対応策  第11回：北米・欧州のなかの日本企業：北米と欧州  第12回：アジアのなかの日本企業：アジアと中国、インド&amp;ケーススタディ（アジアにおけるグローバル小売競争の展開）  第13回：新興国市場と日本企業：新興国市場と新興国戦略  第14回：サービス企業の海外進出：サービス企業の特徴と海外進出  第15回：国際経営の新展開：国際経営戦略の新しい動きと国際経営マネジメントの革新</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		20%	発言による授業の進行に対する貢献度を評価する（発言内容のレベルは問わない）		
	レポート		30%	講義内容の正しい把握ができているかを評価する（自分の言葉による論理的な説明を求める）		
	小テスト					
	定期試験		50%	授業で取り扱った視点、論理を用いて、論理的に表現ができているかを評価する（記述試験を予定）		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
<p>事前学習は不要であるが、既習の経営学の中にある「ビジネスの海外展開」に関して、理解があいまいな場合は、再度学習しておくこと。</p> <p>毎回、事後学習として、授業で実施した内容について、復習をして欲しい。復習のポイントは、授業中に指示をする。</p> <p>また、「国際経営」に関する新聞等の記事を読み、テーマ・主要論点・ポイントをまとめることを望む。</p>						
<b>【授業外学修】</b>						
上記、復習、新聞記事のまとめなどに週当たり4時間以上を充てること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	『国際経営 第4版』（2015）		吉原英樹	有斐閣	2160円	4641220646
自由記載						
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	『ケースに学ぶ国際経営』（2013）		吉原英樹編、白木三秀編、新宅純二郎編、浅川和宏編	有斐閣	3024円	4641184151
自由記載						
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	グローバル経済論		サブタイトル		授業番号	LF205
担当教員名	田口 雅弘					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
世界経済の発展，現在の世界経済秩序，各地域の経済問題の基礎を学ぶ。						
<b>【到達目標】</b>						
現代世界経済をとらえる視座を身につけ，世界各地の政治・経済事情への理解を深める。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：世界経済の規模と趨勢 第2回：現代のグローバル経済秩序 第3回：アメリカ 超大国の光と影 第4回：日本 バブルの発生から崩壊まで 第5回：日本 経済長期低迷と構造改革 第6回：E U E Uの発展と通貨統合 第7回：E U 地域統合の深化と拡大の限界 第8回：世界経済の変化と新興市場 第9回：新興諸国の台頭（韓国） 第10回：新興諸国の台頭（中国） 第11回：新興諸国の台頭（東南アジア） 第12回：新興諸国の台頭（インド，アフリカ） 第13回：21世紀の新しいグローバル経済秩序 第14回：グローバリゼーションの行方 第15回：まとめ（講義全般の復習）						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		10%	授業での積極的な討論を評価する。		
	レポート		60%	2回の中間レポートをそれぞれ30点満点で評価する。		
	小テスト					
	定期試験		30%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
	自由記載	成績評価における2回の中間レポートの比重が高い。レポートは，講義で提示するテーマについて，自分自身でリサーチ（資料収集）を行い，指示された形式で作成する。				
<b>【受講の心得】</b>						
日々起こっている世界の経済ニュースを，日常的に確認すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
レポート作成は，社会で通用する文章の書き方の練習も兼ねているので，決められた形式を踏まえたりサーチ，執筆をしっかりと練習してほしい。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	世界経済図説 第四版		宮崎勇，田谷禎三	岩波書店	880円	9784004318309
	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
なし						

授業科目名	EU経済論		サブタイトル		授業番号	LF206
担当教員名	田口 雅弘					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
EU諸国経済の基礎知識を講義するとともに、地域統合が抱える諸問題を解説する。						
<b>【到達目標】</b>						
ヨーロッパ地域に関する知識と理解を深め、また地域統合のプロセスと諸問題を理解する。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：ヨーロッパとは何か 第2回：ヨーロッパの発展（1）産業革命のヨーロッパ 第3回：ヨーロッパの発展（2）摩擦の時代と二つの大戦 第4回：ヨーロッパの発展（3）第二次世界大戦後の政治・経済秩序 第5回：ECの拡大と市場統合 第6回：通貨統合の道のりとユーロの実力 第7回：EUの組織と地域経済圏 第8回：イギリス：混合体制から自由主義を経てEU離脱まで 第9回：東西対立と東欧社会主義諸国 第10回：中東欧体制転換とEU東方拡大 第11回：世界金融危機と南欧問題 第12回：ドイツ：第四次産業革命 第13回：EU危機と民主主義・ポピュリズム 第14回：グローバリゼーションの光と影 第15回：まとめ（講義全般の復習）						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		10%	授業での積極的な討論を評価する。		
	レポート		60%	2回の中間レポートをそれぞれ30点満点で評価する。		
	小テスト					
	定期試験		30%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
	自由記載	成績評価における2回の中間レポートの比重が高い。レポートは、講義で提示するテーマについて、自分自身でリサーチ（資料収集）を行い、指示された形式で作成する。				
<b>【受講の心得】</b>						
ヨーロッパ経済に関するニュースを、日常的に確認すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
週2、3時間の予習・復習が必要。レポート作成は、社会で通用する文章の書き方の練習も兼ねているので、決められた形式を踏まえたりサーチ、執筆をしっかり練習してほしい。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	現代ヨーロッパ経済		田中素香 [ほか]	有斐閣	3080円	784641221086
	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
なし						

授業科目名	日・アセアン関係		サブタイトル		授業番号	LF304
担当教員名	富田 暁					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	3年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
アセアン加盟10カ国は参加国の主権を重んじ、意思決定はコンセンサスに基づいて行われるが、経済を中心に次第に地域統合の度合いを高めつつある。それに加えて、アセアンという地域連合は国際社会の様々な場で存在感を強めつつある。また、2019年のアセアンの総人口は6.5億人を上回り、経済発展の著しい地域でもある。日本にとっても、アセアン諸国との交流は政治・経済・文化のあらゆる分野において重要性を益々増加させている。授業では、アセアン加盟国のそれぞれの歴史・政治・経済・文化の特徴を概観し、日本との関係についても学習する。						
<b>【到達目標】</b>						
アセアン各国の特徴（多様性）と共通性、ならびに急速な経済発展を続けるアセアンの潜在力を理解できるようになる。それに加えて、現在までの日本とアセアンとの関係について理解・考察した上で、今後の関係の在り方について考察・展望できる視点を養う。そしてそれらによって、自身が得た知見を他人に的確に伝え議論できる能力を養成・強化する。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
<b>【授業計画 備考】</b>						
授業の進め方としては、最初の数回は教員によるアセアン（東南アジア）の歴史・文化に関する基礎的な説明・解説を行う。その後は受講生に国別の概要紹介を割り当てる（誰がどの回を担当するかは相談して決定する）。受講生は下記の参考文献などを使用して担当箇所の要旨を準備してプレゼンテーションを行い、それに対して教員が解説を加えると共に、受講生全員で議論する。						
第1回：東南アジアの自然と社会 第2回：古代・中世東南アジアの歴史と文化 第3回：近世東南アジアの歴史と文化 第4回：近代東南アジアの歴史と文化（1） ：植民地と民族主義・ナショナリズム 第5回：近代東南アジアの歴史と文化（2） ：日本占領期と独立 第6回：アセアンの概観 第7回：タイの政治・経済・文化の特徴と日本との関係 第8回：ミャンマーの政治・経済・文化の特徴と日本との関係 第9回：カンボジア・ラオスの政治・経済・文化 第10回：フィリピンの政治・経済・文化の特徴と日本との関係（2） 第11回：ベトナムの政治・経済・文化の特徴と日本との関係（2） 第12回：インドネシアの政治・経済・文化の特徴と日本との関係（2） 第13回：マレーシアの政治・経済・文化の特徴と日本との関係（2） 第14回：シンガポールの政治・経済・文化の特徴と日本との関係 第15回：日本のなかのアセアン						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		40%	毎回の授業での、積極性や取り組み態度ならびに発表・討議への参加状況によって評価する。		
	レポート		20%	課題として与える最終レポートの結果を評価する。課題内容について調査結果を具体的かつ端的に述べた上で自分の分析・コメントが十分になされていることを評価基準とする。レポートについては教員からのコメントを返す。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他		40%	自分の発表担当回の後の授業で、発表時に示された質問や論点に関する補足解説をしてもらう。それに対する取り組みや回答内容に対して評価を行う。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
受講にさいしては高校卒業程度または一般常識程度の、歴史、地理、政治経済などの知識を確認しておくことが望ましい。本授業では、相互学習による理解促進と対話による相互理解進展のためにも、単に講義や発表を聞いて理解するだけではなく、質疑や議論に積極的に参加することが期待される。						
<b>【授業外学修】</b>						
配布する資料、使用テキスト、紹介する参考文献をもとに予習復習を行うこと。ニュースやインターネットなどを通じてアセアン諸国に関する情報を日々チェックすること。以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	図解 ASEANを読み解く（第2版）		みずほ総合研究所	東洋経済新報社	1800円（税別）	978-4492093283
自由記載						
参考書	自由記載		黒柳米司・金子芳樹・吉野文雄（編著）『ASEANを知るための50章』明石書店、2015年。 今井昭夫（編集代表）『東南アジアを知るための50章』明石書店、2014年。その他の参考文献は授業中に適宜紹介する。			
	【備考】		身の回りに存在するアセアンに関係する様々な事柄に注目して見ることで授業に対する興味関心や理解度が深まります。			
	【注意事項】		受講生の受講状況や新型コロナウイルスの感染状況によっては、受講生と相談の上で講義計画・内容を適宜修正・変更する可能性があります。			
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	アジア食品論		サブタイトル		授業番号	LG201
担当教員名	中安 章					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
<p>アジアは有史以来世界の人口の6割を占めている。食の面から考えると、世界の主要文明が主食穀物を小麦として発達して来たのに対して、日本を含む東アジアとその南に位置する東南アジアでは米を主食穀物米として発達してきた。</p> <p>この講義では、日本と食の面で共通性を強く持つ東アジア、東南アジアを中心にそこでの農業生産、食品生産と流通、貿易の状況を理解しながら、日本との関係、方向性を考える。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>身近な外国としての外国、東アジア、東南アジアに対して、食品及び農産物という対象物の生産、流通、消費及び貿易の事態を理解することと合わせて、グローバリゼーションの進展と日本との関係を理解する視点を養う。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：アジアの米食文化とヨーロッパの肉食文化  第2回：今年日本の食料消費  第3回：世界の食料需給と日本の食料自給  第4回：日本の食料輸入の動向  第5回：東アジア地域の農業，食品の生産と食生活（1）中国1  第6回：東アジア地域の農業，食品の生産と食生活（2）中国2  第7回：東アジア地域の農業，食品の生産と食生活（3）韓国  第8回：東南アジア地域の農業，食品の生産と食生活（1）ベトナム  第9回：東南アジア地域の農業，食品の生産と食生活（2）タイ  第10回：東南アジア地域の農業，食品の生産と食生活（3）インドネシア  第11回：東南アジア地域の農業，食品の生産と食生活（4）フィリピン等  第12回：他のアジア地域の農業，食品の生産と食生活  第13回：アジア食品と「ハラル」  第14回：日本の農産物輸出とアジア  第15回：まとめ</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		10%	発言による授業の進行に対する貢献度を評価する。		
	レポート		30%	中間時点でレポートを課し、講義内容の正しい把握ができているかを評価する。（自分の言葉による論理的な説明を求める）		
	小テスト					
	定期試験		60%	授業で取り扱った視点、論理を用いて、論理的に表現ができているかを評価する（記述式のレポート試験を予定）		
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
<p>受講生は、授業で提供する資料・データだけに留まらず、関連情報について文献、インターネット等を使って収集し、理解するように努めること。</p>						
<b>【授業外学修】</b>						
<p>復習とあわせて、文献、インターネット等での情報収集を行う。  以上のことを、週当たり4時間以上を充てること。</p>						
使用テキスト	自由記載	使用しない				
参考書	自由記載	講義の中で適宜紹介する				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	フードシステム論		サブタイトル		授業番号	LG202
担当教員名	中安 章					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
<p>フードシステムとは、「食料となる農水産物が生産され、消費者にわたるまでの食料・食品の流れをシステムとしてとらえたもの」である。物の動きとして、農林水産業から、農水産物卸売業、食品製造業、食料品小売業、外食産業を経て消費者までの流れをトータル的に考察していくものである。本講義では、それぞれの産業に携わる人々の動きに注目して、消費者の行動から遡って考察する。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>日本の農業、食料とそれを取り巻く諸産業に関心を払うと同時に、消費者行動の変化についての基礎的知識が必要とされる。あわせて、フードシステムを構成する諸産業・企業の間接性を理解する視点を養う。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：フードシステムとは  第2回：日本の食と農の変遷  第3回：消費者行動の変化と食料消費の動向  第4回：消費者の青果物購買と消費  第5回：外食産業と中食産業  第6回：農産物流通の動き（1）小売市場  第7回：農産物流通の動き（2）卸売市場  第8回：農産物流通の動き（3）農産物直売  第9回：食品加工業  第10回：日本農業の動向  第11回：農業の六次産業化  第12回：日本の農産物・食品貿易  第13回：日本の食料自給率  第14回：食品流通における諸問題  第15回：まとめ</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		10%	発言による授業の進行に対する貢献度を評価する。		
	レポート		30%	中間時点でレポートを課し、講義内容の正しい把握ができていないかを評価する。（自分の言葉による論理的な説明を求める）		
	小テスト					
	定期試験		60%	授業で取り扱った視点、論理を用いて、論理的に表現ができていないかを評価する（記述試験を予定）		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
受講生は、授業で提供する資料・データだけに留まらず、関連情報について文献、インターネット等を使って収集し、理解するように努めること。						
<b>【授業外学修】</b>						
<p>復習とあわせて、文献、インターネット等での情報収集を行う。  以上のことを、週あたり4時間以上を充てること。</p>						
使用テキスト	自由記載	使用しない				
参考書	自由記載	講義の中で適宜紹介する				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	アグリビジネス論		サブタイトル		授業番号	LG301
担当教員名	中安 章					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	3年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
アグリビジネスとは、「農業資材・サービス供給産業、食品加工産業、飲食産業そして関連する流通産業等を総称したものである」と定義される。これらは農業関連産業として位置づけられ、グローバル化の下で日本農業の方向性を考えることが重要となる。この講義では、日本農業に焦点を当て、農商工連携あるいは農業の六次産業化の実態と方向性を考える。						
<b>【到達目標】</b>						
日本及び世界の農業、食料とそれを取り巻く諸産業に関心を払うと同時に、これらの持つ諸問題の理解においては、グローバル化とアグリビジネスについての基礎的知識が必要とされる。あわせて、アグリビジネスの具体的な姿を理解する視点を養う。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：アグリビジネスの概観と概念 第2回：日本におけるアグリビジネスの動き 第3回：アグリビジネスと農業 第4回：農業と資材産業 第5回：食品加工産業の動向 第6回：外食産業の動向 第7回：農産物・食品の流通の変化と農業 第8回：アグリビジネスの下での農村 第9回：農商工連携と農業、農村 第10回：農業の六次産業化 第11回：農業における法人化 第12回：都市農村交流とアグリビジネス 第13回：アジアにおけるアグリビジネス（1） 第14回：アジアにおけるアグリビジネス（2） 第15回：まとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		10%	発言による授業の進行に対する貢献度を評価する。		
	レポート		30%	中間時点でレポートを課し、講義内容の正しい把握ができていないかを評価する。（自分の言葉による論理的な説明を求める）		
	小テスト					
	定期試験		60%	授業で取り扱った視点、論理を用いて、論理的に表現ができていないかを評価する（記述式のレポート試験を予定）		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
受講生は、授業で提供する資料・データだけに留まらず、関連情報について文献、インターネット等を使って収集し、理解するように努めること。						
<b>【授業外学修】</b>						
復習とあわせて、文献、インターネット等での情報収集を行う。 以上のことを、週あたり4時間以上を充てること。						
使用テキスト	自由記載	使用しない				
参考書	自由記載	講義の中で適宜紹介する				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	地域資源論		サブタイトル	授業番号	LG203
担当教員名	未定				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科		単位数	2単位	
開講年次	2年		開講期	前期	
必修・選択	選択		授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>					
<p>本講義では、地域経済の衰退や人口減少ならびに高齢化問題の解決を目的として、「地域資源活用による地域活性化対策」に関わる計画策定ができるようにする。地域活性化対策を目的として、利用可能な地域資源の存在量の計測、および地域資源を活用した地域活性化対策に関わる問題点の把握と問題点解決のための対策を提示できる能力を備えた人材を育成する。具体的には、地域活性化のための「専門知識」、問題解決に向けた「思考力・判断力・表現力」を養うとともに、問題解決に積極的に取り組む「主体性・態度」を身につけさせる。</p>					
<b>【到達目標】</b>					
<p>1) 地域社会が抱える問題点および課題を正確に把握し、地域活性化に対応可能な地域資源活用方策を提案できる。  2) 地域における利用可能資源の分類ができる。  3) 地域資源を活用した地域活性化プランの作成ができる。  4) 地域の人々と協力して地域資源活用に取り組むことができる。  5) 地域活性化に対して、政策提案ができる。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、知識・理解 および 思考・問題解決能力 を習得するのに貢献する。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
<p>第1回：我が国における戦後から高度経済成長期までの経済政策と地域社会との関係・問題点把握【事前学習】事前配布資料を読み込み、重要ポイントを整理する。  【事後学習】講義ノートの整理</p> <p>第2回：我が国における高度経済成長期からバブル経済崩壊までの経済政策と地域社会の問題点把握【事前学習】事前配布資料を読み、重要ポイントを整理する。  【事後学習】講義ノートの整理</p> <p>第3回：我が国におけるバブル経済崩壊以後から現代までの経済政策と地域社会の関係・問題点把握【事前学習】事前配布資料を読み込み重要ポイントを整理する。  【事後学習】講義ノートの整理</p> <p>第4回：利用可能な地域資源リスト作成(1)自然資源リストの作成および資源の利用可能性把握【事前学習】事前配布資料を読み込み重要ポイントを整理する。  【事後学習】講義ノートの整理</p> <p>第5回：利用可能な地域資源リスト作成(2)文化資源リストの作成および資源の利用可能性把握【事前学習】事前配布資料を読み込み重要ポイントを整理する。  【事後学習】講義ノートの整理</p> <p>第6回：地域活性化と地域資源活用対策(1)農林水産業資源の活用【事前学習】事前配布資料を読み込み重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理</p> <p>第7回：地域活性化と地域資源活用対策(2)農村文化資源の活用【事前学習】事前配布資料を読み込み重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理</p> <p>第8回：地域活性化と地域資源活用対策(3)地場産業・技術の活用【事前学習】事前配布資料を読み込み重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理</p> <p>第9回：地域活性化と地域農業活性化(1)農業生産力アップによる地域経済効果【事前学習】事前配布資料を読み込み重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理</p> <p>第10回：地域活性化と地域農業活性化(2)地域活性化と農産物直売所の活用【事前学習】事前配布資料を読み込み重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理</p> <p>第11回：農山村地域の利用可能資源と地域活性化(1)農村文化の活用と地域活性化【事前学習】事前配布資料を読み込み重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理</p> <p>第12回：農山村地域の利用可能資源と地域活性化(2)地域特産物活用と地域活性化【事前学習】事前配布資料を読み込み重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理</p> <p>第13回：農業活性化と地域活性化【事前学習】事前配布資料を読み込み重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理</p> <p>第14回：地域内経済循環の意義(1)【事前学習】事前配布資料を読み込み重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理</p> <p>第15回：地域内経済循環の意義(2)【事前学習】事前配布資料を読み込み重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理</p>					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢/態度		10%	予習・復習内容等に関して、講義中に質問し、それに対する回答内容・態度により評価する。	
	レポート		10%	地域資源の中で、どの様な地域資源が、どの様に活用されているかに関してインターネット等で情報収集し、具体的な事例紹介のレポートを提出させ、その内容および情報収集の努力も評価点に加えて、総合的に評価する。	
	小テスト		20%	講義中に、理解度を確認するため、小テストを実施する。	
	定期試験		60%	講義期間全体を通じての内容に関して試験を課し、解答してもらう。	
	自由記載		関心のある社会問題について、新聞、インターネット等で調べ、疑問等を講義中に質問することを勧める。		
<b>【受講の心得】</b>					
<p>農山村地域は、人口減少、産業・社会活動が停滞し、利用可能な資源はほとんど無い・・・とされているが、発想の転換次第では、利用可能な資源が沢山ある。どの資源を、どの様に活用すれば、地域活性化を為していけるのかについて、考え続けて欲しい。そして、疑問点に関して、講義中に質問して欲しい。</p>					
<b>【授業外学修】</b>					
<p>講義内容と関連する各地域の地域資源利用に関する事例を紹介するので、(1)インターネット等で関連事案について調べ、整理しておく。また、(2)地域資源利用の具体的事例に關係する情報を収集する。とくに、農林水産省や国土交通省のホームページにアクセスし、情報収集しておくこと。また、気付いた点をメモしておき、講義中に意見発表や質問をすること。(3)復習として、講義ノートをまとめる。以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。</p>					
使用テキスト	自由記載	教科書は使用しない。毎回、講義担当者が作成した講義資料を配付する。			
参考書	自由記載	特に指定しないが、必要に応じて、必要部分を資料として配付する。			
<b>【担当教員の業務経験の有無】</b>					
無					
<b>【担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無】</b>					
無					



授業科目名	地域政策		サブタイトル	授業番号	LG204
担当教員名	未定				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科		単位数	2単位	
開講年次	2年		開講期	後期	
必修・選択	選択		授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>					
本講義では、(1)我が国が直面している人口減少・少子高齢化問題ならびに地域社会衰退に関わる問題点の把握、そして、(2)これら諸問題解決のために実施すべき対策を提示すると同時に、(3)対策実現のために採るべき具体的な行動計画を策定できる能力を備えた人材の育成を目指す。これらにより、地域社会問題解決のための「専門知識」、地域社会の問題解決に向けた「思考力・判断力・表現力」を養うとともに、問題解決に積極的に取り組む「主体性・態度」を身につけさせる。					
<b>【到達目標】</b>					
地域社会の抱える諸問題の把握とこれら諸問題解決に向けた対策を提示できる能力を身につけさせることを到達目標とする。					
1) 日本全体における人口問題や地域経済が抱える問題点および課題を正確に把握できる。					
2) 地域政策のための政策立案能力を身につけることができる。					
3) 地域活性化に対して、政策提案ができる。					
なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、知識・理解 および 思考・問題解決能力 を習得するのに貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：国土交通省による「国土のグランドデザイン2050」の解説【事前学習】配付資料「グランドデザイン2050」の関連部分を読み、重要ポイントを整理する。 【事後学習】講義ノートの整理					
第2回：国土交通省による国土のグランドデザイン2050の問題点把握(1)【事前学習】 事前配付した資料「グランドデザイン2050」の関連部分を読み、重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理					
第3回：国土交通省による国土のグランドデザイン2050の問題点把握(2)【事前学習】 事前配付資料「グランドデザイン2050」の関連部分を読み、重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理					
第4回：国土交通省による国土のグランドデザイン2050の問題点把握(3)【事前学習】 事前配付資料「グランドデザイン2050」の関連部分を読み、重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理					
第5回：国土交通省資料『中国地域の現状と問題点(1)：地方自治体における財政問題』【事前学習】 事前配布の国土交通省資料『中国地域の現状と問題点(1)』の関連部分を読み、重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理					
第6回：国土交通省資料『中国地域の現状と問題点(2)：中国地域の人口問題』【事前学習】 事前配付資料「グランドデザイン2050」の関連部分を読み、重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理					
第7回：国土交通省資料『中国地域の現状と問題点(3)：中国地域の経済問題』【事前学習】 事前配付資料「グランドデザイン2050」の関連部分を読み込み重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理					
第8回：国土交通省による中国圏広域地方計画の内容評価(1)：中国地域が抱える問題点把握【事前学習】 「国土交通省による中国圏広域地方計画」を読み込み重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理					
第9回：国土交通省による中国圏広域地方計画の内容評価(2)：中国地域の地域経済問題把握【事前学習】 「国土交通省による中国圏広域地方計画」を読み込み、重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理					
第10回：国土交通省による中国圏広域地方計画の内容評価(3)：中国地域の活性化対策 【事前学習】「国土交通省による中国圏広域地方計画」を読み込み重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理					
第11回：国土交通省資料の人口移動の要因分析(1)：人口移動と経済問題との関連性【事前学習】事前配付資料の読み込み。【事後学習】講義ノートの整理					
第12回：国土交通省資料の人口移動の要因分析(2)：人口問題と社会問題との関連性【事前学習】事前配付資料の読み込み。【事後学習】講義ノートの整理					
第13回：国土交通省資料の地域経済活性化対策(1)：農林業から見た地域経済活性化【事前学習】事前配付資料の読み込み。【事後学習】講義ノートの整理					
第14回：国土交通省資料の地域経済活性化対策(2)：製造業から見た地域経済活性化【事前学習】事前配付資料の読み込み。【事後学習】講義ノートの整理					
第15回：国土交通省資料の地域経済活性化対策(3)：流通・小売りから見た地域経済活性化【事前学習】事前配付資料の読み込み。【事後学習】講義ノートの整理					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	10%	予習・復習内容等に関して、講義中に質問し、それに対する回答内容・態度により評価する。		
	レポート	10%	人口減少・少子高齢化問題ならびに地域社会衰退に関わる問題点の理解が出来ているかどうかを評価する。また、関連情報の収集に関する努力も評価する。		
	小テスト	20%	講義中に、理解度を確認するため実施する		
	定期試験	60%	講義期間全体を通じての内容について試験を課し、解答してもらう。		
	その他				
	自由記載		関心のある地域社会問題について、新聞、インターネット等で調べ、疑問等を講義中に質問すること。		
<b>【受講の心得】</b>					
地域社会は、人口減少、産業・社会活動の停滞などにより、活力が低下してきている。しかしながら、中国地域には、農林業や、地域に根ざした企業のなかに、新たな発展の可能性を秘めた事例がある。さらに、有望な利用可能資源も沢山ある。どの資源を、どの様に活用すれば、地域活性化を為していけるのかについて、考え続け、本講義から、何らかのヒントを得て欲しい。					
<b>【授業外学修】</b>					
インターネットを通じて、全国の中で取り組まれている、ユニークな地域活性化への取り組みを各自で調べ、纏める。その成果を、講義中に発表できる時間を確保する。以上の内容を、週あたり4時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載	教科書は使用しない。必要に応じて、国・県・地方自治体等の資料を印刷・配付する。			
参考書	自由記載	特に指示しないが、必要に応じて、必要部分を資料として配付する。			
<b>【担当教員の業務経験の有無】</b>					
無					
<b>【担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無】</b>					
無					

授業科目名	農産物直売所と地域活性化		サブタイトル	授業番号	LG302
担当教員名	未定				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科		単位数	2単位	
開講年次	3年		開講期	前期	
必修・選択	選択		授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>					
<p>本講義では、農産物直売所の運営を通じて、地域農業振興と地域活性化との双方を同時に達成可能とする「地域活性化プラン策定」を実施できる力を養うことを目的とする。農業・農村における問題点の把握と問題点解決のための対策立案が実施できる人材育成を目指す。これらにより、農産物のマーケティング戦略策定や地域活性化プラン策定に向けた「思考力・判断力・表現力」を養うとともに、問題解決に積極的に取り組む「主体性・態度」を身につけさせる。</p>					
<b>【到達目標】</b>					
<p>1) 農産物直売所が抱える問題点および課題の把握・分析・整理ができる。  2) 農産物直売所が抱える問題点・課題の分析に基づいて、改善方策を提案できる。  3) 農産物直売所の運営戦略・マーケティング戦略立案が出来る。  4) 課題解決を通じて、地域活性化対策の提案が出来る。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞および＜思考力・問題解決能力＞を習得するのに貢献する。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
<p>第1回：我が国における農業・農村の現状(1)【事前学習】事前配布した農林水産省資料の関連部分を読み、重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理  第2回：我が国における農業・農村の現状(2)【事前学習】事前配布した農林水産省資料の関連部分を読み、重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理  第3回：農産物流通の現状と問題点・課題(1)【事前学習】事前配布した農林水産省資料の関連部分を読み、重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理  第4回：農産物流通の現状と問題点・課題(2)【事前学習】事前配布した農林水産省資料の関連部分を読み、重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理  第5回：地域農業振興と農産物直売所の役割【事前学習】事前配布した資料の関連部分を読み、重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理  第6回：農産物直売所の魅力づくり（農業生産面）【事前学習】事前配布した資料の関連部分を読み、重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理  第7回：農産物直売所の魅力づくり（農産物販売面）【事前学習】事前配布した資料の関連部分を読み、重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理  第8回：農産物出荷者および農産物直売所における商品管理対策【事前学習】事前配布した資料の関連部分を読み、重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理  第9回：農産物直売所の販売員に対する商品管理教育【事前学習】事前配布した資料の関連部分を読み、重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理  第10回：農産物直売所のマーケティング戦略における景観戦略（笠岡湾干拓地を事例として）【事前学習】事前配布した資料の関連部分を読み、重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理  第11回：農産物直売所周辺における景観形成の経済価値【事前学習】事前配布した資料の関連部分を読み、重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理  第12回：農産物直売所の組織としての意思決定構造の問題点・課題：経営権限と品質管理問題【事前学習】事前配布した資料の関連部分を読み、重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理  第13回：地域活性化における農産物直売所の役割【事前学習】事前配布した資料の関連部分を読み、重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理  第14回：農産物直売所と高齢者福祉との関係性分析【事前学習】事前配布した資料の関連部分を読み、重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理  第15回：農産物直売所と地域振興【事前学習】事前配布した資料の関連部分を読み、重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理</p>					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢/態度		10%	予習・復習に関連して、講義中に質問し、それに対する回答内容・態度により評価する。	
	レポート		10%	農産物直売所と地域振興の成功事例に関係する情報をインターネット等で収集し、成功事例の内容に関してレポートを提出させる。また、レポート内容だけでなく、情報収集の努力も評価点に加えて、総合的に評価する。	
	小テスト		20%	講義中に、理解度を確認するため実施する	
	定期試験		60%	講義内容全体に関係する試験問題に回答してもらい、その内容を評価する。	
	その他				
	自由記載	講義内容と関連する社会問題について、新聞・インターネット等で調べ、疑問等を講義中に質問することを勧める。			
<b>【受講の心得】</b>					
<p>農産物直売所の店舗数は、コンビニ店舗数の約半分である。店舗数だけから見ても、大きな影響力を持っていることが分かる。一方、コンビニ店と異なるのは、直売所の管理主体は、通常、地域の農家であり、多数の農家が直売所の経営に関わっていることである。基本的には、関係者全員の合意形成によって、直売所の運営方針が決定されている。経営組織体としては、コンビニとは、大きく異なっている。もちろん、スーパー・マーケットとも大きく異なっている</p>					
<b>【授業外学修】</b>					
<p>諸種の農産物直売所に関する情報を紹介するので、(1)インターネット等で調べて、直売所の問題点や課題について整理しておく。また、(2)農産物直売所を直接訪問し、気付いた点をメモしておき、講義中に意見発表や質問をすること。(3)復習として講義ノートをまとめる。以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。</p>					
使用テキスト	自由記載	教科書は使用しない。毎回、講義担当者が作成した講義資料を配付する。			
参考書	自由記載	特に指定しないが、必要に応じて、必要部分を資料として配付する。 本講義に関係すると思われる社会問題について、新聞、インターネット等で調べ、疑問等を講義中に質問することを勧める。			
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
無					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					

授業科目名	農業政策と環境・資源保全		サブタイトル	授業番号	LG303
担当教員名	未定				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科		単位数	2単位	
開講年次	3年		開講期	後期	
必修・選択	選択		授業形態	講義	
【授業の概要】					
世界人口は急激な増加傾向にある。一方、食料生産に不可欠な農地や水資源は、質的劣化や量的不足が大きな問題となっている。また、大気中の二酸化炭素増加による地球温暖化現象により、食料生産は不安定化している。本講義では、食料安定供給を可能とする経済システム構築や、農業生産と環境・土壌・水資源保全等に関する問題点・課題の把握と解決策立案ができるようにする。そのため、農業問題・環境問題に関わる「専門知識」や「思考力・判断力・表現力」を養い、問題解決に積極的に取り組む「主体性・態度」を身につけさせる。					
【到達目標】					
1)我が国経済全体の中で、農業生産部門が担っている役割について理解できる。 2)食料生産と地域資源（土地資源・水資源・農村景観・森林資源など）との関連を理解し、政府が実施している農業政策の意味を理解できる。 3)世界レベルでみた農地・水資源問題と食料・人口問題との関係が理解できる。 4)我が国における農業・農村の問題を理解すると同時に、問題解決に向けた政策提案ができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、知識・理解 および 思考・問題解決能力 を習得するのに貢献する。					
【授業計画】					
第1回：食料・農業・農村の問題点概要【事前学習】事前配布資料を読み込み、重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理 第2回：食料消費の現状【事前学習】事前配布した農林水産省関連資料を読み込み重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理 第3回：我が国の食料安全保障水準の現状【事前学習】事前配布した農林水産省関連資料を読み込み重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理 第4回：諸外国における食料安全保障政策【事前学習】事前配布した関連資料を読み込み重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理 第5回：農業就業人口と農村問題【事前学習】事前配布した農林水産省関連資料を読み込み重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理 第6回：過疎化と農業・農村問題【事前学習】事前配布した農林水産省関連資料を読み込み重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理 第7回：農業生産と水資源問題【事前学習】事前配布した関連資料を読み込み重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理 第8回：アメリカにおける土壌浸食と食料生産の現状【事前学習】事前配布したアメリカ農務省資料を読み込み重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理 第9回：中東地域における水資源問題と食料生産の現状【事前学習】事前配布資料を読み込み重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理 第10回：世界の乾燥地域における塩害と食料生産の現状【事前学習】事前配布資料を読み込み重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理 第11回：オランダにおける農地・地下水問題と農業生産の現状【事前学習】事前配布資料を読み込み重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理 第12回：スウェーデンにおける食料安全保障政策【事前学習】事前配布資料を読み込み重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理 第13回：アメリカの対日大豆輸出禁止政策と食料パニック【事前学習】事前配布資料を読み込み重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理 第14回：日本における米不作と食料パニックの経済分析【事前学習】事前配布資料を読み込み重要ポイントを整理する。【事後学習】講義ノートの整理 第15回：食料安全保障政策の必要性について（講義全体のまとめ）【事前学習】第1回～14回目の講義ノートを読み込んでおく。【事後学習】講義ノートの最終まとめをする。					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢/態度		10%	予習・復習内容等に関して、講義中に質問し、それに対する回答内容・態度により評価する。	
	レポート		10%	世界で発生している自然環境問題と食料生産との関係について、インターネット等で情報収集し、具体的な事例紹介のレポートを提出させ、その内容および情報収集の努力も評価点に加えて、総合的に判断する。	
	小テスト		20%	講義中の重要テーマに関して理解度を確認するため小テストを実施	
	定期試験		60%	講義期間全体を通じての内容に関して試験を課し、解答してもらう。	
	その他				
	自由記載	講義内容と関連する社会問題について、新聞、インターネット等で調べ、疑問等を講義中に質問することを勧める。			
【受講の心得】					
「食料安全保障」という言葉は、あまりなじみのない言葉だと思います。しかしながら、皆さんが、毎日、安心して食べ物を食べることが出来るということは大変「有り難い」ことなのです。地球上の人口は、約78億4千万人ですが、そのうち、8億2千万人は食料不足により「死」に直面しています。そのことを心に留めて講義に参加してください。毎日、十分な食料を確保でき、それを食することが出来ることの有り難さを考えて欲しい。					
【授業外学修】					
講義中に課題をだすので、インターネット等を活用して、世界における食料問題や人口問題および食料生産に必要な不可欠な農地・水資源問題に関係する記事を読んでおくこと。理解度を確保するため、講義中に質問をする。以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載	教科書は使用しない。毎回、講義担当者が作成した資料を配付する。			
参考書	自由記載	特に指定しないが、必要に応じて、必要部分を資料として配付する。			
【担当教員の実務経験の有無】					
無					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】					
無					

授業科目名	食品経済論		サブタイトル	授業番号	LG206	
担当教員名	大宮めぐみ					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科		単位数	2単位		
開講年次	2年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>						
本講義では、まず食料消費の経済理論と食料の流れ、それらに関わる経済主体の連鎖であるフードシステムについて学ぶ。その上で、わが国の食料消費構造の変化について経済理論を通じて理解する。さらに我が国の食料安全保障の実態と今後の展開、食料輸入と食料自給率、世界の食料需給などの今日的課題を題材に考察する。						
<b>【到達目標】</b>						
(1) 食料の生産から消費に至るまでの一連の流れ(フードシステム)を理解し、全体像を説明する力を身につける。						
(2) 食料の消費構造とその変化について経済学を用いて説明する力を身につける。						
(3) 食料需給に関連する社会問題について、経済学を基盤とした観点から考察、説明する力を身につける。						
本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>の取得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：食料経済論の対象領域と課題 - フードシステムとは何か？何を学ぶのか？ -						
第2回：食料経済の理論(1)						
第3回：食料経済の理論(2)						
第4回：食生活の成熟(1)						
第5回：食生活の成熟(2)						
第6回：食料消費パターンの変化						
第7回：食料の安全保障と自給率(1)						
第8回：食料の安全保障と自給率(2)						
第9回：前半のまとめ						
第10回：食品工業の構造と特徴						
第11回：食品流通業の構造と特徴(1)						
第12回：食品流通業の構造と特徴(2)						
第13回：外食・中食産業の特徴						
第14回：世界の人口と食料						
第15回：食生活と政府の役割/全体のまとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		10%	意欲的な受講態度によって評価する。		
	レポート					
	小テスト		40%	中間的な理解度を評価する。		
	定期試験		50%	到達目標に達しているかを最終的に評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
本講義では食料消費の変遷、関連産業の動向、食料に関連する今日的課題等を理解し、自らのこととして考え、その考えを説明できる力を身につけることを到達目標とする。そのためには、「食」に関わるニュースや新聞記事、さまざまな情報に日頃から関心を持ち、自ら調べるといった姿勢で講義に臨むこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
(1) 予習として、テキストを読み、疑問点を明らかにしておくこと。						
(2) 復習として、講義内容および配布資料の整理とまとめを行うこと。とくに講義内容に関してはノートを作成すること。						
(3) 発展学修として、食料自給率や食品産業など「食」に関わる新聞・ニュース等を積極的に収集し読んでおくこと。						
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	フードシステムの経済学 第6版		時子山ひろみ・荏開津典夫・中嶋康博	医歯薬出版株式会社	2,700円	
自由記載						
参考書	自由記載		必要に応じ適宜紹介する。			
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	無					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	フードマーケティング論		サブタイトル		授業番号	LG304
担当教員名	大宮 めぐみ					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	3年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
本講義では、前半はマーケティング理論の基礎について理解する。その上で、わが国の農産物や加工食品におけるマーケティング戦略について実際の事例から学修する。さらに後半では食品産業の中でも外食産業（フードサービス産業）のマーケティング戦略について学修する。						
<b>【到達目標】</b>						
(1) マーケティング理論に関する基本的な知識を修得すること。 (2) 農産物、加工食品に関係するマーケティング戦略がどのように行われているか理解すること。 (3) フードサービス産業におけるマーケティング戦略の知識を修得し、その特徴について理解すること。 (4) (1)～(3)を用いて、フードマーケティング戦略を考察、説明する力を身につける。 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞の取得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：フードマーケティング論の対象領域と課題-何を学ぶのか- 第2回：製品戦略 第3回：価格戦略 第4回：チャネル戦略 第5回：プロモーション戦略 第6回：事例検討(1) 農産物 第7回：事例検討(2) 加工食品 第8回：事例検討(3) 加工食品 第9回：前半のまとめ 第10回：フードサービス産業の概要と特徴 第11回：マーケティング・マネジメント 第12回：フードサービスのブランド・マネジメント 第13回：情報マネジメント 第14回：フードサービスとメディア 第15回：全体のまとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		10%	意欲的な受講態度によって評価する。		
	レポート					
	小テスト		40%	中間的な理解度を評価する。		
	定期試験		50%	到達目標に達しているかを最終的に評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
本講義ではマーケティングの基礎を理解するとともに、食に関わるマーケティングがどのように行われているかを学ぶことで、食品産業等で行われるマーケティング戦略を理解、説明できることを到達目標とする。そのためには、身近に存在する「食」に関わるニュースや新聞記事、さまざまな情報に日頃から関心を持ち、自ら調べるといった姿勢で講義に臨むこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
(1) 予習として、テキストを読み、疑問点を明らかにしておくこと。 (2) 復習として、講義内容および配布資料の整理とまとめを行うこと。とくに講義内容に関してはノートを作成すること。 (3) 発展学修として、食に関連したマーケティングやフードビジネスに関する新聞・ニュース等を積極的に収集し読んでおくこと。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	現代フードサービス論		日本フードサービス学会[編]	創成社	2300円+税	
自由記載						
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	フード・マーケティング論		藤島 廣二， 宮部 和幸， 木島 実， 平尾 正之， 岩崎 邦彦	筑波書房	2500円+税	
自由記載						
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	農業協同組合論		サブタイトル		授業番号	LG401
担当教員名	大宮 めぐみ					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	4年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
本講義では、はじめに協同組合とは何かについて学修する。その上で、わが国の農家のほとんどを組合員として組織化する農業協同組合について学び、その特徴と様々な事業内容について理解する。さらに農業協同組合がおかれる現状を概説し今後のあり方について考察する。						
<b>【到達目標】</b>						
(1) 協同組合とは何かを理解し、その目的と役割について基本的な知識を修得する。 (2) 農業協同組合が果たしてきた役割を理解し、自らの言葉で説明する力を身につける。 (3) 農業協同組合がおかれる現状について理解し、自ら考察できる力を身につける。 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>の取得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：農業協同組合論の対象領域と課題-何を学ぶのか- 第2回：協同組合の基礎知識(1) 第3回：協同組合の基礎知識(2) 第4回：国内外の多様な協同組合 第5回：農業協同組合とは 第6回：農業協同組合の歴史 第7回：農業協同組合の組織と運営 第8回：農業協同組合の事業と活動の特徴 第9回：指導事業 第10回：販売事業 第11回：購買事業 第12回：信用・共済事業 第13回：利用・厚生・高齢者福祉事業 第14回：農業協同組合の方向性と今後のあり方 第15回：まとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		10%	意欲的な受講態度によって評価する。		
	レポート					
	小テスト		40%	中間的な理解度を評価する。		
	定期試験		50%	到達目標に達しているかを最終的に評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
本講義では農業協同組合のもつ役割や機能を理解し、今後のあり方を考察できることを到達目標とする。そのためには、農業や農村、農業協同組合に関わるニュースや新聞記事、さまざまな情報に日頃から関心を持ち、自ら調べるといった姿勢で講義に臨むこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
(1) 復習として、講義内容および配布資料の整理とまとめを行うこと。とくに講義内容に関してはノートを作成すること。 (2) 発展学修として、農業や農村、農業協同組合に関わる新聞・ニュース等を積極的に収集し読んでおくこと。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載		必要に応じて適宜紹介する。			
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	専門ゼミⅠ	サブタイトル		授業番号	LH201
担当教員名	竹野 純一郎 佐生 武彦 大橋 典晶 中安 章 岡本 輝彦 森年 ボール 藤代 昇丈 佐々木 公之 松浦 加寿子 グレゴリー チンデミ 梶西 将司 大宮 めぐみ				
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	必修	授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b>					
自ら設定した（見出した、あるいは選択した）課題について、文献を収集し、文献内容の要約を含めたデータベースを作成する方法を学習することで、これまでの研究によって蓄積された情報・知識を修得する。それらの成果はその都度ゼミで発表し、意見交換を通じて理解を深める。また、特定のテキストを精読するゼミ、フィールドワークを実施するゼミなどがあるが、それぞれの場合も研究に必要な基礎的方法を学び、それらの成果を報告（書評、調査結果報告）することで、プレゼンテーションの技能を高める。					
<b>【到達目標】</b>					
自ら取り上げた課題に関する文献リストを作成し、主要文献について、その内容の要旨を作成して、これまでの研究成果をレビューする。フィールドワークを実施した場合には、ポスター発表を行う。本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞、＜思考・問題解決能力＞、＜技能＞、＜態度＞の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
<b>【授業計画 備考】</b>					
15回					
第1回 ゼミ概要紹介 第2回 文献収集とリスト作成の方法 第3回～第13回 文献データベース作成と文献精読あるいはフィールドワーク 第14回～第15回 書評および調査結果報告書の作成					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	60%	意欲的な受講態度、発表討議への参加によって評価する。		
	レポート	40%	提出されたレジメ、レポート、ポスターで評価。		
	小テスト				
	定期試験				
	その他				
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b>					
各人がそれぞれの問題関心に基づいて取り上げたテーマであっても、ゼミで意見・アイデアを交換し、集団で作品を作成する楽しさを覚える。					
<b>【授業外学修】</b>					
1. 図書館を利用して文献収集に努める。 2. 文献内容の要約に努める。 3. フィールドワークに当たっては、様々な情報源から情報を収集する。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載	適宜配布する。			
参考書	自由記載	講義のなかで適宜紹介。			
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>					
高校教諭(竹野純一郎)、(藤代昇丈)、企業経営コンサルタント(佐々木公之)					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
高校教員および企業経営コンサルタントの経験を活かした問題解決型の教育を行う。					

授業科目名	専門ゼミII		サブタイトル		授業番号	LH202
担当教員名	竹野 純一郎 佐生 武彦 大橋 典晶 中安 章 岡本 輝彦 森年 ボール 藤代 昇丈 佐々木 公之 松浦 加寿子 グレゴリー チンデミ 梶西 将司 大宮 めぐみ					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
専門ゼミIIに引き続き、文献収集を進め、文献リストの充実を計る。先行研究の文献レビューを行うために、文献の分類整理を行う。フィールドワークを行うゼミの場合には、調査を引き続き進め。専門ゼミIIで不足していた部分を再調査して補充し、調査報告書を作成する。						
<b>【到達目標】</b>						
文献レビューおよび調査報告書の作成・提出を目標とする。また、作成された作品について、ゼミで討議し、内容をブラッシュアップする。本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞、＜思考・問題解決能力＞、＜技能＞、＜態度＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
<b>【授業計画 備考】</b>						
15回						
第1回 専門ゼミIIの成果の確認						
第2回～第13回 文献レビューおよびフィールドワークを実施						
第14回～第15回 書評および調査報告書を作成し、発表する。						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		60%	意欲的な受講態度、発表討議への参加によって評価する。		
	レポート		40%	発表レジメ、報告書などで評価する。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
ゼミで積極的に意見交換することに努める。グループで知識・技能・アイデアを共有するように心がける。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 図書館を利用して文献収集に努める。						
2. 文献内容を要約し、それをデータベースにして保管する習慣を身につける。						
3. フィールドワークにおける情報収集の方法を実践する。						
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	適宜資料を配付する。				
参考書	自由記載	適宜紹介。				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
高校教諭(竹野純一郎)、(藤代昇丈)、企業経営コンサルタント(佐々木公之)						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
高校教員および企業経営コンサルタントの経験を活かした問題解決型の教育を行う。						



授業科目名 **専門ゼミⅢ**

サブタイトル

授業番号 LH301

担当教員名 杉山 慎策 竹野 純一郎 佐生 武彦 大橋 典晶 中安 章 森年 ボール 佐々木 公之 グレゴリー チンデミ 藤代 昇丈 松浦 加寿子 岡本 輝彦 梶西 将司 大宮 めぐみ

対象学部・学科 国際教養学部 国際教養学科

単位数 2単位

開講年次 3年

開講期 前期

必修・選択 必修

授業形態 演習

**【授業の概要】**

専門ゼミⅢでは、専門ゼミⅠ、Ⅱで培った知識・技能に基づいて、学術研究に適したテーマを設定し、卒業研究につなげる研究方法の理解・修得を進めるとともに、論文執筆の仕方についても学術論文の講読を通して学修する。また、取上げたテーマについての作業過程をその都度報告し、ゼミの構成員の間でディスカッションし、作業の進め方などをチェック・調整する。ゼミでのディスカッションを通じて、ゼミ構成員は他のメンバーが取り組んでいる研究テーマについても知識を共有して、集団で研究を進めることを学ぶ。

授業科目名 **専門ゼミⅣ**

サブタイトル

授業番号 LH302

担当教員名 杉山 慎策 竹野 純一郎 佐生 武彦 大橋 典晶 中安 章 岡本 輝彦 森年 ポール 藤代 昇丈 佐々木 公之 松浦 加寿子 グレゴリー チンデミ 梶西 将司 大宮 めぐみ

対象学部・学科 国際教養学部 国際教養学科

単位数 3単位

開講年次 3年

開講期 後期

必修・選択 必修

授業形態 演習

**【授業の概要】**

専門ゼミⅣでは、専門ゼミⅠ～Ⅲで取り組んだ内容をさらに発展させ、学術論文の体裁を備えた成果物を作成できるように、論文構成の立て方、分析手法、文献レビューなどについての理解を深める。その間、ゼミで繰り返し作業過程を報告し、ディスカッションを通じて自分の考えを論理的なものにする。

授業科目名 **専門ゼミV**

サブタイトル

授業番号 LH401

担当教員名 杉山 慎策 竹野 純一郎 佐生 武彦 大橋 典晶 中安 章 岡本 輝彦 森年 ポール 藤代 昇丈 佐々木 公之 松浦 加寿子 グレゴリー チンデミ 梶西 将司 大宮 めぐみ

対象学部・学科 国際教養学部 国際教養学科

単位数 2単位

開講年次 4年

開講期 前期

必修・選択 必修

授業形態 演習

**【授業の概要】**

専門ゼミVでは、専門ゼミI～IVの成果として提出される研究テーマおよび研究計画を基に、卒業論文作成のための調査・文献精読を開始する。ゼミでは、研究の進捗をチェックするために、自身の見解の裏付けとなる資料を用意し、提示・説明する。同時に、今後さらに補充の必要がある部分を明確にし、そのための取り組みを始める。

授業科目名 **専門ゼミⅥ**

サブタイトル

授業番号 LH402

担当教員名 杉山 慎策 竹野 純一郎 佐生 武彦 大橋 典晶 中安 章 岡本 輝彦 森年 ポール 藤代 昇丈 佐々木 公之 松浦 加寿子 グレゴリー チンデミ 梶西 将司 大宮 めぐみ

対象学部・学科 国際教養学部 国際教養学科

単位数 2単位

開講年次 4年

開講期 後期

必修・選択 必修

授業形態 演習

**【授業の概要】**

卒業研究Ⅶは、これまでに収集検討した文献・資料に基づいて論文執筆を進めるためのゼミである。教員からのコメントに加えて、学生間でお互いの論文を点検し合うことにより、内容の修正や文章の校正を行っていく。

授業科目名 **卒業研究**

サブタイトル

授業番号 LH403

担当教員名 杉山 慎策 竹野 純一郎 佐生 武彦 大橋 典晶 中安 章 岡本 輝彦 森年 ポール 藤代 昇丈 佐々木 公之 松浦 加寿子 グレゴリー チンデミ 梶西 将司 大宮 めぐみ

対象学部・学科 国際教養学部 国際教養学科

単位数 3単位

開講年次 4年

開講期 後期

必修・選択 必修

授業形態 演習

**【授業の概要】**

本授業では、ゼミ担当教員等からのフィードバックを基に推敲した卒業論文を完成させ提出する。研究内容については、卒業論文中間発表会・最終発表会で口頭発表および質疑応答を行う。

授業科目名	トップリダー講義（キャリア研究）		サブタイトル		授業番号	LI101
担当教員名	佐々木 公之					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	必修			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
各業界で活躍されるトップリダー（経営者・起業家・専門家等）を招き業界のしくみ、求める人物像を講義・ケーススタディー・ディスカッション・アクティブラーニングを交えながら最先端の業界の動向や夢実現への必要なスキルの直接指導を受けます。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・岡山地域を中心に各業界でご活躍されるリーダーから直接、社会に必要な知識、社会的スキル、また考え方について講義を通じて直接指導を受け、職業理解を高め、将来の目指す方向、大学生活で何をすべきかについて考え動機づけを行う。</li> <li>・将来の目標が明確に言えることができる。</li> <li>・学生時代にチャレンジすることが年次ごとに具体的に述べられることができる</li> </ul> なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：トップリダーとは（担当佐々木）						
復習 トップリダーについてまとめ						
第2回：アクティブラーニング演習（担当佐々木）						
予習 アクティブラーニング練習課題 復習 レポート作成						
第3回：トップリダー講義(1) 業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導（担当外部講師+佐々木）						
予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成						
第4回：トップリダー講義(2) 業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導（担当外部講師+佐々木）						
予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成						
第5回：トップリダー講義(3) 業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導（担当外部講師+佐々木）						
予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成						
第6回：トップリダー講義(4) 業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導（担当外部講師+佐々木）						
予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成						
第7回：トップリダー講義(5) 業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導（担当外部講師+佐々木）						
予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成						
第8回：トップリダーの気質と特徴（担当佐々木）						
第9回：トップリダー講義(6) 業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導（担当外部講師+佐々木）						
予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成						
第10回：トップリダー講義(7) 業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導（担当外部講師+佐々木）						
予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成						
第11回：トップリダー講義(8) 業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導（担当外部講師+佐々木）						
予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成						
第12回：トップリダー講義(9) 業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導（担当外部講師+佐々木）						
予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成						
第13回：トップリダー講義(10) 業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導（担当外部講師+佐々木）						
予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成						
第14回：トップリダーと業界分析(1)（担当佐々木）						
第15回：トップリダーと業界分析(2)（担当佐々木）						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な受講態度、予・復習の状況によって評価する。			
	レポート	50%	各業界の特徴や自分自身が今後どうすべきなどが具体的に述べてあること。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他	30%	プレゼンテーションをとおして最終的な理解度を評価する。			
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
受講前に、業界について事前に調査を行い、受講後、復習を必ず行い理解を高めることを強く勧める。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として、各リーダーの業界を毎回調査し分析すること。						
2 復習として、課題のレポートを書く。						
3 発展学修として、講師・授業で紹介された参考文献・記事などを読む。						
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	配布プリント				
参考書	自由記載	適宜配布				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
企業（銀行・都市ガス会社）、自営（企業コンサルティング経験）、会社役員など経営戦略に携わる経験						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員以外の指導に関わる実務経験者】</b>						
企業等からの講師による指導を実施						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
企業コンサルティング経験を生かして、学生の社会人基礎力向上の指導などを行う。						

授業科目名	キャリア・デザイン		サブタイトル	授業番号	LI301	
担当教員名	佐々木 公之					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科		単位数	2単位		
開講年次	3年		開講期	後期		
必修・選択	必修		授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b> 「将来の自分が何をしたいのか?」「どのような学生生活で成長するのか?」など大学4年間の過ごし方、学習への動機付けを行う。将来の自分のあるべき姿を考え、4年間で何を学び、どのような資格にチャレンジするか人生設計を企て大局的な視野に立って考える。挨拶、文章の書き方等の社会的な基本技能習得や人生ロードマップ作成、大学4年間のアクションプラン作成を求める。						
<b>【到達目標】</b> 将来の人生設計を考えた4年間の学生生活の過ごし方と職業理解を高める。現時点での、自分自身を理解した上で、社会現状、各業界・業種の特徴、ワークスタイルなど考えながら将来に対して大学生活で何をすべきかについて考え動機付けを行う。授業を通じて、将来の自分を見据えたキャリアデザインを描き、そこに到達するまでの4年間の行動方針の設定を目指す。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：キャリアデザインとは：講師のキャリアを通じて重要性を理解する（担当佐々木） 教科書の事前・事後チェック 第2回：ライフコースを知ろう（担当佐々木） ～将来のキャリアと大学教育～：教材を読みキャリアの重要性を理解する 教科書の事前・事後チェック 第3回：働くことを考える：教材を通じて働くことの意義を理解する（担当佐々木） 教科書の事前・事後チェック 第4回：変化のなかの若者と意識：教材を通じて現代社会の若者動向について考える（担当佐々木） 教科書の事前・事後チェック 第5回：社会が求める人物像：グループ討議により社会的スキルについて考える（担当佐々木） 教科書の事前・事後チェック 第6回：大学から労働への移行：実社会で求める人物像についてグループ討議（担当佐々木） 教科書の事前・事後チェック 第7回：企業のフレキシビリティと労働者のキャリア：労働環境・労働形態について学ぶ（担当佐々木） 教科書の事前・事後チェック 第8回：日本の雇用制度とワーク・ライフ・バランス：日本的な雇用形態を理解する（担当佐々木） 教科書の事前・事後チェック 第9回：世界をみすえたキャリアのあり方：ローモデル教育として世界で活躍する人物について考える（担当佐々木） 教科書の事前・事後チェック 第10回：キャリアとビジネススキル(1)（担当佐々木） ～挨拶・言葉遣い～：社会的スキルとして事例にて学ぶ 教科書の事前・事後チェック 第11回：キャリアとビジネススキル(2)（担当佐々木） ～ビジネス文書の書き方～：ビジネスに必要な基礎知識を学ぶ 教科書の事前・事後チェック 第12回：キャリアとビジネススキル(3)（担当佐々木） ～チームビルディング～：キャリアについてグループ討議 討議内容について準備と振り返り 第13回：人生ロードマップ作成：目標と夢の明確化を行う（担当佐々木） レポート作成と振り返り 第14回：大学4年間のアクションプラン作成：4年間のアクションプランを発表する（担当佐々木） 事前に発表準備と振り返り 第15回：大学生活とキャリアデザイン：年次ごとの目標を明確化しアクションプランを考える（担当佐々木） 事後でのレポート作成						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	意欲的な受講態度、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート		40%	夢・目標・アクションプランが具体的に述べてあること。		
	小テスト					
	定期試験		30%	ビジネスマナーが習得できているかを評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b> ・事前にトピックについて予習を行い、事後学習として講義のまとめを行うことを強く勧める。 ・受講前に、教科書を読み理解して授業に臨むこと ・グループワークでは積極的に授業に参加すること ・授業中に他学生に迷惑を掛けないように受講すること						
<b>【授業外学修】</b> 1 授業毎に紹介する教科書、参考文献を次回授業までに読んでおくこと。 2 復習として、グループワーク、課題のレポートを書く。 3 発展学修として、授業で紹介された記事などを読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	サッカーボール型キャリア開発: グローバルキャリアに偏差値なし		岩谷 英昭, 小泉 京美	白桃書房	1980	978-4561256762
自由記載		別途指示				

参考書	自由記載	小野田博之著「自分のキャリアを自分で考えるためのワークブック」(日本能率協会マネジメントセンター, 2005)
	【担当教員の実務経験の有無】	有
	【担当教員の实務経験】	企業(銀行・都市ガス会社), 自営(企業コンサルティング経験), 会社役員など経営戦略に携わる経験
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】		無
【実務経験をいかした教育内容】		企業コンサルティング経験を生かして, 学生の社会人基礎力向上の指導などを行う。



授業科目名	ビジネスプランコンテスト		サブタイトル		授業番号	LI302
担当教員名	佐々木 公之					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	3年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスプラン（事業計画書）の概念を学ぶことで、企業経営の経営計画・起業の本質を理解する。</li> <li>・ビジネスプラン作成に必要な手順、方法等について学ぶ。</li> <li>・ベンチャー企業の実例をもとに、成功・失敗の要因などについて考察する。</li> </ul>						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスプラン（事業計画書）の概念と、社会におけるその重要性を、他者に説明できるようになる。</li> <li>・ビジネスプラン（事業計画書）を通じて、経営者・起業家の気持ちを持てるようになる。</li> <li>・広義の起業家精神を持って勉学、社会生活に臨むことができるようになる。</li> <li>・身近なベンチャー企業の例を複数挙げられる。</li> </ul> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：ビジネスプラン作成とは何か				(担当佐々木)		
第2回：良いビジネスプランを作成する準備(1)				(担当佐々木)		
-ビジネスプランの作成目的-						
第3回：良いビジネスプランを作成する準備(2)				(担当佐々木)		
-ビジネスプランの進め方-						
第4回：ビジネスプラン作成のフレームワーク(1)				(担当佐々木)		
-顧客分析の進め方-						
第5回：ビジネスプラン作成のフレームワーク(2)				(担当佐々木)		
-競合分析の進め方-						
第6回：ビジネスプラン作成のフレームワーク(3)				(担当佐々木)		
-自社分析の進め方-						
第7回：ビジネスプラン作成のポイント(1)				(担当佐々木)		
-誰がやるのか-						
第8回：ビジネスプラン作成のポイント(2)				(担当佐々木)		
-いかに儲かる仕組みを創るか-						
第9回：ビジネスプランの構成と書き方(1)				(担当佐々木)		
-ビジネスプランの事業概要-						
第10回：ビジネスプランの構成と書き方(2)				(担当佐々木)		
-基本戦略-						
第11回：ビジネスプランの構成と書き方(3)				(担当佐々木)		
-財務計画(1)-						
第12回：ビジネスプランの構成と書き方(4)				(担当佐々木)		
-財務計画(2)-						
第13回：ビジネスプランとアプトブット(1)				(担当佐々木)		
-プレゼンテーション技法-						
第14回：ビジネスプランとアプトブット(2)				(担当佐々木)		
-発表-						
第15回：ビジネスプランとアプトブット(3)				(担当佐々木)		
-総括-						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	受講時の発言等の積極性を評価する。		
	レポート		20%	修了レポートの内容レベルを評価する。		
	小テスト					
	定期試験		50%	ビジネスプランの内容レベルを評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
・ビジネスプラン作成は、単なる知識の一方向的伝達ではなく、双方向の議論を重視する。普段から問題意識を持ち、質問その他、幅広く発言できるようにしておくこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として、講義での指示やシラバス、テキストを参照し、授業内容にかかわる部分の疑問点を明らかにしておくこと。						
2 広く新聞、雑誌・書籍、TV・ラジオ、ウェブサイト等から社会経済の新しい動向の把握に努めること。						
3 関連機関の行う講習・講演会、見学会、起業家との触れ合いなどの機会を積極的に探して参加する努力をすること。						
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	成功するビジネスプラン		伊藤良二	日本経済新聞社	830	9784532110574
	自由記載					
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	ベンチャー企業		松田修一	日本経済新聞社	1000	978-4-532-11303-2
	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
経営コンサルタントとして起業家向けビジネスプラン作成の指導実績あり						

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

【実務経験をいかした教育内容】

企業コンサルティングの経験を生かして、ビジネスプラン作成や論理的思考力向上などの指導を行う。

授業科目名	インターンシップ(短期)		サブタイトル		授業番号	LI303
担当教員名	佐々木 公之					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	3年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	実習	
【授業の概要】 約2週間に亘って、将来のキャリアを念頭に入れ企業・行政・NPOにて就業体験を行う制度である。職場の実情を知り体感することで職業理解、実務能力を向上させるだけでなく、自己の職業適性について考える契機となる。学内に事前研修を行った後、実際9-10日間のインターンシップを経験する。期間中は、「インターンシップ実施日誌」、受け入れ先からの実習の態度、意欲、成果について評価された「インターンシップ実施評価報告書」、インターンシップ終了後の「体験報告書」にて総合的に精査し評価される。						
【到達目標】 ・職業、勤労をより実践的に理解する。 ・仕事を遂行する上での様々な技能を実践的に習得する。 ・自己の将来を見据えて人間的な成長を図る。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回 社会とインターンシップ 第2回 ソーシャルマナー 第3回 応募先決定・応募 第4～28回 インターンシップ実習 第29回 実習体験報告 第30回 インターンシップふりかえり						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		70%	実習受け入れ先からのフィードバックを基づき評価を行う。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他		30%	学内での取組み状況・体験報告会を通じて評価を行う。		
自由記載						
【受講の心得】 受講前に、インターンシップ先の業界の外部環境を調査しビジネススキルを磨いておくこと。						
【授業外学修】 1 予習として、希望インターンシップ先の業界調査を行うこと。 2 復習として、インターンシップでの実習を通じて得られたことなをレポートとして書く。 3 発展学修として、講師・インターンシップ先より紹介された参考文献・記事・ニュースなどを理解すること。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	体験報告書等				
参考書	自由記載	適宜配布				
【担当教員の実務経験の有無】 有						
【担当教員の实務経験】 企業で社員教育・インターンシップ受け入れなどの経験						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 有						
【担当教員以外の指導に関わる実務経験者】 企業等からの講師による指導を実施						
【実務経験をいかした教育内容】 企業でのインターンシップを受け入れた経験を生かして、学生の適応力、マナー、挨拶などの社会人基礎力向上にいかす。						

授業科目名	インターンシップ(中長期)		サブタイトル		授業番号	LI304
担当教員名	佐々木 公之					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	4単位	
開講年次	3年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	実習	
<b>【授業の概要】</b>						
1ヵ月～2ヵ月に亘って、将来のキャリアを考えた国内外にて就業体験を企業・行政・NPOにて行う制度である。国内企業にて長期間の就業体験を積むことで職業理解、実務能力向上を目指す。海外インターンシップでは海外での就業体験にて、異文化理解だけでなく、語学力の向上にて国際的視野に立った人材育成が図られる。学内にて事前研修を行った後、実際20～50日間のインターンシップを経験する。期間中は、「インターンシップ実施日誌」、受け入れ先からの実習の態度、意欲、成果について評価された「インターンシップ実施評価報告書」、インターンシップ終了後の「体験報告書」にて総合的に精査し評価される。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業、勤労をより実践的に理解する。</li> <li>・仕事を遂行する上での様々な技能を中長期間掛けて実践的に習得する。</li> <li>・自己の将来を見据えて人間的な成長を図る。</li> </ul> なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回 社会とインターンシップ 第2回 ソーシャルマナー 第3回 応募先決定・応募 第4～98回 インターンシップ実習 第99回 実習体験報告 第100回 インターンシップふりかえり						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		70%	実習受け入れ先からのフィードバックに基づき評価を行う。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他		30%	学内での取組み状況・体験報告会を通じて評価を行う。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
受講前に、インターンシップ先の業界の外部環境を調査しビジネススキルを磨いておくこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として、希望インターンシップ先の業界調査を行うこと。 2 復習として、インターンシップでの実習を通じて得られたことをレポートとして書く。 3 発展学修として、講師・インターンシップ先より紹介された参考文献・記事・ニュースなどを理解すること。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	体験報告書等				
参考書	自由記載	適宜配布				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
企業で社員教育・インターンシップ受け入れなどの経験						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員以外の指導に関わる実務経験者】</b>						
企業等からの講師による指導を実施						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
企業でのインターンシップを受け入れた経験を生かして、学生の適応力、マナー、挨拶などの社会人基礎力向上にいかす。						

授業科目名 **セメスター留学**

サブタイトル

授業番号 LJ201

担当教員名 森年 ボール

対象学部・学科 国際教養学部 国際教養学科

単位数 12単位

開講年次 2年

開講期 後期

必修・選択 選択

授業形態 演習

**【授業の概要】**

英語圏での語学研修や現地での滞在を通して英語力とコミュニケーションスキルに加え異文化で生きる力を集中して高めたい学生を対象にしたプログラムである。2年後期（9月末～1月中旬）期間中に北米，ヨーロッパ，オセアニア，アジアのさまざまな会場等のESL（English as a Second Language）プログラムにて週30時間以上の英語学習を課した留学プログラムである。

授業科目名	日本事情 留学生対象科目		サブタイトル		授業番号	LK101
担当教員名	岡本 輝彦					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
日本の文化や社会、習慣について幅広く学習し日本人のものの見方、考え方を知ることによって日本での生活に適應できる能力を身につける。また、知識を習得するだけでなくプレゼンテーションなどを通して日本語で発信できる能力を養うことを目的とする。						
<b>【到達目標】</b>						
1. 日本の文化や社会について自国の事情と比較しつつ知識を深めることができる。 2. 日本や日本人を正しく理解することができる。 3. 最終的には日本人コミュニティに参加できるようになる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：オリエンテーション・自己紹介 第2回：日本はどんな国か 第3回：自分の国を紹介する 第4回：日本の食について考える 第5回：自国の食文化を紹介する 第6回：年中行事 第7回：自国の年中行事を紹介する 第8回：現代文化とポップカルチャー 第9回：自国の文化を紹介する 第10回：環境保護を考える 第11回：自国の環境保護に対する取り組みを紹介する 第12回：教育 第13回：自国の教育を紹介する 第14回：多文化共生社会について考える(1) 第15回：多文化共生社会について考える(2)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		40%	積極的な受講態度、発話回数で評価する。		
	レポート		20%	自分の意見が適切に述べられているかどうかで評価する。		
	小テスト		40%	学習内容が理解できているかどうかで評価する。		
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
1. 資料を読んだり、ディスカッションをしたりするので、自分からどんどん発言すること。 2. 講義テーマに関する事柄を事前に調べておくこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 後期テーマに関する必要な語彙を調べておくこと。 2. プレゼンテーションの原稿を作成すること。 3. 資料を探しプレゼンテーションソフトを使って発表の練習をすること。						
以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	毎回プリントを配布する予定。				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	日本語 留学生対象科目		サブタイトル		授業番号	LK102
担当教員名	岡本 輝彦					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
総合的な日本語力を養うとともに日本や日本人に対する考え方を深めること、受容だけではなく産出の面にも焦点をあてて授業を進めていくことにより、日本語での発信力を向上させることを目的としている。						
<b>【到達目標】</b>						
1. 論理的な思考を身につけることができる。 2. 自分が言いたいことが例や理由などを示しながらわかりやすく説明できる。 3. 中上級の表現力が習得できる。						
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：アカデミック・リーディング(1) 第2回：語彙・文法(1)および復習 第3回：アカデミック・リーディング(2) 第4回：語彙・文法(2)および復習 第5回：アカデミック・ライティング(1)および小テスト 第6回：アカデミック・リーディング(3) 第7回：語彙・文法(3)および復習 第8回：アカデミック・リーディング(4) 第9回：語彙・文法(4)および復習 第10回：アカデミック・ライティング(2)および小テスト 第11回：アカデミック・リーディング(5) 第12回：語彙・文法(5)および復習 第13回：アカデミック・リーディング(6) 第14回：語彙・文法(6)および復習 第15回：アカデミック・ライティング(3)および小テスト						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	積極的な受講態度、発話回数、予習復習の成果で評価する。		
	レポート		30%	自分の意見が適切に述べられているかどうかで評価する。		
	小テスト		40%	学習内容が理解できているかどうかで評価する。		
	定期試験		0%			
	その他		10%	口頭発表		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
講義の前にプリントを読んでおき、事前にわからない語彙の意味・用法を調べておくこと。講義を聞くだけでなく、自分から意見を述べること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 毎回配布するテキストに関する事項について事前に自分の意見をまとめておくこと。 2. テキストに出てくる学習項目を調べておくこと。						
以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	毎回プリントを配布する予定。				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	日本語II 留学生対象科目		サブタイトル		授業番号	LK103
担当教員名	岡本 輝彦					
対象学部・学科	国際教養学部 国際教養学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
総合的な日本語力はもとよりのこと、特に「話す」、「書く」といった産出の面における日本語能力の向上を目指し、自分の考えを論理的に日本語で表現できる能力を身につけることを目的としている。						
<b>【到達目標】</b>						
1. 論理的な思考を身につけることができる。 2. 自分が言いたいことが例や理由などを示しながらわかりやすく説明できる。 3. 中上級の表現力を習得することができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：アカデミック・リーディング(1) 第2回：発表・討議 第3回：アカデミック・リーディング(2) 第4回：アカデミック・ライティング(1) 第5回：アカデミック・リーディング(3) 第6回：発表・討議 第7回：アカデミック・リーディング(4) 第8回：アカデミック・ライティング(2) 第9回：アカデミック・リーディング(5) 第10回：発表・討議 第11回：アカデミック・リーディング(6) 第12回：アカデミック・ライティング(3) 第13回：プレゼンテーション技法(1) 第14回：プレゼンテーション技法(2) 第15回：プレゼンテーション技法(3)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		40%	積極性・発表・予習・復習で総合的に評価する。		
	レポート		20%	自分の意見が適切に述べられているかどうかで評価する。		
	小テスト					
	定期試験		40%	理解度および到達度で評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
講義の前にプリントを読んでおくこと。また、日本人学生との交流もあるので積極的に発言すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 毎回配布するプリントに関する事項について事前に自分の考えをまとめておくこと。 2. プリントに出てくる学習項目を調べておくこと。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	毎回プリントを配布する予定。				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						



中国学園大学大学院 令和3年度(2021年度) シラバス

授業科目名	総合食品栄養学特論		サブタイトル		授業番号	GJ501
担当教員名	田中 徹也 河野 勇人 波多江 崇 川野 光興 真鍋 芳江 井之川 仁					
対象学部・学科	現代生活学研究科 人間栄養学専攻			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	必修			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
学部での食品栄養学をさらにすすめた講義を行う。『総合』食品栄養学であり、食品や食品に関連する化合物や微生物が人体におよぼす影響を微生物学的視点・運動栄養学的視点からとらえるのみならず、データ解析や食文化の発展に関する内容まで広く講義する。						
<b>【到達目標】</b>						
食品や食品に関連する物質が人体におよぼす影響を理解できるとともに、その有効な利用法や悪影響の防止について広範に説明できる。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：有用微生物 (担当河野)						
第2回：微生物利用食品の機能性 (担当河野)						
第3回：食品媒介微生物 (担当川野)						
第4回：食事と腸内細菌叢 (担当川野)						
第5回：健康食品とサプリメント (担当波多江)						
第6回：食品の残留農薬 (担当田中)						
第7回：食事と妊娠 (担当田中)						
第8回：食・運動習慣と血糖値 (担当井之川)						
第9回：食・運動習慣と自律神経系 (担当井之川)						
第10回：ジュニアアスリートの栄養サポート (担当真鍋)						
第11回：陸上競技選手の栄養サポート (担当井之川)						
第12回：プロサッカー選手の栄養サポート (担当真鍋)						
第13回：食品学におけるメタ解析 (担当波多江)						
第14回：食感・食環境と認知神経 (担当田中)						
第15回：食文化進化論 (担当田中)						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	50%	講義への意欲的参加，質疑応答の的確さにより評価する。			
	レポート	50%	与えられた課題に対して具体的，論理的に述べられているかにより評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
常に積極的に自主学習する気構えを持ち，授業に参加すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として，授業内容に関わる部分を調査し，疑問点を明らかにする。						
2 復習として，課題のレポートを書く。						
3 発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。						
以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	特に定めない。科目担当者の指導を受けること。				
参考書	自由記載	特に定めない。科目担当者の指導を受けること。				
<b>【備考】</b>						
令和3年度改定						
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
ジュニアアスリート・プロサッカーチーム・陸上競技選手の栄養指導，薬剤師として健康食品・サプリメントのカウンセリング，健康食品・サプリメントのメタ解析，内閣府食品安全委員会専門委員						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
実体験を交えた講義および現場での思考方法を伝授する。						

授業科目名	総合食品栄養学演習		サブタイトル	授業番号	GJ602
担当教員名	田中 徹也 河野 勇人 波多江 崇 川野 光興 真鍋 芳江 井之川 仁				
対象学部・学科	現代生活学研究科 人間栄養学専攻	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	必修	授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>					
食品や食品に関連する化合物や微生物が人体におよぼす影響を微生物学的視点・運動栄養学的視点から考察するのみならず、データ解析や食文化の発展に関する課題について調査し討論する。					
<b>【到達目標】</b>					
食品や食品に関連する物質が人体におよぼす影響、その有効な利用法や悪影響の防止などの課題解決に向けた調査ができるとともに、的確な討論を行うことができる。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：有用微生物とその利用に関する課題（1）（担当河野）					
第2回：有用微生物とその利用に関する課題（2）（担当河野）					
第3回：食品媒介微生物と腸内細菌叢に関する課題（1）（担当川野）					
第4回：食品媒介微生物と腸内細菌叢に関する課題（2）（担当川野）					
第5回：健康食品とサプリメントおよびメタ解析に関する課題（1）（担当波多江）					
第6回：健康食品とサプリメントおよびメタ解析に関する課題（2）（担当波多江）					
第7回：食・運動習慣と恒常性の維持に関する課題（1）（担当井之川）					
第8回：食・運動習慣と恒常性の維持に関する課題（2）（担当井之川）					
第9回：アスリートの栄養サポートに関する課題（1）（担当井之川・真鍋）					
第10回：アスリートの栄養サポートに関する課題（2）（担当井之川・真鍋）					
第11回：アスリートの栄養サポートに関する課題（3）（担当井之川・真鍋）					
第12回：アスリートの栄養サポートに関する課題（4）（担当井之川・真鍋）					
第13回：食品および残留農薬が発生・生殖におよぼす影響に関する課題（担当田中）					
第14回：食感・食環境と認知神経に関する課題（担当田中）					
第15回：食文化進化に関する課題（担当田中）					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	50%	講義への意欲的参加、質疑応答の的確さにより評価する。		
	レポート	50%	与えられた課題に対して具体的、論理的に述べられているかにより評価する。		
	小テスト				
	定期試験				
	その他				
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b>					
常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に参加すること。					
<b>【授業外学修】</b>					
1 予習として、授業内容に関わる部分を調査し、疑問点を明らかにする。					
2 復習として、課題のレポートを書く。					
3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。					
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載	特に定めない。科目担当者の指導を受けること。			
参考書	自由記載	特に定めない。科目担当者の指導を受けること。			
<b>【備考】</b>					
令和3年度改定					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>					
ジュニアアスリート・プロサッカーチーム・陸上競技選手の栄養指導、薬剤師として健康食品・サプリメントのカウンセリング、健康食品・サプリメントのメタ解析、内閣府食品安全委員会専門委員					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
実体験を交えた講義、文献調査法、および現場での思考方法を伝授する。					

授業科目名	総合人間栄養学特論		サブタイトル		授業番号	GK501
担当教員名	赤木 収二 多田 賢代 辻本 美由喜 小野 尚美 古川 愛子					
対象学部・学科	現代生活学研究科 人間栄養学専攻			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	必修			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
食・栄養に関わる高度専門職業人として、医療・福祉・栄養教育等の現場における実務や研究活動を推進する上で必要となる基本的であり先進的な知見を俯瞰的に解説する。						
<b>【到達目標】</b>						
この授業を通じて、傷病者の療養や健康維持・増進をはかるための職務を遂行するために普遍的かつ重要な事項を学修し、食・栄養に関わる高度職業人として、社会に貢献する上で重要となる基本的な考え方を身につけることが目標である。						
<b>【授業計画】</b>						
各担当教員によるオムニバス方式で授業を運営し、以下のテーマについて解説する。						
(1) 成長、発達、加齢における栄養管理に関して、各種学会から出されている提言やトピックスを中心に解説を行う。						
(2) 食育にかかわる各種栄養政策について、SDGsにつなげる食環境整備の観点から解説する。						
(3) 食物・栄養素の消化、吸収について、それらにかかわる消化管ホルモンに視点をあてながら解説する。						
(4) 脂質代謝異常によってもたらせる各種疾患(NASH, 脂質異常症等)について概説し、それらに対する最新の栄養療法について解説する。						
(5) 体温調節機構およびその破綻によってもたらされる病態および栄養素等の摂取による介入の現状について解説する。						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート					
	小テスト		100%	時間内の質疑応答、課題レポート、受講態度から総合的に判断する。		
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に出席すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
毎週最低4時間は講義内容の予習復習を行うこと						
使用テキスト	自由記載	特に定めなし。科目担当者の指導を受けること。				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
管理栄養士・医師として医療機関や自治体において人々の健康づくりに関係する業務に従事						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
高度専門職業として実際の臨床の現場や健康増進のための栄養教育等の業務を遂行する上で、有用となる内容を学修できるように留意する。						

授業科目名	総合人間栄養学演習		サブタイトル		授業番号	GK602
担当教員名	赤木 収二 多田 賢代 辻本 美由喜 小野 尚美 古川 愛子					
対象学部・学科	現代生活学研究科 人間栄養学専攻			単位数	1単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	必修			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
総合人間栄養学特論にて学修した領域において根幹をなす資料や最新の知見について、て学生自ら関連する論文や資料等を収集し、それらを担当教員とともに講読し、内容について議論を重ね、特論で学修した知識を深化させるための授業である。						
<b>【到達目標】</b>						
食・栄養に関わる高度職業人として、実務・研究を遂行、発展させる上で出現してくる新たな課題に対して、問題点を正しく理解し、その解決法を自ら探究することができる能力を養うことが本授業の目標である。						
<b>【授業計画】</b>						
各担当教員によるオムニバス方式で授業を運営し、以下のテーマについて演習を行う。						
(1) 各ライフステージにおける栄養管理について事例検討を行う。						
(2) 食育にかかわる各種栄養政策について、それらの立案の根拠となった研究成果や資料等について講読し、議論しながら理解を深める。						
(3) 各種疾患の栄養療法の実際について、消化管ホルモンの消化、吸収に対する作用をふまえながら関連論文を講読し、議論しながら理解を深める。						
(4) 脂質代謝異常によってもたらせる各種疾患(NASH, 脂質異常症等)の栄養療法に関するガイドラインの根拠とされるエビデンスがもたらされた研究成果についての最新の論文を講読し、議論しながら、栄養療法についての理解を深める						
(5) 体温調節機構およびそれに対する各種栄養素、運動等影響に関する最新の論文を講読し、議論しながら理解を深める。						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		40%	授業内の質疑応答から評価する		
	レポート		30%	課題レポートを評価する		
	小テスト		30%	達成度を評価する		
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に出席すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
毎週最低4時間は演習内容の予習復習を行うこと						
使用テキスト	自由記載	特に定めない。科目担当者の指導を受けること。				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の実務経験】</b>						
管理栄養士・医師として医療機関や自治体において人々の健康づくりに関する業務に従事						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
高度専門職業人として実際の臨床の現場や健康増進のための栄養教育等の業務を遂行する上で、有用となる内容を学修できるように留意する。						

授業科目名	食品化学特論		サブタイトル		授業番号	GL501
担当教員名	河野 勇人					
対象学部・学科	現代生活学研究科 人間栄養学専攻			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
食品構成成分の化学的・物理的特性とその栄養機能について理解することは食品の加工・調理を行う上で重要なことである。この特論においては、食品構成成分の化学構造、存在状態について学ぶとともに、加工・調理による食品成分の変化および食品成分間反応についての知識と理解を深める。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>食品成分の化学的・物理的变化を総合的に理解し、食品の品質との関連性を的確に説明できる能力を養う。</li> <li>食品化学に関する問題を自発的に調査し、論理的に纏めることができる能力を養う。</li> </ul>						
<b>【授業計画】</b>						
第1回 食品の種類と分類						
第2～5回 食品成分の化学的・物理的特性						
第6～9回 食品成分間反応						
(1)酸化と劣化						
(2)酵素による食品成分の変化						
(3)非酵素的变化						
(4)微生物的成分変化						
第10～12回 食品素材の化学的特性						
第13～14回 調理・加工食品の品質						
第15回 まとめと総合討論						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	50%	講義への意欲的参加、質疑応答の的確さにより評価する。			
	レポート	50%	与えられた課題に対して具体的、論理的に述べられているかにより評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に参加すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として、授業内容に関わる部分を調査し、疑問点を明らかにする。						
2 復習として、課題のレポートを書く。						
3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。						
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	特に定めない。				
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	食品学	久保田紀久枝, 森光康次郎	東京化学同人	2,600	978-4-8079-1665-8	
	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	食品化学演習		サブタイトル		授業番号	GL602
担当教員名	河野 勇人					
対象学部・学科	現代生活学研究科 人間栄養学専攻			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
食品化学に関する内外の論文についてゼミナール形式で購読する。論文を理解するために必要な食品関連の基礎的知識についても演習を行い、専門知識を深め、食品に関する多角的視野と理解力を養う。また、具体的な事例を取り上げ、演習を通じて問題点の把握と自ら考察する能力を養う。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>食品化学に関連した専門原著論文の読解力、理解力、考察力、内容の伝達力を身に付ける。</li> <li>食品化学に関する課題を自発的に設定、調査し、論理的に解決する能力を身に付ける。</li> <li>食品に関する現実の問題を、具体的、論理的に纏め、解決することができる能力を養う。</li> </ul>						
<b>【授業計画】</b>						
第1～6回 文献購読・討論(1)～(6)						
第7～12回 調査報告・討論(1)～(6)						
第13～14回 事例演習・討論(1)～(2)						
第15回 まとめと総合討論						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		50%	講義への意欲的参加、質疑応答の的確さにより評価する。		
	レポート		50%	与えられた課題に対する具体的、論理的内容により評価する。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に参加し討議に加わること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として、授業内容に関わる部分を調査し、疑問点を明らかにする。						
2 復習として、課題のレポートを書く。						
3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。						
以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	特に定めない。				
参考書	自由記載	特に定めない。				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	代謝調節栄養学特論		サブタイトル	授業番号	GM501
担当教員名	赤木 収二				
対象学部・学科	現代生活学研究科 人間栄養学専攻	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>					
ヒトは、食物として各種栄養素を摂取し、それらを消化・吸収した後、エネルギーへの変換、生体高分子への合成および生理活性物質の生成等を行うことで、恒常性を保ちながら生命を維持する。体内において各栄養素は個別にあるいは相互的に絶妙な代謝調節をうけているが、疾病の多くは、この調節機構の破綻の結果ともいえる。本授業では、栄養学的介入を行う上で重要な疾患を中心に、各栄養素の消化・吸収および代謝について、疾患のなりたちに関連づけながら学修する。さらに、各種疾患について、栄養指導などの栄養学的治療介入を行う上での根拠となるエビデンスについて理解を深める。					
<b>【到達目標】</b>					
各種疾病のなりたちを理解し、栄養学的理論を展開・応用・実践させる能力を向上させつつ、さらに新たな栄養学的介入を探求するために適切な研究遂行能力を養うとともに、医療現場において、個々人の身体状況・栄養状態に応じて、高度の専門知識を用いた栄養療法を行うための能力を高めることが本授業の目標である。					
<b>【授業計画】</b>					
<b>【授業計画 備考】</b>					
事前に授業に用いる資料を配布する。					
第1・2回 消化器系器官の機能と構造 食物の消化、吸収					
第3・4回 糖質代謝と疾患 糖尿病					
第5・6・7回 脂質代謝と疾患 脂質異常症 肥満とメタボリックシンドローム 動脈硬化					
第8回 アミノ酸代謝と疾患					
第9回 尿酸代謝と高尿酸血症					
第10・11・12回 ミネラル代謝と疾患 腎疾患、骨、貧血					
第13回 体温調節と代謝					
第14回 睡眠と栄養素、時間栄養学の基礎					
第15回 まとめ					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度				
	レポート				
	小テスト				
	定期試験				
	その他	100%	口頭試問により評価する。		
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b>					
常に積極的に自主学習する気構えを持ち、講義に参加し、討議に加わること。					
<b>【授業外学修】</b>					
学部時代に学習した関連事項について復習しておくこと。					
事前に資料を配布するので、授業前に通読しておくこと。					
適当たり4時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載	特に定めない。適宜資料を配布する。			
参考書	自由記載				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>					
総合内科・消化器病・肝臓専門医、臨床栄養指導医等として診療に従事。産業医として事業所の産業保健衛生業務に参画。					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
実臨床に即した、管理栄養士としての職務実践能力を高める内容に重点を置く。					

授業科目名	代謝調節栄養学演習		サブタイトル		授業番号	GM602
担当教員名	赤木 収二					
対象学部・学科	現代生活学研究科 人間栄養学専攻			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
各種栄養素の代謝およびそれらに関連した疾患についての論文を、ゼミナール形式で講読し、代謝調節栄養学特論で習得した知識を深めるための演習を行う。						
<b>【到達目標】</b>						
栄養学的アプローチが重要とされる疾患の最新の知見に関する論文を読み解きつつ、討論に参加することを通じて疾病についての理解をより深める。さらに新たな栄養学的介入を採求するために必要な研究遂行能力を養うとともに、医療現場において個々人の身体状況や栄養状態に応じて、高度の専門知識を用いた栄養療法を行うことができる能力を高めることを目標とする。						
<b>【授業計画】</b>						
<b>【授業計画 備考】</b>						
事前に授業に用いる資料を配布する。						
第1～8回 各種栄養素の代謝と関連疾患に関する論文の講読と討論						
第9回～10回 栄養障害にともなう代謝調節の変化・破綻に関する論文の講読と討論						
第11～13回 老化にともなう各種病態と栄養素摂取に関する論文の講読と討論						
第14回 体温調節機構とそれに影響する栄養素摂取に関する論文の講読と討論						
第15回 まとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他		100%	口頭試問により評価する。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
常に積極的に自主学習する気構えを持ち、講義に参加し、討議に加わること。						
<b>【授業外学修】</b>						
事前に配布した資料を通読しておくこと。						
週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	特に定めない。資料を事前に配布する。				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
総合内科・消化器病・肝臓専門医、臨床栄養指導医等として診療に従事。産業医として事業所の産業保健衛生業務に参画。						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
実臨床に即した、管理栄養士としての職務実践能力を向上させる内容に重点を置く。						



授業科目名	細胞栄養学特論		サブタイトル		授業番号	GN501
担当教員名	田中 徹也 真鍋 芳江					
対象学部・学科	現代生活学研究科 人間栄養学専攻			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
ヒトが摂取する栄養分は、基本的には細胞内において代謝され生体成分としての固有の働きを示し、細胞を基本としたさまざまな生命現象に関与する。本特論では生体を構成する組織細胞内で営まれる生体高分子の代謝や諸反応を分子レベルで分析・総合し、生命維持における各栄養素の役割を理解する。						
<b>【到達目標】</b>						
ヒトの摂取した栄養が実際に細胞内でどのようなしくみで生命を支えているかを、細胞レベル、分子レベル、遺伝子レベルから深く理解できる。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：生物にとって栄養とは何か 第2回：食物と栄養 第3回：物質（炭素）の代謝と栄養の摂取 第4回：物質（窒素）の代謝と栄養の摂取 第5回：生体エネルギーと細胞代謝 第6回：細胞内への物質の出入りの仕組み 第7回：細胞の構造と機能 第8回：細胞の構造と機能 第9回：細胞小器官の構造と機能 第10回：細胞小器官の構造と機能 第11回：細胞の進化 第12回：細胞間情報伝達 第13回：細胞内シグナル伝達 第14回：遺伝子と遺伝子発現 第15回：栄養面から見た生命の進化						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		50%	授業への取り組み姿勢，授業での質疑応答		
	レポート		50%	授業内容の課題レポート（毎回）		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
常に積極的に自主学習する気構えと探究心をもって授業に臨むこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
英文の資料と参考書を併用して、輪読形式で授業をおこなう。週あたり4時間以上の予備学修を行って授業に出席すること。						
使用テキスト	自由記載	特に定めない。演習の都度本人に資料を提供する。				
参考書	自由記載	なし				
<b>【その他】</b>						
なし						
<b>【備考】</b>						
令和3年度改定						
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	細胞栄養学演習		サブタイトル		授業番号	GN602
担当教員名	田中 徹也 真鍋 芳江					
対象学部・学科	現代生活学研究科 人間栄養学専攻			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
前半では、調査目標とするトピックを決め、文献調査と複数の原著論文の抄読を行う。 後半では、調査した複数の文献に掲載されていた実験結果をもとに、学会発表形式でパワーポイントを用いて調査結果のプレゼンテーションを行う。						
<b>【到達目標】</b>						
設定したトピックに関連した最新の原著論文を検索することができる。 複数の原著論文を読み解き、結果をプレゼンテーションすることができる。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：調査トピックの決定と、原著論文の検索 第2回：論文抄読 第3回：論文抄読 第4回：論文抄読 第5回：論文抄読 第6回：論文抄読 第7回：論文抄読 第8回：論文抄読 第9回：調査結果のまとめとプレゼンテーション資料の作成 第10回：調査結果のまとめとプレゼンテーション資料の作成 第11回：調査結果のまとめとプレゼンテーション資料の作成 第12回：調査結果のまとめとプレゼンテーション資料の作成 第13回：調査結果のまとめとプレゼンテーション資料の作成 第14回：調査結果のまとめとプレゼンテーション資料の作成 第15回：プレゼンテーションと討論（質疑応答）						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		50%	演習への取り組み、質疑応答。		
	レポート		50%	演習内容の課題レポート（毎回）		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
自ら進んで新しい問題を見つけ、明らかにしようとする心構えと探究心が必要である。						
<b>【授業外学修】</b>						
英文の資料参考書を併用する。基本事項についてあらかじめ学修・準備して授業に臨むこと（週あたり4時間以上）。						
使用テキスト	自由記載	特に定めない。演習の都度本人に資料を提供する。				
参考書	自由記載	なし				
<b>【その他】</b>						
なし						
<b>【備考】</b>						
令和3年度改定						
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	栄養生理学特論		サブタイトル		授業番号	GO501
担当教員名	井之川 仁					
対象学部・学科	現代生活学研究科 人間栄養学専攻			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
<p>人体の栄養に関わる生理機能は、消化器系ばかりでなく統合的に神経が統轄する生理機能の一つととらえることができる。本特論では、特に神経細胞における刺激伝達物質受容体の構造、脳内分布、神経刺激伝達とそれに続く脳の統合機能を学ぶ。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>摂食や飲水行動の中核である視床下部の機能について、ホルモン合成、分泌を含めて、報酬系、嫌悪系などの神経伝達調節物質と食行動の関わりについて理解を深め、高度専門職業人としての職務を果たす能力を養う。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：栄養と摂食  第2回：中枢神経系における摂食， 飲食調節  第3回：摂食行動と視床下部摂食中枢の機能  第4回：摂食行動と視床下部満腹中枢の機能  第5回：摂食行動に影響を与える因子  第6回：糖代謝とインスリン分泌  第7回：中枢神経系におけるインスリンの作用  第8回：サイトカインの栄養生理における役割  第9回：中枢神経系における食欲抑制物質 1  第10回：中枢神経系における食欲抑制物質 2  第11回：中枢神経系における食欲抑制物質受容体  第12回：飲水行動に影響を与える因子  第13回：血漿浸透圧と体液量の調節  第14回：ホルモンとストレス環境への対応  第15回：神経系とストレス環境への対応</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢 / 態度		30%	質疑応答から評価する		
	レポート		20%	課題レポートを評価する		
	小テスト					
	定期試験		50%	最終的な理解度を評価する		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に出席すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
毎週最低4時間は講義内容の復習を行うこと						
使用テキスト	自由記載	プリントを配布する。				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	栄養生理学演習		サブタイトル		授業番号	GO602
担当教員名	井之川 仁					
対象学部・学科	現代生活学研究科 人間栄養学専攻			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
特論に関連する具体的かつ現実的な課題を取り上げ、解決する方策を創案する。このことは、栄養教諭が実際に直面する、学童・生徒の食に関わる問題を解決するために必要な指導力を養うことになる。取り上げる課題は以下のようである。人体の構造・機能のホメオスタシスを維持する中枢として、神経系の機能を熟知し、外部から機能を調節する因子について理解を深める。						
<b>【到達目標】</b>						
栄養素の意義、摂取食品の栄養源のバランスなどと疾病の関係などについて、深く理解し、高度専門職業人としての職務を果たす能力を養う。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回 摂食、飲食調節に関わる中枢の機構 第2回 摂食行動と視床下部摂食中枢の機能 第3回 摂食行動と視床下部満腹中枢の機能 第4回 摂食行動に影響を与える多様な因子・条件 第5回 中枢神経系におけるホルモンの作用 第6回 脂質代謝1 第7回 脂質代謝2 第8回 脂質代謝3 第9回 神経系とストレス環境への対応1 第10回 神経系とストレス環境への対応2 第11-15回 上記の課題論文を中心として、栄養生理学関連分野について、総合的に討論する。						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		50%	質疑応答から評価する		
	レポート		50%	課題レポートを評価する		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載		時間内の質疑応答、課題レポートにより行う。				
<b>【受講の心得】</b>						
常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に出席すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
毎週最低4時間は演習内容の予習復習を行うこと						
使用テキスト	自由記載	特に定めない。科目担当者の指導を受けること。				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	環境・食品微生物学特論		サブタイトル		授業番号	GP501
担当教員名	川野 光興					
対象学部・学科	現代生活学研究科 人間栄養学専攻			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
地球環境には、様々な微生物が存在し、ヒトの生活と密接に関係している。本特論では、微生物の有効利用および感染症・食中毒の起因微生物についての最近の知見を学ぶ。また、食品安全確保および食品の品質保持方法について学ぶ。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球環境に関わる微生物の生態学的な意義を理解するとともに、食品の生産に関わる微生物や感染症・食中毒に関する微生物の特徴および制御について理解し、実践的な知識を身につける。</li> <li>・専門的かつ実践的な食品安全に関する知見および手段を身につける。</li> </ul>						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：環境と微生物(1) 第2回：環境と微生物(2) 第3回：食品と病原微生物(1) 第4回：食品と病原微生物(2) 第5回：感染症と微生物 第6回：食品の腐敗と微生物フローラ 第7回：食品保存と微生物 第8回：微生物による環境浄化 第9回：微生物の機能と食品 第10回：微生物とバイオテクノロジー 第11回：健康と腸内フローラ 第12回：食品安全確保の考え方 第13回：HACCPと食品衛生管理 第14回：遺伝子手法による微生物学的衛生管理 第15回：全体のまとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		50%	授業時間内の質疑応答が的確にできている。		
	レポート		50%	与えられた課題に関する内容を具体的に述べている。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
常に積極的に自主学習する気構えを持ち、講義に参加し、討議に加わること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として、授業内容に関わる部分を調査し、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題のレポートを書く。 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	特に定めない。科目担当者の指導を受けること。				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	環境・食品微生物学演習		サブタイトル		授業番号	GP602
担当教員名	川野 光興					
対象学部・学科	現代生活学研究科 人間栄養学専攻			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
環境・食品微生物に関する文献および微生物制御技術や品質管理に関する文献を講読する。各自が問題点を整理し討論を行うことで、研究を評価できる能力と人の生活環境を取り巻く微生物の制御に関する実践力を習得する。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境・食品に関わる微生物の病原性と有用性を評価できる能力および微生物に関する情報を適切に評価できる能力を身につける。</li> <li>・微生物に関する知識・理解を深め、食品の品質管理などの微生物制御を実践・展開する能力を身につける。</li> </ul>						
<b>【授業計画】</b>						
第1～3回 環境微生物分野の論文の講読と討論 第4～9回 食品微生物分野の論文の講読と討論 第10～11回 微生物の機能に関する論文の講読と討論 第12～13回 腸内フローラと健康に関する論文の講読と討論 第14回 微生物学的衛生管理手法の演習 第15回 全体のまとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		50%	授業時間内の質疑応答が的確にできている。		
	レポート		50%	与えられた課題に関する内容を具体的に述べている。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
常に積極的に自主学習する気構えを持ち、講義に参加し、討議に加わること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として、授業内容に関わる部分を調査し、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題のレポートを書く。 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週あたり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	特に定めない。科目担当者の指導を受けること。				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	健康栄養学特論		サブタイトル	授業番号	GQ501
担当教員名	多田 賢代				
対象学部・学科	現代生活学研究科 人間栄養学専攻	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>					
<p>栄養と健康との関わりについて、学部での学習を基盤にさらに専門性を深め、より実践的な知識を学習する。出来る限り多角的な視点から課題を設定し、具体的な事例報告等をもとに、実践的手法、技術を学ぶ。これにより、適正な食生活、生活習慣、栄養管理の意義、栄養アセスメントなどについて対象者の理解を促す方法を思考し、ディスカッションする。そして、健康・栄養指導者として、より幅の広い視野をもって対応する能力を養う。</p>					
<b>【到達目標】</b>					
<p>各ライフステージにおける健康維持に必要な栄養学的側面や生活習慣的側面を理解し、解説することができる。中でも、小児期及び成人期における栄養アセスメントに必要な生化学的検査、臨床医学的検査、生活状況調査などの過程と評価を理解し、問題点を探求し、考察できる能力や対象者に対応・指導できる能力を身につける。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
<p>第1～14回 提示するテーマに関する文献検索と文献紹介・抄読を通して、健康教育理論と行動変容について学び、栄養の指導に活かす。 以下のテーマについて学修する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活習慣病の各種要因（生活習慣、遺伝体質、加齢・老化、性差、環境等）の評価・検討</li> <li>健康的な生活習慣（食・運動・喫煙・飲酒・睡眠習慣、ストレス等）の評価と対策</li> <li>小児期から思春期にいたる現在の健康・栄養状態の把握と問題点の抽出</li> <li>小児期から思春期の健康・栄養状態の背景考察と対策事例の理解</li> <li>小児期から思春期の健康・栄養状態を解決するための健康教育理論の応用</li> </ul> <p>第15回 まとめ</p>					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート	50%	授業内容のまとめとして出される課題により、問題解決能力の修得に役立たすこと。課題については、確認し返却をする。		
	小テスト				
	定期試験				
	その他				
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b>					
常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に出席すること。					
<b>【授業外学修】</b>					
<p>1 予習として、授業内容にかかわる著書や雑誌を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題のレポートを書く。 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。</p>					
使用テキスト	自由記載	特に定めない。科目担当者の指導を受けること。			
参考書	自由記載				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>					
病院の管理栄養士、市町村嘱託栄養士					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
臨床栄養現場や健康づくり啓発普及のための管理栄養士・栄養士業務を通して、栄養ケアマネジメントの実際、妊産婦栄養管理および栄養指導、離乳食相談、幼児期・学童期・思春期・成人期および高齢期における栄養管理等を指導する。					

授業科目名	健康栄養学演習		サブタイトル	授業番号	GQ602
担当教員名	多田 賢代				
対象学部・学科	現代生活学研究科 人間栄養学専攻	単位数	1単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b>					
健康栄養学特論で学んだ内容をもとに、指定した課題について文献検索、抄読を行い、担当指導者とディスカッションしながら、理解を深めて、課題解決能力を養う。さらに担当指導者や受講生同士と共に測定することにより、様々な測定技術を修得し、また指導者が提示する調査データや測定値などをもとに集計解析する手法を学び、対象者に適切な食生活・保健習慣を身につけてもらうための健康・栄養教育を実践できる能力を養う。					
<b>【到達目標】</b>					
健康や栄養学に関する専門的な論文等を抄読の上その内容を考察、説明し、正しく判断評価することができるようになる。実際に、健康・栄養状態を判断するために必要な各種測定方法や調査方法を理解し、その技術を身につける。また、それらの測定値等を適切に処理する技法や実際の調査・測定値を使った情報処理技術を理解・演習し、考察できる能力を身につける。その結果から適切に対象者に対応・指導できる能力を身につける。					
<b>【授業計画】</b>					
第1～7回 現代の栄養および食生活における問題点を抽出し、健康のあり方を考察する。加えて、栄養教育・食育等に関する実践的論文を輪読・抄読し、新しい知識を付加していくとともに、健康に関するタイムリーな問題点を捉えた、実際の調査・測定値をもとに、その処理技法、評価法を理解、演習し、問題点を明確にして解決法を検討し、その具体的解決策についてのプランを立案する。					
第8～14回 健康栄養学に関する専門的な論文を講読し、論文の課題・方法・結果等について検討する。論文を正しく自分で評価する能力を養い、それを習慣づける。また身体・栄養状態、動脈硬化度、自律神経等を測定し評価する。その結果をクライアントに適切に説明（フィードバック）し、状況に応じた適正な栄養管理・教育、生活指導ができる能力を身につける。					
第15回 まとめとディスカッション					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	50%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート	50%	授業内容のまとめとして出される課題により、問題解決能力の修得に役立つこと。課題については、確認し返却をする。		
	小テスト				
	定期試験				
	その他				
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b>					
常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に出席すること。					
<b>【授業外学修】</b>					
1 予習として、授業内容にかかわる著書や雑誌を読み、疑問点を明らかにする。					
2 復習として、課題のレポートを書く。					
3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。					
以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載	特に定めなし。科目担当者の指導を受けること。			
参考書	自由記載				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>					
病院の管理栄養士、市町村嘱託栄養士					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
臨床栄養現場や健康づくり啓発普及のための管理栄養士・栄養士業務を通して、栄養ケアマネジメントの実際、妊産婦栄養管理および栄養指導、離乳食相談、幼児期・学童期・思春期・成人期および高齢期における栄養管理等を指導する。					



授業科目名	病態栄養学特論		サブタイトル	( 疾病に応じた栄養素の体内代謝と調節法を学ぶ )	授業番号	GR501
担当教員名	赤木 收二 古川 愛子					
対象学部・学科	現代生活学研究科 人間栄養学専攻			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
【授業の概要】 病気の原因となる栄養摂取ならびに病態に応じた栄養摂取ならびに体内での栄養素の代謝について、大学学部で学んだことを基礎にさらに専門性を深めた講義をする。健康の維持増進，生活習慣病の予防，病気からの回復に関わる栄養学をさらに深く理解することにより，疾病を抱えた患者に対する栄養教育力や実践的な指導力を身につけることができるよう，疾病の予防や治療について説明する。						
【到達目標】 栄養素とその体内での代謝について理解したうえで，摂取栄養素の過不足やアンバランスが体内代謝と健康に影響することを学ぶ。さらに，各種栄養素の体内代謝は個体側の要因，特に遺伝素因によって大きな影響を受けることを理解して，個人差を考慮した栄養摂取についての介入の必要性について理解する。その上で，各種疾患における栄養教育がより着実に実践できる能力を養うことが本授業の目的である。						
【授業計画】						
第1回 オリエンテーション 第2回 栄養の補給法 第3回 代謝性疾患，とくに糖・脂肪代謝の栄養学 第4回 循環器疾患の栄養支援 第5回 消化器疾患の栄養ケア 第6回 炎症性腸疾患の栄養ケアと食事療法 第7回 肝不全の栄養管理と疾病進展の予防 第8回 腎不全の栄養ケア 第9回 骨粗鬆症の病態と管理・予防の栄養学 第10回 悪性腫瘍の栄養管理と栄養指導 第11回 高齢者の栄養ケア 第12回 周術期の栄養ケア 第13回 呼吸器疾患(COPD)の栄養ケア 第14-15回 まとめと総合討議						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		50%	積極的な授業態度，討論，質問などにより評価する。		
	レポート		50%	疾患に応じて具体的に栄養マネジメント方法についてまとめる。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載	課題レポートと質疑応答で総合評価する。				
【受講の心得】 常に積極的に自主学習する気構えを持ち，授業に出席すること。						
【授業外学修】 1，授業に用いる資料を次回授業までに読んでおく。 2，配布資料を元に質疑，討論ができるように準備しておく。 3，授業に関連した項目についてレポートを作成する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	特に定めない。科目担当者の指導を受けること。				
参考書	自由記載					
【担当教員の実務経験の有無】 有						
【担当教員の实務経験】 医療機関における医師および管理栄養士としての実務経験を有する。						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無						
【実務経験をいかした教育内容】 チーム医療としての栄養療法の観点から，両担当教員同士が連携をはかりながら授業を進める。						

授業科目名	病態栄養学演習		サブタイトル	(事例提示による栄養ケアの実践法を学ぶ)	授業番号	GR602
担当教員名	赤木 収二 古川 愛子					
対象学部・学科	現代生活学研究科 人間栄養学専攻			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
病態栄養学特論で学んだ疾患を中心として、関連する具体的事例についてそれらに対する栄養学的介入法について探究する中で、問題点を抽出し、関連する文献を調べ必要事項を調査しながら、疾患に対しての理解を深める。明確で的確な問題解決方法をあきらかにする。						
<b>【到達目標】</b>						
各病態の具体的事例について、問題点を抽出し、最新の論文等にあたりながら問題解決方法をあきらかにする努力を重ねることで、明確で的確な栄養管理計画書の作成することができる能力を身につけるとともに、新たな栄養学的治療介入法を探索する能力を養うことが本演習の目的である。						
<b>【授業計画】</b>						
あらかじめ提示した各症例(事例)に関わる病態栄養学上の問題点を取り上げた最新の論文を検索、入手する作業を行い、それらの論文の講読をゼミナール形式で行い、エビデンスに基づいた栄養評価方法や栄養治療方法の理解を深め、実践できるよう能力を養う。						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	50%	実践的な栄養ケアマネジメントについて積極的な討論を評価する。			
	レポート	50%	事例に応じて実践可能な栄養ケアマネジメントについて具体的なレポートを作成する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に出席すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1, 授業に用いる資料を次回授業までに読んでおく。						
2, 配布資料を元に質疑、討論ができるように準備しておく。						
3, 授業に関連した項目についてレポートを作成する。						
以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	特に定めない。科目担当者の指導を受けること。				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
医療機関における医師および管理栄養士としての実務経験を有する。						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
医師・管理栄養士の立場から、栄養療法遂行における実践能力の向上に資する内容に重点を置き、授業を進める。						

授業科目名	公衆衛生学特論		サブタイトル		授業番号	GS501
担当教員名	波多江 崇 辻本 美由喜					
対象学部・学科	現代生活学研究科 人間栄養学専攻			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
人間集団の健康増進と疾病予防のために、生活環境や食品の衛生管理を科学的エビデンスに基づいて判断し施策を立案できる能力を養う。そのために保健・医療・福祉・介護システムを深く理解し、環境保全、環境衛生維持、学校保健などの具体的な方策や施策を理解しその評価が正しく行える能力を養う。また、疫学的判断ができる能力を養う。						
<b>【到達目標】</b>						
科学的エビデンスに基づく評価・判断能力を身に付け、高度専門職業人としての職務を果たす能力を養う。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：公衆栄養・公衆衛生学の意義 (担当辻本) 第2回：衛生統計：衛生統計の意義 (担当波多江) 第3回：衛生統計：疾病統計 (担当波多江) 第4回：産業保健：労働と健康 (担当波多江) 第5回：産業保健：生物学的モニタリング (担当波多江) 第6回：産業保健：生物学的モニタリングの栄養分野への応用 (担当波多江) 第7回：学校保健：学校保健の意義、学校給食 (担当辻本) 第8回：環境保健：環境保健の意義 (担当波多江) 第9回：環境保健：環境保全 (担当波多江) 第10回：保健・医療・福祉と介護 (担当辻本) 第11回：高齢者保健 (担当辻本) 第12回：疫学：疫学の意義 (担当波多江) 第13回：疫学：感染症の疫学 (担当波多江) 第14回：栄養疫学の意義 (担当波多江) 第15回：まとめ (担当波多江)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		50%	意欲的な学習態度		
	レポート		50%	データに対して十分な考察がなされている		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に出席すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
レポートの作成など、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
自治体における管理栄養士						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
食・栄養に関わる福祉、介護について、行政での現場経験を生かした内容に重点を置く。						

授業科目名	公衆衛生学演習		サブタイトル		授業番号	GS602
担当教員名	波多江 崇 辻本 美由喜					
対象学部・学科	現代生活学研究科 人間栄養学専攻			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
セミナー方式で関連論文を講読するとともに、現場実務者を迎えて現実のエビデンスに基づいて理解を深め、建設的かつ具体的な討論をすることができる能力を養い、討論により関連分野の自己の評価判断基準を確立する。						
<b>【到達目標】</b>						
公衆衛生学と栄養学の関連を明瞭にし、課題解決にむけての研究方法を会得し、高度専門職業人としての職務を果たす能力を養う。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：保健統計関連論文の読解 その1 (担当波多江) 第2回：保健統計関連論文の読解 その2 (担当波多江) 第3回：保健統計関連論文の読解 その3 (担当波多江) 第4回：産業保健関連論文の読解 その1 (担当波多江) 第5回：産業保健関連論文の読解 その2 (担当波多江) 第6回：産業保健関連論文の読解 その3 (担当波多江) 第7回：学校保健関連論文の読解 その1 (担当辻本) 第8回：学校保健関連論文の読解 その2 (担当辻本) 第9回：学校保健関連論文の読解 その3 (担当辻本) 第10回：高齢者保健関連論文の読解 その1 (担当辻本) 第11回：高齢者保健関連論文の読解 その2 (担当辻本) 第12回：高齢者保健関連論文の読解 その3 (担当辻本) 第13回：環境保健関連論文の読解 その1 (担当波多江) 第14回：環境保健関連論文の読解 その2 (担当波多江) 第15回：第15回 まとめの発表 (担当波多江・辻本)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		50%	意欲的な学習態度		
	レポート		50%	データに対して十分な考察がなされている		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
常に積極的に自主学習する気構えを持ち、授業に出席すること。 事前に論文を配布するので、授業までに十分に読み込んでくること。						
<b>【授業外学修】</b>						
レポートの作成など、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載 テキストは使用せず、実際の論文をテキストとする。					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
食・栄養に関わる福祉、介護について、行政での現場経験を生かした内容に重点を置く。						

授業科目名	特別研究		サブタイトル		授業番号	GT701
担当教員名	赤木 収二 波多江 崇 河野 勇人 多田 賢代					
対象学部・学科	現代生活学研究科 人間栄養学専攻	単位数	8単位			
開講年次	2年	開講期	通年			
必修・選択	必修	授業形態	実習			
<b>【授業の概要】</b>						
本授業においては、「実践研究論文」あるいは「研究論文」を、指導教員の指導のもと完成させることを目的とする。前者は管理栄養士がその専門性を生かして職務を遂行することが期待される病院や企業等において3～6ヶ月間程度、より専門的で実践的な手技・知識を習得するとともに現場での問題点を発掘し、その問いに対する普遍的であり実証的な答えを探求する「実践研究」によりもたらされる論文である。後者は、先行研究を踏まえた食・栄養に関する今日的課題を設定し、あるいは新しい事実、事象の発見を目指して、実験・調査を行い、得られた具体的なデータにもとづいた研究成果を、論理的・実証的に導き出す努力を行うことで得られるものである。						
<b>【到達目標】</b>						
本授業において完成された論文は、学術論文として関連雑誌・紀要などへ投稿し、掲載・公表され、社会に対して得られた知見を明確に発信する能力を養う。						
<b>【授業計画】</b>						
指導教員と綿密な打ち合わせを行いながら研究計画をたて、得られた結果について議論をしながら、論文の内容を高めていく。						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他		100%	修士研究論文審査の結果をふまえて評価する		
	自由記載					
<b>【授業外学修】</b>						
毎週最低4時間は学習すること						
使用テキスト	自由記載	特に指定しない。指導教員の指示にしたがうこと。				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
管理栄養士・医師として病院や自治体において健康増進に関わる業務に従事						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
医療・介護の現場や人々の健康づくりに関する高度専門職業人として、実際の職務遂行に有用となる内容に重点を置く。						

中国学園大学大学院 令和3年度(2021年度) シラバス

授業科目名	保育・幼児教育学特論		サブタイトル		授業番号	MA301
担当教員名	伊藤 智里					
対象学部・学科	子ども学研究科 子ども学専攻			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
本講座では、子ども社会を実践的に読み解いていくための保育・幼児教育論について学ぶ。その過程で制度的な変遷と現在の課題について明らかにするとともに、諸外国との比較をしながら、幼児期の教育の課題や実践の方法について考察する。さらに、子どもを取り巻く家庭や地域の現状や保育者の専門性に対する理解力を高め、保育の実力を深めていく。						
<b>【到達目標】</b>						
子どもの視点に立ちながら、より高度な活動の理解と解釈を可能にするために、保育・幼児教育の法令変遷について理解し、諸外国との比較も踏まえ日本の保育・幼児教育の課題を明確にするとともにそのあり方について考察することを目標とする。 また最新の保育制度や情報について深く理解し活用する。なお、この科目の内容はディプロマポリシーに掲げる高度な専門性を備えた保育者の育成に貢献する。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：本授業の目的と保育・幼児教育の基本 第2回：日本の保育・幼児教育の制度 1 第3回：日本の保育・幼児教育の制度 2 第4回：保幼小接続の仕組み 第5回：幼児教育の歴史の変遷 1 第6回：保育・幼児教育の歴史の変遷 2 第7回：幼保一元化に向けての変遷 第8回：保育所・幼稚園・こども園の保育の比較と課題 第9回：外国の保育・幼児教育 1 第10回：外国の保育・幼児教育 2 第11回：保育・幼児教育思想 1 第12回：保育・幼児教育思想 2 第13回：保育・幼児教育思想3 第14回：保育者の専門性 1 第15回：保育者の専門性 2						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		50%	自主的に調査結果を発表し討議できたかを評価する。		
	レポート		50%	自分の得た知識や技術をさらに発展させることができるような記述内容であるかを評価する。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載		予習や意見発表など講義への取り組みの積極性(50%)と、レポートの論理性(50%)を基準に評価を行う。				
<b>【受講の心得】</b>						
授業内容を理解し課題を行う中で、自分はどう考えるかについて周囲に伝えられるようにすることを心がける。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載 保育用語辞典, 幼稚園教育要領解説, 保育所保育指針解説, 幼保連携型認定こども園教育・保育要領					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	学校教育学特論		サブタイトル	授業番号	MA302
担当教員名	佐々木 弘記 岸 誠一				
対象学部・学科	子ども学研究科 子ども学専攻	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>					
第一に、先行研究を概括しながら、学校教育における学習指導の様式や行動・認知・構成主義の各学習論について議論するとともに、教師の専門的力の形成について考察する。					
第二に、反省的实践家としての教師の専門的力形成のモデルを取り上げ、省察と熟考による実践的見識の獲得過程に言及する。					
第三に、学校教育におけるいくつかの問題場面を想定し、反省的思考の過程について学ぶ。					
<b>【到達目標】</b>					
学校教育における学習指導の様式や行動・認知・構成主義の各学習論について理解を深めることができる。〈知識・理解〉 教師の専門的力の形成について思考し、反省的实践家として教育に係る諸問題に対応できる問題解決能力を身に付ける。〈思考・問題解決能力〉 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた〈高度な専門性を備えた教育者〉の育成に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：教育課程の変遷 (担当岸誠一)					
第2回：学習指導の様式 (担当岸誠一)					
第3回：行動主義の学習論 (担当岸誠一)					
第4回：認知主義の学習論 (担当岸誠一)					
第5回：構成主義の学習論 (担当岸誠一)					
第6回：教師の専門的力 (担当岸誠一)					
第7回：技術的熟達者モデル (担当岸誠一)					
第8回：反省的实践家モデル (担当岸誠一)					
第9回：省察と熟考 (担当岸誠一)					
第10回：教師の職能成長 (担当岸誠一)					
第11回：専門的力の形成(1) (担当佐々木弘記)					
第12回：専門的力の形成(2) (担当佐々木弘記)					
第13回：反省的思考の方法(1) (担当佐々木弘記)					
第14回：反省的思考の方法(2) (担当佐々木弘記)					
第15回：反省的思考の方法(3) (担当佐々木弘記)					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢/態度		50%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する	
	レポート		50%	課題について要点をおさえ、自分の考えを述べたレポートによって評価する。	
	小テスト				
	定期試験				
	その他				
自由記載		レポート(50%)、授業態度(50%)			
<b>【受講の心得】</b>					
授業で配付された資料を予習して授業に臨むこと。配付するプリント・資料などを整理しておくこと。					
<b>【授業外学修】</b>					
1 予習として、配付された資料を読み、疑問点を明らかにする。					
2 復習として、課題のレポートを書く。					
3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。					
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載	授業の中で適宜資料を配付する。			
参考書	自由記載	『教育方法学 岩波テキストブック』、佐藤学(著)、岩波書店、1996年 『専門家の知恵 反省的实践家は行為しながら考える』、ドナルド・ショーン(著)、佐藤学・秋田喜代美(訳)、ゆみる出版、2001年			
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>					
公立中学校理科教諭、県教育センター(佐々木弘記)、公立小学校教諭・校長、県生涯学習センター、県情報教育センター(岸誠一)					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
学校、教育センター等での経験を生かして、教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。					

授業科目名	教育方法学特論		サブタイトル	授業番号	MB301
担当教員名	佐々木 弘記 住野 好久				
対象学部・学科	子ども学研究科 子ども学専攻	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>					
これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法及び技術に関する研究の到達点を学び、それを実践するための力量を身につける。					
<b>【到達目標】</b>					
これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法及び技術に関する研究の到達点を理解すること。それに基づく教育実践を創造する力量を身につけること。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた<高度な専門性を備えた教育者>の育成に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：教育方法学研究の全体像 (担当(佐々木))					
第2回：教育方法学研究の歴史(1) - コメニウス (担当(佐々木))					
第3回：教育方法学研究の歴史(2) - ヘルバルト (担当(佐々木))					
第4回：教育方法学研究の歴史(3) - 生活綴方 (担当(佐々木))					
第5回：教育方法学研究の歴史(4) - 戦後新教育 (担当(佐々木))					
第6回：教育方法学研究の歴史(5) - 教育の現代化 (担当(住野))					
第7回：教育方法学研究の歴史(6) - 集団づくり (担当(住野))					
第8回：教育方法学研究の歴史(7) - 学びの共同体論 (担当(住野))					
第9回：教育方法学研究の歴史(8) - アクティブ・ラーニング (担当(住野))					
第10回：教育方法学研究の実践課題(1) - 学力・資質能力論 (担当(住野))					
第11回：教育方法学研究の実践課題(2) - 教授と学習 (担当(住野))					
第12回：教育方法学研究の実践課題(3) - 指導と評価の一体化 (担当(住野))					
第13回：教育方法学研究の実践課題(4) - 授業づくりと学級づくり (担当(住野))					
第14回：教育方法学研究の到達点を踏まえた実践構想の発表(第1回) (担当(住野))					
第15回：教育方法学研究の到達点を踏まえた実践構想の発表(第2回) (担当(住野))					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	40%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加・貢献、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート	60%	講義内容を深く理解したうえで、教育方法学の実践化のための知見を示すこと。		
	小テスト				
	定期試験				
	その他				
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b>					
教育実習等での経験と講義内容とを結びつけながら学修すること。 授業で配付するプリント・資料などを整理し、講義ノートの詳細にとること。					
<b>【授業外学修】</b>					
1 予習：配付された資料を読み、疑問点を明らかにする。					
2 復習：ノートの内容を確認し、プリント・資料などを整理する。					
3 発展学習：紹介された参考文献を読む。可能な範囲で教育実践に活用する。					
使用テキスト	自由記載	随時、プリントを配布する。			
参考書	自由記載				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>					
公立中学校理科教諭，県教育センター（佐々木弘記）					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
学校，教育センター等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。					



授業科目名	子どもと音楽演習		サブタイトル	授業番号	MB302
担当教員名	未定				
対象学部・学科	子ども学研究科 子ども学専攻	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b>					
子どもと音楽の関係や年齢に応じた音楽活動についての知識を整理する。次に、現場における自らの実践事例記録などで観察される様々な課題を分析し改善することを通して、子どもと音楽の関係性に対する理解を深める。その上で、実践的な表現方法のあり方を考察し、より発展的な表現技法や表現形態についても考察を進める。					
<b>【到達目標】</b>					
子どもの発達において音楽的感性や表現力を培うことは重要なことである。本授業では、子どもの音楽的成長と発達について理解し、子どもの感性を育むための音楽の役割について理解することを目標とする。また、子どもと関わる保育者・教師自身による豊かな音楽的感性や表現力を身につける。さらに、子どもが豊かな音楽表現を身につけるためには、どのような音楽的活動を経験させ、どのような指導・援助を行うことが望ましいのかについて多面的に考察する。加えて、教育現場における具体的課題への接近方法を探究する。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
<p>第1回：小学校の音楽科教育の現状と課題 小学校における音楽科教育の意義と内容 / 音楽科学習指導要領</p> <p>第2回：子どもと音の環境</p> <p>第3回：子どもの成長と音楽体験、さまざまな音楽</p> <p>第4回：子どもの動きと音楽（拍節的な動きと音、拍節的でない動きと音）</p> <p>第5回：音楽表現の企画（教材、表現技法を中心に）</p> <p>第6回：音楽表現の実践（実践の観察と分析、検討）</p> <p>第7回：現場での音楽表現事例(1)（記録を分析、検討 - 児童の様子と楽曲、表現技法を中心に）</p> <p>第8回：現場での音楽表現事例(2)（記録を分析、検討 - 児童の様子と音楽形態、表現技法を中心に）</p> <p>第9回：音楽表現を支える、強弱、速度、音色を意識した伴奏法</p> <p>第10回：音楽表現を支える伴奏法、即興演奏法</p> <p>第11回：共通教材におけるアンサンブル - MLを活用して</p> <p>第12回：表現活動の展開例</p> <p>第13回：創作活動の展開例 - コンピュータを活用して</p> <p>第14回：伴奏技術の研究法考察 - MLを活用して</p> <p>第15回：伴奏法の実践と検討・考察</p>					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢 / 態度	30%	意欲的な受講態度、予習及び復習の状況により評価する。		
	レポート	20%	レポート課題について、コメントし返却する。		
	小テスト	20%	理論や技術の獲得を評価する		
	定期試験		最終的な理解度定着度を評価する。		
	その他				
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b>					
授業で習得した理論や技術が次回の授業で表出・発揮できるよう、努力してください。					
<b>【授業外学修】</b>					
<p>授業で提示される次回の内容について、予習すること。</p> <p>授業で提示された課題を実施し、復習すること。</p> <p>上記の内容を、週当たり4時間程度学修すること。</p>					
使用テキスト	自由記載	ドロシー・T・マクドナルド/訳 神原雅之「音楽的成長と発達」1999年 溪水社。			
参考書	自由記載	小学校音楽1～6年 小学校学習指導要領「音楽」			
<b>【担当教員の業務経験の有無】</b>					
無					
<b>【担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無】</b>					
無					

授業科目名	子どもと英語演習		サブタイトル		授業番号	MB303
担当教員名	大橋 典晶					
対象学部・学科	子ども学研究科 子ども学専攻			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
英語教育と国際理解教育の接点に基づく英語教育人間学を基盤として、児童に対する英語によるコミュニケーション力の育成のためのカリキュラム・教材開発やオリジナルな指導法に習熟し、コミュニケーションへの積極的態度（マインド）を基盤にした国際人育成の考え方・進め方を具体的実践を通して習得する。						
<b>【到達目標】</b>						
英語教育と国際理解の関係理解に基づいて、日本語を母語とする児童が外国語として英語を学び、英語コミュニケーション能力を習得する意義・内容・方法の概要を把握し、児童英語コミュニケーションの内容と教材化の方法を具体的につかむとともに、児童英語コミュニケーションの育成法を学習場面に合わせて修得している。本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、＜知識・理解＞に貢献するものである。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回 英語教育の目的・目標 第2回 英語コミュニケーションの本質 第3回 国際理解教育と英語教育の接点(1)：ことば・文化・社会 第4回 国際理解教育と英語教育の接点(2)：英語表現の発想と意味 第5回 英語と日本語のカルチャー・ギャップ(1)：ことばの共通性と異質性 第6回 英語と日本語のカルチャー・ギャップ(2)：日英語の発想・文化比較 第7回 児童英語コミュニケーションの特質(1)：コミュニケーションの本質的意義 第8回 児童英語コミュニケーションの特質(2)：こどもの発達と英語コミュニケーション 第9回 英語コミュニケーションマインド・スキルの習得(1)：英語能力の全体構造 第10回 英語コミュニケーションマインド・スキルの習得(2)：英語能力の習得法 第11回 児童英語コミュニケーションの内容と教材化の方法(1)：コミュニケーション教材の特徴 第12回 児童英語コミュニケーションの内容と教材化の方法(2)：モデル教材の分析 第13回 児童英語コミュニケーションの内容と教材化の方法(3)：教材化の具体的方法 第14回 児童英語コミュニケーションの育成法(1)育成上の基本的留意点 第15回 児童英語コミュニケーションの育成法(2)具体的育成法						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		50%	予習・講義内容などに基づく講義中の発言や疑問点への解決姿勢などを評価する。		
	レポート		50%	レポートは指定・自由課題についての調査・研究の口頭発表及びレポート提出で、主として講義内容への理解度と研究姿勢によって評価する。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載	『英語力とは何か』、山田雄一郎著、大修館書店				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
県教育委員会・県教育センター・県立高等学校英語科教諭						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
県教育委員会・県教育センターでの小学校英語教育に関する知識・技能もいかして指導する。						

授業科目名	子どもと理科演習		サブタイトル		授業番号	MB304
担当教員名	佐々木 弘記					
対象学部・学科	子ども学研究科 子ども学専攻			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
小学校学習指導要領に示された目標や内容について分析し、育成すべき資質能力について概括する。また、理科の学習指導に用いられる学習理論を指導場面に沿って考察する。更に、いくつかの単元を採り上げて、観察・実験の方法を習得し、教材研究の技能を身に付ける。						
<b>【到達目標】</b>						
小学校学習指導要領に示された理科の目標及び、理科教育において育成を目指す資質・能力について理解する。また、理科の学習指導に用いられる学習理論について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、具体的な授業場면을想定した教材研究の技能を身に付ける。 本科目は、ディプロマポリシーに掲げた修士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：小学校理科の目標・内容 第2回：理科で育成する資質・能力 第3回：理科の学習理論 第4回：探究学習論 第5回：問題解決学習論 第6回：認知的学習論 第7回：構成主義学習論 第8回：教材研究の仕方 第9回：学習指導案における指導と評価 第10回：理科におけるプログラミング教育 第11回：情報機器を活用した授業 第12回：物理領域にかかわる教材研究 第13回：化学領域にかかわる教材研究 第14回：生物領域にかかわる教材研究 第15回：地学領域にかかわる教材研究						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		50%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート		50%	課題について要点をおさえ、自分の考えを述べたレポートによって評価する。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
授業で配付された資料について予習・復習をして授業に臨むこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題のレポートを書く。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	小学校学習指導要領解説 理科編		文部科学省	東洋館出版	111	
	自由記載	「小学校学習指導要領解説 理科編」文部科学省、小学校理科教科書				
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有					
<b>【担当教員の実務経験】</b> 公立中学校理科教諭、県教育センター（佐々木弘記）						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 学校、教育センター等での経験を生かして、教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。						

授業科目名	子どもと算数演習		サブタイトル		授業番号	MB305
担当教員名	姫野 俊幸					
対象学部・学科	子ども学研究科 子ども学専攻			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
算数学習の内容論的考察と方法論的考察を理解し、算数教育の研究課題について検討することから、算数学習・算数教育のあり方について考察する。						
<b>【到達目標】</b>						
1 算数学習の内容論的考察と方法論的考察について理解することができる。						
2 算数教育の研究課題を探究することができる。						
3 算数学習・算数教育のあり方について考察することができる。						
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた修士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：算数学習の内容論的考察（数と計算）						
第2回：算数学習の内容論的考察（図形）						
第3回：算数学習の内容論的考察（測定、変化と関係）						
第4回：算数学習の内容論的考察（データの活用）						
第5回：算数学習の方法論的考察（認知プロセスとしての数学的活動）						
第6回：算数学習の方法論的考察（数学的推論と操作的証明）						
第7回：算数学習の方法論的考察（数学史と数学的活動）						
第8回：算数学習の方法論的考察（教授パラダイムと教師の専門性）						
第9回：算数教育の研究課題（達成度調査の国際比較）						
第10回：算数教育の研究課題（世界と日本の授業研究）						
第11回：算数教育の研究課題（問題解決型の授業）						
第12回：算数教育の研究課題（発達段階と学習指導）						
第13回：算数教育の研究課題（コミュニケーションの役割と機能）						
第14回：算数教育の研究課題（教科書の変遷）						
第15回：算数学習・算数教育のあり方						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		50%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加の状況を評価する。		
	レポート		50%	演習の要点を理解し、自分の考えを述べた内容を評価する。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
授業で配付する資料等について予習・復習し、自分の疑問や意見をもって授業に臨むこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 復習として、授業内容をノートにまとめて整理すること。						
2 予習として、配付した資料等を熟読し、自分の疑問や意見をもつこと。						
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の職務経験】</b>						
公立小学校教諭、教頭、校長、教育委員会事務局						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
実務経験を生かして、教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。						

授業科目名	子どもと国語演習		サブタイトル		授業番号	MB306
担当教員名	村井 隆人					
対象学部・学科	子ども学研究科 子ども学専攻			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
<p>子どものことばとその教育についての知見が集積されている国語教育学の成果を中心に、その理論と実践を学ぶ。授業では、各回で設定したテーマに関する文献の解説とディスカッションを行う。テーマは話すこと・聞くこと、書くこと、読むことという領域を基に設定しているが、国語学・国文学・心理学などの関連学問領域の成果についても触れる。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>話すこと・聞くこと、書くこと、読むことというそれぞれの言語活動における子どもの言語表現や反応、さらには言語教育の理論と実践について知り、子どものことばとその教育についての自分の考えをもつことができる。</p> <p>この科目は、ディプロマポリシーに掲げた高度な専門性を備えた保育者、教育者、研究者の育成に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：幼児・児童の言語とその教育についての研究の概観  第2回：幼児期の言語発達  第3回：学童期の言語発達  第4回：音声言語コミュニケーション能力の発達 入門期  第5回：音声言語コミュニケーション能力の発達 中学年以降  第6回：文学作品に対する子どもの反応の発達 参加者のスタンス  第7回：文学作品に対する子どもの反応の発達 観察者のスタンス  第8回：説明的文章の読みの発達 小学校低学年から中学年  第9回：説明的文章の読みの発達 小学校高学年から中学校  第10回：作文における言語表現の発達 小学校低学年から中学年  第11回：作文における言語表現の発達 小学校高学年から中学校  第12回：幼児・児童の言語教育に関する理論と実践(1)  第13回：幼児・児童の言語教育に関する理論と実践(2)  第14回：幼児・児童の言語教育に関する理論と実践(3)  第15回：各領域の成果と展望</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		50%	予習及び討議への参加の状況によって評価する。		
	レポート		50%	授業内容の理解度を期末レポートによって評価する。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載		授業への取り組みの姿勢/態度50%（文献の内容についての疑問や、他学生の意見へのコメントなど）、期末レポート50%				
<b>【受講の心得】</b>						
<p>毎回の授業で行うディスカッションに積極的に参加すること。  毎回の授業で用いる文献を予習する際に、複数の疑問・意見を挙げておくこと。</p>						
<b>【授業外学修】</b>						
<p>1. 復習として、授業内容をノートに整理しておくこと。  2. 予習として、授業で用いる文献を熟読しておくこと。  3. 授業で用いる文献に関連する参考文献の調査と収集を行うこと。  4. 参考文献を読み、他の受講者に説明できるようにしておくこと。  以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。</p>						
使用テキスト	自由記載	毎回プリント資料を配付する。				
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	国語科教育学研究の成果と展望 2		全国大学国語教育学会編	学芸図書	5000円	9784761604349
	自由記載	『国語科教育学研究の成果と展望II』、全国大学国語教育学会編、学芸図書				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	子どもと表現演習		サブタイトル		授業番号	MB307
担当教員名	柏原 寛					
対象学部・学科	子ども学研究科 子ども学専攻			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
<p>子どもの表現活動について乳幼児期から学童期の実態に応じた内容の演習を通して理論を探究する。  様々な表現のツールを用いながら、その特徴や面白さを確認し、探究する力を身につける。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>(1)表現に関する基本を踏まえ、各期のねらい及び内容の背景にある研究領域を理解する。  1-1)子どもが経験し身につけていく内容の背景にある研究領域を理解している。  (2)子どもの発達や学びの過程を理解し、素材や環境要素を教材化することができる。  2-1)子どもの心情、認識、思考及び動きなどを視野に入れた保育の構想をもとに教材を選択することができる。  2-2)表現に関する特性及び子どもの体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、指導の構想に活用することができる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt;&lt;思考・問題解決能力&gt;の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：表現とは  第2回：子どもの表現とは  第3回：表現と教育の歴史  第4回：表現能力の発達  第5回：活動の中にもみられる表現特性  第6回：子どもの想像力  第7回：子どものあそびと表現  第8回：表現と環境  第9回：自然環境と表現  第10回：音と表現  第11回：形と表現  第12回：色と表現  第13回：技術・技法  第14回：鑑賞  第15回：表現の読み取り</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	意欲的な授業態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート		50%	「子どもの表現」について背景・理論などについて具体的に述べていること。		
	小テスト		20%	各回の主要なポイントの理解をコメントペーパーの記述内容によって評価する。		
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
子どもの表現を豊かにする活動およびその背景にある理論について理解するために手を動かし、頭を動かして探究してほしい。						
<b>【授業外学修】</b>						
課題を課すことがある。						
使用テキスト	自由記載	毎回資料を配布する。				
参考書	自由記載					
<b>【その他】</b>						
造形表現については、はさみ、のり、テープ、色鉛筆、水彩絵具、定規、コンパス、カッター、スケッチブックなど、様々な画材、素材、道具を使用する。詳しい授業の準備物は授業の中で提示する。						
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	子どもと健康演習		サブタイトル	授業番号	MB308
担当教員名	水落 洋志				
対象学部・学科	子ども学研究科 子ども学専攻	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b>					
幼児教育・保育学における子どもと健康に関する専門的知識を養う習得する。また、新たな知見を模索するため、子どもと健康に関する文献や学術論文を集め、要約し発表することで理解を深める。					
<b>【到達目標】</b>					
下記の3点を本科目の到達目標に設定する。なお本科目はディプロマポリシーに掲げた保育所、幼稚園、認定こども園、小学校、地域社会、家庭などのあらゆる領域における子育て支援、保育、教育等の子どもに関わる営みの中で生じる様々な課題に対して、多様な視点からアプローチし、理論化を図ることに貢献する。					
1. 乳幼児期の心身の発育・発達を理解し、現状から導き出される課題と照らし合わせ、その課題への対応策を導き出すことができる。					
2. 乳幼児期の各発達段階に応じた支援・援助について、健康の側面から分析及び適切な解を導き出すことができる。					
3. 子どもの健康に関する課題について、論理的思考をもち、課題解決することができる。					
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：乳幼児期の心身の発育・発達					
第2回：乳児期の遊びが心身の発達に及ぼす影響					
第3回：幼児期の遊びが心身の発達に及ぼす影響					
第4回：乳児期の遊び（運動遊びを中心として）					
第5回：幼児期の遊び（運動遊びを中心として）					
第6回：乳児期の運動発達に関する文献・論文の購読・要約・発表（歩行動作獲得までの発達過程）					
第7回：乳児期の運動発達に関する文献・論文の購読・要約・発表（模倣動作の発達過程）					
第8回：幼児期の運動発達に関する文献・論文の購読・要約・発表（運動能力の発達過程）					
第9回：幼児期の運動発達に関する文献・論文の購読・要約・発表（個と集団の運動遊び）					
第10回：幼児期の運動発達に関する文献・論文の購読・要約・発表（子どもの興味・関心から構成する運動遊び）					
第11回：乳児期の各年齢に応じた実践場面の支援・援助に関する検討（0-1歳児を中心として）					
第12回：乳児期の各年齢に応じた実践場面の支援・援助に関する検討（2歳児を中心として）					
第13回：幼児期の各年齢に応じた実践場面の支援・援助に関する検討（3歳児を中心として）					
第14回：幼児期の各年齢に応じた実践場面の支援・援助に関する検討（4歳児を中心として）					
第15回：幼児期の各年齢に応じた実践場面の支援・援助に関する検討（5歳児を中心として）					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	35%	論理的思考や主体的な発言ができる。さらに、自己の興味・関心に基づき探究し、具現化（レポート等）することができる。		
	レポート	65%	乳幼児期の発達の特性を捉え、理論的に発表したり、レポート作成ができる		
	小テスト				
	定期試験				
	その他				
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b>					
1. 乳幼児の健康に関する知見やその研究データなどを収集し、解決にむけた方法を探る。					
2. 乳幼児の身体発達についての先行研究を集約し、研究方法について理解する。					
<b>【授業外学修】</b>					
1. 乳幼児を対象とした身体に関する学術論文や文献を集め、そのポイントを記載する。					
2. 具体的な乳幼児の身体発達を促す遊びや場面について、生活の中でエピソードを収集する。					
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載				
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	生涯スポーツの心理学	杉原 隆	福村出版	2,800円	978-4-571-25039-2
	自由記載	事前に読んでおくことが望ましい。			
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>					
幼児・保育現場での運動指導、スポーツクラブインストラクター、保育者への運動発達に関する実演・講演演者					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
学生が、乳幼児期の健康に関する専門的知識を身につけるため、幼児・保育現場での運動指導の経験等や保育者に対する健康に関する実技講演等の演者の経験を生かし、指導を行う。					

授業科目名	子どもと環境演習		サブタイトル	授業番号	MB309
担当教員名	齊藤 住子				
対象学部・学科	子ども学研究科 子ども学専攻	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
【授業の概要】					
<p>子どもが周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもって関わるには、指導者はどのような準備をし、どのように子どもに接すればよいか、ポイントを明確にしながら内容ごとに具体的に探っていく。</p> <p>また子どもが体験したことを生活に取り入れていくためには、どのような活動を展開したらよいかを実際の指導場面を考慮しながら考え、明らかにしていく。</p>					
【到達目標】					
<p>・子どもが身近な環境に親しみ、自然とふれあい、様々な事象に興味・関心をもつためには、指導者はどのような準備、仕掛け、声かけをすれば良いかポイントを述べることができる。</p> <p>・子どもが身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れている具体的な子どもの活動をイメージすることができる。そのためにはどうすれば良いかを具体的に述べるができる。</p> <p>・物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにするためには、どのような遊び・活動が効果的なのかを具体例を挙げながら述べるができる。</p> <p>、なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt;&lt;思考・問題解決能力&gt;&lt;技能&gt;の修得に貢献する。</p>					
【授業計画】					
<p>第1回：領域「環境」のねらいと内容について要点を考察する</p> <p>第2回：子どもの身近な環境とは何か。自然とは何か。子どもが興味・関心を持つためには、どうすれば良いか。</p> <p>第3回：子どもが身近な環境に自分から関わるにはどうすれば良いか。発見を楽しむとはどういうことか。</p> <p>子どもはどのような場面で何を考えるか。</p> <p>第4回：「(1)自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く」どのような場面設定をし、準備し、言葉掛けをしたら良いか、子どもの活動を具体的にイメージして、まとめる。</p> <p>第5回：「(2)生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ。」どのような場面設定をし、準備し、言葉掛けをしたら良いか、子どもの活動を具体的にイメージして、まとめる。</p> <p>第6回：「(3)季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く」どのような場面設定をし、準備し、言葉掛けをしたら良いか、子どもの活動を具体的にイメージして、まとめる。</p> <p>第7回：「(4)自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ」どのような場面設定をし、準備し、言葉掛けをしたら良いか、子どもの活動を具体的にイメージして、まとめる。</p> <p>第8回：「(5)身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付く、いたわったり大切にしたりする」どのような場面設定をし、準備し、言葉掛けをしたら良いか、子どもの活動を具体的にイメージして、まとめる。」</p> <p>第9回：「(6)日常生活の中で我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ」どのような場面設定をし、準備し、言葉掛けをしたら良いか、子どもの活動を具体的にイメージして、まとめる。</p> <p>第10回：「(7)身近な物を大切に」どのような場面設定をし、準備し、言葉掛けをしたら良いか、子どもの活動を具体的にイメージして、まとめる。</p> <p>第11回：「(8)身近な物や遊具に興味をもって関わり、自分なりに比べたり、関連付けたりしながら考えたり、試したりして工夫して遊ぶ」どのような場面設定・準備・言葉掛けをしたら良いか、イメージして、まとめる。</p> <p>第12回：「(9)日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ」どのような場面設定をし、準備し、言葉掛けをしたら良いか、子どもの活動を具体的にイメージして、まとめる。</p> <p>第13回：「(10)日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ」どのような場面設定をし、準備し、言葉掛けをしたら良いか、子どもの活動を具体的にイメージして、まとめる。</p> <p>第14回：「(11)生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ」どのような場面設定をし、準備し、言葉掛けをしたら良いか、子どもの活動を具体的にイメージして、まとめる。</p> <p>第15回：「(12)幼稚園内外の行事において国旗に親しむ」どのような場面設定をし、準備し、言葉掛けをしたら良いか、子どもの活動を具体的にイメージして、まとめる。</p>					
【授業計画 備考2】					
<p>授業の前半で資料を集め、思索を深め、子どもの具体的な活動をイメージする。</p> <p>授業の後半は、ポイントを押さえたレポートを作成する。</p>					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	25%	意欲的な授業態度		
	レポート	75%	レポートの内容、独自性		
	小テスト				
	定期試験				
	その他				
	自由記載	・学習者の考え、発想、イメージを尊重する			
【受講の心得】					
<p>・「子どもと環境」について、深く根本的なことについて考え、イメージしていく。既存概念にこだわらない自由な考えを述べる。生き生きとした子どもの活動がイメージできたらよい。</p>					
【授業外学修】					
<p>・「興味・関心」「自分から関わる」「発見を楽しむ」「考える」「生活に取り入れる」などのキーワードを日頃から意識し、見識を深めていくこと。</p>					
使用テキスト	自由記載				
参考書	自由記載				
【担当教員の実務経験の有無】					
無					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】					
無					



授業科目名	子どもと人間関係演習		サブタイトル		授業番号	MB310
担当教員名	廣畑 まゆ美					
対象学部・学科	子ども学研究科 子ども学専攻			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
本授業は授業前に調べ学習を行い、授業は議論中心に行う。具体的には、幼児の仲間関係に関する研究のあり方について理解を深めるための先行研究レビューを行う。また、そのための質的研究方法論についての理解も深める。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域「人間関係」に関する研究の動向と課題を理解する。</li> <li>・研究の位置づけの方法やレビューの方法や幼児の仲間関係にアプローチする質的研究方法論について理解する。</li> <li>・先行研究のまとめ方、議論の方法を身に付ける。</li> </ul> なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた「高度な専門性を備えた教育者」の育成に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：「人間関係」に関する研究とは何か... 発達研究と実践研究について理解を深める 第2回：「幼児の仲間関係の動向と課題」を知る... 仲間関係研究の現状と課題を整理して議論する。 第3回：「保育者を介した幼児の仲間関係の多様性」に関する先行研究の報告と議論... 受講生の発表と議論 第4回：「幼児の協同的活動」に関する先行研究の報告と議論... 受講生の発表と議論 第5回：「障害がある幼児がいるクラスの仲間関係」に関する先行研究の報告と議論... 受講生の発表と議論 第6回：「保育者の仲間関係に関する援助」に関する先行研究の報告と議論... 受講生の発表と議論 第7回：幼児の仲間関係を捉える質的研究方法論としてのエピソード記述... 『エピソード記述入門』の紹介と議論 第8回：幼児の仲間関係を捉える質的研究方法論としての事例研究... 『発達心学研究』における「事例研究」を扱った論文のまとめの発表と議論 第9回：幼児の仲間関係を記録するドキュメンテーションと研究のあり方... ドキュメンテーションの紹介と議論 第10回：質的研究方法論のTEMについて理解を深める... 『TEMでわかる人生の径路』を基にした議論 第11回：TEMで幼児の仲間関係をどのように捉えられるか... 保育実践研究のツールとしての複線径路・等至性モデルの可能性と課題」に関する議論 第12回：幼児の仲間関係を捉える質的研究方法論としてのM-GTA... 「子どもの経験を質的に描き出す試み：M-GTAとTEMの比較」の報告と議論 第13回：幼児の仲間関係を捉える質的研究方法論としてのエスノグラフィ... 『子どもエスノグラフィ入門』の紹介と議論 第14回：エスノグラフィで幼児の仲間関係をどのように描けるか... 『幼稚園で子どもはどう育つか』の紹介と議論 第15回：仲間関係に関するテーマを基にした議論... 各受講者の関心のあるテーマを基にした議論						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート		80%	各回の授業で提示される課題について、自分の考えを具体的に述べていること。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
授業で配付された資料を予習して授業に臨むこと。配付するプリント・資料などを整理しておくこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として、配付された資料を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題のレポートを書く。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	使用しない。適宜プリントを配布する。				
参考書	自由記載	使用しない。				

授業科目名	教育心理学特論		サブタイトル		授業番号	MC301
担当教員名	國田 祥子					
対象学部・学科	子ども学研究科 子ども学専攻			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
教育心理学とは、学び手としての子どもを心理学の視点から理解し、支援するための科学である。この授業では、学習者の認知過程についての知見をふまえた、新たな授業実践のあり方を解説する。						
<b>【到達目標】</b>						
教授学習過程に関するこれまでの心理学的知見を学ぶことで、児童・生徒の理解を助けるために必要となる力を養う。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げられた内容のうち、＜知識・理解＞の習得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：教授学習過程とは 第2回：学習科学:思弁から科学へ 第3回：熟達 熟達者と初心者の違いは何か 第4回：転移 学んだことを活用するために 第5回：認知発達 子どもはいかに学ぶのか 第6回：神経科学 学習を支える脳のメカニズム 第7回：学習環境 学びの環境をデザインする 第8回：算数教育 意味を理解させる 第9回：理科教育 ブラックボックスの内部を探る 第10回：読みの指導 大きな構図を見る 第11回：作文教育 知識の陳述から知識の変換へ 第12回：教育評価 指導と評価を一体化する 第13回：教師の学習 教師の成長を支援する 第14回：情報教育 学習を支える情報テクノロジー 第15回：学習科学の現状						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		100%	発表内容および討議への参加，予・復習の状況によって評価する。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
積極的な受講態度を期待します。毎回必ず1回は意見や見解を述べること。						
<b>【授業外学修】</b>						
有意義な討議を行うため、必ず予習してから毎回の授業に臨むこと。						
使用テキスト	自由記載	適宜資料を配付する。				
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	授業が変わる 認知心理学と教育実践が手を結ぶとき		松田文子・森 敏昭(監訳)	北大路書房	3200円	4-7628-2088-1
	授業を変える 認知心理学のさらなる挑戦		森 敏昭・秋田喜代美(監訳)	北大路書房	3800円	978-4-7628-2275-9
	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	子ども社会学特論		サブタイトル		授業番号	MC302
担当教員名	中田 周作					
対象学部・学科	子ども学研究科 子ども学専攻			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
<p>本授業は、下記のテーマにしたがって進めていく。  受講学生は、順番に担当部分についての発表資料を作成し、その作成した資料にもとづいて発表を行う。  その発表に関しては、学生たち自身が質疑応答や討論をする。  教員は、この議論について適宜、補足説明をしたり、必要な事項について講義する。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>現代社会における教育現象は、決して単純なものではない。教育分野における社会学的アプローチの有効性のひとつは、こうした複雑な社会現象を読み解くための枠組みを提供することである。  そこで、本授業では、現代社会のなかで生きる子どもや子どもを取り巻く社会集団等に関するテーマを取り上げ、社会学の方法を用いて分析する。  このような学習を積み重ねることにより、教育者・保育者として、社会現象としての教育についての確かな理解ができる実践者となることを目標とする。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：子ども社会学の位置づけ  第2回：子ども社会学の研究対象と研究方法  第3回：子どもの発達と子どもの「居場所」  第4回：子どもの「居場所」と臨床教育社会学  第5回：子どもの逸脱行動  第6回：「いじめ」の定義の再検討  第7回：学校と地域社会の連携  第8回：母親の育児不安と父親の育児態度  第9回：母親の育児不安と育児サークル  第10回：現代日本の子ども観  第11回：子どもの仲間集団  第12回：子どもの放課後と学童保育  第13回：子ども研究の方法（テキスト分析）  第14回：子ども研究の方法（フォーカス・グループ・インタビュー）  第15回：子ども研究の方法（SCAT）</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		60%	作成したレジュメ及びその修正		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他		40%	発表及び質問		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
積極的な姿勢で臨むこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
発表資料の作成						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	子ども社会学の現在		住田正樹	九州大学出版会	3,800	978-4-7985-0135-2
自由記載						
参考書	自由記載		住田正樹・高島秀樹 編著『変動社会と子どもの発達』北樹出版 住田正樹・多賀太編『子どもへの現代的視点』北樹出版 酒井朗、多賀太、中村高康『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房 浜島朗ほか『社会学小辞典』有斐閣 近藤博之ほか『教育の社会学』放送大学教育振興会 日本子ども社会学会編『いま、子ども社会に何がおこっているか』北大路書房 永井聖二・加藤理 編『消費社会と子どもの文化』学文社			
	【担当教員の実務経験の有無】		無			
	【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】		無			

授業科目名	相談・援助特論		サブタイトル	授業番号	ME301
担当教員名	中典子				
対象学部・学科	子ども学研究科 子ども学専攻	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>					
相談援助の進め方や実際について社会福祉の立場から講義し、ソーシャルワークやカウンセリング技術の学びを促し、子どもを取り巻く環境に働きかける支援の理解を深める。事例を通して子どもが生活する上で直面する課題に焦点をあてて支援する方法を学び、保育・教育現場における相談援助について説明する。					
<b>【到達目標】</b>					
1. 相談援助の基本的考え方を把握できるようになる。 2. 子どもと子どもを取り巻く環境の相互作用に焦点を当てた支援の実際を理解できるようになる。 3. 事例研究にもとづいて、アセスメントの方法について理解できるようになる。 なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解><思考・問題解決能力>の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：相談援助の構造 第2回：相談援助の理論・意義・機能 第3回：相談援助における面接技術 第4回：相談援助の対象・プロセス 第5回：相談援助の方法と技術 第6回：関係機関との連携 第7回：保育・教育相談援助の基本「子どもの福祉と最善の利益の遵守」 第8回：保育・教育相談援助の基本「子どもの成長と喜びの共有」 第9回：保育・教育相談援助の基本「保護者の養育力の向上と支援」 第10回：保育・教育相談援助の基本「受容、自己決定、秘密保持の遵守」 第11回：保育・教育相談援助の実際「保護者への支援方法」 第12回：保育・教育相談援助の実際「保護者への支援計画と連絡・記録・評価」 第13回：保育・教育相談援助の実際「要保護の子どもと家庭への支援」 第14回：保育・教育相談援助の実際「障がいのある子どもと保護者への支援」 第15回：保育・教育相談援助の実際「虐待の予防に向けての保護者への支援」					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢/態度		50%	意欲のある受講態度、発表や討議への参加、予習・復習の状況によって評価する。	
	レポート		50%	事例研究にもとづいて保育・教育現場における相談援助の方法について具体的に述べられているかによって評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。	
	小テスト				
	定期試験				
	その他				
自由記載					
<b>【受講の心得】</b>					
授業中に提示した課題を期日までに提出するように心がけること。					
<b>【授業外学修】</b>					
授業開始前までに、テキストの内容を読んでおくこと。(1時間)					
授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。(2時間)					
授業で学んだ内容を振り返り、必要と考えることをノートにまとめておくこと。(1時間)					
使用テキスト	自由記載				
参考書	自由記載 必要に応じて紹介する。				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
無					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					

授業科目名	発達障害児支援特論		サブタイトル	授業番号	ME302
担当教員名	原田 新				
対象学部・学科	子ども学研究科 子ども学専攻	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
【授業の概要】 障害概念および発達障害の基礎知識を学んだ上で、二次障害の予防を見据えた発達障害児への具体的な支援方法や関わり方、また家族支援の方法について身につけることを目指す。					
【到達目標】 各種の発達障害特性や支援方法について理解することで、発達障害児およびその家族が日常で直面する困難さにアプローチできる為の視点を身につけると共に、子育て支援、保育、教育等の現場に対して身につけた知識や方法を還元できるようになること。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力>の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：障害とは 第2回：発達障害の理解(1) 第3回：発達障害の理解(2) 第4回：発達障害の理解(3) 第5回：発達障害と二次障害 第6回：インクルーシブ教育(1) 第7回：インクルーシブ教育(2) 第8回：発達障害児の見方と関わり方：リフレーミング 第9回：発達障害児の見方と関わり方：分かりやすい指示・声かけ 第10回：発達障害児の家族支援：ペアレントプログラム(1) 第11回：発達障害児の家族支援：ペアレントプログラム(2) 第12回：発達障害児の家族支援：ペアレントプログラム(3) 第13回：発達障害児の家族支援：ペアレントプログラム(4) 第14回：発達障害児の家族支援：ペアレントプログラム(5) 第15回：まとめ					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	80%	授業内での討論や演習等への参加状況、授業外での取り組み状況、授業内で作成する成果物を総合的に評価する。		
	レポート	20%	授業に関わるテーマの小レポート(2回)を評価する。		
	小テスト				
	定期試験				
	その他				
	自由記載				
【受講の心得】 シラバスに基づいて入念に予習を行って授業に臨むと共に、授業中に行う討論や演習等に参加すること。					
【授業外学修】 授業で配布する資料や、参考書等を参照しながら、予習、復習を行うこと。					
使用テキスト	自由記載				
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	ライブ講義 発達障害の診断と支援	内山登紀夫	岩崎学術出版社	2500円 + 税	978-4-7533-1065-4
	自閉スペクトラム症の理解と支援	本田秀夫	星和書店	1800円 + 税	978-4-7911-0971-5
	自由記載				
【担当教員の実務経験の有無】 有					
【担当教員の实務経験】 高等教育機関における障害学生支援					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					
【実務経験をいかした教育内容】 高等教育機関における発達障害学生支援の実例も交えながら説明する。					

授業科目名	子どもの認知と学習特論		サブタイトル		授業番号	ME303
担当教員名	國田 祥子					
対象学部・学科	子ども学研究科 子ども学専攻			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
人の行動は内的な認知過程に依存しており、その過程は感情や意識、経験や知識などによって変化する。こうした認知機能と、それが子どもの学習過程にもたらす影響について学ぶ。						
<b>【到達目標】</b>						
子どもの学習過程を認知的側面から捉えるための基礎知識および方法論を身に着ける。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げられた内容のうち、〈知識・理解〉の習得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：学習および認知について 第2回：古典的条件づけ 第3回：オペラント条件づけ 第4回：技能学習 第5回：社会的学習 第6回：問題解決と推理 第7回：概念過程と言語獲得 第8回：記憶のしくみ 第9回：情報の検索と忘却 第10回：知識と表象 第11回：イメージと空間の情報処理 第12回：認知の制御過程 第13回：文章の理解と記憶 第14回：意思決定 第15回：日常世界の記憶						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		100%	発表内容および討議への参加，予・復習の状況によって評価する。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
積極的な受講態度を期待します。毎回必ず1回は意見や見解を述べること。						
<b>【授業外学修】</b>						
有意義な討議を行うため、必ず予習してから毎回の授業に臨むこと。						
使用テキスト	自由記載	適宜資料を配付する。				
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	グラフィック学習心理学		山内光哉・春木豊（編著）	サイエンス社	2550円	978-4-7819-0977-9
	グラフィック認知心理学		森 敏昭・井上 毅・松井孝雄（共著）	サイエンス社	2400円	978-4-7819-0776-8
	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	子どもとメディア特論		サブタイトル		授業番号	MF301
担当教員名	梅原 嘉介					
対象学部・学科	子ども学研究科 子ども学専攻			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b> 子どもを取り巻く情報メディア環境は、スマートフォン使用の低年齢化が進むことにより、大きく様変わりしつつある。そのため、社会全体が、子どもに対する適切な情報環境をどのように整備・構築するかが求められている。本授業では、メディアと社会について、インターネットのソーシャルメディアを取り上げ、その文化的、社会的な効果や影響について分析し、適切な情報メディア環境を分析する。						
<b>【到達目標】</b> 授業で学んだソーシャルメディアの分析手法を習得し、その分析手法を使用し、各メディアが与える効果や影響について分析する知識を身に付ける。そして、ソーシャルメディアの今後の課題と在り方について学ぶ。  なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b> 第1回：ソーシャルメディアとは 第2回：ソーシャルメディアの歴史1（1990年代以前） 第3回：ソーシャルメディアの歴史2（1990年代以降） 第4回：ソーシャルメディアの歴史3（2020年代以降） 第5回：ソーシャルメディアの定義と分類 第6回：ソーシャルメディアの基礎知識1（文字による情報メディアの表現と技術） 第7回：ソーシャルメディアの基礎知識2（音声による情報メディアの表現と技術） 第8回：ソーシャルメディアの基礎知識3（画像による情報メディアの表現と技術） 第9回：ネットワークとメディア環境1（情報の伝達の仕組み） 第10回：ネットワークとメディア環境2（情報の伝達の構築） 第11回：ソーシャルメディアの応用知識1 第12回：ソーシャルメディアの応用知識2 第13回：ソーシャルメディアの応用知識3 第14回：ソーシャルメディアの課題 第15回：ソーシャルメディアの今後						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%				
	レポート	80%				
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b> 新聞・TV等で報道されるメディア情報に関するニュースやレポートに興味を持ってほしい。						
<b>【授業外学修】</b> 1 復習すること 2 授業で紹介された参考文献を読む。						
使用テキスト	自由記載	テキストは使用しない。				
参考書	自由記載					

授業科目名	地域教育社会学特論		サブタイトル	授業番号	MF302	
担当教員名	中田 周作					
対象学部・学科	子ども学研究科 子ども学専攻	単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】						
<p>本授業は、下記のテーマにしたがって進めていく。          受講学生は、順番に担当部分についての発表資料を作成し、その作成した資料にもとづいて発表を行う。          その発表に関しては、学生たち自身が質疑応答や討論をする。          教員は、この議論について適宜、補足説明をしたり、必要な事項について講義する。</p>						
【到達目標】						
<p>現代社会における教育現象は、決して単純なものではない。教育分野における社会学的アプローチの有効性のひとつは、こうした複雑な社会現象を読み解くための枠組みを提供することである。          そこで、本授業では、地域社会のなかで生きる子どもや子どもを取り巻く社会集団等に関するテーマを取り上げ、社会学の方法を用いて分析する。          このような学習を積み重ねることにより、教育者・保育者として、社会現象としての地域教育についての確かな理解ができる実践者となることを目標とする。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：子どもの社会化とは何か          第2回：現代日本の子ども観 (1)子ども観の定義と統計データから見る子ども観          第3回：現代日本の子ども観 (2)課題図書に見る子ども観          第4回：現代日本の子ども観 (3)地域住民の子ども観          第5回：子ども社会化エージェント (1)子どもの仲間集団における社会化の特徴          第6回：子ども社会化エージェント (2)近隣集団・地域集団における社会化の特徴          第7回：子ども社会化エージェント (3)家族集団における社会化の特徴          第8回：現代社会における子育て支援 (1)母親の育児不安の実態          第9回：現代社会における子育て支援 (2)放課後子ども教室と学童保育          第10回：現代社会における子育て支援 (3)近隣集団と地域集団の活動          第11回：現代社会における子育て支援 (4)子どもとインターネット、ケータイ          第12回：地域における子育て支援活動の現実 (1)放課後子どもプラン          第13回：地域における子育て支援活動の現実 (2)教育支援人材の育成          第14回：地域における子育て支援活動の現実 (3)地域集団における子育て支援活動(1)          第15回：地域における子育て支援活動の現実 (4)地域集団における子育て支援活動(2)</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		60%	作成したレジュメ及びその修正		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他		40%	発表及び質問		
自由記載						
【受講の心得】						
積極的な姿勢で臨むこと。						
【授業外学修】						
発表資料の作成						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	子どもへの現代的視点		住田正樹・多賀太	北樹出版	2800	4-7793-0076-2
自由記載						
参考書	自由記載		住田正樹・高島秀樹編『変動社会と子どもの発達』北樹出版 住田正樹『子ども社会学の現在』九州大学出版会 酒井朗，多賀太，中村高康『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房 浜島朗ほか『社会学小辞典』有斐閣 近藤博之ほか『教育の社会学』放送大学教育振興会			
	【担当教員の実務経験の有無】					
	無					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】						
無						



授業科目名	地域教育福祉特論		サブタイトル	授業番号	MF303
担当教員名	中典子				
対象学部・学科	子ども学研究科 子ども学専攻	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
【授業の概要】					
・現代社会における子どもを取り巻く環境を把握したうえで、子どもの教育環境・児童福祉政策の実態とその重要性について講義する。その際、「地域におけるネットワーク形成」に着目し、コミュニティワークの特質やそのあり方について説明する。また、院生自身が事例を読み解き、自らプレゼンテーションをする時間を設ける。					
【到達目標】					
・現代社会における子どもとその家族を取り巻く課題に対して、地域福祉・地域教育からのアプローチの方法とその特徴を理解できるようになる。 ・子ども、家族に関する理解を前提に、子どもの権利を守る活動として地域福祉・地域教育実践を分析、考察することができるようになる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：子どもをめぐる現状と課題 第2回：「子どもの権利条約」からみた教育・福祉 第3回：地域ネットワークとは 第4回：子育ての現状と子育てネットワーク 第5回：幼稚園における子育て支援 第6回：児童館で展開される子育てネットワーク 第7回：学校現場を中心にみたネットワーク 第8回：公民館活動からみたネットワーク 第9回：市町村における子どもの専門機関のネットワーク 第10回：里親における地域ネットワーク 第11回：社会福祉協議会からのネットワーク 第12回：子育て拠点施設を核としたネットワーク形成 第13回：地域における様々な連携について 第14回：子どもをめぐる多義的なネットワークとは 第15回：地域教育・地域福祉の今後の展望と課題					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	テキストの内容を把握した上での質問、発言、及び他学生の意見に対するコメントなどについて評価する		
	レポート	50%	出題に対して適切な分析力、表現力、また、参考文献・資料などの活用などについて評価する		
	小テスト				
	定期試験				
	その他	30%	プレゼンテーションについては、「他者によく分かる授業」を観点として評価する		
	自由記載				
【受講の心得】					
事前に教科書をよく読んでくること。毎回の授業において、他学生としっかりディスカッションをすることにより学びを深めようと意欲的に取り組むこと。また、分からないところは自ら文献や先行研究論文を探し、他学生に提示できるように努力すること。					
【授業外学修】					
1．毎授業後に示す範囲について、事前に教科書をしっかり読んでくること。（約1時間）					
2．教科書の内容に関連することについて深めることができる文献や先行研究論文にあたり、要約のプリントを作成すること。（約2時間）					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	学校プラットフォーム 教育・福祉、そして地域の協働で子どもの貧困に立ち向かう	山野則子編	有斐閣	2,860	9784641174405
	自由記載				
参考書	自由記載				
	【担当教員の実務経験の有無】 無				
	【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無				

授業科目名	子どもと放課後特論		サブタイトル		授業番号	MF304
担当教員名	住野 好久					
対象学部・学科	子ども学研究科 子ども学専攻			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
放課後における子どもの生活実態を様々な統計データから読み解く。その上で、放課後における子どもの心身の発達及び学習の過程とそれを支援する教育と福祉に関する理論と思想、及び、現状と課題について検討する。最後に、学校教育と放課後児童健全育成事業・放課後子ども総合プランとの連携のあり方について、社会的、制度的、経営的な観点から考察する。						
<b>【到達目標】</b>						
放課後における子どもの生活実態を理解するとともに、放課後の子どもの教育と福祉のあり方及び学校教育との連携のあり方について考える。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：子どもの放課後生活の現状 第2回：子どもの放課後生活の課題 第3回：子どもの放課後生活の課題分析 第4回：子どもの放課後における教育（1） 第5回：子どもの放課後における教育（2） 第6回：子どもの放課後における教育（3） 第7回：子どもの放課後における教育（4） 第8回：子どもの放課後における福祉（1） 第9回：子どもの放課後における福祉（2） 第10回：子どもの放課後における福祉（3） 第11回：現代における放課後子ども対策の現状（1） 第12回：現代における放課後子ども対策の現状（2） 第13回：岡山県における放課後子ども対策の現状（1） 第14回：岡山県における放課後子ども対策の現状（2） 第15回：子どもの放課後と学校教育						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート		60%	本科目の学習を理解した上で、放課後子ども対策に関する考えを論述すること		
	小テスト		40%	授業内容を理解し、適切に回答すること		
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
子どもの発達保障を広い視野で考える思考様式を持って、積極的に討論に参画すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1) テキスト及び配付資料を熟読すること。 2) 学校外の子どもを対象とした様々な事業に参加したり、そうした事業に関する新聞記事を収集したりすること。						
使用テキスト	自由記載	授業の最初に紹介する。				
参考書	自由記載	厚生労働省「放課後児童クラブ運営指針」				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	子ども学特別研究		サブタイトル	授業番号	MH401
担当教員名	佐々木 弘記 中典子 伊藤 智里 國田 祥子 村井 隆人				
対象学部・学科	子ども学研究科 子ども学専攻	単位数	8単位		
開講年次	1年	開講期	通年		
必修・選択	必修	授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b>					
<p>入学後、院生は研究指導教員と話し合い、ディプロマポリシーにふさわしい研究テーマを設定し、修士論文としてまとめる。目安として、1年次では主として研究テーマに沿った先行研究の文献や資料を収集することで研究分野に関する理解を深め、具体的な研究計画を完成させる。1年次後半から2年次にかけてデータや資料を収集、解析し、修士論文の執筆を進める。現職の社会人や実践経験のある学生では、自ら体験した事例や、現場で集めたデータを基に研究を進めることもできる。2年次後半で研究の仕上げを行い、修士論文を完成させる。</p>					
<b>【到達目標】</b>					
<p>子ども学の本質・内容・方法に関する基本理解に基づいて、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら事象を分析し、何が問題であるかを見出し、解決法を探る力を身につける。</li> <li>・子ども学の基礎的な研究手技を身につける。</li> <li>・論理的で普遍性のある表現力を身につける。</li> </ul> <p>以上を踏まえたうえで修士論文を完成させる。</p> <p>本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
<b>【授業計画 備考】</b>					
授業時間外にも調査・文献整理することが求められる。					
<p>佐々木弘記：教育方法学，教育工学の手法を用いて，教授－学習過程やメディアの活用に関する理論的・実証的研究の指導を行う。</p> <p>中典子：事例研究の手法を用いて学校をベースに展開するソーシャルワークプロセスに関する研究指導を行う。</p> <p>國田 祥子：表示メディアと読みの関係，音読の効果，頻度と注意の関係等に関する研究指導を行う。</p>					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢／態度		40%	意欲的な受講態度によって評価する。	
	レポート				
	小テスト				
	定期試験				
	その他		60%	執筆された論文を学位審査委員会で審査する。	
	自由記載	論文は、受講中の討論や中間発表での議論が反映されていることと、高度専門職業人や研究者としての問題解決の基礎的能力を身に付けていると認定できることが求められる。表現系の場合は作品や実演を審査の対象とすることができる。			
<b>【受講の心得】</b>					
教育や保育の実践の改善に資するテーマを探究すること。先行研究のレビューを行い、教育や保育の実践上の問題点を明確にし、研究課題の新規性を説明できるようにしておくこと。					
<b>【授業外学修】</b>					
授業で提示される次回の内容について、予習すること。					
授業で提示された課題を実施し、復習すること。					
上記の内容を、週当たり8時間程度学修すること。					
使用テキスト	自由記載				
参考書	自由記載				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>					
公立小学校教諭・校長，県生涯学習センター，県情報教育センター（岸 誠一），公立中学校教諭，県教育センター（佐々木弘記）					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
学校現場での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで，実感を伴った理解を図り，学習指導力，生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。					

# 中国短期大学 令和3年度(2021年度) シラバス

<b>授業科目名</b>	<b>日本語表現</b>	<b>サブタイトル</b> (日本語の用字用語と言語表現について)	<b>授業番号</b>	HA201
<b>担当教員名</b>	又吉 里美			
<b>対象学部・学科</b>	総合生活学科	<b>単位数</b>	2単位	
<b>開講年次</b>	1年	<b>開講期</b>	後期	
<b>必修・選択</b>	選択	<b>授業形態</b>	講義	

**【授業の概要】**

本講義は、適切な日本語表現を身につけるべく実際に「書くこと」の演習をおこなう。また、表現活動のおもしろさを味わう。

**【到達目標】**

1. 適切な日本語表現を身につける。
  2. 日本語の仕組みや特徴について理解し、様々な種類の文章が書けるようになる。
  3. 表現活動に興味関心を持って取り組み、表現することの創意工夫の観点を理解する。
  4. 表現活動および相互評価の活動をとおして、他者よりよい関係を築くことを考えたり身につけたりする。
- なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <態度>の修得に貢献する。

**【授業計画】**

**【授業計画 備考】**

本講義では、適切な表現を考えたり、表現することの創意工夫を考えたりしながら、多様な種類の文章を実際に書いていく。また、日本語の仕組みや特徴について、言語表現の工夫や効果を考えながら理解を深める。

- 第1回：日本語表現の留意点 \* ことばの使い分け(1) - 語・語彙 - \* 類義語の使い分け / ある日の出来事を紹介する文を書く。
- 第2回：日本語表現の留意点 \* ことばの使い分け(2) - 語・語彙 - \* 外来語の使用とその留意点
- 第3回：日本語表現の留意点 \* ことばの使い分け(3) - 語・語彙 - \* 敬語の理解を深める
- 第4回：日本語表現の留意点 \* ことばの使い分け(4) - 語・語彙 - \* 言語の位相
- 第5回：日本語表現の留意点 \* ことばの使い分け(5) - 語・語彙 - \* 表現のおもしろさを考える
- 第6回：日本語表現の工夫と効果 \* 表記の表現性(1) - 漢字・ひらがな・カタカナ(1) -
- 第7回：日本語表現の工夫と効果 \* 表記の表現性(2) - 漢字・ひらがな・カタカナ(2) -
- 第8回：日本語表現の工夫と効果 \* レトリック
- 第9回：日本語表現の工夫と効果 \* 広告の表現効果を考える
- 第10回：言語表現と文芸 \* 詩の分析と方言詩の作成
- 第11回：言語表現と文芸 \* 超ショートショートを作る
- 第12回：言語表現と文芸 \* 物語の文体
- 第13回：言語表現と文芸 \* 物語を創作する(1) / 分かりにくい文を直す(1)
- 第14回：言語表現と文芸 \* 物語を創作する(2) / 分かりにくい文を直す(2)
- 第15回：相互評価と鑑賞 / 振り返りとまとめ

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢 / 態度	10%	意欲的な受講態度、課題への取組などの状況によって評価する。
	レポート	80%	毎回の課題、授業中の課題、相互評価の取り組み等を評価対象とする。
	小テスト	10%	「分かりにくい文を直す」内容に関連したテストをする。
	定期試験		
	その他		
	<b>自由記載</b>		

**【受講の心得】**

- ・初回授業時に詳細を提示する。
- ・電子辞書か国語辞典を用意することが望ましい。

**【授業外学修】**

1. 予習として、課題に取り組むこと。
2. 復習として、授業で学んだことを実践すること。
3. 発展学習として、授業で紹介した参考文献(授業時に適宜紹介する)を読むこと。

以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

<b>使用テキスト</b>	<b>自由記載</b>	毎回プリント資料を配付する。
<b>参考書</b>	<b>自由記載</b>	

**【担当教員の実務経験の有無】**

無

**【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】**

無

授業科目名	芸術		サブタイトル	(アートに親しむ)	授業番号	HA202
担当教員名	鳥越 亜矢					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
アートカードなどを使った鑑賞ゲームや、岡山県内のキャンパスメンバーズ制度活用が可能な施設に赴いての作品鑑賞や、スライドによる作品鑑賞を行うほか、デザインとアートとの共通点や相違点にも触れながら、個人の暮らしと社会における両者の意味を探究する。また、身近な環境の中に美を見出す活動や、身近な物を使った作品制作と鑑賞活動を行う。						
<b>【到達目標】</b>						
芸術作品の鑑賞や制作活動を通じ、以下のことができるようになることを目的とする。(1)時代、文化、社会情勢や市井の人々の暮らし、素材や技術の進歩など様々なことを想像する一方で、他者の発言から受ける知的刺激を踏まえて、自分のものの見方や考え方について省察できるようになること。(2)心豊かな暮らしと社会に向けて個人や社会における芸術の意味を考えられるようになること。 この授業はディプロマポリシーに掲げられた学士力のうち、知識・理解 思考・問題解決能力 の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
<b>【授業計画 備考】</b>						
学外での作品鑑賞では現地集合・現地解散とする。このため、通常授業と異なる曜日・時間帯に行う。なお、現地への交通費は自己負担とするが、キャンパスメンバーズ制度活用のため観覧は無料。 保育学科の学生が履修した場合、学外実習期間中は休講とし、別日にて補講を行う。						
第1回：ガイダンス / 美術鑑賞いろいろ レポート作成：社会やあなたにとってデザインとは？芸術とは？ 第2回：太古からの芸術 / アートカードゲーム 第3回：真似して学ぶ古代のアート 第4回：西洋V.S.日本 信仰の表現・神仏の表現 第5回：アートは誰がどう使う？ 第6回：時代と技術がアートとアーティストを変える 第7回：キャンパスメンバーズ制度活用施設での鑑賞 第8回：世の中を映すアート1 第9回：世の中を映すアート2 / 現代アートの体感 第10回：単純なルールが造形の多様性を生み出す 木を見てみよう 作ってみよう 第11回：身近な環境に美を見出す / 身近な素材を使ったフォトフレームづくり 第12回：Come on ! 伝統のデザイン 第13回：デザインが私たちを変える 不便やお悩みはデザインで解決、その逆もまた然り 第14回：気づかないデザイン 第15回：あなたの一押しデザインは？ レポート：社会やあなたにとってデザインとは？芸術とは？						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢 / 態度		40%	毎回の振り返りの記録や発言・授業態度により評価する。記録については新たな知見の有無や、自分の考えが述べられていること。発言の評価基準は発言回数とともに、発言内容に他者の意見を反映したり、知識や記憶、経験に基づいた意見が述べられている点を加点評価する。なお、授業内容と無関係な行為をしていた場合には減点評価する。		
	レポート		30%	課題意識を持ち、具体的に述べていることを評価する。評価基準は到達目標や受講の心得に基づくほか、初回レポートと15回目レポートを比較して、芸術やデザインに対する考えの広がりや深まり等の変容があることを評価する。レポートのフィードバックについては提出後の授業中に総評として行う。		
	小テスト		0%			
	定期試験		0%			
	その他		30%	課題趣旨の理解がみられることのほか、課題によっては素材や色、構成について吟味し丁寧に作成されていること、独創性などを作品の評価基準とする。返却する作品には各種確認印やコメントを添える等のフィードバックを行う。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
授業中、作品を見て思ったことを主体的・積極的に発言するとともに、他者の発言に耳を傾け、自分の鑑賞や思考の手がかりとすること。製作に必要なものは自分で用意すること。 授業中はスマートフォン等の端末機器は荷物に入れておくこと。ただし、情報検索や記録等を目的として使用を認める場合がある。						
<b>【授業外学修】</b>						
自分が好きなデザインや、興味を持った作家や作品について調べたり、学内で不便に感じていることなどの洗い出しなどについて、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	テキストは使用しない。				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
一般企業にてパッケージデザイナーとして就業。保育者や小学校教諭を対象にした対話型鑑賞を用いた美術鑑賞の研修講師。						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員以外の指導に関わる実務経験者】</b>						
キャンパスメンバーズ制度活用施設での鑑賞時：岡山県立美術館・岡山県立博物館等ボランティアもしくは、鑑賞支援ボランティア						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
美術鑑賞に関する研修講師の経験を生かして対話型鑑賞という方法による芸術作品の鑑賞を行う。デザインに関する授業回では、パッケージデザイナーとしての経験を活かし、デザインに施されているいろいろな仕掛けを学生に紹介することにより、人の暮らしを楽しく便利に豊かにするデザインについて学ぶ機会を提供する。						

授業科目名	法学概論		サブタイトル	(学生のための法律)		授業番号	HA203
担当教員名	近藤 弦之介弁護士 藤原 健補弁護士 馬場 幸三弁護士 谷口 怜司弁護士 山本 愛子弁護士 川端 美智子弁護士 鹿室 辰義弁護士 岡田 湧介弁護士 高瀬 鈴香弁護士						
対象学部・学科	総合生活学科		単位数	2単位			
開講年次	2年		開講期	後期			
必修・選択	選択		授業形態	講義			
【授業の概要】							
<p>弁護士による学生のための法律の授業である。身近な問題を通じて、法によって権利・義務が発生することを理解し、法を使うことのできる社会人となってもらうために行う。授業の中で、裁判手続きを深めるために、実際に裁判を傍聴してもらう予定である（その関係で授業計画が変更することがあるが、その場合は事前に知らせるものとする）。</p>							
【到達目標】							
<p>受講により、大学生の身の回りで起こる問題について、法的問題として深く考える法的思考を養成し、社会人となったときにも役立つ法的知識を修得している。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜態度＞の修得に貢献する。</p>							
【授業計画】							
<p>第1回：法とは社会統制のための道具である。法は裁判規範（裁判の基準）としての機能と行為規範（行為の基準）としての機能をもつ。法を、過去に向かって使うと裁判の基準として働き、将来に向かって使うと紛争の予防と戦略法務のために有用に機能する。法を道具として裁判や紛争予防・戦略のためにどのように使うか、その手法を学ぶ。（担当近藤 弦之介 弁護士）</p> <p>第2回：民事紛争の仕組み、及び日常生活において特に身近な事象（インターネットの利用や居室の賃借等）に関する諸問題を学ぶ。（担当馬場 幸三 弁護士）</p> <p>テキスト UNIT I STAGE 2 及び 3</p> <p>第3回：大学・授業でのトラブルとサークルでのトラブルについて、気をつけるべき点を学ぶ。（担当馬場 幸三 弁護士）</p> <p>テキスト UNIT III STAGE 1 及び 2</p> <p>第4回：交通事故に遭遇した場合の3つの責任（民事責任・刑事責任・行政責任）等について学ぶ。（担当谷口 怜司 弁護士）</p> <p>テキスト UNIT I STAGE 6</p> <p>第5回：日常生活で発生しうるお金のトラブルを知り、日常生活の中での気をつけるべき点を学ぶ。（担当谷口 怜司 弁護士）</p> <p>テキスト UNIT I STAGE 1</p> <p>第6回：交際相手等とのトラブルについての知識、対処法を学ぶ。（担当川端 美智子 弁護士）</p> <p>テキスト UNIT I STAGE 4</p> <p>第7回：我が国の民法における家族関係の規律のなかから特に婚姻、離婚、親子及び相続について学ぶ。（担当川端 美智子 弁護士）</p> <p>第8回：旅行トラブルと就職活動でのトラブルに対する対処法について学ぶ。（担当山本 愛子 弁護士）</p> <p>テキスト UNIT I STAGE 5, UNIT II STAGE 2</p> <p>第9回：働くとはなにか。アルバイトや正社員などの労働契約の成立から終了までを学ぶ。（担当山本 愛子 弁護士）</p> <p>テキスト UNIT II STAGE 1</p> <p>第10回：民事裁判手続きの流れ及びその内容について学ぶ。（担当鹿室 辰義 弁護士）</p> <p>第11回：刑事裁判手続きの流れ及びその内容について学ぶ。（担当岡田 湧介 弁護士）</p> <p>第12回：刑事裁判における検察及び弁護士の役割及びその理念、目標を学ぶ。【裁判傍聴予備日】（担当藤原 健補 弁護士）</p> <p>テキスト UNIT IV</p> <p>第13回：刑事裁判に裁判員や被害者として参加する制度（裁判員裁判及び被害者参加制度）について学ぶ。【裁判傍聴予備日】（担当高瀬 鈴香 弁護士）</p> <p>テキスト UNIT IV</p> <p>第14回：裁判傍聴を通じて、実際の裁判手続きの流れ及びその内容について学ぶ。（担当鹿室 辰義 弁護士、高瀬 鈴香 弁護士）</p> <p>テキスト UNIT IV</p> <p>第15回：裁判傍聴を通じて、実際の裁判手続きの流れ及びその内容について学ぶ。（担当鹿室 辰義 弁護士、高瀬 鈴香 弁護士）</p> <p>テキスト UNIT IV</p>							
【授業計画 備考2】							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度		50%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加等によって評価する。			
	レポート		50%	レポート内容、提出期限・最低字数の厳守等によって評価する。			
	小テスト						
	定期試験						
	その他						
自由記載							
【受講の心得】							
授業時の携帯等の使用は禁止する。							
【授業外学修】							
<p>(1) 予習として、テキストの内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにしておくこと。</p> <p>(2) 予習・復習として配布するプリントをよく読むこと。</p> <p>(3) 日常的に新聞・テレビニュースによく接しておくこと。</p>							
以上(1)～(3)を、週当たり4時間以上学修すること。							
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	学生のための法律ハンドブック		近江幸治・広中惇一郎 編著	成文堂	1800円 + 税	978-4-7923-0631-1	
	自由記載						

参考書	自由記載
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有
	<b>【担当教員の実務経験】</b> 弁護士(近藤弦之介), 弁護士(藤原健補), 弁護士(馬場幸三), 弁護士(谷口怜司), 弁護士(山本愛子), 弁護士(川端美智子), 弁護士(鹿室辰義), 弁護士(岡田湧介), 弁護士(高瀬鈴香)
	<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無
	<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 法律事務所に勤務する弁護士が, 実際の事例や相談内容を踏まえた講義を行う。

授業科目名	心理学	サブタイトル	(心を科学的に理解する)		授業番号	HA204
担当教員名	奥村 弥生					
対象学部・学科	総合生活学科	単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b>						
心理学は、心について科学的に研究する学問であり、その範囲は人間の心に関わるあらゆる領域におよぶ。この授業では、心理学全般の基礎的な内容を解説し、心について科学的に理解することを目的とする。心理学全般の基礎的内容について解説する。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>心について科学的に理解するとはどういうことが説明できる。</li> <li>心理学の基礎的理論を理解できる。</li> <li>本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt;&lt;思考・問題解決能力&gt;の修得に貢献する。</li> </ul>						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：科学としての心理学 第2回：心の進化 第3回：心の発達とライフサイクル 第4回：動機づけと情動 第5回：性格 第6回：知能 第7回：ストレスとメンタルヘルス 第8回：カウンセリングと心理療法 第9回：感覚・知覚 第10回：認知と記憶 第11回：言語と思考 第12回：教育と学習 第13回：脳と心 第14回：集団・組織・社会のなかの心 第15回：総括						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	意欲的な受講態度によって評価する			
	レポート					
	小テスト	70%	授業内容の理解度を評価する			
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	はじめて出会う心理学(第3版)	長谷川寿一 他	有斐閣アルマ	2200円	978-4641221451	
	自由記載					
参考書	自由記載					
	<b>【備考】</b>					
	2年後期の特別研究で奥村の担当する生活コミュニケーション分野を希望する場合は、本科目を履修し、心理学の基礎を学習することを(必須ではないが)推奨する。					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
臨床心理士、公認心理師。病院、小中学校、大学等でカウンセラーとして勤務。						



授業科目名	人間関係とコミュニケーション		サブタイトル	(良好な人間関係を築くために)		授業番号	HA205	
担当教員名	奥村 弥生							
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	2単位			
開講年次	1年			開講期	前期			
必修・選択	選択			授業形態	講義			
【授業の概要】								
良好な人間関係を構築し、豊かなコミュニケーションをとることは、質の高い仕事やパフォーマンスを行うために不可欠である。この授業では、コミュニケーションの基礎となる自己理解と、組織やチームにおけるコミュニケーションについて学び、社会人として良好な人間関係を築くための幅広い知識を身につけることを目的とする。								
【到達目標】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションにおける自己理解の重要性や、自己理解の枠組みを説明できる</li> <li>・組織やチームにおけるコミュニケーションの特徴を説明できる</li> <li>・組織やチームにおけるコミュニケーションに関する基礎的知識を身につける</li> </ul>								
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。								
【授業計画】								
第1回：人間関係とコミュニケーションの基本 第2回：人間関係と自己理解（1） 第3回：人間関係と自己理解（2） 第4回：人間関係と自己理解（3） 第5回：人間関係と自己理解（4） 第6回：ワーク・モチベーション（1） 第7回：ワーク・モチベーション（2） 第8回：リーダーシップとフォロワーシップ（1） 第9回：リーダーシップとフォロワーシップ（2） 第10回：リーダーシップとフォロワーシップ（3） 第11回：職場のストレスとメンタルヘルス（1） 第12回：職場のストレスとメンタルヘルス（2） 第13回：組織におけるコミュニケーション（1） 第14回：組織におけるコミュニケーション（2） 第15回：総括								
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考					
	授業への取り組みの姿勢/態度	44%	意欲的な受講態度によって評価する					
	レポート							
	小テスト							
	定期試験							
	その他	56%	課題の内容により理解度を評価する					
	自由記載							
【受講の心得】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内で行うワークやディスカッションに積極的に参加すること</li> <li>・授業で学ぶコミュニケーションの知識を自分の生活や体験に照らし合わせ、実際に生かすよう心がけること</li> </ul>								
【授業外学修】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料を基に予習・復習をすること</li> <li>・授業で紹介した本や資料を読むこと</li> </ul> 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること								
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN			
	キャリア開発の産業組織心理学ワークブック【第2版】	石橋里美	ナカニシヤ出版	2750円	978-4779510557			
	自由記載							
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN			
	人間関係とコミュニケーション	諏訪茂樹	建帛社	2420円	978-4767933481			
	自由記載							
【担当教員の実務経験の有無】								
有								
【担当教員の实務経験】								
臨床心理士、公認心理師。病院、小中学校、大学等でカウンセラーとして勤務。								

授業科目名	社会保障論		サブタイトル	(社会の理解)		授業番号	HW206	
担当教員名	松井 圭三							
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	2単位			
開講年次	1年			開講期	後期			
必修・選択	選択			授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b>								
<p>社会保障の基礎知識、年金、医療、介護、雇用保険、労災保険等の基礎知識について理解する。  また、社会保障の概念、社会保障の沿革、年金、医療、介護、雇用、労災の社会保険の基本を学ぶ。</p>								
<b>【到達目標】</b>								
<p>福祉現場で役に立つ社会保障の制度、サ・ビスの知識等を修得する知り、説明できるようになることを目的とする。  なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt;&lt;思考・問題解決能力&gt;の修得に貢献する。</p>								
<b>【授業計画】</b>								
<p>第1回：社会保障とは  第2回：少子高齢化の現状と課題  第3回：西欧の社会保障の沿革  第4回：わが国の社会保障の沿革  第5回：公的年金の基礎  第6回：公的年金の課題  第7回：医療保険の基礎  第8回：医療保険の課題  第9回：介護実践に関する諸制度  第10回：介護保険の課題  第11回：雇用保険の基礎  第12回：労災保険の基礎  第13回：民間保険の基礎  第14回：公的扶助の基礎  第15回：社会保障の展望</p>								
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	意欲的な受講態度、発表、グル-ブワ-クでの参加、予習、復習によって評価する。				
	レポート		10%	課題やレポ-トについて評価する。				
	小テスト		10%	各回の主要ポイントの理解を評価する。				
	定期試験		50%	最終的な理解度を評価する。				
	自由記載			受講態度、課題提出、定期試験により総合的に評価する。				
<b>【受講の心得】</b>								
<p>本講義は講義形式とグル-ブワ-クで授業を展開します。  ・予習と授業中の積極的発言を求めます。  ・自分で考えることをベ-スに授業に参加してください。  ・介護福祉士の国家試験対策を講じます。</p>								
<b>【授業外学修】</b>								
<p>・予習として、授業に関係した教科書を精読し、内容を理解する。  ・復習として、授業のレポ-トを書く。  ・授業で紹介された参考文献を精読する。  短期大学の設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。  本授業では、時間外学修時間として、予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業買い学修が必要となる。</p>								
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN		
	社会保障論		松井圭三他	大学図書出版	2800円+税	978-4-907166-25-0		
	自由記載							
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN		
	社会福祉概論		小田兼三他	勁草書房	2800円+税	978-4-326-70095-0		
	自由記載		随時紹介します。					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>								
有								
<b>【担当教員の实務経験】</b>								
観音寺市シルバー人材センター職員、観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司								
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>								
無								
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>								
高齢者保健福祉分野において実務経験を踏まえた授業を実践している。								

授業科目名	人間の尊厳と自立		サブタイトル	(福祉の視点から考える)		授業番号	HA207	
担当教員名	住野 好久							
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	2単位			
開講年次	1年			開講期	前期			
必修・選択	選択			授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b>								
介護福祉を実践するために必要な人間に対する基本的理解を養う。さらに、人権思想・福祉理念の歴史の変遷を学び、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を養う。また、本人主体の観点から自立の考え方や自立生活の理念を学び、その生活を支える必要性を理解する。								
<b>【到達目標】</b>								
1) 人権思想・福祉理念の歴史の変遷を理解し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を身に付ける。 2) 人間にとっての自立の意味と、本人主体の観点から尊厳の保持や自己決定の考え方を理解する。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>の修得に貢献する。								
<b>【授業計画】</b>								
第1回：人間の尊厳(1)人間が生きているということ 第2回：人間の尊厳(2)人間が死ぬということ 第3回：人間の尊厳(3)人間の尊厳とは 第4回：人権思想の歴史的展開(1)近代 第5回：人権思想の歴史的展開(2)現代 第6回：福祉理念の変遷(1)近代 第7回：福祉理念の変遷(2)現代 第8回：ノーマライゼーションの思想と運動 第9回：人間の尊厳と生命倫理 第10回：QOLと利用者主体の福祉 第11回：自立の理念(1)自立と依存 第12回：自立の理念(2)自立生活の理念と意義 第13回：自立の理念(3)自己選択・自己決定 第14回：自立と支援(1)インフォームド・コンセント 第15回：自立と支援(2)自立支援・アドボカシー								
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度							
	レポート		60%	本科目の学習内容をふまえ、論理的に叙述すること				
	小テスト		40%	授業で学習した内容を理解し、課題に対し適切に回答すること				
	定期試験							
	その他							
自由記載								
<b>【授業外学修】</b>								
1. 予習のためにテキストを熟読しておくこと 2. 復習のためにテキストを熟読すること 3. 新聞やTV&ネットのニュースで、国内外の人権問題についてリサーチすること 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。								
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	最新・介護福祉士養成講座 1 人間の理解			介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版			
自由記載								
参考書	自由記載							
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>							
	無							
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>								
無								

授業科目名	社会心理学		サブタイトル	(心と身体と社会の関係)	授業番号	HA209
担当教員名	澤田 陽一					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
本講義は、社会学と心理学の学際領域である従来の社会心理学の基礎理論だけではなく、心(の働き)と身体(脳を含む実体)と社会(あるいは環境)との関係性から、人間(ヒト)の心理(心の働き)・行動を説明・解説する。						
<b>【到達目標】</b>						
心と身体と社会の関係性についての様々な現象や知見を知ること、多角的に人間(ヒト)を捉えることが出来るようになることを目指す。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：社会心理学事始 第2回：社会を把握するためには～感覚から認知へ：表象の成立～ 第3回：社会的比較I～他者を知る～ 第4回：社会的比較II～自己を知る～ 第5回：パーソナリティと対人認知(1)～相手の性格を知る～ 第6回：パーソナリティと対人認知(2)～対人魅力～どんな人に対して魅力を感じるのか～ 第7回：情動・感情 第8回：集団の中の個人I 社会的影響と集団意思決定 第9回：集団の中の個人II 社会的影響と援助行動 第10回：コミュニケーション 第11回：攻撃性の心理 第12回：政治・経済の中にある心理 第13回：脳から見た社会性～社会性の破綻に見る個人～ 第14回：信じることの心理 第15回：総括・授業の振り返り						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		25%	授業時に積極的に発言すること。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		75%	問題・設問に対して、学習したことを正確に記述できること。		
	その他					
自由記載		定期試験は選択問題以外に、特定の専門用語および理論について記述式の説明を求める問題を出題する。これにより、断片的な知識を評価するだけではなく、他者に論理的に説明できる能力も評価する。				
<b>【受講の心得】</b>						
私語・食事厳禁						
<b>【授業外学修】</b>						
授業で紹介する専門用語はとて多く、授業だけでは理解が難しいものも少なくないので、それらについて、図書館などの専門書等を利用して、自身で再度、確認を行うこと。以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	特になし				
参考書	自由記載	適宜、講義内で紹介する				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
病院での心理検査による認知・精神機能の評価および診察補助						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
伝統的な社会心理学の知見のみならず、実務経験から得られた認知・精神機能および脳機能からも、より多角的な視点で講義内容を構成している。						

授業科目名	社会学		サブタイトル	(配偶者の選択と家族編成の社会的規則)		授業番号	HA208	
担当教員名	中田 周作							
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	2単位			
開講年次	1年			開講期	後期			
必修・選択	選択			授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b>								
<p>本講義では、社会学の方法によって家族を理解するための枠組みを学習する。          現代社会における家族の姿は、多元化する価値意識のもとで、その形態や機能が多様化している。          そのため、本講義では家族の中核をなす夫婦関係に焦点をあて、家族編成に関する社会的規則について講義する。</p>								
<b>【到達目標】</b>								
<p>現代社会の家族集団を、より深く理解するためには社会学的な枠組みを活用すると有効である。          これにより、地域社会の中に存する様々な家族を理解し、実践活動に実際に資することができる知識や分析の視角を身につけることを目標とする。          なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち&lt;知識・理解&gt;&lt;思考・問題解決能力&gt;の修得に貢献する。</p>								
<b>【授業計画】</b>								
<p>第1回：配偶者選択をめぐる社会状況の変化          第2回：家族社会学における「家族」の定義          第3回：家族を対象とした社会学的方法          第4回：家族の類型と分類          第5回：青年期の異性交際に関する社会学の意味の考察          第6回：青年期の異性交際の実態          第7回：家族編成の社会的ルールとは何か          第8回：配偶者選択の社会的メカニズム          第9回：配偶者選択のプロセス          第10回：結婚の社会的意味          第11回：結婚の社会的機能          第12回：離婚の社会的意味と機能          第13回：家族の新しい形          第14回：子どもの養育          第15回：老親の介護</p>								
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考					
	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	授業への取り組み姿勢を考慮する。					
	レポート	70%	講義終了後に最終レポートを提出する。					
	小テスト							
	定期試験							
	その他	20%	講義のとき、毎回、コメントペーパーを提出する。					
	自由記載							
<b>【受講の心得】</b>								
<p>自らの配偶者選択や、家族集団に興味・関心があることが望ましい。          しかしながら、あまりにも身近で現実的な問題であるため、ある程度、客観視できる受講態度が望ましい。</p>								
<b>【授業外学修】</b>								
<p>1．テキストを事前に読んでくること。          文章を読むだけでなく、掲載されている図表の意味するところを考える。          具体的なアプローチの方法は、授業時間内に指示する。</p> <p>2．最終レポートの課題を探しながら受講すること。          テーマに関するニュースや、身近な出来事に関心をもつこと。</p> <p>両方の課題を合わせて、週当たり4時間以上、取り組みむこと。</p>								
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN			
	新しい家族社会学	森岡清美・望月嵩	培風館	1750	978-4-563-05034-4			
	自由記載							
参考書	自由記載	講義の進行にあわせて適宜紹介する。						
	【その他】	特になし。						
	【担当教員の実務経験の有無】	無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>								
無								

授業科目名	自然科学概論		サブタイトル	(体感型授業で自然科学の楽しさを実感しよう)	授業番号	HA206
担当教員名	岸 誠一					
対象学部・学科	総合生活学科	単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b>						
私たちの日常の関わりの中から、自然科学を概観する授業を行う。野外体験学修や科学実験といった体験・体感型の学修手法を多く用いて、自然科学を「見える化」して探究心を高める授業を行う。また、科学工作も行い、科学のおもしろさと不思議さを実感する。						
<b>【到達目標】</b>						
私たちの身のまわり、日常の中にある自然科学の基本概念や知識、科学的なものの考え方ができるようになることを目指す。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
<b>【授業計画備考】</b>						
授業の中では、様々な測定装置、電気関係の測定機器や実験器具などを用いて、私たちの身のまわりの環境、自然科学について実測、体感しながら学びを深めていく。						
第1回：中国学園の庭で「幸せ」を探そう!?(四つ葉のクローバ探しから見えてくるフィールドワークの楽しさ)						
第2回：科学マジックを通して学ぶ科学のおもしろさ						
第3回：電子オルゴール作りを通して学ぶ「オームの法則」						
第4回：見上げてごらん夜の星を(天文学の初歩)						
第5回：タイムマシンは作れるか?(アインシュタインの相対性理論を分かりやすく学ぶ)						
第6回：君のひとみは一万ボルト?はやぶさのイオンエンジンは一万五千ボルト!(高電圧の実験を通して見えてくる電気の性質)						
第7回：新型コロナウイルス感染予防を通して学ぶ自然科学						
第8回：高価なバイオリンと安価なバイオリンの音の違いは?(音を「見える化」して分かってくる新芸能人格付けチェック)						
第9回：液状化現象とスライムに関する実験と実習(分子構造について学ぶ)						
第10回：糖を科学するべっこう飴づくりの実験と実習(分子構造について学ぶII)						
第11回：天然色素と酸アルカリの実験と実習						
第12回：光に関する基礎講座ならびに実験と実習						
第13回：楽しい数学(小学校高学年の知識で挑戦する、とっても簡単!?微分と積分)						
第14回：流しそうめんの加速度を測定しよう!						
第15回：まとめ(授業全体のふりかえり総括)						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な受講態度、実験・実習・討議等への参加度、予・復習の状況によって評価する。			
	レポート					
	小テスト	30%	各回の主要なポイントの理解を評価する。			
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する			
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
この授業は、自然を対象にしているため、天候等によって適宜内容を変更することがある。また、内容に継続性や関連性があるため、授業を欠席しない、遅刻しないようにしていただきたい。授業は毎回の積み重ねの中で進んでいくので、配付資料等は毎回、持参していただきたい(ノートに貼ることを推奨している)。また、新型コロナウイルスの感染予防のため、食べたり、密になって行う実験などが出来なくなり、他の内容に変更する場合がある。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 予習として、授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学修等を行い、考えてくること。						
2. 復習として、授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いてふりかえり、適宜調べ学修や実践等を行い、学びを深めていく(探究する)こと。						
以上の学修を、授業1回あたり4時間以上行うこと。						
使用テキスト	自由記載	なし(資料配付)。				
参考書	自由記載	講義の進行にあわせて適宜紹介する。				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	キャリア形成論		サブタイトル	(『自分のキャリア』を磨こう！そして、輝く自分を手に入れよう！！)		授業番号	HA101
担当教員名	豊福 幸雄						
対象学部・学科	総合生活学科		単位数	2単位			
開講年次	1年		開講期	前期			
必修・選択	選択		授業形態	講義			
【授業の概要】							
<p>社会が複雑化し、働くことの意識の多様化が進む中、自律的なキャリアに多くの関心が集まりつつある。これからは、会社に依存するのではなく、将来のために学生時代から真実に自分のキャリアは自らの手で作り上げ、職業意識を涵養することや体験学習で、キャリアの活性化を図る糸口を見つける。</p>							
【到達目標】							
<p>・社会環境における生活学を心豊かに理解し、専門的な知識をもって自分を育て活かしていくことが、エキサイティングな営みを生み、新たな視点に気づき、自発的な行動が自然と形成できる。そのための基礎力を身につける。</p> <p>・キャリア形成の知識・考え方を理解修得し、自己の目指す職業人としての優れた役割を果たし、よりよい人生を迎えるための充実した基礎を身につけることができる。</p> <p>なお、本科目は演習経験を積み重ねながら、ディプロマポリシーに掲げた短期大学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt;&lt;思考・問題解決能力&gt;&lt;態度&gt;の修得に貢献する。</p>							
【授業計画】							
<p>第1回：キャリア形成の前提（コミュニケーション）</p> <p>第2回：夢の実現 社会からの期待</p> <p>第3回：働く目的と自己を知る</p> <p>第4回：職業の意義</p> <p>第5回：仕事の条件と職業倫理</p> <p>第6回：企業意識と職業意識</p> <p>第7回：多様な働き方</p> <p>第8回：プロフェッショナル志向</p> <p>第9回：転職行動</p> <p>第10回：キャリアの概念とキャリアアンカー</p> <p>第11回：キャリア発達の段階とその特徴</p> <p>第12回：CDPと組織内キャリアの形成</p> <p>第13回：自立型人材育成とワークシステム</p> <p>第14回：ワークキャリアとライフキャリア</p> <p>第15回：まとめ「自己の形成・人生の羅針盤としてのキャリア」</p>							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度		40%	真摯に授業に望み、自己啓発していく意欲と発表や討論が若者らしい状態：興味を持ち、真実に理解しようとする意欲			
	レポート		10%	課題に対して、趣旨を逃さず具体的例をもって記する。			
	小テスト						
	定期試験		50%	総合的に理解するために、キャリア形成用語20%：キャリア形成用語説明20%：概論40%：自己形成20%の課題から構成評価			
	その他						
自由記載							
【受講の心得】							
<p>社会に通じる規範をもとに、真摯な態度の参加型を中心とした講義とし、積極的かつ若い元気な発言行動を求める。また、授業をもとに、将来の自分磨きを図る環境を常に意識し、学生生活の中でキャリア形成の安定と視野の広がりを築けるように学修する態度を求める。</p>							
【授業外学修】							
<p>1.予習として使用テキストを次回授業までに読んでおくこと。</p> <p>2.自己啓発するために生活の中で、家庭・学校でのコミュニケーションを図り、視野を広げること。</p> <p>3.学生個々が、授業から授業の間の1週間の出来事の発表をするので、新聞の購読と実際自分が行動したHOTなNEWSを考察して発表準備すること。</p> <p>4.復習として、授業で行ったグループ討論や使用テキストの要点をまとめる。</p> <p>以上の内容を、週あたり4時間以上学修すること。</p>							
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	働く意味とキャリア形成		谷内篤博	勁草書房	2200 + 消費税	978-4-326-65322-5	
	自由記載						
参考書	自由記載						
	【担当教員の実務経験の有無】						
有							
【担当教員の実務経験】							
キャリアコンサルティング・コーチング							
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】							
有							
【担当教員以外の指導に関わる実務経験者】							
業局経営・福祉第三者・外部評価員							
【実務経験をいかした教育内容】							
<p>医療・福祉におけるサービスの向上を目指し経営を強化してきた実績を、患者・利用者・顧客の立場に立ち、学生にわかりやすく理解すると同時に、企業等に発揮できる学生個々の能力を上達させることを修得させる。</p>							

授業科目名	キャリア開発論		サブタイトル	(基礎学力(言語・非言語分野))	授業番号	HA102
担当教員名	柏原 寛 村井 隆人 藤本 宏美					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
本講義では就職活動や就職先などで求められる基礎学力の習得・向上を目指す。全講義(15回)の前半(8回)と後半(7回)に、それぞれ言語分野と非言語分野に関する内容の講義が行われる。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語分野では日本語文章表現のためのリテラシーの習得ができています。</li> <li>・非言語分野では就職試験に出題されるような文章題の基礎的問題が解ける。</li> </ul> なお、本教科はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：キャリア開発と「ことば」の力 (担当柏原 寛) 第2回：キャリア開発基礎「二つの関係を把握する」 (担当柏原 寛) 第3回：キャリア開発基礎「異なるものに置き換える」 (担当柏原 寛) 第4回：キャリア開発基礎「物事の前後を推測する」 (担当柏原 寛) 第5回：作品から学ぶ日本語文章 (担当村井 隆人) 第6回：手紙の書き方・形式と内容 (担当村井 隆人) 第7回：小論文の書き方 (担当村井 隆人) 第8回：言語分野のまとめ (担当村井 隆人) 第9回：生活の中の身近な数学 1 数の概念 (担当藤本 宏美) 第10回：生活の中の身近な数学 2 数の概念 (担当藤本 宏美) 第11回：生活の中の身近な数学 3 仕事算 (担当藤本 宏美) 第12回：生活の中の身近な数学 4 順列・組み合わせ (担当藤本 宏美) 第13回：生活の中の身近な数学 5 論理・推論 (担当藤本 宏美) 第14回：生活の中の身近な数学 6 不等式の領域 (担当藤本 宏美) 第15回：生活の中の身近な数学 7 経路問題 (担当藤本 宏美)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		15%	意欲的な受講態度、予習、復習の状態によって評価する。		
	レポート		25%	レポートの内容、理解度、考察力などについて評価する。		
	小テスト		60%	各領域の基礎的な理解度を評価する。		
	定期試験					
	その他					
自由記載		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「言語分野」に関しては、ミニ・レポート(50%)、小テスト(50%)で評価する。</li> <li>・「非言語分野」に関しては、授業への取り組み(30%)、小テスト(70%)で評価する。</li> </ul> 「言語分野」と「非言語分野」をそれぞれ50点で評価し、その合計が総合評価となる。				
<b>【受講の心得】</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 配布する資料は必ず持参すること。</li> <li>2. 授業態度は、礼儀正しい態度で臨むこと。</li> </ol>						
<b>【授業外学修】</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 復習として、勉強したことを資料を見ながら学修しておくこと。</li> <li>2. 分野によって課されるレポートは作成しておくこと。</li> <li>3. 授業で身につけた知識・技術について、普段の生活に活かせるようにすること。</li> </ol> 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					
<b>【その他】</b>						
「言語分野」、「非言語分野」共にプリント資料を用いる。						
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						



授業科目名	体育実技		サブタイトル	(適切な運動実践)	授業番号	HA207
担当教員名	土田 豊					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	実技	
<b>【授業の概要】</b>						
各チームの課題を基にメンバーで協力しながら、各種のスポーツ（集団的スポーツ・個人的スポーツ）の練習や試合に取り組む。						
<b>【到達目標】</b>						
バレーボールやバドミントンなどの基本的なルールを理解し、チームのメンバーと楽しく活動することを目的とする。生涯に渡って身体を動かす習慣の礎とするため各種目のスキルアップを目的とする。 なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞の習得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：体力テスト 第2回：バレーボールI（ルールと基本技術の理解） 第3回：バレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 第4回：バレーボールIII（ゲームの展開） 第5回：バレーボールIV（ゲームの展開） 第6回：バドミントンI（ルールと基本技術の理解） 第7回：バドミントンII（ゲームの展開） 第8回：バドミントンIII（ゲームの展開） 第9回：バスケットボールI（ルールと基本技術の理解） 第10回：バスケットボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 第11回：バスケットボールIII（ゲームの展開） 第12回：バスケットボールIV（ゲームの展開） 第13回：卓球I（ルールと基本技術の理解） 第14回：卓球II（ゲームの展開） 第15回：卓球III（ゲームの展開）						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		60%	授業の準備や後片付けに率先して取り組んだり、メンバーと協力しながらスキルアップしようとしている等の授業への参加状況を評価する。授業に休まず出席し、練習・試合に意欲的に取り組む姿勢が確認できれば加点対象とする。また、メンバーに声を掛けたり、援助などができておれば加点対象とする。		
	レポート					
	小テスト		40%	バレーボールとバスケットボールにおいては、トス、サーブ、シュートの到達度に応じて得点化する実技テストを実施する。		
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
運動着を着用し、体育館シューズを使用する。 全員協力の上、準備・片付けをする。						
<b>【授業外学修】</b>						
1．日頃から自らの健康に対する興味関心や体力増進に努め、日常生活の中で自主的に身体を動かす習慣づくりをすること。 2．各種目のルールやスキルアップを図るため、書籍や映像を活用して準備すること。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	特に使用しない（作成資料を活用）				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
公立小学校教諭						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
学校現場での経験を生かして、日常的に体を動かすことの大切さを伝えながら指導する。						

授業科目名	フレッシューズセミナー	サブタイトル	(大学における学修方法を身につける)	授業番号	HA103
担当教員名	小築 康弘 韓 在都 藤田 悟 加賀田 江里 仁宮 崇 奥村 弥生				
対象学部・学科	総合生活学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>					
導入教育を目的として開講された本科目では、新入生が学生生活を有意義なものとするため、学生として必要な勉学の進め方（ノートの取り方・レポートの書き方・質問の仕方）を学修する。					
<b>【到達目標】</b>					
・学生としての学修方法を実践することができる なお、本科目はディプロマポリシーに掲げている学士力の〈知識・理解〉〈態度〉の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：オリエンテーション/レポートの書き方（1）（担当 小築（講義），韓・藤田・仁宮・加賀田・奥村（レポート評価））					
第2回：レポートの書き方（2）（担当 小築（講義），韓・藤田・仁宮・加賀田・奥村（レポート評価））					
第3回：質問の仕方（担当 小築康弘）					
第4回：メモ・ノートの取り方：キーワードを捕まえよ（担当 小築康弘）					
第5回：レポート（1）（2）の添削指導（担当 小築，韓，藤田，仁宮，加賀田，奥村）					
第6回：レポートの書き方（3）（担当 小築（講義），韓・藤田・仁宮・加賀田・奥村（レポート評価））					
第7回：ゲストスピーカーの話の聞き方（担当 小築康弘）					
第8回：実践：講演を聞いてメモを取り，質問する（1）（担当 仁宮 崇，小築康弘）					
第9回：レポート（3）の添削指導（担当 小築，韓，藤田，仁宮，加賀田，奥村）					
第10回：レポートの書き方（4）（担当 小築康弘）					
第11回：スマートフォンで図書館蔵書検索（担当 小築康弘）					
第12回：実践：図書館利用（担当 韓 在都，加賀田江里，奥村弥生）					
第13回：レポート（4）の添削指導（担当 小築，韓，藤田，仁宮，加賀田，奥村）					
第14回：実践：講演を聞いてメモを取り，質問する（2）（担当 藤田 悟，小築康弘）					
第15回：実践：講演を聞いてメモを取る（担当 小築康弘）					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	授業への取り組み姿勢を評価する。		
	レポート	30%	指示されたルールを守ってレポートを作成し，期限までに提出できるかで評価する。		
	小テスト				
	定期試験				
	その他	40%	質問に関する実技試験20%，メモ・ノートテイキングの成果物の評価が16%，検索・探索結果の写真の提出が4%で，それぞれの事項を評価する。		
自由記載					
<b>【受講の心得】</b>					
学んだことを普段の学修において実践すること。					
<b>【授業外学修】</b>					
・課題として出されるレポートの作成をすること					
・授業で得た学生としての学修を様々な場面で実践すること					
以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載				
参考書	自由記載				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
無					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					

授業科目名	地域創生論		サブタイトル	(地域資源の活用)		授業番号	HA212	
担当教員名	加藤 せい子							
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	2単位			
開講年次	1年			開講期	前期			
必修・選択	選択			授業形態	講義			
【授業の概要】								
<p>私たちが暮らす地域について、まずは地域とは何か「知る」ことから講義を始め、まち歩きなどから地域の資源を自分で知ることによって「好き」になり、愛着が生まれ自分の地域に「還る」循環を創る仕組みを知る。</p> <p>外部講師を招き、実践を積み重ねていき地域づくりのノウハウを会得し、自ら参画していく意識を醸成していくことを目的とする。</p>								
【到達目標】								
<p>自分の地域に誇りを持ち、何ができるかに気づく。</p> <p>地域に関心を持ち、自ら地域を語ることができる。</p> <p>また地域で出来ることを意識し、自ら企画運営ができる基盤を創る。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。</p>								
【授業計画】								
<p>第1回：地域創生とは</p> <p>第2回：地域に関心を持つ地域づくりの事例 地域資源とは？</p> <p>第3回：地域に関心を持つ地域の魅力を知る（プレストーリーミング）</p> <p>第4回：地域に関心を持つ地域の課題を知る（親和法）</p> <p>第5回：地域が抱える課題 岡山県中山間地域の現状 ワークショップ</p> <p>第6回：地域が抱える課題 岡山県中山間地域の高齢者対策 ワークショップ</p> <p>第7回：地域が抱える課題 岡山県の生活文化振興 ワークショップ</p> <p>第8回：地域開発の実践ワークショップ 地域開発プログラムづくり(1)</p> <p>第9回：地域開発の実践ワークショップ 地域開発プログラムづくり(2)</p> <p>第10回：地域開発の実践ワークショップ 地域開発プログラムづくり(3)</p> <p>第11回：地域開発の実践ワークショップ プレプレゼンテーション</p> <p>第12回：地域開発の実践ワークショップ プレゼンテーション</p> <p>第13回：地域開発の実践ワークショップ プレゼンテーション</p> <p>第14回：地域開発の実践ワークショップ プログラム実践</p> <p>第15回：地域開発の実践ワークショップ ふりかえり</p>								
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。				
	レポート		20%	レポートにより授業の理解度を評価する。				
	小テスト							
	定期試験		50%	地域開発に関するプレゼンテーションの完成度によって評価する。				
	その他							
自由記載								
【受講の心得】								
<p>本科目はワークショップ方式を使い授業を進めるので、仲間同士で意見を出しながら進めていく。</p> <p>振り返りレポートの提出が必須。</p>								
【授業外学修】								
<p>次回授業するテキスト部分を読み込み、分からない部分は事前に調べて授業に参加する。</p> <p>以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。</p>								
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	『システム×デザイン思考で世界を変える』			前野隆司	日経BP社	1800円	978-4822249946	
自由記載								
参考書	自由記載							
	【担当教員の実務経験の有無】							
有								
【担当教員の実務経験】								
行政・企業等からの講師による指導実施								
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】								
有								
【担当教員以外の指導に関わる実務経験者】								
地域活性化担当の国・地方行政実務経験者による指導実施								
【実務経験をいかした教育内容】								
国内・海外（韓国・タイ・ネパール）で得た地域課題解決法を使って指導する								

(担当  
(担当  
(担当

授業科目名	英語A		サブタイトル	(英語で岡山を楽しみながら学ぼう)		授業番号	HA213	
担当教員名	藤代 昇丈							
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	2単位			
開講年次	1年			開講期	前期			
必修・選択	選択			授業形態	演習			
<b>【授業の概要】</b>								
<p>本学の立地する岡山県の観光地，文化，習慣などについて，外国人に岡山を紹介する英語の対話文を扱い，英語の読解力を高めると同時に岡山についての理解が深まるように演習を通して講義する。ペアやグループ活動も取り入れ，最終的には，自ら素材を選んで紹介文を書き，簡単な英語で発表できる力の養成を目指している。</p>								
<b>【到達目標】</b>								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。</li> <li>・対話でよく使われる英語表現を実際に用いることができる。</li> <li>・岡山の観光・文化等について知識を得ることができる。</li> </ul> <p>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉の修得に貢献する。</p>								
<b>【授業計画】</b>								
<p>第1回：授業ガイダンス / 1-1-1 New Year's Day  第2回：1-1-2 Welcome to Okayama / 1-1-3 Okayama City  第3回：1-1-4 At Korakuen / 1-2-1 Hofukuji and Sesshu  第4回：1-2-2 Kibijji District / 1-2-3 At Shin-Kurashiki Station  第5回：1-2-4 Ohara Museum of Art / 1-3-1 Hiruzen Heights  第6回：1-3-2 A Trip to Inujima / 1-3-3 A One-day Trip to Kibitsu Shrine  第7回：1-3-4 A Visit to the Yumeji Art Museum / 1-3-5 Yunogo Hot Springs  第8回：2-1-1 At Suzuki's House 1 / 2-1-2 At Suzuki's House 2 / 前半のまとめ  第9回：2-2-3 Covering Hakuto with Paper Bags / 2-2-4 Peach Farmer's Dessert  第10回：2-3-1 Jeans Town Kojima / 2-3-2 Okayama-ben  第11回：2-3-3 Let's eat Hiruzen Fried Noodles / 2-3-4 Bizen Ware  第12回：2-3-5 The Land of Astronomical Observation , Okayama / 3-2-1 Naked Man Festival ( Hadakamatsuri )  第13回：3-2-2 The Okayama Sakura Carnival / 3-2-3 Summer Volunteer Activity  第14回：3-2-4 The Uraja Dance / 3-3-1 Global Company in Okayama 1  第15回：3-3-4 Future Goals / 科目授業全体の振り返り</p>								
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢 / 態度		30%	意欲的な受講態度，予習の状況及び授業への貢献度を評価する。				
	レポート		20%	課題のテーマについて調査し，整理・分析し，具体的かつ適切にまとめてあるかを評価する。				
	小テスト		40%	各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。講義の中間期，期末に授業内容の理解度を評価する。				
	定期試験							
	その他		10%	積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。				
自由記載								
<b>【受講の心得】</b>								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習と復習を心がけ，辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。</li> <li>・授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。</li> </ul>								
<b>【授業外学修】</b>								
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 テキスト内容については授業までに2時間以上予習すること。</li> <li>2 毎回前時の授業内容についての小テストを実施するので2時間以上復習しておくこと。</li> <li>3 課題については十分に調査してレポートを作成すること。</li> </ol>								
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	改訂新版 岡山から“ハロー”			岡山ローバル英語研究会	山陽新聞社	1,100	978-4881977590	
参考書	自由記載							
	自由記載							
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>							
有								
<b>【担当教員の实務経験】</b>								
県情報教育センター・県総合教育センター・県立高等学校英語科教諭								
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>								
無								
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>								
<p>高校の学校現場に勤務し，英語科の指導に当たった経験から，学生のニーズを的確に把握し，わかりやすい解説や指導をすることができる。また，大学生として身につけておくべき語彙や表現などをペアやグループ活動などを取り入れアクティブかつ実践的な指導ができる。また，県情報教育センター及び県総合教育センター情報教育部の指導主事として，教職員の研修や指導業務に当たった経験から，ICTを活用して動画や音声を提示しわかりやすい授業を行うことができる。</p>								

授業科目名	英語B		サブタイトル	(英語で岡山を楽しみながら学ぼう)		授業番号	HA211	
担当教員名	藤代 昇丈							
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	2単位			
開講年次	2年			開講期	前期			
必修・選択	選択			授業形態	演習			
<b>【授業の概要】</b>								
英語の4技能の力を高めると同時に身近な話題についての英語を通して理解が深まるように演習を通して講義する。ペアやグループ活動も取り入れ、最終的には、社会的な話題について簡単な英語で発表できる力の養成を目指している。								
<b>【到達目標】</b>								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。</li> <li>・対話でよく使われる英語表現を実際に用いることができる。</li> <li>・英文で扱われている題材について知識を得ることができる。</li> <li>・英語の4技能を駆使して情報を収集し発信できる。</li> </ul> なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>の修得に貢献する。								
<b>【授業計画】</b>								
第1回：Unit1 Goals in College Life 第2回：Unit2 Totoro Travels to Nepal 第3回：Unit3 Sightseeing in London 第4回：Unit4 Sushi 第5回：Unit5 Fashion Trends 第6回：Unit6 Shodo 第7回：Unit7 The Mississippi River 第8回：Unit8 Ocean Blue 第9回：Unit9 Studying Abroad 第10回：Unit10 The Northern Lights 第11回：Unit11 The Sound of the Saxophone 第12回：Unit12 Communication Tips 第13回：Unit13 Seasonal Festivals(Sekku) 第14回：Unit14 Electric Cars 第15回：Unit15 The Amazing Brain まとめ								
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	意欲的な受講態度、予習の状況及び授業への貢献度を評価する。				
	レポート		20%	課題のテーマについて調査し、整理・分析し、具体的かつ適切にまとめてあるかを評価する。				
	小テスト		40%	各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。講義の中間期、期末に授業内容の理解度を評価する。				
	定期試験							
	その他		10%	積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。				
自由記載								
<b>【受講の心得】</b>								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習と復習を心がけ、辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。</li> <li>・授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。</li> </ul>								
<b>【授業外学修】</b>								
1 テキスト内容については授業までに2時間以上予習すること。 2 毎回前時の授業内容についての小テストを実施するので2時間以上復習しておくこと。 3 課題については十分に調査してレポートを作成すること。								
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	Amazing Visions of the Future -Aspects of Human Activity- 国際社会への英語の扉-インプットからアウトプットで学ぶ四技能-			伊與田洋之, 赤塚麻里, 土井峻, 梶浦真由美, マリキットG.マナング, 室淳子	南雲堂	1,900円+税	978-4-523-17888-0 C0082	
自由記載								
参考書	自由記載							
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>							
	有							
<b>【担当教員の实務経験】</b>								
県情報教育センター・県総合教育センター・県立高等学校英語科教諭								
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>								
無								
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>								
高校の学校現場に勤務し、英語科の指導に当たった経験から、学生のニーズを的確に把握し、わかりやすい解説や指導をすることができる。また、大学生として身につけておくべき語彙や表現などをペアやグループ活動などを取り入れアクティブかつ実践的な指導ができる。また、県情報教育センター及び県総合教育センター情報教育部の指導主事として、教職員の研修や指導業務に当たった経験から、ICTを活用して動画や音声を提示しわかりやすい授業を行うことができる。								

授業科目名	仏語		サブタイトル	(パリをめぐる)		授業番号	HA104	
担当教員名	盛政 文子							
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	2単位			
開講年次	1年			開講期	後期			
必修・選択	選択			授業形態	演習			
【授業の概要】 豊富なパリ情報や文化紹介の映像を見ながら、パリにいるイメージで学習を進めていく。								
【到達目標】 日常生活で使用する会話を身に付けること。語彙を増やしながら表現力やコミュニケーション力を養うこと。授業内容はフランス語の運用能力を評価する検定試験に対応するものとなっている。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。								
【授業計画】								
第1回：フランス語で言ってみよう 第2回：フランス語学習のために 第3回：フランス語のルール 第4回：パン屋でバゲットを買う 第5回：パリ発祥の地・シテ島 第6回：凱旋門とエッフェル塔 第7回：パリのマルシェ 第8回：美術館で名画を観る 第9回：カフェに誘う 第10回：レストランで注文する 第11回：モンマルトルを散策する 第12回：買い物に行く 第13回：道案内をする 第14回：過去を語る 第15回：まとめ								
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度		50%	積極的な受講態度、ポートフォリオを評価する。				
	レポート		30%	関心のあるフランスの文化について、日本語で600字程度のレポートを書く。				
	小テスト		0%					
	定期試験		20%	〈口頭試問〉自己紹介をフランス語でする。筆記試験はない。				
	その他							
自由記載								
【受講の心得】 日頃から身近にフランスを感じながら生活してほしい。								
【授業外学修】 1.習得度を検証する。 2.ポートフォリオを作成する。 以上の内容を週当たり2時間以上学修すること。								
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	なびフランセ1 - パリをめぐる -			有富 智世	朝日出版社	2,500円	978-4-255-35261-9	
自由記載								
参考書	自由記載							
	【担当教員の実務経験の有無】 無							
	【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無							

授業科目名	中国語		サブタイトル	(発音記号, 基本文型, 会話, 短文)	授業番号	HA105
担当教員名	畑木 亦梅					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
この授業では中国語の発音・基礎文法に重点を置く。日本人にとって親しみのある漢字を中国語でどう発音するかのなどを解きながら、基礎的な会話と文型を学んでいくものとする。また、外国語を学ぶうえで自分自身にとって一番相応しい方法が何なのかについて考えてもらい、一緒に探し当てていく。						
<b>【到達目標】</b>						
既習内容の発音や単語の定着を目指して基本文型を理解する。いざ中国語による会話をする時、趣味などについて語れる基礎的なコミュニケーション能力を身に付けている。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた内容のうち、<知識・理解>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：テキスト第一課 発音(1) 単母音, 声調, 子音, 軽声, 特殊母音 (課題提出 テキスト第一課分P9-10), 第2回：テキスト第二課 発音(2) 重母音, 鼻母音, 声調の記号のつけ方 第3回：発音の復習, 知っておいて便利な言葉 (課題提出 テキスト第二課分P13-14) 第4回：テキスト第三課 名詞文「...是...(...は...です)」について(肯定文, 否定文, 疑問文); 副詞「也, 都(も)」について, 強化トレーニング (課題提出 テキスト第三課分P19-20) 第5回：テキスト第四課 指示代名詞, 存在文「有...(...あります/います)」について, 「ちょっと...する」の言い方, 強化トレーニング (課題提出 テキスト第四課分P25-27) 第6回：テキスト第五課 動詞文, 動作の継起, 願望文「想...(...したい)」について, 強化トレーニング (課題提出 テキスト第五課分P33-34) 第7回：テキスト第六課 動作・行為の完了, 形容詞文について, 比較, 起点などの表し方, 強化トレーニング (課題提出 テキスト第六課分P39-40) 第8回：テキスト第七課 動作の進行, いろいろな「在」の使い方, 数字・日付の言い方, 強化トレーニング (課題提出 テキスト第七課分P45-46) 第9回：テキスト第八課 過去の経験の表しかた, 東京ディズニーランドに行ったことがありますか? 強化トレーニング (課題提出 テキスト第八課分P51-52) 第10回：テキスト第九課 皆さんはお元気ですか 強化トレーニング (課題提出 テキスト第九課分P57-58) 第11回：テキスト第十課 休みの日はどのように過ごしますか? 強化トレーニング (課題提出 テキスト第十課分P63-64) 第12回：テキスト第十一課 納豆は食べますか? 強化トレーニング (課題提出 テキスト第十一課分P69-70) 第13回：テキスト第十二課 私について(1) 強化トレーニング (課題提出 テキスト第十二課分P75-77) 第14回：テキスト第十三課 私について(2) 強化トレーニング (課題提出 テキスト第十三課分P81-82) 第15回：復習, おさらい, 定期試験に向けて						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	発音練習・発言など授業への積極性			
	レポート	30%	課題提出の完成度			
	小テスト					
	定期試験	50%	発音の基本・テキストにある強化トレーニング内容の定着			
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
予習, 復習をしっかりとすること。テキストを必ず持ってくること。毎授業の導入時に15分程度の発音練習の時間を設けており, 声を出して練習すること。遅刻しないこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として, 次の授業に出る新出単語を覚えておくこと, テキストの問題に目を通しておくこと。 2 復習として, 学んだ本文内容や文法を再確認すること。						
以上の内容を, 週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	テキストについては教務課より別途指示				
参考書	自由記載					
<b>【その他】</b>						
プリント配布, 学習内容に合わせて中国事情を紹介						
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
高等学校での中国語授業						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
通訳, 翻訳の経験を活かし, 学生自身の母国語の日本語について考えてもらい, より言語に関心を持ってもらうよう指導する。また, 中国語授業の経験を活かし, 学生と共に各々にあつての言語の修得方法を指導する。						

授業科目名	韓国語		サブタイトル	(韓国語の基礎を学ぶ)		授業番号	HA106	
担当教員名	宋 娘沃							
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	2単位			
開講年次	1年			開講期	前期			
必修・選択	選択			授業形態	演習			
<b>【授業の概要】</b> 韓流ブーム以降、冬季オリンピック、文化交流などを通じて韓国への関心が高まり、日本と韓国との距離は一段と縮まってきている。韓国語と日本語は文法が類似していると同時に、言葉にとって大切な語順がほとんど一致している。本講義は、前半では韓国語学習を習い始める初歩の段階としてハングルの基礎から始まり、韓国語のごく短い文の読み書き、聞き取りを学習する。後半では日常会話として自己紹介、挨拶の言葉、韓国旅行のための簡単な会話など、基礎的なやり取りの実践的な力を身につける。また、韓国の若者の意識、エンターテインメント、日常生活や社会への理解を深めていくために、ビデオ鑑賞を行う。								
<b>【到達目標】</b> ・韓国語の言葉や文法を習得することができる。 ・韓国語の挨拶や簡単な会話ができるようになる。 ・簡単な韓国語が書けることができる。								
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>の修得に貢献する。								
<b>【授業計画】</b>								
第1回：韓国語とは 第2回：文字と発音・母音 第3回：文字と発音・子音 第4回：激音と農音、パッチム 第5回：助詞、動詞 第6回：基本文型過去形の作り方 第7回：感嘆文、疑問文 第8回：基本文型指示代名詞、助数詞 第9回：用語の丁寧形、尊敬形 第10回：会話練習、表現 第11回：挨拶、訪問の言葉 第12回：韓国の大学 第13回：韓国の食生活 第14回：韓国の文化と映画 第15回：韓国の若者と社会生活								
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	授業への意欲、質問、宿題を積極的にやっているのかを評価する。				
	レポート							
	小テスト		30%	授業の中間時点でどの程度理解しているのかを点検する。				
	定期試験		50%	授業全体の理解度や言葉の習得ができてきているのかを評価する。				
自由記載								
<b>【受講の心得】</b> ・韓国語の単語や短文の宿題を真面目に行うこと。 ・韓国に関するニュースや興味ある記事に目を通して積極的に取り組むこと。								
<b>【授業外学修】</b> ・予習として、教科書の授業内容に相当する部分を前もって読み、疑問点をチェックして来ること。 ・復習として、毎回の課題をノートに書いて来ること。 ・韓国語の教科書のCDを聞くようにして、言葉に慣れること。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。								
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	ゼロからしっかり学べる！韓国語			木内 明	高橋書店	1700円	978-4-471-11270-7	
自由記載								
参考書	自由記載							
	【備考】		令和2年度改正					
	【担当教員の実務経験の有無】		有					
<b>【担当教員の实務経験】</b> 京都YMCA専門学校で韓国語講師を務める。								
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無								
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 専門学校での経験を生かして、教育現場での学習指導、学生指導を充実させる。								



授業科目名	日本事情 留学生対象科目		サブタイトル		授業番号	-
担当教員名	岡本 輝彦					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
日本の文化や社会、習慣について幅広く学習し日本人のものの見方、考え方を知ることによって日本での生活に適應できる能力を身につける。また、知識を習得するだけでなくプレゼンテーションなどを通して日本語で発信できる能力を養うことを目的とする。						
<b>【到達目標】</b>						
1. 日本の文化や社会について自国の事情と比較しつつ知識を深めることができる。 2. 日本や日本人を正しく理解することができる。 3. 最終的には日本人コミュニティに参加できるようになる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：オリエンテーション・自己紹介 第2回：日本はどんな国か 第3回：自分の国を紹介する 第4回：日本の食について考える 第5回：自国の食文化を紹介する 第6回：年中行事 第7回：自国の年中行事を紹介する 第8回：現代文化とポップカルチャー 第9回：自国の文化を紹介する 第10回：環境保護を考える 第11回：自国の環境保護に対する取り組みを紹介する 第12回：教育 第13回：自国の教育を紹介する 第14回：多文化共生社会について考える(1) 第15回：多文化共生社会について考える(2)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		40%	積極的な受講態度、発話回数で評価する。		
	レポート		20%	自分の意見が適切に述べられているかどうかで評価する。		
	小テスト		40%	学習内容が理解できているかどうかで評価する。		
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
1. 資料を読んだり、ディスカッションをしたりするので、自分からどんどん発言すること。 2. 講義テーマに関する事柄を事前に調べておくこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 後期テーマに関する必要な語彙を調べておくこと。 2. プレゼンテーションの原稿を作成すること。 3. 資料を探しプレゼンテーションソフトを使って発表の練習をすること。						
以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	毎回プリントを配布する予定。				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	日本語 留学生対象科目		サブタイトル		授業番号	-
担当教員名	岡本 輝彦					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
総合的な日本語力を養うとともに日本や日本人に対する考え方を深めること、受容だけではなく産出の面にも焦点をあてて授業を進めていくことにより、日本語での発信力を向上させることを目的としている。						
<b>【到達目標】</b>						
1. 論理的な思考を身につけることができる。 2. 自分が言いたいことが例や理由などを示しながらわかりやすく説明できる。 3. 中上級の表現力が習得できる。						
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：アカデミック・リーディング(1) 第2回：語彙・文法(1)および復習 第3回：アカデミック・リーディング(2) 第4回：語彙・文法(2)および復習 第5回：アカデミック・ライティング(1)および小テスト 第6回：アカデミック・リーディング(3) 第7回：語彙・文法(3)および復習 第8回：アカデミック・リーディング(4) 第9回：語彙・文法(4)および復習 第10回：アカデミック・ライティング(2)および小テスト 第11回：アカデミック・リーディング(5) 第12回：語彙・文法(5)および復習 第13回：アカデミック・リーディング(6) 第14回：語彙・文法(6)および復習 第15回：アカデミック・ライティング(3)および小テスト						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	積極的な受講態度、発話回数、予習復習の成果で評価する。		
	レポート		30%	自分の意見が適切に述べられているかどうかで評価する。		
	小テスト		40%	学習内容が理解できているかどうかで評価する。		
	定期試験		0%			
	その他		10%	口頭発表		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
講義の前にプリントを読んでおき、事前にわからない語彙の意味・用法を調べておくこと。講義を聞くだけでなく、自分から意見を述べること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 毎回配布するテキストに関する事項について事前に自分の意見をまとめておくこと。 2. テキストに出てくる学習項目を調べておくこと。						
以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	毎回プリントを配布する予定。				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	日本語II 留学生対象科目		サブタイトル		授業番号	-
担当教員名	岡本 輝彦					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
総合的な日本語力はもとよりのこと、特に「話す」、「書く」といった産出の面における日本語能力の向上を目指し、自分の考えを論理的に日本語で表現できる能力を身につけることを目的としている。						
<b>【到達目標】</b>						
1. 論理的な思考を身につけることができる。 2. 自分が言いたいことが例や理由などを示しながらわかりやすく説明できる。 3. 中上級の表現力を習得することができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：アカデミック・リーディング(1) 第2回：発表・討議 第3回：アカデミック・リーディング(2) 第4回：アカデミック・ライティング(1) 第5回：アカデミック・リーディング(3) 第6回：発表・討議 第7回：アカデミック・リーディング(4) 第8回：アカデミック・ライティング(2) 第9回：アカデミック・リーディング(5) 第10回：発表・討議 第11回：アカデミック・リーディング(6) 第12回：アカデミック・ライティング(3) 第13回：プレゼンテーション技法(1) 第14回：プレゼンテーション技法(2) 第15回：プレゼンテーション技法(3)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		40%	積極性・発表・予習・復習で総合的に評価する。		
	レポート		20%	自分の意見が適切に述べられているかどうかで評価する。		
	小テスト					
	定期試験		40%	理解度および到達度で評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
講義の前にプリントを読んでおくこと。また、日本人学生との交流もあるので積極的に発言すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 毎回配布するプリントに関する事項について事前に自分の考えをまとめておくこと。 2. プリントに出てくる学習項目を調べておくこと。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	毎回プリントを配布する予定。				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	生活学概論 A		サブタイトル	授業番号	HG101	
担当教員名	小築 康弘 仁宮 崇					
対象学部・学科	総合生活学科		単位数	2単位		
開講年次	1年		開講期	前期		
必修・選択	必修		授業形態	講義		
【授業の概要】						
豊かな生活を作り上げていくには、生活に関わる様々なことを理解し、自身の生活の場で実践していく必要がある。『生活学概論』ではそのために必要な知識を身に付けることを目的とする。生活学概論Aでは生活の中の食、環境、情報について学び、これらの基礎知識を身につけるのが、本講義の目的である。						
【到達目標】						
・生活の中の「食」「環境」「情報」の基礎知識を有し、発展的な学修においてそれら知識を利用することができる なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：パソコン・スマートフォンの仕組み (担当 仁宮 崇)						
第2回：アプリケーションソフト (担当 仁宮 崇)						
第3回：ネットワーク (担当 仁宮 崇)						
第4回：情報セキュリティ (担当 仁宮 崇)						
第5回：個人情報保護 (担当 仁宮 崇)						
第6回：食の機能と栄養機能 (担当 小築康弘)						
第7回：食と生活リズム / 食の精神的機能 (担当 小築康弘)						
第8回：食事形態の選択 (担当 小築康弘)						
第9回：食事に対する価値観 / 食べ物の安全と安心の概念 (担当 小築康弘)						
第10回：食中毒 (担当 小築康弘)						
第11回：人々の生活と災害 (担当 小築康弘)						
第12回：水質問題と生態系 (担当 小築康弘)						
第13回：エネルギーと温暖化 (担当 小築康弘)						
第14回：環境問題 (担当 小築康弘)						
第15回：生活の持続可能性 (担当 小築康弘)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢 / 態度		10%	[ 仁宮 ] 受講態度、毎回提出する感想の量と質で評価する。		
	レポート		10%	[ 小築 ] 授業開始前までに、予習範囲から質問事項の提出ができているか、併せて質問数およびそれぞれの質問内容を評価する。		
	小テスト		10%	[ 小築 ] 予習範囲の確認テスト・前回の範囲の復習テストにより、知識の定着度・理解度を評価する。		
	定期試験		70%	[ 小築・仁宮 ] 全講義終了後の知識の定着度・理解度を評価する。		
	自由記載					
【受講の心得】						
わからないことが積み重なると後で手がつけられない状態になることが多い。すぐに調べる「くせ」をつけること。						
【授業外学修】						
[ 仁宮 ]						
1. 講義資料を配布するので、資料の問題演習をすること						
2. 参考になる書籍やサイトの紹介をするので、それも読み、予習復習をすること						
[ 小築 ]						
3. 授業内で予習範囲の小テストがあるため、その準備をすること						
4. 予習範囲の質問事項に関するレポートを準備し、提出すること						
5. 授業内で前回授業内容の小テストがあるため、復習をすること						
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	人と生活		「生活する力を育てる」ための研究会 編	建帛社	2,000 + 税	978-4-7679-1446-6
自由記載						
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	生活と環境		藤城敏幸	東京教学社	1,900円+税	978-4-8082-5012-6
自由記載						
【担当教員の実務経験の有無】						
有						
【担当教員の实務経験】						
病院事務 (仁宮崇)						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】						
無						
【実務経験をいかした教育内容】						
医療情報システムの管理運用、電子カルテ運用保守、ヘルプデスク、レセプトデータ集計、DPCデータ分析、情報セキュリティ対策、医療従事者への個人情報保護教育等の経験をいかして指導する。						

授業科目名	生活学概論 B		サブタイトル	授業番号	HG107
担当教員名	藤田 悟				
対象学部・学科	総合生活学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	必修	授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b> 豊かな生活を作り上げていくには、生活に関わる様々なことを理解し、自身の生活の場で実践していく必要がある。『生活学概論』ではそのために必要な知識を身に付けることを目的とする。 生活学概論Bでは、「生活の豊かさ」を実現するために生活に関わる様々なことを理解し、自身の生活の場で選択し、実践する必要がある。中でも、日々の暮らしにおいて、生活者としての「衣服の素材や構成を知り選ぶ（衣生活）」、「商品やサービスなどを安全に利用する（消費生活）」、「生活するためのお金（生活経済）」が大きな要件となる。これらの基礎知識を身につけるのが、本講義の目的である。					
<b>【到達目標】</b> 衣生活、消費生活、生活経済の基礎知識を有し、発展的な学修においてそれらの知識を利用することができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b> 第1回：衣服の構造：被服ができあがるまで 第2回：衣服の役割：社会的機能と保健衛生的機能について 第3回：衣服の選択：自分に似合う服を選ぶには 第4回：衣服の材料：服の素材の種類や特徴から快適な着心地を手に入れる 第5回：衣服の管理：洗濯や保管中のトラブルについて 第6回：消費者生活：消費者生活者と消費者の権利 第7回：消費者生活：悪質商法から消費トラブルまで 第8回：消費者生活：広告の表示と製品の安全性 第9回：消費者生活：クレジットのしくみと多重債務 第10回：消費者生活：情報社会におけるトラブル 第11回：生活と経済：くらしと経済における家計 第12回：生活と経済：市場の働きと経済 第13回：生活と経済：新たな貨幣の機能を理解するキャッシュレス経済 第14回：生活と経済：社会保障制度の理解（社会保険，社会福祉，各種保険） 第15回：生活と経済：豊かさと生活経済との関係					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢／態度		30%	意欲的な受講態度，予習，復習の状況によって評価する。	
	レポート				
	小テスト		30%	最終的理解度を評価する。	
	定期試験				
	その他	40%	各講義の振り返りワークシートの提出。		
	自由記載	小テスト及び各講義の振り返りワークシートの提出と内容によって理解度を評価する。			
<b>【授業外学修】</b> 1. 講義時に次回内容の要約を説明するので、その内容について調べる事前学修を毎回行う。 2. 事後学修として、講義時に配布された「レジュメ」を読み、講義で学んだ内容を整理し、理解するために復習を毎回行う。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載	適時配布			
参考書	自由記載				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有					
<b>【担当教員の実務経験】</b> メーカーでスポーツブランドの企画，デザインを担当。消費トラブルの教育・研修分野における講師，独立系保険代理店でのファイナンシャルプランナーとしての実績。					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 衣生活分野は，デザイナーとしてメーカーに勤めていたときの知識。消費者生活は，消費トラブルの教育・研修分野における講師の実績。生活と経済は，ファイナンシャルプランナーとしての実務経験から，わかりやすく説明する。					

授業科目名	生活学概論C		サブタイトル	授業番号	HG111
担当教員名	小築 康弘 韓 在都 仁宮 崇				
対象学部・学科	総合生活学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	必修	授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>					
豊かな生活を作り上げていくには、生活に関わる様々なことを理解し、自身の生活の場で実践していく必要がある。『生活学概論』ではそのために必要な知識を身に付けることを目的とする。生活学概論Cでは生活の中の住、介護、医療について学び、これらの基礎知識を身につけるのが、本講義の目的である。					
<b>【到達目標】</b>					
・生活の中の「住」「介護」「医療」の基礎知識を有し、発展的な学修においてそれら知識を利用することができる なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：住居の機能 (担当 小築康弘)					
第2回：住まいの快適さ (担当 小築康弘)					
第3回：住まいの安全性 (担当 小築康弘)					
第4回：ライフサイクルと住生活 (担当 小築康弘)					
第5回：住環境 (担当 小築康弘)					
第6回：患者として知っておくべき医療制度 (担当 仁宮 崇)					
第7回：救急車の適正利用と救命処置 (担当 仁宮 崇)					
第8回：身体に起こる不調：いわゆる「病気」「けが」など (担当 小築康弘)					
第9回：病気やけがの治療(1) (担当 小築康弘)					
第10回：病気やけがの治療(2) (担当 小築康弘)					
第11回：障害 (担当 韓 在都)					
第12回：老化・認知症 (担当 韓 在都)					
第13回：介護を必要とする人の生活のしづらさ (担当 韓 在都)					
第14回：生活支援 (担当 韓 在都)					
第15回：社会保障制度 (担当 韓 在都)					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	14%	[韓・仁宮] 受講態度、毎回提出する感想の量と質で評価する。		
	レポート	8%	[小築] 授業開始前までに、予習範囲から質問事項の提出ができているか、併せて質問数およびそれぞれの質問内容を評価する。		
	小テスト	8%	[小築] 予習範囲の確認テスト・前回の範囲の復習テストにより、知識の定着度・理解度を評価する。		
	定期試験	70%	[小築・韓・仁宮] 全講義終了後の知識の定着度・理解度を評価する。		
	その他				
<b>【受講の心得】</b>					
わからないことが積み重なると後で手がつけられない状態になることが多い。すぐに調べる「くせ」をつけること。					
<b>【授業外学修】</b>					
1. 講義資料を配布するので、資料の問題演習をすること					
2. 参考になる書籍やサイトの紹介をするので、それも読み、予習復習をすること					
3. 授業内で予習範囲の小テストがあるため、その準備をすること					
4. 予習範囲の質問事項に関するレポートを準備し、提出すること					
5. 授業内で前回授業内容の小テストがあるため、復習をすること					
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	人と生活	「生活する力を育てる」ための研究会 編	建帛社	2,000 + 税	978-4-7679-1446-6
自由記載					
参考書	自由記載				
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>				
	有				
<b>【担当教員の实務経験】</b>					
介護職員・訪問介護員(韓在都)、病院事務(仁宮崇)					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
高齢者施設や医療現場等における経験をいかして指導する。					

授業科目名	生活学概論D		サブタイトル	授業番号	HG113	
担当教員名	奥村 弥生 加賀田 江里					
対象学部・学科	総合生活学科	単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	後期			
必修・選択	必修	授業形態	講義			
【授業の概要】 豊かな生活を作り上げていくには、生活に関わる様々なことを理解し、自身の生活の場で実践していく必要がある。『生活学概論』ではそのために必要な知識を身に付けることを目的とする。本科目では、生活の主体として生きるために、生活の仕組みと営みを学び、変化し続ける生活構造や意識、それらに対応するために必要なライフスキル、生活設計等の理論を学ぶ。						
【到達目標】 ・現代の生活構造・意識を理解し、その特徴を捉えることができる。 ・家族・社会・環境との関連において、共生と自立を目指した心豊かな生活設計ができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力><技能><態度>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
【授業計画備考】 受講者の興味関心に応じて、参考文献や配布資料を変え、内容を一部変更することもある。						
第1回：生活の主体としての生活者と生活環境 (担当 奥村) 第2回：変化する生活構造と生活意識(1) (担当 奥村) 第3回：変化する生活構造と生活意識(2) (担当 奥村) 第4回：生活問題解決と生活に必要なスキル(1) (担当 奥村) 第5回：生活問題解決と生活に必要なスキル(2) (担当 奥村) 第6回：協働・共生のための人間関係スキル (担当 奥村) 第7回：循環型社会を創る消費者のライフスキル(1) (担当 奥村) 第8回：循環型社会を創る消費者のライフスキル(2) (担当 奥村) 第9回：衣食住のベーシックスキル(1) (担当 加賀田) 第10回：衣食住のベーシックスキル(2) (担当 加賀田) 第11回：自分らしく生きるための生活設計スキル(1) (担当 加賀田) 第12回：自分らしく生きるための生活設計スキル(2) (担当 加賀田) 第13回：自分らしく生きるための生活設計スキル(3) (担当 加賀田) 第14回：自分らしく生きるための生活設計スキル(4) (担当 加賀田) 第15回：自分らしく生きるための生活設計スキル(5) (担当 加賀田)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	意欲的な受講態度によって評価する。		
	レポート					
	小テスト		70%	授業内容の理解度を評価する。		
	定期試験					
	その他					
自由記載						
【受講の心得】 授業内容を自分自身の問題としてよく考えながら受講すること。						
【授業外学修】 ・授業中に紹介した参考文献を積極的に読む。 ・授業中に配布した資料を繰り返し読み、復習する。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	生活を創るライフスキル 生活経営論		内藤道子・中間美砂子他共著	建帛社	1800円+税	978-4-7696-1440-4
	自由記載					
【担当教員の実務経験の有無】 無						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無						

授業科目名	生活学基礎演習		サブタイトル		授業番号	HG102
担当教員名	小築 康弘					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
我々は進歩の激しい世界に生活をしている。そこで、必要になるのは新たな知識を取り入れ、新たな技術・知識に対応することである。それが、現代の生活者に必要な能力の一つである。本演習では、その基礎となる『学修する習慣』のより確実な構築を目的とするとともに、言語能力および非言語能力として数学および論理学の基礎的能力を身に付けることを目指す。						
<b>【到達目標】</b>						
・基礎的な言語能力および非言語能力の学修を通し、自身の必要に合わせて学修する習慣を身につけている なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：なぜ「学修する習慣」が必要なのか 第2回：非言語分野の演習(1) 第3回：言語分野の演習(1) 第4回：非言語分野の演習(2) 第5回：非言語分野の演習(3) 第6回：非言語分野の演習(4) 第7回：第2回～第6回の演習内容の確認テスト 第8回：言語分野の演習(2) 第9回：非言語分野の演習(5) 第10回：非言語分野の演習(6) 第11回：非言語分野の演習(7) 第12回：第2回～第6回の演習内容および第8回～第11回の演習内容の確認テスト 第13回：非言語分野の演習(8) 第14回：非言語分野の演習(9) 第15回：改めて考える～なぜ「学修する習慣」が必要なのか～						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート					
	小テスト		50%	各回の内容の理解度・定着度を評価する。		
	定期試験		50%	自身が身につけた能力を適切に発揮できるかを評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
自身の行動を持って体得することに主眼を置く授業であるため、積極的な行動を求める。また、到達目標にあるように『学修の習慣化』を求める。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 授業で提示される次回の内容について予習をすること 2. 定期試験に向けて、自身の身につけた言語能力・非言語能力の定着を図ること 以上の内容を、週あたり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	未定				
参考書	自由記載	未定				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						



授業科目名	生活学演習		サブタイトル	授業番号	HG108
担当教員名	小築 康弘 韓 在都 藤田 悟 加賀田 江里 仁宮 崇 奥村 弥生				
対象学部・学科	総合生活学科	単位数	1単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b>					
我々が普段の生活を営んで行く上で、様々な「あたりまえ」が存在する。米を炊き、みそ汁を作り、配膳し、食べる。洗濯をし、干し、折畳み、箆笥などにしまう。総合生活学科は、「生活者の視点」を培う学科であり、そこで勉強をする学生は当然ながら、これら生活者の「あたりまえ」について明確なイメージを持つ必要がある。そこで、本演習では、これら生活の中の「あたりまえ」を改めて体得するとともに、そのエッセンスを自分のものとするを目的とする。					
<b>【到達目標】</b>					
・日々の生活における初歩的な知識・技術を身につけ、普段の生活に活かすことができる なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力><技能><態度>の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：授業のねらい・到達目標の説明，グループ分け (担当 小築康弘・仁宮 崇)					
第2回：情報：メールの基礎 (担当 小築康弘・仁宮 崇)					
第3回：情報：ネット検索の初歩 (担当 小築康弘)					
第4回：衣生活：服の買い方 (担当 藤田 悟)					
第5回：衣生活：服の管理方法 (担当 藤田 悟)					
第6回：食生活：食生活の基本(1) (担当 加賀田江里)					
第7回：食生活：食生活の基本(2) (担当 加賀田江里)					
第8回：生活の中の医療：健康と医療(1) (担当 仁宮 崇)					
第9回：生活の中の医療：健康と医療(2) (担当 仁宮 崇)					
第10回：介護：介護概論 — 高齢社会の現状と介護の役割 — (担当 韓 在都)					
第11回：介護：介護概論 — 生活介護とは — (担当 韓 在都)					
第12回：生活空間：片付けと物の管理(1) (担当 奥村弥生)					
第13回：生活空間：片付けと物の管理(2) (担当 奥村弥生)					
第14回：生活：手紙のしきたり (担当 小築康弘)					
第15回：まとめ (担当 小築康弘)					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	45%	授業へ取り組み姿勢を評価する。		
	レポート	23%	基礎的知識・技術を実生活に活かす意欲について述べていること。提出物はコメントを記入して返却する。		
	小テスト	28%	基礎的知識の定着度・理解度を評価する。		
	定期試験				
	その他	4%	課題の発表内容により評価する。		
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b>					
自身の行動を持って体得することに主眼を置く授業であるため、積極的な行動を求める。また、普段の生活の中で様々な活動に興味を持つとともに、習ったことを生活の中に生かすことを求める。					
<b>【授業外学修】</b>					
1 授業で身につけた知識・技術について復習し、普段の生活に活かせるようにすること					
2 いくつかの分野で課されるレポートの作成をすること					
以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載	なし			
参考書	自由記載	なし			
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>					
介護職員・訪問介護員(韓在都)、メーカーでスポーツブランドの企画、デザインを担当(藤田悟)、病院事務(仁宮崇)					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
高齢者施設や医療現場等における経験をいかして指導する。(韓在都, 仁宮崇)					
メーカーに勤めていたときにブランドの企画、デザイン、店舗指導、MDをしていた実務経験をいかした演習を行う。(藤田悟)					

授業科目名	ホスピタリティ論		サブタイトル		授業番号	HG112
担当教員名	奥村 弥生 仁宮 崇					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	必修			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
ホスピタリティは、笑顔で話す、温かい声かけをするだけでなく、相手の立場に立って考え、行動することが大切である。人間が生活する中で、人と人との繋がりは必要不可欠であり、良好な人間関係を築いていく中でもホスピタリティは重要である。本講義では、ホスピタリティに必要なコミュニケーション方法を学び、様々な事例を通して「ホスピタリティの正体」について考えていく。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホスピタリティの意義を理解し、必要なコミュニケーション方法について理解できる。</li> <li>・様々な事例を通して、社会生活でのホスピタリティについての知識を身につけている。</li> <li>・学んだ内容を学内外で触れ合うすべての人に対して実践し、行動につなげていくことができる。</li> </ul> なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：ホスピタリティの意義：サービスとホスピタリティ（担当 奥村） 第2回：ホスピタリティの実践 ステップ(1)～好感～（基本マナー）（担当 奥村） 第3回：ホスピタリティの実践 ステップ(2)～満足～（気くばり）（担当 奥村） 第4回：ホスピタリティの実践 ステップ(3)～感動～（心くばり）（担当 奥村） 第5回：ホスピタリティをめぐる言葉（担当 仁宮） 第6回：ホスピタリティと座席（担当 仁宮） 第7回：ホスピタリティと電話応対（担当 仁宮） 第8回：ホスピタリティの事例（1）（担当 仁宮） 第9回：ホスピタリティの事例（2）（担当 仁宮） 第10回：ホスピタリティの事例（3）（担当 仁宮） 第11回：ホスピタリティとコミュニケーション（1）（担当 奥村） 第12回：ホスピタリティとコミュニケーション（2）（担当 奥村） 第13回：職場におけるホスピタリティ（担当 奥村） 第14回：ホスピタリティの正体（担当 奥村） 第15回：総括（担当 奥村）						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	受講態度、毎回提出する感想の量と質で評価する。		
	レポート					
	小テスト		40%	授業内容の理解度を評価する。		
	定期試験					
その他		30%	課題の内容を見て評価する			
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
ホスピタリティは実践することに意味がある。学んだことを日常生活でも取り入れ、実践する。相手の立場に立って考え、気くばりや心くばりをするをを求める。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 講義で学んだ気くばりや心くばりを意識して、日常生活の中で生かせるようにする。 2. サービスを受ける側になった際、サービス提供者の行動をみて、気くばりや心くばりを参考にする。 3. 発展学修として紹介した参考文献を読む。 以上の内容を、週あたり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	講義資料を配布する。				
参考書	自由記載	「図解版 ホスピタリティの教科書」あさ出版「ホスピタリティの教科書」あさ出版「ホスピタリティコミュニケーション力」日本医療企画「レッツホスピタリティ」経済法令研究会				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	現代生活とマナー		サブタイトル		授業番号	HG103
担当教員名	奥村 弥生 小築 康弘 加賀田 江里					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	必修			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
マナーは、相手の立場に立って考え、相手を不快にさせないためにあるものである。数多くの異なる個性や価値観をもつ人々が営む現代生活において、他者に与えている印象について知ることは重要である。本科目は、人生をより良く豊かに生きるために、確実に身につけておきたいマナーについて考え実践する。						
<b>【到達目標】</b>						
各回で学んだ基本的マナーを身につけ、普通の生活に活かすことができる なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：マナーとは (担当 奥村)						
第2回：食事のマナー：洋食 (担当 加賀田)						
第3回：食事のマナー：和食 (担当 小築)						
第4回：言葉のマナー：敬語表現 (担当 奥村)						
第5回：身だしなみ (担当 奥村)						
第6回：立ち居振る舞い：立ち方・座り方・おじぎ (担当 奥村)						
第7回：訪問時・来客時のマナー (担当 奥村)						
第8回：電話のマナー (担当 奥村)						
第9回：手紙・メールのマナー (担当 奥村)						
第10回：冠婚葬祭のマナー (担当 奥村)						
第11回：時間のマナー (担当 小築)						
第12回：ネットのマナー (担当 小築)						
第13回：人権とマナー（多様性を考える） (担当 小築)						
第14回：テーブルマナーの実践 (担当 加賀田)						
第15回：まとめ (担当 奥村)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		33%	授業への取り組み姿勢を評価する。		
	レポート		25%	既存のマナーについて学んだ上で、自分はどのように考えるのかを述べていること。		
	小テスト		42%	授業内容の理解度を評価する		
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
・マナーの授業であることを強く意識すること ・前回学んだ内容を、必ず身につけた状態で授業に臨むこと						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 学修したマナーを普通の生活の中で実践する 2. 授業で課されるレポートを作成する 以上の内容を、週あたり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	日本語検定公式領域別問題集 改訂版 敬語		加藤 淳, 日本語検定委員会 (編集)	東京書籍	1320	978-448781234 9
自由記載						
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 無					
	<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無					

授業科目名	ファッションと生活		サブタイトル		授業番号	HT101
担当教員名	藤田 悟					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
ファッション製品の代表である衣服が生活においてどのような意味を持ち、どのように関係しているのかを学び、「ファッションの社会的役割」や「ファッション生活全般」について考える。プロジェクターを利用して画像や映像を用いることで、わかりやすく解説し、授業を進める。						
<b>【到達目標】</b>						
ファッション製品の設計、流行、歴史、選択、購入、管理や素材を判別することなど、ファッション製品についての基本的な知識を持ち、快適なファッション生活ができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げている学士力の〈知識・理解〉の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：人はどうして服を着るのか 第2回：生活を変える装い 第3回：誰でも簡単にできる服作り 第4回：服装の流行とファッション業界の裏側 第5回：日本の服装の歴史 第6回：制服の歴史から見えるファッションとの関係 第7回：新素材や日本の繊維産地 第8回：快適な衣服を作る技術 第9回：ファッション生活とブランド戦略 第10回：世界の王室のファッションワードローブ 第11回：衣服の衛生と管理 第12回：衣料品の再利用とフリマアプリ 第13回：演出服としてのウェディングドレス 第14回：着心地と素材 第15回：環境・人権に考慮したファッション						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	意欲的な受講態度、予習、復習の状況によって評価する。		
	レポート					
	小テスト		30%	最終的理解度を評価する。		
	定期試験					
	その他		40%	各講義の振り返りワークシートの提出内容によって理解度を評価する。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
日頃からファッションについて興味を持ち、衣服を購入する際に、素材、価格、品質、流行等について考えること。						
<b>【授業外学修】</b>						
事前学修として、講義時に次回内容の要約を説明するので、その内容について調べておくこと。（2時間以上） 事後学修として、講義時に配布された「レジュメ」や「資料」にて講義で学んだ内容を整理し、理解するために復習を毎回行うこと。（2時間以上）						
使用テキスト	自由記載	適時配布				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
メーカーでスポーツブランドの企画、デザインを担当。						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
メーカーに勤めていたときに、ブランドの企画、デザイン、素材研究、店舗指導、MDをしていた実務経験をいかした解説を行う。						

授業科目名	食と生活		サブタイトル		授業番号	HF201
担当教員名	小築 康弘					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b> 標準的な日本人は一日に3回の食事を行う。単純すぎる計算であるが、人生が80年で毎日3回の食事をすると仮定すると、87,600回の食事を生涯にわたってすることになる。このことから分かるように、我々が生活を営んで行く上で「食」は重要な要素である。そこで、本教科は生活の中における「食」を広く学び、「食」に対する考えを構築することを目的とする。 なお、本教科はフードコーディネーター3級資格取得のために必要な科目である。						
<b>【到達目標】</b> ・「食」に対するイメージを自身の中に思い描くことができる ・日本および世界の食生活に関する基礎的な知識、および食の安全に関する初歩的な知識を有している なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b> 第1回：日本の食文化(1) 第2回：日本の食文化(2) 第3回：日本の食文化(3) 第4回：日本の食文化(4) 第5回：日本の食文化(5) 第6回：世界の食文化(1) 第7回：世界の食文化(2) 第8回：世界の食文化(3) 第9回：世界の食文化(4) 第10回：世界の食文化(5) 第11回：栄養素 第12回：食の安全(1) 第13回：食の安全(2) 第14回：食の安全(3) 第15回：食の安全(4)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート		14%	授業開始前までに、予習範囲から質問事項の提出ができていないかを評価する。		
	小テスト		30%	授業毎の復習テストを行い、知識の定着度・理解度を評価する。		
	定期試験		56%	全講義終了後の知識の定着度・理解度を評価する。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b> わからないことが積み重なると後で手がつけれない状態になることが多い。すぐに調べておくくせをつけること。						
<b>【授業外学修】</b> 1. 授業内で予習範囲の小テストがあるため、その準備をすること 2. 予習範囲の質問事項に関するレポートを準備し、提出すること 3. 授業内で前回授業内容の小テストがあるため、復習をすること 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	新・フードコーディネーター教本2021		日本フードコーディネーター協会	柴田書店	3,300円(税込)	978-4-388-15447-0
自由記載						
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 無					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						

授業科目名	アパレル基礎実習		サブタイトル	授業番号	HT202
担当教員名	江口 まりこ				
対象学部・学科	総合生活学科		単位数	1単位	
開講年次	2年		開講期	前期	
必修・選択	選択		授業形態	実習	
<b>【授業の概要】</b> 備後備中地区（岡山県井原市・広島県福山市）が主な生産地のデニム生地の生産や縫製を動画で学び、地元根ざしたデニム生地についての歴史や文化や可能性に興味や関心を持ってもらい、デニム生地を用いて自分の体の特徴を活かしたり、コンプレックスをカバーできる衣服（デニムファッション）を創造する。 アパレル基礎実習によって、デザイン画の書き方、アイデアの出し方、工業用パターンの活用方法、創造することの楽しさ、衣服制作の手順を学び、衣服、帽子やバック、アクセサリまでデニム生地を使ったオリジナル作品を具体化するための知識や技術を学習する。					
<b>【到達目標】</b> 1 衣服のベースになるデニム生地の歴史や文化、製造方法の知識を身につけている。 2 衣服制作における必要最低限の知識を身につけている。 3 自分の体にあった作りたい衣服を選択、デザインし制作することができる。 4 作品を完成させ、制作工程や感想を動画やWEB（Instagram）で随時発信しながら完成作品を使ってプレゼンテーションできる。 5 本実習で身につけたスキルをベースに地元根ざしたものづくりや自分の次のステップを考えることができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b> 第1回：街頭における（岡山市内）でのデニム着用率のリサーチ動画研修、生地工場、縫製工場、染色工場、加工工場、ショップの見学動画研修 第2回：インタビュー動画にて研修 第3回：ファッションリサーチの分析/作品制作の工程説明（縫い方の技法について） 第4回：オリジナル企画案作成（デザイン画）/制作工程のプランニングを立てる 第5回：オリジナルデニム作品の制作 1 第6回：オリジナルデニム作品の制作 2 第7回：オリジナルデニム作品の制作 3 第8回：オリジナルデニム作品の制作 4 第9回：オリジナルデニム作品の制作 5 第10回：オリジナルデニム作品の制作 6 第11回：オリジナルデニム小物作品の制作 1 第12回：オリジナルデニム小物作品の制作 2 第13回：オリジナル作品制作の動画作成 第14回：プレゼンテーションの準備/リハーサル 第15回：プレゼンテーション/レビュー					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	意欲的な受講態度、デザイン/プラン通りに制作できたが評価する。	
	レポート		40%	オリジナル作品と制作動画については、創造性と完成度を評価基準とする。	
	小テスト		30%	オリジナル作品のプレゼンテーション時に「企画力」「制作力」「プレゼン能力」を評価する。	
	定期試験				
	その他				
自由記載					
<b>【受講の心得】</b> デニムに関するものに興味を持って受講すること。					
使用テキスト	自由記載	随時、プリント使用			
参考書	自由記載	適宜、紹介する			
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有					
<b>【担当教員の实務経験】</b> アパレルメーカーで婦人服デザイナー、洋裁講師					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無					
<b>【担当教員以外の指導に関わる実務経験者】</b>					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> アパレルメーカーで婦人服の企画・デザインを担当していた経験、洋裁講師を活かした実習を行う。					

授業科目名	アパレル企画実習		サブタイトル		授業番号	HT301
担当教員名	藤田 悟					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	1単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	実習	
<b>【授業の概要】</b>						
大型ショッピングモールの旗艦店より、自分の企画や関心のあるショップに出向きリサーチの実施後、オリジナルブランドイメージマップの企画制作を行い、プレゼンテーションまでを行う。						
<b>【到達目標】</b>						
1.アパレルメーカーの企画における必要最低限の知識を身につける。 2.ショップリサーチを報告書としてまとめ、ブランドを企画することができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：アパレル企画実習の全体概要、ショップリサーチについての説明と産業構造説明 第2回：アパレル企画実習の基礎知識(1) 第3回：アパレル企画実習の基礎知識(2) 第4回：社会調査の役割と自主企画におけるショップリサーチの説明 第5回：自主企画ショップリサーチ実施（大型ショッピングモール旗艦店） 第6回：自主企画ショップリサーチ結果イメージマップ作成 第7回：ファッションブランドの企画説明 第8回：ファッションブランド企画イメージマップ作成 1 第9回：ファッションブランド企画イメージマップ作成 2 第10回：ファッションブランド企画イメージマップ作成 3 第11回：ファッションブランド企画イメージマップ作成 4 第12回：ファッションブランド企画イメージマップ作成 5 第13回：プレゼンテーション資料作成 第14回：プレゼンテーションリハーサル 第15回：プレゼンテーション						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	積極的に実習に臨み自らが決定したスケジュールと設計に沿って、企画制作を進めているか。イメージ通りに表現できたか。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他		70%	・制作物（40%）ショップリサーチの報告書、イメージマップの制作物については、創造性（制作過程における独自の工夫、発想の独創性など）と完成度（作業の丁寧さ、仕上げの美しさなど）を評価規準とする。・プレゼンテーション（30%）ファッションブランド企画のプレゼンテーション時に「企画力」「制作力」「ブランドイメージ」「価格設定」「プレゼン能力」の5点に点数をつけて評価する。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
礼儀正しい態度でショップリサーチ実習を行い、ブランド企画イメージマップ作成に臨むこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
実際の店舗に出向くことや、新聞、雑誌、インターネットなどでファッション情報を集めることによって、普段からファッションブランドの企画について考察し、リサーチ店舗先や興味のあるファッションブランドを調べておくこと。						
使用テキスト	自由記載	随時、プリント使用				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
メーカーでスポーツブランドの企画、デザインを担当。						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
メーカーに勤めていたときにスポーツブランドの企画、デザインをしていた実務経験をいかした実習を行う。						

授業科目名	生活と医学		サブタイトル		授業番号	HG201
担当教員名	川上 道子					
対象学部・学科	総合生活学科		単位数	2単位		
開講年次	1年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b> 医療管理秘書士や医療事務，社会福祉主事の資格を持って就職した際に必要になる，専門的な知識を身につけることができるように講義する。 また，社会人として生活する上で役立つ医学の基礎的な知識・事柄について説明する。 今後変化することが予想される，日本の医療・介護・福祉の制度について，最新情報を得ることにより将来を考える授業にしたい。						
<b>【到達目標】</b> 1．生活と医学の関係が理解できる。 2．人間の生活行動が理解でき，自分や家族の生活と関連づけて考えることができる。 3．代表的な疾病や障害が理解できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜態度＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
<b>【授業計画 備考】</b> わが国の医療・介護の制度が目まぐるしく変化していることから，できるだけ最新の情報を提供したい。新聞やDVD等の視覚教材で理解を深めたい。						
第1回：生活と医学の関係について 医学の歴史 第2回：人間の身体の構造と仕組み 第3回：生命維持の仕組み 循環器系の理解と病気 第4回：人間の生活行動としての「動くこと」に関連した病気や障害（運動器系・脳神経系） 第5回：人間の生活行動としての「食べること」に関連した病気や障害（消化管の機能・摂食） 第6回：人間の生活行動としての「息をすること」に関連した病気や障害（呼吸器の機能） 第7回：人間の生活行動としての「トイレに行くこと」に関連した病気や障害（腎・泌尿器系・直腸の病気や障害） 第8回：人間の生活行動としての「話す・聞くこと」に関連した病気や障害（言語障害・コミュニケーション障害） 第9回：人間の生活行動としての「眠ること」に関連した病気や障害（睡眠障害・薬物療法） 第10回：人間の生活行動としての「お風呂に入ること」に関連した病気や障害（清潔行動・お洒落の意義） 第11回：人間の生活行動としての「子どもを産むこと」に関連した病気や障害（STD・不妊症治療等） 第12回：よくある病気の検査や治療・・・急性期を中心に 第13回：よくある病気の検査や治療・・・慢性期を中心に（リハビリテーション） 第14回：これから増える病気の検査や治療・・・認知症・がん 第15回：これから増える病気の検査や治療・・・生活習慣病（糖尿病・高血圧等）						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		20%	意欲的な受講態度，質問内容によって評価する。		
	レポート		20%	授業中に出した課題の提出状況，内容によって評価する。		
	小テスト		10%	リアクションペーパーへの記載内容によって評価する。		
	定期試験		50%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b> 事前・事後学修を十分に行い，分からないことは積極的に質問すること。						
<b>【授業外学修】</b> 授業中に出す課題に積極的に取り組む。 毎回の授業に対して，予習・復習を行う。 以上の学修を，1週当たり4時間以上行う。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	ぜんぶわかる人体解剖図		坂井健雄・橋本尚嗣 著	成美堂出版	1900円 + 税	978-4-415-30619-3 C2047
	看護につなげる形態機能学		菱沼典子	メヂカルフレンド社	2400円 + 税	978-4-8392-1499-9 C3047
	自由記載					
参考書	自由記載		必要に応じ提示する。			
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
	<b>【担当教員の实務経験】</b>					
看護師，介護保健施設の看護師長，専門学校の看護教員						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 看護師，介護保健施設の看護師長，専門学校の看護教員としての経験を活かして，学生自身や家族との生活において健康を守ることができる知識を身に付ける。また，職務の中で対象の健康や障害を理解したうえで適切な対応能力が身に付くように，人間の生活行動（活動・食事・呼吸・排泄・睡眠・コミュニケーション等）と医学との関係について指導する。						



授業科目名	公衆衛生学		サブタイトル		授業番号	HG203
担当教員名	波多江 崇					
対象学部・学科	総合生活学科		単位数	2単位		
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>						
公衆衛生学は、人びとを疾病から守り、健康の保持・増進をはかることを目的としており、管理栄養士などの医療・健康関連分野を専門とする人びとの基礎となる学問である。学習する内容は、母子保健から老人保健までの年齢で区別される領域と、地域保健、精神保健、環境保健などの集団の社会的特性に関する領域まで、広い範囲にわたっている。そのうちで、保健統計、環境保健、食品衛生を中心に学習する。						
<b>【到達目標】</b>						
(1)社会あるいは家庭において、人びとの健康を保持・増進していくための基礎知識を身につける。 (2)公衆衛生活動を行うために必要な信頼度の高い健康情報の収集、分析、情報管理の方法を学び活用できる。 (3)本科目は、ディプロマポリシーのの修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：公衆衛生と健康の概念（テキストp.2～p.9） 第2回：保健統計；人口静態統計（テキストp.40～p.43） 第3回：保健統計；人口動態統計（テキストp.44～p.53） 第4回：保健統計；死因統計（テキストp.54～p.61） 第5回：保健統計；疾病統計（テキストp.62～p.65） 第6回：社会保障と医療経済；社会保障制度（テキストp.152～p.159） 第7回：社会保障と医療経済；医療保障制度（テキストp.160～p.167） 第8回：社会保障と医療経済；国民医療費（テキストp.168～p.171） 第9回：地域保健（テキストp.172～p.177） 第10回：成人保健と健康増進；健康増進法，健康日本21（テキストp.178～p.183） 第11回：成人保健と健康増進；健康日本21（テキストp.184～p.191） 第12回：成人保健と健康増進；生活習慣病対策，特定健康診査・特定保健指導，がん対策（テキストp.192～p.197） 第13回：食品保健；食品保健に関する法律，食品の表示，食品の種類と機能（テキストp.308～p.313） 第14回：食品保健；食中毒（テキストp.314～p.325） 第15回：まとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度			意欲的な受講態度		
	レポート					
	小テスト			各回の主要なポイントの理解度		
	定期試験		100%	最終的な理解度		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
事前に教科書で予習しておき、授業では理論・概念の理解に集中し、事後の復習により習得した知識を確実なものとする。						
<b>【授業外学修】</b>						
(1)予習として、教科書を読み疑問点を明らかにしておく。 (2)復習として、授業で作成したノートを整理する。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	公衆衛生がみえる 2020-2021		医療情報科学研究所	メディックメディア	3960	978-4-89632-779-3
自由記載						
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 無					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						

授業科目名	地域共生社会論		サブタイトル	授業番号	HW201
担当教員名	中野 ひとみ				
対象学部・学科	総合生活学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
【授業の概要】 本講義では、地域社会を取り巻く環境を理解し、そこに存在する様々な課題を多角的に捉え解決できる力を身につける。 地域福祉の概要を理解し、ボランティアや誰もが暮らしやすい街づくりとはどのようなものかグループワークを通して、共生社会や多様な価値の在り方を学ぶ。					
【到達目標】 (1)地域共生社会とはどのようなものか理解できる。 (2)ボランティアの意義について説明できる。 (3)他者と意見を共有し、グループワークに取り組み発表することができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <態度>の修得に貢献する。					
【授業計画】 第1回：地域福祉の概念・地域福祉の構成要素 第2回：地域福祉の歴史的展開 第3回：地域福祉の充実（コミュニティ・ソーシャルワーク・社会福祉協議会・地域福祉計画） 第4回：ボランティアの定義 第5回：災害と地域社会（過去の災害からの学び） 第6回：災害救助法・福祉避難所 第7回：災害シミュレーション(1)グループワーク 第8回：災害シミュレーション(2)グループワーク 第9回：災害シミュレーション(3)発表 第10回：地域共生社会を目指す社会的背景・理念・ソーシャルインクルージョン(1) 第11回：地域共生社会を目指す社会的背景・理念・ソーシャルインクルージョン(2) 第12回：地域共生社会実現に向けた取り組みを考える(まち・地域づくり)(1)グループワーク 第13回：地域共生社会実現に向けた取り組みを考える(まち・地域づくり)(2)グループワーク 第14回：地域共生社会実現に向けた取り組みを考える(3)発表 第15回：地域包括ケア・まとめ					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加、予・復習によって評価する。		
	レポート	10%	課題やレポートにコメントを記入して返却する。		
	小テスト	10%	各回の主要ポイントの理解を評価する。		
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。		
	その他				
	自由記載	受講態度、課題提出、定期試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。			
【受講の心得】 本講義は講義形式とグループ討議で進めていきます。 テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。 ・予習と授業中の積極的な発言を求めます。 ・地域や災害など身近な福祉の問題に関するニュースなどにも関心を持つように心がけてください。					
【授業外学修】 1．予習として、教科書のうち、講義内容に関わる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2．復習として、課題のレポートを書く。 3．発展学習として、講義で紹介された参考文献を読む。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本講義では、時間外学修時間として、予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	最新介護福祉士養成講座 2 社会の理解	坂本毅啓他	中央法規出版	2,200円（税別）	978 4 8058 576-5
	自由記載				
参考書	自由記載				
	【その他】	その都度参考資料を配布します。ファイリングしてください。			
	【担当教員の実務経験の有無】	有			
【担当教員の实務経験】 病院（救命救急、急性期病棟、脳神経外科、手術室ほか、看護師）市役所（母子保健課、看護師）高等学校教諭（看護）高齢者入所施設（看護師・介護支援専門員）					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					
【実務経験をいかした教育内容】 医療現場や福祉施設での経験を活かして、現場で実践できる介護福祉士の医療的知識や技術を指導する。					

授業科目名	社会福祉論		サブタイトル	授業番号	HW201
担当教員名	松井 圭三				
対象学部・学科	総合生活学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
【授業の概要】					
本講では、福祉現場や地域社会で課題となっている福祉トピックをとりあげながら社会福祉の本質と現状及びこれからの展望について考察していく。具体的には、「社会福祉の概念」、「社会福祉の沿革」、「年金」、「医療」、「介護」、「子育て」、「障害者福祉」、「高齢者福祉」の基礎を学ぶ。					
【到達目標】					
社会福祉の基礎知識を知り、説明できるようになることを目的とする。なお、本科目はディプロマポリシー - に掲げた学士力うち、＜知識・理解＞に修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：現代社会と社会福祉 第2回：社会福祉とは 第3回：社会福祉の歴史（イギリス）I 第4回：社会福祉の歴史（イギリス）II 第5回：わが国の社会福祉の歴史I 第6回：わが国の社会福祉の歴史II 第7回：公的扶助 第8回：児童福祉I 第9回：児童福祉II 第10回：障害者福祉I 第11回：障害者福祉II 第12回：高齢者福祉I 第13回：高齢者福祉II 第14回：社会福祉のこれから 第15回：全体のまとめ					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加、予習、復習によって評価する。		
	レポート	10%	課題やレポートにコメントを記入して返却する。		
	小テスト	10%	各回の主要ポイントの理解を評価する。		
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。		
	その他				
	自由記載				
【受講の心得】					
本講座は講義形式とグループ討議で授業を展開します。 ・予習と授業の積極的参加を期待します。 ・他教科と連動して考える力、専門的知識が求められます。 ・自ら考える姿勢で授業に参加してください。					
【授業外学修】					
・予習として、教科書のうち、授業内容に関わる章節を読み、疑問点を明らかにする。 ・復習として、課題のレポートを書く ・発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本授業では、時間外学修時間として、予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となる。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	社会福祉記事ワークブック	松井圭三ほか	大学教育出版	2000円	978-4-86429-365-5
	21世紀の社会福祉政策論文集	松井圭三	ふくろう出版	2300	978-4-86186-381-3
	自由記載				
参考書	自由記載	随時紹介します。			
	【担当教員の実務経験の有無】				
	有				
	【担当教員の实務経験】 観音寺市シルバー人材センター、観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司				
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】					
無					
【実務経験をいかした教育内容】					
実務では高齢者、障害者の支援をしてきたので、高齢者福祉、障害者福祉分野で自分の経験を活かしたい。					

授業科目名	地域福祉論		サブタイトル		授業番号	HW202
担当教員名	松井 圭三					
対象学部・学科	総合生活学科		単位数	2単位		
開講年次	2年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>						
地域福祉の理念，地域福祉主体の対象，地域福祉の主体と対象，地域福祉の担い手の本質を理解する。 また，地域住民に対する社会資源，地域福祉の現状と課題について学ぶ。						
<b>【到達目標】</b>						
地域福祉計画の概要，地域福祉の現状と課題の知識，技術を知り，説明できるようになることを目的とする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，<知識・理解><思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：現代における地域の特徴 第2回：地域福祉の課題 第3回：地域福祉の基本理念と概念 第4回：地域福祉の理論 第5回：地域福祉主体と対象 第6回：地域福祉の担い手（1）社会福祉協議会 第7回：地域福祉の担い手（2）民生・児童委員 第8回：地域福祉の担い手（3）民間非営利組織 第9回：地域福祉の担い手（4）社会福祉施設 第10回：地域福祉の担い手（5）地方自治体 第11回：地域福祉の動向 第12回：地域福祉計画とは 第13回：地域福祉計画の作成の意義 第14回：地域福祉計画の方法 第15回：地域福祉計画の財源						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	意欲的な受講態度，発表，グル-ブワ-クでの参加，予習，復習によって評価する。		
	レポート		10%	課題やレポートについて評価する。		
	小テスト		10%	各回の主要ポイントの理解を評価する。		
	定期試験		50%	最終的な理解度を評価する。		
	自由記載			受講態度，課題提出，定期試験により総合的に評価する。		
<b>【受講の心得】</b>						
本講義は講義形式とグル-ブワ-クで授業をを展開します。 ・予習と授業中の積極的発言を求めます。 ・自分で考えることをベ-スに授業に参加してください。						
<b>【授業外学修】</b>						
・予習として，授業に関係した教科書を精読し，内容を理解する。 ・復習として，授業のレポートを書く。 ・授業で紹介された参考文献を精読する。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本授業では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となる。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	現代地域福祉		高内正子監修	教育情報出版	2381円	978-4-905493-06-8
	自由記載					
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	社会福祉概論		小田兼三他	勁草書房	2800円+税	978-4-326-70095-0
	自由記載		随時紹介します。			
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
観音寺市シルバー人材センター職員，観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外の指導に関わる実務経験者】</b>						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
高齢者保健福祉分野において実践経験を踏まえた授業を実践している。						

授業科目名	食と健康		サブタイトル		授業番号	HF203
担当教員名	小築 康弘					
対象学部・学科	総合生活学科		単位数	2単位		
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>						
健康を保つのに必要な要素はいくつかあるが、その大事な一つは「食」である。この教科では、われわれヒトを含む動物が生きていくために必ず必要とする、食品に含まれる物質である「栄養素」を学ぶことにより、「食」と健康の関わりについて理解する。あわせて、栄養素以外の物質（非栄養素）にも健康に貢献する効果（食品機能）があるため、そのような物質についても学ぶ。 なお、本教科はフードコーディネーター3級資格取得のために必要な科目である。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・糖質（炭水化物）・脂質・たんぱく質・ビタミン・ミネラルについての基礎的な知識を身につけている</li> <li>・食物繊維などの非栄養素と健康との関わりについて基礎的な知識を身につけている</li> <li>・食の安全に関わる事項のうち、食品の表示、食品添加物、食物アレルギーに関する基礎的な知識を身につけている</li> </ul> なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：栄養とは 第2回：タンパク質(1) 第3回：タンパク質(2) 第4回：脂質(1) 第5回：脂質(2) 第6回：炭水化物(1) 第7回：炭水化物(2) 第8回：ミネラル 第9回：ビタミン 第10回：食品表示制度(1) 第11回：食品表示制度(2) 第12回：食品表示制度(3) 第13回：食品添加物 第14回：食物アレルギー(1) 第15回：食物アレルギー(2)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度					
	レポート		14%	授業開始前までに、予習範囲から質問事項の提出ができていないか、併せて質問数およびそれぞれの質問内容を評価する。		
	小テスト		30%	授業毎の復習テストで知識の定着度・理解度を評価する。		
	定期試験		56%	全講義終了後の知識の定着度・理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
わからないことが積み重なると後で手がつけられない状態になることが多いので、すぐに調べておくくせをつけること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1．授業内で予習範囲の小テストがあるため、その準備をすること 2．予習範囲の質問事項に関するレポートを準備し、提出すること 3．授業内で前回授業内容の小テストがあるため、復習をすること 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	わかりやすい栄養学 改定6版		吉田 勉 編	三共出版	2,530円（税込）	978-4-7827-0792-0
自由記載						
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	無					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	食品学		サブタイトル		授業番号	HF202
担当教員名	小築 康弘					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
<p>ヒトが食用にする品物の総称を食品というが、実際にどのようなものがあり、どのようなものを含み、どのような性質があるのだろうか。そこで、本教科では食材に関する知識、食材に含まれる食品成分についての知識を得ることを目的とする。</p> <p>なお、本教科はフードコーディネーター3級資格取得のために必要な科目である。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・食材についての基礎的な知識を有している</li> <li>・食品成分についての基礎的な知識を有している</li> </ul> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt;の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：食品とは / 食品成分：水分  第2回：食品成分：タンパク質(1) / 食材：肉(1)  第3回：食品成分：タンパク質(2) / 食材：肉(2)  第4回：食品成分：タンパク質(3) / 食材：肉(3)  第5回：食品成分：炭水化物(1) / 食材：肉(4)  第6回：食品成分：炭水化物(2) / 食材：魚(1)  第7回：食品成分：炭水化物(3) / 食材：魚(2)  第8回：食品成分：脂質(1) / 食材：魚(3)  第9回：食品成分：脂質(2) / 食材：野菜・きのこ・海藻(1)  第10回：食品成分：脂質(3) / 食材：野菜・きのこ・海藻(2)  第11回：食品成分：ビタミン(1) / 食材：野菜・きのこ・海藻(3)  第12回：食品成分：ビタミン(2)、ミネラル(1) / 食材：乳・乳製品・卵  第13回：食品成分：ミネラル(2) / 食材：穀類、酒・ドリンク類  第14回：食品成分間反応(1) / 調味料・香辛料  第15回：食品成分間反応(2) / 加工食品</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢 / 態度					
	レポート		14%	授業開始前までに、予習範囲から質問事項の提出ができていないかを評価する。		
	小テスト		30%	授業毎の復習テストで知識の定着度・理解度を評価する。		
	定期試験		56%	全講義終了後の知識の定着度・理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
わからないことが積み重なると後で手がつけられない状態になることが多い。すぐに調べておくくせをつけること。						
<b>【授業外学修】</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業内で予習範囲の小テストがあるため、その準備をすること</li> <li>2. 予習範囲の質問事項に関するレポートを準備し、提出すること</li> <li>3. 授業内で前回授業内容の小テストがあるため、復習をすること</li> </ol> <p>以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。</p>						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	栄養科学シリーズNEXT 食品学総論 食べ物と健康 第4版		辻英明・海老原清・渡邊浩幸・竹内弘幸 編	講談社	2,860円(税込)	978-4-06-522467-0
	新・フードコーディネーター教本2021		日本フードコーディネーター協会	柴田書店	3,300円(税込)	978-4-388-15447-0
自由記載						
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	無					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	食空間と調理		サブタイトル		授業番号	HF204
担当教員名	加賀田 江里 石田 有美枝					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
食空間における厨房とその計画，内装デザインに加えテーブルマナーなどについて講義を行い，それらに関する基本的な知識の修得を目的とする。 本科目はフードコーディネーター3級養成科目の一つである。						
<b>【到達目標】</b>						
厨房計画や内装デザイン，テーブルマナーの基礎知識について学び，理解することができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち，〈知識・理解〉の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：厨房の基礎知識・概説 (担当 加賀田 江里)						
第2回：厨房計画とメニュー1 (担当 加賀田 江里)						
第3回：厨房計画とメニュー2 (担当 加賀田 江里)						
第4回：キッチンスタイルの基本 (担当 加賀田 江里)						
第5回：厨房計画の進め方 (担当 加賀田 江里)						
第6回：食空間のあり方 (担当 加賀田 江里)						
第7回：食空間と内装デザイン計画の基礎1 (担当 石田 有美枝)						
第8回：食空間と内装デザイン計画の基礎2 (担当 石田 有美枝)						
第9回：食空間と内装デザイン計画の基礎3 (担当 石田 有美枝)						
第10回：食空間と内装デザイン計画の基礎4 (担当 石田 有美枝)						
第11回：食空間と内装デザイン計画の基礎5 (担当 石田 有美枝)						
第12回：テーブルマナーとサービス1 (担当 加賀田 江里)						
第13回：テーブルマナーとサービス2 (担当 加賀田 江里)						
第14回：テーブルマナーとサービス3 (担当 加賀田 江里)						
第15回：テーブルマナーとサービス4 (担当 加賀田 江里)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	意欲的な受講態度によって評価する。		
	レポート					
	小テスト		30%	主要なポイントの理解を評価する。		
	定期試験		40%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【授業外学修】</b>						
毎回授業の初めに，前回の授業の内容に関する小テストを行うので1週間に4時間以上の復習をしておくこと。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	新フードコーディネーター教本2021		特定非営利活動法人日本フード コーディネーター協会		3300円	978-438815441 8
自由記載						
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
フラワーコーディネート及びテーブルコーディネートの実践及び指導(石田 有美枝)						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
フラワーコーディネートおよびテーブルコーディネートの実務経験を活かして指導を行う。						

授業科目名	基礎調理演習		サブタイトル		授業番号	HF101
担当教員名	加賀田 江里					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
食材の切り方や調理法・衛生管理など、調理の基礎となる事柄を学ぶ。基礎を学んだ上で簡単な献立を自ら計画・実践することで調理をする上での初歩的な調理操作を身に付けることを目的とする。						
<b>【到達目標】</b>						
調理の基礎となる食材の下ごしらえの仕方・切り方・加熱などの初歩的な調理方法と知識を身に付けることができる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：調理室の使い方，調理器具の使い方，基本操作について						
第2回：調理の基本操作 1						
第3回：調理の基本操作 2						
第4回：調理の基本操作 3						
第5回：調理の基本操作 4						
第6回：調理の基本操作 5						
第7回：調理の基本操作 6						
第8回：調理の基本操作 7						
第9回：調理の基本操作 8						
第10回：調理の基本操作 9						
第11回：調理の基本操作 1 0						
第12回：調理の計画 1						
第13回：調理の実践 1						
第14回：調理の計画 2						
第15回：調理の実践 2						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		45%	意欲的な受講態度によって評価する。		
	レポート		25%	自ら考えたメニューのレシピを作成しまとめ、提出すること。		
	小テスト		30%	主要なポイントの理解を評価する。		
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
髪を結ぶ，爪を切る，マニキュアは落とす，ピアス，ネックレスなどのアクセサリー類を外す等，実習にふさわしい身支度を整え，安全面・衛生面に十分配慮して実習を行うこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
1．授業で出てきたポイントを復習すること						
2．日頃から食に関する情報に興味関心を持ち，自ら情報収集を行うこと						
以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						



授業科目名	応用調理演習		サブタイトル		授業番号	HF303
担当教員名	加賀田 江里					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	1単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
2年前期まで行ってきた通常の調理方法に加え、電子レンジ、炊飯器などの調理家電を用いて調理実習を行う。						
<b>【到達目標】</b>						
多くの人は食材を調理・加工し、生きる上で必要なエネルギーおよび栄養素を得る。しかし、社会人として働き、生活していく中で調理のために使える時間は限られていくことが予想される。そこで通常の調理に加えて、様々な調理家電を用いることで調理の時間短縮につなげ、限られた時間の中で効率よく調理ができる能力を身に付ける。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：調理の基本 第2回：時短調理 1 第3回：時短調理 2 第4回：時短調理 3 第5回：時短調理 4 第6回：時短調理 5 第7回：時短調理 6 第8回：時短調理 7 第9回：時短調理 8 第10回：時短調理 9 第11回：時短調理 10 第12回：献立計画 1 第13回：献立の実践 1 第14回：献立計画 2 第15回：献立の実践 2						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		45%	意欲的な受講態度によって評価する。		
	レポート		55%	授業の中で学んだ知識を活かして、メニューレシピを作成し、まとめて提出する。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
髪を結ぶ、爪を切る、マニキュアは落とす、ピアス、ネックレスなどのアクセサリー類を外す等、実習にふさわしい身支度を整え、安全面・衛生面に十分配慮して実習を行うこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 授業で出てきたポイントを復習すること 2. 日頃から食に関する情報に興味関心を持ち、自ら情報収集を行うこと 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	調理実習I		サブタイトル		授業番号	HF205
担当教員名	加賀田 江里					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	実習	
<b>【授業の概要】</b>						
調理の基本となる材料や料理に応じた切り方や調理法、衛生管理など、調理の基礎となる事柄を学ぶ。15回の実習を通して、繰り返し学習することで基本的な調理操作を身に付けることを目的とする。						
<b>【到達目標】</b>						
調理の基礎となる食材の下ごしらえの仕方・切り方・加熱などの初歩的な調理方法と知識を身に付けることができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解><技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回 調理の基本1、実習に関するガイダンス（使用上の注意、身支度等）調理器具の説明、計量 第2回 調理の基本2 第3回 調理の基本3 第4回 調理の基本4 第5・6回 焼き物の調理 第7・8回 炒め物の調理 第9・10回 揚げ物の調理 第11回 蒸し物の調理 第12・13回 複数の調理法を組み合わせた料理 第14・15回 小麦粉を使ったお菓子						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		45%	意欲的な受講態度によって評価する。		
	レポート					
	小テスト		30%	調理に関する基礎的な知識を評価する。		
	定期試験		25%	実習に出てきた料理の中で基本となるものの実技試験を行う。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
髪を結ぶ、爪を切る、マニキュアは落とす、ピアス、ネックレスなどのアクセサリー類を外す等、実習にふさわしい身支度を整え、安全面・衛生面に十分配慮して実習を行うこと。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	調理学実習		大羽和子 他共著	ナカニシヤ出版	2,916円	978-4888481397
自由記載						
参考書	自由記載	『調理と理論』、山崎清子 他共著、同文書院 『新ビジュアル食品成分表 増補版』、新しい食生活を考える会 編、大修館書店				
	<b>【その他】</b> 材料入手の都合により、実習内容の変更や実習時期の変更をすることがあります。					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 無					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						

授業科目名	調理実習II		サブタイトル		授業番号	HF206
担当教員名	加賀田 江里					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	1単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	実習	
<b>【授業の概要】</b>						
調理器具や食材料の知識を身に付けると共に調理の基礎的な技術を修得することを目的として調理実習を行う。 授業効果を高めるために、1年後期開講の食生活実習を履修しておくことが望ましい。						
<b>【到達目標】</b>						
健康的な食生活を送るための調理技術を修得し、レシピを見て理解し、自分自身で作ることができるようになることを目標とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、<知識・理解><技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：調理の基本 第2回：基礎調理：和食 1 第3回：基礎調理：和食 2 第4回：基礎調理：洋食 1 第5回：基礎調理：和食 3 第6回：基礎調理：和食 4 第7回：基礎調理：洋食 2 第8回：基礎調理：中華 1 第9回：基礎調理：和食 5 第10回：基礎調理：中華 2 第11回：基礎調理：洋食 3 第12回：基礎調理：洋食 4 第13回：基礎調理：和食 6 第14回：基礎調理：和食 7 第15回：基礎調理：製菓						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		45%	意欲的な受講態度によって評価する。		
	レポート					
	小テスト		30%	主要なポイントの理解を評価する。		
	定期試験					
	その他		25%	実技テスト：実習で実施した内容の中で実技試験を行う。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
髪を結ぶ、爪を切る、マニキュアは落とす、ピアス、ネックレスなどのアクセサリー類を外す等、実習にふさわしい身支度を整え、安全面・衛生面に十分配慮して実習を行うこと。						
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価
	フードコーディネーター教本2019:3級資格認定試験対応テキスト			日本フードコーディネーター協会	柴田書店	3300
ISBN		978-4388154418				
自由記載						
参考書	自由記載		『新ビジュアル食品成分表 増補版』, 新しい食生活を考える会 編 大修館書店			
	<b>【その他】</b> 材料入手の都合により、実習内容の変更や実習時期の変更あり。					
	<b>【備考】</b> 令和3年改訂					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	調理実習Ⅲ		サブタイトル		授業番号	HF304
担当教員名	加賀田 江里 小川 美香 山田 伸介 岡久					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	1単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	実習	
<b>【授業の概要】</b>						
特別講師による和・洋・中の調理実習を通して、それぞれの食文化やテーブルマナーについてさらに発展的な内容を学ぶ。 本科目はフードコーディネーター3級資格取得のために必要な科目の一つである。 なお、授業効果を高めるために、1年後期開講の調理実習Iおよび2年前期開講の調理実習IIを履修しておくことが望ましい。						
<b>【到達目標】</b>						
料理をより美しく、そして美味しく作るための発展的な技法を身に付けている。 和食、中華、西洋、世界の料理の食の文化について理解を深めている。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解><技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：実習の概要説明，調理の基礎について (担当 加賀田 江里)						
第2回：和食の調理 (担当 小川 美香)						
第3回：和食の調理と食の文化 (担当 小川 美香)						
第4回：和食の調理とテーブルコーディネート (担当 小川 美香)						
第5回：和食とテーブルマナー (担当 小川 美香)						
第6回：中華料理の調理 (担当 山田 伸介)						
第7回：中華料理の基本と食の文化 (担当 山田 伸介)						
第8回：中華料理の実習とテーブルコーディネート (担当 山田 伸介)						
第9回：中華料理の実習とテーブルマナー (担当 山田 伸介)						
第10回：西洋料理の基本と食の文化 (担当 岡久)						
第11回：西洋料理の実習とテーブルコーディネート (担当 岡久)						
第12回：西洋料理の実習とテーブルマナー (担当 岡久)						
第13回：イタリア料理の実習と各国料理の歴史 (担当 岡久)						
第14回：世界の料理 (担当 加賀田 江里)						
第15回：製菓 (担当 加賀田 江里)						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	45%	意欲的な受講態度によって評価する。			
	レポート	55%	調理のポイントについてまとめ、なぜそれがポイントとなるのか具体的に述べていること。レポートについてはコメントを記入して返却する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
髪を結ぶ、爪を切る、マニキュアは落とす、ピアス、ネックレスなどのアクセサリー類を外す等、実習にふさわしい身支度を整え、安全面・衛生面に十分配慮して実習を行うこと。						
使用テキスト	自由記載	プリント(各講師作成)				
参考書	自由記載	フードコーディネーター教本2019				
<b>【その他】</b>						
食材の入荷状況等によって実習内容が変更になる場合あり。						
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
和食料理店(小川美香)やホテルの厨房(岡久)での実務経験						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
和食料理店(小川美香)やホテルの厨房(岡久)などの調理経験を活かして指導を行う。						

授業科目名	フードコーディネート実習		サブタイトル		授業番号	HF301
担当教員名	小築 康弘 石田 有美枝					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	1単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	実習	
<b>【授業の概要】</b>						
<p>本授業では、今日的なライフスタイルに合わせた、人々の食を豊かにするための食のコーディネート技法について学修する。具体的には、テーブルコーディネートを中心に据え、テーブルマナー及び食品素材について、実習により体得することを目的とする。</p> <p>本科目は、フードコーディネーター資格3級のための必要な科目の1つである。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーブルコーディネートの技法を知り、実践できる</li> <li>・テーブルマナーの基礎を身につけるとともに、和食のマナーを実践できる</li> <li>・食材に関するいくつかの知識を実習を持って身につけている</li> </ul> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt; &lt;思考・問題解決能力&gt; &lt;技能&gt; &lt;態度&gt;の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：授業のねらい・到達目標の説明/食品と衛生～手洗い～ (担当 小築康弘)</p> <p>第2回：食材の実体験(1)：品種と味・食感 (担当 小築康弘)</p> <p>第3回：食材の実体験(2)：品種と甘さ (担当 小築康弘)</p> <p>第4回：食材の実体験(3)：食材の科学的变化～酵素的褐変反応～ (担当 小築康弘)</p> <p>第5回：洋食・和食のマナーの基礎 (担当 小築康弘)</p> <p>第6回：和食のマナーの実践 (担当 小築康弘)</p> <p>第7回：食空間の構成(1) (担当 石田有美枝)</p> <p>第8回：食空間の構成(2) (担当 石田有美枝)</p> <p>第9回：食空間の構成(3) (担当 石田有美枝)</p> <p>第10回：テーブルコーディネート(1) (担当 石田有美枝)</p> <p>第11回：テーブルコーディネート(2) (担当 石田有美枝)</p> <p>第12回：テーブルコーディネート(3) (担当 石田有美枝)</p> <p>第13回：テーブルコーディネート(4) (担当 石田有美枝)</p> <p>第14回：テーブルコーディネート(5) (担当 石田有美枝)</p> <p>第15回：まとめ (担当 小築康弘)</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		40%	実習中の取り組む姿勢を評価する。		
	レポート		60%	各回の内容についての理解度を判定する。その際、それぞれの内容に対する自身の考えを述べていること。提出物はコメントを記入して返却する。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
自身の行動を持って体得することに主眼を置く授業であるため、積極的な行動を求める。						
<b>【授業外学修】</b>						
<p>1. 次回の内容について予習をし、スムーズに実習に移れるようにしておくこと</p> <p>2. レポートの作成をすること</p>						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	新・フードコーディネーター教本2021		日本フードコーディネーター協会	柴田書店	3300円(税込)	978-4-388-15445-6
自由記載						
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
フラワーコーディネート及びテーブルコーディネートの実践及び指導(フリーランス:石田有美枝)						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
食空間の構成の基礎知識修得とテーブルコーディネートの実践を指導する。						

授業科目名	食品加工学・実習		サブタイトル		授業番号	HF302
担当教員名	小築 康弘					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	実習	
<b>【授業の概要】</b> われわれは日常の食生活において様々な加工食品を利用している。本授業では、身近で代表的な加工食品の加工原理を学ぶとともに、それらを試作し、基礎的加工技術を修得する。実習を通じて、加工食品の安全性や利便性についての理解を深め、適正な選択や利用について考える。 なお、授業効果を高めるために、この授業は講義と実習を併用することにより行う。						
<b>【到達目標】</b> ・食品加工の原理のいくつかを理解し、それら原理を利用した加工食品を製造できる ・基礎的加工技術を身につけている なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b> 第1回：食品加工学とは / 食品表示について 第2回：シラップ漬の製造 第3回：ジャムの製造 第4回：果実類の加工品 第5回：手洗いと衛生 第6回：食品と衛生 第7回：酸乳飲料・ヨーグルトの製造 第8回：卵・乳加工食品 第9回：マヨネーズの製造 第10回：畜産加工品 第11回：うどんの製造 第12回：穀類・イモ類の加工食品 第13回：こんにゃくの製造 第14回：米粉パンの製造 第15回：まとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢 / 態度		45%	授業への取り組み姿勢を評価する。		
	レポート		55%	各回の内容についての理解度を判定する。また、実習については自身が作成した製品の商品的価値についても述べていること。提出物はコメントを記入して返却する。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
<b>【受講の心得】</b> 自身の行動を持って体得することに主眼を置く授業であるため、積極的な行動を求める。また、衛生面・安全面に十分配慮し、計画的に行うこと。						
<b>【授業外学修】</b> 1. 次回の内容について予習をし、スムーズに講義・実習に移れるようにしておくこと 2. レポートの作成をすること 以上の内容を、週当たり2時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	レクチャー 食品加工学		黒川守浩 編著	建帛社	2,160円(税込)	978-4-7679-0240-1
自由記載						
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 無					
	<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無					

# 中国短期大学 令和3年度(2021年度) シラバス

<b>授業科目名</b>	<b>フードマーケティング論</b>	<b>サブタイトル</b>		<b>授業番号</b>	HF207
<b>担当教員名</b>	大宮 めぐみ				
<b>対象学部・学科</b>	総合生活学科	<b>単位数</b>	2単位		
<b>開講年次</b>	2年	<b>開講期</b>	後期		
<b>必修・選択</b>	選択	<b>授業形態</b>	講義		
<b>【授業の概要】</b>					
本講義では、前半はマーケティング理論の基礎と経営の基礎知識について理解する。後半では修得したマーケティング理論を活用し、飲食店の出店計画からメニュープランニングといった出店業務について学修する。					
<b>【到達目標】</b>					
(1) マーケティング理論に関する基本的な知識を修得すること。 (2) 外食産業におけるマーケティング戦略の知識を修得すること。 (3) 修得した知識を用いて、外食産業（飲食店）における出店業務を構築する応用力を修得すること。 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞の取得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：フードマーケティング論の対象領域と課題-何を学ぶのか- 第2回： 現代の食事形態と食市場 第3回：マーケティングの基礎知識（1）製品戦略 第4回：マーケティングの基礎知識（2）価格戦略 第5回：マーケティングの基礎知識（3）チャネル戦略 第6回：マーケティングの基礎知識（4）プロモーション戦略 第7回：経営の基礎知識 第8回：財務諸表 第9回：前半のまとめ 第10回：外食産業の概要と特徴 第11回：業態開発 第12回：事業計画 第13回：メニュープランニング 第14回：食の企画・構成・演出の流れ 第15回：全体のまとめ					
<b>評価の方法</b>	<b>種別</b>	<b>割合</b>	<b>評価規準・その他備考</b>		
	授業への取り組みの姿勢/態度	10%	意欲的な受講態度によって評価する。		
	レポート	30%	レポート内容で評価する。		
	小テスト	30%	中間的な理解度を評価する。		
	定期試験	30%	到達目標に達しているかを最終的に評価する。		
	その他	0%			
	<b>自由記載</b>				
<b>【受講の心得】</b>					
本講義ではマーケティングの基礎を理解するとともに、食に関わるマーケティングがどのように行われているかを学ぶことで、食品産業等で行われるマーケティング戦略を理解できることを到達目標とする。そのためには、身近に存在する「食」に関わるニュースや新聞記事、さまざまな情報に日頃から関心を持ち、自ら調べるといった姿勢で講義に臨むこと。					
<b>【授業外学修】</b>					
(1) 予習として、テキストを読み、疑問点を明らかにしておくこと。 (2) 復習として、講義内容および配布資料の整理とまとめを行うこと。とくに講義内容に関してはノートを作成すること。 (3) 発展学修として、食に関連したマーケティングやフードビジネスに関する新聞・ニュース等を積極的に収集し読んでおくこと。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。					
<b>使用テキスト</b>	<b>書名</b>	<b>著者・編集者</b>	<b>出版社</b>	<b>定価</b>	<b>ISBN</b>
	新・フードコーディネーター教本2020 3級資格認定試験対応テキスト	日本フードコーディネーター協会	株式会社光邦	3,000円+税	
	<b>自由記載</b>	適時資料を配付する。			
<b>参考書</b>	<b>自由記載</b>				
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>				
	無				
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					

授業科目名	ヒューマンケアA		サブタイトル	授業番号	HW204	
担当教員名	韓 在都 中野 ひとみ 名定 慎也 松井 圭三					
対象学部・学科	総合生活学科	単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b>						
介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策を理解する。 他職種との連携のもと、介護を展開していかねばならないことを理解する。						
<b>【到達目標】</b>						
(1)介護の専門性と職業倫理及び多様なサービスについて理解し、説明することができる。 (2)他職種との連携の重要性について学び、介護職の役割を説明することができる。 (3)虐待の定義、身体拘束及びサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイントを列挙できる。 (4)介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点について、ポイントを列挙できる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：多様なサービスの理解（介護と介護保険制度の意義）（担当 松井 圭三） 第2回：多様なサービスの理解（その他のサービス）（担当 松井 圭三） 第3回：介護職の仕事内容や働く現場の理解（介護職のキャリアパス）（担当 韓 在都） 第4回：介護職の仕事内容や働く現場の理解（各施設の特徴の理解）（担当 韓 在都） 第5回：人権と尊厳を支える介護（個人の権利を守る制度、介護分野のICF）（担当 韓 在都） 第6回：人権と尊厳を支える介護（生活の質と人間尊重、ノーマライゼーション）（担当 韓 在都） 第7回：人権と尊厳を支える介護（虐待予防・身体拘束禁止）（担当 韓 在都） 第8回：自立に向けた介護（介護職として求められる自立と自律）（担当 韓 在都） 第9回：自立に向けた介護（自立支援のための介護方法）（担当 名定 慎也） 第10回：自立に向けた介護（介護予防）（担当 名定 慎也） 第11回：介護職の役割、専門性と多職種との連携（介護の専門性と多職種の理解）（担当 名定 慎也） 第12回：介護職の職業倫理（法令遵守、倫理綱領）（担当 名定 慎也） 第13回：介護における安全の確保の重要性と、リスクマネジメント（緊急時の対応、応急処置、感染症対策）（担当 中野 ひとみ） 第14回：介護職の安全（心身の健康管理、ストレスマネジメント）（担当 中野 ひとみ） 第15回：まとめ（特に職業倫理・介護の専門性への理解）（担当 韓 在都）						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		100%	第1回～15回の講義内容の理解度を、ペーパー試験で評価する。		
	その他					
	自由記載	なお、本科目は「介護職員初任者研修」資格取得に関わる科目のため全出席を原則とする。 本資格取得に関連する5科目について、単位取得後、1時間程度の見極め筆記試験に合格しなければならない。				
<b>【受講の心得】</b>						
各回学んだ介護職員の職業倫理とチームワーク（他職種との連携）を常に意識し、授業に望むことを求める。 また、資格取得を目指す気持ちで授業を受けることを求める。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として教科書をよく読み、疑問点を明らかにする。 2 発展学修として授業で紹介した参考文献を次回授業までに読む。						
短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本講義では、時間外学修時間として予習・復習で60時間とする。週4時間の授業外学修が必要となっている。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	介護職員初任者研修テキスト 第1分冊 理念と基本		公益財団法人 介護労働安定センター	公益財団法人 介護労働安定センター	1100円（税込 み）	ISBN：978-4-9 07035-45-7
	自由記載					
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
<b>【担当教員の実務経験】</b>						
介護福祉士・介護職員・訪問介護員（韓在都）、シルバ-人材センタ-職員・身体障害者福祉司（松井圭三）、看護師・介護支援専門員（中野ひとみ）、介護福祉士・介護支援専門員・社会福祉士（名定慎也）						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
高齢者施設、障害者施設や医療現場等における経験を活かし、実践的能力が身につくように指導する。						



授業科目名	ヒューマンケアB		サブタイトル		授業番号	HW205
担当教員名	韓在都 中野ひとみ 名定慎也 松井圭三					
対象学部・学科	総合生活学科		単位数	2単位		
開講年次	2年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>						
介護保険制度や、障がい者に関する制度を担う一員として、最低知っておくべき制度の内容、目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について学ぶ。また介護が必要な人たちの生活（家事、住環境、終末期医療）についても理解する。						
<b>【到達目標】</b>						
(1)介護保険制度や障害者総合支援制度の理念、介護保険制度の財源構成と保険料負担の大枠について列挙することができる。						
(2)家事援助の基礎知識と生活支援技術を学び、家事援助のポイントを説明することができる。						
(3)終末期の基礎知識と利用者の心の援助について説明することができる。						
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げる学士力のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：介護保険制度（創設の背景・しくみなどの基礎的理解）（担当 松井 圭三）						
第2回：介護保険制度（財源・組織・役割、医療保険との関わり）（担当 松井 圭三）						
第3回：医療との連携とリハビリテーション（高齢者の服薬や医療行為）（担当 松井 圭三）						
第4回：医療との連携とリハビリテーション（訪問・通所・地域リハビリテーション）（担当 松井 圭三）						
第5回：障がい者に関する制度及びその他の制度（制度創設の理念・背景と目的）（担当 韓在都）						
第6回：障がい者に関する制度及びその他の制度（しくみなどの基礎的理解と個人の権利を守る概要）（担当 韓在都）						
第7回：生活と家事（家事援助の基礎知識と生活支援技術）（担当 韓在都）						
第8回：生活と家事（家事援助の技法）（担当 韓在都）						
第9回：快適な居住環境整備と介護（介護保険による住宅改修）（担当 名定 慎也）						
第10回：快適な居住環境整備と介護（福祉用具の知識）（担当 名定 慎也）						
第11回：死にゆく人に関したことからだのしくみと終末期医療（担当 中野ひとみ）						
第12回：死にゆく人に関したことからだのしくみと終末期医療（終末期の基礎知識・こころの理解）（担当 中野ひとみ）						
第13回：ふり返り（第4分冊における振りかえりの課題）（担当 韓在都）						
第14回：ふり返り（OJT・Off-JTの実際）（担当 韓在都）						
第15回：就業への備えと研修修了後における継続的な研修（キャリアにつながるOJT）（担当 韓在都）						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート		30%	制度や介護が必要な人の気持ち的理解でき、述べていること。提出物は、コメントを記入して返却する。		
	小テスト		40%	知識の定着度・理解度（2回の小テストにより）を評価する。		
	定期試験					
	その他		30%	授業中整理した資料等の提出物を評価する。提出物は、コメントを記入して返却する。		
	自由記載	なお、本科目は「介護職員初任者研修」資格取得に関わる科目で全出席を原則とする。本資格取得に関連する5科目について、単位取得後、1時間程度の見極め筆記試験に合格しなければならない。				
<b>【受講の心得】</b>						
介護が必要な人の生活について理解し、学修したことを生活の中で活かすことを求める。また、資格取得を目指す気持ちで授業を受けることを求める。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として教科書をよく読み、疑問点を明らかにする。						
2 授業で身につけた知識について復習し、介護が必要な人の気持ちについて振り返る。						
短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。本講義では、時間外学修時間として予習・復習で60時間とする。週4時間の授業外学修が必要となっている。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	介護職員初任者研修テキスト 第2分冊 制度の理解		公益財団法人 介護労働安定センター	公益財団法人 介護労働安定センター	1430円（税込 み）	978-4-907035- 46-4
	介護職員初任者研修テキスト 第4分冊 技術と実践		公益財団法人 介護労働安定センター	公益財団法人 介護労働安定センター	2200円（税込 み）	978-4-907035- 48-8
	自由記載					
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
	<b>【担当教員の实務経験】</b> 介護福祉士・介護職員・訪問介護員（韓在都）、シルバ-人材センタ-職員・身体障害者福祉司（松井圭三）、看護師・介護支援専門員（中野ひとみ）、介護福祉士・介護支援専門員・社会福祉士（名定慎也）					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
高齢者施設、障害者施設や医療現場等における経験を活かし、実践的能力が身につくように指導する。						

授業科目名	ヒューマンケアC		サブタイトル		授業番号	HW206
担当教員名	韓 在都 中野 ひとみ					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
高齢者や障がい者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なる。その違いを理解する。 また、加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について理解し、その心理的特徴についても学ぶ。						
<b>【到達目標】</b>						
(1)老化・認知症・障がいについて説明することができる。 (2)共感、受容、傾聴の態度、気づきなど基本的なコミュニケーション上のポイントについて説明することができる。 (3)家族の気持ちについて理解し、介護職として持つべき視点を列挙することができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：介護におけるコミュニケーション（コミュニケーションの意義、目的、役割（担当 韓 在都） 、手段と技法）						
第2回：介護におけるコミュニケーション（利用者・家族への対応の基礎知識）（担当 韓 在都）						
第3回：介護におけるチームのコミュニケーション（記録による情報の共有化）（担当 韓 在都）						
第4回：介護におけるチームのコミュニケーション（報告・連絡・相談）（担当 韓 在都）						
第5回：老化に伴うこととからだの変化と日常（老年期の発達と心身の変化の特徴）（担当 中野 ひとみ）						
第6回：老化に伴うこととからだの変化と日常（心身の機能の変化と日常生活への影響）（担当 中野 ひとみ）						
第7回：高齢者と健康（高齢者の疾病と生活上の留意点-外科系-）（担当 中野 ひとみ）						
第8回：高齢者と健康（高齢者に多い病気と生活上の留意点-内科系-）（担当 中野 ひとみ）						
第9回：認知症を取り巻く状況（認知症ケアの理念）（担当 中野 ひとみ）						
第10回：医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理（認知症の概念と原因疾患・病態、ケアのポイント）（担当 中野 ひとみ）						
第11回：認知症に伴うこととからだの変化と日常生活（生活障害、心理、行動の特徴、利用者への対応）（担当 中野 ひとみ）						
第12回：家族への支援（家族との関わり方）（担当 中野 ひとみ）						
第13回：障がいの基礎的理解（障害の概念とICF）（担当 中野 ひとみ）						
第14回：障がいの医学的側面の基礎的知識（担当 中野 ひとみ）						
第15回：家族の心理的理解、かかわり支援の理解（担当 中野 ひとみ）						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート		40%	身につけた知識を、実生活に生かす意欲について述べられていること。提出物は、コメントを記入して返却する。		
	小テスト		60%	老化・認知症・障がいについての知識の理解度（3回の小テストにより）を評価する。		
	定期試験					
	その他					
	自由記載	なお、本科目は、「介護職員初任者研修」資格取得に関わる科目のため全出席を原則とする。 資格取得に関連する5科目について、単位取得後、1時間程度の見極め筆記試験に合格しなければならない。				
<b>【受講の心得】</b>						
高齢者や認知症、障がいがある人に関心をもち、授業で得た知識を普通の生活の中で生かすことを求める。 また、資格取得を目指す気持ちで授業を受けることを求める。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 授業で身につけた知識・技能について予習・復習し普通の生活に生かせるようにすること。 2 課されたレポートの作成をすること。						
短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本講義では、時間外学修時間として予習・復習で60時間とする。週4時間の授業外学修が必要となっている。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	介護職員初任者研修テキスト 第1分冊 理念と基本		公益財団法人 介護労働安定センター	公益財団法人 介護労働安定センター	1100円（税込 み）	978-4-907035- 45-7
	介護職員初任者研修テキスト 第2分冊 制度の理解		公益財団法人 介護労働安定センター	公益財団法人 介護労働安定センター	1430円（税込 み）	978-4-907035- 46-4
	介護職員初任者研修テキスト 第3分冊 老化・認知症・障害の理解		公益財団法人 介護労働安定センター	公益財団法人 介護労働安定センター	1430円（税込 み）	978-4-907035- 47-1
	介護職員初任者研修テキスト 第4分冊 技術と実践		公益財団法人 介護労働安定センター	公益財団法人 介護労働安定センター	2200円（税込 み）	978-4-907035- 48-8
	自由記載					
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有					
	<b>【担当教員の实務経験】</b> 介護福祉士・介護職員・訪問介護員（韓在都）、看護師・ケアマネジャー（中野ひとみ）					

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

【実務経験をいかした教育内容】

高齢者施設，障害者施設や医療現場等における経験を活かし，実践的能力が身につくように指導する。

授業科目名	ヒューマンケア演習I		サブタイトル		授業番号	HW301
担当教員名	韓 在都 中野 ひとみ					
対象学部・学科	総合生活学科		単位数	1単位		
開講年次	2年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b>						
介護実践に必要なこととからだのしくみの基本的な知識を、介護の流れをイメージしながら修得する。 また、介護を必要とする人にとって、生活の充足を味うためにはどのような介護技術が必要なかを事例をとおして理解する。						
<b>【到達目標】</b>						
(1)介護の目指す基本的なものは何かについて説明でき、介護の専門性について列挙することができる。 (2)介護技術の基本となる人体の構造や機能に関する知識を修得し、安全な介護サービスが提供できるように準備することができる。 (3)介護過程の展開に必要な構成要素を理解し、介護過程の展開について理解できる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回 (1)介護の基本的な考え（担当 韓 在都）						
第2回～7回 (2)介護に関することとからだのしくみの基礎的理解（担当 中野 ひとみ） ・感情と意欲に関する基礎知識 ・自己概念と生きがい ・老化や障がいを受け入れる適応行動と障害要因						
(3)介護に関することとからだのしくみの基礎的理解（担当：中野 ひとみ） ・健康チェックとバイタルサイン ・骨、関節、筋肉に関する基礎知識 ・中枢神経と内部器官に関する基礎知識						
第8回～15回 (4)介護過程の基礎的理解（担当 韓 在都） ・科学的思考 ・介護過程の展開に必要な構成要素						
(5)総合生活支援技術演習（担当 韓 在都） ・事例による展開						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	積極的な発言・筆記・質問を評価する。		
	レポート		40%	こととからだの仕組みについて身に付けた基本的知識・技術・考え方を、実生活に生かす意欲や方法について述べていること。レポートについては、コメントを記入して返却する。		
	小テスト		30%	基本的知識の定着度・理解度（2回の小テストにより）を評価する。		
	定期試験					
	その他					
	自由記載	なお、本科目は「介護職員初任者研修」資格取得に関わる科目のため、全出席を原則とする。 本資格取得に関連する5科目について、単位取得後、1時間程度の見極め筆記試験に合格しなければならない。				
<b>【受講の心得】</b>						
こととからだを健康に保ち、気持ちよく本授業にのぞめるよう、服装や環境整備に留意することを求む。 また、資格取得を目指す気持ちで授業を受けることを求める。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として教科書をよく読み、疑問点を明らかにする。 2 授業で身につけた知識・技術について復習し、介護が必要な人のことを考える。 3 発展学修として授業で学んだことを実生活で生かす。						
短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本講義では、時間外学修時間として予習・復習で15時間とする。週1時間の授業外学修が必要となっている。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	介護職員初任者研修テキスト 第1分冊 理念と基本		公益財団法人 介護労働安定センター	公益財団法人 介護労働安定センター	1100円（税込み）	978-4-907035-45-7
	介護職員初任者研修テキスト 第2分冊 制度の理解		公益財団法人 介護労働安定センター	公益財団法人 介護労働安定センター	1430円（税込み）	978-4-907035-46-4
	介護職員初任者研修テキスト 第3分冊 老化・認知症・障害の理解		公益財団法人 介護労働安定センター	公益財団法人 介護労働安定センター	1430円（税込み）	978-4-907035-47-1
	介護職員初任者研修テキスト 第4分冊 技術と実践		公益財団法人 介護労働安定センター	公益財団法人 介護労働安定センター	2200円（税込み）	978-4-907035-48-8
	自由記載					
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有					

**【担当教員の実務経験】**

介護福祉士・介護職員・訪問介護員（韓在都），看護師・ケアマネジャー（中野ひとみ）

**【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】**

無

**【実務経験をいかした教育内容】**

高齢者施設や医療現場等における経験を活かし、実践的能力が身につくように指導する。

授業科目名	ヒューマンケア演習II		サブタイトル		授業番号	HW302
担当教員名	韓 在 都					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
介護が必要な人たちの尊厳を保持し、自立及び自律を尊重し、持っている力を発揮できるようなことからだのしくみを理解した上で、生活を支える具体的な介護技術を学ぶ。						
<b>【到達目標】</b>						
(1)生活支援技術の基本を習得するための原理を説明することができる。						
(2)生活支援技術の知識と実践を統合し、基本となる生活支援技術について説明することができる。						
(3)多様性のある利用者の生活を支援するためのさまざまな視点・アプローチのポイントを列挙することができる。						
(4)多面的な生活支援を展開するための技能について説明することができる。						
なお本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：整容に関したところからだのしくみと自立に向けた介護（担当）						
第2回：整容に関したところからだのしくみと自立に向けた介護（担当）						
第3回：整容に関したところからだのしくみと自立に向けた介護（担当）						
第4回：整容に関したところからだのしくみと自立に向けた介護（担当）						
第5回：移動・移乗に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護（担当）						
第6回：移動・移乗に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護（担当）						
第7回：移動・移乗に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護（担当）						
第8回：移動・移乗に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護（担当）						
第9回：移動・移乗に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護（担当）						
第10回：移動・移乗に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護（担当）						
第11回：食事に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護（担当）						
第12回：食事に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護（担当）						
第13回：食事に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護（担当）						
第14回：食事に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護（担当）						
第15回：食事に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護（担当）						
第16回：食事に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護（担当）						
第17回：入浴・清潔保持に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護（担当）						
第18回：入浴・清潔保持に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護（担当）						
第19回：入浴・清潔保持に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護（担当）						
第20回：入浴・清潔保持に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護（担当）						
第21回：入浴・清潔保持に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護（担当）						
第22回：入浴・清潔保持に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護（担当）						
第23回：排泄に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護（担当）						
第24回：排泄に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護（担当）						
第25回：排泄に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護（担当）						
第26回：排泄に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護（担当）						
第27回：排泄に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護（担当）						
第28回：排泄に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護（担当）						
第29回：睡眠に関したところからだのしくみと自立に向けた介護（担当）						
第30回：睡眠に関したところからだのしくみと自立に向けた介護（担当）						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度					
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他		100%	各回の授業で行う介護技術の修得度を、実技発表の形で毎回確認し評価する。		
自由記載		なお、本科目は、「介護職員初任者研修」資格取得に関わる科目のため全出席を原則とする。 本資格取得に関連する5科目について、単位取得後、1時間程度の見極め筆記試験に合格しなければならない。				
<b>【受講の心得】</b>						
ところからだを健康に保ち、気持よく本授業に臨めるよう、服装や環境整備に留意することを求める。						
また、資格取得を目指す気持ちで授業を受けることを求める。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として、教科書をよく読み、疑問点を明らかにする。						
2 授業で身につけた知識・技術について復習し、介護が必要な人のことを考える。						
3 発展学修として、授業で学んだ技術は練習する。						
短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。						
本講義では、時間外学修時間として予習・復習で60時間とする。週4時間の授業外学修が必要となっている。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	介護職員初任者研修テキスト 第4分冊 技術と実践		公益財団法人 介護労働安定センター	公益財団法人 介護労働安定センター	2200円（税込 み）	978-4-907035- 48-8
自由記載						
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有					
<b>【担当教員の実務経験】</b> 介護福祉士・介護職員・訪問介護員						

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

【実務経験をいかした教育内容】

高齢者施設における経験を活かし、実践的能力が身につくように指導する。

授業科目名	生活とデザイン		サブタイトル		授業番号	HD101
担当教員名	藤田 悟					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
現代社会の中で見られるインテリア、プロダクト、グラフィック、ファッション、建築、エディトリアル、医療福祉などのさまざまなデザインの事例を通じて、デザインの概念、分類、プロセスからそれぞれのデザインが私たちの生活にとり入れられて、デザインと共に生きていることを、分かりやすくスライドや動画を多用して、デザインが人の暮らしに与える影響について学ぶ。						
<b>【到達目標】</b>						
デザインに関する基礎的な知識を修得し、その方法論を活用するための素養を身につける。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げている学士力の〈知識・理解〉の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：社会の中でのデザインの役割 第2回：デザインの分類と基本 第3回：エディトリアルデザイン 第4回：グラフィックデザイン 第5回：ショップデザイン 第6回：インテリアデザイン 第7回：メイクアップデザイン 第8回：テキスタイルデザイン 第9回：プロダクトデザイン 第10回：ファッションデザイン 第11回：医療福祉デザイン 第12回：店舗デザイン 第13回：建築デザイン 第14回：ネイルデザイン 第15回：3Dプリンターの使い方、応用事例と全体のまとめ（小テスト実施）						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	意欲的な受講態度、予習、復習の状況によって評価する。		
	レポート					
	小テスト		40%	最終的理解度を評価する。		
	定期試験					
	その他		30%	各講義の振り返りワークシートの提出と内容によって理解度を評価する。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
デザインに関する基本的な知識を学ぶために、身のまわりのあらゆるデザインについて、よく観察しておくこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 講義時に次回内容の要約を説明するので、その内容のデザインについて調べることやリサーチを行ったりして事前学修を毎回行うこと。（2時間以上） 2. 事後学修として、講義時に配布された「レジュメ」を読み講義で学んだ内容を整理し理解するために復習を毎回行うこと。（2時間以上）						
使用テキスト	自由記載	適時配布				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
メーカーでスポーツブランドの企画、デザインを担当。						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
Dやデザイナーとして、ファッションデザイン、ショップデザイン、テキスタイルデザイン、ファッションショー企画などの実務経験から、デザインに関する基礎的な知識をわかりやすく解説した講義を行う。						



授業科目名	色彩学		サブタイトル		授業番号	HD102
担当教員名	藤田 悟					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
わたしたちの目に見える世界は色彩に満ちている。色には、心地よさ、イメージ、アピール、区別、見やすさ、統一感、象徴や生活を豊かにする働きもある。色の持つさまざまな特性を知り、色を効果的に用いることで、プレゼンテーションの書類の見やすさはもちろんのこと、生活の中での美しさや快適さなどを演出することもできる。本講義では、「新配色カード199a」を使用して、色彩調和の形式から、配色技法、色彩表現のトレーニングまで、テキストの演習用ワークシートによる作業を行いながら色彩心理に至るまで、色彩に関する基礎的な知識を学ぶ。						
<b>【到達目標】</b>						
1.生活の中での色彩感覚を高めることができる。 2.色彩に関する基礎的な知識を修得しその方法を活用できる。 3.色彩検定協会（AFT）が主催する色彩検定3級の内容に準拠しており、資格取得に向けた目標を持つことができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げている学士力の<知識・理解>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：「光と色」およびPCCS（日本色研配色体系）について 第2回：色の分類と三属性および色相・トーンについて 第3回：色彩調和（配色の基本的な考え方） 第4回：配色の基本的な技法1（色相を基準にした配色） 第5回：配色の基本的な技法2（明度を基準にした配色） 第6回：配色の基本的な技法3（彩度を基準にした配色） 第7回：配色技法1（ベースカラー・アソートカラー・アクセントカラー） 第8回：配色技法2（セパレーション効果・ドミナントカラー・グラデーション・レピテーション効果） 第9回：配色技法3（トーンイントーン配色・トーンオントーン配色・トータル配色） 第10回：配色技法4（カマイユ・フォカマイユ配色・トリコロール配色・ピコロール配色） 第11回：色彩心理1（色の心理的効果） 第12回：色彩心理2（色の視覚効果、知識的効果） 第13回：カラーイメージによる色彩構成と言葉による色表示 第14回：医療関係、ファッション、住居、フードにおける色彩効果 第15回：まとめと小テスト						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	意欲的な受講態度、予習、復習の状況によって評価する。		
	レポート					
	小テスト		20%	最終的理解度を評価する。		
	定期試験					
	その他		50%	演習用ワークシートテキストの提出によって理解度を評価する。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
積極的にAFT主催の色彩検定3級にチャレンジする。受験者は「AFT色彩検定公式テキスト3級編」（AFT対策テキスト改訂版編集委員会）や問題集を別途購入すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1.事前学修は、日常生活の中で目にする様々な色彩について関心を持ち、テキストを一読し、分からない用語等は調べて毎回、予習しておくこと。（2時間以上） 2.事後学修は、毎回、テキストでのワークシートや講義で行った演習などの色彩理論や課題などを振り返り、理解して覚える。また、講義時間内に指定された箇所までのワークシートが仕上がらない場合は、次回講義時まで指定された箇所まで完成させておくこと。（2時間以上）						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	『配色入門』			日本色研事業	1600 + 税	4-901355-16-3
	『新配色カード199a』			日本色研事業	780 + 税	
自由記載						
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有					
	<b>【担当教員の实務経験】</b> メーカーにてスポーツブランドの企画、デザインを担当。					
	<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
スポーツブランドのデザインを担当していたときに、配色展開、テキストスタイルの色合わせや、学版体育衣料のデザインを担当していたときには、「体育着の色彩に関するコーディネート」をテーマにした、色彩とデザインについての関係性を合同研究した実務経験をいかした講義を行う。						

授業科目名	生活デザイン実習 A		サブタイトル		授業番号	HD201
担当教員名	藤田 悟					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	実習	
<b>【授業の概要】</b> 「自分のオリジナルなデザインを現実のものとする」それはモノを創り表現する喜びであり、その喜びがあつてこそ、デザインとして人に伝わるものになる。転写プリント、ステンシル、Tシャツカッティングリメイク、シルクスクリーンの技法を通じて、オリジナルTシャツを作成する。イメージを形として成立させるデザインの力を養成することと、計画的な制作力の向上を目指す。						
<b>【到達目標】</b> 発想から完成までのプロセスをとおしてものづくりの技法や手順を身につけ、形による表現の可能性を修得する。なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b> 第1回：ステンシルの基礎知識および原理の理解 第2回：デザイン，スケッチ 第3回：コンピューターを使ったデザインの説明 第4回：原稿仕上げ，カッティング 第5回：ステンシル版を完成後，ステンシル捺染 第6回：転写プリント版下をコンピューターで作成 第7回：転写プリント仕上げ 第8回：Tシャツカッティングリメイク 第9回：シルクスクリーンの基礎知識および原理の理解 第10回：デザイン，スケッチ 第11回：コンピューターを使ったデザイン 第12回：原稿制作 第13回：フィルム写真製版 第14回：仕上げ 第15回：品評会と作品発表						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		40%	積極的に実習に臨み各技法を理解して制作を進めているか。イメージ通りに表現できたか。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他		60%	・制作物（40％）制作物については，創造性（制作過程における独自の工夫，発想の独創性など）と完成度（作業の丁寧さ，仕上げの美しさなど）を評価規準とする。・作品発表（20％）「説得力」「独創性」「論理性」「表現力」「時間配分」の5点に点数をつけて評価する。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b> 普段から街中にあるポスターやロゴマークなどの平面作品のあらゆるデザインについて興味を示すこと。						
<b>【授業外学修】</b> 課題に沿った技法などを配布した資料を一読して，事前学修として知識を深めておくこと。						
使用テキスト	自由記載	適時配布				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有						
<b>【担当教員の实務経験】</b> メーカーでスポーツブランドの企画，デザインを担当。						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> メーカーに勤めていたときにスポーツブランドの企画，デザインをしていた実務経験をいかした実習を行う。						

授業科目名	生活デザイン実習 B		サブタイトル		授業番号	HD202
担当教員名	藤田 悟					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	1単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	実習	
【授業の概要】						
<p>ディスプレイ（商品の演出表現）は、販売促進に必要な不可欠なテクニックで、ショップの顔であり、消費者にショップイメージを伝えるための重要な要素である。主にショップディスプレイを中心に演出し、商品を効果的にビジュアル表現するための考え方やテクニックなどについて解説することから、オブジェ作品の制作とステージでの表現技法について学修する。</p> <p>第7回のフラワーアレンジメントでは、現場で活躍している外部講師による特別実習も予定している。</p>						
【到達目標】						
<p>1.空間構成をマスターし、生活空間およびショップ運営にディスプレイを活用することができる。</p> <p>2.テーマにあった演出ができるように知識と技術力を身につける。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
【授業計画 備考】						
第1回 ディスプレイの概要説明（実際のショップにおけるディスプレイを写真で紹介し仕組みを学ぶ）						
第2回 VMDの概要説明（VMDの目的や手法、専門用語について）						
第3回 ディスプレイのカラーイメージについて（カラー構成によるイメージマップを作成する）						
第4回 商品の空間構成、商品陳列に関する知識と技法について						
第5回 ラッピング実習1（商品の包装に用いられるラッピングの種類と技法について）						
第6回 ラッピング実習2（ラッピングした作品を用いて空間構成をステージ表現）						
第7回 ブライダルオブジェ企画（ブライダルをテーマにしたフラワーアレンジメント基礎講座・外部講師）						
第8回 テーマに沿ったブライダルオブジェを制作しステージで表現						
第9回 ショップ空間演出の企画（ショップにおける空間演出について）						
第10回 ショップ空間演出の制作（ショップにおける空間演出について）						
第11回 ファッションスタイリング表現（演出、陳列構成やカラーコーディネート具体例を事例から学ぶ）						
第12回 トルソーを利用した演出（トルソー・洋服やアクセサリなどを用いてテーマごとに表現する）						
第13回 ポートフォリオの編集と作成（各自の作品の全てをフォトブックや写真集として編集、作成する）						
第14回 ポートフォリオの編集と仕上げ						
第15回 作品発表						
評価の方法						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		40%	積極的に実習に臨み自らが決定したスケジュールと設計に沿って制作を進めているか。イメージ通りに表現できたか。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他		60%	・制作物（40%）制作物については、創造性（制作過程における独自の工夫、発想の独創性など）と完成度（作業の丁寧さ、仕上げの美しさなど）を評価規準とする。・作品発表（20%）「説得力」「独創性」「論理性」「表現力」「時間配分」の5点に点数をつけて評価する。		
自由記載						
【受講の心得】						
普段からお店にあるショーウィンドやディスプレイなどの空間演出制作物に興味を示すこと。						
【授業外学修】						
課題に沿ったアイデアなどを事前学修としてイメージしておくこと。						
使用テキスト	自由記載	適時配布				
参考書	自由記載					
【担当教員の実務経験の有無】						
有						
【担当教員の職務経験】						
メーカーでスポーツブランドの企画、デザインを担当						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】						
無						
【実務経験をいかした教育内容】						
メーカーに勤めていたときにブランドの企画、デザイン、店舗指導、MDをしていた実務経験をいかした実習を行う。						

授業科目名	ファッションビジネス		サブタイトル		授業番号	HT204
担当教員名	藤田 悟					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
プロジェクターを利用して画像や映像を用いることで、ファッションビジネスの専門的なことをやさしく解説し、授業を進める。また、本講義は、一般の販売職でも応用できる内容とし、講義後編には、アパレル販売の現場で役立つ売り場展開や計数管理までを予定している。						
<b>【到達目標】</b>						
生活全体におけるファッション感覚を養い「想像力」「企画力」を高めることと、ファッションビジネス能力検定3級、ファッション販売能力検定3級取得程度の能力を身に付けることを目標とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：ファッションビジネスの概要 第2回：ファッション産業の構成 第3回：ファッションマーケティングの重要性について 第4回：ファッションマーケティングに必要なライフスタイル分析 第5回：ファッションマーチャンダイジングの知識 第6回：アパレル小売業の構造と業態 第7回：ファッション生活と感性分類 第8回：ファッションブランドの企画 第9回：ファッション販売の知識（店舗演出） 第10回：ファッション販売の知識（接客と購買心理） 第11回：ファッション販売の知識（小売業の計数管理） 第12回：ファッション販売の知識（シーズンディレクション） 第13回：ファッション販売の知識（品揃え計画・販売計画） 第14回：ファッション販売の知識（店舗リサーチ） 第15回：まとめと小テスト						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		30%	意欲的な受講態度、予習、復習の状況によって評価する。		
	レポート					
	小テスト		30%	最終的理解度を評価する。		
	定期試験					
	その他		40%	各講義の振り返りワークシート提出によって理解度を評価する。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
日頃からストリートや雑誌等でファッションに興味を持つことと、アパレル商品を購入するときにブランドコンセプトや販売方法、流行を意識して感性を磨くこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
1.事前学修として、講義時に次回内容の要約を説明するので、その内容の業種や業態を見学することと、ファッションブランドについて調べておくこと。 2.事後学修として、講義時に配布された「レジュメ」や「資料」にて、講義で学んだ内容を整理し、理解するために復習を毎回行うこと。 以上の内容を週あたり合計4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	適時配布				
参考書	自由記載	ファッションビジネス能力検定3級、ファッション販売能力検定3級の資格試験受験者は、過去問題テキストを購入すること。授業時に紹介する。				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
メーカーでスポーツブランドの企画、デザインを担当。						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
メーカーに勤めていたときに、ブランドの企画、デザイン、店舗指導、MDをしていた実務経験をいかした解説を行う。						

授業科目名	ファッションコーディネート演習		サブタイトル		授業番号	HT302
担当教員名	藤田 悟					
対象学部・学科	総合生活学科	単位数	1単位			
開講年次	2年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
<b>【授業の概要】</b>						
ファッション流通・販売促進に不可欠とされるスタイリング。基本的な知識や技術を学び実際のスタイリングに応用できることを目的とする。日常生活の中でみられる、さまざまなライフシーンやTPOなどのテーマを設定し、外部講師によるメイクとネイルの基礎知識を組み合わせ、トータルコーディネートできるテクニックを習得する。それぞれがテーマに相応しいコーディネートイメージマップで表現し、プレゼンテーションする。イメージマップの一部に着装シミュレーションアプリにて、パソコン上でもイメージマップ作成作業を行う。						
<b>【到達目標】</b>						
基本的な着こなしについて、各自が設定したテーマにあったファッションコーディネートができる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><技能><態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：ファッションコーディネートの基礎知識 第2回：ファッション雑誌にみるコーディネートからのターゲット分析 第3回：ファッションコーディネートにおける素材とシルエットの関係 第4回：ファッションコーディネートオケージョンについて 第5回：トータルコーディネーションへの応用 第6回：ファッションコーディネートイメージマップの制作 1 第7回：ファッションコーディネートイメージマップの制作 2 第8回：ファッションコーディネートイメージマップの制作 3 第9回：ファッションコーディネートイメージマップの制作 4 第10回：メイクの基礎知識と技法 1 第11回：メイクの基礎知識と技法 2 第12回：ネイルの基礎知識と技法 1 第13回：ネイルの基礎知識と技法 2 第14回：パソコンでコーディネートアプリを利用したベストコーディネート提案 第15回：トータルコーディネート提案イメージプレゼンテーションの実施						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	ターゲット分析とイメージマップの制作意図を理解し、積極的に取り組みスケジュールに沿って制作を進めているかを評価する。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他		70%	制作物(40%)制作物については、イメージマップをイメージ通りに表現することができているか。創造性(制作過程における独自の工夫、発想の独創性など)と完成度(作業の丁寧さ、仕上げの美しさなど)を評価規準とする。プレゼンテーション(30%)トータルコーディネート提案したイメージマップをプレゼンする。プレゼン評価は、「説得力」「独創性」「論理性」「表現力」「時間配分」の5点に点数をつけて評価する。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
シーズンサイクルと社会行事、ファッションコーディネート、ディテール等に対して興味を持ち、街頭のショーウインドやショップを観察し、関心を高める。						
<b>【授業外学修】</b>						
事前学修として、課題に沿ったコーディネート提案をファッション雑誌を参考に、週当たり1時間以上、イメージトレーニングをしておくこと。						
使用テキスト	自由記載	適時配布				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
メーカーでスポーツブランドの企画、デザインを担当。						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
メーカーに勤めていたときにブランドの企画、デザイン、店舗指導、MDをしていた実務経験をいかした演習を行う。						

(担当  
(担当  
(担当  
(担当

授業科目名	生活情報基礎演習		サブタイトル		授業番号	HG103
担当教員名	小築 康弘					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
<p>大学を卒業後、「働く」職場で大部分の人が普通に使いこなしている「道具」がパーソナルコンピューター（PC）である。もちろん、PCを使用しない職場はあるが、圧倒的に多くの職場でPCが利用されており、平然と使いこなすことが求められている。本授業の目的は、PCはあくまでも「道具」であることを認識し、その操作を違和感なく遂行できるようになることである。そのため、すでにPCの操作に自信のある学生は対象としていない。一方で、受講する学生の一人たりとも脱落することも想定していない。授業は、マウスやキーボードに慣れることから始める。卒業後に、PCを当たり前のよう使いこなす第一歩にあたる授業である。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報端末を単なる道具と見なすことができる</li> <li>・PCのキーボード・マウスを難なく操作することができる</li> </ul> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：マウスはポインティングデバイス：PCに操作する場所を教える装置の一つが「マウス」</p> <p>第2回：左クリック・右クリック・ドラッグ</p> <p>第3回：キーボード：入力の基本 間違っって消去してしまっても元に戻せる[Ctrl] + [Z] / 文字の消去法 / ABC ... と打ってみよう</p> <p>第4回：キーボード：入力の基本 母音 (aeiou) の位置はどこにある？ 子音 (ksth...) の位置はどこにある？ (1)</p> <p>第5回：キーボード：入力の基本 母音 (aeiou) の位置はどこにある？ 子音 (ksth...) の位置はどこにある？ (2)</p> <p>第6回：キーボード：文章を打ってみよう</p> <p>第7回：ネット検索の基礎：教えて！ Google先生！</p> <p>第8回：Eメールのルール：まずはGoogle先生に聞いてみよう</p> <p>第9回：Eメール実践</p> <p>第10回：PowerPointを使おう</p> <p>第11回：Excelで表計算の基礎</p> <p>第12回：Excelでちょっと高度な使い方</p> <p>第13回：Wordで簡単なポスター作り</p> <p>第14回：Word：左合わせ・右合わせ・センタリング・タブ ... etc. スペースキーを連打しなくても文字の場所は簡単に決められる</p> <p>第15回：まとめ：Google, Siri, Cortana ... が結構教えてくれる</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢 / 態度		45%	授業へ取り組む姿勢を評価する。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他		55%	授業毎に設定するハードル（タイピングの正確性・スピードなど）のクリアの度合いにより評価する		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
自身の行動を持って体得することに主眼を置く授業であるため、積極的な行動を求める。また、普段の生活の中で情報端末に触れ、慣れることを求める。						
<b>【授業外学修】</b>						
<p>1 PCを所有していなくても、スマートホンでqwerty配列のキーボードを利用できるので、いわゆる英文タイプライターの配列のキーボードに親しむこと</p> <p>2 PCを利用できる機会がある時は、積極的に使用し、本学を卒業した後に普通にPCを扱えるようになることを意識し親しむこと</p> <p>以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。</p>						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	生活情報演習 A		サブタイトル	授業番号	HG202
担当教員名	石原 信也				
対象学部・学科	総合生活学科	単位数	1単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b>					
マイクロソフトオフィスソフトのうちWordをワードプロセッサソフトとして使用し、ちらし、ピラ、ポスターなどの「一枚もの」からスタイル機能を使用した冊子の作成方法を明らかにする。					
<b>【到達目標】</b>					
文章作成方法とページレイアウトを知り、Word固有の機能を使用した小冊子の編集が出来るようになることを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解>の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：PC操作の基礎・漢字変換					
第2回：通知状・挨拶状・詫状の作成を通じてワープロ入門・文章の入力、保存と呼び出しを学習する。					
第3回：送付状・礼状の作成を通じて文字組（右詰め・中央寄せなど）が行えるようになる。					
第4回：依頼状・招待状の作成を通じて改行幅・文字幅などの調整が行えるようになる。					
第5回：見積書・請求書の作成を通じて文字装飾（太字・斜体・下線など）が行えるようになる。					
第6回：注文書・納品書の作成を通じて罫線・枠線が使えるようになる。					
第7回：稟議書・報告書の作成を通じて段落ごと、文字ごとの調整が行えるようになる。					
第8回：案内状・議事録の作成を通じてワードのスタイル機能が使えるようになる。					
第9回：社内報の作成を通じて複数ページのレイアウト・設計を学習する。					
第10回：ワードのテンプレート機能を使用したパンフレットの作成を行う。					
第11回：テンプレートを離れてパンフレットの作成を行い、画像の取り込みとトリミング・加工及び自由な配置が行えるようになる。					
第12回：ポスター制作を通じて、ワードアートなどのオフィスの機能を学習する。					
第13回：自由課題として、これまでの学習成果を使用した、あるいはまとめた文書を作成する。					
第14回：最終発表（作成員のプレゼンテーション）					
第15回：Wordの特殊機能・オフィスソフトの特殊機能					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	課題成果物及びそのプレゼンテーションについて、「正確性」「視認性」「独自性・創意性」「紙面要素のバランス」の4項目で評価する。		
	レポート				
	小テスト				
	定期試験				
	その他	50%	課題成果物及びそのプレゼンテーションについて、学生による相互評価を行う。		
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b>					
演習科目のため、出席は特に重要である。					
<b>【授業外学修】</b>					
1.演習の準備として指示された素材を収集する。					
2.発展学習として発表用のスライドなどを演習中に学習した技術を使って作成する。					
以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載	テキストは使用せず、必要なものはプリントして配布する。			
参考書	自由記載				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>					
システムエンジニア 専門学校教職員					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
実務経験をいかして、私たちの生活に密着したワードプロセッサソフトの仕組みや機能を指導する。					

授業科目名	生活情報演習 B		サブタイトル	授業番号	HG205
担当教員名	石原 信也				
対象学部・学科	総合生活学科	単位数	1単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
【授業の概要】					
<p>マイクロソフトオフィススイートのうちExcelを表計算ソフトとして使用し、ビジネス文書の作成方法を明らかにする。 Microsoft Excelという表計算ソフトの基本操作及び応用操作を演習する。</p>					
【到達目標】					
<p>表計算ソフトの機能や操作、Excel固有の機能を知り、実務でよく使われるビジネス文書（請求書、見積書、リスト、売上報告書、名簿など）が効率的に出来るようになることを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち&lt;知識・理解&gt;の修得に貢献する。</p>					
【授業計画】					
<p>第1回：オフィススイートについて 第2回：「日報」/「月報」の作成を通じて文字の入力（大きさ、色の変更、消し方）、画面の拡大・縮小、セルの結合など表の作り方の基本を学習する。 第3回：「日報」/「月報」の作成を通じて見出しの作成、色、罫線や列と行の挿入・削除、高さと幅の調整 文字位置の調整を学習する。 第4回：「精算書」/「集計表」の作成を通じてSUM関数、AVERAGE関数MAX関数、MIN関数、COUNT関数などの簡単な関数を演習し、オートフィル、コピー・切り取り・貼付けを使おう(Ctrl+C, Ctrl+X, Ctrl+V)、1つ前に戻る方法(Ctrl+Z)を学習する。 第5回：「予定表」/「集計表」の作成を通じてワークシートの作成や名称の変更を学習する。 第6回：「売上表」/「クロス集計表」の作成を通じて、データの並び替え、フィルターの使用を学習する。 第7回：「集計表」の作成を通じてシート間を跨いだ入力、集計を学習する 第8回：「申込書」/「アンケート」の作成を通じてテーブルツールの使用を学習する。 第9回：「推移表（棒グラフ）」/（折れ線グラフ）の作成を通じて、グラフ作成を学習する。 第10回：（円グラフ）/（チャートグラフ）の作成を通じて、グラフ作成を学習する（行列の入れ替え、データラベルのセルからの挿入） 第11回：「予約表（マクロ）」の作成を通じて、エクセルのマクロ機能を学習する。 第12回：「調査」/「名簿」の作成を通じて、印刷とファイルの特殊な保存を学習する。 第13回：「一覧」/「台帳」の作成を通じて表示形式、条件付き書式を学習する。 第14回：「請求書」/「見積書」/「納品書」の作成を通じてフラッシュフィル、重複の削除を行う。 第15回：課題作成</p>					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	70%	「必須」として指示する演習課題の成果物の達成率と正確さで評価する。		
	レポート				
	小テスト				
	定期試験				
	その他	30%	「応用」として指示する演習課題の成果物の達成率と正確さで評価する。		
	自由記載				
【受講の心得】					
演習科目のため、出席はとくに重要である。					
【授業外学修】					
<p>1.予習として、授業内容にかかわる部分を参考図書、ネット（動画）等で調査し、疑問点を明らかにしておく。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。</p>					
使用テキスト	自由記載				
参考書	自由記載				
【担当教員の実務経験の有無】					
有					
【担当教員の实務経験】					
システムエンジニア 専門学校教職員					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】					
無					
【実務経験をいかした教育内容】					
実務経験をいかして、私たちの生活に密着した表計算ソフトの仕組みや機能を指導する。					



授業科目名	キャリア基礎演習		サブタイトル		授業番号	HG104
担当教員名	藤田 悟					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
<p>学生が自らのキャリアデザインを描き、実現のために何が必要か、何をすべきか、働く意味についても考える。</p> <p>インターンシップの重要性からはじまり、自己分析にて自己を知り、持てる能力を最大限に活かすために世の中には、どのような業界や仕事があるのかを学び、ゲストスピーカーによる、いろいろなキャリアプランから、仕事選びのポイントや仕事とは何かを考え、就職について意識することで、後期のキャリア開発演習に向けた職業観を身に付ける。また、随時に適切な就職情報も提供する。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>1.働くことの意味を自ら考えて、キャリアデザインを描くことができる。</p> <p>2.進路選択に必要な基本知識および情報収集の方法を自ら調べることができる。</p> <p>3.就職実践力の基礎能力を修得することができる。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：就職活動とは (担当 就職支援センター)</p> <p>第2回：就職と就職活動について (担当 藤田)</p> <p>第3回：働くとは (担当 外部講師)</p> <p>第4回：企業で働くルールを理解する (担当 藤田)</p> <p>第5回：仕事とは何か(職業観について) (担当 外部講師)</p> <p>第6回：仕事とは何か(職業観について) (担当 外部講師)</p> <p>第7回：インターンシップのメリット、エントリーシート記載方法と登録について (担当 藤田)</p> <p>第8回：インターンシップのエントリーシート記載練習 (担当 藤田)</p> <p>第9回：メールの活用と就職サイトの利用 (担当 就職支援センター)</p> <p>第10回：先輩からのメッセージ (担当 就職支援センター)</p> <p>第11回：なぜ就職するのか (担当 藤田)</p> <p>第12回：自己分析・自己理解 (担当 藤田)</p> <p>第13回：企業研究と業界研究 (担当 藤田)</p> <p>第14回：社会人基礎力 (担当 藤田)</p> <p>第15回：後期へのキャリア開発演習に向けて (担当 藤田)</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		40%	意欲的な受講態度、復習の状況、就職ガイダンスの参加状況によって評価する。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他		60%	提出物(40%)授業ごとのワークシートによって理解度を評価する。模擬演習(20%)インターンシップの模擬エントリーシートによって評価する。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
就職支援センター主催の就職セミナー(就職活動準備講座・インターンシップ登録講座・身だしなみ講座)にもあわせて出席し、相乗効果を上げるようにシラバスを設定している。また、就職活動について、現状を理解し、自己の進路希望を具体的に考え、今から必要な学修・行動を取れるように、積極的な姿勢で授業に臨むとともに、授業で指示する課題については、そのつど真剣に取り組む。						
<b>【授業外学修】</b>						
各授業時に配布された「レジュメ」を読み、学んだ内容を整理し、復習を毎回行うこと。(1時間以上)						
使用テキスト	自由記載	適時配布				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	キャリア開発演習		サブタイトル		授業番号	HG110
担当教員名	藤田 悟					
対象学部・学科	総合生活学科		単位数	1単位		
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b>						
<p>学生が主体的に進路選択し、積極的な姿勢で就職活動に取り組むために必要な知識の修得を行うことを目的としている。</p> <p>学生が自らのキャリアデザインを描き、実現のために何が必要か、何をすべきか、働く意味について考え、自己分析にて自己を知り、職務適正テストの実施、基本的な履歴書・自己紹介書、エントリーシートの記載方法から、筆記試験、個人面接、グループ面接、グループディスカッション対策までを行う。また、随時に適切な就職情報も提供する。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>1.働くことの意味を自ら考えて、キャリアデザインを描くことができる。</p> <p>2.進路選択に必要な基本知識および情報収集の方法を自ら調べることができる。</p> <p>3.就職実践力の基礎能力を修得することができる。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt;の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：「キャリア開発演習」の解説（職業観意識についてアンケート）（担当 藤田）</p> <p>第2回：就職活動で知っておかなければならないこと（担当 外部講師）</p> <p>第3回：就職活動基本マナーについて（担当 藤田）</p> <p>第4回：情報収集方法について（担当 藤田）</p> <p>第5回：業界・業種研究，ネット就活（担当 就職支援センター）</p> <p>第6回：履歴書・自己紹介書の書き方その1（実践と質問・疑問事項）（担当 藤田）</p> <p>第7回：履歴書・自己紹介書の書き方その2（質問事項のフォロー例）（担当 藤田）</p> <p>第8回：履歴書・自己紹介書の最終仕上げ（担当 藤田）</p> <p>第9回：社会がもつめる人材とは・先輩の就職活動の失敗と成功事例（担当 藤田）</p> <p>第10回：面接のマナーの基本を把握し，面接を理解する（担当 藤田）</p> <p>第11回：模擬面接を実際に体験する（個人面接）（担当 藤田）</p> <p>第12回：模擬面接を実際に体験する（グループ面接）（担当 藤田）</p> <p>第13回：グループディスカッションの基本を学ぶ（担当 藤田）</p> <p>第14回：模擬グループディスカッションを実際に体験する（担当 藤田）</p> <p>第15回：来年度の就活動向について（担当 就職支援センター）</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		40%	意欲的な受講態度，討議への参加，復習の状況，就職ガイダンスの参加状況によって評価する。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他		60%	提出物（30%）授業ごとのワークシートによって理解度を評価する。模擬演習（30%），履歴書・自己紹介書などの提出物によって評価する。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
<p>就職支援センター主催の就職セミナー（働くとは・サイトの登録について・人事担当者講演会・卒業生からのメッセージ・履歴書対策講座。面接対策講座・先輩からのメッセージ・業界，しごと研究）にもあわせて出席し，相乗効果を上げるようにシラバスを設定している。また，自らの人生と職業について友人や家族と話し合う機会を持ち，積極的な姿勢で授業に臨むとともに，授業で指示する課題については，そのつど真剣に取り組む。</p>						
<b>【授業外学修】</b>						
各授業時に配布された「レジュメ」を読み内容確認と学んだ内容を整理し復習を毎回行うこと。（1時間以上）						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	就活ガイドBOOK2022		中国学園大学・中国短期大学 就職支援委員会 編	中国学園大学・ 中国短期大学 就職支援センタ ー	無料配布	
自由記載		<p>本学就職支援センター編『就活ガイドBOOK2022』（第1回授業時に配布予定）。加えて適宜プリントを配布する。</p>				
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	無					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	特別研究		サブタイトル	(生活創造コース・医療事務コース)		授業番号	HG401
担当教員名	仁宮 崇 小築 康弘 韓 在都 藤田 悟 奥村 弥生 加賀田 江里						
対象学部・学科	総合生活学科		単位数	2単位			
開講年次	2年		開講期	後期			
必修・選択	選択		授業形態	演習			
<b>【授業の概要】</b> 2年生前期までで学んだ知識を集約し、7分野の中からさらに深めたい1分野を学生自身が選び、担当教員のもとで指導を受けながら研究を行う。 また、授業形態はゼミナール形式で、個人的な指導・助言のもとに制作・実験・実習・調査研究などを行い、「特別研究発表会」においてプレゼンテーションを遂行する。 以上のことを通して、興味のある分野を掘り下げて学ぶための基本的な研究手法を身につけ、社会に貢献できる人材になることを目的とする。							
<b>【到達目標】</b> 1. 基本的な情報収集・分析・制作計画等の方法を身に付けることができる。 2. 問題解決や仮説にあった研究方法、調査方法を考え、独自の結論を導くことができる。 3. 調査・研究した成果についてまとめ、文書・媒体等を用いて発表し、他者の発表も聴いて質問する力を身につける。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度>の修得に貢献する。							
<b>【授業計画】</b> 分野(担当), 研究のテーマ, 内容 9月初旬にフォームにて希望調査を取る。 第1回の授業最初は合同で行い、教員から研究テーマに関して説明を聞いて、個別相談し、配属を決める。 各分野の配属に関しては、人数制限もあり、希望に添えない場合もあります。							
食生活分野(小築)人数制限: なし 食物に関する研究・調査 「食」について、テーマを設定し、研究・調査を行う。テーマについては、話し合いにより、「何」を「どこまで」調べるのかを決め、その後、実際に研究・調査を行う。							
生活福祉分野(韓)人数制限: 4人 生活福祉に関する調査・研究 1年生から学んできた生活福祉に関する諸課題について自ら研究テーマを決定し、研究を通して、問題・課題を明確化し、課題解決や実践現場のプロとしての研究法を身につける。							
食生活分野(加賀田)人数制限: 10人 食物に関する実験実習と調査 自らテーマを設定し、それに基づいて、実習・調査を行う。取り組むテーマについては相談の上決定する。							
医療生活分野(仁宮)人数制限: 5人 医療、健康に関する研究 書籍、文献、厚生労働省や総務省のデータおよび、アンケート調査したデータを分析して現代の医療、健康の現状、問題点を調べる。							
生活デザイン分野(藤田)人数制限: なし 芸術活動(絵画、デザイン、映像、音楽、イラスト、ファッション、メディア)によって新しいものを創作または企画する。研究テーマは、各自の興味、関心にしたがって設定する。							
生活コミュニケーション分野(奥村)人数制限: 5人程度 コミュニケーションに関する調査・研究 生活の中で経験するコミュニケーションに関連するテーマの中から、自分の興味を絞り、調査・研究を行う。 インタビューやアンケート等による調査の実施、初歩的なデータ分析を通して、科学的に物事を理解する力を養う。 心理学の基礎知識がある方が望ましいため、心理学の基礎について学ぶ授業「心理学」(前期)の受講を推奨する。 (「心理学」を未受講でも、希望内容に応じて受け入れは可能)							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度		40%	意欲的な受講態度によって評価する。			
	レポート						
	小テスト						
	定期試験						
	その他		60%				
	自由記載	その他60%の内容 <b>【作品・プレゼンテーション資料の作成】30%</b> 評価の方法: 作品・レポート、プレゼンテーション資料の完成度によって評価する。 <b>【プレゼンテーション: 30%】</b> 評価の方法: 発表会においてプレゼンテーションが出来るとともに、質疑応答に対応できる。 「特別研究発表会」でのプレゼンテーションを必須とする。 発表会に関して、自身の研究発表や質疑応答の振り返り、他者の発表への感想を書いて提出する。 他者の発表をよく聴いて質問する姿勢も評価する。					
<b>【受講の心得】</b> 担当教員により、各回の授業形態や進み具合は様々である。スムーズな取り組みが出来るよう学生は毎回の研究目標をしっかり持ち、臨むこと。							
<b>【授業外学修】</b> 1週間に2時間以上の研究・調査等の活動を要する。							
使用テキスト	自由記載	各教員の指示による。					
参考書	自由記載						
<b>【備考】</b> 令和年度改訂							

<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有
<b>【担当教員の实務経験】</b> 介護職員・訪問介護員（韓在都），企業での企画開発デザイン部門での実務経験（藤田 悟），医療機関での実務経験（仁宮 崇）
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 高齢者施設における経験を活かし，指導する。（韓在都） 医療機関において看護師のストレス・バーンアウト調査研究に携わった経験をいかして指導する。（仁宮 崇） スポーツメーカーや通販メーカーにおいて商品企画，デジタルメディア開発，イベント企画に携わった経験をいかして指導する。（藤田 悟） 臨床心理士，公認心理師。病院，小中学校，大学等でカウンセラーとして勤務。（奥村 弥生）

授業科目名	特別研究		サブタイトル	生活福祉コース対象	授業番号	HG401
担当教員名	中野 ひとみ 松井 圭三 韓 在都 名定 慎也					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
【授業の概要】						
<p>実習中の利用者との関わりを研究テーマとし、介護過程の展開を行う。利用者の課題解決に向けて調査・研究を行う。事例をまとめ、他者にわかりやすく報告することができる力を身につける。</p> <p>結果の報告に関しては、研究発表会におけるプレゼンテーションおよび修了研究論文の提出をもって行う。</p>						
【到達目標】						
<p>生活困難者の課題を多角的に判断し、分析することで問題の解決能力を身につける。</p> <p>1. 介護過程を理解することができる。</p> <p>2. 「福祉」に関する課題について多面的・多角的に調査し考察する。</p> <p>3. 他者へ自分の意見を述べる事が出来る。</p> <p>4. 研究成果をまとめ、表現する力を習得する。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt; &lt;思考・問題解決能力&gt; &lt;態度&gt;の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：事例研究とは何か、研究の進め方(1) (担当中野 名定)</p> <p>第2回：事例研究とは何か、研究の進め方(2) (担当中野 名定)</p> <p>第3回：図書館の活用法・文献検索方法・引用方法・著作権の注意点など(1) (担当中野 名定)</p> <p>第4回：図書館の活用法・文献検索方法・引用方法・著作権の注意点など(2) (担当中野 名定)</p> <p>第5回：事例研究テーマの検討・データ収集の注意点など 各担当教員の指導による (担当中野 松井 名定 韓)</p> <p>第6回：文献調査・事例研究の実施(1)事例研究の開始 (担当中野 松井 名定 韓)</p> <p>第7回：文献調査・事例研究の実施(2) (担当中野 松井 名定 韓)</p> <p>第8回：文献調査・事例研究の実施(3) (担当中野 松井 名定 韓)</p> <p>第9回：文献調査・事例研究の実施(4) (担当中野 松井 名定 韓)</p> <p>第10回：文献調査・事例研究の実施(5) (担当中野 松井 名定 韓)</p> <p>第11回：文献調査・事例研究の実施(6) (担当中野 松井 名定 韓)</p> <p>第12回：文献調査・事例研究の実施(7) (担当中野 松井 名定 韓)</p> <p>第13回：文献調査・事例研究の実施(8) (担当中野 松井 名定 韓)</p> <p>第14回：文献調査・事例研究の実施(9) (担当中野 松井 名定 韓)</p> <p>第15回：文献調査・事例研究の実施(10) (担当中野 松井 名定 韓)</p> <p>第16回：中間発表・事例研究内容再検討 (担当中野 松井 名定 韓)</p> <p>第17回：要旨の作成 (担当中野 松井 名定 韓)</p> <p>第18回：要旨の添削・ディスカッション(1) (担当中野 松井 名定 韓)</p> <p>第19回：要旨の添削・ディスカッション(2) 要旨の提出について (担当中野 松井 名定 韓)</p> <p>第20回：事例研究発表会(プレゼンテーション)の資料の作成 (担当中野 松井 名定 韓)</p> <p>第21回：事例研究発表会(プレゼンテーション)の添削・修正 (担当中野 松井 名定 韓)</p> <p>第22回：事例研究発表会(プレゼンテーション)の提出 (担当中野 松井 名定 韓)</p> <p>第23回：事例発表会の発表練習 (担当中野 松井 名定 韓)</p> <p>第24回：事例研究発表会の準備 (担当中野 松井 名定 韓)</p> <p>第25回：事例研究発表会のリハーサル (担当中野 松井 名定 韓)</p> <p>第26回：事例研究発表会(本番)(1) (担当中野 松井 名定 韓)</p> <p>第27回：事例研究発表会(本番)(2) (担当中野 松井 名定 韓)</p> <p>第28回：事例研究論文まとめ・修正(1) (担当中野 松井 名定 韓)</p> <p>第29回：事例研究論文まとめ・修正(2) (担当中野 松井 名定 韓)</p> <p>第30回：事例研究論文提出 (担当中野 松井 名定 韓)</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		40%	自分が取り上げた研究内容を文献などを用いまとめる努力しているか評価する。		
	レポート		30%	研究内容が明確であるか、科学的視点やエビデンスに基づいた論文作成が出来ているか評価する。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他		30%	自分の意見を他者に的確に述べるための努力をしているか、また発表資料が適切にまとめられているか、発表態度及びプレゼンテーション資料の完成度によって評価する。		
	自由記載	<p>評価の方法：発表会においてプレゼンテーションが出来るとともに、質疑応答に対応できる。</p> <p>「特別研究発表会」でのプレゼンテーションを必須とする。</p> <p>研究へ臨む姿勢、取り組み・研究内容・発表方法(プレゼンテーション含む)にて評価する。</p> <p>論文作成(4~10ページほど)を提出後、評価する。</p>				
【受講の心得】						
<p>担当教員により、各回の授業形態や進み具合は様々である。スムーズな取り組みが出来よう学生は毎回の研究目標をしっかり持ち、臨むこと。</p> <p>実習IIの介護過程実践のまとめとなります。</p> <p>実習での情報収集を的確におこなうことが重要です。また、介護過程I~IIIまでを再度振り返り研究成果としてまとめられるようにしてください。</p>						
【授業外学修】						
1週間に8時間以上の研究・調査等の活動を要する。						
使用テキスト	自由記載	使用テキストは指定はないが担当教員の指示をうけること。 自分の研究に必要な文献検索や本を図書館などを適宜活用しながらを進めていく。				
参考書	自由記載					
【その他】						
<p>研究成果や論文をまとめるにあたり、授業外での活動も自分自身で調整しながら行っていく必要があります。</p> <p>研究を進めるにあたり必ず担当教員と連絡を行いながら進めていくこと。</p>						
【担当教員の実務経験の有無】						
有						

看護師・社会福祉士・介護支援専門員（中野ひとみ）、シルバ - 人材センタ - 職員・身体障害者福祉司（松井圭三）、介護福祉士・介護支援専門員・社会福祉士（名定慎也）、介護職員・訪問介護員（韓在都）

**【担当教員の業務経験に関する実務経験者の有無】**

無

**【実務経験をいかした教育内容】**

中野：医療現場や福祉施設での経験を活かして、現場で実践できる介護福祉士の医療的知識や技術を指導する。

松井：高齢者福祉、障害者福祉において実務経験を踏まえた授業を実践している。

名定：高齢者施設や障害者施設での経験を活かし、介護現場の現状を伝えながら、基本的知識・技術を学習し、介護福祉士に求められる実践的能力を身につけるように指導する。

韓：高齢者施設、障害者施設や医療現場等における経験を活かし、実践的能力が身につくように指導する。

授業科目名	総合生活学セミナーA		サブタイトル		授業番号	HG301
担当教員名	小築 康弘					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	1単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
本セミナーでは、「食とインターネット」をテーマに演習を行う。具体的には、国立健康・栄養研究所のホームページなど有用なホームページやデータベースを利用し、世に広まる様々な食の情報の信用度について考察する授業である。						
<b>【到達目標】</b>						
・インターネットを活用し、「食」に関する信用度の高い情報を集めることができる なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
Google, Google Scholar, 国立健康・栄養研究所のホームページ, 「健康食品」の安全性・有効性情報(国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所), 厚生労働省のホームページなどの使い方を学ぶとともに、授業毎に立てられるテーマに関する情報をそれらホームページから収集する。						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		60%	情報収集に対する積極性を評価する。		
	レポート		40%	授業毎の収集結果を評価する。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
本セミナーは、情報端末を操作し、情報を収集する。時を無意味に過ごすことなく、情報収集の手段や情報の質の判定のために大事な時を当ててほしい。スマートフォンを活用するので、本機器を所有していることが望ましい。						
<b>【授業外学修】</b>						
・普段から気にしている「食」の情報をインターネットで調べる 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	総合生活学セミナーB		サブタイトル		授業番号	HG302
担当教員名	奥村 弥生					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	1単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
臨床心理学とは、心理学的知見に基づいて、心理的不適応や障害等について理解し、援助を行うことを主とする学問である。臨床心理学の学派や技法は多岐にわたり、精神分析、認知行動療法、来談者中心療法など様々なものがある。この授業では、臨床心理学の基礎的なテキストの購読を通して、臨床心理学という学問への理解を深める。具体的には、指定テキストを分担して発表し、自由に感じたことや考えたことを述べあい、ディスカッションを行う。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床心理学の基礎的内容について説明できる</li> <li>臨床心理学に関する講読とディスカッションを通して、自分の考えを深めることができる</li> </ul> なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：科学としての心理学 第2回：臨床心理学文献講読とディスカッション（1） 第3回：臨床心理学文献講読とディスカッション（2） 第4回：臨床心理学文献講読とディスカッション（3） 第5回：臨床心理学文献講読とディスカッション（4） 第6回：臨床心理学文献講読とディスカッション（5） 第7回：臨床心理学文献講読とディスカッション（6） 第8回：臨床心理学文献講読とディスカッション（7） 第9回：臨床心理学文献講読とディスカッション（8） 第10回：臨床心理学文献講読とディスカッション（9） 第11回：臨床心理学文献講読とディスカッション（10） 第12回：臨床心理学文献講読とディスカッション（11） 第13回：臨床心理学文献講読とディスカッション（12） 第14回：臨床心理学文献講読とディスカッション（13） 第15回：総括						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		60%	意欲的な受講態度、ディスカッションへの貢献度で評価する。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他		40%	発表内容により、理解度等を評価する。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>文献講読に意欲的に取り組むこと</li> <li>ディスカッションに積極的に参加すること</li> </ul>						
<b>【授業外学修】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>関連図書や関連資料をもとに予習・復習をすること</li> </ul> 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価
	人生に生かすカウンセリング			諸富祥彦（編）	有斐閣アルマ	2090円
	自由記載		ISBN 978-4641124479			
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
<b>【担当教員の実務経験】</b>						
臨床心理士、公認心理師。病院、小中学校、大学等でカウンセラーとして勤務。						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						



授業科目名	総合生活学セミナーC		サブタイトル		授業番号	HG303
担当教員名	藤田 悟					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	1単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
グラフィックソフト（Adobe Photoshop・Adobe Illustrator）にて、画像処理の効果や技術、イラスト作成方法などを学び、フリー素材を活用しながら、オリジナル名刺、オリジナルCDジャケットを作成後、Windowsムービーメーカーにて簡単な動画編集までを学修する。						
<b>【到達目標】</b>						
グラフィックソフト、動画ソフト、プレゼンテーションソフトの基本的な技法について操作ができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜態度＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：Adobe Photoshopにていろいろな効果を楽しむ 第2回：着色展開（Adobe Photoshop） 第3回：画像処理方法（Adobe Photoshop） 第4回：名刺作成（Adobe Illustrator） 第5回：CDジャケット作成（Adobe Illustrator） 第6回：CDジャケット仕上げ（Adobe Illustrator） 第7回：パワーポイントにて作品プレゼンテーション準備 第8回：パワーポイントにて作品プレゼンテーション準備 第9回：パワーポイントにて作品プレゼンテーション準備 第10回：プレゼンテーションの動画撮影 第11回：動画ファイルを読み込み後、タイトルを入れる（Windowsムービーメーカー） 第12回：動画の分割や不要な部分を削除する（Windowsムービーメーカー） 第13回：音楽ファイルを読み込みBGMを設定する（Windowsムービーメーカー） 第14回：タイトル/クレジットを入れる（Windowsムービーメーカー） 第15回：データをCD-Rに焼き付けてオリジナルCDを完成させる						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		40%	積極的に実習に臨み各ソフトの特徴を理解して制作を進めているか。イメージ通りに表現できたか。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他		60%	・制作物（40%）制作物については、創造性（制作過程における独自の工夫、発想の独創性など）と完成度（作業の丁寧さ、仕上げの美しさなど）を評価基準とする。・作品発表（20%）「説得力」「独創性」「倫理性」「表現力」「時間配分」の5点に点数をつけて評価する。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
日常生活の中で見るポスター、ディスプレイ、チラシなどのデザインは、どのようなソフトで制作されているかを観察し、興味を持つこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
課題に沿ったソフトの操作方法や技法などの配布資料を一読して、事前学修として知識を深めておくこと。（週1時間以上）						
使用テキスト	自由記載	適時配布				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
メーカーでスポーツブランドの企画、デザインを担当。						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
メーカーに勤めていたときに、ブランドの企画、デザインを担当していた実務経験をいかした実習を行う。						

授業科目名	総合生活学セミナーD		サブタイトル		授業番号	HG304
担当教員名	小築 康弘					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	1単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
本セミナーは、世に広まるダイエット法について受講者全員で考察する授業である。ダイエット(diet)とは、本来『(通常の)食事』を表す言葉であったが、そこから次第に食餌療法・食餌制限の意味でも使われるようになった言葉である。本セミナーでは、この食餌療法・食餌制限の概念を意識し、『食事と減量』という観点から世に広まるダイエット法について考察する。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・議論を通じて、様々なダイエット法を批判的に考察できる</li> <li>・ダイエットに対する自身の概念を構築できる</li> </ul> なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力><態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
毎回の授業で、ダイエット法に対する情報に基づき全員で議論をする。ダイエット法の情報については、原則的に教員が準備するが、受講者からの提案があれば、全員で議論した後に、採用する。						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		60%	議論への積極的な参加を評価する。		
	レポート		40%	ダイエットに対する自身の考えを評価する。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
本セミナーは、着席し、一方的に耳を傾けるという授業ではない。議論に積極的に関わることで、自身の中にダイエットに対する概念を作り出すための授業である。積極的な発言・傾聴を望む。						
<b>【授業外学修】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全授業終了後に提出する「ダイエットに対する自身の考え」に関するレポートの作成する</li> <li>・世の中に広がる様々なダイエット法に注目し、「言われていることは本当だろうか？」と批判的に分析する</li> </ul> 以上の内容を、週あたり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	総合生活学セミナーE		サブタイトル		授業番号	HG305
担当教員名	奥村 弥生					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
心理学の歴史の中で世界的に大きな影響を与えた名著を通して、人間の心について学び、心理学という学問への理解を深める。具体的には、世界的な心理学の名著を50冊厳選し、一般向けにわかりやすく解説した「世界の心理学50の名著」を講読し、取り上げられている名著を読む。初回に、初心者を読みやすいものを複数紹介するので、受講生全員で関心のあるものを選ぶ。各回で講読し、自由に感じたことや考えたことを述べあい、ディスカッションを行う。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>心理学の名著を通して人間の心について考えることができる</li> <li>心理学の名著の講読とディスカッションを通して、自分の考えを深めることができる</li> </ul> なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：心理学の歴史と名著の与えた影響 第2回：心理学の名著の講読とディスカッション（1） 第3回：心理学の名著の講読とディスカッション（2） 第4回：心理学の名著の講読とディスカッション（3） 第5回：心理学の名著の講読とディスカッション（4） 第6回：心理学の名著の講読とディスカッション（5） 第7回：心理学の名著の講読とディスカッション（6） 第8回：心理学の名著の講読とディスカッション（7） 第9回：心理学の名著の講読とディスカッション（8） 第10回：心理学の名著の講読とディスカッション（9） 第11回：心理学の名著の講読とディスカッション（10） 第12回：心理学の名著の講読とディスカッション（11） 第13回：心理学の名著の講読とディスカッション（12） 第14回：心理学の名著の講読とディスカッション（13） 第15回：総括						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		60%	意欲的な受講態度、ディスカッションへの貢献度で評価する。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他		40%	発表内容により、理解度等を評価する。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>テキストの講読に意欲的に取り組むこと</li> <li>ディスカッションに積極的に参加すること</li> </ul>						
<b>【授業外学修】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>関連図書や関連資料をもとに予習・復習をすること</li> </ul> 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	世界の心理学50の名著		T・パトラー・ボードン	ディスカヴァー・トゥエンティワン	2750円	978-4799324738
自由記載						
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
臨床心理士、公認心理師。病院、小中学校、大学等でカウンセラーとして勤務。						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	総合生活学セミナーF		サブタイトル	授業番号	HG307
担当教員名	藤田 悟				
対象学部・学科	総合生活学科	単位数	1単位		
開講年次	2年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b>					
<p>ブライズメイドコーディネイトとファッションショーの企画や演出までをプロモーションする。ブライズメイドコーディネイトとは、友達どうしで、テーマを決めてドレスアップをすることで、本セミナーでは、実際に企画、演出、撮影まで行う。ファッションショーの運営企画には、演出・構成、ポスター、チラシ制作、スタイリスト、音響・映像、照明、広報、台本製作、プログラム、パンフレット制作、記録、モデル、フィッター、情報・コンピューター担当、商品管理、作品管理、衣裳作成、受付、設営、ナレーターなどと多様であるが、各自が関心のあるテーマを決めて、ポスター、台本制作、設営イメージ、音響企画、進行イメージマップを作成し、ファッションショーのイメージを企画、プランニングする。企画書やイメージマップの制作は、Adobe Photoshopにて、イメージを形にしてビジュアル表現までを行う。</p>					
<b>【到達目標】</b>					
<p>ブライズメイドコーディネイトとファッションショーの企画と手順を理解しプロモーションすることができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
<p>第1回：ブライズメイドコーディネイトとファッションショーの基本 第2回：ターゲット設定・サブテーマ、コンセプト設定後、ブライズメイドコーディネイトとファッションショーで着用する衣装を検討 第3回：デザインアイテム、カラー展開、企画書作成 第4回：演出設定とファッションショーの企画、ポスターの写真撮影 第5回：イメージポスターの制作 第6回：ファッションショーイメージをマップ表現 第7回：ハンガーイラストにてコーディネイト展開 第8回：スタイリングイメージマップの作成 第9回：舞台構成（平面図の作成） 第10回：ウォーキング構成 第11回：BGM選択 第12回：ナレーション文章作成 第13回：ブライズメイドコーディネイトのプロモーション展開とファッションショーの準備 第14回：ブライズメイドコーディネイトとファッションショーを音楽ホールにて開催 第15回：スライドショーにてプレゼンテーション</p>					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	40%	ブライズメイドコーディネイトとファッションショーのプランニングにおける制作意図を理解し、積極的に取り組みスケジュールに沿って制作を進めているかを評価する。		
	レポート				
	小テスト				
	定期試験				
	その他	60%	制作物については、ブライズメイドコーディネイトとファッションショーの企画イメージマップをイメージ通りに表現することができるか。企画・デザイン・演出・舞台等のプロセスを構成し、プロデュース力・企画力・独創性の3点に点数をつけて評価する。		
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b>					
インターネット、ファッション雑誌などの各メディアを参考にして、企画したいブライズメイドコーディネイトやファッションショーをイメージしておくこと。					
<b>【授業外学修】</b>					
事前学修として、課題に沿った、ブライズメイドコーディネイト、ファッションショー提案について、メディアの情報を参考に、週当たり1時間以上、イメージトレーニングをしておくこと。					
使用テキスト	自由記載	適時配布			
参考書	自由記載				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>					
メーカーでスポーツブランドの企画、デザインを担当。					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
メーカーに勤めていたときにスポーツブランドの企画、イベント企画、ファッションショー運営企画の実務経験をいかした実習を行う。					

授業科目名	医療管理事務総論		サブタイトル		授業番号	HM201
担当教員名	仁宮 崇					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
医療の歴史, 医療機関で働く職員の職種とその仕事内容, 医療の法律, 医療保険について学ぶ。現在の医療費の社会問題についても言及する。本学で行われる医療事務関係の資格試験に焦点をあてた内容を中心に授業を展開する。医療事務コース選抜に関わる科目である。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療の歴史, 医療機関の特徴, 医療職種と業務内容が理解できる。</li> <li>・医療に係る法律を理解できる。</li> <li>・医療保険制度について理解できる。</li> </ul>						
なお, 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち, <知識・理解>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回: 医療の歴史 第2回: 病院組織 第3回: 医療連携 第4回: 医療秘書教養 第5回: 医療機関の職種(1) 第6回: 医療機関の職種(2) 第7回: 医療法 第8回: 医師法 第9回: 健康保険(1) 第10回: 健康保険(2) 第11回: さまざまな医療制度 第12回: DPC・出来高と包括 院外薬局 第13回: 多職種連携 診療報酬制度 第14回: 医療安全とコミュニケーション(1) 第15回: 医療安全とコミュニケーション(2)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	受講態度, 毎回提出する感想の量と質で評価する。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		70%	最終的な理解度を評価する。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
医療事務職員として就職したい学生にとっては必須の知識が多い。資格試験のみならず, 医療機関の就職試験にも出題されることがあるため, 就職試験対策にもつながることを意識して受講すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 予習として, 教科書のうち, 授業内容にかかわる部分を読む。 2. 復習として, 講義資料にある問題を復習する。 3. 医療に関わる新聞記事を読む。 以上の内容を, 週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	メディカルシステム論		一般社団法人 医療教育協会	一般社団法人 医療教育協会	2,000円 + 税	なし
自由記載		講義資料				
参考書	自由記載	マンガでわかる!医療制度・病院のしくみに学ぶ「患者トラブル」防止法(日本医療企画) よくわかる 図解 病院の学習書(ロギカ書房) オールカラー図解 病院のすべてがわかる(ナツメ社)				
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
病院事務						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
医療機関で働く職員の職種とその仕事内容, 医療の法律, 医療保険の特徴を指導する。						

授業科目名	秘書学		サブタイトル		授業番号	HM202
担当教員名	仁宮 崇					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
秘書という職種に限らず、上司を補佐することは社会人の重要な仕事の一つである。秘書業務を通して社会人として必要な業務知識、ビジネスマナー、接遇、技能について学ぶ。テキストやDVD教材を用いて接遇の視覚的な学修にも重点を置く。2年生後期の「接遇演習」を履修する学生は、本科目の単位を取得しておくことが望ましい。医療事務コース選抜に関わる科目である。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人として必要な業務知識、ビジネスマナー、接遇、技能を学び、秘書検定2級程度の知識を身に付ける。</li> <li>・医療機関を事例にした接遇を学ぶことで、来客対応、電話対応の基礎を学ぶ。</li> </ul> なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜態度＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：秘書に必要とされる資質(1) ビジネスマナー 第2回：秘書に必要とされる資質(2) 第3回：秘書の職務知識(1) 第4回：秘書の職務知識(2) 第5回：秘書のマナー・接遇(1) 第6回：秘書のマナー・接遇(2) 第7回：秘書のマナー・接遇(3) 第8回：秘書の技能(1) 第9回：秘書の技能(2) 第10回：秘書の技能(3) 第11回：秘書のマナー・接遇(4) 第12回：秘書のマナー・接遇(5) 第13回：医療機関を事例にした接遇(1) 第14回：医療機関を事例にした接遇(2) 第15回：授業の振り返り						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	受講態度、毎回提出する感想の量と質で評価する。			
	レポート					
	小テスト					
	定期試験	70%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
	自由記載	試験は持込不可である。				
<b>【受講の心得】</b>						
仕事をする上でのビジネスマナー、接遇の基本を身に付ける気持ちで取り組む。日常生活においても気持ちの良い挨拶、行動を心がけること。一般事務、営業・販売、サービス、医療事務等で就職を考えている学生は、参考になる事例が多い。秘書検定に関心のある学生は、6月、11月、2月に行われる秘書検定3級、2級の試験対策でもあることを意識する。すでに秘書検定2級に合格している学生は、知識や理解をさらに深めて上位級に挑戦することを推奨する。資格試験のみならず、就職試験にも出題されることがあるため、就職試験対策にもつながることを意識して受講すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. テキスト、講義資料を読み、問題を復習する。 2. 会話の中で、尊敬語、謙譲語、丁寧語を意識して正しく使用する。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	改訂2版 出る順問題集 秘書検定2級に面白いほど受かる本	佐藤一明	KADOKAWA/中経出版	1,400 + 税	978-4046041029	
	自由記載	講義資料				
参考書	自由記載	秘書検定2級実問題集（実務技能検定協会）秘書検定準1級実問題集（実務技能検定協会） マンガでわかる秘書検定2級直前対策（トレンドプロ）秘書業務入門（DVD：日本経済新聞出版社）秘書検定準1級面接合格マニュアル（DVD：実務技能検定協会）秘書検定1級面接合格マニュアル（DVD：実務技能検定協会） 病医院職員のための接遇マナー講座(DVD：日経ヘルスケア21) 医療スタッフの接遇マニュアル（DVD：日本経済新聞出版社） ホスピタルコンシェルジュの事例紹介（DVD：金田病院提供）				
	【担当教員の実務経験の有無】	有				
	【担当教員の实務経験】	病院事務				
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
医療事務の受付・会計における患者接遇経験をもとに指導する。						

(担当)

授業科目名	介護保険事務論		サブタイトル		授業番号	HW207
担当教員名	仁宮 崇					
対象学部・学科	総合生活学科		単位数	2単位		
開講年次	2年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>						
我が国は超高齢社会を迎え、介護保険サービスを利用する高齢者は年々増加している。その中で、保険料の増額、提供されるサービスの質の評価など、さまざまな問題が出てきている。本科目は、介護保険制度を理解した上で、介護保険サービスを利用するための要件やサービスの種類、また、介護報酬の算定方法などを医療保険と関連づけながら総合的に学ぶ。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険制度の仕組みや背景について理解している。</li> <li>・介護報酬算定を理解し、介護レセプトが作成できる。</li> </ul> なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：介護保険制度のしくみ(1) 第2回：介護保険制度のしくみ(2) 第3回：介護保険制度のしくみ(3) 第4回：介護保険制度と法令(1) 第5回：介護保険制度と法令(2) 第6回：介護保険制度と法令(3) 第7回：介護サービス 介護支援専門員の業務 第8回：介護報酬算定の理解 (1) 第9回：介護報酬算定の理解 (2) 第10回：介護報酬算定の理解 (3) 第11回：介護レセプト作成(1) 第12回：介護レセプト作成(2) 第13回：介護レセプト作成(3) 第14回：介護レセプト作成(4) 第15回：介護レセプト作成(5)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢 / 態度		15%	受講態度、毎回提出する感想の量と質で評価する。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		70%	最終的な理解度を評価する。		
	その他		15%	課題の完成度で評価する。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
介護事務の仕事においては当然必須であるが、医療事務の仕事にも介護保険の知識や介護報酬算定の技能が求められる時代になってきている。福祉・介護、医療分野への就職を目指す学生は仕事のことも意識して受講すること。また、仕事で介護事務に携わらなくても、将来自分の家族に介護が必要になったときにも有用な知識が多いため、生活者としての介護保険の利用も考えながら受講する。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読む。 2. 復習として、講義資料にある問題を復習する。 3. 介護保険に関わる新聞記事を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	よくわかる！新しい介護保険のしくみ 平成30年改正対応版		長谷恵明	瀬谷出版	2,600円 + 税	978-4-902381-37-5
自由記載						
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	介護報酬基本テキスト 介護報酬サービスコード表付き		ケアアンドコミュニケーション株式会社	ケアアンドコミュニケーション株式会社	3,000円 + 税	なし
自由記載						
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	医事コンピュータ演習I		サブタイトル	授業番号	HM103
担当教員名	岡本 智子				
対象学部・学科	総合生活学科		単位数	1単位	
開講年次	2年		開講期	前期	
必修・選択	選択		授業形態	演習	
【授業の概要】 診療所を始め中小病院で最も広く普及している日本医師会が開発した診療報酬請求システムORCAを通して外来における患者登録，レセプト作成，医事統計等の医事業務の基本を修得する。					
【到達目標】 医事コンピュータ技能検定2級・3級を目指し，コンピュータを利用した医事業務の基礎知識を身につける。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：日医標準レセプトソフト（オルカ）について 当該システムの基本動作 医療制度の概要 第2回：患者登録業務(基本情報・公費) 第3回：診療行為入力フロー 第4回：診療行為入力業務（診察・投薬・注射） 第5回：カルテ入力演習（訂正・前回同の入力） 病名登録 第6回：診療行為入力業務（処置・手術） 第7回：診療行為入力業務（検査） 第8回：院外処方せん，請求領収書，カルテ等帳票の発行 第9回：診療行為入力業務(画像・その他) 第10回：カルテ入力演習(保険追加・同日併科) 第11回：セット登録，自費登録および入力 第12回：カルテ入力演習 第13回：予約登録 その他の日常業務 第14回：保険請求業務 統計業務 第15回：まとめ					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的に演習に取り組んでいるかを評価する。		
	レポート				
	小テスト	30%	学修した範囲のコンピュータ操作ができているかを評価する。		
	定期試験	50%	診療報酬請求事務について理解し，正確にコンピュータ入力ができているかを評価する。		
	その他				
	自由記載				
【受講の心得】 診療所・病院への就職を希望する者は，最強の武器となるので，積極的にチャレンジする。 予習・復習を心がけること。					
【授業外学修】 不定期に小テストを行うので，授業毎に学修した操作について次回授業までに週あたり1時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載	日医標準レセプトソフト(ORCA)基本操作説明書〈外来版〉（Ver5.0.0）			
参考書	自由記載				
【担当教員の実務経験の有無】 有					
【担当教員の实務経験】 日医IT認定インストラクター，電子カルテシステム及びレセプトコンピューターインストラクター，病院における医療事務					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					
【実務経験をいかした教育内容】 医療機関における保険請求業務である，レセプト作成の基本的なコンピュータ操作及び技量の修得，さらには実践力までも養えるよう指導する。					



授業科目名	診療報酬請求事務I		サブタイトル		授業番号	HM101
担当教員名	仁宮 崇					
対象学部・学科	総合生活学科		単位数	2単位		
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>						
医療事務の業務内容、わが国の医療保険制度、診療報酬請求事務に関する基礎知識、診療報酬明細書作成（外来）の技能を学ぶ。「診療報酬請求事務I」を講義形態で学び、「診療報酬請求事務演習I」を演習形態で問題を解く、という順番で展開する。よって、本科目を受講する学生は必ず「診療報酬請求事務演習I」も履修すること。医療事務コース選抜に関わる科目である。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療事務職員の業務内容、医療保険制度を理解できる。</li> <li>・診療報酬制度の仕組みが理解できる。</li> <li>・診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能の基礎を身に付ける。</li> </ul>						
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：診療報酬制度 初診料 第2回：初診料 再診料 第3回：医学管理料 在宅医療料 第4回：投薬料 第5回：投薬料 注射料 第6回：外来レセプト作成説明(1) 第7回：医療管理秘書士練習問題 第8回：処置料 第9回：手術料 第10回：検査料 検体検査 第11回：検査料 検体検査 生体検査 第12回：画像診断料 エックス線診断 第13回：画像診断料 コンピュータ断層撮影 第14回：特定疾患処方管理加算 外来レセプト作成説明(2) 第15回：院外処方せん 外来レセプト作成説明(3)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	受講態度、毎回提出する感想の量と質で評価する。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		70%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
診療報酬請求事務の知識と技能は、医療事務職員にとって必要不可欠である。わからないことがあると全体の理解度に影響するため、積極的に質問して理解すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2. 復習として、課題にする練習問題は必ず解くこと。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	診療報酬請求の実務 診療報酬請求演習		一般社団法人 医療教育協会	一般社団法人 医療教育協会	2,400円 + 税	なし
	医科診療報酬点数表		一般社団法人 医療教育協会	一般社団法人 医療教育協会	2,000円 + 税込	なし
	診療報酬・完全マスタードリル 2021年版		内芝修子	医学通信社	1,200円 + 税込	978-4-87058-823-3
自由記載		講義資料				
参考書	自由記載		診療点数早見表(医学通信社)			
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
	<b>【担当教員の实務経験】</b>					
病院事務						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
診療報酬算定の知識と技能を指導する。						

授業科目名	医事コンピュータ演習II		サブタイトル		授業番号	HM205
担当教員名	岡本 智子					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	1単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b> 診療所を始め中小病院で最も広く普及している日本医師会が開発した診療報酬請求システムORCAを通して有床診療所における入院レセプト作成を中心に医事コンピュータ業務の実際を修得する。 また、外来については、難易度の高い診療内容の処理に対応する。						
<b>【到達目標】</b> 医事コンピュータ技能検定2級・3級に合格できる知識・技術がある。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b> 第1回：外来入力業務の復習 第2回：外来カルテ入力（指導料・在宅医療） 第3回：外来カルテ入力演習（保険変更，自由診療，保険外項目など） 第4回：公費負担医療の請求業務（生活保護，原爆医療，自立支援法，難病など） 第5回：岡山県福祉医療の請求業務（乳幼児医療，障害者医療，ひとり親医療など） 第6回：外来予約業務（診療予約，検査予約，健診予約など） 第7回：入院業務について（入院登録） 第8回：入院カルテ入力（1） 第9回：入院カルテ入力（2） 第10回：入院カルテ入力（3） 第11回：入院カルテ入力演習退院処理，転棟・転室処理，入院定期請求 第12回：入院カルテ入力演習 第13回：レセプト業務（データチェックの活用，返戻レセプト・月遅れレセプト処理など） 第14回：統計業務（各種帳票の発行） 第15回：まとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	意欲的に演習に取り組んでいるかを評価する。		
	レポート					
	小テスト		30%	学修した範囲のコンピュータ操作ができていないかを評価する。		
	定期試験		50%	診療報酬請求事務について理解し、正確にコンピュータ入力ができるかを評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b> 診療所・病院への就職を希望する者は、最強の武器となるので、積極的にチャレンジする。 予習・復習を心がけること。 医療事務コースを専攻する者は、必ず受講すること。						
<b>【授業外学修】</b> 不定期に小テストを行うので、授業毎に学修した操作について次回授業までに週あたり1時間以上復習すること。						
使用テキスト	自由記載	日医標準レセプトソフト(ORCA)基本操作説明書<外来版> (Ver5.0.0) [入院版] 基本操作説明書				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有						
<b>【担当教員の实務経験】</b> 日医IT認定インストラクター，電子カルテシステム及びレセプトコンピューターインストラクター，病院における医療事務						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 医療機関における保険請求業務である，レセプト作成の基本的なコンピュータ操作及び技量の修得，さらには実践力までも養えるよう指導する						

授業科目名	医療事務情報演習		サブタイトル		授業番号	HM303	
担当教員名	仁宮 崇						
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	1単位		
開講年次	2年			開講期	後期		
必修・選択	選択			授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b>							
医療事務職員として必要だと思われるビジネス文書の作成, Excel, PowerPointの機能について演習を行う。医事コンピュータORCAを用いて, 分院設定機能を利用して同一システムを複数の医療機関で使用し, 施設基準や病棟管理設定を各自で行う。複雑な外来・入院のレセプトを作成して診療報酬算定の知識を学ぶ。							
<b>【到達目標】</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>ORCAの診療コード登録, 入院設定機能の操作ができる。</li> <li>多種類の診療行為がある外来・入院のレセプト作成ができる。</li> <li>医療事務職員として知っておいた方がよいWord, Excel, PowerPointの機能を操作できる。</li> </ul> なお, 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち, <知識・理解> <技能>の修得に貢献する。							
<b>【授業計画】</b>							
第1回: 医療ビジネス文書の作成(1) 第2回: 医療ビジネス文書の作成(2) 第3回: 医療ビジネス文書の作成(3) 第4回: 院内発表資料作成練習(1) 第5回: 院内発表資料作成練習(2) 第6回: 医療データを用いた分析(1) 第7回: 医療データを用いた分析(2) 第8回: 医療データを用いた分析(3) 第9回: 病院の施設基準診療コード入力 第10回: 外来レセプト作成(1) 第11回: 外来レセプト作成(2) 第12回: 病院の施設基準設定, 病棟設定 第13回: 入院レセプト作成(1) 第14回: 入院レセプト作成(2) 第15回: 入院レセプト作成(3)							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	意欲的な受講態度, 演習への取り組みで評価する。			
	レポート						
	小テスト						
	定期試験						
	その他		70%	提出する文書や図表, レセプト課題の完成度で評価する。			
自由記載							
<b>【受講の心得】</b>							
医療事務の仕事をする上で必要なパソコンを用いた演習である。医療事務コースの学生は必ず受講すること。Word, Excel, PowerPointを仕事で使えるようにする意識を持つこと。複雑なレセプトを作成するため, ORCAの使用法に加え, 診療報酬請求事務の理解も努めること。							
<b>【授業外学修】</b>							
1. ORCAのマニュアル, 診療報酬請求事務の教科書を読んで, 予習・復習する。 2. レセプト作成で出てきた診療行為は点数表で調べておく。 3. パソコンの操作練習をする。 以上の内容を, 週当たり1時間以上学修すること。							
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	日医標準レセプトソフト(ORCA)基本操作説明書(外来版)			日本医師会総合政策研究機構	日本医師会総合政策研究機構	3,000円+税	なし
	自由記載	[入院版]基本操作説明書(簡易版)診療報酬請求の実務 診療報酬請求演習					
参考書	自由記載	日医標準レセプトソフト 外来版操作マニュアル 日医標準レセプトソフト 入院版操作マニュアル 医事コンピュータ技能検定問題集3級(1)(つちや書店) 医事コンピュータ技能検定問題集3級(2)(つちや書店) 医療ビジネス文書実例集(経営書院)					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
	有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>							
病院事務							
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>							
無							
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>							
医療事務の受付・会計, データ分析, 医療におけるビジネス文書作成の経験をいかして指導する。							

授業科目名	診療報酬請求事務演習I		サブタイトル		授業番号	HM102
担当教員名	仁宮 崇					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
医療事務の業務内容、わが国の医療保険制度、診療報酬請求事務に関する基礎知識、診療報酬明細書作成（外来）の技能を学ぶ。「診療報酬請求事務I」を講義形態で学び、「診療報酬請求事務演習I」を演習形態で問題を解く、という順番で展開する。よって、本科目を受講する学生は必ず「診療報酬請求事務I」も履修すること。医療事務コース選抜に関わる科目である。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療事務職員の業務内容、医療保険制度を理解できる。</li> <li>・診療報酬制度の仕組みが理解できる。</li> <li>・診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能の基礎を身に付ける。</li> </ul>						
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：診療報酬制度 初診料 第2回：初診料 再診料 第3回：医学管理料 在宅医療料 第4回：投薬料 第5回：投薬料 注射料 第6回：外来レセプト作成演習(1) 第7回：医療管理秘書士練習問題 第8回：処置料 第9回：手術料 第10回：検査料 検体検査 第11回：検査料 検体検査 生体検査 第12回：画像診断料 エックス線診断 第13回：画像診断料 コンピュータ断層撮影 第14回：特定疾患処方管理加算 外来レセプト作成演習(2) 第15回：院外処方せん 外来レセプト作成演習(3)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	受講態度、毎回提出する感想の量と質で評価する。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		70%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
診療報酬請求事務の知識と技能は、医療事務職員にとって必要不可欠である。わからないことがあると全体の理解度に影響するため、積極的に質問して理解すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2. 復習として、課題にする練習問題は必ず解くこと。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	診療報酬請求の実務 診療報酬請求演習		一般社団法人 医療教育協会	一般社団法人 医療教育協会	2,400円 + 税	なし
	医科診療報酬点数表		一般社団法人 医療教育協会	一般社団法人 医療教育協会	2,000円 + 税込	なし
	診療報酬・完全マスタードリル 2021年版		内芝修子	医学通信社	1,200円 + 税込	978-4-87058-823-3
自由記載		講義資料				
参考書	自由記載		診療点数早見表(医学通信社)			
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
	<b>【担当教員の实務経験】</b>					
病院事務						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
診療報酬算定の知識と技能を指導する。						

授業科目名	診療報酬請求事務II		サブタイトル	授業番号	HM204	
担当教員名	仁宮 崇					
対象学部・学科	総合生活学科	単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】 診療報酬請求事務に関する知識，診療報酬明細書作成（外来・入院）の技能を学ぶ。「診療報酬請求事務II」を講義形態で学び，「診療報酬請求事務演習II」を演習形態で問題を解く，という順番で展開する。よって，本科目を受講する学生は必ず「診療報酬請求事務演習II」も履修すること。						
【到達目標】 ・処置，手術，検査，画像診断，入院といった算定技能を理解する。 ・診療報酬明細書（入院）を作成する技能の基礎を身に付ける。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：医事管理士練習問題説明(1) 第2回：医事管理士練習問題説明(2) 第3回：外来レセプト応用問題説明(1) 第4回：外来レセプト応用問題説明(2) 第5回：外来レセプト応用問題説明(3) 第6回：入院料 第7回：入院料 食事療養費 第8回：入院レセプト作成説明(1) 第9回：入院レセプト作成説明(2) 第10回：手術料 輸血 麻酔 第11回：リハビリテーション料 病理診断 第12回：入院レセプト応用問題説明(1) 第13回：入院レセプト応用問題説明(2) 第14回：入院レセプト応用問題説明(3) 第15回：入院レセプト応用問題説明(4)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		15%	受講態度，課題への取り組み，毎回提出する感想の量と質で評価する。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		85%	総合的な理解度で評価する。		
その他						
自由記載						
【受講の心得】 診療報酬請求事務の知識と技能は，医療事務職員にとって必要不可欠であり，医療事務コースの学生にとって重要科目の一つである。わからないことがあると全体の理解度に影響するため，積極的に質問して理解すること。						
【授業外学修】 1. 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2. 復習として，課題にする練習問題は必ず解くこと。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	診療報酬請求の実務 診療報酬請求演習		一般社団法人 医療教育協会出版	一般社団法人 医療教育協会出版	2,400円 + 税	なし
	医科診療報酬点数表		一般社団法人 医療教育協会出版	一般社団法人 医療教育協会出版	2,000円 + 税	なし
	診療報酬・完全マスタードリル2020-21年版		内芝 修子	医学通信社	1,200円 + 税	978-4-87058-768-7
	2022年度版 医療事務 [診療報酬請求事務能力認定試験(医科)] 合格テキスト&問題集		森岡 浩美	日本能率協会マネジメントセンター	未出版のため未定	未出版のため未定
自由記載		講義資料				
参考書	自由記載		診療点数早見表(医学通信社)			
	【担当教員の実務経験の有無】 有					
	【担当教員の实務経験】 病院事務					
	【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					
	【実務経験をいかした教育内容】 診療報酬算定の知識と技能をいかして指導する。					

授業科目名	診療報酬請求事務演習II		サブタイトル		授業番号	HM301
担当教員名	仁宮 崇					
対象学部・学科	総合生活学科		単位数	2単位		
開講年次	2年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b>						
診療報酬請求事務に関する知識、診療報酬明細書作成（外来・入院）の技能を学ぶ。「診療報酬請求事務II」を講義形態で学び、「診療報酬請求事務演習II」を演習形態で問題を解く、という順番で展開する。よって、本科目を受講する学生は必ず「診療報酬請求事務II」も履修すること。						
<b>【到達目標】</b>						
・診療報酬明細書（外来・入院）を作成する技能を身に付ける。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：医事管理士練習問題演習(1) 第2回：医事管理士練習問題演習(2) 第3回：外来レセプト応用問題演習(1) 第4回：外来レセプト応用問題演習(2) 第5回：外来レセプト応用問題演習(3) 第6回：入院料 第7回：入院料 食事療養費 第8回：入院レセプト作成演習(1) 第9回：入院レセプト作成演習(2) 第10回：手術料 輸血 麻酔 第11回：リハビリテーション料 病理診断 第12回：入院レセプト応用問題演習(1) 第13回：入院レセプト応用問題演習(2) 第14回：入院レセプト応用問題演習(3) 第15回：入院レセプト応用問題演習(4)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		15%	受講態度、課題への取り組みで評価する。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		85%	課題、問題集、マスタートリルの完成度、理解度で評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
診療報酬請求事務の知識と技能は、医療事務職員にとって必要不可欠であり、医療事務コースの学生にとって重要科目の一つである。わからないことがあると全体の理解度に影響するため、積極的に質問して理解すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2. 復習として、課題にする練習問題は必ず解くこと。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	診療報酬請求の実務 診療報酬請求演習		一般社団法人 医療教育協会	一般社団法人 医療教育協会	2,400円 + 税	なし
	医科診療報酬点数表		一般社団法人 医療教育協会	一般社団法人 医療教育協会	2,000円 + 税	なし
	診療報酬・完全マスタートリル2020-21年版		内芝 修子	医学通信社	1,200円 + 税	978-4-87058-768-7
	2021年度版 医療事務 [ 診療報酬請求事務能力認定試験 ( 医科 ) ] 合格テキスト & 問題集		森岡 浩美	日本能率協会 マネジメントセンター	未出版のため未定	未出版のため未定
自由記載		講義資料				
参考書	自由記載		診療点数早見表(医学通信社)			
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
	<b>【担当教員の实務経験】</b>					
	病院事務					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
診療報酬算定の知識と技能をいかして指導する。						

授業科目名	医療情報管理論		サブタイトル		授業番号	HM203
担当教員名	仁宮 崇					
対象学部・学科	総合生活学科		単位数	2単位		
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>						
医療機関での医療情報の管理が重要視されている。また、情報技術の発展に伴い、医療情報システムを導入、運用している医療機関が多くなっている。本講義では、医療情報の管理、活用方法、統計、情報技術の医療分野への関わりといった業務内容について学ぶ。医療情報に携わる職員として情報セキュリティ、個人情報保護も考えていく。医療事務コース選抜に関わる科目である。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療情報を管理することの重要性を理解できる。</li> <li>・統計指標の意味がわかり、データに応じて適切なグラフの選択ができる。</li> <li>・個人情報保護と守秘義務を学び、情報漏洩をしない意識を養える。</li> <li>・電子カルテ、病院情報システムの特徴を理解できる。</li> <li>・情報セキュリティ対策を理解できる。</li> </ul> なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：医療情報管理論を学ぶことの意義 臨床指標 第2回：医療統計学 第3回：コンピュータネットワーク セキュリティ(1) 第4回：コンピュータネットワーク セキュリティ(2) 第5回：医療情報と個人情報保護(1) 第6回：医療情報と個人情報保護(2) 第7回：医師事務作業補助者 診療録と診療情報・医療情報(1) 第8回：診療録と診療情報・医療情報(2) 第9回：DPC・ICD 第10回：医療情報システム(1) 第11回：医療情報システム(2) 第12回：医療情報システム(3) 第13回：遠隔医療と地域医療連携 標準化 第14回：医薬品 感染症予防 第15回：医療安全管理 医療文書						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	受講態度、毎回提出する感想の量と質で評価する。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		70%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
記録の重要性、統計、個人情報保護、情報システム、情報セキュリティの知識は、医療事務のみならず、社会人として知っておくべきであるため、社会人の一般常識のつもりで理解に努める。テキスト、講義資料のみならず、インターネットで閲覧可能な厚生労働省のガイドラインを読む。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 予習として、教科書、講義資料の授業内容にかかわる部分を読む。 2. 復習として、教科書、講義資料の授業内容にかかわる部分、関連する記事、文献等を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	医師事務作業クラーク 医療情報・病歴管理		一般財団法人 日本病院管理教育協会	一般財団法人 日本病院管理教育協会	1,000円 + 税	未定
自由記載		講義資料				
参考書	自由記載		医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイドライン 「映像で知る情報セキュリティ」(DVD:情報処理推進機構)「医療向け個人情報保護法対策」(DVD:東邦薬品) 医療情報システムの安全管理に関するガイドライン 第4.2版			
	<b>【注意事項】</b>					
	特別講義の日程調整の関係で、講義の順番が変わることがある。					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
病院事務						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
医療情報システムの管理運用、電子カルテ運用保守、ヘルプデスク、レセプトデータ集計、DPCデータ分析、情報セキュリティ対策、医療従事者への個人情報保護教育等の経験をいかして指導する。						

授業科目名	接客演習		サブタイトル	授業番号	HM304	
担当教員名	仁宮 崇					
対象学部・学科	総合生活学科	単位数	1単位			
開講年次	2年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
<b>【授業の概要】</b> サービス業への就職を希望する学生が多い中、自ら接客を練習する機会を増やすことが望まれる。接客を練習することで、実際の仕事においても言葉、表情、態度に出るようになる。受付役と来客役、電話をかける役と受ける役等、実際に接客を練習するため、グループワークが多い。 学生の希望に応じて一般企業と医療事務でグループに分かれて演習を行うこともある。履修する学生は、「秘書学」の単位を取得しておくことが望ましい。医療事務の接客を学びたい学生は、医療用語や診療報酬の説明をする練習も行うので、「医療管理事務総論」、「診療報酬請求事務I」、「診療報酬請求事務演習I」の単位を取得しておくことが望ましい。						
<b>【到達目標】</b> ・社会人としての来客対応、電話対応の方法を理解している。 ・顧客・患者対応における接客を理解している。 ・医療事務コースの学生は、医療制度や診療報酬の基礎を理解して、医療用語を患者様に説明することができる。 ・笑顔で感じの良い接客能力を身に付けている。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b> 第1回：ビジネスマナー・敬語の練習 第2回：サービスマインド・敬語の練習 第3回：接客マナーの基本(1)就業中のマナー・報告対応の練習 第4回：接客マナーの基本(2)安心感を与える印象・報告対応の練習 第5回：接客マナーの基本(3)信頼関係を築く言葉づかい・来客対応の練習 第6回：接客マナーの基本(4)電話対応の基本・電話練習 第7回：コミュニケーションの基本と応用(1)・電話練習 第8回：コミュニケーションの基本と応用(2) 第9回：窓口対応・タイプ別対応 第10回：患者とご家族の心理 心のケア 第11回：接客事例(1) 第12回：接客事例(2) 第13回：一般企業と医療事務グループにおける接客練習(1) 第14回：一般企業と医療事務グループにおける接客練習(2) 第15回：ふりかえり						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		50%	意欲的な受講態度や演習への取り組みで評価する。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		50%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b> お客様・患者様を満足させる接客を心がけ、日ごろから身だしなみ、言葉遣い、姿勢に気を配る。テキストの種類は医療接客であるが、一般企業の接客にも活用できる内容が多いので、接客能力を高めたい学生は履修することを推奨する。						
<b>【授業外学修】</b> 1. 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読む。 2. 復習として、教科書を読んで復習し、演習問題を解く。 3. 日常会話の中で、尊敬語、謙譲語、丁寧語を意識して正しく使用する。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	医療に従事する人のための改訂版 患者接客マナー基本テキスト		田中 千恵子	日本能率協会マネジメントセンター	1,800円 + 税	978-4820759539
	自由記載	講義資料配布。				
参考書	自由記載	らくらく合格サービス接客検定2級+準1級集中レッスン&問題集(ナツメ社)DVDで学べる人のビジネスマナー(DVD:西東社)秘書検定準1級面接合格マニュアル(DVD:実務技能検定協会)秘書検定1級面接合格マニュアル(DVD:実務技能検定協会)病院職員のための接客マナー講座(DVD:日経ヘルスケア21)医療スタッフの接客マニュアル(DVD:日本経済新聞出版社)				
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有					
	<b>【担当教員の实務経験】</b> 病院事務					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 医療事務の受付・会計業務、患者接客の経験をいかして指導する。						



授業科目名	介護概論		サブタイトル		授業番号	HW208	
担当教員名	松井 圭三						
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	2単位		
開講年次	1年			開講期	前期		
必修・選択	選択			授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>							
介護の理念、介護の役割と機能、介護他分野の連携の本質を理解する。 また、介護の理念、倫理、対象、介護保険制度の本質と課題について学ぶ。							
<b>【到達目標】</b>							
介護現場での最低限必要な介護の知識、制度等を理解する。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。							
<b>【授業計画】</b>							
第1回：介護の成り立ち 第2回：介護の基本理念 第3回：介護福祉士を取り巻く状況 第4回：社会福祉士及び介護福祉士法 第5回：介護における専門職団体の活動 第6回：介護福祉士の倫理 第7回：自立の考え方 第8回：I C Fの考え方 第9回：自立支援とリハビリテーション 第10回：自立支援と介護予防 第11回：介護福祉を必要とする人の理解 第12回：介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ 第13回：介護における安全の確保とリスクマネジメント 第14回：協働する多職種の機能と役割 第15回：介護従事者の安全							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	意欲的な受講態度、発表、グル-ブワ-クの参加、予習、復習によって評価する。			
	レポート		10%	課題やレポ-トについて評価する。			
	小テスト		10%	各回の主要ポイントの理解を評価する。			
	定期試験		50%	最終的な理解度を評価する。			
	自由記載			受講態度、課題提出、定期試験により総合的に評価する。			
<b>【受講の心得】</b>							
本講義は講義形式とグル-ブワ-クで授業を展開します。 ・予習と授業中の積極的発言を求めます。 ・自分で考えることをベ-スに授業に参加してください。							
<b>【授業外学修】</b>							
・予習として、授業に関係した教科書を精読し、内容を理解する。 ・復習として、授業のレポ-トを書く。 ・授業で紹介された参考文献を精読する。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本授業では、時間外学修として、予習、復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となる。							
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	N I E 介護の基本演習		松井圭三他	大学教育出版	2200円+税	978-4-86692-004-7	
	自由記載						
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	介護保険政策集		松井圭三他	大学教育出版	1800円+税	978-4-88730-839-8	
	自由記載		随時紹介します。				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>							
有							
<b>【担当教員の实務経験】</b>							
観音寺市シルバ-人材センタ-職員、観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司							
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>							
無							
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>							
高齢者保健福祉分野において実務経験を踏まえた授業を実践している。							

授業科目名	介護の基本I		サブタイトル		授業番号	HW209
担当教員名	名定 慎也					
対象学部・学科	総合生活学科		単位数	2単位		
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b> わが国の「介護」における社会的状況はめまぐるしく変化している。そのなかで介護福祉士は、多様、複雑、高度な問題を解決できる専門職としての役割を期待されていることを理解する。また、高齢者に対する「尊厳の保持」、「自立支援」、「自律支援」という考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を生活の観点から捉える。 本講義では、介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学修とする。介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉士としての倫理に基づき、その役割と機能を理解する。						
<b>【到達目標】</b> 介護福祉の基本となる理念を理解することができる 介護福祉士の役割と機能を理解することができる 介護福祉士の倫理を理解することができる 自立に向けた支援の必要性を理解することができる なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b> 第1回：介護の成り立ち～専門職による「介護」の展開 第2回：介護の概念の変遷 第3回：介護福祉の基本理念 第4回：尊厳・自立を支える介護 第5回：介護福祉士の活動の場と役割 第6回：社会福祉士及び介護福祉士法 第7回：介護福祉士養成及び社会福祉専門職に求められる役割の拡大 第8回：介護福祉士を支える団体 第9回：介護福祉士の実践における倫理 第10回：日本介護福祉士会倫理綱領の理解 第11回：自立支援の考え方 第12回：ICFの考え方 第13回：自立支援とリハビリテーション 第14回：自立支援と介護予防 第15回：介護福祉の基本理念・まとめ						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	10%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加状況、予・復習状況を評価する。			
	レポート	20%	資料や参考文献を活用したテーマに沿った記述ができているか評価する			
	小テスト					
	定期試験	70%	授業内容を理解できているか評価する			
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目は主に講義形式で行い、グループ討議や演習も組み合わせ進めていきます。</li> <li>・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な発言を求めます。</li> <li>・専門的知識と技術をベースに他教科と連動して考える力、応用力も求めています。</li> <li>・自ら考える姿勢や問題意識をもって講義に臨んでください。</li> <li>・国家試験対策も含めて講義を展開するので、各自、国家試験対策にも目を通すようにしてください。</li> </ul>						
<b>【授業外学修】</b> 1. 予習として、教科書のうち、講義内容に関わる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2. 復習として、授業後は授業で扱った資料と教科書を照らし合わせ復習してください。 3. レポートは感想だけを述べるのではなく、参考資料や関連事項を調べ主旨を理解し記述するように努めてください。 4. グループ課題や個別課題は提出日を考え、計画的に取り組み提出期限を厳守してください。 5. 発展学習として、講義で紹介された参考文献を読んでください。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は90時間と定められている。 本講義では、時間外学修時間として、予習・復習で60時間とする。週6時間程度の授業外学修が必要となっている。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	最新介護福祉士養成講座3 介護の基本I		中央法規出版	2,200	978-4-8058-5763-2	
	自由記載	介護福祉士養成テキスト その都度、授業資料・参考資料を配布します。				
参考書	自由記載	「見て覚える！介護福祉士国試ナビ2022」中央法規出版（6月頃発行）				
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>	有				
	<b>【担当教員の实務経験】</b>	高齢者施設・障害者施設（介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員）				
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 高齢者施設や障害者施設での経験を活かし、介護現場の現状を伝えながら、基本的知識・技術を学習し、介護福祉士に求められる実践的能力を身につけるように指導する。						

授業科目名	介護の基本II-A		サブタイトル		授業番号	HW303
担当教員名	韓 在都					
対象学部・学科	総合生活学科		単位数	2単位		
開講年次	2年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>						
<p>本科目は介護領域の基盤となる科目です。介護を必要とする人の生活を支援する視点から、介護福祉を必要とする人の理解、介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ、介護における安全の確保とリスクマネジメントについて学ぶ。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>(1) 日常生活を構成する重要な要素について説明することができる。  (2) 介護福祉を必要とする人たちの多様性について説明することができる。  (3) リスクマネジメントの必要性とその方法について説明することができる。  (4) 地域連携や感染症予防のポイントを列挙することができる。  なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt; &lt;思考・問題解決能力&gt; &lt;技能&gt; &lt;態度&gt;の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：介護を必要とする人の生活支援の全体像を理解する  第2回：生活とは何か  第3回：生活の特性  第4回：介護福祉を必要とする人の「暮らし」を理解するということ  第5回：「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解  第6回：家族介護者への支援  第7回：生活を支えるしくみ「フォーマルサービス（社会的サービス）」  第8回：生活を支えるしくみ「インフォーマルサービス（私的サービス）」  第9回：地域連携の意義と目的  第10回：地域連携に関わる機関の理解  第11回：介護における安全の確保  第12回：リスクマネジメントとは何か  第13回：事故防止のための対策  第14回：介護福祉職に必要な感染症対策  第15回：安全な薬物療法を支える視点・連携</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	授業態度、グループワーク参加姿勢を評価する。			
	レポート	20%	グループワークによるレポート、発表を評価する。			
	小テスト	10%	予習・復習の理解度を評価する。			
	定期試験	50%	全講義終了後の知識の定着度・理解度を評価する。			
	その他					
	自由記載	本科目は、アクティブラーニングを基本とする。グループワーク等の演習によるレポート作成、発表にて評価とする。				
<b>【受講の心得】</b>						
将来、介護福祉士として大切な心得を学ぶ科目です。知識や技術を身につけるだけでなく、介護のプロとしての価値観を確立できるように努めること。						
<b>【授業外学修】</b>						
<p>1. 講義資料を配布するので、資料の問題演習をすること  2. 参考になる書籍やサイトの紹介をしますので、それも読み、予習復習をすること  3. 授業内で前回授業内容の小テストがあるため、復習をすること</p>						
<p>短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。  本講義では、時間外学修時間として予習・復習で60時間とする。週4時間の授業外学修が必要となっている。</p>						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	介護福祉士養成講座4 介護の基本II	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規	2420円（税込み）	978-4-8058-5764-9	
	自由記載					
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
	<b>【担当教員の实務経験】</b>					
	介護福祉士・介護職員・訪問介護員					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
介護福祉士として訪問介護や介護付き老人ホームの勤務の実務経験を有した教員が、その経験を生かして介護を必要とする人の尊厳ある生活を支援する専門職として基本となる考え方について授業を行う。						

授業科目名	介護の基本II-B		サブタイトル		授業番号	HW304
担当教員名	韓 在都					
対象学部・学科	総合生活学科		単位数	2単位		
開講年次	2年		開講期	後期		
必修・選択	必修		授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>						
<p>本科目は、多職種協働による介護実践のために、医療・保健・福祉機関に関する、他の専門職との連携、協力及び必要に応じた対応能力を養う。また、介護従事者自身が心身ともに健康に介護を実践するための健康管理や労働環境の管理を理解する。本科目は、アクティブラーニングを基本とし、講義内にてグループワークを行います。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>(1)多職種連携・協働の必要性や目的・効果について説明することができる。  (2)多職種協働におけるコミュニケーション能力の重要性について説明することができる。  (3)働く人の健康や生活を守る法制度を理解し、説明することができる。  (4)保健・医療・福祉職の役割と機能のポイントを列挙できる。  なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt;&lt;思考・問題解決能力&gt;&lt;技能&gt;&lt;態度&gt;の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：多職種連携・協働とは  第2回：多職種連携・協働の必要性  第3回：多職種連携・協働を阻むもの  第4回：介護実践の場で多職種連携・協働に求められる意味  第5回：多職種連携・協働のためのチームづくり  第6回：問題解決に対する多職種のかかわり  第7回：保健・医療・福祉職の役割と機能(1)  第8回：保健・医療・福祉職の役割と機能(2)  第9回：専門職連携実践とは何か  第10回：特別養護老人ホームの連携の実態調査  第11回：自立支援介護における多職種連携の実際  第12回：介護従事者の健康管理の意義と目的  第13回：こころの健康管理  第14回：身体の健康管理  第15回：労働環境の整備</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	授業態度、グループワーク参加姿勢を評価する。			
	レポート	20%	グループワークによるレポート、発表を評価する。			
	小テスト	10%	予習・復習の理解度を評価する。			
	定期試験	50%	全講義終了後の知識の定着度・理解度を評価する。			
	その他					
	自由記載	本科目は、アクティブラーニングを基本とする。グループワーク等の演習によるレポート作成、発表にて評価とする。				
<b>【受講の心得】</b>						
本科目は、アクティブラーニングを基本とし、講義内にてグループワークを行う。積極的なコミュニケーションを試みること。						
<b>【授業外学修】</b>						
<p>1. 講義資料を配布するので、資料の問題演習をすること。  2. 参考になる書籍やサイトの紹介をするので、それも読み、予習復習をすること。  3. 授業内で前回授業内容の小テストがあるため、復習をすること。</p>						
<p>短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。  本講義では、時間外学修時間として予習・復習で60時間とする。週4時間の授業外学修が必要となっている。</p>						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	介護福祉士養成講座4 介護の基本II	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規	2420(税込み)	978-4-8058-5764-9	
	自由記載					
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
	<b>【担当教員の実務経験】</b>					
	介護福祉士・介護職員・訪問介護員					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
介護福祉士として訪問介護や介護付き老人ホームの勤務の実務経験を有した教員が、介護現場における多職種連携の機能と役割、介護従事者の安全の実際に関して解説する。						

授業科目名	認知症の理解		サブタイトル	授業番号	HW210
担当教員名	中野 ひとみ				
対象学部・学科	総合生活学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
【授業の概要】					
<p>本講義では認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解するための講義を行う。          認知症ケアの歴史から認知症を取り巻く状況を理解し、医学的側面から見た認知症の基礎となる知識を身につけるための講義を行う。          認知症の人のその治療やケアについて理解を深めるとともに、予防と生活に及ぼす影響について修得するための講義を行う。          認知症の人のみならず、家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を修得するための講義を行う。          また認知症に伴うこころとからだの変化が日常生活に及ぼす影響について事例をもとにロールプレイを行う。</p>					
【到達目標】					
<p>認知症の人の体験、認知症を取り巻く環境、認知症の人の医学、行動、心理、認知症の人の生活について理解し説明できるようになる。          認知症をもつ人と家族の体験を学ぶことにより、自分で考え支援する方法論を見出すことができるようになる。          なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt; &lt;思考・問題解決能力&gt; &lt;態度&gt;の修得に貢献する。</p>					
【授業計画】					
<p>第1回：認知症とはなにか、認知症の人の介護、認知症ケアの理念と視点 (担当中野)          第2回：認知症の支援である本人本位の視点とはどのようなものか (担当中野)          第3回：認知症ケアの歴史、認知症の人の体験とはどのようなものか (担当中野)          第4回：認知症の原因となる脳のしくみ・病変(脳のしくみ) (担当中野)          第5回：認知症と老化の関係(認知症と他の状態との鑑別、うつやせん妄) (担当中野)          第6回：認知症の症状(中核症状・周辺症状) (担当中野)          第7回：認知症の主な原因疾患(1)(アルツハイマー型認知症) (担当中野)          第8回：認知症の主な原因疾患(2)(脳血管性認知症) (担当中野)          第9回：認知症の主な原因疾患(3)(レビー小体型・前頭側頭型認知症) (担当中野)          第10回：認知症の主な原因疾患(4)(その他の認知症) (担当中野)          第11回：認知症の治療方法・予防 (担当中野)          第12回：認知症の人の行動・心理症状 (担当森重)          第13回：認知症支援に必要な自己覚知・他者理解 (担当森重)          第14回：認知機能の変化が生活に及ぼす影響・家族支援 (担当中野)          第15回：認知症の人の環境の理解、生活を続けるとは・まとめグループワーク発表 (担当中野)</p>					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加、予・復習によって評価する。		
	レポート	10%	課題やレポートにコメントを記入して返却する。		
	小テスト	10%	各回の主要ポイントの理解を評価する。		
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。		
	その他				
	自由記載	受講態度、課題提出、定期試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。			
【受講の心得】					
<p>本講義は講義形式とグループ討議で進めていきます。          テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。          ・予習と授業中の積極的な発言を求めます。          ・認知症に関するニュースなどにも関心を持つように心がけてください。</p>					
【授業外学修】					
<p>1. 予習として、教科書のうち、講義内容に関わる部分を読み、疑問点を明らかにする。          2. 復習として、課題のレポートを書く。          3. 発展学習として、講義で紹介された参考文献を読むこと。          短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。          本講義では、時間外学修時間として、予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。</p>					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	最新介護福祉士養成講座13認知症の理解	中司登志美	中央法規出版	2,200円(税別)	978-4-8085-5773-1
	自由記載	介護福祉士養成テキスト 視聴覚教材			
参考書	自由記載				
	【その他】	その都度参考資料を配布します。ファイリングしてください。			
	【担当教員の実務経験の有無】	有			
【担当教員の实務経験】					
病院(救命救急、急性期病棟、脳神経外科、手術室ほか、看護師) 市役所(母子保健課、看護師) 高等学校教諭(看護) 高齢者入所施設(看護師・介護支援専門員)					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】					
有					
【担当教員以外の指導に関わる実務経験者】					
心療内科における心理臨床(老年期を含む);心療内科・老年科における認知症スクリーニング検査(神経心理学検査);介護福祉士養成課程ならびに保育士養成課程、看護師養成課程講師(森重功)					
【実務経験をいかした教育内容】					
医療現場や福祉施設での経験を活かし、現場で実践できる介護福祉士に必要な医療的知識や技術を身につけるよう指導する。					

授業科目名	認知症の理解II		サブタイトル	授業番号	HW305	
担当教員名	韓 在都					
対象学部・学科	総合生活学科	単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b> 本講義では認知症に関する基礎的知識をもとに、認知症ケアを具体的に講義する。 認知症の方への支援だけでなく家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得するための講義を行う。 介護実習IIでの実践と関連づけながら、基本的な考え方を身につけるための講義を行う。 ケアマネジメントの視点で介護が展開できるように、具体的な事例に対して、認知症の家族への支援や権利を守るための取り組みについて説明する。						
<b>【到達目標】</b> (1)認知症ケアの歴史、現状や課題について具体的に説明することができる。 (2)認知症の人の症状に応じた対応や介護実践での方法論を理解し、列挙することができる。 (3)認知症の人の家族への支援および地域へのサポート体制について説明することができる。 (4)認知症の人の生活支援技術を理解し、介護過程の展開ができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b> 第1回：認知症の人に対する介護過程の展開の基本(1)（情報収集・分析・課題の抽出） 第2回：認知症の人に対する介護過程の展開の基本(2)（目標設定・実践内容） 第3回：認知症の人の生活支援技術と実践のポイント 第4回：認知症の人の生活の場と介護(1) 第5回：認知症の人の生活の場と介護(2) 第6回：連携と協働（地域におけるサポート体制・チームアプローチ） 第7回：家族への支援(1)（家族が認知症を受容する過程） 第8回：家族への支援(2)（家族の介護力評価・レスパイトケア） 第9回：対人援助職としての自己理解・自己覚知・他者理解(1) 第10回：対人援助職としての自己理解・自己覚知・他者理解(2) 第11回：認知症の人の生活支援技術 事例(1)グループワーク 第12回：認知症の人の生活支援技術 事例(2)グループワーク 第13回：認知症の人の生活支援技術 事例(3)グループワーク 第14回：認知症の人の生活支援技術 事例(4)グループワーク 第15回：認知症ケアのまとめ 総合学習						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加、予・復習によって評価する。		
	レポート		10%	課題やレポートにコメントを記入して返却する。		
	小テスト		10%	各回の主要ポイントの理解を評価する。		
	定期試験		60%	最終的な理解度を評価する。		
	自由記載			受講態度、課題提出、定期試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。		
<b>【受講の心得】</b> 本講義は講義形式をグループ討議で進めていきます。 テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。 ・予習と授業中の積極的な発言を求めます。 ・認知症に関するニュースなどにも関心を持つように心がけてください。 ・認知症の支援は専門的知識と技術が応用力が求められます。自ら考える姿勢で講義に臨んでください。						
<b>【授業外学修】</b> 1．予習として、教科書のうち、講義内容に関わる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2．復習として、課題のレポートを書く。 3．発展学習として、講義で紹介された参考文献を読む。  短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本講義では、時間外学修時間として予習・復習で60時間とする。週4時間の授業外学修が必要となっている。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	介護福祉士養成講座13 認知症の理解		介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規	2420（税込み）	978-4-8058-5773-1
参考書	自由記載					
	【その他】		その都度参考資料を配布します。ファイリングしてください。			
	【担当教員の実務経験の有無】		有			
<b>【担当教員の実務経験】</b> 介護福祉士・介護職員・訪問介護員						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 高齢者施設における経験を活かし、実践的能力が身につくように指導する。						

授業科目名	人間発達学		サブタイトル		授業番号	HW211
担当教員名	奥村 弥生					
対象学部・学科	総合生活学科		単位数	2単位		
開講年次	2年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>						
人間は、時間とともに様々な側面（感覚、感情、認知、社会性など）において変化していく存在である。この講義では、人間が生まれてからどのようなプロセスをたどりながら発達していくのかについて基礎的な知識を身につける。主要な発達理論を参照しながら、胎児期から高齢期まで段階ごとに発達の様相について解説する。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要な発達理論について説明できる。</li> <li>・各発達段階の特徴について説明できる。</li> <li>・なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。</li> </ul>						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：発達とは何か 遺伝と環境 第2回：発達理論 発達段階と発達課題 第3回：胎児期 胎児の発達と胎内環境 第4回：乳児期 身体、知覚、情緒、言語、アタッチメントの発達 第5回：幼児期前期 自律性、他者との関係の発達 第6回：幼児期後期 認知発達と遊びの重要性 第7回：児童期 学習と知的発達、社会性と道徳性の発達 第8回：青年期 アイデンティティの確立、人間関係の発達 第9回：成人期前期 親密性の獲得、社会的成熟 第10回：成人期後期 次世代育成と中年期危機 第11回：高齢期 人生の振り返り 第12回：発達の個人差、障害 第13回：人間発達に関わる現代的課題（1） 第14回：人間発達に関わる現代的課題（2） 第15回：総括						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	意欲的な受講態度によって評価する。		
	レポート					
	小テスト		70%	授業内容の理解度を評価する。		
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
受け身の姿勢ではなく、問題意識をもって能動的態度で受講すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を基に予習・復習をすること。</li> <li>・授業で紹介した本や資料を読むこと。</li> </ul> 以上の内容を、週あたり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	講義内容の理解を深めるために、必要に応じて紹介する。				
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	いちばんはじめに読む心理学の本3 発達心理学		藤村宜之 編著	ミネルヴァ書房	2500円 + 税	978-4-623-08463-0
	手にとるように発達心理学がわかる本		小野寺敦子	かんき出版	1650円	978-4761266196
	自由記載		講義内容の理解を深めるために、適宜文献を紹介する。			
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の職務経験】</b>						
臨床心理士、公認心理師。病院、小中学校、大学等でカウンセラーとして勤務。						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	発達と老化の理解		サブタイトル	授業番号	HW306
担当教員名	中野 ひとみ				
対象学部・学科	総合生活学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
【授業の概要】					
老化に伴うことからの変化と日常生活及び高齢者の健康，医療との連携や老年期における心理的变化や身体機能の変化の特徴を理解する。発達の見点から老化を理解し，老化に関する心身機能の変化と特徴および代表的な疾患に関する基礎的知識を習得するための講義を行う。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・老化に伴うことからの変化と日常生活及び高齢者の健康，医療との連携について理解できるようになる。</li> <li>・人間の発達の観点から成長と発達について基礎的理解を持ち，説明できるようになる。</li> <li>・老年期の発達課題や心理を理解し，対象者に応じた介護実践の場で応用できるようになる。</li> </ul> なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：人間の成長と発達・ライフサイクル 第2回：老化に伴う心理的・身体的・知的機能の変化と日常生活 第3回：高齢者に多い症状・訴えとその留意点(1) 第4回：高齢者に多い症状・訴えとその留意点(2) 第5回：高齢者に多い病気とその日常生活の留意点(1)-(1)生活習慣病 第6回：高齢者に多い病気とその日常生活の留意点(1)-(2)生活習慣病 第7回：高齢者に多い病気とその日常生活の留意点(2)骨・関節系の病気，歯・口腔の病気 第8回：高齢者に多い病気とその日常生活の留意点(3)眼の病気。耳の病気 第9回：高齢者に多い病気とその日常生活の留意点(4)皮膚の病気，呼吸器の病気 第10回：高齢者に多い病気とその日常生活の留意点(5)腎・泌尿器の病気 第11回：高齢者に多い病気とその日常生活の留意点(6)消化器系疾患，循環器系疾患 第12回：高齢者に多い病気とその日常生活の留意点(7)神経疾患，感染症 第13回：保健医療チームとの連携(1)保健医療職とのチームケアの必要性 第14回：保健医療チームとの連携(2)保健医療職との連携のポイントについて理解 第15回：保健医療チームとの連携(3)保健医療職との連携のポイントについて理解・まとめ					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予・復習によって評価する。		
	レポート	10%	課題やレポートにコメントを記入して返却する。		
	小テスト	10%	各回の主要ポイントの理解を評価する。		
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。		
	その他				
	自由記載	受講態度，課題提出，定期試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。			
【受講の心得】					
本講義は講義形式を中心として進めていきます。 テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・予習と授業中の積極的な発言を求めます。</li> <li>・高齢者問題に関するニュースなどにも関心を持つように心がけてください。</li> </ul>					
【授業外学修】					
1．予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2．復習として，課題のレポートを書く。 3．発展学習として，講義で紹介された参考文献を読む。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	最新介護福祉士養成講座12発達と老化の理解	秋山昌江他	中央法規出版	2,200円(税別)	978-4-8058-5772-4
	自由記載	介護福祉士養成テキスト			
参考書	自由記載				
	【その他】	その都度参考資料を配布します。ファイリングしてください。			
	【担当教員の実務経験の有無】	有			
【担当教員の实務経験】					
病院(救命救急，急性期病棟，脳神経外科，手術室ほか，看護師) 市役所(母子保健課，看護師) 高等学校教諭(看護) 高齢者入所施設(看護師・介護支援専門員)					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】					
無					
【実務経験をいかした教育内容】					
医療現場や福祉施設での経験を活かして，現場で実践できる介護福祉士の医療的知識や技術を指導する。					



授業科目名	障害者支援論		サブタイトル		授業番号	HW212
担当教員名	平尾 太亮					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
障害の概念や基本的理念、障害の医学的・心理的側面の基礎的な知識を学び、障害のある人のライフステージや特性に応じた支援、多職種連携と協同、家族への支援について学ぶ。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得することができる。</li> <li>・家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得することができる。</li> <li>・それらの知識をもとに特性や状況に応じた支援につなげることができるようになる。</li> </ul> なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：障害者支援とは？ 第2回：障害の意味と理解 第3回：身体障害の特性と心理的特徴の理解 第4回：身体障害のある人への支援 第5回：知的障害の特性と心理的特徴の理解 1 第6回：知的障害の特性と心理的特徴の理解 2 第7回：知的障害のある人への支援 第8回：発達障害の特性と心理的特徴の理解 1 第9回：発達障害の特性と心理的特徴の理解 2 第10回：発達障害のある人への支援 第11回：精神障害、難病、その他の障害の特性と心理的特徴の理解 第12回：精神障害、難病、その他の障害のある人への支援 第13回：地域や専門機関との連携と協同 第14回：保護者や家族に対する理解と支援 第15回：まとめ						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	授業に積極的に参加し、意見や疑問を表現することができる。			
	レポート					
	小テスト	40%	中間テスト（講義内容の理解度、定着度を評価する）			
	定期試験	40%	定期試験（全講義終了後、障害児保育における知識と視点をふまえて、総合的に論じることができる）			
	その他	10%	事例検討やロールプレイに積極的に参加し、意見を出すことができる			
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
様々な気づきを得られるよう、積極的な態度で授業に臨むこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 授業内で学修した、障害児保育に関わる基礎理論を復習すること。 2. 授業内で授業内容の小テストがあるため、その準備をすること。 3. 教科書のうち、次の講義内容に関わる部分を読み、疑問点を明らかにすること。						
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	必要であれば、その都度プリントを配布する。				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の職務経験】</b>						
医療型障害児入所施設職員						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
施設職員の経験を活かし、各障害に対して具体的な事例を交えながら教示する。						

授業科目名	障害の理解		サブタイトル		授業番号	HW307
担当教員名	中野 ひとみ					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
障害のある人だけではなく、その家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を講義を行う。 障害の基礎的理解、障害と医学的側面の基礎的知識を身につけるための講義を行う。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者支援の基礎的な知識・技術について理解し、各障害に合わせた介護の留意点がわかるようになる。</li> <li>・障害者福祉の理念について理解し、介護の基本的視点について説明ができるようになる。</li> <li>・障害がある人を取り巻く家族の支援のあり方について説明ができるようになる。</li> </ul> なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：障害の基本的理解(1) (概要・基本的な考え方・自己概念) 第2回：障害の基本的理解(2) (ICFの理解) 第3回：障害者福祉の基本的理念(1) (ノーマライゼーション・リハビリテーション・インクルージョン) 第4回：障害者福祉の基本的理念(2) (様々な障壁) 第5回：障害者の権利条約 (制度の概要・関連制度) 第6回：障害のある人の基本的視点(1) (援助の原則・権利擁護) (医学モデルと社会モデル・エンパワメント) 第7回：障害のある人の基本的視点(2) (医学モデルと社会モデル・エンパワメント) 第8回：障害の理解(1) (肢体不自由) 第9回：障害の理解(2) (内部障害(1)) 第10回：障害の理解(3) (内部障害(2)) 第11回：障害の理解(4) (視覚・聴覚・言語障害) 第12回：障害の理解(5) (発達障害) 第13回：障害の理解(6) (精神障害・高次脳機能障害) 第14回：障害の理解(7) (難病・その他の障害) 第15回：連携と協働・家族への支援・まとめ						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加、予・復習によって評価する。			
	レポート	10%	課題やレポートにコメントを記入して返却する。			
	小テスト	10%	各回の主要ポイントの理解を評価する。			
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
	自由記載	受講態度、課題提出、定期試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。				
<b>【受講の心得】</b>						
本講義は講義形式を中心として進めていきます。 テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストの授業該当部分を読んでおくこと。</li> <li>・予習と授業中の積極的な発言を求めます。</li> <li>・障害者の支援は専門的知識と技術が応用力が求められます。自ら考える姿勢で講義に臨んでください。</li> </ul>						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 予習として、教科書のうち、講義内容に関わる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2. 復習として、課題のレポートを書く。 3. 発展学習として、講義で紹介された参考文献を読む。 大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本講義では、時間外学修時間として、予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	最新介護福祉士養成講座14障害の理解	川井太加子	中央法規出版	2,200円(税別)	978-4-8058-5774-8	
	自由記載	介護福祉士養成テキスト 視聴覚教材				
参考書	自由記載					
	【その他】	その都度参考資料を配布します。ファイリングしてください。				
	【担当教員の実務経験の有無】	有				
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
病院(救命救急、急性期病棟、脳神経外科、手術室ほか、看護師) 市役所(母子保健課、看護師) 高等学校教諭(看護) 高齢者入所施設(看護師・介護支援専門員)						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
医療現場や福祉施設での経験を活かし、現場で実践できる介護福祉士に必要な医療的知識や技術を身につけるよう指導する。						

授業科目名	医学一般		サブタイトル		授業番号	-
担当教員名	波多江 崇					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
健康成人の人体の構造と機能を理解した上で、介護サービスの主な対象者となる高齢者の人体の加齢による変化について、基本的な知識を身につけることを目的とする。また、介護福祉士を含む介護職員が服薬介助・軟膏塗布・点眼・坐薬の挿入などの薬物療法にも参画できるようになったことから、薬の扱い方に関する基本的な知識を身につけることを目的とする。						
健康の定義および高齢者の人体における加齢に伴う変化について学修する。日本老年医学会が提示している高齢者に注意が必要な薬について学修する。						
<b>【到達目標】</b>						
介護技術の根拠となる人体の構造や機能について理解し、利用者によく見られる代表的な疾患について理解し、保健医療対策を学ぶ。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：「健康」とは何かを理解する 第2回：からだのしくみを理解する（解剖学総論） 第3回：からだのしくみを理解する（組織学総論） 第4回：からだのしくみを理解する（神経系） 第5回：からだのしくみを理解する（消化器系） 第6回：からだのしくみを理解する（泌尿器系） 第7回：からだのしくみを理解する（循環器系） 第8回：からだのしくみを理解する（呼吸器系） 第9回：からだのしくみを理解する（運動器系） 第10回：からだのしくみを理解する（内分泌系） 第11回：「薬」とは何かを理解する 第12回：薬が効くしくみを理解する 第13回：薬の種類とその特徴を理解する 第14回：薬の説明書の読み方を理解する 第15回：薬の基本的な扱い方を理解する						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度					
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		100%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
介護職として社会に出ると、すぐに使う知識ばかりなので、単位取得にだけこだわることなく、日々の学修を心がけること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、返却された小テストを満点にすること。 以上、の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	最新 介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ		介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	2,860円（税込）	978-4-8058-5771-7
	自由記載	必要に応じて、追加の資料を配布する。				
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	無					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	こころとからだのしくみ		サブタイトル	授業番号	HW308
担当教員名	中野 ひとみ				
対象学部・学科	総合生活学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
【授業の概要】					
<p>本講義では、介護福祉士として人体の構造やこころのしくみについて学び、利用者のこころの状態や身体的状態を適切に判断し状況に応じた支援内容を理解する。人間のこころとからだのしくみを理解し、より質の高いサービスの仕方について学ぶ。</p> <p>こころのしくみに関する諸理論や、感情のしくみ、からだのしくみ、ボディメカニクス、身じたく、排泄、食事、睡眠等について学ぶ。</p>					
【到達目標】					
<p>(1)生活支援に必要なからだのしくみについて理解する。</p> <p>(2)機能低下、障害によってもたらされるこころとからだの変化と生活に及ぼす影響について理解できる。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt; &lt;思考・問題解決能力&gt;の修得に貢献する。</p>					
【授業計画】					
<p>第1回：こころとからだの基礎(1)人間の基本的欲求(2)生命の維持・恒常性・バイタルサイン(3)人体各部の名所・ボディメカニクス・関節可動域)</p> <p>第2回：移動に関連したこころとからだのしくみ(1)(移動行為の生理的意味・重心の移動・バランスなど)</p> <p>第3回：移動に関連したこころとからだのしくみ(2)(機能低下・障害が移動に及ぼす影響)</p> <p>第4回：身じたくに関連したこころとからだのしくみ(1)(身じたくの行為の生理的意味・爪、毛髪、口腔の清潔など)</p> <p>第5回：身じたくに関連したこころとからだのしくみ(2)(機能低下・障害が移身じたくに及ぼす影響)</p> <p>第6回：食事に関連したこころとからだのしくみ(1)(栄養素・水分量・食べることの生理的意味など)</p> <p>第7回：食事に関連したこころとからだのしくみ(2)(機能低下・障害が食事に及ぼす影響)</p> <p>第8回：入浴に関連したこころとからだのしくみ(1)(清潔が保てない人の心理・清潔保持)</p> <p>第9回：入浴に関連したこころとからだのしくみ(2)(機能低下・障害が移入浴に及ぼす影響)</p> <p>第10回：排泄に関連したこころとからだのしくみ(1)(排泄のメカニズム・排泄障害の種類)</p> <p>第11回：排泄に関連したこころとからだのしくみ(2)(機能低下・障害が移排泄に及ぼす影響)</p> <p>第12回：睡眠に関連したこころとからだのしくみ(1)(睡眠とは何か・睡眠障害)</p> <p>第13回：睡眠に関連したこころとからだのしくみ(2)(機能低下・障害が睡眠に及ぼす影響)</p> <p>第14回：終末期に関連したこころとからだのしくみ(1)(死について・からだの変化)</p> <p>第15回：終末期に関連したこころとからだのしくみ(2)(死に対するこころの理解・家族支援)</p> <p>医療職との連携・まとめ</p>					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加、予・復習によって評価する。		
	レポート	10%	課題やレポートにコメントを記入して返却する。		
	小テスト	10%	各回の主要ポイントの理解を評価する。		
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。		
	その他				
	自由記載	受講態度、課題提出、定期試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。			
【受講の心得】					
<p>本講義は講義形式とグループ討議で進めていきます。</p> <p>テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予習と授業中の積極的な発言を求めます。</li> <li>・疾患に関するニュースなどにも関心を持つように心がけてください。</li> </ul>					
【授業外学修】					
<p>1. 予習として、教科書のうち、講義内容に関わる部分を読み、疑問点を明らかにする。</p> <p>2. 復習として、課題のレポートを書く。</p> <p>3. 発展学習として、講義で紹介された参考文献を読む。</p> <p>短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。</p> <p>本講義では、時間外学修時間として、予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。</p>					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	最新介護福祉士養成講座11こころとからだのしくみ	秋山昌江他	中央法規出版	2,200円	978-4-8058-5771-7
	自由記載				
参考書	自由記載				
	【担当教員の実務経験の有無】	有			
	【担当教員の实務経験】	病院(救命救急、急性期病棟、脳神経外科、手術室ほか、看護師) 市役所(母子保健課、看護師) 高等学校教諭(看護) 高齢者入所施設(看護師・介護支援専門員)			
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】					
無					
【実務経験をいかした教育内容】					
医療現場や福祉施設での経験を活かして、現場で実践できる介護福祉士の医療的知識や技術を指導する。					

授業科目名	こころとからだのしくみII		サブタイトル		授業番号	HW309
担当教員名	韓 在都					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	必修			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
<p>本講義では、介護福祉士として対象者の生活支援の根拠となる人体の構造やこころのしくみについて講義を行う。  介護福祉士として利用者のこころの状態や身体的状態を適切に判断し状況に応じた支援内容の講義を行う。  介護福祉士として利用者の生活を的確に支援するために、介護技術の根拠となる基本的事項の講義を行う。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>(1)生活支援技術とこころとからだのしくみを関連づけて説明することができる。  (2)機能低下や障害によってもたらされる、こころとからだの変化について説明することができる。  (3)介護の対象が持つ心身面の背景を理解するための視点を説明することができる。  なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt; &lt;思考・問題解決能力&gt; &lt;技能&gt; の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：こころとからだの基礎（(1)人間の基本的欲求(2)生命の維持・恒常性・バイタルサイン(3)人体各部の名所・ボディメカニクス・関節可動域）  第2回：移動に関連したこころとからだのしくみ(1)（移動行為の生理的意味・重心の移動・バランスなど）  第3回：移動に関連したこころとからだのしくみ(2)（機能低下・障害が移動に及ぼす影響）  第4回：身じたくに関連したこころとからだのしくみ(1)（身じたくの行為の生理的意味・爪、毛髪、口腔の清潔など）  第5回：身じたくに関連したこころとからだのしくみ(2)（機能低下・障害が移身じたくに及ぼす影響）  第6回：食事に関連したこころとからだのしくみ(1)（栄養素・水分量・食べることの生理的意味など）  第7回：食事に関連したこころとからだのしくみ(2)（機能低下・障害が食事に及ぼす影響）  第8回：入浴に関連したこころとからだのしくみ(1)（清潔が保てない人の心理・清潔保持）  第9回：入浴に関連したこころとからだのしくみ(2)（機能低下・障害が移入浴に及ぼす影響）  第10回：排泄に関連したこころとからだのしくみ(1)（排泄のメカニズム・排泄障害の種類）  第11回：排泄に関連したこころとからだのしくみ(2)（機能低下・障害が移排泄に及ぼす影響）  第12回：睡眠に関連したこころとからだのしくみ(1)（睡眠とは何か・睡眠障害）  第13回：睡眠に関連したこころとからだのしくみ(2)（機能低下・障害が睡眠に及ぼす影響）  第14回：終末期に関連したこころとからだのしくみ(1)（死について・からだの変化）  第15回：終末期に関連したこころとからだのしくみ(2)（死に対するこころの理解・家族支援）  医療職との連携・まとめ</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加、予・復習によって評価する。		
	レポート		10%	課題やレポートにコメントを記入して返却する。		
	小テスト		10%	各回の主要ポイントの理解を評価する。		
	定期試験		60%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
	自由記載	受講態度、課題提出、定期試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。				
<b>【受講の心得】</b>						
<p>本講義は講義形式と事例演習（グループワーク）で進めていきます。  テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。  ・テキストの授業該当部分を読んでおくこと。  ・予習と授業中の積極的な発言を求めます。  ・自分のこころとからだに関連させながら学んでください。</p>						
<b>【授業外学修】</b>						
<p>1．予習として、教科書のうち、講義内容に関わる部分を読み、疑問点を明らかにする。  2．復習として、課題のレポートを書く。  3．発展学習として、講義で紹介された参考文献を読む。</p>						
<p>短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。  本講義では、時間外学修時間として、予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。</p>						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ		介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規	2860（税込み）	978-4-8058-5771-7
	自由記載	介護福祉士養成テキスト 視聴覚教材				
参考書	自由記載					
	<b>【その他】</b>					
	その都度参考資料を配布します。ファイリングしてください。					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>		有			
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
介護福祉士・介護職員・訪問介護員						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
介護福祉士として訪問介護や介護付き老人ホームの勤務の実務経験を有した教員が、生活支援に必要なからだこころのしくみに関する知識や技術を身につけるよう指導する。						

中国短期大学 令和3年度(2021年度) シラバス

授業科目名	リスクマネジメント論	サブタイトル		授業番号	HW214
担当教員名	名定 慎也 松井 圭三				
対象学部・学科	総合生活学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		

【授業の概要】

リスクマネジメント論では、介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学修とする。  
介護を必要とする人が安全に安心して生活できるための、危機管理や事故防止、災害時の支援等リスクマネジメントについて理解を深め、介護実践の基礎となる知識技術を学ぶ。

【到達目標】

- (1)「予防」「最小化」「是正処置」のサイクルを理解し、リスクマネジメントを展開できるようになる。  
(2)災害時における介護の役割を理解するとともに、応急処置・緊急時の対応できる。  
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。

【授業計画】

第1回：介護における生活の質の保証とリスクマネジメント	(担当名定)
第2回：介護における安全の確保とリスクマネジメント	(担当名定)
第3回：クオリティインプルーブメントの考え方	(担当名定)
第4回：クオリティインプルーブメントを実践するために	(担当名定)
第5回：身体拘束による弊害	(担当名定)
第6回：在宅における危機管理	(担当名定)
第7回：施設における危機管理	(担当名定)
第8回：介護現場におけるリスクマネジメントの実際(1)	(担当名定)
第9回：介護現場におけるリスクマネジメントの実際(2)	(担当名定)
第10回：災害時における介護福祉士の役割	(担当名定)
第11回：災害時における介護の実際(1)	(担当名定)
第12回：災害時における介護の実際(2)	(担当名定)
第13回：応急手当の知識と技術	(担当名定)
第14回：応急処置・緊急時の対応	(担当名定)
第15回：介護におけるリスクマネジメントの基本的理解・まとめ	(担当名定・松井)

評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考
	授業への取り組みの姿勢/態度	10%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加状況、予・復習状況を評価する。
	レポート	20%	資料や参考文献を活用したテーマに沿った記述ができているか評価する
	小テスト		
	定期試験	70%	授業内容を理解できているか評価する
	その他		
	自由記載		

【受講の心得】

- ・本科目は主に講義形式で行い、グループ討議や演習も組み合わせ進めていきます。
- ・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な発言を求めます。
- ・専門的知識と技術をベースに他教科と連動して考える力、応用力も求めています。
- ・自ら考える姿勢や問題意識をもって講義に臨んでください。
- ・国家試験対策も含めて講義を展開するので、各自、国家試験対策にも目を通すようにしてください。

【授業外学修】

1. 予習として、教科書のうち、講義内容に関わる部分を読み、疑問点を明らかにする。
  2. 復習として、授業後は授業で扱った資料と教科書を照らし合わせ復習してください。
  3. レポートは感想だけを述べるのではなく、参考資料や関連事項を調べ主旨を理解し記述するように努めてください。
  4. グループ課題や個別課題は提出日を考え、計画的に取り組み提出期限を厳守してください。
  5. 発展学習として、講義で紹介された参考文献を読んでください。
- 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。  
本講義では、時間外学修時間として、予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	最新介護福祉士養成講座4 介護の基本II		中央法規出版	2,200	978-4-8058-5764-9
	最新介護福祉士養成講座6 生活支援技術I		中央法規	2,200	978-4-8058-5766-3
	自由記載	介護福祉士養成テキスト その都度、授業資料・参考資料を配布します。			

参考書	自由記載
	【担当教員の実務経験の有無】 有
	【担当教員の实務経験】 高齢者施設・障害者施設(介護福祉士, 社会福祉士, 介護支援専門員), 観音寺市シルバ-人材センタ-職員, 観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司(松井)
	【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無

高齢者福祉，障害者福祉において実務経験を踏まえた授業を実践している。(松井)

**【実務経験をいかした教育内容】**

高齢者施設や障害者施設での経験を活かし，介護現場の現状を伝えながら，基本的知識・技術を学習し，介護福祉士に求められる実践的能力を身につけるように指導する。  
。（名定）

授業科目名	メンタルヘルス学		サブタイトル		授業番号	HG110	
担当教員名	仁宮 崇						
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	2単位		
開講年次	2年			開講期	後期		
必修・選択	選択			授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>							
現代はストレス社会であり、ストレスは日常生活、社会で働く上で向き合わなければならない問題である。メンタルヘルス不調を未然に防止するため、ストレスやセルフケアに関する知識、自分に合ったストレス解消方法を身につける。これから社会に出る者としてのストレス対処能力を考えていく。							
<b>【到達目標】</b>							
1. ストレスと心身の健康との関連性を理解できる。 2. 自らのストレスの状況を把握できる。 3. メンタルヘルス不調を未然に防止するための知識がある。 4. 自分に合ったストレス解消方法を探し、実践することができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。							
<b>【授業計画】</b>							
第1回：メンタルヘルスケアの意義 ストレスチェック義務化法について 第2回：ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識(1) 第3回：ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識(2) 第4回：ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識(3) 第5回：ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識(4) 第6回：セルフケアの重要性(1) 第7回：セルフケアの重要性(2) 第8回：ストレスへの気づき方(1) 第9回：ストレスへの気づき方(2) 第10回：ストレスへの対処，軽減方法(1) 第11回：ストレスへの対処，軽減方法(2) 第12回：ストレスへの対処，軽減方法(3) 第13回：メンタルヘルスとコミュニケーション 第14回：メンタルヘルスと活用資源 第15回：歴史上の人物から学ぶストレス対処							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。			
	レポート						
	小テスト						
	定期試験		70%	最終的な理解度を評価する。			
	その他						
自由記載							
<b>【受講の心得】</b>							
精神医学に関する専門用語が多く出るため，自分で調べて理解する習慣が必要である。							
<b>【授業外学修】</b>							
1. 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読む。 2. 復習として，教科書を読み返し，課題に取り組む。 3. メンタルヘルスに関する新聞記事を読む習慣をもつ。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。							
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	メンタルヘルス・マネジメント検定試験公式テキストⅢ種 セルフケアコース 第4版			大阪商工会議所	中央経済社	1,800円 + 税	978-450221491 2
	自由記載	講義資料					
参考書	自由記載	ストレスに負けない技術 - コーピングで仕事も人生もうまくいく! (日本実業出版社) マンガでわかりやすい ストレス・マネジメント ストレスを味方にする心理術(きずな出版) マンガでわかる! アドラー心理学 折れない心の作り方(宝島社) ミニドラマで学ぶメンタルヘルス(コミュニケーション編)(DVD: 第一法規) ミニドラマで学ぶメンタルヘルス対策 未然予防 セルフケア編(DVD: 第一法規)					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 無						
	<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						



授業科目名	医療機関実習		サブタイトル		授業番号	HM302
担当教員名	仁宮 崇					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	1単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	実習	
<b>【授業の概要】</b>						
岡山市，倉敷市，福山市を中心に中国地区の主な医療機関（約20施設）で3日間，医療機関事務部門の現場実習を行う。医療事務コースの学生は必修である。医療機関において，受付業務，患者対応，レセプト作成，会計，病棟事務等の現場経験をjする。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人として相応しい態度，身だしなみで実習を行える。</li> <li>・大学の規則を守り，実習指導者の指示に従い，説明をよく聴いて実習を行える。</li> <li>・実習内容を省みて，発表し，他者の質問を聴いて質問することができる。</li> </ul> なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回 実習の心得，希望先アンケート，医療機関業務について						
第2回 実習先決定の途中経過，接遇マナーについて						
第3回 実習に当たっての注意事項などの再認識&質疑						
第4～7回 医療機関実習第1日目（約6時間/日）						
第8～11回 医療機関実習第2日目（約6時間/日）						
第12～15回 医療機関実習第3日目（約6時間/日）						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		15%	実習の説明を聴く態度，実習準備の態度で評価する。		
	レポート		60%	実習日誌の内容と実習指導者の講評を読んで評価する。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他		25%	実習報告会の発表内容・態度で評価する。		
	自由記載	3回の講義出席，大学と医療機関の規則を遵守しての3日間の実習，期日までに実習費の支払，実習日誌提出，名札返却，実習報告会への出席（聴講）と発表，これら全て単位取得における義務である。				
<b>【受講の心得】</b>						
全ての講義が実習前の重要な説明になるので，必ず出席してよく聴くこと。大学の規則を守り，医療機関の実習指導者の指示に従い，身だしなみ，言葉遣い，実習態度に気をつける。個人だけでなく中国短期大学の学生として評価されることに注意する。						
使用テキスト	自由記載	説明資料を配布する。				
参考書	自由記載	「診療報酬請求の実務 診療報酬請求演習」「医科診療報酬点数表」「メディカルシステム論」「診療報酬・完全マスタードリル」「医療事務 [ 診療報酬請求事務能力認定試験（医科） ] 合格テキスト&問題集」				
<b>【その他】</b>						
実習先を選ぶアンケート調査あり。						
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の業務経験】</b>						
病院事務						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
医療機関の事務職員として勤務した経験全般をいかして指導する。						

授業科目名	生活コミュニケーション論		サブタイトル		授業番号	HG105	
担当教員名	奥村 弥生						
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	2単位		
開講年次	1年			開講期	前期		
必修・選択	必修			授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>							
人が社会の中で生きていく上で、互いの思いを伝え理解し合うためのコミュニケーションは欠かせないものである。この授業では、コミュニケーションとは何か、どのように成り立つのかについて基礎的な知識を身につける。また、様々な種類の人間関係におけるコミュニケーションについて学ぶ。							
<b>【到達目標】</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションの重要性を理解し、自分の生活に照らして考えることができる</li> <li>・コミュニケーションに関する基礎的知識を身につける</li> </ul> なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <態度>の修得に貢献する。							
<b>【授業計画】</b>							
第1回：コミュニケーションを学ぶ意義 第2回：自己理解 第3回：信頼関係の構築 第4回：傾聴と共感 第5回：援助とソーシャルサポート 第6回：適切な自己主張 アサーション 第7回：言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション 第8回：文章によるコミュニケーション 第9回：親子のコミュニケーション 第10回：友人とのコミュニケーション 第11回：恋愛におけるコミュニケーション 第12回：家族のコミュニケーション 第13回：組織におけるコミュニケーション 第14回：コミュニケーションの個人差 第15回：総括							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	意欲的な受講態度によって評価する。			
	レポート						
	小テスト		70%	授業内容の理解度を評価する。			
	定期試験						
	その他						
自由記載							
<b>【受講の心得】</b>							
授業で学ぶコミュニケーションの知識を自分の生活や体験に照らし合わせ、実際に生かすよう心がけること。							
<b>【授業外学修】</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料を基に予習・復習をすること</li> <li>・授業で紹介した本や資料を読むこと</li> </ul> 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。							
使用テキスト	自由記載						
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	大学生の生活のためのソーシャルスキル		橋本 剛 著	サイエンス社	1,782円(税込)	978-4-7819-1183-0	
	エピソードでつかむ青年心理		大野 久 著	ミネルヴァ書房	2,600円+税	978-4-6230-5737-5	
	自由記載						
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>							
有							
<b>【担当教員の实務経験】</b>							
臨床心理士、公認心理師。病院、小中学校、大学等でカウンセラーとして勤務。							
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>							
無							

授業科目名	生活コミュニケーション演習A		サブタイトル		授業番号	HG106
担当教員名	奥村 弥生					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	必修			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
コミュニケーションの基本として、他者の話を「聞く／聴く／訊く」ことに関する基礎的知識を身につける。情報を正確に聞きとることや、傾聴を通して相手の考えや気持ちを理解し援助すること、より積極的に対象を知るための適切な聞き方について学ぶ。表面的なスキルにとどまらず、真に相手を知り、理解しようとする姿勢を身につける。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションにおけるきくことの重要性を理解しているとともに、様々な聞き方に関する基礎的知識を身につけている</li> <li>・ワークやディスカッションを通じて、様々な聞き方の基本的スキルを身につけている。</li> </ul> なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：いろいろなきき方 聞くhear, 聴くlisten, 訊くask 第2回：聞くこと（hear）の重要性 第3回：情報伝達訓練（1） 第4回：情報伝達訓練（2） 第5回：傾聴（listen）の重要性 第6回：傾聴の技法 第7回：傾聴訓練（1） 第8回：傾聴訓練（2） 第9回：傾聴訓練（3） 第10回：質問（ask）の重要性 第11回：質問の技法 第12回：質問訓練（1） 第13回：質問訓練（2） 第14回：質問訓練（3） 第15回：総括						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		30%	意欲的な受講態度、演習への取り組みで評価する。		
	レポート		70%	授業内容の理解度・修得度を評価する。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークやグループディスカッションに積極的に取り組むこと</li> <li>・授業で学ぶコミュニケーションの知識やスキルを自分の生活や体験に照らし合わせ、実際に生かすよう心がけること</li> </ul>						
<b>【授業外学修】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料を基に予習・復習をすること</li> <li>・授業で紹介した本や資料を読むこと</li> </ul> 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	対人援助の現場で使える聴く・伝える・共感する技術便利帖		大谷佳子	翔泳社	1800円＋税	978-4-7981-5255-4
	対人援助の現場で使える質問する技術便利帖		大谷佳子	翔泳社	1800円＋税	978-4-7981-5988-1
	傾聴術		古宮昇	誠信書房	1400円＋税	978-4-414-40364-0
自由記載						
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
臨床心理士，公認心理師。病院，小中学校，大学等でカウンセラーとして勤務。						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	生活コミュニケーション演習B		サブタイトル		授業番号	HG204
担当教員名	奥村 弥生					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	必修			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
コミュニケーションの基本として、「伝える、表現する」ことを学ぶ。相手に分かりやすい伝え方や、自分の意見を適切に表現するスキルについて学び、円滑な人間関係を構築・維持するためのスキルを身につける。会話、文章、図表など、様々な方法による幅広い表現の仕方を学ぶ。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションにおける自己表現の重要性について説明できる</li> <li>・様々な自己表現や伝え方のスキルの基礎が身についている</li> </ul> なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力><態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：伝えること・表現することの基本（1） 第2回：伝えること・表現することの基本（2） 第3回：伝えること・表現することの基本（3） 第4回：伝えること・表現することの基本（4） 第5回：話して伝える（1） 第6回：話して伝える（2） 第7回：話して伝える（3） 第8回：書いて伝える（1） 第9回：書いて伝える（2） 第10回：書いて伝える（3） 第11回：図表で伝える（1） 第12回：図表で伝える（2） 第13回：図表で伝える（3） 第14回：非言語的表現 第15回：総括						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	意欲的な受講態度、演習への取り組みで評価する。		
	レポート		70%	授業内容の理解度・修得度を評価する。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークやグループディスカッションに積極的に取り組むこと</li> <li>・授業で学ぶコミュニケーションの知識やスキルを自分の生活や体験に照らし合わせ、実際に生かすよう心がけること</li> </ul>						
<b>【授業外学修】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を基に予習・復習をすること</li> <li>・授業で紹介した本や資料を読むこと</li> </ul> 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載					
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	図解「伝える」技術ルール10 話して伝える 書いて伝える 図表で伝える		藤沢晃治	講談社	952円	978-4062134132
	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
臨床心理士、公認心理師。病院、小中学校、大学等でカウンセラーとして勤務。						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	生活コミュニケーション演習C			サブタイトル		授業番号	HG206	
担当教員名	奥村 弥生							
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	1単位			
開講年次	2年			開講期	前期			
必修・選択	選択			授業形態	演習			
<b>【授業の概要】</b> コミュニケーションについて学ぶ際には、「自分を知る」ことが大切である。自己理解を深めることは、自分と異なる存在である他者を理解し、互いに尊重し合うための基盤となる。この演習では、様々なワークやグループディスカッションを通じて自己理解を深め、他者との関係や社会の中で自分を生かすためにはどうすればよいか考える。								
<b>【到達目標】</b> ・コミュニケーションにおける自己理解の重要性や、自己理解の枠組みを説明できる ・ワークやディスカッションを通じて自己理解を深めている なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <態度>の修得に貢献する。								
<b>【授業計画】</b> 第1回：コミュニケーションにおける自己理解の重要性 ぼくを探しに 第2回：「好き」から捉える自己 第3回：現在の自己の全体像 第4回：自己肯定感を育む 第5回：心の窓 自己評価と他者評価 第6回：自我状態を知る エゴグラム 第7回：日々の生活を見つめ直す 第8回：自分の感情を知る 第9回：自分のストレスと対処法 第10回：対人地図 自分をとりまく人間関係 第11回：自分の強みを知る 第12回：自分を表現する（1） 第13回：自分を表現する（2） 第14回：未来の自分を描く 第15回：総括								
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢／態度		30%	意欲的な受講態度、演習への取り組みで評価する。				
	レポート		70%	授業内容の理解度・修得度を評価する。				
	小テスト							
	定期試験							
	その他							
自由記載								
<b>【受講の心得】</b> ・ワークやグループディスカッションに積極的に取り組むこと ・授業で学ぶコミュニケーションの知識やスキルを自分の生活や体験に照らし合わせ、実際に生かすよう心がけること								
<b>【授業外学修】</b> ・配布資料を基に予習・復習をすること ・授業で紹介した本や資料を読むこと 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。								
使用テキスト	自由記載							
参考書	書名			著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	社会人基礎力が身につくキャリアデザインブック自己理解編			寿山泰二 著	金子書房	1,300円＋税	978-4-7608-3913-1	
	自由記載							
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有								
<b>【担当教員の实務経験】</b> 臨床心理士、公認心理師。病院、小中学校、大学等でカウンセラーとして勤務。								
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無								

授業科目名	生活コミュニケーション演習D		サブタイトル		授業番号	HG207
担当教員名	奥村 弥生					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	1単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
<p>集団や組織での問題解決、ディスカッションに関して実践的に学ぶ。具体的には、グループごとに設定テーマについて調べて発表し、クラス全体で討論を行う。自分の意見を持ち、他者に分かりやすく伝える力や、他者の意見に耳を傾け、人間の考えの個人差や多様性について理解するということを体験的に学ぶ。また、幅広いテーマを取り上げることを通して、豊かなコミュニケーションの素地となる教養を豊かなものにしていくことも目指す。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団や組織における問題解決・ディスカッションについて説明できる</li> <li>・自分の意見を持ち、他者に伝えるように述べることができる</li> <li>・人間の考え方の個人差や多様性を理解できる</li> <li>・コミュニケーションにおいて伝達される意志・感情・思考などの「情報」の重要性を理解している。</li> </ul> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt; &lt;思考・問題解決能力&gt; &lt;態度&gt; の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：集団・組織におけるコミュニケーション（1）  第2回：集団・組織におけるコミュニケーション（2）  第3回：集団・組織におけるコミュニケーション（3）  第4回：テーマ別ディスカッション（1）  第5回：テーマ別ディスカッション（2）  第6回：テーマ別ディスカッション（3）  第7回：テーマ別ディスカッション（4）  第8回：テーマ別ディスカッション（5）  第9回：テーマ別ディスカッション（6）  第10回：テーマ別ディスカッション（7）  第11回：テーマ別ディスカッション（8）  第12回：テーマ別ディスカッション（9）  第13回：テーマ別ディスカッション（10）  第14回：テーマ別ディスカッション（11）  第15回：総括</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート		70%	授業内容の理解度・修得度を評価する。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他		30%	ディスカッションの発表内容により評価する。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ディスカッションに積極的に取り組むこと</li> <li>・授業で学ぶコミュニケーションの知識やスキルを自分の生活や体験に照らし合わせ、実際に生かすよう心がけること</li> </ul>						
<b>【授業外学修】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を基に予習・復習をすること</li> <li>・授業で紹介した本や資料を読むこと</li> </ul> <p>以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。</p>						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
臨床心理士、公認心理師。病院、小中学校、大学等でカウンセラーとして勤務。						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	生活コミュニケーション特論		サブタイトル		授業番号	HW310
担当教員名	名定 慎也					
対象学部・学科	総合生活学科		単位数	2単位		
開講年次	2年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>						
<p>対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う。生活コミュニケーション特論では、本人及び家族とのよりよい関係性の構築や障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な知識・技術を修得する。介護におけるチームのコミュニケーションについて、情報共有の意義、活用、管理などに関する基本知識・技術について理解する。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>(1)コミュニケーション障害について理解し、対象者の状況に応じたコミュニケーションを図り、信頼関係の構築ができるようになる。  (2)障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的技術が身につけることができる。  (3)多職種協働におけるチームのコミュニケーションが図れるようになる。  なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt; &lt;技能&gt;の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：介護におけるコミュニケーションの基本  第2回：介護におけるコミュニケーションの対象・援助関係とコミュニケーション  第3回：言語コミュニケーション  第4回：非言語コミュニケーション  第5回：介護現場におけるコミュニケーションの実際  第6回：コミュニケーション障害への対応の基本的姿勢  第7回：視覚障害に応じたコミュニケーション  第8回：聴覚・言語障害に応じたコミュニケーション  第9回：精神障害に応じたコミュニケーション  第10回：高次脳機能障害・認知症に応じたコミュニケーション  第11回：知的・発達障害に応じたコミュニケーション  第12回：身体障害に応じたコミュニケーション  第13回：家族とのコミュニケーション  第14回：多職種協働におけるコミュニケーション  第15回：介護におけるコミュニケーションの基本・まとめ</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加状況、予・復習状況を評価する。			
	レポート	20%	資料や参考文献を活用したテーマに沿った記述ができているか評価する			
	小テスト					
	定期試験	60%	授業内容が理解できているか評価する			
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目は主に講義形式で行い、グループ討議や演習も組み合わせ進めていきます。</li> <li>・しっかりと予習・予習し授業中は積極的な発言を求めます。</li> <li>・専門的知識と技術をベースに他教科と連動して考える力、応用力も求めています。</li> <li>・自ら考える姿勢や問題意識をもって講義に臨んでください。</li> <li>・国家試験対策も含めて講義を展開するので、各自、国家試験対策にも目を通すようにしてください。</li> </ul>						
<b>【授業外学修】</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習として、教科書のうち、講義内容に関わる部分を読み、疑問点を明らかにする。</li> <li>2. 復習として、授業後は授業で扱った資料と教科書を照らし合わせ復習してください。</li> <li>3. レポートは感想だけを述べるのではなく、参考資料や関連事項を調べ主旨を理解し記述するように努めてください。</li> <li>4. グループ課題や個別課題は提出日を考え、計画的に取り組み提出期限を厳守してください。</li> <li>5. 発展学習として、講義で紹介された参考文献を読んでください。</li> </ol> <p>短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。  本講義では、時間外学修時間として、予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。</p>						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	最新介護福祉士全書5 コミュニケーション技術		中央法規	2,200	978-4-8058-5765-6	
	自由記載	その都度、授業資料・参考資料を配布します。				
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>	有				
	<b>【担当教員の实務経験】</b>	高齢者施設・障害者施設（介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員）				
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
高齢者施設や障害者施設での経験を活かし、介護現場の現状を伝えながら、基本的知識・技術を学習し、介護福祉士に求められる実践的能力を身につけるように指導する。						

授業科目名	生活支援技術I		サブタイトル		授業番号	HW215
担当教員名	名定 慎也					
対象学部・学科	総合生活学科		単位数	2単位		
開講年次	1年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b>						
生活支援技術Iでは、尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を修得する学修とする。 I C Fの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた居住環境整備、移動、身支度、食事について基礎的な知識・技術を学ぶ。						
<b>【到達目標】</b>						
(1)ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、生活の豊かさや心身の活性化のための支援について理解できる (2)自立に向けた居住環境の整備について理解することができる (3)自立に向けた移動・身じたく・食事の介護を理解することができる なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能>、<態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：生活支援の基本的な考え方 第2回：生活支援におけるI C Fの視点 第3回：生活支援とチームアプローチ 第4回：自立に向けた居住環境の整備(1) 第5回：自立に向けた居住環境の整備(2) 第6回：自立に向けた居住環境の整備(3) 第7回：自立に向けた移動の介護 第8回：杖歩行介助(1) 第9回：杖歩行介助(2) 第10回：車いすの介助(1) 第11回：車いすの介助(2) 第12回：安楽な体位と体位交換(1) 第13回：安楽な体位と体位交換(2) 第14回：移乗の介護(1) 第15回：移乗の介護(2) 第16回：自立に向けた身じたくの介助 第17回：整容の介助(1) 第18回：整容の介助(2) 第19回：自立に向けた衣服の着脱介助 第20回：衣服の着脱の介護(1) 第21回：衣服の着脱の介護(2) 第22回：自立に向けた食事の介護 第23回：食事の介護(1) 第24回：食事の介護(2) 第25回：自立に向けた口腔ケア 第26回：口腔ケア(1) 第27回：口腔ケア(2) 第28回：実技試験(1) 第29回：実技試験(2) 第30回：生活支援技術の基本的理解・まとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		10%	意欲的な受講態度・実習の姿勢・協力、予・復習状況の評価する。		
	レポート		10%	実習記録において目的・実施内容・考察等適切に記述できているか評価する。		
	小テスト		20%	事例に沿った生活支援技術が実施できるか評価する(実技試験)		
	定期試験		60%	授業の内容が理解できているか評価する		
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目は主に演習形式で行い、各生活支援技術の意義・目的・介助方法等理論を学び、実習室での実習で技術を修得していきます。</li> <li>・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な行動を求めます。</li> <li>・利用者の人権および生命を守るという意識を持ち、緊張感を持って取り組んでください。</li> <li>・利用者・介助者双方にとって安全・安楽・安心を意識し、利用者の尊厳の保持し、自立支援ができるようにしましょう。</li> <li>・国家試験対策も含めて講義を展開するので、各自、国家試験対策にも目を通すようにしてください。</li> </ul>						
<b>【授業外学修】</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習として、教科書のうち、講義内容に関わる部分を読み、疑問点を明らかにする。</li> <li>2. 復習として、授業後は授業で扱った資料と教科書を照らし合わせ復習してください。</li> <li>3. 実技は「1回見た、1回した」だけでは身につけません。実習で実際に利用者支援をする際、不安のないようにしっかり練習してください。</li> <li>4. 実習記録の課題を出します。感想を書くだけでなく、根拠を元をしっかり考察できるように参考書を見ながら作成しましょう。提出期限をしっかりと守ってください。</li> </ol> <p>短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本講義では、時間外学修時間として、予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。</p>						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	最新介護福祉士養成講座6 生活支援技術I			中央法規	2,200	978-4-8058-5766-3
	最新介護福祉士養成講座7 生活支援技術II			中央法規	2,200	978-4-8058-5767-0
	自由記載	介護福祉士養成テキスト				
参考書	自由記載					



**【その他】**

実習日は実習服、室内シューズを持参してください。  
頭髪・つめ・装飾品等介護が行える身だしなみを整えてください。

**【担当教員の実務経験の有無】**

有

**【担当教員の实務経験】**

高齢者施設・障害者施設（介護福祉士，社会福祉士，介護支援専門員）

**【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】**

無

**【実務経験をいかした教育内容】**

高齢者施設や障害者施設での経験を活かし、介護現場の現状を伝えながら、基本的知識・技術を学習し、介護福祉士に求められる実践的能力を身につけるように指導する。

授業科目名	生活支援技術II		サブタイトル		授業番号	HW311
担当教員名	名定 慎也					
対象学部・学科	総合生活学科		単位数	2単位		
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b>						
生活支援技術IIでは、尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を修得する学修とする。 自立に向けた入浴・清潔保持、排せつ、休息・睡眠、人生の最終段階における介護について基礎的な知識・技術を学ぶ。						
<b>【到達目標】</b>						
(1)自立に向けた入浴・清潔保持の介護を理解することができる。 (2)自立に向けた排泄の介護を理解することができる。 (3)休息・睡眠の介護を理解することができる。 (4)人生の最終段階における介護を理解することができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜技能＞、＜態度＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：自立に向けた入浴・清潔保持の介護 第2回：自立した入浴・清潔保持の生活支援技術 第3回：清拭の介助(1) 第4回：清拭の介助(2) 第5回：清拭の介助(3) 第6回：洗髪・洗身の介助(1) 第7回：洗髪・洗身の介助(2) 第8回：洗髪・洗身の介助(3) 第9回：特殊浴槽の介助(1) 第10回：特殊浴槽の介助(2) 第11回：入浴・清潔保持の介護における多職種協働 第12回：自立に向けた排泄の介護 第13回：自立した排泄とは 第14回：泄用具を活用した排泄介助 第15回：トイレでの排泄介助 第16回：ポータブルトイレでの排泄介助(1) 第17回：ポータブルトイレでの排泄介助(2) 第18回：ベット上での排泄介助(1) 第19回：ベット上での排泄介助(2) 第20回：ベット上での排泄介助(3) 第21回：休息・睡眠の介護 第22回：自立に向けた休息・睡眠の介護 第23回：休息・睡眠の介護における多職種協働 第24回：人生の最終段階における介護 第25回：人生の最終段階の意義と介護の役割 第26回：人生の最終段階における生活支援技術 第27回：人生の最終段階の介護における多職種協働 第28回：実技試験(1) 第29回：実技試験(2) 第30回：自立に向けた生活支援・まとめ						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	10%	意欲的な受講態度・実習の姿勢・協力、予・復習状況を評価する。			
	レポート	10%	実習記録において目的・実施内容・考察等適切に記述できているか評価する。			
	小テスト	20%	事例に沿った生活支援技術が実施できるか評価する（実技試験）			
	定期試験	60%	授業の内容が理解できているか評価する			
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目は主に演習形式で行い、各生活支援技術の意義・目的・介助方法等理論を学び、実習室での実習で技術を修得していきます。</li> <li>・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な行動を求めます。</li> <li>・利用者の人権および生命を守るという意識を持ち、緊張感を持って取り組んでください。</li> <li>・利用者・介助者双方にとって安全・安楽・安心を意識し、利用者の尊厳の保持し、自立支援ができるようにしましょう。</li> <li>・国家試験対策も含めて講義を展開するので、各自、国家試験対策にも目を通すようにしてください。</li> </ul>						
<b>【授業外学修】</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習として、教科書のうち、講義内容に関わる部分を読み、疑問点を明らかにする。</li> <li>2. 復習として、授業後は授業で扱った資料と教科書を照らし合わせ復習してください。</li> <li>3. 実技は「1回見た、1回した」だけでは身につけません。実習で実際に利用者支援をする際、不安のないようにしっかり練習してください。</li> <li>4. 実習記録の課題を出します。感想を書くだけでなく、根拠を元により考察できるように参考書を見ながら作成しましょう。提出期限をしっかりと守ってください。</li> </ol> <p>短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本講義では、時間外学修時間として、予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。</p>						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	最新介護福祉士養成講座 7 生活支援技術II		中央法規	2,200	978-4-8058-5767-0	
	最新介護福祉士養成講座 6 生活支援技術I		中央法規	2,200	978-4-8058-5766-3	
	自由記載	介護福祉士養成テキスト				
参考書	自由記載					

**【その他】**

実習日は実習服、室内シューズを持参してください。  
頭髪・つめ・装飾品等介護が行える身だしなみを整えてください。

**【担当教員の実務経験の有無】**

有

**【担当教員の实務経験】**

高齢者施設・障害者施設（介護福祉士，社会福祉士，介護支援専門員）

**【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】**

無

**【実務経験をいかした教育内容】**

高齢者施設や障害者施設での経験を活かし、介護現場の現状を伝えながら、基本的知識・技術を学習し、介護福祉士に求められる実践的能力を身につけるように指導する。

授業科目名	生活支援技術Ⅲ		サブタイトル	授業番号	HW312
担当教員名	韓 在 都				
対象学部・学科	総合生活学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
【授業の概要】 「生活支援技術」では、介護を必要とする人がどのような状態であっても、生きていることを実感でき、その人らしく生きるための生活環境づくりをすることで、生活の楽しさや生活の支障の解決についてともに分かち合うことをねらいとする。できるだけなじみのある環境で日常生活が送れるよう、一人ひとりの生活している状態を的確に把握し、自立支援に資する介護を他の職種と連携し、計画的に提供することを理解する。					
【到達目標】 (1)生活支援技術の基本を習得するための原理を説明することができる。 (2)利用者の身体の状態に合わせた介護、環境整備について説明することができる。 (3)要介護度等に応じた在宅・施設等それぞれの場面における介助のポイントを列挙することができる。 (4)利用者がその人らしい生き方を継続する為にどのような支援が必要か説明することができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：人間関係形成の意義と目的 第2回：高齢、障害、認知症から生じる生活課題 第3回：尊厳・プライバシー・生活歴・習慣への配慮 第4回：介護に必要な人間関係の形成（利用者・家族） 第5回：多職種との連携・協働 第6回：ICFに基づいたアセスメント 第7回：移動・移乗のための道具・用具 第8回：身体動作の基本（ボディメカニクス） 第9回：座位・立位・移乗の介護の基本的理解 第10回：安全な「歩行」を支える介護 第11回：安全な「杖歩行」を支える介護 第12回：車いすでの移動を支える介護(1) 第13回：車いすでの移動を支える介護(2)（校内実習） 第14回：車いすでの移動を支える介護(3)（学外実習） 第15回：安楽な姿勢と体位 第16回：体位変換の介助(1) 第17回：体位変換の介助(2) 第18回：ストレッチャーへの移乗介助 第19回：ストレッチャーでの移送介助 第20回：移動用リフトの介助 第21回：移動の介護における他職種の役割と協働 第22回：食事の意義と目的 第23回：食事における生活支援技術(1)（自立） 第24回：食事における生活支援技術(2)（一部介助） 第25回：食事における生活支援技術(3)（全介助） 第26回：口腔ケアの意義と目的 第27回：状態に応じた口腔ケア 第28回：食事の介護における他職種の役割と協働 第29回：生活支援技術の理論まとめ（コミュニケーション・移動・食事） 第30回：生活支援技術の実技まとめ（コミュニケーション・移動・食事）					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な受講態度・実習の姿勢・協力、予・復習状況を評価する。		
	レポート	10%	実習記録において目的・実施内容・考察等適切に記述できているか評価する。		
	小テスト	10%	車椅子や身体部位の名称等の小テストにて評価します		
	定期試験	60%	授業の内容が理解できているか評価する		
	その他				
	自由記載				
【受講の心得】 ・本科目は主に演習形式で行い、各生活支援技術の意義・目的・介助方法等理論を学び、実習室での実習で技術を修得していきます。 ・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な行動を求めます。 ・利用者の人権および生命を守るという意識を持ち、緊張感を持って取り組んでください。 ・利用者・介助者双方にとって安全・安楽・安心を意識し、利用者の尊厳の保持し、自立支援ができるようにしましょう。 ・国家試験対策も含めて講義を展開するので、各自、国家試験対策にも目を通すようにしてください。					
【授業外学修】 1．予習として、教科書のうち、講義内容に関わる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2．復習として、授業後は授業で扱った資料と教科書を照らし合わせ復習してください。 3．実技は「1回見た、1回した」だけでは身につけません。実習で実際に利用者支援をする際、不安のないようにしっかり練習してください。 4．実習記録の課題を出します。感想を書くだけでなく、根拠を元により考察できるように参考書を見ながら作成しましょう。提出期限をしっかりと守ってください。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本講義では、時間外学修時間として予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	最新・介護福祉士養成講座7 生活支援技術II	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規	2420（税込み）	978-4-8058-5767-0
	自由記載	書名：最新・介護福祉士養成講座8「生活支援技術III」著者・編集者：介護福祉士養成講座編集委員会 出版社：中央法規 定価：2,420円（税込）ISBN：978-4-8058-5768-7			
参考書	自由記載				

実習日は実習服、室内シューズを持参してください。  
頭髪・つめ・装飾品等介護が行える身だしなみを整えてください。

**【担当教員の実務経験の有無】**

有

**【担当教員の実務経験】**

介護福祉士・介護職員・訪問介護員

**【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】**

無

**【実務経験をいかした教育内容】**

高齢者施設や障害者施設での経験を活かし、介護現場の現状を伝えながら、基本的知識・技術を学習し、介護福祉士に求められる実践的能力を身につけるように指導する。

授業科目名	生活家事支援技術		サブタイトル		授業番号	HW216
担当教員名	加賀田 江里					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
デモンストレーションを見た後、自身で調理を行う。実際の調理を体験しながら、食生活支援に必要な知識・技術を身に付ける。						
<b>【到達目標】</b>						
食生活支援に必要な基本的な調理の知識・技術について理解し、実践する力を身に付ける。						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自立に向けた食事や調理の介護についての基本的知識が理解できる。</li> <li>2. 食生活支援に必要な調理の基本技術を身に付ける。</li> <li>3. 衛生面に配慮しながら調理を行うことができる。</li> </ol>						
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：自立に向けた家事の介護（調理）、調理実習の心得、調理の意義、調理の介護						
第2回：調理の基礎(1)						
第3回：調理の基礎(2)						
第4回：調理の基礎(3)						
第5回：調理の基礎(4)						
第6回：調理の基礎(5)						
第7回：調理の基礎(6)						
第8回：調理の基礎(7)						
第9回：調理の基礎(8)						
第10回：調理の基礎(9)						
第11回：調理の基礎(10)						
第12回：調理の基礎(11)						
第13回：調理の基礎(12)						
第14回：調理の基礎 献立作成						
第15回：調理の基礎 献立の実践						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	意欲的な受講態度によって評価する。			
	レポート	30%	授業の中で学んだ知識を活かして、メニューレシピを作成し、まとめて提出する。			
	小テスト					
	定期試験	40%	調理に関する基礎的な知識を評価する。			
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
髪を結ぶ、爪を切る、マニキュアは落とす、ピアス、ネックレスなどのアクセサリ類を外す等、実習にふさわしい身支度を整え、安全面・衛生面に十分配慮して実習を行うこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 日頃から食について興味関心をもち、情報収集をすること						
2. 授業で習った内容を復習すること						
以上の内容を週当たり2時間以上学修すること						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	中央法規出版 最新介護福祉士養成講座 6. 生活支援技術			2420円	978-4-8058-5766-3	
	自由記載					
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	無					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	生活余暇支援技術		サブタイトル		授業番号	HW217
担当教員名	名定 慎也					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	必修			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
<p>高齢になり心身機能の低下や障害を患っても、今までの生活同様自分らしく楽しい生活を送ることは人の権利である。介護福祉の専門職として、生きがいの獲得や自己実現に向けた余暇活動支援の知識と能力を学修する。生活余暇支援技術では、他者交流や社会とのつながりを通し、生活の中の楽しみや生きがいを創出できるように、多様なレクリエーション活動について学ぶ。そして、利用者のニーズに応じた余暇活動の立案・実践する。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>利用者の状況・状態に合わせた生活の中での楽しみを計画することができる。 レクリエーション活動の実践を通し生きがいの支援の必要性を理解することができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt; &lt;技能&gt;の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：生活の中の余暇活動支援 第2回：レクリエーション活動の意義と目的 第3回：余暇活動の支援を必要とする人の理解 第4回：レクリエーション活動の実践 第5回：福祉レクリエーション 第6回：回想法の意義と目的 第7回：回想法の実践 第8回：創作活動と生活(1) 第9回：創作活動と生活(2) 第10回：レクリエーション活動計画の作成(1) 第11回：レクリエーション活動計画の作成(2) 第12回：レクリエーション活動の実践(1) 第13回：レクリエーション活動の実践(2) 第14回：レクリエーション活動の評価と再アセスメント 第15回：余暇生活支援の必要性・まとめ</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	10%	意欲的な受講態度・グループワークのリーダーシップ、予・復習状況を評価する。			
	レポート	20%	レクリエーション計画書の内容を評価する			
	小テスト					
	定期試験	50%	授業内容を理解できているか評価する			
	その他	20%	レクリエーションの実践（発表）を評価する			
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目は主に講義と演習形式を組み合わせて進めていきます。</li> <li>・余暇活動支援について体験的に学べるように、グループ討議や実践を多く取り入れます。</li> <li>・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な発言を求めます。</li> <li>・専門的知識と技術をベースに他教科と連動して考える力、応用力も求めています。</li> <li>・自ら考える姿勢や問題意識をもって講義・演習に臨んでください。</li> <li>・対象者に合わせたレクリエーションの立案ができるようになりましょう。</li> </ul>						
<b>【授業外学修】</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予習として、レクリエーション関連の雑誌（レクリエ等）やインターネットから、援助を必要とする方への余暇活動支援、レクリエーション材を集めておく。</li> <li>2. 復習として、授業後は授業で扱った資料や参考所を照らし合わせ復習し、レクリエーションの実践ができるよう練習しましょう。</li> <li>3. レポートは感想だけを述べるのではなく、参考資料や関連事項を調べ主旨を理解し記述するように努めてください。</li> <li>4. グループ課題や個別課題は提出日を考え、計画的に取り組み提出期限を厳守してください。</li> <li>5. 発展学習として、講義で紹介された参考文献を読んでください。</li> </ol> <p>短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本講義では、時間外学修時間として、予習・復習で15時間とする。週1時間程度の授業外学修が必要となっている。</p>						
使用テキスト	自由記載	プリント配布				
参考書	自由記載	レクリエ				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
高齢者施設、障害者施設（介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員）						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
高齢者施設や障害者施設での経験を活かし、介護現場の現状を伝えながら、基本的知識・技術を学習し、介護福祉士に求められる実践的能力を身につけるように指導する。						

授業科目名	総合生活学セミナーKI		サブタイトル	授業番号	HW218
担当教員名	名定 慎也 松井 圭三 韓 在都 中野 ひとみ				
対象学部・学科	総合生活学科	単位数	1単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
【授業の概要】					
総合生活学セミナーKIは、介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学修とする。各領域で学ぶ知識と技術の統合、介護実践の科学的探究を通し、介護実習での学びを深化させるとともに、介護の専門職として思考や態度の形成、自己教育力等を養う総合的な学修とする。					
【到達目標】					
標記の介護実習目標が達成できるように、実習の進め方について理解し、介護実習に必要な知識・技術・姿勢を身につける。 また、実習日誌やレクリエーション計画など記録の書き方を修得する。 (1)介護介護実習の効果を上げるため、事前に実習する施設や事業所について理解できる。 (2)各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につなげることができるようになる。 (3)実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させる。 (4)自己の課題を明確にし、専門職としての態度を身につけることができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>、<思考・問題解決能力>、<技能>、<態度>の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：介護総合演習の位置づけ (担当名定) 第2回：介護実習前の学習の内容と方法 (担当名定) 第3回：介護実習の意義と目的 (担当名定) 第4回：介護実習の種類 (担当名定) 第5回：実習前の学びと、実習後の学びの活かし方 (担当名定) 第6回：介護実習前・実習中・実習後の学習の内容と方法 (担当名定) 第7回：実習Iのねらい (担当名定) 第8回：実習Iの進め方 (担当名定) 第9回：通所介護事業所について (担当名定) 第10回：実習記録の書き方 (担当名定) 第11回：通所介護事業所での実習準備 (担当名定) 第12回：実習I-(2)A 障害者支援施設での実習について (担当名定) 第13回：障害福祉サービス事業所での実習について (担当名定) 第14回：障害者施設での実習準備 (担当名定) 第15回：通所介護実習の振り返り・実習報告会 (担当名定、松井、中野、韓)					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加状況、予習・復習を評価する。		
	レポート	30%	実習の必要書類の提出期限の厳守。実習の自己課題、実習のまとめ等提出物と発表を評価する。		
	小テスト				
	定期試験	50%	学内学習と介護現場での学びを統合し、介護福祉士に必要な知識の定着を評価する。		
	その他				
	自由記載				
【受講の心得】					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目は主に講義形式で行い、グループ討議や演習も組み合わせ進めていきます。</li> <li>・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な発言を求めます。</li> <li>・実習をスムーズに進めるための、専門的知識と技術の定着を図れるように、意欲的に取り組んでください。</li> <li>・自ら考える姿勢や問題意識をもって講義に臨んでください。</li> <li>・実習に必要な姿勢・書類等の準備を行います。提出期限の厳守および、実習に臨める姿勢作りを心がけてください。</li> </ul>					
【授業外学修】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習をスムーズに展開できるように必要な知識・生活支援技術の予習・復習をしてください。</li> <li>2. 自分が行く実習先の情報を、資料やインターネットなどで調べて施設の概要や特徴を理解しておいてください。</li> <li>3. レポートは感想だけを述べるのではなく、参考資料や関連事項を調べ主旨を理解し記述するように努めてください。</li> <li>4. グループ課題や個別課題は提出日を考え、計画的に取り組む提出期限を厳守してください。</li> <li>5. 実習で活用できるレクリエーションや回想法などを準備しておいてください。</li> </ol>					
短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本講義では、時間外学修時間として、予習・復習で15時間とする。週1時間程度の授業外学修が必要となっている。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	最新介護福祉士全書10	介護総合演習・介護実習	中央法規出版	2,200	978-4-8058-5770-0
	自由記載	介護福祉士養成テキスト 実習の手引き			
参考書	自由記載				
	【担当教員の実務経験の有無】 有				
	【担当教員の実務経験】 高齢者施設・障害者施設（介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員）（名定）、観音寺市シルバー・人材センター・職員、観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司（松井）、病院（救命救急、重症熱傷ユニット、脳外科、手術室ほか看護師）市役所（母子保健課、看護師） 高齢者入所施設（看護師・介護支援専門員）（中野）、高齢者施設（訪問介護員）（韓）				
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					



訪問介護での経験を活かし、在宅介護における介護福祉士の役割について実践的に指導する（韓）

**【実務経験をいかした教育内容】**

高齢者施設や障害者施設での経験を活かし、介護現場の現状を伝えながら、基本的知識・技術を学習し、介護福祉士に求められる実践的能力を身につけるように指導する。（名定）

高齢者福祉，障害者福祉において実務経験を踏まえた授業を実践している。（松井）

医療現場や福祉施設での経験を活かし、現場で実践できる介護福祉士に必要な医療的知識や技術を身につけるよう指導する。（中野）

授業科目名	総合生活学セミナーKII		サブタイトル		授業番号	HW219
担当教員名	名定 慎也 松井 圭三 韓 在都 中野 ひとみ					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
総合生活学セミナーKIIは、介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学修とする。各領域で学ぶ知識と技術の統合、介護実践の科学的探究を通し、介護実習での学びを深化させるとともに、介護の専門職として思考や態度の形成、自己教育力等を養う総合的な学修とする。						
<b>【到達目標】</b>						
標記の介護実習目標が達成できるように、実習の進め方について理解し、介護実習に必要な知識・技術・姿勢を身につける。 また、実習日誌やレクリエーション計画など記録の書き方を修得する。 (1)介護介護実習の効果を上げるため、事前に実習する施設や事業所について理解できる。 (2)各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につなげることができるようになる。 (3)実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させる。 (4)自己の課題を明確にし、専門職としての態度を身につけることができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>、<思考・問題解決能力>、<技能>、<態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：障害者施設での実習を終えて (担当名定)						
第2回：障害者施設実習の振り返り・実習報告会 (担当名定、松井、中野、韓)						
第3回：就労支援と社会参加 (担当名定)						
第4回：障がい者の自立(自律)について (担当名定)						
第5回：障がい者施設での(実習I-(2))実習まとめ (担当名定)						
第6回：介護総合演習の位置づけ、介護実習I-(2)Bの意義と目的 (担当名定)						
第7回：介護実習I-(2)Bの学習の内容と方法 (担当名定)						
第8回：訪問介護事業所について (担当名定)						
第9回：在宅における生活支援と相談援助 (担当名定)						
第10回：地域の中で生活をする意義 (担当名定)						
第11回：地域の社会資源について (担当名定)						
第12回：在宅生活を支えるための多職種協働 (担当名定)						
第13回：訪問介護事業所での実習準備(1) (担当名定)						
第14回：訪問介護事業所での実習準備(2) (担当名定)						
第15回：訪問介護事業所での実習に向けて(実習中・実習後の予定の確認等) (担当名定)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加状況、予習・復習を評価する。		
	レポート		30%	実習の必要書類の提出期限の厳守。実習の自己課題、実習のまとめ等提出物と発表を評価する。		
	小テスト					
	定期試験		50%	学内学習と介護現場での学びを統合し、介護福祉士に必要な知識の定着を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目は主に講義形式で行い、グループ討議や演習も組み合わせ進めていきます。</li> <li>・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な発言を求めます。</li> <li>・実習をスムーズに進めるための、専門的知識と技術の定着を図れるように、意欲的に取り組んでください。</li> <li>・自ら考える姿勢や問題意識をもって講義に臨んでください。</li> <li>・実習に必要な姿勢・書類等の準備を行います。提出期限の厳守および、実習に臨める姿勢作りを心がけてください。</li> </ul>						
<b>【授業外学修】</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習をスムーズに展開できるように必要な知識・生活支援技術の予習・復習をしてください。</li> <li>2. 自分が行く実習先の情報を、資料やインターネットなどで調べて施設の概要や特徴を理解しておいてください。</li> <li>3. レポートは感想だけを述べるのではなく、参考資料や関連事項を調べ主旨を理解し記述するように努めてください。</li> <li>4. グループ課題や個別課題は提出日を考え、計画的に取り組む提出期限を厳守してください。</li> <li>5. 実習で活用できるレクリエーションや回想法などを準備しておいてください。</li> </ol>						
短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本講義では、時間外学修時間として、予習・復習で15時間とする。週1時間程度の授業外学修が必要となっている。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	最新介護福祉士全書10		介護総合演習・介護実習	中央法規出版	2,200	978-4-8058-5770-0
参考書	自由記載		介護福祉士養成テキスト 実習の手引き			
	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
高齢者施設・障害者施設(介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員)(名定)、観音寺市シルバー・人材センター・職員、観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司(松井)、病院(救命救急、重症熱傷ユニット、脳外科、手術室ほか看護師)市役所(母子保健課、看護師)高齢者入所施設(看護師・介護支援専門員)(中野)、高齢者施設(訪問介護員)(韓)						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

訪問介護での経験を活かし、在宅介護における介護福祉士の役割について実践的に指導する（韓）

**【実務経験をいかした教育内容】**

高齢者施設や障害者施設での経験を活かし、介護現場の現状を伝えながら、基本的知識・技術を学習し、介護福祉士に求められる実践的能力を身につけるように指導する。（名定）

高齢者福祉，障害者福祉において実務経験を踏まえた授業を実践している。（松井）

医療現場や福祉施設での経験を活かし、現場で実践できる介護福祉士に必要な医療的知識や技術を身につけるよう指導する。（中野）

授業科目名	総合生活学セミナーK III		サブタイトル		授業番号	HW313
担当教員名	名定 慎也 松井 圭三 韓 在都 中野 ひとみ					
対象学部・学科	総合生活学科			単位数	1単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
総合生活学セミナーKIIIは、介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学修とする。各領域で学ぶ知識と技術の統合、介護実践の科学的探究を通し、介護実習での学びを深化させるとともに、介護の専門職として思考や態度の形成、自己教育力等を養う総合的な学修とする。						
<b>【到達目標】</b>						
標記の介護実習目標が達成できるように、実習の進め方について理解し、介護実習に必要な知識・技術・姿勢を身につける。 また、実習日誌やレクリエーション計画など記録の書き方を修得する。 (1)介護介護実習の効果を上げるため、事前に実習する施設や事業所について理解できる。 (2)各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につなげることができるようになる。 (3)実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させる。 (4)自己の課題を明確にし、専門職としての態度を身につけることができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>、<思考・問題解決能力>、<技能>、<態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：訪問介護事業所の実習を終えて (担当名定)						
第2回：訪問介護実習の振り返り・実習報告会 (担当名定、松井、中野、韓)						
第3回：訪問介護実習での(実習I-(2)B)実習まとめ (担当名定)						
第4回：介護実習I-(3)の意義と目的 (担当名定)						
第5回：地域密着型施設について (担当名定)						
第6回：認知症対応型共同生活介護・小規模多機能型居宅介護での実習準備 (担当名定)						
第7回：地域密着型施設での実習を終えて (担当名定)						
第8回：地域密着型実習の振り返り・実習報告会 (担当名定、松井、中野、韓)						
第9回：施設・在宅での生活支援技術について (担当名定)						
第10回：家族との連携・地域との連携 (担当名定)						
第11回：介護実習まとめ (担当名定)						
第12回：実習IIのねらい・進め方 (担当名定)						
第13回：実習における介護過程の展開 (担当名定)						
第14回：実習IIIにおける個別支援計画の作成 (担当名定)						
第15回：実習IIIに向けて・まとめ (担当名定)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加状況、予習・復習を評価する。		
	レポート		30%	実習の必要書類の提出期限の厳守。実習の自己課題、実習のまとめ等提出物と発表を評価する。		
	小テスト					
	定期試験		50%	学内学習と介護現場での学びを統合し、介護福祉士に必要な知識の定着を評価する。		
その他						
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目は主に講義形式で行い、グループ討議や演習も組み合わせ進めていきます。</li> <li>・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な発言を求めます。</li> <li>・実習をスムーズに進めるための、専門的知識と技術の定着を図れるように、意欲的に取り組んでください。</li> <li>・自ら考える姿勢や問題意識をもって講義に臨んでください。</li> <li>・実習に必要な姿勢・書類等の準備を行います。提出期限の厳守および、実習に臨める姿勢作りを心がけてください。</li> </ul>						
<b>【授業外学修】</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習をスムーズに展開できるように必要な知識・生活支援技術の予習・復習をしてください。</li> <li>2. 自分が行く実習先の情報を、資料やインターネットなどで調べて施設の概要や特徴を理解しておいてください。</li> <li>3. レポートは感想だけを述べるのではなく、参考資料や関連事項を調べ主旨を理解し記述するように努めてください。</li> <li>4. グループ課題や個別課題は提出日を考え、計画的に取り組み提出期限を厳守してください。</li> <li>5. 実習で活用できるレクリエーションや回想法などを準備しておいてください。</li> </ol>						
短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本講義では、時間外学修時間として、予習・復習で15時間とする。週1時間程度の授業外学修が必要となっている。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	最新介護福祉士全書10		介護総合演習・介護実習	中央法規出版	2,200	978-4-8058-5770-0
	自由記載	介護福祉士養成テキスト 実習の手引き				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
高齢者施設・障害者施設(介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員)(名定)、観音寺市シルバー・人材センター・職員、観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司(松井)、病院(救命救急、重症熱傷ユニット、脳外科、手術室ほか看護師)市役所(母子保健課、看護師)高齢者入所施設(看護師・介護支援専門員)(中野)、高齢者施設(訪問介護員)(韓)						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

訪問介護での経験を活かし、在宅介護における介護福祉士の役割について実践的に指導する（韓）

**【実務経験をいかした教育内容】**

高齢者施設や障害者施設での経験を活かし、介護現場の現状を伝えながら、基本的知識・技術を学習し、介護福祉士に求められる実践的能力を身につけるように指導する。（名定）

高齢者福祉，障害者福祉において実務経験を踏まえた授業を実践している。（松井）

医療現場や福祉施設での経験を活かし、現場で実践できる介護福祉士に必要な医療的知識や技術を身につけるよう指導する。（中野）

授業科目名	総合生活学セミナーKIV		サブタイトル		授業番号	HW314
担当教員名	名定 慎也 松井 圭三 韓 在都 中野 ひとみ					
対象学部・学科	総合生活学科		単位数	1単位		
開講年次	2年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b>						
総合生活学セミナーKIVは、介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学修とする。各領域で学ぶ知識と技術の統合、介護実践の科学的探究を通じ、介護実習での学びを深化させるとともに、介護の専門職として思考や態度の形成、自己教育力等を養う総合的な学修とする。						
<b>【到達目標】</b>						
標記の介護実習目標が達成できるように、実習の進め方について理解し、介護実習に必要な知識・技術・姿勢を身につける。 また、実習日誌やレクリエーション計画など記録の書き方を修得する。 (1)介護介護実習の効果を上げるため、事前の実習する施設や事業所について理解できる。 (2)各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につなげることができるようになる。 (3)実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させる。 (4)自己の課題を明確にし、専門職としての態度を身につけることができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>、<思考・問題解決能力>、<技能>、<態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：実習IIにおける介護過程の展開方法(1) (担当名定)						
第2回：実習IIにおける介護過程の展開方法(2) (実習におけるスーパービジョン) (担当名定)						
第3回：実習IIにおける記録について (担当名定)						
第4回：実習IIの準備 (担当名定)						
第5回：実習II (介護保険施設実習) を終えて (担当名定)						
第6回：自己評価と客観的評価 (担当名定)						
第7回：実習のまとめ、実習報告会 (担当名定、松井、中野、韓)						
第8回：学びの共有・深化 (担当名定)						
第9回：自己の課題と展望 (担当名定)						
第10回：介護実践の研究 (担当名定)						
第11回：研究の意義と目的 (担当名定)						
第12回：研究方法の理解 (担当名定)						
第13回：倫理的配慮 (担当名定)						
第14回：研究内容の発表 (担当名定)						
第15回：実習IIまとめ (担当名定)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加状況、予習・復習を評価する。		
	レポート		30%	実習の必要書類の提出期限の厳守。実習の自己課題、実習のまとめ等提出物と発表を評価する。		
	小テスト					
	定期試験		50%	学内学習と介護現場での学びを統合し、介護福祉士に必要な知識の定着を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目は主に講義形式で行い、グループ討議や演習も組み合わせ進めていきます。</li> <li>・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な発言を求めます。</li> <li>・実習をスムーズに進めるための、専門的知識と技術の定着を図れるように、意欲的に取り組んでください。</li> <li>・自ら考える姿勢や問題意識をもって講義に臨んでください。</li> <li>・実習に必要な姿勢・書類等の準備を行います。提出期限の厳守および、実習に臨める姿勢作りを心がけてください。</li> </ul>						
<b>【授業外学修】</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習をスムーズに展開できるように必要な知識・生活支援技術の予習・復習をしてください。</li> <li>2. 自分が行く実習先の情報を、資料やインターネットなどで調べて施設の概要や特徴を理解しておいてください。</li> <li>3. レポートは感想だけを述べるのではなく、参考資料や関連事項を調べ主旨を理解し記述するように努めてください。</li> <li>4. グループ課題や個別課題は提出日を考え、計画的に取り組む提出期限を厳守してください。</li> <li>5. 実習で活用できるレクリエーションや回想法などを準備しておいてください。</li> </ol>						
短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本講義では、時間外学修時間として、予習・復習で15時間とする。週1時間程度の授業外学修が必要となっている。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	最新介護福祉士全書10		介護総合演習・介護実習	中央法規出版	2,200	978-4-8058-5770-0
参考書	自由記載		介護福祉士養成テキスト 実習の手引き			
	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
高齢者施設・障害者施設（介護福祉士，社会福祉士，介護支援専門員）（名定），観音寺市シルバー・人材センター・職員，観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司（松井），病院（救命救急，重症熱傷ユニット，脳外科，手術室ほか看護師）市役所（母子保健課，看護師） 高齢者入所施設（看護師・介護支援専門員）（中野），高齢者施設（訪問介護員）（韓）						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

訪問介護での経験を活かし、在宅介護における介護福祉士の役割について実践的に指導する（韓）

**【実務経験をいかした教育内容】**

高齢者施設や障害者施設での経験を活かし、介護現場の現状を伝えながら、基本的知識・技術を学習し、介護福祉士に求められる実践的能力を身につけるように指導する。（名定）

高齢者福祉，障害者福祉において実務経験を踏まえた授業を実践している。（松井）

医療現場や福祉施設での経験を活かし、現場で実践できる介護福祉士に必要な医療的知識や技術を身につけるよう指導する。（中野）

授業科目名	介護過程I		サブタイトル		授業番号	HW220
担当教員名	韓 在都					
対象学部・学科	総合生活学科		単位数	1単位		
開講年次	1年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b> 本講義では、介護福祉における介護過程の意義と目的を理解し、基本となる考え方を講義する。 他の教科で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開、介護計画を立案したうえで適切なサービスの提供ができる能力を養うための講義を行う。 介護過程の意義を理解し、介護現場で展開できる力を身につけるための講義を行う。						
<b>【到達目標】</b> (1)介護過程の構成要素を列挙することができる。 (2)介護過程の意義を理解し、介護実践に結びつけるポイントの説明ができる。 (3)情報収集、解釈・関連づけ・統合化、課題の明確化に実際に追体験する。 (4)事例を用いて介護過程を展開する目的と効果について説明することができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：介護過程とはなにか（目的・人を理解する） 第2回：介護過程の構成要素・意義 第3回：介護過程におけるニーズ(1)（介護福祉士の役割） 第4回：介護過程におけるニーズ(2)（生活上のニーズ・ニーズをめぐる理論） 第5回：介護過程におけるニーズ(4)（ニーズをとらえる7つの視点） 第6回：介護過程におけるニーズ(5)（介護過程とICFとの関係） 第7回：介護過程のアセスメント（1）（アセスメント・情報収集(1)） 第8回：介護過程のアセスメント（2）（アセスメント・情報収集(2)） 第9回：介護過程のアセスメント(3)（ニーズの明確化・優先順位の検討(1)） 第10回：介護過程のアセスメント(4)（ニーズの明確化・優先順位の検討(2)） 第11回：事例を用いた介護過程の展開(1)-1（情報収集・アセスメント・実施計画）グループワーク 第12回：事例を用いた介護過程の展開(1)-2（発表）グループワーク 第13回：事例を用いた介護過程の展開(2)-1（情報収集・アセスメント・実施計画）グループワーク 第14回：事例を用いた介護過程の展開(2)-2（発表）グループワーク 第15回：まとめ（国家試験対策）・総合学習						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加、予・復習によって評価する。		
	レポート		10%	課題やレポートにコメントを記入して返却する。		
	小テスト		10%	各回の主要ポイントの理解を評価する。		
	定期試験		60%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
	自由記載	受講態度、課題提出、定期試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。				
<b>【受講の心得】</b> 本講義は講義形式とグループ討議で進めていきます。 テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。 ・予習と授業中の積極的な発言を求めます。 ・他教科との連動して考える力、専門的知識と技術が応用力が求められます。 ・自ら考える姿勢で講義に臨んでください。 ・国家試験対策も含めて講義を展開します。 実習を含めて、必ず必要となる知識ですので、しっかり習得していきましょう。 難解な言葉が多くありますが、わからないことは調べるなどして学修を進めていくことが必要です。						
<b>【授業外学修】</b> 1. 予習として、教科書のうち、講義内容に関わる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2. 復習として、課題のレポートを書く。 3. 発展学習として、講義で紹介された参考文献を読む。  短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本講義では、時間外学修時間として予習・復習で15時間とする。週1時間の授業外学修が必要となっている。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	介護過程		介護福祉士養成講座 9	中央法規	2200（税別）	978-4-8058-5769-4
	自由記載					
参考書	自由記載					
	<b>【その他】</b> その都度参考資料を配布します。ファイリングしてください。					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有					
<b>【担当教員の实務経験】</b> 介護福祉士・介護職員・訪問介護員						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 高齢者施設における経験を活かし、実践的能力が身につくように指導する。						



授業科目名	介護過程II		サブタイトル		授業番号	HW221
担当教員名	名定 慎也					
対象学部・学科	総合生活学科		単位数	1単位		
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b>						
<p>本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を修得する学修とする。</p> <p>介護過程IIでは、個別事例を通じた介護過程の展開の実際について、介護総合演習や介護実習、生活支援技術等他の科目との連動を視野に入れて、介護過程を展開できる能力を養う。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>(1)個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開ができるようにする</p> <p>(2)居宅サービス計画・施設サービス計画についても理解し、個別に応じた介護過程の展開が理解できるようになる。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt;、&lt;思考・問題解決能力&gt;の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：介護過程の実践的展開  第2回：「介護過程」展開の実際  第3回：事例1における介護過程の展開  第4回：事例2における介護過程の展開  第5回：事例3における介護過程の展開  第6回：事例4における介護過程の展開  第7回：介護過程とケアマネジメントの関係性  第8回：チームアプローチによる介護福祉士の役割  第9回：利用者のさまざまな生活と介護過程の展開  第10回：事例で考える利用者の生活と介護過程(1)  第11回：事例で考える利用者の生活と介護過程(2)  第12回：事例で考える利用者の生活と介護過程(3)  第13回：事例で考える利用者の生活と介護過程(4)  第14回：事例で考える利用者の生活と介護過程(5)  第15回：介護過程の展開方法・まとめ</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	10%	意欲的な受講態度・グループワークの参加状況、予・復習状況を評価する。			
	レポート	20%	介護過程の展開で作成した資料を評価する			
	小テスト					
	定期試験	70%	授業内容が理解できているか評価する			
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
<p>本科目は講義・演習形式をとり、個別ワーク・グループワークヲ実施しながら進めていきます。</p> <p>実習ではひとりで介護過程を展開していくので、介護過程の展開技法を修得してください。</p> <p>テキストの事例を基に介護過程を展開していくため、期限を守るようにしてください。</p> <p>積極的に発言し、グループワークを円滑にしてください。</p> <p>疑問点は必ず質問し、解決して進めてください。</p> <p>他教科で学んだことを統合し、専門的知識と技術の応用力を求めています。</p> <p>自分のグループ内の役割を意識しチームビルディングを図ってください。</p>						
<b>【授業外学修】</b>						
<p>1. 予習として、教科書をしっかり読んで、利用者に応じた介護計画の立案に努めてください。</p> <p>2. 復習として、介護過程の資料を見直し、根拠を考え、的確な資料作りをしてください。</p> <p>3. この講義は、事例に応じた介護過程の展開を考え、介護計画書を作成します。精度の高い資料の作成は授業時間だけでは完成しません。しっかり授業外学修を行ってください。</p> <p>4. 介護計画書は思いだけで作るのではなく、エビデンスが必要です。他の教科の教科書や参考書から、事実に基づいた記述を心がけてください。</p> <p>短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。</p> <p>本講義では、時間外学修時間として、予習・復習で15時間とする。週1時間程度の授業外学修が必要となっている。</p>						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	最新介護福祉士全書9 介護過程			中央法規	2,200	978-4-8058-5769-4
	自由記載	介護福祉士養成テキスト				
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有					
	<b>【担当教員の実務経験】</b> 高齢者施設・障害者施設（介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員）					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 高齢者施設や障害者施設での経験を活かし、介護現場の現状を伝えながら、基本的知識・技術を学習し、介護福祉士に求められる実践的能力を身につけるように指導する。						

授業科目名	介護過程Ⅲ		サブタイトル	授業番号	HW315
担当教員名	韓 在都				
対象学部・学科	総合生活学科	単位数	1単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b>					
介護計画を立案して適切なサービスを提供するためには、ケアマネジメント過程の中で、多職種連携や社会資源などの利用によるチームアプローチが必要なことを学ぶ。介護過程Ⅲに引き続き、事例を通して介護過程の展開を実施し、介護実習で体験した事例を振り返りながら介護実践の評価の方法を学ぶ。介護過程の展開が適切に展開できることを目標とする。					
<b>【到達目標】</b>					
(1)介護過程Ⅰ、Ⅱで学習した内容を活用し、介護過程の展開について説明することができる。 (2)様々な事例を通して適切な介護計画を立案する際に根拠に基づいた思考ができる。 (3)どのような利用者についても適切に介護過程を展開できる力を身につける。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度>の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：事例から学ぶアセスメントの実際 第2回：事例から学ぶアセスメントの実際 第3回：事例から学ぶ介護計画の立案 第4回：事例から学ぶ介護計画の立案（5W1Hの視点から） 第5回：事例から学ぶ援助内容と実践方法（ICFの視点から） 第6回：事例から学ぶ援助内容と実践方法（PDCAサイクルの視点から） 第7回：事例から学ぶ援助内容と実践方法（多職種連携の視点から） 第8回：事例から学ぶ援助内容と実践方法（社会資源の活用の視点から） 第9回：中間評価・・・事例検討を行い、介護過程の展開について理解する 第10回：評価の意義と展開、評価の内容や項目を理解する 第11回：評価の留意点を理解する（5W1HとICFの視点から） 第12回：評価の留意点を理解する（PDCAサイクルの視点から） 第13回：計画修正について（5W1HとICFの視点から） 第14回：計画修正について（PDCAサイクル、多職種連携、社会資源の視点から） 第15回：まとめと振り返り（介護過程展開の理解）					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的に授業に取り組みめたか、提出状況、指導教員との質疑応答等を評価する		
	レポート	30%	根拠に基づく事例研究ができたか評価する		
	小テスト				
	定期試験	50%	介護過程の展開、ICFと介護計画の関連について理解の程度を評価する		
	その他				
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b>					
介護福祉士コースの1年間を学習して得た知識と介護実習の体験をもとに、介護現場でフルに活用できる専門的知識・技術を深める科目です。介護福祉士は介護過程に沿った介護実践を行い、評価することで、自己を振り返り、新たな課題を発見することが日々の援助です。常に問題意識を持って、探究する楽しさを感じ意欲的に取り組んでください。					
<b>【授業外学修】</b>					
1. この科目は事例をもとに対人援助の基本的な知識を学ぶことが目標です。 2. 今までの学んできた知識や経験を活かしながら、対人援助についてより深い知識を重ねる、介護の集大成的な科目であることを理解してください。 3. 授業中に行われるグループディスカッションに積極的に参加してください。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本講義では、時間外学修時間として予習・復習で15時間とする。週1時間の授業外学修が必要となっている。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	介護過程	介護福祉士養成講座 9	中央法規	2200円（税別）	978-4-8058-5769-4
	自由記載	書名：最新・介護福祉士養成講座10「介護総合演習・介護実習」著者・編集者：介護福祉士養成講座編集委員会 出版社：中央法規 定価：2,420円（税込）ISBN：978-4-8058-5770-0			
参考書	自由記載	専攻科修了研究 その他授業の中で参考図書を紹介しします			
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>				
	有				
	<b>【担当教員の実務経験】</b>				
	介護福祉士・介護職員・訪問介護員				
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
高齢者施設や障害者施設での経験を活かし、介護現場の現状を伝えながら、基本的知識・技術を学習し、介護福祉士に求められる実践的能力を身につけるように指導する					

授業科目名	介護実習I-(1)		サブタイトル		授業番号	HW222
担当教員名	名定 慎也 松井 圭三 韓 在都 中野 ひとみ					
対象学部・学科	総合生活学科		単位数	2単位		
開講年次	1年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	実習		
<b>【授業の概要】</b> 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を修得する学修とする。 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学修とする。 介護実習Iでは、個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、生活支援技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。						
<b>【到達目標】</b> (1)地域における多様な介護の現場における生活支援について見学し、その特徴や役割を理解する。 (2)利用者・家族とコミュニケーションを図り、利用者理解を深める。 (3)日常生活援助を見学し、可能な範囲で体験し、介護福祉士の生活支援について理解する。 (4)他職種の役割と他職種との連携・協働について理解する。 (5)介護理念・職業倫理について理解を深めることができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>、<思考・問題解決能力>、<技能>、<態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b> 実習I-(1) 通所介護事業所（デイサービス・デイケア） 1日8時間×10日間（80時間）7月の第2週～3週に実施 通所介護事業を通し、在宅生活支援における介護サービスについて実習を行なう。 <b>【内容】</b> 通所介護事業所の特徴・役割の理解、介護福祉士の役割・生活支援の理解、介護保険制法の理解、利用者・家族とのコミュニケーションからの利用者理解、生活支援技術の見学・実践、サービス担当者会議等にて多職種協働の理解、実習の振り返り						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		25%	実習への意欲、積極性、誠実性、立ち居振る舞い等実習に取り組む姿勢を評価する。		
	レポート		25%	実習記録が丁寧に記述し、根拠に基づいた考察および意見が述べられているか等記録物を評価する。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他		50（実習担当者25・教員25）%	実習担当者と教員が実習目標の達成度を評価する。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b> 実習において「社会福祉士又は介護福祉士法」に基づく倫理条項（誠実義務・信用失墜行為の禁止・秘密保持・連携・資質向上の責務・名称の使用制限等）の遵守を念頭において実習に望んでください。 (1) 実習期間中は実習施設の服務規程に従い、施設長をはじめ職員からの指導を受け、施設の方針を妨げないようにすること。 (2) 疑問に感じたこと、不明なことは必ず質問し、現状を理解した上で判断・行動すること。 (3) 実習生の言動は利用者に影響を与えるものであるから、常に施設職員に準ずる良識に基づいた行動をとらなければならない。 (4) 実習は将来専門職に就くための準備である。学生の本分を忘れず自己研鑽に努めること。 (5) 言葉遣いや態度に気をつけること。 (6) 担当教員には報告・連絡・相談の徹底を図ること。						
<b>【授業外学修】</b> 1. 介護保険施設での実習となるため、実習に必要なテキストをしっかりと読んで、介護福祉士について学ぶ学生としてふさわしい知識・技術で実習に望めるように予習・復習をしてください。 2. 毎日、実習記録を帰宅後に作成し、1日の出来事を振り返ってください。わからない用語や翌日の実習に必要な事柄について学修し準備してください。 3. レクリエーションや回想法など積極的に活用し、信頼関係の構築、利用者理解が深められるように準備をしてください。 4. 実習期間は時間を計画的に使い、体力の回復・健康、学修等自己管理を怠らないようにしてください。 5. 実習期間中は、施設職員、実習生の活動及び配慮事項を時系列に沿って事実を実習日誌に記入する。 また、その他介護過程の展開、レクリエーション計画表などを作成する。 以上の内容を、毎日2時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	最新介護福祉士養成講座3 介護の基本I			中央法規	2,200	978-4-8058-5763-2
	最新介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習			中央法規	2,200	978-4-8058-5770-0
	最新介護福祉士養成講座4 介護の基本II			中央法規	2,200	978-4-8058-5764-9
	自由記載	介護福祉士養成テキスト（介護の基本I・II、生活支援技術I・II、介護総合演習・介護実習等）介護実習の手引き				
参考書	自由記載					
	<b>【その他】</b> 実習ファイルを準備します。書類の管理をしてください。					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有					

	高齢者入所施設（看護師・介護支援専門員）（中野）、高齢者施設（訪問介護員）（韓）
	<p><b>【担当教員の業務経験に関する実務経験者の有無】</b></p> <p>高齢者施設・障害者施設（介護福祉士，社会福祉士，介護支援専門員）(名定)，観音寺市シルバ - 人材センタ - 職員，観音寺市福祉事務所身体障害者福祉  <small>司(松井)</small>，病院（救命救急，重症熱傷ユニット，脳外科，手術室ほか看護師）市役所（母子保健課，看護師）</p>
	<p><b>【担当教員以外の指導に関する実務経験者】</b></p> <p>実習指導者（介護福祉士）</p>
	<p><b>【実務経験をいかした教育内容】</b></p> <p>高齢者施設や障害者施設での経験を活かし，介護現場の現状を伝えながら，基本的知識・技術を学習し，介護福祉士に求められる実践の能力を身につけるように指導する。  (名定)</p> <p>高齢者福祉，障害者福祉において実務経験を踏まえた授業を実践している。(松井)</p> <p>医療現場や福祉施設での経験を活かし，現場で実践できる介護福祉士に必要な医療的知識や技術を身につけるよう指導する。(中野)</p> <p>訪問介護での経験を活かし，在宅介護における介護福祉士の役割について実践的に指導する(韓)</p>

授業科目名	介護実習I-(2)		サブタイトル		授業番号	HW223
担当教員名	名定 慎也 松井 圭三 韓 在都 中野 ひとみ					
対象学部・学科	総合生活学科		単位数	2単位		
開講年次	1年		開講期	通年		
必修・選択	選択		授業形態	実習		
<p><b>【授業の概要】</b>  地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を修得する学修とする。  本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学修とする。  介護実習Iでは、個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、生活支援技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。</p>						
<p><b>【到達目標】</b>  実習 A  (1)地域における多様な介護の現場における生活支援について見学し、その特徴や役割を理解する。  (2)利用者・家族とコミュニケーションを図り、利用者理解を深める。  (3)日常生活援助を見学し、可能な範囲で体験し、介護福祉士の生活支援について理解する。  (4)他職種の役割と他職種との連携・協働について理解する。  (5)介護理念・職業倫理について理解を深めることができる。</p> <p>実習 B  (1)地域における多様な介護の現場における生活支援について見学し、その特徴や役割を理解する。  (2)利用者・家族とコミュニケーションを図り、利用者理解を深める。  (3)日常生活援助を見学し、可能な範囲で体験し、介護福祉士の生活支援について理解する。  (4)他職種の役割と他職種との連携・協働について理解する。  (5)介護理念・職業倫理について理解を深めることができる。  なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞、＜思考・問題解決能力＞、＜技能＞、＜態度＞の修得に貢献する。</p>						
<p><b>【授業計画】</b></p> <p>&lt;実習 A &gt;  障害福祉事業所（障害者支援施設、就労継続支援A・B型事業所）  1日7.5時間×8日間（60時間）9月の第2週～3週に実施  障害福祉事業における生活支援及び就労支援を通し障害者支援について実習を行なう。</p> <p><b>【内容】</b>  障害者支援事業の特徴・役割の理解、障害者福祉サービスでの生活支援の理解、障害者総合支援法の理解、障がい者の自立支援・社会参加の理解、生活支援技術の見学・実践、サービス担当者会議等にて多職種協働の理解、実習の振り返り</p> <p>&lt;実習 B &gt;  訪問介護事業所  1日6時間×5日間（30時間）2月の第2・3週に実施  在宅生活継続のためのケアマネジメントにおける介護サービスについて実習を行なう。</p> <p><b>【内容】</b>  訪問介護事業所の特徴・役割の理解、訪問介護員の生活支援の理解、介護保険制度・障害者総合支援法の理解、サービス担当者会議等にて多職種協働の理解、実習の振り返り</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		25%	実習への意欲、積極性、誠実性、立ち居振る舞い等実習に取り組む姿勢を評価する。		
	レポート		25%	実習記録が丁寧に記述し、根拠に基づいた考察および意見が述べられているか等記録物を評価する。		
	小テスト					
	定期試験					
その他		50（実習担当者25・教員25）%	実習担当者と教員が実習目標の達成度を評価する。			
自由記載						
<p><b>【受講の心得】</b>  実習において「社会福祉士又は介護福祉士法」に基づく倫理条項（誠実義務・信用失墜行為の禁止・秘密保持・連携・資質向上の責務・名称の使用制限等）の遵守を念頭において実習に望んでください。  (1) 実習期間中は実習施設の服務規程に従い、施設長をはじめ職員からの指導を受け、施設の方針を妨げないようにすること。  (2) 疑問に感じたこと、不明なことは必ず質問し、現状を理解した上で判断・行動すること。  (3) 実習生の言動は利用者に影響を与えるものであるから、常に施設職員に準ずる良識に基づいた行動をとらなければならない。  (4) 実習は将来専門職に就くための準備である。学生の本分を忘れず自己研鑽に努めること。  (5) 言葉遣いや態度に気をつけること。  (6) 担当教員には報告・連絡・相談の徹底を図ること。</p>						
<p><b>【授業外学修】</b>  1. 介護保険施設での実習となるため、実習に必要なテキストをしっかりと読んで、介護福祉士について学ぶ学生としてふさわしい知識・技術で実習に望めるように予習・復習をしてください。  2. 毎日、実習記録を帰宅後に作成し、1日の出来事を振り返ってください。わからない用語や翌日の実習に必要な事柄について学修し準備してください。  3. レクリエーションや回想法など積極的に活用し、信頼関係の構築、利用者理解が深められるように準備をしてください。  4. 実習期間は時間を計画的に使い、体力の回復・健康、学修等自己管理を怠らないようにしてください。  5. 実習期間中は、施設職員、実習生の活動及び配慮事項を時系列に沿って事実を実習日誌に記入する。  また、その他介護過程の展開、レクリエーション計画表などを作成する。</p> <p>以上の内容を、毎日2時間以上学修すること。</p>						

使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	最新介護福祉士全書4 介護の基本II		中央法規	2,200	978-4-8058-5764-9
	最新介護福祉士全書10 介護総合演習・介護実習		中央法規	2,200	978-4-8058-5770-0
	自由記載	介護福祉士養成テキスト（介護の基本I・II，生活支援技術I・II，介護総合演習・介護実習等）介護実習の手引き			
参考書	自由記載				
	【その他】	実習ファイルを準備します。書類の管理をしてください。			
	【担当教員の実務経験の有無】	有			
	【担当教員の实務経験】	高齢者施設・障害者施設（介護福祉士，社会福祉士，介護支援専門員）（名定），観音寺市シルバー - 人材センター - 職員，観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司（松井），病院（救命救急，重症熱傷ユニット，脳外科，手術室ほか看護師）市役所（母子保健課，看護師） 高齢者入所施設（看護師・介護支援専門員）（中野），高齢者施設（訪問介護員）（韓）			
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】	有				
【担当教員以外の指導に関わる実務経験者】	実習指導者（介護福祉士）				
【実務経験をいかした教育内容】	<p>高齢者施設や障害者施設での経験を活かし，介護現場の現状を伝えながら，基本的知識・技術を学習し，介護福祉士に求められる実践的能力を身につけるように指導する。（名定）</p> <p>高齢者福祉，障害者福祉において実務経験を踏まえた授業を実践している。（松井）</p> <p>医療現場や福祉施設での経験を活かし，現場で実践できる介護福祉士に必要な医療的知識や技術を身につけるよう指導する。（中野）</p> <p>訪問介護での経験を活かし，在宅介護における介護福祉士の役割について実践的に指導する（韓）</p>				

授業科目名	介護実習I-(3)		サブタイトル		授業番号	HW311
担当教員名	名定 慎也 松井 圭三 韓 在都 中野 ひとみ					
対象学部・学科	総合生活学科		単位数	2単位		
開講年次	2年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	実習		
<b>【授業の概要】</b>						
<p>地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を修得する学修とする。</p> <p>本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学修とする。</p> <p>介護実習Iでは、個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、生活支援技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>(1)地域における多様な介護の現場における生活支援について見学し、その特徴や役割を理解する。</p> <p>(2)利用者・家族とコミュニケーションを図り、利用者理解を深める。</p> <p>(3)日常生活援助を見学し、可能な範囲で体験し、介護福祉士の生活支援について理解する。</p> <p>(4)他職種の役割と他職種との連携・協働について理解する。</p> <p>(5)介護理念・職業倫理について理解を深めることができる。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt;、&lt;思考・問題解決能力&gt;、&lt;技能&gt;、&lt;態度&gt;の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
実習I - (3) 地域密着型施設（小規模多機能型居宅介護・認知症対応型共同生活介護）						
1日8時間×10日間（80時間）2年次5月の第4週～5週に実施						
地域密着型施設における地域に根ざした介護サービスについて実習を行う。						
<b>【内容】</b>						
地域密着型施設の特徴・役割の理解、地域密着型施設での生活支援の理解、介護保険制度の理解、介護過程の展開（アセスメント、計画の立案）生活支援技術の実践、サービス担当者会議等にて多職種協働の理解、実習の振り返り						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		25%	実習への意欲、積極性、誠実性、立ち居振る舞い等実習に取り組む姿勢を評価する。		
	レポート		25%	実習記録が丁寧記述し、根拠に基づいた考察および意見が述べられているか等記録物を評価する。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他		50（実習担当者25・教員25）%	実習担当者と教員が実習目標の達成度を評価する。		
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
<p>実習において「社会福祉士又は介護福祉士法」に基づく倫理条項（誠実義務・信用失墜行為の禁止・秘密保持・連携・資質向上の責務・名称の使用制限等）の遵守を念頭において実習に望んでください。</p> <p>(1) 実習期間中は実習施設の服務規程に従い、施設長をはじめ職員からの指導を受け、施設の方針を妨げないようにすること。</p> <p>(2) 疑問に感じたこと、不明なことは必ず質問し、現状を理解した上で判断・行動すること。</p> <p>(3) 実習生の言動は利用者に影響を与えるものであるから、常に施設職員に準ずる良識に基づいた行動をとらなければならない。</p> <p>(4) 実習は将来専門職に就くための準備である。学生の本分を忘れず自己研鑽に努めること。</p> <p>(5) 言葉遣いや態度に気をつけること。</p> <p>(6) 担当教員には報告・連絡・相談の徹底を図ること。</p>						
<b>【授業外学修】</b>						
<p>1. 介護保険施設での実習となるため、実習に必要なテキストをしっかりと読んで、介護福祉士について学ぶ学生としてふさわしい知識・技術で実習に望めるように予習・復習をしてください。</p> <p>2. 毎日、実習記録を帰宅後に作成し、1日の出来事を振り返ってください。わからない用語や翌日の実習に必要な事柄について学修し準備してください。</p> <p>3. レクリエーションや回想法など積極的に活用し、信頼関係の構築、利用者理解が深められるように準備をしてください。</p> <p>4. 実習期間は時間を計画的に使い、体力の回復・健康、学修等自己管理を怠らないようにしてください。</p> <p>5. 実習期間中は、施設職員、実習生の活動及び配慮事項を時系列に沿って事実を実習日誌に記入する。</p> <p>また、その他介護過程の展開、レクリエーション計画表などを作成する。</p>						
以上の内容を、毎日2時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	最新介護福祉士全書10 介護総合演習・介護実習			中央法規	2,200	978-4-8058-5770-0
	自由記載	介護福祉士養成テキスト（介護の基本I・II、生活支援技術I・II、介護総合演習・介護実習等）介護実習の手引き				
参考書	自由記載					
	<b>【その他】</b>					
	実習ファイルを準備します。書類の管理をしてください。					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>		有			
<b>【担当教員の職務経験】</b>						
高齢者施設・障害者施設（介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員）（名定）、観音寺市シルバ-人材センター-職員、観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司（松井）、病院（救命救急、重症熱傷ユニット、脳外科、手術室ほか看護師）市役所（母子保健課、看護師）高齢者入所施設（看護師・介護支援専門員）（中野）、高齢者施設（訪問介護員）（韓）						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員以外の指導に関わる実務経験者】</b>						
実習指導者（介護福祉士）						

**【実務経験をいかした教育内容】**

高齢者施設や障害者施設での経験を活かし、介護現場の現状を伝えながら、基本的知識・技術を学習し、介護福祉士に求められる実践的能力を身につけるように指導する。(名定)

高齢者福祉、障害者福祉において実務経験を踏まえた授業を实践している。(松井)

医療現場や福祉施設での経験を活かし、現場で実践できる介護福祉士に必要な医療的知識や技術を身につけるよう指導する。(中野)

訪問介護での経験を活かし、在宅介護における介護福祉士の役割について実践的に指導する(韓)



授業科目名	介護実習Ⅱ		サブタイトル		授業番号	HW401
担当教員名	名定 慎也 松井 圭三 韓 在都 中野 ひとみ					
対象学部・学科	総合生活学科		単位数	5単位		
開講年次	2年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	実習		
<b>【授業の概要】</b>						
<p>地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を修得する学修とする。</p> <p>本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学修とする。</p> <p>実習Ⅱでは、個別ケアを行うために、個々の生活リズムや個性を理解し、利用者のニーズに沿って利用者ごとの介護計画の作成、実施、実施後の評価、計画の修正といった一連の介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を身につける。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>(1)介護保険制度における入所施設の役割及び生活支援について理解する。</p> <p>(2)利用者・家族とのかかわりをおしてコミュニケーションを図り、個別に応じた生活支援技術について理解する。</p> <p>(3)対象利用者の個別ニーズを把握し、利用者の望む生活に向けた支援を展開する。</p> <p>(4)介護過程に取り組み、個別介護計画の立案・実践・評価・修正を行う。</p> <p>(5)介護過程の展開における他職種の役割と多職種協働について理解する。</p> <p>(6)介護理念・職業倫理について理解を深め、介護観を明確にする。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt;、&lt;思考・問題解決能力&gt;、&lt;技能&gt;、&lt;態度&gt;の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
実習Ⅱ 高齢者入所施設（介護老人福祉施設・介護老人保健施設）						
1日8時間×25日（200時間）2年次後期 10月第3週～11月第2週に実施						
介護施設において、対象利用者を決め、一連の介護過程を展開の実習を行なう。						
<b>【内容】</b>						
介護施設の特徴・役割の理解、介護施設での生活支援の理解、介護保険制度の理解、生活支援技術の実践、中間の振り返り、介護過程の展開（アセスメント、計画の立案・実践・評価・再アセスメント）、サービス担当者会議等にて多職種協働の理解、実習最終カンファレンス						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	25%	実習への意欲、積極性、誠実性、立ち居振る舞い等実習に取り組む姿勢を評価する。			
	レポート	25%	実習記録が丁寧に記述し、根拠に基づいた考察および意見が述べられているか等記録物を評価する。特に介護過程の展開内容の記録に重点を置いて評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他	50（実習担当者25・教員25）%	実習担当者と教員が実習目標の達成度を評価する。			
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
実習において「社会福祉士又は介護福祉士法」に基づく倫理条項（誠実義務・信用失墜行為の禁止・秘密保持・連携・資質向上の責務・名称の使用制限）の遵守を念頭において実習に望んでください。						
<p>(1) 実習期間中は実習施設の服務規程に従い、施設長をはじめ職員からの指導を受け、施設の方針を妨げないようにすること。</p> <p>(2) 疑問に感じたこと、不明なことは必ず質問し、現状を理解した上で判断・行動すること。</p> <p>(3) 実習生の言動は利用者に影響を与えるものであるから、常に施設職員に準ずる良識に基づいた行動をとらなければならない。</p> <p>(4) 実習は将来専門職に就くための準備である。学生の本分を忘れず自己研鑽に努めること。</p> <p>(5) 言葉遣いや態度に気をつけること。</p> <p>(6) 担当教員には報告・連絡・相談の徹底を図ること。</p>						
<b>【授業外学修】</b>						
<p>1. 介護保険施設での実習となるため、実習に必要なテキストをしっかりと読んで、介護福祉士について学ぶ学生としてふさわしい知識・技術で実習に望めるように予習・復習をしてください。</p> <p>2. 毎日、実習記録を帰宅後に作成し、1日の出来事を振り返ってください。わからない用語や翌日の実習に必要な事柄について学修し準備してください。</p> <p>3. レクリエーションや回想法など積極的に活用し、信頼関係の構築、利用者理解が深められるように準備をしてください。</p> <p>4. 実習期間は時間を計画的に使い、体力の回復・健康、学修等自己管理を怠らないようにしてください。</p> <p>5. 実習期間中は、施設職員、実習生の活動及び配慮事項を時系列に沿って事実を実習日誌に記入する。</p> <p>また、その他介護過程の展開、レクリエーション計画表などを作成する。</p>						
以上の内容を、毎日2時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	最新介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習		中央法規	2,200	978-4-8058-5770-0	
	自由記載	介護福祉士養成テキスト（介護の基本Ⅰ・Ⅱ、生活支援技術Ⅰ・Ⅱ、介護総合演習・介護実習等）介護実習の手引き				
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
	<b>【担当教員の職務経歴】</b>					
	高齢者施設・障害者施設（介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員）（名定）、観音寺市シルバー・人材センター - 職員、観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司（松井）、病院（救命救急、重症熱傷ユニット、脳外科、手術室ほか看護師）市役所（母子保健課、看護師）高齢者入所施設（看護師・介護支援専門員）（中野）、高齢者施設（訪問介護員）（韓）					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
有						

**【担当教員以外の指導に関わる実務経験者】**

実習指導者（介護福祉士）

**【実務経験をいかした教育内容】**

高齢者施設や障害者施設での経験を活かし、介護現場の現状を伝えながら、基本的知識・技術を学習し、介護福祉士に求められる実践的能力を身につけるように指導する。（名定）

高齢者福祉，障害者福祉において実務経験を踏まえた授業を実践している。（松井）

医療現場や福祉施設での経験を活かし，現場で実践できる介護福祉士に必要な医療的知識や技術を身につけるよう指導する。（中野）

訪問介護での経験を活かし，在宅介護における介護福祉士の役割について実践的に指導する（韓）

授業科目名	医療的ケアI		サブタイトル		授業番号	HW317
担当教員名	中野 ひとみ					
対象学部・学科	総合生活学科		単位数	2単位		
開講年次	2年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>						
本講義では医療を必要とする人の安全と生活を守るための基礎的知識を修得するための講義を行う。 「人間と社会」、「保健医療制度とチーム医療」、「安全な療養生活」、「清潔保持と感染」、「健康状態の保持」について説明する。						
<b>【到達目標】</b>						
<p>・介護福祉士としての倫理的配慮ができ、必要な喀痰吸引、経管栄養を中心とした医療的ケアを安全かつ適切に行うための知識・技術を習得することができるようになる。</p> <p>・介護福祉士として安全に医療的ケアを実施するために、必要な基本的知識を身につけることができるようになる。</p> <p>・喀痰吸引、経管栄養を受ける利用者・家族の気持ちを考えることができ必要な支援をい行うことができるようになる。</p>						
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力><技能><態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
<b>【授業計画備考】</b>						
本講義は厚生労働省の規定による基本研修によるものであり、講義時間50時間以上で構成されている。 授業計画（34回）						
第1回：人間と社会（個人の尊厳・医療と介護の倫理・個人情報と守秘義務） 第2回：人間と社会（医療的ケアを受ける利用者の対応・介護、看護の立場・生活支援） 第3回：保健医療制度とチーム医療医療（保健医療に関する諸制度・医行為に関する法律） 第4回：保健医療制度とチーム医療医療（喀痰吸引と経管栄養についての介護の連携） 第5回：安全な療養生活（喀痰吸引や経管栄養の安全な実施・リスクマネジメント） 第6回：安全な療養生活（ヒヤリハットとアクシデント・救急蘇生） 第7回：安全な療養生活（救急蘇生） 第8回：清潔保持と感染予防（標準予防策・手洗い・うがい・手指消毒等） 第9回：清潔保持と感染予防（職員の感染予防対策・生活環境） 第10回：清潔保持と感染予防（医療廃棄物） 第11回：健康状態の把握（平常時の健康状態の把握・健康の観察法と平常時の違い） 第12回：健康状態の把握（バイタルサインとその見方） 第13回：健康状態の把握（バイタルサインとその方法） 第14回：健康状態の把握（急変時の把握とその対応・準備） 第15回：高齢者及び障害者・児の喀痰吸引（(1)呼吸のしくみとはたらき） 第16回：高齢者及び障害者・児の喀痰吸引（(2)呼吸のしくみとはたらき） 第17回：高齢者及び障害者・児の喀痰吸引（喀痰吸引とは） 第18回：高齢者及び障害者・児の喀痰吸引（人工呼吸器と吸引） 第19回：高齢者及び障害者・児の喀痰吸引（子どもの吸引） 第20回：高齢者及び障害者・児の喀痰吸引（利用者や家族の気持ち） 第21回：高齢者及び障害者・児の喀痰吸引（呼吸器系の感染と予防） 第22回：高齢者及び障害者・児の喀痰吸引（実施手順と留意点） 第23回：高齢者及び障害者・児の喀痰吸引（喀痰吸引に伴うケア） 第24回：高齢者及び障害者・児の経管栄養（(1)消化器系のしくみとはたらき） 第25回：高齢者及び障害者・児の経管栄養（(2)消化器系のしくみとはたらき） 第26回：高齢者及び障害者・児の経管栄養（経管栄養とは） 第27回：高齢者及び障害者・児の経管栄養（注入する内容についての知識） 第28回：高齢者及び障害者・児の経管栄養（実施するうえでの留意点） 第29回：高齢者及び障害者・児の経管栄養（子どもの経管栄養） 第30回：高齢者及び障害者・児の経管栄養（緊急時の対応） 第31回：高齢者及び障害者・児の経管栄養（実施手順の留意点） 第32回：高齢者及び障害者・児の経管栄養（経管栄養に必要なケア） 第33回：喀痰吸引や経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応 第34回：急変・事故発生時の対応と報告・記録・まとめ 第35回： 第36回： 第37回： 第38回： 第39回： 第40回： 第41回： 第42回： 第43回： 第44回： 第45回：						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加、予・復習によって評価する。			
	レポート	10%	課題やレポートにコメントを記入して返却する。			
	小テスト	10%	各回の主要ポイントの理解を評価する。			
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
	自由記載		受講態度、課題提出、定期試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。 なお大学評価により60点以上で単位認定とはなるが、厚生労働省の規定により、小テスト・定期試験共に9割以上を合格とする。			

また、各単元ごとに小テストを実施します。  
テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。  
・テキストの授業該当部分を読んでおくこと。  
・予習と授業中の積極的な発言を求めます。

**【授業外学習】**

本講義は講義形式教員演習も講義内容に関わる課題を読みま疑問点を明らかにする。

2. 復習として、課題のレポートを書く。
3. 発展学習として、講義で紹介された参考文献を読む。

短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。

本講義では、時間外学修時間として、予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
		最新介護福祉士養成講座15医療的ケア	川井太加子他	中央法規出版	2,200円(税別)	978-4-8058-5775-5
	自由記載					
参考書	自由記載					
	【その他】	その都度参考資料を配布します。ファイリングしてください。				
	【担当教員の実務経験の有無】	有				

**【担当教員の实務経験】**

病院(救命救急, 急性期病棟, 脳神経外科, 手術室ほか, 看護師) 市役所(母子保健課, 看護師) 高等学校教諭(看護) 高齢者入所施設(看護師・介護支援専門員)

**【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】**

無

**【実務経験をいかした教育内容】**

医療現場や福祉施設での経験を活かし、現場で実践できる介護福祉士に必要な医療的知識や技術を身につけるよう指導する。

授業科目名	医療的ケアII		サブタイトル	授業番号	HW402
担当教員名	中野 ひとみ				
対象学部・学科	総合生活学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
【授業の概要】					
本講義は、介護福祉士がその業務として喀痰吸引等の行為を実施するために必要な基礎知識について修得するための講義を行う。喀痰吸引および経管栄養を安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得し実践できるための講義を行う。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> <li>介護福祉士として医療的ケアである「喀痰吸引」「経管栄養」の実施手順に基づき安全・適切に行うことができるようになる。</li> <li>医療的ケアを実施する手順・留意点を述べるができるようになる。</li> <li>喀痰吸引を安全・適切に実施することができるようになる。</li> <li>経管栄養を安全・適切に実施することができるようになる。</li> </ul> なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。					
【授業計画】					
【授業計画 備考】					
本講義は、厚生労働省が規定する医療的ケアの基本研修であり省令で定める修得すべきすべての行為ごとの回数以上の演習を実施する。					
第1回：喀痰吸引の演習の進め方・注意事項などオリエンテーション 第2回：喀痰吸引演習(1)(口腔)(各3回以上演習実施) 第3回：喀痰吸引演習(2)(口腔)(各3回以上演習実施) 第4回：喀痰吸引演習(3)(口腔)(各3回以上実施演習) 第5回：喀痰吸引演習(4)(口腔)(各3回以上演習実施) 第6回：喀痰吸引演習(5)(鼻腔)(各3回以上演習実施) 第7回：喀痰吸引演習(6)(鼻腔)(各3回以上実施演習) 第8回：喀痰吸引演習(7)(鼻腔)(各3回以上実施演習) 第9回：喀痰吸引演習(8)(鼻腔)(各3回以上演習実施) 第10回：喀痰吸引実技確認試験(口腔) 第11回：喀痰吸引実技確認試験(鼻腔) 第12回：喀痰吸引演習(11)(気管カニューレ)(各3回以上実施演習) 第13回：喀痰吸引演習(12)(気管カニューレ)(各3回以上実施演習) 第14回：喀痰吸引演習(9)(気管カニューレ)(各3回以上演習実施) 第15回：喀痰吸引演習(9)(気管カニューレ)(各3回以上演習実施) 第16回：喀痰吸引実技確認試験(気管カニューレ) 第17回：喀痰吸引実技確認試験(気管カニューレ) 試験終了後、経管栄養法の演習の進め方・注意事項などオリエンテーション 第18回：経管栄養法演習(1)(胃ろう)(各3回以上実施演習) 第19回：経管栄養法演習(2)(胃ろう)(各3回以上演習実施) 第20回：経管栄養法演習(3)(胃ろう)(各3回以上演習実施) 第21回：経管栄養法演習(4)(胃ろう)(各3回以上演習実施) 第22回：経管栄養法演習(5)(経鼻)(各3回以上実施演習) 第23回：経管栄養法演習(6)(経鼻)(各3回以上演習実施) 第24回：経管栄養法演習(7)(経鼻)(各3回以上演習実施) 第25回：経管栄養法演習(8)(経鼻)(各3回以上演習実施) 第26回：経管栄養法実技試験(1)(胃ろう) 第27回：経管栄養法実技試験(2)(経鼻) 第28回：経管栄養法実技試験(3)(胃ろう・経鼻) 第29回：緊急時の対応の仕方(1)講義およびDVD学習 第30回：緊急時の対応の仕方(2)AEDの実際・演習 まとめ					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加、予・復習によって評価する。		
	レポート	20%	課題やレポートにコメントを記入して返却する。		
	小テスト	30%	各回の主要ポイントの理解を評価する。		
	定期試験	30%	最終的な理解度を評価する。		
	その他				
	自由記載	受講態度、課題提出、実技試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。 なお、大学評価により60点以上で単位認定とはなるが、厚生労働省の規定により、実技試験の8割以上を合格とする。 各単元ごとに技能修得判定を行う。なお、演習の修了が認められなかったものについては再度演習の課程を受講する必要がある。			
【受講の心得】					
本講義は実技演習をグループごとに進めていきます。 また、各単元ごとに小テストを実施します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>テキストの授業該当部分を読み復習を行うこと。</li> <li>確実な実技の修得のため自己学習を行うこと。</li> <li>演習は必ず指定された実習着、靴を着用すること。</li> </ul>					
【授業外学修】					
1. 予習として、教科書のうち、講義内容に関わる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2. 復習として、課題のレポートを書く。 3. 確実なる実技の修得に向けて練習を重ねること。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本講義では、時間外学修時間として、予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	最新介護福祉士養成講座15医療的ケア	川井太加子	中央法規出版	2,200円(税別)	978-4-8058-5775-5
	自由記載	使用テキストとは別に演習時は「医療的ケア演習要綱」の冊子が必ず必要である。			

参考書	自由記載
	<p><b>【その他】</b>            単元ごとの実技確認試験の後は、「リアクションシート」と「実習要綱」に必要事項を記載のうえ、試験終了後に速やかに提出すること。</p>
	<p><b>【担当教員の実務経験の有無】</b>            有</p>
	<p><b>【担当教員の实務経験】</b>            病院（救命救急，急性期病棟，脳神経外科，手術室ほか，看護師）市役所（母子保健課，看護師）高等学校教諭（看護）高齢者入所施設（看護師・介護支援専門員）</p>
	<p><b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>            無</p>
	<p><b>【実務経験をいかした教育内容】</b>            医療現場や福祉施設での経験を活かし，現場で実践できる介護福祉士に必要な医療的知識や技術を身につけるよう指導する。</p>

# 中国短期大学 令和3年度(2021年度) シラバス

<b>授業科目名</b>	<b>日本語表現</b>		<b>サブタイトル</b>	(日本語の用字用語と言語表現について)	<b>授業番号</b>	EA201
<b>担当教員名</b>	又吉 里美					
<b>対象学部・学科</b>	保育学科	<b>単位数</b>	2単位			
<b>開講年次</b>	1年	<b>開講期</b>	前期			
<b>必修・選択</b>	選択	<b>授業形態</b>	講義			
<b>【授業の概要】</b>						
本講義は、適切な日本語表現を身につけるべく実際に「書くこと」の演習をおこなう。また、表現活動のおもしろさを味わう。						
<b>【到達目標】</b>						
1. 適切な日本語表現を身につける。 2. 日本語の仕組みや特徴について理解し、様々な種類の文章が書けるようになる。 3. 表現活動に興味関心を持って取り組み、表現することの創意工夫の観点を理解する。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能> <態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
<b>【授業計画 備考】</b>						
本講義では、適切な表現を考えたり、表現することの創意工夫を考えたりしながら、多様な種類の文章を実際に書いていく。また、日本語の仕組みや特徴について、言語表現の工夫や効果を考えながら理解を深める。						
第1回：日本語表現の留意点*ことばの使い分け(1) - 語・語彙 - *類義語の使い分け / ある日の出来事を紹介する文を書く。 第2回：日本語表現の留意点*ことばの使い分け(2) - 語・語彙 - *外来語の使用とその留意点 第3回：日本語表現の留意点*ことばの使い分け(3) - 語・語彙 - *敬語の理解を深める 第4回：日本語表現の留意点*ことばの使い分け(4) - 語・語彙 - *言語の位相 第5回：日本語表現の留意点*ことばの使い分け(5) - 語・語彙 - *表現のおもしろさを考える 第6回：日本語表現の工夫と効果*表記の表現性(1) - 漢字・ひらがな・カタカナ(1) - 第7回：日本語表現の工夫と効果*表記の表現性(2) - 漢字・ひらがな・カタカナ(2) - 第8回：日本語表現の工夫と効果*レトリック 第9回：日本語表現の工夫と効果*広告の表現効果を考える 第10回：言語表現と文芸*詩の分析と方言詩の作成 第11回：言語表現と文芸*超ショートショートを作る 第12回：言語表現と文芸*物語の文体 第13回：言語表現と文芸*物語を創作する(1) / 分かりにくい文を直す(1) 第14回：言語表現と文芸*物語を創作する(2) / 分かりにくい文を直す(2) 第15回：相互評価と鑑賞 / 振り返りとまとめ						
<b>評価の方法</b>	<b>種別</b>	<b>割合</b>	<b>評価規準・その他備考</b>			
	授業への取り組みの姿勢 / 態度	10%	意欲的な受講態度、課題への取組などの状況によって評価する。			
	レポート	80%	毎回の課題、授業中の課題、相互評価の取り組み等を評価対象とする。			
	小テスト	10%	「分かりにくい文を直す」内容に関連したテストをする。			
	定期試験					
	その他					
	<b>自由記載</b>					
<b>【受講の心得】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・初回授業時に詳細を提示する。</li> <li>・電子辞書か国語辞典を用意することが望ましい。</li> </ul>						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 予習として、課題に取り組むこと。 2. 復習として、授業で学んだことを実践すること。 3. 発展学習として、授業で紹介した参考文献（授業時に適宜紹介する）を読むこと。						
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
<b>使用テキスト</b>	<b>自由記載</b>	毎回プリント資料を配付する。				
<b>参考書</b>	<b>自由記載</b>					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	芸術		サブタイトル	(アートに親しむ)	授業番号	EA202
担当教員名	鳥越 亜矢					
対象学部・学科	保育学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
【授業の概要】						
<p>アートカードなどを使った鑑賞ゲームや、岡山県内のキャンパスメンバーズ制度活用が可能な施設に赴いての作品鑑賞や、スライドによる作品鑑賞を行うほか、デザインとアートとの共通点や相違点にも触れながら、個人の暮らしと社会における両者の意味を探究する。また、身近な環境の中に美を見出す活動や、身近な物を使った作品制作と鑑賞活動を行う。</p>						
【到達目標】						
<p>芸術作品の鑑賞や制作活動を通じ、以下のことができるようになることを目的とする。(1)時代、文化、社会情勢や市井の人々の暮らし、素材や技術の進歩など様々なことを想像する一方で、他者の発言から受ける知的刺激を踏まえて、自分のものの見方や考え方について省察できるようになること。(2)心豊かな暮らしと社会に向けて個人や社会における芸術の意味を考えられるようになること。</p> <p>この授業はディプロマポリシーに掲げられた学士力のうち、知識・理解 思考・問題解決能力 の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
【授業計画 備考】						
<p>学外での作品鑑賞では現地集合・現地解散とする。このため、通常授業と異なる曜日・時間帯に行う。なお、現地への交通費は自己負担とするが、キャンパスメンバーズ制度活用のため観覧は無料。</p> <p>保育学科の学生が履修した場合、学外実習期間中は休講とし、別日にて補講を行う。</p>						
<p>第1回：ガイダンス / 美術鑑賞いろいろ レポート作成：社会やあなたにとってデザインとは？芸術とは？</p> <p>第2回：太古からの芸術 / アートカードゲーム</p> <p>第3回：真似して学ぶ古代のアート</p> <p>第4回：西洋V.S.日本 信仰の表現・神仏の表現</p> <p>第5回：アートは誰がどう使う？</p> <p>第6回：時代と技術がアートとアーティストを変える</p> <p>第7回：キャンパスメンバーズ制度活用施設での鑑賞</p> <p>第8回：世の中を映すアート1</p> <p>第9回：世の中を映すアート2 / 現代アートの体感</p> <p>第10回：単純なルールが造形の多様性を生み出す 木を見てみよう 作ってみよう</p> <p>第11回：身近な環境に美を見出す / 身近な素材を使ったフォトフレームづくり</p> <p>第12回：Come on ! 伝統のデザイン</p> <p>第13回：デザインが私たちを変える 不便やお悩みはデザインで解決、その逆もまた然り</p> <p>第14回：気づかないデザイン</p> <p>第15回：あなたの一押しデザインは？</p> <p>レポート：社会やあなたにとってデザインとは？芸術とは？</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢 / 態度	40%	毎回の振り返りの記録や発言・授業態度により評価する。記録については新たな知見の有無や、自分の考えが述べられていること。発言の評価基準は発言回数とともに、発言内容に他者の意見を反映したり、知識や記憶、経験に基づいた意見が述べられている点を加点評価する。なお、授業内容と無関係な行為をしていた場合には減点評価する。			
	レポート	30%	課題意識を持ち、具体的に述べていることを評価する。評価基準は到達目標や受講の心得に基づくほか、初回レポートと15回目レポートを比較して、芸術やデザインに対する考えの広がりや深まり等の変容があることを評価する。レポートのフィードバックについては提出後の授業中に総評として行う。			
	小テスト	0%				
	定期試験	0%				
	その他	30%	課題趣旨の理解がみられることのほか、課題によっては素材や色、構成について吟味し丁寧に作成されていること、独創性などを作品の評価基準とする。返却する作品には各種確認印やコメントを添える等のフィードバックを行う。			
	自由記載					
【受講の心得】						
<p>授業中、作品を見て思ったことを主体的・積極的に発言するとともに、他者の発言に耳を傾け、自分の鑑賞や思考の手がかりとすること。製作に必要なものは自分で用意すること。</p> <p>授業中はスマートフォン等の端末機器は荷物に入れておくこと。ただし、情報検索や記録等を目的として使用を認める場合がある。</p>						
【授業外学修】						
自分が好きなデザインや、興味を持った作家や作品について調べたり、学内で不便に感じていることなどの洗い出しなどについて、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	テキストは使用しない。				
参考書	自由記載					
【担当教員の実務経験の有無】						
有						
【担当教員の職務経験】						
一般企業にてパッケージデザイナーとして就業。保育者や小学校教諭を対象にした対話型鑑賞を用いた美術鑑賞の研修講師。						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】						
有						
【担当教員以外の指導に関わる実務経験者】						
キャンパスメンバーズ制度活用施設での鑑賞時：岡山県立美術館・岡山県立博物館等ボランティアもしくは、鑑賞支援ボランティア						
【実務経験をいかした教育内容】						
美術鑑賞に関する研修講師の経験を生かして対話型鑑賞という方法による芸術作品の鑑賞を行う。デザインに関する授業回では、パッケージデザイナーとしての経験を活かし、デザインに施されているいろいろな仕掛けを学生に紹介することにより、人の暮らしを楽しく便利に豊かにするデザインについて学ぶ機会を提供する。						



授業科目名	日本国憲法		サブタイトル	(立憲主義に基づく日本国憲法の基本原理を学ぶ)		授業番号	EA203
担当教員名	松田 文春						
対象学部・学科	保育学科	単位数	2単位				
開講年次	1年	開講期	前期				
必修・選択	選択	授業形態	講義				
【授業の概要】 憲法の歴史、立憲主義に基づく憲法の内容と特徴、日本国憲法の誕生、個人の尊重と法の支配、人権、統治機構について講義する。							
【到達目標】 日本国憲法は立憲主義に基づく憲法であり、個人の尊重を最も基本的な価値観としており、人権保障を何よりも重視している。また、人権保障を実現するために、法の支配を統治機構の基本原則とし、権力分立、民主主義、平和主義を採用していることを理解することができるようになる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>の修得に貢献する。							
【授業計画】							
<p>第1回：立憲の意味の憲法とはどういうものか。</p> <p>第2回：憲法はどのようにして生まれたのか。</p> <p>第3回：日本国憲法はどのようにして生まれたのか。</p> <p>第4回：日本国憲法の基本原理1、個人の尊重とはどういうものか。</p> <p>第5回：日本国憲法の基本原理2、法の支配とはどういうものか。</p> <p>第6回：日本国憲法では平和主義をどう定めているか。</p> <p>第7回：人権の意味と特徴とは何か。</p> <p>第8回：表現の自由とは何か。</p> <p>第9回：信教の自由とは何か。</p> <p>第10回：人身の自由、刑事手続における権利とは何か。</p> <p>第11回：生存権とは何か。</p> <p>第12回：プライバシーの権利とは何か。</p> <p>第13回：権力分立の原理とは何か。</p> <p>第14回：地方自治とは何か。</p> <p>第15回：憲法改正について考えよう。</p>							
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。				
	レポート	20%	各回の主要なポイントの理解を評価する。				
	小テスト						
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。				
	その他						
	自由記載						
【受講の心得】							
<p>1 事前・事後にテキストや参考文献を読むこと。</p> <p>2 課題についてレポートを書くこと。</p> <p>3 発表や討議に積極的に取り組むこと。</p> <p>4 配付する資料を整理しておくこと。</p>							
【授業外学修】							
<p>1 予習として、テキストのうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。</p> <p>2 復習として、課題のレポートを書く。</p> <p>3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。</p> <p>以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。</p>							
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN		
	伊藤真の日本一やさしい憲法の授業	伊藤真	KADOKAWA	1,400(税別)			
	自由記載						
参考書	自由記載	授業において随時紹介する。					
	【担当教員の実務経験の有無】	有					
	【担当教員の実務経験】	中学校教諭，特別支援学校教諭					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】							
無							
【実務経験をいかした教育内容】							
憲法の基本構成を概説したのち、基本的人権である表現の自由、信教の自由、生存権、プライバシー権について、判例等をもとに教育活動との関連から講義する。							

授業科目名	社会学		サブタイトル	(配偶者の選択と家族編成の社会的規則)		授業番号	EA204
担当教員名	中田 周作						
対象学部・学科	保育学科		単位数	2単位			
開講年次	2年		開講期	後期			
必修・選択	選択		授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b> 本講義では、社会学の方法によって家族を理解するための枠組みを学習する。 現代社会における家族の姿は、多元化する価値意識のもとで、その形態や機能が多様化している。 そのため、本講義では家族の中核をなす夫婦関係に焦点をあて、家族編成に関する社会的規則について講義する。							
<b>【到達目標】</b> 現代社会の家族集団を、より深く理解するためには社会学的な枠組みを活用すると有効である。 これにより、地域社会の中に存する様々な家族を理解し、実践活動に実際に資することができる知識や分析の視角を身につけることを目標とする。 なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち「思考・問題解決能力」の修得に貢献する。							
<b>【授業計画】</b> 第1回：配偶者選択をめぐる社会状況の変化 第2回：家族社会学における「家族」の定義 第3回：家族を対象とした社会学的方法 第4回：家族の種類と分類 第5回：青年期の異性交際に関する社会学の意味の考察 第6回：青年期の異性交際の実態 第7回：家族編成の社会的ルールとは何か 第8回：配偶者選択の社会的メカニズム 第9回：配偶者選択のプロセス 第10回：結婚の社会的意味 第11回：結婚の社会的機能 第12回：離婚の社会的意味と機能 第13回：家族の新しい形 第14回：子どもの養育 第15回：老親の介護							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度		10%	データを読み解くグループワークへの姿勢などを参照する。			
	レポート		70%	講義終了後に、最終レポートを提出する。家族集団について社会学的な観点から考察できているかどうかを評価する。			
	小テスト						
	定期試験						
	その他		20%	講義のときに毎回、コメントペーパーを提出する。当日の講義の要点がまとめられているかどうかを規準として評価する。質問に対しては次の講義の時に返答する。			
自由記載							
<b>【受講の心得】</b> 自らの配偶者選択や、家族集団に興味・関心があることが望ましい。 しかしながら、あまりにも身近で現実的な問題であるため、ある程度、客観視できる受講態度が望ましい。							
<b>【授業外学修】</b> 1．テキストを事前に読んでくること。 文章を読むだけでなく、掲載されている図表の意味するところを考える。 具体的なアプローチの方法は、授業時間内に指示する。 2．最終レポートの課題を探しながら受講すること。 テーマに関するニュースや、身近な出来事に関心をもつこと。 両方の課題を合わせて、週当たり4時間以上、取り組みむこと。							
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	新しい家族社会学		森岡清美・望月嵩	培風館	1750	978-4-563-05034-4	
	自由記載						
参考書	自由記載		講義の進行にあわせて適宜紹介する。なお、一部のコマにおいて、フィールドワークを実施する場合もある。				
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無							

授業科目名	自然科学概論		サブタイトル	(体感型授業で自然科学の楽しさを実感しよう)	授業番号	EA205
担当教員名	岸 誠一					
対象学部・学科	保育学科	単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b>						
私たちの日常の関わりの中から、自然科学を概観する授業を行う。野外体験学修や科学実験といった体験・体感型の学修手法を多く用いて、自然科学を「見える化」して探究心を高める授業を行う。また、科学工作も行い、科学のおもしろさと不思議さを実感する。						
<b>【到達目標】</b>						
私たちの身のまわり、日常の中にある自然科学の基本概念や知識、科学的なものの考え方ができるようになることを目指す。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
<b>【授業計画備考】</b>						
授業の中では、様々な測定装置、電気関係の測定機器や実験器具などを用いて、私たちの身のまわりの環境、自然科学について実測、体感しながら学びを深めていく。						
第1回：中国学園の庭で「幸せ」を探そう!?(四つ葉のクローバ探しから見えてくるフィールドワークの楽しさ)						
第2回：科学マジックを通して学ぶ科学のおもしろさ						
第3回：電子オルゴール作りを通して学ぶ「オームの法則」						
第4回：見上げてごらん夜の星を(天文学の初歩)						
第5回：タイムマシンは作れるか?(アインシュタインの相対性理論を分かりやすく学ぶ)						
第6回：君のひとみは一万ボルト?はやぶさのイオンエンジンは一万五千ボルト!(高電圧の実験を通して見えてくる電気の性質)						
第7回：新型コロナウイルス感染予防を通して学ぶ自然科学						
第8回：高価なバイオリンと安価なバイオリンの音の違いは?(音を「見える化」して分かってくる新芸能人格付けチェック)						
第9回：液状化現象とスライムに関する実験と実習(分子構造について学ぶ)						
第10回：糖を科学するべっこう飴づくりの実験と実習(分子構造について学ぶII)						
第11回：天然色素と酸アルカリの実験と実習						
第12回：光に関する基礎講座ならびに実験と実習						
第13回：楽しい数学(小学校高学年の知識で挑戦する、とっても簡単!?微分と積分)						
第14回：流しそめんの加速度を測定しよう!						
第15回：まとめ(授業全体のふりかえり総括)						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な受講態度、実験・実習・討議等への参加度、予・復習の状況によって評価する。			
	レポート					
	小テスト	30%	各回の主要なポイントの理解を評価する。			
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する			
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
この授業は、自然を対象にしているため、天候等によって適宜内容を変更することがある。また、内容に継続性や関連性があるため、授業を欠席しない、遅刻しないようにしていただきたい。授業は毎回の積み重ねの中で進んでいくので、配付資料等は毎回、持参していただきたい(ノートに貼ることを推奨している)。また、新型コロナウイルスの感染予防のため、食べたり、密になって行う実験などが出来なくなり、他の内容に変更する場合がある。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 予習として、授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学修等を行い、考えてくること。						
2. 復習として、授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いてふりかえり、適宜調べ学修や実践等を行い、学びを深めていく(探究する)こと。						
以上の学修を、授業1回あたり4時間以上行うこと。						
使用テキスト	自由記載	なし(資料配付)。				
参考書	自由記載	講義の進行にあわせて適宜紹介する。				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	情報処理概論		サブタイトル	(コンピュータの基礎知識)		授業番号	EA206	
担当教員名	赤木 竜也							
対象学部・学科	保育学科			単位数	2単位			
開講年次	2年			開講期	前期			
必修・選択	選択			授業形態	講義			
【授業の概要】								
情報社会における様々な情報を扱う上で今や必須となったコンピュータ。本講義では高等学校で必修となった普通教科情報を踏まえ、コンピュータを利用した情報処理の一環としてワードプロセッサ、表計算ソフトなどを用いて情報処理の基本について学修する。なお、本授業は教職必修科目である。								
【到達目標】								
情報の分析・加工・発信能力をさらに高めるために、日本語ワープロソフトおよび表計算ソフトの基礎的技術を学び、情報に応じて適切な文書や表・グラフの作成および分析ができるようになることを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<技能>の修得に貢献する。								
【授業計画】								
第1回：情報処理とコンピュータの関わり 第2回：コンピュータの基礎知識 第3回：ワードプロセッサの基本(文書の作成) 第4回：ワードプロセッサの活用(編集機能) 第5回：ワードプロセッサの活用(表・図形機能) 第6回：表計算ソフトの基本(基本的な表の作成1) 第7回：表計算ソフトの基本(書式設定) 第8回：表計算ソフトの基本(基本的なグラフの作成) 第9回：表計算ソフトの基本(基本的な表の作成2) 第10回：表計算ソフトの応用(基本的な関数) 第11回：表計算ソフトの応用(応用的な関数) 第12回：表計算ソフトの応用(応用的な関数) 第13回：表計算ソフトの応用(データベース機能) 第14回：アプリ間のデータ活用 第15回：総合演習・まとめ								
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	課題への取り組みおよび到達度を評価する。				
	レポート							
	小テスト		10%	授業中出題する演習問題について評価する。				
	定期試験		60%	習熟達成度を評価する。				
	その他		10%	授業中出題する演習問題について評価する。				
自由記載								
【受講の心得】								
コンピュータを用いた実習を適宜行うため、遅刻・欠席は厳禁である。やむを得ず欠席(公欠を含む)する場合は、必ず放課後等を利用し学修しておくこと。								
【授業外学修】								
授業時間の都合上、テキストに掲載されているすべての演習問題を授業中にすることが困難なため、授業中出題されなかった他の演習問題を事後学修として4時間以上その都度取り組み、理解度を深めておくこと。								
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	30時間でマスターWord&Excel2019(Windows10対応)			実教出版企画開発部	実教出版	1045	978-4-407-34838-5	
自由記載								
参考書	自由記載							
	【担当教員の実務経験の有無】							
	有							
【担当教員の实務経験】								
公立高等学校公民・商業・情報科講師，IT講習会講師								
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】								
無								
【実務経験をいかした教育内容】								
高等学校で情報科(普通教科情報・専門教科情報)等を担当した経験を踏まえ、情報リテラシーのスキルアップを目指した知識・技術を指導する。								

授業科目名	体育講義		サブタイトル	(子どものからだと心の健康)	授業番号	EA207
担当教員名	土田 豊					
対象学部・学科	保育学科	単位数	1単位			
開講年次	2年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b>						
知っているようで知らないからだと心の仕組みについて講義し、身近にある道具や簡単な方法でセルフチェックできる力を身につけます。また、セルフチェックで得られた結果を客観的に評価し、対処法についても学びます。						
<b>【到達目標】</b>						
人間のからだと心の仕組みについて、日常生活で何気なく実践している習慣や保育・教育の現場で実践されている事柄の意味について知ることを目的とする。人間のからだと心の仕組みについて理解し、教育の現場に出た際、子どもたちのからだと心の異変に気づき、適切に対処できる力を養うことを目的とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：「体力」について考える 第2回：「ホルモン」のはたらきについて考える 第3回：「自律神経」のはたらきについて考える 第4回：「土踏まず」のはたらきについて考える 第5回：「背筋力」のはたらきについて考える 第6回：「健康診断」で分かることについて考える 第7回：「前頭葉」のはたらきについて考える 第8回：「子どものからだと心を元気にする方法」について考える 第9回： 第10回： 第11回： 第12回： 第13回： 第14回： 第15回：						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	意欲的な受講態度・発表等授業への参加状況を評価する。毎回配布するワークシートに授業に沿った記録がされていたり、発表できたりすることを加点対象とする。			
	レポート	40%	事前学習や授業で学んだことを踏まえ、自分自身の問題として具体的に述べていること。授業内容を理解し、具体的な事例として捉えられている度合いに応じて得点化する。レポートは、コメントを記入して返却することで、学びのフィードバックとする。			
	小テスト	30%	全8回の授業内容を踏まえ、子どものからだと心の問題にどう対応していくかということについてのレポートを作成する。自分の考えが具体的に記述されている度合いに応じて、得点化する。			
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
<b>【授業外学修】</b>						
1. 「子ども」「からだと心」などをキーワードとした新聞記事やニュースを常に意識し、情報を収集すること。 2. 各回の授業内容に合わせた情報を収集したり、書籍等を読んで予備知識を得ておくこと。 3. 授業で学んだことを日常生活で実践したり、保育現場で見聞かした子どもの状態も想起しながら学習内容を深く理解すること。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	その都度プリントを準備する。				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
公立小学校教諭						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
学校現場や自然体験施設での経験を生かして、体の仕組みや健康を維持する方法などについて指導する。						

授業科目名	体育実技		サブタイトル	(適切な運動実践)	授業番号	EA208
担当教員名	土田 豊					
対象学部・学科	保育学科	単位数	1単位			
開講年次	1年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	実技			
<b>【授業の概要】</b>						
各チームの課題を基にメンバーで協力しながら、各種のスポーツ（集団的スポーツ・個人的スポーツ）の練習や試合に取り組む。						
<b>【到達目標】</b>						
バレーボールやバドミントンなどの基本的なルールを理解し、チームのメンバーと楽しく活動することを目的とする。生涯に渡って身体を動かす習慣の礎とするため各種目のスキルアップを目的とする。 なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：体力テスト 第2回：バレーボールI（ルールと基本技術の理解） 第3回：バレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 第4回：バレーボールIII（ゲームの展開） 第5回：バレーボールIV（ゲームの展開） 第6回：バドミントンI（ルールと基本技術の理解） 第7回：バドミントンII（ゲームの展開） 第8回：バドミントンIII（ゲームの展開） 第9回：バスケットボールI（ルールと基本技術の理解） 第10回：バスケットボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 第11回：バスケットボールIII（ゲームの展開） 第12回：バスケットボールIV（ゲームの展開） 第13回：卓球I（ルールと基本技術の理解） 第14回：卓球II（ゲームの展開） 第15回：卓球III（ゲームの展開）						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	60%	授業の準備や後片付けに率先して取り組んだり、メンバーと協力しながらスキルアップしようとしている等の授業への参加状況を評価する。授業に休まず出席し、練習・試合に意欲的に取り組む姿勢が確認できれば加点対象とする。また、メンバーに声を掛けたり、援助などができておれば加点対象とする。			
	レポート					
	小テスト	40%	バレーボールとバスケットボールにおいては、トス、サーブ、シュートの到達度に応じて得点化する技能テストを実施する。			
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
運動着を着用し、体育館シューズを使用する。 全員協力の上、準備・片付けをする。						
<b>【授業外学修】</b>						
1．日頃から自らの健康に対する興味関心や体力増進に努め、日常生活の中で自主的に身体を動かす習慣づくりをすること。 2．各種目のルールやスキルアップを図るため、書籍や映像を活用して準備すること。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	特に使用しない（作成資料を活用）				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
公立小学校教諭						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
学校現場での経験を生かして、日常的に体を動かすことの大切さを伝えながら指導する。						

授業科目名	フレッシューズセミナー		サブタイトル		授業番号	EA101
担当教員名	松井 みさ 大橋 美佐子 松田 文春 鳥越 亜矢					
対象学部・学科	保育学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
導入教育を目的として開講された本科目では、新入生が学生生活を有意義なものとするため、大学生として必要な勉学の進め方や、自立した生活の基礎を学ぶ。各種オリエンテーションや研修等の様々な活動を通じて、教職員と学生、学生相互のコミュニケーションを図る。						
<b>【到達目標】</b>						
大学生として必要な勉学の進め方や自立した生活の基礎を学び実行できるようになる。また、教職員と学生、学生相互のコミュニケーションを図ることができるようになる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜態度＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回 大学の魅力を知る（本学の理念，歴史，学科の目標，地域社会での役割など）。 第2回 大学のしくみを知る（履修の仕方，講義の受け方，レポートの書き方など）。 第3回 大学のしくみを知る（学生生活全般について）。 第4回 大学の施設を知る（図書館の利用）。 第5回 大学の施設を知る（情報処理センターの利用）。 第6回 協働の喜びを知る（学科行事，大学行事などを通じて）。 第7回 ボランティア活動の意義を知る。 第8・9回 保育関係の進路を知る。 第10回 先輩の体験談から学ぶ。 第11・12回 地域の特色を知る。 第13回 ボランティア活動の進め方を知る。 第14・15回 グループワーク「自分の進む道」を行う。						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		50%	意欲的な受講態度，発表への参加によって評価する。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他		50%	毎時間学んだことを専用のファイルに綴じて，提出できる。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
本科目の性質上，時間を変更して行う場合もあるので，各自で実施日程を確認すること。遅刻欠席のないよう注意すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
課題の予習，復習を必ず行う。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	なし。入学当初のガイダンスには，【学生手帳・授業概要】を持参すること。				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
ミュージックスクール講師（松井みさ），保育所保育士（大橋美佐子 清水憲志），中学校教諭（松田文春）						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
保育士や幼稚園教諭を目指す学生に，勤務経験を元にした説明をし，学生生活をより有意義なものにするための心掛けと具体的な行動を修得させる。						

授業科目名	地域創生論		サブタイトル	(地域資源の活用)		授業番号	EA209	
担当教員名	加藤 せい子							
対象学部・学科	保育学科			単位数	2単位			
開講年次	1年			開講期	前期			
必修・選択	選択			授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b> 私たちが暮らす地域について、まずは地域とは何か「知る」ことから講義を始め、まち歩きなどから地域の資源を自分で知ることによって「好き」になり、愛着が生まれ自分の地域に「還る」循環を創る仕組みを知る。 外部講師を招き、実践を積み重ねていき地域づくりのノウハウを会得し、自ら参画していく意識を醸成していくことを目的にする。								
<b>【到達目標】</b> 自分の地域に誇りを持ち、何ができるかに気づく。 地域に関心を持ち、自ら地域を語ることができる。 また地域で出来ることを意識し、自ら企画運営ができる基盤を創る。  なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞、＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
<b>【授業計画】</b>  第1回：地域創生とは 第2回：地域に関心を持つ地域づくりの事例 地域資源とは？ 第3回：地域に関心を持つ地域の魅力を知る（プレストーリーミング） 第4回：地域に関心を持つ地域の課題を知る（親和法） 第5回：地域が抱える課題 岡山県中山間地域の現状 ワークショップ 第6回：地域が抱える課題 岡山県中山間地域の高齢者対策 ワークショップ 第7回：地域が抱える課題 岡山県の生活文化振興 ワークショップ 第8回：地域開発の実践ワークショップ 地域開発プログラムづくり(1) 第9回：地域開発の実践ワークショップ 地域開発プログラムづくり(2) 第10回：地域開発の実践ワークショップ 地域開発プログラムづくり(3) 第11回：地域開発の実践ワークショップ プレプレゼンテーション 第12回：地域開発の実践ワークショップ プレゼンテーション 第13回：地域開発の実践ワークショップ プレゼンテーション 第14回：地域開発の実践ワークショップ プログラム実践 第15回：地域開発の実践ワークショップ ふりかえり								
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。				
	レポート		20%	レポートにより授業の理解度を評価する。				
	小テスト							
	定期試験		50%	地域開発に関するプレゼンテーションの完成度によって評価する。				
	その他							
自由記載								
<b>【受講の心得】</b> 本科目はワークショップ方式を使い授業を進めるので、仲間同士で意見を出しながら進めていく。 振り返りレポートの提出が必須。								
<b>【授業外学修】</b> 次回授業するテキスト部分を読み込み、分からない部分は事前に調べて授業に参加する。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。								
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	『システム×デザイン思考で世界を変える』			前野隆司	日経BP社	1800円	978-4822249946	
	自由記載	『システム×デザイン思考で世界を変える』、前野隆司 編、日経BP社						
参考書	自由記載							
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有							
<b>【担当教員の実務経験】</b> 企業・行政等への講師指導実施								
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 有								
<b>【担当教員以外の指導に関わる実務経験者】</b> 地域活性に関わる国・地方行政実務経験者による指導実施								
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 国内・海外（韓国・タイ・ネパール）で得た地域課題解決法を使って指導する。								

(担当  
(担当  
(担当



授業科目名	英語A		サブタイトル	(保育の英語)		授業番号	EA211	
担当教員名	高坂 勝彦							
対象学部・学科	保育学科			単位数	2単位			
開講年次	1年			開講期	前期			
必修・選択	選択			授業形態	演習			
<b>【授業の概要】</b> グローバル人材を育成するため、多くの幼稚園・保育園で英語が導入されている。保育園での1年間を通して、使用される必要な語句・表現を説明する。実際に現場で役立つと思われる英語絵本・歌・ゲームなどの指導法も実習させる。								
<b>【到達目標】</b> 外国人保護者や児童を支援できる人になれるよう、基礎的な語彙・文法事項を理解し、その知識を使って身の回りのことについて英語で説明でき、基礎的内容の会話を聞き取り理解できるようになることを目標とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>の修得に貢献する。								
<b>【授業計画】</b> 第1回：新学期 第2回：登園・家族 第3回：欠席の連絡 第4回：外あそび・遊具 第5回：園庭・けんか 第6回：昼食・献立表 第7回：着替え・洋服について 第8回：トイレ・昼寝 / 前半のまとめ 第9回：病気・身体 の名称 第10回：緊急の連絡 第11回：ハロウィーンについて 第12回：行事の案内状 第13回：運動会・動作 第14回：散歩・地図 第15回：お絵かき・お手紙書き / 科目授業全体の振り返り								
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢 / 態度		30%	意欲的な受講態度、予習の状況及び授業への貢献度を評価する。				
	レポート		20%	課題のテーマについて調査し、整理・分析し、具体的かつ適切にまとめてあるかを評価する。				
	小テスト		40%	各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。				
	定期試験		0%					
	その他		10%	積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。				
自由記載								
<b>【受講の心得】</b> ・予習と復習を心がけ、辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。 ・授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。								
<b>【授業外学修】</b> 1. 予習として、教科書本文に目を通し分からない単語をチェックしておく。 2. 復習として、学習した単語や熟語を暗記し、英語表現を音読するなどして身につける。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。								
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	新・保育の英語			森田和子	三修社	1,900円 + 税	978-4-384-333 99-2	
自由記載								
参考書	自由記載	辞書を毎時間携帯すること。電子辞書でも構わない。ただし、授業中に携帯電話の辞書機能の使用は認めない。						
	【その他】	なし						
	【担当教員の実務経験の有無】	有						
<b>【担当教員の实務経験】</b> 公立高等学校英語科教諭・支援学校教諭(高坂勝彦)								
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無								
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 学校現場での経験を生かして、英語全般を教養として楽しく教える。また、実務経験を生かし、「保育の英語」を実践的に教える。(高坂勝彦)								

授業科目名	英語B		サブタイトル	(英語で岡山を楽しみながら学ぼう)		授業番号	EA212	
担当教員名	藤代 昇丈							
対象学部・学科	保育学科			単位数	2単位			
開講年次	2年			開講期	前期			
必修・選択	選択			授業形態	演習			
【授業の概要】								
英語の4技能の力を高めると同時に身近な話題についての英語を通して理解が深まるように演習を通して講義する。ペアやグループ活動も取り入れ、最終的には、社会的な話題について簡単な英語で発表できる力の養成を目指している。								
【到達目標】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。</li> <li>・対話でよく使われる英語表現を実際に用いることができる。</li> <li>・英文で扱われている題材について知識を得ることができる。</li> <li>・英語の4技能を駆使して情報を収集し発信できる。</li> </ul> なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>の修得に貢献する。								
【授業計画】								
第1回：Unit1 Goals in College Life 第2回：Unit2 Totoro Travels to Nepal 第3回：Unit3 Sightseeing in London 第4回：Unit4 Sushi 第5回：Unit5 Fashion Trends 第6回：Unit6 Shodo 第7回：Unit7 The Mississippi River 第8回：Unit8 Ocean Blue 第9回：Unit9 Studying Abroad 中間テスト 第10回：Unit10 The Northern Lights 第11回：Unit11 The Sound of the Saxophone 第12回：Unit12 Communication Tips 第13回：Unit13 Seasonal Festivals(Sekku) 第14回：Unit14 Electric Cars 第15回：Unit15 The Amazing Brain 期末テスト								
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考					
	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	意欲的な受講態度、予習の状況及び授業への貢献度を評価する。					
	レポート	20%	課題のテーマについて調査し、整理・分析し、具体的かつ適切にまとめてあるかを評価する。					
	小テスト	40%	各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。講義の中間期、期末に授業内容の理解度を評価する。					
	定期試験							
	その他	10%	積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。					
	自由記載							
【受講の心得】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習と復習を心がけ、辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。</li> <li>・授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。</li> </ul>								
【授業外学修】								
1 テキスト内容については授業までに2時間以上予習すること。 2 毎回前時の授業内容についての小テストを実施するので2時間以上復習しておくこと。 3 課題については十分に調査してレポートを作成すること。								
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN			
	Amazing Visions of the Future -Aspects of Human Activity- 国際社会への英語の扉-インプットからアウトプットで学ぶ四技能-	伊與田洋之, 赤塚麻里, 土井峻, 梶浦真由美, マリキットG.マナング, 室淳子	南雲堂	1,900円+税	978-4-523-17888-0 C0082			
	自由記載							
参考書	自由記載	【担当教員の実務経験の有無】						
		有						
		【担当教員の实務経験】						
		県情報教育センター・県総合教育センター・県立高等学校英語科教諭						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】								
無								
【実務経験をいかした教育内容】								
高校の学校現場に勤務し、英語科の指導に当たった経験から、学生のニーズを的確に把握し、わかりやすい解説や指導をすることができる。また、大学生として身につけておくべき語彙や表現などをペアやグループ活動などを取り入れアクティブかつ実践的な指導ができる。また、県情報教育センター及び県総合教育センター情報教育部の指導主事として、教職員の研修や指導業務に当たった経験から、ICTを活用して動画や音声を提示しわかりやすい授業を行うことができる。								

授業科目名	日本事情 留学生対象科目		サブタイトル		授業番号	-
担当教員名	岡本 輝彦					
対象学部・学科	保育学科	単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b>						
日本の文化や社会、習慣について幅広く学習し日本人のものの見方、考え方を知ることによって日本での生活に適應できる能力を身につける。また、知識を習得するだけでなくプレゼンテーションなどを通して日本語で発信できる能力を養うことを目的とする。						
<b>【到達目標】</b>						
1. 日本の文化や社会について自国の事情と比較しつつ知識を深めることができる。 2. 日本や日本人を正しく理解することができる。 3. 最終的には日本人コミュニティに参加できるようになる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：オリエンテーション・自己紹介 第2回：日本はどんな国か 第3回：自分の国を紹介する 第4回：日本の食について考える 第5回：自国の食文化を紹介する 第6回：年中行事 第7回：自国の年中行事を紹介する 第8回：現代文化とポップカルチャー 第9回：自国の文化を紹介する 第10回：環境保護を考える 第11回：自国の環境保護に対する取り組みを紹介する 第12回：教育 第13回：自国の教育を紹介する 第14回：多文化共生社会について考える(1) 第15回：多文化共生社会について考える(2)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		40%	積極的な受講態度、発話回数で評価する。		
	レポート		20%	自分の意見が適切に述べられているかどうかで評価する。		
	小テスト		40%	学習内容が理解できているかどうかで評価する。		
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
1. 資料を読んだり、ディスカッションをしたりするので、自分からどんどん発言すること。 2. 講義テーマに関する事柄を事前に調べておくこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 後期テーマに関する必要な語彙を調べておくこと。 2. プレゼンテーションの原稿を作成すること。 3. 資料を探しプレゼンテーションソフトを使って発表の練習をすること。						
以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	毎回プリントを配布する予定。				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	日本語 留学生対象科目		サブタイトル		授業番号	-
担当教員名	岡本 輝彦					
対象学部・学科	保育学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
総合的な日本語力を養うとともに日本や日本人に対する考え方を深めること、受容だけではなく産出の面にも焦点をあてて授業を進めていくことにより、日本語での発信力を向上させることを目的としている。						
<b>【到達目標】</b>						
1. 論理的な思考を身につけることができる。 2. 自分が言いたいことが例や理由などを示しながらわかりやすく説明できる。 3. 中上級の表現力が習得できる。						
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：アカデミック・リーディング(1) 第2回：語彙・文法(1)および復習 第3回：アカデミック・リーディング(2) 第4回：語彙・文法(2)および復習 第5回：アカデミック・ライティング(1)および小テスト 第6回：アカデミック・リーディング(3) 第7回：語彙・文法(3)および復習 第8回：アカデミック・リーディング(4) 第9回：語彙・文法(4)および復習 第10回：アカデミック・ライティング(2)および小テスト 第11回：アカデミック・リーディング(5) 第12回：語彙・文法(5)および復習 第13回：アカデミック・リーディング(6) 第14回：語彙・文法(6)および復習 第15回：アカデミック・ライティング(3)および小テスト						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	積極的な受講態度、発話回数、予習復習の成果で評価する。		
	レポート		30%	自分の意見が適切に述べられているかどうかで評価する。		
	小テスト		40%	学習内容が理解できているかどうかで評価する。		
	定期試験		0%			
	その他		10%	口頭発表		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
講義の前にプリントを読んでおき、事前にわからない語彙の意味・用法を調べておくこと。講義を聞くだけでなく、自分から意見を述べること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 毎回配布するテキストに関する事項について事前に自分の意見をまとめておくこと。 2. テキストに出てくる学習項目を調べておくこと。						
以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	毎回プリントを配布する予定。				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	日本語II 留学生対象科目		サブタイトル		授業番号	-
担当教員名	岡本 輝彦					
対象学部・学科	保育学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
総合的な日本語力はもとよりのこと、特に「話す」、「書く」といった産出の面における日本語能力の向上を目指し、自分の考えを論理的に日本語で表現できる能力を身につけることを目的としている。						
<b>【到達目標】</b>						
1. 論理的な思考を身につけることができる。 2. 自分が言いたいことが例や理由などを示しながらわかりやすく説明できる。 3. 中上級の表現力を習得することができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：アカデミック・リーディング(1) 第2回：発表・討議 第3回：アカデミック・リーディング(2) 第4回：アカデミック・ライティング(1) 第5回：アカデミック・リーディング(3) 第6回：発表・討議 第7回：アカデミック・リーディング(4) 第8回：アカデミック・ライティング(2) 第9回：アカデミック・リーディング(5) 第10回：発表・討議 第11回：アカデミック・リーディング(6) 第12回：アカデミック・ライティング(3) 第13回：プレゼンテーション技法(1) 第14回：プレゼンテーション技法(2) 第15回：プレゼンテーション技法(3)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		40%	積極性・発表・予習・復習で総合的に評価する。		
	レポート		20%	自分の意見が適切に述べられているかどうかで評価する。		
	小テスト					
	定期試験		40%	理解度および到達度で評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
講義の前にプリントを読んでおくこと。また、日本人学生との交流もあるので積極的に発言すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 毎回配布するプリントに関する事項について事前に自分の考えをまとめておくこと。 2. プリントに出てくる学習項目を調べておくこと。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	毎回プリントを配布する予定。				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	保育者基礎演習		サブタイトル	授業番号	EB101
担当教員名	松井 みさ 原田 眞澄 大山 佐知子 大橋 美佐子 鳥越 亜矢 土`田 豊 山本 房子 平尾 太亮 松田 文春 福澤 惇也 清水 憲志				
対象学部・学科	保育学科		単位数	1単位	
開講年次	1年		開講期	前期	
必修・選択	必修		授業形態	演習	
【授業の概要】 保育学科の実習（施設・保育所・幼稚園）では、乳幼児や障がい児（者）だけでなく教職員との人間関係が基礎となる。そこで、各実習に先駆けて、それらに共通する自己理解と他者理解・コミュニケーション技術・保育技術・保育現場の実際について、演習や見学などを通して体験的に学んでいく。10人程度を1グループとし、オムニバス形式で以下の内容を網羅する。					
【到達目標】 保育者としての心豊かな人間性や自主学習力、人間関係を築く上で必要なコミュニケーション力を身につけることができるようになる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：グループを決める。ファイルを作成する。園見学の服装態度を学ぶ （担当担当：松井 みさ 原田 眞澄 大山 佐知子 大橋 美佐子 土`田 豊 鳥越 亜矢 平尾 太亮 松田 文春 山本 房子 清水 憲志 福澤 惇也）					
第2回：こども園で低年齢児の保育を見学する。 （担当担当：大橋美佐子）					
第3回：こども園で3歳以上児と触れ合う。 （担当担当：山本房子）					
第4回：施設の生活を知る（施設の生活を理解し、支援方法を学ぶ）。 （担当担当：平尾太亮）					
第5回：幼稚園の見学をする。 （担当担当：福澤惇也）					
第6回：リズム楽器の奏法と音楽リズムを学ぶ。 （担当担当：松井みさ）					
第7回：ピアノの音を聴く。 （担当担当：大山佐知子）					
第8回：会話表現のし方を学ぶ（保育者として聞き取りやすい話し方の基本、あいさつ、敬語の使い方など）。 （担当担当：松井 みさ 原田 眞澄 大山 佐知子 大橋 美佐子 土`田 豊 鳥越 亜矢 平尾 太亮 松田 文春 山本 房子 清水 憲志 福澤 惇也）					
第9回：絵本のおもしろさを体験する。 （担当担当：清水憲志）					
第10回：生活者としてのたしなみを学ぶ（折る・包む・結ぶ）。 （担当担当：鳥越亜矢）					
第11回：ネイチャーゲームを体験する。 （担当担当：土`田豊）					
第12回：他者理解と自己理解を体験する。 （担当担当：松田文春）					
第13回：リーダーとその他の役割に応じた行動のし方を学ぶ。 （担当担当：原田眞澄）					
第14回：造形活動を通じた仲間づくりを体験する。 （担当担当：松井 みさ 原田 眞澄 大山 佐知子 大橋 美佐子 土`田 豊 鳥越 亜矢 平尾 太亮 松田 文春 山本 房子 清水 憲志 福澤 惇也）					
第15回：保育者基礎演習を通して学んだことをグループメンバーと共有する。 （担当担当：松井 みさ 原田 眞澄 大山 佐知子 大橋 美佐子 土`田 豊 鳥越 亜矢 平尾 太亮 松田 文春 山本 房子 清水 憲志 福澤 惇也）					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢／態度		60%	意欲的な受講態度、討議への参加を毎回3段階で評価する。	
	レポート				
	小テスト				
	定期試験				
	その他		40%	毎回、振り返りシートに学んだことをまとめて提出でき、15回目にすべてをファイルに綴じて提出できるかを評価する。振り返りシートについては、授業者が押印して返却する。	
自由記載					
【受講の心得】 保育者（保育士・幼稚園教諭）を目指す者は、必ず受講すること。					
【授業外学修】 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載	なし			
参考書	自由記載				
【担当教員の実務経験の有無】 有					
【担当教員の実務経験】 ミュージックスクール講師（松井みさ）看護師（原田眞澄）小学校教諭（大山佐知子 土田豊）保育士（大橋美佐子 清水憲志）幼稚園教諭（山本房子 福澤惇也）医療型障害児入所施設職員（平尾太亮）中学校教諭（松田文春）					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					
【実務経験をいかした教育内容】 保育士や幼稚園教諭を目指す学生に各教員が勤務経験を元にした説明をし、学生生活をより有意義なものにするための心掛けと具体的な行動を指導する。					

授業科目名	教育原理		サブタイトル		授業番号	EC101
担当教員名	松田 文春					
対象学部・学科	保育学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	必修			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
教育の本質、幼児教育・保育の歴史、教育と児童福祉の基本理念、教育課程・全体的な計画、子どもの発達の特徴と遊び、特別支援教育の理念、幼児教育と保育の教育評価、保育者に求められる資質や能力など、幼児教育・保育についての基本的な考え方や内容について講義する。						
<b>【到達目標】</b>						
幼児教育・保育についての基本的な考え方や内容について知り、説明することができるようになる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：教育の本質-4つの教育の理念- 第2回：幼児教育を築いた人々-教育思想の歴史- 第3回：わが国の幼児教育と保育の歴史 第4回：子どもの発達と教育-発達理論の歴史- 第5回：教育と児童福祉の基本理念-教育法規上の目的と目標- 第6回：わが国と外国の幼児教育・保育の制度-教育制度の理念と現代の教育課題- 第7回：教育課程・全体的な計画 第8回：子どもの発達の特徴と遊び-幼児教育の基本理念と指導の実際- 第9回：幼児教育と保育の教育評価 第10回：特別支援教育の理念-一人ひとりに合った支援- 第11回：生涯学習社会における幼児教育と保育の理念と課題 第12回：子どもの人権と幼児教育・保育 第13回：組織マネジメントと学校評価・保育所評価 第14回：信頼される開かれた幼稚園・保育所づくり 第15回：危機管理と安全教育						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート		20%	各回の主要なポイントの理解を評価する。		
	小テスト					
	定期試験		60%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
1 事前・事後にテキストや参考文献を読むこと。 2 学修したことや自分の考えなどをまとめ、振り返りシートを書くこと。 3 発表や討議に積極的に取り組むこと。 4 配付する資料を整理しておくこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として、テキストのうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、テキストやノート、資料を読み直す。 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価
	教育原理			矢藤誠慈郎・北野幸子	中央法規	2,000(税別)
	自由記載					
参考書	自由記載		授業において随時紹介する。			
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
<b>【担当教員の実務経験】</b>						
中学校教諭、特別支援学校教諭						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
学校教育における教育課程の全体像の観点に立ち、とくに交流教育・人権教育の観点に基づいた授業を行う。						

授業科目名	保育原理		サブタイトル		授業番号	EC102
担当教員名	清水 憲志					
対象学部・学科	保育学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	必修			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）につなげて理解する。その基礎を基にした保育実践を考える力や多様な展開について、保育事例を通して具体的に理解する。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の総則の記述内容を理解し、説明できる。</li> <li>・子どもにとっての「遊び」の重要性と「子ども理解」の関連性を説明出来る。</li> <li>・事例を読み取り、保育者としてどうすべきだったかを具体的に文章で説明出来る。</li> </ul>						
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：保育とは 第2回：保育の社会的養護 第3回：現代社会における子育てと保育 第4回：子ども理解 第5回：子どもの発達に応じた教育 第6回：環境を通して行う保育 第7回：環境を通して行う保育 第8回：保育者の倫理と役割 第9回：保育の歴史の変遷と思想(1) 第10回：保育の歴史の変遷と思想(2) 第11回：保育の歴史の変遷と思想(3) 第12回：保育の目的、目標、ねらい 第13回：保育の内容：生活と遊びと学び 第14回：保育の計画と評価：全体的な計画・指導計画 第15回：保育の方法						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		20%	積極的な授業態度、授業や討議への参加によって評価する。		
	レポート		20%	授業内容を理解し、自分なりの考えを書くことができるか。		
	小テスト					
	定期試験		60%	保育の基本や歴史について、正しい知識を持っている。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
保育の基礎知識の理解に努めること。グループ討議や発表などには主体的に参加し、自分の考えを述べること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 毎回、授業に使用するテキストを2時間以上かけて読み、授業内容の概要を理解すること。 2. 受講後は自身のノートの記載事項を1時間以上かけて整理し、分からないところは明確にしておくこと。						
以上の内容を合わせて週4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価
	保育原理			戸江 茂博	ミネルヴァ書房	2200円
	自由記載					978-4-623-07962-9
参考書	自由記載		保育所保育指針解説（平成30年3月厚生労働省）幼稚園教育要領解説（平成30年3月文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月内閣府，文部科学省，厚生労働省）			
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
	<b>【担当教員の实務経験】</b>					
公立保育所保育士，附属幼稚園教諭						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
保育所や幼稚園での事例や写真を活用しながら、保育所保育指針、幼稚園教育要領等と結び付けて具体的なものとして、学生に教授する。						



授業科目名	子ども家庭福祉		サブタイトル		授業番号	EC201
担当教員名	松井 圭三					
対象学部・学科	保育学科		単位数	2単位		
開講年次	2年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>						
本講義の目的は下記の通りである。						
(1) 現代の日本社会における児童福祉問題を社会科学の視点より自ら考察できるようになること。						
(2) 児童福祉に関する基礎的知識を習得すること。こうした基礎知識を活用し、児童福祉問題に関するレポートを作成できるようになること。						
(3) 子ども家庭福祉の観点を学習すること。						
(4) 児童福祉関連法を学習すること。						
<b>【到達目標】</b>						
・児童福祉の実践能力を修得できる。						
・保育者として専門性を高めるための基本的知識を修得できる。						
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：子ども家庭福祉の理念と概念						
第2回：子ども家庭福祉の歴史の変遷						
第3回：現代社会と子ども家庭福祉						
第4回：子どもの人権擁護の歴史の変遷						
第5回：児童の権利に関する条約						
第6回：子どもの人権擁護と現代社会における課題						
第7回：子ども家庭福祉の制度と法体系						
第8回：子ども家庭福祉の実施体系						
第9回：児童福祉施設						
第10回：子ども家庭福祉の専門職						
第11回：少子化と地域子育て支援						
第12回：母子保健と子どもの健全育成						
第13回：子ども虐待・DVとその防止						
第14回：障害のある子どもへの対応						
第15回：貧困家庭、外国籍の子どもとその家族への対応、子ども家庭福祉の動向と課題						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	意欲的な受講態度。発表、グル-ブワ-クでの参加、予習、復習によって評価する。		
	レポート		10%	レポ-ト課題に対する確に解答しているかについて評価する。		
	小テスト		10%	各回の主要ポイントの理解を評価する。		
	定期試験		50%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
本授業は授業形式とグル-ブ討議で進めていきます。						
・予習と授業中の積極的な発言を求めます。						
・他教科と連動して考える力、専門的知識の応用力が求められます。						
・自ら考える姿勢で授業に臨んでください。						
・レポ-トの提出期限を遵守する。						
<b>【授業外学修】</b>						
・予習として、教科書のうち、授業内容に関わる部分を読み、疑問点を明らかにする。						
・復習として、課題のレポ-トを書く。						
・発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。						
大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。						
本授業では、週4時間程度の授業外学修が必要である。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	第3版児童家庭福祉		小倉毅ほか	大学教育出版	1800円	978-4-86429-292-4
	NIE児童家庭福祉演習		松井圭三ほか	大学教育出版社	2000円	978-4-86429-438-6
自由記載						
参考書	自由記載		講義時に適宜紹介します。			
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
	<b>【担当教員の实務経験】</b>					
観音寺市シルバー-人材センタ-、観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
人権分野において実務経験を踏まえた授業を実践している。						

授業科目名	社会福祉		サブタイトル		授業番号	EC202
担当教員名	松井 圭三					
対象学部・学科	保育学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	必修			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b> 社会福祉に関する基礎知識を学ぶことが本講の目的である。特に、社会福祉の歴史・法律・組織・制度・施設・技術・資格・課題・展望等を学ぶことを主眼としている。また、社会福祉は生きたものであるので社会福祉の動向についてもふれていく。具体的には、ゴールドプラン・新ゴールドプラン・エンジェルプラン・障害者プラン等今日の社会福祉政策や介護保険について言及する。ゆえに、社会福祉の基礎知識を学習すると言っても、そのメニューはきわめて多いので予習して授業に臨んでいただければと思う。 最後に、社会福祉関係に従事しようとするものは専門知識だけでなく倫理や哲学といった人格や人間性も重要になってくる。本講ではそのような観点から現代の社会福祉問題を取り上げ、自分ならどう考えるか、どのようにして援助していくのかについても考察していく。						
<b>【到達目標】</b> ・現場で利用できる社会福祉の臨床能力を修得する。 ・保育の専門性を高めるための社会福祉の専門的知識を修得する。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
<b>【授業計画備考】</b> 山陽新聞記者から4月、5月、6月、7月において各1回特別授業を受講する。「新聞とは何か」、「新聞記事の読む方」、「レポート、文章の書き方」、「プレゼンテーションの仕方」等について解説をする。また、新聞を3か月分使用し、社会福祉関係の記事のスクラップや要約、感想等を事前に準備し、授業でグル-ブワ-クを行う予定である。						
第1回：現代社会と社会福祉 第2回：社会福祉の歴史 第3回：社会福祉のしくみ 第4回：社会福祉援助技術 第5回：社会福祉に働く人々 第6回：生活保護 第7回：児童福祉 第8回：障害者福祉 第9回：高齢者福祉 第10回：母子福祉 第11回：地域福祉 第12回：医療福祉 第13回：国際福祉 第14回：これからの社会福祉（成年後見制度） 第15回：まとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	意欲的な受講態度・発表・グル-ブワ-クでの参加、予習、復習によって評価する。		
	レポート		10%	レポート課題に的確に解答しているかどうかを評価する。		
	小テスト		10%	各回の主要ポイントの理解を評価する。		
	定期試験		50%	最終的な理解度を評価する。		
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b> 本授業は講義形式とグル-ブワ-ク討議を行います。 ・予習と授業中の積極的な参加を期待します。 ・他教科と連動して考える力、専門的知識が求められます。 ・自ら考える姿勢で授業に参加してください。 ・レポートの提出期限を遵守する。 ・社会福祉の基礎知識を学習するといっても、そのメニューは極めて多いので予習して授業を受けること。						
<b>【授業外学修】</b> ・予習として、教科書のうち、授業内容に関する章節を読み、課題点を明らかにする。 ・復習として、課題のレポートを書く。 ・発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。 大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本授業では、週4時間程度の授業外学習が必要である。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	新聞教材費				6800円	
	自由記載					
参考書	自由記載		授業において、随時紹介する。			
	【担当教員の実務経験の有無】		有			
	【担当教員の实務経験】		観音寺市シルバー-人材センタ-、観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司			
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 高齢者福祉、障害者福祉において実務経験を踏まえた授業を实践している。						

授業科目名	子ども家庭支援論		サブタイトル		授業番号	EC203
担当教員名	松井 圭三					
対象学部・学科	保育学科	単位数	1単位			
開講年次	2年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】 家族、家庭の概念と子育て支援や関係機関、専門職の連携を学習する。また専門職倫理をもとに事例研究を行い、保育現場において必要な社会資源、制度、法律、サ・ピス等の知識を習得する。						
【到達目標】 1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解できる。2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解できる。 3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解できる4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解できる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
【授業計画】 第1回:家族の意義と役割 第2回:家庭支援の必要性 第3回:現代の家庭における人間関係 第4回:地域社会の変容と家庭支援 第5回:保育と相談援助 第6回:男女共同参画社会とワークライフバランス 第7回:子育て家庭の福祉を図るための社会資源 第8回:子育て支援施策 第9回:保育所入所児童の家庭への支援 第10回:地域の子育て家庭への支援 第11回:子育て支援における関係機との連携 第12回:要保護児童および家庭に対する支援 第13回:多様な家族形態と子どもたちの育ち 第14回:結婚、家族の事例研究 第15回:保育士による子ども家庭支援の意義と基本						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加、予習、復習によって評価する。		
	レポート		10%	レポート課題に的確に解答しているかについて評価する。		
	小テスト		10%	各回の主要ポイントの理解を評価する。		
	定期試験		50%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
【受講の心得】 本授業は授業形式とグループ討議で進めていきます。 ・予習と授業中の積極的な発言を求めます。 ・他教科と連動して考える力、専門的知識が求められます。 ・自ら考える姿勢で授業に臨んでください。 ・レポート提出期限を遵守する。						
【授業外学修】 ・予習として、教科書のうち、授業内容に関わる部分を読み、疑問点を明らかにする。 ・復習として、課題のレポートを書く。 ・発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。 大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本授業では、週1時間程度の授業外学習が必要である。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	NIE家庭支援演習		松井圭三他	大学教育出版	2700円	978 - 4 - 86429 - 501 - 7
自由記載						
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	家庭支援論		松井圭三	大学教育出版	1800円	
自由記載		必要に応じて紹介します。				
【担当教員の実務経験の有無】 有						
【担当教員の实務経験】 観音寺市シルバ - 人材センタ - 職員、観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無						
【実務経験をいかした教育内容】 子どもの人権分野において実務経験を踏まえた授業を実践している。						

授業科目名	社会的養護I		サブタイトル		授業番号	EC204
担当教員名	松井 圭三					
対象学部・学科	保育学科	単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b>						
社会的養護の意義と歴史の変遷，児童福祉や児童の権利擁護，社会的養護の制度や実施体系，児童の人権擁護及び自立支援等の現状と課題について学ぶ。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>社会的養護の歴史の変遷と現状の課題についての知識を獲得する。</li> <li>現代社会における社会的養護の果たす役割についての知識を獲得する。</li> <li>社会的養護の制度や実施体系についての知識を獲得する。</li> </ul>						
なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：社会的養護の理念と概念 第2回：社会的養護の歴史の変遷 第3回：児童家庭福祉の一分野としての社会的養護 第4回：児童の権利擁護と社会的養護 第5回：社会的養護の制度と法体系 第6回：社会的養護の仕組みと実施体系 第7回：家庭養護と施設養護 第8回：社会的養護における保育士等の倫理と責務 第9回：家庭養護と施設養護の基本原則 第10回：家庭養護と施設養護の実践 第11回：施設養護とソーシャルワーク 第12回：施設等の運営管理の現状と課題 第13回：倫理の確立 第14回：被措置児童等の虐待防止の現状と課題 第15回：社会的養護と地域福祉の現状と課題						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	授業に積極的に参加し、意見や疑問を表現することができる。			
	レポート	30%	社会的養護を支える専門職の、各施設における設置基準と意義について論じることができる。			
	小テスト					
	定期試験	50%	全講義終了後、社会的養護における知識と視点をふまえて、総合的に論じることができる。			
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
様々な気づきを得られるよう、積極的な態度で授業に臨むこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 授業内で学修した、社会的養護に関わる諸知識を復習すること。 2. 教科書のうち、次の講義内容に関わる部分を読み、疑問点を明らかにすること。						
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	NIE社会的養護演習I, II	松井圭三他	大学教育出版	2200円 + 税	978-48669-212-66	
	自由記載					
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	保育福祉小六法	保育福祉小六法編集委員会	みらい	1700円	978-4-86015-473-8 c 3022	
	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
観音寺市シルバ - 人材センタ - 職員，観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
子どもや障害児の人権分野において実務経験を踏まえた授業を実践している。						

授業科目名	保育者論		サブタイトル		授業番号	EC205
担当教員名	勘藤 まり子					
対象学部・学科	保育学科	単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	前期			
必修・選択	必修	授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b>						
<p>人格形成の基礎を培う乳幼児期に関わる保育者は、人間性や子ども理解、発達特性に応じた指導力等の専門性が大切である。今日求められる保育者の専門性や資質について学び、自らの課題を認識し、保育者としての意欲や自覚を養うことについて講義する。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>保育者としての役割や職務とともに保育者の喜びや生きがい、責任について具体的に理解し、自らの資質を向上させることができる。          なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt; &lt;思考・問題解決能力&gt;の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：保育者とは          第2回：保育者になるために          第3回：専門職であるために          第4回：初めての保育          第5回：子どもと家族にとって保育とは          第6回：子どもの生活環境を整えるとは          第7回：発達を捉える視点          第8回：専門職としての責務を理解する          第9回：保育者の協働・求められる資質          第10回：同僚性          第11回：子育て支援          第12回：新しい課題とニーズ          第13回：ニーズに対する保育者の対応          第14回：保育者の歴史 欧米・日本の保育者          第15回：まとめ</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		10%	意欲的な受講態度、発表への参加によって評価する。		
	レポート		20%	授業毎に要点をおさえて記入しているか評価する。		
	小テスト					
	定期試験		70%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
<p>保育者を志す学生として自覚を持ち授業に取り組むこと。</p>						
<b>【授業外学修】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習として、教科書の指定された部分を読み、疑問点を明らかにする。</li> <li>・復習として、授業を振り返り、ノート、配布物を整理する。</li> <li>・授業で紹介された参考文献を読む。</li> </ul> <p>以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。</p>						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	保育者論		矢藤誠慈郎・天野珠路	中央法規	2,000 + 税	978-4-8058-5787 8
自由記載						
参考書	自由記載	『倉橋惣三選集第1巻～4巻』、フレーベル館『保育者論 - 共生へのまなざし - 』、岸井勇雄 他監修、同文書院『最新保育講座 保育者論』、汐見稔幸・大豆生田啓友 著、ミネルヴァ書房				
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
認定こども園園長、公立保育園保育士						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
<p>保育園、認定こども園現場での経験を生かして、保育者の役割や倫理、専門性等保育現場の実際を反映させた講義を行う。</p>						

授業科目名	教育心理学		サブタイトル		授業番号	ED201
担当教員名	平尾 太亮					
対象学部・学科	保育学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	必修			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
教育心理学の基本的な概念や理論への理解を深めるとともに、保育や教育現場における指導や援助の実践に役立つ視点を習得させることを目的とする。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育心理学の基本的な概念や理論を知り、教育心理学についての知識を習得する。</li> <li>・心理学的な視点や考え方を、保育・教育の場面でいかせるようにする。</li> </ul>						
なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：教育心理学とは？ 第2回：子どもの発達 第3回：大人の発達 第4回：学習とは？(1) 第5回：学習とは？(2) 第6回：頭が良いとは？ 第7回：記憶力が良いとは？ 第8回：性格とは？(1) 第9回：性格とは？(2) 第10回：集団とは？ 第11回：評価とアセスメント 第12回：子どもの心の問題(1) 第13回：子どもの心の問題(2) 第14回：カウンセリングとは？ 第15回：まとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	授業に積極的に参加し、意見や疑問を表現することができる。		
	レポート					
	小テスト		30%	授業内で課題を実施し到達度を評価する(15%×2回)		
	定期試験		50%	全講義終了後、教育心理学における知識と視点をふまえて、総合的に論じることができる。		
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
様々な気付きが得られるように、積極的な態度で授業に臨むこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 授業内で学修した、教育心理学に関わる基礎理論を復習すること。 2. 授業内で授業内容の小テストがあるため、その準備をすること。						
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	必要であれば、その都度プリントを配布する。				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
スクールカウンセラー，医療型障害児入所施設職員						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
スクールカウンセラーでのカウンセリング業務を通して、子どもの性格や特性，集団に対してのアセスメントの方法や，子どもの心の問題，カウンセリングについて実例を交えながら教示する。 施設職員の経験では，生涯発達やライフサイクル，特別支援といった成長・発達に関する知見を伝える。						

授業科目名	子ども家庭支援の心理学		サブタイトル	授業番号	ED202	
担当教員名	長檜 涼子					
対象学部・学科	保育学科	単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	必修	授業形態	講義			
【授業の概要】						
<p>本授業では、生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性と獲得すべき発達課題等について理解する。また、家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の視点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。併せて、子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題についても理解を深める。さらに、子どもの精神保健とその課題についても考察しながら、生育環境が子どもに与える影響についての理解を深める。</p>						
【到達目標】						
<p>1.生涯発達に関する心理学の基礎知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等を理解する。  2.親子関係や家族関係を発達の視点で理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える観点を習得する。  3.子育て家庭をめぐる現代の社会的状況や、子どもの精神保健について学び、その課題を理解する。</p>						
<p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt; &lt;思考・問題解決能力&gt; の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：生涯発達(1) 乳児期の発達  新生児期・乳児期 / 言葉の発達 / アタッチメント  第2回：生涯発達(2) 幼児期の発達  認知発達 / 言語発達 / 社会性の発達 / 自己の発達 / 初期経験の重要性 / 遊びの発達  第3回：生涯発達(3) 学童期の発達  認知発達 / 社会性の発達 / 自己の発達 / 学童期の諸問題と教育支援 / 保幼小接続  第4回：生涯発達(4) 青年期の発達  身体の発達 / 認知発達 / 自己の発達 / 対人関係の変化 / 臨床的課題と支援  第5回：生涯発達(5) 成人期・中年期の発達  職業キャリアの発達 / 結婚と子育て / 中年期危機 (自己・職業・家庭)  第6回：生涯発達(6) 高齢期の発達  高齢期の心と体の発達 / 超高齢社会の高齢者 / 高齢者福祉 (認知症対策) / 支援・介護と世代間交流  第7回：家族・家庭の理解(1) 意義の機能  家庭・親族・世帯とは / 家族の定義・機能の変化 / 環境としての家庭 / 諸問題と支援  第8回：家族・家庭の理解(2) 家族関係・親子関係の理解  家族のライフサイクル / 家族・夫婦・親子の関係を理解する / ジェノグラム / 親子・家族支援  第9回：家族・家庭の理解(3) 子育ての経験と親としての育ち  妊娠期間中の親 / 初めての子育てと親としての育ち / 子育て支援と相談援助 / 諸問題と支援  第10回：子育て家庭に関する現状と課題(1) 子育てを取り巻く社会的状況  晩婚化・非婚化 / 出産・子育てをめぐる社会的状況 / 要保護児童と家庭への支援 / 高度生殖医療  第11回：子育て家庭に関する現状と課題(2) ライフコースと仕事・子育て  男女のライフコースの変化と特徴 / 諸問題 (性役割分業遺・男性の育児参加・ダブルケア) / 親のライフコースにおける子育ての位置づけ  第12回：子育て家庭に関する現状と課題(3) 多様な家庭とその理解  多様な家庭・家族について / 子ども家庭を取り巻く様々な諸問題 / 多様な家族への支援  第13回：子育て家庭に関する現状と課題(4) 特別な配慮を要する家庭  養育者のメンタルヘルス / 子どもや家族の障害 / 不適切な養育・家族の機能不全 / 心理的な問題とケア  第14回：子どもの精神保健と課題(1) 子どもの生活・生育環境とその影響  発達段階と育ちの基本 / 生育環境の諸問題 / 特殊な環境で育つ子どもへの支援、保護者サポート  第15回：子どもの精神保健と課題(2) 子どもの心の健康にかかわる問題  心身の健康に関する諸問題 / 気になる子どもと発達障害</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢 / 態度		20%	意欲的な受講態度、積極的なグループ討論と発表等によって評価する。		
	レポート					
	小テスト		30%	課題に対して適切な解答が得られていること。		
	定期試験		50%	課題を理解し、それについての見解が述べられていること。		
自由記載						
【受講の心得】						
<p>授業前後に教科書や配布資料を読み、理解を深めること。</p>						
【授業外学修】						
<p>授業で紹介する参考文献・資料を次回授業までに読み予習をすること。また、毎回授業の初めに前回授業の内容を確認するので復習し、1時間以上予習・復習をしておくこと。</p>						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	新基本保育シリーズ(9)子ども家庭支援の心理学		白川佳子・福丸由佳	中央法規	2,000 (税別)	978-4-8058-5789-2
自由記載						
参考書	自由記載		授業中に適宜紹介する。			
	【その他】		授業で配布するレジュメ、資料等をファイルするホルダーを用意すること。			
	【担当教員の実務経験の有無】		有			
【担当教員の实務経験】						
<p>保育所の発達巡回指導員・小学校での児童特別支援事業における補助教員</p>						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】						
<p>無</p>						

**【実務経験をいかした教育内容】**

幼児の発達巡回指導や小学校の児童特別支援事業での補助教員としての経験を活かし、子どもの心身の発達とその特徴および健康面に配慮した支援について提示する。また保護者支援の在り方を考える。



授業科目名	子どもの理解と援助		サブタイトル		授業番号	ED203
担当教員名	山本 房子					
対象学部・学科	保育学科	単位数	1単位			
開講年次	2年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
<b>【授業の概要】</b> 保育における子どもの理解の意義と重要性を踏まえた上で、子どもを理解する視点や方法を知る。また、保育者（保育士や幼稚園教諭等）が、子ども理解に基づき具体的などのような援助を行っているのか、その基本について学ぶ。						
<b>【到達目標】</b> ・保育における子ども理解の意義を理解できる。 ・子どもを理解する上での基本的な考え方や具体的な方法について理解できる。 ・子ども理解を深めるための、保育者の姿勢や援助について理解できる。						
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b> 第1回：保育における子どもの理解の意義 第2回：子どもを理解するための保育者の姿勢や態度 第3回：子どもを理解する視点 子どもの生活や遊び 第4回：子どもを理解する視点 集団の中での子ども 第5回：子どもを理解する視点 葛藤やつまずき(1) 第6回：子どもを理解する視点 葛藤やつまずき(2) 第7回：子どもを理解する方法 保育の環境の理解と構成 第8回：子どもを理解する方法 観察・記録・振り返りの実際 第9回：子ども理解と評価 第10回：子ども理解を深める保育カンファレンス 第11回：子ども理解に基づく保育者の援助 第12回：小学校との連携・接続 第13回：子育て支援・家庭支援における子ども理解 第14回：特別な配慮を要する子どもの理解と援助 第15回：まとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	授業における発表・討議への参加態度や課題の取り組み意欲、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート		20%	子ども理解の必要性や重要性について、これまでの実習等の経験や講義の視点をふまえて具体的に論述できていること。レポートはコメント等を記入して返却する。		
	小テスト					
	定期試験		50%	到達目標に示している内容に関する試験を行い、理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b> 子どもを理解するためには、子どもの何を見てどのようにとらえるのかという視点が大切である。主体的に授業に参加し、自分で考えたり、自分の言葉で表現したりすること。また、他者の気付きや考えからも積極的に学び取ってほしい。						
<b>【授業外学修】</b> 1 予習として授業にかかわる視点について、実習での経験や配布資料等をもとに考え、疑問点を明らかにする。 2 復習としてノートへの記入、配布資料の整理をする。 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献や資料を読む。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	随時、資料を配布する				
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	幼児理解に基づいた評価		文部科学省	チャイルド本社	275円	978-4805402832
自由記載						
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有						
<b>【担当教員の实務経験】</b> 公立幼稚園教諭						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 幼稚園教諭として勤務経験をもつ教員が、現場での経験や実践をもとに演習授業を行う。						

授業科目名	子どもの保健		サブタイトル		授業番号	ED204
担当教員名	原田 眞澄					
対象学部・学科	保育学科	単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b>						
子どもの心身の成長発達について学び、健康の保持増進のための保健活動について学ぶ。						
<b>【到達目標】</b>						
1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義が理解できる。						
2. 子どもの身体発育や生理機能・運動機能・精神機能の発達と保健について理解できる。						
3. 小児期に起こりやすい病気と怪我について、予防法と適切な対応が理解できる。						
本科目は、本学科ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内、<知識・理解>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：自分の生活習慣を振り返り、「健康」について自分の考えをまとめる。						
妊娠と出産に関するDVDを視聴して、生命の誕生について考える。小児期の期の区分を知る。						
第2回：DVDを視聴し、生後12か月までの運動機能の発達と保健について学ぶ。						
小児期各期の運動機能の発達と保健について学ぶ。						
第3回：子どもの生理機能と精神機能の発達と保健について学ぶ。						
第4回：手洗いの洗い残し部位を実験し、手の衛生について考える。						
第5回：「早寝早起き朝ごはん」運動と子どもの睡眠について学ぶ。						
第6回：子どもの心の健康とその課題、地域における保健活動と児童虐待防止について学ぶ。わが国の人口動態について学ぶ。						
第7回：各自の睡眠リズム表をもとに、生活習慣の課題と対応方法について考える。						
病児保育のDVDを視聴し、保育の多様化について学ぶ。						
第8回：小児感染症と予防接種について学ぶ。						
第9回：アレルギーの病気について学ぶ。						
第10回：消化器と呼吸器の病気について学ぶ。						
第11回：血液の病気について学ぶ。						
第12回：泌尿器・生殖器・代謝・内分泌・皮膚の病気について学ぶ。						
第13回：運動器・感覚器（目、耳、鼻）の病気について学ぶ。						
第14回：精神神経系の病気・悪性腫瘍について学ぶ。						
第15回：保育者間の連携や他職種との連携について知る。						
母子保健行政の全貌を知り、保育者が担う役割について考える。						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	集中して授業に取り組み、授業内に提出する課題の記述内容が的確である。			
	レポート	10%	睡眠リズム表が正確に記入でき、締切に間に合うように提出できる。			
	小テスト					
	定期試験	60%	到達目標1・2・3の理解度・定着度について評価する。			
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
保育者を目指す学生として、まず自分の健康の保持増進に関心をもつこと						
小児保健に関するニュースに関心をもつこと						
保育所・幼稚園などでボランティア活動をおこない、子どもの理解に努めること						
<b>【授業外学修】</b>						
授業毎に4時間以上の復習をすること						
授業内容に関するテキスト内容を読んだり、それ以外の資料を調べてノート整理すること						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	子どもの保健	高野悟郎編	診断と治療社	2000 + 税	978-4-7878-22 94-9	
	自由記載					
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
小児科・急性内科看護師						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
生命の誕生から小児期各期を通じた成長発達、健康と疾病について看護の経験を生かして指導する。						

授業科目名	子どもの食と栄養A		サブタイトル		授業番号	ED205
担当教員名	荻田 志津子					
対象学部・学科	保育学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
<p>妊娠期（胎児期）、乳児期、幼児期、学童・思春期の各段階に応じた健全な発育・発達を促すために必要な事柄を栄養と食生活の面から学び、その後の生涯発達（成人期・高齢期）の健康および食生活と、子どもの食生活との関係を理解する。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>食育の基本と内容を的確に理解する。そしてバランスの良い食事内容を理解記憶して、保育者自身が実践できる。その上で幼児の保護者に説明・指導ができるようになる。</p>						
<p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：食事のバランス、炭水化物、妊娠期と授乳期の栄養  第2回：離乳期の栄養および離乳食  第3回：幼児期のからだの発達と栄養・食事  第4回：幼児期の栄養 間食とアレルギー  第5回：幼児期の栄養 たんぱく質、脂質  第6回：幼児期の栄養 ビタミン、無機質  第7回：学童期・思春期の食生活  第8回：高血圧予防の栄養および食事  第9回：貧血予防の栄養および食事  第10回：骨粗鬆予防の栄養および食事  第11回：食育  第12回：保育所給食  第13回：幼児の弁当  第14回：高脂血症予防の食事  第15回：行事食およびまとめ</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		30%	積極的に質問したり、意見を述べられることを評価する。		
	レポート		30%	既存の事実・意見を知った上で、自分の意見を述べられることを評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。		
	小テスト					
	定期試験		40%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
<p>集中して講義を聴き、受講内容をノートにまとめる。  積極的に質問に答え、授業に参加する。</p>						
<b>【授業外学修】</b>						
<p>毎回授業終了時に出す課題についてレポートを作成すること。</p> <p>以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。</p>						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載 特になし					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の職務経験】</b>						
市役所健康づくり課のこどもの食事指導						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
保育士・幼稚園教諭に必要な、こどもの食に関する知識及び食の支援ができる技能を指導する。						

授業科目名	子どもの食と栄養B		サブタイトル		授業番号	ED206
担当教員名	荻田 志津子					
対象学部・学科	保育学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
小児栄養を基礎として、乳幼児の食事（調乳、離乳食、幼児食等）、薄味で栄養バランスのとれた子どもの食事、成人の食事を調理、試食する。						
<b>【到達目標】</b>						
実習を通して子どもの食生活の重要性と供食者としての責任を理解した上で、自分自身でもバランスのとれた薄味の料理が出来るようになる。						
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：調乳 第2回：離乳食 第3回：幼児食（1～2歳児） 第4回：幼児食（1～2歳児） 第5回：幼児のおやつ 第6回：幼児食（3～5歳児） 第7回：幼児食（3～5歳児） 第8回：高血圧予防の食事 第9回：貧血予防の食事 第10回：骨粗鬆予防の食事 第11回：洋食の行事食 第12回：クリスマスの行事食 第13回：幼児の弁当 第14回：高脂血症の予防の食事 第15回：和食の行事食 ひな祭り						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		60%	意欲的な実習態度により評価する。		
	レポート		40%	実習内容の客観的評価と改善点について具体的に述べられていることを評価する。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
実習形式ですすめるので、積極的に参加すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
実習内容を自宅にて再度調理し、料理技術の向上に努める。						
以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	適宜、資料を配布する。				
参考書	自由記載	特になし				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
市役所健康づくり課のこどもの食事指導						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
保育士・幼稚園教諭に必要な、こどもの食に関する知識及び食の支援ができる技能を指導する。						

授業科目名	教育相談		サブタイトル		授業番号	ED207
担当教員名	松田 文春					
対象学部・学科	保育学科	単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b>						
教育相談・カウンセリングの理論と方法、基本的な応答の仕方について演習を通して講義する。						
<b>【到達目標】</b>						
子どもの発達への援助、保護者への子育て支援の重要性やカウンセリング・マインドの大切さを理解し、基本的な応答の仕方を身につけることができるようになる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：教育相談・カウンセリングとは何か 第2回：子どもの発達への援助(1)-0～2歳の情緒の発達- 第3回：子どもの発達への援助(2)-3～6歳の情緒の発達- 第4回：子ども理解の意味と方法 第5回：カウンセリングの理論と方法 第6回：カウンセリング・マインド 第7回：園における教育相談の意義と活用 第8回：登園拒否の理解と指導 第9回：社会性の発達とそのつまずきへの理解と対応 第10回：遊びの意義と教育相談 第11回：発達障害の理解と支援 第12回：子育て支援のあり方 第13回：園における保護者への支援 第14回：地域社会・関係機関との連携 第15回：保育者のメンタルヘルス						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。			
	レポート	20%	各回の主要なポイントの理解を評価する。			
	小テスト					
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
1 事前・事後にテキストや参考文献を読むこと。 2 学修したことや自分の考えなどをまとめ、振り返りシートを書くこと。 3 発表や討議に積極的に取り組むこと。 4 配付する資料を整理しておくこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として、テキストのうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題のレポートを書く。 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	親・保育者のための子育て・保育カウンセリングワークブック	清水勇・阿部裕子	学事出版	2000円+税	4-7619-1181-2	
	自由記載					
参考書	自由記載	授業において随時紹介する。				
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
中学校教諭，特別支援学校教諭						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
学校教育における教育課程の全体像の観点に立ち、共感的理解に基づいた教育相談・生徒指導の具体的実践例をもとにした授業を行う。						

授業科目名	教育・保育課程論		サブタイトル	授業番号	EE201
担当教員名	松田 文春				
対象学部・学科	保育学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	後期		
必修・選択	必修	授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>					
幼稚園における教育課程、保育所における全体計画の編成、実施、評価、改善のカリキュラム・マネジメントの基本的な考え方や内容、また教育課程や全体的な計画に基づく指導計画の作成、実施、評価、改善の基本的な考え方や内容等について講義する。					
<b>【到達目標】</b>					
幼稚園における教育課程、保育所における全体計画の編成、実施、評価、改善のカリキュラム・マネジメントの基本的な考え方や内容、また教育課程や全体的な計画に基づく指導計画の作成、実施、評価、改善の基本的な考え方や内容等を知り、説明することができるようになる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：保育の基本と計画-保育所保育指針・幼稚園教育要領を踏まえて- 第2回：保育の計画とカリキュラム・マネジメント 第3回：指導計画の種類と役割 第4回：保育における計画の考え方(1)-0, 1, 2歳児を中心に- 第5回：保育における計画の考え方(2)-3, 4, 5歳児を中心に- 第6回：小学校における計画との関係 第7回：保育における計画の変遷 第8回：教育課程・全体的な計画の編成 第9回：教育課程・全体的な計画の評価・改善-保育士及び保育所の自己評価、幼稚園の自己評価との関連から- 第10回：理想の園の教育課程・全体的な計画の作成(1)-作成の留意点等の確認- 第11回：理想の園の教育課程・全体的な計画の作成(2)-具体的な目標等の設定- 第12回：理想の園の指導計画の作成(1)-作成の留意点等の確認- 第13回：理想の園の指導計画の作成(2)-具体的な目標・活動等の設定- 第14回：発表会・意見交換(1)-全体的な計画について- 第15回：発表会・意見交換(2)-指導計画について-					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート	20%	課題について追究したことをまとめるとともに、自分はどのように考えるのかを具体的に述べていること。レポートについてはコメントを記入して返却する。		
	小テスト				
	定期試験	60%	最終的な理解度を評価する。		
	その他				
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b>					
1 事前・事後にテキストや参考文献を読むこと。 2 課題について追究したことや自分の考えをまとめ、レポートを書くこと。 3 発表や討議に積極的に取り組むこと。 4 配付する資料を整理しておくこと。					
<b>【授業外学修】</b>					
1 予習として、テキストのうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題のレポートを書く。 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載				
参考書	自由記載	平成29年告示幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>					
中学校教諭、特別支援学校教諭					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
学校教育における教育課程の全体像の観点に立ち、実際に教育課程編成に携わった経験をもとに、その運用例を題材にしながら授業を行う。					

授業科目名	保育内容総論		サブタイトル	授業番号	EE202
担当教員名	福澤 惇也				
対象学部・学科	保育学科	単位数	1単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	必修	授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b>					
アクティブ・ラーニングや視聴覚教材を使った演習を行う。また、保育構想 具体的な指導案 模擬保育 振り返り 指導案の改善という一連の流れを経験することで目標が達成できるようにする。					
<b>【到達目標】</b>					
幼稚園教育要領・保育所保育指針で述べられている、園全体を通して総合的に指導するという考え方を具体的に考えることができる。 教育・保育の環境を構成し実践するために必要な知識をまとめることができる。 以上のことを目的とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：養護と教育が一体的に展開する保育と遊びを通した指導について学ぶ。 第2回：子どもの遊びを分析して、どのような経験しているのかを話し合う。 第3回：教育・保育における環境を通した実践について学ぶ。 第4回：環境構成を分析して、物的環境や人的環境との関わりについて話し合う。 第5回：要領・指針における5領域のねらい及び内容のつながりについて学ぶ。 第6回：子どもを取り巻く環境の変化と子どもの生活について学ぶ。 第7回：支援を必要とする子ども理解とクラス運営について学ぶ。 第8回：「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と活動のつながりについて学ぶ。 第9回：活動を分析し、保育の多様な展開について具体的に学ぶ。 第10回：教育・保育における教育課程・指導計画について学ぶ。 第11回：教育・保育における長期指導計画・短期指導計画の特徴について学ぶ。 第12回：運動会に向けての長期指導計画・短期指導計画について学ぶ。 第13回：「初めてのお弁当日」をどのように指導するのかについて日案を作成する。 第14回：模擬保育を目指して指導案を作成する。 第15回：模擬保育をグループで実施する。					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	10%	意欲的かつ主体的な受講態度、課題に対して協働する態度、講義内容に関する積極的な質疑によって評価する。		
	レポート	10%	講義の最後に与えられた課題について、様式に従った上で個人の考えや疑問が丁寧に述べられているかについて評価する。疑問点については、次回の講義冒頭で解説を加える。		
	小テスト				
	定期試験	80%	子どもの姿を捉えて考えられていること。保育者の援助について講義の内容を踏まえて考えられていること。論述の内容に独創性や試行錯誤の跡が認められること。以上の点に沿って評価する。		
	その他				
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b>					
テキストをよく読み、内容の把握に努めること。講義に対して自分なりの考えを持って臨むこと。 グループワークを中心とするので、積極的態度で受講すること。 講義を通して、少しずつ自らが描く保育者像の輪郭が鮮明になるよう思考を巡らせること。					
<b>【授業外学修】</b>					
テキストや配布資料の該当箇所を次回授業までに読んでおき、疑問点を明白にしておくこと。 講義後はテキストや配布された資料をよく読み、知識を整理すること。質問をするなどして疑問を残さないこと。 課題発表の資料を準備すること。 1週間あたり5時間を目安とする。					
使用テキスト	自由記載	平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本（平成29年6月 チャイルド社） 幼稚園教育要領解説（平成30年3月 文部科学省）			
参考書	自由記載				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>					
幼稚園教諭/子育て支援コーディネーター/専門学校非常勤講師					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
幼稚園教諭の経験を生かし、現場の実際を反映させた授業を行う。					

授業科目名	(保育内容)健康		サブタイトル	授業番号	EE203
担当教員名	土田 豊				
対象学部・学科	保育学科	単位数	1単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	必修	授業形態	演習		
【授業の概要】 乳幼児期の発達、それを援助する保育の理念と方法また、現代社会における問題点について学習し、乳幼児期における身体活動の重要性について理解する。					
【到達目標】 現代の子どもたちが抱えている健康に関わる諸問題を理解し、その解決に向けた保育者としての支援の技能や環境づくりを実践できるようになる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：領域「健康」とは子どものからだと心の現状について 第2回：幼児期における運動遊びの必要性について学ぶ 第3回：運動遊びと健康（1）集団遊びいろいろなジャンケン遊び体験 第4回：運動遊びと健康（2）風船・新聞紙を使った遊び体験 第5回：運動遊びと健康（3）サーキット遊び 第6回：運動遊びと健康（4）リバーシ ゲーム体験 第7回：運動遊びと健康（5）ボールを使ったサーキット遊び 第8回：運動遊びと健康（6）伝承遊び体験 第9回：運動遊びと健康（7）いろいろな玉入れ遊び体験 第10回：運動遊びと健康（8）陣取り遊び体験 第11回：運動遊びと健康（9）大型かるたとり遊び体験 第12回：模擬保育運動会の計画と準備 第13回：模擬保育運動会(1) 第14回：模擬保育運動会(2) 第15回：家庭との連携・まとめ					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な受講態度・発表・グループ活動への参加状況を評価する。望ましい服装で授業に取り組めていない場合は、減点対象とする。一方、授業中の発表やグループ内での発表状況等、積極的な言動が確認できた場合は、加算対象とする。		
	レポート	30%	授業で体験したことを踏まえ、実際の保育場面を想像しながら述べていること。保育現場で、子どもたちと運動遊びを展開していることが想起できる場合、内容に応じて得点化する。レポートは、コメントを記入して返却することで学習のフィードバックとする。		
	小テスト				
	定期試験				
	その他	50%	領域「健康」のねらいや幼児期運動指針に示されている内容を考慮して、模擬保育を実施し、その理解度や保育への展開具合を得点化する。		
	自由記載				
【受講の心得】 ・運動着を着用する ・室内用シューズを履く ・貴重品は自己管理する ・装飾品は身につけない（髪は結わせる） ・全員協力の上、準備・片付けをする ・日常生活においても課題を見つけ積極的に取り組む					
【授業外学修】 ・自宅周辺で遊んでいる子どもたちの年齢や遊びの内容について観察したり、新聞やニュースで子どもの体力・運動能力に関する情報を入手しておくこと。 ・保育所や幼稚園等でのボランティアを通して、保育現場で行われている運動遊びについて、対象年齢と遊びの内容を考えあわせながら観察すること。 ・書籍や映像資料等で幼児期の運動遊びについての情報を集め、指導案として反映できるようにすること。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	幼児期運動指針ガイドブック	文部科学省	サン・ライフ企画	1300	978-4-904011-47-8
	自由記載				
参考書	自由記載				
	【担当教員の実務経験の有無】 有				
【担当教員の実務経験】 公立小学校教諭					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					
【実務経験をいかした教育内容】 学校現場での経験を生かして、幼児期に体を動かす子との大切さや方法などについて指導する。					



授業科目名	(保育内容)人間関係		サブタイトル	授業番号	EE204
担当教員名	福澤 惇也				
対象学部・学科	保育学科	単位数	1単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	必修	授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b>					
幼児の人間関係に関する現状と課題についての基礎知識を理解する。そして幼稚園教育要領に示されている「人間関係」のねらい及び内容を理解するとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた具体的な指導場面を想定し、保育を構想し実践する力を身に付ける。					
<b>【到達目標】</b>					
幼児の人間関係に関する現代的課題の基礎知識を身に付け、幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、背景となる専門領域と関連させて理解を深める。 その上で、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。					
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力><技能>の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：現代社会と幼児の人間関係 第2回：家庭や地域の人間関係 第3回：3歳未満児における人間関係の発達（1） 第4回：3歳未満児における人間関係の発達（2） 第5回：幼児期の遊びや生活の中で見られる人と関わる力の育ち 第6回：幼児期の遊びや生活の中で見られる個と集団の育ち 第7回：乳幼児期の自立心の育ち（1） 第8回：乳幼児期の自立心の育ち（2） 第9回：幼児期の協同性の育ち（1） 第10回：幼児期の協同性の育ち（2） 第11回：幼児期の道徳性・規律意識の芽生えと育ち（1） 第12回：幼児期の道徳性・規律意識の芽生えと育ち（2） 第13回：乳幼児期の人間関係のひろがり 第14回：乳児期・幼児期・学童期以降の育ちのつながり 第15回：幼児期に育みたい資質・能力と人間関係					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢/態度				
	レポート		10%	講義の最後に与えられた課題について、様式に従った上で個人の考えや疑問が丁寧に述べられているかについて評価する。疑問点については、次回の講義冒頭で解説を加える。	
	小テスト				
	定期試験		90%	子どもの姿を捉えて考えられていること。保育者の援助について講義の内容を踏まえて考えられていること。論述の内容に独創性や試行錯誤の跡が認められること。以上の点に沿って評価する。	
	その他				
自由記載					
<b>【受講の心得】</b>					
テキストや配付資料についてはよく読み、内容を把握し、授業で学んだことを整理しておくこと。 講義に対して自分なりの考えを持って臨むこと。講義の中で課題や疑問を積極的にみつけること。 「自分が保育者だったら」という想定で講義の内容や講義中の課題に取り組むよう努めること。					
<b>【授業外学修】</b>					
テキストや配布資料の該当箇所を次回授業までに読んでおき、疑問点を明白にしておくこと。 講義後はテキストや配布された資料をよく読み、知識を整理すること。質問をするなどして疑問を残さないこと。 課題発表の資料を準備すること。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載				
参考書	自由記載	平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本（平成29年6月 チャイルド社） 幼稚園教育要領解説（平成30年3月 文部科学省）			
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>					
幼稚園教諭/子育て支援コーディネーター/専門学校非常勤講師					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
幼稚園教諭の経験を生かし、現場の実際を反映させた授業を行う。					

授業科目名	(保育内容)環境		サブタイトル	授業番号	EE205
担当教員名	清水 憲志				
対象学部・学科	保育学科	単位数	1単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	必修	授業形態	演習		
【授業の概要】 子どもの発達を環境とかがかわる力の側面から学ぶ。実践例、ビデオ視聴、保育現場の観察、遊び等を通して幼児が周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもってかかわり、それを生活に取り入れていこうとする力を養うための保育の展開について学び、指導力・実践力を身につけることを目指す。					
【到達目標】 子どもと環境とのかかわりや子どもの育ちを理解し、具体的な保育の環境のあり方とその考え方、教師の援助のあり方について学ぶことで、環境にかかわることを通して幼児に気付かせたいことや学ばせたいことを理解できるようになる。  なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：領域「環境」とは 第2回：乳幼児の育ちと領域「環境」 第3回：乳児、1・2歳児の発達と環境 第4回：自然や植物や生き物に触れる保育 第5回：保育現場の環境について調べよう 第6回：自然や植物や生き物に触れる保育 第7回：ものや道具にかかわることを通して 第8回：砂・水にかかわる指導を考えよう1-子どもの願いをとらえた保育の構想- 第9回：砂・水にかかわる指導を考えよう2-砂・水にかかわる環境構成と指導- 第10回：砂・水にかかわる指導をしてみよう 第11回：文字や数量にかかわる保育 第12回：遊びや生活の中で出会う情報とかがかわることを通して 第13回：動くおもちゃをつくろう1-計画と作成- 第14回：動くおもちゃをつくろう2-作成と作成をととして学んだこと- 第15回：考える力を豊かにする環境とのかかわり					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢/態度		10%	意欲的な受講態度、話し合いへの参加の状況や態度などにより評価する。	
	レポート				
	小テスト				
	定期試験		60%	最終的な理解度を評価する。	
	その他		30%	フォトブックの作成(自然物)	
自由記載					
【受講の心得】 日頃の生活の中で、四季を意識して五感で感じて楽しむようにすること。 地域の自然に興味を持ち、色合いや生長を楽しむこと。					
【授業外学修】 1. 復習として、ノートの整理を行う。 2. 授業内で紹介した参考文献や資料を読む。  以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載	適宜レジュメを配布します。			
参考書	自由記載	保育所保育指針解説(平成30年3月厚生労働省) 幼稚園教育要領解説(平成30年3月文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月内閣府、文部科学省、厚生労働省)			
【担当教員の実務経験の有無】 有					
【担当教員の職務経歴】 公立保育園保育士、附属幼稚園教諭					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					
【実務経験をいかした教育内容】 子どもの育ちを豊かにする環境について、実務経験を生かして、実践事例を取り入れ、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領と結びつけ、指導の大切さを学ぶとともに、学生自身が実体験することで感動体験を味わい、保育者としての資質が向上できるような援助する。					

授業科目名	(保育内容)言葉		サブタイトル	授業番号	EE206
担当教員名	山本 房子				
対象学部・学科	保育学科	単位数	1単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	必修	授業形態	演習		
【授業の概要】 保育内容における領域「言葉」について理解するとともに、子どもの発達に関する知識や言葉を育てる児童文化財を実際に体験することを通して、子どもの言葉の獲得に必要な保育者のかかわりについて学ぶ。					
【到達目標】 ・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された領域「言葉」における、ねらい・内容・留意事項を理解できる。 ・乳幼児の言葉の発達や獲得のための保育者のかかわりについての知識や技術を修得する。 ・絵本、紙芝居などの児童文化財の実践を行うことができる。 ・言葉にかかわる諸問題についての知識を修得する。					
なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><技能>の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：言葉とは 言葉の意義と機能 - 第2回：言葉を獲得すること 第3回：領域「言葉」のねらいと内容 第4回：乳児の言葉の特徴と発達 第5回：幼児の言葉の特徴と発達 第6回：「言葉に対する感覚とは」 - 言葉の美しさや楽しさ 第7回：言葉を育てる児童文化財：絵本・紙芝居 第8回：絵本の読み聞かせをする 第9回：紙芝居を演じる 第10回：言葉を育てる児童文化財：パネルシアター・ペープサート 第11回：ペープサートを作る1 第12回：ペープサートを作る2 第13回：ペープサートを演じる 第14回：言葉の発達に関わる諸問題 第15回：まとめ					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	授業における発表や討議への参加態度、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート				
	小テスト				
	定期試験	50%	到達目標に関する基本的な知識や技術についての試験を行い、理解度を評価する。		
	その他	20%	ペープサートを作成し提出する。保育現場での実践を想定して、子どもの発達段階や興味関心、子どもの見え方等を意識して作成できているかを評価する。		
	自由記載				
【受講の心得】 積極的な態度で授業に臨むこと。 グループ活動には主体的に参加すること。					
【授業外学修】 1 予習として教科書の授業にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習としてノートの記入や資料の整理をする。 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献や資料を読む。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	デザインする保育内容指導法「言葉」	田中 謙 編著	教育情報出版	2000円 + 税	978-4-909378-09-5
	自由記載				
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領	文部科学省 厚生労働省 内閣府	チャイルド本社	500円 + 税	978-4805402580
	自由記載				
【担当教員の実務経験の有無】 有					
【担当教員の实務経験】 公立幼稚園教諭					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					
【実務経験をいかした教育内容】 幼稚園教諭として勤務経験をもつ教員が、事例や実践をもとに、領域「言葉」における保育内容等について演習授業を行う。					

授業科目名	(保育内容)表現		サブタイトル	授業番号	EE207
担当教員名	大山 佐知子 鳥越 亜矢				
対象学部・学科	保育学科	単位数	1単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	必修	授業形態	演習		
【授業の概要】					
こどもの成長過程における多様な表現に関して、幅広く表現の意義とその必要性を理解する。幼児期の発達特性をふまえながら、創造性豊かに楽しく表現し、創作体験を重ねることにより、豊かな感性を磨くとともに創造性を高め、指導力・実践力を身につけるための講義と演習を行う。					
【到達目標】					
思いつくままに感じたことを色や形で表現することができること、幼児ができる手遊びや手話歌を実践することができること、また、音や音楽に合わせて身体を動かすなどの楽しさを味わい、幼児の発達特性に合わせた指導ができるようになることを目的とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能> の修得に貢献する。					
【授業計画】					
【授業計画 備考】					
1回～4回 音やリズムを表現する 1～4					
5回～10回 音楽表現 1. 2. 3 音を感じる体験 1. 2. 3					
11回～13回 ブラックライトを使った音・光・形の競演 1～3					
14回～15回 オノマトペの表現 1～2					
授業の効率をあげるためにグループに分かれて行なう。					
第1回：音やリズムを表現する 1	( 担当大山佐知子 鳥越 亜矢 )				
第2回：音やリズムを表現する 2	( 担当大山佐知子 鳥越 亜矢 )				
第3回：音やリズムを表現する 3	( 担当大山佐知子 鳥越 亜矢 )				
第4回：音やリズムを表現する 4	( 担当大山佐知子 鳥越 亜矢 )				
第5回：音を感じる体験 1	( 担当鳥越 亜矢 大山佐知子 )				
音楽表現 1	( 担当大山佐知子 鳥越 亜矢 )				
第6回：音楽表現 1	( 担当鳥越 亜矢 大山佐知子 )				
音を感じる体験 1	( 担当鳥越 亜矢 大山佐知子 )				
第7回：音を感じる体験 2	( 担当大山佐知子 鳥越 亜矢 )				
音楽表現 2	( 担当鳥越 亜矢 大山佐知子 )				
第8回：音楽表現 2	( 担当大山佐知子 鳥越 亜矢 )				
音を感じる体験 2	( 担当鳥越 亜矢 大山佐知子 )				
第9回：音を感じる体験 3	( 担当鳥越 亜矢 大山佐知子 )				
音楽表現 3	( 担当大山佐知子 鳥越 亜矢 )				
第10回：音楽表現 3	( 担当大山佐知子 鳥越 亜矢 )				
音を感じる体験 3	( 担当大山佐知子 鳥越 亜矢 )				
第11回：ブラックライトを使った音・光・形の競演 1	( 担当大山佐知子 鳥越 亜矢 )				
第12回：ブラックライトを使った音・光・形の競演 2	( 担当大山佐知子 鳥越 亜矢 )				
第13回：ブラックライトを使った音・光・形の競演 3	( 担当大山佐知子 鳥越 亜矢 )				
第14回：オノマトペの表現 1	( 担当大山佐知子 鳥越 亜矢 )				
第15回：オノマトペの表現 2	( 担当大山佐知子 鳥越 亜矢 )				
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	40%	授業中の活動や発言について、以下の観点に基づき評価する。(1)課題について真摯に向き合い、深く考えた意見を発表、または提出プリントに記述できる。(2)グループ活動のリーダーになった場合の務めを果たし目標に対して積極的な姿勢を率先して取ることができる。(3)グループ活動でメンバー同士として積極的に意見交換ができ、グループ内で協力して目標に向かう姿勢が見られる。		
	レポート	0%			
	小テスト	30%	グループ活動の発表主に次の観点で評価する。(1)実技発表の内容における創造性。(2)実技発表としての完成度。(3)目標到達に対して最後まで改善する意欲や、向上心を持って取り組んでいるか。		
	定期試験	0%			
	その他	30%	以下の姿勢を評価する。個性、感性を尊重し合い、情報交換のコミュニケーション力を発揮することができる。各課題の準備や処理に対しても責任ある行動ができる。他者の発表に対して興味、関心を持ち、多くの気づきを共有する発言、行動ができる。		
自由記載	授業の流れの中でも終始受け身の姿勢に留まらず、個人として、率先して、意見や発表を行う姿勢を示すことも大切な評価とする。また、実技発表においては、準備段階からの全体の流れを振り返り、評価をフィードバックする。				
【受講の心得】					
[造形表現] 主体的・創造的な姿勢で、課題に対して意欲的な態度で製作すること。事前告知の材料や準備物を忘れないこと。使用した道具・用具の片付け、清掃をきちんとすること。					
[音楽表現] 発表の場に対し積極的に取り組み、音楽の感性を広げていく姿勢を持って臨むこと。					
【授業外学修】					
授業で学んだ成果を元に、週当たり2時間～4時間予習復習すること。					
予習として授業内容に関連する情報収集を行い、他者に還元する姿勢を持ち、復習としては授業内容の取組を反省し深める姿勢を持つこと。					
使用テキスト	自由記載	必要に応じてプリントを配布する。			
参考書	自由記載				
【担当教員の業務経験の有無】					
無					

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

授業科目名	保育内容の理解と方法A		サブタイトル		授業番号	EE208
担当教員名	鳥越 亜矢					
対象学部・学科	保育学科	単位数	1単位			
開講年次	1年	開講期	前期			
必修・選択	必修	授業形態	演習			
<b>【授業の概要】</b> 身近な素材や道具、技法の特性を理解して表現活動を行う。						
<b>【到達目標】</b> 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等を踏まえて子どもの生活と遊びにおける環境を構成する力を養い、身近な素材や道具、技法の特性を理解した表現活動を行えるようになるとともに、それらの活用を保育実践として具体的に考えるようになる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：ガイダンス / 「面白い」を捉える5つの力「5Cの力」とは 『子どもの造形表現』第1章、第8章 第2回：幼児の造形表現の発達 第3回：子どもの造形表現の基本「切る」「くっつける」「塗る・描く」 指導や援助の考え方、環境構成・教材研究 第4回：身近なものを使った造形遊びとその流れの体験的理解 第5回：廃材を使った造形表現活動 第6回：かく材料・用具の教材研究 第7回：バスの技法遊び / 技法や素材を生かした壁面装飾(1) 第8回：偶然の色と形の技法遊び 1 偶然の絵・対称の絵 見立て 第9回：偶然の色と形の技法遊び 2 模様の遊び 見立てや活用 第10回：色を使った様々な遊び 模様の遊び 光を生かした色水遊び 第11回：可塑性のある素材 [紙] 1 連続切り・組み紙 第12回：可塑性のある素材 [紙] 2 切り紙 (2つ折り・4つ折り) / 技法や素材を生かした壁面装飾 (2) 第13回：可塑性のある素材 [紙] 3 切り紙 (5つ折り) 第14回：可塑性のある素材 [紙] 4 / 切り紙 (6つ折り) 技法や素材を生かした壁面装飾(3) 第15回：身近な素材で楽しむ探求的な遊び						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢 / 態度	30%	授業中の活動や発言について、以下の観点に基づき観点に沿った活動や発言であるかどうかを評価する。(1)五感を駆使して活動や環境からいろいろな情報を得ている。(2)他者と(1)(3)(4)(5)などに言及したコミュニケーションを取りながら活動している。(3)創造性を発揮したり、主体的な意思決定をしたりして行動している。(4)体や心、道具をコントロールする力などを発揮している。(5)(1)~(4)を通じて過去の知識・経験と学習内容が結びついたり、新たな知見を得たりしている。 なお、観点(1)~(5)は「面白い」をとらえる5つの力「5Cの力」にもとづいている。			
	レポート	0%				
	小テスト	0%				
	定期試験	0%				
	その他	70%	スケッチブックとGoogleクラスルームに投稿された課題を評価する。素材や道具、技法の特性を理解した表現活動であるかどうか、また、「面白い」をとらえる「5Cの力」の発揮やそれに言及した内容であるかどうかを主な評価基準とする。スケッチブックには各種確認印もしくはコメント等を付けることによるフィードバックを行う。			
	自由記載		スケッチブックの課題については基本的には課題の理解度や丁寧さを評価するが、発想に独自性が見られる場合も評価する。また、スケッチブックへの演習記録内容も評価する。			
<b>【受講の心得】</b> 造形活動に支障のない服装や身だしなみで受講すること。日ごろから造形活動に使えるような生活廃材や自然物を集めておくこと。 指定した回までにA4サイズのスケッチブック(紙の素材は白い画用紙であること)と「なんでもボックス」を用意しておくこと。内容によっては材料や用具を各自で準備するよう指示することがある。詳細は授業中に説明する。 授業中はスマートフォン等の端末機器は荷物にいれておくこと。しかし、情報検索や記録等の目的で使用を指示することがある。						
<b>【授業外学修】</b> 予習として、テキストの該当箇所を熟読すること。スケッチブック等への演習記録の時間は授業中に取らないため、復習として時間外に記述すること。そのため、週に4時間程度は時間外学修にあてること。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	ワークシートで学ぶ子どもの造形表現第2版	北沢昌代 畠山智宏 中村光絵	開成出版	2500	978-4-87603-501-4	
	自由記載					
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	新版 遊びの指導	幼少年教育研究所	同文書院	3200	978-4-8103-0037-6	
	自由記載					
<b>【担当教員の業務経験の有無】</b> 有						
<b>【担当教員の業務経験】</b> 岡山県教育センター及び、幼稚園・保育園における研修講師						
<b>【担当教員以外で指導に関わる業務経験者の有無】</b> 無						
<b>【業務経験をいかした教育内容】</b> 身近なものを使った造形遊びとその流れの体験的理解として、身近な素材である紙コップを大量に使って遊ぶ活動を予定している。また、身近な素材で楽しむ探求的な遊びとして、牛乳パックを使った飛ぶおもちゃづくりと遊びの体験を予定している。それらは幼稚園や保育園等における造形研修で紹介している内容である。						

授業科目名	保育内容の理解と方法B		サブタイトル		授業番号	EE209
担当教員名	鳥越 亜矢					
対象学部・学科	保育学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	必修			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
前期開講の保育内容の理解と方法Aの学習内容を踏まえつつ、素材と関わりながら色や形、リズム、感触等を意識して様々な表現活動を行う。						
<b>【到達目標】</b>						
子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等を踏まえて、子どもの生活と遊びにおける環境を構成する力を養うとともに、自らの感性を養い、表現イメージを豊かにする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：オリエンテーション プロセスと結果の多様性・上手下手で捉えない・スモールステップ						
第2回：素材との直接体験(1)粘土のいろいろ 3歳未満児対象の粘土						
第3回：素材との直接体験(2)3歳以上児対象の粘土						
第4回：素材との直接体験(3)絵の具体験 版遊び 表れと表現の違いを意識して						
第5回：版画のいろいろ・幼児の発達に応じた表現活動(1)						
第6回：幼児の発達に応じた表現活動(2)環境への関わりを意識して						
第7回：幼児の発達に応じた表現活動(3)凹ませて作る凸版印刷						
第8回：幼児の発達に応じた表現活動(4)貼り重ねて作る凸版印刷/同じ原版による転写版画						
第9回：色彩に興味を持つ活動(1)色が生まれる 見えない色を見る						
第10回：色彩に興味を持つ活動(2)偶然の色と形を生かした創作ほか						
第11回：色彩に興味を持つ活動(3)減法混色と回転混色の活動						
第12回：色を知る：色の属性(色相・明度・彩度)有彩色と無彩色・清色と濁色						
第13回：教材制作とその活用1 基本形						
第14回：教材制作とその活用2 完成と発表						
第15回：探索あそびで培う思考力						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	授業中の活動や発言について、以下の観点に基づき観点到った活動や発言であるかどうかを評価する。(1)五感を駆使して活動や環境からいろいろな情報を得ている。(2)他者と(1)(3)(4)(5)などに言及したコミュニケーションを取りながら活動している。(3)創造性を発揮したり、主体的な意思決定をしたりして行動している。(4)体や心、道具をコントロールする力などを発揮している。(5)(1)~(4)を通じて過去の知識・経験と学習内容が結びついたり、新たな知見を得たりしている。なお、観点(1)~(5)は保育内容の理解と方法Aと同様に、「面白い」ととらえる5つの力「5Cの力」にもとづいている。		
	レポート		0%			
	小テスト		0%			
	定期試験		0%			
	その他		70%	製作した保育教材、スケッチブックとGoogleクラスルームに投稿された課題を評価する。素材や道具、技法の特性を理解した表現活動であるかどうか、また、「面白い」ととらえる「5Cの力」の発揮やそれに言及した内容であるかどうかを主な評価基準とする。提出物返却に当たり、各種チェックサインやコメントなどを付けてフィードバックを行う。		
自由記載	スケッチブックの課題については基本的には課題の理解度や丁寧さを評価するが、発想に独自性が見られる場合も評価する。また、スケッチブックへの演習記録内容の充実度も評価する。制作した保育教材については発表内容も併せて評価の対象とする。					
<b>【受講の心得】</b>						
造形活動に支障のない服装や身だしなみで受講すること。日ごろから造形活動に使えそうな生活廃材や自然物を集めておくこと。前期開講の保育内容の理解と方法Aで使用している「なんでもボックス」、スケッチブックを引き続き使用して構わない。内容によっては材料や用具を各自で準備するよう指示するが詳細は授業中に説明する。						
<b>【授業外学修】</b>						
予習として、テキストの該当箇所を熟読すること。スケッチブック等への演習記録の時間は授業中に取らないため、復習として時間外に記述すること。そのため、週に4時間程度は時間外学修にあてること。						
使用テキスト	自由記載	前期開講の保育内容の理解と方法Aで使用しているテキスト(『ワークシートで学ぶ子どもの造形表現 第2版』『新版遊びの指導』)を引き続き使用する。				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
岡山県教育センター及び、幼稚園・保育園における研修講師						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
保育者を対象にした様々な研修講師の経験を活かし、幼児の発達に応じた様々な造形表現技法とそのポイントなどについて演習を通して指導する。						

授業科目名	保育内容の理解と方法C		サブタイトル	授業番号	EE301
担当教員名	大山 佐知子 土 田 豊				
対象学部・学科	保育学科	単位数	1単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b>					
こどもの心身の発達やこどもを取り巻く環境等を踏まえて、こどもの生活と遊びにおける体験と保育の環境を捉え、他者との関係や集団の中での育ちの理解と援助に関わる知識および技術を学び、表現活動を行なう。					
<b>【到達目標】</b>					
生活や、遊びの中で、音楽環境作りの技術を身につけたり、こどもの心身の発達を踏まえた身体運動や集団活動の援助に関わる技術を身につけることを目的とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><技能>の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
<b>【授業計画備考】</b>					
学習効果を期待できる人数で授業を進めていくため、1クラス2クラスを前半後半にグループ分けを行なう。					
第1回：クラス分け（1クラス・2クラス）表現活動の導入 （担当大山佐知子 土 田 豊）					
第2回：1クラス 音楽環境作りの基礎 2クラス リズムに合わせた身体表現 （担当大山佐知子 土 田 豊）					
第3回：1クラス 音楽環境作りの企画 2クラス 「歩く」動きを中心とした表現 （担当大山佐知子 土 田 豊）					
第4回：1クラス 音楽環境作りの制作 1 2クラス 動物の動きを取り入れた表現 （担当大山佐知子 土 田 豊）					
第5回：1クラス 音楽環境作りの制作 2 2クラス 動作中心の物語表現体験 （担当大山佐知子 土 田 豊）					
第6回：1クラス 音楽素材の活用と表現 2クラス バルーンダンス表現（1） （担当大山佐知子 土 田 豊）					
第7回：1クラス 楽器の活用と表現 2クラス バルーンダンス表現（2） （担当大山佐知子 土 田 豊）					
第8回：1クラス 合奏の表現 2クラス バルーンダンス発表会・まとめ （担当大山佐知子 土 田 豊）					
第9回：1クラス リズムに合わせた身体表現 2クラス 音楽環境作りの基礎 （担当土 田 豊 大山佐知子）					
第10回：1クラス 「歩く」動きを中心とした表現 2クラス 音楽環境作りの企画 （担当土 田 豊 大山佐知子）					
第11回：1クラス 動物の動きを取り入れた表現 2クラス 音楽環境作りの制作 1 （担当土 田 豊 大山佐知子）					
第12回：1クラス 動作中心の物語表現体験 2クラス 音楽環境作りの制作 2 （担当土 田 豊 大山佐知子）					
第13回：1クラス バルーンダンス表現（1） 2クラス 音楽素材の活用と表現 （担当土 田 豊 大山佐知子）					
第14回：1クラス バルーンダンス表現（2） 2クラス 楽器の活用と表現 （担当土 田 豊 大山佐知子）					
第15回：1クラス バルーンダンス発表会・まとめ 2クラス 合奏の表現 （担当土 田 豊 大山佐知子）					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	授業中の活動や発言について、以下の観点に基づき観点到った活動や発言であるかどうかを評価する。(1)五感を駆使して活動や環境からいろいろな情報を得ている。(2)他者と(1)(3)(4)(5)などに言及したコミュニケーションを取りながら活動している。(3)創造性を発揮したり、主体的な意思決定をしたりして行動している。(4)体や心、道具をコントロールする力などを発揮している。(5)(1)～(4)を通じて過去の知識・経験と学習内容が結びついたり、あらたな知見を得たりしている。なお、観点到(1)～(5)は保育内容の理解と方法A・Bと同様に、「面白い」ととらえる5つの力「5Cの力」に基づいている。		
	レポート	20%	課題を明確に把握できているか提出内容によって評価する。毎回授業後に振り返りやほかのグループの表現を見ての感想等をまとめるレポートを課し、記述内容に応じて得点化する。		
	小テスト	20%	表現としての伝達力を実技テストによって評価する。最終課題のバルーンダンスの表現方法や構成を、子ども目線で考えることができているかや、グループの一体感が得られているか、観客を意識した表現が盛り込まれているか等を評価の観点到として得点化する。		
	定期試験	0%			
	その他	20%	準備段階の段取り力や、向上心を持った完成度、創造性を含むか、五感を意識しているかによって評価する。		
自由記載					
<b>【授業外学修】</b>					
授業で学んだ成果を元に、週あたり2時間～4時間は予習復習すること。 予習で授業内容に関連した情報収集を行い、表現のイメージ、知識を広げたりしてより良い表現ができるように内容を準備しておくこと。 また、復習では発表の改善点、気づきなどをまとめておくこと。					
使用テキスト	自由記載	必要に応じてプリントを配布する。			
参考書	自由記載				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の実務経験】</b>					
小学校教諭（土 田 豊）					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					



**【実務経験をいかした教育内容】**

実務経験を生かした技術指導を行う。

授業科目名	保育内容の理解と方法D		サブタイトル	授業番号	EE401
担当教員名	松井 みさ 大山 佐知子 大橋 美佐子 土 田 豊 鳥越 亜矢 山本 房子 清水 憲志				
対象学部・学科	保育学科		単位数	1単位	
開講年次	2年		開講期	後期	
必修・選択	選択		授業形態	演習	
【授業の概要】 保育内容の理解と方法A・B・Cで学んだことを元にして、子供の生活と遊びを豊かに実践するために必要な知識や技術、保育の環境の構成および具体的展開のための技術を総合的に習得する。					
【到達目標】 子供の生活と遊びを実践するために必要な知識や技術、保育の環境の構成および具体的展開のための技術を習得し、実践できる力を身につけることができる。  なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度> の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：児童文化等の内容を含んだテーマの設定(1) (担当(担当：全教員))					
第2回：児童文化等の内容を含んだテーマの設定(2) (担当(担当：全教員))					
第3回：テーマ別討論(1) (担当(担当：全教員))					
第4回：テーマ別討論(2) (担当(担当：全教員))					
第5回：テーマ別討論(3) (担当(担当：全教員))					
第6回：テーマ別に環境構成を行う(1) (担当(担当：全教員))					
第7回：テーマ別に環境構成を行う(2) (担当(担当：全教員))					
第8回：テーマ別に環境構成を行う(3) (担当(担当：全教員))					
第9回：テーマに沿った保育技術の習得(1) (担当(担当：全教員))					
第10回：テーマに沿った保育技術の習得(2) (担当(担当：全教員))					
第11回：テーマに沿った保育技術の習得(3) (担当(担当：全教員))					
第12回：テーマに沿った保育技術の習得(4) (担当(担当：全教員))					
第13回：テーマ別発表(1) (担当(担当：全教員))					
第14回：テーマ別発表(2) (担当(担当：全教員))					
第15回：まとめ (担当(担当：全教員))					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	授業中の活動や発言について、以下の観点に基づき観点に沿った活動や発言であるかどうかを評価する。(1)五感を駆使して活動や環境からいろいろな情報を得ている。(2)他者と(1)(3)(4)(5)などに言及したコミュニケーションを取りながら活動している。(3)創造性を発揮したり、主体的な意思決定をしたりして行動している。(4)体や心、道具をコントロールする力などを発揮している。(5)(1)～(4)を通じて過去の知識・経験と学習内容が結びついたり、新たな知見を得たりしている。 なお、観点(1)～(5)は「面白い」をとらえる5つの力「5Cの力」にもとづいている。		
	レポート				
	小テスト				
	定期試験				
	その他	80%	グループ内で活動を行うにあたって、毎時間ごとの活動やまとめの発表を通し、意欲的で創造的な表現活動が達成できたかどうかを評価する。		
自由記載					
【受講の心得】 テーマの途中変更を認めない。グループのメンバー間で、自分の役割を果たすこと。 課題についてグループで積極的に討議すること。 発表に向けて意欲的に参加すること。					
【授業外学修】 早期にテーマを決め討議を始めること。 積極的に参加すること。 グループ内でコミュニケーションをしっかりとること。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載	必要に応じて各テーマ別にプリントを配布する。			
参考書	自由記載				
【担当教員の実務経験の有無】 有					
【担当教員の实務経験】 ミュージックスクール講師(松井みさ)、公立保育所保育士(大橋美佐子)、小学校教諭(土田豊)、公立幼稚園教諭(山本房子)					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					
【実務経験をいかした教育内容】 各教員の勤務経験を活かし、保育者に求められる専門的な知識・技術を学習し、実践的能力を身につけるように指導する。					

授業科目名	乳児保育I		サブタイトル		授業番号	EE210
担当教員名	清水 憲志					
対象学部・学科	保育学科	単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b>						
乳児の育ちについて学ぶとともに、多様な保育の場における乳児保育の現状を理解する。それらを踏まえ、3歳未満児の発達に即した乳児保育の実践について理解を深め、実際に保育の現場に出た時に知識に基づいて判断しながら、保育を行うことができる力を教授する。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児保育の意義・目的や役割等について理解する。</li> <li>・多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。</li> <li>・3歳未満児の発達・発達を踏まえた保育の内容や技術、玩具、運営体制について理解する。</li> <li>・乳児保育における職員間の連携及び保護者等との連携について理解する。</li> </ul>						
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：乳児の遊びと保育者の関わり(1) 第2回：乳児の遊びと保育者の関わり(2) 第3回：乳児保育の役割 第4回：乳児保育の現状 第5回：ヒトの発達と保育の営み（0歳児） 第6回：ヒトの発達と保育の営み（1歳児～2歳児） 第7回：乳児や家庭を取り巻く環境と子育て支援 第8回：さまざまな施設と乳児の保育 第9回：乳児の保育形態 第10回：乳児の保育環境 第11回：3歳以上児の保育とのつながり 第12回：指導計画と記録 第13回：職員間の連携と園内研修 第14回：保護者とのパートナーシップ 第15回：関係機関との連携						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	積極的な授業態度、授業や討議への参加によって評価する。		
	レポート					
	小テスト		20%	確認テストを行い、理解の度合いを評価する。		
	定期試験		60%	授業全般の試験を行い、理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
日常生活の中で、乳幼児に関連のある新聞記事や雑誌、図書などに関心を持って情報を取り入れるようにすること。 身近な環境において、子どもの行動や親子関係について意識的に関心をもつようにすること。 自分の意見や問題意識を持ち、講義や討議等を通して乳児への理解を深め、専門的な知識や思考力を意欲的に習得すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1.予習として、教科書の授業内容該当の部分を読み、疑問点を明らかにする。 2.復習として、ノートの整理を行う。 3.授業内で紹介した参考文献や資料を読む。						
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	乳児保育		馬場耕一郎	ミネルヴァ書房	2200円	978-4-623-07968-1
	自由記載	必要な参考資料はプリントを配布する。				
参考書	自由記載	保育所保育指針解説（平成30年3月厚生労働省）				
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
公立保育所保育士、附属幼稚園教諭						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
保育所や幼稚園での事例を紹介しながら、乳児保育の意義や目的、連携の在り方等について講義を行い、具体的な内容をイメージして学べるように教授する。						

授業科目名	乳児保育II		サブタイトル		授業番号	EE302
担当教員名	原田 眞澄					
対象学部・学科	保育学科			単位数	1単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
0・1・2歳児の発達に応じたあり保育のあり方について体験的に学ぶ。						
<b>【到達目標】</b>						
1 0・1・2歳児の発達に応じた養護のあり方について理解できる。						
2 0・1・2歳児の発達に応じた保育技術を習得することができる。						
3 0・1・2歳児の発達に応じた1日の過ごし方が理解できる。						
本科目は、本学科ディプロマ・ポリシー に掲げた学士力のうち、＜知識・理解＞、＜態度＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：乳児保育に適した服装身だしなみについて考える。 0・1・2歳児の特徴をふまえ、乳児保育で大切な子どもとの関係性、受容的応答的な関わりなどを考える。						
第2回：0・1・2歳児の発達に応じた抱っこやおんぶについて学ぶ。 0・1・2歳児の発達に応じた衣類の着脱について学ぶ。						
第3回：0・1・2歳児の発達に応じた調乳と授乳について学ぶ。						
第4回：0・1・2歳児の発達に応じた食事（離乳食・幼児食）の与え方について学ぶ。						
第5回：0・1・2歳児の発達に応じたおむつのあて方・かえ方について学ぶ						
第6回：おむつからトイレへの自立について学ぶ。 0・1・2歳児の発達に応じた睡眠・午睡について学ぶ。						
第7回：沐浴について学ぶ。（前半グループ） テーマ別調査をグループワークする。（後半グループ）						
第8回：沐浴について学ぶ。（前半グループ） テーマ別調査をグループワークする。（後半グループ）						
第9回：テーマ別調査をグループワークする。（前半グループ） 沐浴について学ぶ。（後半グループ）						
第10回：0・1・2歳児の発達に応じた散歩の楽しみ方と安全について学ぶ。						
第11回：テーマ別調査の結果を発表する。						
第12回：0・1・2歳児の発達に応じた清潔（爪切り・歯みがき・鼻かみ・手洗い）について学ぶ。						
第13回：0・1・2歳児の発達に応じた遊びについて学ぶ。						
第14回：0・1・2歳児の発達に応じた遊びについて学ぶ。						
第15回：乳児保育の1日の流れを知り、保育士の配慮すべきことについて考える。						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	演習時は衛生的で動きやすい服装身だしなみで参加できる。毎回の授業に意欲的に取り組める。毎回3段階評価をする。		
	レポート		15%	乳児保育に関するテーマについてグループで調査し、わかりやすく発表できる。		
	小テスト					
	定期試験		45%	到達目標1・2・3について理解度・定着度を評価する。		
	その他		10%	おむつ替えが制限時間内に適確にできる。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
衛生的で動きやすい服装身だしなみで参加すること						
<b>【授業外学修】</b>						
授業毎1時間以上かけて手順とその根拠を考えてノートにまとめること						
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価
	乳児保育			CHS子育て文化研究所 編	萌文書林	1800 + 税
自由記載						
参考書	自由記載		1年次の子どもの保健で使用したテキストとノートを資料として使用するので、毎回持参する。			
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
<b>【担当教員の実務経験】</b>						
小児科・急性内科看護師						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
0・1・2歳児の発達に応じた養護のあり方・考え方を、看護の経験を活かして知識と技術を指導する。						

授業科目名	子どもの健康と安全		サブタイトル	授業番号	EE211	
担当教員名	原田 眞澄					
対象学部・学科	保育学科	単位数	1単位			
開講年次	2年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
<b>【授業の概要】</b> 小児保健活動の具体的な内容を演習形式で学ぶ。						
<b>【到達目標】</b> 1. 子どもの健康の保持増進に関する保健活動が理解できる。 2. 子どもに起こりやすい病気の予防法と適切な対応方法、救急蘇生法が理解できる。 3. 現代社会における心の健康問題や地域保健活動について理解できる。 本科目は本学科が掲げる学士力のうち、<知識・理解>、<態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：朝の視診の意義と具体的な内容を学ぶ 子どもの発育測定の意味と具体的な手順、評価方法について学ぶ</p> <p>第2回：発熱や熱中症など高体温について、予防法と適切な対応を学ぶ</p> <p>第3回：発熱や熱中症など高体温について適切な対応を学ぶ</p> <p>第4回：擦過傷など怪我・鼻出血について適切な対応を学ぶ</p> <p>第5回：嘔吐について適切な対応を学ぶ 吐物や排泄物からの感染予防について学ぶ</p> <p>第6回：幼児に対する救急蘇生法について具体的に学ぶ（前半グループ） 幼児に対する様々な応急処置についてDVDを視聴して学ぶ（後半グループ）</p> <p>第7回：幼児に対する様々な応急処置についてDVDを視聴して学ぶ（前半グループ） 幼児に対する救急蘇生法について具体的に学ぶ（後半グループ）</p> <p>第8回：事故や災害時の安全な避難法について考える</p> <p>第9回：担架などの搬送法について学ぶ</p> <p>第10回：保健活動の計画・実施・評価について学ぶ</p> <p>第11回：保健活動の計画・実施・評価について学ぶ</p> <p>第12回：事例を元にグループ討議を行い、保育所で起こりやすい事例への対応を考える（アレルギーのある子）</p> <p>第13回：事例を元にグループ討議を行い、保育所で起こりやすい事例への対応を考える（障害のある子）</p> <p>第14回：事例を元にグループ討議を行い、保育所で起こりやすい事例への対応を考える（医療的ケア児）</p> <p>第15回：子どもの心の健康問題と地域の保健活動について知る</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		30%	安全で衛生的な服装身だしなみができる。集中して授業に取り組み、グループワークや技術練習ができる。毎回3段階で評価する。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		60%	到達目標1・2・3について、理解度・定着度を評価する。		
	その他		10%	幼児の救急蘇生法技術が適確にできる。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b> グループ演習の際、メンバー同士で技術を高められるよう協力すること グループワークでは自分の意見を持ち、積極的に発表すること						
<b>【授業外学修】</b> 授業毎、1時間以上かけて手順とその根拠を考えてノートにまとめること						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	目で見てわかる応急手当マニュアル		郷木義子・松崎美保子監修・著	ふくろう出版	2400 + 税	9784861865947
自由記載						
参考書	自由記載		1年次の子どもの保健で使用したテキストとノートを資料として使用する			
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有					
	<b>【担当教員の实務経験】</b> 小児科・急性内科看護師					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 子どもの異常所見と対応の仕方を、経験を交えて指導する。						

授業科目名	特別支援教育入門		サブタイトル		授業番号	EE212
担当教員名	平尾 太亮					
対象学部・学科	保育学科	単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	前期			
必修・選択	必修	授業形態	演習			
<b>【授業の概要】</b> 特別支援教育を支える理念に関して理解を深めるとともに、教育・保育をする上で必要な様々な障害について知り、個別の教育的ニーズを把握、他の教員や関係機関と連携等の技術を習得することを目的とする。						
<b>【到達目標】</b> ・障害等、特別な支援を要する事柄についての知識を獲得する。 ・特別な支援を要する子どもへの教育や保育、支援の方法を知り、実際に支援する際の方策を提示し、実施することができる。						
なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：特別支援教育とは 第2回：障害の意味と理解，特別支援教育の歴史の変遷 第3回：身体障害児への理解と支援 第4回：知的障害の理解 第5回：知的障害児への支援 第6回：発達障害の理解，ASDの理解 第7回：ASD児への支援 第8回：AD/HDの理解，AD/HD児への支援 第9回：LDの理解，LD児への支援 第10回：指導計画の作成と記録および評価 第11回：子どもの発達をうながす生活や遊びの環境 第12回：地域の専門機関や小学校との連携 第13回：保護者や家族に対する理解と支援 第14回：特別な配慮を必要とする様々な子ども 第15回：まとめ						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	10%	授業に積極的に参加し、意見や疑問を表現することができる。			
	レポート					
	小テスト	40%	講義内容の理解度，定着度を評価する。			
	定期試験	40%	全講義終了後，障害児保育における知識と視点をふまえて，総合的に論じることができる。			
	その他	10%	事例検討やロールプレイに積極的に参加し，意見を出すことができる。			
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b> 様々な気づきを得られるよう、積極的な態度で授業に臨むこと。						
<b>【授業外学修】</b> 1. 授業内で学修した，障害児保育に関わる基礎理論を復習すること。 2. 授業内で授業内容の小テストがあるため，その準備をすること。 3. 教科書のうち，次の講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにすること。						
以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	現代の障がい児保育	井村圭壯，相澤譲治 他	学文社	2,160	978-4762025860	
	自由記載					
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有					
	<b>【担当教員の实務経験】</b> 医療型障害児入所施設職員，スクールカウンセラー					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 施設職員の経験を活かし，各障害に対して具体的な事例を交えながら教示する。 カウンセリング経験からは，様々な困難感を抱え，特別な支援を必要としている子どもや，特別な支援を必要とする子どもを持つ保護者の気持ちへの寄り添い方について，具体的な事例を通して考えることで，実践力を養う。						

授業科目名	社会的養護II		サブタイトル	授業番号	EE213	
担当教員名	則武 直美					
対象学部・学科	保育学科		単位数	1単位		
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b> 保育士は児童福祉施設で援助者（直接処遇職員）として大切な役割を担っており、その支援のあり方によって子どもたちの人生が左右されてしまうと言っても過言ではない。 この「社会的養護II」は、児童福祉施設で社会的養護を必要とする児童や保護者に対して実践されている養育や支援について、理解し考察を深めていくものである。 なお授業は、講義とグループワークをもってすすめられる。						
<b>【到達目標】</b> 講義の部分では、施設において展開されている子どもたちの生活や援助者の支援について理解し、児童の心身の成長や発達を保障するために必要な知識や技能を習得し、児童観や養育観を獲得する。 またグループワークにおいては、相手に伝える力（文をまとめる、適切な言葉選び、相手の視点に立った話の仕方）と、傾聴（相手の話を聞く態度、相手が話しやすい雰囲気）等、社会人として必要とされるコミュニケーション能力の向上を目指す。  なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b> 第1回：社会的養護とは 第2回：児童福祉施設で生活する子どもたち 第3回：日常生活の支援 第4回：子どもの現状 第5回：里親，ファミリーホーム 第6回：特別な支援を必要とする子どもたちの支援I 第7回：特別な支援を必要とする子どもたちの支援II 第8回：家庭支援 第9回：自立支援 第10回：自立支援計画 第11回：様々な支援 第12回：児童の最善の利益 第13回：児童の権利擁護 第14回：援助者として求められるもの 第15回：これからの社会的養護						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		10%	受講後の思考の発展をコメント等により評価する。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		90%	15回の講義を通しての理解度と主体性の伸びを評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b> 講義中は頭と心の両方を使うこと。 自分の日常生活にリンクさせて考えること。 学習したことを活かし、社会の一員として自分にできることを探して行動しようとする努力をすること。						
<b>【授業外学修】</b> 1. テキストや授業で配布した資料を、発展学習として読んで深める。 2. 講義で学んだ事柄の中から、実習に生かせる部分を取り出し、2月に行われる施設実習の現場で実践してみる。 3. グループワークにおけるコミュニケーションについての学びを、日常生活の中で意識的に実行していく。 4. 講義での学びから、社会の中における自身の役割に気づき、自分にできることから行動を起こそうと努める。  以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	社会的養護内容		編集 相澤仁，村井美紀	中央法規	2000円	978-4-8058-5218-7
	自由記載	基本保育シリーズ18 社会的養護内容				
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有					
<b>【担当教員の实務経験】</b> 児童養護施設長						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 児童養護施設で出会った子どもたちの具体的な事例を紹介することにより、子どもの現状や児童虐待などへの理解を深める。また管理職としての経験を活かし、施設実習におけるポイントや注意点を伝え、講義での学びを総合的に現場実践につなげていく。人材育成の観点から、グループワークを目的をもって積極的に行う姿勢を獲得できるように支援し、他者と対話し連携することの大切さを実感をもって体得させる。						

授業科目名	子育て支援		サブタイトル	授業番号	EE214
担当教員名	平尾 太亮				
対象学部・学科	保育学科	単位数	1単位		
開講年次	2年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
【授業の概要】 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）の意義や基本について学び、保育士の専門性を生かした支援とは何かを考える。また、保育現場や児童福祉施設での支援の実際を通して、保育士として保護者を支援するために必要な視点について学ぶ。					
【到達目標】 ・子育て支援について、その特性と展開を具体的に理解できる。 ・保育士の行う子育て支援について、様々な立場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解し修得する。					
なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：保育士の行う子育て支援の特性 第2回：日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成 第3回：保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解 第4回：保護者支援の方法と技術 第5回：子ども及び保護者の状況・状態の把握 第6回：支援の計画と環境の構成 第7回：支援の実践・記録・評価・カンファレンス 第8回：職員間の連携・協働 第9回：地域資源・関係機関の種類と機能と、関係機関との連携・協力 第10回：保育所における保育士の行う子育て支援とその実際 第11回：地域の子育てに対する支援とその実際 第12回：障害のある子ども及びその家庭等に対する支援とその実際 第13回：特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援とその実際 第14回：子ども虐待の予防と対応、要保護児童等の家庭に対する支援とその実際 第15回：多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢／態度				
	レポート				
	小テスト		70%	毎講義内で実施する事例について、保育相談支援で学修した内容を踏まえながら、様々な視点で支援方法を具体的に提案することができる。課題やレポートについてはコメントと併せて返却する。（5%×14回）	
	定期試験		20%	全講義終了後、保育相談支援における知識と視点をふまえて、総合的に論じることができる。	
	その他		10%	事例検討やロールプレイに積極的に参加し、意見を出すことができる。	
自由記載					
【受講の心得】 様々な気づきを得られるよう、積極的な態度で授業に臨むこと。					
【授業外学修】 1．授業内で学修した、保育相談支援に関わる基礎理論を復習すること。 2．毎授業内で事例検討を行うため、事例について読み深めること。  以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載	必要であれば、その都度プリントを配布する。			
参考書	自由記載				
【担当教員の実務経験の有無】 有					
【担当教員の実務経験】 スクールカウンセラー					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					
【実務経験をいかした教育内容】 カウンセリング経験から得られた、様々な困難感を抱える保護者の気持ちへの寄り添い方や支援方法について教示し、保育士における保護者支援の重要性について、実践的に考える。					



授業科目名	健康の指導法		サブタイトル	授業番号	EE215
担当教員名	原田 眞澄				
対象学部・学科	保育学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>					
幼児の心身の健康と安全、遊びと生活に関する指導法について具体的に学ぶ。食育や健康領域の問題点を含め、グループワークなどで意見交換を積極的に行う。					
<b>【到達目標】</b>					
幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：食事・食育に関する指導法について学ぶ。 第2回：着脱に関する指導法について学ぶ。 第3回：清潔に関する指導法について学ぶ。 第4回：排泄・睡眠に関する指導法について考え、指導案を作成する。 第5回：排泄・睡眠に関する指導法について、模擬保育を実践し意見交換する。 第6回：生活面の安全に関する指導法について学ぶ。（ICTを活用する） 第7回：交通面の安全に関する指導法について学ぶ。（ICTを活用する） 第8回：災害面の安全に関する指導法について学ぶ。（ICTを活用する） 第9回：ブランコ・すべり台・鉄棒を使った運動遊びに関する指導法について学ぶ。 第10回：縄跳び・ボール遊びに関する指導法について学ぶ。 第11回：水遊び・散歩に関する指導法について学ぶ。 第12回：新聞紙を使った遊びに関する指導法について学ぶ。 第13回：表現遊びに関する指導法について学ぶ。 第14回：幼児の遊びと生活の場面で動きを引き出す環境構成について学ぶ。 第15回：小学校との接続を考慮した指導法について、要点をまとめる。					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	学ぶ意欲があり、集中して授業に取り組んでいるかを評価する		
	レポート	20%	課題のテーマに沿い、幼児にあった指導法かを評価する		
	小テスト				
	定期試験	50%	到達目標について、知識・理解の到達度を評価する		
	その他				
	自由記載				
<b>【授業外学修】</b>					
授業計画に応じて予習・復習し、1回の授業で4時間の学修を行う。					
使用テキスト	自由記載				
参考書	自由記載	平成29年告示幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本（平成29年6月チャイルド社） 幼稚園教育要領解説（平成30年3月 文部科学省）			
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>					
小児科・急性内科看護師					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
子どもの成長発達に応じた関わり方、指導法について経験を生かして指導する。					

授業科目名	人間関係の指導法		サブタイトル	授業番号	EE216
担当教員名	大橋 美佐子				
対象学部・学科	保育学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>					
領域「人間関係」のねらい及び内容について、幼児の姿と保育実践とを関連させて理解を深めることを目指す。そのうえで、乳幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを表現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に着けることを目指す。					
<b>【到達目標】</b>					
領域「人間関係」のねらい及び内容を十分理解したうえで、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育やロールプレイとその振り返りを通して、保育を改善する視点が身に付けられるようにする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><技能>の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：幼稚園教育要領における領域「人間関係」の全体像をつかむ 第2回：教師との信頼関係と園生活における安定感を形成する援助の在り方 第3回：自立心を育む援助 第4回：友だちとの遊びを楽しむ中で多様な感情を経験し、自他の気持ちに気づく援助の在り方 第5回：自他の気持ちの違いへ気づき、自分の気持ちを調整する力を育む援助の在り方 第6回：きまりをめぐる様々な幼児の葛藤と援助（情報機器を活用する） 第7回：ルールのある遊びと援助 第8回：個と集団の育ちを考える 第9回：協同的な遊びの中で育ちあう長期的な保育の展開を考える（情報機器を活用する） 第10回：幼児にとって意味のある行事のねらいと活動内容を考える（情報機器を活用する） 第11回：幼小の交流活動を考える 第12回：小学校以降の生活や学習で生かされる力（情報機器を活用する） 第13回：地域の中の幼稚園（情報機器を活用する） 第14回：多様な人、多様な子どもとの関わりの中で豊かに生きる子どもへ 第15回：領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題・まとめ					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	受講態度や模擬保育等への積極的な態度により評価する。	
	レポート		30%	指導案の理解度やレポートについては、調べたり考えたりしたことを記述できているかを評価する。	
	小テスト		20%	授業内容についての小テストを行い、理解度を評価する。	
	定期試験				
	その他		30%	ロールプレイ、ディスカッション等への積極的参加、発表、ノート提出、により評価する。	
自由記載					
<b>【受講の心得】</b>					
ノート作成は、後で見えて理解できるよう整理しておくこと。					
<b>【授業外学修】</b>					
週あたり4時間の予習・復習をすること。 課題提出は必ずすること。					
使用テキスト	自由記載				
参考書	自由記載 幼稚園教育要領解説 文部科学省 フレーベル館 保育所保育指針解説 厚生労働省 フレーベル館 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 内閣府 文部科学省 厚生労働省 フレーベル館 事例で学ぶ保育内容 領域人間関係 無藤隆監修 岩立京子編 萌文書林				
<b>【その他】</b>					
必要な場合は印刷物の配布をする。					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の職務経歴】</b>					
公立保育所保育士					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
保育所において実際に実施してきたことを中心に学生に教授する。					

授業科目名	環境の指導法		サブタイトル	授業番号	EE217
担当教員名	清水 憲志				
対象学部・学科	保育学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
【授業の概要】 幼稚園教育要領に示されている領域「環境」のねらい及び内容を理解するとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた、具体的な環境とのかかわりを想定して、保育構想をたて、子どもの豊かな学びを育む力を身に付ける。					
【到達目標】 ・環境についての知識や技術について理解し、修得することができる。 ・具体的な環境とのかかわりを想定して、保育構想をたてることができる。					
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：領域「環境」のねらいと内容からみる指導の方向性 第2回：子どもの発達と環境とのかかわり 第3回：乳児，1・2歳児の保育に求められる環境 第4回：自然や植物や生き物に触れる中で学ぶこと 第5回：保育現場での実際の環境構成の工夫や意図 第6回：自然や植物や生き物に触れ、体験を深めるために 第7回：ものや道具にかかわることの意味と学ぶこと 第8回：砂や水にかかわる中で体験を広げ、深める保育構想 第9回：砂や水にかかわる保育指導案の作成（ICT） 第10回：砂・水にかかわる保育の実践 第11回：遊びや生活の中で文字や数量への興味関心を養うために 第12回：遊びや生活の中で出会う情報を保育に生かすために 第13回：動くおもちゃを作る中で経験させたいこと 第14回：動くおもちゃを作る中での学びと改善点 第15回：幼児期の思考力の芽生えを支えるために					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢／態度		10%	学ぶ意欲があり、集中して授業に取り組んでいるかを評価する。	
	レポート				
	小テスト				
	定期試験		60%	知識・理解の到達度を評価する。	
	その他		30%	ドキュメンテーション作成	
自由記載					
【受講の心得】 ・日頃の生活の中で、四季を意識して五感で感じて楽しむようにすること。 ・地域の自然に興味を持ち、色合いや生長を楽しむこと。 ・絵画や写真などを見たり、音楽を聞いたり、友人や家族と話したりしながら日々感性を磨くこと。					
【授業外学修】  1. 復習として、ノートの整理を行う。 2. 授業内で紹介した参考文献や資料を読む。  以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載	適宜レジュメを配布します。			
参考書	自由記載	保育所保育指針解説（平成30年3月厚生労働省）幼稚園教育要領解説（平成30年3月文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月内閣府，文部科学省，厚生労働省）			
【担当教員の実務経験の有無】 有					
【担当教員の实務経験】 公立保育園保育士，附属幼稚園教諭					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					
【実務経験をいかした教育内容】 実務経験を生かして環境の領域と他領域との関係を理解し、総合的に指導ができるよう具体的な活動を通して、ねらい，内容，指導案，保育実践など指導する。					

# 中国短期大学 令和3年度(2021年度) シラバス

授業科目名	言葉の指導法		サブタイトル		授業番号	EE218
担当教員名	福澤 惇也					
対象学部・学科	保育学科	単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b>						
<p>幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、幼稚園教育要領に示されている「言葉」のねらい及び内容を理解するとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた具体的な指導場面を想定し、保育を構想し実践する力を身に付ける。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。その上で、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt;&lt;思考・問題解決能力&gt;&lt;技能&gt;の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：保育における「言葉」の意義                  第2回：子どもの言葉の発達過程（1）- 発達の道筋 -                  第3回：子どもの言葉の発達過程（2）- 小学校への接続 -                  第4回：言葉を育む環境構成と援助（1）- 話したい、聞きたい意欲 -                  第5回：言葉を育む環境構成と援助（2）- 生活に必要な言葉の習得 -                  第6回：言葉を育む環境構成と援助（3）- すれ違い等のもどかしさへの援助 -                  第7回：言葉を豊かにする環境構成と援助 - 言葉による伝え合い -                  第8回：言葉を豊かにする環境構成と援助 - 文字などで伝える楽しさ -                  第9回：子どもの言葉を豊かにする教材（絵本・物語・紙芝居・ICTを活用して）                  第10回：言葉に対する感覚を豊かにする実践（情報機器を活用した言葉遊び）                  第11回：子どもの言葉を育む保育の実践（情報機器を活用した教材研究）                  第12回：子どもの言葉を育む保育の構想（指導案作成）                  第13回：子どもの言葉を育む保育の実践（模擬保育の実践）                  第14回：子どもの言葉を育む保育の評価と改善（振り返り）                  第15回：「言葉」をめぐる現代的課題と特別に配慮が必要な子どもに対する配慮</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		10%	意欲的かつ主体的な受講態度、課題に対して協働する態度、講義内容に関する積極的な質疑によって評価する。		
	レポート		10%	講義の最後に与えられた課題について、様式に従った上で個人の考えや疑問が丁寧に述べられているかについて評価する。疑問点については、次回の講義冒頭で解説を加える。		
	小テスト					
	定期試験		80%	子どもの姿を捉えて考えられていること。保育者の援助について講義の内容を踏まえて考えられていること。論述の内容に独創性や試行錯誤の跡が認められること。以上の点に沿って評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
<p>講義に対して自分なりの考えを持って臨むこと。講義の中で課題や疑問を積極的にみつけること。                  「自分が保育者だったら」という想定で講義の内容や講義中の課題に取り組むよう努めること。</p>						
<b>【授業外学修】</b>						
<p>テキストや配布資料の該当箇所を次回授業までに読んでおき、疑問点を明白しておくこと。                  講義後はテキストや配布された資料をよく読み、知識を整理すること。質問をするなどして疑問を残さないこと。                  課題発表の資料を準備すること。                  以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。</p>						
使用テキスト	自由記載					
参考書	自由記載	平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本（平成29年6月 チャイルド社） 幼稚園教育要領解説（平成30年3月 文部科学省）				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
幼稚園教諭/子育て支援コーディネーター/専門学校非常勤講師						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
幼稚園教諭の経験を生かし、現場の実際を反映させた授業を行う。						

授業科目名	表現の指導法		サブタイトル	授業番号	EE219
担当教員名	松井 みさ				
対象学部・学科	保育学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>					
幼稚園教育要領に基づき、「表現」のねらい及び内容について実践的に学び、指導計画を作成する能力を身に付ける。					
<b>【到達目標】</b>					
幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付けることができる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：領域「表現」のねらい及び内容について（1）音楽表現について 第2回：領域「表現」のねらい及び内容について（2）造形表現について 第3回：領域「表現」のねらい及び内容について（3）身体表現について 第4回：幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿について 第5回：小学校の教科内容との関連、情報機器及び教材の活用について 第6回：乳幼児の生活と表現について 第7回：情報機器を活用した環境構成と言葉がけについて（1）幼児自身のイメージについて 第8回：情報機器を活用した環境構成と言葉がけについて（2）意欲的に表現活動に取り組める工夫について 第9回：情報機器を活用した環境構成と言葉がけについて（3）幼児の興味や関心と表現について 第10回：1幼稚園・こども園での表現活動について 第11回：年齢や発達に応じた保育構想・指導案の作成（1） 第12回：年齢や発達に応じた保育構想・指導案の作成（2） 第13回：発表会を企画する（1）全体の流れを把握する 第14回：発表会を企画する（2）個々の表現活動を考える 第15回：表現活動の様々な取り組みについて					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢／態度		30%	授業に積極的に参加し、グループワークにおいては意見や疑問を積極的に発言できるかを評価する。	
	レポート		50%	授業時に数回行う小レポートと、授業最終時のまとめのレポートを課す。授業内容を理解し、自分の考えを的確に表現できているかを評価する。小レポートはコメントをつけて次回授業時に返却する。	
	小テスト				
	定期試験				
	その他		20%	授業内で作成する指導案や企画などについて、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法が作成できているか評価する。	
自由記載					
<b>【授業外学修】</b>					
授業計画に応じて予習・復習し、1回の授業で4時間の学習を行う。					
使用テキスト	自由記載	平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本（平成29年6月チャイルド社）			
参考書	自由記載	必要があれば授業中に適宜資料を配布する			
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の職務経歴】</b>					
ミュージックスクール講師					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
勤務経験を活かし、保育者に求められる専門的な知識・技術を学習し、実践的能力を身につけるように指導する。					

授業科目名	教育・保育技術論		サブタイトル	授業番号	EE220
担当教員名	鳥越 亜矢				
対象学部・学科	保育学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>					
講義、共同討議、保育内容のドキュメンテーションづくりやその発表、ディスカッション等で行う授業内容の振り返りなどを通じ、主体的で対話的な学習を積み重ねながら授業目標の達成を目指す。					
<b>【到達目標】</b>					
子どもの特性を理解し、子どもの資質・能力形成にふさわしい教育及び保育方法や技術の基礎的な理解や、情報機器や教材(作成を含む)の活用ができるようになる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力><技能>の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
<b>【授業計画備考】</b>					
ドキュメンテーションの内容は、1年次の授業科目「保育内容の理解と方法A」「保育内容の理解と方法B」のスケッチブックや写真データを活用する。ドキュメンテーションはパワーポイント等のデジタルデータとする。					
第1回：エビデンスのある教育 / 5Cの力と子供の資質・能力、育てほしい110の姿 第2回：教育・保育の方法(1) 環境を通して行う教育と教材研究 第3回：教育・保育の方法(2) 遊びを通じた多様な指導形態と援助 第4回：教育・保育の方法(3) 活動過程と活動における動機付け、やってみようという意欲を支える援助とは：情報とそのタイミング 第5回：教育・保育の技術(1) 良い活動(授業)をする先生とは/主体的・対話的で深い学びになる言葉がけ 第6回：教育・保育の技術(2) 伝わること・伝わらないこと 保護者編 第7回：教育・保育の技術(3) 伝わること・伝わらないこと 幼児編 第8回：教育・保育の技術(4) 何をどのようにほめる？ ほめる（評価）とねらいの関係 第9回：教育・保育の技術(5) 友達の作品をほめる / SDGs に基づく保育活動 第10回：保育現場のICT機器とその活用 - 研修と保育のドキュメンテーション 第11回：保育のドキュメンテーション作成に向けて 「保育内容の理解と方法A/B」の振り返り 第12回：ドキュメンテーションの作成 第13回：ドキュメンテーションの作成・プレゼンテーションの練習 第14回：プレゼンテーションと内容の検討 前半 第15回：プレゼンテーションと内容の検討 後半					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢 / 態度	30%	1年次の学習内容を振り返りつつ、活動に主体的に取り組んでいる様子が見られるか、また、発言については、発言回数とともに、発言内容に他者の意見を反映したり、これまでの学習内容や既存知識、記憶、経験と結びつけた意見が述べられている点を評価する。おおむね毎回において認められる場合には30%、授業回数の半数にわたって認められる場合には20%、認められる回数が授業回数の1 / 3程度の場合には10%とする。		
	レポート	0%			
	小テスト	0%			
	定期試験	50%	講義内容に基づいた設問に対する理解度を点数評価する。根拠を示し、具体的な記述であるほど高評価とする。		
	その他	20%	ドキュメンテーションの内容をSDGsの普遍的目標とSTEAM教育の観点に基づき評価する。該当する内容が多いほど高評価となる。また、発表後の意見交換や教師からのコメントをもってフィードバックとする。なお、それらも評価として加味する。		
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b>					
授業の振り返りとして行うディスカッションには積極的に取り組むこと。 ドキュメンテーションに関する内容の時には、1年次の授業科目「保育内容の理解と方法A」「保育内容の理解と方法B」のスケッチブックや写真データを持参すること。					
<b>【授業外学修】</b>					
保育教材の製作およびドキュメンテーションの作成が授業時間内に完成しない場合には、時間外に行い各自あるいは各グループで完成させること。1年次の授業科目の学習記録を読み込むこと。以上のことを時間外学修として毎週4時間程度行うこと。					
使用テキスト	自由記載	ワークシートで学ぶ子どもの造形表現 第2版（1年次の授業で購入済み）			
参考書	自由記載	新版 遊びの指導入・幼児編（1年次の授業で購入済み）幼稚園教育指導要領(平成29年告示)フレーベル社 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示)フレーベル社 保育所保育指針(平成29年告示)フレーベル社			
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>					
岡山県教育センター及び、幼稚園・保育園における研修講師					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
保育者研修等で大人にも子どもにも備わっている非認知能力である「5C」の力、すなわち「感知する」Catch、「創造する」Create、「コントロールする」Control、「コミュニケーションする」Communicate、「理解する」Comprehendを意識した保育をすることにより、小学校に上がるまでに育てほしい110の姿に自然とつながっていくことを講演している。エビデンスのある教育を行う視点として、実際にその視点を活用することにより、子どもの活動が豊かに展開し、噛みつきやひっかきが減った保育園があるので、そうした成果や、園が作成したポートフォリオを学生に紹介するなどして、保育者研修の実務経験を生かした授業内容を行う。					

授業科目名	親子ふれあい演習A		サブタイトル		授業番号	EE303
担当教員名	土田 豊 松井 みさ 大橋 美佐子 福澤 惇也 清水 憲志					
対象学部・学科	保育学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
保育施設には、地域の子育て支援拠点となって子育て中の親子をサポートしていく役割があること、どのような支援活動が求められるのかということなどを理解し、実際に子育て支援活動を企画、運営、振り返りをしながら実践的に学ぶ。						
<b>【到達目標】</b>						
子育て支援活動を実施する上でのねらいや活動の展開の仕方、留意点などを計画書にまとめ、実践することができるようにすることを目的とする。仲間との信頼関係や参加して下さる親子との信頼関係を、子育て支援活動を展開しながら築いていくことを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：様々な子育て支援活動を知る 第2回：活動の企画の立て方やPDCAの手法について学ぶ 第3回：11月の企画共有 第4回：11月の企画の事前準備とリハーサル 第5回：11月の子育て支援活動の実施1 第6回：11月の子育て支援活動の実施2 第7回：11月の活動の振り返り・12月の企画共有 第8回：12月の企画の事前準備とリハーサル 第9回：12月の子育て支援活動の実施1 第10回：12月の子育て支援活動の実施2 第11回：12月の活動の振り返り・1月の企画共有 第12回：1月の企画の事前準備とリハーサル 第13回：1月の子育て支援活動の実施1 第14回：1月の子育て支援活動の実施2 第15回：1月の活動の振り返り及び全体の振り返り						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		50%	意欲的な受講態度・発表・グループでの活動への参加状況を評価する。グループ内で企画の提案や企画を具現化する提案等ができれば加点対象とする。		
	レポート		50%	子育て支援活動を通して学んだことや課題として明らかになったこと等を具体的に述べている度合いに応じて得点化する。レポートは、コメントを記入して返却することで、学びのフィードバックとする。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
子育て支援活動中は、節度ある行動をすること。 一人ひとりが役割を自覚し、意欲的に取り組むこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
1．子育て支援活動に参加して下さる親子にとって快適で、思い出に残る場を提供するために必要な環境についてグループで考え、計画的に準備を進めること。 2．実施後の反省や参加者の要望を次の活動に反映するために必要な知識や手立てについて考え、実践する。 3．自分の住んでいる自治体や保育関連施設で実施されている子育て支援事業について調べ、自分たちの活動に反映すること。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	随時プリントを配布				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
公立保育園保育士（大橋美佐子）、小学校教諭（土田豊）、ミュージックスクール講師（松井みさ）、幼稚園教諭（福澤惇也）						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
それぞれの各方面での実務経験を生かした技術指導を行う。						

授業科目名	親子ふれあい演習B		サブタイトル		授業番号	EE304
担当教員名	土田 豊 松井 みさ 山本 房子 福澤 惇也 清水 憲志					
対象学部・学科	保育学科			単位数	1単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
保育施設には、地域の子育て支援拠点となって子育て中の親子をサポートしていく役割があること、どのような支援活動が求められるのかということなどを理解し、実際に子育て支援活動を企画、運営、振り返りをしながら実践的に学ぶ。また、保育実習等での経験の子育て支援活動の場に反映しながら学びを深める。						
<b>【到達目標】</b>						
保育現場や各自治体で実施されている子育て支援活動を把握し、活動を実施する上でのねらいや活動の展開の仕方、留意点などを計画書にまとめ、実践することができるようにすることを目的とする。仲間との信頼関係や参加して下さる親子との信頼関係を、子育て支援活動を展開しながら築いていくことを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：自治体で行われている子育て支援活動について学ぶ 第2回：子育て環境に潜むリスクについて学ぶ 第3回：活動の企画の立て方やPDCAの手法について学ぶ 第4回：活動グループづくりと企画検討会 第5回：6月の企画共有と事前準備 第6回：6月の企画の事前準備とリハーサル 第7回：6月の子育て支援活動の実施1 第8回：6月の子育て支援活動の実施2 第9回：6月の活動の振り返り・7月の企画共有 第10回：7月の企画の事前準備 第11回：7月の企画のリハーサル 第12回：7月の子育て支援活動の実施1 第13回：7月の子育て支援活動の実施2 第14回：7月の活動の振り返り 第15回：子育て支援活動を全体の振り返り						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		50%	意欲的な受講態度・発表・グループでの活動への参加状況を評価する。グループ内で企画の提案や企画を具現化する提案等ができれば加点対象とする。		
	レポート		50%	子育て支援活動を通して学んだことや課題として明らかになったこと等を具体的に述べている度合いに応じて得点化する。レポートは、コメントを記入して返却することで、学びのフィードバックとする。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
子育て支援活動中は、節度ある行動をすること。 一人ひとりが役割を自覚し、意欲的に取り組むこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
1．子育て支援活動に参加して下さる親子にとって快適で、思い出に残る場を提供するために必要な環境についてグループで考え、計画的に準備を進めること。 2．実施後の反省や参加者の要望を次の活動に反映するために必要な知識や手立てについて考え、実践する。 3．自分の住んでいる自治体や保育関連施設で実施されている子育て支援事業について調べ、自分たちの活動に反映すること。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	随時プリントを配布				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
小学校教諭（土田豊）、公立幼稚園教諭（山本房子）、ミュージックスクール講師（松井みさ）、幼稚園教諭（福澤惇也）						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
それぞれの各々での実務経験を生かした技術指導を行う。						



授業科目名	音楽基礎演習 A		サブタイトル		授業番号	EE221
担当教員名	大山 佐知子 松井 みさ 河田 健二 青木 彩絵子					
対象学部・学科	保育学科	単位数	1単位			
開講年次	1年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
<b>【授業の概要】</b>						
ピアノ基礎技法を学ぶとともに、ML教室、7205教室を用いて、音楽の基礎的な知識を習得する。						
<b>【到達目標】</b>						
個人のレベルにあったピアノ技術を学ぶとともに、楽譜を読むために必要な基本的な知識を身につけ、童謡のレパートリーを増やすことを目的とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：クラス分けテスト 個人・個別・集団指導		(担当大山 佐知子 松井 みさ 河田 健二 青木 彩絵子)				
第2回：個人・個別・集団指導		(担当大山 佐知子 松井 みさ 河田 健二 青木 彩絵子)				
第3回：個人・個別・集団指導		(担当大山 佐知子 松井 みさ 河田 健二 青木 彩絵子)				
第4回：個人・個別・集団指導		(担当大山 佐知子 松井 みさ 河田 健二 青木 彩絵子)				
第5回：個人・個別・集団指導		(担当大山 佐知子 松井 みさ 河田 健二 青木 彩絵子)				
第6回：個人・個別・集団指導		(担当大山 佐知子 松井 みさ 河田 健二 青木 彩絵子)				
第7回：個人・個別・集団指導		(担当大山 佐知子 松井 みさ 河田 健二 青木 彩絵子)				
第8回：個人・個別・集団指導		(担当大山 佐知子 松井 みさ 河田 健二 青木 彩絵子)				
第9回：個人・個別・集団指導		(担当大山 佐知子 松井 みさ 河田 健二 青木 彩絵子)				
第10回：個人・個別・集団指導		(担当大山 佐知子 松井 みさ 河田 健二 青木 彩絵子)				
第11回：個人・個別・集団指導		(担当大山 佐知子 松井 みさ 河田 健二 青木 彩絵子)				
第12回：個人・個別・集団指導		(担当大山 佐知子 松井 みさ 河田 健二 青木 彩絵子)				
第13回：個人・個別・集団指導		(担当大山 佐知子 松井 みさ 河田 健二 青木 彩絵子)				
第14回：個人・個別・集団指導		(担当大山 佐知子 松井 みさ 河田 健二 青木 彩絵子)				
第15回：確認テスト 個人・個別・集団指導		(担当大山 佐知子 松井 みさ 河田 健二 青木 彩絵子)				
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	10%	技術習得のための練習方法を身に付けられるように、努力しているか、予習復習の積み上げの状況、意欲的な態度によって評価する。			
	レポート					
	小テスト	40%	最終的な理解度と個人のレベルに合わせた到達技術の評価する。			
	定期試験	40%	演習課題の完成度、到達度を評価する。			
	その他	10%	以下のことを評価する。向上心を持って学ぶ姿勢があること。感性豊かに音楽を感じ表現する姿勢がある。			
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
出席番号によっては授業の順番が入れ替わることがある。 毎日の練習を怠らないで出来ることを積み上げていく。 きちんとした身だしなみで授業を受講するように心がける。						
<b>【授業外学修】</b>						
授業の予習、復習を必ず行うこと。週あたり2-4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	個人の進度に応じたテキストを担当教員と相談の上、決める。				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
ミュージックスクール講師(松井みさ)						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
実務経験を生かして技術の指導を行う。						

授業科目名	音楽基礎演習 B		サブタイトル	授業番号	EE222
担当教員名	大山 佐知子 松井 みさ 河田 健二 青木 彩絵子				
対象学部・学科	保育学科	単位数	1単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
【授業の概要】 音楽基礎演習 A を発展させたピアノ基礎技法を習得する。さらに、ML教室、7205室を用いて、保育の現場に必要なコード奏や弾き歌いについても、個人のレベルにあった技術を習得する。					
【到達目標】 よりよい音楽表現を行うための基本的な技術や、保育の現場に必要な弾き歌いの技術が身につくことを目的とする。なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能> の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：個人・個別・集団指導 (担当大山 佐知子 松井 みさ 河田 健二 青木 彩絵子) 第2回：個人・個別・集団指導 (担当大山 佐知子 松井 みさ 河田 健二 青木 彩絵子) 第3回：個人・個別・集団指導 (担当大山 佐知子 松井 みさ 河田 健二 青木 彩絵子) 第4回：小テスト 個人・個別・集団指導 (担当大山 佐知子 松井 みさ 河田 健二 青木 彩絵子) 第5回：個人・個別・集団指導 (担当大山 佐知子 松井 みさ 河田 健二 青木 彩絵子) 第6回：個人・個別・集団指導 (担当大山 佐知子 松井 みさ 河田 健二 青木 彩絵子) 第7回：個人・個別・集団指導 (担当大山 佐知子 松井 みさ 河田 健二 青木 彩絵子) 第8回：個人・個別・集団指導 (担当大山 佐知子 松井 みさ 河田 健二 青木 彩絵子) 第9回：個人・個別・集団指導 (担当大山 佐知子 松井 みさ 河田 健二 青木 彩絵子) 第10回：個人・個別・集団指導 (担当大山 佐知子 松井 みさ 河田 健二 青木 彩絵子) 第11回：個人・個別・集団指導 (担当大山 佐知子 松井 みさ 河田 健二 青木 彩絵子) 第12回：個人・個別・集団指導 (担当大山 佐知子 松井 みさ 河田 健二 青木 彩絵子) 第13回：個人・個別・集団指導 (担当大山 佐知子 松井 みさ 河田 健二 青木 彩絵子) 第14回：個人・個別・集団指導 (担当大山 佐知子 松井 みさ 河田 健二 青木 彩絵子) 第15回：小テスト 個人・個別・集団指導 (担当大山 佐知子 松井 みさ 河田 健二 青木 彩絵子)					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	10%	技術習得の習慣が身についているか、予習復習の積み上げの状況、意欲的な態度によって評価する。		
	レポート				
	小テスト	40%	演習課題の完成度、到達度を評価する。		
	定期試験	40%	最終的な理解度と個人のレベルに合わせた到達技術の評価する。		
	その他	10%	以下のことを評価する。向上心を持って学ぶ姿勢があること。感性豊かに音楽を感じ表現する姿勢があること。		
	自由記載				
【受講の心得】 出席番号によっては授業の順番が入れ替わることがある。 毎日の練習を怠らないで出来ることを積み上げていく。 きちんとした身だしなみで授業を受講するように心がける。					
【授業外学修】 授業の予習、復習を必ず行うこと。週あたり2～4時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載	個人の進度に応じたテキストを担当教員と相談の上、決める。			
参考書	自由記載				
【担当教員の実務経験の有無】 有					
【担当教員の実務経験】 ミュージックスクール講師(松井みさ)					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					
【実務経験をいかした教育内容】 実務経験を生かして技術の指導を行う。					

授業科目名	音楽実践演習 A		サブタイトル	授業番号	EE305
担当教員名	松井 みさ 大山 佐知子				
対象学部・学科	保育学科	単位数	1単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
【授業の概要】 音楽基礎演習 A・B で学んだ内容を発展させ現場で応用できる力をつける。ML教室を用いてピアノに関する基本的な知識や技術の向上を個別指導で行うとともに、ピアノレッスン室を用いて、個人の能力別に音楽に関する保育教材の内容研究の指導法を習得する。					
【到達目標】 基本的なピアノ演奏技術を身につけるとともに、保育現場において使用する童謡、子どもの歌等の伴奏法の応用力をつけることを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち <知識・理解> <技能> の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）		（担当担当：松井みさ 大山佐知子）			
第2回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）		（担当担当：松井みさ 大山佐知子）			
第3回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）		（担当担当：松井みさ 大山佐知子）			
第4回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）		（担当担当：松井みさ 大山佐知子）			
第5回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）		（担当担当：松井みさ 大山佐知子）			
第6回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）		（担当担当：松井みさ 大山佐知子）			
第7回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）		（担当担当：松井みさ 大山佐知子）			
第8回：中間のまとめ		（担当担当：松井みさ 大山佐知子）			
第9回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）		（担当担当：松井みさ 大山佐知子）			
第10回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）		（担当担当：松井みさ 大山佐知子）			
第11回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）		（担当担当：松井みさ 大山佐知子）			
第12回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）		（担当担当：松井みさ 大山佐知子）			
第13回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）		（担当担当：松井みさ 大山佐知子）			
第14回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）		（担当担当：松井みさ 大山佐知子）			
第15回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）		（担当担当：松井みさ 大山佐知子）			
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	意欲的な授業態度，練習ができていかなどの予・復習の状況によって評価する。		
	レポート				
	小テスト				
	定期試験	40%	童謡の弾き歌いを行うことにより，個人のレベルに合わせた歌唱技術や演奏技術が習得できているかを評価する。		
	その他	40%	ピアノ教則本を練習することにより，個人のレベルに合わせた演奏技術の向上を評価する。		
	自由記載				
【受講の心得】 出席番号によっては授業の順番が入れ替わることがある。 実習に向けて積極的に練習をしておくようにする。 きちんとした身だしなみで授業を受講すること。					
【授業外学修】 毎日15分以上ピアノ教則本及び弾き歌いの練習をしておくこと。					
使用テキスト	自由記載	持っているピアノ教則本 童謡本			
参考書	自由記載				
【担当教員の実務経験の有無】 有					
【担当教員の实務経験】 ミュージックスクール講師（松井みさ）					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					
【実務経験をいかした教育内容】 勤務経験を活かし，保育者に求められる専門的な知識・技術を学習し，実践的能力を身につけるように指導する。					

授業科目名	音楽実践演習 B		サブタイトル	授業番号	EE306
担当教員名	松井 みさ 大山 佐知子				
対象学部・学科	保育学科	単位数	1単位		
開講年次	2年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
【授業の概要】 音楽実践演習 A で学んだ内容をさらに発展させ現場で応用できる力をつける。ML教室を用いてピアノに関する基本的な知識や技術の向上を個別指導で行うとともに、ピアノレッスン室を用いて、個人の能力別に音楽に関する保育教材の内容研究の指導法を習得する。					
【到達目標】 基本的なピアノ演奏技術を身につけるとともに、保育現場において使用する童謡、子どもの歌等の伴奏法の応用力をつけることを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち < 知識・理解 > < 技能 > の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）		（担当担当：松井みさ 大山佐知子）			
第2回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）		（担当担当：松井みさ 大山佐知子）			
第3回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）		（担当担当：松井みさ 大山佐知子）			
第4回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）		（担当担当：松井みさ 大山佐知子）			
第5回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）		（担当担当：松井みさ 大山佐知子）			
第6回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）		（担当担当：松井みさ 大山佐知子）			
第7回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）		（担当担当：松井みさ 大山佐知子）			
第8回：中間のまとめ		（担当担当：松井みさ 大山佐知子）			
第9回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）		（担当担当：松井みさ 大山佐知子）			
第10回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）		（担当担当：松井みさ 大山佐知子）			
第11回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）		（担当担当：松井みさ 大山佐知子）			
第12回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）		（担当担当：松井みさ 大山佐知子）			
第13回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）		（担当担当：松井みさ 大山佐知子）			
第14回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）		（担当担当：松井みさ 大山佐知子）			
第15回：弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）		（担当担当：松井みさ 大山佐知子）			
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な授業態度，練習ができていかなどの予・復習の状況によって評価する。		
	レポート				
	小テスト				
	定期試験	40%	ピアノ教則本を演奏することにより，個人のレベルに合わせた演奏技術の向上を評価する。		
	その他	40%	童謡の弾き歌いを練習することにより，現場で通用する歌唱技術やコードネームを用いた演奏技術が習得できているかを評価する。		
	自由記載				
【受講の心得】 出席番号によっては授業の順番が入れ替わることがある。 実習に向けて積極的に練習をしておくようにする。 きちんとした身だしなみで授業を受講すること。					
【授業外学修】 毎日15分以上ピアノ及び弾き歌いの練習をしておくこと。					
使用テキスト	自由記載	持っているピアノ教則本 童謡本			
参考書	自由記載				
【担当教員の実務経験の有無】 有					
【担当教員の实務経験】 ミュージックスクール講師（松井みさ）					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					
【実務経験をいかした教育内容】 勤務経験を活かし，保育者に求められる専門的な知識・技術を学習し，実践的能力を身につけるように指導する。					

授業科目名	保育実習指導A		サブタイトル	授業番号	EF301
担当教員名	平尾 太亮				
対象学部・学科	保育学科	単位数	1単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b> 保育士資格の取得に必要な乳児院，児童養護施設や知的障害児・者施設などでの実習を万全なものにするために児童福祉施設について学び，児童福祉施設に関する知識を修得するとともに，実習生としての姿勢や態度，実習について学ぶことを目的とする。 実習中に日誌をつけることは重要な資料であるため，実習中の具体的な目標の定め方や記録の仕方，考察方法についても学び。実習後は実習の課題と反省点について研究発表をおこない，保育所保育実習につながることを目的とする。					
<b>【到達目標】</b> ・児童福祉施設について，基礎的な知識を獲得する。 ・具体的な目標設定の仕方を修得し，目標について考察し課題を得る力を獲得する。 ・グループディスカッションを通して，協働する力の重要性に気づくことができる。					
なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：施設実習の意義と目標 1 第2回：施設実習の意義と目標 2 第3回：施設実習準備：事前学習と実習課題 第4回：施設実習の心得，人権教育 第5回：実習先施設調べ発表 1：乳児院・児童養護施設 第6回：実習先施設調べ発表 2：児童心理治療施設・児童自立支援施設 第7回：実習先施設調べ発表 3：児童発達支援センター・障害児入所施設・障害者支援施設 第8回：実習日誌や記録の意義や使い方，及びその配慮点 1 第9回：実習日誌や記録の意義や使い方，及びその配慮点 2 第10回：先輩による事前指導 第11回：お楽しみ会企画・立案・実施 第12回：食事介助体験・車いす体験 第13回：施設実習直前まとめ 第14回：施設実習のまとめ 第15回：施設実習報告会					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢／態度		20%	授業に積極的に参加し，意見や疑問を表現することができる。	
	レポート		30%	実習終了後，実習自己課題について具体的な事例を踏まえながら考察し，総合的に論じることができる。	
	小テスト		20%	講義内容の理解度，定着度を評価する。	
	定期試験				
	その他		30%	事例検討やロールプレイに積極的に参加し，意見を出すことができる。	
自由記載					
<b>【受講の心得】</b> ・施設実習の意義をよく理解すること。 ・事前学習が不十分な学生は施設実習に参加できない場合もあるので，積極的に取り組むこと。					
<b>【授業外学修】</b> 1．授業内で学修した，児童福祉施設等に関わる知識を復習すること。 2．授業内で授業内容の小テストがあるため，その準備をすること。 3．実習手引の，次の講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにすること。 4．学修した支援方法を獲得するために，繰り返し練習すること。					
以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載	必要であれば，その都度プリントを配布する。			
参考書	自由記載				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有					
<b>【担当教員の实務経験】</b> 医療型障害児入所施設職員，スクールカウンセラー					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 施設経験から，施設の実態を伝えるとともに，利用児・者への理解，支援方法，日誌の記入方法など，実践から得られた知見を伝える。					

授業科目名	保育実習指導B		サブタイトル		授業番号	EF302
担当教員名	大橋 美佐子					
対象学部・学科	保育学科	単位数	1単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
【授業の概要】 保育実習（保育所）の意義、目的についての説明を行う。また、保育実習の内容や実習の進め方について説明するとともに、実際に使用する指導案や実習日誌の書き方について教授する。また、実習生としての好ましい姿勢や態度についても説明を行う。						
【到達目標】 保育実習の意義、目的を理解する。 保育者としての意識や態度を身につける。 実習で使用する指導案、実習日誌の書き方を習得する。  なお、本学科はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：保育実習の意義と目的 第2回：実習の概要 第3回：実習生としての心得 第4回：乳幼児の理解 第5回：DVD視聴と討議「保育所の1日」 第6回：指導計画と指導案の関係性 第7回：観察記録の取り方と活用のしかた 第8回：実際の観察記録 第9回：指導案の書き方1 第10回：指導案の書き方2 第11回：実習日誌の書き方 第12回：指導案の立案(1) 第13回：指導案の立案(2) 第14回：評価・反省の意味 第15回：保育所実習についてのまとめ						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	模擬保育や討議に積極的な態度で参加しているかによって評価する。			
	レポート	20%	レポートの課題に合った書き方が出来ているか、誤字脱字、表現方法、提出期限が守れているかによって評価する			
	小テスト	30%	指導案の理解度を評価する			
	定期試験					
	その他	20%	指導案、日誌についての理解ができているかにより評価する。			
	自由記載					
【受講の心得】 教科書を十分読んで、疑問点を明らかにすること。 提出物の期限を厳守すること。						
【授業外学修】 1. 予習として、教科書の授業内容該当の部分を読み、疑問点を明らかにする。 2. 復習として、ノートの整理を行う。 3. 授業内で紹介した参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	保育者への扉	澤津まり子	建帛社			
	自由記載	『保育実習の手引き』、岡山県保育士養成協議会 授業内で指定した本を読む				
参考書	自由記載	保育所保育指針解説 厚生労働省 フレーベル館				
	【担当教員の実務経験の有無】 有					
	【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					
【実務経験をいかした教育内容】 保育所での経験から、保育所実習の意義や目的等、基本的なことを教授する。						

授業科目名	保育実習指導C		サブタイトル	授業番号	EF303
担当教員名	大橋 美佐子				
対象学部・学科	保育学科	単位数	1単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b>					
保育実習（保育所）IIの意義、目的についての説明を行う。実習の事前においては、これまでに学修した知識や技術を実際にも実施する場であることを説明する。また、実習事後においてはグループ討議や反省会で振り返りを行い、今後の課題や解決法について教授する。					
<b>【到達目標】</b>					
保育実習の意義、目的を理解し保育者としての意識や態度を身につけ積極的に実習に参加する。 実習で使用する指導案、実習日誌の書き方を習得し、実際に立案する。実習後はテーマレポートの作成を行い、自己課題に対する振り返りや今後の課題を明確にすることができる。 なお、本学科はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：保育実習IIの意義と目的 第2回：保育士の役割 第3回：指導計画の実際 第4回：保育現場の先輩による事前指導 第5回：実習日誌の書き方 第6回：指導案の書き方(1) 第7回：指導案の書き方(2) 第8回：実習に対する自己課題 第9回：年齢に応じた保育 第10回：環境による保育 第11回：子どもの状況に応じた適切なかわり 第12回：自己課題に対する振り返り 第13回：グループ討議(1) 第14回：グループ討議(2) 第15回：保育所実習のまとめ（反省会）					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	積極的な態度で授業や討議等に参加し、自分の意見が出せているかにより評価する。		
	レポート	30%	レポートの内容が課題に合致しているか、誤字脱字、表現方法、提出期限が守れているかにより評価する。		
	小テスト				
	定期試験				
	その他	20%	指導案、日誌の理解と整理ができているかを評価する。		
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b>					
意欲的な態度で参加すること。提出物の期限厳守。必要書類の確認を十分に行うこと。					
<b>【授業外学修】</b>					
子どもの発達過程を十分把握し、年齢に合わせた遊びが準備できるようにしておくこと。 レポート、指導案の書き方を理解しておく。 実習に必要なものを準備しておく。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載	『保育実習の手引き』、岡山県保育士養成協議会 保育所保育指針解説 厚生労働省 フレーベル館			
参考書	自由記載				
<b>【その他】</b>					
岡山県保育士養成協議会作成の「実習のてびき」、 「実習日誌」を使用する。					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>					
公立保育所保育士					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
保育所の現場経験から実際の保育所で使用している書類の記入や計画の立案方法等を教授する。					

授業科目名	保育実習指導D		サブタイトル	授業番号	EF304
担当教員名	平尾 太亮				
対象学部・学科	保育学科	単位数	1単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b> 施設での実習を万全なものにするために児童福祉施設について学び、児童福祉施設に関する知識を修得するとともに、実習生としての姿勢や態度、実習について学ぶことを目的とする。 実習中に日誌をつけることは重要な資料であるため、実習中の具体的な目標の定め方や記録の仕方、考察方法について学ぶ。 利用児・者に対して個々に合った支援を実施するために、個別支援計画の意義や立案・作成の方法を学ぶ。 実習後は実習の課題と反省点について研究発表をおこなう。					
<b>【到達目標】</b> ・児童福祉施設について、発展的な知識を獲得する。 ・具体的な目標設定の仕方を習得し、目標について考察し課題を得る力を獲得する。 ・グループディスカッションを通して、協働する力の重要性に気づくことができる。 ・個別支援計画を立案・作成することができる。					
なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b> 第1回：施設実習の目的と意義 第2回：施設実習先種別の理解 第3回：専門職の役割と援助 第4回：実習日誌の書き方、実習に対する課題作成1 第5回：実習日誌の書き方、実習に対する課題作成2 第6回：個別支援計画の意義 第7回：個別支援計画の立案・作成 第8回：施設職員、先輩による事前指導 第9回：事例研究1 第10回：事例研究2 第11回：施設研究1 第12回：施設研究2 第13回：施設研究3 第14回：実習のまとめ 第15回：実習反省会					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢／態度		20%	授業に積極的に参加し、意見や疑問を表現することができる。	
	レポート		30%	事前に決めた実習課題に沿って実習中に調査を実施し、具体的かつ考察を踏まえながら作成することができる。	
	小テスト				
	定期試験				
	その他		50%	事前学習の内容を精査し、日誌にまとめて記入することができる（20％）事例検討やロールプレイに積極的に参加し、意見を出すことができる（30％）	
自由記載		実習内容を60％、報告書レポート等を40％の割合で評価する。			
<b>【受講の心得】</b> ・施設実習の意義をよく理解すること。 ・事前学習が不十分な学生は施設実習に参加できない場合もあるので、積極的に取り組むこと。					
<b>【授業外学修】</b> 1．授業内で学修した、児童福祉施設等に関わる知識を復習すること。 2．実習手引の、次の講義内容に関わる部分を読み、疑問点を明らかにすること。 3．学修した支援方法を獲得するために、繰り返し練習すること。 4．実際の利用児・者を想定しながら、個別支援計画を作成すること。					
以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載	授業内容によって、随時プリントを配布する。			
参考書	自由記載	授業で必要に応じて、紹介する。			
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有					
<b>【担当教員の实務経験】</b> 医療型障害児入所施設職員、スクールカウンセラー					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 施設経験から、施設の実際を伝えるとともに、利用児・者への理解、支援方法、日誌の記入方法など、実践から得られた知見を伝える。					



授業科目名	保育実習A		サブタイトル	授業番号	EF305
担当教員名	平尾 太亮 土田 豊				
対象学部・学科	保育学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	実習		
<b>【授業の概要】</b> 保育所以外の児童福祉施設や障害児・者施設などにおいて、諸教科で学んだ理論や技術がいかに具体化・統合化されているかを実地で学習する。そして、実習を通してその施設の養護の目的や内容を体験的に理解することを目的とする。					
<b>【到達目標】</b> ・児童福祉施設における保育者の立場を理解する。 ・児童福祉施設などで生活する利用児・者を理解する。 ・施設実習を通して、保育者としての知見を得る。					
なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力><技能><態度>の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
実習生といえども、社会人及び保育士としての自覚を持って実習に臨むこと。また、実習に先立ち児童福祉施設や障害児・者に関する本を数冊読んでおくこと。					
1) 利用児・者への理解 ・利用児・者との生活を通しての理解をする。 ・利用児・者のとらえ方を深める。					
2) 養護活動と養護技術への理解 ・各施設の目標に沿った養護の実態を理解する。 ・保育士の職務内容、役割について理解する。 ・技術を学ぶ。					
3) 施設への理解 ・施設の役割と機能について理解する。 ・体験的理解と施設観の変革・再編成をする。					
4) 自己啓発と福祉観の深化 ・実習での体験や学びをもとに自己啓発を進める ・福祉の現場に触れることにより、福祉観・援助観を深化させる。					
通常特定の施設に10日間宿泊してその施設の処遇を見学したり、援助活動に参加させてもらい基礎的な内容を学習する。					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢/態度				
	レポート		20%	報告書の施設概要を詳細に記載し、学んだことについて具体的かつ考察を踏まえながら記述することができる。	
	小テスト				
	定期試験				
	その他		80%	実習先施設による評価(50%)と実習日誌(30%)	
自由記載					
<b>【受講の心得】</b> ・実習の目標を把握しておくこと。 ・施設ごとに方針が異なるため、実習施設のプログラムに従うこと。 ・課題設定をし、目標を達成できるようにする。					
<b>【授業外学修】</b> 1. 利用児・者の活動と施設職員、実習生の活動及び配慮事項を時系列に沿って事実を日誌に記入する。 2. 利用児・者のかかわりを通して考えたことについて、具体的にエピソードを記入し、それらを考察しながら記述する。 3. その日の実習課題をふまえながら1日を振り返り、次の日の実習課題を検討する。 4. 1日の流れを振り返り、施設職員の声かけや支援方法をリハーサルし、獲得できるようにする。					
以上の内容を、毎日2時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載	『施設実習日誌』『施設実習の手引き』岡山県保育士養成協議会			
参考書	自由記載				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有					
<b>【担当教員の職務経歴】</b> 医療型障害児入所施設職員					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 有					
<b>【担当教員以外の指導に関わる実務経験者】</b> 施設職員					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 学生が保育士に必要な能力を身につけるため、実習指導者の指導の下、利用児・者を理解し支援ができる技能を修得させる。実習訪問時に、課題や記録について指導する。					

授業科目名	保育実習B		サブタイトル		授業番号	EF306
担当教員名	大橋 美佐子 清水 憲志					
対象学部・学科	保育学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	実習	
<b>【授業の概要】</b>						
保育所で10日間の実習を行う。						
<b>【到達目標】</b>						
<p>実際の保育現場で観察や子どもとのかかわりを通し、子どもへの理解を深めるとともに既習の教科の内容を踏まえ保育の方法や保護者への支援について総合的に学ぶ。保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt; &lt;思考・問題解決能力&gt; &lt;技能&gt; &lt;態度&gt;の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>保育所の生活と1日の流れ          保育所保育指針の理解と保育の展開          子どもの観察とその記録による理解          子どもの発達過程の理解          子どもへの援助やかかわり          保育の計画に基づく保育内容          子どもの発達過程に応じた保育内容          子どもの生活やあそびと保育環境          子どもの健康と安全          保育課程と指導計画の理解と活用          記録に基づく省察・自己評価          保育士の業務内容          職員間の役割分担や連携          保育士の役割と職業倫理          以上のような内容を総合的に実習の間に、保育の現場から学ぶ</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		80%	実習園からの評価により評価する。		
	レポート		20%	実習日誌は毎日丁寧に記入しているか、また園に提出しているか、指導案は、直された箇所が正確に直し、理解できているか、レポートについては、最初に示す書き方に沿って書かれているか、誤字脱字がないかで評価する。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
実習に積極的、意欲的に参加する。子どもたちと十分にコミュニケーションをとる。						
使用テキスト	自由記載	岡山県保育士養成協議会「実習のてびき」「実習日誌」				
参考書	自由記載	保育所保育指針				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
公立保育所保育士						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員以外の指導に関わる実務経験者】</b>						
保育現場の保育士等						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
実際の保育現場での実習方法等を教授する。						

授業科目名	保育実習C		サブタイトル		授業番号	EF307
担当教員名	大橋 美佐子 清水 憲志					
対象学部・学科	保育学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	実習	
<b>【授業の概要】</b>						
保育所で10日間の実習を行う。						
<b>【到達目標】</b>						
<p>保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。子どもの観察や関わり方の視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。既習の教科や保育実習Bの経験をふまえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価について実際に取り組み、理解を深める。保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解し、保育士としての自己課題を明確化する。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち &lt;知識・理解&gt; &lt;思考・問題解決能力&gt; &lt;技能&gt; &lt;態度&gt; の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>養護と教育が一体となって行われる保育          保育所の社会的役割と責任          子どもの心身の状態や活動の記録          保育士等の動きや実践の観察          保育所の生活の流れや展開の把握          環境を通して行う保育、生活やあそびを総合的に行う保育の理解          入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援          保育課程に基づく指導計画の作成、実践、観察、記録、評価と保育の過程の理解          作成した指導計画に基づく保育実践と評価          多様な保育の展開と保育士の業務          多様な保育の展開と保育士の職業倫理          以上のような内容を実習の間に保育の現場から学ぶ。</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		80%	実習園からの評価		
	レポート		20%	実習日誌は毎日丁寧に記入しているか、また園に提出しているか、指導案は、直された箇所が正確に直し、理解できているか、レポートについては、最初に示す書き方に沿って書かれているか、誤字脱字がないかで評価する。実習日誌、指導案が丁寧に指導通りまとめられているか、課題に添ったレポートであるか、期限内に提出できたかにより評価する。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
使用テキスト	自由記載	岡山県保育士養成協議会「実習のてびき」「実習日誌」				
参考書	自由記載	保育所保育指針				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の職務経験】</b>						
公立保育所保育士						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員以外の指導に関わる実務経験者】</b>						
保育現場の保育士等						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
実際の保育現場での実習および評価等について教授する。						

授業科目名	保育実習D		サブタイトル	授業番号	EF308
担当教員名	平尾 太亮				
対象学部・学科	保育学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	実習		
【授業の概要】 保育所以外の児童福祉施設や、知的障害児・者施設で施設実習での参加観察実習でそれぞれの段階を積み上げた仕上げの実習である。利用児・者の機能、保育士の役割、指導計画など支援の内容をより詳細に体験する。					
【到達目標】 ・実習を通してその施設の養護の目的や内容を体験的に理解することができる。 ・児童福祉施設における保育者の立場を理解する。 ・児童福祉施設などで生活する利用児・者の姿を理解する。 ・施設実習を通して、保育者としての知見を得る。  なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力><技能><態度>の修得に貢献する。					
【授業計画】 基礎的な実習を終えた後、次の段階の処遇活動への参加として計画的援助活動の実施、関わる処遇部門の拡大などもう一段上の実習課題を持つこと。 1) 援助計画の理解 ・利用児・者の発達段階や年齢に対して配慮する。 ・個々の利用児・者のもつ問題に対応する援助計画、日常的支援、専門的支援を理解する。 2) 援助プログラムの立案 ・日常的支援の時間配分や生活、教育、訓練、治療、矯正などの重点のおき方から援助プログラムへの生かし方を理解する。 ・施設の援助計画と実習指導担当者の方針を理解し、その助言を受けて立案する。 3) 援助プログラムによる援助実践 ・利用児・者の心身の状況によって臨機応変に対応する。 ・実習指導担当者の助言、実習場面の立会い、事後の批評等を受ける。 4) 保育士の態度と技術の習得 ・受容と共感という人間的触れ合いの中で信頼関係を体得する。 ・必要な援助を機能的に行っている保育士の態度や技能を学ぶ。 ・援助計画の中にどのように利用児・者の参加を進めようとしているかを学ぶ。 5) 多様性と共通性の理解 ・個々の異なるニーズに対応するサービスあるいはサポートシステムを具体的に学習する。 ・種別ごとの特徴と共通する課題が存在することを、施設で実践することで学習する。					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢/態度				
	レポート		30%	事前に決めた実習課題に沿って実習中に調査を実施し、具体的かつ考察を踏まえながら作成することができる。	
	小テスト				
	定期試験				
	その他		70%	実習先施設による評価(40%)と実習日誌(30%)	
自由記載					
【受講の心得】 ・実習の目標を把握しておくこと。 ・施設ごとに方針が異なるため、実習施設のプログラムに従うこと。 ・課題設定をし、目標を達成できるようにする。					
【授業外学修】 1. 利用児・者の活動と施設職員、実習生の活動及び配慮事項を時系列に沿って事実を日誌に記入する。 2. 利用児・者とのかわりを通して考えたことについて、具体的にエピソードを記入し、それらを考察しながら記述する。 3. その日の実習課題をふまえながら1日を振り返り、次の日の実習課題を検討する。 4. 1日の流れを振り返り、施設職員の声かけや支援方法をリハーサルし、獲得できるようにする。  以上の内容を、毎日2時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載	『施設実習日誌』『施設実習の手引き』、岡山県保育士養成協議会			
参考書	自由記載				
【担当教員の実務経験の有無】 有					
【担当教員の实務経験】 医療型障害児入所施設職員					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 有					
【担当教員以外の指導に関わる実務経験者】 施設職員					
【実務経験をいかした教育内容】 学生が保育士に必要な能力を身につけるため、実習指導者の指導の下、利用児・者を理解し支援ができる技能を修得させる。 実習訪問時に、課題や記録について指導する。					

授業科目名	教育実習		サブタイトル		授業番号	EF309
担当教員名	山本 房子 福澤 惇也					
対象学部・学科	保育学科			単位数	4単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	実習	
<b>【授業の概要】</b>						
幼稚園教育の現場で4週間実習経験する。						
<b>【到達目標】</b>						
<p>幼児とその教育を正しく理解する力、幼児を受容しかつ指導する力、事務的な事柄を処理する能力等を身につける。</p> <p>優しさや思いやりある保育者の姿に触れ、信頼される保育者に必要な豊かな人間性について知り、実践出来る力を身に付ける。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt;&lt;思考・問題解決能力&gt;&lt;技能&gt;&lt;態度&gt;の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<b>【授業計画備考】</b>						
観察・参加・指導実習（部分・連続・1日実習）とおおよそ3段階で進められる。						
第1週 観察実習						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育実践の場を実際に観察し、幼児の実態や指導に対する理解を深める。</li> <li>・幼稚園教育環境のおおよそを理解する。</li> </ul>						
第2週 参加実習						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習担当教諭の計画に基づき、保育指導の展開と方法を体験的に学ぶ。</li> <li>・幼児に親しみ、その接し方に慣れる。</li> </ul>						
第3～4週 指導実習						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・部分実習</li> </ul> <p>幼児の生活全体を把握し、1日のうちの1部を担当し、幼稚園の月案・週案をふまえ実習生自らが立案した指導計画により指導を行い、保育指導の基礎的实践を経験する。一人一人の幼児の行動観察をすることにより幼児理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連続実習</li> <li>・1日実習</li> </ul> <p>最終段階の実習である。幼児の生活全体を把握し、1日の保育を実践する。</p> <p>部分実習と同様、幼稚園の月案・週案をふまえ実習生自らが立案した指導計画により指導を行い保育指導の応用的実践を経験する。</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		70%	教育実習園からの評価（大学が示した評価項目、実習への意欲・責任感・研究的態度・協調性・指導計画立案・指導技術・事務処理）に基づいて評価する。		
	レポート		30%	教育実習園での実習日誌・指導案等の提出物を与えられた様式に従って、丁寧に記述していること。提出期限を守っていること。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
体調管理に努め実習の課題をもち、積極的に実習に参加すること。社会人、保育者としての生活態度を自覚すること。実習の心得を守って行動すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児の活動と教師の配慮の関係性と実習生としての自分の動きを日誌に記入する。</li> <li>2. その日の実習のねらいについて一日を振り返り、実習日誌に記入する。</li> <li>3. 指導案等の実習指導計画を作成する。</li> </ol> <p>以上の内容を、毎日2時間以上学修すること。</p>						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	詳説 幼稚園教育実習		森元 真紀子・小野 順子 編著	ふくろう出版	2090円	978-4-86186-761-3
自由記載						
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	幼稚園教育要領解説		文部科学省	フレーベル館	264円	978-4577814475
自由記載						
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
幼稚園教諭						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員以外の指導に関わる実務経験者】</b>						
公立幼稚園教諭						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
幼稚園教諭として勤務経験をもつ教員が、実習の巡回指導を行う。						

授業科目名	教育実習指導		サブタイトル	授業番号	EF310
担当教員名	山本 房子				
対象学部・学科	保育学科	単位数	1単位		
開講年次	2年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	実習		
<b>【授業の概要】</b>					
現場で行う幼稚園教育実習を有意義かつ充実した実習とするため、事前に学習への意欲を高め、これまでに学修した知識・技術を現場での指導に活用できる実践力について説明する。実習終了後は自分の実習の振り返りやグループ討議、反省会等を行い、幼稚園教諭としての資質向上のための課題と解決方法を明らかにする。					
<b>【到達目標】</b>					
実習前には実習生としての態度や心構え、指導案や日誌の書き方、教材の準備の方法についての知識・技術を習得する。 実習終了後はテーマレポートと自己評価表を作成できるとともに、実習での学習の成果のまとめと発表をし、自己課題を明確にできる。 以上のことを目的とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：教育実習の目標と意義 第2回：教育実習の計画と準備 第3回：幼稚園見学・観察について（幼稚園教育、教師の役割、子どもの実態把握） 第4回：園長先生・先輩による事前指導 第5回：実習日誌の書き方、実習に対する課題作成 第6回：指導案の書き方・部分指導案(1) 第7回：指導案の書き方・部分指導案(2) 第8回：指導案の書き方・日案(1) 第9回：指導案の書き方・日案(2) 第10回：特別に支援を要する幼児への指導 第11回：教師の役割と援助 第12回：幼稚園教育の特質・一日の流れ・学級経営 第13回：教育実習のまとめI 反省と評価 第14回：教育実習のまとめII テーマレポート、実習での学びのまとめと発表、自己課題の反省・評価 第15回：教育実習のまとめIII 実習反省会					
<b>【授業計画 備考2】</b>					
注) 第2～6回の授業は、時間の関係で授業時間以外の時間を設定予定					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な受講態度、協力する態度、授業時間外学修(準備)の状況によって評価する。		
	レポート	80%	実習での学びに関する課題を、決められた様式に従い分かりやすく述べていること。提出期限を守っていること。		
	小テスト				
	定期試験				
	その他				
	自由記載	報告書やレポート等の評価を80%、授業態度を80%20%の割合で評価する。			
<b>【受講の心得】</b>					
実習に取り組むに当たっての課題を決定し、その準備をする。 提出物が多いので、提出方法等の指示をよく理解し期限を厳守する。					
<b>【授業外学修】</b>					
教科書の該当箇所を次回授業までに読んでおき、疑問点を明白にしておくこと。 授業後は教科書や配布された資料をよく読み、知識を整理すること。 弾きうたい、幼児への関わり方や指導案作成等、保育技術の向上に努力すること。 保育教材等、実習に必要な準備を仲間と協力して行うこと。 以上の内容を1コマの授業について1時間以上学修すること。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	詳説 幼稚園教育実習	森元 真紀子・小野 順子 編著	ふくろう出版	2090円	978-4-86186-761-3
	自由記載	『指導案集』(担当者作成)			
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	幼稚園教育要領解説	文部科学省	フレーベル館	264円	978-4577814475
	自由記載				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>					
幼稚園教諭					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員以外の指導に関わる実務経験者】</b>					
公立幼稚園教諭					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
幼稚園教諭として勤務経験や実習生を指導した経験を活かし、教育実習に向けての心構えや準備、日誌の書き方等について実践的な指導を行う。					

授業科目名	保育・教職実践演習（幼稚園）		サブタイトル	授業番号	EF302
担当教員名	原田 眞澄 大橋 美佐子 福澤 惇也 松田 文春				
対象学部・学科	保育学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
【授業の概要】 2年間にわたる専門的な履修科目や実習等を通して、学生が修得してきた知識・技能を点検・確認するとともに、不足している知識・技能を補完・向上させ、保育・教育現場で生きて働く知識や技能を教授する。					
【到達目標】 1 保育者としての使命感や責任感をもつことができる。 2 保育者に必要な専門的知識をもつことができる。 3 保育を取り巻く環境の変化について理解し、実践的に保育に生かすことができる。 4 仲間と協力して模擬保育を実施する協働性を理解し、実行できる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：今までの授業を振り返り保育者としての自分の課題を確認する（履修カルテ自己評価表を基に自分に欠けていることの確認）（担当担当：原田 眞澄 大橋 美佐子 松田文春 福澤惇也）					
第2回：現代の乳幼児保育の課題「災害時の対応」(1)（担当担当：原田眞澄）					
第3回：現代の乳幼児保育の課題「災害時の対応」(2)（担当担当：原田眞澄）					
第4回：現代の乳幼児保育の課題「災害時の対応」(3)（担当担当：原田眞澄）					
第5回：現代の乳幼児保育の課題「保育者の役割」(1)（担当担当：大橋美佐子）					
第6回：現代の乳幼児保育の課題「保育者の役割」(2)（担当担当：大橋 美佐子）					
第7回：現代の乳幼児保育の課題「保育者の役割」(3)（担当担当：大橋 美佐子）					
第8回：保護者支援のあり方を考える(1)（担当担当：福澤惇也）					
第9回：保護者支援のあり方を考える(2)（担当担当：福澤惇也）					
第10回：地域連携のあり方を考える(1)（担当担当：福澤惇也）					
第11回：地域連携のあり方を考える(2)（担当担当：福澤惇也）					
第12回：小学校への連携について考える(1)（担当担当：松田文春）					
第13回：小学校への連携について考える(2)（担当担当：松田文春）					
第14回：小学校への連携について考える(3)（担当担当：松田文春）					
第15回：小学校への連携について考える(4)（担当担当：松田文春）					
【授業計画 備考2】 実践演習全体の反省・評価・第1回目にもった課題の達成度を振り返る 担当：原田 眞澄 大橋 美佐子 松田文春 福澤惇也					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	50%	グループ討議には意欲的に参加し、友人と協力しようとする態度で授業に参加している。		
	レポート	50%	授業ごとに学びをまとめ、時間内に提出できる。レポートは担当教員が読み返却する。15回目の授業で、すべての授業の資料とレポートを専用のファイルに綴じて提出できる。		
	小テスト				
	定期試験				
	その他				
	自由記載				
【受講の心得】 授業は演習形式で行われるので、学生一人ひとりが自分自身の課題を設定し、保育士・幼稚園教諭として求められる諸資質について、グループ討論・ロールプレイ等を通して、自ら主体的に考えていくようにする。受講前には、履習カルテ(2)を必ず記入しておくこと。					
【授業外学修】 授業ごとに紹介する参考文献を次回授業までに読んでおくこと。 授業後は配布された資料をよく読み、知識を整理すること。 演習について必要な準備を仲間と協力して行うこと。 以上の内容を1コマの授業について4時間以上学修すること。					
使用テキスト	自由記載	適宜、参考資料をプリントし、配布する。			
参考書	自由記載	『幼稚園教育要領』、文部科学省、平成29年度版 『保育所保育指針』、厚生労働省、平成29年度版			
【担当教員の実務経験の有無】 有					
【担当教員の实務経験】 看護師（原田眞澄）保育士（大橋美佐子）中学校教諭（松田文春）幼稚園教諭（福澤惇哉）					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 有					
【担当教員以外の指導に関わる実務経験者】 小学校教諭					
【実務経験をいかした教育内容】 保育所・幼稚園と小学校の連携に関して、学生の疑問に答え指導する。					

# 中国短期大学 令和3年度(2021年度) シラバス

授業科目名	日本語表現		サブタイトル	(日本語の用字用語と言語表現について)	授業番号	SA211
担当教員名	又吉 里美					
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b>						
本講義は、適切な日本語表現を身につけるべく実際に「書くこと」の演習をおこなう。また、表現活動のおもしろさを味わう。						
<b>【到達目標】</b>						
1. 適切な日本語表現を身につける。 2. 日本語の仕組みや特徴について理解し、様々な種類の文章が書けるようになる。 3. 表現活動に興味関心を持って取り組み、表現することの創意工夫の観点を理解する。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能> <態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
<b>【授業計画 備考】</b>						
本講義では、適切な表現を考えたり、表現することの創意工夫を考えたりしながら、多様な種類の文章を実際に書いていく。また、日本語の仕組みや特徴について、言語表現の工夫や効果を考えながら理解を深める。						
第1回：日本語表現の留意点*ことばの使い分け(1)-語・語彙-*類義語の使い分け/ある日の出来事を紹介する文を書く。 第2回：日本語表現の留意点*ことばの使い分け(2)-語・語彙-*外来語の使用とその留意点 第3回：日本語表現の留意点*ことばの使い分け(3)-語・語彙-*敬語の理解を深める 第4回：日本語表現の留意点*ことばの使い分け(4)-語・語彙-*言語の位相 第5回：日本語表現の留意点*ことばの使い分け(5)-語・語彙-*表現のおもしろさを考える 第6回：日本語表現の工夫と効果*表記の表現性(1)-漢字・ひらがな・カタカナ(1)- 第7回：日本語表現の工夫と効果*表記の表現性(2)-漢字・ひらがな・カタカナ(2)- 第8回：日本語表現の工夫と効果*レトリック 第9回：日本語表現の工夫と効果*広告の表現効果を考える 第10回：言語表現と文芸*詩の分析と方言詩の作成 第11回：言語表現と文芸*超ショートショートを作る 第12回：言語表現と文芸*物語の文体 第13回：言語表現と文芸*物語を創作する(1)/分かりにくい文を直す(1) 第14回：言語表現と文芸*物語を創作する(2)/分かりにくい文を直す(2) 第15回：相互評価と鑑賞/振り返りとまとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		10%	意欲的な受講態度、課題への取組などの状況によって評価する。		
	レポート		80%	毎回の課題、授業中の課題、相互評価の取り組み等を評価対象とする。		
	小テスト		10%	「分かりにくい文を直す」内容に関連したテストをする。		
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
・初回授業時に詳細を提示する。 ・電子辞書か国語辞典を用意することが望ましい。						
<b>【授業外学修】</b>						
1, 予習として、課題に取り組むこと。 2, 復習として、授業で学んだことを実践すること。 3, 発展学習として、授業で紹介した参考文献(授業時に適宜紹介する)を読むこと。						
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	毎回プリント資料を配付する。				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						



授業科目名	芸術		サブタイトル	(音楽)	授業番号	SA212
担当教員名	河田 健二					
対象学部・学科	情報ビジネス学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
音楽の様々な要素を取り出し、紹介する。音楽とは切っても切り離せないキリスト教との関わり合いや、器楽・声楽の各分野について学習する。また、実際に声を出して歌唱をする。						
<b>【到達目標】</b>						
音楽について深く理解し、また人前で堂々と歌唱できるようになることを目標とする。なお、本科目はティプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、知識・理解の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：キリスト教と音楽1 第2回：キリスト教と音楽2 第3回：キリスト教と音楽3 第4回：キリスト教と音楽4 第5回：歌曲について1（発声法を含む） 第6回：歌曲について2（歌唱の方法について） 第7回：オペラへの誘い1 第8回：オペラへの誘い2 第9回：オペラへの誘い3 第10回：器楽の魅力1 第11回：器楽の魅力2 第12回：器楽の魅力3 第13回：器楽の魅力4 第14回：音楽の現在，そしてこれから 第15回：歌唱発表会						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		10%	授業への積極的な参加，熱心な受講態度を評価する。		
	レポート		50%	与えられたテーマに対して自分の考えを表現できていることを評価する。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他		40%	上手下手ではなく，歌唱に対する真剣な取り組み方について評価する。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
幅広く音楽に興味を持つこと。決してある特定の分野のみに偏らないよう注意すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
予習は必ずしも必要ではないが，学習した内容が定着するように各回の内容を自分の言葉で再定義すること。また，歌曲の回については実際に声を出すので，要領をつかめるまで各自で反復練習をすること。また，最終回では受講生全員の前で歌っていただくので，そのための準備を怠らないこと。以上の内容を週4時間程度行うこと。						
使用テキスト	自由記載	テキストは使用しないが，必要な文献については各回プリントを配布する予定。				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	法学概論		サブタイトル	(学生のための法律)	授業番号	SA221
担当教員名	近藤 弦之介弁護士 藤原 健補弁護士 山本 愛子弁護士 馬場 幸三弁護士 谷口 怜司弁護士 川端 美智子弁護士 鹿室 辰義弁護士 岡田 湧介弁護士 高瀬 鈴香弁護士					
対象学部・学科	情報ビジネス学科			単位数	2単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
<p>弁護士による学生のための法律の授業である。身近な問題を通じて、法によって権利・義務が発生することを理解し、法を使うことのできる社会人となってもらうために行う。授業の中で、裁判手続きを深めるために、実際に裁判を傍聴してもらう予定である（その関係で授業計画が変更することがあるが、その場合は事前に知らせるものとする）。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>受講により、大学生の身の回りで起こる問題について、法的問題として深く考える法的思考を養成し、社会人となったときにも役立つ法的知識を修得している。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜態度＞の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：法とは社会統制のための道具である。法は裁判規範（裁判の基準）としての機能と行為規範（行為の基準）としての機能をもつ。法を、過去に向かって使うと裁判の基準として働き、将来に向かって使うと紛争の予防と戦略法務のために有用に機能する。法を道具として裁判や紛争予防・戦略のためにどのように使うか、その手法を学ぶ。（担当近藤 弦之介 弁護士）</p> <p>第2回：民事紛争の仕組み、及び日常生活において特に身近な事象（インターネットの利用や居室の賃借等）に関する諸問題を学ぶ。（担当馬場 幸三 弁護士）</p> <p>テキスト UNIT I STAGE 2 及び 3</p> <p>第3回：大学・授業でのトラブルとサークルでのトラブルについて、気をつけるべき点を学ぶ。（担当馬場 幸三 弁護士）</p> <p>テキスト UNIT III STAGE 1 及び 2</p> <p>第4回：交通事故に遭遇した場合の3つの責任（民事責任・刑事責任・行政責任）等について学ぶ。（担当谷口 怜司 弁護士）</p> <p>テキスト UNIT I STAGE 6</p> <p>第5回：日常生活で発生しうるお金のトラブルを知り、日常生活の中での気をつけるべき点を学ぶ。（担当谷口 怜司 弁護士）</p> <p>テキスト UNIT I STAGE 1</p> <p>第6回：交際相手等とのトラブルについての知識、対処法を学ぶ。（担当川端 美智子 弁護士）</p> <p>テキスト UNIT I STAGE 4</p> <p>第7回：我が国の民法における家族関係の規律のなかから特に婚姻、離婚、親子及び相続について学ぶ。（担当川端 美智子 弁護士）</p> <p>第8回：旅行トラブルと就職活動でのトラブルに対する対処法について学ぶ。（担当山本 愛子 弁護士）</p> <p>テキスト UNIT I STAGE 5, UNIT II STAGE 2</p> <p>第9回：働くとはなにか。アルバイトや正社員などの労働契約の成立から終了までを学ぶ。（担当山本 愛子 弁護士）</p> <p>テキスト UNIT II STAGE 1</p> <p>第10回：民事裁判手続きの流れ及びその内容について学ぶ。（担当鹿室 辰義 弁護士）</p> <p>第11回：刑事裁判手続きの流れ及びその内容について学ぶ。（担当岡田 湧介 弁護士）</p> <p>第12回：刑事裁判における検察及び弁護士の役割及びその理念、目標を学ぶ。【裁判傍聴予備日】（担当藤原 健補 弁護士）</p> <p>テキスト UNIT IV</p> <p>第13回：刑事裁判に裁判員や被害者として参加する制度（裁判員裁判及び被害者参加制度）について学ぶ。【裁判傍聴予備日】（担当高瀬 鈴香 弁護士）</p> <p>テキスト UNIT IV</p> <p>第14回：裁判傍聴を通じて、実際の裁判手続きの流れ及びその内容について学ぶ。（担当鹿室 辰義 弁護士、高瀬 鈴香 弁護士）</p> <p>テキスト UNIT IV</p> <p>第15回：裁判傍聴を通じて、実際の裁判手続きの流れ及びその内容について学ぶ。（担当鹿室 辰義 弁護士、高瀬 鈴香 弁護士）</p> <p>テキスト UNIT IV</p>						
<b>【授業計画 備考2】</b>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	50%	意欲的な受講態度、発表・討議への参加等によって評価する。			
	レポート	50%	レポート内容、提出期限・最低字数の厳守等によって評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
授業時の携帯等の使用は禁止する。						
<b>【授業外学修】</b>						
(1) 予習として、テキストの内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにしておくこと。						
(2) 予習・復習として配布するプリントをよく読むこと。						
(3) 日常的に新聞・テレビニュースによく接しておくこと。						
以上(1)～(3)を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	学生のための法律ハンドブック	近江幸治・広中惇一郎 編著	成文堂	1800円＋税	978-4-7923-0631-1	
	自由記載					

参考書	自由記載
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有
	<b>【担当教員の実務経験】</b> 弁護士(近藤弦之介), 弁護士(藤原健補), 弁護士(馬場幸三), 弁護士(谷口怜司), 弁護士(山本愛子), 弁護士(川端美智子), 弁護士(鹿室辰義), 弁護士(岡田湧介), 弁護士(高瀬鈴香)
	<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無
	<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 法律事務所に勤務する弁護士が, 実際の事例や相談内容を踏まえた講義を行う。

授業科目名	経済学		サブタイトル	(経済の見方)		授業番号	SA222	
担当教員名	板野 敬吾							
対象学部・学科	情報ビジネス学科			単位数	2単位			
開講年次	1年			開講期	前期			
必修・選択	選択			授業形態	講義			
【授業の概要】								
<p>テレビのニュースや新聞では貿易や為替などの状況が頻繁に取り上げられている。このような報道は、一見私たちの普通の生活に無縁なものと思われるがちである。しかしながら、これらの動きは物価や賃金に影響を及ぼし、私たちの生活に密着した経済現象として考えることができる。</p> <p>また、経済活動の重要な役割を担う企業及び家計は、その活動が経済全体に大きな影響を及ぼすものであり、社会生活においても重要なアクターとしてとらえることができる。したがって、企業や家計の活動をコントロールする経済政策は私たちにとって身近な問題として捉える必要がある。</p> <p>本講義では、基本的な経済理論を学びつつ、消費者行動、企業活動及び経済政策が私たちの生活にどのような影響を及ぼすのかを考えることとする。</p>								
【到達目標】								
<p>テレビや新聞のニュース等の経済動向が理解できるようになるだけでなく、経済現象は様々な要因で現れるということを理解したうえで、実生活において経済学的な思考ができるようになるようにする。</p> <p>本講義は上級ビジネス実務士資格取得のための選択科目であり、特に企業活動・経済政策と経済現象の関連を理解し、新聞・ニュース等の経済情勢の影響等を自ら判断できるようにすることを目標とする。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt; &lt;思考・問題解決能力&gt;の修得に貢献する。</p>								
【授業計画】								
<p>第1回：経済学とは  第2回：ミクロ経済学の考え方  第3回：家計の行動  第4回：企業の行動  第5回：政府の役割  第6回：需要と供給  第7回：不完全競争市場（独占・寡占）  第8回：不完全競争下での企業の行動  第9回：マクロ経済学の考え方  第10回：国民所得  第11回：貨幣の役割  第12回：国民所得のコントロール  第13回：長期の経済とは  第14回：失業  第15回：経済政策と企業活動</p>								
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢／態度		20%	意欲的な受講態度、復習の状況により判断する。				
	レポート							
	小テスト		20%	単元ごとの理解度を評価する。				
	定期試験		60%	最終的な理解度を評価する。				
自由記載								
【受講の心得】								
<p>予習は特に必要ない。事後学習（復習）については必ず行い、講義で得た知識を実際の経済現象に照らし考えてみるという姿勢を実践すること。</p>								
【授業外学修】								
<p>授業において説明する経済学の基本的考え方は経済理論の基礎となるものである。また、経済理論はそれだけにとどまらずさらに発展的に展開し、別の理論とも深く関わる。従って、必ず復習し理解したうえで、後の講義を受講するよう心がけること。</p> <p>講義で得た知識をもとに、新聞・テレビ等で経済に関するニュース等を閲覧し、その経済現象はどのような経済理論が適用できるか考えること。</p> <p>適当たりの授業外学習時間〔予習・復習等〕4時間</p>								
使用テキスト	自由記載	適宜資料を配布し、使用する。						
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN		
	大学4年間の経済学がざっと10時間で学べる		井堀利宏	KADOKAWA	1500	978-4-04-601168-8		
	図解大学4年間の経済学がざっと10時間で学べる		井堀利宏	KADOKAWA	925	978-4-04-601754-3		
	大学4年間の経済学がマンガでざっと学べる		井堀利宏、カツヤマケイコ	KADOKAWA	1200	978-4-04-601720-8		
自由記載		参考図書については、必要の都度講義中に周知する。						
【担当教員の実務経験の有無】								
無								
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】								
無								

授業科目名	社会心理学		サブタイトル	(心と身体と社会の関係)	授業番号	SA223
担当教員名	澤田 陽一					
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b>						
本講義は、社会学と心理学の学際領域である従来の社会心理学の基礎理論だけではなく、心（の働き）と身体（脳を含む実体）と社会（あるいは環境）との関係性から、人間（ヒト）の心理（心の働き）・行動を説明・解説する。						
<b>【到達目標】</b>						
心と身体と社会の関係性についての様々な現象や知見を知ること、多角的に人間（ヒト）を捉えることが出来るようになることを目指す。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：社会心理学事始 第2回：社会を把握するためには～感覚から認知へ：表象の成立～ 第3回：社会的比較I～他者を知る～ 第4回：社会的比較II～自己を知る～ 第5回：パーソナリティと対人認知(1)～相手の性格を知る～ 第6回：パーソナリティと対人認知(2)～対人魅力～どんな人に対して魅力を感じるのか～ 第7回：情動・感情 第8回：集団の中の個人I 社会的影響と集団意思決定 第9回：集団の中の個人II 社会的影響と援助行動 第10回：コミュニケーション 第11回：攻撃性の心理 第12回：政治・経済の中にある心理 第13回：脳から見た社会性～社会性の破綻に見る個人～ 第14回：信じることの心理 第15回：総括・授業の振り返り						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		25%	授業時に積極的に発言すること。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		75%	問題・設問に対して、学習したことを正確に記述できること。		
	その他					
自由記載		定期試験は選択問題以外に、特定の専門用語および理論について記述式の説明を求める問題を出題する。これにより、断片的な知識を評価するだけではなく、他者に論理的に説明できる能力も評価する。				
<b>【受講の心得】</b>						
私語・食事厳禁						
<b>【授業外学修】</b>						
授業で紹介する専門用語はとて多く、授業だけでは理解が難しいものも少なくないので、それらについて、図書館などの専門書等を利用して、自身で再度、確認を行うこと。以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	特になし				
参考書	自由記載	適宜、講義内で紹介する				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
病院での心理検査による認知・精神機能の評価および診察補助						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
伝統的な社会心理学の知見のみならず、実務経験から得られた認知・精神機能および脳機能からも、より多角的な視点で講義内容を構成している。						

授業科目名	社会福祉概論		サブタイトル	(社会福祉制度を中心に)		授業番号	SA224
担当教員名	松井 圭三						
対象学部・学科	情報ビジネス学科		単位数	2単位			
開講年次	2年		開講期	前期			
必修・選択	選択		授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b> 社会福祉は、私たちの生活問題を対象としているのでその概念は広い。そのため、社会福祉の本質を理解しようと思えば、歴史の変遷や思想、制度、政策を見ていく必要がある。加えて、社会福祉は実践学問であるので自然科学や人文科学・社会科学との関連についても学習をすることが肝要である。また、対人援助技術が現場では問われるのでソーシャルワークの概念についても言及しなければならない。 本講義では、福祉現場や地域社会で課題となっている福祉トピックスをとりあげながら社会福祉の本質と現状及びこれからの展望について考察していく。授業形式としては、講義、ビデオ視聴を主とする。また、最近の新聞等を教材にディスカッションできる機会を設定したいと考えている。							
<b>【到達目標】</b> ・社会福祉実践能力を高めます。 ・社会福祉の幅広い知識と教養を修得します。 なお、本科目はディプロマポリシー - に掲げた学士力のうち、＜知識・理解＞の修得に貢献する。							
<b>【授業計画】</b> 第1回：社会福祉とは（社会福祉の本質を中心に） 第2回：社会福祉の視点（社会福祉の役割を中心に） 第3回：社会福祉の動向（1980年代から今日までの福祉政策を中心に） 第4回：社会福祉の発展（英国、日本の社会福祉の歴史を中心に） 第5回：社会福祉の法制と機構（厚生労働省、地方自治体の社会福祉行政を中心に） 第6回：社会福祉従事者（福祉マンパワーの課題を中心に） 第7回：社会福祉施設（社会福祉施設の概要と課題を中心に） 第8回：低所得福祉（生活保護制度の意義、種類を中心に） 第9回：高齢者福祉（高齢者に関する福祉サービスをを中心に） 第10回：障害者福祉（障害の概念と障害者の実態を中心に） 第11回：児童福祉（児童福祉の歴史と理念、制度を中心に） 第12回：医療福祉（医療、保健、福祉の連携を中心に） 第13回：地域福祉（地域を支える機関や人々を中心に） 第14回：社会福祉援助技術（対人援助技術を中心に） 第15回：まとめ							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加、予習、復習によって評価する。			
	レポート		10%	課題やレポートにコメントを記入して返却する。			
	小テスト		10%	各回の主要ポイントの理解を評価する。			
	定期試験		50%	最終的な理解度を評価する。			
	その他						
自由記載							
<b>【受講の心得】</b> 本講義は講義形式とグループ討議で進めます。 ・予習と授業中の積極的参加を求めます。 ・自ら考える姿勢で授業に臨んでください。							
<b>【授業外学修】</b> ・予習として、教科書のうち、授業内容に関わる部分を読み、疑問点を明らかにする。 ・復習として、課題のレポートを書く。 ・授業で紹介された参考文献を精読する。 本講義では、週4時間程度の授業外学習が必要となる。							
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	改訂新版よくわかる社会福祉概論		松井圭三	大学教育出版	2200円	978 - 4 - 88730 - 935-7 - 0	
	NIE社会福祉記事ワ - クブック		松井圭三ほか	大学教育出版社	2000円		
自由記載							
参考書	自由記載		授業において、随時紹介します。				
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有						
	<b>【担当教員の实務経験】</b> 観音寺市シルバ - 人材センタ - 職員、観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司						
	<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 高齢者福祉、障害者福祉において実務経験を踏まえた授業を実践している。							

授業科目名	時事問題		サブタイトル	(現代日本を取り巻く諸問題)		授業番号	SA225	
担当教員名	板野 敬吾							
対象学部・学科	情報ビジネス学科			単位数	2単位			
開講年次	2年			開講期	後期			
必修・選択	選択			授業形態	講義			
【授業の概要】								
<p>日々流れるニュースの中で、地球温暖化、大気汚染、水質汚染、化学物質汚染、森林減少、砂漠化、資源・エネルギー問題、放射能汚染などが多く取り上げられている。これら現代の多くの環境問題は、私たち現代の人間がその原因をつくり、最終的に私たちの生活に影響を及ぼしている。後世のために、現在の環境問題を少しでも改善していく必要がある。</p> <p>日本に目を向けると、高齢化問題、あるいはグローバル経済と中国の台頭などのテーマが取り上げられ、その影響が論じられている。本講義ではこれらの環境問題、現代日本と取り巻く諸問題について、最新のデータ等をもとに、その現状を説明し、改善のためにとるべき対策について受講者と共に考える。また、重要な事件などが発生した場合は、本授業計画にないものであっても講義の対象として学生の皆さんと考えてみたい。</p>								
【到達目標】								
<p>様々な環境問題、日本の現状について、基礎知識を修得し、理解することができるようになること。また、環境問題・日本の抱える諸問題に関する時事ニュースについて関心を持ち、自分の考えを言えるようになることを目標とする。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt;&lt;思考・問題解決能力&gt;&lt;態度&gt;の修得に貢献する。</p>								
【授業計画】								
<p>第1回：環境問題とは  第2回：人間と環境  第3回：公害と法などの規制  第4回：水と汚染  第5回：都市環境と自然  第6回：酸性雨  第7回：大気汚染  第8回：化学物質と環境  第9回：地球温暖化と二酸化炭素  第10回：温暖化対策  第11回：森林破壊  第12回：生物多様性  第13回：廃棄物処理  第14回：循環型社会について  第15回：これからの日本</p>								
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度		15%	意欲的な受講態度、予習、復習の状態によって評価する。				
	レポート							
	小テスト		20%	単元毎に小テストを実施し理解度を評価する。				
	定期試験		65%	最終的な理解度を評価する。				
	その他							
自由記載		項目ごとの評価の割合は変更することがある。						
【受講の心得】								
<p>1. 日頃より環境問題、政治・経済に関する時事ニュースに関心を持って目を通しておくこと。  2. 授業態度は、礼儀正しい態度で臨むこと。</p>								
【授業外学修】								
<p>1. 予習として、授業ごとに該当する項目を熟読し、疑問点を明らかにしておく。  2. 復習として、授業で学んだことを教科書を見て再度学修しておく。  3. 授業で紹介した事例を新聞・インターネット等で確認する。  以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。</p>								
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN		
	新しい環境科学		鈴木孝弘	駿河台出版社	2000	9784411040299		
自由記載		必要に応じ授業に際しプリントを配布する。						
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN		
	地球環境学入門		東樋口 護	丸善出版	2200	9784621089354		
自由記載		必要の都度、随時紹介する。						
【担当教員の実務経験の有無】								
無								
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】								
無								

授業科目名	体育実技		サブタイトル	(スポーツに親しもう)	授業番号	SA241
担当教員名	溝田 知茂					
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	1単位			
開講年次	2年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	実技			
<b>【授業の概要】</b>						
各チームの課題を基にメンバーで協力しながら、各種のスポーツ（集団的スポーツ・個人的スポーツ）の練習や試合に取り組む。						
<b>【到達目標】</b>						
健康的な生活を送るために、運動の大切さ・楽しさなど実践を通して体得することをねらいとするとともに、集団でのコミュニケーション能力の向上や基本的なルールの理解・運動技能の習得を図ることを目標とする。 なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解><技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：バスケットボールI（ルールと基本技術の理解） 第2回：バスケットボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 第3回：バスケットボールIII（ゲームの展開） 第4回：バレーボールI（ルールと基本技術の理解） 第5回：バレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 第6回：バレーボールIII（ゲームの展開） 第7回：バドミントンI（ルールと基本技術の理解） 第8回：バドミントンII（基本技術の習得とゲームの導入） 第9回：バドミントンIII（ゲームの展開） 第10回：ソフトバレーボールI（ルールと基本技術の理解） 第11回：ソフトバレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 第12回：ソフトバレーボールIII（ゲームの展開） 第13回：卓球I（ルールと基本技術の理解） 第14回：卓球II（基本技術の習得とゲームの導入） 第15回：卓球III（ゲームの展開）						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		60%	授業の準備や後片付けに率先して取り組んだり、自らのスキルアップやメンバーと協力してゲームに参加する等積極的に授業参加している		
	レポート					
	小テスト		40%	各競技ごとに技能テストを実施する		
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
運動着を着用し、体育館シューズを使用する。 全員協力の上、準備・片付けをする。						
<b>【授業外学修】</b>						
・日頃から自らの健康に対する興味関心や体力向上に努め、日常生活の中で自主的に身体を動かす習慣づくりを心がける。 ・各種目のルールやスキルアップを図るため、書籍や映像を活用して準備すること。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	特に使用しない。（作成資料を活用）				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						



授業科目名	フレッシューズセミナー	サブタイトル		授業番号	SA151
担当教員名	河田 健二 福森 護 宋 娘 沃 古 谷 俊 爾 佐 藤 由 美 子 板 野 敬 吾 藤 本 宏 美 藤 原 美 佳				
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>					
導入教育を目的として開講された科目であり、入学直後の学生生活の環境に慣れて、今後の大学生活を有意義なものにするために、大学生活において必要な知識や心構えについて学ぶ。また、各種オリエンテーションや研修、イベントなど、様々な活動を通じて、教職員と学生、学生相互のコミュニケーションも図る。					
<b>【到達目標】</b>					
大学生活について理解を深め、スムーズに大学生活を過ごせるようになることを目標とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能>および<態度>の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：大学の魅力を知る（本学の理念，歴史，学科の目標，地域社会での役割など） 第2回：大学のしくみを知る（履修の仕方，講義の受け方，レポートの書き方など） 第3回：大学のしくみを知る（学生生活全般について） 第4回：大学の施設を知る（図書館の利用） 第5回：大学の施設を知る（情報処理センターの利用） 第6回：協働の喜びを知る（学科行事，大学行事などを通じて） 第7回：自己アピール 第8回：外部講師による特別講義 第9回：先生方を知る 第10回：環境を考える 第11回：危機管理を考える 第12回：健康管理について 第13回：働くことの意味 第14回：人権について 第15回：大学で学ぶことの意義					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	50%	ディスカッションへの参加状況により評価を行う。		
	レポート	50%	期末にレポート課題を課す。		
	小テスト				
	定期試験				
	その他				
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b>					
本科目の性質上，時間を変更して行う場合もあるので，各自で実施日程を確認すること。遅刻欠席のないよう注意すること。					
<b>【授業外学修】</b>					
毎回の授業で得た知識を学生生活において意識し，可能な限り活用する。 以上のことに，毎週4時間以上の授業外学修を行うこと。					
使用テキスト	自由記載	なし 入学当初のガイダンスには，【学生便覧・授業概要】を持参すること。			
参考書	自由記載				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
無					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					

授業科目名	英語 A		サブタイトル	(英語で岡山を楽しみながら学ぼう)		授業番号	SA291	
担当教員名	藤代 昇丈							
対象学部・学科	情報ビジネス学科			単位数	2単位			
開講年次	1年			開講期	後期			
必修・選択	選択			授業形態	演習			
<b>【授業の概要】</b>								
<p>本学の立地する岡山県の観光地，文化，習慣などについて，外国人に岡山を紹介する英語の対話文を扱い，英語の読解力を高めると同時に岡山についての理解が深まるように演習を通して講義する。ペアやグループ活動も取り入れ，最終的には，自ら素材を選んで紹介文を書き，簡単な英語で発表できる力の養成を目指している。</p>								
<b>【到達目標】</b>								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。</li> <li>・対話でよく使われる英語表現を実際に用いることができる。</li> <li>・岡山の観光・文化等について知識を得ることができる。</li> </ul> <p>なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉の修得に貢献する。</p>								
<b>【授業計画】</b>								
<p>第1回：授業ガイダンス / 1-1-1 New Year's Day  第2回：1-1-2 Welcome to Okayama / 1-1-3 Okayama City  第3回：1-1-4 At Korakuen / 1-2-1 Hofukuji and Sesshu  第4回：1-2-2 Kibijji District / 1-2-3 At Shin-Kurashiki Station  第5回：1-2-4 Ohara Museum of Art / 1-3-1 Hiruzen Heights  第6回：1-3-2 A Trip to Inujima / 1-3-3 A One-day Trip to Kibitsu Shrine  第7回：1-3-4 A Visit to the Yumeji Art Museum / 1-3-5 Yunogo Hot Springs  第8回：2-1-1 At Suzuki's House 1 / 2-1-2 At Suzuki's House 2 / 前半のまとめ  第9回：2-2-3 Covering Hakuto with Paper Bags / 2-2-4 Peach Farmer's Dessert  第10回：2-3-1 Jeans Town Kojima / 2-3-2 Okayama-ben  第11回：2-3-3 Let's eat Hiruzen Fried Noodles / 2-3-4 Bizen Ware  第12回：2-3-5 The Land of Astronomical Observation, Okayama / 3-2-1 Naked Man Festival ( Hadakamatsuri )  第13回：3-2-2 The Okayama Sakura Carnival / 3-2-3 Summer Volunteer Activity  第14回：3-2-4 The Uraja Dance / 3-3-1 Global Company in Okayama 1  第15回：3-3-4 Future Goals / 科目授業全体の振り返り</p>								
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考					
	授業への取り組みの姿勢 / 態度	30%	意欲的な受講態度，予習の状況及び授業への貢献度を評価する。					
	レポート	20%	課題のテーマについて調査し，整理・分析し，具体的かつ適切にまとめてあるかを評価する。					
	小テスト	10%	各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。					
	定期試験	30%	講義の中間期，期末に授業内容の理解度を評価する。					
	その他	10%	積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。					
	自由記載							
<b>【受講の心得】</b>								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習と復習を心がけ，辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。</li> <li>・授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。</li> </ul>								
<b>【授業外学修】</b>								
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 テキスト内容については授業までに2時間以上予習すること。</li> <li>2 毎回前時の授業内容についての小テストを実施するので2時間以上復習しておくこと。</li> <li>3 課題については十分に調査してレポートを作成すること。</li> </ol>								
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN			
	改訂新版 岡山から“ハロー”	岡山ローバル英語研究会	山陽新聞社	1,100	978-4881977590			
	自由記載							
参考書	自由記載							
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>							
	有							
	<b>【担当教員の实務経験】</b>							
	県情報教育センター・県総合教育センター・県立高等学校英語科教諭							
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>								
無								
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>								
<p>高校の学校現場に勤務し，英語科の指導に当たった経験から，学生のニーズを的確に把握し，わかりやすい解説や指導をすることができる。また，大学生として身につけておくべき語彙や表現などをペアやグループ活動などを取り入れアクティブかつ実践的な指導ができる。また，県情報教育センター及び県総合教育センター情報教育部の指導主事として，教職員の研修や指導業務に当たった経験から，ICTを活用して動画や音声を提示しわかりやすい授業を行うことができる。</p>								

授業科目名	韓国語		サブタイトル	(韓国語の基礎を学ぶ)		授業番号	SA193	
担当教員名	宋 娘沃							
対象学部・学科	情報ビジネス学科			単位数	2単位			
開講年次	1年			開講期	前期			
必修・選択	選択			授業形態	演習			
【授業の概要】								
韓流ブーム以降、冬季オリンピックや文化交流などを通じてますます韓国への関心が高まり、日本と韓国との距離は一段と縮まってきている。韓国語と日本語は文法が類似していると同時に、言葉にとってもっとも大切な語順がほとんど一致している。本講義は、前半では韓国語学習を習い始める初歩の段階としてハングルの基礎から始まり、韓国語のごく短い文の読み書き、聞き取りを学習する。後半では日常会話として自己紹介、挨拶の言葉、韓国旅行のための簡単な会話など、基礎的なやり取りの実践的な力を身につける。また、韓国の若者の意識、エンターテインメント、日常生活や社会への理解を深めていくために、ビデオ鑑賞を行う。								
【到達目標】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>韓国語の言葉や文法を習得することができる。</li> <li>韓国語の挨拶や簡単な会話ができるようになる。</li> <li>簡単な韓国語が書けることができる。</li> </ul> なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。								
【授業計画】								
第1回：韓国語とは 第2回：文字と発音・母音 第3回：文字と発音・子音 第4回：激音と農音、パッチム 第5回：助詞、動詞 第6回：基本文型過去形の作り方 第7回：感嘆文、疑問文 第8回：基本文型指示代名詞、助数詞 第9回：用語の丁寧形、尊敬形 第10回：会話練習、表現 第11回：挨拶、訪問の言葉 第12回：韓国の大学 第13回：韓国の食生活 第14回：韓国の文化と映画 第15回：韓国の若者と社会生活								
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考					
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	授業への意欲、質問、宿題を積極的に行っているのかを評価する。					
	レポート							
	小テスト	30%	授業の中間時点でどの程度理解しているのかを点検する。					
	定期試験	50%	授業全体の理解度や言葉の習得ができてきているのかを評価する。					
	その他							
	自由記載							
【受講の心得】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>韓国語の単語や短文の宿題を真面目に行うこと。</li> <li>韓国に関するニュースや興味ある記事に目を通して授業に積極的に取り組むこと。</li> </ul>								
【授業外学修】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>予習として、教科書の授業内容に該当する部分を前もって読み、疑問点をチェックして来ること。</li> <li>復習として、毎回の課題をノートにまとめて来ること。</li> <li>韓国語の教科書のCDを聞くようにして、言葉に慣れること。</li> </ul> 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。								
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN			
	ゼロからしっかり学べる！韓国語	木内 明	高橋書店	1700円	978-4-471-11270-7			
	自由記載							
参考書	自由記載	【担当教員の実務経験の有無】						
		有						
		【担当教員の実務経験】						
		京都YMCA専門学校で韓国語講師を務める。						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】								
無								
【実務経験をいかした教育内容】								
専門学校での経験を生かして、教育現場での学習指導、学生指導を充実させる。								

授業科目名	中国語		サブタイトル	(発音記号, 基本文型, 会話, 短文)	授業番号	SA194
担当教員名	畑木 亦梅					
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
<b>【授業の概要】</b>						
この授業では中国語の発音・基礎文法に重点を置く。日本人にとって親しみのある漢字を中国語でどう発音するかのなどを解きながら、基礎的な会話と文型を学んでいくものとする。また、外国語を学ぶうえで自分自身にとって一番相応しい方法が何なのかについて考えてもらい、一緒に探し当てていく。						
<b>【到達目標】</b>						
既習内容の発音や単語の定着を目指して基本文型を理解する。いざ中国語による会話をする時、趣味などについて語れる基礎的なコミュニケーション能力を身に付けている。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた内容のうち、<知識・理解>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：テキスト第一課 発音(1) 単母音, 声調, 子音, 軽声, 特殊母音 (課題提出 テキスト第一課分P9-10), 第2回：テキスト第二課 発音(2) 重母音, 鼻母音, 声調の記号のつけ方 第3回：発音の復習, 知っておいて便利な言葉 (課題提出 テキスト第二課分P13-14) 第4回：テキスト第三課 名詞文「...是...(...は...です)」について(肯定文, 否定文, 疑問文); 副詞「也, 都(も)」について, 強化トレーニング (課題提出 テキスト第三課分P19-20) 第5回：テキスト第四課 指示代名詞, 存在文「有...(...あります/います)」について, 「ちょっと...する」の言い方, 強化トレーニング (課題提出 テキスト第四課分P25-27) 第6回：テキスト第五課 動詞文, 動作の継起, 願望文「想...(...したい)」について, 強化トレーニング (課題提出 テキスト第五課分P33-34) 第7回：テキスト第六課 動作・行為の完了, 形容詞文について, 比較, 起点などの表し方, 強化トレーニング (課題提出 テキスト第六課分P39-40) 第8回：テキスト第七課 動作の進行, いろいろな「在」の使い方, 数字・日付の言い方, 強化トレーニング (課題提出 テキスト第七課分P45-46) 第9回：テキスト第八課 過去の経験の表しかた, 東京ディズニーランドに行ったことがありますか? 強化トレーニング (課題提出 テキスト第八課分P51-52) 第10回：テキスト第九課 皆さんはお元気ですか 強化トレーニング (課題提出 テキスト第九課分P57-58) 第11回：テキスト第十課 休みの日はどのように過ごしますか? 強化トレーニング (課題提出 テキスト第十課分P63-64) 第12回：テキスト第十一課 納豆は食べますか? 強化トレーニング (課題提出 テキスト第十一課分P69-70) 第13回：テキスト第十二課 私について(1) 強化トレーニング (課題提出 テキスト第十二課分P75-77) 第14回：テキスト第十三課 私について(2) 強化トレーニング (課題提出 テキスト第十三課分P81-82) 第15回：復習, おさらい, 定期試験に向けて						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	発音練習・発言など授業への積極性			
	レポート	30%	課題提出の完成度			
	小テスト					
	定期試験	50%	発音の基本・テキストにある強化トレーニング内容の定着			
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
予習, 復習をしっかりとすること。テキストを必ず持ってくること。毎授業の導入時に15分程度の発音練習の時間を設けており, 声を出して練習すること。遅刻しないこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
1 予習として, 次の授業に出る新出単語を覚えておくこと, テキストの問題に目を通しておくこと。 2 復習として, 学んだ本文内容や文法を再確認すること。						
以上の内容を, 週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	テキストについては教務課より別途指示				
参考書	自由記載					
<b>【その他】</b>						
プリント配布, 学習内容に合わせて中国事情を紹介						
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
高等学校での中国語授業						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
通訳, 翻訳の経験を活かし, 学生自身の母国語の日本語について考えてもらい, より言語に関心を持ってもらうよう指導する。また, 中国語授業の経験を活かし, 学生と共に各々にあつての言語の修得方法を指導する。						

授業科目名	日本事情 留学生対象科目		サブタイトル		授業番号	-
担当教員名	岡本 輝彦					
対象学部・学科	情報ビジネス学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
日本の文化や社会、習慣について幅広く学習し日本人のものの見方、考え方を知ることによって日本での生活に適應できる能力を身につける。また、知識を習得するだけでなくプレゼンテーションなどを通して日本語で発信できる能力を養うことを目的とする。						
<b>【到達目標】</b>						
1. 日本の文化や社会について自国の事情と比較しつつ知識を深めることができる。 2. 日本や日本人を正しく理解することができる。 3. 最終的には日本人コミュニティに参加できるようになる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：オリエンテーション・自己紹介 第2回：日本はどんな国か 第3回：自分の国を紹介する 第4回：日本の食について考える 第5回：自国の食文化を紹介する 第6回：年中行事 第7回：自国の年中行事を紹介する 第8回：現代文化とポップカルチャー 第9回：自国の文化を紹介する 第10回：環境保護を考える 第11回：自国の環境保護に対する取り組みを紹介する 第12回：教育 第13回：自国の教育を紹介する 第14回：多文化共生社会について考える(1) 第15回：多文化共生社会について考える(2)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		40%	積極的な受講態度、発話回数で評価する。		
	レポート		20%	自分の意見が適切に述べられているかどうかで評価する。		
	小テスト		40%	学習内容が理解できているかどうかで評価する。		
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
1. 資料を読んだり、ディスカッションをしたりするので、自分からどんどん発言すること。 2. 講義テーマに関する事柄を事前に調べておくこと。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 後期テーマに関する必要な語彙を調べておくこと。 2. プレゼンテーションの原稿を作成すること。 3. 資料を探しプレゼンテーションソフトを使って発表の練習をすること。						
以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	毎回プリントを配布する予定。				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	日本語 留学生対象科目		サブタイトル		授業番号	-
担当教員名	岡本 輝彦					
対象学部・学科	情報ビジネス学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
総合的な日本語力を養うとともに日本や日本人に対する考え方を深めること、受容だけではなく産出の面にも焦点をあてて授業を進めていくことにより、日本語での発信力を向上させることを目的としている。						
<b>【到達目標】</b>						
1. 論理的な思考を身につけることができる。 2. 自分が言いたいことが例や理由などを示しながらわかりやすく説明できる。 3. 中上級の表現力が習得できる。						
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：アカデミック・リーディング(1) 第2回：語彙・文法(1)および復習 第3回：アカデミック・リーディング(2) 第4回：語彙・文法(2)および復習 第5回：アカデミック・ライティング(1)および小テスト 第6回：アカデミック・リーディング(3) 第7回：語彙・文法(3)および復習 第8回：アカデミック・リーディング(4) 第9回：語彙・文法(4)および復習 第10回：アカデミック・ライティング(2)および小テスト 第11回：アカデミック・リーディング(5) 第12回：語彙・文法(5)および復習 第13回：アカデミック・リーディング(6) 第14回：語彙・文法(6)および復習 第15回：アカデミック・ライティング(3)および小テスト						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	積極的な受講態度、発話回数、予習復習の成果で評価する。		
	レポート		30%	自分の意見が適切に述べられているかどうかで評価する。		
	小テスト		40%	学習内容が理解できているかどうかで評価する。		
	定期試験		0%			
	その他		10%	口頭発表		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
講義の前にプリントを読んでおき、事前にわからない語彙の意味・用法を調べておくこと。講義を聞くだけでなく、自分から意見を述べること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 毎回配布するテキストに関する事項について事前に自分の意見をまとめておくこと。 2. テキストに出てくる学習項目を調べておくこと。						
以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	毎回プリントを配布する予定。				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	日本語II 留学生対象科目		サブタイトル		授業番号	-
担当教員名	岡本 輝彦					
対象学部・学科	情報ビジネス学科		単位数	2単位		
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b>						
総合的な日本語力はもとよりのこと、特に「話す」、「書く」といった産出の面における日本語能力の向上を目指し、自分の考えを論理的に日本語で表現できる能力を身につけることを目的としている。						
<b>【到達目標】</b>						
1. 論理的な思考を身につけることができる。 2. 自分が言いたいことが例や理由などを示しながらわかりやすく説明できる。 3. 中上級の表現力を習得することができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：アカデミック・リーディング(1) 第2回：発表・討議 第3回：アカデミック・リーディング(2) 第4回：アカデミック・ライティング(1) 第5回：アカデミック・リーディング(3) 第6回：発表・討議 第7回：アカデミック・リーディング(4) 第8回：アカデミック・ライティング(2) 第9回：アカデミック・リーディング(5) 第10回：発表・討議 第11回：アカデミック・リーディング(6) 第12回：アカデミック・ライティング(3) 第13回：プレゼンテーション技法(1) 第14回：プレゼンテーション技法(2) 第15回：プレゼンテーション技法(3)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		40%	積極性・発表・予習・復習で総合的に評価する。		
	レポート		20%	自分の意見が適切に述べられているかどうかで評価する。		
	小テスト					
	定期試験		40%	理解度および到達度で評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
講義の前にプリントを読んでおくこと。また、日本人学生との交流もあるので積極的に発言すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 毎回配布するプリントに関する事項について事前に自分の考えをまとめておくこと。 2. プリントに出てくる学習項目を調べておくこと。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	自由記載	毎回プリントを配布する予定。				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	経営学概論		サブタイトル	授業番号	SM111
担当教員名	宋 娘沃				
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	必修	授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b> 企業はわたしたちの生活とどのように関わっているのか。企業は新製品を開発したり、製造したり、消費者に販売するため、さまざまな戦略を打ち立てたりしている。経営学とは人、モノ、金、情報が結びつけられ製品やサービスに変換される企業のことを学ぶ学問である。こうした製品やサービスを生み出すために企業の組織や戦略、人材、意思決定はどのように行われ、実践されているのか。今日わたくしたちの生活と密接に関わっている企業の仕組みや組織、戦略、雇用、人材の在り方を学ぶことが必要不可欠である。本講義は、前半では株式会社の仕組みや組織、管理システムに焦点をあてて学習する。後半では実際の企業の事例を取り上げ、企業とわたしたちの生活との関わりを明らかにする。					
<b>【到達目標】</b> ・経営学の基礎知識を習得することができる。 ・実際の企業の組織、管理システム、企業人材の仕組みを学習することによって、より深い専門知識が習得できる。 ・企業と私たちの生活との関わりを理解することによって、自主的学習能力を高めることができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b> 第1回：経営学とは何か 第2回：企業経営の全体像 第3回：企業形態と組織の選択 第4回：企業の事業部制組織 第5回：企業と金融資本・労働との関わり 第6回：企業と製品・サービス市場との関わり 第7回：競争戦略のマネジメント（ドトールコーヒーとスターバックスの事例） 第8回：多角化戦略のマネジメント（キャノンの事例） 第9回：労働と組織の管理・テイラーシステム 第10回：トヨタ自動車の生産システム 第11回：ファミリービジネスのマネジメント 第12回：企業のブランド力 第13回：企業の国際化とマネジメント 第14回：企業組織と人材 第15回：企業の社会的責任					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	授業への意欲、質問、討議を積極的に行っていたかを評価する。		
	レポート	30%	各回の主要なポイントやキーワードの理解度を評価する。		
	小テスト				
	定期試験	50%	授業全体の理解度を評価する。		
	その他				
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b> ・基本的には講義形式で行うが、必要に応じてレジュメや資料を適宜配布する。 ・関心ある企業や最新の企業活動の動向に関する新聞、雑誌などに目を通して講義に臨むこと。					
<b>【授業外学修】</b> ・予習として、教科書の授業内容に相当する部分を前もって読み、疑問点をチェックして明らかにする。 ・授業で習った内容の小テストを行うので、必ず復習をする。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	『1からの経営学 第3版』	加護野忠男・吉村典久編著	中央経済社	2400円	978 - 4 - 502 - 69610 - 7
	自由記載				
参考書	自由記載	・上林憲雄 他編『経験から学ぶ経営学入門』有斐閣ブックス、2007年。・片岡信之編編『アドバンスト経営学 理論と現実』中央経済社、2010年。・伊藤宗彦・高室裕史編『1からのサービス経営』中央経済社、2010年。			
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 無				
	<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無				



授業科目名	現代企業論		サブタイトル	授業番号	SM212
担当教員名	宋 娘沃				
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
【授業の概要】					
<p>今日の大企業は株式会社の形態をとっている。その株式会社の仕組みを知ることが現代企業を理解する上で重要である。企業の研究開発、生産、販売、雇用などの経営活動は私たちの生活や就職に大きな役割を果たし、影響を及ぼしている。これまでの日本の経営と言われた雇用システムや垂直統合企業は大きく変わり、ひとつの部門に特化する専門企業の出現、アウトソーシング、戦略的提携が活発化する中で、企業間連携も大きく進展している。本講義では企業の仕組み、企業組織、雇用システムに焦点を当て学習する。さらに現代社会における企業の社会的責任が私たちの社会や生活にどのような影響を及ぼしているのかを明らかにする。</p>					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> <li>現代企業の仕組み、組織システムを理解することができる。</li> <li>企業活動の実態を学習することによって、雇用システムや人材の役割が理解できる。</li> <li>現代企業の社会的責任を学習することによって、より専門的な学習能力を高めることができる。</li> </ul> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt; &lt;思考・問題解決能力&gt; の修得に貢献する。</p>					
【授業計画】					
<p>第1回：現代企業を捉える視点  第2回：企業の諸形態  第3回：株式会社の特質  第4回：株式会社の機能と構造  第5回：株式・上場  第6回：コーポレート・ガバナンス(1)  第7回：コーポレート・ガバナンス(2)  第8回：自動車産業と系列システム  第9回：情報ネットワーク化と企業間関係  第10回：情報化と新しいビジネスモデル  第11回：企業の組織と管理論の展開  第12回：日本の企業とネットワーク組織  第13回：企業の国際化  第14回：企業の社会的責任  第15回：社会のための企業</p>					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	授業への意欲、まとめ方、質問、討議を評価する。		
	レポート	40%	企業の不祥事に関してその問題点や解決策についてまとめること。そのレポートはコメントを記入して返却する。		
	小テスト	40%	授業全体の理解度を評価する。		
	定期試験				
	その他				
	自由記載				
【受講の心得】					
<ul style="list-style-type: none"> <li>現代の企業活動を理解するために、できる限り新聞や雑誌に目を通して出席すること。</li> <li>関心ある企業の動向を本とか雑誌論文などから調べること。</li> </ul>					
【授業外学修】					
<ul style="list-style-type: none"> <li>予習は、毎回の教科書の内容を読み、疑問点をチェックして来ること。</li> <li>復習は、課題のレポートを作成し、教科内容やキーワードの理解を深める。</li> <li>さらに進んで理解するために、授業で配った資料や参考文献を読む。</li> </ul> <p>以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。</p>					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	『企業論 第3版』	三戸 浩・池内秀己・勝部伸夫 著	有斐閣アルマ	2000円	978-4-641-12444-8
	自由記載				
参考書	自由記載	・小松 章『企業形態論 第3版』新世社、2007年。・夏目啓二 編著『アジアICT企業の競争力』ミネルヴァ書房、2010年。・林正樹 編著『現代日本企業の競争力』ミネルヴァ書房、2011年。			
	【担当教員の実務経験の有無】	無			
	【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】	無			

授業科目名	経営戦略論		サブタイトル	授業番号	SM313	
担当教員名	宋 娘沃					
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b> 経営戦略とは、競争優位を獲得するために企業が人、モノ、カネ、情報という経営資源を配分し、意思決定を下すことである。企業戦略にはいかにして低コストを実現するのか、どのようにして違いを出して差別化するのか、どのような事業に集中するのがあり、企業を取り巻く競争はますます激化している。今日、日本企業においても経営戦略をどのように構築し、いかにして実行するかが重要な戦略課題となっている。そこで本講義では、グローバル競争に焦点を当て学習する。講義の前半では、経営戦略論の基礎理論を学び、後半では企業の経営戦略の実態を把握するために、現在もっとも注目されている日本企業や欧米企業の事例を取り上げ、解説する。						
<b>【到達目標】</b> ・実際の企業競争について学び、企業間の競争が理解できるようになる。 ・日本企業、欧米企業の経営戦略の実態の把握によって、グローバルな視点の考え方が養える。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b> 第1回：経営戦略とは何か 第2回：企業環境と競争要因 第3回：競争優位と参入障壁 第4回：経営戦略の事業領域 第5回：事業戦略の基本戦略（しまむらの事例） 第6回：企業の成長戦略と多角化 第7回：製品ライフスタイル別戦略 第8回：企業の取り巻く環境（トヨタ自動車の事例） 第9回：ブランドとマーケティング戦略 第10回：企業の組織構造 第11回：戦略実現のための組織と人材 第12回：戦略総体としてのビジネスモデル 第13回：日本企業のグローバル戦略（事例：ソニー） 第14回：モバイル企業の部品調達戦略（事例：アップル） 第15回：ネットビジネス企業の経営戦略（事例：アマゾン）						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	授業への意欲、質問、討議を積極的にを行っているのかを評価する。		
	レポート		30%	企業の実態を知るため、グループワークで調べてまとめる。その内容のコメントを返却する。		
	小テスト		40%	キーワードの理解度、授業全体への理解度を評価する。		
	定期試験					
	その他					
自由記載		レポートの場合、企業の経営戦略に関してグループワークで調べ、まとめた内容を検討して評価する。				
<b>【受講の心得】</b> ・日常、企業の戦略や動向に関心をもつこと。 ・企業関連の新聞や雑誌などに目をとめて、問題意識を持って積極的に出席することを望む。						
<b>【授業外学修】</b> ・予習として、教科書の授業内容に相当する部分を前もって読み、疑問点をチェックして来ること。 ・授業で習った内容の小テストがあるので、復習をする。 ・個別企業の事例を資料や参考文献から読む。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	『1からの経営戦略 第2版』		嶋口充輝 編	中央経済社	2400円	
自由記載						
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	現代日本企業の競争力		林正樹 編著	ミネルヴァ書房	2800円	978-4-623-06018-4
	自由記載	沼上幹＋一橋MBA戦略ワークショップ『企業戦略白書VIII』東洋経済新報社、2008年。 網倉久永・新宅純次郎『経営戦略入門』日本経済新聞出版社、2011年。夏目啓二編著『21世紀ICT企業の経営戦略』文真堂、2017年。				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						

授業科目名	国際経営論		サブタイトル	授業番号	SM314
担当教員名	宋 娘沃				
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b> 21世紀に入り、多国籍企業のグローバル競争が熾烈になる中、グローバルな寡占構造が形成されている。一方、グローバルな産業での競争条件や参入障壁がフラット化し、BRICsを中心とする新興国の企業が台頭し、先進国企業との競争が激化している。その中、多国籍企業の国際経営のあり方も日増しに変化し、ますます重要になってきている。多国籍企業は世界的な生産、販売、調達、戦略的提携、ネットワークを築いて、その国際経営活動が日本や外国の経営活動に大きな影響が及んでいる。本講義では、国際経営のあり方やその海外活動を学習し、化粧品産業、家電産業、自動車産業、コンテンツ産業などの国際産業を取り上げ、多国籍企業の経営活動や海外進出における新たな仕込みや競争構造、諸影響をを明らかにする。					
<b>【到達目標】</b> ・海外で活動する多国籍企業のグローバル競争を学習することによって、グローバル競争の実態が理解できる。 ・日本の化粧品、家電、半導体、自動車産業の海外進出を学習することで、グローバルな視点や考え方ができる能力を養う。 ・多国籍企業の海外進出に伴う諸影響を学ぶことによって、グローバル化に関する知識が深められる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b> 第1回：国際経営とはなにか 第2回：多国籍企業の形成 第3回：海外進出の形態（事例：味の素） 第4回：多国籍企業の海外生産 第5回：日本の自動車産業の国際競争（事例：トヨタ自動車） 第6回：日本の自動車産業のグローバル化 第7回：アメリカのネット企業の競争優位（事例：アマゾン） 第8回：日本の化粧品産業のグローバル化（事例：資生堂） 第9回：電子機器受託製造企業（事例：台湾のホンハイ精密工業） 第10回：日本の家電産業のグローバル競争（事例・ソニー） 第11回：半導体産業とはなにか 第12回：韓国の半導体産業の事業戦略（事例：三星電子） 第13回：日・韓半導体産業の競争優位の比較（事例：東芝） 第14回：モバイル産業の部品調達戦略 第15回：グローバル企業と人事制度の変革					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度	30%	授業への意欲的な態度、質問、討議の積極的な姿勢を評価する。		
	レポート	30%	日本企業の海外進出に対するの優位性や問題点をまとめること。その内容のコメントを返却する。		
	小テスト	40%	授業全体の理解度、キーワードの学習能力を評価する。		
	定期試験				
	その他				
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b> ・国際経営の実態を深めるために、VTRなどのメディアを利用する。 ・できるだけ、新聞に目を通して国際的事情に関心を持って出席すること。					
<b>【授業外学修】</b> ・予習として、教科書の授業内容に相当する部分を前もって読み、疑問点をチェックして来ること。 ・授業で習った内容の小テストがあるので、復習をすること。 ・個別企業の事例を資料や参考文献から読むこと。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	ケースに学ぶ国際経営	吉原英樹編	有斐閣ブックス	2800円	978 - 4 - 641 - 18415 - 2
	自由記載				
参考書	自由記載	・宋娘沃『技術発展と半導体産業』文理閣、2005年。・新宅純二郎・天野倫文編著『ものづくりの国際経営戦略』有斐閣、2009年 ・夏目啓二編著『21世紀企業の経営戦略』文眞堂、2017年。			
	【担当教員の実務経験の有無】	無			
	【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】	無			

授業科目名	マーケティング		サブタイトル		授業番号	SM315
担当教員名	宋 娘沃					
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b>						
<p>今日、市場では消費者の好みやライフスタイルが多様化し、個別化している。マーケティングは単に作った製品を売るのではなく、売れる製品をいかに作るかが求められている。そのためには、消費者のニーズを明確にとらえ、それに合う新製品を開発することが重要な戦略となっている。マーケティングはこうした製品をどのようにターゲット市場に細分化し、宣伝、広告、流通チャネルまでトータルに捉えていくのが重要である。本講義では、企業におけるマーケティング戦略に焦点をあて消費者の行動との関係性を考察する。講義では具体的な企業の事例を取り上げ、今日のマーケティングの考え方や技法を明らかにする。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・マーケティングに関する基礎知識が修得できる。</li> <li>・企業のブランド力や商品が市場で販売されるまでのプロセスが理解できる。</li> <li>・実際の企業のマーケティング戦略を学ぶことによって、実務的な学習能力を養うことができる。</li> </ul> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt; &lt;思考・問題解決能力&gt; の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：マーケティングとは何か  第2回：マーケティングミックス  第3回：ターゲット市場の選定  第4回：標的市場と市場細分化  第5回：市場環境と消費者行動  第6回：顧客志向のマーケティング  第7回：製品ライフサイクル  第8回：消費者行動とマーケティング  第9回：ブランドの創造戦略(1)  第10回：ブランドの創造戦略(2)  第11回：デジタルマーケティング戦略  第12回：流通チャネル  第13回：市場機会の模索とマーケティング戦略  第14回：業界の構造分析と競争優位  第15回：顧客維持と関係性マーケティング</p>						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	講義への意欲や質問、討議を積極的に行っているのかを評価する。			
	レポート	30%	企業の商品や市場での動向を調べ、マーケティングの実態をまとめる。その内容のコメントを返却する。。。			
	小テスト					
	定期試験	50%	キーワードの理解度、講義全体の理解度を評価する。			
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常、消費や興味のある商品に関する新聞や雑誌などに目をとめて、問題意識を持って出席することを望む。</li> </ul>						
<b>【授業外学修】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習として、教科書の授業内容に相当する部分を前もって読み、疑問点をチェックして来ること。</li> <li>・授業で習った内容の小テストがあるので、復習をすること。</li> <li>・さらに、企業のマーケティング活動の事例を資料や参考文献から読むこと。</li> </ul> <p>以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。</p>						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	入門・マーケティング戦略 新版	池尾恭一	有斐閣	2100円	978 - 4 - 641 - 16486-4 - 7	
	自由記載					
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	コトラーの戦略的マーケティング	フィリップ・コトラー著木村達也訳	ダイヤモンド社	2200円	4 - 478 - 50176 - 9	
	自由記載	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R・メイソン著 鈴木信雄他訳 『顕示的消費の経済学』名古屋大学出版会、2001年。</li> <li>・廣田章光・石井淳蔵編 『1からのマーケティング』中央経済社、2004年。</li> <li>・伊藤宗彦編 『1からのサービス経営』中央経済社、2010年。</li> </ul>				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	基礎簿記A		サブタイトル		授業番号	SM121
担当教員名	林 靖宏					
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b> 簿記を理解することができれば、企業の経理業務に従事するのに必要なスキルだけでなく、財務諸表を読解したり、経営管理や経営分析する力も身につけることが可能である。 ビジネスにおいて理解しておきたいコスト感覚も習得できるため、常にコストを気かけながら仕事をすることが可能になる。取引する相手先の経営状況もわかるようになるので、経理業務に従事する方だけでなく、あらゆる社会人にとって有用だといえる。 本講義においては、試算表という決算書類を作成する前段階で、仕訳帳から総勘定元帳に正確に記録されているかどうか確認するための集計表が作れるようになることを目的とする。 また、本講義及び基礎簿記演習Aに関し、座学と演習を分けて授業を行わず、両科目を通算して学習するものとする。						
<b>【到達目標】</b> 本講義においては、企業活動における日常取引と経理処理の関係を理解すること、及び経理処理した情報をどのように活用するのかを考え、実務に即した対応ができるようになることを目標とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
<b>【授業計画備考】</b> 本講義においては、基礎簿記演習Aと通算して講義を行う。従って、本座学とその実践たる演習はテキストと問題集を並行して使用し、授業を実施する。						
第1回：簿記の基礎 第2回：日常の手続き 第3回：商品売買I 第4回：商品売買II 第5回：現金・預金 第6回：小口現金 第7回：クレジット売掛金 第8回：手形取引 第9回：さまざまな帳簿の関係 第10回：電子記録債権・債務 第11回：その他の取引I 第12回：その他の取引II 第13回：その他の取引III 第14回：訂正仕訳 第15回：試算表						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	出席率、意欲的な受講態度、積極的な授業への参加態度により評価する。		
	レポート		20%	課題について、自身の意見を自身の言葉で具体的に述べていること。		
	小テスト		20%	適宜実施し、単元ごとの理解度を評価する。		
	定期試験		40%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b> 本講義内容は相互に関連しており、欠席すると理解が不十分となる。従って、やむを得ない事情がない限り、欠席しないように留意すること。 不明点等があれば、積極的に質問し、理解するよう心がけること。						
<b>【授業外学修】</b> 講義内容に関する項目については、予習は必要ありません。 知識の習得には復習が重要となるので、内容を理解しておくこと。 復習に要する時間として適当たり4時間以上学習すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3級 Ver.12		TAC簿記検定講座	TAC出版	2200円	978-4-8132-8556-4
自由記載						
参考書	自由記載		授業の中で適宜紹介する。			
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有					
	<b>【担当教員の実務経験】</b> 専門学校講師、職業訓練校講師、大学生協講座講師、会計事務所・会社経理					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 会計事務所や会社経理で使用する知識や個人事業主、起業するのに必要な知識についても指導する。資格専門学校で伝える資格取得のために必要な取り組みについて紹介する。						

授業科目名	基礎簿記B		サブタイトル		授業番号	SM221
担当教員名	林 靖宏					
対象学部・学科	情報ビジネス学科		単位数	2単位		
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>						
簿記を理解することができれば、企業の経理業務に従事するのに必要なスキルだけでなく、財務諸表を読解したり、経営管理や経営分析する力も身につけることが可能である。 ビジネスにおいて理解しておきたいコスト感覚も習得できるため、常にコストを気かけながら仕事をすることが可能になる。取引する相手先の経営状況もわかるようになるので、経理業務に従事する方だけでなく、あらゆる社会人にとって有用だといえる。 本講義においては、残高試算表から始まり、一連の決算修正、損益計算書、貸借対照表を一覧表にまとめる「精算表」や決算までの1年間の自社の財政状態や経営成績をまとめた計算書の「財務諸表」の作成と分析ができるようになることを目的とする。 また、本講義及び基礎簿記演習Bに関し、座学と演習を分けて授業を行わず、両科目を通算して学習することとする。						
<b>【到達目標】</b>						
本講義においては、企業活動における取引結果の報告書である財務諸表を理解し、一般的な経理事務に従事するための基礎的かつ基本的な知識を習得することを目標とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
<b>【授業計画 備考】</b>						
本講義においては、基礎簿記演習Bと通算して講義を行う。従って、本座学とその実践たる演習はテキストと問題集を並行して使用し、授業を実施する。 簿記基礎Aと合わせ、2022年2月の日商簿記検定の受験を目指す。						
第1回：決算とは 第2回：決算整理I 第3回：決算整理II 第4回：決算整理III 第5回：決算整理IV 第6回：決算整理V 第7回：決算整理VI 第8回：決算整理後残高試算表 第9回：精算表 第10回：帳簿の締め切り 第11回：損益計算書と貸借対照表 第12回：株式の発行 第13回：剰余金の配当と処分 第14回：税金 第15回：証ひょうと伝票						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	出席率、授業への積極的な参加、意欲的な受講態度により評価する。			
	レポート	20%	課題について、自身の意見を自身の言葉で具体的に述べていること。			
	小テスト	20%	個別授業内容の理解度を評価する。			
	定期試験	40%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
本講義内容は相互に関連しており、欠席すると理解が不十分となる。従って、やむを得ない事情がない限り、欠席しないように留意すること。 不明点等があれば、積極的に質問し、理解するよう心がけること。						
<b>【授業外学修】</b>						
講義内容に関する項目については、予習は必要ありません。 知識の習得には復習が重要となるので、内容を理解しておくこと。 復習に要する時間として過当たり4時間以上学習すること。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3級 Ver.12	TAC簿記検定講座	TAC出版	2200円	978-4-8132-8556-4	
	自由記載					
参考書	自由記載	授業の中で適宜紹介する。				
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
	<b>【担当教員の实務経験】</b>					
	専門学校講師，職業訓練校講師，大学生協講座講師，会計事務所・会社経理					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
会計事務所や会社経理で使用する知識や個人事業主、起業するのに必要な知識についても指導する。資格専門学校で伝える資格取得のために必要な取り組みについて紹介する。						

授業科目名	基礎簿記演習 A		サブタイトル		授業番号	SM122
担当教員名	林 靖宏					
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	1単位			
開講年次	1年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
<b>【授業の概要】</b> 簿記を理解することができれば、企業の経理業務に従事するのに必要なスキルだけでなく、財務諸表を読解したり、経営管理や経営分析する力も身につけることが可能である。 ビジネスにおいて理解しておきたいコスト感覚も習得できるため、常にコストを気にかけてながら仕事をすることが可能になる。取引する相手先の経営状況もわかるようになるので、経理業務に従事する方だけではなく、あらゆる社会人にとって有用だといえる。 本講義においては、試算表という決算書類を作成する前段階で、仕訳帳から総勘定元帳に正確に記録されているかどうか確認するための集計表が作れるようになることを目的とする。 また、本講義及び基礎簿記Aに関し、座学と演習を分けて授業を行わず、両科目を通算して学習するものとする。						
<b>【到達目標】</b> 本講義においては、企業活動における日常取引と経理処理の関係を理解すること、及び経理処理した情報をどのように活用するのかを考え、実務に即した対応ができるようになることを目標とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
<b>【授業計画 備考】</b> 本講義においては、基礎簿記Aと通算して講義を行う。従って、本座学とその実践たる演習はテキストと問題集を並行して使用し、授業を実施する。						
第1回：簿記の基礎 第2回：日常の手続き 第3回：商品売買I 第4回：商品売買II 第5回：現金・預金 第6回：小口現金 第7回：クレジット売掛金 第8回：手形取引 第9回：さまざまな帳簿の関係 第10回：電子記録債権・債務 第11回：その他の取引I 第12回：その他の取引II 第13回：その他の取引III 第14回：訂正仕訳 第15回：試算表						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	出席率、意欲的な受講態度、積極的な授業への参加態度により評価する。		
	レポート					
	小テスト		20%	適宜実施し、単元ごとの理解度を評価する。		
	定期試験		50%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b> 本講義内容は相互に関連しており、欠席すると理解が不十分となる。従って、やむを得ない事情がない限り、欠席しないように留意すること。 不明点等があれば、積極的に質問し、理解するよう心がけること。						
<b>【授業外学修】</b> 講義内容に関する項目については、予習は必要ありません。 知識の習得には復習が重要となるので、内容を理解しておくこと。 復習に要する時間として2時間以上学習すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記3級 Ver.12		TAC簿記検定講座	TAC出版	1650円	978-4-8132-8564-9
自由記載						
参考書	自由記載		授業の中で適宜紹介する。			
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有					
	<b>【担当教員の実務経験】</b> 専門学校講師、職業訓練校講師、大学生協講座講師、会計事務所・会社経理					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 会計事務所や会社経理で使用する知識や個人事業主、起業するのに必要な知識についても指導する。資格専門学校で伝える資格取得のために必要な取り組みについて紹介する。						

授業科目名	基礎簿記演習 B		サブタイトル		授業番号	SM222
担当教員名	林 靖宏					
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	1単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
<b>【授業の概要】</b> 簿記を理解することができれば、企業の経理業務に従事するのに必要なスキルだけでなく、財務諸表を読解したり、経営管理や経営分析する力も身につけることが可能である。 ビジネスにおいて理解しておきたいコスト感覚も習得できるため、常にコストを気かけながら仕事をすることが可能になる。取引する相手先の経営状況もわかるようになるので、経理業務に従事する方だけでなく、あらゆる社会人にとって有用だといえる。 本講義においては、残高試算表から始まり、一連の決算修正、損益計算書、貸借対照表を一覧表にまとめる「精算表」や決算までの1年間の自社の財政状態や経営成績をまとめた計算書の「財務諸表」の作成と分析ができるようになることを目的とする。 また、本講義及び基礎簿記Bに関し、座学と演習を分けて授業を行わず、両科目を通算して学習することとする。						
<b>【到達目標】</b> 本講義においては、企業活動における取引結果の報告書である財務諸表を理解し、一般的な経理事務に従事するための基礎的かつ基本的な知識を習得することを目標とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
<b>【授業計画 備考】</b> 本講義においては、基礎簿記Bと通算して講義を行う。従って、本座学とその実践たる演習はテキストと問題集を並行して使用し、授業を実施する。 簿記基礎演習Aと合わせ、2022年2月の日商簿記検定の受験を目指す。						
第1回：決算とは 第2回：決算整理I 第3回：決算整理II 第4回：決算整理III 第5回：決算整理IV 第6回：決算整理V 第7回：決算整理VI 第8回：決算整理後残高試算表 第9回：精算表 第10回：帳簿の締め切り 第11回：損益計算書と貸借対照表 第12回：株式の発行 第13回：剰余金の配当と処分 第14回：税金 第15回：証ひょうと伝票						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	出席率、授業への積極的な参加、意欲的な受講態度により評価する。		
	レポート					
	小テスト		20%	個別授業内容の理解度を評価する。		
	定期試験		50%	最終的な理解度を評価する。		
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b> 本講義内容は相互に関連しており、欠席すると理解が不十分となる。従って、やむを得ない事情がない限り、欠席しないように留意すること。 不明点等があれば、積極的に質問し、理解しよう心がけること。						
<b>【授業外学修】</b> 講義内容に関する項目については、予習は必要ありません。 知識の習得には復習が重要となるので、内容を理解しておくこと。 復習に要する時間として2時間以上学習すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記3級 Ver.12		TAC簿記検定講座	TAC出版	1650円	978-4-8132-8564-9
	自由記載					
参考書	自由記載		授業の中で適宜紹介する。			
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有					
	<b>【担当教員の实務経験】</b> 専門学校講師，職業訓練校講師，大学生協講座講師					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 会計事務所や会社経理で使用する知識や個人事業主、起業するのに必要な知識についても指導する。資格専門学校で伝える資格取得のために必要な取り組みについて紹介する。						



授業科目名	簿記論A		サブタイトル		授業番号	SM223
担当教員名	服部 かおり					
対象学部・学科	情報ビジネス学科		単位数	2単位		
開講年次	1年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>						
簿記は、企業組織で生じる取引を記録・整理・報告するための技術である。今日の企業の財政状況・経営成績・企業戦略を理解するためには、簿記の体系的な修得が重要である。また、簿記の対象は企業のすべての活動に及ぶので、簿記の能力を身につけることは企業経営を理解するうえでも必要であろう。この授業では、小規模な株式会社を取り上げて仕訳を中心に学び、重要な項目については決算処理や財務諸表（貸借対照表、損益計算書）の作成方法についても簡単に学習する。						
<b>【到達目標】</b>						
簿記の流れを体系的に修得し、個人企業で日々発生する取引の内容を理解することにより、日商簿記検定3級レベルの仕訳処理ができるようになることが目標である。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：簿記とは 第2回：仕訳の基礎 第3回：商品売買I 第4回：商品売買II 第5回：小口現金・手形 第6回：その他の取引I 第7回：その他の取引II 第8回：前半のまとめ 第9回：決算整理I 第10回：決算整理II 第11回：決算整理III 第12回：決算整理IV 第13回：決算整理V 第14回：株式会社 第15回：まとめ						
<b>【授業計画 備考2】</b>						
小テストを12回実施。						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		10%	意欲的な受講態度によって評価する。		
	レポート					
	小テスト		40%	各回の主要なポイントの理解を評価する。		
	定期試験		50%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
1. 本講義では電卓を使用するが、携帯電話・スマートフォン等の使用は認めない。 2. 簿記の能力を身につけるには繰り返しの演習が必要であるため、事後学習は必須である。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 予習として、教科書内容を熟読し概要を把握しておくこと。 2. 復習として、講義内容を理解し演習問題に取り組むこと。 3. 日本商工会議所主催の日商簿記検定、または全国経理教育協会主催の簿記能力検定を受験し資格取得を図ること。 4. 本講義では、予習・復習で週4時間程度の授業外学修が必要となっている。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3級		TAC株式会社(簿記検定講座)	TAC出版	2200円	
自由記載						
参考書	自由記載		授業の中で、適宜紹介する。			
	【その他】		電卓は10桁以上のものを持参すること。（関数電卓不可。）詳しくは授業初日に説明する。 スマートフォン等を電卓として使用することは認めない。			
	【担当教員の実務経験の有無】		有			
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
保健所（食品衛生協会）総務事務、専門学校講師、職業訓練校の講師						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
実務に必要な会計知識および経理に関する技術について指導する。						

授業科目名	簿記論B		サブタイトル		授業番号	SM323
担当教員名	服部 かおり					
対象学部・学科	情報ビジネス学科		単位数	2単位		
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>						
本講義では簿記論Aで学んだ基本的な日常の手続きである仕訳を基礎に、商品管理、売上原価管理、決算の手続きなどを具体的に学習する。						
<b>【到達目標】</b>						
実践的な問題演習を通して小規模な株式会社における基礎的な簿記会計知識を身につけ、日商簿記3級程度の知識を修得することが目標である。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：仕訳の復習 第2回：各種帳簿 第3回：商品有高帳の作成Ⅰ 第4回：商品有高帳の作成Ⅱ 第5回：試算表の作成Ⅰ 第6回：試算表の作成Ⅱ 第7回：決算整理仕訳 第8回：精算表の作成Ⅰ 第9回：精算表の作成Ⅱ 第10回：貸借対照表・損益計算書の作成 第11回：伝票・仕訳日計表Ⅰ 第12回：伝票・仕訳日計表Ⅱ 第13回：伝票・仕訳日計表Ⅲ 第14回：総合問題演習 第15回：まとめ						
<b>【授業計画 備考2】</b>						
小テストを12回実施する。						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		10%	意欲的な受講態度によって評価する。		
	レポート					
	小テスト		40%	各回の主要なポイントの理解を評価する。		
	定期試験		50%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載		日商簿記検定または全経簿記検定を受験した場合、評価に加点する。（2021年4月～2021年12月に受験したものに限る。）				
<b>【受講の心得】</b>						
1. 本講義では電卓を使用するが、携帯電話・スマートフォン等の使用は認めない。 2. 簿記の能力を身につけるには繰り返しの演習が必要であるため、事後学習は必須である。 3. 簿記初学者は前期開講の「簿記論A」を受講済みであること。 4. 理解を深めるためにも「簿記演習B」を同時に受講することが望ましい。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 予習として、教科書内容を熟読し概要を把握しておくこと。 2. 復習として、講義内容を理解し演習問題に取り組むこと。 3. 日本商工会議所主催の日商簿記検定、または全国経理教育協会主催の簿記能力検定を受験し資格取得を図ること。 4. 本講義では、予習・復習で週4時間程度の授業外学修が必要となっている。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3級		TAC株式会社(簿記検定講座)	TAC出版	2200円	
自由記載		前期簿記論Aと同じテキストを使用する。				
参考書	自由記載					
	【その他】		電卓は10桁以上のものを持参すること。（関数電卓不可） スマートフォン等を電卓として使用することは認めない。			
	【担当教員の実務経験の有無】		有			
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
保健所（食品衛生協会）総務事務，専門学校講師，職業訓練校の講師						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
実務に必要な会計知識および経理に関する技術について指導する。						

授業科目名	簿記演習 A		サブタイトル		授業番号	SM224
担当教員名	服部 かおり					
対象学部・学科	情報ビジネス学科		単位数	1単位		
開講年次	1年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b>						
講義形式の授業だけでは、簿記の能力を身につけることは難しい。企業で生じる各種の取引を適切に処理するためには、繰り返しの演習が必要である。簿記論Aの同時受講を前提として、日商簿記3級レベルを目標に各テーマごとの問題演習及び解説をしていく。						
<b>【到達目標】</b>						
実践的な問題演習により小規模な株式会社における簿記の知識を身につけ、日商簿記3級レベルの実力を習得することが目標である。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：日常の手続き 1 第2回：日常の手続き 2 第3回：商品売買 1 第4回：商品売買 2 第5回：商品売買 3 第6回：小テスト（1） 第7回：現金・預金 1 第8回：現金・預金 2 第9回：手形取引 第10回：その他期中取引 1 第11回：その他期中取引 2 第12回：小テスト（2） 第13回：貸倒れ 第14回：固定資産 第15回：総合問題（まとめ）						
<b>【授業計画 備考2】</b>						
小テストを2回実施する。						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢 / 態度		10%	意欲的な受講態度によって評価する。		
	レポート					
	小テスト		40%	各回の主要なポイントの理解を評価する。		
	定期試験		50%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
1. 本講義では電卓を使用するが、携帯電話・スマートフォン等の使用は認めない。 2. 簿記の能力を身につけるには繰り返しの演習が必要であるため、事後学習は必須である。 3. 「簿記論A」を同時に受講すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 予習として、教科書内容を熟読し概要を把握しておくこと。 2. 復習として、講義内容を理解し演習問題に取り組むこと。 3. 日本商工会議所主催の日商簿記検定、または全国経理教育協会主催の簿記能力検定を受験し資格取得を図ること。 4. 本講義では、予習・復習で週1時間程度の授業外学修が必要となっている。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	合格トレーニング 日商簿記3級		TAC簿記検定講座	TAC出版	1650円	
	自由記載	簿記論Aで用いるテキストも持参すること。				
参考書	自由記載					
	【その他】		電卓は10桁以上のものを持参すること。（関数電卓不可） スマートフォン等を電卓として使用することは認めない。			
	【担当教員の実務経験の有無】		有			
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
保健所（食品衛生協会）総務事務，専門学校講師，職業訓練校の講師						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
実務に必要な会計知識および経理に関する技術について指導する。						

授業科目名	簿記演習 B		サブタイトル		授業番号	SM324
担当教員名	服部 かおり					
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	1単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
<b>【授業の概要】</b>						
簿記演習 B では日商簿記検定3級レベルの問題演習を中心に授業を進める。 同時に開講する簿記論 B の講義で学んだ内容を確実なものにしていく。						
<b>【到達目標】</b>						
実践的な問題演習により小規模な株式会社における簿記処理能力を身につけ、日商簿記3級レベルの実力を修得する。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、< 知識・理解 > < 技能 > の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：仕訳の復習 第2回：仕訳帳・総勘定元帳 第3回：商品有高帳 1 第4回：商品有高帳 2 第5回：小テスト（ 1 ） 第6回：試算表 1 第7回：試算表 2 第8回：試算表 3 第9回：精算表 1 第10回：精算表 2 第11回：精算表 3 第12回：小テスト（ 2 ） 第13回：貸借対照表・損益計算書 第14回：伝票・仕訳日計表 第15回：総合問題演習						
<b>【授業計画 備考2】</b>						
小テストを 2 回実施する。						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢 / 態度		10%	意欲的な受講態度によって評価する。		
	レポート					
	小テスト		40%	各回の主要なポイントの理解を評価する。		
	定期試験		50%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載		日商簿記検定または全経簿記検定を受験した場合、評価に加点する。（2021年4月～2021年12月に受験したものに限り。）				
<b>【受講の心得】</b>						
1. 本講義では電卓を使用するが、携帯電話・スマートフォン等の使用は認めない。 2. 簿記の能力を身につけるには繰り返しの演習が必要であるため、事後学習は必須である。 3. 簿記初学者は前期開講の「簿記論 A」を受講済みであること。 4. 「簿記論 B」を同時に受講すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 予習として、教科書内容を熟読し概要を把握しておくこと。 2. 復習として、講義内容を理解し演習問題に取り組むこと。 3. 日本商工会議所主催の日商簿記検定、または全国経理教育協会主催の簿記能力検定を受験し資格取得を図ること。 4. 本講義では、予習・復習で週1時間程度の授業外学修が必要となっている。						
使用テキスト	自由記載	前期の簿記演習 A で使用した問題集を使用する。				
参考書	自由記載	前期の簿記論 A で使用したテキストを参考書とする。				
<b>【その他】</b>						
電卓は10桁以上のものを持参すること。（関数電卓不可） スマートフォン等を電卓として使用することは認めない。						
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
保健所（食品衛生協会）総務事務，専門学校講師，職業訓練校の講師						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
実務で必要な会計知識および経理に関する技術について指導する。						

授業科目名	簿記演習 C		サブタイトル		授業番号	SM325
担当教員名	服部 かおり					
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	1単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
<b>【授業の概要】</b>						
<b>【到達目標】</b> 実践的な問題演習により小規模な株式会社における簿記処理能力を身につけ、日商簿記3級に合格できる実力を修得する。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：仕訳問題対策 第2回：帳簿・勘定記入問題対策 第3回：試算表対策 1 第4回：試算表対策 2 第5回：小テスト(1) 第6回：伝票会計対策 1 第7回：伝票会計対策 2 第8回：精算表対策 1 第9回：精算表対策 2 第10回：総合問題演習 1 第11回：総合問題演習 2 第12回：総合問題演習 3 第13回：総合問題演習 4 第14回：小テスト(2) 第15回：まとめ						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢 / 態度	10%	意欲的な受講態度によって評価する。			
	レポート					
	小テスト	40%	各回の主要なポイントの理解を評価する。			
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
	自由記載	日商簿記検定または全経簿記検定を受験した場合、評価に加点する。(2021年4月～2022年1月に受験したものに限る。)				
<b>【受講の心得】</b> 1. 本講義では電卓を使用するが、携帯電話・スマートフォン等の使用は認めない。 2. 簿記の能力を身につけるには繰り返し演習が必要であるため、事後学習は必須である。 3. 簿記初学者は「簿記論A」及び「簿記論B」を受講済みであること。						
<b>【授業外学修】</b> 1. 予習として、教科書内容を熟読し概要を把握しておくこと。 2. 復習として、講義内容を理解し演習問題に取り組むこと。 3. 日本商工会議所主催の日商簿記検定、または全国経理教育協会主催の簿記能力検定を受験し資格取得を図ること。 4. 本講義では、予習・復習で週1時間程度の授業外学修が必要となっている。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	2021年度版 日商簿記3級 網羅型完全予想問題集	TAC簿記検定講座	TAC出版	1320円		
	自由記載					
参考書	自由記載	簿記論Aで使用したテキストを参考書とする。				
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有					
	<b>【担当教員の实務経験】</b> 保健所(食品衛生協会)総務事務, 専門学校の講師, 職業訓練校の講師					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 実務に必要な会計知識および経理に関する技術について指導する。						

授業科目名	パソコン会計		サブタイトル	授業番号	SM326	
担当教員名	板野 敬吾					
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	1単位			
開講年次	2年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
<b>【授業の概要】</b> 通常、簿記の学習においては仕訳帳や総勘定元帳、財務諸表の作成とその記帳方法について学ぶが、実態としては多くの企業は、仕訳など日常の処理をコンピュータにより行うことが多い。 本講義では、簿記の初学者を対象として、初めのステップとして簿記と経理の基礎を学ぶ。その基本的知識をもとに、パソコンの会計ソフトを用いて、会計処理（主に仕訳、入力（実行）を行う方法や手続処理）を学修する。 講義に際しては「弥生会計」ソフトを利用するが、機器操作としての演習だけでなく、会計の流れを企業全体の業務の中で捉える観点から、また、簿記の初心者を対象としている構成であることから、まず簿記の基礎を学ぶものとする。本講義は演習科目であるが、適宜会計処理に必要な知識の修得を講義形式で行う。						
<b>【到達目標】</b> 初学者においては基本的な簿記及び経理的処理を学ぶことで、実務における最低限度の会計処理能力を修得することとする。また、企業で実際に利用されている代表的な会計ソフトの一つである「弥生会計」を用いて演習を進めることにより、実務に即した会計ソフトの操作を習得する。最終的に独力でパソコンによる入力作業・帳票の出力ができるようになることが目標である。  本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、「知識・理解」「技能」項目を含む。 知識・理解の領域 勘定項目と、記載する際に従うべき簿記処理ルールを学ぶ。簿記の基本的知識を基礎として、会計ソフトにデータ入力する際の規則が理解できる。 技能の領域 財務諸表及び各種補助帳に記載される金額と、伝票に入力した数値との関連を理解する。その上で財務諸表の読み方を理解できるようにする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力><技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b> 第1回：講義概要、弥生会計操作ガイド（スタートアップガイド） 第2回：企業活動と会計処理（1） 第3回：企業活動と会計処理（2） 第4回：会計ソフトの操作（1） 第5回：会計ソフトの操作（2） 第6回：企業の業務と会計処理（現金預金） 第7回：企業の業務と会計処理（仕入） 第8回：企業の業務と会計処理（売上） 第9回：企業の業務と会計処理（経費） 第10回：企業の業務と会計処理（その他債権・債務） 第11回：企業の業務と会計処理（給与） 第12回：企業の業務と会計処理（税金） 第13回：会計データ入力処理と集計 第14回：会計情報の活用 第15回：決算の見方						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		40%	授業の取り組みとして、意欲的な授業態度、発表・討議への参加、予復習の状況等により評価する。		
	レポート		50%	授業の中における課題の消化と提出により理解度を評価する。		
	小テスト					
	定期試験		10%	定期試験により総合的理解度を評価する。		
	自由記載	但し、授業に3分の2以上出席しなければ定期試験は受験できない。 なお、弥生検定を中心とし、(1)弥生会計・弥生検定、(2)日本商工会議所主催 電子会計実務検定試験、(3)全国経理教育協会主催 コンピュータ会計能力検定試験の受験を推奨（9月・3月）し、合格者には加算点を与える。				
<b>【授業外学修】</b> 本講義では、時間外学習時間として、予習・復習で15時間とする。週1時間程度の授業外学習を行うこと。 授業外学修としては、簿記・経理業務等の演習以外の内容を中心に予習・復習を行うこと。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	令和3年度版コンピュータ会計 初級 テキスト・問題集		弥生(株)	実教出版	2000	9784407349368
	自由記載					
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有  <b>【担当教員の実務経験】</b> 情報通信業					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 経理実務を取り込んだ内容とし、実践的知識を学修する。						

授業科目名	ファイナンシャルプランA		サブタイトル		授業番号	SM231
担当教員名	林 靖宏					
対象学部・学科	情報ビジネス学科		単位数	2単位		
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>						
<p>人生の夢や目標をかなえるために総合的な資金計画を立て、経済的な側面から実現に導く方法を「ファイナンシャル・プランニング」という。ファイナンシャル・プランニングには、家計にかかわる金融、税制、不動産、住宅ローン、保険、教育資金、年金制度など幅広い知識が必要になり、これらの知識を備え、相談者の夢や目標がかなうように一緒に考え、サポートする専門家が、FP（ファイナンシャル・プランナー）である。</p> <p>本講義においては、お金にまつわる幅広い知識の習得を目的とする。主な項目として、ライフプランニング・リスクと保険・タックスプランニング・金融資産運用・不動産・相続事業承継の分野である。</p> <p>また、本講義及びファイナンシャルプラン演習Aに関し、座学と演習を分けて授業を行わず、両科目を通算して学習することとする。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>本講義においては、家計にかかわる幅広い知識を理解し、一般的な総務・人事事務に従事するための基礎的かつ基本的な知識を習得することを目標とする。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt; &lt;技能&gt;の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<b>【授業計画 備考】</b>						
本講義においては、ファイナンシャルプラン演習Aと通算して講義を行う。従って、本座学とその実践たる演習はテキストと問題集を並行して使用し、授業を実施する。						
<p>第1回：ライフプランニングと資金計画 FPと倫理</p> <p>第2回：ライフプランニングと資金計画 社会保険</p> <p>第3回：ライフプランニングと資金計画 公的年金</p> <p>第4回：リスクマネージメント 生命保険</p> <p>第5回：リスクマネージメント 損害保険</p> <p>第6回：金融資産運用 金融・経済の基本</p> <p>第7回：金融資産運用 債券</p> <p>第8回：金融資産運用 株式</p> <p>第9回：金融資産運用 外貨建て商品</p> <p>第10回：タックスプランニング 所得税の基本</p> <p>第11回：タックスプランニング 税額の計算</p> <p>第12回：不動産 不動産の基本</p> <p>第13回：不動産 不動産に関する法令</p> <p>第14回：相続・事業承継 相続の基本</p> <p>第15回：相続・事業承継 贈与税</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	出席率、授業への積極的な参加、意欲的な受講態度により評価する。		
	レポート		20%	課題について、自身の意見を自身の言葉で具体的に述べていること。		
	小テスト		20%	個別授業内容の理解度を評価する。		
	定期試験		40%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
<p>本講義内容は相互に関連しており、欠席すると理解が不十分となる。従って、やむを得ない事情がない限り、欠席しないように留意すること。</p> <p>不明点等があれば、積極的に質問し、理解するよう心がけること。</p>						
<b>【授業外学修】</b>						
<p>講義内容に関する項目については、予習は必要ありません。</p> <p>知識の習得には復習が重要となるので、内容を理解しておくこと。</p> <p>復習に要する時間として週当たり4時間以上学習すること。</p> <p>新聞に目を通し、日々のニュースに関心を持つこと</p>						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	FPの教科書		滝澤ななみ	TAC出版	1760円	978-4-8132-8322-5
	自由記載					
参考書	自由記載		授業の中で適宜紹介する。			
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
<b>【担当教員の実務経験】</b>						
専門学校講師，職業訓練校講師，大学生協講座講師，独立系ファイナンシャルプランナー，損害保険募集人，会計事務所・会社経理						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
<p>会計事務所や会社経理で使用する所得税計算の実務（一般的な所得税計算・給料計算）</p> <p>損害保険募集人や独立系ファイナンシャルプランナーとして取り組む実例をもとにした知識や事例について紹介・指導する</p>						

授業科目名	ファイナンシャルプランB		サブタイトル		授業番号	SM331
担当教員名	林 靖宏					
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b> 人生の夢や目標をかなえるために総合的な資金計画を立て、経済的な側面から実現に導く方法を「ファイナンシャル・プランニング」という。ファイナンシャル・プランニングには、家計にかかわる金融、税制、不動産、住宅ローン、保険、教育資金、年金制度など幅広い知識が必要になり、これらの知識を備え、相談者の夢や目標がかなうように一緒に考え、サポートする専門家が、FP（ファイナンシャル・プランナー）である。 本講義においては、ファイナンシャルプランAにて学習した、お金にまつわる幅広い知識を生かし、お客様へのファイナンシャルプランの提案を目的とする。また、本講義及びファイナンシャルプラン演習Bに関し、座学と演習を分けて授業を行わず、両科目を通算して学習することとする。						
<b>【到達目標】</b> 本講義においては、学習した知識を使い、お客様へのファイナンシャルプランの提案を行う。お客様に実施していただける提案資料の作成を目標とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
<b>【授業計画 備考】</b> 本講義においては、ファイナンシャルプラン演習Bと通算して講義を行う。従って、本座学とその実践たる演習はテキストと問題集を並行して使用し、授業を実施する。ファイナンシャルプランA、ファイナンシャルプラン演習A、ファイナンシャルプランBと合わせ、2022年9月のFP技能士検定の受験を目指す。						
第1回：ライフプランニングと資金計画I 第2回：ライフプランニングと資金計画II 第3回：リスクマネージメントI 第4回：リスクマネージメントII 第5回：金融資産運用I 第6回：金融資産運用II 第7回：タックスプランニングI 第8回：タックスプランニングII 第9回：不動産I 第10回：不動産II 第11回：相続・事業承継I 第12回：相続・事業承継II 第13回：提案書作成I 第14回：提案書作成II 第15回：提案書作成III						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	出席率、授業への積極的な参加、意欲的な受講態度により評価する。			
	レポート					
	小テスト	20%	個別授業内容の理解度を評価する。			
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b> 本講義内容は相互に関連しており、欠席すると理解が不十分となる。従って、やむを得ない事情がない限り、欠席しないように留意すること。不明点等があれば、積極的に質問し、理解するよう心がけること。						
<b>【授業外学修】</b> 講義内容に関する項目については、予習は必要ありません。知識の習得には復習が重要となるので、内容を理解しておくこと。復習に要する時間として週当たり4時間以上学習すること。新聞に目を通し、日々のニュースに関心を持つこと。日本FP協会主催又は金融財政事情研究会主催のFP技能士3級の検定試験を受験し資格取得を図ること。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	FPの教科書	滝澤ななみ	TAC出版	1760円	978-4-8132-8322-5	
	自由記載					
参考書	自由記載	授業の中で適宜紹介する。				
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有					
	<b>【担当教員の実務経験】</b> 専門学校講師、職業訓練校講師、大学生協講座講師、独立系ファイナンシャルプランナー、損害保険募集人					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 会計事務所や会社経理で使用する所得税計算の実務（一般的な所得税計算・給料計算） 損害保険募集人や独立系ファイナンシャルプランナーとして取り組む事例をもとにした知識や事例について紹介・指導する						



授業科目名	ファイナンシャルプラン演習 A		サブタイトル		授業番号	SM232
担当教員名	林 靖宏					
対象学部・学科	情報ビジネス学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
<p>人生の夢や目標をかなえるために総合的な資金計画を立て、経済的な側面から実現に導く方法を「ファイナンシャル・プランニング」という。ファイナンシャル・プランニングには、家計にかかわる金融、税制、不動産、住宅ローン、保険、教育資金、年金制度など幅広い知識が必要になり、これらの知識を備え、相談者の夢や目標がかなうように一緒に考え、サポートする専門家が、FP（ファイナンシャル・プランナー）である。</p> <p>本講義においては、お金にまつわる幅広い知識の習得を目的とする。主な項目として、ライフプランニング・リスクと保険・タックスプランニング・金融資産運用・不動産・相続事業承継の分野である。</p> <p>また、本講義及びファイナンシャルプランAに関し、座学と演習を分けて授業を行わず、両科目を通算して学習することとする。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>本講義においては、家計にかかわる幅広い知識を理解し、一般的な総務・人事事務に従事するための基礎的かつ基本的な知識を習得することを目標とする。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt; &lt;技能&gt;の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<b>【授業計画 備考】</b>						
<p>本講義においては、ファイナンシャルプランAと通算して講義を行う。従って、本座学とその実践たる演習はテキストと問題集を並行して使用し、授業を実施する。</p>						
<p>第1回：ライフプランニングと資金計画 FPと倫理  第2回：ライフプランニングと資金計画 社会保険  第3回：ライフプランニングと資金計画 公的年金  第4回：リスクマネージメント 生命保険  第5回：リスクマネージメント 損害保険  第6回：金融資産運用 金融・経済の基本  第7回：金融資産運用 債券  第8回：金融資産運用 株式  第9回：金融資産運用 外貨建て商品  第10回：タックスプランニング 所得税の基本  第11回：タックスプランニング 税額の計算  第12回：不動産 不動産の基本  第13回：不動産 不動産に関する法令  第14回：相続・事業承継 相続の基本  第15回：相続・事業承継 贈与税</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	出席率、授業への積極的な参加、意欲的な受講態度により評価する。		
	レポート					
	小テスト		20%	個別授業内容の理解度を評価する。		
	定期試験		50%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
<p>本講義内容は相互に関連しており、欠席すると理解が不十分となる。従って、やむを得ない事情がない限り、欠席しないように留意すること。</p> <p>不明点等があれば、積極的に質問し、理解するよう心がけること。</p>						
<b>【授業外学修】</b>						
<p>講義内容に関する項目については、予習は必要ありません。</p> <p>知識の習得には復習が重要となるので、内容を理解しておくこと。</p> <p>復習に要する時間として1時間以上学習すること。</p> <p>新聞に目を通し、日々のニュースに関心を持つこと</p>						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	FPの問題集		滝澤ななみ	TAC出版	1650円	978-4-8132-8325-6
	自由記載					
参考書	自由記載		授業の中で適宜紹介する。			
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
<b>【担当教員の実務経験】</b>						
専門学校講師，職業訓練校講師，大学生協講座講師，独立系ファイナンシャルプランナー，損害保険募集人						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
<p>会計事務所や会社経理で使用する所得税計算の実務（一般的な所得税計算・給料計算）</p> <p>損害保険募集人や独立系ファイナンシャルプランナーとして取り組む実例をもとにした知識や事例について紹介・指導する</p>						

授業科目名	ファイナンシャルプラン演習 B		サブタイトル		授業番号	SM332
担当教員名	林 靖宏					
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	1単位			
開講年次	2年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
<b>【授業の概要】</b> 人生の夢や目標をかなえるために総合的な資金計画を立て、経済的な側面から実現に導く方法を「ファイナンシャル・プランニング」という。ファイナンシャル・プランニングには、家計にかかわる金融、税制、不動産、住宅ローン、保険、教育資金、年金制度など幅広い知識が必要になり、これらの知識を備え、相談者の夢や目標がかなうように一緒に考え、サポートする専門家が、FP（ファイナンシャル・プランナー）である。 本講義においては、ファイナンシャルプランAにて学習した、お金にまつわる幅広い知識を生かし、お客様へのファイナンシャルプランの提案を目的とする。また、本講義及びファイナンシャルプランBに関し、座学と演習を分けて授業を行わず、両科目を通算して学習することとする。						
<b>【到達目標】</b> 本講義においては、学習した知識を使い、お客様へのファイナンシャルプランの提案を行う。お客様に実施していただける提案資料の作成を目標とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
<b>【授業計画 備考】</b> 本講義においては、ファイナンシャルプランBと通算して講義を行う。従って、本座学とその実践する演習はテキストと問題集を並行して使用し、授業を実施する。ファイナンシャルプランA、ファイナンシャルプラン演習A、ファイナンシャルプランBと合わせ、2022年9月のFP技能士検定の受験を目指す。						
第1回：ライフプランニングと資金計画I 第2回：ライフプランニングと資金計画II 第3回：リスクマネージメントI 第4回：リスクマネージメントII 第5回：金融資産運用I 第6回：金融資産運用II 第7回：タックスプランニングI 第8回：タックスプランニングII 第9回：不動産I 第10回：不動産II 第11回：相続・事業承継I 第12回：相続・事業承継II 第13回：提案書作成I 第14回：提案書作成II 第15回：提案書作成III						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	出席率、授業への積極的な参加、意欲的な受講態度により評価する。			
	レポート	40%	ファイナンシャルプラン提案書の作成する。			
	小テスト					
	定期試験	40%	最終的な理解度を評価する。			
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b> 本講義内容は相互に関連しており、欠席すると理解が不十分となる。従って、やむを得ない事情がない限り、欠席しないように留意すること。不明点等があれば、積極的に質問し、理解するよう心がけること。						
<b>【授業外学修】</b> 講義内容に関する項目については、予習は必要ありません。知識の習得には復習が重要となるので、内容を理解しておくこと。復習に要する時間として1時間以上学習すること。新聞に目を通し、日々のニュースに関心を持つこと。日本FP協会主催又は金融財政事情研究会主催のFP技能士3級の検定試験を受験し資格取得を図ること。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	FPの問題集	滝澤ななみ	TAC出版	1650円	978-4-8132-8325-6	
	自由記載					
参考書	自由記載	授業の中で適宜紹介する。				
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有					
	<b>【担当教員の実務経験】</b> 専門学校講師、職業訓練校講師、大学生協講座講師、独立系ファイナンシャルプランナー、損害保険募集人、会計事務所・会社経理					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 会計事務所や会社経理で使用する所得税計算の実務（一般的な所得税計算・給料計算） 損害保険募集人や独立系ファイナンシャルプランナーとして取り組む事例をもとにした知識や事例について紹介・指導する						

授業科目名	ビジネス実務総論		サブタイトル	授業番号	SB211
担当教員名	佐藤 由美子				
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	必修	授業形態	講義		
【授業の概要】 「ビジネス概念」「ビジネスの推進力・能力開発」「ビジネス実務の基本的技術等」を身に付け、グループプレゼンテーション等を通じてビジネスの総合的な知識を高め、論理的思考にて判断できる力を養う。					
【到達目標】 「ビジネス実務士」資格取得のための必修科目である本講義では、組織におけるビジネス実務の概念について基本的な知識、およびビジネス活動の進め方について学んでいく。また、実社会において必要とされる「社会人基礎力」の習得を図り、その力を発揮し応用するレベルまでスキルアップを目指す。ビジネスの基本知識を習得しながらキャリア形成を考えていく。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：ビジネス実務の捉え方・定義、学習とは 第2回：個人業務とマネジメント 第3回：協働業務とマネジメント 第4回：ビジネス実務を支える業務の基本 第5回：会計学の基礎とケーススタディ 第6回：業務マネジメントを推進する実務知識 第7回：サービス実務の4つの基本 第8回：ビジネスワーカーのキャリアチェック 第9回：マーケティングとビジネス実務Ⅰ 第10回：マーケティングとビジネス実務Ⅱ 第11回：プロジェクトマネジメントⅠ 第12回：プロジェクトマネジメントⅡ 第13回：プロジェクトマネジメントⅢ 第14回：発表準備 第15回：発表					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	知識修得に積極的であるかチェック		
	レポート	30%	要点の把握と応用力をチェック		
	小テスト	30%	理解度の確認チェック		
	定期試験				
	その他	20%	グループプレゼンテーションの内容と貢献度		
	自由記載				
【受講の心得】 受講前に教科書を読み、理解して授業に臨むこと。 発言による授業の進行に対する貢献度を評価する。（発言の内容レベルは問わない） ただし私語厳禁。					
【授業外学修】 1) 予習として、次回に学ぶ予定の内容について、あらかじめ整理を行う。 2) 復習として、学んだ内容の整理を行う。 3) 随時確認小テストをするため、特にテキストをしっかりと理解すること。 以上の内容に対して、週4時間以上の学修を行うこと。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	ビジネス実務総論改訂版	森脇道子編著	実教出版	2268	978-4-407-32262-0
	自由記載				
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	PMプロジェクトマネジメント改訂4版	中嶋秀隆	日本能率協会マネジメントセンター	2376	978-4-8207-4583-9
	自由記載				
【担当教員の実務経験の有無】 有					
【担当教員の实務経験】 専門学校でのビジネス実務教育					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					
【実務経験をいかした教育内容】 25年以上の専門学校での指導を通して、変化していく社会の中で適応できる会社人として必要な知識を指導します。					

授業科目名	ビジネス実務演習 A		サブタイトル		授業番号	SB212
担当教員名	佐藤 由美子					
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	1単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
<b>【授業の概要】</b>						
<p>社会人として必要なビジネスの知識やスキル（企画・計画の立案，コミュニケーション，情報処理，プレゼンテーション等）を，講義と演習を通して学ぶ。演習は，ロールプレイなどの体験型学習やグループに分かれてディスカッションや発表を行う。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>(1)ビジネスを遂行するのに必要な知識やスキルとはどのようなものか理解できるようになること。  (2)演習時に，企画の立案やコミュニケーションの実践，プレゼンテーションの実施等，指定された手順に沿って，行えるようになること。  なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞，＜技能＞および＜態度＞の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：キャリアと仕事へのアプローチ  第2回：会社活動の基本  第3回：話し方と聞き方のポイント  第4回：接客と営業の進め方  第5回：不満を信頼に変えるクレーム対応  第6回：会議とプレゼンテーション  第7回：チームワークとネットワーク  第8回：ワークショップ  第9回：仕事の進め方  第10回：ビジネス文書の基本・応用  第11回：統計・データの読み方・まとめ方  第12回：情報収集とメディア  第13回：会社の数字の読み方（売上・コスト・利益）  第14回：ビジネスと法律・税金知識  第15回：産業と経済の基礎知識</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	発言による授業の進行に対する貢献度を評価する（発言内容のレベルは問わない）		
	レポート					
	小テスト		40%	講義内容の正しい把握ができているかを評価する（自分の言葉による論理的な説明を求める）		
	定期試験		40%	授業内容の基礎・応用力を評価する		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
<p>発言による授業の進行に対する貢献度を評価する。（発言の内容レベルは問わない）。  ただし私語は厳禁。</p>						
<b>【授業外学修】</b>						
<p>1) 予習として，次回に学ぶ予定の内容の整理を行う。  2) 復習として，学んだ内容の整理を行う。  3) 発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。  以上の内容に，週1時間以上の授業外学修を行うこと。</p>						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	2020年版ビジネス能力検定ジョブパス2級公式テキスト		一般財団法人職業教育「キャリア教育財団	日本能率協会マネジメントセンター	2160	
自由記載						
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
専門学校でのビジネス実務教育						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
変化していく社会の中で適応できる会社人として必要な基礎知識を演習を通して指導します。						

授業科目名	ビジネス実務演習 B		サブタイトル		授業番号	SB312
担当教員名	佐藤 由美子					
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	1単位			
開講年次	2年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
<b>【授業の概要】</b>						
<p>社会人として必要なビジネスの知識やスキル（コミュニケーション、情報処理、プレゼンテーション等）を、講義と演習を通して学ぶ。演習は、グループに分かれてワークショップ、ディベート、ディスカッションや発表を行う。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>(1)ビジネスを遂行するのに必要な知識やスキルとはどのようなものか理解できるようになること。  (2)演習時に、コミュニケーションの実践、プレゼンテーションの実施等、指定された手順に沿って行えるようになること。  なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞、＜技能＞および＜態度＞の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：ビジネスと社会の動向～演習～  第2回：ビジネス関連事項～演習～  第3回：ビジネス活動～演習～  第4回：会社の財務諸表基本～演習～  第5回：新聞記事から会社を理解～演習～  第6回：ケースから会社を理解～演習～  第7回：資料（表・グラフ）から会社を理解～演習～  第8回：発表準備・発表  第9回：ビジネスモデル1.地域ドミナント  第10回：ビジネスモデル2.グローバル化  第11回：ビジネスモデル3.顧客ライフサイクルマネジメント  第12回：ビジネスモデル4.プラットフォーム  第13回：ビジネスモデル5.ソリューション  第14回：準備  第15回：成果発表</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	発言による授業の進行に対する貢献度を評価する（発言内容のレベルは問わない）		
	レポート					
	小テスト		30%	講義内容の理解度を判断する。		
	定期試験		30%	講義内容の基礎・応用力を評価する。		
	その他		20%	発表・ワークショップへの貢献度を評価する。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
<p>発言による授業の進行に対する貢献度を評価する。（発言の内容レベルは問わない）  私語は厳禁。</p>						
<b>【授業外学修】</b>						
<p>1) 予習として、次回に学ぶ内容の整理を行う。  2) 復習として、学んだ内容の整理を行う。  3) 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。  以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。</p>						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	2021版ビジネス能力検定ジョブパス 2級公式問題集		一般財団法人職業教育キャリア教育財団	日本能率協会マネジメントセンター	2160	
自由記載						
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	2020年度ビジネス能力検定ジョブパス 2級公式テキスト		日本能率協会マネジメントセンター	JMAM	1620	
	自由記載		「ビジネスモデルの教科書」			
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
専門学校でのビジネス実務教育						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
変化していく社会の中で適応できる会社人として必要な応用知識を演習を通して指導します。						

授業科目名	地域創生学		サブタイトル		授業番号	SB313	
担当教員名	佐藤 由美子						
対象学部・学科	情報ビジネス学科			単位数	2単位		
開講年次	2年			開講期	後期		
必修・選択	選択			授業形態	講義		
【授業の概要】							
日本は世界においても類を見ない速さで高齢化社会となった。その結果起こる東京一極集中を是正し、地方の人口減少に歯止めをかけ、日本全体の活力を上げることを目的とした様々な地域創生への取り組みについて、またその前提となる地域の現状の把握方法や人口減少社会に特徴的な現象、地域の活性化策などについて事例を交えて学習する授業である。							
【到達目標】							
本科目は、身近なところで起こっている人口減少を含めた社会の種々の縮小現象について、その具体的な姿と対応策について事例を通して認識を深める。また、地域の現状を把握するためのデータ分析の基礎知識、および国の地域政策の枠組みを理解する。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>及び<思考・問題解決能力>の修得に貢献する。							
【授業計画】							
第1回：授業の概要および地域創生の社会的背景 第2回：少子高齢化の現状と予測 第3回：R E S A S の操作編 第4回：R E S A S の活用編 第5回：地方創生事業の事例（1） 第6回：地方創生事業の事例（2） 第7回：地方創生事業の事例（3） 第8回：地方創生事業の事例（4） 第9回：戦略から学ぶ 第10回：自治体政策から学ぶ 第11回：フィールドワークの準備（1） 第12回：フィールドワーク（2） 第13回：フィールドワークのまとめ（3） 第14回：発表 第15回：ディベート							
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢／態度	20%	出席回数および、授業中の質問に対する回答。				
	レポート	50%	授業内容に関係したテーマに関するレポートの構成力、説明・表現力、データ収集力。				
	小テスト						
	定期試験						
	その他	30%	フィールドワーク取り組み・発表での積極性で計る。				
	自由記載						
【受講の心得】							
授業では適宜資料を配布するが、それは自前で資料から意味を理解・解釈し、説明する態度を養うためである。							
【授業外学修】							
授業中に紹介する用語、概念についてインターネットから利用できる関連情報および参考文献などを参照して、理解を深める。授業中に紹介する次回の授業で取り上げる主なトピックスについて、事前に調べておく。以上の内容を、週あたり4時間以上学修すること。							
使用テキスト	自由記載						
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN		
	「地域データ分析」の教科書	大正大学地域構想研究所	地域人別冊	1500+消費税	雑誌05801-03		
	自由記載	授業のなかで適宜紹介する。					
【担当教員の実務経験の有無】							
有							
【担当教員の实務経験】							
2017年から「子ども食堂」のボランティア活動を通して、地域における活性化の一環を担ってきた							
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】							
無							
【実務経験をいかした教育内容】							
授業を受ける受動的な態度から、自ら能動的になる行動力を、フィールドワークを通して学んでいくを目指します。							

授業科目名	秘書学		サブタイトル		授業番号	SB214
担当教員名	仁宮 崇					
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b>						
秘書という職種に限らず、上司を補佐することは社会人の重要な仕事の一つである。秘書業務を通して社会人として必要な業務知識、ビジネスマナー、接遇、技能について学ぶ。テキストやDVD教材を用いて接遇の視覚的な学修にも重点を置く。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人として必要な業務知識、ビジネスマナー、接遇、技能を学び、秘書検定2級程度の知識を身に付ける。</li> <li>・医療機関を事例にした接遇を学ぶことで、来客対応、電話対応の基礎を学ぶ。</li> </ul> なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：秘書に必要とされる資質(1) ビジネスマナー 第2回：秘書に必要とされる資質(2) 第3回：秘書の職務知識(1) 第4回：秘書の職務知識(2) 第5回：秘書のマナー・接遇(1) 第6回：秘書のマナー・接遇(2) 第7回：秘書のマナー・接遇(3) 第8回：秘書の技能(1) 第9回：秘書の技能(2) 第10回：秘書の技能(3) 第11回：秘書のマナー・接遇(4) 第12回：秘書のマナー・接遇(5) 第13回：医療機関を事例にした接遇(1) 第14回：医療機関を事例にした接遇(2) 第15回：授業の振り返り						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	受講態度、毎回提出する感想の量と質で評価する。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		70%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
	自由記載	試験は持込不可である。				
<b>【受講の心得】</b>						
仕事をする上でのビジネスマナー、接遇の基本を身に付ける気持ちで取り組む。日常生活においても気持ちの良い挨拶、行動を心がけること。一般事務、営業・販売、サービス、医療事務等で就職を考えている学生は、参考になる事例が多い。秘書検定に関心のある学生は、6月、11月、2月に行われる秘書検定3級、2級の試験対策でもあることを意識する。すでに秘書検定2級に合格している学生は、知識や理解をさらに深めて上位級に挑戦することを推奨する。資格試験のみならず、就職試験にも出題されることがあるため、就職試験対策にもつながることを意識して受講すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. テキスト、講義資料を読み、問題を復習する。 2. 会話の中で、尊敬語、謙譲語、丁寧語を意識して正しく使用する。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	改訂2版 出る順問題集 秘書検定2級に面白いほど受かる本		佐藤 一明	KADOKAWA/中経出版	1,400 + 税	978-4046041029
	自由記載	講義資料				
参考書	自由記載	秘書検定2級実問題集(実務技能検定協会) 秘書検定準1級実問題集(実務技能検定協会) マンガでわかる秘書検定2級直前対策(トレンドプロ) 秘書業務入門(DVD:日本経済新聞出版社) 秘書検定準1級面接合格マニュアル(DVD:実務技能検定協会) 秘書検定1級面接合格マニュアル(DVD:実務技能検定協会) 病医院職員のための接遇マナー講座(DVD:日経ヘルスケア21) 医療スタッフの接遇マニュアル(DVD:日本経済新聞出版社) ホスピタルコンシェルジュの事例紹介(DVD:金田病院提供)				
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
病院事務						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
医療事務の受付・会計における患者接遇経験をもとに指導する。						

(担当)

授業科目名	キャリアプランニング		サブタイトル	授業番号	SB215
担当教員名	古谷 俊爾 板野 敬吾 佐藤 由美子				
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	必修	授業形態	講義		
【授業の概要】 就職活動のスタート時期に合わせ、情報提供と共に具体的な準備と行動について学ぶ。また本講座では、社会人として必要な常識やマナー、また人生設計を行う上で必要とされる基礎知識や能力の習得も目標とし、自分にあったキャリアプランニングができるように支援する。					
【到達目標】 「なりたい自分」に向け、目標を設定し、トライ＆エラーの実践から「力」をつける。 就活スイッチを入れ、「自立」と「挑戦」の気持ちを持って、行動に移す。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞および＜態度＞の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：キャリアプランニングの考え方 (担当古谷 俊爾, 板野 敬吾) 就活スタートに向けて、就活サイトの活用とセミナー利用法					
第2回：一般常識力のアップ (担当古谷 俊爾, 板野 敬吾)					
第3回：就職活動サイト (担当古谷 俊爾, 板野 敬吾) 主な就職活動サイト、エントリーシート記入のポイント					
第4回：ハローワークの活用 (担当古谷 俊爾, 板野 敬吾, 外部講師)					
第5回：履歴書・自己紹介書 (担当古谷 俊爾, 板野 敬吾)					
第6回：キャリア形成とは (担当佐藤 由美子) (1) キャリアの理論 (2) 自分の適性・志向を考えることの意味 (3) 自分の過去を振り返る					
第7回：大学生活とキャリア (担当佐藤 由美子) (1) キャリアデザインの意味 (2) キャリア形成の事例					
第8回：社会性とは (担当佐藤 由美子) (1) なぜ社会性が必要か (2) 自分に社会性はあるか (3) 事例から学ぶ					
第9回：コミュニケーション (担当佐藤 由美子) (1) 社会から求められる能力 (2) コミュニケーションの重要性 (3) 事例から学ぶ					
第10回：企業が求める能力 (担当佐藤 由美子) (1) 社会人基礎力 (2) 仕事のやりがいの意味 (3) 企業でのキャリア形成					
第11回：人生とキャリア (担当佐藤 由美子) (1) 自分の強みと志向 (2) 自分にとってのキャリアプラン (3) 学生時代の過ごし方					
第12回：企業分析データの見方 (担当古谷 俊爾, 板野 敬吾)					
第13回：働き方について考える (担当古谷 俊爾, 板野 敬吾, 外部講師)					
第14回：面接パワーアップ(1) (個人面接) (担当古谷 俊爾, 板野 敬吾)					
第15回：面接パワーアップ(2) (グループ面接, グループディスカッション) (担当古谷 俊爾, 板野 敬吾)					
【授業計画 備考2】 外部講師の都合により順不同です。					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	40%	意欲的な受講態度、授業外学修の状況によって評価する。		
	レポート	60%	授業で学んだ内容が理解できているか。自己のキャリアプランを真剣に考えているか。		
	小テスト				
	定期試験				
	その他				
	自由記載				
【授業外学修】 授業の予復習・発展学習として、以下のことを週4時間以上行うこと。 ・毎回の授業で得た知識を就職活動に活用し、実践する。 ・履歴書・就職活動サイトのエントリーシートを作成する。 ・就職支援センター主催の就職ガイダンスに参加する。 ・就職支援センターで自己分析や企業研究を行う。 ・就職活動サイト等が主催する就職活動セミナーに参加する。 ・「インターンシップ」授業とは別にインターンシップに参加する。					
使用テキスト	自由記載	必要に応じてプリントを配布する。			
参考書	自由記載	適宜指示する。			
【担当教員の実務経験の有無】 有					
【担当教員の实務経験】 古谷：システムエンジニア、佐藤：専門学校での就職実務教育、板野：公務員（労働局）					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 有					
【担当教員以外の指導に関わる実務経験者】 ハローワーク職員他					
【実務経験をいかした教育内容】 各々の実務経験を生かして、IT業界でのキャリアプラン、就職実務、求人情報の理解、労働者の為の法規、仕事の探し方、外部機関の活用などの内容について指導する。					



授業科目名	インターンシップ		サブタイトル		授業番号	SB216
担当教員名	福森 護 佐藤 由美子					
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	通年			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
<b>【授業の概要】</b>						
就業体験を通して、社会人としての心構え、社会常識、ビジネスマナーなどを身に付け、現代社会における経済活動や企業の仕組みについての理解を深める。						
<b>【到達目標】</b>						
約40時間の就業体験を実施し、その体験を通して、職業人意識の向上や企業への理解を深めることを目標とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能>および<態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回 インターンシップの考え方 第2回 ビジネスマナー 1 第3回 ビジネスマナー 2 第4回 職業心理 第5回 企業研究 第6回～25回 職業体験実習 第26回 プレゼンテーションの方法 第27回 実習報告1（グループまたは個別に相互報告・プレゼンテーションを行う） 第28回 実習報告2 第29回 仕事の意味と目的 第30回 まとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	ディスカッションへの参加状況により評価を行う。		
	レポート		70%	インターンシップ報告書の提出を行う。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載	報告書ならびに報告会での発表100%				
<b>【授業外学修】</b>						
インターンシップにより体験した内容を、日々の生活や就職活動に活用し、実践する。 以上の内容に、毎週1時間以上の授業外学修を行うこと。						
使用テキスト	自由記載	授業の中で指示する予定である。				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の職務経験】</b>						
佐藤：専門学校での就職実務教育						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
就職実務教育の経験を生かして、インターンシップの事前および事後指導を行う。						

授業科目名	プレゼンテーション概論		サブタイトル	授業番号	SB121
担当教員名	板野 敬吾				
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>					
<p>昨今、商談、会議等の場において自ら主張を行い、効果的かつ効率的に相手を説得することが求められている。このような場面において、効果的かつ効率的なプレゼンスを行うための技法として、プレゼンテーションの技術が着目されているところである。</p> <p>本講義では、まずプレゼンテーションの目的を明らかにし、その活用場を紹介する。さらに、プレゼンテーションの多様な技法を紹介し、その基本的考え方や技法の使い方を学んでいく。また、必要に応じて簡単なプレゼンテーションを実践することで、知識の定着を図る。</p>					
<b>【到達目標】</b>					
<p>講義全体を通して、プレゼンテーションの意義、目的、手法等プレゼンテーションの基本的な考え方を理解する。また、プレゼンテーションのシチュエーションに応じた効果的な方法を選択・実践するための基本的な知識を身につけることを目標とする。</p> <p>また、本科目はプレゼンテーション実務士の資格認定を受けるための必修科目であり、実務的レベルの知識を習得するものとする。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt; &lt;思考・問題解決能力&gt; の修得に貢献する。</p>					
<b>【授業計画】</b>					
<p>第1回：プレゼンテーションの重要性  第2回：プレゼンテーションの計画  第3回：プレゼンテーションの構成  第4回：プレゼンテーションの内容と展開  第5回：準備  第6回：リハーサルとリスクマネジメント  第7回：プレゼンターの役割  第8回：プレゼンターの説得力とは  第9回：視覚化と効果  第10回：視覚化の方法  第11回：視覚化と文字情報  第12回：話す技術  第13回：専門性と専門用語  第14回：聞き手に対する配慮  第15回：ツールの利用</p>					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	質問や授業参加による意欲的な受講態度により判断する。		
	レポート				
	小テスト	30%	講義内容の理解度を評価する。		
	定期試験	50%	最終的な理解度を評価する。		
	その他				
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b>					
不明点等があれば積極的に質問し、理解を深めるような態度で授業に臨むこと。					
<b>【授業外学修】</b>					
<p>事前学習については特に要しない。</p> <p>ただし、各回の講義に関し、それぞれ関連性があることが多いことから、講義終了後学んだ知識を確認し、十分な事後学習を行い、次回以降の講義に備えておくこと。</p> <p>適当たりの授業外学習時間〔予習・復習等〕4時間</p>					
使用テキスト	自由記載	特に定めず、適宜資料を配布する。			
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	プレゼンテーションの教科書	脇山 真治	日経BP社	2800	9784822264963
	よくわかる 自信がつくプレゼンテーション		FOM出版	1800	978486510344427
	自由記載	参考図書については、必要の都度、講義中に周知する。			
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の実務経験】</b>					
情報通信業、公務員(労働局)					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
顧客対応、企画提案等の経験をフィードバックし、授業内容の理解を深める。					

授業科目名	プレゼンテーション演習 A		サブタイトル		授業番号	SB222
担当教員名	藤本 宏美					
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
<b>【授業の概要】</b>						
Microsoft社製プレゼンテーションソフトPowerPointの基本操作から実務で役立つ活用法を中心に演習を行う。またプレゼンテーションを行う際の特性と留意点、魅せる資料作り等についても学習する。						
<b>【到達目標】</b>						
コンピュータなどの情報機器が持つ特性を利用し、いかに効果的なプレゼンテーションを行うか、その考え方や技法の習得をめざし、またより高度で実践的な情報リテラシーの習得をめざす。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：PowerPointの基本操作とスライドの作成 第2回：プレゼンテーションの目的・構成・実施と表現技法について 第3回：視覚資料作成のポイント 第4回：図形、画像の挿入と書式設定 第5回：表とグラフの挿入 第6回：SmartArt、メディアの挿入 第7回：特殊効果の設定 第8回：配付資料の作成とスライドショーの設定 第9回：スライド共通デザインを設定 第10回：他人の作ったプレゼンを読み解き、学ぶ 第11回：プレゼンテーション課題(事前調査・構成案) 第12回：プレゼンテーション課題(作成) 第13回：プレゼンテーション課題(リハーサル) 第14回：課題発表(1) 第15回：課題発表(2)、まとめ						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	40%	意欲的な受講態度、予・復習の状況によって評価する。			
	レポート	60%	期末に課題を課す。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
情報機器の活用法を中心に扱うため、「プレゼンテーション概論」、「プレゼンテーション演習 B」のうち、どれかを履修していることが望ましい。また演習科目であるため、遅刻・欠席は厳禁である。やむを得ず欠席(公欠を含む)する場合は、必ず放課後等を利用し自習しておくこと。さらに授業のみでの習得は難しいことから、授業後の復習が非常に重要である。						
<b>【授業外学修】</b>						
1) 予習として、次回に学ぶ予定の内容について、書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。 2) 復習として、学んだ内容の整理を行う。 3) 発展として、自ら課題を見つけて、考察を行う。 以上の内容に対して、週4時間以上の学修を行うこととする。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	MOS Microsoft Power Point2019 対策テキスト&問題集		FOM出版	2,200円+税		
	自由記載					
参考書	自由記載	『よくわかる自信がつくプレゼンテーション』, FOM出版				
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
<b>【担当教員の実務経験】</b>						
高等学校情報						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
基本的な情報処理のスキルを身に付け、PowerPointの基本操作から実務で役立つ活用法を中心に演習を行い、プレゼンテーションを行う際の特性と留意点、魅せる資料作り等の技能を習得させる。						

授業科目名	プレゼンテーション演習 B		サブタイトル	授業番号	SB322	
担当教員名	板野 敬吾					
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
<b>【授業の概要】</b> プレゼンテーション概論で学んだ理論・知識を基本とし、課題を実践することにより、修得した知識を具体的な技術として定着させる。 講義の中では、ストーリー展開やビジュアル化の方法について、プレゼンテーションを必要とする場面ごとに適切な方法を考え、効率的な伝達方法を検討してみる。また、数値データについては簡単な加工を行い、さらに分析を行うことで効果的な訴求方法を試みる。 プレゼンテーション資料の作成に関し、シチュエーションに即した表現方法・視覚化・文字表現等を踏まえ、効果的なレイアウトについても考える。 基本的な方法としては、課題ごとにプレゼンテーション資料の作成を行い、その作業の中で知識と技法を確認しながら課題を完成させることで、プレゼンテーションの技術を定着させるものとする。 なお、本講義は原則として、プレゼンテーション概論を履修したものを対象者とする。						
<b>【到達目標】</b> 情報伝達が必要となる様々な場面を想定し、それぞれの場面において適切かつ効果的なプレゼンテーションの技法を習得していく。日常生活を含め、様々な場面に応じた適切なプレゼンテーションの技法を活用できるようになることを目標とする。 本科目はプレゼンテーション実務士資格の選択必修科目であり、最終的にビジネスの実務において基本的なコミュニケーションが図れようにすることが目標である。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b> 第1回：プレゼンテーションとは何か 第2回：自己の棚卸（タナオロシ）と自己アピールの方法 第3回：口頭による説明とそのポイント 第4回：文字データの表現方法 第5回：メールによるコミュニケーション方法 第6回：レジュメの作成 第7回：議事録の作成 第8回：報告の作成とそのポイント 第9回：表とグラフ（数値データの扱い方） 第10回：数値データの加工 第11回：数値の分析とビジュアル化の基礎 第12回：客観的データとプレゼンターの主観 第13回：ビジュアルを含んだ報告の作成 第14回：企画・提案の内容と具体例 第15回：パワーポイントによる表現						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		20%	質問や授業参加による意欲的な受講態度により判断する。		
	レポート		60%	課題を作成する場合は、説明内容に即して的確に完成していること。		
	小テスト					
	定期試験		20%	最終課題の完成度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b> 事前に書籍等でプレゼンテーションの概要及びの技法について確認しておくこと。事後学習（復習）については必ず行い、授業で得た知識や技術を身につけるよう心がけること。						
<b>【授業外学修】</b> プレゼンテーション概論履修者は、あらかじめ概論で学んだ内容を確認しておくこと。また、適宜プレゼンテーションに関する書籍等を講読し、知識の維持及び修得を図っておくこと。 週当たりの授業外学習時間〔予習・復習等〕4時間						
使用テキスト	自由記載	教科書は使用しない。授業においては、適宜資料を配布し使用する。				
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	よくわかる 自信がつくビジネス文書			FOM出版	1700	9784893118738
	よくわかる 自信がつくプレゼンテーション			FOM出版	1800	9784865103427
	自由記載		授業中に適宜発表する。			
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有						
<b>【担当教員の实務経験】</b> 情報通信業、公務員(労働局)						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 顧客対応、企画提案等の経験をフィードバックすることにより、授業内容の理解を深めるとともに実践的知識を習得していく。						

授業科目名	情報処理論		サブタイトル	授業番号	SC111
担当教員名	古谷 俊爾				
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	必修	授業形態	講義		
【授業の概要】 本授業では、パソコンのハードウェア、ソフトウェアに関する基礎知識、ならびにネットワーク関連、マルチメディア関連、情報セキュリティなどについての基本的な知識について説明する。 ITパスポート試験の「テクノロジ系」分野を念頭において授業を進める。もちろん基本情報技術者試験にも深く関わる内容である。					
【到達目標】 現代の情報化社会におけるICT利用に関する基本的な知識を修得し、それらを他人にも説明できることを目標とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：数と表現 予習：2・8・10・16進数について調べる 第2回：基数変換 予習：2・8・10・16進数の基数変換について調べる 第3回：符号付き2進数、2進数の加減算、集合 予習：符号付き2進数(1・2の補数)、2進数の加減算について調べる 第4回：応用数学 予習：確率・統計について教科書を調べる 第5回：情報量の単位とデジタル化 予習：ビットとバイトおよび単位(KB, MB, GB, TB, PB)、文字・音・画像のデジタル化について調べる 第6回：アルゴリズムとプログラミング 予習：データ構造とは何か、アルゴリズムとは何か、流れ図、プログラミング言語の種類を調べる 第7回：ハードウェアの仕組み1 (CPU, メモリ, 記録媒体) 予習：CPU, メモリ, 記録媒体(HDD, CD, DVD, Blu-ray)の仕組みを調べる 第8回：ハードウェアの仕組み2 (入出力インタフェース, IoT) 予習：入出力インタフェースの種類・特徴, IoTについて調べる 第9回：情報システムと性能・信頼性 (集中・分散処理, 稼働率, RAID, TCOなど) 予習：情報システムの処理形態・構成, 性能・信頼性, RAID, TCOについて調べる 第10回：ソフトウェアの仕組み1 (OS, ドライバ, ファイル管理) 予習：OSの種類・特徴, デバイスドライバの役割, Windowsのファイル・フォルダについて調べる 第11回：ソフトウェアの仕組み2 (バックアップ, アプリケーションソフト, Webブラウザ) 予習：バックアップ方法の種類, アプリケーションソフトの種類, Webブラウザの役割, 検索エンジンについて調べる 第12回：マルチメディア, ハードウェア 予習：マルチメディアとは, コンピュータの種類, 入出力装置について調べる 第13回：ネットワークとインターネット 予習：LAN・WAN, LANの規格, プロトコル, IPアドレス・ドメイン名・DNSの関係, WWW・電子メールの仕組みと使い方, ISPの役割を調べる 第14回：セキュリティ(脅威と脆弱性, 人的・物理的対策) 予習：脅威と脆弱性, サイバー犯罪の事例, マルウェア, セキュリティ対策の方法を調べる 第15回：著作権, スマートフォン・タブレットの普及 予習：著作権, BYOD, 公衆無線LANについて調べる					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	40%	意欲的な受講態度, 予・復習の状況によって評価する。		
	レポート				
	小テスト	60%	テキスト・過去問題CDの内容が正しく理解・説明できているかによって評価する。		
	定期試験				
	その他				
	自由記載				
【受講の心得】 情報関連の授業の基礎となる重要な授業であるため、興味を持って受講していただきたい。 ITパスポート試験は全ての社会人向けの「ITを利活用するための共通の基礎知識」を問う資格であり、近年では就職活動の為に学生が取得するケースも増えている。本講義をきっかけに資格取得を目指してもらいたい。					
【授業外学修】 予習は授業計画に記述した内容を行っておくこと。 復習は毎回の授業内容に対応するテキスト・過去問題CDの問題演習を行うとともに他人に説明できるまで理解を深めておくこと。また、小テストで出来なかった問題は解けるように理解しておくこと。 予習・復習をあわせて週4時間以上学修すること。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	よくわかるマスター 令和2-3年度版 ITパスポート試験対策テキスト&過去問題集	FOM出版	FOM出版	2200	978-4-86510-420-2
	自由記載	このテキストは、2年間にわたって複数の授業(「プログラミング概論」, 「コンピュータ科学」, 「通信ネットワーク論」など)で使用する予定なので、この授業が終わっても保管しておくこと。			
参考書	自由記載	授業の中で適宜指示する。			
	【担当教員の実務経験の有無】	有			
	【担当教員の实務経験】	システムエンジニア			
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					

**【実務経験をいかした教育内容】**

授業科目名	情報処理演習		サブタイトル	授業番号	SC112
担当教員名	福森 護 藤原 美佳				
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	1単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	必修	授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b>					
本授業では、パソコンの基本操作、主としてマルチメディア関連のソフトウェアの基本的な利用技術について演習を行う。具体的には、Photoshop、Animator、Illustrator、Metasequoiaなどのソフトウェアを使用して授業を進めていく予定である。					
<b>【到達目標】</b>					
フォトレタッチ、アニメーション、デザイン、3Dグラフィックスなどのソフトウェアの基本操作を修得することを目標とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<技能>の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：Windowsの基本操作 (担当福森・藤原)					
第2回：Photoshopによるフォトレタッチの基礎1(画像ファイルの種類、ファイルの取り込み、レイヤー) (担当福森・藤原)					
第3回：Photoshopによるフォトレタッチの基礎2(色相、彩度、レベル補正、トーンカーブ) (担当福森・藤原)					
第4回：Photoshopによるフォトレタッチの基礎3(画像の合成) (担当福森・藤原)					
第5回：アニメーション制作の基礎1(Animatorの基本操作) (担当福森・藤原)					
第6回：アニメーション制作の基礎2(円盤を飛ばす) (担当福森・藤原)					
第7回：アニメーション制作の基礎3(人を動かす) (担当福森・藤原)					
第8回：Metasequoiaによる3Dモデリングの基礎1(湯呑の制作) (担当福森・藤原)					
第9回：Metasequoiaによる3Dモデリングの基礎2(簡単な車の制作) (担当福森・藤原)					
第10回：Metasequoiaによる3Dモデリングの基礎3(帽子、ハイヒールの制作) (担当福森・藤原)					
第11回：Illustratorでイベントチラシを作ろう(レイアウトの準備) (担当藤原・福森)					
第12回：Illustratorでイベントチラシを作ろう(画像の配置) (担当藤原・福森)					
第13回：Illustratorでイベントチラシを作ろう(タイトルの作成) (担当藤原・福森)					
第14回：Illustratorでイベントチラシを作ろう(地図の作成、イラストの追加) (担当藤原・福森)					
第15回：Illustratorでイベントチラシを作ろう(入稿用のデータ作成) (担当藤原・福森)					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢/態度		50%	意欲的な受講態度、予・復習の状況によって評価する。	
	レポート				
	小テスト				
	定期試験				
	その他		50%	授業中の課題の提出	
自由記載					
<b>【受講の心得】</b>					
初心者にも十分に理解できるような内容で授業を進めていくが、ある程度高いレベルの学生にも対応できるように工夫して授業を行う予定である。興味を持って楽しみながら受講していただければと思っている。					
<b>【授業外学修】</b>					
1) 予習として、次回に学ぶ予定の内容について、書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。					
2) 復習として、学んだ内容の整理を行い、作品課題の制作を行う。					
3) 発展として、自ら課題を見つけて、作品の制作スキルを向上させる。					
以上の内容に対して、毎週1時間以上の学修を行うこと。					
使用テキスト	自由記載	テキストは使用せず、WEB教材を活用して授業を進める予定である。また、必要に応じてプリントを配布する。			
参考書	自由記載	授業の中で適宜紹介する。			
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>					
藤原：ミカプロ代表(デザイン・撮影・映像制作)					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
フリーランスとしての活動を活かして、Illustratorの実践的な技術を解説する。					

授業科目名	情報数学		サブタイトル		授業番号	SC213
担当教員名	藤本 宏美					
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】 文理問わずすべての大学生が初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得するという政府発表の目標を掲げました。この講義では、プログラミング、データサイエンス（社会調査）・AI、データベース（表計算）などの様々な情報分野を学ぶ上で必要とされる基本的な数理的な考え方について学習する。特に、ものごとの関係を表現する1つである関数という概念について学ぶ。また、多変量解析の理論に必要な線形代数や解析学といった数学的な知識について学習する。						
【到達目標】 情報分野を学ぶ上で必要とされる数学的記号の理解と基礎的な計算力を習得することを目標とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞および＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：数とは？ 第2回：約数と平方根 第3回：三角関数 第4回：eと指数関数 第5回：虚数と複素数1 第6回：多次元空間と多次元ベクトル 第7回：行列 第8回：逆行列 第9回：行列式 第10回：固有値と固有ベクトル1 第11回：固有値と固有ベクトル2 第12回：常微分と偏微分1 第13回：常微分と偏微分2 第14回：グラフの描写 第15回：ベイズの定理						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。		
	レポート					
	小テスト		30%	授業中に数回の小テストを行う。		
	定期試験		50%	期末に試験を行う。		
	その他					
自由記載						
【受講の心得】 積み重ねが重要なので復習を十分行い、分からないところは放置しておかないようにする。						
【授業外学修】 毎週4時間以上、予習・復習を行うこと。						
使用テキスト	自由記載	別途指示する。				
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	やさしく学べる基礎数学 線形代数・微分積分		石村園子	共立出版株式会社	2000	
	人工知能プログラミングのための数学がわかる本		石川聡彦	KADOKAWA	2500	978-4-04-602196-0
	入門 情報処理数学		野々山隆幸	実教出版	2200	978-4-407-02347-3
	ディープラーニングがわかる数学入門		涌井良幸 / 涌井貞美	技術評論社	2280	978-4-7741-8814-0
自由記載						
【担当教員の実務経験の有無】 無						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無						



授業科目名	コンピュータ科学		サブタイトル		授業番号	SC214
担当教員名	古谷 俊爾					
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b> コンピュータの技術要素（ヒューマンインタフェースの特徴やマルチメディア技術の特徴，データベース設計や表計算ソフト技術）と，開発技術（システム開発のプロセスやテスト手法，ソフトウェア開発のプロセスや開発手法）について解説する。 ITパスポート試験「テクノロジー系」分野の「技術要素，表計算」と「マネジメント系」分野の「開発技術」が授業の中心になる。もちろん基本情報技術者試験にも関わる内容である。						
<b>【到達目標】</b> ヒューマンインタフェース技術，マルチメディア技術，データベース技術，表計算ソフト技術，システム開発技術，ソフトウェア開発管理技術の知識を身につけることを目的とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b> 第1回：ヒューマンインタフェース 第2回：マルチメディア 第3回：データベース（方式・設計） 第4回：データベース（データ操作・トランザクション処理） 第5回：データベース（E-R図），技術要素の問題演習 第6回：技術要素の問題演習2 第7回：表計算ソフト 第8回：表計算ソフトの問題演習 第9回：システム開発技術(要件定義，システム設計) 第10回：システム開発技術(開発，テスト) 第11回：システム開発技術(システムの導入，システムの運用，システムの外部委託，見積り) 第12回：ソフトウェア開発管理技術 第13回：開発技術の問題演習1 第14回：開発技術の問題演習2 第15回：ビジネスシステム						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。			
	レポート					
	小テスト	70%	各分野の理解を評価する。			
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b> 1. 情報フィールド（情報処理）の科目であり，同分類のこれまでの開講科目を履修し理解している事を前提に授業を進める。 2. 学修に取り組まない場合はもちろんであるが，私語・音楽他を聞く・動画を参照・関係無いWeb参照・モバイルデバイス进行操作等の「ながら勉強」についても「授業への取り組みの姿勢/態度」において大幅なマイナス評価を行う。 3. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ，その出席を無効とする。						
<b>【授業外学修】</b> 1. 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2. 復習として，教科書の問題演習(CD-ROMを含む)および小テストで間違えた問題の再確認を行う。 3. 発展学修として，情報処理技術者試験の対策を行う。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	よくわかるマスター 令和2-3年度版 ITパスポート試験対策テキスト&過去問題集	FOM出版	FOM出版	2200	978-4-86510-420-2	
	自由記載	必須科目「情報処理論」で使用した上記テキストを使用する予定であるが，ITパスポート試験制度に大きな変更があれば別途指示する。				
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有					
	<b>【担当教員の実務経験】</b> システムエンジニア					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> システムの企画・開発・運用・保守の考え方やコンピュータ技術の活用について指導する。						

授業科目名	通信ネットワーク論		サブタイトル		授業番号	SC315
担当教員名	古谷 俊爾					
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b>						
通信ネットワークの仕組みから特にインターネット（TCP/IP）に関する総合的な基礎知識を得られるよう解説する。「情報処理技術者試験」および「NTTコミュニケーションズインターネット検定.com Master ADVANCE」のインターネット技術分野を念頭に置いて、動作確認の為に一部演習も取り入れながら授業を進める。また、関連分野としてヒューマンインタフェース、マルチメディア、データベースについても一部取り扱う。						
<b>【到達目標】</b>						
インターネットの様々なサービスとWWW・e-mailの仕組み、情報セキュリティを知り、説明できるようになることを目標とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、「知識・理解」および「技能」の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：ネットワークの形態(LANとWAN，インターネット) 第2回：ネットワークの構成要素 第3回：IoTネットワーク 第4回：通信プロトコル 第5回：インターネットの仕組み・サービス 第6回：ネットワークの問題演習 第7回：情報セキュリティ 第8回：情報セキュリティ管理 第9回：情報セキュリティ対策の種類 第10回：利用者認証の技術・暗号化技術・デジタル署名 第11回：IoTに関するセキュリティ 第12回：情報セキュリティの問題演習 第13回：詳細：IPアドレス 第14回：詳細：ポート番号・eNAT 第15回：詳細：ファイアウォール技術						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		40%	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。		
	レポート					
	小テスト		60%	授業内容が正しく理解できているか，分かりやすく説明できているかによって評価する。		
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
1. 情報フィールド（情報処理）の科目であり，同分類のこれまでの開講科目を履修し理解している事を前提に授業を進める。 2. 理解を深める為に一部演習も含める予定である。 3. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ，その出席を無効とする。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2. 復習として，教科書の問題演習(CD-ROMを含む)，当該分野の情報処理技術者試験の過去問題，小テストで間違えた問題の再確認を行う。 3. 発展学修として，資格試験の対策を行うか自ら課題を見つけて考察を行う。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	よくわかるマスター 令和2-3年度版 ITパスポート試験対策テキスト&過去問題集		FOM出版	FOM出版	2200	978-4-86510-420-2
	自由記載	必須科目「情報処理論」で使用した上記テキストを使用する予定であるが，ITパスポート試験制度に大きな変更があれば別途指示する。				
参考書	自由記載	『情報通信白書 for Kids』（ <a href="http://www.soumu.go.jp/joho_tsusin/kids/">http://www.soumu.go.jp/joho_tsusin/kids/</a> ），総務省『初歩からのネットワーク』，森川 恵 著，実教出版 『インターネット検定.com Master ADVANCE 公式テキスト』，NTTコミュニケーションズ，NTT出版 『絶対わかる！新・ネットワーク超入門』，日経ネットワーク，日経BP				
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
システムエンジニア						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
ネットワーク構築，サーバ構築，セキュリティ対策およびシステム開発に基づく通信ネットワークの知識・技術を指導する。						

授業科目名	文書処理演習		サブタイトル		授業番号	SC121
担当教員名	佐藤 由美子					
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	1単位			
開講年次	1年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
<b>【授業の概要】</b>						
<p>広く普及している文書処理ソフト「Microsoft Word」の基本的な使用法を学習する。コンピュータを使った演習を通して実践的なスキルを身に付ける。総合演習として日本商工会議所PC検定模擬試験用の問題に取り組む。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>文書処理ソフト「Microsoft Word 2019」の活用のためのスキルを身に付けることを目標とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞および＜技能＞の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：文字入力の基本  第2回：ビジネス文書  第3回：ビジネス文書のライティング技術I  第4回：ビジネス文書のライティング技術II  第5回：電子メールのライティング技術I  第6回：図解技術  第7回：ビジネス文書の管理  第8回：表のあるビジネス文書の作成  第9回：図形のあるビジネス文書の作成  第10回：総合演習1（模擬試験）  第11回：総合演習1（模擬試験の解答と解説）  第12回：総合演習2（模擬試験）  第13回：総合演習2（模擬試験の解答と解説）  第14回：総合演習3（模擬試験）  第15回：総合演習3（模擬試験の解答と解説）</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		40%	意欲的な受講態度、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート					
	小テスト		60%	授業内容が正しく理解できているかによって評価する。		
	定期試験					
	その他					
自由記載		日本商工会議所PC検定(1.2.3級) 合格者は評価に加える。				
<b>【受講の心得】</b>						
<p>ビジネス実務必須分野であるため実技・知識ともに理解できるまで学習すること。</p>						
<b>【授業外学修】</b>						
<p>1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。  2 復習として、授業内容を教科書・参考資料の参照をしなくてもできるようになるまで繰り返し演習しておく。  3 正しい指使いでタッチタイピングの練習を行う。目標は10分間に1000タッチとする。  4 発展学習として資格試験の準備を行い受験・合格する。  以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。</p>						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	日商PC検定試験 文書作成 3級 公式テキスト&問題集 Word 2019 / 2016 対応		FOM	FOM	3,080円	978-4-86510-443-1
自由記載		補助教材のみ希望				
参考書	自由記載		授業で適宜紹介する。			
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
<b>【担当教員の実務経験】</b>						
専門学校でのPC教育						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
日商マスターである経験から、PCの幅広い活用方法を文書処理科目を通して指導します。						

# 中国短期大学 令和3年度(2021年度) シラバス

授業科目名	ビジネスコンピューティングA		サブタイトル		授業番号	SC122
担当教員名	藤本 宏美					
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	1単位			
開講年次	1年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
<b>【授業の概要】</b>						
<p>広く普及している表計算ソフト「Microsoft Excel 2019」の基本的な使用法を学習する。コンピュータを使った演習を通して実践的なスキルを身に付ける。総合演習としてMOS Excel 2019模擬試験用の問題に取り組む。なお、本科目は「上級情報処理士」（全国大学実務教育協会認定資格）の必修科目である。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>表計算ソフト「Microsoft Excel 2019」による基本的な情報処理のスキルを身に付けることを目標とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt;および&lt;技能&gt;の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：データの入力                  第2回：表の作成                  第3回：レイアウトの設定                  第4回：テーブルの作成                  第5回：数式や関数（データ集計）                  第6回：数式や関数（条件付きの計算を実行）                  第7回：数式や関数（書式設定・文字列の変更）                  第8回：グラフの作成                  第9回：オブジェクトの作成                  第10回：データベースの利用                  第11回：総合演習1（模擬試験）                  第12回：総合演習2（模擬試験）                  第13回：総合演習3（模擬試験）                  第14回：総合演習4（模擬試験）                  第15回：総合演習5（模擬試験）</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		40%	意欲的な受講態度、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート					
	小テスト		60%	各回の主要なポイントの理解を評価する。		
	定期試験					
	その他					
	自由記載	MOS Excel合格者は評価に加える。				
<b>【受講の心得】</b>						
<p>情報フィールド（オフィス利用技術）の導入にあたる科目であるので今後の為にしっかり理解できるまで学習すること。また、情報フィールド（データ分析ユニット）および経営/ビジネスフィールド（医療事務ユニット）にも関係している。また複数の資格にも関連していることも頭にに入れておくこと。</p>						
<b>【授業外学修】</b>						
<p>1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。                  2 復習として、授業内容を教科書・参考資料の参照をしなくてもできるようになるまで繰り返し演習しておく。                  3 発展学習として資格試験の準備を行い受験・合格する（余裕があれば）。                  以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。</p>						
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価
	MOS Microsoft Excel 2019 対策テキスト&問題集			FOM	FOM	2,000円+税
	自由記載					
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
<b>【担当教員の実務経験】</b>						
高等学校情報						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
コンピュータを使った演習を通してExcelの機能を使用した数式を含む実践的なスキルを習得させる。						

授業科目名	ビジネスコンピューティングB		サブタイトル		授業番号	SC222
担当教員名	藤本 宏美					
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	1単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
<b>【授業の概要】</b>						
<p>広く普及している表計算ソフト「Microsoft Excel 2019」の活用法を学習する。ビジネスコンピューティングAで習得したスキルを基礎知識に、さらにより深く実践的なスキルを身に付ける。データベースや統計処理などの関数の使用して実践的なビジネス（事務・営業）やデータサイエンスに役立つ技術を習得する。総合演習として、サーティファイExcel表計算処理技能認定試験1級やMOS Excel 2019模擬試験用の問題にも取り組む。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>広く普及している表計算ソフト「Microsoft Excel 2019」のビジネスで活用できる実践的なスキルを習得することを目標とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt;・&lt;思考・問題解決能力&gt;および&lt;技能&gt;の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：関数の活用1（請求書の作成）  第2回：関数の活用2（売上データの集計）  第3回：関数の活用3（住所録の作成）  第4回：関数の活用4（旅費伝票の作成）  第5回：関数の活用5（様々な関数の利用）  第6回：関数の活用5（データベース関数）  第7回：マクロの編集・作成  第8回：ピボットテーブルの作成と管理  第9回：ピボットテーブルの作成と管理  第10回：ゴールシークとソルバー  第11回：ゴールシークとソルバー  第12回：総合演習（最適化分析と処理の自動化）  第13回：総合演習（最適化分析と処理の自動化）  第14回：疑似関係を見抜く（3重クロス集計表の作成）  第15回：顔グラフ</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		40%	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。		
	レポート					
	小テスト		60%	各回の主要なポイントの理解を評価する。		
	定期試験					
	その他					
	自由記載	MOS Excel合格者は評価に加える。				
<b>【受講の心得】</b>						
<p>情報フィールド（オフィス利用技術）の科目であり、1年前期科目である「文書処理演習」と「ビジネスコンピューティングA」の内容が理解できていることを前提に授業を行う。  また、情報フィールド（データ分析）にも関係しており、資格にも関連していることも頭に入れておくこと。</p>						
<b>【授業外学修】</b>						
<p>1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。  2 復習として、授業内容を教科書・参考資料の参照をしなくてもできるようになるまで繰り返し演習しておく。  3 発展学習として資格試験の準備を行い受験・合格する（余裕があれば）。  以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。</p>						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	よくわかる Excel 2019/2016/2013 ビジネス活用編 関数テクニック		FOM	FOM	2,300円+税	978-4-86510-300-7
	MOS Microsoft Excel 2019 対策テキスト&問題集		FOM	FOM	2,000円+税	978-4-86510-317-5
	自由記載					
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	Excelクイックマスター2016応用編			ウイネット	2,000円+税	978-4-87284-766-6
	社会調査のための統計データ分析		廣瀬毅士	オーム社	2,600円+税	978-4-274-06763-1
	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の学歴】</b>						
高等学校情報						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
コンピュータを使った演習を通して実践的なスキルを習得させる。データベースや統計処理などの関数の使用やマクロ/VBAのコーディングを含む。						

授業科目名	データベース演習		サブタイトル	授業番号	SC223	
担当教員名	古谷 俊爾					
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	1単位			
開講年次	2年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
<b>【授業の概要】</b> データベースソフトウェアは、大量のデータを蓄積し必要に応じてデータを抽出したり集計したりできる機能を有しており、企業活動におけるデータ管理の中核的役割を果たしている。 本科目では、データベースソフトウェア初心者を対象として、テーブル、クエリ、フォーム、レポート、リレーションシップ機能を中心に基本操作から応用操作まで演習する。データベースソフトウェアはリレーショナルデータベースのMicrosoft Accessを使用する。						
<b>【到達目標】</b> 企業におけるリレーショナルデータベースの活用方法を知り、Accessデータベースを作成・活用できるようになることを目標とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、「知識・理解」および「技能」の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b> 第1回：Accessの基礎知識 予・復習：第1章 第2回：データベースの設計と作成 予・復習：第2章 第3回：テーブルの作成とデータの格納1（商品マスター） 予・復習：第3章Step3まで 第4回：テーブルの作成とデータの格納2（得意先マスター、売上データ） 予・復習：第3章 第5回：リレーションシップ 予・復習：第4章 第6回：クエリによるデータの加工1 予・復習：第5章 第7回：クエリによるデータの加工2（問題演習） 予・復習：第5章 第8回：フォームによるデータ入力1（商品マスター、得意先マスター） 予・復習：第6章Step4まで 第9回：フォームによるデータ入力2（売上データ、担当者マスター） 予・復習：第6章 第10回：クエリによるデータの抽出と集計1 予・復習：第7章 第11回：クエリによるデータの抽出と集計2（問題演習） 予・復習：第7章 第12回：レポートによるデータの印刷1（商品マスター、得意先マスター） 予・復習：第8章Step4まで 第13回：レポートによるデータの印刷2（宛名ラベル、売上一覧表） 予・復習：第8章 第14回：ナビゲーションフォーム、オブジェクトの依存関係、テンプレートの利用 予・復習：第9章 第15回：問題演習 予・復習：総合問題						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		50%	意欲的な受講態度、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート					
	小テスト		10%	指定時間内に指示したAccessの主要機能を実現できるかを評価する。		
	定期試験					
	その他		40%	オリジナルデータベース制作により主要オブジェクト(テーブル、クエリ、フォーム、レポート)を正しく理解・活用し、ドキュメントも整備できるかによって評価する。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b> 1. 対象はAccess初心者を想定している。 2. 情報フィールド（オフィス利用技術）の科目であり、同分類のこれまでの開講科目を履修し理解している事を前提に授業を進める。 3. 演習に取り組まない場合はもちろんであるが、私語・音楽他を聞く・動画を参照・関係無いWebページ参照・モバイルデバイス进行操作等の「ながら勉強」についても「授業への取り組みの姿勢/態度」において大幅なマイナス評価を行うので注意すること。 4. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ、その出席を無効とする。						
<b>【授業外学修】</b> 1. 予習として次回の授業内容にあたるテキストを読んでおくこと。 2. 授業で行った演習内容を復習し理解を深めておくこと。 3. 小テストで完答できなかった問題は、次の授業までに完答しておくこと。 4. 最終課題としてオリジナルデータベースおよびドキュメントを提出してもらう。 以上の内容に必要な時間の目安は、各人の理解度によるが過当たり1時間である。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	よくわかる Microsoft Access 2019 基礎		FOM	FOM出版	2200	978-4-86510-386-1
	自由記載	ソフトウェアのバージョンが変更になる可能性があります。進捗状況により、情報処理論で使用した「よくわかるマスター令和2-3年度版 ITパスポート試験対策テキスト&過去問題集」テキストも活用するが使用時は授業で指示する。				
参考書	自由記載					
	【担当教員の実務経験の有無】		有			

**【担当教員の実務経験】**

システムエンジニア

**【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】**

無

**【実務経験をいかした教育内容】**

データベース設計・構築の知識と技能を指導する。

授業科目名	プログラミング概論		サブタイトル	授業番号	SC131
担当教員名	古谷 俊爾				
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b> プログラミングは、現代の社会に必要なスキルである「アイデアを形にする能力」や「複雑な問題に立ち向かう方策を自分で考え、それを実際に試して期待どおりの結果にならなければ何度でもやり直して問題を解決する能力」を身につけることができる為、将来の職業と関係無く学ぶことが推奨されている。本科目はプログラミング入門と位置づけプログラミングの概念を講義と演習をとおして明らかにする。 ビジュアルプログラミング言語（命令ブロックをドラッグ&ドロップといった簡単な操作でプログラミングが可能な言語）であるGoogle BlocklyとMIT Scratchを使用してゲーム制作も題材に取り入れながら学んだ後、本格的な開発言語であるPythonに触れる。					
<b>【到達目標】</b> プログラミングの概念の根幹である「実現したいことを処理のステップに分けること」が可能になり、自分のアイデアをプログラミングで実現できるようになる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞および＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b> 第1回：プログラミング概説、はじめてのビジュアルプログラミング言語(Blockly Games) 予習：Blockly Gamesについて様々なWebサイト記事を参照，復習：Blockly Games 第2回：Blockly Games(迷路)で処理のステップを学ぶ 予・復習：Blockly Games 第3回：Scratch:シューティングゲームの作成(キーボード操作，アニメーション，繰り返し，条件分岐，音) 第4回：Scratch:シューティングゲームの作成(変数，乱数，マルチスレッド，メッセージ，イベントの理解) 第5回：Scratch:自ら学ぶ為に必要なこと（他人のコードを読み解き利用する），オリジナル作品制作について 第6回：プログラムの概念の理解，プログラミング言語。 予習・復習：第1章。 第7回：Python:開発環境構築とインタラクティブシェル。 予習・復習：第2，3章。 第8回：Python:スクリプトファイルの実行，文字列の扱い。 予習・復習：第3章。 第9回：Python:変数と演算。 予習・復習：第4章。 第10回：Python:変数と演算の問題演習 予習・復習：第4章。 第11回：Python:データ構造（リスト，タプル，辞書，セット） 予習・復習：第5章。 第12回：Python:データ構造の問題演習 予習・復習：第5章。 第13回：Python:条件文(比較演算子，if) 予習・復習：第6章。 第14回：Python:条件文(ifの入れ子，論理演算子) 予習・復習：第6章。 第15回：Python:条件文の問題演習 予習・復習：第6章。					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。		
	レポート				
	小テスト	30%	指示した処理を制限時間内に実現できるかによって評価する。		
	定期試験				
	その他	40%	作品制作（学んだ内容が十分に活かしているか，作品のドキュメントがきちんと整備されているか）		
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b> 1. 情報フィールド（プログラミング）の入門レベル科目であるが、当然ながら十分な授業外学修がなされていることを前提に授業を進める。 2. プログラミングに関わる授業全般に言えるが、解答を待つ・写すでは得るものはほとんど無く受講する意味が無い。自らアイデアを練り自ら問題に立ち向かう姿勢が要求される。 3. 学修に取り組みない場合はもちろんであるが、私語・音楽他を聞く・動画を参照・関係無いWeb参照・モバイルデバイス进行操作等の「ながら勉強」についても「授業への取り組みの姿勢/態度」において大幅なマイナス評価を行う。 4. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ、その出席を無効とする。					
<b>【授業外学修】</b> 1. 予習として授業にかかわる内容（資料が必要な場合は事前に配布する）をプログラミング環境で実際にさわってみて疑問点を明らかにする。 2. 復習として授業で扱った内容を参考資料を見ずにプログラミングできるようにする。 3. 発展学修として、インターネット上の公開されている作品・チュートリアルを参照して技法を学び、それらを活用して自分のアイデアでプログラムを作る。 4. オリジナル作品の制作時期は予・復習をその制作にあてる。 5. 複数回の授業で前回までの授業内容に関する小テストを行うので、授業計画の復習で示した内容にかかわらず過去の授業で扱った内容は忘れないよう学修しておくことが必要である。 6. 前項の小テストにおいて正答できなかった問題は、復習として必ずできるようにしておくこと。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	3ステップでしっかり学ぶ Python入門	山田祥寛，山田奈美	技術評論社	2480円	978-4-7741-9763-0
	自由記載	Google BlocklyとMIT Scratchについては、適宜資料配布やWebサイト紹介を行う。			
参考書	自由記載				
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有				



**【担当教員の実務経験】**

システムエンジニア

**【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】**

無

**【実務経験をいかした教育内容】**

プログラミング的思考およびソフトウェア制作の指導を行う。

授業科目名	プログラミング演習		サブタイトル		授業番号	SC232
担当教員名	古谷 俊爾					
対象学部・学科	情報ビジネス学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
Python言語は、Webアプリケーションをはじめデスクトップアプリケーションやゲーム、人工知能、ビッグデータ解析など様々な分野で活用されており、最も注目を集めているプログラミング言語のひとつである。また、シンプルな言語であるが故にコードが読みやすく、プログラミング初心者にもおすすめの言語とされている。本科目では、プログラミング概論を学んだ学生を対象に、Python言語を用いてプログラミングに必要な考え方を身に付ける。						
<b>【到達目標】</b>						
Python言語を使用して簡単な文字ベースのプログラムを自ら作成できるようになることを目的とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<思考・問題解決能力>および<技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：繰り返し文(while, for) 予習・復習：第7章。</p> <p>第2回：繰り返し文(代表的なパターン) 予習・復習：第7章。</p> <p>第3回：繰り返し文の問題演習1 予習・復習：第7章。</p> <p>第4回：繰り返し文の問題演習2 予習・復習：第7章。</p> <p>第5回：基本ライブラリ(文字列操作, 数学演算, 日付時刻) 予習・復習：第8章。</p> <p>第6回：基本ライブラリ(テキストファイルの操作) 予習・復習：第8章。</p> <p>第7回：基本ライブラリ(文字列操作, 数学演算, 日付時刻) 予習・復習：第8章。</p> <p>第8回：基本ライブラリ(テキストファイルの操作) 予習・復習：第8章。</p> <p>第9回：基本ライブラリの問題演習 予習・復習：第8章。</p> <p>第10回：ユーザー定義関数(関数の基本, 変数の有効範囲) 予習・復習：第9章。</p> <p>第11回：ユーザー定義関数(引数のデフォルト値, 別ファイル化) 予習・復習：第9章。</p> <p>第12回：クラス(変数, メソッド) 予習・復習：第10章。</p> <p>第13回：クラス(継承) 予習・復習：第10章。</p> <p>第14回：クラスの問題演習 予習・復習：第10章。</p> <p>第15回：総合問題演習</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		50%	意欲的な受講態度, 予復習の状況によって評価する。		
	レポート					
	小テスト		50%	提示した問題に対して時間内に意図した動作をするプログラムを作成できること。		
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
<p>1. 情報フィールド(プログラミング)の科目であり、同分類のこれまでの開講科目を履修し理解している事を前提に授業を進める。</p> <p>2. 学修に取り組まない場合はもちろんであるが、私語・音楽他を聞く・動画を参照・関係無いWeb参照・モバイルデバイス进行操作等の「ながら勉強」についても「授業への取り組みの姿勢/態度」において大幅なマイナス評価を行う。</p> <p>3. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ、その出席を無効とする。</p>						
<b>【授業外学修】</b>						
<p>1. 授業計画の予習で示したテキスト範囲を必ず一読し、疑問点を明らかにしておくこと。</p> <p>2. 授業計画の復習で示したテキスト範囲を理解し、授業で扱ったプログラム及びテキスト内の例題・演習問題を何も参照しなくてもプログラミングできるようにしておくこと。</p> <p>3. 複数回の授業で前回までの授業内容に関する小テストを行うので、授業計画の復習で示した内容にかかわらず過去の授業で扱った内容は忘れないよう学修しておくことが必要である。</p> <p>4. 前項の小テストにおいて正答できなかった問題は、復習として必ずできるようにしておくこと。</p> <p>以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。</p>						
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価
	3ステップでしっかり学ぶ Python入門			山田祥寛, 山田奈美	技術評論社	2480円
	自由記載	注) 本年度1年前期科目「プログラミング概論」と同一のテキストであるので、未受講や紛失により手元に無い場合は各自で上記「使用テキスト」を用意しておくこと。				
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有  <b>【担当教員の实務経験】</b> システムエンジニア					

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

【実務経験をいかした教育内容】

Python言語によるプログラミングを通して、プログラミング技能とプログラミング的思考を身につけさせる。

授業科目名	アルゴリズムとデータ構造		サブタイトル	授業番号	SC333
担当教員名	古谷 俊爾				
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
【授業の概要】					
本科目はプログラミングに必要とされる代表的なアルゴリズムとデータ構造を説明する。アルゴリズムおよびデータ構造の重要性を認識すると共に、しくみを理解し効率のよいプログラム設計ができるよう演習も交え授業を進める。プログラム言語はPythonを使用するので、Python言語の習熟にもつながる。					
【到達目標】					
代表的なデータ構造とアルゴリズムについて知り、高速で効率の良い方法でプログラムを設計できるようになることを目標とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>、<思考・問題解決能力>および<技能>の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：フローチャート（流れ図） 予・復習 第1章					
第2回：データ構造と配列1 予・復習 第2章					
第3回：データ構造と配列2（基数変換など） 予・復習 第2章					
第4回：線形探索と2分探索 予・復習 第3章					
第5回：探索までの問題演習・計算量 予・復習 第3章，問題演習で扱った内容					
第6回：スタックとキュー 予・復習 第4章					
第7回：スタックとキューの実現 予・復習 第4章					
第8回：スタックとキューの問題演習 復習 問題演習で扱った内容					
第9回：再帰 予・復習 第5章					
第10回：再帰（ハノイの塔） 予・復習 第5章					
第11回：再帰の問題演習 予・復習 問題演習で扱った内容					
第12回：バブルソート 予・復習 第6章					
第13回：クイックソート 予・復習 第6章					
第14回：ソートの問題演習 復習 問題演習で扱った内容					
第15回：線形リスト 復習 第8章					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度	50%	意欲的な受講態度，提出課題（完答できなかった小テスト問題）によって評価する。		
	レポート				
	小テスト	50%	提示した問題に対して時間内に効率的に動作するプログラムを作成できること。		
	定期試験				
	その他				
	自由記載				
【受講の心得】					
1. 応用レベルの科目であるので、自発的な学修活動が必要である。当然であるが十分な授業外学修がなされていることを前提に授業を進める。					
2. 情報フィールド（プログラミング）の科目であり、同分類のこれまでの開講科目を履修し理解している事を前提に授業を進める。					
3. 学修に取り組まない場合はもちろんであるが、私語・音楽他を聞く・動画を参照・関係無いWeb参照・モバイルデバイス进行操作等の「ながら勉強」についても「授業への取り組みの姿勢／態度」において大幅なマイナス評価を行う。					
4. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ、その出席を無効とする。					
【授業外学修】					
1. 授業計画の予習で示したテキスト範囲を必ず一読し、疑問点を明らかにしておくこと。					
2. 授業計画の復習で示したテキスト範囲を理解し、授業で扱ったプログラム及びテキスト内の例題・演習問題を何も参照しなくてもプログラミングできるようにしておくこと。					
3. 複数回の授業で前回までの授業内容に関する小テストを行うので、授業計画の復習で示した内容にかかわらず過去の授業で扱った内容は忘れないよう学修しておくことが必要である。					
4. 前項の小テストにおいて正答できなかった問題は、復習として必ずできるようにしておくこと。					
5. 時間を要する小テストについては、授業外学修課題として出題するのでそれを行う。					
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。					
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	新・明解Pythonで学ぶアルゴリズムとデータ構造	柴田望洋	SBクリエイティブ(株)	2400円	978-4-8156-0319-9
	自由記載				
参考書	自由記載				
	【担当教員の実務経験の有無】 有				
	【担当教員の实務経験】 システムエンジニア				

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

【実務経験をいかした教育内容】

Python言語による実際のプログラミングを通して、データ構造およびアルゴリズムの知識・思考ならびにそれらを活用したプログラミング技能を指導する。

授業科目名	アプリ開発演習		サブタイトル	授業番号	SC334
担当教員名	古谷 俊爾				
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	1単位		
開講年次	2年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b> アプリケーションソフトウェア（応用ソフトウェア）は、ある特定の機能や目的のためのソフトウェアである。 また、（特にモバイル端末において）「アプリ」と略されることも多い。 本授業は、Python言語により簡単なアプリケーションソフトウェアを実際に作成する演習を行い、これまでに学んだプログラミング能力を活用して有益なソフトウェアを開発する礎（いしずえ）を築く。					
<b>【到達目標】</b> 簡単なアプリケーションソフトウェアを自ら作成できることを目標とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞および＜技能＞の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
<b>【授業計画 備考】</b> 目まぐるしく変化する分野であるので内容が変更になる可能性がある。以下は授業計画の概略である。詳細および予復習内容については第1回の授業で指示する。					
第1回：アプリケーション開発の概略 第2回：文書処理（テキストファイルの読み書き） 第3回：文書処理（正規表現） 第4回：文書処理（Excelファイルの操作） 第5回：Web情報の取得1（スクレイピング） 第6回：Web情報の取得2（スクレイピング） 第7回：Web情報の取得3（スクレイピング） 第8回：Webアプリケーション1 第9回：Webアプリケーション2 第10回：Webアプリケーション3 第11回：Webアプリケーション4 第12回：デスクトップアプリケーション1（ゲーム） 第13回：デスクトップアプリケーション2（ゲーム） 第14回：デスクトップアプリケーション3（ゲーム） 第15回：デスクトップアプリケーション4（ゲーム）					
<b>【授業計画 備考2】</b> 時間があれば、機械学習も体験する。					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢／態度		40%	意欲的な受講態度、提出課題（完答できなかった小テスト問題）によって評価する。	
	レポート				
	小テスト		30%	提示した問題に対して時間内に意図した動作をするアプリを作成できること。	
	定期試験				
	その他		30%	作品制作（学んだ内容が十分に活かしているか、ドキュメント内容）	
自由記載					
<b>【受講の心得】</b> 1. 情報フィールド（プログラミング）の科目であり、同分類のこれまでの開講科目を履修し理解している事を前提に授業を進める。 2. 学修に取り組まない場合はもちろんであるが、私語・音楽他を聞く・動画を参照・関係無いWeb参照・モバイルデバイス进行操作等の「ながら勉強」についても「授業への取り組みの姿勢／態度」において大幅なマイナス評価を行う。 3. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ、その出席を無効とする。					
<b>【授業外学修】</b> 1. 予習として、授業内容にかかわる部分をWebで調べ、疑問点を明らかにする。 2. 復習として、授業で扱った内容を理解し参考資料を見ずにプログラミングできるようにしておく（授業内で数回、前回までの授業内容に関する小テストを行うので、過去の授業で扱った内容も忘れないよう学修しておくことが必要である。完答できなかった小テスト問題は次の授業までに動作させておくこと）。 3. 作品制作とドキュメントの整備を行う。 以上の内容に必要な時間の目安は、各人の理解度によるが週当たり1時間である。					
使用テキスト	自由記載	目まぐるしく変化する分野なので、履修登録時に指示する。			
参考書	自由記載				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有					
<b>【担当教員の实務経験】</b> システムエンジニア					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> アプリケーション開発およびプログラミング的思考を指導する。					

授業科目名	SQL演習		サブタイトル		授業番号	SC335
担当教員名	古谷 俊爾					
対象学部・学科	情報ビジネス学科			単位数	1単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
SQL (Structured Query Language) は、ANSI (アメリカ規格協会) やISO (国際標準化機構) が規格化しているリレーショナルデータベースの定義・操作を行う為の言語である。直接データベースを操作する時に使えることはもちろん、特にプログラムでデータ保管を考慮する時にSQLは必須知識である。本科目では、SQLの基礎から、プログラミングでのSQL利用まで幅広く演習する。						
<b>【到達目標】</b>						
SQLについて知りデータベースを操れること、アプリケーションにおけるSQLの役割を知ることを目標とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>、<思考・問題解決能力>および<技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：SQL概説 復習：SQLとは何かをWebで調べる。 第2回：データ取得の基本 (SELECT文の基本, IN, BETWEEN, パターンマッチング) 復習：授業で扱ったSELECT文の基本を理解する。 第3回：データ取得の基本 (基本問題演習) 復習：授業で扱った演習問題を理解する。 第4回：データ取得の基本 (実践的なデータによる考え方) 復習：授業で扱った目的に応じたデータ取得を理解する。 第5回：データ取得の基本 (実践的なデータによる問題演習) 復習：授業で扱った演習問題を理解する。 第6回：データ取得の基本 (別の実践的なデータによる考え方, 並べ替え) 復習：授業で扱った目的に応じたデータ取得を理解する。 第7回：データ取得の基本 (別の実践的なデータによる問題演習) 復習：授業で扱った演習問題を理解する。 第8回：副問い合わせ 復習：授業で扱った副問い合わせのSQLを理解する。 第9回：副問い合わせ (問題演習) 復習：授業で扱った演習問題を理解する。 第10回：結合 復習：複数表のSQLを理解する。 第11回：結合 (問題演習) 復習：授業で扱った演習問題を理解する。 第12回：その他のSQL (追加, 変更, 削除, テーブル作成) 復習：SELECT以外のSQLを理解する。 第13回：ソフトウェア開発におけるデータベースの利用1 復習：ソフトウェア開発におけるデータベースの活用について理解する。 第14回：ソフトウェア開発におけるデータベースの利用2 復習：ソフトウェア開発におけるデータベースの活用について理解する。 第15回：ソフトウェア開発におけるデータベースの利用3 復習：ソフトウェア開発におけるデータベースの活用について理解する。						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢 / 態度		50%	意欲的な受講態度, 予復習の状況によって評価する。		
	レポート					
	小テスト		50%	提示した問題に対して時間内に意図した動作をするSQLを作成できること。		
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
1. 十分な授業外学修がなされていることを前提に授業を進める。 2. 情報フィールド (プログラミング) の科目であり、同分類のこれまでの開講科目を履修し理解している事を前提に授業を進める。 3. 「アプリ開発演習」は同時履修していることを前提に授業を進める。 4. 学修に取り組みない場合はもちろんであるが、私語・音楽他を聞く・動画を参照・関係無いWeb参照・モバイルデバイス进行操作等の「ながら勉強」についても「授業への取り組みの姿勢 / 態度」において大幅なマイナス評価を行う。 5. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ、その出席を無効とする。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 予習は授業で指示したWebサイトあるいはプリントの該当範囲を一読しておくこと。 2. 授業計画の復習で示した内容を行っておくこと。何も参照しなくてもできるまでしっかり復習しておくこと (個人差はあるが目安は各回につき1時間である)。 3. 複数回の授業でそれまでの授業内容に関する小テストを行うので、授業計画の復習で示した内容にかかわらず過去の授業で扱った内容は忘れないよう学修しておくことが必要である。完答できなかった小テスト問題は、次の授業までに完答しておくこと。						
使用テキスト	自由記載	資料を配布またはWeb等で参照できるようにする。				
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	スッキリわかる SQL 入門		中山 清喬ほか	インプレスジャパン	2800	978-4844333937
	自由記載	参考サイト：SQL攻略, SQLZOO				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の実務経験】</b>						
システムエンジニア						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

**【実務経験をいかした教育内容】**

高度なSQLによる必要なデータの取得およびソフトウェア開発での活用知識・技能・考え方を指導する。



授業科目名	デジタルフォト		サブタイトル		授業番号	SG111
担当教員名	福森 護 藤原 美佳					
対象学部・学科	情報ビジネス学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
本授業では、デジタルカメラのメカニズムや撮影テクニック、写真の加工技術などの基礎について学習する。具体的には、露出・構図・ホワイトバランス・ISO感度などの基礎知識、及び、デジタル写真の補正技術について学習する。						
<b>【到達目標】</b>						
デジタルカメラの基礎知識の習得、また写真撮影のスキルアップを目標とする。デジタル写真を通して、個々の持つ個性や感性を磨くことができればと思っている。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：デジタル写真の基礎知識 1（デジタルカメラのしくみ、レンズのメカニズム）（担当福森・藤原）						
第2回：デジタル写真の基礎知識 2（絞り・シャッタースピード・露出）（担当福森・藤原）						
第3回：デジタル写真の基礎知識 3（ホワイトバランス・ISO感度・測光方式）（担当福森・藤原）						
第4回：デジタル写真の基礎知識 4（構図のテクニック）（担当福森・藤原）						
第5回：場面別の撮影技術（風景、ポートレート、スナップ、商品、接写など）（担当福森・藤原）						
第6回：写真撮影の実践 1（静止している被写体を撮影する：絞り優先オート of の撮影技術）（担当福森・藤原）						
第7回：写真撮影の実践 2（動いている被写体を撮影する：シャッタースピード優先オート of の撮影技術）（担当福森・藤原）						
第8回：写真撮影の実践 3（ドローン、ジンバルを使用して撮影する）（担当福森・藤原）						
第9回：撮影した写真の講評 1（担当福森・藤原）						
第10回：撮影した写真の講評 2（担当福森・藤原）						
第11回：Lightroomによる写真補正 1（基本操作）（担当藤原・福森）						
第12回：Lightroomによる写真補正 2（写真補正の基礎）（担当藤原・福森）						
第13回：Lightroomによる写真補正 3（写真補正の応用）（担当藤原・福森）						
第14回：Lightroomによる写真補正 4（撮影データの補正 1）（担当藤原・福森）						
第15回：Lightroomによる写真補正 5（撮影データの補正 2）（担当藤原・福森）						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢 / 態度		50%	毎回の授業中の課題により評価を行う。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他		50%	作品を提出する。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
写真に関する特別な知識や技術は必要ないが、本授業を通して少しでもデジタルカメラに対して興味を持ってもらえればと思っている。また本授業は講義科目ではあるが、写真撮影の演習も取り入れて授業を進めていく予定である。						
<b>【授業外学修】</b>						
1) 予習として、次回に学ぶ予定の内容について、書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。						
2) 復習として、学んだ内容の整理を行う。						
3) 最終的な作品制作のために日々の生活において撮影の実践を行う。						
以上の内容に対して、週 4 時間以上の学修を行うこととする。						
使用テキスト	自由記載	授業の中で別途指示する。また必要に応じてWEBで教材を提供する予定である。				
参考書	自由記載	授業の中で適宜紹介する。				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
藤原：ミカプロ代表（デザイン・撮影・映像制作）						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
フリーランスとしての活動経験を活かして、Lightroomによる写真の高度な補正技術について解説する。						

授業科目名	デジタルフォト演習		サブタイトル		授業番号	SG312
担当教員名	福森 護 藤原 美佳 高瀬 智司					
対象学部・学科	情報ビジネス学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
本授業は、9月に4日間の集中講義として開講される予定である。第1日目はデジタル写真の撮影テクニックの基礎知識について学び、第2日目及び第3日目は学外で撮影会を行う。そして第4日目に写真のレタッチを行い、撮影した写真の鑑賞・展示を行う。						
<b>【到達目標】</b>						
デジタルカメラの高度な撮影テクニックの習得を目標とする。また、デジタル写真を正しく見る目を養うことを目指す。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞および＜技能＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：写真撮影の基礎1（デジタルカメラのメカニズム）（担当高瀬・福森・藤原）						
第2回：写真撮影の基礎2（レンズ・ストロボの使い方）（担当高瀬・福森・藤原）						
第3回：写真撮影の基礎3（露出、測光、ホワイトバランス、感度、撮影方式、AEロックなど）（担当高瀬・福森・藤原）						
第4回：写真撮影の基礎4（構図のテクニック）（担当高瀬・福森・藤原）						
第5回：学外における写真撮影の実践（倉敷美観地区での撮影会1）（担当高瀬・福森・藤原）						
第6回：学外における写真撮影の実践（倉敷美観地区での撮影会2）（担当高瀬・福森・藤原）						
第7回：学外における写真撮影の実践（倉敷美観地区での撮影会3）（担当高瀬・福森・藤原）						
第8回：学外における写真撮影の実践（倉敷美観地区での撮影会4）（担当高瀬・福森・藤原）						
第9回：学外における写真撮影の実践（風景写真・人物写真の撮影会1）（担当高瀬・福森・藤原）						
第10回：学外における写真撮影の実践（風景写真・人物写真の撮影会2）（担当高瀬・福森・藤原）						
第11回：学外における写真撮影の実践（風景写真・人物写真の撮影会3）（担当高瀬・福森・藤原）						
第12回：学外における写真撮影の実践（風景写真・人物写真の撮影会4）（担当高瀬・福森・藤原）						
第13回：Lightroomによる写真の加工1（写真の取り込み、レベル補正など）（担当高瀬・福森・藤原）						
第14回：Lightroomによる写真の加工2（色調補正、合成など）（担当高瀬・福森・藤原）						
第15回：撮影作品の講評・展示（担当高瀬・福森・藤原）						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		50%	毎回の授業中の課題により評価を行う。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他		50%	写真作品の提出		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
本授業は4日間の集中講義である。授業の中で、学外での撮影会も行う予定である。高いモチベーションで写真撮影に取り組んで頂きたい。						
<b>【授業外学修】</b>						
毎回、5時間以上の予習・復習を行うこと。						
使用テキスト	自由記載	テキストは使用せず、必要に応じてプリントを配布する。				
参考書	自由記載	授業の中で適宜紹介する。				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
高瀬：プロカメラマン・フォトグラファー、藤原：ミカプロ代表（デザイン・撮影・映像制作）						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
プロカメラマンとしてのテクニックを指導する。（高瀬）						
フリーランスとしての活動経験を活かして、写真撮影の実践的な技術について指導する。（藤原）						

授業科目名	映像制作演習 A		サブタイトル	授業番号	SW213
担当教員名	福森 護 藤原 美佳				
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	1単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b>					
映像制作を行うための企画・構成の方法，Adobe Premiere Proを用いた動画変種の基本的なスキル，ドローンによる撮影技術などについて学修する。					
<b>【到達目標】</b>					
Adobe Premiere Proを用いて，動画変種の基本的なスキルの修得を目指す。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉および〈技能〉の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b>					
第1回：動画制作の基本的な考え方 (担当藤原・福森)					
第2回：Premiere Proの基本操作（起動から終了までの基本操作） (担当藤原・福森)					
第3回：（基礎編）動画編集のテクニック1（カット編集，クリップの挿入） (担当藤原・福森)					
第4回：（基礎編）動画編集のテクニック2（エフェクト，トランジション） (担当藤原・福森)					
第5回：（基礎編）動画編集のテクニック3（色調補正） (担当藤原・福森)					
第6回：（基礎編）動画編集のテクニック4（テキスト入力，BGM挿入） (担当藤原・福森)					
第7回：ドローンによる撮影技法1（キャリアレーション，飛行テクニック，撮影，保存などの基本操作） (担当福森・藤原)					
第8回：ドローンによる撮影技法2（タップフライ，アクティブトラックなどの応用操作） (担当福森・藤原)					
第9回：（応用編）動画編集のテクニック1（アニメーション） (担当藤原・福森)					
第10回：（応用編）動画編集のテクニック2（速度変更，手振れ補正） (担当藤原・福森)					
第11回：（応用編）動画編集のテクニック3（マルチカメラ編集） (担当藤原・福森)					
第12回：（応用編）動画編集のテクニック4（色調補正） (担当藤原・福森)					
第13回：（応用編）動画編集のテクニック5（ライトリークス） (担当藤原・福森)					
第14回：（応用編）動画編集のテクニック6（フィルム風動画） (担当藤原・福森)					
第15回：（応用編）動画編集のテクニック7（特定のカラー抽出） (担当藤原・福森)					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	50%	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。		
	レポート				
	小テスト				
	定期試験				
	その他	50%	授業で出された課題を提出する。		
	自由記載				
<b>【受講の心得】</b>					
動画制作に関して基礎から説明しますので，動画制作経験の有無は問いません。これからの時代に必要とされるスキルですので，興味を持って楽しく取り組んでください。					
<b>【授業外学修】</b>					
1) 予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理しておく。					
2) 復習として，学んだ内容の整理を行い，作品課題の制作を行う。					
3) 発展として，自ら課題を見つけて，作品の制作スキルを向上させる。					
以上の内容に対して，毎週1時間以上の学修を行うこと。					
使用テキスト	自由記載	テキストは使用せず，必要に応じてプリントを配布する。またClassroomにより，授業で使用した資料を配信する。			
参考書	自由記載	授業の中で適宜指示をする。			
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>					
藤原：ミカプロ代表（映像制作・撮影・デザイン）					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>					
無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>					
フリーランスとして行ってきた映像制作活動の経験を活かして，企画から制作完了までの指導を行う。					

授業科目名	映像制作演習 B		サブタイトル	授業番号	SG313
担当教員名	福森 護 藤原 美佳				
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	1単位		
開講年次	2年	開講期	前期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
【授業の概要】					
映像制作演習 A で学んだスキルを活かして、3 週間に 1 作品のペースで実践的に映像作品の制作を行う。 なお、受講者の目的に応じて、グループに分けて、授業を進める予定である。					
【到達目標】					
高度な撮影技法および Adobe Premiere を用いた高度な編集技法を学修する。 作品制作を通して、実践的なスキルを修得する。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、< 思考・問題解決能力 > および < 技能 > の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：（実践編）レシビ動画の制作 1（構成、素材の配置）（担当藤原・福森）					
第2回：（実践編）レシビ動画の制作 2（タイトル作成、テキスト挿入）（担当藤原・福森）					
第3回：（実践編）レシビ動画の制作 3（BGM挿入）（担当藤原・福森）					
第4回：（実践編）プロモーション動画の制作 1（構成、素材の配置）（担当藤原・福森）					
第5回：（実践編）プロモーション動画の制作 2（タイトル作成、テキスト挿入）（担当藤原・福森）					
第6回：（実践編）プロモーション動画の制作 3（BGM挿入）（担当藤原・福森）					
第7回：（実践編）「未来」をテーマにした映像作品の制作 1（企画・構成）（担当福森・藤原）					
第8回：（実践編）「未来」をテーマにした映像作品の制作 2（撮影・編集）（担当福森・藤原）					
第9回：（実践編）「未来」をテーマにした映像作品の制作 3（プレビュー）（担当福森・藤原）					
第10回：（実践編）「元気」をテーマにした映像作品の制作 1（企画・構成）（担当福森・藤原）					
第11回：（実践編）「元気」をテーマにした映像作品の制作 2（撮影・編集）（担当福森・藤原）					
第12回：（実践編）「元気」をテーマにした映像作品の制作 3（プレビュー）（担当福森・藤原）					
第13回：（実践編）フリーテーマによる作品制作 1（企画・構成）（担当福森・藤原）					
第14回：（実践編）フリーテーマによる作品制作 2（撮影・編集・プレビュー）（担当福森・藤原）					
第15回：YouTube のアカウント取得とチャンネル設定、動画のアップロード、動画の収益化の方法と再生回数増加のテクニック（担当福森・藤原）					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢 / 態度		40%	意欲的な受講態度、予・復習の状況によって評価する。	
	レポート				
	小テスト				
	定期試験				
	その他		60%	作品を提出する。	
自由記載					
【受講の心得】					
映像制作について興味を持って、楽しみながら取り組んでください。					
【授業外学修】					
1) 予習として、次回に学ぶ予定の内容について、書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理しておく。					
2) 復習として、学んだ内容の整理を行い、作品課題の制作を行う。					
3) 発展として、自ら課題を見つけて、作品の制作スキルを向上させる。					
以上の内容に対して、毎週 1 時間以上の学修を行うこと。					
使用テキスト	自由記載	テキストは使用せず、必要に応じてプリントを配布する。また、Classroom により、授業で使用した資料を配信する。			
参考書	自由記載	授業の中で適宜指示をする。			
【担当教員の実務経験の有無】					
有					
【担当教員の实務経験】					
藤原：ミカプロ代表（映像制作・撮影・デザイン）					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】					
無					
【実務経験をいかした教育内容】					
フリーランスとして行ってきた映像制作活動の経験を活かして、企画から制作完了までの指導を行う。					

授業科目名	情報メディア論		サブタイトル	授業番号	SG314
担当教員名	福森 護 藤本 宏美				
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	後期		
必修・選択	必修	授業形態	講義		
【授業の概要】 本授業は、インターネット・SNS、ロボット・人工知能、映像・放送、地球・宇宙などの内容について学修する。 現在、ソーシャルメディアの台頭によって新聞・出版・放送といったメディアは構造改革を迫られている。メディアの現状と未来について考察するため、まずはインターネットの社会的な役割などについて考察する。また、ロボットや人工知能の急速な普及に対応するために、それらの現状及び役割・問題点・今後の課題などについて考察する。					
【到達目標】 インターネット、人工知能、ロボット、テレビ、宇宙などについての原理的な把握を行い、今後の展望について分析する。 本講義では、メディアの特性およびメディアが伝える情報の内容を正しく理解した上で、具体例を通じて各自のメディア・リテラシー（メディアの理解力）を高めていくことを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：インターネットの社会的役割		(担当福森)			
第2回：ソーシャルネットワークの現状と問題点		(担当福森)			
第3回：インターネットトラブル・コンピュータウィルス		(担当福森)			
第4回：人とロボットの共存について考える		(担当福森)			
第5回：地球の誕生とその歴史を知り、近未来について考える		(担当福森)			
第6回：ロボット・人工知能とは？		(担当藤本)			
第7回：ロボット・人工知能の歴史と発展の過程と今後の展望		(担当藤本)			
第8回：インタロボットのiRT技術とヒューマンインターフェイス		(担当外部講師，藤本)			
第9回：ニューラルネットワークとディープラーニング		(担当藤本)			
第10回：依存関係・因果関係の視覚化と感性・官能評価法		(担当藤本)			
第11回：テレビの社会的な役割と問題点		(担当外部講師（元NHK），福森)			
第12回：テレビの番組制作技法について知る		(担当外部講師（元NHK），福森)			
第13回：宇宙及び太陽系について知る		(担当福森)			
第14回：メディアを通して、人間の価値について考える		(担当福森)			
第15回：これからのメディアの役割と展望		(担当福森)			
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。		
	レポート	70%	期末にレポート課題を課す。		
	小テスト				
	定期試験				
	その他				
	自由記載				
【受講の心得】 インターネット社会においてメディアとの関わり方は変化しつつあります。 現代の社会状況やメディア全般について理解を深め、少しでも関心を持っていただくことを期待します。					
【授業外学修】 1) 予習として、次回に学ぶ予定の内容について、書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。 2) 復習として、学んだ内容の整理を行い、レポート課題の作成を行う。 3) 発展として、自ら課題を見つけて、情報収集し、考察を行う。 以上の内容に対して、週4時間以上の学修を行うこととする。					
使用テキスト	自由記載	テキストは使用せず、パワーポイントや映像を用いて授業を進める。また、必要に応じてプリントを配布する。			
参考書	自由記載	授業の中で適宜紹介する。			
【担当教員の実務経験の有無】 無					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					

授業科目名	コンピュータグラフィックス		サブタイトル		授業番号	SG221
担当教員名	橋 真由美					
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b>						
<p>本講座では、モデリング、レンダリングなどの2次元および3次元画像生成の基礎知識や、コンピュータアニメーション技術、画像合成などのコンピュータグラフィックス技術について学習する。</p> <p>また、授業の内容にはCG検定の対策が含まれる。</p>						
<b>【到達目標】</b>						
<p>「イラストレータ」「フォトショップ」等のソフトを使い、コンピュータ上でデザインし、レイアウトを行う。</p> <p>限られたスペースの中でどれだけ自分の感性が表現できるかがポイントとなる。</p> <p>最終的にはデジタル画像を表現するテクニックについて修得することを目標とする。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。</p>						
<b>【授業計画】</b>						
<p>第1回：ガイダンス「コンピュータ・グラフィックスとは」</p> <p>第2回：2次元グラフィックスの基礎＜1＞</p> <p>第3回：2次元グラフィックスの基礎＜2＞</p> <p>第4回：3次元グラフィックスの基礎＜1＞</p> <p>第5回：3次元グラフィックスの基礎＜2＞</p> <p>第6回：「イラストレータ」「フォトショップ」の基本操作</p> <p>第7回：制作＜1＞</p> <p>第8回：コンピュータアニメーション＜1＞</p> <p>第9回：コンピュータアニメーション＜2＞</p> <p>第10回：制作＜2＞</p> <p>第11回：制作＜3＞</p> <p>第12回：バーチャルリアリティ＜1＞</p> <p>第13回：バーチャルリアリティ＜2＞</p> <p>第14回：知的所有権について</p> <p>第15回：制作4＞とまとめ</p>						
<b>【授業計画 備考2】</b>						
技術の修得を確認するために、制作時間を設ける。徐々に制作課題のレベルを上げていく。						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	20%	意欲的な授業態度、予習・復習の状況によって評価する。			
	レポート	80%	授業中の課題および最終課題（制作）で、計画的に制作に取り組んでいるか、作品づくりで技術の修得と理解度を評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b>						
デザイン、ホームページ制作に興味のある学生。						
<b>【授業外学修】</b>						
<p>1.予習として、授業計画に示した内容についてインターネット等で幅広い知識を得ておく。</p> <p>2.復習として、授業中に出题する課題を行う。</p> <p>3.最終課題提示後はその制作を行う。</p> <p>以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。</p>						
使用テキスト	自由記載	テキストは使用せず、必要なものはプリントして配布する。				
参考書	自由記載	授業の中で、適宜紹介していく。				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
グラフィックデザイン（起業）						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
実際の現場での傾向やワークフローを伝えながら、必要なスキルを身につけるための指導を行います。						

授業科目名	マルチメディア演習 A		サブタイトル		授業番号	SW222	
担当教員名	古谷 俊爾 福森 護 藤原 美佳						
対象学部・学科	情報ビジネス学科			単位数	1単位		
開講年次	2年			開講期	前期		
必修・選択	必修			授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b>							
本授業では、デジタル画像の加工技術、アニメーション制作、3Dグラフィックスなどの基礎技術について演習を行う。 また、Photoshopクリエイター検定スタンダードおよびマルチメディア検定に対応した内容も取り入れて授業を行う予定である。							
<b>【到達目標】</b>							
デジタル画像、アニメーション、3Dグラフィックスなどの演習を通して、マルチメディア技法に関するスキルアップはもとより、マルチメディア技術への理解を深めることを目標とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>および<技能>の修得に貢献する。							
<b>【授業計画】</b>							
第1回：Photoshop演習1：Photoshopの基本操作 (担当古谷)							
第2回：Photoshop演習2：選択範囲の作成 (担当古谷)							
第3回：Photoshop演習3：画像の移動と変形 (担当古谷)							
第4回：Photoshop演習4：カラーモードと色調補正、ペイント(ペイント系のツール) (担当古谷)							
第5回：Photoshop演習5：ペイント(レタッチ系のツール、ペイント系のコマンド) (担当古谷)							
第6回：Photoshop演習6：レイヤー操作 (担当古谷)							
第7回：Photoshop演習7：パスとシェイプ、テキスト(入力と編集) (担当古谷)							
第8回：Photoshop演習8：テキスト(文字の加工)、フィルター (担当古谷)							
第9回：Photoshop演習9：画像の入出力、Photoshopクリエイター能力認定試験スタンダード模擬問題1 (担当古谷)							
第10回：Photoshop演習10：Photoshopクリエイター能力認定試験スタンダード模擬問題2 (担当古谷)							
第11回：After Effectによるモーショングラフィックス1(特殊効果) (担当藤原)							
第12回：After Effectによるモーショングラフィックス2(レンズフレア) (担当藤原)							
第13回：After Effectによるモーショングラフィックス3(グローエフェクト) (担当藤原)							
第14回：3Dモデリングの応用1(やや複雑な車の制作) (担当福森)							
第15回：3Dモデリングの応用2(人の顔の制作) (担当福森)							
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	意欲的な受講態度、予・復習の状況によって評価する。			
	レポート						
	小テスト						
	定期試験						
	その他		70%	授業中の課題、作品など			
自由記載							
<b>【受講の心得】</b>							
初心者にも十分に理解できるような内容で授業を進めていくが、ある程度高いレベルの学生にも対応できるように工夫して授業を行う予定である。興味を持って楽しみながら受講していただければと思っている。							
<b>【授業外学修】</b>							
1) 予習として、次回に学ぶ予定の内容について、書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。							
2) 復習として、学んだ内容の整理を行い、作品課題の制作を行う。							
3) 発展として、自ら課題を見つけて、作品の制作スキルを向上させる。							
以上の内容に対して、毎週1時間以上の学修を行うこと。							
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	PhotoshopクイックマスターCC			ウイネット	ウイネット	2600	987-4-87284-8 19-9
	自由記載	古谷はテキストを使用する。福森・藤原はテキストは使用せず、パワーポイントを使用して授業を進める予定である。また、必要に応じてプリントを配布する。					
参考書	自由記載	授業の中で適宜紹介する。					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
	有						
<b>【担当教員の実務経験】</b>							
古谷：システムエンジニア、藤原：ミカプロ代表(デザイン・撮影・映像制作)							
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>							
無							
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>							
システムエンジニアでのPhotoshopを利用した画像加工の経験をいかして、画像加工の指導を行う。(古谷)							
フリーランスとしての活動を活かして、モーショングラフィックスに関するプロの技術を解説する。(藤原)							

授業科目名	マルチメディア演習 B		サブタイトル		授業番号	SW322
担当教員名	古谷 俊爾 福森 護 藤原 美佳					
対象学部・学科	情報ビジネス学科			単位数	1単位	
開講年次	2年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
本授業では、マルチメディア演習 A で学んだ基礎知識を用いて、さらに高度な技術について学び、実践的な作品制作を行う。また、Photoshopクリエイター検定エキスパートおよびマルチメディア検定に対応した内容も取り入れて授業を行う予定である。						
<b>【到達目標】</b>						
デジタル画像、アニメーション、3Dグラフィックスなどのやや高度な応用的な技術の習得を目標とする。また作品制作を通して、実践的なスキルアップを目指す。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞および＜技能＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：Photoshop演習1：フォトタッチ1（色調補正の基本）（担当古谷）						
第2回：Photoshop演習2：フォトタッチ2（実践）（担当古谷）						
第3回：Photoshop演習3：ロゴデザイン（担当古谷）						
第4回：Photoshop演習4：カード&ステーションナリー（フォトカード・立体ポップ）（担当古谷）						
第5回：Photoshop演習5：カード&ステーションナリー（ブックカバー）（担当古谷）						
第6回：Photoshop演習6：フォトコラージュ（連続写真の合成・旅のコラージュポストカード）（担当古谷）						
第7回：Photoshop演習7：フォトコラージュ（前回の続き・イラストと背景の合成）（担当古谷）						
第8回：Photoshop演習8：Webサイトのデザイン1（担当古谷）						
第9回：Photoshop演習9：Webサイトのデザイン2（担当古谷）						
第10回：Photoshop演習10：Photoshopクリエイター能力認定試験エキスパート模擬問題（担当古谷）						
第11回：After Effectによるモーショングラフィックスの応用1（レイヤーの合成）（担当藤原）						
第12回：After Effectによるモーショングラフィックスの応用2（マスクパス）（担当藤原）						
第13回：After Effectによるモーショングラフィックスの応用3（トラックマット）（担当藤原）						
第14回：MMDによるモーション作成1：基本操作（担当福森）						
第15回：MMDによるモーション作成2：作品制作（担当福森）						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	意欲的な受講態度、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート		70%	授業中の課題、レポート、作品		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
実践的で、ある程度高いレベルが要求されるが、興味を持って楽しみながら受講していただければと思っている。						
<b>【授業外学修】</b>						
1) 予習として、次回に学ぶ予定の内容について、書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。						
2) 復習として、学んだ内容の整理を行い、作品課題の制作を行う。						
3) 発展として、自ら課題を見つけて、作品の制作スキルを向上させる。						
以上の内容に対して、毎週1時間以上の学修を行うこと。						
使用テキスト	書名			著者・編集者	出版社	定価
	PhotoshopクイックマスターCC			ウイネット	ウイネット	2600
	自由記載	古谷はテキストを使用する。藤原・福森はテキストは使用せず、パワーポイントを使用して授業を進める予定である。また、必要に応じてプリントを配布する。				
参考書	自由記載	授業の中で適宜紹介する。				
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
<b>【担当教員の実務経験】</b>						
古谷：システムエンジニア、藤原：ミカプロ代表（デザイン・撮影・映像制作）						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
システムエンジニアでのPhotoshopを利用した画像加工の経験をいかして、画像加工の指導を行う。（古谷）						
フリーランスとしての活動を活かして、モーショングラフィックスに関するプロの技術を解説する。（藤原）						



授業科目名	音響メディア論		サブタイトル		授業番号	SG131
担当教員名	河田 健二					
対象学部・学科	情報ビジネス学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	前期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
<b>【授業の概要】</b>						
音を記録・保存する技術は近年高度な発達を見せている。この授業ではそのような記録・保存媒体としてのデジタル機器やその周辺機器について解説する。また、広い意味では楽器や声も音響メディアと言える。最近のデジタル楽器だけでなく、その発展過程の様々な機器や、楽器も含めて、その魅力や特徴について解説する。						
<b>【到達目標】</b>						
音響機器・楽器について幅広く知識を持ってもらうことを到達目標とする。なお、本科目はティプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、知識・理解の習得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：音と音響について 第2回：各種メディアについての概要 第3回：記録・保存媒体としての機器・メディア 1 第4回：記録・保存媒体としての機器・メディア 2 第5回：記録・保存媒体としての機器・メディア 3 第6回：記録・保存媒体としての機器・メディア 4 第7回：記録・保存媒体としての機器・メディア 5 第8回：PAについて 1 第9回：PAについて 2 第10回：PAについて 3 第11回：楽器について 1 第12回：楽器について 2 第13回：楽器について 3 第14回：声・声楽について 第15回：その他、音響に関することと全体のまとめ						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		10%	熱心な受講態度。		
	レポート		50%	レポートのテーマに対して調べた内容を自分の言葉で表現できていること。レポートについてはコメントを記入して返却する。		
	小テスト		40%	それぞれの分野毎に理解度を確認する。		
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
扱うジャンルの幅が広いので、思考を柔軟にして受講すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
新しい知識が多いと思うので、授業内で解説したことが定着するように復習することが大切である。以上の内容について週4時間以上の学修を行うこと。						
使用テキスト	自由記載	なし				
参考書	自由記載	必要に応じて授業内で紹介する。また、必要に応じて資料を配布する。				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	コンピュータミュージック		サブタイトル		授業番号	SG232
担当教員名	河田 健二					
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b>						
かつて曲を作ることは限られた一部の人のみであった。現在ではコンピュータを使用することで、誰でも気軽に曲を作り楽しむことが出来るようになった。この授業ではコンピュータ上で音楽を作成することを学習する。具体的にはSinger song writerおよびボーカロイドの2種類のソフトウェアを使用し音楽を作成する。とは言い必要最小限の音楽的知識は必要であるので、音楽の知識（音楽理論）についても毎回少しずつ解説する。						
<b>【到達目標】</b>						
自分の力で何らかの楽曲を作成出来ることを到達目標とする。なお、本科目はティプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、技能の習得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：音（音楽）と楽譜の関係・楽譜の基礎知識						
第2回：使用するソフトウェアについての基礎知識						
第3回：Singer song writerを使用した音楽作成1・音楽理論の解説1						
第4回：Singer song writerを使用した音楽作成2・音楽理論の解説2						
第5回：Singer song writerを使用した音楽作成3・音楽理論の解説3						
第6回：Singer song writerを使用した音楽作成4・音楽理論の解説4						
第7回：Singer song writerを使用した音楽作成5・音楽理論の解説5						
第8回：Singer song writerを使用した音楽作成6・音楽理論の解説6						
第9回：ボーカロイドを使用した音楽作成1・音楽理論の解説7						
第10回：ボーカロイドを使用した音楽作成2・音楽理論の解説8						
第11回：ボーカロイドを使用した音楽作成3・音楽理論の解説9						
第12回：ボーカロイドを使用した音楽作成4・音楽理論の解説10						
第13回：Singer song writerとボーカロイドのデータ連結1						
第14回：Singer song writerとボーカロイドのデータ連結2						
第15回：完成した作品の試演会						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート					
	小テスト					
	定期試験	50%	音楽理論の理解度を評価する。			
	その他	50%	作品提出とし、提出された作品の完成度について評価する。			
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
毎回の積み重ねで演習を行うため遅刻・欠席をしないよう気をつけること。やむを得ず遅刻・欠席をした場合は担当教員に聞くなどし、抜けている箇所がないよう努力すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
授業で配布する楽曲を、指定する範囲までを次回の授業までに完了させること。また、自由課題については授業外での学習（入力・編集作業）が多くなるため多くの時間を必要とする。以上の内容について週4時間以上の学修を行うこと。						
使用テキスト	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN	
	最もわかりやすい楽典入門	坪野春枝	(有)ケイ・エム・ビー	800円+税	978-4-7732-1401-7 C0073	
自由記載						
参考書	自由記載	必要に応じて授業内で紹介する。また、打ち込みの素材となる楽曲を配布する。				
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	無					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	ウェブデザインA		サブタイトル		授業番号	SG141
担当教員名	古谷 俊爾					
対象学部・学科	情報ビジネス学科			単位数	2単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	講義	
【授業の概要】						
ウェブサイトは様々な技術によって成り立っており、表現や機能に至るまでこれらの技術によって実現され進化を続けている。本科目では、ウェブサイト制作の基礎知識およびウェブページ作成に必要なマークアップ言語であるHTMLやウェブページのスタイルを決めるCSSについて演習を交えながら説明する。						
【到達目標】						
次に掲げる内容を目標とする。						
1.ウェブページの作成方法、ウェブサイト構築に関するインターネットの利用技術について説明できる。						
2.ウェブデザイン実務を理解し、マークアップ言語「HTML」やウェブページのスタイルを決める「CSS」を用いて、見栄えのよいレイアウトを設定することができる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>および<技能>の修得に貢献する。						
【授業計画】						
第1回：ウェブデザイン概論 予・復習：ウェブデザイン・ウェブデザイナーの仕事についてウェブ等で調べる、第1章						
第2回：ウェブサイト・制作の基礎知識（ウェブサイト・ページの構成、ページを構成するファイル、作成手順） 予・復習：第1章、第2章前半						
第3回：HTMLの基礎（HTML5の特徴、HTMLの記述法、文字コード、トップページのHTML作成） 予・復習：第2章						
第4回：サンプル問題の使い方・演習（実技問題 問題1基本ページのHTMLの編集） 予・復習：第10章						
第5回：CSSの基礎1（CSSの記述法、セレクター、外部CSSファイルの読み込み） 予・復習：第3章-1～5						
第6回：CSSの基礎2（ボックスモデル） 予・復習：第3章-6～7						
第7回：CSSの基礎3（2カラムレイアウト） 予・復習：第3章-8～13						
第8回：高度なリストのデザイン 予・復習：第4章-1～4						
第9回：スマートフォン向けのCSS、テキスト主体のページ作成 予・復習：第4章-5、第5章						
第10回：テーブルとそのスタイル 予・復習：第6章						
第11回：ギャラリーレイアウト 予・復習：第7章						
第12回：フォームのHTML 予・復習：第8章-1～3						
第13回：フォームのCSS 予・復習：第8章-4～5						
第14回：デザインの基礎知識 予・復習：第9章						
第15回：ウェブサイト運営と著作権 予・復習：ウェブサイト運営および著作権についてウェブ等で調べる						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		40%	意欲的な受講態度、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート					
	小テスト		60%	ウェブページの作成方法およびウェブサイト構築に関するインターネットの利用技術が理解できているか。指示どおりWebサイトが制作できるか。		
	定期試験					
	その他					
	自由記載	オリジナルウェブサイト作品（条件は授業で指定する）を完成・提出した場合は評価に加える。 第15回の授業終了までに「Webクリエイター能力認定試験」資格を取得した場合は評価に加える。				
【受講の心得】						
1.「ウェブデザイン実務士」資格の必修科目である。ウェブデザインやウェブに関するプログラミングの基礎知識になるので、これらの関連科目を履修予定があれば必ず履修すること。						
2.「Webクリエイター能力認定試験 エキスパート」資格の出題範囲も念頭においているので、積極的に受験することを強くすすめる。						
3.授業ではコーディングにDreamweaverを用いる予定である。他の演習室や自宅では無料で使えるVisualStudio Code、BracketsやATOMといったエディタもおすすめする。						
4.演習に取り組みない場合はもちろんであるが、私語・音楽他を聞く・動画を参照・関係無いWeb参照・モバイルデバイス进行操作等の「ながら勉強」についても「授業への取り組みの姿勢/態度」において大幅なマイナス評価を行う。						
5.授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ、その出席を無効とする。						
【授業外学修】						
1.授業計画の予習で示したテキストの範囲を熟読し、不明点を明確にしておくこと。						
2.授業計画の復習で示したテキストの範囲を理解し、テキストを参照しなくても説明できるようにしておくこと。学んだ技術を使った簡単なサイトを自分で作成してみるのも効果的である。						
3.発展学修としてオリジナルウェブサイト作品を制作する。						
4.発展学修として「Webクリエイター能力認定試験 エキスパート」資格取得対策を行う。						
以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	Webクリエイター能力認定試験 HTML5対応 エキスパート 公式テキスト		FOM出版	FOM出版	2800	978-4-86510-206-2
	自由記載					

参考書	自由記載	
	【担当教員の実務経験の有無】 有	
	【担当教員の実務経験】 システムエンジニア	
	【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無	
	【実務経験をいかした教育内容】 ウェブサイト制作およびコーディング技術を指導する。	

授業科目名	ウェブデザインB		サブタイトル		授業番号	SG242
担当教員名	脇坂 基徳					
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
<b>【授業の概要】</b> Adobe PhotoshopやAdobe Illustratorを使用し、Webサイトのデザイン制作を効率よく進めるための実践を行う。  なお、本講義は「ウェブデザイン実務士」を取得するための必須科目であるため、「ウェブデザイン実務士」の取得および、実務可能なスキル取得を目指す。						
<b>【到達目標】</b> Adobe Photoshop、Adobe Illustratorを使ったデザイン、特にWebサイトデザインの際に各々がクオリティの高いデザインを作るための効率の向上を目指す。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>および<技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：Photoshopの基本設定 第2回：トップページデザインラフの制作 その1 第3回：トップページデザインラフの制作 その2 第4回：ワイヤーフレームの制作 その1 第5回：ワイヤーフレームの制作 その2 第6回：デザイン起こし技術習得 その1 第7回：デザイン起こし技術習得 その2 第8回：デザイン起こし技術習得 その3 第9回：デザイン起こし技術習得 その4 第10回：デザイン起こし技術習得 その5 第11回：デザイン起こし技術習得 その6 第12回：デザイン起こし技術習得 その7 第13回：デザイン起こし技術習得 その8 第14回：デザイン起こし技術習得 その9 第15回：最終課題の提出・まとめ						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	30%	意欲的な受講態度、課題提出の状況によって評価する。			
	レポート	70%	授業課題、および最終的な課題によって各回の理解度を評価する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b> 制作物の工程や結果を意識し、それを実現するための手段を考えながら受講すること。						
<b>【授業外学修】</b> デザインは知識を増やすことで自らの手段を増やすことができる。そのため、授業開始前までに2時間程度、授業終了後に2時間程度、各々が時間をとってWebデザインのアーカイブサイトを閲覧し、Webサイトデザインの予備知識を得ること。						
使用テキスト	自由記載	講師のブログ「WEB CRE8TOR」( <a href="http://webcre8tor.com/">http://webcre8tor.com/</a> )				
参考書	自由記載	授業の中で、適宜紹介していく。				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有						
<b>【担当教員の職務経験】</b> ウェブサイト制作事業の制作・経営者						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> ウェブサイトだけではなくデザイン制作の基本のノウハウをレクチャー。						

授業科目名	ウェブプログラミング演習		サブタイトル		授業番号	SG243
担当教員名	古谷 俊爾					
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	演習			
<b>【授業の概要】</b>						
ウェブページ上で動きのある画面を作り出すJavaScriptなどのウェブページ上のスクリプト言語などを使って行う動的表現の実現方法と、プログラムを作成するスキルを活用して多彩な機能をウェブページ上で実現する実践演習によって学ぶ。						
<b>【到達目標】</b>						
JavaScriptなどを使って動的表現の実現方法を理解し、プログラムを作成するスキルを活用して多彩な機能をウェブページ上で実現できるようになる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞および＜技能＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：Webページの基本(開発環境，Webサーバ・クライアント，HTML5，CSS3，デバッグ) 予・復習：1章 第2回：JavaScriptの基本文法（変数，条件文） 予・復習：2章(1～5) 第3回：JavaScriptの基本文法（繰り返し） 予・復習：2章(6) 第4回：JavaScriptの基本文法（配列） 予・復習：2章(7) 第5回：JavaScriptの基本文法（関数） 予・復習：2章(8) 第6回：JavaScriptによるWebページ処理1（DOM操作1） 予・復習：3章(1) 第7回：JavaScriptによるWebページ処理2（DOM操作2） 予・復習：3章(2) 第8回：Webアプリの作成 - 表示機能（カレンダー表示1） 予・復習：4章(1～2) 第9回：Webアプリの作成 - 表示機能（カレンダー表示2） 予・復習：4章(3) 第10回：Webアプリの作成 - 表示機能（日付選択，設定） 予・復習：4章(4～5) 第11回：Webアプリの作成 - 保存機能（Web Storage） 予・復習：5章(1～3) 第12回：Webアプリの作成 - 保存機能（データベース，データ追加・更新） 予・復習：5章(4～6) 第13回：Webアプリの作成 - 保存機能（検索・削除，その他） 予・復習：5章(7～9) 第14回：ライブラリの利用（jQuery） 予・復習：6章(1～3) 第15回：ライブラリの利用（jQuery UI） 予・復習：6章(4)						
<b>【授業計画 備考2】</b>						
JavaScriptを中心に学ぶ事は変えないが，変化がはやい分野なので必要に応じてテキストと授業計画を変更する。変更する場合は履修登録時および第1回目の授業で連絡する。						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		50%	意欲的な受講態度，予復習の状況によって評価する。		
	レポート					
	小テスト		50%	提示した問題に対して時間内に意図した動作をするプログラムを作成できること。		
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
1. メディアフィールド（ウェブデザイン）の科目であり，同分類のこれまでの開講科目を履修し理解している事を前提に授業を進める。 2. 学修に取り組まない場合はもちろんであるが，私語・音楽他を聞く・動画を参照・関係無いWeb参照・モバイルデバイス进行操作等の「ながら勉強」についても「授業への取り組みの姿勢/態度」において大幅なマイナス評価を行う。 3. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ，その出席を無効とする。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 授業計画の予習で示したテキスト範囲を必ず熟読し，例題を入力・動作確認しておくこと（個人差はあるが目安は各回につき2時間である）。 2. 授業計画の復習で示したテキスト範囲を理解し，授業で扱ったプログラム及びテキスト内の例題・実習問題を何も参照しなくてもプログラミングできるようにしておくこと（個人差はあるが目安は各回につき2時間である）。 3. 複数回の授業でそれまでの授業内容に関する小テストを行うので，授業計画の復習で示した内容にかかわらず過去の授業で扱った内容は忘れないよう学修しておくことが必要である。完答できなかった小テスト問題は次の授業までに理解・動作させておくこと。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	30時間アカデミック JavaScript入門		大川晃一ほか	実教出版	1800	978-4-407-34778-4
自由記載						
参考書	自由記載					
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
システムエンジニア						

【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】

無

【実務経験をいかした教育内容】

インタラクティブなウェブページを実現するプログラミング技術を指導する。

授業科目名	ウェブデザイン演習		サブタイトル	授業番号	SG344
担当教員名	脇坂 基徳				
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b> Webサイト制作のために必須であるHTML・CSSコーディングの実践を行う。 中でもマークアップ言語として最も新しいHTML5の知識を学び、実際にWebサイトの構築を行う。 なお、本講義は「ウェブデザイン実務士」を取得するための必須科目であるため、 「ウェブデザイン実務士」の取得および、実務可能なスキル取得を目指す。					
<b>【到達目標】</b> HTML・CSSのコーディングを実務レベルで習得することを目標とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞および＜技能＞の修得に貢献する。					
<b>【授業計画】</b> 第1回：ウェブデザインの基礎知識の解説。 第2回：ウェブサイトが表示される仕組み、各言語の役割、デザインにおけるルールなどの解説。 第3回：HTMLタグを使う意味、使用頻度の高いHTMLタグの解説。 第4回：HTMLコーディングによる基本ファイルの作成。 第5回：CSSの基本的な考え方と記述方法の習得、CSSリセットの記述。 第6回：<header></header>から<footer></footer>の役割について解説。 第7回：「ブロック」「入れ子」「インライン要素」「ブロック要素」について解説。 第8回：CSSへページ全体の指定、idとclassのCSSでの記述や画像アセットに関して解説。 第9回：<header></header>・<nav></nav>のコーディング、marginやpaddingの解説。 第10回：<footer></footer>のコーディング、jQueryを使用したスライドショーの解説・実装。 第11回：<article></article>・<div id="main"></main>・<aside></aside>のコーディング、jQueryを使用した画像のポップアップ機能の解説・実装。 第12回：Web動画埋め込みの解説・実装。 第13回：スクロールアニメーションの解説・実装。 第14回：モバイル端末への表示最適化の手法「レスポンシブWebデザイン」について解説・実装。 第15回：レスポンシブWebデザインでのメニュー実装。講義のまとめ。					
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考	
	授業への取り組みの姿勢／態度		30%	意欲的な受講態度，課題提出の状況によって評価する。	
	レポート		70%	授業課題，および最終的な課題によって各回の理解度を評価する。	
	小テスト				
	定期試験				
	その他				
自由記載					
<b>【受講の心得】</b> 制作物の工程や結果を意識し、それを実現するための手段を考えながら受講すること。					
<b>【授業外学修】</b> HTML・CSSは記述方法などの知識を増やすことで自らの手段を増やすことができる。 そのため、授業開始前までに2時間程度、授業終了後に2時間程度、 各々が時間をとってHTMLタグのまとめサイトを閲覧し、 Webサイトコーディングの予備知識を得ること。					
使用テキスト	自由記載	講師のブログ「WEB CREATOR」( <a href="http://webcreator.com/">http://webcreator.com/</a> )			
参考書	自由記載	授業の中で、適宜紹介していく。			
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有					
<b>【担当教員の实務経験】</b> ウェブサイト制作事業の制作・経営者					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無					
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> ウェブサイト構築のコード記述の基本のノウハウをレクチャー。					



授業科目名	対人関係の心理学		サブタイトル		授業番号	SP211
担当教員名	福森 護					
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	前期			
必修・選択	必修	授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b> 社会で生きていくためには、人との関わりを避けることはできない。職場では、上司・同僚との関わりは大切であり、場合によっては大きなストレスを引き起こすこともある。また、友人・恋人・家族などの対人関係を円滑に保つことも大切なことであり、できるだけトラブルは避けたいものである。本講義では、心理学の理論的な視点から、さまざまな対人関係について考察する。						
<b>【到達目標】</b> 対人関係の社会心理学的な諸問題について理解することを目標とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>および<態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b> 第1回：心理学とは？ 第2回：しぐさと口癖の心理学 第3回：自己意識 第4回：対人認知 第5回：対人魅力 第6回：恋愛の心理学 第7回：帰属過程 第8回：態度と態度変容 第9回：援助行動 第10回：ストレスとサポート 第11回：集団の心理学 第12回：リーダーシップと社会的勢力 第13回：人付き合いを避ける心理（シャイネスと社会的スキル） 第14回：ネット時代の対人関係 第15回：良好な対人関係のために！						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		40%	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。		
	レポート		60%	期末にレポート課題を課す。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
<b>【授業外学修】</b> 1) 予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。 2) 復習として，学んだ内容の整理を行う。 3) 発展として，自ら課題を見つけて，考察を行う。 以上の内容に対して，週4時間以上の学修を行うこととする。						
使用テキスト	自由記載	テキストは使用せず，パワーポイントにより授業を進める。また，必要に応じて適宜プリントを配布する。なお，Classroomにより，授業で使用した資料を配信する。				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						

授業科目名	魅力の心理学		サブタイトル		授業番号	SP212
担当教員名	福森 護					
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b>						
なぜあの人に魅力的なのだろうか。どうすれば魅力的な人になれるのだろうか。なぜあのお店の商品は魅力的なのだろうか。なぜあの場所にもう一度行きたくなるのだろうか。などなど、"魅力"は日常生活の大きなテーマと言えます。その魅力について、心理学的に分析し、解釈する。						
<b>【到達目標】</b>						
さまざまな対象の魅力について社会心理学的な視点で理解することを目標とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>および<態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：知覚と認知の心理学 第2回：人の魅力及び親密な関係性の心理学 第3回：ファッションと化粧の魅力 第4回：態度と魅力 第5回：WEBマーケティングの心理テクニック 第6回：魅力的なキャッチコピーのテクニック 第7回：夢分析の心理学 第8回：心理学のビジネスへの応用 第9回：心理学を応用した魅力的な営業・販売テクニック 第10回：クレマーの心理 第11回：コミュニケーションの心理学 第12回：観光地の魅力の心理学 第13回：空気を読むための心理学 第14回：メディアコミュニケーションと心理学 第15回：幸せな人生を過ごすために（ポジティブ心理学）						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		40%	意欲的な受講態度、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート		60%	期末にレポート課題を課す。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【授業外学修】</b>						
1) 予習として、次回に学ぶ予定の内容について、書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理しておく。 2) 復習として、学んだ内容の整理を行う。 3) 発展として、自ら課題を見つけて、考察を行う。 以上の内容に対して、週4時間以上の学修を行うこととする。						
使用テキスト	自由記載	テキストは使用せず、パワーポイントにより授業を進める。また、GoogleのClassroomにより、授業で使用した資料を配信する予定である。				
参考書	自由記載	参考書は授業の中で適宜紹介する。				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	心の健康の心理学		サブタイトル		授業番号	SP221
担当教員名	虫明 修					
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b>						
本授業では、心の健康について、さまざまな場面やライフサイクルにおけるストレスやそのマネジメント、心の病、心理療法などの心理学的側面から取り上げる。心の健康に関する基本的知識だけでなく、受講者自身が自己理解を深め、ストレスの対処能力を身に付ける機会とする。						
<b>【到達目標】</b>						
1. 心の健康に関する基本的な知識を修得する。 2. 自分自身の心の状態の理解とストレス対処能力を向上させる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞および＜態度＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：メンタルヘルスとは 第2回：様々なストレスと危機 第3回：学校におけるストレス 第4回：職場におけるストレス 第5回：家庭におけるストレス 第6回：精神症状，摂食障害 第7回：睡眠障害 第8回：気分障害 第9回：不安障害 第10回：強迫性障害，ストレス障害 第11回：統合失調症 第12回：依存症 第13回：発達障害 第14回：心理療法・カウンセリング(2) 精神分析からみた自己理解 第15回：心理療法・カウンセリング(2) 認知行動療法から見た自己理解						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度					
	レポート					
	小テスト	40%	各回の主要なポイントの理解を評価する。			
	定期試験	60%	授業全体の理解度を評価する。			
	その他					
	自由記載					
<b>【授業外学修】</b>						
1) 予習として、次回に学ぶ予定の内容について、書籍・ネットなどを用いてあらかじめ整理しておく。 2) 復習として、学んだ内容の整理を行う。 3) 発展として、自ら課題を見つけて、考察を行う。 以上の内容に対して、週4時間以上の学修を行うこととする。						
使用テキスト	自由記載	テキストは使用せず、プリントを配布し、授業を進める。				
参考書	自由記載					
<b>【備考】</b>						
令和3年度改訂						
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
有						
<b>【担当教員の实務経験】</b>						
公認心理師，臨床心理士						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
学校や医療機関，企業等における心理臨床経験をもとに，幼児期から思春期，成人における様々な心の健康と諸問題について指導する。						

授業科目名	経済の心理学		サブタイトル	授業番号	SP231	
担当教員名	板野 敬吾					
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	前期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
【授業の概要】						
<p>現在の経済学の主流である伝統的経済学では、「自己の利益の最大化」を目指し、そのために「最も合理的な」選択をするという行動を前提として基本的な理論を構成している。経済政策は、このような伝統的経済学の理論をもとに私たちの経済活動を分析し、立案されている。</p> <p>しかしながら、人は必ずしも「合理的な」行動をするとは限らない。また、人は常に自己の利益のためだけに行動するとは限らない。従って、伝統的経済理論は現実にある経済現象をすべて説明できるとは言えないとの批判があった。</p> <p>ここで、近年、心理学と融合した新しい経済学、すなわち行動経済学が注目されることとなった。</p> <p>本講義においては、伝統的経済理論では説明できない経済現象を対象として、新しい経済学の分野として注目されている行動経済学の考え方を紹介する。</p> <p>授業内容の内容としては、理論的な内容ではなく私たちの日常生活で経験する事例を中心にその内容を検証するものとする。</p>						
【到達目標】						
<p>伝統的経済学ではこれまで説明できなかった経済現象を、人間心理の面等、新たな考え方により理解できるようになることを目標とする。</p> <p>また、私たちの日常生活において、「合理的」でない活動をする理由を理解できるようになることを目標とする。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、&lt;知識・理解&gt;&lt;思考・問題解決能力&gt;の修得に貢献する。</p>						
【授業計画】						
<p>第1回：行動経済学とは</p> <p>第2回：無意識のシステムと意識下のシステム（1）</p> <p>第3回：無意識のシステムと意識下のシステム（2）</p> <p>第4回：お金がたまらないのはなぜか（1）</p> <p>第5回：お金がたまらないのはなぜか（2）</p> <p>第6回：目先の誘惑に勝てないのはなぜか（1）</p> <p>第7回：目先の誘惑に勝てないのはなぜか（2）</p> <p>第8回：なぜ成功できないのか（1）</p> <p>第9回：なぜ成功できないのか（2）</p> <p>第10回：賢い選択ができないのはなぜか（1）</p> <p>第11回：賢い選択ができないのはなぜか（2）</p> <p>第12回：ゲーム理論</p> <p>第13回：ゲーム理論と行動経済学</p> <p>第14回：行動経済学を生かす</p> <p>第15回：行動経済学と政策</p>						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		20%	質問や授業参加等意欲的な態度を評価する。		
	レポート					
	小テスト		30%	単元毎に小テストを実施し、理解度を評価する。		
	定期試験		50%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
【受講の心得】						
<p>予習として講義に先立ち該当する部分を読んでおくこと。</p> <p>事後学修を必ず行い、理解の定着を図ること。</p>						
【授業外学修】						
予習として週当たり2時間以上、復習として週当たり2時間以上学習すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	知識ゼロからの行動経済学入門		川西論	幻冬舎	1300	978-4-344-90312-8
自由記載		授業中、必要に応じプリントを配布する。				
参考書	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	行動経済学入門		筒井義郎, 佐々木俊一郎, 山根承子, クレック・マルテリ	東洋経済新報社	2400	978-4-492-31497-5
	自由記載					
【担当教員の実務経験の有無】						
無						
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】						
無						

授業科目名	産業・ビジネスの心理学		サブタイトル		授業番号	SP232
担当教員名	閻琳					
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	2単位			
開講年次	2年	開講期	後期			
必修・選択	選択	授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b>						
人はなぜ働くのか、優れたリーダーとはどんな特性を持っているのか、良い職場環境を作るために何をしたらよいか、ハラスメントや過労死がなぜ起こるのか、効果的な広告とは、なぜ衝動買いをしてしまうのか、なぜ騙されて買ってしまうのかなど、働く場面における人間行動を心理学的視点からアプローチする。						
<b>【到達目標】</b>						
1. 職場や組織における人間行動を理解する。 2. 消費者の心理や行動を理解する。 3. 産業やビジネスにおける人間行動について、自ら考え、分析することができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>および<態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：産業・ビジネスの心理学とは 第2回：組織とは 第3回：仕事動機づけ1 第4回：仕事動機づけ2 第5回：職場の人間関係とコミュニケーション 第6回：職場でのチームとリーダーシップ 第7回：職場のストレスとメンタルヘルス1 第8回：職場のストレスとメンタルヘルス2 第9回：人事評価，人事処遇 第10回：職業適性と人材育成 第11回：消費者行動とマーケティング1 第12回：消費者行動とマーケティング2 第13回：ブランド選択の心理 第14回：口コミ，インターネットと消費者行動 第15回：職場で成功するために						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		30%	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。		
	レポート		70%	期末にレポート課題を課す。		
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
自由記載						
<b>【授業外学修】</b>						
1) 予習として，次に学ぶ予定の内容について，書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理しておく。 2) 復習として，学んだ内容の整理を行う。 3) 発展として，自ら課題を見つけて，考察を行う。 以上の内容に対して，週4時間以上の学修を行うこととする。						
使用テキスト	自由記載	テキストは使用せず，板書により授業を進める。また，必要に応じて適宜プリントを配布する。				
参考書	自由記載					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>						
無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						

授業科目名	データサイエンス		サブタイトル		授業番号	SD111
担当教員名	福森 護					
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	2単位			
開講年次	1年	開講期	前期			
必修・選択	必修	授業形態	講義			
<b>【授業の概要】</b> 本講義は、データサイエンスの入門として、データの意味、データから得られる情報の大切さについて学ぶ。 また、調査、実験、観測などから得られたデータから有益な情報を引き出すための統計的な考え方と手法について学ぶ。 なお、統計手法を適用する際に、統計ソフトであるSPSSを使用する。						
<b>【到達目標】</b> 1) 量的・質的データを分析するための統計的な考え方を理解する。 2) データサイエンス入門として、データの基本統計量、分布、統計的検定の考え方を理解する。 3) パソコンを用いて結果を算出し、その結果をみて考察を行う。 以上を到達目標とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b> 第1回：データサイエンスって何？ 第2回：データの種類（尺度について） 第3回：代表値（平均値・中央値・最頻値・四分位範囲・分散と標準偏差・標準化など） 第4回：データをグラフに表す（折れ線グラフ、棒グラフ、レーダーチャート、箱ひげ図、散布図、多変量グラフなど） 第5回：データを整理する（度数分布とヒストグラム） 第6回：分布1（離散型分布：二項分布とポアソン分布について） 第7回：分布2（連続型分布：正規分布について） 第8回：2つのデータの関係1（散布図による可視化、相関関係と因果関係、共分散と相関係数） 第9回：2つのデータの関係2（回帰直線、単回帰分析、最小2乗法） 第10回：母集団と標本、データの収集法 第11回：推定の考え方、区間推定 第12回：統計的仮説検定の考え方（帰無仮説と対立仮説、有意水準と有意確率、両側検定と片側検定など） 第13回：母平均の検定、母分散の検定、母比率の検定 第14回：2つの平均の差の検定（対応なし、対応あり） 第15回：適合度検定、独立性の検定						
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	40%				
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他	60%	授業のノートを提出			
	自由記載					
<b>【受講の心得】</b> まずは、データの意味を理解し、データを解析して、何らかの結論を導くという、実証的な方法論に興味を持つことが大切である。 そして、実際に手法を適用して、結果を導く楽しさを知ってもらいたいと考えている。 数学的な知識は必須ではないが、一部の説明において、数式を用いることがある。						
<b>【授業外学修】</b> 1) 予習として、次回に学ぶ予定の内容について、書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。 2) 復習として、学んだ内容の整理を行い、レポート課題の作成を行う。 3) 発展として、自ら課題を見つけて、分析の適用を行い、考察を行う。 以上の内容に対して、週4時間以上の学修を行うこととする。						
使用テキスト	自由記載	テキストは使用しない。授業はパワーポイントを使用して行う。また、GoogleのClassroomにより、授業で使用する資料を配布する予定である。				
参考書	自由記載	参考書は授業の中で適宜紹介する。				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 無						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						

授業科目名	統計データ分析		サブタイトル	授業番号	SD212
担当教員名	福森 護 藤原 美佳				
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	2単位		
開講年次	1年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	講義		
【授業の概要】 ある現象を説明するときに、関連する変数は一つでないケースが多い。多変量解析は、多くの変数を用いて、構造の分析や予測を行うための方法である。多変量解析の考え方を解説し、SPSSを用いて、各手法をデータに適用し、結果の解釈を行う。多変量解析には多くの手法があるが、心理学をはじめとする人文科学や社会科学の領域でよく用いられる、重回帰分析、判別分析、主成分分析、因子分析、クラスタ分析、数量化理論、対応分析、決定木などを中心に取り上げる。					
【到達目標】 本授業の到達目標は次の通りである。 1. 多変量解析の基本的な考え方を理解する。 2. SPSSの使い方を理解し、多変量解析を実際のデータに適用して結果の解釈を正しく行うことができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力>および<技能>の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：統計的仮説検定のまとめ 第2回：3つ以上の平均の差の検定1（一元配置分散分析，被験者間計画），多重比較 第3回：3つ以上の平均の差の検定2（一元配置分散分析，被験者内計画） 第4回：3つ以上の平均の差の検定3（二元配置分散分析，被験者間計画） 第5回：3つ以上の平均の差の検定3（二元配置分散分析，被験者内計画） 第6回：多変量解析の考え方 第7回：重回帰分析の考え方と結果の解釈 第8回：判別分析の考え方と結果の解釈 第9回：クラスター分析の考え方と結果の解釈 第10回：主成分分析及び因子分析の考え方と結果の解釈 第11回：数量化I類及び数量化II類の考え方と結果の解釈 第12回：数量化III類及び対応分析の考え方と結果の解釈 第13回：多次元尺度法の考え方と結果の解釈 第14回：決定木分析の考え方と結果の解釈 第15回：多変量解析の適用事例					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度	40%	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。		
	レポート				
	小テスト				
	定期試験				
	その他	60%	授業中のノート提出		
	自由記載				
【受講の心得】 分散分析及び多変量解析の考え方を理解し、得られた結果に対して自分なりの解釈をおこなうことの楽しさを知っていただきたいと思います。多変量解析の理論については、線形代数や解析学といった数学的な知識が必要となる場合があるが、本講義は数学的な理論はできるだけ省略し、ユーザの視点から実践的な内容で授業を行うため、数学の知識は必須としない。ソフトウェアとして、SPSSを使用する予定である。					
【授業外学修】 1) 予習として、次回に学ぶ予定の内容について、書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。 2) 復習として、学んだ内容の整理を行い、レポート課題の作成を行う。 3) 発展として、自ら課題を見つけて、分析の適用を行い、考察を行う。 以上の内容に対して、週4時間以上の学修を行うこととする。					
使用テキスト	自由記載	テキストは使用しない。パワーポイントにより授業を進め、必要に応じてプリントを配布する。また、GoogleのClassroomにより、授業で使用した資料を配信する予定である。			
参考書	自由記載	参考書は授業の中で適宜紹介する。			
【担当教員の実務経験の有無】 無					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					

授業科目名	社会調査論		サブタイトル		授業番号	SD221	
担当教員名	藤本 宏美						
対象学部・学科	情報ビジネス学科			単位数	2単位		
開講年次	2年			開講期	前期		
必修・選択	選択			授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b> 情報化社会としての現代社会は、おびただしい数の社会調査の行われる社会である。変動の激しい、多極化・複雑化の進む社会的現実をとらえ、生起するさまざまな社会問題への対応と解決を図っていくうえで、社会調査は不可欠の方法である。 本講義では、歴史的背景や事例について踏まえつつ、社会調査の一連の進め方について学習する。具体的には、調査内容・対象の決定、調査の実施方法、結果の分析法とまとめ方について学習する。学習を通して、社会を見通すスキルとしての社会調査に関わる基礎的な知識の習得を目指す。							
<b>【到達目標】</b> 1) 社会調査の意義・背景・方法に関わる基本的知識を習得する。 2) 量的・質的データを分析するための統計的な考え方を理解する。 以上を到達目標とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>の修得に貢献する。							
<b>【授業計画】</b> 第1回：社会調査とは？ その目的と意義 第2回：社会調査の歴史 第3回：情報資源の発掘調査 データの整理と既存データの探索 第4回：様々な調査実施主体と調査の性格（1） 第5回：様々な調査実施主体と調査の性格（2） 第6回：社会調査の企画と設計 第7回：調査実施に向けての準備（注意点と倫理） 第8回：質的調査と量的調査（1） 第9回：質的調査と量的調査（2） 第10回：質的調査と量的調査（3） 第11回：サンプリングの技法 第12回：調査票と質問（質問の分類） 第13回：調査票と質問（避けるべき質問） 第14回：調査の分析(テキストマイニング) 第15回：調査の分析							
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	50%	意欲的な受講態度、予・復習の状況によって評価する。				
	レポート	50%	期末にレポート課題を課す。				
	小テスト						
	定期試験						
	その他						
	自由記載						
<b>【授業外学修】</b> 1) 予習として、次回に学ぶ予定の内容について、書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。 2) 復習として、学んだ内容を整理し、理解する。 3) 発展として、自ら課題を見つけて、理解を深める。 以上の内容に対して、週4時間以上の学修を行うこととする。							
使用テキスト	自由記載	テキストは使用せず、適宜プリントを配布する。					
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN		
	初めてでもできる社会調査・アンケート調査とデータ解析	安藤明之	日本評論社	2,500円+税	978-4-535-58632-1		
	自由記載	大谷信介（他3名）共著、『新・社会調査へのアプローチ 論理と方法』、ミネルヴァ書房					
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 無							
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無							



授業科目名	社会調査演習		サブタイトル	授業番号	SD322
担当教員名	藤本 宏美				
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	後期		
必修・選択	選択	授業形態	演習		
【授業の概要】 2年前期開講の『社会調査論』で学習した内容を踏まえて、実際に身近な興味・関心のある対象に関するアンケート調査を実施し、社会調査の一連の過程を体験的に学習する。調査内容・対象の決定、調査票の作成、調査の実施、分析、まとめまでを小グループに分かれて行い、最後に結果報告のプレゼンテーションを行う。					
【到達目標】 1) 社会調査の基本的な考えを理解し、実践することができる。 2) 量的・質的データを統計手法を適用し、得られた結果の考察を行うことができる。 3) パソコンの統計ソフトウェアを活用して結果を算出することができる。 以上を到達目標とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜思考・問題解決能力＞＜技能＞および＜態度＞の修得に貢献する。					
【授業計画】					
第1回：社会調査の流れ(1) 第2回：社会調査の流れ(2) 第3回：調査テーマに関する現状と課題調査 第4回：調査票の作成 1 第5回：調査票の作成 2 と依頼文の作成 第6回：調査に関する事前発表・質疑応答 第7回：調査票の修正 第8回：集計処理 第9回：データの分析 1 第10回：データの分析 2 第11回：データの分析 3 第12回：報告書の作成 1 第13回：報告書の作成 2 第14回：結果の発表 1 第15回：結果の発表 2					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢 / 態度	50%	意欲的な受講態度、予・復習の状況によって評価する。		
	レポート	50%	3 回程度のレポート課題を課す。		
	小テスト				
	定期試験				
	その他				
	自由記載				
【受講の心得】 『社会調査論』・『社会調査演習』を通して、社会調査の手法を身に付ける演習であるため、2年前期開講の『社会調査論』を履修しておくこと。 授業の最中に内容を理解できるように努める。					
【授業外学修】 1) 予習として、次回に学ぶ予定の内容について、書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理しておく。 2) 復習として、学んだ内容を整理し、理解する。 3) 発展として、自ら課題を見つけて、理解を深める。 具体的には、文献・資料の検索・選定、レジュメ作成とテーマ発表、質問文の作成、調査計画の発表、調査計画書・レポートの作成など。 4) 空き時間をうまく利用して調査を行うこと。 以上の内容に対して、週 4 時間以上の学修を行うこととする。					
使用テキスト	自由記載	テキストは使用せず、適宜プリントを配布する。			
参考書	書名	著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	初めてでもできる社会調査・アンケート調査とデータ解析	安藤明之	日本評論社	2,500円+税	978-4-535-58632-1
	自由記載				
【担当教員の実務経験の有無】 無					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					

授業科目名	ゼミナールA		サブタイトル		授業番号	SS411
担当教員名	福森 護 宋 娘 沃 河田 健二 古谷 俊爾 佐藤 由美子 板野 敬吾 藤本 宏美 藤原 美佳					
対象学部・学科	情報ビジネス学科		単位数	2単位		
開講年次	2年		開講期	前期		
必修・選択	必修		授業形態	演習		
<b>【授業の概要】</b> ゼミナールは、教員の専門領域を参考に、学生自身が教員を選び、所属した教員のもとで指導を受けながら研究を行うものである。1年次の後期にゼミのしおりを配布し、希望調査を行う。 ゼミの内容は教員によって異なるため、ゼミ決定までに十分に希望教員とコミュニケーションをとり、納得した上で、ゼミナールを選択することが望ましい。 ゼミナールを通して、専門的な学修はもちろん、個別の指導や助言を受けることで、社会に貢献できる人材となるべく知・情・意の全てにおいて成長することを目的とする。						
<b>【到達目標】</b> 大学の基礎教育や専門分野で学んだ学修成果を総合的実践の場で活用することができるようになることを目標とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>・<思考・問題解決能力>・<技能>および<態度>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
<b>【授業計画 自由記載】</b> 第1回 各ゼミでのオリエンテーション 第2回～13回 ゼミ担当教員の指導による学修・研究 第14回～15回 研究成果報告会						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		50%	ディスカッションへの参加状況により評価を行う。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験					
	その他		50%	卒業研究または作品により評価を行う。		
	自由記載	評価の方法は担当教員によって異なる。 卒業研究の成果は、論文形式だけではなく、作品でも良いこととする。				
<b>【授業外学修】</b> 1) 予習として、次回に学ぶ予定の内容について、書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。 2) 復習として、学んだ内容の整理を行う。 3) 最終的な卒業研究として、自らテーマを決めて研究論文の作成または作品制作に取り組む。 以上の内容に対して、週4時間以上の学修を行うこととする。						
使用テキスト	自由記載	適宜指示する。				
参考書	自由記載	適宜指示する。				
<b>【担当教員の実務経験の有無】</b> 有						
<b>【担当教員の实務経験】</b> 古谷：システムエンジニア、板野：岡山労働局、佐藤：専門学校教員、藤原：ミカプロ代表（映像制作・撮影・デザイン）						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b> 無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 経験をいかしたソフトウェア開発ほか。						

授業科目名	ゼミナールB		サブタイトル	授業番号	SS412
担当教員名	福森 護 宋 娘 沃 河田 健二 古谷 俊爾 佐藤 由美子 板野 敬吾 藤本 宏美 藤原 美佳				
対象学部・学科	情報ビジネス学科	単位数	2単位		
開講年次	2年	開講期	後期		
必修・選択	必修	授業形態	演習		
【授業の概要】 ゼミナールAに引き続き、同一ゼミ担当教員のもとで、さらに研究を深める。 原則として、ゼミナールAと同一の担当教員とするが、特別な事情がある場合は、十分に相談をしたうえで、変更をみとめる場合がある。					
【到達目標】 自ら課題を設定し、専門的な学修を通して、課題解決を行うことができること、また、課題解決のプロセスにおいて、自分の能力の問題に気づき、能力を高める行動ができることを目標とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解>・<思考・問題解決能力>・<技能>および<態度>の修得に貢献する。					
【授業計画】					
【授業計画 自由記載】 第1回～第13回 各ゼミの担当教員の指導のもとでの学修・研究 第14回～第15回 ゼミナールの研究成果発表会					
評価の方法	種別	割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	50%	ディスカッションへの参加状況により評価を行う。		
	レポート				
	小テスト				
	定期試験				
	その他	50%	卒業研究または作品により評価を行う。		
自由記載	評価の方法は担当教員によって異なる。 卒業研究の成果は、論文形式だけではなく、作品でも良いこととする。				
【授業外学修】 1) 予習として、次に学ぶ予定の内容について、書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理しておく。 2) 復習として、学んだ内容の整理を行う。 3) 最終的な卒業研究として、自らテーマを決めて研究論文の作成または作品制作に取り組む。 以上の内容に対して、週4時間以上の学修を行うこととする。					
使用テキスト	自由記載	適宜指示する。			
参考書	自由記載	適宜指示する。			
【担当教員の実務経験の有無】 有					
【担当教員の实務経験】 古谷：システムエンジニア、板野：岡山労働局、佐藤：専門学校教員、藤原：ミカプロ代表（映像制作・撮影・デザイン）					
【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】 無					
【実務経験をいかした教育内容】 経験をいかしたソフトウェア開発ほか。					

授業科目名	生活と医学		サブタイトル		授業番号	SB131
担当教員名	川上 道子					
対象学部・学科	情報ビジネス学科		単位数	2単位		
開講年次	1年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b> 医療管理秘書士や医療事務、社会福祉主事の資格を持って就職した際に必要になる、専門的な知識を身につけることができるように講義する。 また、社会人として生活する上で役立つ医学の基礎的な知識・事柄について説明する。 今後変化することが予想される、日本の医療・介護・福祉の制度について、最新情報を得ることにより将来を考える授業にしたい。						
<b>【到達目標】</b> 1．生活と医学の関係が理解できる。 2．人間の生活行動が理解でき、自分や家族の生活と関連づけて考えることができる。 3．代表的な疾病や障害が理解できる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜態度＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
<b>【授業計画 備考】</b> わが国の医療・介護の制度が目まぐるしく変化していることから、できるだけ最新の情報を提供したい。新聞やDVD等の視覚教材で理解を深めたい。						
第1回：生活と医学の関係について 医学の歴史 第2回：人間の身体の構造と仕組み 第3回：生命維持の仕組み 循環器系の理解と病気 第4回：人間の生活行動としての「動くこと」に関連した病気や障害（運動器系・脳神経系） 第5回：人間の生活行動としての「食べること」に関連した病気や障害（消化管の機能・摂食） 第6回：人間の生活行動としての「息をすること」に関連した病気や障害（呼吸器の機能） 第7回：人間の生活行動としての「トイレに行くこと」に関連した病気や障害（腎・泌尿器系・直腸の病気や障害） 第8回：人間の生活行動としての「話す・聞くこと」に関連した病気や障害（言語障害・コミュニケーション障害） 第9回：人間の生活行動としての「眠ること」に関連した病気や障害（睡眠障害・薬物療法） 第10回：人間の生活行動としての「お風呂に入ること」に関連した病気や障害（清潔行動・お洒落の意義） 第11回：人間の生活行動としての「子どもを産むこと」に関連した病気や障害（STD・不妊症治療等） 第12回：よくある病気の検査や治療・・・急性期を中心に 第13回：よくある病気の検査や治療・・・慢性期を中心に（リハビリテーション） 第14回：これから増える病気の検査や治療・・・認知症・がん 第15回：これから増える病気の検査や治療・・・生活習慣病（糖尿病・高血圧等）						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度		20%	意欲的な受講態度、質問内容によって評価する。		
	レポート		20%	授業中に出した課題の提出状況、内容によって評価する。		
	小テスト		10%	リアクションペーパーへの記載内容によって評価する。		
	定期試験		50%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b> 事前・事後学修を十分に行い、分からないことは積極的に質問すること。						
<b>【授業外学修】</b> 授業中に出す課題に積極的に取り組む。 毎回の授業に対して、予習・復習を行う。 以上の学修を、1週当たり4時間以上行う。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	ぜんぶわかる人体解剖図		坂井健雄・橋本尚嗣 著	成美堂出版	1900円 + 税	978-4-415-30619-3 C2047
	看護につなげる形態機能学		菱沼典子	メヂカルフレンド社	2400円 + 税	978-4-8392-1499-9 C3047
	自由記載					
参考書	自由記載		必要に応じ提示する。			
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
	<b>【担当教員の实務経験】</b>					
看護師、介護保健施設の看護師長、専門学校での看護教員						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b> 看護師、介護保健施設の看護師長、専門学校での看護教員としての経験を活かして、学生自身や家族との生活において健康を守ることができる知識を身に付ける。また、職務の中で対象の健康や障害を理解したうえで適切な対応能力が身に付くように、人間の生活行動（活動・食事・呼吸・排泄・睡眠・コミュニケーション等）と医学との関係について指導する。						

授業科目名	医療管理事務総論		サブタイトル		授業番号	SB232
担当教員名	仁宮 崇					
対象学部・学科	情報ビジネス学科		単位数	2単位		
開講年次	1年		開講期	前期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>						
医療の歴史, 医療機関で働く職員の職種とその仕事内容, 医療の法律, 医療保険について学ぶ。現在の医療費の社会問題についても言及する。本学で行われる医療事務関係の資格試験に焦点をあてた内容を中心に授業を展開する。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>医療の歴史, 医療機関の特徴, 医療職種と業務内容が理解できる。</li> <li>医療に係る法律を理解できる。</li> <li>医療保険制度について理解できる。</li> </ul>						
なお, 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち, <知識・理解>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回: 医療の歴史 第2回: 病院組織 第3回: 医療連携 第4回: 医療秘書教養 第5回: 医療機関の職種(1) 第6回: 医療機関の職種(2) 第7回: 医療法 第8回: 医師法 第9回: 健康保険(1) 第10回: 健康保険(2) 第11回: さまざまな医療制度 第12回: DPC・出来高と包括 院外薬局 第13回: 多職種連携 診療報酬制度 第14回: 医療安全とコミュニケーション(1) 第15回: 医療安全とコミュニケーション(2)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	受講態度, 毎回提出する感想の量と質で評価する。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		70%	最終的な理解度を評価する。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
医療事務職員として就職したい学生にとっては必須の知識が多い。資格試験のみならず, 医療機関の就職試験にも出題されることがあるため, 就職試験対策にもつながることを意識して受講すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 予習として, 教科書のうち, 授業内容にかかわる部分を読む。 2. 復習として, 講義資料にある問題を復習する。 3. 医療に関わる新聞記事を読む。 以上の内容を, 週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	メディカルシステム論		一般社団法人 医療教育協会	一般社団法人 医療教育協会	2,000円 + 税	なし
	自由記載	講義資料				
参考書	自由記載	マンガでわかる!医療制度・病院のしくみに学ぶ「患者トラブル」防止法(日本医療企画) よくわかる 図解 病院の学習書(ロギカ書房) オールカラー図解 病院のすべてがわかる(ナツメ社)				
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
	<b>【担当教員の实務経験】</b>					
病院事務						
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
医療機関で働く職員の職種とその仕事内容, 医療の法律, 医療保険の特徴を指導する。						

授業科目名	診療報酬請求事務I		サブタイトル		授業番号	SB233
担当教員名	仁宮 崇					
対象学部・学科	情報ビジネス学科		単位数	2単位		
開講年次	1年		開講期	後期		
必修・選択	選択		授業形態	講義		
<b>【授業の概要】</b>						
医療事務の業務内容、わが国の医療保険制度、診療報酬請求事務に関する基礎知識、診療報酬明細書作成（外来）の技能を学ぶ。「診療報酬請求事務I」を講義形態で学び、「診療報酬請求事務演習I」を演習形態で問題を解く、という順番で展開する。よって、本科目を受講する学生は必ず「診療報酬請求事務演習I」も履修すること。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療事務職員の業務内容、医療保険制度を理解できる。</li> <li>・診療報酬制度の仕組みが理解できる。</li> <li>・診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能の基礎を身に付ける。</li> </ul>						
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：診療報酬制度 初診料 第2回：初診料 再診料 第3回：医学管理料 在宅医療料 第4回：投薬料 第5回：投薬料 注射料 第6回：外来レセプト作成説明(1) 第7回：医療管理秘書士練習問題 第8回：処置料 第9回：手術料 第10回：検査料 検体検査 第11回：検査料 検体検査 生体検査 第12回：画像診断料 エックス線診断 第13回：画像診断料 コンピュータ断層撮影 第14回：特定疾患処方管理加算 外来レセプト作成説明(2) 第15回：院外処方せん 外来レセプト作成説明(3)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	受講態度、毎回提出する感想の量と質で評価する。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		70%	最終的な理解度を評価する。		
	その他					
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
診療報酬請求事務の知識と技能は、医療事務職員にとって必要不可欠である。わからないことがあると全体の理解度に影響するため、積極的に質問して理解すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2. 復習として、課題にする練習問題は必ず解くこと。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	診療報酬請求の実務 診療報酬請求演習		一般社団法人 医療教育協会	一般社団法人 医療教育協会	2,400円 + 税	なし
	医科診療報酬点数表		一般社団法人 医療教育協会	一般社団法人 医療教育協会	2,000円 + 税込	なし
	診療報酬・完全マスタートドリル 2021年版		内芝修子	医学通信社	1,200円 + 税込	978-4-87058-823-3
自由記載		講義資料				
参考書	自由記載		診療点数早見表(医学通信社)			
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
	<b>【担当教員の实務経験】</b>					
	病院事務					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
診療報酬算定の知識と技能を指導する。						

授業科目名	診療報酬請求事務演習I		サブタイトル		授業番号	SB234
担当教員名	仁宮 崇					
対象学部・学科	情報ビジネス学科			単位数	1単位	
開講年次	1年			開講期	後期	
必修・選択	選択			授業形態	演習	
<b>【授業の概要】</b>						
医療事務の業務内容、わが国の医療保険制度、診療報酬請求事務に関する基礎知識、診療報酬明細書作成（外来）の技能を学ぶ。「診療報酬請求事務I」を講義形態で学び、「診療報酬請求事務演習I」を演習形態で問題を解く、という順番で展開する。よって、本科目を受講する学生は必ず「診療報酬請求事務I」も履修すること。						
<b>【到達目標】</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療事務職員の業務内容、医療保険制度を理解できる。</li> <li>・診療報酬制度の仕組みが理解できる。</li> <li>・診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能の基礎を身に付ける。</li> </ul>						
なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><技能>の修得に貢献する。						
<b>【授業計画】</b>						
第1回：診療報酬制度 初診料 第2回：初診料 再診料 第3回：医学管理料 在宅医療料 第4回：投薬料 第5回：投薬料 注射料 第6回：外来レセプト作成演習(1) 第7回：医療管理秘書士練習問題 第8回：処置料 第9回：手術料 第10回：検査料 検体検査 第11回：検査料 検体検査 生体検査 第12回：画像診断料 エックス線診断 第13回：画像診断料 コンピュータ断層撮影 第14回：特定疾患処方管理加算 外来レセプト作成演習(2) 第15回：院外処方せん 外来レセプト作成演習(3)						
評価の方法	種別		割合	評価規準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度		30%	受講態度、毎回提出する感想の量と質で評価する。		
	レポート					
	小テスト					
	定期試験		70%	最終的な理解度を評価する。		
自由記載						
<b>【受講の心得】</b>						
診療報酬請求事務の知識と技能は、医療事務職員にとって必要不可欠である。わからないことがあると全体の理解度に影響するため、積極的に質問して理解すること。						
<b>【授業外学修】</b>						
1. 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2. 復習として、課題にする練習問題は必ず解くこと。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。						
使用テキスト	書名		著者・編集者	出版社	定価	ISBN
	診療報酬請求の実務 診療報酬請求演習		一般社団法人 医療教育協会	一般社団法人 医療教育協会	2,400円 + 税	なし
	医科診療報酬点数表		一般社団法人 医療教育協会	一般社団法人 医療教育協会	2,000円 + 税込	なし
	診療報酬・完全マスタートドリル 2021年版		内芝修子	医学通信社	1,200円 + 税込	978-4-87058-823-3
自由記載		講義資料				
参考書	自由記載		診療点数早見表(医学通信社)			
	<b>【担当教員の実務経験の有無】</b>					
	有					
	<b>【担当教員の实務経験】</b>					
	病院事務					
<b>【担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無】</b>						
無						
<b>【実務経験をいかした教育内容】</b>						
診療報酬算定の知識と技能を指導する。						